モルモン書

イエス・キリストについての
もう一つの証

モルモン書

イエス・キリストについての
もう一つの証

モルモン書

モルモンがニーファイの版から取って自分の手で別の版に書き記した記録

したがってこれは、ニーファイの民とレーマン人についての記録を短くまとめたものである。――イスラエルの家の残りの者であるレーマン人、ならびにユダヤ人と異邦人にあてて書き記されたもの――戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記されたもの――書き記され、封じられ、主に託して隠され、損なわれることのないようにされたもの――神の賜物と力によりもたらされ、翻訳されるもの――定められたときに異邦人によって伝わるように、モロナイの手により封じられ、主に託して隠されたもの――また、神の賜物により翻訳されるものである。

これには、エテル書から取って短くまとめたものも含まれている。エテル書はヤレドの民の記録であり、ヤレドの民は主が民の言語を乱されたとき、すなわち民が天に達しようと一つの塔を建てていたときに散らされた人々である。――これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示すものであり、また、彼らはとこしえに捨てられないという主の聖約を、彼らに分かるように示すものである。――また、ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、**永遠の神**であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。――ところで、もし誤りがあるとすれば、それは人の犯した間違いである。したがって、キリストの裁きの座で染みがないと認められるために、神にかかわるものを非難しないようにしなさい。

諸版よりの英語への原訳
ジョセフ・スミス・ジュニア
英文初版発行　千八百三十年
アメリカ合衆国ニューヨーク州パルマイラ

モルモン書

© 1995, 2009 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有
印刷：日本　2009 年 10 月
原題：*The Book of Mormon* — Japanese
ISBN 978-1-59297-543-3 ソフトカバー（34407 300）

© 1995, 2009 by Intellectual Reserve, Inc.
Printed in Japan 10/2009
19932009
Translation of the Book of Mormon — Japanese
ISBN 978-1-59297-543-3 Softcover（34407 300）

序文

『モルモン書』は『聖書』と肩を並べる聖典である。この聖典は、アメリカ大陸の昔の住民に対する神の導きの記録であり、この書物には完全な永遠の福音が記されている。

この書物は、昔の多くの預言者たちが啓示と預言の霊によって書き記したものであり、モルモンという名の預言者であり歴史家であった人物が、金版に書き記された言葉を引用し、短くまとめたものである。この記録は、偉大な文明を持つ二つの民のことを述べている。一つの民は、紀元前六百年にエルサレムからやって来て、後にニーファイ人およびレーマン人として知られる二つの民に分かれた。もう一つの民はそれよりもはるか以前に、主がバベルの塔で言語を乱されたときにやって来た人々で、ヤレド人として知られている。しかし数千年後には、これらの文明の民はレーマン人のほかはすべて滅びてしまった。このレーマン人もアメリカインディアンの先祖である。

『モルモン書』に記録されている中で最も栄光ある出来事は、主イエス・キリストが復活後間もなく、ニーファイ人の間で親しく教え導かれたことであろう。また、『モルモン書』は福音の教えを宣言し、救いの計画の概要を説き、人がこの世で平和を得、後の世で永遠の救いにあずかるには何をしなければならないかを告げている。

モルモンは自分の記録を終えると、それを息子のモロナイに渡した。モロナイは、自分の言葉を多少付け加えて、その版をクモラの丘に隠した。その後、千八百二十三年九月二十一日に、復活し栄光を受けた同じモロナイが預言者ジョセフ・スミスに現れて、古代のその記録について指示を与え、やがてそれが英語に翻訳されることを告げたのである。

その後、時が訪れて、ジョセフ・スミスはその版を渡され、神の賜物と力によって翻訳した。そして、その記録は現在、イエス・キリストが生ける神の御子であられることを証し、またイエス・キリストのもとに来て、イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うすべての人が救われることを証する、新たなもう一つの証の書物として、数多くの

言語で出版されている。

この記録について、預言者ジョセフ・スミスは次のように言っている。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」

主はジョセフ・スミスに加えて、ほかに十一人の人々を、金版を実際に目にし、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であることを証する、特別な証人として立てられた。彼らの証は、「三人の証人の証」ならびに「八人の証人の証」として、この書物に収められている。

わたしたちはあらゆる地に住むすべての人に、『モルモン書』を読み、この書物に含まれている教えを心の中で深く考え、そして、この書物が真実かどうか、キリストの名によって永遠の父なる神に問うようにお勧めする。この手順を踏んで、信仰をもって問う人々は、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であるという証を、聖霊の力によって得るであろう（モロナイ書第十章三―五節）。

聖なる御霊を通じて神からのこの証を得る人々は、その同じ力によって、イエス・キリストが世の救い主であられ、ジョセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であることを、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が、メシヤの再臨に先立って地上に再び設立された主の王国であることを知るであろう。

三人の証人の証

この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによって、この記録が記されている版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と、聖典に述べられているあの塔から来たヤレドの民についての記録である。また、その版が神の賜物と力によって翻訳されたことも知っている。神の声がわたしたちにそのことを宣言されたからである。したがって、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知っている。また、その版に刻まれている文字を見たことと、それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力によることを証する。また、一人の天使が天から降って来て、携えて来たその版を目の前に置いたので、わたしたちはその版とそれに刻まれている文字を見たことを謹んで言明する。目で見て、これらのものが真実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによるものであることを知っている。これはわたしたちの目に驚くべきことではあるが、主の声がこのことを証するようにわたしたちに命じられたので、わたしたちは神命に従ってこのことを証する。わたしたちは、キリストにあって忠実であれば、すべての人の血をわたしたちの衣から取り除いて、キリストの裁きの座で染みがないと認められ、キリストとともに天に永遠に住めることを知っている。一つの神である御父と御子と聖霊に誉れがあるように。アーメン。

オリバー・カウドリ
デビッド・ホイットマー
マーティン・ハリス

八人の証人の証

この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、この書物の翻訳者ジョセフ・スミス・ジュニアから、前述の金に見える版を見せてもらい、またスミス氏が翻訳を終えた部分を手で触れてみた。また、その版に刻まれている文字も見たが、それらはすべて、昔のもののようで、入念な造りに見えた。わたしたちは実際に目で見、手で持ち上げ、今語っている版をスミス氏が所有していたことを確かに知っているので、スミス氏がわたしたちに見せてくれたことを謹んで証するものである。そしてわたしたちは、自分たちが見たことを世の人々に証するために、各々の名を公にする。

わたしたちは偽りを言わない。神がそのことを証される。

クリスチャン・ホイットマー
ジェイコブ・ホイットマー
ピーター・ホイットマー・ジュニア
ジョン・ホイットマー
ハイラム・ページ
ジョセフ・スミス・シニア
ハイラム・スミス
サミュエル・H・スミス

預言者ジョセフ・スミスの証

預言者ジョセフ・スミスは、『モルモン書』が世に出されるに至った次第を、次のように述べている。

「〔千八百二十三年〕九月二十一日の夜のことである。わたしは……全能の神に……祈って嘆願した。……

わたしはこのように神を呼び求めていたとき、室内に光が現れたのに気づいた。その光は次第に明るさを増し、ついにその部屋は真昼の時よりも明るくなった。すると、すぐに一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ、空中に立たれた。というのは、その足が床から離れていたからである。

その方はこの上なく美しい白さの、ゆったりとした衣を着ておられた。それは、わたしがこれまで見たこの世のいかなるものにも勝る白さであった。この世のいかなるものも、これほど白く輝いて見えるようにすることはできないと思う。その方の手はあらわで、衣の袖は手首の少し上までで、その足もあらわで、衣の裾は足首の少し上までしかなかった。その頭と首も覆われていなかった。その方の胸が見えるほど衣がゆったりとしていたので、わたしはその方がその衣のほか何も着ておられないのに気づいた。

その衣が非常に白かっただけでなく、その全身も筆紙に尽くし難い輝きに満ち、その顔はまことに稲妻のようであった。部屋は非常に明るかったが、その方のすぐ周りほど明るくはなかった。わたしは最初にその方を見たときに恐れたが、その恐れはすぐに去った。

その方はわたしの名を呼び、自分は神の前から遣わされた使者であること、その名はモロナイであること、神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることをわたしに告げられた。

その方はまた、この大陸の先住民の話と彼らの起源を伝える、金版に記された書が隠されていることも告げられた。また、それには救い主がその昔の住民に述べられたままに完全な永遠の福音が載っていることも告げられた。

また、銀のつるにはめた二つの石も版とともに隠されていること――これらの石は胸当てに付けてあって、ウリムとトンミムと呼ばれるものを成す――これらの石を所有して使った者が昔すなわち前の時代の聖見者となったこと、ならびにその書を翻訳するために神がそれらを備えてくださったことを、その方は告げられた。

＊＊＊＊＊＊＊

さらに、わたしがその方の語ったその版を受け取るとき――というのは、それを手に入れる時はまだ来ていなかったからである――その版や、ウリムとトンミムの付いた胸当てを、それらを見せるように命じられた人々のほかにはだれにも見せてはならない、もしも見せたならば滅ぼされる、とその方はわたしに告げられた。その方が版についてわたしと語っておられる間に、わたしの心に示現が開かれ、わたしはその版の隠されている場所を見ることができた。そして、それは非常に明瞭ではっきりとしていたので、そこを訪れたときにはその場所が分かった。

この指示を受けた後、わたしが見ると、室内の光はたちまち、わたしに語っておられたその方の周りに集まり始めた。そして、光は集まり続け、その方のすぐ周りを除いてついにその部屋は再び暗くなった。その途端に、わたしが見ると、あたかも一筋の道が天に向かってまっすぐに開いたかのようで、その方は昇って行かれ、ついにその姿がまったく見えなくなった。そして、その部屋は、この天の光が現れる前の状態に戻った。

わたしはその奇異な有様をつくづくと考え、またこの常ならぬ使者によって告げられたことを不思議に思いながら横になっていた。このように思いにふけっている最中に、わたしは、突然部屋が再び明るくなり始めたのに気づいた。そして、あたかも突然であるかのように、同じ天の使者が再びわたしの寝台の傍らにおられた。

その方は語り始め、最初に訪れたときに述べたこととまったく同じことを少しも変えずに再び述べられた。それを述べた後、飢饉と戦争と疫病によるひどい荒廃を伴って地上に来ようとしている大きな裁きについてわたしに告げ、またこれらの厳しい裁きがこの時代に地上に来ることを告げられた。これらのことを述べた後、その方は再び前と同じように昇って行かれた。

このときには、心に受けた印象が非常に深かったので、

わたしは目がさえて眠れなくなっており、見たり聞いたりしたことへの驚きに圧倒されて横になっていた。ところが何とも驚いたことに、わたしはまたもや寝台の傍らに同じ使者を見、その方が前と同じことをわたしに詳しく語られるのを、すなわち、再び繰り返し語られるのを聞いたのである。そして、その方はわたしに一つの警告を加え、（父の家族は貧しい暮らしをしていたので）金持ちになるために版を手に入れるように、サタンがわたしを誘惑しようとするであろうと告げられた。そしてその方は、このようなことのないようにわたしに命じ、版を手に入れるに当たっては神の栄光を現す以外の目的を心に抱いてはならないこと、また神の王国を築こうとする動機以外のいかなる動機にも左右されてはならないこと、そうでなければそれを手に入れることはできないことを告げられた。

この三度目の訪れの後、その方は前のようにまた天に昇って行かれた。そして、わたしはたった今経験したことの不思議さをまた深く考え続けた。その天の使者が三度目にわたしを離れて昇って行かれたのとほとんど同時に、鶏が鳴いたので、わたしは夜明けの近いことを知った。したがって、わたしは一晩中その使者と会見していたことになる。

わたしはその後間もなく起きて、いつものように、その日にしなければならない仕事に出かけた。しかし、わたしは普段のように働こうとしたが、まったく働けないほど疲れ果てているのを知った。わたしと一緒に働いていた父は、わたしの具合が悪いのに気づき、家に帰るように言った。そこで、わたしは家に帰ろうとして出かけた。しかし、囲いを越えて畑から出ようとしたときに、すっかり力を失ってぐったりと地に倒れ、しばらくの間まったく意識を失っていた。

わたしが思い出せる最初のことは、わたしの名を呼んで、わたしに語りかける声があったことである。見上げると、あの同じ使者が前のように光に包まれて、頭上に立っておられるのが見えた。それからその方は、前夜わたしに話したすべてのことを再びわたしに話し、父のところへ行って、わたしが受けた示現と命令のことを告げるようにと命じられた。

わたしはそれに従い、畑にいた父のところへ戻って、父にすべてのことを詳しく告げた。すると、父はわたしに、それは神から出ていると答え、その使者から命じられたと

おりにするように告げた。わたしは畑を去って、版が隠されていると使者から告げられた場所へ行った。すると、それに関して受けていた示現が明瞭であったので、そこに着くとすぐにその場所が分かった。

ニューヨーク州オンタリオ郡マンチェスターの村の近くに、かなりの大きさの丘が一つある。そこはその界わい切っての高い丘である。この丘の頂上から遠くない西側の所にかなりの大きさの石があって、その石の下にあった石の箱の中に版が置かれていた。この石は厚みがあって、上部の中央が丸みを帯びており、へりに行くに従って薄くなっていたので、その中央部は地上に見えていたが、へりはすべて土に覆われていた。

わたしは土を取り除いて、てこを一本手に入れ、それをその石のへりの下に差し込んで、わずかな力でそれを持ち上げた。中をのぞき込むと、あの使者から言われたように、実際にそこに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てが見えた。それらが納められていた箱は、ある種のセメントの中に石を置いて造ったものである。箱の底には、横向きに二個の石が置かれ、その石の上に版とその他の物が一緒に載せられていた。

わたしはそれらを取り出そうとしたが、あの使者に止められた。そして、それらを出す時はまだ来ていないことを再び知らされた。また、そのときから四年たたないと、その時は来ないとのことであった。その方はわたしに、そのときからちょうど一年目にその場所に来るように、そうすれば彼がわたしに会ってくださること、また版を手に入れる時が来るまでわたしはそれを続けなければならないことを告げられた。

それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこへ行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を行おうとしておられるか、また終わりの時に主の王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。

＊＊＊＊＊＊＊

ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやって来た。千八百二十七年九月二十二日、わたしがいつものように満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ天の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださった。すなわち、わたしはそれらに

対して責任を持たなければならない、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであろう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしがそれらを保存するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られる、というのであった。

わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つためにそのような厳しい責任を課せられたのか、またわたしが自分に求められたことを成し遂げたときにそれらを取りに来るとなぜ使者が言われたのか、その理由が分かった。わたしがそれらを持っていることが知れるやいなや、わたしからそれらを奪おうとするあらん限りの努力が払われたからである。そのために思いつく限りのあらゆる策略が実行に移された。迫害は以前にも増して激しく、容赦のないものとなり、大勢の人が、できればわたしからそれらを奪おうと絶えず機会をうかがった。しかし、わたしが求められたことをそれらによって成し遂げるまで、それらは神の知恵によって、わたしの手の中で無事であった。そして、前もって定められたとおり、使者がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使者に引き渡したのである。そして、千八百三十八年五月二日の今日まで、その使者がそれらを管理しておられる。」

記録の全文については、『高価な真珠』の「ジョセフ・スミス—歴史」ならびに『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史』（History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints）第一巻、第一—六章を参照していただきたい。

このようにして、地の中から語る一つの民の声として地から取り出され、神の断言によって明らかなように、神の賜物と力によって近代の言語に翻訳されたこの古代の記録は、千八百三十年に、THE BOOK OF MORMON（『モルモン書』）として初めて世に出された。

『モルモン書』についての概説

『モルモン書』は、昔アメリカ大陸に住んでいた民の神聖な記録であり、金属版に刻まれていたものである。そしてこの書には、四種類の金属版のことが述べられている。

一、ニーファイの版。小版と大版の二種類がある。小版には、特に霊的な事柄と預言者たちの務めと教えが記されており、一方大版は、大部分が世俗の歴史で占められている（ニーファイ第一書第九章二―四節）。しかし、モーサヤの時代以後は、大版にも、霊的に際立って重要な事柄が記された。

二、モルモンの版。モルモンがニーファイの大版から短くまとめた記事と、多くの解説文から成る。この版には、モルモンが書き継いだ歴史と、息子モロナイが付け加えた記事が載っている。

三、エテルの版。ヤレド人の歴史を伝えるものである。モロナイはこの記録を短くまとめて、これに自分の解説を織り込み、「エテル書」という表題を付け、全体の歴史に組み入れて編集した。

四、真鍮の版。紀元前六百年に、リーハイの民がエルサレムから携えて来たものである。この版には、「モーセの五書……また、世の初めからユダの王ゼデキヤの統治の初めに至るユダヤ人の記録……また……聖なる預言者たちの預言」（ニーファイ第一書第五章十一―十三節）が載っている。イザヤやその他、聖書の預言者や聖書に現れない預言者たちの言葉が、この版からたくさん『モルモン書』に引用されている。

『モルモン書』は、一つの例外はあるものの、ほかはすべて各々の主要な著者の名を冠した「書」として知られる十五の主部すなわち区分から成っている。「オムナイ書」までの最初の六つの書は、ニーファイの小版からの翻訳である。また、「オムナイ書」と「モーサヤ書」の間に「モルモンの言葉」と呼ばれる挿入記事がある。これは、小版に刻まれている記録とモルモンが大版から短くまとめた記録をつなぐものである。

「モーサヤ書」から「モルモン書」第七章に至る長い部分

は、モルモンがニーファイの大版から短くまとめたものの翻訳である。また、「モルモン書」第八章から巻末までの残りの部分は、モルモンの息子モロナイが刻んだものである。モロナイは父の生涯について記録を終えた後、（「エテル書」として）ヤレド人の記録を短くまとめたものを作り、その後、「モロナイ書」として知られている部分を付け加えた。

紀元四百二十一年、あるいはそれに近いある年に、ニーファイ人の最後の預言者であり歴史家であるモロナイは、昔の預言者たちを通じて神の声により予告されたとおりに、末日に明らかにされるように、その神聖な記録を封じ、主に託して隠した。そして紀元千八百二十三年に、当時復活していたこの同じモロナイが預言者ジョセフ・スミスを訪れ、後に、記録の刻まれているその版を彼に渡したのである。

本版について――過去に出版された英文の『モルモン書』には、その本文に小さな誤りが幾つか残っていた。本版は、出版前の原稿と預言者ジョセフ・スミスが校訂した初期の版に合わせて、適切と思われる訂正を加えたものである。

絵

1. 主イエス・キリスト　ハインリッヒ・ホフマン画
2. 預言者ジョセフ・スミス　アルビン・ギディンズ画
3. リーハイ，リアホナを見つける　アーノルド・フリーバーグ画
4. リーハイとその民，約束の地に導く　アーノルド・フリーバーグ画
5. アルマ，モルモンの泉でバプテスマを施す　アーノルド・フリーバーグ画
6. レーマン人サムエル，預言をする　アーノルド・フリーバーグ画
7. イエス・キリスト，アメリカ大陸を訪れられる　ジョン・スコット画
8. モロナイ，ニーファイ人の記録を埋める　トム・ラベル画

TIM
LOVELL

目次

モルモン書

書名	ページ
ニーファイ第一書	1
ニーファイ第二書	69
ヤコブ書	153
エノス書	179
ジェロム書	183
オムナイ書	186
モルモンの言葉	190
モーサヤ書	193
アルマ書	280
ヒラマン書	515
第三ニーファイ	570
第四ニーファイ	650
モルモン書	655
エテル書	682
モロナイ書	726

聖句ガイド

序文	3
項目リスト	5

脚注と「聖句ガイド」で用いられる書名の略語

旧約聖書

創世……創世記
出エ……出エジプト記
レビ……レビ記
民数……民数記
申命……申命記
ヨシ……ヨシュア記
士師……士師記
ルツ……ルツ記
サ上……サムエル記上
サ下……サムエル記下
列上……列王紀上
列下……列王紀下
歴上……歴代志上
歴下……歴代志下
エズ……エズラ記
ネヘ……ネヘミヤ記
エス……エステル記
ヨブ……ヨブ記
詩篇……詩篇
箴言……箴言
伝道……伝道の書
雅歌……雅歌
イザ……イザヤ書
エレ……エレミヤ書
哀歌……哀歌
エゼ……エゼキエル書
ダニ……ダニエル書
ホセ……ホセア書
ヨエ……ヨエル書
アモ……アモス書
オバ……オバデヤ書
ヨナ……ヨナ書
ミカ……ミカ書
ナホ……ナホム書
ハバ……ハバクク書
ゼパ……ゼパニヤ書
ハガ……ハガイ書
ゼカ……ゼカリヤ書
マラ……マラキ書

新約聖書

マタ……マタイによる福音書
マコ……マルコによる福音書
ルカ……ルカによる福音書
ヨハ……ヨハネによる福音書
使徒……使徒行伝
ロマ……ローマ人への手紙
1コリ……コリント人への第一の手紙
2コリ……コリント人への第二の手紙
ガラ……ガラテヤ人への手紙
エペ……エペソ人への手紙
ピリ……ピリピ人への手紙
コロ……コロサイ人への手紙
1テサ……テサロニケ人への第一の手紙
2テサ……テサロニケ人への第二の手紙
1テモ……テモテへの第一の手紙
2テモ……テモテへの第二の手紙
テト……テトスへの手紙
ピレ……ピレモンへの手紙
ヘブ……ヘブル人への手紙
新ヤコ……ヤコブの手紙
1ペテ……ペテロの第一の手紙
2ペテ……ペテロの第二の手紙
1ヨハ……ヨハネの第一の手紙
2ヨハ……ヨハネの第二の手紙
3ヨハ……ヨハネの第三の手紙
ユダ……ユダの手紙
黙示……ヨハネの黙示録

モルモン書

1ニフ……ニーファイ第一書　ジェロ……ジェロム書　アル……アルマ書　モル……モルモン書
2ニフ……ニーファイ第二書　オム……オムナイ書　ヒラ……ヒラマン書　エテ……エテル書
ヤコ……ヤコブ書　モ言……モルモンの言葉　3ニフ……第三ニーファイ　モロ……モロナイ書
エノ……エノス書　モサ……モーサヤ書　4ニフ……第四ニーファイ

教義と聖約

教義……教義と聖約
公式1……公式の宣言一
公式2……公式の宣言二

高価な真珠

モセ……モーセ書
アブ……アブラハム書
ジ―マタ…ジョセフ・スミス―マタイ
ジ―歴史…ジョセフ・スミス―歴史
箇条……信仰箇条

JS……ジョセフ・スミス訳聖書
KJ……欽定訳聖書
GS……聖句ガイド項目リスト

ニーファイ第一書

ニーファイの統治と務め

リーハイと妻サライア、および（長男から始めて）レーマン、レムエル、サム、ニーファイと呼ばれた四人の息子たちの話。リーハイが民に向かって彼らの罪悪について預言をし、民がそのリーハイの命を奪おうとしたので、主はリーハイにエルサレムの地を立ち去るように警告される。リーハイは、家族を連れて荒れ野に三日間の旅をする。ニーファイ、兄たちを伴い、ユダヤ人の記録を手に入れるためにエルサレムの地に戻る。一行が遭った苦しみの話。ニーファイと兄たち、イシマエルの娘たちを妻とする。一行は家族を連れて荒れ野に出発する。荒れ野で遭った苦しみと苦難。一行の旅路。一行、大海に来る。ニーファイの兄たち、ニーファイに反抗する。ニーファイ、兄たちを言い伏せて一隻の船を造る。その地をバウンティフルと名付ける。一行が大海を渡って約束の地に着くことなど。

これはすべて、ニーファイが記すところによる。言い換えれば、わたしニーファイがこの記録を書き記したのである。

第 1 章

ニーファイ、自分の民について記録を始める。リーハイ、示現の中で火の柱を目にし、また預言の書を読む。リーハイ、神をほめたたえ、メシヤの来臨を予告し、エルサレムの滅亡を預言する。リーハイ、ユダヤ人に迫害される。紀元前約六百年。

1 わたしニーファイは[1]善い[2]両親から[3]生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの[4]教えを受けた。わたしはこれまでの人生で多くの[5]苦難に遭ったが、生まれてこのかた主の厚い恵みを受け、まことに神の慈しみと[6]奥義を深く知った。そこで、生まれてからこれまでの間に行ってきたことを[7]記録する。

2 まことにわたしは父の[1]言葉で記録するが、それは、ユダヤ人が学んできたこととエジプト人の言葉から成っている。

ニーファイ第一書

第1章

1 ① GS「ニーファイ（リーハイの息子）」
② 箴言22・1
③ 教義68・25、28、GS「親」
④ エノ1・1、モサ1・2−3、GS「教え・教師」
⑤ GS「逆境」
⑥ GS「神の奥義」
⑦ GS「聖文」

2 ① モサ1・2−4、モル9・32−33

3 わたしは、自分の書く記録が真実であることを知っている。わたしはこれを自分の手で書き、自分の知っていることに従って書く。

4 さて、ユダの王ゼデキヤの統治第一年の初めに（父リーハイは生まれてこのかたエルサレムに住んでいた）、その同じ年に多くの預言者が現れて、民に向かい、悔い改めなければ大きな都のエルサレムは滅ぼされるに違いないと預言した。

5 さて、父リーハイは、出て行って民のためにまことに一心に主に祈った。

6 そして、祈っていたときに、火の柱が現れて、父の前にある岩の上にとどまった。そして父は、多くのことを見たり聞いたりした。父はこれらの見たり聞いたりしたことのために、ひどく震えおののいた。

7 さて、父はエルサレムにある自分の家に帰って来たが、御霊と自分が見たものに圧倒され、床に伏してしまった。

8 このように御霊に圧倒されていたとき、父は示現に引き込まれ、まことに天が開くのを見た。また父は、神が御座に着き、御自身を賛美しほめたたえる様子で群れ集まる、無数の天使たちに取り囲まれておられるのを見た思いがした。

9 そして父は、天の真ん中から降りて来られる一人の御方を見たが、その輝きは真昼の太陽の輝きにも勝るものであった。

10 また父は、このほかにこの御方に従う十二人の人も見たが、その明るさは大空に輝く星の明るさをしのいでいた。

11 そして、この人たちは天から降りて来て地の面を進んで行った。やがて最初の人が父の前に来て立ち、一つの書物を渡して読むように言った。

12 そこでその書物を読むと、父は主の御霊に満たされた。

13 父は声に出して読んだ。「災いである。エルサレムは災いである。わたしはあなたの忌まわしい行いを見たからである。」そして父は、エルサレムについて多くのことを読んだが、それはエルサレムが滅ぼされ、その地に住む者も滅ぼされ、多くが剣で殺され、多くが囚われの身となってバビロンへ連れ去られるということであった。

14 さて、父は多くの大いなる驚くべきことを読んだ

---

3 ① 1ニフ14・30、モサ1・6、エテ5・1—3、教義17・6
4 ① 歴下36・10、エレ52・3—5、オム1・15
② GS「年表—紀元前598」
③ 歴上9・3
④ 列下17・13—15、歴下36・15—16、エレ7・25—26、GS「預言者」
⑤ エレ26・18、2ニフ1・4、ヒラ8・20
5 ① GS「リーハイ（ニーファイの父）」
② 新ヤコ5・16
6 ① 出エ13・21、ヒラ5・24、43、教義29・12、ジー歴史1・16
7 ① ダニ10・8、1ニフ17・47、モセ1・9—10、ジー歴史1・20
② 1ニフ5・4、GS「示現」
8 ① エゼ1・1、使徒7・55—56、1ニフ11・14、ヒラ5・45—49、教義137・1
9 ① ジー歴史1・16—17
10 ① GS「使徒」
11 ① エゼ2・9
12 ① 教義6・15
13 ① 列下24・18—20、歴下36・14
② 列下23・27、24・2、エレ13・13—14、2ニフ1・4
③ 列下20・17—18、2ニフ25・10、オム1・15

り見たりした後、主に向かい、「おお、全能の主なる神よ、あなたの御業は何と偉大で驚くべきものでしょう。あなたの御座は高く天にあって、あなたの力と慈しみと憐れみは地に住むすべての者に及んでいます。あなたは憐れみ深い御方ですから、[1]あなたのみもとに来る者が滅びるのを許されません」などと、大声で多くのことを叫んで言った。

15 このような言葉で神をほめたたえたのは、父が見たこと、すなわち主が父に示されたことで父が心から喜び、まことに胸がいっぱいになったからである。

16 ところで、わたしニーファイは、父が書き記したことを残らず述べることはしない。それは、父が示現や夢で見たことをたくさん書き記しており、また子供たちに預言[1]をしたり語ったりしたこともたくさん書き記しているからであって、わたしはそのことについて残らず述べるつもりはない。

17 そうではなく、わたしは生まれてからこれまでの間に自分が行ってきたことを述べる。見よ、わたしは自分の手で造った版に父の記録[1]を短くまとめる。そして父の記録を短くまとめてから、次にわたしの生涯について述べるつもりである。

18 さて、あなたがたに知っていてもらいたいと思うことがある。すなわち、主が父リーハイに、非常に多くの驚くべきこと、まことにエルサレムの[1]滅亡について示されてから、見よ、父は民の中に出て行って、自分が先に見たり聞いたりしたことについて預[2]言し、また告げ知らせ始めた。

19 さて、ユダヤ人は、父が彼らについて証をしたことのために父をあざ笑った。父が、ユダヤ人の悪事と彼らの忌まわしい行いについて、ありのままに証[1]したからであり、自分が見聞きしたことや、あの書物で読んだことが、メシヤ[2]の来臨と世の贖いをはっきり表していると、証したからである。

20 ユダヤ人は、これらのことを聞いて父に腹を立てた。まことに、彼らが昔の預言者に腹を立てたのと同様である。彼らは預言者を追い出し、石を投げつけ、殺してしまった。そして、今また彼らは父の命をねらい、殺してしまおうとしたのである。しかし見よ、主の深い憐れ[2]みは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。

---

14 ① アル5・33−36、3ニフ9・14
16 ① 1ニフ7・1
17 ① 1ニフ6・1−3、2ニフ5・19・1−6、29・1−33、教義10・38−46
18 ① 1ニフ9・2−5
② 2ニフ25・9−10、教義5・20
19 ① GS「預言」
② 歴下36・15−16、エレ25・4、1ニフ2・13、7・14
20 ① GS「メシヤ」
② ヒラ13・24−26、アル34・38、教義46・15
② GS「憐れみ」

第2章

リーハイ、家族を連れて紅海に近い荒れ野に出発する。財産を後に残す。主に犠牲をささげ、息子たちに主の戒めを守るように教える。レーマンとレムエル、父に対してつぶやく。ニーファイは従順であり、信仰をもって祈る。主、ニーファイに語られ、ニーファイは兄たちを治める者として選ばれる。紀元前約六百年。

1 さて見よ、主はまことに夢の中で父に告げてこう言われた。「リーハイよ、あなたはこれまで行ってきたことのために、幸いである。あなたは忠実であり、わたしが命じたことをこの民に告げ知らせたため、見よ、彼らはあなたの命を奪おうとしている。」

2 そして、主は夢の中で父に、家族を連れて荒れ野へ出て行くように命じられた。

3 そして、父は主の言葉に従順であったので、主が命じられたとおりにした。

4 そして、父は荒れ野へ出て行った。父は自分の家や受け継ぎの地、金や銀、貴重品を後に残して、家族と食糧と天幕のほかは何も持たずに荒れ野へ出て行った。

5 そして父は、まず紅海の海辺に近い境の地の辺りに下って行って、それから、さらに紅海に近い境の地の荒れ野を進んだ。父は荒れ野の中を家族を連れて旅をしたが、その家族とは、母サライアと兄たち、すなわちレーマン、レムエル、サムであった。

6 さて、父は荒れ野を三日の間旅してから、ある谷で、水の流れている川のほとりに天幕を張った。

7 そして父は、石で一つの祭壇を築き、主にささげ物をして、主なるわたしたちの神に感謝をささげた。

8 さて、父はその川をレーマンと名付けた。その川は紅海に注ぎ、その谷は河口に近い境の地にあった。

9 父は、その川の水が紅海の源に注ぐのを見て、レーマンに向かって言った。「おお、おまえはこの川のように、絶え間なくあらゆる義の源に流れ込むように。」

10 またレムエルに向かって言った。「おお、おまえはこの谷のように、主の戒めを守ることにおいて堅く確固として、揺るぎなくあるように。」

第2章
1 1 1 ニファ7・14
2 1 GS「夢」
10 2 創世12・1、2 ニファ10・20、エテ1・42、アブ2・3
17 3 1 ニファ5・8、17・44
27 3 1 GS「従順・従う」
1 4 1 ニファ10・4、19・8
5 1 1 ニファ16・14、教義17・1
6 2 GS「レーマン」
7 6 1 ニファ9・1
1 出エ20・25、申命27・5—6
8 2 創世12・7—8、出エ24・4、アブ2・17
3 GS「感謝」

11 ところで、父がこう言ったのは、レーマンとレムエルが強情であったからである。見よ、この二人は多くのことで父に対してつぶやいた。[1]それは、父が[3]幻を見る人で、自分たちの受け継ぎの地や、金や銀、貴重品を後に残して、エルサレムの地から自分たちを連れ出し、荒れ野で死ぬほかなかったためであった。そして、父がこのようにしたのは、心に浮かんだつまらない空想のためだ、と彼らは言った。

12 このように、いちばん年上のレーマンとレムエルは父に対してつぶやいた。彼らがつぶやいたのは、自分たちを造られたあの神の計らいを知らないためであった。

13 またこの二人は、あの大きな都のエルサレムが、預言者たちが言ったように[1]滅ぼされることも信じなかった。彼らは、父の命を奪おうとしたエルサレムのユダヤ人のようであった。

14 そこで父は、レムエルの谷で御霊に満たされ、二人の体が自分の前で[1]打ち震えるまで[2]力強く彼らに語った。そして父が二人を言い伏せたので、二人は一言も言い返さず、父の命じるとおりにした。

15 父は天幕に住んだ。

16 さて、わたしニーファイはまだとても若かったが、もう身の丈は高く、また神の[1]奥義を知りたいという大きな望みを抱いていたので、主に叫び求めた。すると見よ、主がわたしを訪れ、[2]心を和らげてくださったので、わたしは、[4]父がこれまでに語った言葉をすべて[5]信じた。そのためにわたしは、兄たちのように父に逆らおうとはしなかったのである。

17 そしてわたしはサムに、主が聖なる御霊によってわたしに明らかにしてくださったことを話して聞かせた。そこで、サムはわたしの言葉を信じた。

18 しかし見よ、レーマンとレムエルは、わたしの言うことに決して聞き従おうとしなかったので、わたしは二人の心がかたくななのを悲しく思い、二人のために主に叫び求めた。

19 そこで主は、わたしに告げて言われた。「ニーファイよ、あなたは[1]信仰があるので幸いである。あなたがへりくだった心で、熱心にわたしを求めたからである。

20 あなたがたは、わたしの命令を守るかぎり[1]栄えて、[2]約束の地に導かれるであろう。まことにそこは、あなたがたのためにわたしが備えた地であっ

---

11 ① 箴言20・20
② 1ニフ17・17、GS「つぶやき」
③ 1ニフ5・2−4
12 ① モセ4・6
13 ① エレ13・14、1ニフ1・13
14 ① 1ニフ17・45
② GS「力」
16 ① GS「神の奥義」
② アル17・10、教義5・16、GS「啓示」
③ 列上18・37、アル5・7
④ GS「父（現世の）」「預言者」
⑤ 1ニフ11・5
18 ① アル31・24、3ニフ7・16
19 ① 1ニフ7・12、15・20
20 ① ヨシ1・7、1ニフ4・14、モサ1・7
② 申命33・13−16、1ニフ5・5、7・13、モセ7・17−18、GS「約束の地」

て、それはまことに、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地である。
21 あなたの兄たちは、あなたに背くかぎり主の前から絶たれるであろう。
22 またあなたは、わたしの命令を守るかぎり、兄たちを治める者、教える者とされるであろう。
23 見よ、彼らがわたしに背くその日に、まことにわたしはひどいのろいをもって彼らをのろうであろう。また、あなたの子孫がわたしに背いた場合を除いて、彼らがあなたの子孫を支配する権力を得ることは決してないであろう。
24 しかし、もしあなたの子孫がわたしに背くならば、彼らは、あなたの子孫に主を思い出させるために、あなたの子孫にとって鞭となるであろう。」

第 3 章

リーハイの息子たち、真鍮の版を手に入れるためにエルサレムに戻る。ラバン、真鍮の版を渡すのを拒む。ニーファイ、兄たちを促し、励ます。ラバン、彼らの持ち物を奪い、彼らを殺そうとする。レーマンとレムエル、ニーファイとサムを打ち、天使にとがめられる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、主と話をしてから父の天幕に帰った。
2 そこで父は、わたしに次のように言った。「見よ、わたしは夢を見た。その夢の中で主は、あなたと兄たちをエルサレムに戻らせるようにわたしに命じられた。
3 それは見よ、ラバンがユダヤ人の記録とわたしの先祖の系図を持っているからであって、それらは真鍮の版に刻まれている。
4 それで主はわたしに、あなたとあなたの兄たちがラバンの家へ行ってその記録を何とか手に入れ、それを荒れ野の中のここまで持って来るように命じられたのである。
5 ところで、あなたの兄たちは、わたしの求めていることが難しいと言って、つぶやいている。しかし、わたしが彼らにそれを求めたのでは決してない。それは主の命令なのだ。
6 だからわが子よ、行きなさい。あなたはつぶやくことがなかったので、主から恵みを受けるであろ

---

21 ① 2ニフ5・20—24、アル9・13—15、38・1
22 ① 創世37・8—11、1ニフ3・29
23 ① 申命11・28、1ニフ12・22—23、教義41・1
24 ① 2ニフ5・25
② ヨシ23・13、士師2・22—23
第3章
2 ① GS「夢」
3 ① 1ニフ5・14
6 ① GS「支持（教会指導者の）」

う。」

7そこで、わたしニーファイは父に言った。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」

8さて、父はこの言葉を聞くと、わたしが主から祝福を受けていたことを知って非常に喜んだ。

9それでわたしニーファイと兄たちは、エルサレムの地へ上って行くために天幕を持って荒れ野に旅立った。

10そしてエルサレムの地に着くと、わたしと兄たちは相談した。

11わたしたちは、だれがラバンの家に入って行くか、くじを引いた。そして、そのくじがレーマンに当たった。それでレーマンはラバンの家に入って行き、座に着いているラバンと話をした。

12そして彼は、真鍮の版に刻まれていて、父の系図が載っている記録を譲ってくれるようにラバンに頼んだ。

13そこで見よ、ラバンは、ひどく怒ってレーマンを自分のもとから追い出し、その記録を渡そうとはしなかった。またラバンはレーマンに、「おまえは盗賊だ。殺してやる」と言った。

14しかしレーマンは、ラバンのもとから逃げ出して来て、ラバンのしたことをわたしたちに話した。それでわたしたちは大いに悲嘆に暮れ、兄たちは荒れ野にいる父のところへ帰ってしまおうとした。

15しかし見よ、わたしは兄たちに言った。「主が生きておられ、またわたしたちが生きているように確かに、わたしたちは主から命じられたことを成し遂げるまでは、荒れ野にいる父のところへは下って行きません。

16だから、主の命令を忠実に守りましょう。父の受け継ぎの地へ行きましょう。まことに、父は金や銀など、あらゆる富を後に残してきているからです。そして父は、これをすべて主の命令によってしたのです。

17それは父が、民の悪事のためにエルサレムが必ず滅ぼされることを知っていたからです。

18まことに、エルサレムの民は預言者たちの言葉

---

7 ① サ上17・32、列上17・11−15、GS「従順、従う」
「信仰」
13 ② 創世18・14、ピリ4・13、1ニフ17・3、50、教義5・34
11 ① ③ 26 GS「戒め（神の）」
ネヘ10・34、使徒1・
12 ① 1ニフ3・3、5・
14 ① 1ニフ2・4
16 ① 1ニフ2・2、4・
17 ① 34 ② 歴下36・16−20、エレ
13 39 ① 1−9、1ニフ1・

を拒みました。だから、もし父がこの地から逃げるように命じられながらこの地にとどまるなら、父もまたきっと滅びるでしょう。そういうわけで、父はこの地からどうしても逃れなければならなかったのです。

19そしてまことに、これらの記録を手に入れるのは、神の知恵です。そうすれば、先祖の言葉を子孫に残すことができるし、

20また、世の初めから現在に至るまで、すべての聖なる預言者の口を通して語られ、神の御霊と力によって語られてきた御言葉を、子孫に残すことができるのです。」

21わたしは、兄たちが神の命令を忠実に守るように、このような言葉で説得したのであった。

22さて、わたしたちは受け継ぎの地へ下って行って、わたしたちの金や銀、貴重品を集めた。

23そしてこれらの品々を集めてから、もう一度ラバンの家に行った。

24さて、わたしたちはラバンのところに行って、金や銀やすべての貴重品を渡す代わりに、真鍮の版に刻まれた記録をわたしたちに譲ってくれるように頼んだ。

25そこで、ラバンはわたしたちの持っているものを目にし、しかもそれが大したものであるのを見て、欲しくてたまらなくなった。それで彼は、わたしたちを追い出し、わたしたちの持っているものを自分のものにするために、召し使いにわたしたちを殺させようとした。

26そこでわたしたちは、ラバンの召し使いたちの前から逃げ出した。そして、持っていたものは後に残してくるよりほか仕方がなかったので、それはラバンのものになってしまった。

27さて、わたしたちは荒れ野に逃げ込み、またラバンの召し使いたちに追いつかれなかったので、とある岩の洞穴に身を隠した。

28さて、レーマンはわたしと父に腹を立てた。またレムエルも、レーマンの言葉に聞き従ったのでともに腹を立てた。それでレーマンとレムエルは、弟であるわたしたちに多くの荒々しい言葉を吐き、そのうえ棒でわたしたちを打った。

29さて、彼らがわたしたちを棒で打っていると、見よ、一人の主の天使が来て、彼らの前に立ち、この

---

18 ① GS「背く」
19 ① 1ニフ16・8
② オム1・17、モサ1・2—6
20 ① GS「聖文—保存されるべき聖文」
22 ① 1ニフ2・4
24 ① 1ニフ3・3
25 ① GS「貪欲・むさぼり」
28 ① 1ニフ17・17—18
29 ① 1ニフ4・3、7・10、GS「天使」

ように言った。「なぜあなたがたは自分の弟を棒でたたくのか。主が彼を選んであなたがたを治める者になさったこと、そしてこれがあなたがたの罪悪のためであることを知らないのか。さあ、もう一度エルサレムへ上って行きなさい。そうすれば、主はラバンをあなたがたの手に渡されるであろう。」

30 この[1]天使はわたしたちにこのように語ると、立ち去った。

31 天使が立ち去ってから、レーマンとレムエルはまたもつぶやき始め[1]、こう言った。「主がどのようにして、ラバンを我々の手に渡すことができるというのか。見よ、ラバンは力のある人で、五十人を指揮することができるし、まことに、五十人を殺すことさえできる。それならば、どうして我々を殺せないわけがあろうか。」

第4章

ニーファイ、主の命令でラバンを殺し、計略によって真鍮の版を手に入れる。ゾーラム、荒れ野にいるリーハイの家族と行動を共にする。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしは兄たちに言った。「わたしたちはまたエルサレムへ上って行きましょう。そして、主の命令を忠実に守りましょう。[1]まことに、主は全地にも増して力ある御方なのですから、どうしてラバンとその家来の五十人よりも力が劣ることがあるでしょうか。いや、ラバンに何万人あっても[2]主の力にはかないません。

2 だから行きましょう。[1]モーセのように[2]強くなろうではありませんか。事実、モーセが[3]紅海の水に語りかけると、紅海の水は右と左に分かれました。そして、わたしたちの先祖は囚われの身から逃れて、乾いた土の上を通って来ました。ところがパロの軍勢は、後を追って来て、紅海の水におぼれて死にました。

3 さてまことに、あなたがたは、これがほんとうであることを知っています。また、[1]一人の天使があなたがたに語りかけたことも知っています。それでいて、どうして疑うことができるのですか。行きましょう。主は、わたしたちの先祖を救われたように、わたしたちも救い、エジプト人を滅ぼされたように、ラバンをも滅ぼすことがおできになるのです。」

---

29 ① ニファ2・22
30 ① ニファ16・38
31 ① GS「つぶやき」

第4章

1 ① GS「信仰」「勇敢・勇気」
2 ① ニファ7・11−12
② GS「モーセ」
③ 申命11・8
17 ② 出エ14・21、ニファ7・19
③ 26、モサ7・19
3 ① ニファ3・29−31、7・10

4わたしがそう言ってからも、まだ兄たちは憤ってつぶやき続けた。それでも彼らはわたしの後について来て、わたしたちはエルサレムの城壁の外まで来た。

5時はもう夜であった。わたしは兄たちを城壁の外に忍ばせた。彼らが身を隠してから、わたしニーファイは都に忍び込み、ラバンの家に向かって進んで行った。

6わたしは、前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれて行った。

7にもかかわらず、そのようにして進んで、ラバンの家の近くに来ると、一人の男を見かけた。その男はぶどう酒に酔ってわたしの前の地面に倒れていた。

8近づいて見ると、それはラバンであった。

9わたしはラバンの剣に目をやった。そして、それをさやから引き抜いた。柄は純金であって実に見事な造りで、刃は最も上等な鋼でできていた。

10さて、わたしはラバンを殺すように強く御霊に促された。しかし心の中で、「わたしは今までどんなときにも人の血を流したことはない」と言った。わたしはしりごみをし、ラバンを殺さなくて済むようにと思った。

11すると御霊が再び、「見よ、主はすでに、この男をあなたの手に渡された」と言われた。そしてわたしも、ラバンがわたしの命を奪おうとしたこと、ラバンが主の命令に聞き従わないだろうということ、またわたしたちの持っているものを奪ったことを知っていた。

12そして御霊が、またわたしに言われた。「この男を殺しなさい。主はあなたの手にこの男を渡された。

13見よ、主は、義にかなった目的を果たすために[1]は、[1]悪人を[2]殺される。[3]一人の人が滅びるのは、一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい。」

14わたしニーファイはこの御言葉を聞いたとき、主が荒れ野でわたしに言われた、「あなたの子孫はわたしの命令を[1]守るかぎり、[2]約束の地で[3]栄える」という御言葉を思い出した。

15そしてわたしはまた、もしもわたしの子孫にモーセの律法がなかったならば、子孫はその律法に従って主の命令を守ることができなくなるとも考えた。

16またわたしは、その律法が[1]真鍮の版に刻まれてい

---

6 ①ヘブ11・8
GS「聖霊」「霊感」
②2ニフ5・14、教義9・1

10 ①アル14・11
11 ①サ上17・41—49
②1ニフ3・26

13 ①GS「邪悪」
②1ニフ17・33—38、教義98・31—32

14 ①アル30・47
③GS「戒め（神の）」

22 ②オム1・6、モサ2・エテ2・7—12
③1ニフ17・13—14、ヤコ2・12

16 ①④1ニフ2・20
GS「モーセの律法」

ることも知っていた。
17 さらにわたしは、この理由、すなわち、わたしが主の命令に従ってあの記録を手に入れることができるようにという理由で、主がラバンをわたしの手に渡されたことを知っていた。
18 それでわたしは御霊の声に従い、ラバンの髪の毛をつかみ、ラバン自身の剣で彼の首を打ち落とした。
19 わたしは、ラバン自身の剣で彼の首を打ち落としてから、ラバンの衣服を取って一つ残らず身に着け、また彼の武具を腰にまとった。
20 それからわたしは、ラバンの宝物蔵へ進んで行った。ラバンの宝物蔵へ進んで行くと、見よ、宝物蔵の鍵を持ったラバンの召し使いに会ってしまった。それでわたしは、ラバンの声色を使って、わたしとともに宝物蔵に入るように命じた。
21 召し使いは、わたしの衣服と腰に帯びている剣を見て、わたしを主人のラバンだと思い込んでいた。
22 彼は、主人のラバンがその夜ユダヤ人の長老たちのところへ出かけて行ったのを知っていたので、その長老たちのことをわたしに話した。
23 わたしはラバンのふりをして彼に話をした。
24 わたしはまた、真鍮の版に刻まれたものを、城壁の外にいるわたしの兄弟たちのところへ持って行くのだと言った。
25 そしてその召し使いに、ついて来るように言った。
26 するとその召し使いは、教会の兄弟たちのことを言っているのだと思い、またわたしのことを、わたしが手にかけたあのラバンだとほんとうに思い込んでいたので、後について来た。
27 また召し使いは、城壁の外にいる兄たちのところへ行く途中で、何度もわたしに向かってユダヤ人の長老たちのことを話した。
28 さて、レーマンはわたしを見ると非常におびえ、またレムエルもサムもともにおびえて、わたしの前から逃げ出した。わたしをラバンだと思い、ラバンがわたしを殺して、自分たちの命も奪いに来たと思ったからである。
29 そこでわたしは、逃げる後から兄たちを呼んだ。すると兄たちは、わたしの声を聞いて、わたしの前から逃げるのをやめた。
30 そして、ラバンの召し使いは、兄たちを見ておの

18 ① サ上17・51
20 ① ニフ1・30
24 ① 1ニフ3・12、19−24、5・10−22

のき始め、わたしの前から逃げてエルサレムの都へ帰ろうとした。

31 しかしわたしニーファイは、身の丈が高いうえに主から強い力を授かっていたので、ラバンの召し使いを捕まえて、逃げないように押さえつけた。

32 そしてわたしは、わたしの言うことに聞き従うならば、主が生きておられ、またわたしが生きているように確かに、わたしたちの言うことに聞き従うならば、命を助けてやると言った。

33 また、恐れるには及ばないこと、そしてもしわたしたちと荒れ野へ下って行くならば、わたしたちと同様に自由の身になることを、まことに誓って言った。

34 わたしはまた言った。「主は確かに、このことを行うようにわたしたちに命じられた。わたしたちは主の命令を熱心に守るべきではないか。もしあなたが荒れ野へ下って、わたしの父のところへ行くならば、わたしたちとともに暮らせるだろう。」

35 さて、ゾーラムは、わたしの語った言葉を聞いて勇気を得た。ところで、ゾーラムとはこの召し使いの名である。彼は荒れ野へ下って行って、わたしの父のところへ行くと約束した。そしてまた、その先わたしたちとともに住むと誓った。

36 ところでわたしたちには、ゾーラムが行動を共にすることを願う理由があった。それは、わたしたちが荒れ野へ逃げたことをユダヤ人に知られ、追いかけられて殺されることのないようにするためであった。

37 さて、ゾーラムがわたしたちに誓ったので、彼についての心配はなくなった。

38 そこでわたしたちは、真鍮の版を持ち、ラバンの召し使いを連れて荒れ野へ出発し、父の天幕に向かって旅路を進んだ。

第5章

サライア、リーハイに向かって不平を言う。二人とも、息子たちが帰って来たことを喜び、犠牲をささげる。真鍮の版には、モーセと預言者たちの記録が載せられている。その版から、リーハイがヨセフの子孫であることが分かる。リーハイ、自分の子孫と真鍮の版の保存について預言する。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

---

31 ① モサ9・17、アル56・
33 ① GS「誓い」
34 ① 1ニフ2・2、3・16
35 ① 1ニフ16・7、2ニフ5・5−6、GS「ゾーラム・ゾーラム人」
37 ① ヨシ9・1−21、伝道5・4、GS「誓い」

1 さて、わたしたちが荒れ野へ下って来て父のところに着くと、父は喜びに満たされた。また母のサライアも、ほんとうにわたしたちのことで悲しんでいたので、非常に喜んだ。
2 母は、わたしたちが荒れ野で死んでしまったと思ったからである。母はまた、父のことを幻を見る人だと言って父に不平を言い、「あなたがわたしたちを受け継ぎの地から連れ出したので、息子たちはいなくなってしまい、わたしたちも荒れ野で死んでしまいます」と言っていた。
3 母は、このような言葉で父に不平を言っていた。
4 そこで父は母に言った。「わたしは自分が幻を見る者であることを知っている。もしわたしが、示現の中で神が示してくださった事柄を見なかったならば、わたしは神の慈しみを知らず、エルサレムにとどまって、同胞とともに滅びてしまったであろう。
5 しかし見よ、わたしは約束の地を頂いており、そのことについて喜ばしく思う。またわたしは、主が息子たちをラバンの手から救い出し、荒れ野にいるわたしたちのもとにまた連れ戻してくださることを知っている。」
6 父リーハイはこのような言葉で、わたしたちのことについて母サライアを慰めたのであった。それは、わたしたちがユダヤ人の記録を手に入れるために、荒れ野をエルサレムの地へ向かって旅をしていた間のことであった。
7 そこで、わたしたちが父の天幕に帰って来ると、見よ、父母は喜びに満たされ、母は慰めを得た。
8 母は言った。「主が夫に荒れ野へ逃げるように命じられたことが、今確かに分かりました。また、主が息子たちを守り、ラバンの手から救い出し、主が命じられたことを成し遂げるための力を息子たちにお与えくださったことが、確かに分かります。」母はこのような言葉で話した。
9 そして父母は、非常に喜び、犠牲と燔祭を主にさげ、イスラエルの神に感謝した。
10 二人でイスラエルの神に感謝をささげてから、父リーハイは真鍮の版に刻まれた記録を手に取り、最初から調べてみた。
11 父が見ると、その中には、世界の創造とわたしたちの最初の先祖であるアダムとエバの話を載せた、モーセの五書があった。

第5章
1 ① GS「サライア」
4 ① 1ニフ2・11
5 ① GS ② 1ニフ1・8−13、「示現」
8 ① 1ニフ2・20、18・22−23、GS「約束の地」
8 ② GS「信仰」
9 ① 1ニフ2・2
9 ② 1ニフ3・7
9 ① モサ2・3、3ニフ9・19−20、GS「モーセの律法」
10 ① GS「感謝」
10 ② 1ニフ4・24、38、13・23、GS「真鍮版」
11 ① 1ニフ19・23、GS「五書」

12 また、世の初めからユダの王ゼデキヤの統治の初めに至るユダヤ人の記録もあり、[1]
13 また、世の初めからゼデキヤの統治の初めに至る聖なる預言者たちの預言や、そのほか、エレミヤの口を通して語られた多くの預言も載せてあった。[2]
14 そして父リーハイは、真鍮の版に自分の先祖の系図も見つけ、それで自分がヨセフの子孫であることを知った。[1]このヨセフとは、ヤコブの子のヨセフであって、エジプトへ売られ、父ヤコブとその家のすべての者が飢饉で死ぬことのないように守るため主の手によって守られたあのヨセフである。[2]
15 彼らは自分たちを守ってくださったあの同じ神によって、囚われの身から救い出され、エジプトの地から導き出されたのである。[3]
16 このようにして、父リーハイは自分の先祖の系図を見つけた。ラバンもまたヨセフの子孫であったので、ラバンとその先祖がこの記録を書き記しておいたのである。[1]
17 ところで、父はこれらのことをすべて見ると、御霊に満たされ、自分の子孫について預言し始めた。
18 すなわち、この真鍮の版が父の子孫であるすべての国民、部族、国語の民、民族に伝わるということである。
19 それで父は、この真鍮の版は決して朽ちることなく、またこれから先どれだけ歳月を経ても、さびて読めなくなることはまったくないと言った。[1]そして彼は、自分の子孫について多くのことを預言した。
20 さて、わたしと父は、主が下された命令をこれまで守ってきた。
21 そしてわたしたちは、主が手に入れるようにと言われた記録を手に入れ、また、それを調べて、それが望ましいものであることを知った。まことに、それは、子孫に主の戒めを残すことができるものであり、したがって、わたしたちにとって大きな価値のあるものである。[2]
22 それゆえ、わたしたちが約束の地を目指して荒れ野を旅するときに、この版を携えて行くのは、主の知恵であった。

第 6 章

ニーファイ、神にかかわる事柄を書き記す。ニーファイの目的は、アブラハムの神のもとに来て救われる

---

12 ① 歴上 9・1、GS「聖文」
13 ① 列下 24・18、エレ 37・1
14 ① エズ 1・1、エレ 36・1
② 17—32、1 ニフ 7・14、ヒラ 8・20
GS「真鍮版」
1 ニフ 3・3、12、2 ニフ 3・4、アルコブの息子）
② 10・3、GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
③ GS「ヤコブ（イサクの息子）」
④ 創世 37・29—36
⑤ 創世 45・4—5
15 ① 出エ 13・17—18、アモ 3・1—2、1 ニフ 17・23—31、教義 103・16—18、136・22
16 ① 1 ニフ 6・2
19 ① アル 37・4—5
21 ① 2 ニフ 25・26
② GS「聖文—聖文の価値」

ように、人々に説き勧めることである。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしニーファイは、わたしの記録のこの[1]部分に先祖の系図を書き記さない。また、わたしが今書き記しているこの版[2]には、今後も書き記さない。それは、[3]父が書いた記録に載っていることだからである。したがって、この版にはそれを書き記さない。

2わたしたちがヨセフの子孫であると言えば、それ[1]で十分である。

3わたしは、父について残らず詳しく述べようとは思わない。[1]この版には、神にかかわる事柄を書き記すための余白が欲しいので、残らず詳しく書き記すことはできないからである。

4わたしが一心に志すのは、人々がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの[1]神のもとに来て救われるように、[2]説き勧めることである。

5したがってわたしは、俗世の人々にとって[1]喜ばしいことを書き記さないで、神にとって喜ばしいことや、俗世のものでない人々にとって喜ばしいことを書き記す。

6それでわたしは、人の子らにとって価値のないことでこの版を埋めてはならないと、子孫に命じよう。

第 7 章

リーハイの息子たち、エルサレムに戻り、イシマエルとその一家を約束の地に向かう旅の一行に招く。レーマンとほかの者たち、背く。ニーファイ、主を信じる信仰を持つように兄たちに勧める。兄たち、ニーファイを縄で縛り、殺そうとする。ニーファイ、信仰の力によって自由の身となる。兄たち、赦しを求める。リーハイとその一行、犠牲と燔祭をささげる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1ところで、ここであなたがたに知らせたいと思うことがある。それは、父リーハイが自分の子孫について預言をした[1]後、そこで主が再び父に、家族だけを連れて荒れ野へ行くのは父リーハイにとってよくない、約束の地へ行って主のために子供をもうけられるよう、息子たちがよその娘たちを妻に迎える[2]よ

第6章
1 ① 2ニフ4・14—15
② 1ニフ9・2
③ 1ニフ1・16—17、19・1—6
2 ① 1ニフ5・14—16
3 ① ヤコ7・27、ジェロ1・2、14、オム1・30
4 ① 2ニフ9・41、45、51
② ヨハ20・30—31。『モルモン書』のタイトルページを参照
5 ① 1テサ2・4、モ言1・4

第7章
1 ① 1ニフ5・17—19
② 1ニフ16・7
③ GS「結婚」

うに、と言われたことである。
2 そこで主は父に、わたしニーファイと兄たちを再びエルサレムの地へ帰して、イシマエルとその家族を荒れ野に連れて来させるように命じられた。
3 そこでわたしニーファイは、[1]再び兄たちとともにエルサレムへ上って行くために、荒れ野へ出て行った。
4 さて、わたしたちはイシマエルの家に行った。そして、イシマエルの好意を得たので、主の言葉を彼に話した。
5 そこで主は、まことにイシマエルの心を和らげ、また彼の家族の心も和らげられたので、彼らはわたしたちとともに、父の天幕に向かって荒れ野へ旅をした。
6 さて、荒れ野を旅する途中で、見よ、レーマンとレムエル、イシマエルの二人の娘、[1]イシマエルの二人の息子とその家族がわたしたちに背いた。まことに、わたしニーファイとサム、また彼らの父イシマエルとその妻、それにイシマエルのほかの三人の娘たちに背いたのである。
7 そして彼らは、そのように背いて、エルサレムの地へ帰りたがった。
8 それでわたしニーファイは、彼らの心がかたくなのを[1]悲しく思い、彼らに、すなわちレーマンとレムエルに言った。「まことに、あなたがたはわたしの兄さんではありませんか。それなのに、弟のわたしがあなたがたに話をし、模範を示さなければならないほど、心がかたくなで思いがくらんでいるのはどういうわけですか。
9 主の御言葉に聞き従わないのは、どういうわけですか。
10 主の天使に会ったことを[1]忘れたのは、どういうわけですか。
11 また、わたしたちをラバンの手から[1]救い出すに当たって、主がなされた偉大な事柄と、また、主がその記録を手に入れさせてくださったことを忘れたのは、どういうわけですか。
12 まことに、人の子らが主を信じる[1]信仰を働かせれば、主は彼らのために、御心のままに[2]何でもおできになります。そのことを忘れたのは、どういうわけですか。主に忠誠を尽くそうではありませんか。
13 主に忠実であれば、わたしたちは[1]約束の地を手に

2 ① 1ニフ16・7—8
3 ① 1ニフ3・2—3
6 ① 2ニフ4・10
8 ① 41 アル31・2、モセ7・
10 ① 申命4・9、1ニフ3・29、4・3
11 ① 1ニフ4章
12 ① 1ニフ3・7、15・
11 1ニフ17・50、アル26・12
② 1ニフ2・20、GS「約束の地」
13 ①

入れるでしょう。またあなたがたは、エルサレムの滅亡[2]についての主の御言葉が成就するのを、将来いつか知ることでしょう。主がエルサレムの滅亡について語られたすべてのことは、必ず成就するに違いないからです。

14 まことに主の御霊は、彼らを励ますことをもうすぐやめるでしょう。まことに、彼らは預言者たちを決して受け入れず、エレミヤ[2]を牢に入れたからです。[1]また、わたしの父の命[3]を奪おうとして、父をその地から追い出しました。

15 さてまことに、あなたがたに言っておきます。もしあなたがたがエルサレムへ戻るなら、あなたがたもエルサレムの民とともに滅びてしまうでしょう。もしそうしたいのであれば、エルサレムへ行けばよい。しかし、行けばあなたがたも滅びるという、わたしの語った言葉を覚えておいてください。主の御霊がこう言うように、わたしを強く促すからです。」

16 さて、わたしニーファイが兄たちにこう言うと、兄たちはわたしに腹を立てた。そして彼らは非常に憤り、わたしを捕まえて、縄で縛った。[1]わたしを荒れ野に捨てて猛獣に食わせ、命を奪おうとしたのであった。

17 そこでわたしは主に祈って言った。「おお、主よ、あなたを信じるわたしの信仰により、兄たちの手から救い出してください。まことに、わたしを縛っているこの縄を断ち切る[1]力をお与えください。」

18 そして、わたしがこのように言うと、見よ、縄がすぐにわたしの手足から解けたので、わたしは兄たちの前に立って、また話をした。

19 そこで兄たちはまた腹を立て、わたしに手をかけようとした。しかし見よ、イシマエル[1]の娘の一人とその母、それにイシマエルの息子の一人が兄たちに執り成してくれたので、兄たちは心を和らげて、わたしの命を奪おうとするのをやめた。

20 そして兄たちは自分たちの悪事を悲しみ、わたしの前にひざまずいて、わたしに対してしたことを赦してくれるように頼み込んだ。

21 そこでわたしは、兄たちのしたことをすべて心から赦し[1]、主なる彼らの神に赦しを求めて祈るように勧めた。それで彼らは、そのとおりにして祈った。彼らが主に祈り終えると、わたしたちはまた、父の天幕を目指して旅を続けた。

---

13 ② 列下25:1—21、2ニフ6:8、25:10、オム1:15、ヒラ8:20—21
14 ① エゼ5:6、1ニフ1:18—20、2:13、GS「背く」
② エレ37:15—21
③ 1ニフ2:1
16 ① 1ニフ18:11—15
17 ① アル14:26—28
19 ① 1ニフ16:7
21 ① GS「赦し」

22 そして、ついにわたしたちは、父の天幕に着いた。わたしと兄たちとイシマエルの家に属するすべての者が父の天幕に着くと、彼らは主なる彼らの神に感謝をした。そして犠牲[2]と燔祭をささげた。

第8章

リーハイ、命の木の示現を見る。そしてその木の実を食べ、家族にも食べてほしいと思う。また鉄の棒と、細くて狭い道と、人々を包む暗黒の霧を見る。サライアとニーファイとサムはその実を食べるが、レーマンとレムエルは拒む。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしたちは、すべての種類の種、すなわちあらゆる穀物の種とあらゆる果物の種を集めておいた。

2 さて、父は、荒れ野にとどまっていたときに、わたしたちに次のように言った。「見よ、わたしは夢[1]を見た。別の言葉で言えば、示現[2]を見た。

3 そして見よ、わたしは、自分が見たことのために、ニーファイとサムについては主にあって喜ばずにはいられない。彼らとその子孫の多くは救われると思うからである。

4 しかし見よ、レーマン[1]とレムエルよ、わたしはあなたがたについて非常に心配している。わたしは夢の中でひどく暗くて寂しい荒れ野を見たように思う。

5 そして、わたしは一人の男の人を見た。その人は白い衣[1]を着ていて、わたしの方に来て、わたしの前に立った。

6 そして、その人はわたしに言葉をかけて、後について来るように言った。

7 そこでついて行くと、わたしは自分が暗くて寂しい荒れ野にいることが分かった。

8 そして暗闇の中を長い間進んだところで、わたしは、主がその豊かな深い憐れみ[1]によってわたしを憐れんでくださるように、主に祈り始めた。

9 そして主に祈り終えると、大きく広々とした野原[1]が見えた。

10 そして、一本の木[1]が見えたが、その実[2]は人を幸せにする好ましいものであった。

11 そこで、行ってその木の実[1]を食べると、それは、

---

22 ① GS「感謝」
② 1ニフ5・9

第8章

2 ① GS「啓示」「夢」
② 1ニフ10・17、GS「示現」

3 ① 1ニフ8・14−18

4 ① 1ニフ8・35−36

5 ① ジー歴史1・30−32

8 ① GS「憐れみ」

9 ① マタ13・38

10 ① 創世2・9、黙示2・7、22・2、1ニフ11・4、8−25、GS「命の木」

11 ① アル5・34
② アル32・41−43

今までに味わったどんな実よりもずっと甘いことが分かった。またその木の実は白く、今までに見たどんな白いものにも勝って白かった。

12 そしてその木の実を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。それでわたしは、家族にも食べてほしいと思い始めた。その実が、ほかのどんな実よりも好ましいことが分かったからである。

13 それで、自分の家族もいるのではないかと辺りに目をやると、水の流れている川が見えた。それは、わたしが実を取って食べた、あの木のそばを流れていた。

14 その川がどこから来るのかと眺めると、少し離れた所に川の源があった。そして、その源の所にあなたがたの母サライアとサムとニーファイがいるのが見えたが、彼らは、どちらへ行ったらよいか迷っているかのように立っていた。

15 そこでわたしは手招きをして、わたしのところに来て、ほかのどんな実よりも好ましいその実を食べるように、大声で言った。

16 そこで彼らは、わたしのところにやって来て、その実を食べた。

17 さて、わたしは、レーマンとレムエルもここに来て、その実を食べてほしいと思った。それで、二人の姿が見えはしないかと、川の源の方へ目をやった。

18 そして二人が見えたが、二人はわたしのところに来てその実を食べようとはしなかった。

19 それから、一本の鉄の棒が見えた。それは川の岸に沿ってずっと延び、わたしの立っているそばの木の所まで達していた。

20 また一本の細くて狭い道も見えた。その道はこの鉄の棒に沿い、わたしの立っているそばの木の所まで来ていた。その道はまた、流れの源のそばを通り、まるで一つの世界かと思われるような、大きく広々とした野原に通じていた。

21 わたしは群れ集まる無数の人々を見たが、その中の多くは、わたしの立っているそばの木の所に通じる道にたどり着こうとして、押し進んでいた。

22 そして、その人たちは進んで来ると、木に通じている道を歩き始めた。

23 そこで、暗黒の霧が起こった。まことに、非常に深い暗黒の霧であったため、道を歩き始めていた

11 ① ニファ 11・8
12 ① GS「喜び」
② アル 36・24
③ ニファ 15・36
13 ① ニファ 12・16—18、
15 ① 26・29
18 ① 2ニファ 5・20—25
19 ① 詩篇 2・9、黙示 12・5、JS 黙示 19・15、1ニファ 8・30、11・25、15・23
20 ① 1・24
マタ 7・14、2ニファ 31・17—20
21 ① マタ 13・38
② GS「道」
23 ① 1ニファ 12・17、15・
24 ①

人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。

24 そして、わたしはまた、押し進んで来るほかの人々を見たが、この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実[1]を食べた。

25 そして彼らは、木の実を取って食べると、恥じるかのように辺りを見回した。

26 それでわたしも辺りを見回すと、水の流れている川の向こう側に、一つの大きく広々[1]とした建物が見えた。それは地上に高くそびえ、ちょうど空中にあるかのように立っていた。

27 その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは、非常に華やかであった。そして彼らは、その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、あざけり笑っている様子であった。

28 それでその木の所までやって来た人々は、その実を味わった[1]後にあの人々にあざけり笑われたので恥[2]ずかしく思い、禁じられた道に踏み込[3]んで姿が見えなくなってしまった。

29 ところで、わたしニーファイは、父の言葉をすべて述べることはしない。[1]

30 しかし、手短に記すと、見よ、父は、このほかに大勢の人が押し進んで来るのを見た。この人々は進んで来て、鉄の棒[1]の端をつかんだ。そして彼らは、しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた。

31 父はまた、ほかに大勢[1]の人が、大きく広々とした建物の方へ道を探りながら進んでいるのを見た。

32 そしてまた、多くの人が、流れ[1]の深みにおぼれて死に、また多くの人が、見知らぬ道に迷って父の視界から消えてしまった。

33 「あの奇妙な建物の中に入った人々の数は非常に多かった。彼らはその建物に入ると、わたしやほかにその実を食べていた人々を指さしてあざけり笑[1]った。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかった。」

34 これらはわたしの父の言葉である。「それは、これらの人々を気に留めた[1]者は皆、道を外れてしまったからである。」

---

24 ① 1ニフ8・10—12
25 ① 1ロマ1・16、2テモ1・8、アル46・21、モル8・38
26 ① 1ニフ11・35—36、12・18
27 ① GS「高慢」
28 ① 2ペテ2・19—22
② 38ルカ8・11—15、ヨハ4・14—20、マコ8・42—43
29 ③ GS「背教・背信」
12 ① 1ニフ1・16—17
30 ① 1ニフ15・23—24
31 ① 1ニフ15・26—29、マタ7・13
32 ① GS「迫害」
33 ① 出エ23・2
34 ①

35 そして父は、「[1]レーマンとレムエルはその実を食べなかった」と言った。
36 さて、父の見た夢、すなわち示現についての話は多かった。父はこれらについてすべて語り終えてから、わたしたちに向かい、その示現の中で見たことのためにレーマンとレムエルのことを非常に心配していると言った。まことに、父は二人が主の前から捨てられはしないか心配であると言った。
37 また父は、優しい[1]親の情を込めて、父の言葉に聞き従うように、そうすれば恐らく主は憐れみを示し、追い出すようなことはなさらないだろうと彼らに勧めた。このように、父は彼らに説き聞かせたのである。
38 父はこの二人に説き聞かせ、また多くの事柄を預言した後、主の命令を守るように告げて、彼らに語るのをやめた。

第 9 章

ニーファイ、二組の記録を作る。どちらもニーファイの版と呼ばれる。大きい方の版には世俗の歴史が載っており、小さい方の版には、おもに神聖な事柄が採り上げられている。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 これらのことはすべて、父が[1]レムエルの谷で天幕を張って住んでいたときに見聞きし、話してくれたことである。父はまた、この版に書き記せないもっと多くのことも見聞きし、話してくれた。
2 ところで、この版について前に述べたように、これはわたしの民の歴史を残らず述べる版では決してない。わたしの民について残らず述べる[1]版には、ニーファイという名を付けておいた。したがって、それはわたしの名にちなんでニーファイの版と呼ぶが、この版もまたニーファイの版と呼ぶ。
3 にもかかわらず、わたしは、民に対する[1]務めについての話を刻むという特別な[2]目的のためにこの版を造るように、主から命令を受けた。
4 ほかの版には、もろもろの王の統治と、わたしの民の戦争や争いに関する話を刻むことになっている。したがって、この版はおおよそが民に対する務めについてであり、[1]ほかの版はおおよそがもろもろの王の統治と、わたしの民の戦争や争いについての

---

35 ① 1 ニフ 8・17−18、2 ニフ 5・19−24
37 ① GS「親」「家族」
第9章
1 ① 1 ニフ 2・4−6、8、14−15、16・6
2 ① 1 ニフ 19・2、4、ヤコ 3・13−14、モ言 1・2−11、教義 10・38−40、GS「版」
3 ① 1 ニフ 6・3
② 教義 3・19
4 ① ヤコ 1・2−4、モ言 1・10

ものである。

5さて、主はある賢明な目的[1]のために、わたしにこの版を造るように命じられたが、その目的はわたしには分からない。

6しかし、主は初めからすべてのことを御存[1]じである。したがって、人の子らの中で御自身のすべての業を成就するために、ある方法を備えておられる。それは見よ、主は御自分のすべての言葉を成就する一切の権威[2]を持っておられるからである。まことにそのとおりである。アーメン。

第10章

リーハイ、ユダヤ人がバビロニア人に捕らえられて連れ去られることを預言する。そして、ユダヤ人の中に救い主であり贖い主であるメシヤが来られることを告げる。また、神の小羊にバプテスマを施す人が現れることも告げる。リーハイ、メシヤの死と復活について告げる。また、イスラエルの散乱と集合をオリーブの木にたとえる。ニーファイ、神の御子と聖霊の賜物と義が求められることとを述べる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1ところでわたしニーファイは、わたしが行ってきたことと、わたしの統治と民に対するわたしの務めについての話をこの版に続ける。[1]さて、わたしの話を続けるには、父と兄たちのことをある程度述べる必要がある。

2さて見よ、父は[1]夢の話を語り聞かせ、レーマンとレムエルに力の限り励むように勧めてから、ユダヤ人について二人に話して聞かせた。

3ユダヤ人は滅び、まことにあの大きな都のエルサレム[1]も滅んで、そこに住む多くの者がバビロン[2]へ囚われの身となって連れ去られる。しかし、主がふさわしいと思われる時機になると、これらの人々はまた帰って来る。すなわち、囚われの身から連れ戻される。そして、囚われの身から連れ戻されてから、彼らは再び受け継ぎの地を所有する。

4そして、まことに父がエルサレムを去ってから六百年後に、主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者[2]すなわち[3]メシヤ、言い換えれば、世の救い主を立てられる。

5父はまた預言者たちのことについても話して、非常に多くの預言者がこれらのこと、すなわち父が話

5 ① 1ニフ19・3、モ言1・7、アル37・2、12、14
6 ① 2ニフ9・20、教義38・2、モセ1・6、35、GS「全知」
② マタ28・18

第10章
1 ① 1ニフ9・1−5、19・1−6、ヤコ1・1−4
2 ① 1ニフ8章
3 ① エス2・6、2ニフ6・8、ヒラ8・20−21
② エゼ24・2、1ニフ1・13、オム1・15
③ 2ニフ25・10、GS「年表−紀元前587」
④ エレ29・10、2ニフ6・8−9
4 ① 1ニフ19・8、2ニフ25・19、3ニフ1・1
② 1ニフ22・20−21
③ GS「メシヤ」

したこのメシヤ、つまり世の贖い主について証して[1]いるとも語った。

6 また、すべての人類は、迷い堕落した状態にあり、この贖い主に頼らなければいつまでも同じ状態にあることを述べた。

7 また父は、主の道を備えるためにメシヤに先立って来る一人の預言者[1]についても語った。

8 まことにその預言者は、荒れ野に出て行って叫ぶであろう。「主の道[1]を備え、その道筋をまっすぐにせよ。あなたがたの知らない方があなたがたの中に立っておられるからである。その方はわたしよりも力のある方で、わたしはその方の履物のひもを解く値打ちもない。」父はこのことについて多くの話をした。

9 そして、父が言うには、この預言者はヨルダンのかなたベテアバラでバプテスマ[1]を施す。またバプテスマは水で施し、まことにメシヤに水でバプテスマを施す。

10 そして彼は、メシヤに水でバプテスマを施してから、世の罪を取り除く神[1]の小羊にバプテスマを施したことを認め、その証をする。

11 さて、父はこれらの言葉を語ってから、ユダヤ人の間に宣べ伝えられる福音について、またユダヤ人が不信仰[1]に陥ることについて兄たちに語った。ユダヤ人は降臨されるメシヤを殺すが、メシヤは殺された後に死者の中からよみがえり[4]、聖霊[5]によって異邦人に御自身を現される。

12 まことに父は、異邦人とイスラエルの家について多くの話をし、イスラエルの家は、枝が折られて地の全面に散らされる[1]、一本のオリーブ[2]の木にたとえられると語った。

13 したがって父が言うには、地の全面に散るという主の言葉が成就するために、わたしたちは一つとなって約束[1]の地へ導かれる必要がある。

14 そして、イスラエルの家は散らされてから、再び集められる[1]。要するに、異邦人[2]が完全な福音を受け入れてから、オリーブ[3]の木の自然の枝、すなわちイスラエルの家の残りの者たちは接ぎ木される。すなわち、彼らの主であり贖い主であるまことのメシヤを知るようになる。

15 父はこのような言葉で兄たちに預言し、語り、また、もっと多くの事柄についても預言し、語った。

---

5 ① ヤコ 7・11、モサ 13・33、ヒラ 8・19—24、3 ニフ 20・23—24
6 ① GS「堕落（アダムとエバの）」
7 ① 1 ニフ 11・27、2 ニフ 31・4
8 ① イザ 40・3、マタ 3・1—3
9 ① GS「ヨハネ（バプテスマの）」
10 ① GS「神の小羊」
11 ① モル 5・14
② ヤコ 4・14—18
③ GS「イエス・キリスト」「十字架の刑」
④ GS「復活」
⑤ GS「聖霊」
12 ① 1 ニフ 22・3—8、GS「イスラエル—イスラエルの散乱」
② 創世 49・22—26、1 ニフ 15・12、2 ニフ 3・4—5、ヤコ 5 章、6・1—7、GS「オリーブの木」「ぶどう園（果樹園）（主の）」
13 ① 1 ニフ 2・20、GS「約束の地」
14 ① GS「イスラエル—イスラエルの集合」
② 1 ニフ 13・42、教義 14・10
③ ヤコ 5・8、52、54、60、68

しかし、それはこの書には書き記さない。わたしのほかの書に、わたしにとって益になることをたくさん書き記しておいたからである。

16 今までに語ったことはすべて、父がレムエルの谷に天幕を張って住んでいたときに起こったことである。

17 さて、わたしニーファイは、父が示現の中で見たこと、また父が来るべきメシヤである神の御子を信じる信仰により授かった聖霊の力によって語ったことについて、父の言葉をすべて聞いた後、わたしニーファイもまた、聖霊の力によってこのようなことを見聞きし、また知りたいと思った。聖霊とは、昔の時代でも、またメシヤが人の子らに御自身を現される時でも、およそ神を熱心に求めるすべての人に神が与えられる賜物である。

18 神は、昨日も、今日も、またとこしえに変わることのない御方だからである。人々が悔い改めて神のもとに来るならば、世の初めから、すべての人にその道が備えられている。

19 熱心に求める人は見いだすであろう。神の奥義は聖霊の力によって、昔の時代のみならず今の時代にも、またこれから先の時代のみならず昔の時代にも、同じようにその人々に明らかにされる。したがって、主の道は一つの永遠の環である。

20 だから、人々よ、あなたがたは、自分のすべての行いについて裁きを受けるということを覚えておきなさい。

21 それで、自分たちの試しの生涯に悪いことをしようとしたならば、あなたがたは神の裁きの座の前で清くない者とされるであろう。清くない者は神とともに住むことができないので、あなたがたはとこしえに捨てられるに違いない。

22 聖霊はわたしに、これらのことを語る権能を授けてくださっているので、わたしは黙することをしない。

第11章

ニーファイ、主の御霊を目にし、示現の中で命の木を見せられる。彼は神の御子の母を目にし、神が御自身を低くされることを知る。また神の小羊のバプテスマと務め、十字架の刑を見る。彼はまた、小羊の十二使徒の召しと務めを見る。紀元前約六百年から五百九

---

15 ① 1ニフ1・16—17
17 ① 1ニフ8・2
② GS「メシヤ」
③ エノ1・3、アル36・
17 教義20・26
18 ① モロ10・4—5、7、
⑥ GS「聖霊」
19 ⑤ ヘブ13・8、モル9・9、教義20・12、GS「神・神会」
19 ① GS「神の奥義」
② GS「聖霊」
③ アル7・20、教義3・2、35・1
20 ① 伝道12・14、2ニフ9・46、GS「最後の裁き」
21 ① アル34・32—35
② 1コリ6・9—10、3ニフ27・19、教義76・50—62、モセ6・57

十二年に至る。

1 さて、わたしは、父の見たことを知りたいと思い、また主がそれを明らかにしてくださると信じて、思[1]いにふけりながら腰を下ろしていたとき、主の御霊に捕らえられて、まことに、非常に高い山[2]へ連れて[3]行かれた。それは、まだ一度も見たことがなく、一度も足を踏み入れたことのない山であった。

2 そして御霊がわたしに、「見よ、あなたは何を望んでいるのか」と言われた。

3 それでわたしは、「父の見たこと[1]をわたしも見たいと望んでいます」と言った。

4 すると御霊はわたしに、「あなたは、父の語った木[1]を父が実際に見たと信じるか」と言われた。

5 それでわたしは、「はい、わたしが父の言葉をすべて信[1]じていることは、あなたも御存じです」と答えた。

6 わたしがこれらの言葉を語ると、御霊は声高らかに叫んで言われた。「いと高き神にまします主に、ホサナ。主は全地[1]を支配される神、まことにすべてのものの上にまします神であられる。ニーファイよ、あなたはいと高き神の御子を信[2]じているので幸いである。それゆえ、あなたは望んでいたものを見るであろう。

7 そして見よ、このことが一つのしるし[1]としてあなたに授けられる。すなわち、あなたは父が味わった実を結ぶ木を見てから、一人の男の人が天から降って来るのを見る。その人をあなたは見る。そしてその人を見た後、あなたはその人が神の御子であることを証[2]する。」

8 そして、御霊はわたしに「見なさい」と言われた。そこでわたしが見ると、一本の木が見えた。その木はちょうど父が見た木[1]のようであって、その木の美しさはほかに比べようがなく、まことにあらゆる美しいものをしのいでいた。またその白さは、風に舞う雪の白さ[2]にも勝っていた。

9 そこでわたしは、その木を見てから御霊に言った。「わたしは、あなたがあらゆるものに勝って貴い[1]木を見せてくださったことが分かります。」

10 すると御霊はわたしに、「何を望むか」と言われた。

11 それでわたしは御霊に、「その木の解き明[1]かしを

第11章

1 ① 教義76・19、GS「深く考える」
② 申命10・1、エテ3・1
③ 2コリ12・1−4、黙示21・10、2ニフ4・25、モセ1・1
3 ① 1ニフ8・2−34
4 ① 1ニフ8・10−12、15・21−22
5 ① 1ニフ2・16
6 ① 出エ9・29、2ニフ29・7、3ニフ11・14、モセ6・44
7 ① GS「信じる」
② GS「証」
8 ① 1ニフ8・10
② 1ニフ8・11
9 ① 1ニフ11・22−25
11 ① 創世40・8

知ることです」と言った。わたしは人が人に語るように御霊に語った。御霊が[2]人の形をしておられるのを見たからである。にもかかわらず、わたしはその御方が主の御霊であられることを知っていた。そして御霊もわたしに、人が人に語るように語られた。

12 さて、御霊がわたしに「見なさい」と言われた。それで御霊を仰ぎ見るように眺めると、その御姿は見えなかった。すでにわたしの前を去っておられたからである。

13 そこでわたしが眺めると、大きな都のエルサレムをはじめ、そのほかのもろもろの町が見えた。またナザレの町も見えた。そしてわたしはナザレの町に[1]一人のおとめを見たが、それはまことに色が白く美しいおとめであった。

14 そしてわたしは、[1]天が開くのを見た。そして、一人の天使が降って来てわたしの前に立ち、「ニーファイよ、何が見えるか」と言った。

15 それでわたしは言った。「ほかのどんなおとめにも勝って美しく、また麗しいおとめが見えます。」

16 すると天使はわたしに、「神が御自身を低くされることがあなたに分かるか」と言った。

17 それでわたしは、「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません」と言った。

18 すると天使は言った。「見よ、あなたが見ているおとめは、肉に関して神の御子の[2]母である。」

19 そしてわたしは、そのおとめが御霊に連れて行かれるのを見た。そのおとめが[1]御霊に連れて行かれてからしばらくして、天使がわたしに「見なさい」と言った。

20 それで眺めると、腕に[1]幼子を抱いたおとめが見えた。

21 すると天使がわたしに言った。「[1]神の小羊、まことに永遠の[2]父なる神の[3]御子を見なさい。あなたは父が見た[4]木の意味を知っているか。」

22 それでわたしは答えて言った。「はい、その木は人の子らの心にあまねく注がれる神の愛です。だから、どんなものよりも好ましいものです。」

23 すると天使はわたしに、「そのとおり。それは人にとって最も喜ばしいものである」と言った。

24 天使はこれらのことを言ってから、またわたしに

---

11 ① エテ 3・15—16
② マタ 2・23
13 ① ルカ 1・26—27、アル 7・10、GS「マリヤ（イエスの母）」
② エゼ 1・1、1 ニフ 1・8
14 ① イザ 7・14、ルカ 1・34—35
18 ① モサ 3・8
19 ① マタ 1・20
② ルカ 2・16
20 ① GS「神の小羊」
21 ① GS「神・神会—父なる神」
② GS「イエス・キリスト」
③ 1 ニフ 8・10、アル 5・62、GS「命の木」
④ GS「愛」
22 ① GS「喜び」
23 ① GS

「見なさい」と言った。眺めると、神の御子が人の子らの中に進んで行かれるのが見えた。また多くの人がその足もとに伏して、御子を拝むのが見えた。

25 そしてわたしは、父の見た鉄の棒が生ける水の源、すなわち、命の木に導く神の言葉であること、またその水が神の愛の表れであり、命の木もまた神の愛の表れであることを知った。

26 そして、天使がまたわたしに、「神が御自身を低くされる様子を眺めてみなさい」と言った。

27 それで眺めると、父の語った世の贖い主が見え、また贖い主の前に道を備える預言者も見えた。また神の小羊が進み出て、その預言者からバプテスマを受けられた。バプテスマを受けられると、天が開いて聖霊が鳩の形を取って降って来て、神の小羊のうえにとどまられるのが見えた。

28 またわたしには、小羊が出て行き、力と大いなる栄光をもって人々を教え導かれるのが見えた。また、幾つもの大勢の人々の群れが、その小羊の言葉を聞くために集まるのが見えた。そして、彼らが自分たちの中から小羊を追い出すのが見えた。

29 そして、ほかに十二人の人が小羊に従うのも見えた。すると、この十二人の人は、わたしの前から御霊によって連れ去られ、姿が見えなくなった。

30 そこで、天使がまた「見なさい」と言うので眺めると、天がまた開いて、天使たちが人の子らのもとに降って来て、彼らを教え導くのが見えた。

31 天使がまたわたしに、「見なさい」と言うので眺めると、神の小羊が人の子らの中に出て行かれるのが見えた。また病気の人々や、様々な患いに苦しんでいる人々、悪霊や汚れた霊につかれて苦しんでいる人々の群れが見えた。天使はこれらのことをすべてわたしに語り、また見せてくれたが、これらの人々は神の小羊の力によって癒され、また悪霊や汚れた霊は追い出された。

32 さて、天使がもう一度「見なさい」と言うので眺めると、神の小羊が人々に捕らえられるのが見えた。まことに、永遠の神の御子は世に裁かれた。わたしはこれを見たので、その証をする。

33 わたしニーファイは、神の小羊が世の罪のために十字架につけられて殺されたのを見た。

34 また神の小羊が殺されてから、世の幾つもの大勢の人々の群れが集まって、主の天使が小羊の使徒と

---

24 ① ルカ 4・14—21
25 ① 1ニフ 8・19
② GS「生ける水」
③ 創世 2・9、アル 32・40—41、モセ 4・28、31
26 ① 1ニフ 11・16—33
27 ① 2ニフ 25・13
② マタ 11・10、1ニフ 10・7—10、2ニフ 31・4
28 ① 教義 138・25—26
③ GS「使徒」
④ GS「バプテスマ」
29 ① GS「天使」
30 ① マコ 5・15—20、モサ 3・5—7、GS「悪魔」
31 ① GS「霊—悪霊」
② GS「癒し」
32 ① マコ 15・17—20
33 ① ヨハ 19・16—19、モサ 3・9—10、3ニフ 27・14、GS「十字架」
② GS「贖罪」

呼ぶあの十二人の人々と戦いをしようとするのが見えた。

35 このように、世の大勢の人々が集まっていたが、彼らが、父の見た建物のような大きく広々とした建物の中にいるのが見えた。このとき、主の天使がまたわたしに言った。「世の人々と彼らの知恵を見なさい。まことに、イスラエルの家が小羊の十二使徒と戦うために集まっているのを見なさい。」

36 そこでわたしは、あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢であることを見て、その証をする。その建物は崩れて、その崩れ方は非常に甚だしかった。主の天使が再び、わたしに向かって言った。「小羊の十二使徒と戦うすべての国民、部族、国語の民、民族の滅亡は、まさにこのようになるであろう。」

第12章

ニーファイ、示現の中で約束の地を見る。その地に住む者の義と罪悪と没落。神の小羊が約束の地に住む者を訪れられる様子。十二弟子と十二使徒がイスラエルを裁く様子。不信仰に陥る人々の不快で汚らわしい状態。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、天使がわたしに、「あなたの子孫と兄たちの子孫を眺めてみなさい」と言った。それで眺めると、約束の地が見え、また大勢の人々の群れが見えたが、まことにその人々の数は海の砂のように多かった。

2 そして、大勢の人々の群れが、互いに戦うために集まっているのが見えた。また戦争が見え、戦争のうわさがあり、わたしの民の中で剣によって大虐殺が行われるのも見えた。

3 そしてその地で、戦争や争いの有様で多くの世代が過ぎていくのが見えた。また多くの町が見えたが、それはまことに数え切れないほどであった。

4 そしてわたしは、約束の地の面に暗黒の霧を見た。また稲妻が見え、雷や地震、そのほかあらゆる騒がしい物音を聞いた。大地や岩が裂け、山が崩れ、平地が砕け、多くの町が沈み、多くの町が焼け、また多くの町が地震で地に崩れ落ちるのを見た。

5 さて、これらのことを見た後、暗黒の霧が地の面から消え去るのが見えた。そして見よ、わたしは、主のこの大変な恐ろしい裁きによっても倒れなかった、大勢の人々の群れを見た。

---

35 ① 1ニフ8・26、12・
36 ① 18 GS「高慢」
第12章
1 ① GS「約束の地」
2 ① エノ1・24、モル8・7−8、GS「戦争」
4 ① 1ニフ19・10
5 ① ヒラ14・20−28
9 ③ 3ニフ8・14
② 3ニフ8・20、10・

6 そしてわたしは、天が開いて神の小羊が天から降って来られるのを見た。[1]神の小羊は降って来て、彼らに御姿を現された。

7 わたしはまた、聖霊がほかの十二人に降って来られるのを見たので、それを証する。[1]この十二人は神によって聖任され、選ばれた人々である。

8 天使はわたしに、「小羊の十二弟子を見なさい。この人たちはあなたの子孫を教え導くために選ばれる」と言った。

9 また天使はわたしに言った。「あなたは小羊の十二使徒を覚えているか。[1]見よ、彼らはイスラエルの十二部族を裁く人々である。[2]したがって、あなたの子孫から出る十二人の教え導く者は、この十二使徒によって裁かれる。あなたがたはイスラエルの家に属するからである。

10 あなたが見ているこの十二人の教え導く者は、あなたの子孫を裁く。見よ、この十二人は、神の小羊を信じる信仰のために小羊の血によって衣を白くされている[2]ので、とこしえに義人である。」

11 さて、天使がわたしに、「見なさい」と言うので眺めると、三世代が義のうちに世を去り、その間の人の衣はまことに神の小羊のように白かった。天使がわたしに言った。「この人々の衣は、小羊を信じる信仰のために小羊の血によって白くされたのである。」

12 さて、わたしニーファイは、四代目の人々の中にも義のうちに世を去った人々が多くいるのを見た。

13 さて、わたしは、世の大勢の人々が群れ集まるのを見た。

14 天使がわたしに、「あなたの子孫と兄たちの子孫を見なさい」と言った。

15 そこで眺めると、わたしの子孫の民が兄たちの子孫に向かい、大勢の人々の群れとなって集まるのが見えた。[1]彼らは戦うために集められたのである。

16 また天使が言った。「あなたの父が見た汚れた水の流れ、すなわちあなたの父が語った川を見なさい。その深みは地獄の深みである。

17 また、あの暗黒の霧は悪魔の誘惑である。それは人の子らの目をくらまし、心をかたくなにし、広い道に踏み込ませて、彼らが滅び失われるように仕向ける。

18 また、あなたの父が見たあの大きく広々とした建物は、人の子らのうぬぼれた空想と高慢である。ま

---

6 ①2ニフ26・1、9、③ニフ11・3−17
7 ①3ニフ12・1、19、
12 ①マルカ6・13 ②19・28、教義29・GS「最後の裁き」 ③ニフ27・27、モルマ7・13−14
9 ①3・18−19 ②黙示7・14、アル5・21−27、13・11−13、3ニフ27・19−20
10 ①2ニフ26・9−10、3ニフ27・30−32
11 ①3ニフ12・1、19、
13 ①5、9−10、3ニフ1・14−32、4ニフ1・14−45、10−12、ヒラ
12 ①アル45・10−12、ヒラ
14 ①モルマ6章
15 ①GS「汚れ」
16 ①1ニフ8・13、15、
26 ②1ニフ8・23、15、29
17 ①GS「地獄」
24 ①教義10・20−32
18 ①GS「背教・背信」
35 ①1ニフ8・26、11、36
②マタ7・13−14
③エレ7・24
GS「高慢」

た、一つの大きな恐ろしい淵[4]があって、彼らを隔てている。まことに、それは、永遠の神と神の小羊であるメシヤの正義[5]の御言葉であって、このメシヤについては、世の初めから今に至るまで、また今から後とこしえに、聖霊がその証をされる。」

19 そして、天使がこれらの言葉を語っていた間、わたしが眺めると、天使の言葉のとおりに、兄たちの子孫がわたしの子孫と戦うのが見えた。そして、わたしの子孫の高慢と悪魔の誘惑[1]のために、兄たちの子孫がわたしの子孫の民を打ち負かす[2]のが見えた。

20 そしてわたしが眺めると、兄たちの子孫の民はわたしの子孫を打ち負かしてから、幾つもの大勢の人々の群れとなって、地の面に出て行くのが見えた。

21 そしてわたしは、彼らが幾つもの大勢の人々の群れとなって集まるのを見た。そして、彼らの中に戦争と戦争のうわさがあるのを見た。そして、戦争と戦争のうわさの中で、多くの世代が過ぎ去るのを見た。

22 すると天使がわたしに、「見よ、これらの人々は不信仰[1]に陥る」と言った。

23 そこでわたしが見ると、これらの人々は不信仰に陥ってから、肌の黒ずんだ[1]不快な汚らわしい[2]民、まったくの怠け者[3]であらゆる忌まわしい行いをする民になった。

第13章

ニーファイ、示現の中で異邦人の中に設けられる悪魔の教会を見る。またアメリカ大陸の発見と入植、聖書の分かりやすくて貴い多くの部分が失われること、異邦人の背教がもたらす有様についても見る。さらに福音の回復と末日の聖典の出現、シオンの建設について見る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、天使がわたしに、「見なさい」と言った。それでわたしは眺めると、多くの国民と王国が見えた。

2 天使がわたしに、「何が見えるか」と言ったので、わたしは、「多くの国民と王国が見えます」と答えた。

3 天使はわたしに、「これらは異邦人の国民とその王国である」と言った。

4 そしてわたしは、異邦人[1]の国民の中に一つの大き[2]

---

18 ④ ルカ16・26、1ニフ15・28—30
19 ① GS「正義」
② GS「誘惑」
21 ① モル8・8、モロ1・1—2
22 ① 2、GS「戦争」
1ニフ15・13、2ニフ26・15
23 ① 2ニフ26・33
② 2ニフ5・20—25
③ GS「怠惰」

第13章
4 ① GS「異邦人」
② 1ニフ13・26、34、14・3、9—17

な教会が設立されるのを見た。

5 天使はわたしに言った。「ほかのあらゆる教会にも増して忌まわしい教会が設立されるのを見なさい。この教会は神の聖徒たちを殺し、苦しめ、縛り上げ、[2]鉄のくびきを負わせて、囚われの身に陥れるものである。」

6 そしてわたしは、この大きな忌まわしい教会を見て、[2]悪魔がその創設者であるのを知った。

7 わたしはまた金と銀と絹と緋の衣とこまやかに織った亜麻布、それにいろいろな種類の高価な衣類を見た。また、多くの娼婦を見た。

8 天使がわたしに言った。「見よ、金と銀と絹と緋の衣とこまやかに織った亜麻布、それに高価な衣類、また娼婦などは、この大きな忌まわしい教会が好むものである。

9 また彼らは、世の誉れを得るために神の聖徒たちを殺し、彼らを囚われの身に陥れる。」

10 さて、わたしが眺めると、大海があって、それが異邦人と兄たちの子孫とを隔てているのが見えた。

11 そして天使がわたしに、「見なさい。神の怒りがあなたの兄たちの子孫のうえにある」と言った。

12 それで眺めると、異邦人の中に一人の男が見え、その男は大海によってわたしの兄たちの子孫から隔てられていた。すると神の御霊が降ってこの男に働きかけ、この男が大海を渡って、約束の地にいるわたしの兄たちの子孫のところへ行くのが見えた。

13 そして、神の御霊がほかの異邦人にも働きかけ、彼らが囚われの身の上から逃れて大海を渡って行くのが見えた。

14 そして、[1]約束の地に大勢の異邦人の群れがいるのが見え、神の激しい怒りが兄たちの子孫に下り、彼らが異邦人の前から散らされ、打ち負かされるのが見えた。

15 またわたしは、主の御霊が異邦人のうえにあって、彼らがまことに栄えてその地を受け継ぎとして得るのを見た。また彼らが、[2]殺される前のわたしの民のように肌の色が白く、非常に麗しく美しいのが見えた。

16 そして、わたしニーファイは、囚われの身から逃れて来た異邦人が主の前にへりくだり、主の力が彼らとともにあるのを見た。

17 わたしはまた、彼らの母国の異邦人が、彼らと戦

5 ① 黙示17・3−6、1ニフ14・13
6 ① 教義88・94、GS「悪魔」
② エレ28・10−14
7 ① 1ニフ22・22−23
② モル8・36−38
8 ① 黙示18・10−24、モル8・35−38
9 ① 黙示13・4−7
12 ① GS「霊感」
14 ① GS「約束の地」
② 2ニフ1・11、モル5・19−20
③ 1ニフ22・7−8、GS「イスラエル−イスラエルの散乱」
15 ① 2ニフ10・19
② モル6・17−22
16 ① 2ニフ5・21
③ 教義101・80

うために海にも陸にも集まるのを見た。

18 そしてわたしは、神の力が彼らとともにあり、また神の激しい怒りが、彼らと戦うために集まったすべての人に下るのを見た。

19 そしてわたしニーファイは、囚われの身から逃れて来た異邦人が、神の力によって、ほかのすべての国民の手から救い出されるのを見た。

20 そしてわたしは、彼らがその地で栄えるのを見た。また、一冊の書物が見え、それが彼らの中で広まるのが見えた。

21 すると天使が、「この書物の意味が分かるか」と言った。

22 わたしは天使に、「分かりません」と答えた。

23 すると天使は、「見なさい。この書物はユダヤ人の口から出ている」と言った。わたしニーファイがそれを見ると、天使はわたしに言った。「あなたが見ている書物はユダヤ人の記録であって、主がイスラエルの家に立てられた聖約が載っており、それにはまた、聖なる預言者たちの語った多くの預言も載っている。それは真鍮の版に刻まれている記録に似たものであって、ただその量が少ないだけである。それでもその中には、主がイスラエルの家に立てられた聖約が載せてあるので、異邦人にとって大いに価値のあるものである。」

24 また、主の天使はわたしに言った。「あなたはその書物がユダヤ人の口から出て来たのを見たが、それがユダヤ人の口から出て来たときには、主の完全な福音が載っていた。この主については、十二使徒が証をしており、彼らは神の小羊にある真理によって証をしている。

25 したがって、これらのことは神の内にある真理によってユダヤ人から異邦人に純粋なまま伝わる。

26 そして、これらが小羊の十二使徒の手によってユダヤ人から異邦人に伝わってから、あなたには、ほかのあらゆる教会にも増して大きな忌まわしい教会が設立されるのが見える。見よ、その教会の者たちは、分かりやすくて大変貴い多くの部分を小羊の福音から取り去り、また主の多くの聖約も取り去ってしまったからである。

27 彼らがこれをしたのは、主の正しい道を曲げて人の子らの目をくらまし、その心をかたくなにするためである。

---

19 ① 2ニフ10・10—14、3ニフ21・4、エテ2・23 ① 1ニフ14・23 20 ① 1ニフ13・38、2ニフ29・4—12 21 ① 2ニフ3・12 ② GS「聖文」 ③ 1ニフ5・10—13 ④ 2ニフ29・4—6、教義3・16、GS「ユダヤ人」 25 ① GS「異邦人」 26 ① マタ21・43 ② 1ニフ13・4—6、14・3、9—17 ③ GS「背教・背信—過去のキリスト教会における背教」 ④ 1ニフ14・20—26、箇条1・8 ⑤ モル8・33、モセ1・41

28 したがってあなたには、あの書物があの大きな忌まわしい教会の手を経て出て来てからは、神の小羊の書物から分かりやすくて貴い多くの部分が取り去られていることが分かる。

29 そして、これらの分かりやすくて貴い部分が取り去られてから、この書物は異邦人であるすべての国民に伝わる。まことに、それが囚われの身から逃れた異邦人とともに、あなたの見た大海を渡って、異邦人であるすべての国民に伝わった後、非常に多くの人がつまずき、まことにサタンがその人々を大いに支配する力を持つほどになるのが見える。それは、神の小羊にある明瞭さによって人の子らに理解しやすかった、分かりやすくて貴い多くの部分が、その書物から取り去られてしまったため、すなわち小羊の福音からこれらのことが取り去られてしまったためである。

30 しかしながら、あなたは見る。囚われの身を逃れる異邦人、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地、すなわち、あなたの子孫が受け継ぎの地として所有すると、主なる神があなたの父に聖約された地の面において、神の力によってすべてのほかの国民より高められる異邦人を。それゆえ、あなたの兄たちの中に生きている、あなたの子孫で血が混じった者たちが、この異邦人によってことごとく滅ぼされてしまうのを、主なる神は許されない。このことをあなたは見る。

31 また主なる神は、この異邦人があなたの兄たちの子孫を[1]滅ぼすのも許されない。

32 また主なる神は、異邦人が恐ろしい盲目の状態にとこしえにとどまることも許されない。あなたが見る彼らのその状態は、小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分があの忌まわしい[1]教会によって差し止められたためである。そして、あなたはその教会が設立されるのを見たのである。

33 したがって、神の小羊は言われる。『わたしは異邦人を憐れみ、イスラエルの家の残りの者に大いなる裁きをもって報いを加える』と。」

34 そして、主の天使はわたしに言った。「神の小羊は次のように言われる。『見よ、わたしはイスラエルの家の[1]残りの者、すなわちわたしが話しているこの残りの者とは、あなたの父の子孫であるが、彼らに裁きをもって報いを加え、異邦人の手によって彼らを

30 ① GS「約束の地」
② アル45・10—14
31 ① 2ニフ4・7、10・18—19、ヤコ3・5—9、ヒラ15・12、3ニフ16・8—9、モル5・20—21
32 ① GS「悪魔—悪魔の教会」
34 ① GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」

悩ました後、また娼婦の母であるあの忌まわしい教会が、小羊の福音の大変分かりやすくて貴い部分のため、すなわちその部分があの忌まわしい教会によって差し止められたために、異邦人が甚だしくつまずいた後、[2]』小羊はこう言われ、さらに『その日わたしは異邦人を憐れみ、力をもって、わたしの[3]福音の中の分かりやすくて貴い多くの部分を彼らに[4]明らかにしよう』と小羊は言われる。

35 見よ、小羊は言われる。『わたしはあなたの子孫にわたし自身を現し、わたしが教える分かりやすくて貴い多くのことを記させる。そして、あなたの子孫が滅ぼされ、また不信仰に陥り、またあなたの兄たちの子孫もそうなった後、まさにこれらのことは隠されて、小羊の賜物と力によって異邦人にもたらされる。[1]』

36 小羊は言われる。『その中には、わたしの[1]福音とわたしの[2]岩とわたしの救いが書き記される。

37 その日、わたしのシオン[1]を起こそうと努める者は幸いである。[2]彼らは聖霊の賜物[3]と力を受けるであろう。また、彼らは最後まで堪え忍ぶならば、[4]終わりの日に高く上げられて、小羊の永遠の[5]王国に救われるであろう。また平和を告げて[6]広め、まことに大いなる喜びのおとずれを告げる者は、山の上にあって何と麗しいことであろう。』[1]

38 さて、わたしは兄たちの子孫の残りの者を見、また神[1]の小羊の書を見て、それがユダヤ人の口から出て来て、異邦人から兄たちの子孫の残りの者にもたらされるのを見た。[2]

39 その書物が彼らに伝わってから、わたしはほかにも幾つかの書物[1]を見た。それらは小羊の力によって異邦人から彼らに伝わったものであって、預言者たちと小羊の十二使徒の記録が[2]真実であることを、異邦人と兄たちの子孫の残りの者と、地の面に散らされたユダヤ人に[3]確信させるためのものである。

40 天使はわたしに言った。「あなたが異邦人の中で見たそれら[1]後の方の記録は、小羊の十二使徒から出た[2]初めの記録が真実であることを立[3]証し、またその中から取り去られた分かりやすくて貴い部分を明らかにする。またそれらの記録は、神の小羊が永遠の御父の御子であって、世の[4]救い主であられること、すべての人はこの救い主のみもとに来なければならず、そうしなければ救われないことを、すべての部

34 ② 1ニフ14・1—3、2ニフ26・20
③ GS「福音」
④ 教義10・62、GS「福音の回復」
35 ① 2ニフ27・6、29・1—2、GS「モルモン書」
② 3ニフ27・13—21
36 ① ヒラ5・12、3ニフ11・38—39、GS「岩」
② GS「シオン」
37 ① 教義21・9
② GS「聖霊の賜物」
③ 3ニフ27・16、GS「堪え忍ぶ」
④ GS「日の栄え」
⑤ イザ52・7、モサ15・14—18、3ニフ20・40
⑥ 1ニフ13・23、2ニフ29・4—6
38 ① モル5・15
② GS「聖文—出現を預言された聖文」
39 ① 1ニフ14・30
② エゼ37・15—20、2ニフ3・11—12
③ 2ニフ26・16—17、29・12、GS「モルモン書」
40 ① GS「聖書」
② モル7・8—9
③ 『モルモン書』のタイトルページを参照。モセ1・6

族、国語の民、民族に知らせる。
41またすべての人は、小羊の口によって立証される御言葉に従って、みもとに来なければならない。そして小羊の御言葉は、小羊の十二使徒の記録のみならず、あなたの子孫の記録の中でも明らかにされるであろう。したがって、これら二つの記録は一つに合わせられる。全地を支配されるのは唯一の神、唯一の羊飼いだからである。
42そしてこの御方が、すべての国民、すなわちユダヤ人にも異邦人にも御姿を現される時が来る。この御方はユダヤ人に、次に異邦人に御姿を現され、そして異邦人に、次にユダヤ人に御姿を現される。このように、後の者は先になり、先の者は後になる。

第14章

天使、異邦人に及ぶ祝福とのろいについてニーファイに伝える。教会はただ二つ、神の小羊の教会と悪魔の教会があること。すべての国々にいる神の聖徒たち、大きな忌まわしい教会によって迫害される。使徒ヨハネが世の終わりについて書き記す。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1「さて、神の小羊が御言葉と力をもって、確かに異邦人に御姿を現し、つまずきの石を取り除かれる日、もし異邦人が神の小羊の御言葉に聞き従い、
2神の小羊に対して心をかたくなにしなければ、彼らは、あなたの父の子孫の中に数えられるようになる。まことに、彼らはイスラエルの家の中に数えられ、約束の地でとこしえに祝福された民となり、もう囚われの身となることはない。そして、イスラエルの家は再び乱されることがない。
3神の小羊は言われる。『人の霊を地獄に誘い落とすために、悪魔が自分の子らとともに築いたあの大きな忌まわしい教会は、人々のために大きな穴を掘ったが、まことに人々を滅ぼすために掘られたその大きな穴は、それを掘った者たちでいっぱいになり、彼らはことごとく滅びてしまう。しかし滅びるといっても、霊が滅びるのではなく、終わりのないあの地獄に投げ込まれることをいうのである。
4見よ、これは悪魔の束縛と神の正義に従って人々に及ぶもので、神の御前に悪事と忌まわしい行いをするすべての人に及ぶのである。』」
5そこで天使は、またわたしニーファイに言った。

41 ① エゼ37・17　② 申命6・4、ヨハ17・23　③ 2ニフ31・21　GS「良い羊飼い」
42 ① 教義90・8−9、107・33、112・4　② ヤコ5・63　③ ルカ13・30、1ニフ15・13−20
第14章
1 ① 1テサ1・5、1ニフ14・14、ヤコ6・2−3　② GS「異邦人」　③ 3ニフ16・6−13、29・34、2ニフ26・20、イザ57・14、1ニフ13・ガラ3・7、29、2ニフ10・18−19、3ニフ16・13、21・6、22、アブ2・9−11
2 ① 2ニフ6・12、10・8−14、3ニフ16・6−7、20・27　② 1ニフ22・14、教義109・25　③ GS「地獄」「罰の定め」

「あなたは、異邦人も悔い改めれば幸いであるのを見た。また、主がイスラエルの家と交わされた聖約についても知り、悔い改めない者はだれでも滅びなければならないことも聞いている。

6 したがって、異邦人は神の小羊に対して心をかたくなにするならば、災いである。

7 神の小羊は言われる。『わたしが大いなる驚くべき業を人の子らの中で行う時が来る。その業は、いずれにおいても永遠のものである。すなわち、彼らに確信を与えて平安と永遠の命を得させるか、それとも彼らが心をかたくなにし、思いをくらませるに任せて、彼らを束縛された状態に陥らせ、悪魔の束縛、これについては前に話したことがあるが、この束縛にあって、肉体的にも霊的にも滅びに至らせるか、そのいずれかである。』」

8 そこで天使は、これらの言葉を語ってからわたしに向かい、「御父がイスラエルの家と交わされた聖約を覚えているか」と言ったので、わたしは天使に、「はい」と答えた。

9 そこで天使はわたしに言った。「見なさい。忌まわしい行いの母であり、悪魔を創設者とする大きな忌まわしい教会を見なさい。」

10 天使はわたしに言った。「見よ、教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり、もう一つは悪魔の教会である。したがって、神の小羊の教会に属していない者はだれでも、忌まわしい行いの母であるあの大きな教会に属する者である。彼女は全地の淫婦である。」

11 そこでわたしがあの全地の淫婦を眺めてみると、彼女は多くの水の上に座を占め、すべての国民、部族、国語の民、民族の中にあって全地を支配していた。

12 そして、神の小羊の教会が見えたが、この教会に属している者の数は、多くの水の上に座を占めている、あの淫婦の悪事と忌まわしい行いのために少なかった。それでも、神の聖徒である小羊の教会の人々もまた、地の全面にいるのが見えた。しかし、地の面における彼らの占める場所は、わたしの見た大淫婦の悪事のために小さかった。

13 そして、あの忌まわしい行いの大いなる母が、神の小羊と戦うために、異邦人のすべての国民の中にあって、全地の面に大勢の人を寄せ集めるのが見え

---

5 ① GS「悔い改め」
6 ① 2ニフ28・32
7 ① イザ29・14、1ニフ22・8、2ニフ27・26、29・1−2、教義4・1、GS「福音の回復」
8 ① GS「永遠の命」
② 2ニフ2・26−29、アル12・9−11
9 ① 1ニフ15・35、教義1・35、GS「悪魔」
10 ① 1ニフ22・23
② 1ニフ13・4−6、26
③ 黙示17・5、15、2ニフ10・16
11 ① 教義35・11
② エレ51・13、黙示17・15
12 ① マタ7・14、3ニフ14・14、教義138・26
13 ① 教義90・11
② 黙示17・1−6、18・1−2、4
24 1ニフ13・5、教義123・7−8

た。

14 そしてわたしニーファイは、神の小羊の力が、地の全面に散っている小羊の教会の聖徒たち、すなわち主の聖約の民のうえに下るのを見た。彼らは義と神の[1]力とをもって、大いなる栄光のうちに武装していた。

15 そしてわたしは、神の激しい怒りがあの大きな忌まわしい教会のうえに[1]注がれ、そのために、地のすべての国民[2]と部族の中で戦争と戦争のうわさがあるのを見た。

16 そして、あの忌まわしい行いの母に属しているすべての国民の中で[1]戦争が始まり、戦争のうわさが出始めたときに、天使がわたしに言った。「見よ、神の激しい怒りは娼婦たちの母に下る。そして見よ、あなたにはこれらのことがすべて見える。

17 娼婦たちの母、すなわち悪魔が創設者である全地の大きな忌まわしい教会に、神の[1]激しい怒りが注がれる日が来ると、その日、御父の[2]業が始まり、御父は、イスラエルの家に属する御自分の民と交わされた聖約を[3]果たすための道を備えられる。[4]」

18 そこで、天使はわたしに語って、「見なさい」と言った。

19 眺めると、白い衣を着ている一人の男の人が見えた。

20 すると天使はわたしに言った。「小羊の十二使徒の[1]一人を見なさい。

21 見よ、彼は、これらのことの残りの部分と、また今までにあった多くのことを見て書き記す。

22 また、世の終わりについても書き記す。

23 彼が書き記すことは正しく真実である。そして見よ、それらのことは、あなたがユダヤ人の口から出るのを見た書物の中に[1]書き記される。そして、それらがユダヤ人の口から出て来た当時、すなわちその書物がユダヤ人の口から出て来た当時は、書き記されたことは分かりやすくて純粋であり、また大変[2]貴くて、すべての人に理解しやすいものであった。

24 見よ、この小羊の使徒の[1]書き記すことの多くを、あなたは見た。そして見よ、これからあなたはその残りの部分を見るであろう。

25 しかし、これからあなたが見ることは書き留めてはならない。主なる神が、それらのことを[1]書き記す

---

14 ① ヤコ 6・2、教義 38・32—38
15 ① 教義 1・13—14
② マコ 13・8、教義 87・6
16 ① 1 ニフ 22・13—14、モル 8・30
17 ① 1 ニフ 22・15—16
② GS「終わりの時・末日」
③ 3 ニフ 21・7、20—29、GS「福音の回復」
④ モル 8・21、41、GS「アブラハムの聖約（契約）」
20 ① 黙示 1・1—3、1 ニフ 14・27
23 ① 1 ニフ 13・20—24、モル 8・33
24 ① 1 ニフ 13・28—32
② エテ 4・16
25 ① ヨハ 20・30—31、黙示 1・19

ように、あの神の小羊の使徒を任じられたからである。

26 神はまた、かつてこの世に生きたほかの人々にも、すべてのことを示され、彼らはそれらのことを書き記した。そしてそれらの記録は、主御自身がふさわしいと思われるときに、小羊の内にある真理によって純粋なままでイスラエルの家に伝わるように、今は封じられている。」

27 わたしニーファイは、天使の言葉により、この小羊の使徒の名がヨハネであることを聞き、ここに証する。

28 そして見よ、わたしニーファイは、見聞きしたことの残りの部分を書き記すことを禁じられているので、今まで書き記したことで満足するが、これまで書き記したことは、わたしが見たことの一部分にすぎない。

29 わたしは父の見たことを見、そして主の天使がそれらのことをわたしに明らかにしてくれたことを証する。

30 わたしは、御霊に連れ去られたときに見たことについての話を、これで終わりにする。わたしの見たことがたとえすべて書き記されていなくても、今まで書き記したことは真実である。まことにそのとおりである。アーメン。

第15章

リーハイの子孫は、末日に異邦人から福音を受ける。イスラエルの集合は、オリーブの木に元の自然の枝が接ぎ戻されることにたとえられる。ニーファイ、命の木の示現を解き明かし、また義人と悪人を分ける神の正義について語る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、御霊に連れ去られて以上のことをすべて見てから、父の天幕に帰って来た。

2 そこで兄たちに会うと、彼らは以前に父が話したことについて言い争っていた。

3 父はまことに偉大なことを多く兄たちに語ったが、それは主に尋ねないかぎり理解しにくいことであった。兄たちは、心がかたくなであったので、当然なすべきことではあったが、主を仰ぎ見ることを

26 ① 2 ニフ27・6−23、エテ3・21−27、4・4−7、教義35・18、ジ−歴史1・65
27 ① 黙示1・1−3
29 ① 1 ニフ8章
30 ① 2 ニフ33・10−14

第15章

3 ① 1 コリ2・10−12、アル12・9−11

しなかった。

4 そこでわたしニーファイは、兄たちの心がかたくなであったために、また今までいろいろなことを見てきたために悲しく思った。わたしは、人の子らの犯す大きな悪事のために、それらのことが間違いなく起こることを知ったのである。

5 そしてわたしは、わたしの民が倒れるのを見たので、彼らの[1]滅亡のために自分の[2]悩みが何にも増して大きく思われて、その悩みのために圧倒されてしまった。

6 そしてその後、わたしは[1]力を取り戻すと、言い争いの訳を知りたいと思い、兄たちに尋ねた。

7 すると兄たちは、「見よ、父がオリーブの木の元の自然の枝と異邦人について語ったが、その意味が分からない」と答えた。

8 それでわたしは彼らに、「あなたがたは主に[1]尋ねたのですか」と言った。

9 すると彼らは、「主に尋ねてはいない。主はこんなことを我々に明らかにしてくださらないからだ」と答えた。

10 見よ、わたしは彼らに言った。「どうしてあなたがたは、主の戒めを守ろうとしないのですか。なぜ心をかたくなにして[1]滅びを招こうとするのですか。

11 主が言われたことを覚えていないのですか。主は、『もしあなたがたが心をかたくなにせず、わたしの戒めを熱心に守りながら、答えを与えられると信じて信仰をもってわたしに[1]求めれば、これらのことは必ずあなたがたに明らかにされる』と言われました。

12 まことに、わたしはあなたがたに言います。父は、自分に宿った主の御霊によって、イスラエルの家をオリーブの木にたとえました。まことに、わたしたちは、イスラエルの家から[1]折り取られた者ではありませんか。イスラエルの家の一枝ではありませんか。

13 ところでわたしたちの父は、異邦人が満ちみちる恵みにあずかることによって、元の自然の枝が接ぎ[1]戻されることについて語りましたが、それは、メシヤが人の子らに肉体をもって御姿を現された後に、わたしたちの子孫がまことに長い間、しかも多くの世代にわたって[2]不信仰に陥るようになった末日において、メシヤの完全な[3]福音が異邦人に与えられ、次いで[4]異邦人からわたしたちの子孫の残りの者に伝え

5 ① エノ1・13、モル6・1
6 ① GS「逆境」
② モセ1・10、ジー歴史1・20、48
8 ① モサ26・13、アル40・3、GS「祈り」
10 ① GS「背教・背信」
11 ① 新ヤコ1・5−6、エノ1・15、モロ7・26、教義18・18、GS「求める」
12 ① 創世49・22−26、1ニフ10・12−14、19・24、GS「リーハイ（ニーファイの父）」
13 ① GS「メシヤ」
② 1ニフ12・22−23、2ニフ26・15
③ GS「福音」
④ 1ニフ13・42、5−10、教義14・10、GS「異邦人」

られるようになるということです。

14その日、わたしたちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属する主の聖約の民であることを知るでしょう。それから彼らは、自分たちの先祖のことを知って理解するようになり、また彼らの贖い主によって先祖に与えられた贖い主の福音も理解するようになるでしょう。このようにして、彼らは贖い主とその教義の詳しい点について理解するようになり、どうすれば贖い主のみもとに帰って救いを得られるかを知るのです。

15その日、彼らは自分たちの岩であり救いである永遠の神を喜び、賛美せずにいられるでしょうか。まことにその日、まことのぶどうの木から力と養いを受けないでいられるでしょうか。まことに、神のまことの羊の群れに入らないでいられるでしょうか。

16まことに、わたしはあなたがたに言います。そうです。彼らはイスラエルの家の中で再び覚えられ、またオリーブの木の元の自然の枝であるので、まことのオリーブの木に接ぎ戻されるのです。

17これが、わたしたちの父が言おうとしたことです。また父は、このことは彼らが異邦人によって散らされるまで起こらないと言っています。また父は、このことが異邦人を通して起こり、主がユダヤ人、すなわちイスラエルの家によって拒まれるので、主が御自分の力を異邦人に現されるためにそれが起こると言っています。

18それで父は、末日に成就する聖約について触れながら、わたしたちの子孫のことだけでなく、イスラエルの家に属するすべての者についても語ったのです。その聖約とは、主がわたしたちの先祖アブラハムに立てられたもので、主は、『あなたの子孫により、地のすべての部族は祝福を受けるであろう』と言われました。」

19さて、わたしニーファイは、これらのことについて兄たちにたくさんのことを語った。まことに、わたしは末日におけるユダヤ人の回復について、彼らに語ったのであった。

20そしてわたしは、イザヤの言葉を兄たちに詳しく述べた。イザヤはユダヤ人、すなわちイスラエルの家の回復について語り、また、彼らが回復されてからはもう乱されることもなければ、再び散らされることもない、と語っている。そして、わたしが兄た

---

14 ① 2ニフ10・2、3ニフ5・21—26、21・4—7
② GS「アブラハムの聖約（契約）」
③ 2ニフ3・12、30・5、モル7・1、9—10、教義3・16—20。「モルモン書」のタイトルページを参照
15 ① GS「岩」
② 創世49・11、ヨハ15・1
16 ① ヤコ5・60—68
17 ① GS「十字架の刑」
18 ① 創世12・1—3、アブ2・6—11
19 ① 1ニフ19・15、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
20 ① 1ニフ19・23

ちに多くの言葉を述べたので、兄たちは心が和らいで主の前にへりくだった。

21 そして、兄たちは再びわたしに、「父が夢の中で見たことは何を意味するのか。父の見た木は何を意味するのか」と言った。

22 それでわたしは、「その木は命の木を表すものです」と言った。

23 すると兄たちは、「あの木の所に通じている、父が見た鉄の棒は何を意味するのか」と言った。

24 わたしは兄たちに、それは神の言葉であって、だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはないと言った。

25 わたしニーファイは、主の言葉を心に留めるように兄たちに勧めた。まことに、わたしは兄たちが神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることを覚えるように、全精力を傾け、能力の限りを尽くして兄たちに勧めた。

26 すると、彼らはわたしに、「父の見た水の流れている川は何を意味するのか」と言った。

27 わたしは、父の見た水は汚れであるが、父は心をほかの物事に奪われていて、水の汚れは見えなかったと言った。

28 またわたしは、それは悪人を命の木や神の聖徒から隔てている恐ろしい淵であると彼らに言った。

29 そして、それは悪人のために用意されていると天使が語ったあの恐ろしい地獄を表していると、わたしは彼らに言った。

30 また、神の正義も悪人を義人から隔てており、それを父も見たと、わたしは彼らに言った。その輝きは、とこしえにいつまでも神に向かって立ち上る、燃える火の輝きのようであった。

31 すると兄たちはわたしに言った。「今言ったことは、この試しの生涯で肉体が受ける苦痛を指すのか、または肉体が死んでから後の、霊の最後の状態を指すのか、それとも現世のことをいうのか。」

32 そこでわたしは、それは現世のことにも霊的なことにもかかわることを表していると言った。それは、兄たちが自分のなした行い、すなわち、試しの生涯において肉体をもってなした行いによって裁かれなければならない日が、必ず来るからである。

---

20 ② 39 1ニフ16・5、24、
21 ① 1ニフ8・10−12
22 ① 1ニフ11・4、25、モセ3・9
23 ① 1ニフ8・19−24
24 ① GS「言葉（神の）」 ② 1ニフ8・30、2ニフ31・20
25 ③ GS「悪魔」 ④ 1ニフ8・23、GS「誘惑」 ⑤ エベ6・16、教義3・8、27・17
26 ① 教義11・2、32・4、84・43−44
27 ① 1ニフ8・13 ② GS「汚れ」
28 ① ルカ16・26、1ニフ12・18 ② 2ニフ1・13
29 ① GS「地獄」
30 ① GS「正義」 ② アル12・24、42・10、ヒラ13・38
31 ① アル40・6、11−14
32 ① ② GS「行い」

33 したがって、もし彼らが邪悪なままで死ぬ[1]ならば、彼らは義にかかわる霊的[2]なことからも捨てられなければならない。したがって、彼らは自分の行い[3]について裁き[4]を受けるために、神の前に引き出されなければならない。そして、もし彼らの行いが汚れているならば、彼らは必ず汚れている[5]に違いない。もし彼らが汚れているならば、決して神の王国に住む[6]ことはできない。もし彼らが住めるとしたら、神の王国もまた汚れているに違いない。

34 「しかしまことに、わたしはあなたがたに言います。神の王国は汚れ[1]てはいません。清くないものは、どのようなものでも神の王国に入ることができないのです。したがって、汚れたもののためには、汚れたものの場所が必ず用意してあります。

35 事実、用意された場所が一つあります。まことに、それはわたしが話したあの恐ろしい地獄[1]で、それを用意したのは悪魔[2]です。ですから、人の最後の状態は、神の王国に住むか、そうでなければ、わたしが話したあの正義[3]によって追い出されるかのどちらかです。

36 したがって、悪人は義人から拒まれ、また命の木[1]からも拒まれます。その命の木の実は非常に貴く、ほかのあらゆる実よりも好ましいもの[2]で、またそれは、神のあらゆる賜物[3]の中で最も大いなるものです。」わたしはこのように兄たちに語った。アーメン。

第16章

悪人は真理を厳しいものと考える。リーハイの息子たち、イシマエルの娘たちと結婚する。リアホナ、荒れ野での一行の進路を指し示す。主の御告げが時々リアホナに記される。イシマエル、死ぬ。イシマエルの子供たち、苦難のためにつぶやく。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、わたしニーファイが兄たちに語り終えると、見よ、兄たちは、「おまえは我々が聞くに堪えないほど厳しいことを言った」とわたしに言った。

2 そこでわたしは兄たちに、真理に従い、悪人にとって厳しいことを言ったのはよく承知していると話した。わたしは義人を義とし、彼らが終わりの日に高く上げられることを証した。そのために、罪のあ

---

33 ① モサ15・26、モロ10・26 ② アル12・12−16、40・26 ③ ニフ27・23−27 ④ GS「最後の裁き」 ⑤ 2ニフ9・16、教義88・35 ⑥ 詩篇15・1−5、24・3−4、アル11・37、教義76・50−70、モセ6・57

34 ① GS「汚れ」

35 ① 2ニフ9・19、モサ26・27、GS「地獄」 ② 1ニフ14・9、教義1・35 ③ GS「正義」

36 ① 創世2・9、2ニフ2・15 ② 1ニフ8・10−12、アル32・42 ③ 教義14・7、GS「永遠の命」 ④ 教義6・13

第16章

2 ① ヨハ3・20、2ニフ33・5、エノ1・23、ヒラ14・10、GS「罪悪感」

る者は真理が胸の底まで刺し貫くので、真理を厳し[2]
いものと思うのである。
3「兄さんたち、もし兄さんたちが義にかなってい
て、神の御前をまっすぐに歩めるように、進んで真
理に聞き従い、それを心に留めるならば、その真理
のためにつぶやいて、『おまえは我々に厳しいこと
を言った』などとは言わないでしょう。」
4そして、わたしニーファイは兄たちに、主の戒め
を守るように力の限り勧めた。
5そこで、兄たちが主の前に[1]へりくだったので、わ
たしは兄たちが義の道を歩むようになることを喜
び、またそのことに大きな希望を抱いた。
6さて、以上のことはすべて、父がレムエルと名付
けた谷で天幕に住んでいたときに語られ、また行わ
れたことである。
7さて、わたしニーファイは、イシマエルの[1]娘の一
人を妻にめとり、[2]兄たちもまた、イシマエルの娘た
ちを妻にめとった。そしてゾーラムも、[3]イシマエル
の長女を妻にめとった。
8このようにして、父は主から受けた戒めをことご
とく果たし、またわたしニーファイも、主から非常
に豊かな祝福を受けた。
9さて、夜に、主の声が父に語りかけ、翌日に荒れ
野へ旅立つように命じられた。
10そこで、父が朝起きて天幕の入り口へ出て行った
ところ、非常に驚いたことに、地の上に入念な造り
の丸い[1]球が一つあった。それは純良な真鍮でき
ていて、その球の内部には二本の指針があり、その
一本は、わたしたちが荒れ野で進むべき方向を指し
ていた。
11そこでわたしたちは、荒れ野へ持って行くべき一
切のものと、主が与えてくださった食糧の残りを
ことごとく集めた。また、荒れ野へ持って行くため
あらゆる種を携えた。
12そしてわたしたちは天幕を持ち、レーマン川を渡
って荒れ野へ出発した。
13そして、わたしたちは四日間、ほぼ南南東の方角
へ旅路を進み、再び天幕を張ってその地をシェザー
と名付けた。
14そこでわたしたちは、弓矢を携え、家族の食糧に
する獲物をとりに荒れ野へ出かけて行った。そして
獲物をとると、荒れ野の家族のもとに、すなわちシ

2 ② モサ13・7 ③ 箴言15・10、2ニフ
1・26、9・40、ヒラ13・24—26
3 ① 教義5・21、GS「歩む（神とともに）」
5 ① 1ニフ16・24、39、
18・4
7 ① 1ニフ7・1 ② GS「結婚」 ③ 1ニフ4・35、2ニフ5・5—6
10 ① アル37・38—46、GS「リアホナ」

エザーに帰って来た。そして、また前と同じ方角に、1)紅海に近い境の地の荒れ野の中で、最も肥沃な所をたどりながら進んで行った。

15そしてわたしたちは、道々、弓矢や石、石投げで食糧にする獲物をとりながら幾日もの間旅をした。

16そして、その球の指す1)方向へ進んで行ったが、それはわたしたちを荒れ野の中で、より肥沃な場所へ導いて行った。

17わたしたちは、幾日もの間旅をしてからしばらく天幕を張り、体を休めて、家族の食糧にする獲物をとることにした。

18そして、わたしニーファイは食糧にする獲物をとるために出て行ったが、見よ、純良な鋼でできているわたしの1)弓を折ってしまった。それで、弓を折ってからは、食糧を得ることができなかったので、見よ、兄たちは弓を使えなくしたことでわたしに大いに腹を立てた。

19そこでわたしたちは、食糧がないままに家族のもとに帰ったが、家族の者は旅のためにひどく疲れていたので、食糧がないことで非常に苦しんだ。

20そして、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちは、荒れ野での苦しみと苦難のためにひどくつぶやき始め、また父も主なる神に対してつぶやき始めた。彼らは皆、非常に嘆き悲しみ、主に対してつぶやいたのであった。

21さて、わたしニーファイは、自分の弓を使えなくしたために兄たちから苦しめられたが、兄たちの弓も弾力がなくなったので事態はさらに深刻になり、まことにわたしたちは、食糧をまったく得ることができなかった。

22そして兄たちが、主なる神に対して不平を言うほどまた心をかたくなにしたので、わたしニーファイは兄たちにたくさんのことを語った。

23さて、わたしニーファイは木で一つの弓を作り、まっすぐな枝で一本の矢を作った。それでわたしは、弓と矢、石投げと石で身を固め、「食糧を得るのにどこへ行ったらよいですか」と父に1)尋ねた。

24そこで父は1)主に尋ねた。わたしが精力を込めて、彼らにたくさんのことを語ったので、わたしが語った言葉で父も家族もすでにへりくだっていたからである。

---

14 ① 教義17・1
16 ① 1ニフ16・10、16、18・12、アル37・38
18 ① 1−26、46
22 ① サ下22・35、出エ16・8、民数11・
23 ① 1 出エ20・12、モサ13・
24 ① 20 GS「祈り」

25 さて、主の声が父に聞こえて、主に対してつぶやいたことでひどく懲らしめられたので、父は深い悲しみに沈んだ。
26 そこで、主の声が父に、「球を見て、記してあることをよく心に留めなさい」と言われた。
27 そこで父は、球の上に記してあることを見て非常に恐れおののき、また兄たちもイシマエルの息子たちも、わたしたちの妻も同様に恐れおののいた。
28 そこで、わたしニーファイが球の中にある指針を見ると、それらは、わたしたちがそれに寄せる信仰[1]と熱意と注意力に応じて働いた。
29 また、それらの指針の上には新しい言葉が記されていて、それは読みやすく、主の道についてわたしたちに理解[1]を与えてくれるものであった。そしてその言葉は、わたしたちが寄せる信仰と熱意に応じて、時々書き替えられた。このようにして、主は小さな手段[2]によって大いなることを成し遂げられることが分かるのである。
30 さて、わたしニーファイは球の上に現れた指示に従って、山の頂まで登って行った。
31 そして、野の獣を何頭もとったので、家族のための食糧が手に入った。
32 そこでわたしは、とった獣を運んで天幕に帰った。すると、わたしが食糧を手に入れたのを見たときの家族の喜びようは、大変なものであった。それで彼らは、主の前にへりくだり、主に感謝した。
33 さて、わたしたちは再び旅路に就き、初めとほぼ同じ道筋を進んで行った。そして、幾日もの間旅をした後、しばらくとどまるためにまた天幕を張った。
34 そして、イシマエル[1]が死んで、ネホムという所に葬られた。
35 さて、イシマエルの娘たちは、父を亡くしたため、また荒れ野の中の苦難[1]のために非常に嘆き悲しんだ。そして彼女たちは、自分たちをエルサレムの地から連れ出したのはわたしの父であったことから、父に向かってこうつぶやいた。「父は死んでしまいました。わたしたちは長い間荒れ野をさまよい、多くの苦難に遭い、飢えと渇きと疲労に苦しんできました。このような苦しみに遭った末に、結局荒れ野の中で飢えて滅びてしまうに違いないのです。」
36 イシマエルの娘たちはこのように、父とわたしに

25 ① エテ 2・14、GS「懲らしめ」
28 ① アル 37・40、GS「信仰」
29 ① GS「理解」
② 列下 5・13、新ヤコ 3・4、アル 37・6−7、41、教義 123・16
34 ① 1ニフ 7・2−6
35 ① GS「逆境」

対してつぶやき、エルサレムに帰ることを望んだ。
37レーマンは、レムエルとイシマエルの息子たちに言った。「父と弟ニーファイを殺してしまおうではないか。ニーファイは兄である我々の支配者となり、我々を教える者になっている。
38彼は主が自分に語られたと言い、また天使が教え導いたとも言っている。しかし見よ、我々には、彼が偽りを言っていることが分かっている。彼はそのようなことを言いながら、策略をもって多くのことをなし、我々の目をくらまして、恐らくどこか見知らぬ荒れ野に我々を誘い込めると思っているのだろう。そして我々を誘い込んでしまったら、彼は我々の王となり、支配者となって、意のまま、思いのままに振る舞おうと思っているのだ。」兄のレーマンは、このようにして彼らの心をあおり立てて怒らせた。
39さて、主はわたしたちとともにおられ、まことに主の声が聞こえて彼らに多くの御言葉を語り、彼らをひどく懲らしめられた。彼らは主の声によって懲らしめを受けると、怒りを静め、罪を悔い改めた。そして、主が再び食糧を与えて祝福されたので、わたしたちは滅びずに済んだ。

第17章

ニーファイ、船を一隻造るように命じられる。ニーファイの兄たち、ニーファイに反抗する。ニーファイ、イスラエルに対する神の計らいの歴史を述べて兄たちに説き勧める。ニーファイ、神の力に満たされる。兄たち、枯れた葦のようにしおれてしまわないように、ニーファイに触れることを禁じられる。紀元前約五百九十二年から五百九十一年に至る。

1さて、わたしたちはまた荒れ野の中を旅し、このときからはほぼ東の方へ進んで行った。わたしたちは旅をしながら、多くの苦難を乗り越えていった。そして妻たちは荒れ野の中で子供を産んだ。
2そして、主の祝福が大変豊かであったので、妻たちは荒れ野で生肉を食べて暮らしていたのに、子供に乳を十分飲ませ、しかもまことに男のように強かった。彼女たちはつぶやかずに旅に耐えるようになった。
3このように、神の命令は必ず成し遂げなければな

37① 1ニフ17・44、GS「殺人」
② 創世37・9－11、1ニフ2・22、18・10
38① 1ニフ3・30－31、4・3
39① GS「懲らしめ」
第17章
2① 1ニフ17・12

らないことが分かる。もし人の子らが神の戒めを守[1]るならば、神は彼らを養い、強くし、また御自分が命じられたことを成し遂げる手段を与えられる。それで神は、わたしたちが荒れ野にとどまっていたときにも、わたしたちに手段を与えられた。[2]

4そしてわたしたちは、長い間、まことに八年もの間荒れ野の中にとどまった。

5そして、果実と野蜜が豊かであることからバウンティフルと名付けた地に来た。これらのものはすべて、わたしたちが滅びないように主が備えてくださったのであった。わたしたちはここで海を見て、イリアンタムと名付けた。それは多くの水という意味である。

6さて、わたしたちは海辺の近くに天幕を張った。わたしたちはこれまで多くの苦難や困難に、まことに書き尽くせないほど多くの苦難や困難に遭ったが、海辺に着いて非常に喜びを感じ、そこは果実が豊かであることから、その地をバウンティフルと名付けたのであった。

7さて、わたしニーファイが、バウンティフルの地で何日も日を過ごしたところで、主の声が聞こえて、わたしに、「立って山へ行きなさい」と言われた。そこでわたしは、立って山へ行き、主に叫び求めた。

8そこで主は、わたしに言われた。「わたしがこれから示す方法に従って、一隻の船を造りなさい。この大海を越えて、わたしがあなたの民を連れて行けるようにするためである。[1]」

9それでわたしは、「主よ、お示しくださった方法に従って船を造るための道具を造るには、どこへ行ってあらがねを見つけたらよろしいでしょうか」と言った。

10そこで主は、その道具を造れるように、あらがねの見つかる場所をわたしに教えてくださった。

11そこでわたしニーファイは、火を吹くためのふいごを獣の皮で作った。そして火を吹くためのふいごを作ってから、二個の石を打ち合わせて火をおこした。

12荒れ野を旅するときに、主はこれまでわたしたちに、あまり火をおこすことを許されなかった。主が、「わたしがあなたがたの食物の味を良くするので、煮炊きするには及ばない。

13わたしはまた、荒れ野であなたがたの光となろ

---

3 ① モサ2・41、アル26・
12 ① GS「従順・従う」
6 ① ニフ1・7
② ニフ3・20
8 ① ニフ18・2
12 ① ニフ17・2

う。あなたがたがわたしの命令を守るならば、わたしはあなたがたの前に道を備えよう。したがって、あなたがたはわたしの命令を守るかぎり、[2]約束の地に導かれるであろう。そして、あなたがたを導いているのがわたしであることを知るであろう」と言われたからである。

14 主はまた言われた。「あなたがたは約束の地に着いた後、主なるわたしが神であり、また主なるわたしがあなたがたを滅亡から救い出したこと、まことに、わたしがあなたがたをエルサレムの地から連れ出したことを知るであろう。」

15 それでわたしニーファイは、主の命令を守るように努め、また兄たちにも、忠実であり勤勉であるように勧めた。

16 さて、わたしは岩石から溶かし出したあらがねで道具を造った。

17 兄たちは、わたしが船を造ろうとするのを見ると、わたしのことをつぶやいて言った。「弟は愚か者だ。弟は船が造れると思っているし、この大海を渡れると思っている。」

18 このように、兄たちはわたしのことで不平を言い、働かなくてもよいようにと思っていた。彼らは、わたしに船が造れることを信じようとせず、またわたしが主から指示を受けていたことも、信じようとしなかったからである。

19 そこでわたしニーファイは、兄たちの心がかたくなためにひどく悲しんだ。すると兄たちは、わたしが悲しみだしたのを見て心の中で喜び、わたしのことで[1]うれしく思ったほどで、このように言った。「おまえに船が造れないのは分かっていた。分別が足りないからだ。おまえには、そんな大仕事を成し遂げることはできない。

20 おまえは、心に浮かぶつまらない[1]空想に惑わされた父によく似ている。まことに、父は我々をエルサレムの地から連れ出し、我々は長年の間荒れ野をさまよってきた。そして、我々の妻は身重の体で身を粉にして働き、荒れ野で子を産み、ただ死ななかっただけであらゆる苦しみに遭った。妻たちは、このような苦難に遭うくらいなら、エルサレムを出る前に死んだ方がましだった。

21 見よ、我々は、長年の間荒れ野で苦しんできたが、その間に自分たちの財産や受け継ぎの地を欲しいま

---

13 ① アル37・38—39
② 1ニフ2・20、ヤコ2・12
14 ① ③ 出エ6・7
② 教義5・2
17 ① 2ニフ1・4、GS
19 ① 1ニフ18・1—6
20 ① GS「迫害」
「証」1ニフ2・11

まにして、幸せに暮らせたかもしれない。

22 我々は、エルサレムの地にいた民が義の民であったことを知っている。なぜなら、彼らはモーセの律法に従って、主の掟と裁決と主のすべての戒めに従っていたからだ。だから我々は、彼らが義の民であることを知っている。ところが、父は彼らを裁いた。そして、我々が父の言葉に聞き従ったので、我々をエルサレムから連れ出した。弟は父によく似ている。」兄たちはこのような言葉でつぶやき、父とわたしに対して不平を言った。

23 そこで、わたしニーファイは兄たちに言った。「あなたがたは、イスラエルの子らであるわたしたちの先祖が、主の御言葉に聞き従わなかったとしても、エジプト人の手から導き出されていたと信じているのですか。

24 まことに、あなたがたは、主がモーセに彼らを奴隷の状態から導き出すように命じられなかったとしても、先祖が奴隷の状態から導き出されたと思っているのですか。

25 あなたがたは、イスラエルの子らが奴隷の状態になっていたことや、彼らが堪え難いほどの苦役を負っていたことを知っています。ですから、彼らが奴隷の状態から導き出されることが、彼らにとって良いことであったに違いないことを、あなたがたは知っているのです。

26 あなたがたは、モーセがあの大いなる業を行うように主から命じられたことを知っています。また、モーセの言葉によって紅海の水が右と左に分かれ、イスラエルの子らが乾いた地を渡ったことも知っています。

27 しかしあなたがたは、パロの軍勢であるエジプト人が、紅海でおぼれて死んでしまったことも知っています。

28 あなたがたはまた、イスラエルの子らが荒れ野において、マナで養われたことも知っています。

29 またモーセが、自分の内にある神の力によって言葉を発して岩を打ったところ、水がわき出し、これを飲んでイスラエルの子らが渇きをいやすことができたことも知っています。

30 彼らの神であり贖い主である主は、彼らに先立って進み、昼は彼らを導き、夜は彼らに光を与え、人が受けて益になるあらゆることを彼らのためにして

22 ① 1ニフ1・13
24 ① 出エ3・2—10、1ニフ19・10、2ニフ3・9、20
25 ① 創世15・13—14
② 出エ1・11、2・11
26 ① 使徒7・22—39
② 出エ14・21—31、1ニフ4・2、モサ7・19、ヒラ8・11、教義8・3、モセ1・25
28 ① 出エ16・4、14—15、35、民数11・7—8、申命8・3、モサ7・19
29 ① 出エ17・6、民数20・11、申命8・15、1ニフ20・21
30 ① 教義18・18、88・64—65

くださいました。そのようにして導かれたにもかかわらず、彼らは心をかたくなにし、思いをくらまして、モーセとまことの生ける神をののしりました。

31 そこで神は、御自分の御言葉のとおりに彼らを滅ぼし、御自分の御言葉のとおりに彼らを導き、御自分の御言葉のとおりに彼らのためにあらゆることを行われました。神の御言葉によらないで行われたことは何もありません。

32 そして、彼らがヨルダン川を渡ると、主は彼らを、その地に住む人々を追い散らして滅ぼすほどにまで強大にされました。

33 さて、この地の人々、すなわち、約束の地に住んでいてわたしたちの先祖に追い出された人々、あなたがたはその人々を義人だと思いますか。まことにわたしは、決してそうではなかったと言います。

34 あなたがたは、彼らがもしも義人であったなら、わたしたちの先祖は彼らよりもさらにえり抜かれた者になっていたと思いますか。わたしはそうではなかったと言います。

35 まことに、主はすべての人を公平に重んじられ、義にかなった者は神から恵みを受けます。しかしまことに、この民は、神のすべての御言葉を拒んで罪悪が熟しました。それで、神の満ちみちた激しい怒りが彼らに下り、主は彼らに対しては地をのろい、わたしたちの先祖のためには地を祝福されました。すなわち、彼らに対しては、地をのろって彼らを滅びに至らせ、わたしたちの先祖のためには、地を祝福してその地を治める力を得させてくださったのです。

36 まことに主は、人が住めるように大地を造り、それを所有できるように御自分の子供たちを造られました。

37 そして主は、義にかなった一つの国民を起こして、邪悪な者たちから成る諸国民を滅ぼされます。

38 そして主は、義人を貴い地へ導き、また悪人を滅ぼして、彼らのために地をのろわれます。彼らの行いがそうさせるのです。

39 天は主の御座であって、地は主の足台ですから、主は高く天にあって支配されます。

40 そして主は、主を神とする人々を愛されます。まことに、主はわたしたちの先祖を愛し、彼ら、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブと聖約を交わされ

---

30 ② 出エ32・8、民数14・2−3、エゼ20・13−16、教義84・23−25
31 ① 民数26・65
② 1ニフ5・15、教義103・16−18
32 ① 民数33・52−53、ヨシ2・11、2ニフ26・23−33
35 ① 使徒10・15、34、ロマ2・17
② 詩篇55・22、1ニフ22・2・30、詩篇97・10、145・20、アル13・4、教義82・10
36 ① イザ45・18、アブ3・24
② GS「地球（地）」
③ GS「創造・創造する」
37 ① 箴言14・34、1ニフ4・13、エテ2・10、教義117・6
38 ① GS「約束の地」
② レビ20・22
39 ① イザ66・1、教義38・17
② アブ2・7
40 ① 創世21・12、教義27・10
② 創世28・1−5
③ GS「アブラハムの聖約（契約）」

ました。そして主は、御自分が交わした聖約を覚えておられます。それで、わたしたちの先祖をエジプト[4]の地から導き出されたのです。

41しかし、わたしたちの先祖がちょうどあなたがたのように心をかたくなにしたので、主は荒れ野で、杖をもって彼らを苦しい目に遭わせられました。主は、彼らの罪悪のために、彼らを苦しい目に遭わせられたのです。主は火の飛ぶ蛇[2]を彼らの中に送り、また彼らがかまれた後で、[3]癒される方法を備えられました。彼らがしなければならなかったことは、ただ目を向けて見るだけのことでしたが、その方法が単純[4]であったため、すなわち容易であったために、死んだ人が大勢いました。

42彼らは時々心をかたくなにし、モーセを[1]ののし[2]り、また神をもののしりました。にもかかわらず、彼らが神のたぐいない力によって約束の地に導かれたことは、あなたがたがよく承知していることです。

43そして、すべてこれらのことがあって、彼らは邪悪になり、まことにほぼ熟するほど邪悪になってしまいました。今日にも滅ぼされるかもしれません。囚われの身となってよそへ連れて行かれるわずかな者を除いて、彼らが滅ぼされる日が必ず来るに違いないことを、わたしは知っているからです。

44そのために、主は父に荒れ野へ出て行くように命[1]じられました。またユダヤ人が父の命を奪おうとしたこともありました。あなたがたもまた、父の命を奪おうとしたことがあります。したがって、あなたがたは心の中で人殺しをしたのであって、まるでユダヤ人のようです。

45あなたがたは罪悪を行うのは早[1]いけれども、主なるあなたがたの神を思い起こすのは遅い。あなたがたは一人の天使[2]に会い、その天使はあなたがたに語りかけました。まことに、あなたがたはその声を時々聞いています。天使は静かな細い声で語りかけましたが、あなたがたは心[3]が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした。それで天使は雷のような声であなたがたに語りかけ、その声は、まるで引き裂くほどに大地を揺り動かしました。

46またあなたがたは、主が全能の御言葉[1]の力をもって、この大地を過ぎ去らせることがおできになることを知っています。また主が、御自分の御言葉によ

---

40 ④ 申命4・37
41 ① 列下17・7−23
② 民数21・4−9、申命8・15、アル33・18−22
③ ヨハ3・13−15、2ニフ25・20
④ アル37・44−47、ヒラ8・15
42 ① 教義84・23−24
② 民数14・1−12、GS「背く」
44 ① 1ニフ2・1−2
② 1ニフ16・37
45 ① モサ13・29
② 1ニフ4・3
③ エベ4・19
46 ① ヒラ12・6−18
③

って起伏の激しい地を平らにし、平らな所を崩すことがおできになることを知っています。おお、それなのにどうしてあなたがたは、そのように心をかたくなにしていられるのですか。

47 まことに、わたしの心はあなたがたのことで苦しんで張り裂け、わたしの胸は痛みます。あなたがたがとこしえに捨てられてしまうことを、わたしは恐れます。まことに、わたしは神の御霊に満たされて、体の力がなくなりそうです。[1]

48 さて、わたしがこれらの言葉を語り終えると、兄たちはわたしに腹を立てて、わたしを海の深みに投げ込んでしまおうと思った。そして、兄たちがわたしを捕まえようとして近寄って来たところで、わたしは言った。「全能の神の御名によって命じる。わたしに手を触れるな。わたしは身が燃え尽きるほどに神の力に満たされているから、わたしに手をかける者はだれでも、枯れた葦のようにしおれてしまうであろう。また、神がその人を打たれるから、神の力の前に取るに足りない者となるであろう。」[1]

49 そして、わたしニーファイは兄たちに、これからもう父に対してつぶやいてはならないこと、また神がわたしに船を造るように命じられたので、わたしとともに働くことを拒んではならないことを話した。

50 わたしはまた彼らに言った。「どのようなことでも神がわたしに命じられれば、わたしにはそれができる。もし、神がわたしにこの水に向かって『陸になれ』と言うように命じられれば、水は陸になる。わたしがそう言えば、そのとおりになる。

51 主がこのように偉大な力をお持ちになって、これほど多くの奇跡を人の子らの中で行われたとすれば、どうしてわたしに一隻の船を造ることを教えられないことがあろうか。[1]」

52 さて、わたしニーファイが兄たちに多くのことを言ったので、兄たちは言い伏せられてわたしと言い争うことができず、それから長い間、あえてわたしに手をかけることも、指で触れることもしなかった。神の御霊が非常に力強かったので、兄たちはわたしの前で枯れてしまうことのないように、あえてそうしなかったのである。[1]神の御霊は、それほどまでに彼らに働きかけられたのであった。

53 そして主は、「あなたの手を、もう一度あなたの兄

---

47 ① ミカ 3・8
48 ① ② 1ニフ 19・20
48 ① モサ 13・3
48 ② 2ニフ 1・26−27、GS「力」
50 ① ③ 列上 13・4−7
50 ① ピリ 4・13、1ニフ 3・7
51 ① 創世 6・14−16、1ニフ 18・1
52 ① GS「聖霊」

たちに向けて伸ばしなさい。彼らはあなたの前で枯れはしないが、わたしは彼らの体を震えさせよう。こうするのは、わたしが主なる彼らの神であることを知らせるためである」と言われた。

54そこでわたしが、片方の手を兄たちに向けて伸ばすと、兄たちはわたしの前で枯れはしなかったが、主は語られた御言葉のとおりに彼らの身を震えさせられた。

55そこで兄たちは、「主がおまえとともにおられることが、確かに分かった。我々の身を震えさせたのが主の力であることが、分かっているからだ」と言い、わたしの前にひれ伏して、わたしを拝もうとした。しかし、わたしはそれをさせないで言った。「わたしはあなたがたの兄弟です。弟ではありませんか。ですから、主なるあなたがたの神を拝して、主があなたがたに授けてくださる地で長く暮らせるように、父と母を敬ってください。」

第18章

船が完成する。ヤコブとヨセフの誕生が述べられる。一行、約束の地に向かって出発する。イシマエルの息子たちとその妻たち、空騒ぎと反逆に加わる。ニーファイは縛られ、船はすさまじい暴風雨で吹き戻される。解き放されたニーファイが祈ると、嵐が静まる。一行、約束の地に着く。紀元前約五百九十一年から五百八十九年に至る。

1さて、兄たちは主を拝して、わたしとともに出かけた。そしてわたしたちは、材木を入念な造りにこしらえた。主は船材をどのようにこしらえるかを、わたしに度々示してくださった。

2またわたしニーファイは、人が学んだ方法で材木を細工することもなく、船も人の方法で造らなかった。わたしは、主がわたしに見せてくださった方法で船を造った。それで、それは人の方法とは違っていた。

3わたしニーファイは度々山の中へ行き、度々主に祈った。それで、主はわたしに大いなることを示してくださった。

4そして、わたしが主の言葉に従って船を造り上げると、兄たちはその出来栄えの良いのと、その造りが非常に見事なのを見た。それで兄たちは、再び主

55① 使徒14・11—15
20② 出エ20・12、モサ13・
第18章
3① GS「祈り」
② GS「啓示」

の前にへりくだった。

5 さて、主の声がわたしの父に聞こえ、わたしたちは立ち上がって船に乗り込むように言われた。

6 そしてその明くる日、わたしたちは主の命に従い、荒れ野でとった多くの木の実や肉、たくさんの蜂蜜、そのほかの食糧など、すべてのものの準備を終えてから、すべての荷物と種、また各々が年齢に応じて携えて来たすべての品物を持って、船に乗り込んだ。わたしたちは、妻子とともに一同が船に乗り込んだのである。

7 ところで父は、荒れ野にいた間に二人の息子をもうけており、兄の方をヤコブ、弟の方をヨセフといった。

8 さて、わたしたちは、命じられた食糧と品物を携えて、一同船に乗り終えると、海に乗り出し、約束の地に向かって追い風に吹かれて進んだ。

9 追い風に吹かれて多くの日が過ぎたところで、見よ、兄たちとイシマエルの息子たち、それにその妻たちは、浮かれて踊り歌い、多くの下品な話を始めた。まことに、彼らは、何の力によって自分たちがそこまで導かれて来たのかも忘れてしまうほどで、果ては非常に下品になってしまった。

10 それでわたしニーファイは、罪悪のために主が怒ってわたしたちを懲らしめられ、そのために、わたしたちが海の深みにのまれてしまうのではないかと、非常に恐れるようになった。そこでわたしニーファイは、兄たちに真剣に語り始めた。しかし、彼らはわたしに腹を立てて、「我々は弟に支配されたくない」と言った。

11 そしてレーマンとレムエルは、わたしを捕らえて縄で縛り、情け容赦なくわたしを扱った。それでも主は、悪人たちについてかねてから言われていた御言葉を成就して、御自分の力を現すために、これをそのままにしておかれた。

12 さて、彼らがわたしを縛って動けなくしてしまうと、主が用意された羅針盤の働きが止まってしまった。

13 そのため、彼らはどちらへ船を向けてよいか分からず、そのうえ大きな嵐、まことに激しくすさまじい暴風雨が起こり、わたしたちは三日間、海の上をもと来た方へ吹き戻された。彼らは海におぼれてしまうのではないかと非常に恐れたが、それでもわた

---

4 ① 1ニフ16・5
6 ① 1ニフ17・2
7 ① 2ニフ2・1
② 2ニフ3・1
8 ① 2ニフ10・20
② 1ニフ2・20、GS「約束の地」
10 ① 1ニフ17・17−55
② 創世37・9−11、1ニフ16・37−38、2ニフ1・25−27
11 ① アル14・11
12 ① 1ニフ16・10、16、26、2ニフ5・12、アル14・11
13 ① 37・38−47、教義17・1、モサ1・17

しを自由にしてはくれなかった。

14そして、風に吹き戻されてから四日目、暴風雨が非常に激しくなった。

15そこでわたしたちは、まさに海の深みにのまれてしまいそうであった。そして四日間、海の上を吹き戻されたところで、兄たちは神の裁きが自分たちに及んでおり、罪悪を悔い改めなければ滅びてしまうに違いないことに気づき始めた。それで彼らはわたしのもとに来て、わたしの手首を縛っていた縄を解いたが、見よ、わたしの両方の手首は大きくはれ上がり、両方の足首もまたひどくはれて、その痛みは激しかった。

16それでもわたしは神に頼り、一日中神を賛美し、わたしの遭った苦難のことで主に対してつぶやくことはしなかった。

17ところで父リーハイは、彼らに多くのことを語り、またイシマエル[1]の息子たちにも語ったが、見よ、彼らは、だれでもわたしのために言い開きをする人に対して、ひどい脅しの言葉を吐いた。両親は年も取っていて、また子供たちのためにひどく悲しい目に遭ったので、とうとう病の床に就いてしまった。

18両親は、深い憂いとひどい悲しみと、兄たちの罪悪のために、この世から連れ去られて神と顔を合わせるばかりの状態となった。まことに、彼らの白髪は、葬られて地の中に低く横たわるばかりであり、まことに悲しくも、二人が大海の墓に投げ込まれるのは間近いことであった。

19ヤコブとヨセフも幼くて、十分な栄養を必要としていたので、母の遭った苦難のことでつらい思いをした。また、わたしの妻[1]や子供たちも涙を流し、また祈ったが、兄たちの心が和らいでわたしを解き放すには至らなかった。

20兄たちを滅ぼそうと脅かした神の力のほかに、彼らの心を和らげることのできるものは何もなかった。そのようなわけで、兄たちは自分たちがまさに海の深みにのまれようとするのを見て、今までの行いを悔い改めて、わたしを解き放したのであった。

21さて、兄たちがわたしを解き放したところで、見よ、わたしが羅針盤を手に取ると、それはわたしが望むように動いた。そこで、わたしは主に祈りをささげた。祈り終えると風がやみ、嵐が収まり、きわめて穏やかになった。

---

15 ① ヒラ 12・3
16 ① アル 36・28
17 ① 1ニフ 7・4—20
19 ① 1ニフ 7・19、16・7

22そこでわたしニーファイは、船の舵を取り、再び約束の地に向かって船を走らせた。
23そして、幾日も航海した後、わたしたちは約束の地に着いた。そして陸に上がって天幕を張り、そこを約束の地と名付けた。
24そしてわたしたちは、地を耕して種をまき始めた。まことに、エルサレムから持って来た種をすべて地にまいた。すると、この種は非常によく育った。そして、わたしたちは豊かな祝福を受けた。
25そしてわたしたちは、荒れ野の中を旅したとき、この約束の地には森の中にあらゆる獣、すなわち雌牛と雄牛、またろばと馬、やぎと野やぎ、そのほか人の役に立つあらゆる獣がいるのを知った。またわたしたちは、金や銀や銅など、あらゆるあらがねも見つけた。

第19章

ニーファイ、あらがねで版を造り、民の歴史を記録する。イスラエルの神は、リーハイがエルサレムを去ってから六百年で来られる。ニーファイ、イスラエルの神が受けられる苦しみと十字架の刑について述べる。ユダヤ人は末日になるまでさげすまれ、散らされて、末日には主に立ち返る。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1さて、わたしは主に命じられたので、民の記録を刻むためにあらがねで版を造った。そして、その版に父の記録と荒れ野での旅のこと、父の預言、またわたし自身が語った多くの預言を刻んだ。
2わたしがその版を造ったときには、後に主から、別にこの版を造るように命じられるとは知らなかった。したがって、父の記録や先祖の系図、それに荒れ野での行動の大部分は、わたしが先に述べた最初の版に刻んである。それで、わたしがこの版を造る前に起こったことは、まことにいっそう詳しく最初の版に述べられている。
3主の命令によってこの版を造った後で、わたしニーファイは、務めと預言、すなわちそれらの中で分かりやすくて貴重な部分を、この版に書き記すように命じられた。また、これからこの地を所有するわたしの民を教えるために、それにまた主が御存じである賢明な目的のために、この版に書き記されたこ

23① GS「約束の地」
第19章
1① GS「版」
② 1ニフ1・16－17、6・1－3
2① 2ニフ5・30
② 1ニフ9・1－5
3① ヤコ1・1－4、3・13－14、4・1－4
② 1ニフ9・4－5、モ言1・7、教義3・19－20、10・1－51

とを保存するようにとの命を受けた。

4 それでわたしニーファイは、民の戦争と争いと滅亡のいきさつをいっそう詳しく述べる話を、ほかの版に記録した。わたしはこれを行ってから、わたしの死んだ後になすべきことを民に命じ、また主が後に命じられるまでは、これらの版を代々譲り伝え、また預言者から預言者へ譲り伝えるように命じた。

5 わたしはまた、後にこの版を[1]造ったいきさつを述べるので、見よ、今はわたしがこれまで話したことに従って書き進める。わたしがこうするのは、より神聖な事柄が[2]保存されて、それが民にとって知識となるようにしたいと思うからである。

6 それでもわたしは、[1]神聖であると思うことでなければ、何事も版に書き記さない。そのようにすることで、もしもわたしが誤りを犯すなら、昔の人でも誤りを犯したのであるが、他人の例を引いて申し開きをするのではなく、ただ、肉においてのわたしの[2]弱さのためであると申し開きをしよう。

7 ある人々が肉体にも霊にも大いに価値があると思うことを、ほかの人々が何とも思わないで足の下に踏みつけることがある。まことに、イスラエルのまことの神ですら人々は足の下に踏みつける。足の下に踏みつけると言ったが、言い換えれば、彼らは神を取るに足りない者とし、その勧めの声に聞き従わないということである。

8 そして見よ、天使の言葉によれば、イスラエルの神は、父がエルサレムを去ってから六百年後に[1]おいでになる。

9 しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。

10 わたしたちの先祖の[1]神、すなわち、わたしたちの先祖を奴隷の状態から救って、エジプトから[2]導き出し、荒れ野の中で彼らを守られた神、まことに、[3]アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は、あの天使の言葉のように一人の人として悪人たちの手に身をゆだねて、ゼノクの言葉のように[6]上げられ、ニア

5 ① 2ニフ5・28−33　② GS「聖文−保存されるべき聖文」
6 ① 『モルモン書』のタイトル・ページを参照。　② GS「聖い」モル8・13−17、エテ12・23−28
7 ① 2ニフ33・2、ヤコ4・14　② GS「背く」
8 ① 1ニフ10・4、2ニフ25・19　② GS「イエス・キリスト−降誕と死に関する預言」
9 ① イザ50・5−6、マタ27・30
10 ① 2ニフ26・12、モサ7・27、27・30−31、アル11・38−39、3ニフ11・14−15　② 出エ3・2−10、6・1ニフ5・15、教義136・22　③ 創世32・9、モサ7・19、教義136・21、GS「エホバ」　④ GS「贖罪」　⑤ アル33・15、34・7、ヒラ8・19−20、3ニフ10・15−16、GS「聖文−失われた聖文」「ゼノク」　⑥ 3ニフ27・14

ムの言葉のように十字架につけられ、ゼノスの言葉のように墓に葬られるのである。ゼノスは三日間の暗闇について語ったが、それはこの御方が亡くなられるときのしるしであって、海の島々に住む者たち、特にイスラエルの家に属する者に与えられるしるしである。

11 預言者ゼノスは言った。「その日、主なる神は必ずイスラエルの家に属するすべての者に臨み、ある者には、彼らの義のゆえに御声をもって臨んで大きな喜びと救いを与え、またほかの者には、御力の起こす雷鳴と稲妻をもって、暴風雨、火、煙、暗黒の霧、地割れ、盛り上がる山々をもって臨まれる。」

12 預言者ゼノスはさらに言う。「これらのことは、すべて必ず起こる。そして地の岩は必ず裂ける。また大地がうなりを起こすので、海の島々にある多くの王は神の御霊に動かされて、『万物の神が苦しみに耐えておられる』と叫ぶ。」

13 またその預言者は言う。「エルサレムにいる者たちについて言えば、彼らはイスラエルの神を十字架につけ、自分たちの心を背けて、しるしも不思議も、またイスラエルの神の力と栄光をも顧みないために、すべての民から鞭打たれる。」

14 その預言者はまた言う。「彼らは心を背けて、イスラエルの聖者をさげすむので、肉にあってさまよい、滅びうせ、すべての国民の中であざけられ、笑いぐさとなり、憎まれる。」

15 その預言者はさらに言う。「それでも、彼らがもはやイスラエルの聖者に心を背けなくなる日が来れば、イスラエルの聖者は彼らの先祖と交わした聖約を思い起こされる。」

16 まことにそのときに、イスラエルの聖者は海の島々を思い起こされる。そして主は、預言者ゼノスの言葉のように、「わたしはイスラエルの家に属する民を、すべて地の四方から集めよう」と言われる。

17 その預言者は、「全地の人々は主の救いを見るようになり、すべての国民、部族、国語の民、民族が祝福される」と言う。

18 わたしニーファイがこれらのことを民に書き記してきたのは、主なる彼らの贖い主を覚えるように彼らを説得できると思ったからである。

19 したがってわたしは、イスラエルの家のすべての者がこれらの記録を手に入れたときのために、イス

---

10 ⑦ 2ニフ6・9、モサ3・9、GS「十字架の刑」
11 ⑧ ヤコ6・1、ヒラ15・11、GS「ゼノス」
⑨ マタ27・60、ルカ23・53
⑩ 1ニフ12・4—5、ヒラ14・20、27、3ニフ8・3、19—23、10・9
⑪ 3ニフ9・1—22、3ニフ16・1—4
12 ① 教義5・16
② ヒラ14・20—27、3ニフ8・5—23
③ ルカ23・44—45、3ニフ8・19—20
④ 2ニフ26・5
⑤ 3ニフ8・10
13 ① ヤコ5・1
② ヒラ14・20—28
③ マタ27・51
14 ① 2ニフ10・3
② ルカ23・27—30
③ イザ53・3—6、モサ14・3—6
15 ① 1ニフ22・11—12
② GS「アブラハムの聖約（契約）」
16 ① 1ニフ22・4、2ニフ10・21
② イザ49・20—22、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
17 ① イザ40・4—5
② エノ1・16、モル5・12、7・9—10
18 ① 2ニフ6・9、モサ3・9、GS「十字架の刑」
② ヤコ6・1、ヒラ15・7、3ニフ16・9
③ 申命28・37、列上9・7、3ニフ22・11—12
19 ① ルカ23・27—30
② イザ53・3—6、モサ14・3—6

ラエルの家のすべての者に向かって語るのである。

20 見よ、エルサレムにいる人々のために、わたしの心は大いに立ち騒いでおり、全身の関節が緩むほど、わたしは疲れ果てている。もし主が、昔の預言者たちに示されたように、わたしを憐れんで、エルサレムにいる人々のことをわたしにも示されなかったら、わたしもまた滅びてしまっていたからである。

21 主は確かに、昔の預言者[1]たちに、エルサレムにいる人々についてすべてのことを示され、またわたしたちについても多くの預言者に示された。それでこれらのことは、真鍮の版に書き記されているので、当然のことながら、わたしたちは彼らについて知っているのである。

22 さて、わたしニーファイは、兄たちにこれらのことを教えた。そして、主がほかの地で昔の人々の中で行われたことを、兄たちも知ることができるように、真鍮[1]の版に刻まれている多くのことを読んで聞かせた。

23 わたしはまた、モーセ[1]の書に書き記してある多くのことを読んで聞かせたが、主なる贖い主を信じるようさらに十分に勧めるために、預言者イザヤ[2]が記したことを彼らに読んで聞かせた。すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益[4]となり、知識となるようにするためであった。

24 それでわたしは兄たちに言った。「この預言者[3]の言葉を聞いてください。イスラエルの家の残りの者であって、元木から折られた一本の枝[1]である兄さんたち、イスラエルの家のすべての者に向けて書き記された預言者の言葉を聞いてください。そしてあなたがたの同胞、すなわちあなたがたはその同胞から折り取られた者ですが、その同胞と同様に望みを抱くことができるように、その言葉を自分自身に当てはめてください。この預言者はそのように書き記しているからです。」

第20章

主はイスラエルに御自分の目的を示される。苦難の炉の中で選ばれたイスラエルは、バビロンから出る。イザヤ書第四十八章と比較せよ。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

---

21 ① 列下17・13、アモ3・7、GS「預言者」
22 ① 3 ニフ10・16−17
② 1 ニフ22・1
23 ① 5・11、モセ1・40−41
② 1 ニフ15・20、2 ニフ25・4−6、3 ニフ23・1
③ GS「聖文−聖文の価値」
24 ① 2 ニフ4・15
④ 1 ニフ15・12、2 ニフ3・4−5 創世49・22−26、

1「イスラエルという名で呼ばれ、ユダの水から、すなわちバプテスマ[1]の水から出て、主の名によって誓い、イスラエルの神のことを口にしながら真実をもって誓わず、義をもっても誓わないヤコブの家よ、耳を傾けてこれを聞け。

2しかし彼らは、自ら聖[1]なる都の者であると言いながら、万軍の主であるイスラエルの神にとどまることをしない。まことに、万軍の主とは主の名である。

3『見よ、わたしは、先[1]にあったことを世の初めから告げ知らせてきた。それらはわたしの口から出、わたしはそれらを示した。わたしはにわかにそれらを示したのである。

4わたしがそれを行ったのは、あなたが強情[1]で、あなたの首が鉄の筋であり、あなたの額が真鍮であることを知っていたからである。

5そこでわたしは、まさに世の初めからあなたに告げ知らせてきた。それが起こるに先立って、それらをあなたに示した。それらのことを示したのは、「わたしの偶像[1]がそれらのことをした。わたしの彫像とわたしの鋳像がそれらのことを命じた」とあなたが言うことのないようにするためである。

6あなたはこのことをすべて見聞きしてきた。それでもあなたは、それらのことを告げ知らせずにおくだろうか。これからわたしが示す新しいこと、隠されていたことさえも、告げ知らせずにおくだろうか。それらはあなたの知らなかったことである。

7それらのことは、今造られたのであって、初めからあったのではない。あなたがそれらのことを聞く前から、それらのことは告げ知らされていた。それは、「見よ、わたしはそれらを知っている」とあなたが言うことのないようにするためである。

8まことに、あなたは聞かなかった。まことに、あなたは知らなかった。まことに、あのときからあなたの耳は開かれなかった。それはあなたがひどく不真実で、また生まれながらにして背く[1]者と呼ばれたことを知っていたからである。

9にもかかわらず、わたしはわたしの名[1]のために怒りを延ばし、わたしの誉れのために自らを制して、あなたを絶つことをしない。

10見よ、わたしはあなたを精錬し、苦難[1]の炉の中であなたを選んだからである。

第20章
1 ① GS「バプテスマ」
2 ① イザ52・1、GS「エルサレム」
3 ① 頼る、の意
4 ① イザ46・9−10
5 ① イスラエルのこと
8 ① GS「偶像礼拝」
9 ① 詩篇58・3
10 ① サ上12・22、詩篇23・3、1ヨハ2・12
GS「逆境」

11 わたし自身のために、まことにわたし自身のためにわたしはこのことを行う。それは、わたしはわたしの名が汚されるのを許さず、またわたしの栄光をほかの者に与えようとは思わないからである。
12 おお、ヤコブよ、わたしが召したイスラエルよ、わたしに聞き従え。わたしは神である。わたしは初めであり、また終わりである。
13 わたしの手は地の基を据え、わたしの右の手は天を測った。わたしが天地を呼ぶと、天地はともに立つ。』
14 あなたがたすべての者よ、皆集まって聞け。彼らの中でこれらのことを彼らに宣べたのはだれか。その人を主は愛された。まことに、その人は、彼らを通して告げ知らせてきた自らの言葉を成就し、その望むままをバビロンに行い、その腕をカルデヤ人のうえに下す。
15 主はまた、『主であるわたし、まことにわたしが語った。まことに、わたしは告げ知らせるためにその人を召し、その人を連れて来た。彼は自らの道を栄えさせるであろう』と言われる。
16 わたしに近づけ。わたしはひそかに語ったことはない。初めから、それが告げ知らされたときからわたしは語ってきた。そして、主なる神と主の御霊がわたしを遣わされた。
17 あなたの贖い主、イスラエルの聖者なる主はこのように言われる。『わたしがその人を遣わした。あなたの益となるように教え、あなたをその行くべき道に導く、主なるあなたの神がこれを行った。
18 おお、あなたはわたしの戒めに聞き従ったらよかったものを。そうすればあなたの平安は川のようで、またあなたの義は海の波のようであったであろう。
19 またあなたの子孫は砂のようであったであろう。あなたの腹から生まれる子は砂の粒のように多くなり、その子の名はわたしの前から絶たれることも、滅ぼされることもなかったであろう。』
20 バビロンから出よ。カルデヤから逃れよ。あなたがたは歌声をもって宣べ、これを伝え、地の果てに至るまで告げ知らせよ。すなわち、『主はその僕ヤコブを贖われた』と言え。
21 彼らは渇くことがなかった。主が彼らを導いて砂漠を行かせ、彼らのために岩から水をわき出させら

11 ① エレ44・26　② イザ42・8、モセ4・1—4
12 ① 黙示1・17、22・13、GS「アルパとオメガ」「長子・初子」
13 ① 詩篇102・25、GS「創造・創造する」
14 ① 列上8・56、教義64・31　② 76・3、GS「バビロン・バベル」
16 ① イザ45・19
17 ① GS「贖い主」「啓示」「霊感」
18 ① 伝道8・5　② 創世22・15—19、ホセ1・10
19 ① エレ51・6、教義133・5—14
20 ① イザ44・1—2、21　② イザ41・17—20
21 ① 出エ17・6、民数20・11、1ニフ17・29、2ニフ25・20

れた。岩を割られると水がほとばしり出たのである。

22すべてこのことや、これよりもさらに偉大なことを行ってきたにもかかわらず、『悪人には1)平安がない』と主は言われる。」

第21章

メシヤは異邦人の光となり、捕らえられている者を解放される。終わりの時に、イスラエルは力をもって集められる。王たちが彼らの養父となる。イザヤ書第四十九章と比較せよ。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1「再び言う。聴け、おお、あなたがたイスラエルの家よ、わたしの民の牧者たちの悪事のために折り取られ、追い出されたあなたがたすべての者よ、まことに、わたしの民であって、折り取られ、広く散らされたあなたがたすべての者よ、おお、イスラエルの家よ。おお、1)もろもろの島よ、わたしに耳を傾けよ。あなたがた2)遠くの民よ、聴け。わたしが胎内にいたときから主はわたしを召し、わたしが母の腹の中にいるときから主はわたしの名を口にされた。

2主は、わたしの口を鋭い剣のようにして、御手の陰にわたしを隠し、わたしを研ぎ澄ました矢として、その矢筒の中にわたしを隠された。

3そしてわたしに言われた。『おお、イスラエルよ、あなたはわたしの1)僕である。わたしはあなたによって栄光を得よう。』

4そのとき、わたしは言った。『わたしはいたずらに働き、益なくむなしく力を費やした。まことに、わたしへの裁きは主とともにあり、わたしの働きは神とともにある。』

5わたしが1)胎内にいたときから、ヤコブを再び主に連れ戻すためにわたしを僕とされた主は言われる。『イスラエルがたとえ集められなくても、わたしは主の目にかなって栄光を得、わたしの神はわたしの力となる。』

6主は言われた。『あなたをわたしの僕としてヤコブの1)もろもろの部族を起こさせ、イスラエルの守られてきた者たちを回復させるのは、小さなことである。わたしはまたあなたを異2)邦人の3)光とし、地の果てまでわたしの救いとしよう。』

22① GS「平安・平和」
第21章
1① 1ニフ22・4、2ニフ10・20—22
② 教義1・1
3① レビ25・55、イザ41・8、教義93・45—46
5① イザ44・24
6① GS「イスラエル—イスラエルの十二部族」
② 3ニフ21・11
③ 教義103・8—10、アブ2・10—11

7 イスラエルの贖い主、イスラエルの聖者なる主は、人に侮られる者、もろもろの国民に忌み嫌われる者、治める者の僕に向かって、『主が真実であるためにもろもろの王は見て立ち上がり、もろもろの王子も拝する』と言われる。

8 主はこう言われる。『おお、海の島々よ、わたしは心にかなったときにあなたの言葉を聞き、救いの日にあなたを助けた。わたしはあなたを守り、民への聖約として、[1]わたしの僕をあなたに与えて地を築かせ、荒れ果てた受け継ぎの地をあなたに継がせよう。

9 あなたは捕らえられている者たちに「出よ」と言い、[2]暗闇に座している者たちに「現れよ」と言うことができる。彼らは道すがら食物を食べ、その[3]牧場はすべての高い所にある。

10 彼らは飢え渇くことがなく、熱も太陽も彼らを悩ますことはない。彼らに憐れみの心を持つ者が彼らを導き、泉のほとりに彼らを連れて行くからである。

11 わたしはあらゆる山を道とし、わたしの[1]大路を高くする。

12 そして、おお、イスラエルの家よ、見よ、これらの者は遠くから来る。見よ、これらの者は北から、西から、またシニムの地から来る。『

13 おお、[1]天よ、歌え。おお、地よ、喜べ。東にいる者たちの歩みが定まるからである。おお、もろもろの山よ、声を放って歌え。彼らはもはや打たれることがないからである。主は御自分の民を慰め、また苦しむ者に憐れみをかけられるからである。

14 しかし見よ、シオンは言った。『主はわたしを見捨てられた。わたしの主はわたしを忘れられた。』しかし、主はそうされなかったことを示される。

15 『[1]女が乳飲み子を忘れ、自分の産んだ子を哀れまないことがあろうか。まことに、たとえ女たちが[2]忘れようとも、おお、イスラエルの家よ、わたしはあなたを忘れない。

16 見よ、わたしはあなたを、わたしの手のひらに彫り刻んだ。あなたの石垣はいつもわたしの前にある。

17 あなたの子孫は、あなたを滅ぼす者たちに速やかに立ち向かい、あなたを荒らした[1]者たちは、あなたから出て行く。

---

8 ① 2ニフ3・6—15、3ニフ21・8—11、モル
9 ① GS「死者の救い」
11 ① 2ニフ3・5 ② エゼ34・14 ③ イザ62・10、教義133・23—32
12 ① イザ43・5—6
13 ① イザ44・23
15 ① GS「女」 ② イザ41・17、アル46・8、教義61・36
17 ① 3ニフ21・12—20

18 あなたの目を上げて辺りを見回せ。これらの者は、皆 集まってあなたのもとに来る。[1]』主はまた言われる。『わたしが生きているように確かに、あなたは彼らを皆飾り物のように身にまとい、花嫁のように彼らを帯に結ぶ。

19 あなたの荒れ衰えた所、あなたの荒廃した所、そしてあなたの滅びの地は、今に人が住むには狭すぎるようになり、あなたをのみ尽くした者たちは遠く離れ去る。

20 あなたが最初の子供たちを失った後に授かる子供たちは、再びあなたの耳もとで言う。「この場所はわたしには狭すぎます。わたしが住めるように場所を与えてください。」

21 そのとき、[1]あなたは心の中で言う。「だれがこれらの者を産んだのか。わたしは自分の子供たちを失い、[2]子供を授からず、囚われの身となってあちらこちらをさまよい歩いたのに。だれがこれらの者たちを育てたのか。見よ、わたしは独り残されていたのに、これらの者たちはどこにいたのか。」』

22 主なる神はこう言われる。『見よ、わたしは異邦人[1]に向かって手を挙げ、もろもろの民に向かってわたしの旗を掲げよう。[2]すると彼らはあなたの息子たちを腕に抱き、[3]あなたの娘たちを肩に乗せて来る。

23 王[1]たちはあなたの養父[2]となり、王妃たちはあなたの養母となる。彼らは顔を地に向けてあなたに身をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあなたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を受けないからである。[3]

24 勇士から獲物をどうして取り返せようか。また正[1]当な捕虜をどうして救い出せようか。』

25 しかし、主はこのように言われる。『勇士の捕らえた捕虜さえ取り返され、荒々しい者に奪われたものさえ奪い返される。わたしはあなたと争う者と争い、またあなたの子供たちを救うからである。

26 わたしは、あなたを虐げる者に彼ら自身の肉を食わせる。[1]彼らは、甘いぶどう酒に酔うように自分の血に酔う。こうしてすべての者は、主なるわたしがあなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力ある[2]者であることを知るようになる。[3]』

第22章

イスラエルはやがて地の全面に散らされる。終わり

---

18 ① ミカ4・11—13
21 ① シオンのこと
② イザ54・1、ガラ4・27
22 ① イザ66・18—20
② イザ11・12、18・3
③ 1ニフ22・8、2ニフ10・8—9
23 ① イザ60・16
② 1ニフ22・6
③ 2ニフ6・13、教義98・2、133・10—11、45・24
24 ① 1ニフ21・25
26 ① 1ニフ22・13—14
② GS「エホバ」
③ モサ11・22

の時に、異邦人は福音でイスラエルを養い育てる。イスラエルは集められて救われる。悪人はわらのように燃える。悪魔の王国は滅ぼされ、サタンは縛られる。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1さて、わたしニーファイが、1)真鍮の版に刻んであるこれらのことを読み終えると、兄たちがやって来てわたしに言った。「おまえが読んだこれらのことはどういう意味なのか。見よ、これらのことは肉によるのではなく、霊によって起こる霊的なこととして解釈するのか。」

2そこでわたしニーファイは、彼らに言った。「これらのことは1)御霊の声によって、その預言者に2)示され3)たものです。すべてのことは御霊によって預言者たちに知らされ、肉において人の子らに起こるからです。

3ですからわたしが読んだことは、1)現世のことにも霊的なことにもかかわることです。イスラエルの家は遅かれ早かれ地の全面に、またすべての国民の中に2)散らされると思われるからです。

4まことに、エルサレムにいる人たちにとって、すでに行方の分からなくなっている人が大勢います。まことに、1)全部族の大半がすでに連れ去られ、2)海の島々のここかしこに散らされています。わたしたちは、彼らが連れ去られたことだけは知っていますが、どこにいるかはだれも知りません。

5これらのことは、彼らが連れ去られて以来彼らにかかわることとして預言されており、また、これからイスラエルの聖者によって散り乱されるすべての人についても預言されています。それは、彼らがイスラエルの聖者に対して心をかたくなにし、そのためにすべての国民の中に散らされ、すべての人から1)憎まれるようになるからです。

6にもかかわらず、彼らが1)異邦人に2)養い育てられた後、主は異邦人のうえに御手を挙げ、異邦人を旗として立てられます。そして異邦人は、3)イスラエルの子らを腕に抱き、娘らを肩に乗せて来ます。まことに、ここで言われていることは必ずこの世で起こることです。主がわたしたちの先祖と、そのように聖約を交わされたからです。これらのことは、これからのわたしたちのことを指し、またイスラエルの家に属するすべての同胞のことも指しているのです。

第22章
1 ①1ニフ19・22、2ニフ4・2
2 ①GS「聖霊」
②GS「預言」
③2ペテ1・19−21
3 ①教義29・31−34
②1ニフ10・12−14、2ニフ25・14−16、GS「イスラエル−イスラエルの散乱」
4 ①GS「イスラエル−行方の知れない十部族」
②2ニフ10・22
③1ニフ21・1、2ニフ10・8、20
5 ①1ニフ19・14
6 ①GS「異邦人」
②1ニフ21・23
③1ニフ15・13

7 またそれは、イスラエルの家に属するすべての者がことごとく散り乱されてから、主なる神がまことにこの地の面において、[1]異邦人の中に一つの強大な国民を起こされ、彼らによってわたしたちの子孫が散らされる時が来ることを指しています。

8 そして、わたしたちの子孫が散らされてから、主なる神はわたしたちの子孫にとって大いに[1]価値のある[2]驚くべき業を、[3]異邦人の中で始められます。それでこれは、わたしたちの子孫が異邦人に養われ、その腕に抱かれ、その肩に乗せられて来るのにたとえられます。

9 それは、異邦人にとっても[1]価値のあるものです。また、異邦人だけでなく、[2]イスラエルの家に属する[3]すべての者にとっても価値のあるものであって、天の御父がアブラハムに対して、『あなたの[4]子孫により、地のすべての部族は[5]祝福を受けるであろう』と言われた[6]聖約が、これで知らされるのです。

10 天の御父が、もろもろの国民の目の前にその[1]御腕を現されないかぎり、地のすべての部族が祝福を受けることはないということを、わたしは兄さんたちに知ってほしいと思います。

11 それで主なる神は、イスラエルの家に属する者たちに聖約と福音をもたらし、やがて、すべての国民の目の前にその御腕を現されるのです。

12 それで主は、イスラエルの家の者たちを囚われの身から再び連れ出されます。彼らはその受け継ぎの地に[1]集められます。そして[2]暗闇から、また暗黒から連れ戻されます。彼らは、[3]主が自分たちの救い主、[4]贖い主、イスラエルの[5]力ある者であることを知るのです。

13 また、全地の淫婦であるあの大きな[1]忌まわしい教会の人々の流した血は、彼ら自身の頭にはね返ります。彼らは互いに[2]戦争をして、[3]自分の手に持つ剣を自分の頭上に落とし、自分自身の血を飲んで酔うからです。

14 おお、イスラエルの家よ、あなたと戦うすべての[1]国民は互いに敵対し、主の民を陥れようとして掘った穴に自分が[2]落ちてしまうでしょう。そしてシオンに向かって[3]戦う者は皆滅び、主の正しい道を曲げたあの大淫婦、まことに、あの大きな忌まわしい教会は[4]地に崩れ落ちますが、その倒れ方はひどいでしょう。

---

7 ① 3 ニフ 20・27
② 1 ニフ 13・12−14、
8 ① 1 ニフ 15・13−18、
② 2 ニフ 1・11
3 ニフ 5・21−26、21・7
14 ① 7、2 ニフ 27・26、
② イザ 29・14、1 ニフ 16・4−7、モル 3 ニフ 10・10−11、
③ GS 「福音の回復」
9 ① 1 ニフ 14・1−5
② 2 ニフ 29・13−14
③ 2 ニフ 30・1−7
④ GS 「アブラハムの聖約（契約）」
⑤ 創世 12・2−3、3 ニフ 20・27、アブ 2・9−11
⑥ 申命 4・31
10 ① イザ 52・10
12 ① GS 「イスラエル−イスラエルの集合」
② GS 「暗闇（霊的な）」
③ 2 ニフ 6・10−11
④ GS 「救い主」
⑤ GS 「エホバ」
13 ① GS 「悪魔 − 悪魔の教会」
1 ニフ 14・3、15−17
② 1 ニフ 21・26
14 ① 1 ルカ 21・10
② イザ 60・12、1 ニフ 14・3、教義 109・25
③ 2 ニフ 10・13、27・
④ 3 イザ 25・12

15 まことに、預言者は言っています。『サタンがもはや人の子らの心を支配できなくなる時が、速やかに来る。すべて高ぶる者と悪を行う者がわらのようになる日が、すぐに来るからである。彼らが焼かれる日が来る。

16 すべての人の子らに神の満ちみちる激しい怒りが注がれる日が、速やかに来る。神は、悪人が義人を滅ぼすのを許されないからである。

17 そのため神は、満ちみちる激しい怒りを下し、義人を守るために火をもって敵を滅ぼすことになっても、御自分の力によって義人を守られる。したがって、義人は恐れるには及ばない。たとえ火によってでも、彼らは救われるであろう。』預言者はそのように言っています。

18 まことに、兄さんたち、あなたがたに言います。これらのことは間もなく必ず起こります。まことに、血と、火と、立ち込める煙は必ず及びます。これらのことは、この大地の面で起こるに相違なく、人々がイスラエルの聖者に対して心をかたくなにするならば、肉において人々に及ぶのです。

19 まことに義人は滅びません。シオンに敵対して戦う者たちがすべて絶たれる時が、必ず来るからです。

20 そして主は、確かに御自分の民のために方法を設けて、モーセの言葉を成就されます。モーセは言いました。『主なるあなたがたの神は、あなたがたのために、わたしのような預言者を一人お立てになる。その預言者があなたがたに語るすべてのことに耳を傾けなさい。その預言者に耳を傾けない者はすべて、民の中から絶たれるであろう。』

21 さて、わたしニーファイはあなたがたに言明します。モーセが語ったこの預言者とはイスラエルの聖者のことです。ですからこの御方は、義をもって裁きをされます。

22 義人は打ち破られることのない人々ですから、恐れるには及びません。恐れるのは悪魔の王国であって、これは人の子らの中に築かれる王国で、肉体を持つ人々の中に設けられます。

23 利を得るために設けられるすべての教会、人のうえに支配権を得ようと設けられるすべての教会、世の人々の目にかなって評判を得るために設けられる教会、肉欲やこの世のものを求め、あらゆる罪悪

---

15 ①1・10、マラ4・1、2ニフ15・24、26・4−6、教義64・23−24、133・64
16 ①1ニフ14・17
17 ①1ニフ17・33−40　②2ニフ30・10、モセ7・61
20 ①ヨハ4・19、7・40　②教義133・63
21 ①申命18・15、18、使徒3・20−23、1ニフ10・4、3ニフ20・23　②詩篇98・9、モセ6・57
23 ①1ニフ14・10、2ニフ26・20、GS「偽善売教」　②ルカ6・26、アル1・3
25 ②1、教義29・9、GS「地球（地）—地球の清め」

を行う教会、要するに、悪魔の王国に属するすべての教会が恐れて震えおののく日が、速やかに来ます。これらの教会は地に引き倒され、わらのように焼き尽くされなければならないのです。これはあの預言者の言葉のとおりです。

24また、義人が牛舎から出る子牛のように必ず導かれ、イスラエルの聖者が主権と威勢と力と大いなる栄光をもって必ず統治される日が、速やかに来ます。

25そして聖者は、地の四方からその子らを集め、その羊を数えられ、羊は聖者を知るようになります。それから一つの群れ、一人の羊飼いとなって、聖者は御自分の羊を養われ、羊は聖者によって牧草を見いだします。

26また、聖者の民の義のために、サタンはまったく力を持たず、長い年月にわたって解き放されることはありません。民が義のうちに住み、イスラエルの聖者が統治されるので、サタンは彼らの心を支配する力を持たないからです。

27さてまことに、わたしニーファイはあなたがたに言います。これらのことはすべて、必ず肉において起こるのです。

28しかしまことに、すべての国民、部族、国語の民、民族は、もしも悔い改めるならば、イスラエルの聖者によって安全に暮らせるでしょう。

29ところでわたしニーファイは、これらのことについてあえてこれ以上語ろうと思わないので、これで終わりにします。

30そこで兄さんたち、わたしはあなたがたに、真鍮の版に書き記されている事柄が真実であることを知ってほしいのです。これらの事柄は、人が神の戒めに従順でなければならないことを証しています。

31ですから、わたしと父だけが証をし、神の戒めを教えたのだと考える必要はありません。あなたがたは、神の戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に救われるでしょう。まことにそのとおりです。アーメン。」

---

23 ③ 2ニフ28・19
2ニフ26・6
24 ① ④ アモ6・4、マラ4・3
ニフ25・2
25 ① GS「イスラエル―イスラエルの集合」
② GS「良い羊飼い」
26 ① ③ 詩篇23篇
黙示20・2、アル48・17、教義43・31、45・55、88・110、101・28、GS「悪魔」
② ヤコ5・76
28 ① ③ GS「福千年」
GS「悔い改め」「赦し」
30 ① 2ニフ4・2
31 ① マタ19・17、GS「戒め（神の）」

ニーファイ第二書

リーハイの死。ニーファイの兄たち、ニーファイに背く。主、ニーファイに荒れ野へ立ち去るように警告される。荒れ野での旅など。

第1章

リーハイ、自由の地について預言する。リーハイの子孫は、イスラエルの聖者を拒むならば散らされ、打たれる。リーハイ、義の武具を身に着けるように息子たちに勧める。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1さて、わたしニーファイが兄たちに教え終えてから、1)父のリーハイもまた多くのことを兄たちに話し、主が彼らをエルサレムの地から連れ出すに当たり、どれほど大いなることをなさったかを彼らに語った。

2父はまた、彼らが海の上で1)背いたことや、神が彼らを憐れんで、海にのみ込まれないように命を助けてくださったことについて、彼らに語った。

3さらに父は、彼らが得た約束の地について話し、また、エルサレムの地から逃れるように警告してくださった主がいかに憐れみ深い御方であるかを、彼らに語った。

4見よ、父は言った。「わたしは1)示現を受け、エルサレムがすでに滅びてしまったことを知っている。2)エルサレムに残っていたら、わたしたちもまた3)滅びていたであろう。」

5父は言った。「しかし、わたしたちはいろいろな苦難に遭ったにもかかわらず、1)約束の地を手に入れた。これはほかのあらゆる地に勝ったえり2)抜きの地であって、主なる神がわたしの子孫の受け継ぎの地としてわたしに聖約してくださった地である。まことに、主はこの地を、わたしやわたしの子孫にとこしえに下さると3)聖約され、また主の御手によってほかの国々から導かれて来るすべての人にも与えると聖約された。

6それでわたしリーハイは、わたしの内にある御霊の働きによって預言する。すなわち、主の御手によ

ニーファイ第二書

第1章

1 ① GS「族長」
2 ① ニフ18・9−20
4 ① GS「示現」
② 列下24・14−15、エレ44・2、1ニフ1・4、ヒラ8・20
5 ① ③ アル9・22
② GS「約束の地」
③ エテ2・9−10
GS「聖約（契約）」

って導かれて来るのでなければ、だれもこの地に来ることはない。

7 したがって、この地は主が連れて来られる者のために聖別されている。もしこの人々が主から与えられた戒めに従って主に仕えるならば、ここは彼らにとって自由の地となり、彼らは決して囚われの身に陥ることがないであろう。もし囚われの身に陥るならば、それは罪悪のためである。罪悪がはびこると[1]き、地は罪悪を犯す人々のためにのろわれるが、義人のためにはとこしえに祝福されるからである。

8 見よ、この地を今なおほかの国民に知られないようにしておくのは、賢いことである。見よ、多くの国民が群がって来て、受け継ぎの地がなくなってしまうからである。

9 それで、わたしリーハイは約束を受けている。すなわち、主なる神によってエルサレムの地から連れて来られる人々は、主の命令を守るかぎりこの地の面で栄え、またほかのすべての国民からも離されて、この地を自分のものとして所有する。そして彼らは、主の命令を守るならばこの地で祝福を受け、彼らを苦しめる者はなく、またその受け継ぎの地を取り上げる者もなく、とこしえに安全に暮らせるのである。

10 しかし見よ、彼らが主の御手から非常に大きな祝福を受けた後、すなわち、彼らが地とすべての人の創造についての知識を得、世の創造以来の主の大いなる驚くべき業を知り、信仰によってすべてのことを行う力を与えられ、世の初めからの戒めをことごとく授かり、しかも主の限りない慈しみによってこの貴い約束の地へ連れて来られた後に、不信仰に陥る時が来ると、見よ、わたしは言うが、もし彼らがまことのメシヤ、彼らの贖い主、彼らの神であるイスラエルの聖者を拒む日が来れば、公正な神の裁きが彼らにとどまるであろう。

11 まことに主は、彼らのもとにほかの国民を連れて来て力を授けられる。そして、彼らは所有している地を取り上げられ、散らされ、打たれる。

12 まことに、世代が移るにつれて、彼らの中に流血があり、大きな刑罰が下る。だから息子たちよ、覚えておいてほしい。まことに、わたしの言葉に聞き従ってほしい。

13 おお、あなたがたは目を覚ましていてもらいたい。深い眠りから、すなわち地獄の眠りから目覚め

---

6 ① 2ニフ10・22
7 ① モサ29・32、アル46・
② 10、20
② 2ニフ10・11、GS「自由」
③ アル45・10－14、16、モル1・17、エテ2・8－12
9 ① 2ニフ4・4、アル9・13
② 申命29・9
10 ③ GS「従順・従う」
① GS「メシヤ」
11 ① 1ニフ13・12－20、モル5・19－20
12 ① 1ニフ22・7
② モル1・11－19、4・
13 ① GS「地獄」

て、あなたがたを縛っている恐ろしい鎖を振り払いなさい。その鎖は人の子らを縛って、不幸と災いの永遠の淵に連れ去る鎖である。

14 目を覚ましなさい。そして地から立ち上がり、おのの[1]く父の言葉を聞きなさい。あなたがたは間もなく父の体を冷たい無言の墓[2]に横たえなければならない。そこからはどんな旅人も決して戻って来ることができない。あとわずかで、わたしは世のすべての人のたどる道[3]を行く。

15 しかし見よ、主はわたしを地獄から贖[1]ってくださった。わたしは主の栄光を見た。そして、主の愛[2]の御腕[3]に永遠に抱かれている。

16 わたしは、あなたがたが主の掟[1]と裁決を忘れずに守ることを願っているが、まさにこれは、初めからわたしの心配していたところである。

17 わたしの心は時々、悲しみに押しつぶされるようであった。それは、あなたがたの心がかたくなたために、主なるあなたがたの神が満ちみちる激[1]しい怒りを下されて、あなたがたが絶[2]たれ、とこしえに滅ぼされてしまうのではないかと恐れてきたからである。

18 あるいは、多[1]くの代にわたってのろいがあなたがたに及び、剣や飢饉に見舞われ、忌み嫌われ、また悪魔[2]の意志に惑わされ、捕らえられはしないかと恐れてきたからである。

19 おお、息子たちよ、これらのことがあなたがたに及ぶことなく、あなたがたが主に選[1]ばれた愛される民となるように願っている。しかし見よ、主[2]の道はとこしえに義であるから、御心が行われるように。

20 主は『あなたがたはわたしの命令[1]を守るかぎり地に栄[3]える。しかし、わたしの命令を守らなければ、わたしの前から絶たれる』と言われた。

21 さて、わたしの霊があなたがたにあって喜びを得て、あなたがたのことを喜びながらこの世を去ることができるように、また、わたしの心が憂いや悲しみを抱いて墓に入ることのないように、息子たちよ、地から立ち上がって、男[1]らしくありなさい。そして思[2]いを一つにし、心を一つにして決意を固め、あらゆることに結束しなさい。これはあなたがたが囚われの身に陥らないためである。

22 また、ひどいのろいをもってのろわれないためであり、公[1]正な神の不興を自分に招いて、滅びを、ま

---

13 ③ アル12・9－11
② 1ニフ15・28－30、
14 ① ヒラ3・29－30
② GS「親」
③ ヨシ23・14
15 ① アル36・28、GS「贖罪」
② ロマ8・39、GS「愛」
③ ヤコ6・5、アル5・33、3ニフ9・14
16 ① 申命4・5－8、2ニフ5・10－11
② 2ニフ5・21－24、
17 ① アル3・6－19
② モサ12・8
18 ① 1ニフ12・20－23
② GS「悪魔」
19 ① ホセ14・9
② GS「選ばれた者」
20 ① レビ26・3－14、ヨエ2・23－26
② ジェロ1・9、モサ1・6－7、アル9・13－14
21 ① 詩篇67・6、モサ2・21－25
② サ上4・9、列上2・2
22 ① モセ7・18
② 教義3・4

ことに霊と体の両方の永遠の滅びを受けることのないようにするためである。

23 目を覚ましなさい、息子たちよ。義の武具を身に[1]着けなさい。あなたがたを縛っている鎖を振り払い、暗闇を抜け出て、地から立ち上がりなさい。

24 これからはもう、あなたがたの弟に背かないようにしなさい。彼の見た示現は荘厳なものであって、彼はわたしたちがエルサレムを出たときから神の命令を守り、神の御手に使われる者としてわたしたちを約束の地へ導いて来た。もし彼がいなかったなら、わたしたちはきっと荒れ野で飢え死にしていたであろう。にもかかわらず、あなたがたは彼の命を奪おう[2]とした。そして、彼はあなたがたのためにひどく憂い悲しんだ。

25 わたしは、この後またニーファイが苦しむのではないかと、見よ、あなたがたのことで非常に恐れおののいている。それはあなたがたが、彼があなたがたを支配する[1]権力と権能を求めたと言って彼をひどく責めてきたからである。しかしニーファイは、あなたがたを支配する権力と権能を求めたのではなく、神の栄光とあなたがた自身の永遠の幸いを求めてきたのである。わたしはそのことを知っている。

26 あなたがたは、彼がはっきり言ったのでつぶやいた。あなたがたは、彼が厳しかった、自分たちに対して怒ったなどと言う。しかし見よ、彼の厳しさは、彼の内にある神の御言葉の力の厳しさであって、[1]また、あなたがたの言う怒りとは、神の内にある真理にほかならない。それをニーファイは自ら抑えることができなくて、あなたがたの罪悪について大胆に明らかにしたのである。

27 [1]神の力が彼とともにあるのは必要なことであって、彼が命じたことにあなたがたは従わなければならない。しかし見よ、彼が口をつぐむことができないほど彼の[2]口を開いて語らせたのは、彼自身ではなく、彼の内にある主の[3]御霊であった。

28 さて、わたしの息子レーマン、それにレムエル、サム、ならびにイシマエルの息子であるわたしの息子たちよ。見よ、あなたがたがニーファイの声に聞き従うならば、滅びないであろう。そして彼に聞き従うならば、わたしはあなたがたに[1]祝福を、それも第一の祝福を残そう。

29 しかし、もしあなたがたが彼に聞き従わないなら

23 ① エペ6・11－17
24 ① 1ニフ16・32
② 1ニフ16・37
25 ① 創世37・9－11
② 箴言15・10、1ニフ16・2、モロ9・4、教義121・41－43
26 ① 教義33・8
27 ① 1ニフ17・48
② 教義121・43
③ GS「長子の特権・生得権」
28 ①

ば、わたしは第一の祝福、まことにわたしの祝福を取り上げて、それをニーファイに授けよう。

30 さて、ゾーラムよ、わたしはあなたに告げる。見よ、あなたはラバンの僕であったが、エルサレムの地から連れて来られた。わたしはあなたが息子ニーファイにとって、とこしえに真の友であることを知っている。

31 したがって、あなたが忠実であったので、あなたの子孫はニーファイの子孫とともに祝福を受けて、長くこの地の面に住んで栄えるであろう。そしてあなたの子孫の中で罪悪が行われないかぎり、この地の面で栄えるのを損なったり阻害したりする者は、とこしえにないであろう。

32 それで、あなたがたが主の命令に従うならば、主はこの地を聖別し、あなたの子孫をわたしの息子の子孫とともに、安全に守ってくださるであろう。」

第2章

贖いは聖なるメシヤを通してもたらされる。選択の自由は存在と進歩にとって欠かせない。アダムが堕落したのは人が存在するためである。人は自由と永遠の命を選ぶことを許されている。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 「さて、ヤコブよ、わたしはあなたに告げる。あなたは、わたしが荒れ野で艱難に遭っていたときに最初に生まれた子である。見よ、あなたは、幼いとき、あなたの兄たちが乱暴なために苦難を味わい、つらい思いをした。

2 しかしながら、荒れ野で最初に生まれたわたしの子ヤコブよ、あなたは神の偉大さを知っている。神はあなたの苦難を聖別して、あなたの益としてくださる。

3 そのため、あなたは祝福されて、兄ニーファイとともに安全に暮らすであろう。そして、神に仕えて生涯を送るであろう。それでわたしは、あなたが贖い主の義によって贖われていることを知っている。それは、時が満ちると人に救いをもたらすために贖い主が来られることを、あなたが見たからである。

4 またあなたは、若いときに贖い主の栄光を見た。だからあなたは、贖い主が肉にあって教え導かれるときにそれを受ける人々と同じように幸いである。

29① アブ1・3
30① 1ニフ4・20、35
31① 2ニフ5・6
第2章
1① 1ニフ18・7
4① 2ニフ11・3、ヤコ7・5

それは、御霊は昨日も、今日も、またとこしえに変わらない御方だからである。人の堕落以来、方法が用意されており、救いは無料である。

5 人は善悪をわきまえることを十分に教えられている。また、人には律法が与えられている。しかし、この律法によって義とされる者はだれもいない。すなわち、この律法によって人は絶たれるのである。まことに、現世にかかわる律法によって人は絶たれ、また霊にかかわる律法によっても人は良いものから絶たれて、とこしえに惨めな状態になる。

6 したがって、贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。それは、メシヤが恵みと真理に満ちておられるからである。

7 見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。

8 したがって、これらのことを地に住む者に知らせて、聖なるメシヤの功徳と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないことに気づかせるのは、何と大切なことであろうか。聖なるメシヤは、肉において御自分の命を一度捨て、そして、死者の復活をもたらすために御霊の力によって再びそれを得て、最初によみがえる者となられる。

9 したがって、メシヤは神にとって初穂となられるので、すべての人の子らのために執り成しをしてくださる。だから、メシヤを信じる者は救われるのである。

10 また、すべての人への執り成しがあるので、人は皆、神のみもとに来る。そのため、彼らは神の御前に立ち、神の内にある真理と聖さによって裁かれる。したがって、聖者が授けられた律法の目的は、定められた罰の執行にあり、贖罪の目的を達するために定められた罰を科することは、同じ目的で定められている幸福を与えることと相対している。

11 それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。荒れ野で最初に生まれた息子よ、もし事物に反対のものがなければ、義は生じ得ないし、邪悪も、聖さも惨めな状態も、善も悪も生じ得ない。そうすると、すべての事物は混じり合って一つとならざるを得ない。したがって、事物が一

---

4 ② GS「恵み」
5 ① モロ7・16
② ロマ3・20、2ニフ25・23、アル42・12－16、「義認、義とされる」
③ GS 1ニフ10・6、2ニフ9・6－38、アル11・40－45、12・16、24、42・6
6 ① 1ニフ10・6、2ニフ25・20、アル12・22－11、ヒラ14・15－18
③ GS「贖いの計画」
② GS「メシヤ」ヨハ1・14、17、モセ1・6
7 ① GS「贖罪」
② ロマ10・4
8 ① 2ニフ25・20、31・2、モサ4・8、5・8、アル38・9
② 21、1コリ15・20、アル12・24－25、42・7、12
9 ① 23、GS「復活」イザ53・1－12、モサ15・8－9
10 ① 14、12、GS「贖い主」
② GS「聖い」
③ GS「最後の裁き」
④ 2ニフ9・7、21－22、26、アル22・14、33・34・9
11 ① 9、GS「逆境」教義29・39、122・5－9

体となるならば、生も死も、朽ちる状態も朽ちない状態もなく、幸不幸も、意識も無意識もなく、死んだ状態で続かなければならない。

12そうすると、すべての事物は無用に造られたということになり、したがって、創造には何も目的がなかったことになる。そのため、この一体となった事物は神の知恵とその永遠の目的、また神の力と憐れみと公正を滅ぼしてしまうに違いない。

13もし律法がないと言うならば、罪もないと言わなければならない。もし罪がないと言うならば、義もないと言わなければならない。そして、もし義がなければ、幸福はない。そして、義も幸福もなければ、罰も不幸もない。そしてこれらのものがなければ、神は実在しない。神が実在しなければ、わたしたちは存在せず、大地もない。なぜならば、作用するものも作用されるものもなく、事物の創造はあり得なかったからである。そこで、すべての事物は消えうせていたに違いない。

14さて、息子たちよ、わたしがこれらのことをあなたがたに話すのは、あなたがたの利益となり知識となるようにするためである。それは、神が実在し、すべての事物を、すなわち天地とその中にある万物を、作用するものも作用されるものも創造されたからである。

15また、神がわたしたちの最初の先祖と野の獣と空の鳥、要するに、創造されて現在あるすべての事物を創造された後、人の行く末にかかわる永遠の目的を達するために反対のものが備えられなくてはならなかった。すなわち、禁断の実に対しては命の木というようであって、一方は甘く他方は苦かった。

16そのようにして、主なる神は思いのままに行動することを人に許された。しかし人は、一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ、思いのままに行動することはできなかった。

17わたしリーハイは、自分が読んだことから考えるのだが、記録にあるとおり神の一人の天使が天から落ち、彼は神の御前で邪悪なことを求めたので、悪魔になったと思わざるを得ない。

18彼は天から落ちて、とこしえに惨めな状態になったので、全人類もまた惨めな状態にしようとした。そこで彼、すなわち悪魔であり、あらゆる偽りの父である、あの年を経た蛇は、エバに、『禁断の実を食

12① 教義88・25－26、GS「地球（地）－人のために創造された」
② GS「正義」
13① 2ニフ9・25
② アル42・13
14① 教義93・30
② GS「創造・創造する」
15① イザ45・18、アル42・26、モセ1・31、39
② 創世2・16－17、モセ3・17
③ 創世3・6、アル12・21－23
④ 創世2・9、1ニフ15・22、36、アル32・40
16① 2ニフ10・23、アル12・31、GS「選択の自由」
② 教義29・39－40
17① GS「悪魔」
② イザ14・12、2ニフ9・8、モセ4・3－4、アブ3・27－28
③ GS「悪魔」
18① 2ニフ28・19－23、3ニフ18・18、教義10・22－27
② 2ニフ28・8、モセ4・4
③ GS「エバ」

べなさい。あなたがたは死ぬことがなく、[4]善悪を知って神のようになるであろう』と言った。

19 アダムとエバは禁断の実を食べた後、[1]エデンの園から追い出され、地を耕すことになった。[2]

20 そして彼らは、子供をもうけ、まことに全地の家族をもたらした。[1]

21 また、[1]人の子らの命は、肉にある間に悔い改めることができるように、神の御心によって引き延ばされた。[2]したがって、彼らの状態は試しの状態となり、彼らの寿命は主なる神が人の子らに与えられた命令で長くされた。[3]主なる神が、すべての人は悔い改めなければならないと命じられたからである。主なる神はすべての人に、先祖の背きのために彼らが道に迷った状態にあることを示されたのである。[4]

22 ところで見よ、アダムがもし背かなかったならば、彼は堕落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造されたすべてのものは、創造された後の状態そのままで存続したに違いない。また、すべてのものはとこしえに存続し、終わりがなかったに違いない。

23 そして、アダムとエバは子供を持たなかったであろう。また、不幸を知らないので喜びもなく、罪を知らないので善も行わず、罪のない状態にとどまっていたであろう。

24 しかし見よ、すべての物事は、万事を御存じである御方の知恵によって行われてきた。[1]

25 アダムが堕落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。[2][3][4]

26 そして時が満ちると、人の子らを堕落から贖うために[1]メシヤが来られる。[2]人の子らは堕落から贖われているので、すでにとこしえに自由となり、善悪を知るようになっている。[3]彼らは、神が下された戒めによって、大いなる終わりの日に[4]律法に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。

27 そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。[1][2][3]

---

18 ④ 創世3・5、アル29・5、モロ7・15－19
19 ① アル12・31、GS「堕落（アダムとエバの）」
② GS「エデン」
20 ① 教義138・38－39
21 ① アル12・24、モセ4・23－25
② アル34・32、GS「悔い改め」
③ GS「死すべき状態」
④ ヤコ7・12
23 ① モセ5・11
24 ① GS「神・神会」
25 ① GS「アダム」
② モセ6・48、GS「堕落（アダムとエバの）」
③ GS「死すべき状態」
④ モセ5・10、GS「人」
26 ① GS「贖い」
② GS「贖いの計画」
③ GS「メシヤ」
30 アル42・27、ヒラ14・
GS「律法」
27 ① ガラ5・1、モセ6・56
② GS「永遠の命」
③ GS「選択の自由」

28 ところで、息子たちよ、わたしはあなたがたが偉大な仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であって、主の聖なる御霊の御心に添って永遠の命を選んでほしいと思っている。

29 肉の思いとその中に潜む悪に従って、永遠の死を選んではならない。肉の思いは、悪魔の霊に力を与え、あなたがたを捕らえて地獄に落とし、悪魔は彼自身の王国であなたがたを支配するであろう。

30 息子たちよ、わたしは自分の試しの生涯が終わろうとするに当たって、これらのわずかな言葉を、あなたがたすべての者に告げておく。わたしは預言者の言葉に従って善なるものを選んできた。わたしには、あなたがたの永遠の幸いを願う以外に何の目的もないのである。アーメン。」

第3章

エジプトにおいてヨセフは示現でニーファイ人を見た。ヨセフは、末日の聖見者ジョセフ・スミスと、イスラエルを救い出すモーセと、世に出る『モルモン書』について預言した。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 「わたしの末の子であるヨセフよ、わたしはあなたに告げる。あなたはわたしが苦難に遭った荒れ野で生まれた。まことに、わたしが大いに嘆き苦しんでいたころに、あなたの母はあなたを産んだ。

2 あなたとあなたの子孫がイスラエルの聖者の戒めを守ることにより、主があなたの受け継ぎとして、またあなたの同胞とともにあなたの子孫が受け継ぐ地として、またとこしえに安全な地として、最も貴い地であるこの地を聖別してくださるように。

3 さて、わたしが苦難に遭った荒れ野から連れて来た末の子ヨセフよ、主がとこしえにあなたを祝福してくださるように。あなたの子孫がことごとく滅びてしまうことはないであろう。

4 見よ、あなたはわたしの腰から出た者であり、また囚われの身となってエジプトへ連れて行かれたヨセフの子孫だからである。主がヨセフに立てられた聖約は偉大である。

5 すなわち、ヨセフはまことにわたしたちの時代を見た。そしてヨセフは、主なる神がイスラエルの家のために、ヨセフの腰から出た者の中から一本の義にかなった枝を起こされるという、主の約束を

---

28 ① GS「仲保者」
29 ① ロマ6・16－18、アル12・11
② GS「地獄」

第3章

1 ① 1ニフ18・7
2 ① 1ニフ2・20、GS「約束の地」
3 ① 2ニフ9・53
4 ① 創世37・29－36
② 創世39・1－2、45・4、49・22－26、1ニフ5・14－16
5 ① JS創世50・24－38、2ニフ4・1－2
② ヤコ2・25
③ 創世49・22－26、1ニフ15・12、19・24、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」

受けた。その枝というのはメシヤではなく、折り取られる一本の枝のことである。この枝は、折り取られるにもかかわらず、主の聖約の中で思い起こされる。その聖約とは、彼らを暗闇から光に連れ出すために、まことに隠れた[1]暗闇と束縛から自由へ連れ出すために、メシヤが[5]力の霊によって末日にその御姿を彼らに現されるというものである。

6 ヨセフはまことに証して言った。『主なるわたしの神は、一人の[1]聖見者を立てられる。それは、わたしの[2]腰から出た者のためのえり抜きの聖見者である。』

7 まことに、ヨセフはまた言った。『主はわたしにこう言われた。「わたしはあなたの腰から出た者の中から、一人のえり抜きの[1]聖見者を立てよう。彼はあなたの腰から出た者の中で大いに尊ばれるであろう。わたしはその聖見者に、彼の同胞であるあなたの腰から出た者のために一つの業を行うように命じよう。その業は、彼らにとって大いに価値のあるものであり、わたしがあなたの先祖と交わした聖約をあなたの腰から出た者に知らせるものである。

8 わたしはその聖見者に、わたしが命じる業のほかには[1]何の業も行わないように命じよう。彼はわたしの業を行うので、わたしは彼を、わたしの目にかなった偉大な者としよう。

9 その聖見者は[1]モーセのように偉大である。モーセとは、わたしの民を[2]救い出すために、おお、イスラエルの家よ、わたしがあなたのために立てると言っておいた者である。

10 わたしはモーセを立てて、あなたの民をエジプトの地から救い出そう。

11 しかし、わたしはあなたの腰から出た者の中から一人の聖見者を立て、わたしの言葉をあなたの腰から出た子孫に伝える[1]力を彼に授けよう。また、わたしの言葉を伝えるだけでなく、すでに彼らの中に伝わっているわたしの言葉を確信させる力も授けよう。

12 そのために、あなたの腰から出た者は[1]書き記す。またユダの[2]腰から出た者も[3]書き記す。そして、あなたの腰から出た者が書き記すものと、ユダの腰から出た者が書き記すものは一つに合わされて、偽りの教義を打ち破り、争いを鎮め、あなたの腰から出た者の中に平和を確立し、また末日に先祖について

---

5 ④ イザ42・16
⑤ 2ニフ6・14、教義3・16－20
6 ① モル8・16、GS「聖見者」
7 ① 教義132・30
② GS「スミス、ジョセフ、ジュニア」
8 ① 教義24・7、9
9 ① モセ1・41
② 出エ3・7－10、1ニフ17・24
11 ① 教義5・3－4
12 ① GS「モルモン書」
② 1ニフ13・23－29
③ GS「聖書」
④ エゼ37・15－20、1ニフ13・38－41、2ニフ29・8、33－10－11

の知識を彼らに与え、そしてまた、わたしの聖約についても知らせる。」主はそう言われる。

13 「おお、イスラエルの家よ、あなたを元どおりにするために、わたしの業がわたしのすべての民の中で始まるその日、その聖見者は弱さを強くされる」と主は言われる。『

14 またヨセフは次のように預言した。『見よ、主はその聖見者を祝福される。わたしがわたしの腰から出た者について主から頂いたこの約束は、必ず果たされるので、その聖見者を滅ぼそうとする者は打ち破られる。見よ、わたしは、この約束が果たされることを確信している。

15 その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。そして、彼はわたしのようである。主が彼の手により、主の力によってもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。』

16 まことにヨセフは、次のように預言した。『わたしは、モーセについての約束を確信しているように、このことも確信している。それは主が、「あなたの子孫をとこしえに守ろう」とわたしに言われたからである。

17 また、主は言われた。「わたしはモーセを立てよう。そして、杖をもって彼に力を与え、また明瞭に書き記す力も彼に与えよう。しかしわたしは、彼の舌を緩めて、彼がよく語れるようにはしない。わたしは彼を、語るに力ある者とはしないからである。しかしわたしは、自分の手の指でわたしの律法を彼に書き与え、また彼のために一人の代弁者を備えよう。」

18 主はまたわたしに言われた。「わたしはあなたの腰から出た者のために聖見者を立て、また彼のために一人の代弁者を備えよう。そして見よ、わたしはその聖見者に、あなたの腰から出た者の書き記したものをあなたの腰から出た者に書き伝えさせる。また、あなたの子孫の代弁者がそれを告げ知らせる。

19 その聖見者が書き記す言葉は、わたしの知恵にかなって、あなたの腰から出た者に伝わる言葉である。それはあたかも、あなたの腰から出た者が、地から叫んでいるかのようである。わたしは、彼らの信仰を知っているからである。

20 あなたの腰から出た者は、地から叫ぶ。すなわち、

---

12 ⑤ 1ニフ15・14、2ニフ30・5、モル7・1、5、9－10
15 ① ⑥ 教義18・8 モロ1・4
16 ① ② ジ歴史1・3
17 ① 創世45・1－8 申命10・2、4、モセ
19 ① ② 出エ4・16 教義28・8
27 ② 13、33・13、イザ29・4、2ニフ30・5、モル9・13、モロ10・27
20 ① 2ニフ26・16、モル8・23

多くの時代が過ぎてから、彼らの同胞に悔い改めを叫ぶ。そして、彼らの叫びは分かりやすい言葉で伝わる。

21 彼らの信仰のゆえに、彼らの言葉はわたしの口から出て、あなたの腰から出た者である彼らの同胞に伝わる。わたしは彼らの言葉の弱いところを、彼らの信仰のゆえに強くし、わたしがあなたの先祖と交わした聖約を思い起こさせよう。『

22 さて見よ、わたしの息子ヨセフよ、わたしの遠い先祖はこのように預言した。

23 したがって、あなたはこの聖約によって祝福されている。あなたの子孫はその書物の言葉に聞き従うので、滅ぼされないからである。

24 あなたの子孫の中に、一人の力ある者が現れる。その者は神の御手に使われる者として、篤い信仰をもって、言葉にも行いにも大いに善をなし、偉大な驚嘆すべきことを行い、また神の目に大いなることを行い、イスラエルの家とあなたの兄たちの子孫に対して十分な回復をもたらす。

25 さて、ヨセフよ、あなたは幸いである。見よ、あなたはまだ若いので、兄のニーファイの言葉に聞き従いなさい。そうすれば、わたしの語った言葉のとおりになるであろう。もうすぐこの世を去ろうとする父の言葉を覚えておきなさい。アーメン。」

第 4 章

リーハイ、子孫に勧告と祝福を残す。その後、死んで葬られる。ニーファイ、神の慈しみを喜び、とこしえに主に信頼を寄せる。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、エジプトに連れて行かれたヨセフに関し、父が語った預言について述べる。

2 見よ、ヨセフは自分のすべての子孫について預言した。そして、彼の書き記した預言に勝るものは少ない。彼はわたしたちと、わたしたちの将来の子孫について預言した。その預言は真鍮の版に書き記されている。

3 それで父は、ヨセフの預言について語り終えると、レーマンの子供、すなわちレーマンの息子、娘たちを呼び寄せて言った。「見よ、わたしの長男の

21 ① 2ニフ29・2
22 ① 2ニフ3・5
第4章
1 ① 創世39・1－2
2 ① 2ニフ3・5
3 ① GS「長子・初子」

息子や娘であるわたしの孫たちよ、わたしの言葉に耳を傾けてほしい。

4 それは主なる神が、『あなたがたは、わたしの命令を守るかぎり地に栄える。[1]しかし、わたしの命令を守らなければ、わたしの前から絶たれる』と言われたからである。

5 しかし見よ、わたしの孫たちよ、わたしはあなたがたに祝福を残さなければ、墓に入ることができない。見よ、わたしは、あなたがたが行くべき道に従って育てられるならば、[2]その道から離れないことを知っているからである。

6 したがって、もしあなたがたがのろわれるならば、見よ、そののろいがあなたがたから取り去られて、その責任が両親の頭に帰するように、わたしはあなたがたに祝福を残す。

7 したがって、わたしの祝福のゆえに、主なる神はあなたがたが滅びるのを許さず、[1]あなたがたと子孫を、とこしえに憐れんでくださるであろう。」[2]

8 さて、父はレーマンの息子、娘たちに語り終えると、次にレムエルの息子、娘たちを自分の前に連れて来させた。

9 そして、父は彼らに言った。「見よ、わたしの次男の息子や娘である孫たちよ、見よ、わたしはレーマンの息子、娘たちに残した祝福と同じ祝福をあなたがたに残す。したがって、あなたがたはことごとく滅ぼされてしまうことはなく、あなたがたの子孫は、最後には祝福されるであろう。」

10 そして父は、彼らに語り終えると、見よ、[1]イシマエルの息子たちと、またイシマエルの家のすべての者に語った。

11 そして、彼らに語り終えると、父はサムに言った。「あなたとあなたの子孫は幸いである。あなたは弟のニーファイと同様に、地を受け継ぐからである。あなたの子孫は、ニーファイの子孫とともに数えられる。そして、あなたは弟と同じようになり、あなたの子孫は弟の子孫と同じようになる。そしてあなたは生涯、祝福を受けるであろう。」

12 そして父リーハイは、自分の心に感じるままに、また自分の内にある主の御霊に従って、自分の家のすべての者に語った後、年老いて、死んで葬られた。

13 さて、父の死後幾日もたたないうちに、レーマンとレムエル、それにイシマエルの息子たちは、主の

---

4 ① 2ニフ1・9
5 ① GS「族長」
6 ① 箴言22・6
② 教義68・25−29
7 ① 2ニフ30・3−6、教義3・17−18
② 1ニフ13・31、2ニフ10・18−19、ヤコ3・5−9、ヒラ15・12−13
10 ① 1ニフ7・6

勧告のことでわたしに腹を立てた。

14 それは、わたしニーファイが主の言葉に促されて、やむを得ず彼らに語ったからである。わたしはそれまでに多くのことを彼らに語り、父も生前に多くのことを彼らに語ってきた。そして、語ったことの多くは、わたしの造ったほかの版に書き記してある。[1] わたしの造ったほかの版には、歴史に関する部分が多く書き記してあるからである。

15 そしてこの版には、わたし自身のことと、真鍮の版に刻まれている聖文の多くを書き記す。わたしは聖文に喜びを感じるからである。わたしは聖文について心に深く考え、わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す。

16 見よ、わたしは主に関することに喜びを感じる。わたしの心は、これまでに見聞きしたことを絶えず深く考えている。

17 それでも、主が深い慈しみを、大いなる驚くべき業の中でわたしに示してくださっているにもかかわらず、わたしの心は、「おお、わたしは何と惨めな人間なのだろう」と叫ぶ。まことに、わたしの心はわたしの肉のために苦悩し、わたしの霊はわたしの罪悪のために嘆く。

18 わたしは、非常にたやすくまとわりつく誘惑と罪に取り囲まれている。

19 そしてわたしが喜ぼうとすると、心は罪のためにうめき苦しむ。それでもわたしは、これまでに自分がだれに頼ってきたかを知っている。

20 わたしを支えてこられたのは神である。神はわたしが荒れ野で苦難に遭っていたときに、いつもわたしを導き、また底知れない深みの海の上でも、わたしを守られた。

21 神は、わたしの肉体が燃え尽きるほどに、わたしを愛で満たされた。[1] わたしの敵を辱め、わたしの前で彼らの身を震えさせられた。

22 また、わたしの敵を辱め、わたしの前で彼らの身を震えさせられた。

23 見よ、神は、日中はわたしの嘆願を聞き、夜は示現によってわたしに知識を授けられた。[1]

24 また日中、わたしは神の前に熱烈な祈りを力強くささげ、まことにわたしの声を天に向かって上げた。すると天使たちが降って来て、わたしを教え導いた。

25 わたしの体は神の御霊の翼に乗せられて、非常に

---

14 ① 1 ニフ 1・16−17、9・4
15 ① 1 ニフ 6・4−6 ② GS「聖文」「深く考える」
16 ① 1 ニフ 19・23 ② GS「感謝」
17 ① 2 ニフ 9・10、教義 86・11
18 ① ロマ 7・24 ② ロマ 7・21−23、ヘブ 12・1、アル 7・15
21 ① GS「愛」
22 ① 1 ニフ 17・52
23 ① GS「示現」
24 ① 新ヤコ 5・16、1 ニフ 2・16

高い山の上に運ばれて行った。そしてわたしの目は数々の偉大なことを、まことに人にとってあまりにも偉大すぎることを見た。そのためにわたしは、それらのことを書き記してはならないと告げられた。

26 おお、わたしがそれほど偉大なことを見たのであれば、そして主が、人の子らに対して御自身を低くして、それほど深い憐れみをもって人々を訪れてこられたとするならば、たとえわたしが苦難に遭ったからと言って、どうしてわたしの心が涙し、わたしの霊が悲しみの谷にとどまり、わたしの肉体がやせ衰え、わたしの力が弱くなってよいだろうか。

27 またわたしの肉のことで、どうして罪に負けてよいだろうか。まことに、どうして誘惑に負けて、悪しき者がわたしの心に入って、わたしの平安を破り、わたしの霊を苦しめるのを許してよいだろうか。わたしが敵のことで怒りを抱くのはなぜなのか。

28 目覚めよ、わたしの霊よ。もはや罪の中でしおれるな。喜べ、おお、わたしの心よ。もうわたしの敵に場所を与えてはならない。

29 わたしの敵のことで二度と怒ってはならない。苦難のために力を弱くしてはならない。

30 喜べ、おお、わたしの心よ。主に叫び求めて言え。「おお、主よ、わたしはとこしえにあなたをほめたたえます。まことに、わたしの神であり、わたしの救いの岩であるあなたを喜びます。

31 おお、主よ、わたしを贖ってください。わたしを敵の手からお救いください。わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください。

32 わたしの心は打ち砕かれており、わたしの霊は悔いていますので、地獄の門がいつもわたしの前に閉じていますように。おお、主よ、わたしが低い谷の道を歩み、しっかりと平坦な道を進むことができるように、わたしの前で義の門を閉ざさないでください。

33 おお、主よ、あなたの義の衣でわたしを包み込んでください。おお、主よ、わたしが敵の前から逃れられるように道を備えてください。わたしの前に道をまっすぐにしてください。つまずかせるものをわたしの道に置かず、わたしの前に道を開いてください。わたしの道を遮らず、敵の道をふさいでください。

---

25 ① 1ニファ11・1、モセ1・1−2
26 ① 詩篇43・5
27 ① ロマ6・13
② GS「誘惑」
③ GS「平安・平和」
28 ① GS「悪魔」
30 ① 1コリ3・11、GS「岩」
31 ① ロマ12・9、アル13・12
32 ① GS「打ち砕かれた心」
② GS「歩む（神とともに）」

34 おお、主よ、わたしはあなたを頼ってまいりました。これからもとこしえに、あなたを頼ってまいります。わたしは肉の腕に頼る者はのろわれることを知っているので、肉の腕には頼りません。まことに、人に頼る者、すなわち肉を自分の腕とする者はのろわれます。

35 まことに、わたしは、神は求める者には惜しみなく与えられることを知っています。わたしが道理に外れた求め方をしなければ、わたしの神はわたしに与えてくださいます。それでわたしはあなたに声を上げ、まことに、わたしの神、わたしの義の岩であるあなたに叫び求めます。まことに、わたしの声はわたしの岩であり、永遠の神であるあなたのみもとに、とこしえに上ることでしょう。アーメン。」

第5章

ニーファイ人はレーマン人から分かれ、モーセの律法を守り、神殿を建てる。レーマン人は不信仰のために主の前から絶たれ、のろいを受け、ニーファイ人にとって鞭となる。紀元前約五百八十八年から五百五十九年に至る。

1 さて見よ、わたしニーファイは、兄たちが腹を立てたので、主なるわたしの神に切に叫び求めた。

2 しかし見よ、わたしに対する兄たちの怒りは激しくなり、彼らはわたしの命を奪おうとした。

3 まことに彼らは、わたしに向かってつぶやいて言った。「弟は我々を支配しようと思っている。我々は彼のためにひどい試練を受けてきた。見よ、もう弟の言葉で苦難を味わわなくても済むように、弟を殺してしまおう。我々は弟を支配者には決してさせない。この民を支配する権利は、兄の我々にある。」

4 ところでわたしは、兄たちがわたしに対してつぶやいた言葉のすべてをこの版に載せることはしない。ただ、彼らがわたしの命を奪おうとしたと言えば十分である。

5 さて、主はわたしニーファイに、彼らのもとを去って荒れ野へ逃げるように、またわたしとともに行きたい者も皆、そうするように警告された。

6 そこでわたしニーファイは、自分の家族と、ゾーラムとその家族、兄サムとその家族、弟のヤコブとヨセフ、わたしの姉妹たち、そのほかわたしとともに行きたい者たち全員を連れて出た。わたしととも

---

34 ① GS「信頼」
② エレ17・5、モル3・9、4・8
③ 詩篇44・6−8
35 ① 新ヤコ1・5
② ヒラ10・5
③ GS「祈り」
④ 申命32・4

第5章
1 ① 2ニフ4・13−14
3 ① 1ニフ16・37−38、モサ10・14−15
5 ① モサ10・13
6 ① GS「霊感」
7 ① 1ニフ4・35、16・2ニフ1・30−32

に行くことを望んだ者たちは皆、神の警告と啓示を信じる者たちであったので、わたしの言葉に聞き従った。

7わたしたちは天幕と持てるものをすべて携えて、幾日も荒れ野を旅した。そして、幾日も荒れ野を旅した後、わたしたちは天幕を張った。

8そして、わたしの民がその地をニーファイと呼ぶことを望んだので、わたしたちはその地をニーファイと名付けた。

9また、わたしとともにいた者たちは皆、自分たちをニーファイの民と呼ぶことにした。

10わたしたちはモーセの律法に従って、何事にも主の裁決と掟と戒めを守るように努めた。

11そして、主がわたしたちとともにおられた。わたしたちは種をまき、豊かに収穫して、非常に栄えた。またわたしたちは、大小の家畜の群れと、あらゆる動物を飼い始めた。

12わたしニーファイは、真鍮の版に刻まれた記録と、前にわたしがこの版に刻んだとおり、主の手によって父のために備えられた球、すなわち羅針盤も持って来た。

13そこでわたしたちは、非常に栄えて、その地で増え始めた。

14それでわたしニーファイは、ラバンの剣を取り、それに倣って多くの剣を造った。それは今やレーマン人と呼ばれている民が、わたしたちを襲って滅ぼすことのないようにするためであった。彼らがわたしとわたしの子供たちと、またわたしの民と称する者たちを憎んでいることを、わたしは知っていたからである。

15わたしは民に、建物を建てることを教え、また非常に豊富にあった木材や鉄や銅、また真鍮や鋼や金や銀や貴重なあらがねなど、あらゆる材料で物を造り出すことを教えた。

16また、わたしニーファイは神殿を建てた。ソロモンの神殿に倣って建てたが、その違いは、建てるのにそれほど多く貴重な品を使わなかったことである。そのような貴重な品がこの地になかったため、ソロモンの神殿と同じようには建てることができなかった。しかし、建築の様式はソロモンの神殿と同じで、その造りは非常に見事であった。

17そしてわたしニーファイは、民を勤勉に働かせ、

6②GS「警告」
8①オム1・12、27、モサ9・1－4、28・1
9①ヤコ1・13－14
10①2ニフ11・4、GS「モーセの律法」
12①モサ1・3－4、GS「版」
14①38・47、教義17・1
1ニフ4・9、ヤコ1・10、モ言1・13
26③18・12、21、アル37・1ニフ16・10、16、モサ1・16
②GS「レーマン人」
15①エテ10・23
16①GS「神殿・主の宮」
②列上6章、歴下3章
③教義124・26－27
17①創世3・19、教義42・

また手を使って働くようにさせた。
18 さて、民はわたしが彼らの王[1]になることを望んだ。しかしわたしニーファイは、彼らには王がない方がよいと思った。それでも、わたしの力の及ぶかぎり彼らのために尽くした。
19 見よ、主は兄たちについて、わたしが彼らを治[1]める者になり教える者[2]になると言われたが、その主の言葉はすでに成就していた。したがって、彼らがわたしの命を奪おうとしたときまで、わたしは主の命令どおりに彼らを治める者、教える者となっていたのである。
20 それで、主がわたしに言われた、「あなたの言うことに聞き従[1]わなければ、彼らは主の前から絶[2]たれる」という御言葉は成就した。見よ、彼らは御前から絶たれてしまったのである。
21 主はまた、彼らの罪悪のために、のろいを[1]彼らに下された。まことにひどいのろいを下された。見よ、彼らが主に対して心をかたくなにし、あたかも火打ち石のように硬くなってしまったからである。それで主なる神は、彼らが肌の白い、非常に麗しく喜[2]ばしい者たちであったので、わたしの民に誘惑となら
ないように、彼らの肌を黒ずんだ肌[3]にされた。
22 主なる神はこう言われる。「彼らが自分たちの罪悪を悔い改めなければ、わたしは彼らをあなたの民にとって不快[1]な者としよう。
23 彼らの子孫と縁[1]を結ぶ者の子孫はのろわれる。それらの者は同じのろいを受けるからである。」主はそう言われ、そのとおりになった。
24 彼らは、自分たちに下されたのろいのために、悪意と狡猾さに満ちた怠惰[1]な民となり、荒れ野で猛獣をあさった。
25 主なる神はわたしに言われた。「彼らはあなたの子孫にわたしのことを思い起こさせるため、あなたの子孫にとって鞭となるであろう。そして、あなたの子孫がわたしを覚えて、わたしの言葉に聞き従わなければ、彼らはあなたの子孫を、滅びに至るまで鞭打つであろう。」
26 さて、わたしニーファイはヤコブとヨセフを任[1]じ、彼らをわたしの民の地における祭司と教師にした。
27 そして、わたしたちは幸福に暮らした。
28 そして、わたしたちがエルサレムを去ってから三

18 ① ヤコ 1・9、11
19 ① 1ニフ 2・22
20 ① GS「教える・教師」
② 2ニフ 2・21
21 ① アル 9・14
② GS「のろい」
③ 4ニフ 1・10
22 ① 2ニフ 26・33、3ニフ 2・14－16
23 ① 1ニフ 12・23
GS「結婚－異なった信仰を持つ人との結婚」
24 ① GS「怠惰」
26 ① ヤコ 1・18－19、モサ 23・17

十年が過ぎた。
29 わたしニーファイはこれまで、自分の造った版に
わたしの民についての記録を付けてきた。
30 そこで、主なる神はわたしに、「ほかに版を造り、
あなたの民の益となるように、わたしの目に善しと
する多くの事柄をそれに刻みなさい」と言われた。
31 それでわたしニーファイは、主の命令に従い、行
ってこの版を造り、これらのことを刻んだ。
32 わたしは神に喜ばれる事柄を刻んだ。もしもわた
しの民が神にかかわる事柄を喜ぶならば、彼らはこ
の版にわたしが刻んだことも喜ぶであろう。
33 また、もしもわたしの民が自分たちの歴史につい
てもっと詳しく知りたいならば、わたしの造ったほ
かの版を調べなくてはならない。
34 しかし、もう四十年が過ぎ去り、兄たちとの間に
すでに戦争や争いがあったと言えば、それで十分で
あろう。

第6章

ヤコブ、ユダヤ人の歴史を詳しく述べる。バビロニア捕囚と帰還。イスラエルの聖者の務めと十字架の刑。異邦人から受ける助け。ユダヤ人がメシヤを信じるときに起こる末日のユダヤ人の回復。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 ニーファイの弟ヤコブがニーファイの民に語った
言葉。
2 「見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは
神から召され、神の聖なる位に従って聖任され、ま
たあなたがたが王すなわち保護者として頼り、身の
安全のよりどころとしているわたしの兄ニーファイ
によって任じられたので、あなたがたも知っている
ように、わたしは非常に多くのことをあなたがたに
語ってきた。
3 にもかかわらず、わたしはあなたがたの幸いを願
って、あなたがたに再び話をする。まことに、わた
しはあなたがたのことを非常に心配している。ま
た、あなたがたも知っているように、わたしはこれ
までも心配してきた。そのためにわたしは、力の限
りあなたがたに説き勧め、父の言葉をあなたがた
に教え、また、世界の創造以来書き記されてきたす
べての事柄について、あなたがたに語ってきた。

30① 1ニフ19・1－6
31① GS「版」
第6章
2① ヤコ1・9、11

4 ところで、見よ、わたしはあなたがたに、現在あることとこれから起こることについて話したいと思う。それで、[1]イザヤの言葉を読んで聞かせよう。これらの言葉は、わたしがあなたがたに話すようにと兄が望んだものである。わたしは、あなたがたが神の御名を覚えてあがめるように、あなたがたのためを思ってこれを話す。

5 さて、わたしがこれから読む言葉は、イザヤがイスラエルの家に属するすべての者について述べたものである。したがって、あなたがたはイスラエルの家の者であるので、それらをあなたがたにたとえて差し支えない。また、あなたがたはイスラエルの家の者であるので、イザヤが述べたことの中には、あなたがたにたとえて差し支えないものがたくさんある。

6 ところで、イザヤの述べた言葉は次のとおりである。『[1]主なる神はこう言われる。「見よ、わたしは異邦人に向かって手を挙げ、もろもろの民に向かってわたしの[2]旗を掲げよう。すると彼らはあなたの息子たちを腕に抱き、あなたの娘たちを肩に乗せて来る。

7 王たちはあなたの養父となり、王妃たちはあなたの養母となる。彼らは顔を地に向けてあなたに身をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあなたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を受けないからである。」』

8 わたしヤコブは、これらの言葉について少し話したい。見よ、わたしたちは[1]エルサレムから出て来たのであるが、主は、そのエルサレムにいた人々がすでに殺され、また囚われの身となって[2]連れ去られたことを、わたしに示された。

9 しかしながら、主は、彼らが再び[1]帰って来ることをわたしに示してくださった。またイスラエルの聖者である主なる神が、肉にあって彼らに御自身を現されることと、主が御自身を現された後、わたしに語った天使の言葉のとおりに、彼らが主を鞭打って[2]十字架につけることも、主はわたしにお示しになった。

10 彼らがイスラエルの聖者に対して心をかたくなにし、強情になった後、見よ、イスラエルの聖者の[1]裁きが下る。そして彼らが打たれ、苦しめられる日が来る。

---

4 ① 3ニフ23・1
6 ① イザ49・22－23
7 ① ② GS「旗」
モセ1・6、教義133・45
8 ① エス2・6、1ニフ7・13、2ニフ25・10、オム1・15、ヒラ8・20－21
② 列下24・10－16、25・1－12、GS「イスラエルの散乱」
9 ① 1ニフ10・3
② 1ニフ19・10、13、モサ3・9、3ニフ11・14－15、GS「十字架の刑」
10 ① マタ27・24－25

11 したがって彼らは、あちらこちらに追い立てられた後、天使が言うように、多くの者が肉にあって苦しみを受ける。しかし、忠実な者の祈りのおかげで、彼らは滅びることはない。彼らは散らされ、打たれ、嫌われるが、主が彼らに憐れみをかけられるので、[1]彼らは自分たちの贖い主を知るようになると、[2]再び受け継ぎの地に集められる。[3]

12 この預言者が書き記している異邦人[1]は、幸いである。見よ、彼らは悔い改めてシオンと戦わず、あの大きな忌まわしい教会[2]に加わらなければ救われるからである。主なる神は御自分の子供たちと交わされた聖約[3]を果たされるからである。預言者がこれらの事柄を書き記したのはこのためである。

13 したがって、シオンと、また主の聖約の民と戦う者たちは、これらの人々の足のちりをなめるであろう。しかし、主の民は恥[1]を受けることはない。主の民は主を待ち望む[2]者であり、今なおメシヤの来臨を待ち望んでいるからである。

14 見よ、この預言者の言葉によれば、メシヤは彼らを再び元に戻す[1]業を始められる。それで、彼らがメシヤを信じる日が来ると、メシヤは力と大いなる栄光とをもって、彼らに御自身を現し[2]、彼らの敵を滅ぼされる[3]。またメシヤは、御自分を信じる者を一人も滅ぼされない。

15 メシヤを信じない者は、火[1]と嵐と地震と流血と疫病[2]と飢饉によって滅ぼされる[3]。そして彼らは、主がイスラエルの聖者なる神であられることを知るのである。

16 『勇士から獲物をどうして取り返せようか。[1]また正当[2]な捕虜をどうして救い出せようか。』

17 しかし主はこのように言われる。『勇士の捕らえた捕虜[1]さえ取り返され、荒々しい者に奪われたものさえ奪い返される。』力[2]の神が御自分の聖約の民を救い出される[3]からである。主はこう言われる。『わたしはあなたと争う者と争う。

18 わたしはあなたを虐げる者に、彼ら自身の肉を食わせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように自分の血に酔う。こうしてすべての者は、主なるわたしがあなたの救い主、あなたの贖い[1]主、ヤコブの力[2]ある者であることを知るようになる。』

---

11 ① 1ニフ22・11－12、2ニフ9・2
② ホセ3・5
③ GS「イスラエル－イスラエルの集合」
12 ① 1ニフ14・1－2、2ニフ10・9－10
② GS「悪魔－悪魔の教会」
③ GS「アブラハムの聖約（契約）」
13 ① 3ニフ22・4
② イザ40・31、1ニフ21・23、教義133・45
③ イザ11・11、2ニフ25・17、29・1
14 ① 1ニフ22・13－14
② 2ニフ3・5
③ ヤコ6・3
15 ① 教義97・22－26
② 2ニフ10・16
③ 2ニフ16・8、28・3、GS「終わりの時－末日」
16 ① イザ49・24－26
② 第17節の主の聖約の民のこと
17 ① 1ニフ21・25
② GS「エホバ」
③ 列下17・39
18 ① GS「贖い主」
② 創世49・24、イザ60・16

第７章

イザヤ、メシヤについて述べる。メシヤは博学な者の舌を持っておられる。また、打つ者に御自分の背を向けられる。メシヤは辱められることはない。イザヤ書第五十章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「まことに、主はこう言われる。『わたしはあなたを去らせたか。とこしえにあなたを捨てたか。』主は言われる。『あなたの母の離縁状はどこにあるか。わたしはあなたをだれのもとに去らせたか。どの債主にあなたを売り渡したか。わたしはだれにあなたを売り渡したか。見よ、あなたは自分の罪悪のために自分自身を売り渡し、あなたの母は、あなたの背きのために捨てられた。

2 それゆえ、わたしが来たときにはだれもいなかった。わたしが呼んだときに、まことに、答える者はだれ一人いなかった。おお、イスラエルの家よ、わたしの手が短くて贖うことができないのか。わたしには救う力がないのか。見よ、わたしは海をしかって干上がらせ、川を荒れ野とする。水が乾いてその中の魚は悪臭を放ち、渇きのために死ぬ。

3 わたしは天を暗黒で覆い、粗布をその覆いとする。』

4 おお、イスラエルの家よ、主なる神は博学な者の舌をわたしに与えて、わたしがあなたに、時宜を得た言葉をどのように語ればよいか分かるようにされた。あなたが疲れているとき、主なる神は朝ごとに目覚めさせてくださる。主なる神はわたしの耳を開いて、博学な者として聞けるようにしてくださる。

5 主なる神は、わたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退くこともしなかった。

6 わたしは打つ者にわたしの背を任せ、ひげを抜く者にわたしの頬を任せた。わたしは侮辱されても、つばきをかけられても、顔を隠さなかった。

7 主なる神がわたしを助けてくださるので、わたしは恥を受けない。それで、わたしは顔を火打ち石のようにした。わたしは自分が辱められないことを知っている。

8 主は近くにいて、わたしを義とされる。わたしと争う者はだれか。さあ、ともに立とう。わたしの敵

第7章
1 ①GS「背教・背信」
2 ①箴言1・24−25、イザ
65・12、アル5・37
②出エ14・21、詩篇106・9、教義133・68−69
③ヨシ3・15−16
④出エ7・21
3 ①出エ10・21
②黙示6・12
4 ①ルカ2・46−47
5 ①教義58・1
6 ①マタ27・26、2ニフ
9・5

はだれか。近くに来させよ。そうすれば、わたしは口の力をもってその敵を打とう。

9 主なる神がわたしを助けてくださる。わたしを罪[1]に定める者は皆、まさに衣のように古び、しみが彼らを食い尽くす。

10 あなたがたの中で、主を畏れ、主の僕の声[1]に従い、暗闇の中を歩いて光を持たない者はだれか。

11 見よ、火をともし、火の粉で自分の身を囲む者よ。あなたがたは皆、自分[1]たちの火の光の中を歩み、自分たちのともした火の粉の中を歩め。あなたがたがわたしの手から受けるのは、苦しみのうちに横たわることである。

第8章

終わりの時に、主はシオンを慰め、イスラエルを集められる。贖われた者は大きな喜びのうちにシオンに来る。イザヤ書第五十一章および第五十二章一−二節と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「『義を追い求める者よ、わたしに聞き従え。あなたがたが切り出された岩[1]と、あなたがたが掘り出された穴とを思いみよ。

2 あなたがたの父[1]アブラハムと、あなたがたを産んだサラ[2]とを思いみよ。わたしは彼ただ一人を召し、彼を祝福した。』

3 主はシオン[1]を慰め、すべてその荒れた所を慰められる。主はその荒れ野[2]をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにされる。そこには喜びと楽しみがあり、感謝と歌声がある。

4 『わたしの民よ、わたしに聴け。おお、わたしの国民よ、わたしに耳を傾けよ。律法[1]はわたしから出で、わたしは、わたしの裁きを民を照らす光[2]とする。

5 わたしの義は近い。わたしの救い[1]はすでに出ており、わたしの腕は民を裁く。もろもろの島[2]はわたしを待ち望み、わたしの腕に頼る。

6 天に向かって目を上げよ。また、下の地を見よ。天は煙[1]のように消えうせ[2]、地は衣のように古び[3]、そこに住む者も同じように死ぬ。しかし、わたしの救いはとこしえに続き、わたしの義は廃れない。

第8章

9 ① ロマ8・31
10 ① 教義1・38
11 ① 士師17・6

1 ① GS「岩」
2 ① 創世17・1−8、教義132・49
3 ① 創世24・36
② GS「シオン」
イザ35・1−2、6−7
4 ① あるいは「教え」「教義」。イザ2・3、GS「福音」
② GS「光・キリストの光」
5 ① GS「救い」
② 2ニフ10・20
6 ① 2ペテ3・10
② ヘブライ語で「散らされる」の意。詩篇102・25−27
③ ヘブライ語で「朽ちる」の意

7 義を知る者よ、わたしが心の中にわたしの律法を書き記した民よ、わたしに聴け。人のそしりを恐れるな。ののしりを怖がるな。
8 しみが彼らを衣のように食い尽くし、虫が彼らを羊の毛のように食う。しかし、わたしの義はとこしえに続き、わたしの救いは代々に及ぶ。』
9 目覚めてください、目覚めてください。おお、主の御腕よ、1)力をまとってください。昔のように目を覚ましてください。かつてラハブを切り裂き、龍を貫いた御方は、あなたではありませんか。
10 かつて海を、すなわち大いなる深みの水を干上がらせ、海の深みを贖われた者の通る道とされた御方は、あなたではありませんか。
11 それゆえ、主に1)贖われた者は帰って来ます。2)歌いながらシオンに帰って来ます。そして、永遠の喜びと聖さは彼らの頭上にあり、彼らは楽しみと喜びを得、悲しみと3)嘆きは逃げ去ります。
12 『そうしたのはわたしである。まことに、わたしがあなたがたを慰める者である。見よ、あなたは何者なので、いつかは死ぬ人を、また2)草のようになる人の子を3)恐れるのか。
13 天を広げ地の基を据えた、あなたの造り主である主を1)忘れるあなたは、何者であるか。虐げる者がまるで滅ぼす用意が整ったかのように憤っているのを、日々絶えず恐れてきたあなたは、何者であるか。虐げる者の憤りはどこにあるのか。
14 流浪の囚われ人は速やかに解き放されて、穴の中で死ぬことなく、パンが尽きることもない。
15 わたしは1)波をとどろかせる、主なるあなたの神である。万軍の主とは、わたしの名である。
16 わたしは天を設け、地の基を据え、シオンに向かって、見よ、あなたはわたしの1)民である、と言うために、あなたの口にわたしの言葉を置き、わたしの手の陰であなたを覆った。』
17 おお、エルサレムよ、目覚めよ、目覚めよ、立ち上がれ。あなたは先に主の手から主の1)憤りの杯を2)飲んだ。すなわち、あなたは震える杯の搾り取ったかすを飲み干した。
18 彼女が産んだすべての息子の中に、彼女を導く者は一人もなく、彼女が育て上げたすべての息子の中に、彼女の手を取る者は一人もいない。
19 これら二人の息子があなたのもとに来ている。こ

---

7 ①詩篇56・4、11、教義122・9
9 ①教義113・7－8
10 ①イザ35・8
11 ①GS「贖い・贖う」
②イザ35・10
12 ①黙示21・4
③教義133・47、136・22
②イザ40・6－8、1－ペテ1・24
13 ①エレ1・8
③エレ23・27
15 ①1ニフ4・2
16 ①2ニフ3・9、29・14
17 ①ルカ21・24
②イザ29・9、エレ25・15
19 ①黙示11・3

の二人はあなたの荒廃と滅亡、飢饉と剣のゆえにあなたを哀れに思う。わたしはだれによって、あなたを慰めようか。

20 あなたの息子たちは、この二人のほかは皆、気を失った。この二人はすべての通りの起点に当たる場所で横たわっている。網にかかったかもしかのように、この二人には主の憤り、あなたの神の責めが満ちている。

21 それゆえ、苦しむ者よ、ぶどう酒によらず酔っている者よ、今これを聞け。

22 あなたの主、御自分の民のことを弁護[1]なさるあなたの神、主はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの手から震える杯を、すなわちわたしの憤りの杯のかすを取り除いた。あなたは二度とそれを飲むことはない。

23 わたしは、あなたを苦しめる者の手にそれを渡そう。[1]彼らは先にあなたに、「身をかがめて、我々が踏み越えて行けるようにせよ」と言った。そしてあなたは、自分の体を地面のように、また通りのように横たえて、彼らが踏み越えて行くに任せた。』

24 おお、シオンよ、[1]目覚めよ、目覚めよ、[2]力を着よ。おお、聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。これからはもう、割礼を受けない者と清くない者は、あなたの中に入って来ることはないからである。

25 あなたの身からちりを振り落とせ。おお、エルサレムよ、立ち上がって座せ。[1]おお、囚われたシオンの娘よ、あなたの首の縄を解き捨てよ。[2]」

第9章

ユダヤ人は将来、彼らに約束されたすべての地に集められる。贖罪は人を堕落から贖う。死者の体は墓から出、霊は地獄やパラダイスから出て来る。その後、人は裁きを受ける。贖罪は人を死と地獄、悪魔、無窮の苦痛から救う。義人は神の王国に救われる。罪に対しては罰が宣告される。イスラエルの聖者が門を守る御方である。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしがこれらのことを読んだのは、イスラエルの家に属するすべての者と交わされた主の聖約[1]について、あなたがたに知らせるためである。

---

21 ① 2ニフ27・4
② エレ50・34
22 ① ゼカ12・9
23 ① GS「シオン」
24 ① イザ52・1－2
② 教義113・7－8
③ ヨエ3・17
④ ちりから立ち上がって威厳をもって座せ。そうすれば、終わりには贖われる、の意
25 ① 教義113・9－10
② 第9章
1 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」

2 この聖約は、ユダヤ人が神のまことの教会と群れに回復され、[1)]彼らの受け継ぎの地に集め戻され、[2)]彼らに約束されたすべての地に定住する時が来るまで、主が初めから代々、聖なる預言者たちの口を通してユダヤ人に語ってこられたものである。[3)]

3 見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしがこれらのことをあなたがたに話すのは、主なる神があなたがたの子孫に授けられる祝福のことで、あなたがたが喜びを味わい、とこしえに[1)]頭を上げていられるようにするためである。

4 わたしはあなたがたが、すなわちあなたがたの多くが将来のことを知ろうとして、大いに探し求めてきたことを知っている。その結果わたしに分かるのは、わたしたちの肉体は必ず衰えて死ぬけれども、将来わたしたちが[1)]肉体にあって神にまみえることを、あなたがたが知っているということである。

5 また、まことにわたしに分かるのは、わたしたちが出て来たエルサレムで、将来、神が肉体にあって人々に御自身を現されることを、あなたがたが知っているということである。そのことが、彼らの中で起こることが必要だからである。すべての人が大いなる創造主に従うようになるためには、[1)]創造主御自身が肉にあって人のなすがままになり、[2)]すべての人のために亡くなられることが必要なのである。

6 死がすべての人に及ぶようになったので、大いなる創造主の憐れみに満ちた[1)]計画を成就するためには、[2)]復活の力が必ずなければならない。その復活は、[3)]堕落のゆえに必ず人に及ばなければならない。堕落は背きのゆえに生じたのである。そして、人は堕落したために主の御前から絶[4)]たれてしまった。

7 したがって、[1)]贖罪は無限の[2)]贖罪でなければならない。もしそれが無限の贖罪でなければ、この朽ちるものが朽ちないものを着ることはできない。したがって、人に下った最初の裁きが限[3)]りなく続[4)]かなければならない。もしそうならば、この肉体は横たえられ、朽ち果てて母なる大地に返り、もう二度と起き上がることがないに違いない。

8 おお、神の[1)]知恵、神の[2)]憐れみと恵[3)]みよ。見よ、もしも肉[4)]体がもう二度と起き上がることがないとすれば、わたしたちの霊は、永遠の神の御前から落[5)]ち悪[6)]魔となったあの天使に従うようになり、もはや起き上がることはない。

---

2 ① 2ニフ6・11、GS「福音の回復」
② 2ニフ10・7−8、GS「約束の地」
③ GS「イスラエルーイスラエルの集合」
3 ① JS詩篇24・7−10
4 ① ヨブ19・26、アル11・41−45、42・23、ヒラ14・15、モル9・13
5 ① GS「創造・創造する」
6 ① 15 GS「贖いの計画」
② GS「復活」
③ GS「堕落（アダムとエバの）」
7 ① 2ニフ2・5 GS「贖罪」
② アル34・10
③ モサ16・4−5、アル42・6、9、14
④ モサ15・19
8 ① 21 GS「知恵」
② GS「憐れみ」
③ GS「恵み」
④ 教義93・33−34
⑤ イザ14・12、2ニフ2・17−18、モセ4・3−4、アブ3・27−28
⑥ GS「悪魔」

9 そして、わたしたちの霊は、あの天使のようになっていたに違いない。わたしたちは悪魔の使いである悪霊となって、神の御前から締め出され、偽りの父とともに、彼自身のように惨めな状態にとどまっていたに違いない。まことに、その者はわたしたちの始祖をだました者であり、光の天使であるかのように装い、人の子らをそそのかして人殺しをする、秘密結社を作らせたり、あらゆる隠れた闇の業を行わせたりする者である。

10 おお、神の慈しみの何と深いことか。わたしたちがこの恐ろしい怪物に捕まらないように、神は逃れる道を備えてくださっている。まことに、その恐ろしい怪物とは死と地獄であり、わたしはそれを肉体の死および霊の死と呼ぶ。

11 イスラエルの聖者であるわたしたちの神の解放の道により、わたしが語ってきたこの死は肉体の死であって、やがてその死者を解き放す。その死とは墓のことである。

12 また、わたしが語ってきたこの死、すなわち霊の死もやがてその死を解き放す。その霊の死とは地獄のことである。したがって、死と地獄とはその死を解き放さなければならない。すなわち、地獄はそこに囚われている霊を解き放し、墓はそこに囚われている肉体を解き放して、人々の肉体と霊は互いに回復される。それはイスラエルの聖者の復活の力によるのである。

13 おお、わたしたちの神の計画の何と偉大なことよ。今語ったことのほかに、神のパラダイスは義人の霊を解き放し、墓は義人の体を解き放さなければならない。そして、その霊と体は再び本来のものに回復され、すべての人は不朽となり、不死となる。彼らは生けるものであって、わたしたちのように肉にあって完全な知識を持つ。わたしたちが持っている知識は、そのときに完全になるのである。

14 それでわたしたちは、自分に罪があること、汚れていること、裸であることについて、すべて完全な知識を得る。また義人は、自分の喜びと自分の義について完全な知識を得、潔白を、まことに義の衣をまとう。

15 そしてすべての人は、この第一の死から命に移行すると、すでに不死となっているので、イスラエルの聖者の裁きの座の前に出なければならない。それ

---

9 ① ヤコ 3・11、アル 5・25、39
② 黙示 12・7－9
③ GS「偽り」
④ 創世 3・1－13、モサ 16・3、モセ 4・5－19
⑤ 教義 129・8
⑥ 2 コリ 11・14、アル 30・53
⑦ GS「秘密結社」

10 ① モサ 16・7－8、アル 42・6－15
② GS「地獄」
③ GS「解放者」
④ GS「死（肉体の）」
⑤ GS「死（霊の）」
⑥ 教義 76・81－85
⑦ GS「霊」
⑧ GS「復活」
⑨ GS「贖いの計画」

13 ① 教義 138・14－19、GS「パラダイス」
② GS「不死不滅」
③ アル 11・43
④ GS「完全」
⑤ GS「完全」
⑥ 教義 130・18－19
⑦ GS「罪悪感」

14 ① モル 9・5
② モサ 3・25、アル 5・18
③ GS「義」
④ GS「清さ」
⑤ 教義 109・76
⑥ 箴言 31・25
⑦ GS「最後の裁き」

から裁きがあって、すべての人は神の聖なる裁きによって裁かれなければならない。[2]

16そして、義にかなった者はそのまま義の状態にあり、[1]汚れている者は、そのまま汚れた状態にある。このことは、主が生きておられるように確かである。主なる神がそう言われたからであり、これは、決して過ぎ去ることのない神の永遠の御言葉である。[3]ところで、汚れている者は悪魔と悪魔の使いであり、これらの者は、彼らのために用意された永遠の火の中に入る。[4]彼らの苦痛は、炎がとこしえに立ち上って消えることのない、火と硫黄の池のようである。[5]

17おお、わたしたちの神の偉大で公正なことよ。[1]神は御自分のすべての御言葉を実行されるからであり、神の御言葉がすでに神の口から出たもので、その律法は成就されなければならないものだからである。

18しかし見よ、義人、すなわちイスラエルの聖者の聖徒たち、[1]イスラエルの聖者を信じてきた者たち、世の十字架を堪え忍んできた者たち、[2]世の辱めをいとわなかった者たち、これらの人々は、[3]世の初めから彼らのために用意された神の王国を受け継ぐ。[4]そして彼らの喜びは、とこしえに満たされるであろう。[5]

19おお、イスラエルの聖者であるわたしたちの神の憐れみ深いことよ。神は御自分の聖徒たちをあの恐ろしい怪物、すなわち悪魔と死と地獄と、無窮の苦痛であるあの火と硫黄の池から救われる。[1]

20おお、わたしたちの神の聖さは何と偉大なことか。神はすべてのことを御存じであり、[2]神の御存じでないことはない。[3]

21神は、神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られる。[1]見よ、神はすべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、アダムの家族に属する、生けるものすべての苦痛を受けられる。[2]

22神がこれを受けられるのは、復活がすべての人に及び、大いなる裁きの日に、すべての人が神の御前に立つようにするためである。

23また神は、すべての人に、イスラエルの聖者に対して完全な信仰を抱きながら、悔い改めて、[1]神の御名によってバプテスマを受けなければならないと命[2]

---

15 ② 詩篇19・9、2ニフ
16 ① 30・9
② GS「汚れ」
1ニフ15・33－35、アル7・21、モル9・14、教義88・35
③ 教義56・11
④ 列上8・56、教義1・38、モセ1・4
⑤ GS「悪魔」
⑥ モサ27・28
⑦ 黙示21・8、2ニフ28・23、教義63・17
17 ① GS「正義」
② GS「聖徒」
18 ① ルカ14・27
③ アル13・3
④ GS「昇栄」
⑤ 教義45・58、84・38
⑥ GS「永遠の命」
19 ① 1ニフ15・35
② GS「地獄」
③ 教義108・8
20 ① GS「聖い」
② アル26・35、教義38・2
21 ① GS「救い」
② GS「アダム」
③ 教義18・11、19・18
23 ① GS「悔い改め」
② GS「バプテスマ」

じておられる。そうでなければ、人は神の王国に救われない。

24 もし彼らが、悔い改めて神の御名を信じることをせず、またその御名によってバプテスマを受けることなく、最後まで堪え忍ぶことをしなければ、彼らは罰の定めを受ける。イスラエルの聖者である主なる神が、そう言われたからである。

25 それゆえ、イスラエルの聖者は律法を授けられた。律法がないところには罰がない。また罰のないところには罪の宣告もない。そして、罪の宣告のないところで、イスラエルの聖者の憐れみが人々に対してその役割を主張するのはなぜかといえば、それは贖罪のゆえである。彼らはイスラエルの聖者の力によって救われているからである。

26 その贖罪は、律法を与えられたことのないすべての人にとっても、神の正義の要求を満たすので、これらの人々は、あの恐ろしい怪物、すなわち死と地獄と悪魔と、無窮の苦痛である火と硫黄の池から救われて、彼らに息をお与えになったイスラエルの聖者である神のみもとに連れ戻されるのである。

27 しかし、すでに律法を与えられ、まことにわたしたちと同じように神のすべての戒めを受けていながら、それらに背き、自分の試しの生涯をいたずらに過ごす者は災いである。その者の状態は恐ろしいものである。

28 おお、悪しき者のあの狡猾な策謀よ。おお、人の虚栄と意志の弱さと愚かしさよ。人は学識があると自分は賢いと思い、神の勧告に聞き従わない。そして自分独りで分かると思って神の勧告を無視するので、彼らの知恵は愚かであって役に立たない。そして彼らは滅びるのである。

29 しかし、神の勧告に聞き従うならば、学識のあるのはよいことである。

30 しかし、この世のものを豊かに持つ富者は災いである。彼らは自分が富んでいるので、貧しい者をさげすみ、柔和な者を迫害する。また、彼らの心は彼らの富にあるので、富が彼らの神となっている。そして見よ、彼らの富は彼らとともに滅びるのである。

31 聞こうとせずに、耳の聞こえない者のようになっている者は災いである。彼らは滅びるからである。

32 見ようとせずに、盲人のようになっている者は災

---

24 ① GS「イエス・キリスト御名を受ける」
25 ① GS「堪え忍ぶ」 ② GS「罰の定め」 ③ 新ヤコ 4・17、GS「律法」 ② ロマ 4・15、2ニフ 2・13、アル 42・12－24、2ニフ 2・10、アル 34・15－16、GS「責任を負う」 ② モサ 15・24、教義 137・7
26 ① GS「贖罪」 ② モサ 3・11 ③ GS「正義」 ④ 創世 2・7、教義 93・33 ⑤ アブ 5・7
27 ① ルカ 12・47－48 ② アル 28・13 ③ GS「うぬぼれ」 ④ ルカ 16・15、2ニフ 26・20、28・4、15 ⑤ 箴言 14・6、エレ 8・8－9、ロマ 1・22、GS「高慢」、「知恵」
28 ① GS「堪え忍ぶ」
29 ① ヤコ 4・10 ② 2ニフ 28・26
30 ① ルカ 12・34、1テモ 6・10、教義 56・16 ② 2ニフ 28・26
31 ① GS「貧しい」 ② エゼ 33・30－33、マタ 11・15、モサ 26・28、教義 1・2、11、14、モセ 6・27

いである。彼らもまた滅びるからである。

33 心に割礼のない者は災いである。彼らは終わりの日に自分の罪悪を知って打たれるからである。

34 1)偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである。

35 故意に人を殺す者は災いである。彼は死ぬからである。

36 1)みだらな行いをする者は災いである。彼らは地獄に突き落とされるからである。

37 偶像を礼拝する者は災いである。すべての悪霊を治める悪魔が喜ぶからである。

38 要するに、罪を抱いたまま死ぬ者は皆、災いである。彼らは神のみもとに帰って神の御顔を仰ぐが、罪の中にとどまるからである。

39 おお、わたしの愛する同胞よ、あの聖なる神に背くことの恐ろしさと、あの狡猾な者の誘惑に負けることの恐ろしさを思い起こしなさい。肉の思いを抱くことは死であり、霊的な思いを抱くことは永遠の命であることを覚えておきなさい。

40 おお、わたしの愛する同胞よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。イスラエルの聖者の偉大さを思い起こしなさい。わたしがあなたがたに対してひどいことを語ったと言ってはならない。もしそう言うなら、あなたがたは真理をののしることになる。わたしはあなたがたの造り主の御言葉を語ってきたからである。わたしは真理の言葉が、すべての汚れに対して厳しいことを知っている。しかし、義人は真理を愛しており、おののかないので、真理の言葉を恐れない。

41 おお、それで、わたしの愛する同胞よ、聖者なる主のみもとに来なさい。主の道が義にかなっていることを覚えておきなさい。見よ、その道は人にとって狭いが、人の前にまっすぐであり、門を守る者はイスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使われない。またその門を通る以外に、ほかの道はない。そしてその御方を欺くことはできない。その御方の御名は、主なる神だからである。

42 そして、たたく者にはだれにでも、主なる神は門をお開けになる。しかし、自分に学識のあることを誇る知者や、知恵のあることを誇る学者、富のあることを誇る富者、まことに、これらの者を主なる神はさげすまれる。彼らがこのようなものを捨て

---

34 ① 箴言19・9、GS「偽り」
35 ① 「正直」 ② GS「地獄」
21 出エ20・13、モサ13・
36 ① GS「死刑」 ② 3ニフ12・27－29、
37 ① GS「純潔」 ② GS「偶像礼拝」
38 ① アル40・11、13
39 ① 32・8、2ニフ28・20－22、モサ2・32、4・14、アル30・53、ロマ8・6、GS「現世的」 ② GS「死（霊の）」 ③ GS「永遠の命」 ④ GS箴言11・19
40 ① GS「真理」 ② 1ニフ16・2、2ニフ28・28、33・5
41 ① 1ニフ6・4、ヤコ1・7、オム1・26、モロ10・30－32、3ニフ14・13－14、教義132・22、 ② 2ニフ31・17－21、アル37・46、教義132・22、 ③ ルカ13・24、2ニフ33・9、ヒラ3・29－30、2ニフ31・9、17－18、3ニフ14・13－14、教義43・7、137・2 ④ GS「高慢」
42 ① マタ11・25 ②

て、神の御前で自分を愚かな者だと思って心底謙遜になるのでなければ、主は彼らのために門をお開けにはならない。

43 そして、知者と賢者にかかわるもの、すなわち聖徒たちのために用意されているあの幸福は、彼らからとこしえに隠されるのである。

44 おお、わたしの愛する同胞よ、わたしの言葉を覚えておきなさい。見よ、わたしは自分の衣を脱いで、これをあなたがたの前で振り、わたしの救いの神に、そのすべてを見通す目でわたしを見てくださるように祈る。それであなたがたは、すべての人が各自の行いに応じて裁かれる終わりの日に、わたしがこうしてあなたがたの罪悪をわたしの身から振り払ったのを、イスラエルの神が御覧になったことと、わたしが神の御前に輝いて立っており、あなたがたの血から免れていることを知るであろう。

45 おお、わたしの愛する同胞よ、罪を捨てなさい。あなたがたを固く縛ろうとする者の鎖を振り落とし、あなたがたの救いの岩である神のみもとに来なさい。

46 義人に公正な報いが与えられるあの栄えある日、すなわち裁きの日のために、あなたがた自身を備えなさい。そうすればあなたがたは、ひどく恐れてしりごみしなくて済む。また、自分のひどい罪悪をことごとく思い出して、『おお、全能の神なる主よ、神聖です。あなたの裁きは神聖です。わたしは自分に罪のあることを知っています。わたしはあなたの律法に背きました。わたしの背きはわたし自身が犯したものです。そして、わたしはすでに悪魔に捕らえられており、悪魔のひどい惨めな状態のとりこになっています』と、やむを得ず叫ばなくて済むであろう。

47 しかし見よ、わたしの同胞よ、わたしがあなたがたに、これらの事柄が恐ろしい現実であることを自覚させる必要があるだろうか。あなたがたの思いが清かったならば、わたしはあなたがたをひどく苦しめたりするだろうか。もしあなたがたが罪から解放されているならば、わたしは、真理の率直さに従ってあなたがたにも率直であろうとするだろうか。

48 見よ、もしあなたがたが聖なる状態であるならば、わたしは、聖さについてあなたがたに語るだろう。しかしあなたがたは、今聖なる状態ではなく、

---

42 ③ 1コリ3・18−21
43 ④ GS「謙遜」
44 ① 1コリ2・9−16
45 ① ヤコ2・10
28 ③ ヤコ1・19
② ヤコ2・2、モサ2・2
36・18 ① 2ニフ28・22、アル
② GS「岩」
46 ① GS「正義」
② GS「最後の裁き」
③ モサ3・25
④ 1ニフ1・14、モセ2・1

またわたしを師と見なしてくれているので、わたしは、罪の結果についてあなたがたに教えることが必要である。

49 見よ、わたしの霊は罪を忌み嫌い、わたしの心は義を喜ぶ。そしてわたしは、神の聖なる御名をほめたたえよう。

50 さあ、わたしの同胞よ、渇いている者は皆、水の所に来なさい。金のない者は、さあ、買って食べなさい。まことに、さあ、金を出さず、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買いなさい。

51 それゆえ、価値のないものに金を使ってはならない。満足を得られないものに労力を費やしてはならない。熱心にわたしに聞き従い、わたしがこれまでに語った言葉を覚えておきなさい。そして、イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを食べて、豊かなものによってあなた自身を喜ばせなさい。

52 見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたの神の御言葉を覚えておきなさい。日中は絶えず神に祈り、夜は神の聖なる御名に感謝し、心を喜ばせなさい。

53 主の聖約がどれほど偉大で、人の子らに対して主が御自身を低くされる姿がどれほど偉大であるかを見なさい。主の偉大さと、主の恵みと憐れみのゆえに、主はわたしたちの子孫が肉においてことごとく滅ぼされてしまうことはなく、主御自身が守ってくださると、わたしたちに約束された。また、後の時代にわたしたちの子孫が、イスラエルの家のために一本の義にかなった枝になるとも約束された。

54 さて、わたしの同胞よ、わたしはもっとあなたがたに話したい。しかし明日、わたしの言葉の残りを告げ知らせることにしよう。アーメン。」

第10章

ユダヤ人は将来、自分たちの神を十字架につける。ユダヤ人は、主を信じるようになるときまで散らされる。アメリカは将来、支配する王のいない自由の地となる。人は神と和解し、神の恵みによって救いを得るようにしなければならない。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは、

---

48 ① GS「罪」
① アル37・32
49 ② 1ニフ18・16
50 ① GS「生ける水」
② アル42・27
51 ① イザ55・1－2
② 2ニフ31・20、32・3、3ニフ12・6
52 ① GS「感謝」
53 ① GS「聖約（契約）」
② GS「憐れみ」
③ GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」

先にわたしが語ったこの義にかなった枝[1]について、もう一度あなたがたに話そう。

2 見よ、わたしたちが得た約束[1]は、肉におけるわたしたちへの約束である。だからわたしに示されたように、わたしたちの子孫の中には、不信仰のために肉において滅びる者が多い。しかし、それでも神は多くの者に憐れみをかけられる。それで、わたしたちの子孫は元に戻され、自分たちの贖い主について真実の知識を与えるものを得る。

3 それゆえ、わたしが先にあなたがたに語ったように、キリストは（この名こそが贖い主の御名であるとわたしは昨晩[1]天使から告げられたが）ユダヤ人の中に、すなわち世の人々の中でいちばん邪悪な者たちの中に来られる[2]必要がある。そして、彼らはキリストを十字架[3]につける。それがわたしたちの神にとって必要だからである。彼らのほかには、自分たちの神[4]を十字架[5]につけるような国民は、地上のどこにもいない。

4 もし大きな奇跡[1]がほかの国民の中で行われたならば、その民は悔い改め、その奇跡を行われた御方が自分たちの神であられることに気づくからである。

5 しかし、エルサレムにいる人々は、偽善売教[1]と罪悪のために、キリストに対して心をかたくなにして、キリストを十字架につける。

6 それゆえ、彼らの罪悪のために、滅亡と飢饉、疫病、流血が彼らを襲う。また滅ぼされなかった者は、すべての国民の中に散らされる[1]。

7 しかし見よ、主[1]なる神はこう言われる。『彼らがわたしをキリストであると信じる日が来ると、わたしが彼らの先祖と聖約したように、彼らは肉にあって、地上で彼らの受け継ぎの地に戻される。

8 そして彼らは、長年の離散から、すなわち海[1]の島々から、また地の四方から集められる[2]。また異邦人の国民は、彼らを受け継ぎの地に連れ戻す[3]ことによって、わたしの目に大いなる者となる。』神はこう言われる。

9 まことに異邦人の王たちは、彼らにとって養父となり、王妃たちは養母となる。したがって主の約束[1]は、異邦人にとって偉大である。主がそう言われたからであって、だれがこれに反駁できようか。

10 しかし見よ、神は言われた。『この地はあなたの受け継ぎの地となる。また、異邦人[1]はこの地で祝福さ

第10章

1 ① 1ニフ15・12－16、2ニフ3・5、ヤコ5・43－45
2 ① 1ニフ22・8、3ニフ5・21－26、21・4－7
3 ① 2ニフ25・19、ヤコ7・5、モロ7・22
② GS「イエス・キリスト－降誕と死に関する預言」
③ 1ニフ11・33、モサ3・9、教義45・52－53
④ 1ニフ19・10
⑤ ルカ23・20－24
4 ① GS「奇跡」
5 ① ルカ22・2、GS「偽善売教」
6 ① 1ニフ19・13－14、GS「イスラエル－イスラエルの散乱」
7 ① GS「主」
8 ① 1ニフ22・4、2ニフ10・20－22、教義133・8
② GS「イスラエル－イスラエルの集合」
③ 1ニフ22・8
9 ① イザ49・22－23
② 1ニフ22・8－9、教義3・19－20
10 ① 2ニフ6・12

れる。

11 そして、この地は異邦人にとって自由の地となり、将来異邦人のために立つ王は、この地に一人もいない。

12 わたしは、ほかのすべての国民に対してこの地を防ぎ固めよう。

13 シオンと戦う者は滅びる。

14 わたしに逆らって王を立てる者は滅びる。主であり天の王であるわたしが彼らの王となり、わたしの言葉を聞く彼らにとって、わたしはとこしえに彼らの光となるからである。

15 さて、わたしはこの目的のために、すなわち、人の子らが肉にある間にわたしが彼らに行うと約束した聖約を果たすために、隠れた闇の業と殺人と忌まわしい行いを絶やさなければならない。

16 そのために、シオンに挑む者は、ユダヤ人も異邦人も、束縛された者も自由な者も、男も女もすべて滅びる。これらの者は全地の淫婦だからである。わたしに味方しない者は、わたしに反対する者だからである。』わたしたちの神はこう言われる。

17 『わたしは人の子らに立てた約束、すなわち、彼らが肉にある間にわたしが彼らに行うと約束したことを果たす。』

18 それで愛する同胞よ、神はこう言われる。『わたしは異邦人の手によって、あなたの子孫を苦しめ悩ます。それでも、わたしは異邦人の心を和らげるので、彼らはあなたの子孫にとって父親のようになる。それで、異邦人は祝福されて、イスラエルの家の中に数えられる。

19 さて、わたしはあなたの子孫と、あなたの子孫に数えられる者のために、この地を受け継ぎの地としてとこしえに聖別しよう。』神はわたしにそう言われる。『この地はわたしにとって、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地である。それゆえわたしは、ここに住むすべての者がわたしを礼拝することを望む。』神はそう言われる。

20 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしたちの憐れみ深い神は、これらのことについて、このように多くの知識を与えてくださったので、わたしたちは神を覚えて、罪を捨てようではないか。わたしたちは捨てられてはいないので、うなだれるのはやめよう。わたしたちは受け継ぎの地から追い出された

---

11 ① GS「自由」
② モサ29・31—32
13 ① 1ニフ22・14、19
② イザ60・12
14 ① アル5・50、教義38・21—22、128・22—23、モセ7・53
② GS「光・キリストの光」
15 ① GS「聖約（契約）」
② ヒラ3・23、GS「秘密結社」
16 ① GS「暗闇（霊的な）」
② GS「シオン」
③ 1ニフ13・4—5、22・13—23、28・15—32、3ニフ16・8—15、エテ2・9
④ 1ニフ14・10
⑤ マタ12・30
17 ① 教義1・38
18 ① ルカ13・28—30、教義45・7—30
② エペ3・6、ガラ3・7、29、1ニフ14・1—2、3ニフ16・13、21・6、22・30・2、アブ2・9—11
19 ① 2ニフ3・2
20 ① 1ニフ2・1—4

が、主が海をわたしたちの道[2]とされたので、わたしたちはもっと[3]良い地に導かれて来た。そして、わたしたちは今、[1]海の島々にいる者たちに対する主の約束は偉大である。また、[4]海の島にいる。

21しかし、島々というからには、このほかにももっとあるに違いない。そこにもわたしたちの同胞が住んでいる。

22それは見よ、主なる神が御自分の意のまま、思いのままに、時々イスラエルの家から人々を連れ出さ[1]れたからである。そして見よ、主は、折り取られた者をすべて覚えておられるので、わたしたちのことも覚えておられる。

23それゆえ、心を喜ばせなさい。そしてあなたがたは、自分の[1]思うとおりに[2]行動すること、すなわち永遠の死の道を[3]選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由であるのを覚えておきなさい。

24さて、わたしの愛する同胞よ、神の御心と和解しなさい。悪魔の意志と肉の思いに自らを従わせてはならない。また、神と和解した後にあなたがたが救[1]われるのは、ただ神の恵[2]みによること、また神の恵みを通じてであることを覚えておきなさい。

25そして、神が復活の力によって、あなたがたを死からよみがえらせ、また贖罪[1]の力によって、永遠の死からもよみがえらせてくださって、あなたがたが神の永遠の王国に迎え入れられ、神の恵みによって神をほめたたえることができるように。アーメン。」

第11章

ヤコブ、贖い主にまみえる。モーセの律法はキリストの予型であり、キリストが来られることを立証する。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1ところで、ヤコブはそのときに、もっと多くのことをわたしの民に語ったが、わたしは以上のことだけを書き記すにとどめた。わたしが書き記してきたことで十分だからである。

2さて、わたしニーファイは[1]イザヤの言葉に喜びを感じるので、もっと彼の言葉を書き記そう。わたしは彼の言葉をわたしの民に当てはめ、また彼の言葉をわたしの子孫に伝えよう。わたしが贖い主にまみえたと同じように、まことに彼も[2]贖い主にまみえたからである。

---

20 ② ③ 1 ニフ18・5－23
1 ニフ2・20、GS
「約束の地」
④ イザ11・10－12
21 ① 1 ニフ19・15－16、
22・4
22 ① 1 ニフ22・4
23 ① GS「選択の自由」
② 2 ニフ2・16
③ 申命30・19
24 ① GS「救い」
② GS「恵み」
25 ① GS「贖罪」
② GS「贖い主」

第11章
1 ① 2 ニフ6・1－10
2 ① 2 ニフ31・1
② 3 ニフ23・1
② GS「贖い主」

3 わたしの弟のヤコブもまた、わたしが贖い主にまみえたと同じように、すでに贖い主にまみえている。それで、わたしは自分の言葉が真実であることをわたしの子孫に立証するために、この二人の言葉を子孫に伝えよう。神はかつて、「わたしは三人の言葉をもって、わたしの言葉を確かなものとする」と言われた。にもかかわらず、神はさらに多くの証人を遣わして、御自分の言葉をことごとく立証される。

4 見よ、わたしは、キリストの来臨が真実であることを、わたしの民に立証することに喜びを感じる。モーセの律法は、まさにそのために与えられたのである。世の初めから神が人に与えてこられたすべてのものは、キリストの予型である。

5 わたしはまた、主がわたしたちの先祖に立てられた聖約を喜んでいる。まことに、死から人々を解放する、偉大な永遠の計画に見られる主の恵みと公正、力、憐れみを喜んでいる。

6 またわたしは、キリストが来られなければすべての人が必ず滅びるということを、わたしの民に立証することを喜ぶ。

7 というのは、もしキリストが実在しなければ神は実在せず、神が実在しなければ創造はあり得ないので、わたしたちの存在もないからである。しかしながら、神は実在しておられ、その神はキリストであって、御自身の定められた時が満ちると来られるのである。

8 さて、わたしはイザヤの言葉を少し書き記して、わたしの民の中でこれらの言葉を見る者が心を高めて、すべての人のために喜べるようにしよう。さあ、その言葉は次のとおりである。あなたがたはこれらを、自分自身とすべての人に当てはめてみるがよい。

第12章

イザヤ、末日の神殿とイスラエルの集合、それに福千年の裁きと平和を見る。高ぶる者と悪を行う者は、主の再臨の時に低くされる。イザヤ書第二章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た言葉。

---

3 ① 2ニフ2・3、ヤコ7・5
② 2ニフ27・12、エテ5・2－4、教義5・11
4 ① ヤコ4・5、ジェロ1・11、アル25・15－16、エテ12・19
② 2ニフ31・2
5 ① ③ 2ニフ5・10
② GS「アブラハムの聖約〔契約〕」
6 ① モサ3・15
7 ① 2ニフ2・13
② GS「創造・創造する」

第12章

1 ① 2ニフ12－24章は、ニーファイが真鍮版からイザヤ2－14章を引用したものであるが、多少言い回しに違いが見受けられる
② ヘブライ語で「示現で見る」の意。イザヤは主からの示現によって御告げを受けたということ

2 さて、終わりの時に次のことが起こる。主の家[1]の山は[2]山々の頂[3]に堅く立ち、もろもろの丘よりも高くそびえ、すべての国民はそこに流れて来る。
3 多くの民が来て言う。『さあ、わたしたちは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。主は御自分の道をわたしたちに教えてくださる。わたしたちは主の道を歩[1]もう。』律法[2]はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。
4 主は国民の中で裁き[1]を行い、多くの人を責められる。彼らは剣を鋤先に、槍を鎌に打ち直し、国民は国民に向かって剣を上げず、彼らはもう戦いのことを学ばない。
5 おお、ヤコブの家よ、さあ、わたしたちは主の光の中を歩もう。さあ、歩もうではないか。あなたがたは皆、これまで悪の道に迷[1]ってきた。
6 それゆえ、おお、主よ、あなたはあなたの民、ヤコブの家を捨てられた。それは彼らが、東方からのものを国に満[1]たし、ペリシテ人[2]のように占い師に聴き、見知らぬ者の子供たちと交[3]わるのを好むからである。
7 彼らの地には銀と金が満ち、彼らの宝には限りがない。彼らの地には馬も満ち、戦車も限りなくある。
8 彼らの地には偶像[1]も満ち、彼らは自分の手の業、すなわち自分自身の指で造ったものを拝む。
9 地位の低い者は身[1]をかがめず、地位の高い者はへりくだらない。それゆえ、彼をお赦しにならないように。
10 おお、あなたがた悪人たちよ、岩の中に入り、土の中に隠[1]れよ。主への畏れと主の尊厳の輝きが、あなたがたを打つからである。
11 そしてその日には、目を上げて高ぶる者は低くされ、傲慢な者はかがめられ、ただ主だけが高められる。
12 それは、万軍の主の日[1]が間もなくすべての国民に、まことにすべての者に、すなわち、誇[2]り高ぶる者に、また思い上がるすべての者に臨んで、その者は低くされるからである。
13 主の日は、レバノンの杉が高くそびえているために、そのすべての杉に臨み、またバシャンのすべてのかしの木に臨む。
14 また、すべての高い山、すべての丘、思い上がる

---

2 ① GS「神殿・主の宮」
② ヨエ3・17、GS「シオン」
3 ① 教義49・25
② GS「歩む（神とともに）」
③ ヘブライ語で「教え」「教義」の意。GS「福音」
4 ① 2ニフ21・2−9
5 ① 2ニフ28・14、モサ14・6、アル5・37
6 ① 様々な教えや異国の信仰を持ち込むこと。詩篇106・35
② GS「ペリシテ人」
③ ヘブライ語で「手を打ち合う」「契約を結ぶ」の意
8 ① GS「偶像礼拝」
9 ① 神に対して。それどころか、偶像を拝むこと
10 ① アル12・14
12 ① GS「イエス・キリストの再臨」
② マラ4・1、2ニフ23・11、教義64・24

すべての国民、すべての人、
15 また、すべての高いやぐら、すべての堅固な城
壁、
16 また、海のすべての船、タルシシのすべての船、
すべての好ましい景色に臨む。
17 その日には、高ぶる者はかがめられ、傲慢な者は
低くされ、ただ主だけが高められる。
18 そして、主は偶像をことごとく廃される。
19 主が地を激しく揺り動かされると、主への畏れが
彼らに生じ、主の尊厳の輝きが彼らを打つので、彼
らは岩の洞穴や地の穴に入る。
20 その日、人は拝むために自分で造った銀の偶像と
金の偶像を、もぐらやこうもりに投げ与え、
21 岩の割れ目や、険しい岩の頂に入る。主が地を激
しく揺り動かされると、主への畏れが彼らに生じ、
主の大いなる尊厳の輝きが彼らを打つからである。
22 あなたがたは、鼻で息をする人間に頼むことをや
めよ。そのような者に何の価値があろうか。」

第13章

ユダとエルサレム、不従順のために罰せられる。

主、御自分の民を弁護し、また裁かれる。シオンの娘たち、世俗につかって、のろいと苦しみを受ける。イザヤ書第三章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「見よ、万軍の主なる主は、エルサレムとユダから柱と杖、すなわち、杖と頼むすべてのパンと、柱と頼むすべての水を取り去られる。
2 また勇士、戦士、さばきつかさ、預言者、賢者、長老、
3 五十人の長、高官、議官、熟練した職人、雄弁な演説家を取り去られる。
4 『わたしは子供たちを彼らの君とし、みどりごが彼らを治める。』
5 民は互いに虐げ合い、隣人同士が虐げ合い、子供は長老に向かって高ぶり、地位の低い者は高貴な者に向かって高ぶる。
6 そのとき、人は自分の父の家にいる兄弟に取りすがって言う。『あなたには衣があります。わたしたちを治める者になって、あなたの手でこの破滅が起こらないようにしてください。』

16① ギリシャ語版（七十人訳）とヘブライ語版にはそれぞれお互いにない句があるが、2ニフ12・16にはその両方が含まれている。詩篇48・7、エゼ27・25
17① 主が栄光のうちに来臨される日
22① 死すべき人間に頼るのをやめること。死すべき人間は神に比べれば取るに足りない。モセ1・10

第13章
6① イザ3・6

7 その日、彼は誓って言う。『わたしの家にはパンも着る物もないので、わたしは癒す者にはなれません。わたしを民を治める者にしないでください。』

8 民の舌と行いが主に背いて、主の栄光の目を怒らせたために、エルサレムは滅び、ユダは倒れたのである。

9 彼らの顔つきは彼らについて不利な証言をし、彼らの罪があたかもソドムのようであることを表しており、彼らはそれを隠すことができない。彼らは災いである。彼らは自ら悪の報いを受けたのである。

10 義人に、彼らは幸いであることを告げなさい。彼らは自分の行いの実を食べるからである。

11 悪人は滅びるので災いである。彼らの手の報いが彼らに及ぶからである。

12 わたしの民は子供たちに虐げられ、女たちに治められる。おお、わたしの民よ、あなたを導く者たちはあなたを誤らせ、あなたの歩む道を絶やす。

13 主は弁護するために立ち上がり、民を裁くために立たれる。

14 主は御自分の民の長老たちと君たちについて裁きを行われる。あなたがたはぶどう園を食い尽くし、あなたがたの家には貧しい者から奪ったものがある。

15 『どういうつもりなのか。あなたがたはわたしの民を打ち砕き、貧しい者の顔をすりつぶす。』万軍の主なる神はそう言われる。

16 さらに主は言われる。『シオンの娘たちは高ぶり、首を伸ばして目でこびを売りながら歩き、小またで歩きながら、その足で鈴の音を出す。』

17 それゆえ、主はシオンの娘たちの頭の頂を打ってかさぶたで覆い、また主は彼女たちの隠し所をあらわにされる。

18 その日、主は彼女たちの鈴の音を出す飾り物、髪にかぶせる網、月形の飾り物、

19 鎖、腕輪、顔覆い、

20 頭飾り、すね飾り、結わえひも、香の入れ物、耳飾り、

21 指輪、鼻飾り、

22 礼服、外套、頭巾、髪を縮らすもの、

23 鏡、こまやかに織った亜麻布の衣服、ターバン風の帽子、かぶり物などの装いを取り除かれる。

24 そして、芳香は変わって悪臭となり、帯は変わっ

---

7 ① ヘブライ語で「（傷を）縛る者」の意。わたしはあなたの問題を解決できないということ
8 ① エレ9・11
9 ① 哀歌1・3
9 ② 創世19・1、4－7、24－25、GS「同性愛」
10 ① 申命12・28
10 ① イザ9・16
12 ① ヘブライ語で「論争する」の意。ミカ6・2、教義45・3－5
13 ① ヘブライ語で「統治者」「指導者」の意
14 ① イザ5・7
14 ② ヘブライ語で「焼く」の意
14 ③ 2ニフ28・12－13
14 ④ 横領したもの
14 ⑤ 気取った様子で小またで歩くこと
16 ① ヘブライ語で「露出させる」の意。恥をかかせるということ
17 ① 第18－23節に挙げられている女性の装身具が具体的に何を指すかは、学者の間で意見が分かれる
18 ① 三日月の形をした飾り物のこと
19 ① ヘブライ語で「かぶり物」の意
19 ② ヘブライ語で「きらびやかな衣服」の意
22 ① ヘブライ語で「薄織りの衣」あるいは「薄織り
23 ①

て裂けた布となり、美しく整えた髪は変わってかぶ[2]
ろとなり、[3]胸衣は変わって粗布の帯となり、美しさ
は変わって焼け傷となる。
25あなたの男たちは剣に倒れ、あなたの勇士たちは
戦いで倒れる。
26シオンの門は嘆き悲しみ、シオンは荒れ廃れて、
地に座する。」

第14章

シオンとその娘たち、福千年に贖われ、清められる。
イザヤ書第四章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「その日、七人の女が一人の男に取りすがって言
う。『わたしたちは自分のパンを食べ、自分の着物を
着ます。ただわたしたちをあなたの名で呼ばれるよ
うにし、わたしたちの[1]恥を取り除いてください。』
2その日、主の枝は麗しく栄光に満ち、地の産物は、
イスラエルの逃れた者にとって並外れて麗しくな
る。
3そして、シオンに残る者、エルサレムにとどまる
者、すなわちエルサレムで暮らす者として書き記さ
れているすべての者は、聖なる者と呼ばれる。
4主がその裁きの霊と[2]焼き尽くす霊によって、シオ
ンの娘たちの汚れを[3]洗い清め、エルサレムの血をそ
の中からすすぎ清められるとき、そのことは起こ
る。
5主はシオンの山のすべての住まいと、その集会の
うえに、昼は[1]雲と煙、夜は燃える火の輝きを設けら
れる。シオンのすべての栄光のうえに守りがあるた
めである。
6また一つの幕屋があって、昼は暑さを避ける陰と
なり、また[1]避け所となり、嵐と雨をしのぐ隠れ場所
となる。」

第15章

主のぶどう園（イスラエル）は荒れ廃れ、主の民は
散らされる。背教し、散らされた状態にある彼らに、
数々の災いが及ぶ。主は一つの旗を掲げ、イスラエル
を集められる。イザヤ書第五章と比較せよ。紀元前約
五百五十九年から五百四十五年に至る。

24① ヘブライ語で「ぼろ」の意
② 髪の毛がないこと
③ あるいは「衣」
④ あるいは「焼き印」（奴隷のしるし）

第14章
1① 未婚で子供がいないという汚名
2① イザ60・21、2ニフ3・5、ヤコ2・25
4① 主が地球を清められるとき
1 ② マラ3・2－3、4・5
③ GS「洗い」
出エ13・21
6① イザ25・4、教義115・6

1 「そのときに、わたしは深く愛する者に、その人のぶどう園についてわたしの愛する者の歌を歌おう。わたしの愛する者は、よく肥えた丘にぶどう園を持っていた。

2 彼はそこに垣を巡らし、その中の石を取り除き、そこに最も良いぶどう[1]を植え、その中にやぐらを建て、またそこにぶどうの搾り場を設けた。そして、ぶどうがなるのを待ち望んだ。ところが、なったのは良くないぶどうであった。

3 さて、おお、エルサレムに住む者たちと、ユダの人々よ、さあ、わたしとぶどう園との間を裁きなさい。

4 『わたしがぶどう園にしたことのほかに、何かもっとそこでできたことがあっただろうか。わたしはぶどうがなるのを待ち望んでいたのに、なったのは良くないぶどうであった。

5 さあ、わたしは自分がぶどう園に行おうとしていることを、あなたがたに告げよう。わたしはその垣を取り去って[1]、食い尽くされるに任せる。また、その塀を取り壊して、踏みにじられるに任せる。

6 わたしはそれを荒れるままにしておき、刈り込むことも、耕すこともせず、いばら[1]とおどろを生えさせる。またわたしは、雲に命じ、その上に雨を降らせない。[2]』

7 万軍の主のぶどう園[1]はイスラエルの家であり、ユダの人々は主が楽しみにして植えられた苗木である。主は公平を望まれたのに、見よ、圧制。義を望まれたのに、見よ、叫び。

8 空地がなくなるまで家に家を建て連ね[1]、自分たち[2]だけが国の真ん中にいようとする者は災いである。

9 万軍の主がわたしの耳に言われた。『多くの家が必ず荒れ廃れ、大きな麗しいもろもろの町は住む者のない所となる。

10 まことに、十エーカーのぶどう園は一バテ[1]の実しか結ばず、一ホメルの種はわずかに一エパの実しか結ばない。』

11 朝早く起きて強い酒[1]を追い求め、夜まで飲み続けて、ぶどう酒[2]に身を焼かれる者は災いである。

12 彼らの酒宴には、琴と竪琴、鼓と笛とぶどう酒がある。しかし、彼らは主の業に見向きもせず、主の手の働きに目を留めない。

13 それゆえ、わたしの民は無知[1]のために囚われの身

第15章

1 ① 預言者がぶどう園について歌もしくは寓話詩を作ること。それには、神の憐れみとイスラエルの民のかたくなな様子が表現されている

2 ① エレ2・21

5 ① 詩篇80・12

6 ① イザ7・23、32・13
② エレ3・3

7 ① GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」

8 ① ミカ2・1－2
② 自分だけが住むこと。裕福な地主が貧しい者の狭い農地を買い占めてしまうこと

10 ① エゼ45・10－11

11 ① 箴言23・30－32
② GS「知恵の言葉」

12 ① 詩篇28・5

13 ① ホセ4・6、GS「知識」

となる。彼らの高官たちは飢え、民衆は渇きで干上がる。
14 それゆえ、地獄は広がり、その口を限りなく開く。そして彼らの栄華と、彼らのどよめきと、彼らの華やかさ、および喜び楽しむ者は、その中に落ち込む。
15 地位の低い者はさらに下げられ、力ある者は低くされ、高ぶる者の目は低くされる。
16 しかし、万軍の主は[1]公平によってあがめられ、聖なる神は義をもって神聖であるとたたえられる。
17 そのとき、子羊たちは自分の牧場にいるように草をはみ、見知らぬ者たちは肥えた者たちの食べ残しを食べる。
18 [1]虚栄の縄で悪を引き寄せ、[2]車の綱でするように罪を引き寄せる者は災いである。
19 彼は言う。『我々に[1]見えるように、彼を急がせ、彼の業を早くさせよ。我々が知ることができるように、イスラエルの聖者の勧告をそば近くに寄せよ。』
20 悪を善と[1]呼び、善を悪と呼び、[2]闇を光とし、光を闇とし、苦いものを甘い、甘いものを苦いとする者は災いである。
21 自分を見て[1]賢いと思う者、自分を見て分別がある
と思う者は災いである。
22 ぶどう酒を飲むのに強い者、強い酒を混ぜ合わせる剛の者は災いである。
23 彼らはわいろのために悪人を義とし、義人からその義を[1]奪う。
24 それゆえ、[1]火がわらを焼き尽くし、[2]炎がもみ殻をなめ尽くすように、彼らの根は腐り、彼らの花はちりのように飛び散る。彼らが万軍の主の律法を捨て、[3]イスラエルの聖者の言葉を侮ったからである。
25 それゆえ、主の[1]怒りは主の民に向かって燃え、主は彼らに対して御手を伸ばし、彼らを打たれた。もろもろの丘は揺れ動き、彼らのしかばねは通りで引き裂かれた。それでも主の怒りは解かれず、なおも御手は伸ばされている。
26 主は遠く離れた国民に一つの[1]旗を掲げ、地の果てから彼らを[2]呼ばれる。すると、彼らは急いで速やかに来る。[3]見よ、彼らの中には疲れる者も、つまずく者もない。
27 また、まどろむ者も、眠る者もない。彼らの腰の帯は解けず、靴のひもも切れない。
28 その矢は鋭く、その弓はことごとく張っている。

---

16 ① GS「イエス・キリスト」裁き」
18 ① GS「うぬぼれ」
② 家畜が荷に縛られるように罪につながれている。の意
19 ① 見るまではメシヤを信じないこと
20 ① エレ17・15
② 18、教義64・16、121・16
21 ① 1ヨハ1・6
② 箴言3・5−7、2ニフ28・15
23 ① 法的な権限を奪うこと
24 ① オバ1・18、マラ4・1−2、2ニフ20・17
② ヨエ2・5、1ニフ22・15、23、2ニフ26・4、6、教義64・23−24、133・64
③ ルカ3・17、モサ7・29−31
25 ① サト12・7−9
② 教義63・32、モセ6・27
26 ① GS「旗」
② あるいは「口笛で呼ばれる。」集合のための合図をする、の意。イザ7・18、2ニフ29・2
③ GS「イスラエルのイスラエルの集合」

そして、その馬のひづめは火打ち石のように、その車輪は旋風のように、そのとどろきはライオンのように思われる。

29 彼らは若いライオン[1]のようにほえる。ほえて、獲物を捕らえると、確実に運び去るので、だれも救い出す者はいない。

30 その日、彼らは海鳴りのように彼らにほえる。もし彼らが地を見るならば、見よ、暗闇と悲しみがあり、光は天で暗くなる。」

第16章

イザヤ、主を目にする。イザヤの罪は赦される。イザヤ、預言するように召され、ユダヤ人がキリストの教えを拒むことを預言する。残りの者が帰って来る。イザヤ書第六章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「ウジヤ王が死んだ年[1]に、わたしは高く上げられた御座に主が座しておられるのを見た。主の衣のすそは神殿に満ちていた。

2 その上方にセラピム[1]がいて、それぞれ六つの翼を持っており、二つの翼で顔を覆い、二つの翼で両足を覆い、二つの翼で飛んでいた。

3 そして、一人が別の一人に叫んで言った。『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主。全地は万軍の主の栄光に満ちる。』

4 そのように叫んだ者の声で入り口の柱[1]が揺れ動き、宮には煙が満ちた。

5 それでわたしは言った。『わたしは災いだ。わたしは滅ぼされる[1]。わたしは唇の清くない者で、唇の清くない人々の中に住んでいる。ところが、わたしの目は万軍の主なる王を見たからである。』

6 そのとき、セラピムの一人が、火ばしで祭壇の上から取った燃え盛る炭[1]を手に携えて、わたしのところに飛んで来た。

7 そして、彼はそれをわたしの口に当てて言った。『これがあなたの唇に触れたので、あなたの悪[1]は取り去られ、あなたの罪は清められた。』

8 また主の声があって、こう言われた。『だれを遣わそうか。我々のためにだれが行くだろうか。』それでわたしは言った。『わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。』

---

29 ① 3ニフ21・12－13

第16章

1 ① 紀元前約七百五十年

2 ① GS「ケルビム」へブライ語で「入り口の土台が揺れた」の意

4 ① へブライ語で「断ち切られる」の意。自分と民の罪に気づき、それに圧倒されるということ

5 ① 清めの象徴

6 ① GS「罪の赦し」

9 すると主は言われた。『行ってこの民に必ず聞けと告げなさい。』しかし彼らは理解しなかった。『必ず見よと告げなさい。』しかし彼らは悟らなかった。
10 また主は言われた。『この民の心を鈍くし、彼らの耳を重くし、彼らの目を閉ざしなさい。彼らが自分の目で見、自分の耳で聞き[1]、自分の心で理解し、心を改めて、癒されることがないためである。』
11 それでわたしは、『主よ、いつまでですか』と言った。すると主は言われた。『もろもろの町が荒廃して住む者がいなくなり、家々に人がいなくなり、地もすっかり荒れ果てるときまでである。
12 そして、そのただ中には荒れ廃れた所が増えるので、主は人々を遠くに移[1]した。
13 しかし、それでもなお十分の一の者がいる。彼らは帰って来るが、食い尽くされる。しかし、テレビンの木とかしの木がその葉を落としても幹が木の中にあるように、聖なる子孫はその幹[1]となる。』」

第17章

エフライムとスリヤ、ユダと戦う。キリストはおとめからお生まれになる。イザヤ書第七章と比較せよ。

紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、ユダの王、ウジヤの子のヨタムの子、アハズの時代に、スリヤの王レヂンとレマリヤの子であるイスラエルの王ペカが、エルサレムに上って来て攻めたが、勝つことができなかった。
2 ときに、スリヤがエフライム[1]と同盟をしていると
ダビデの家に知らせがあった。それで、王の心も、民の心も、森の木々が風に揺らぐように動揺した。
3 そのとき、主はイザヤに言われた。『あなたとあなたの子シャル・ヤシュブ[1]とは出て行って、布さらしの野の大路にある上の池の水道の端でアハズに会い、
4 彼に言いなさい。気を落ち着けて静かにしていなさい。[1]恐れてはならない。スリヤを率いるレヂンとレマリヤの子が激しく怒っても、それは二つのくすぶっているたいまつの燃えさしにすぎないので、気弱になってはならない。
5 スリヤとエフライム、およびレマリヤの子は、あなたに対して悪事を企てて言っている。
6 「我々はユダに攻め上って、これを悩まそう。そ

---

10 ① マタ13・14－15
12 ① 列下17・18、20
13 ① 木のように、葉は落ちても命と種を生じさせる力はその中にある、の意

第17章

2 ① イスラエルの北王国は、指導的な部族であるエフライムの名で呼ばれた
3 ① ヘブライ語で「残りの者は帰る」の意
4 ① 攻撃を恐れるな。その二人の王には戦意がない、の意

して我々のためにこれを分けて、タビエルの子をそこで王にしよう。」

7 主なる神はこう言われる。そのことは行われない。また起こることはない。

8 スリヤの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレヂンである。エフライムは六十五年のうちに破られて、一つの民を成さなくなる。

9 またエフライムの頭はサマリヤ、サマリヤの頭はレマリヤの子である。もしあなたがたが信じなければ、しっかりと立つことはできない。』

10 さらに主は、再びアハズに言われた。

11 『主なるあなたの神にしるしを求めなさい。深い所にも、また頭上の高い所にも求めなさい。』

12 しかしアハズは言った。『わたしは求めません。主を試みることはいたしません。』

13 そこでイザヤは言った。『おお、ダビデの家よ、聞きなさい。人を煩わすことはあなたがたにとってささいなことだろうか。そのようにして、わたしの神までも煩わそうとするのか。

14 それゆえ、主は自らしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめが身ごもって男の子を産み、その子の名をインマヌエルと呼ぶ。

15 その子はバターと蜂蜜を食べて、悪を退け、善を選ぶことを知るようになる。

16 その子が悪を退け、善を選ぶことを知るようになる前に、あなたが忌み嫌った地は二人の王から捨てられる。

17 主は、あなたと、あなたの民と、あなたの父の家に、エフライムがユダから離れた日以来まだ臨んだことのない日をもたらされる。それはアッスリヤの王である。』

18 さて、その日、主はエジプトの果ての地にいるあぶと、アッスリヤの地にいる蜂を呼ばれる。

19 すると、彼らはやって来て、荒れた谷や岩の裂け目に、またすべてのいばらと、すべての灌木の上にとどまる。

20 その同じ日に、主は雇い入れたかみそり、すなわち川の向こうの者、アッスリヤの王によって、頭と足の毛をそり、またひげもそり落とす。

21 そしてその日、一人の男が若い雌牛一頭と羊二頭を飼う。

22 そして、これらは乳をたくさん出すので、彼はバ

---

6 ① ヘブライ語で「分割する」の意
9 ① 歴下20・20
11 ① GS「しるし」
14 ① GS「おとめ」
② ヘブライ語で「神はわたしたちとともにおられる」の意。GS「インマヌエル」
16 ① 2ニフ18・4
17 ① 列下15・30、16・9
② 列上12・16－19
18 ① 歴下28・19－21
② あるいは「口笛で呼ばれる。」合図する、呼び出す、の意。イザ5・26
20 ① 列下16・5－9
② 外国からの侵入者によって住民が少なくなるということ
21 ① わずかな者だけが自力で生き残るということ

ターを食べる。その地に残された者は皆、バターと蜂蜜を食べる。
23そしてその日に、かつて銀千枚に値した千株のぶどうの木のあった所は、すべていばらとおどろの生える所となる。
24全地がいばらとおどろになるので、人々は弓と矢を持ってそこへ行く。
25しかし、鍬で掘り耕されたすべての丘は、いばらとおどろの生える恐れがない。そこは牛を放す所、小さな家畜の踏む所となる。[1]」

第18章

キリストはつまずきの石、妨げの岩のようである。さえずる口寄せにではなく、主に求めよ。律法と証に頼って導きを得よ。イザヤ書第八章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「さらに、主の言葉がわたしに言われた。『大きな巻き物を一巻取り、それに普通の文字でマヘル・シャラル・ハシ・バズと書きなさい。』
2わたしは、証言する確かな証人として、祭司ウリヤとエベレキヤの子のゼカリヤをわたしのために立てた。[1]
3わたしが女預言者のもとに行くと、彼女は身ごもって男の子を産んだ。すると、主はわたしに言われた。『この子の名をマヘル・シャラル・ハシ・バズと呼びなさい。
4それは、見よ、この子がまだ「お父さん、お母さん」と呼ぶことを知らないうちに、ダマスコの富とサマリヤの分捕り品が、アッスリヤの王のもとに運び去られるからである。[2][3]』
5主はまた重ねてわたしに言われた。
6『この民は緩やかに流れるシロアの水を捨てて、レヂンとレマリヤの子とを喜んでいる。[1]
7それゆえ見よ、主は勢いと水量のある川の水、すなわちアッスリヤの王と彼のすべての栄光を彼らのうえにもたらす。それはすべての水路にあふれ、すべての堤を越え、
8ユダに流れ込み、あふれみなぎって、首にまで達する。おお、インマヌエルよ、彼の翼は伸びて、あなたの国の広がりのすべてを覆う。[2]』
9おお、民よ、連合せよ。それでもあなたがたは打

25① 羊、あるいは、やぎ
第18章
1① 「破滅が迫っている」の意
2① GS「証人・証」
3① イザヤの妻のこと
4① 2ニフ17・16
② イザ8・4
③ 列下15・29
6① イザ7・1
7① まず北のイスラエルに
8① アッスリヤはユダにも進攻する
② GS「インマヌエル」
9① 同盟を結ぶこと

ち砕かれる。遠くの国々のすべての者よ、耳を傾けよ。腰に帯をせよ。それでもあなたがたは打ち砕かれる。腰に帯をせよ。それでもあなたがたは打ち砕かれる。

10 ともに諮れ。しかし、それは無に帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。[1]神がわたしたちとともにおられるからである。

11 主は強い御手をもって次のようにわたしに語り、この民の道を歩まないようにわたしを諭された。

12 『この民が「同盟を」と言うすべての相手に、あなたがたは「[1]同盟を」と言ってはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。おののいてはならない。

13 万軍の主を聖なる方としてたたえ、その方をあなたがたの[1]恐れとし、また、あなたがたのおののきとしなさい。

14 そうすれば、その方は[1]聖所となる。しかし、イスラエルの両家には[2]つまずきの石となり、妨げの岩となる。また、エルサレムに住む者には、わなとなり、落とし穴となる。

15 そして彼らの多くが[1]つまずき、倒れ、砕かれ、わなにかかり、捕らえられる。』

16 証を束ね、[1]律法をわたしの弟子たちの中に封じておきなさい。

17 わたしは、ヤコブの家から御顔を[1]隠しておられる主を待ち望む。わたしは主を待ち受ける。

18 見よ、わたしと、主がわたしに賜わった子供たちは、シオンの山に住んでおられる万軍の主からイスラエルに与えられたしるしであり、[1]不思議である。

19 人々があなたに、『[1]霊媒に求めよ、さえずりささやく[2]口寄せに求めよ』と言うとき、民は[3]死者から知らせを受けようとする生者のために、[4]自分たちの神に求めるべきではないだろうか。

20 律法と証に求めなさい。もし[1]彼らがこの言葉に従って語らないとすれば、それは彼らの中に光がまったくないためである。

21 [1]彼らはそこでつらい目に遭い、飢えに苦しむ。そして、彼らは飢えるといらだって、自分たちの王と神をのろって上を見る。

22 また彼らが地を見ると、災難と暗闇と苦しみの闇があり、彼らは暗闇に追いやられる。」

---

10 ① ユダ（インマヌエルの地）は守られる。詩篇46・7

12 ① ユダは自らの安全を得るために他国との密約に頼ってはならないということ

13 ① 神の前に敬虔であり謙遜であること

14 ① エゼ11・15−21

② 1ペテ2・4−8、ヤコ4・14−15

15 ① マタ21・42−44

16 ① ヘブライ語で「教え」「教義」の意。GS「福音」

17 ① イザ54・8

18 ① イザヤと息子たちの名前にはそれぞれ「エホバは救われる」「残りの者は帰る」「速やかに奪い取る」という意味がある。2ニフ17・3、18・3

19 ① レビ20・6

② 魔術師、占い師のこと

③ あるいは「死者に代わって」

④ サ上28・6−20 霊媒や口寄せのこと（第21−22節も同じ）

20 ① 霊媒や口寄せのこと（第21−22節も同じ）

21 ① イスラエルは聞き従わないので囚われの身となる、の意

第19章

イザヤ、メシヤについて語る。暗闇の中にいる人々は大きな光を見る。わたしたちのために、一人のみどりごが生まれる。そのみどりごは平和の君となり、ダビデの王座に着いて治める。イザヤ書第九章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「しかし、その闇は、初め主がゼブルン[1]の地とナフタリの地を少しばかり苦しめ、後にそれよりも激しく、ヨルダンの向こうの紅海の道沿いにもろもろの国民の住むガリラヤを苦しめられたときの、その苦しみのようではない。

2 暗闇[1]の中を歩いていた人々は大きな光を見た。死の陰の地に住む者たちのうえに光がさした。

3 あなたは民を増やし、喜びを増し[1]加えられた。彼らは刈り入れのときに喜ぶように、また男たちが分捕り品を分けるときに喜ぶように、あなたの前で喜ぶ。

4 あなたが彼の重荷のくびきと、彼の肩の棒と、彼を虐げる者の鞭を折られたからだ。

5 戦士の戦いには、ことごとく騒がしい音と血にまみれた衣が伴うが、しかしこれは、焼き払いと火の薪によって行われる。

6 わたしたちのために一人のみどりご[1]が生まれる。わたしたちのために一人の男の子が与えられる。主[2]権は彼の肩にあり、その名は霊妙、助言者、力ある神[3]、永遠の父[4]、平和の君[5]ととなえられる。

7 ダビデの王座にも、また彼の王国においても、彼の主権[1]と平和とは増し加わって限[2]りなく、これから後とこしえに公平と公正によって王国は整えられて、確立される。万軍の主の熱意がこれを行うのである。

8 主はヤコブに言葉を送られ、それはイスラエル[1]に及んだ。

9 すべての人は知るであろう。エフライムやサマリヤに住む者でさえ高ぶりおごった心でこう言うのを。

10 『れんがが崩れても切り石で建てよう。いちじくの木が切り倒されても杉の木でそれに代えよう。』

11 それゆえ、主はレ[1]ヂンの敵を彼に対して立て、彼の敵を連合される。

12 前方にスリヤ人がおり、後方にはペリシテ人がい

第19章

1 ① マタ4・12－16
2 ① 「闇」と「暗闇」は背教と捕囚を指す。「大きな光」とはキリストのこと
3 ① イザ9・3
6 ① イザ7・14、ルカ2・11
7 ① マタ28・18
② テト2・13－14
③ アル11・38－39、44
④ ヨハ14・27
⑤ GS「政府」
8 ① ダニ2・44
② 次に続く預言の言葉（第8－21節）は、イスラエルと呼ばれた北の十部族への警告であった
11 ① 列下16・5－9

て、彼らは大口を開けてイスラエルを食い尽くす。
それでも主の怒りは解かれず、主の手は伸ばされたままである。
13 人々が自分たちを打つ御方に立ち返らず、また万軍の主を求めないからである。
14 それゆえ、主は一日のうちに、イスラエルから頭と尾、また枝と葦を断ち切られる。
15 その頭とは長老であり、その尾とは偽りを教える預言者である。
16 この人々を導く者たちは民を誤らせ、彼らから導きを受ける者は滅びる。
17 それゆえ、主は彼らの若い男たちを喜ばず、父のいない子供ややもめに憐れみをかけられない。彼らはことごとく偽善者であり、悪を行う者であって、すべての口が愚かなことを語るからである。それでも主の怒りは解かれず、主の手は伸ばされたままである。
18 悪は火のように燃え盛る。火はいばらとおどろを焼き尽くし、森の茂みを燃え立たせ、茂みは煙の柱のように巻き上がる。
19 万軍の主の激しい怒りによって地は暗くなり、民は火の薪のようになるが、だれ一人その兄弟を救う者はいない。
20 彼は右手で引ったくってもなお飢え、左手で食らっても満たされることはない。彼らは皆、各々自分の腕の肉を食らうようになる。
21 マナセはエフライムを、エフライムはマナセを攻め、両者はともにユダを攻める。それでも主の怒りは解かれず、主の手はなお伸ばされたままである。」

第20章

アッスリヤの滅亡は、主の再臨の時の悪人の滅亡の予型である。主が再び来られた後に残る人々はわずかである。その日には、ヤコブの残りの者が帰って来る。イザヤ書第十章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「不義な法令を制定する者と、自分の定めた圧制の法を書き記す者は災いである。
2 彼らは乏しい者を公平から遠ざけ、わたしの民の中の貧しい者から権利を奪い、やもめを食い物にし、父のいない子供から略奪する。

---

12 ① 列下17・6、18
② イザ5・25、10・4
13 ① アモ4・6－12
17 ① GS「憐れみ」
② 2ニフ9・28－29
19 ① ヤコ5・47、6・4
③ ミカ7・2－6
20 ① 申命28・53－57
21 ① GS「マナセ」
② GS「エフライム」
③ GS「ユダ」
第20章
2 ① GS「やもめ」

3 あなたがたは、1)刑罰の日に遠くから荒廃が来るとき、どうするつもりか。あなたがたは、だれのもとに逃れて助けを求めるつもりか。自分の栄光をどこに残そうとするのか。
4 わたしがいなかったら、彼らは囚われた者の中にかがみ、殺された者の中に伏し倒れる。それでも主の怒りはやまず、主の手は伸ばされたままである。
5 『おお、アッスリヤ人よ、わたしの怒りの鞭よ。彼らの手にある杖は1)彼らの憤りである。
6 わたしは彼を遣わして1)偽善の国を攻めさせる。彼に命じてわたしの激しい怒りの民を攻めて物を奪わせ、獲物を奪わせて、彼らをちまたの泥のように踏みにじらせる。
7 しかし、彼はそのようには思わず、その心もそのようには考えない。彼の心にあるのは、多くの国民を滅ぼし、絶つことである。
8 彼は言う。「わたしの諸侯は皆、王ではないか。
9 カルノはカルケミシのようではないか。ハマテはアルパデのようではないか。サマリヤはダマスコのようではないか。
10 1)わたしの手は偶像の王国を幾つも築き、その彫像はエルサレムやサマリヤのものに勝っていた。
11 わたしは、サマリヤとその偶像に行ったように、エルサレムとその偶像にも同じように行わないだろうか。」
12 そして、主がシオンの山とエルサレムで御自分のすべての業を成し遂げられると、わたしはアッスリヤの王の1)頑2)強な心の実と、彼らの誇らしげな高ぶりを罰しよう。
13 それは、彼がこう言うからである。「わたしは自分の手の力で、また自分の知恵でこれらのことを行った。わたしは賢いからだ。わたしは人々の境を移し、彼らの宝を略奪した。わたしは勇士のように住む者を征服した。
14 わたしの手は、人々の富を鳥の巣のように見つけた。また、残された卵を人が集めるように、わたしは全地を集めた。しかし、翼を動かす者も、口を開く者も、さえずる者もなかった。」』
15 1)斧は、それを使って切る者に向かって、自分を2)誇るだろうか。のこぎりは、それをひく者に向かって高ぶるだろうか。それはちょうど、鞭がそれを振り上げる者に向かって、自分を打ち振るようなもので

---

3 ① 罰のこと
5 ① イザ10・5
6 ① イスラエルのこと
10 ① アッスリヤの王の手のこと（第10―11節）
12 ① ゼパ2・13
13 ① 誇り高ぶること
② アッスリヤの王（第13―14節）
15 ① 預言者は王を道具にたとえている
② この節の隠喩はすべて同じことを問いかけている。すなわち「人（例えば、アッスリヤの王）は神に背いて栄えるだろうか」というのがその問いである

あり、また、杖が木ではないかのように、自らを持ち上げるようなものである。

16 それゆえ、万軍の主なる主は、彼の肥えた者たちの中に衰弱を送り、[1]彼の栄光の下で、火が燃えるように炎を燃え上がらせる。

17 イスラエルの光は火となり、その聖者は炎となり、燃え上がって、一日のうちに彼のいばらとおどろとを焼き尽くす。

18 また、彼の森とよく肥えた畑の栄えを、[1]霊も体も二つながらに焼き尽くす。そこで、旗手が弱り果てるように彼らもそのようになる。

19 その森に残る木はわずかであって、子供でさえも、それを書き留めることができるであろう。

20 そしてその日には、イスラエルの残りの者とヤコブの家の逃れた者は、自分たちを打った者にもはや頼らず、イスラエルの聖者なる主に真心から頼る。

21 [1]残りの者、すなわちヤコブの残りの者は、力ある神に立ち返る。

22 あなたの民イスラエルは海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。[1]滅びはすでに定まり、義があふれようとしている。[2]

23 万軍の主なる神が、すでに定められている滅びを全地に[1]及ぼされるからである。

24 それゆえ、万軍の主なる神はこう言われる。『おお、シオンに住むわたしの民よ、アッスリヤ人を恐れてはならない。彼は[1]エジプトに倣って鞭であなたを打ち、杖をあなたに向かって振り上げる。

25 しかし、もうしばらくすれば憤りはやみ、わたしの怒りが彼らを滅ぼすであろう。』

26 万軍の主は、かつて[1]ミデアン人がオレブの岩で殺されたときのように、彼に向かって鞭を振るわれる。また、海の上に杖がかざされたように、主はエジプトでの例に倣って、それを振り上げられる。

27 そしてその日には、彼の重荷はあなたの肩から取り去られ、彼のくびきはあなたの首から取り除かれ、[1]また油を注がれたために、そのくびきは砕かれる。[2]

28 [1]彼はアイアテに着き、ミグロンを過ぎ、ミクマシに荷を置いた。

29 彼らは渡し場を過ぎてゲバに宿った。ラマはおののき、サウルのギベアは逃げ去った。

30 おお、ガリムの娘よ、声を上げよ。おお、哀れな

16 ① アッスリヤの王（第17－19節も同じ）
18 ① アッスリヤは完全に消滅する。の意
19 ① アッスリヤの軍隊の残りの者のこと
20 ① 末の日のこと
② アモ9・8－9
21 ① イザ11・11－12
22 ① 教義63・34、GS「世－世の終わり」
② 罰が来ようとも、憐れみもある。の意
23 ① 宣言された滅びをもたらす。の意
24 ① エジプト人がかつて行ったように、の意。
26 ① 出エ1・13－14
27 ① 創世25・1－2、士師7・25
② イザ14・25
28 ① GS「油注がれた者」
② アッスリヤの軍隊のエルサレムへの行程が述べられ、次いで（第33－34節）彼らに対する主の業が比喩的に述べられている

アナトテよ、その声をライシに聞かせよ。
31 マデメナはすでに逃げ去り、ゲビムに住む者は集まって逃げ出そうとしている。
32 しかしその日、彼はノブにとどまり、シオンの娘の山、エルサレムの丘に向かって手を振る。
33 見よ、万軍の主なる主は、恐ろしい勢いで大枝を切り払われる。[1]丈の高いものは切り落とされ、そびえ立つものは低くされる。
34 主は鉄で森の茂みを切り倒され、レバノンは力ある御方によって倒される。」

第21章

エッサイの株（キリスト）は、義をもって裁きを行われる。福千年には神を知る知識が地を覆う。主は旗を掲げて、イスラエルを集められる。イザヤ書第十一章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「エッサイの株[1]から[2]一つの芽[3]が出、その根から一つの枝が生じる。
2 そして、そのうえに[1]主の御霊がとどまる。それは知恵と理解の霊、深慮と能力の霊、主を知る知識と主への畏れの霊である。
3 主の御霊は、主を畏れることを彼に早く悟らせる。彼は自分の目で見たことによって[1]裁かず、自分の耳で聞いたことによって責めることをしない。
4 しかし、彼は義[1]をもって貧しい者を裁き、公平をもって地の柔和[2]な者のために責められる[3]。また、彼の口の鞭で世を打ち、彼の唇の息で悪人を殺す。
5 義は彼の腰の帯となり、忠信は彼の腹の帯となる。
6 おおかみは子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛と若いライオンと肥えた若い家畜はともにいて、幼い子供がこれらを導く。
7 雌牛とくまはともに食べ、その子らはともに伏し、ライオンは牛のようにわらを食べる。
8 乳飲み子は毒蛇[1]の穴の上で戯れ、乳離れした子は[2]まむしの穴に手を置く。
9 彼らはわたしの聖なる山のどこにおいても、害[1]を与えることも損なうこともない。水が海を覆っているように、主を知る知識[2]が地に満ちるからである。
10 その日、[1]エッサイ[2]の根が民の旗として立ち、[3]異邦

33 ① ヒラ4・12−13
第21章
1 ① エッサイはダビデの父である。やがてイエスの誕生を迎えることになるダビデの血統のことが紹介されている。ミカ5・2、ヘブ7・14、GS「エッサイ」
② 教義113・1−2
③ 教義113・3−4
2 ① イザ61・1−3
③ ヨハ7・24
3 ① 詩篇72・2−4、モサ29・12
② GS「柔和」
③ ヘブライ語で「判決を下す」の意
4 ① エジプトにいる小さな毒蛇
② 別の種類の毒蛇
9 ① イザ2・4、GS「福千年」
② 教義101・32−33、130・9
10 ① 末日のこと。ジー歴史1・40
② ロマ15・12、教義113・5−6
③ 教義45・9−10

人はこれに求め、彼の安息は栄光に満ちる。
11そしてその日、主は再び、残されている御自分の民の残りの者を、アッスリヤ、エジプト、パテロス、クシ、エラム、シナル、ハマテ、および海の島々から元に戻す業を始められる。
12主はもろもろの国民のために旗を掲げ、イスラエルの追放された者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。
13また、エフライムのねたみは消え去り、ユダの敵は絶たれる。エフライムはユダをねたまず、ユダもまたエフライムを悩まさない。
14彼らは西の方のペリシテ人の肩に飛びかかり、またともに東の民から強奪する。彼らはエドムとモアブにも手を伸ばし、またアンモンの子孫を従わせる。
15主はエジプトの海の入江をことごとく涸らされる。また、強風を伴って川の上で手を振り動かし、それを打って七つの流れとし、乾いた靴で人々を渡らせられる。
16残された主の民の残りの者のために、アッスリヤからの大路がある。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。」

第22章

福千年には、すべての人が主をほめたたえる。主は民の中にとどまられる。イザヤ書第十二章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「その日、あなたは言う。『おお、主よ、わたしはあなたをほめたたえます。あなたはかつて、わたしのことをお怒りになりましたが、今はあなたの怒りも解かれ、あなたはわたしを慰めてくださいました。』
2『見よ、神はわたしの救いである。わたしは信頼して恐れない。主なるエホバはわたしの力であり、わたしの歌である。また、主はわたしの救いとなってくださった。』
3それゆえ、あなたがたは喜んで、救いの井戸から水をくむ。
4その日、あなたがたは言う。『主をほめたたえ、主の御名を呼び、主の行われたことを人々の中に告げ知らせ、主の御名があがめられていることを話しな

10④ あるいは「彼に」
11① 2ニフ6・14、25・17、29・1
12① GS「旗」
② 3ニフ15・15、16・1—4
③ ネヘ1・9、1ニフ22・10—12、教義45・24—25、GS「イスラエル—イスラエルの集合」
13① エレ3・18
② GS「ユダ」
③ 〈列上12・16—20の出来事の後〉ユダとエフライムによって導かれたそれぞれの部族は、歴史上敵対する者となった。末日に、この敵意は解消する。エゼ37・16—22、GS「ねたみ」
14① ペリシテ人の領土であった西側の傾斜地を攻撃すること
15① ゼカ10・11、イザ35・8、教義133・27
16① 出エ15・2、KJ詩篇118・2
1① モサ4・6、ヒラ12・2
2① 出エ15・2、KJ詩篇118・18、GS「エホバ」
3① GS「生ける水」
4① GS「感謝」

第22章

さい。
5 主をたたえて歌いなさい。[1]主はすばらしいことをされたからである。このことは全地に知られている。
6 シオンに住む者よ、[1]大声を上げて叫びなさい。イスラエルの聖者は、あなたの中にあって大いなる御方なのだから。』」

第23章

バビロンの滅亡は、主の再臨の時に悪人が滅びることの予型である。やがて怒りと報復の日が来る。バビロン（世）はとこしえに倒れる。イザヤ書第十三章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「アモツの子イザヤが見た、[1]バビロンについての[2]託宣。
2 高い山の上に[1]旗を掲げ、彼らに向かって声を上げ、手を[2]振って、彼らを貴族の門に入らせなさい。
3 『わたしは[1]聖別した者たちに命じた。また、わたしの勇士たちを召した。わたしの怒りは、わたしが高い位にあることを喜ぶ者には及ばないからである。』
4 群衆のような山々のとどろき。[1]寄り集まったもろもろの民の[2]王国のどよめき。万軍の主が軍隊を召集しておられる。
5 彼らは遠い地方から、天の果てからやって来る。まことに、主と主の憤りの武器が全地を滅ぼすために来る。
6 泣きわめけ。主の日は近づいているからである。それは全能者から滅亡として来る。
7 それゆえ、すべての手は弱り、すべての人の心はくじける。
8 彼らはおののき、ひどい苦しみと悲しみが彼らを捕らえる。彼らは互いに見合って驚き、彼らの顔は炎のようになる。
9 見よ、主の日が来る。憤りと激しい怒りを伴う容赦のない日が来て、地を荒れ廃れさせる。そして主は、そこにいた罪人を[1]滅ぼされる。
10 天の星と星座は光を放たず、[1]太陽は日の出から暗く、月もその光を輝かさない。
11 『わたしは悪のために世を[1]罰し、罪悪のために悪人を罰する。また、[2]誇る者の傲慢をとどめ、荒々し

---

5 ① 教義136・28
6 ① イザ54・1、ゼパ3・14

第23章

1 ① イザ13、14章に預言された邪悪なバビロンの歴史的な滅亡は、邪悪な世が最後には滅びることを示すものである。教義133・5、7、14、GS「バビロン・バベル」
② 滅亡を告げる言葉
2 ① GS「旗」
② 合図を送ること
3 ① 聖徒のこと
4 ① ゼカ12・3
② ゼカ14・2−3
9 ① GS「地球（地）—地球の清め」
10 ① GS「世—世の終わり」
11 ① マラ4・1
② 教義64・24

い者の高慢を抑える。
12 わたしは人を純金よりも、オフルの金塊よりも少
なくする。
13 それゆえ、わたしは天を震わせる。また、万軍の
主の激しい怒りにより、主のすさまじい怒りの日
に、地はその場所から移る。』
14 それは、狩り出されるかもしかのようであり、集
める者のいない羊のようである。彼らは各々自分の
民に帰り、各々自分の国に逃げ戻る。
15 誇る者は皆、刺し貫かれ、また悪人の仲間に加わ
る者は皆、剣によって倒れる。
16 彼らの子供たちは目の前で投げ砕かれ、彼らの家
は強奪され、彼らの妻は犯される。
17 『見よ、わたしはメデア人を起こして彼らに向か
わせる。メデア人は金銀に見向きもせず、それを喜
びもしない。
18 彼らの弓は若い男たちを射砕く。彼らは胎の実を
哀れまず、彼らの目は子供たちを容赦しない。
19 もろもろの王国の誉れであり、カルデヤ人の卓越
した麗しさであるバビロンは、かつて神がソドムと
ゴモラを滅ぼされたときのようになる。
20 そこに住む者は一人もなく、代々住みつく者もい
ない。アラビア人もそこには天幕を張らず、羊飼い
たちもそこには羊の囲いを設けない。
21 砂漠の野獣がそこに伏し、彼らの家々には陰気な
生き物が満ち、ふくろうがそこに住み、鬼神がそこ
で踊る。
22 島々の野獣が彼らの家でほえ、彼らの華麗な宮殿
には龍が鳴く。バビロンの時は間近であり、その日
は延ばされない。わたしは速やかにバビロンを滅ぼ
す。まことに、わたしは自分の民を憐れむが、悪人
は滅びる。』」

第24章

イスラエルは集められ、福千年の安息を享受する。ルシフェルは背いたために天から追い出された。イスラエルはバビロン（世）に打ち勝つ。イザヤ書第十四章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「主はヤコブを憐れみ、やがてイスラエルを選ん
で、彼らを彼ら自身の地に置かれる。また、見知ら

12 ① イザ4・1—4
13 ① GS「地球（地）—最終的な状態」
19 ① 虚栄のこと
② 創世19・24—25、申命29・23、2ニフ13・9
20 ① エレ50・3、39—40
21 ① イザ34・14—15
② ヘブライ語で「雄やぎ」「魔神」の意
22 ① ヘブライ語で「館」の意
② ヘブライ語で（恐らく）「ジャッカル」「野犬」の意

第24章
1 ① ゼカ1・17
② イザ60・3—5、10

ぬ者たちが彼らに連なり、ヤコブの家に結びつく。
2 人々は彼らを連れて、彼らの地に導く。まことに、遠くから地の果てまで彼らを導く。そして、彼らは自分たちの約束の地に帰る。イスラエルの家はそれらを所有し、主の地は僕のものとなり、はしためのものとなる。そして彼らは、かつて自分たちをとりこにした者をとりこにし、自分たちを虐げた者を治める。
3 そしてその日、主はあなたの悲しみと恐れを取り除き、またあなたが服したつらい苦役を解いて、あなたに安息を与えられる。
4 そしてその日、あなたはバビロンの王に対して次の言葉を告げて言う。『虐げる者がどうして果てたのか。黄金の都がどうして滅びたのか。
5 主は悪人の杖、支配者たちの笏を折られた。
6 激しい怒りをもって民を打ち続けて苦しめた者、怒りのうちに国民を治めた者は今責められる。そして、それをとどめる者はだれもいない。
7 全地は安息を得、穏やかになり、人々は声を放って歌う。
8 まことに、もみの木も、レバノンの杉の木もあなたのことを喜んで言う。「あなたが倒れてから、わたしたちを切りに来るきこりは一人もいない。」
9 下の地獄は、あなたが来るのを迎えて揺れ動く。あなたのために死者を、すなわち地のすべての指導者たちを揺り起こす。また、国々のすべての王たちをその王座から立ち上がらせる。
10 彼らは皆、あなたに告げて言う。「あなたもまた、わたしたちのように弱くなったのか。あなたも、わたしたちと同じようになったのか。」
11 あなたの華やかさは墓に葬られ、あなたの琴の音は聞こえない。うじがあなたの下に敷かれ、またあなたを覆う。
12 おお、暁の子ルシフェルよ、あなたはどうして天から落ちたのか。もろもろの国々を打ちのめしたあなたが、地に切り倒されるとは。
13 あなたはかつて心の中で言った。「わたしは天に昇り、わたしの王座を神のもろもろの星よりも高くしよう。また、北の果てにある集会の山に座そう。
14 わたしは雲の頂に昇り、いと高き者のようになろう。」
15 しかし、あなたは地獄に落とされ、穴の底に入れ

---

2 ① 他の国々がイスラエルを助けること
② GS「約束の地」
③ イザ60・14
3 ① ヨシ1・13、教義84・24
4 ① GS「バビロン・バベル」
7 ① イザ55・12
8 ① ヘブライ語で「糸杉」の意
② 死ぬこと
③ ヘブライ語で「（木を）切る者はわたしたちを攻めて来なかった」の意
9 ① GS「地獄」
② 肉体から分離した霊たちのこと
12 ① ヘブライ語で「明けの明星」「暁の子」の意。邪悪な世（バビロン）の支配者がすべての悪の支配者であるルシフェルとして述べられている。GS「悪魔」「ルシフェル」
② 教義76・26
13 ① モセ4・1−4
② バビロニアの信仰による神々の住む所。詩篇48・2
15 ① 1ニフ14・3

られる。
16 あなたを見る者はつくづくとあなたを見、あなたに目を留めて言う。「これが地を震わせ、もろもろの王国を揺り動かした者か。
17 世界を荒れ野のようにし、そのもろもろの町を滅ぼし、捕らえた者たちを釈放しなかった者か。」
18 もろもろの国の王たちは皆、まことにすべての王たちはそれぞれ、尊い有様で自分の家に横たわっている。
19 しかし、あなたは忌み嫌われる枝のように墓の外に投げ出される。また、剣で刺し殺された者の残りは、穴の底に投げ落とされる。まるで、足で踏みつけられるしかばねのようである。
20 あなたは自分の国を滅ぼし、自分の民を殺したので、彼らとともには葬られない。悪を行う者の子孫は、決して名を知られることがない。
21 先祖が罪悪を犯したので、彼の子孫が立って地を占領して、世界の面をもろもろの町で満たすことのないように、子孫を殺す備えをしなさい。』
22 万軍の主は言われる。『わたしは彼らに逆らって立ち、バビロンからその名と、残りの者と、息子と、孫とを絶とう。』そう主は言われる。
23 『わたしはバビロンをさぎの住みかとし、水の池とする。また、滅びのほうきでそれを掃こう。』万軍の主はそう言われる。
24 万軍の主は誓って言われた。『わたしが思ったように必ず事は成り、わたしが定めたように必ず立つ。
25 わたしはアッスリヤ人をわたしの地に入らせ、わたしの山々の上で踏みにじろう。そのとき、アッスリヤ人のくびきはイスラエルから取り去られ、その重荷は彼らの肩から取り除かれる。』
26 これは全地に対して定められたことであり、またこれは、すべての国の上に伸ばされた御手である。
27 万軍の主が定められたものを、だれが取り消せようか。主の手が伸ばされているのを、だれが押し戻せようか。
28 アハズ王の死んだ年に、この託宣があった。
29 『ペリシテの全地よ、あなたを打った者の鞭が折れたからといって喜んではならない。蛇の根からまむしが出、その実は火の飛ぶ蛇となるからである。
30 貧しい者の初子は食物を得て、乏しい者は安らかに伏す。わたしはあなたの根を飢饉で枯らし、彼は

---

16 ① ヘブライ語で「横目で見て非難する」の意
18 ① 自分の家族の墓のこと
19 ① 切られ、捨てられる
20 ① 枝　GS「邪悪」
　② 詩篇21・10—11、37・
21 ① 出エ20・5
22 ① 箴言10・7
　② ヨブ18・19
23 ① イザ34・11—15
25 ① 主題が紀元前七百一年のユダにおけるアッスリヤの攻撃と衰退に移っている（第24—27節）。列下19・32—37、イザ37・33—38
　② ユダとイスラエルの山々
26 ① イザ10・27
　③ やがてこのように、この世の国々は覆される
28 ① 列下16・20
　② 紀元前約七百二十年に出されたこの託宣は、ペリシテ人についての預言であり、ユダが守られるというものである

あなたの残りの者を殺す。
31 おお、門よ、泣きわめけ。おお、町よ、叫べ。ペリシテの全地よ、崩れよ。北から煙が来るからである。定められたときに独りでいる者はだれもいない。』
32 そのとき、国々の使者たちは何と答えるだろうか。『主はシオン[1]を築かれた。主の民の貧しい者[2]はそれに頼る[3]』と答える。」

第25章

ニーファイは、分かりやすいことを喜びとする。終わりの時にはイザヤの預言が理解される。ユダヤ人はバビロンから帰り、メシヤを十字架につけ、散らされ、苦しめられる。ユダヤ人はメシヤを信じるようになると、元の状態に戻される。リーハイがエルサレムを去って六百年たつと、メシヤの最初の来臨がある。ニーファイ人はモーセの律法を守り、イスラエルの聖者であるキリストを信じる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 ところで、わたしニーファイは、イザヤの口を通して語られた御言葉をこれまで書き記してきたが、今これらについて少し話をしよう。見よ、イザヤが語った多くの事柄は、わたしの民の多くの者にとって理解しにくいものである。それは、彼らがユダヤ人の預言の仕方を知らないからである。
2 それは、ユダヤ人が闇の業[1]にふけり、忌まわしい行いに走っていたので、わたしニーファイはユダヤ人の風習について多くのことを民に教えなかったからである。
3 それで、わたしは自分の民に、また、わたしが今書いているこれらのものを将来受けるすべての人に書き記して、彼らが神の語られた御言葉のとおりに、すべての国民に及ぶ神の裁きについて知ることができるようにしよう。
4 したがって、聴きなさい、おお、イスラエルの家に属するわたしの民よ。わたしの言葉に耳を傾けなさい。イザヤの言葉はあなたがたには分かりにくいが、預言の霊[1]に満たされている人々には分かりやすい。わたしはあなたがたに、わたしの内にある御霊によって預言する。すなわち、父とともにエルサレムを出たときから絶えず示してきた、分かりやすい

---

32 ① GS「シオン」
② ゼパ3・12
③ あるいは「その中に避け所を得ようとする」

第25章
1 ① 2ニフ25・5−6
2 ① 列下17・13−20
4 ① GS「預言」
② GS「聖霊」
③ 2ニフ31・3、33・5−6、ヤコ4・13

言葉で預言する。見よ、わたしは、民が学べるように分かりやすい言葉で話すことを喜びとしているからである。

5また、わたしは自分がエルサレムから出て来た者であり、この目でユダヤ人[1]にかかわることを見てきたので、イザヤ[2]の言葉を喜んでいる。ユダヤ人は、預言者たちの述べた事柄をよく理解している。しかも、ユダヤ人に話された事柄をユダヤ人ほどよく理解できる者は、ユダヤ人の風習を教わっていないかぎり、ほかにいない。このことをわたしは知っている。

6しかし見よ、わたしはユダヤ人の風習について自分の子供たちに教えなかったが、わたし自身はかつてエルサレムに住んでいたので、その周りの地方について知っている。また、わたしは子供たちに、イザヤが語ったすべての事柄のとおりに、すでにユダヤ人に神の裁きが下ったことを告げた。それについてはここには書かない。

7しかし見よ、わたしは分かりやすい言葉で自分の預言を続けよう。分かりやすく述べれば、だれも誤解しようがないことを知っているからである。しかし、イザヤの預言が成就する日に、すなわちそれらの預言が事実となるときに、人々はそれが確かであることを知るであろう。

8それゆえ、イザヤの預言は人の子らにとって価値[1]がある。価値がないと思う者に特にわたしは語ろう。また、わたし[2]の民に対してだけ語る。それはイザヤの言葉が、終わり[3]の時に、彼らにとって大いに価値のあるものとなることを知っているからである。彼らはその日に、イザヤの言葉を理解するからである。それゆえ、わたしは彼らのためにそれらを書き記してきたのである。

9ユダヤ人の中で一代の人々がすでに罪悪のために滅び[1]たように、代々のユダヤ人も彼らの罪悪のために滅びてきた。彼らの中には、主の預言者たちから予告[2]を受けることなしに滅びた者は、これまでにまだ一人もいない。

10さて、ユダヤ人は、わたしの父がエルサレムを去ったすぐ後に滅亡が及ぶことを告げられていた。にもかかわらず、彼らは心をかたくなにした。囚われの身となってバビロンへ連れ[1]去られた者以外は、わたしの預言どおりに滅[2]ぼされてしまった。

---

5 ① GS「ユダヤ人」
② 1ニフ19・23、3ニフ23・1
6 ① 2ニフ6・8、ヒラ8・20−21
7 ① 2ニフ32・7、アル13・23
8 ① GS「聖文−聖文の価値」
② エノ1・13−16、モル5・12−15、教義3・16−20
③ GS「終わりの時・末日」
9 ① エレ39・4−10、マタ23・37−38
② アモ3・7、1ニフ1・13
10 ① 列下24・14、エレ52・3−16
② 1ニフ7・13、2ニフ6・8、オム1・15、ヒラ8・20−21

11 わたしは今このことを、わたしの内にある御霊によって語る。彼らは連れ去られたにもかかわらず、将来再び帰って来て、エルサレムの地を所有する。彼らの受け継ぎの地に再び戻されるのである。

12 しかし見よ、彼らの中には戦争と戦争のうわさがある。また、御父の独り子、すなわち天地の父が肉にあって彼らに御自身を現される日が来ると、見よ、彼らは罪悪を犯し、心をかたくなにし、強情になって、その御方を拒む。

13 見よ、彼らは独り子を十字架につける。しかし、独り子は三日間墓に横たえられた後、御自分の翼にある癒しによって死者の中からよみがえられる。そして、独り子の名を信じる者は皆、神の王国に救われる。わたしは、この独り子について預言することに喜びを感じる。それは、わたしはすでにこの独り子の生涯を見たからである。したがって、わたしの心は独り子の聖なる名を賛美する。

14 そして見よ、メシヤが死者の中からよみがえり、御自分の民に、すなわち御名を信じる多くの者に御自身を現された後、エルサレムは再び滅ぼされる。神と神の教会の聖徒たちに逆らって戦う者は、災いを受けるからである。

15 これによって、ユダヤ人はすべての国民の中に散らされる。また、バビロンも滅ぼされるので、ユダヤ人はほかの国民によって散らされる。

16 そして、彼らが散らされ、主なる神が何世代もの間、すなわち、彼らが神の御子キリストと全人類のための無限の贖罪を信じるようになるまで、代々ほかのもろもろの国によって彼らを鞭打たれた後、やがて彼らがキリストを信じ、純真な心と清い手をもってキリストの名により天の御父を拝し、もうほかのメシヤを待ち望まない日が来る。そのときには、彼らはこれらの事柄を信じざるを得なくなる。

17 やがて主は御自分の民を、迷い堕落した状態から元の状態に戻す業を再び始められる。そのために、主は驚くべき業と不思議を人の子らの中で行われる。

18 そして主は、彼らに御自分の言葉を伝えられる。それらの御言葉は彼らに、かつてユダヤ人が拒んだまことのメシヤを信じさせ、また、もうほかのメシヤがおいでになるのを待ち望む必要がないことを確信させるために与えられるものであるから、彼らは

---

11 ① エズ1・1−4、エレ24・5−7
12 ① GS「独り子」
13 ① ルカ23・33
② ルカ24・6−7、モサ3・10
③ ヨハ19・41−42、1ニフ19・10
④ GS「復活」
⑤ 1ニフ11・13−34
14 ① GS「メシヤ」
② ルカ21・24、ジーマタ1・1−18
15 ① GS「ユダヤ人」
② ネヘ1・8−9、2ニフ10・6
③ GS「バビロン・バベル」
16 ① 2ニフ10・6−9、30・7、モルモ5・14
17 ① 2ニフ21・11−12、GS「福音の回復」
② イザ29・14、2ニフ26・3、ニフ28・31−33
18 ① 2ニフ29・11−12、33・11、14−15
② 2ニフ26・12−13

終わりの日にこれらの御言葉によって裁かれるのである。預言者たちの語るメシヤはただ一人であって、ユダヤ人はそのメシヤを拒むのであるから、ほかにメシヤが来るとすれば、それは民を惑わす偽りのメシヤにほかならない。

19 預言者たちの言葉によれば、メシヤはわたしの父がエルサレムを去ってから六百年で来られる。また、預言者たちの言葉と神の天使の言葉によれば、その御名は神の御子イエス・キリストととなえられる。

20 さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたが誤解しないように分かりやすく語ってきた。主なる神はイスラエルをエジプトの地から導き出し、また、民が毒蛇にかまれたときには、モーセが彼らの前に上げた蛇を見れば癒されるようにモーセに力を与え、さらに、岩を打てば水が出るようにモーセに力を授けられた。見よ、これらのことが真実であるように、また主なる神が生きておられるように確かに、わたしが語ってきたイエス・キリストのほかに、人に救いを与えることのできる名は天下に与えられていないということを、あなたがたに言っておく。

21 さて、このような理由で、主なる神は、わたしが書き記すこれらのものが保存され、残されて、代々わたしの子孫に伝えられると約束してくださった。それによって、ヨセフの子孫は大地のあるかぎり決して滅びることはないという約束が、ヨセフに対して果たされるのである。

22 それゆえ、これらのものは大地のあるかぎり代々伝わる。神の御心と思いのままに伝わるのである。そして、これらのものを所有する国民は、書き記されている言葉によって裁かれるのである。

23 わたしたちは子孫と同胞に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている。それは、わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知っているからである。

24 また、わたしたちはキリストを信じているが、今はモーセの律法を守り、律法が成就するまで確固としてキリストを待ち望む。

25 この目的のために律法が与えられたからである。それゆえ、律法はわたしたちにとってすでに無用となって、わたしたちは信仰により、キリストによっ

---

18 ③ GS「最後の裁き」
19 ④ GS「反キリスト」
① GS「イエス・キリストー降誕と死に関する預言」
② 1ニフ10・4、3ニフ1・1、13
③ 2ニフ10・3
20 ① 出エ3・7—10、1ニフ24、31、19・10
② 民数21・8—9、アルフ17
③ ヨハ3・14、1ニフ19、ヒラ8・14—15
33 ③ 41
17 ④ 出エ17・6、民数20・1
11 ④ 1ニフ17・29、20・21
5 ホセ13・4、使徒4・12、モサ5・8、モセ10・6
52、GS「救い主」
21 ① 2ニフ27・6—14
② アモ5・15、2ニフ3・16、アル46・24—27
22 ① 2ニフ29・11、33・10—15、3ニフ27・23—27
23 ① GS「子供」
② 新ヤコ2・14—26、「行い」
③ GS ロマ3・23—24、2ニフ2・4—10、モサ13・32、アル42・12—16、教義138・4、GS「恵み」
24 ① ヤコ4・4—5
25 ① GS「モーセの律法」
② ロマ7・4—6

て生かされている。それでも、神の戒めに従って律法を守るのである。

26 わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。

27 それゆえ、律法について語るのは、わたしたちの子孫に律法が無用であることを知らせるためである。また彼らが、律法が無用であることを知って、キリストの内にある命を待ち望み、律法が何の目的で与えられたかを知ることができるようにするためである。さらに、キリストによって律法が成就して律法が廃されるときに、彼らがキリストに対して心をかたくなにすることがないようにするためである。

28 さて見よ、わたしの民よ、あなたがたは強情な民であるから、誤解しようのないように、わたしは分かりやすく語ってきた。わたしが語ってきた言葉は、どんな人にでも正しい道を教えるのに十分であるから、あなたがたを責める証になる。正しい道とは、キリストを信じること、キリストを否定しないことである。キリストを否定すれば、預言者と律法も否定することになる。

29 さて見よ、わたしはあなたがたに言っておく。正しい道とはキリストを信じること、キリストを否定しないことである。そして、キリストとはイスラエルの聖者である。それゆえ、あなたがたはキリストの前にひれ伏し、あなたがたの勢力と思いと力を尽くし、全身全霊を込めてキリストを拝さなければならない。これを行えば、あなたがたは決して追い出されることはない。

30 モーセに与えられた律法が成就するまで、必要なかぎり、あなたがたは神の勤めと儀式を守らなければならない。

第26章

キリストは将来、ニーファイ人を教え導かれる。ニーファイ、自分の民の滅亡を予見する。彼らは地から語る。異邦人、偽りの教会と秘密結社を作る。主は偽善売教を禁じられる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

---

26 ① ヤコ4・12、ジェロ1・11、モサ3・13
② ルカ10・23−24
③ GS「罪の赦し」
④ GS「子供」
28 ① モサ3・14
② 2ニフ33・10
③ GS「証」
29 ① 申命6・5、マコ12・30
① 29−31 GS「儀式」

1 キリストは死者の中からよみがえった後、あなたがた、すなわちわたしの子孫と愛する同胞に御自身を現される。そして、そのときにキリストがあなたがたに語られる御言葉は、あなたがたが守らなければならない律法となる。

2 見よ、わたしはあなたがたに言っておく。将来多くの代が過ぎて、わたしの民の中に大きな戦争と争いがあるのを、わたしは見た。

3 メシヤが来られると、わたしの民にメシヤの降誕のしるしが数々与えられる。また、死と復活のしるしも数々与えられる。その日は悪人にとって大変な恐ろしい日となる。彼らはその日に滅びるからである。彼らが滅びるのは、預言者と聖徒を追い出し、石を投げつけ、殺すからである。そのため、聖徒の血の叫びが地から神のもとに上って、彼らのことを訴えるのである。

4 それであるから、すべて高ぶる者と悪を行う者が、やがて焼き尽くされる日が来るであろうと、万軍の主は言われる。彼らはわらのようになるからである。

5 預言者と聖徒を殺す者は地の深い所にのみ込まれると、万軍の主は言われる。山々が彼らに覆いかぶさり、旋風が彼らを運び去り、建物が彼らの上に倒れかかって、彼らを押しつぶし、粉みじんにしてしまう。

6 また彼らは、雷や稲妻、地震、およびあらゆる破壊に見舞われる。それは、主の怒りの火が彼らに対して燃え上がり、彼らはわらのようになり、やがて彼らを焼き尽くしてしまう日が来るからである。このように万軍の主は言われる。

7 おお、わたしの民の中の殺されて失われる者のゆえに、わたしの心は痛み、苦しむ。わたしニーファイはそれを見たので、主の前に燃え尽きてしまいそうである。しかし、わたしは神に向かって、「あなたが行われることは公正です」と叫ばざるを得ない。

8 しかし見よ、預言者たちの言葉に聞き従い、また彼らを滅ぼそうとすることなく、どのような迫害を受けても与えられたしるしを心に留めて、確固としてキリストを待ち望む義人は、滅びを受けない人々である。

9 しかし、義の御子は将来彼らに現れ、彼らを癒される。そして、三代の人々が世を去り、四代目の多

第26章

1 ① 3ニフ11・1—12
② 1ニフ11・7、12・
6 ③ 3ニフ15・2—10
3 ① GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
② 1ニフ12・4—6、
③ GS「しるし」
創世4・10、2ニフ28・10・モル8・27
4 ① 3ニフ8・14—24、
9・3、9
5 ① 1ニフ19・11、3ニフ10・14
② 3ニフ8・10、9・5—8
7 ① GS「正義」
8 ① GS「迫害」
② 3ニフ10・12—13
9 ① 3ニフ11・8—15
② 3ニフ17・7—9
③ 1ニフ12・11—12、3ニフ27・30—32
④ アル45・10—12、ヒラ13・9—10

くの人も義のうちに世を去るまで、彼らは御子によって平安を保つ。

10 しかし、これらのことがあってから、速やかな滅[1]亡がわたしの民に下る。わたしの心は痛むが、わたしはそれを見たので、将来そのことが起こることを知っている。彼らは価値のないものに自分自身を売り渡すのである。わたしの民は、高慢と愚かな行いの報いとして滅亡を刈り取る。彼らは悪魔に従い、光よりも闇の業の方を選ぶので、[2]地獄へ下って行かなければならない。

11 主の御霊はいつでも人を励[1]ますわけではないからである。そして、御霊が人を励ますのをやめると、速やかに滅びが来る。わたしが悲しく思うのは、このためである。

12 わたしは、イエスがまことのキリスト[1]であられるとユダヤ人に[2]確信させることについて語ったが、異邦人にもイエスはキリストであり、永遠の神であられることを確信させることが必要である。

13 イエスは御自分を信じるすべての人、まことにあらゆる国民、部族、国語の民、民族に聖霊[1]の力によって御自身を現され、人の子らの中で、彼らの信仰に応じて大きな奇跡としるしと不思議を行われる。このことも、異邦人に確信させる必要がある。

14 しかし見よ、わたしはあなたがたに、[1]終わりの時について、すなわち、主なる神がこれらのことを人の子らに[2]明らかにされる時代について、預言する。

15 わたしの子孫とわたしの兄弟の子孫は、不信仰に陥って異邦人に打たれる。まことに、主なる神は彼らの周りに陣を構え、彼らを山で囲み、彼らに対してとりでを築かれる。そして彼らは地に倒されて、もはや存在しなくなる。しかしながらその後、義人の言葉が書き記され、忠実な者の祈りが聞き届けられるので、不信仰に陥った者のすべてが忘れ去られるわけではない。

16 滅ぼされる者が、地から人々に[1]語りかけるからである。その言葉は低く地の中から出て来て、その声は霊媒の声のように聞こえる。主なる神はその者に力を授け、まるで地の中から出て来るかのように、その者が彼らのことをささやけるようにされる。こうして彼らの言葉は、地の中からささやくのである。

17 主なる神はこう言われる。「彼らは彼らの中で行

---

9 ⑤ 4ニフ1・1−4
10 ① アル45・9−14、モル8・1−9
11 ① エテ2・15
12 ① モル3・21
② 2ニフ30・7、モル5・14、GS「ユダヤ人」
13 ① 2ニフ25・18
③ GS「聖霊」
14 ① 「終わりの時・末日」
16 ① GS「福音の回復」
② イザ29・4、モロ10・27、モセ7・62、GS「モルモン書」

われることを書き記す。そして、それらのことは、一つの書物に書き記されて封じられる。不信仰に陥った者は、神にかかわるものを絶やそうとするので、それらのものを得られない。

18 それゆえ、すでに滅ぼされた者たちは速やかに滅ぼされた。また、荒々しい者の群れは、吹き飛ぶもみ殻のようになる。[1]まことに主なる神は言われる。「このことは突然に、瞬く間に起こる。

19 そして不信仰に陥った者は、異邦人によって打たれる。

20 また異邦人は高慢な目をもって高ぶり、つまずきとなるものが大きいためにつまずいた。そして多くの教会を設けた。しかしながら彼らは、神の力と奇跡を侮り、自分の知恵と学識を自賛して、利益を求め、貧しい者の顔をすりつぶす。

21 ねたみと争いと悪意を引き起こす教会が、多く設けられる。

22 また昔のように、悪魔の結社である秘密結社もある。悪魔はすべてこれらのものの創設者、まことに、殺人やいろいろな闇の業の創始者である。そして悪魔は、麻縄を彼らの首にかけて引っ張って行き、ついには強い縄で、とこしえに彼らを縛ってしまうのである。

23 見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに言っておく。主なる神は暗闇の中で業を行うようなことはなさらない。

24 主は、世のためになることでなければ何事もなさらない。[1]すべての人をみもとに引き寄せるために御自分の命を捨てるほど、主は世を愛しておられるからである。したがって主は、御自分の救いにあずかってはならないと、だれにも命じられることはない。

25 見よ、主がだれかに向かって、「わたしのもとから去れ」と叫ばれるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ、「地の果てに至るすべての者よ、わたしのもとに来て、金を出さず、代価を払わないで、乳と蜜を買いなさい」と言われる。

26 見よ、主はだれかに、会堂、すなわち礼拝の家から立ち去るように命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。

27 また主がだれかに、主の救いにあずかってはなら

17 ① 2ニフ29・12
② エノ1・14
18 ① モル5・16—18
② ニフ16・8—9、
19 ① 3ニフ
20 ① 27—28
GS「高慢」
② エゼ14・4
③ 1ニフ13・29、34、
GS「背教、背信」
④ 1ニフ14・10、22・
23、モル8・28
⑤ モル9・7—8、2ニフ9・28
⑥ 2ニフ13・15
21 ① GS「ねたみ」
22 ① GS「秘密結社」
24 ① 3ニフ27・14—15
25 ① ヨハ3・16
② アル5・33—35、3ニフ9・13—14
27 ① イザ55・1—2
② GS「救い」

ないと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ主は、すべての人に救いを無料で授けてこられた。そして、すべての人に悔い改めを説き勧めるよう、主の民に命じてこられた。

28 見よ、主がだれかに、主の慈しみにあずかってはならないと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろすべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。

29 主なる神は、偽善売教[1]はあってはならないと命じられる。見よ、偽善売教とは、利益と世の誉れ[2]を得るために、説教をして自分自身を世の光とすることであって、シオンの幸いを求めることではない。

30 見よ、主はこのことを禁じられた。それゆえ主なる神は、人は皆、慈愛すなわち愛[1]を持つようにとの戒めを与えられた。慈愛がなかったならば人は何の価値もない。それゆえ、もし人に慈愛があれば、シオンで働く者を死なせたりはしないであろう。

31 しかし、シオンで働く者[1]は、シオンのために働くべきである。もしも金銭[2]のために働くならば、滅びるであろう。

32 また、主なる神は、人を殺してはならない、偽りを言ってはならない、盗んではならない、自分たちの神である主の名をみだりに唱えてはならない、ねたんではならない、悪意を抱いてはならない、互いに言い争ってはならない、みだらな行いをしてはならない、これらのことをどれも行ってはならないと命じられた。これらのことを行う者は滅びるからである。[1]

33 これらの罪悪は、いずれも主から来るものではない。主は人の子らの中で、ためになることを行われるからである。また主は、人の子らにとって分かりやすいことでなければ、何事も行われない。そして主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれない。主は異教徒[1]さえも心にかけられる。ユダヤ人も異邦人も、すべての人が神にとって等しい存在なのである。[2]

---

27 ② エペ2・8、2ニフ
25・23 GS「悔い改め」
28 ① ③ ロマ2・11、1ニフ
17・33−35
29 ① GS「偽善売教」
教義121・34−37
30 ① ② モロ7・47−48、GS「慈愛」
31 ① ② GS「シオン」
ヤコ2・17−19、教義38・39
32 ① 11・7、GS「不敬」
33 ① ② GS「戒め（神の）」
使徒10・9−35、44
45 ② アル26・37
17・35 ③ ロマ2・11、1ニフ

第27章

終わりの時に暗黒と背教が地を覆う。『モルモン書』が出て来る。その書物について三人の証人が証する。学者はその封じられた書物を読むことはできないと言う。主は驚くべき業と不思議を行われる。イザヤ書第二十九章と比較せよ。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 しかし見よ、終わり[1]の時、すなわち異邦人の時代になると、見よ、異邦人とユダヤ人のすべての国民は、この地に来る者もほかの地にいる者も、すなわち全地の者が皆、見よ、罪悪とあらゆる忌まわしい行いで酔う。

2 その日が来ると、万軍の主は、雷、地震、大音響、嵐、暴風雨、焼き尽くす火の炎を彼らに下される。

3 そして、シオンと戦い[1]、シオンを悩ますすべての国民[2]は、夜の幻のようになる。すなわち、飢えた者が夢を見るようである。飢えた者が夢の中で食べても、目を覚ませば空腹である。あるいは、のどの渇いた者が夢を見るようである。見よ、のどの渇いた者が夢の中で飲んでも、目を覚ませば体は弱っており、渇きは続いている。まことに、シオンの山と戦うすべての国民の群れも、そのようになる。

4 また見よ、罪悪を行う者たちよ、あなたがたは皆、立ち尽くして驚嘆せよ。あなたがたは大声で叫び、わめくであろう。まことに、あなたがたは酔うが、ぶどう酒によるのではない。震えるが、強い酒によるのではない。

5 また見よ、主があなたがたのうえに、深い眠りの霊を注がれたからである。あなたがたが目を閉じ、預言者たちを拒んだためである。それで、主はあなたがたの罪悪のために、統治者と聖見者を隠してしまわれた。

6 そして主なる神は、ある書物[1]の言葉をあなたがたにもたらされる。それは眠りに就いた者たちの言葉[2]である。

7 見よ、その書物は封じ[1]られており、その中には、世の初めから世の終わり[2]までの神からの啓示[3]が載っている。

8 また、封じ[1]られているものがあるので、封じられているものは、民が悪事と忌まわしい行いにふけっている時代には授けられない。したがって、その書

第27章
1 ①GS「終わりの時・末日」
2 ①イザ24・6、66・15−16、ヤコ6・3、3ニフ25・1
3 ①1ニフ22・14
6 ①②イザ29・7−8、2ニフ26・16−17、29・12、GS「モルモン書」
② ジェロ1・2、モル5・12−13
7 ①イザ29・11−12、エテ3・25−27、4・4−7
② エテ13・1−12
8 ①③モサ8・19
② エテ5・1
3ニフ26・9−12、エテ4・5−6

物は人々から隠される。
9しかしその書物は、やがて一人の男に[1]授けられる。そして彼は、その書物の中の言葉、すなわち地の中で眠りに就いている者たちの言葉を、[2]別の男に授ける。
10しかし彼は、封じられている言葉は授けないし、その書物も渡さない。その書物は神の力によって封じられており、また、封じられている啓示は、主がふさわしいと思われる時が来て世に出るまで、その書物の中に保たれるからである。見よ、それらの啓示は世の初めから世の終わりまで、すべてのことを示すものである。
11こうして、封じられた書物の言葉が屋根の上で読み上げられ、またキリストの力によって読まれる日が来る。そして、かつて人の子らの中にあったことと、またこれから世の終わりまでに起こることがすべて、人の子らに[1]示される。
12それゆえ、わたしが前に述べた男にその書物が授けられる日に、その書物は世の人々の目につかないように隠される。そして、その書物を授けられる男の[1]ほかに、[2]三人の証人が神の力によってそれを見るが、そのほかにはだれも見ない。そしてこの三人は、その書物とその中に書いてあることが真実であることを証する。
13このほかにそれを見る者は、ただ神の御心に従って人の子らに神の言葉について証を述べる少数の者だけで、だれもほかにいない。主なる神は、忠実な者の言葉はあたかも[1]死者から出るかのように語る、と言われた。
14それゆえ、主なる神はその書物の言葉をもたらし、また適切であると見なされる人数の証人の口を通して、御自分の言葉を確かなものとされる。したがって、神の言葉を[1]拒む者は災いである。
15しかし見よ、そこで主なる神はその書物を受け取る男にこう言われる。「封じられていないこれらの言葉を取って別の男に渡し、彼が学者にそれを見せて、『どうぞ、これを[1]読んでください』と言うようにしなさい。するとその学者は、『その書物をここに持って来てください。そうすれば読みましょう』と言う。
16ところで、彼らがそう言うのは、世の誉れのため、また[1]利益を得るためであって、神の栄光のためではない。

9 ① 教義17・5−6
ジ−歴史1・64−65
11 ① ルカ12・3、モル5・8、教義121・26−31
② 2ニフ11・3、エテ5・2−4、教義5・11、15、17・1
12 ① 申命19・15
13 ① 2ニフ3・19−20、33・13−15、モロ10・27
② 2ニフ28・29−30、
14 ① エテ4・8
15 ① イザ29・11−12、ジ−歴史1・65
16 ① GS「偽善売教」

17 それで先の男は、『その書物は封じられているので、持って来ることはできません』と言う。
18 すると、学者は、『それでは、わたしには読めない』と言う。」
19 そこで、主なる神はその書物とその中の御言葉をもう一度学識のない者に授けられる。すると学識のない者は、「わたしは無学です」と言う。
20 そのとき、主なる神は言われる。「学者は、これらの言葉を受け入れなかったので、読めない。しかし、わたしにはわたし自身の業を行う能力があるので、あなたはわたしが授ける言葉を読むであろう。
21 封じられている部分に[1]触れてはならない。わたしは、自分がふさわしいと思うときにそれらをもたらすからである。そして、わたしにはわたし自身の業を行う能力があることを、人の子らに示そう。
22 それゆえ、あなたはわたしの命じた言葉を読み、またわたしがあなたに約束した証[1]人たちを得たら、その後、あなたは再びその書物を封じて、わたしに託して隠すようにしなさい。そうすればわたしは、人の子らにすべてのことを明らかにするのがわたしの知恵にかなうと思うときまで、あなたのまだ読んでいない言葉を保っておくことができる。
23 さて見よ、わたしは神である。奇跡の[1]神である。わたしは、昨日も、今日も、またとこしえに変わらないこと、また、わたしは人の子らの[2]信仰に応じてでなければ彼らの中で業を行わないことを、世の人々に示そう。」
24 そしてまた、主は御言葉を授けられて、それを読む先の男に言われる。
25 「この[1]民は口ではわたしに近づき、唇ではわたしをあがめるが、彼らの心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを畏れ敬うのは、人の[2]訓戒によって教えられているからである。
26 それゆえ、わたしはこの民の中で[1]驚くべき業を、まことに[2]驚くべき業と不思議を行う。知者と学者の知恵は失われ、賢者の知識は隠される。」
27 自分たちのはかりごとを奥深く隠して、主に知られないようにしようとする者は、災いである。彼らの行いは闇の中にあり、彼らは、「だれがわたしたちを見ていようか。だれがわたしたちを知っていようか」と言う。彼らはまた、「確かに、あなたがたが物事を転倒して考えていることは、[2]陶器師の粘土のよ

21 ①エテ5・1
22 ①GS「証人（モルモン書の）」
23 ①GS「奇跡」
②ヘブ13・8
③ヘブ11章、エテ12・7−22
25 ①イザ29・13
②マタ15・8
③2ニフ28・31
26 ①1ニフ22・8、2ニフ29・1−2、GS「福音の回復」
②イザ29・14、2ニフ27・17
25 ①イザ29・15
②エレ18・6

うなものだ」と言う。しかし見よ、万軍の主は言われる。「わたしは彼らのあらゆる行いを知っていることを彼らに示そう。造られたものがそれを造った者について、『彼はわたしを造らなかった』と言えるだろうか。形造られたものが形造った者について、『彼には分別がない』と言えるだろうか。」

28 しかし見よ、万軍の主は言われる。「わたしは人の子らに、もうしばらくするとレバノンがよく肥えた畑に変わり、そのよく肥えた畑が森のように思われる時が来ることを示そう。」

29 そしてその日、耳の聞こえない者もその書物の御言葉を聞き、目の見えない者も暗闇から、また暗黒から出て見えるようになる。

30 また、柔和な者たちも増えて主にあって喜びを得、人々の中の貧しい者たちは、イスラエルの聖者によって喜びを味わうようになる。

31 荒々しい者はいなくなり、あざける者は焼き尽くされ、罪悪の機をうかがう者は絶たれることを、主が生きておられるように確かに、彼らは知るからである。

32 たった一言のために人を悪く見る者、門でとがめる者に対してわなを仕掛ける者、また価値のないものののために正しい者を退ける者、これらの者は絶たれる。

33 さて、アブラハムを贖われた主は、ヤコブの家についてこう言われる。「それゆえ、ヤコブはもはや恥を受けることなく、また、もはや顔色を失うこともない。

34 彼が自分の中にわたしの手の業である自分の子孫を見るとき、彼らはわたしの名を神聖であるとたたえ、ヤコブの賢者を神聖な方としてたたえ、イスラエルの神を畏れ敬う。

35 心に誤解を生じていた者も理解するようになり、つぶやいていた者も教義を知るようになる。」

第28章

終わりの時に、多くの偽りの教会が設けられる。これらの教会は、偽りの、むなしい、愚かな教義を教える。偽教師がいて背教が広がる。悪魔は人々の心の中で荒れ狂う。悪魔はあらゆる偽りの教えを広める。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

---

29 ① イザ 29・18
30 ① GS「柔和」
31 ① 教義 101・36
32 ① イザ 29・20
32 ① ルカ 11・54
32 ② アモ 5・10
34 ① 2ニフ 28・16
34 ③ イザ 29・23−24
35 ① 2ニフ 28・14 教義
33 ② ダニ 12・4

1 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしは御霊によって促されるままに、あなたがたに語ってきた。したがって、これらのことが将来必ず起こることを、わたしは知っている。
2 その書物から書き記される事柄は、人の子らのために、特にイスラエルの家の残りの者であるわたしたちの子孫のために、大いに価値がある。
3 そしてその日には、主のために設けられたのではない数々の教会があって、ある者は別の者に向かって、「見よ、わたしは主の教会の者だ」と言い、別の者も、「わたしこそ主の教会の者だ」と言う。教会を設けた者たちは皆、主のために設けたのではないにもかかわらず、このように言う。
4 そして、彼らは互いに言い争う。また、その聖職者たちも互いに言い争って、自分の学識で教え、語る言葉を与えてくださる聖霊を否定する。
5 彼らはイスラエルの聖者である神の力を否定し、人々に言う。「わたしたちに耳を傾け、わたしたちの訓戒を聞きなさい。見よ、今日、神は存在しないからである。主なる贖い主はすでに御自分の業を終え、御自分の力を人に与えられた。
6 見よ、わたしの訓戒を聴きなさい。もし主の手によって奇跡が行われたと言う者がいても、信じてはならない。今日、神は奇跡の神ではないからである。神はすでに御自分の業を終えられた。」
7 また、次のように言う者も大勢いる。「明日は死ぬ身なのだから、飲み食いし、楽しみなさい。そうすれば、わたしたちは幸せだ。」
8 次のように言う者もまた大勢いる。「飲み食いし、楽しみなさい。しかし同時に神を畏れなさい。神は少しの罪を犯すことは許してくださる。だから、少しばかり偽りを言い、人の言葉に付け込んで欺き、隣人を陥れる穴を掘りなさい。これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから、これらのことをすべて行いなさい。たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。」
9 このように、偽りの、むなしい、愚かな教義を教え、心の中で誇り高ぶり、自分たちのはかりごとを深く隠して主に知られないようにしようとする者が大勢いる。彼らの行いは、闇の中にある。

第28章
2 ① GS「モルモン書」
② 1ニフ13・34—42、
22 ② 9、3ニフ21・6
3 ① 1ニフ22・23、1コリ1・10—13、4ニフ1・25—29、モル8・28、
32—38 ① 2ニフ9・28
4 ① 2ニフ26・20
5 ① 2ニフ30・28
6 ② アル8・26、9・15—モル8・31
7 ① 1コリ15・32、アル30・17—18
8 ① モル8・31
② 教義10・25、モセ4・14・3
4、GS「偽り」、箴言26・27、1ニフ13・29
9 ① エゼ13・3、ヒラ13・9
② マタ15・9

10 そのとき、聖徒たちの血が、[1]地から叫んで彼らを訴える。
11 まことに、彼らは皆、[1]道から外れ、[2]堕落してしまっている。
12 彼らの教会は、高慢のために、また偽教師と偽りの教義のために腐敗している。彼らの教会は思い上がっており、高慢のために、彼らは誇り高ぶっている。
13 彼らは立派な聖堂を建てるために貧しい[1]者から[2]奪い取り、また華やかな衣をまとうために貧しい者から奪い、柔和な者と心の貧しい者を苦しめる。[3]高慢のために誇り高ぶっているからである。
14 彼らは心をかたくなにし、[1]頭を高くする。そして、キリストに従う少数の謙遜な者たちを除いて、すべての者が、高慢と悪事と忌まわしい行いとみだらな行いのために[2]迷ってしまっている。しかし、キリストに従う少数の者たちも誘いを受け、人の訓戒によって教えられるので、度々過ちを犯す。
15 おお、心を高慢にして誇り高ぶる[1]知者、[2]学者、物持ち、また偽りの教義を説くすべての者、みだらな行いをして主の正しい道を曲げるすべての者、これらの者は[3]災いである、災いである、災いである。全能の主なる神がこう言われる。これらの者は地獄に突き落とされるからである。
16 価値のないもののために正しい者を退け、[1]善いことをののしって、それは何の価値もないと言う者は、災いである。主なる神が地に住む者に、速やかに報いを下される日が来るからである。罪悪が[2]完全に熟すその日に、彼らは滅びるのである。
17 しかし見よ、地に住む者が自分たちの悪事と忌まわしい行いを悔い改めるならば、彼らは滅ぼされることはないと、万軍の主は言われる。
18 しかし見よ、全地の[1]淫婦であるあの大きな忌まわしい教会は、地に崩れ落ち、[2]その倒れ方はひどい。
19 悪魔の王国は必ず揺れ動く。また、それに属する者は、必ず悔い改めるように促される。そうでなければ、彼らは[2]悪魔の永遠の[3]鎖に縛られ、怒るようにそそのかされて滅びてしまう。
20 見よ、その日、悪魔は人の子らの心の中で荒れ狂い、人の子らをそそのかして善いことに対して怒らせる。
21 また、悪魔はほかの人々をなだめ、[1]彼らを欺いて

10 ①黙示6・9—11、2ニフ26・3、モル8・27、エテ8・22—24、教義87・7
11 ①ヒラ6・31 ②モル8・28—41、教義33・4
13 ①ヒラ4・12 ②エゼ34・8
14 ①箴言21・4 ②アル5・53 ③箴言3・5—7
15 ①イザ53・6 ②GS「高慢」
16 ①イザ29・21 ②エテ2・9—10 ③ニフ29・5 箴言3・5—7
18 ①黙示19・2 ②1ニフ14・3、17
19 ①1ニフ22・23 ②アルマ34・35
20 ①教義10・20—27 ③アルマ12・11
21 ①モル8・31

現世での安全を確信させるので、彼らは、「シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い」と言う。[2]悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。

22 そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、「[1]地獄はない」と告げ、「悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない」と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい[2]鎖で縛ってしまう。

23 まことに彼らは、死と地獄に捕らえられる。そして、死と地獄と悪魔と、それらに捕らえられたすべての者は、神の御座の前に立たなければならない。そして、彼らは自分の行いに応じて裁かれる。[1]それから彼らは、自分たちのために用意された場所、すなわち無窮の苦痛である[2]火と硫黄の池に入らなければならない。

24 したがって、シオンでのんきに暮らす者は、災いである。

25 「すべてが良い」と大声で叫ぶ者は、災いである。

26 まことに、人の訓戒に耳を傾け、神の力と聖霊の賜物を否定する者は、災いである。[1]

27 まことに、「わたしたちは受けているので、もうこれ以上は必要ない」と言う者は、災いである。

28 要するに、神の真理のゆえに身を震わせて[1]怒る者は皆、災いである。見よ、[2]岩の上に建てられる者は喜んで神の真理を受け入れるが、砂の土台の上に建てられる者は、倒れるのではないかと震えおののくからである。

29 「わたしたちは、すでに神の言葉を頂いている。もうこれで十分だから、[1]これ以上神の言葉は[2]必要ない」と言う者は、災いである。

30 見よ、主なる神はこう言われる。「わたしはここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、[1]訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らに与えよう。わたしの訓戒を聴き、わたしの勧めに耳を貸す者は、[2]知恵を得るので幸いである。わたしは[3]受け入れる者にさらに[4]多く与え、『もう十分である』と言う者からは、彼らが持っているものさえも取り上げる。」

31 人に[1]頼る者、すなわち肉を自分の腕とする者はのろわれる。すなわち、聖霊の力によって与えられる訓戒ではなく、人の訓戒に耳を傾ける者はのろわれる。

21 ①2ニフ9・39
22 ①2ニフ9・39　②GS「地獄」
23 ①アル36・18　②GS「イエス・キリストー裁き」「最後の裁き」
26 ①2ニフ9・16、19、26　②2ニフ9・29
27 ①アル12・10—11　②2ニフ9・40、33・5、GS「背く」
28 ①2ニフ9・40、33・5、GS「背く」　②マタ7・24—27、GS「岩」
29 ①2ニフ29・3—10　②2ニフ27・14、エテ4・8
30 ①イザ28・9—13、教義98・12　②GS「知恵」　③ルカ8・18　④アル12・10、教義50・24
31 ①教義1・19—20

32 万軍の主なる神は言われる。「異邦人は災い[1]である。わたしが日々腕を伸べているにもかかわらず、彼らはわたしを拒むからである。それでも、彼らが悔い改めてわたしのもとに来るならば、わたしは彼らを憐れもう。わたしは終日、[2]腕を伸べているからである」と主なる神は言われる。

第29章

多くの異邦人は『モルモン書』を拒む。彼らは、「ほかに聖書は必要ない」と言う。主は多くの国民に語られる。主は書き記される数々の書によって世の人々を裁かれる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「しかし見よ、わたしが異邦人の中で驚くべき業[1]を始めるその日には、異邦人の数は多い。わたしが驚くべき業を行うのは、人の子らに立てた聖約[2]を思い起こして、イスラエルの家に属するわたしの民を再び連れ戻す業に着手するためである。

2 また、あなたニーファイとあなたの父に立てた約束、すなわち、あなたがたの子孫を覚え、あなたがたの子孫の言葉[1]がわたしの口から出て、あなたがたの子孫に伝わるようにするという約束を、わたしが思い起こして守るためである。わたしの言葉は地の果てまで響き渡[2]り、イスラエルの家に属するわたしの民にとって旗[3]となる。

3 そして、わたしの言葉が響き渡るので、多くの異邦人は、『聖書[1]か、聖書か。我々はすでに聖書を持っている。これ以外に聖書があるはずがない』と言う。」

4 しかし、主なる神はこう言われる。「おお、愚かな者よ、彼らは聖書を持つが、それは昔わたしが聖約を交わした民、ユダヤ人[1]から出るものである。彼らはユダヤ人[2]から得る聖書[3]について、ユダヤ人にどのように感謝しているか。まことに、異邦人はどういうつもりか。彼らはユダヤ人が負った労苦と労力、骨折り、また自分たちに救いを得させることになったユダヤ人の、わたしに対する努力を思い起こしているか。

5 おお、異邦人よ、あなたがたは、昔わたしが聖約を交わした民、ユダヤ人を覚えていたか。いや、逆にあなたがたは彼らをのろい、[1]憎み、彼らを元の状

32 ① 1ニフ14・6
② ヤコ5・47、6・4

第29章

1 ① 2ニフ27・26、GS「福音の回復」
② GS「アブラハムの聖約（契約）」
③ 2ニフ6・14、21・11—12、25・17、GS「イスラエルーイスラエルの集合」

2 ① 2ニフ3・18—21
② イザ5・26、2ニフ15・26、モロ10・28
③ 1ニフ21・22、GS「旗」

3 ① 1ニフ13・23—25、GS「聖書」「モルモン書」

4 ① GS教義3・16
② GS「ユダヤ人」
③ GS「ユダーユダの木」

5 ① 3ニフ29・8

態に戻そうとはしなかった。しかし見よ、主なるわたしはわたしの民を忘れたことはないので、これらすべてのことの責めをあなたがた自身の頭に求める。

6『[1]聖書か。我々はすでに聖書を持っている。だから、ほかに聖書は必要ない』と言う者よ、あなたがたは愚か者である。あなたがたはユダヤ人によらずに聖書を手に入れたか。

7あなたがたは、国民は数多くあることを知らないのか。主であり、あなたがたの神であるわたしがすべての人を造ったこと、またわたしが[2]海の島々にいる者たちを覚えていることを知らないのか。またわたしが上は天で治め、下は地で治めていること、そしてわたしの言葉を人の子ら、すなわち地のすべての国民にもたらすことを知らないのか。

8さて、なぜあなたがたは、わたしの言葉がもっと多く与えられるからと言ってつぶやくのか。[1]二つの国民の証が、わたしが神であることと、一つの国民をもう一つの国民と同じように覚えていることの、[2]あなたがたへの証拠となることを知らないのか。わたしは一つの国民に語るのと同じ言葉を別の国民にも語る。そして、その二つの[3]国民が合わせられるとき、二つの国民の証も合わせられるのである。

9わたしがこれを行うのは、わたしが昨日も、今日も、[1]またとこしえに変わらないことと、わたし自身の望むままにわたしの言葉を語るということを、多くの人に証明するためである。したがってわたしが[2]一言語ったので、もう一言も語れないと思ってはならない。わたしの業はまだ終わっていないからである。わたしの業は人の存在が尽きるまで終わらないし、その後とこしえに終わりがないのである。

10それゆえ、聖書を持っているからといって、わたしの[1]言葉がすべてそこに含まれていると思ってはならない。また、わたしがもっと大切なことを書き記させなかったと思ってもならない。

11わたしは、東の地、西の地、北の地、南の地、また海の島々にいる[1]すべての者に、わたしの語る言葉を書き記[2]すように命じるからである。わたしは書き記される[3]数々の書によって、世のあらゆる人を、書き記されていることに従い、彼らの行いに応じて裁[4]く。

12見よ、わたしがユダヤ人[1]に語れば、彼らはそれを

6①1ニフ13・38
GS「創造・創造する」
7①1ニフ22・4
8①②エゼ37・15—20、1ニフ13・38—41、2ニフ3・12
②マタ18・16、GS「証人・証」
9①③ホセ1・11
②GS「啓示」
10①GS「聖文—出現を預言された聖文」
11①アル29・8
②2テモ3・16
③GS「命の書」
④2ニフ25・22、33・14—15、GS「最後の裁き」
12①1ニフ13・23—29

書き記し、ニーファイ人に語れば、彼らはそれを書き記す。また、わたしが連れ出したイスラエルの家のほかの部族に語れば、彼らもそれを書き記す。さらにわたしが地のすべての国民に語れば、彼らはそれを書き記す。

13 そしてユダヤ人はニーファイ人の言葉を得て、ニーファイ人はユダヤ人の言葉を得る。また、ニーファイ人とユダヤ人は、イスラエルの行方の知れない部族の言葉を得て、イスラエルの行方の知れない部族は、ニーファイ人とユダヤ人の言葉を得る。

14 そして、イスラエルの家に属するわたしの民は、彼らの所有の地に集め戻され、わたしの言葉も一つに集められる。こうして、わたしが神であることと、わたしがアブラハムに彼の子孫をとこしえに覚えると聖約を立てたこととを、わたしの言葉とイスラエルの家に属するわたしの民に逆らって戦う者たちに示そう。」

第30章

改宗した異邦人は聖約の民とともに数えられる。多くのレーマン人とユダヤ人が書物の御言葉を信じて、喜ばしい状態になる。イスラエルは元の状態に戻り、悪人は滅ぼされる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに語りたい。わたしニーファイはあなたがたに、自分たちが異邦人以上に義にかなっていると思ってほしくないからである。神の命令に従わないならば、あなたがたも皆同じように滅びる。しかし、すでに述べられた言葉があるからといって、異邦人がことごとく滅ぼされると考えてはならない。

2 それは、見よ、あなたがたに言うが、異邦人であっても悔い改める者は皆、主の聖約の民となり、ユダヤ人であっても悔い改めない者は皆、捨てられるからである。悔い改めてイスラエルの聖者である御子を信じる者でなければ、主はだれとも聖約されないからである。

3 ところで、わたしはユダヤ人と異邦人についてもう少し預言したい。わたしが前に語ったあの書物が出て、異邦人に書き伝えられ、再び封じられて主に託された後、書き記されたそれらの御言葉を信じる

12 ② 1ニフ13・38—42、2ニフ26・17
13 ① ③ 2ニフ26・33
② モル5・12—14
14 ① GS「イスラエル—行方の知れない十部族」
② エレ3・17—18
③ エゼ37・16—17
④ 教義132・30
⑤ 創世17・7
⑥ 創世12・1—3、1ニフ17・40、3ニフ20・27、アブ2・9、GS「アブラハムの聖約（契約）」
1ニフ22・8—9

第30章
2 ① ガラ3・26—29
② マタ8・10—13、GS「ユダヤ人」
3 ① GS「悔い改め」
3ニフ16・6—7

人々が大勢いる。[2]彼らはそれらの御言葉を、わたしたちの子孫の残りの者に広める。

4 その後、わたしたちの子孫の残りの者は、わたしたちのことと、わたしたちがエルサレムから出て来た次第と、自分たちがユダヤ人の子孫であることを知る。

5 そして、イエス・キリストの福音が[1]彼らの中で告げ知らされる。それゆえ[2]彼らは、自分たちの先祖についての知識を[3]再び得て、また先祖の中で知られていたイエス・キリストについての知識も得るようになる。

6 そこで彼らは、それが神の手から自分たちに与えられた祝福であることを知って、喜ぶであろう。また、暗黒のうろこが彼らの目からはがれ始め、多くの世代が過ぎないうちに、彼らは清い、[1]喜ばしい民になる。

7 そして、散らされているユダヤ人[1]もキリストを信じ始め、地の面に集まり始める。そして、キリストを信じる者は皆、喜ばしい民になる。

8 そして主なる神は、御自分の民を地上で回復するために、すべての国民、部族、国語の民、民族の中で御自分の業を始められる。

9 そして主なる神は、義をもって貧しい者を裁き、公平をもって地の柔和な者のために責められる。また、その口の鞭で世を打ち、その唇の息で悪人を殺される。

10 主なる神が、民の中に甚だしい[1]分離を引き起こされる[2]時が速やかに来る。そのとき、主なる神は悪人を滅ぼし、御自分の民を救われる。まことに、たとえ火で悪人を滅ぼさなければならなくても、そのように[4]される。

11 [1]義はその腰の帯となり、忠信はその腹の帯となる。

12 またそのとき、おおかみは子羊とともに宿り、ひようは子やぎとともに伏し、子牛と若いライオンと肥えた若い家畜はともにいて、幼い子供がこれらを導く。

13 雌牛とくまはともに食べ、その子らはともに伏し、ライオンは牛のようにわらを食べる。

14 乳飲み子は毒蛇の穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの穴に手を置く。

15 彼らは、わたしの聖なる山のどこにおいても、害

---

5 ① 1ニフ22・8−9
② 3ニフ21・3−7、24−26
3 ② 教義3・20
③ 1ニフ15・14、2ニフ3・12、モル7・1、9−10
6 ① 教義49・24、109・65
7 ① 2ニフ29・13−14
② 2ニフ25・16−17
9 ① イザ11・4−9
② 2ニフ9・15
10 ① GS「柔和」
② 教義63・53−54
③ GS「終わりの時・末日」
④ モセ7・61
11 ① 1ニフ22・15−17、23
② GS「地球（地）−地球の清め」
12 ① イザ11・5−9
① イザ65・25、GS「福千年」

を与えることはなく損なうこともない。水が海を覆っているように、主を知る知識が地に満ちるからである。

16 また、すべての国民のことが知られるようになる。まことに、すべてのことが人の子らに知らされるようになる。

17 秘密のことで明らかにされないことはなく、闇の業で明るみに出ないものもない。また、地上で結ばれたもので解かれないものもない。

18 したがって、人の子らに明らかにされてきたことはすべて、その日に明らかにされる。サタンはもはや長い間、人の子らの心を支配する力を持たない。さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはこれでわたしの言葉を終える。

第31章

ニーファイ、キリストがバプテスマを受けられた訳を告げる。救いを得るためには、人はキリストに倣ってバプテスマを受け、聖霊を授かり、最後まで堪え忍ばなければならない。悔い改めとバプテスマは、細くて狭い道に至る門である。永遠の命は、バプテスマを受けた後も戒めを守る人々に与えられる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、あなたがた愛する同胞に預言することをこれで終える。わたしは将来必ず起こると知っていることを、少ししか書き記せない。また、弟のヤコブの言葉も少ししか書き記せない。

2 しかし、これまで書き記してきたことで十分である。ただ、キリストの教義については少し述べておかなければならない。それで、わたしの分かりやすい預言の仕方で、あなたがたに分かりやすく述べておく。

3 わたしは、分かりやすいことを喜びとする。主なる神は分かりやすい方法で、人の子らの中で業を行われるからである。主なる神は理解力に光をお与えになる。主なる神は、人々が理解できるように彼らの言葉に倣って語られる。

4 そこで、主がわたしに示されたあの預言者、すなわち世の罪を取り除かれる神の小羊にバプテスマを施す預言者について、わたしが前に述べたことを思

16 ① 教義101・32—35、121・28—29
17 ① 教義1・2—3
② エテ4・6—7
18 ① 黙示20・1—3、エテ8・26

第31章

1 ① 2ニフ25・1—4
2 ① 2ニフ11・6—7
3 ① GS「光・キリストの光」
② 教義1・24
4 ① 1ニフ10・7、11・27
② GS「ヨハネ（バプテスマの）」
GS「神の小羊」

い起こしてもらいたい。

5 さて、神の小羊が聖なる御方であっても、あらゆる義を満たすために水でバプテスマをお受けになる必要があるとすれば、おお、聖くないわたしたちがバプテスマを、すなわち水でバプテスマを受けることは、なおさら必要ではないだろうか。

6 そこで、わたしの愛する同胞よ、神の小羊は水でバプテスマをお受けになることによって、どのようにあらゆる義を満たされたのか、わたしはあなたがたに尋ねたい。

7 あなたがたは小羊が聖くあられたことを知らないのか。しかし小羊は、聖いにもかかわらず、肉においては御父の前にへりくだることを人の子らに示される。そして、御父の戒めを守ることについて御父に従順であることを、御父に証明されるのである。

8 それゆえ、小羊が水でバプテスマをお受けになると、聖霊が鳩の形を取って小羊のうえに降って来られた。

9 そしてまた、それは人の子らに、道が細くて彼らの入る門が狭いことを示しており、小羊は彼らの前に模範を示されたのである。

10 小羊は、「わたしに従いなさい」と人の子らに言われた。それゆえ、愛する同胞よ、進んで御父の戒めに従わないで、わたしたちはイエスに従うことができるだろうか。

11 御父は言われた。「悔い改めよ。悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ。」

12 また、御子の声がわたしに聞こえて言われた。「父は、わたしの名によってバプテスマを受ける者に、わたしに授けてくださったと同じように聖霊を授けてくださる。それゆえ、わたしに従い、わたしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。」

13 したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたが十分に固い決意をもって御子に従い、神の前に決して偽善と欺きを行うことなく誠意をもって行動し、罪を悔い改め、バプテスマによって、まことに、あなたがたの主であり救い主である御方に従い、主の言葉のとおりに水に入り、バプテスマを受けることによって、キリストの名を喜んで受けることを御父に証明するならば、見よ、そのとき、あな

5 ① マタ 3・11—17、GS「バプテスマ」
7 ① ヨハ 5・30、GS「従順・従う」
8 ① GS「鳩のしるし」
9 ① 1 ニフ 11・27
② 2 ニフ 9・41、3 ニフ 14・13—14、教義 22・4
10 ① マタ 4・19、8・22、9・9
② モロ 7・11、教義 56・
12 ① GS「聖霊の賜物」
② ルカ 9・57—62、ヨハ 12・26
13 ① ガラ 3・26—27

たがたは聖霊を受ける。すなわち、そのとき火と聖霊によるバプテスマを受ける。するとあなたがたは天使の言葉で語り、イスラエルの聖者に賛美の声を上げることができるのである。わたしはそれを知っている。

14 しかし見よ、わたしの愛する同胞よ、御子の声が次のように聞こえてわたしに言われた。「あなたがたは罪を悔い改め、水によるバプテスマを受けることによってわたしの戒めを進んで守ることを御父に証明し、火と聖霊によるバプテスマを受け、新しい言葉、すなわち天使の言葉で語れるようになった後に、わたしを否定するのであれば、わたしを知らなかった方があなたがたのためによかったであろう。」

15 わたしはまた、御父がこう言われる声を聞いた。「まことに、わたしの愛する者の言葉は真実であり、確かである。最後まで堪え忍ぶ者は救われる。」

16 さて、わたしの愛する同胞よ、このことから、人は生ける神の御子の模範に倣って、最後まで堪え忍ばなければ救われないことが分かる。

17 したがって、わたしがあなたがたの主であり贖い主である御方の行われることを先見して、これまで語ってきたことを、あなたがたも行いなさい。これらのことがわたしに示されたのは、あなたがたが入らなければならない門を知ることができるようにするためである。あなたがたが入らなければならない門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しが与えられる。

18 そのとき、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる。まことに、あなたがたはその門から入っている。あなたがたは御父と御子の戒めに従ってこのように行っている。またあなたがたは、御父と御子について証をされる聖霊を受けている。こうして、その方法によって入るならば受けると主が約束された、その約束が果たされたのである。

19 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは尋ねたい。あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功徳にひたすら頼らな

---

13 ②「火」GS「聖霊の賜物」
14 ①ニフ 2・32・2—3 ③マタ 10・32—33、アル 24・30、教義 101・1—5、GS「赦されない罪」
16 ①ペテ 2・21 ②GS「イエス・キリスト—模範」
17 ①アル 5・13、38・2、教義 20・29 ②モサ 18・10、GS「バプテスマ」
18 ①ニフ 8・20 ②GS「罪の赦し」
19 ①ニフ 1・18、GS「道」 ②箴言 4・18 ③使徒 5・29—32 ④モサ 4・10 ⑤GS「信仰」 ⑥教義 3・20

かったならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかったからである。

20したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、「あなたがたは永遠の命を受ける」と言われる。

21さて、わたしの愛する同胞よ、これが道である。そして、このほかには人を神の王国に救う道も名も天下に与えられていない。見よ、これがキリストの教義であって、限りなく一つの神である御父と御子と聖霊の唯一の真正な教えである。アーメン。

第32章

天使は聖霊の力によって語る。人は祈り、自分で聖霊から知識を得るようにしなければならない。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはその道によって入ってからどのようにすればよいのか、多少心の中で深く考えていると思う。しかし見よ、なぜこれらのことを心の中で深く考えているのか。

2あなたがたは、聖霊を受けたら天使の言葉で語ることができるとわたしが言ったことを覚えていないのか。また、聖霊によらなければ、どうして天使の言葉で語ることができようか。

3天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。

4さて、わたしがこれらのことを述べても、あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求めもせず、また、門をたたきもしないためである。それゆえ、あなたがたは光の中に導かれず、闇の中で滅びてしまうに違いない。

5見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言っておく。あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。

20①GS「希望」
②GS「愛」
③GS「歩む（神とともに）」
④GS「堪え忍ぶ」
21①使徒4・10−12、2ニフ9・41、アル37・46、教義132・22、25
②モサ3・17
③GS「イエス・キリスト―御名を受ける」
④マタ7・28、ヨハ7・16−17
⑤3ニフ11・27、35−36、
⑥GS「一致」
GS「神・神会」

第32章
1①2ニフ9・20
②3ニフ31・13
2①GS「天使」
②エレ15・16
3①GS「求める」
4①②

6 見よ、これがキリストの教義である。キリストが肉にあってあなたがたに御自身を現される時まで、これ以上の教義は与えられない。そして、キリストが肉にあってあなたがたに御自身を現される時には、あなたがたはキリストが言われることを行うように努めなければならない。

7 さて、わたしニーファイはこれ以上言うことができない。御霊がわたしの語るのを止められるからである。わたしは、人々が不信仰で、邪悪で、無知であり、強情であるのを悲しく思う。彼らは知識を求めようとしない。また、偉大な知識を分かりやすく、可能なかぎりはっきりした言葉で教えられても、それを理解しようとしない。

8 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがまだ心の中で深く考えているのを承知している。そして、このことについてあなたがたに述べなければならないのは、わたしにとって悲しいことである。あなたがたは、祈るように人に教えてくださる御霊に耳を傾けるならば、祈らなければならないことが分かるであろう。悪霊は祈るようにとは人に教えず、かえって祈ってはならないと人に教える。

9 しかし見よ、わたしはあなたがたに言っておく。あなたがたは気を落とさずに常に祈らなければならない。そして、主があなたがたの行うことを神聖にしてくださり、あなたがたの行うことが自分自身に幸いをもたらすものとなるように、キリストの名によってまず御父に祈らずには、主のためにどんなことも行ってはならない。

第33章

ニーファイの言葉は真実であり、キリストについて証する。キリストを信じる者はニーファイの言葉を信じる。彼の言葉は裁きの法廷で証言となる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、民の中で教えられたことをすべて書き記すことはできない。また書くときには話すときほどの力もない。人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。

2 しかし見よ、聖なる御霊に対して心をかたくなにする人が大勢いる。彼らには聖なる御霊は宿りたま

---

6 ① ニフ 3・11・8
7 ① GS「不信仰」
② ニフ 2・31・2—3、ヤコ 4・13
8 ① GS「祈り」
② モサ 4・14、GS「悪魔」
9 ① ニフ 3・20・1、教義 75・11
② アル 34・27
③ モセ 5・8

第33章
1 ① エテ 12・23—24
② 教義 100・7—8
2 ① ヒラ 6・35—36

わない。そのために、これらの人々は、書き記されている多くのことを捨てて、これらを価値のないものと見なす。

3 しかし、わたしニーファイは、これまで書き記してきたものを大いに価値があると考え、特にわたしの民にとってそうであると考えている。わたしは昼は絶えず民のために祈り、夜は彼らのことを心配して涙で枕をぬらしている。そしてわたしは、信仰をもって神に叫び求めている。わたしは、神がわたしの嘆願を聞き届けてくださることを知っている。

4 また、主なる神がわたしの祈りを民の益となるように神聖なものとしてくださることを、わたしは知っている。また、弱点がありながらも書き記してきた言葉は、わたしの民のために力強いものとなるであろう。それは、この言葉が善を行うように説き勧め、また彼らに先祖のことを知らせ、イエスについて述べ、イエスを信じて最後まで堪え忍ぶように彼らに説き勧めるものだからである。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶならば、永遠の命を授かるのである。

5 また、真理が率直であることから、わたしが書き記してきた言葉は、罪に対して厳しく語る。それゆえ、悪魔の霊を宿している者でないかぎり、だれもわたしが書き記してきた言葉に腹を立てないであろう。

6 わたしは率直さに誇りを感じ、真理に誇りを感じる。また、イエスがわたしを地獄から贖ってくださったので、わたしはイエスを誇りとする。

7 わたしは自分の民に慈愛を抱いており、また、キリストの裁きの座でまったく染みのない多くの人に会えるであろうと、キリストに深い信仰を抱いている。

8 わたしはユダヤ人に対しても慈愛を抱いている。ここでいうユダヤ人とは、わたしが出て来た地の民のことである。

9 わたしはまた異邦人に対しても慈愛を抱いている。しかし見よ、これらの人々はだれであっても、キリストとの和解を得、狭い門を入って命に至る細い道を歩み、試しの生涯の最後までその道を歩み続けないかぎり、わたしはその人のために何も望むことができない。

10 さて、わたしの愛する同胞よ、ユダヤ人よ、地の

---

3 ① GS「聖文−聖文の価値」
② エノ1・9−12、モ言1・8
4 ① エテ12・26−27
② モロ7・13
5 ① GS「永遠の命」
③ 2ニフ31・3、ヤコ4・13
② 1ニフ16・1−3、2ニフ9・40
6 ① GS「贖い・贖う」
7 ① GS「慈愛」
8 ① GS「ユダヤ人」
9 ① GS「異邦人」
② GS「贖罪」
③ 2ニフ9・41
④ ヒラ3・29−30、教義132・22
⑤ GS「歩む（神とともに）」

果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。[1]また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。[2]これらの言葉はキリストの言葉であり、[3]キリストがわたしに授けてくださったものだからである。そして、これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に教えている。[4]

11 これらがキリストの言葉でないかどうか、判断してもらいたい。キリストは終わりの日に、力と大いなる栄光とをもって、[1]これらが御自分の言葉であることをあなたがたに示されるであろう。そして、あなたがたとわたしとはキリストの法廷で対面する。[2]そうすればあなたがたは、わたしが、弱点があるにもかかわらず、これらのことを書き記すようにキリストから命じられたことを知るであろう。

12 わたしは、あの大いなる終わりの日に、たとえすべてではなくても、わたしたちの多くの者が御父の王国に救われるように、[1]キリストの名によって御父に祈る。

13 さて、わたしの愛する同胞よ、すなわち、イスラエルの家に属するすべての人よ、地の果てに至るすべての人よ、わたしは地から叫ぶ者の声のようにあなたがたに告げる。[1]「あの大いなる日が来るまで、さらば。」

14 神の慈しみにあずかろうとせず、[1]ユダヤ人の言葉も、わたしの言葉も、[2]神の小羊の口から出る御言葉も心に留めようとしない者たちよ、これらの言葉は終わりの日にあなたがたを罪に定めるので、[3]見よ、わたしはあなたがたに永遠の別れを告げる。

15 なぜなら、わたしが地上で結ぶことは、[1]裁きの法廷に持ち出され、あなたがたに対して不利に働くからである。主がわたしにこのように命じられたので、わたしは従わなければならない。アーメン。

---

10 ① GS「信じる」
② GS「モルモン書」
③ モロ10・27−29
④ 2ニフ25・28
11 ① エテ5・4、モロ7・35
② 黙示20・12、モロ10・34
12 ① GS「日の栄え」
13 ① イザ29・4、2ニフ26・16
14 ① GS「聖書」
② GS「モルモン書」
③ 2ニフ29・11、エテ4・8−10
15 ① モ言1・11

ヤコブ書

ニーファイの弟ヤコブの書

同胞に説き教えるヤコブの言葉。ヤコブ、キリストの教義を覆そうとする男を言い伏せる。ニーファイの民の歴史についての言葉。

第1章

ヤコブとヨセフ、キリストを信じてキリストの戒めを守るように人々に説き勧める。ニーファイの死。ニーファイ人の中に悪事が広がる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1さて見よ、リーハイがエルサレムを去ったときからもはや五十五年が過ぎ去った。そして、ニーファイはわたしヤコブに、これらの事柄が刻まれている小さい版について指示を与えた。

2彼はまたわたしヤコブに、いちばん貴いと思うわずかなことだけをこの版に書き記すこと、またニーファイの民と呼ばれるこの民の歴史については、少ししか触れてはならないことを命じた。

3ニーファイは、彼の民の歴史は彼のほかの版に刻まなければならないこと、そしてこの小さい版はわたしが保存して、代々わたしの子孫に伝えなければならないことを告げた。

4また神聖な説教や重要な啓示、あるいは預言があれば、それらの要点をこの版に刻むように、そしてキリストのため、またわたしたちの民のためにできるだけ多く書き記すようにと言った。

5わたしたちは信仰を持ち、また民のことを大いに心配していたので、将来彼らに何が起こるかが、すでに明らかにされていた。

6また、わたしたちは多くの啓示を受け、十分な預言の霊を授かっていたので、将来来られるキリストのことも、将来築かれるキリストの王国のことも知っていた。

7それゆえ、わたしたちは、民が神の安息に入るようにするために、民の中で熱心に働いて、キリストのもとに来て神の慈しみにあずかるように彼らに説

ヤコブ書
第1章
1 ①GS「ヤコブ（リーハイの息子）」
② 2ニフ5・28−33、ヤコ3・13−14、GS「版」
3 ①ヤコ7・27 主要で大切な事柄
4 ①1ニフ12章
5 ①1ニフ10・4−11、19・8−14
6 ①GS「安息」
7 ②2ニフ9・41、オム1・26、モロ10・32

き勧めた。もし民がそうしなければ、かつてイスラエルの子らが荒れ野にいた試練の日々に神の怒りを引き起こしたときのように、神が激しい怒りを示して、わたしたちの民も安息に入ってはならないと誓いをされる恐れがあったからである。

8 それで、わたしたちが神に願ったのは、すべての人が神に背くことや神を怒らせることをせず、キリストを信じ、キリストの死について考え、キリストの十字架を負い、世の辱めを忍耐するよう、わたしたちが彼らを説得できるようにということであった。それゆえ、わたしヤコブは、兄ニーファイから命じられたことを果たす責任を引き受けるのである。

9 ところで、ニーファイは老いが進み、自分の死が近いことを知った。それで彼は一人の男に油を注ぎ、彼を王たちの統治に従ってその民を治める王とし、統治者とした。

10 民はニーファイを非常に愛していた。ニーファイは彼らの偉大な守り手であり、彼らを守るためにラバンの剣を振るい、生涯民の幸いのために働いてきたからである。

11 そのために、民は彼の名を記憶にとどめておきたいと願った。それで民は、ニーファイに代わって治める者を、それがだれであろうと、王たちの統治に従って、ニーファイ二世、ニーファイ三世などと呼んだ。彼らの実際の名がどうであろうと、民はこのように呼んだのである。

12 そして、ニーファイは死んだ。

13 さて、レーマン人でない民はニーファイ人であったが、民はそれぞれニーファイ人、ヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人、レーマン人、レムエル人、イシマエル人と呼ばれた。

14 しかし、わたしヤコブは、今後このような名で民を区別しない。ニーファイの民を滅ぼそうとする者をレーマン人と呼び、ニーファイに好意を持っている者をニーファイ人、すなわち、王たちの統治に従ってニーファイの民と呼ぶ。

15 さて、二代目の王の治世になって、ニーファイの民は次第に心をかたくなにし始め、多少悪習にふけるようになった。その悪習とは、昔ダビデと息子ソロモンが、多くの妻とそばめを好んだようなことである。

---

7 ③ 民数26・65、1ニフ 17・23−31
⑤ 民数14・23、申命 ④ 1・35−37、教義84・23
ヘブ3・8
8 ① GS「背く」 ② 1ニフ17・30、アル 12・36−37、ヒラ7・18 ③ JSマタ16・25−26、ルカ14・27
9 ① 2ニフ1・14 ② GS「油注ぎ」 ③ 2ニフ6・2、ジェロ 1・7
10 ① 1ニフ4・9、2ニフ5・14、モ言1・13、モサ1・16、教義17・1
13 ① エノ1・13、教義3・18
14 ① 1ニフ4・35、4ニフ1・36−37 ② GS「ニーファイ人」 ③ モサ25・12、アル2・11
15 ① 2ニフ4・11 ② 2ニフ5・9 ③ 教義132・38−39

16そのうえ彼らは、多くの金と銀を探し求めるようになり、また多少高慢になり始めた。
17それで、わたしヤコブは、すでに主から務めを託されていたので、[2]神殿で教えを説いたときに次の言葉を彼らに告げた。
18わたしヤコブと弟ヨセフは、ニーファイの手によってこの民の祭司と教師に任じられていたからである。
19そしてわたしたちは、もし自分たちが力の限り神の言葉を民に教えなければ、民の罪を自分たちの頭に受けるという覚悟で責任を受けたので、主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした。そしてわたしたちは、民の血がわたしたちの衣にかかることのないように、力の限り働いた。そうしなければ、彼らの血がわたしたちの衣にかかって、わたしたちは終わりの日に染みのない者とは認められないであろう。

第2章

ヤコブ、富を愛することや高慢、不貞を非難する。同胞を助けるためであれば、富を求めることができる。

ヤコブ、主の認められない多妻結婚を行うことをとがめる。主は婦人たちの貞節を喜ばれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1ニーファイの死後、ニーファイの弟ヤコブがニーファイの民に語った言葉。
2「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは、まじめに自分の務めを尊んで大いなるものとするという責任を神から受けており、また、わたしの衣からあなたがたの罪を取り除きたいので、今日こうして神殿に来て、あなたがたに神の御言葉を告げる。
3あなたがたも知っているように、わたしは召された職務にこれまで努め励んできた。しかし今日のわたしは、あなたがたの幸いを願う気持ちと心配がこれまでよりも大きいので、心が沈んでいる。
4見よ、あなたがたは、今までわたしが宣べてきた主の御言葉に従ってきた。
5しかし見よ、わたしの言うことをよく聴きなさい。そして、わたしが天地の全能の創造主の助けによって、あなたがたの思いについて告げることができるということを知りなさい。それはどういうこと

17① GS「召し・神の召し」
② 2ニフ5・16、GS「神殿・主の宮」
18① 2ニフ5・26
19① 教義107・99−100、GS「管理人・管理人の職」
② GS「職」
③ 2ニフ9・44
第2章
5① アル12・3、教義6・16、GS「神・神会」

かといえば、あなたがたが、わたしにとって非常に忌まわしく、また神にとっても忌まわしく思われる罪を犯し始めていることである。

6 まことに、あなたがたの心が邪悪であることをあなたがたに証言しなければならないのは、わたしにとって悲しいことであり、またわたしはこのために、造り主の御前で恥じて縮み上がる思いである。

7 また、あなたがたの妻子の前で、あなたがたのことをひどくあからさまに話さなければならないのは、わたしにとって悲しいことである。あなたがたの妻子の多くは、神の御前にあって非常に感じやすく、[2]清く、繊細である。これは神にとって喜ばしいことである。

8 そしてあなたがたの妻子は、喜びをもたらす神[1]の御言葉、まことに傷ついた心を癒す御言葉を聞こうとして、ここに来たことと思う。

9 それゆえ、わたしの心は重い。というのは、神から受けた厳しい命令があるので、どうしてもあなたがたの罪悪についてあなたがたを戒めなければならず、そのようにすることで、すでに傷を負っている者たちを慰め、その傷を癒す代わりに、ますますその傷を深くすることになってしまうからである。また、傷を負っていない者たちに対しても、喜びをもたらす神の御言葉を味わわせる代わりに、短刀で彼らの心を刺し貫き、繊細な心を傷つけることになってしまうからである。

10 しかし、この務めが大変であっても、わたしは神の厳しい[1]命令に従ってこれを果たし、心の清い者と打ち砕かれた心を持つ者の前で、また全能の神が鋭い目で御覧になる所で、あなたがたの悪事と忌まわしい行いについて、あなたがたに告げなければならない。

11 したがって、わたしは神の御言葉の率直[1]さのまま、あなたがたに事実を告げなければならない。見よ、わたしが主に尋ねたところ、主の御言葉がわたしに下って、『ヤコブよ、明日神殿に行き、わたしがあなたに授ける言葉をこの民に告げ知らせなさい』と言われた。

12 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしがあなたがたに告げ知らせる言葉は次のとおりである。あなたがたと子孫のための[1]約束の地であるこの地に非常に豊富にある金や銀、そのほかあらゆる貴重なあらがね[2]

---

7 ① 教義121・43
8 ① GS「徳」
8 ② アル31・5
10 ① GS「戒め（神の）」
10 ② 2ニフ9・44
11 ① 2ニフ25・4、31・2—3
12 ① 1ニフ2・20、GS「約束の地」
12 ② 1ニフ18・25、ヒラ6・9—11、エテ10・23

を、あなたがたの多くは探し求めるようになってきた。

13 このようにしてあなたがたは、神の御心の御手があなたがたにほほえんで、たくさんの富を手に入れた。ところがある者たちは、ほかの者より豊かに富を得たことで心が高慢[1]になり、また自分の衣服が高価なことで強情になって高ぶり、さらに、自分はほかの者よりも優れていると思って同胞を苦しめている。

14 さて、わたしの同胞よ、あなたがたはこのようなことを行っていて、神から義とされると思うか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そうではない。かえって神はあなたがたを罪に定められる。このようなことを続けるならば、神の裁きが速やかに下るに違いない。

15 おお、神があなたがたを刺し貫き、一目であなたがたを地に打ち倒すこともおできになることを、あなたがたに示されるように。

16 おお、神があなたがたを、この罪悪と忌まわしい行いから解き放してくださるように。おお、あなたがたが神の命じられる御言葉を聴き、心の高慢によって霊に滅びを招かないように。

17 同胞を自分自身のように思いなさい。そして、すべての人と親しくし、あなたがたのように彼ら[1]も豊かになれるよう、所有物[2]を惜しみなく与えなさい。

18 しかし、富[1]を求める前に神[2]の王国を求めなさい。

19 キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし、富を求める目的は、裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善[1]を行うことである。

20 さて、わたしの同胞よ、わたしは高慢についてあなたがたに語った。神から与えられたものを心の中で誇って、隣人を苦しめ悩ませ、虐げてきた者よ、あなたがたは今そのことをどのように考えているか。

21 このようなことは、すべての人を造られた御方にとって忌まわしいことであるとは思わないか。神の目には、人は皆等しく貴い存在である。すべての人はちりから造られている。そして、神の戒[1]めを守り、とこしえに神をあがめるという同一の目的をもって、神により造られたのである。

---

13 ① モル8・35—39
16 ① GS「高慢」
17 ① 4ニフ1・3
18 ① GS「福祉」「施し」
② 列上3・11—13、マコ10・17—27、2ニフ26・31、教義6・7、GS「富」
19 ① ルカ12・22—31
② モサ4・26
21 ① 教義11・20、アブ3・25—26

22 わたしはこれで、高慢についてあなたがたに語ることを終わりにするが、もっとひどい罪悪について話さなくてよかったならば、あなたがたのことで心に非常に大きな喜びを感じたであろう。
23 しかし、あなたがたのもっとひどい罪悪のために、神の御言葉がわたしに重くのしかかっている。見よ、主はこう言われる。『この民の罪悪はますますひどくなっている。彼らは聖文を理解しておらず、ダビデとその息子ソロモンについて書き記されていることをもって、自分たちがみだらな行いをしていることの言い訳にしようとしている。
24 見よ、ダビデとソロモン[1]は事実、多くの妻[2]とそばめを持ったが、それは、わたしの目に忌まわしいことであった。』
25 そして、主は言われる。『それゆえわたしは、わたしの腕の力によってこの民をエルサレムの地から連れ出し、ヨセフの腰から出た者の中から一本の義[1]にかなった枝をわたしのために起こせるようにした。
26 それゆえ主なる神であるわたしは、この民が昔の者たちのような行いをするのを許さない。』
27 したがって、わたしの同胞よ、わたしの言うことを聞き、主の御言葉に耳を傾けなさい。万軍の主はこう言われる。『あなたがたの中のどの男も、妻は一人[1]しか持ってはならない。また、そばめは一人も持ってはならない。
28 主なる神であるわたしは、婦人たちの貞節[1]を喜ばしく思う。みだらな行いは、わたしの目に忌まわしいことである。
29 さて、この民は、わたしの戒めを守らなければならない。さもなければ、地は民のために[1]のろわれるであろう。』
30 万軍の主は言われる。『将来わたしのために子孫[1]を起こしたいと思う時が来れば、わたしは民に命じよう。その命令がない間は、民はこれらのことに聞き従わなければならない。
31 見よ、主なるわたしは、エルサレムの地に住むわたしの民の娘たちと、わたしの民が住む全地の娘たちが、夫の悪事と忌まわしい行いのために悲しむのを見、嘆くのを聞いた。
32 わたしがエルサレムから導き出したこの民の美しい娘たちの叫びが、わたしの民の男たちのことをわたしに訴えるのを、わたしはほうっておくことはで

24 ①列上11・1、ネヘ13・25−27　②列上11・1−3、エズ9・1−2、教義132・38−39
25 ①創世49・22−26、アモ5・15、2ニフ3・5、アル26・36、GS「リーハイ（ニーファイの父）」
27 ①教義42・22、49・16、GS「結婚」
28 ①GS「純潔」
29 ①エテ2・8−12
30 ①マラ2・15、教義132・61−66

きない。
33男たちは、わたしの民の娘たちを、彼女たちの優
しさに付け込んで奴隷のようにしてはならない。さ
もなければ、わたしは男たちにひどいのろいを下
し、彼らを滅ぼしてしまうであろう。男たちは昔の
者のようにみだらな行いをしてはならない。』万軍
の主はこのように言われる。
34さて見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは父リー
ハイにもこの戒めが与えられたことを知っている。
したがって、あなたがたは以前からこの戒めを知っ
ていた。にもかかわらず、あなたがたは、行っては
ならないこれらのことを行ったので、重い罪の宣告
を受けたのである。
35見よ、あなたがたは、同胞であるレーマン人より
もひどい罪悪を犯した。あなたがたは妻子の前に良
くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂け
させ、子供たちの信頼を失った。彼らの心のむせび
泣きが神のみもとに上って、あなたがたを訴えてい
る。また、あなたがたを責める神の御言葉が厳しい
ために、多くの者が心に深い傷を負って、死んだよ
うになっている。」

第3章

心の清い者は、喜びをもたらす神の言葉を受け入れる。レーマン人の義がニーファイ人の義をしのぐ。ヤコブ、不貞や好色、そのほかあらゆる罪を遠ざけるように戒める。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1「しかし見よ、わたしヤコブは、心の清いあなた
がたに述べたい。確固とした思いをもって神に頼り、
篤い信仰をもって祈りなさい。そうすれば、神は苦
難のときにあなたがたを慰めてくださる。また、あ
なたがたのことを弁護してくださり、あなたがたを
滅ぼそうとする者たちに罰を下される。
2おお、あなたがた、心の清いすべての人よ、頭を
上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神
の愛をよく味わいなさい。あなたがたの思いが確固
としていれば、とこしえにそうすることができるか
らである。
3しかし、心が清くなく、今日、神の御前に汚れて
いる者は災いである。災いである。悔い改めなけれ
ば、地はあなたがたのためにのろわれるからであ

33① GS「性的不道徳」「肉欲」
35① ヤコ3・5−7
第3章
2① アル57・26−27
3① GS「汚れ」

る。レーマン人はひどいのろいをもってのろわれて[2]
いるが、あなたがたのように汚れてはいない。その
レーマン人があなたがたをひどく苦しめ、滅ぼすで
あろう。
4 また、あなたがたが悔い改めなければ、レーマン
人があなたがたの受け継ぎの地を所有し、さらに主
なる神があなたがたの中から義人を連れ出される時[1]
が速やかに来る。
5 見よ、あなたがたは、自分たちの同胞であるレー
マン人を、彼らが汚く、またのろいをその肌に受け
ていることで嫌うけれども、彼らはあなたがたより
も義にかなっている。彼らは、わたしたちの父に与
えられた主の戒め、すなわち、妻は一人しか持って
はならない、そばめは一人も持ってはならない、民
の中にみだらな行いがあってはならない、という戒
めを今でも忘れていないからである。[1]
6 彼らは今も、この戒めを守るように努めている。
したがって、この戒めを守ろうとこのように努めて
いるので、主なる神は彼らを滅ぼすことなく、彼ら
に憐れみを示される。そして、彼らはいつの日か、[1]
祝福された民になるであろう。
7 見よ、レーマン人の夫は妻を愛し、妻は夫を愛し、
夫と妻は子供たちを愛している。彼らの不信仰とあ
なたがたに対する憎しみは、彼らの先祖の罪悪のた
めである。そうであるとすれば、大いなる創造主の
目から見て、あなたがたは彼らよりどれほど立派だ
と言えるだろうか。
8 おお、わたしの同胞よ、あなたがたが罪を悔い改
めなければ、彼らとともに神の御座の前に連れ出さ
れるとき、彼らの肌はあなたがたの肌よりも白いで
あろう。
9 さて、わたしは戒めをあなたがたに与える。これ
は神の御言葉である。あなたがたは彼らの肌が黒ず
んでいるからといって、彼らを二度とののしっては
ならない。汚いからといって彼らをののしってはな
らない。むしろ、あなたがた自身の汚れを思い起こ
し、彼らが汚いのは彼らの先祖のためであることを
覚えておきなさい。
10 そして、あなたがたは自分の子供たちのことを思
い起こし、自分が彼らの前に示した手本で、どれほ
ど彼らの心を悲しませてきたかを考えなさい。ま
た、あなたがたは自分の汚れのために子供たちを滅

3 ② 1ニフ12・23
4 ① オム1・5—7、12
5 ① —13 ヤコ2・35
6 ① 2ニフ4・3、6—7、ヒラ15・10—13
7 ① GS「愛」「家族」
10 ① GS「子供」

びに至らせる恐れがあり、そうなれば彼らの罪が、終わりの日にあなたがたの頭に積み上げられるということを覚えておきなさい。

11おお、わたしの同胞よ、わたしの言葉を聴きなさい。あなたの精神に宿る能力を奮い立たせなさい。身を震わせて死の眠りから目覚めなさい。悪魔の使いとなって第二の死であるあの火と硫黄の池に投げ込まれることのないように、地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい。」

12さて、わたしヤコブはこのほかにも多くのことをニーファイの民に語り、不貞や好色、そのほかあらゆる罪を遠ざけるように戒め、これらの罪がもたらす恐ろしい結果を告げた。

13今やおびただしい数になり始めたこの民の行いは、百分の一もこの版に書き記せない。しかし、大きい版には民の行いの多くが書き記されており、戦争と争い、王たちの統治のことも書き記されている。

14この版はヤコブの版と呼ばれているが、ニーファイの手で造られたものである。ここでこれらのことを述べるのを終わりにする。

第 4 章

預言者はすべて、キリストの名によって御父を拝した。アブラハムがイサクをささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であった。人は贖罪を通じて神と和解しなければならない。ユダヤ人は土台石を拒む。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1さて見よ、わたしは、言葉で民に多くのことを教えた。（しかし、わたしたちの言葉を版に刻むのは難しいので、わたしは自分の言葉を少ししか書き記すことができない。）わたしたちは、版に書き記すことは必ず残ることを知っている。

2しかしながら、版でないほかのものに書き記すことは、すべて朽ちて消え去ってしまうに違いない。しかし、わたしたちは子孫と愛する同胞に、わたしたちについて、すなわち彼らの先祖について少々知らせるために、版にわずかばかりの言葉を書き記すことができる。

3さて、このことをわたしたちは喜んでいる。わたしたちは、愛する同胞とわたしたちの子孫が感謝の心をもってこれらを受け、またこれらを見て、自分

11① アル5・6−9
② 2ニフ9・8−9
③ GS「死（霊の）」
④ GS「地獄」
12① GS「不貞」
② GS「邪悪」「欲望」
13① 1ニフ19・1−4、ヤコ1・1−4

たちの最初の先祖のことを悲しみや侮りではなく、喜びをもって知るようになることを望みながら、これらの言葉を版に刻むことに励んでいる。

4 わたしたちがこれらのことを書き記してきたのは、わたしたちがキリストのことを知っていたということと、キリストの来臨の何百年も前にキリストの栄光を待ち望んでいたこと、また、わたしたちばかりでなく、前の時代の聖なる預言者もすべてキリストの栄光を待ち望んでいたことを、彼らが知ることができるようにするためである。

5 見よ、預言者たちはキリストを信じ、キリストの名によって御父を拝した。また、わたしたちも、キリストの名によって御父を拝している。モーセの律法は、わたしたちの心をキリストへ向けるものであるから、わたしたちは今それを守っている。そして、そのためにわたしたちは聖められ、義とされているのである。それはまさに、息子イサクをささげるようにとの神の命令に従順であった、荒れ野のアブラハムが義とされたのと同様である。アブラハムがイサクをささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であった。

6 それゆえ、わたしたちは預言者の書を調べている。また、わたしたちには多くの啓示があり、また預言の霊がある。このように証するものが数々あるので、わたしたちは希望を抱いており、わたしたちの信仰は揺るぎないものになっている。実際にイエスの名によって命じれば、木々も山々も海の波も従うほどである。

7 にもかかわらず、主なる神はわたしたちの弱点を示される。それは、このようなことを行う力がわたしたちにあるのは、神の恵みと人の子らに対する神の大いなるへりくだりによるということを、わたしたちに分からせるためである。

8 見よ、主の業は大いなる驚くべきものである。主の奥義の深さは何と計り知れないことか。主の道を知り尽くすことは、とても人にできることではない。主の道は、啓示されないかぎりだれも知ることはできない。それゆえ同胞よ、神の啓示を侮ってはならない。

9 見よ、神の言葉の力によって人は大地の面に現れ、その大地も神の言葉の力によって創造された。したがって、神が御言葉を発して世界が存在するよ

第4章
4 ①GS「イエス・キリスト」　②ルカ24・25−27、ヤコ7・11、モサ13・33−35、教義20・26
5 ①モセ5・8　②2ニフ25・24、ジェロ1・11、モサ13・27、30、アル25・15−16、GS「モーセの律法」　③ガラ3・24　④創世22・1−14、ヨハ3・16−18、GS「独り子」
6 ①GS「預言」　②GS「証人・証」　③使徒3・6−16、3ニフ8・i
7 ①GS「力」　②エテ12・27
8 ①教義19・10、76・114、GS「神の奥義」　②ロマ11・33−36　③イザ55・8−9　④1コリ2・9−16、アル26・21−22、GS「知識」
9 ①モル9・17、モセ1・32　②GS「創造・創造する」「人」

うになり、また、御言葉を発して人が造られたとするならば、おお、どうして神は御自分の意のまま、思いのままに、3)大地やその面にある神の手により造られたものに、命令をお下しになれないことがあろうか。

10 それゆえ、同胞よ、主に1)助言しようとしないで、主の手から助言を受けるようにしなさい。見よ、あなたがたは、主が、造られたすべてのものに2)知恵と公正と深い憐れみをもって助言を与えられることを知っているからである。

11 それゆえ、愛する同胞よ、神の1)独り子キリストの2)贖罪を通じて神と和解しなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの内にある3)復活の力によって復活することができる。またあなたがたは信仰を持ち、キリストが肉にあって御自身を現される前に、キリストにある栄光を確固として待ち望んでいたので、キリストの4)初穂として神のためにささげられるのである。

12 さて、愛する人々よ、わたしがこれらのことをあなたがたに述べているのを驚いてはならない。キリストの贖罪について1)語るのに、また復活と来るべき世についての知識を得るのと同じように、キリストについて完全な知識を得るのに、何の差し支えがあろうか。

13 見よ、わたしの同胞よ、預言する者には、人々が理解できるように預言させなさい。御霊は1)真実を語り、偽りを言われることがない。したがって、御霊は2)現在のことをありのままに示し、未来のこともまた、ありのままに述べられる。それゆえ、これらのことはわたしたちの救いのために、わたしたちに3)分かりやすく示されているのである。しかし見よ、これらのことについての証人は、わたしたちだけではない。神は昔の預言者にもこれらのことを語っておられる。

14 しかし見よ、ユダヤ人は1)強情な民であって、彼らは分かりやすい言葉を2)侮り、預言者たちを殺し、自分たちの理解できないものを求めた。それゆえ、彼らは的のかなたに目を向けたために3)盲目となり、盲目のために堕落しなければならなかった。神が分かりやすいことを彼らから取り去り、彼らが4)理解できないことを多く伝えられたからであり、彼らがそれを望んだためである。彼らが望んだので、神はそのように行われ、彼らはつまずいた。

---

9 ③ ヒラ12・8—17
10 ① アル37・12、37、教義3・2
② ニフ9・28—29、アル4、13
11 ① GS「全知」「知恵」
② GS「贖罪」ヘブ5・9
③ GS「復活」モサ15・21—23、18・9
④ アル40・16—21
12 ① 2ニフ25・26
13 ① GS「真理」「聖霊」
② 教義93・24
③ アル13・23
14 ① マタ23・37—38、2ニフ25・2
② 1ニフ19・7、2ニフ33・2
③ イザ44・18、ロマ11・25
④ 2ニフ25・1—2

15そして今、わたしヤコブは、預言するように御霊に促されている。わたしは、わたしの内にある御霊の働きによって、ユダヤ人が、自分たちがつまずいたためにそのつまずいた石を拒むことを知っている。その石は、その上に建物を建てることのできる安全な土台であった。

16しかしながら見よ、聖文によると、その石は、ユダヤ人がその上に建物を建てることのできる、偉大な、最後の、しかも唯一の堅固な土台となるものである。

17さて、わたしの愛する人々よ、これらの者がその堅固な土台を拒んだ後に、どうしてそれを隅のかしら石として、その上に建物を建てることができるであろうか。

18見よ、わたしの愛する同胞よ、もしわたしが何かによって強い御霊を失ったり、あなたがたを心配するあまり口ごもったりするようなことがなければ、わたしはあなたがたにこの奥義を明らかにしよう。

第5章

ヤコブ、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木の比喩について述べたゼノスの言葉を引用する。それらのオリーブの木は、それぞれイスラエルと異邦人とをたとえたものである。イスラエルの散乱と集合があらかじめ示される。ニーファイ人とレーマン人、およびイスラエルの家に属するすべての者について示される。異邦人はイスラエルに接がれる。果樹園は最後に焼かれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは、預言者ゼノスがイスラエルの家に語った彼の言葉を読んだのを覚えていないか。その言葉は次のとおりである。

2「聴きなさい、おお、あなたがたイスラエルの家よ。主の預言者であるわたしの言葉を聞きなさい。

3見よ、主はこう言われる。『おお、イスラエルの家よ、わたしはあなたを、人が自分の果樹園に植えて養いを与えた、一本の栽培されたオリーブの木にたとえよう。その木は生長し、やがて老い、朽ち始めた。

4そして、果樹園の主人がやって来て、オリーブの木が朽ち始めたのを見て言った。「この木を刈り込み、

---

15 ①イザ8・13—15、1コリ1・23、2ニフ18・13—15
②GS「岩」「隅の石」
16 ①1ニフ10・11
③詩篇118・22—23
17 ①イザ28・16、ヒラ5・12
②マタ19・30、教義29・30
第5章
1 ①GS「ゼノス」
3 ①エゼ36・8、GS「イスラエル」
②教義101・44、GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
③ロマ11・17—24、GS「オリーブの木」
④GS「背教・背信」

木の周りを掘り、養いを与えよう。そうすれば、恐らく
この木は柔らかい若枝を出し、枯れないであろう。」
5さて、主人はその言葉のとおりにその木を刈り込
み、木の周りを掘って養いを与えた。
6そして、多くの日の後に、その木は柔らかい若枝
を少し出し始めた。ところが見よ、その木の中心の
先の方が枯れ始めた。
7そこで、果樹園の主人はそれを見て僕に言った。
「この木を失うのは悲しい。だから、[1]野生のオリー
ブの木から何本か枝を切り取って、わたしのところ
に持って来なさい。わたしたちは枯れ始めた大枝を
切り落とし、それらを火の中に投げ込んで燃やして
しまおう。」
8また見よ、果樹園の主人は言った。「わたしはこの
木の柔らかい若枝をたくさん取って、わたしが良い
と思う所で接ぎ木をしよう。この木の根が枯れて
も、わたしのためにこの木の実を保存できればよ
い。だから、これらの柔らかい若枝を取って、わた
しが良いと思う所で接ぎ木をしよう。
9あなたは野生のオリーブの木の枝を何本か取っ
て、枯れた枝の代わりにそれらの枝を接ぎなさい。
わたしは切り落としたこれらの枝を、果樹園の土地
をふさがないように、火の中に投げ込んで燃やして
しまおう。」
10そこで、僕は果樹園の主人の言葉のとおりに
し、[1]野生のオリーブの木の枝を接いだ。
11また、果樹園の主人は僕にその木の周りを掘ら
せ、木を刈り込ませ、養いを与えさせて言った。「こ
の木を失うのは悲しい。それで、根を枯らさずに残
しておくことができると思い、また、わたし自身の
ために残しておくことができると思ってこうしたの
である。
12さあ、仕事にかかり、わたしの言葉のとおりに木
を見守り、養いを与えなさい。
13わたしはこれらの若枝を、果樹園のいちばん低い
場所で、わたしが良いと思う所に[1]置こう。それがど
こか、あなたは知らなくてよい。こうするのは、わ
たし自身のためにこの木の自然の枝を残し、また実
のとれない時節に備えてわたし自身のために実を蓄
えられるようにするためである。この木と実の両方
を失うのは悲しいことだからである。」
14そして、果樹園の主人は仕事にかかり、栽培した

7① ロマ11・17、24
9① ロマ1・13
10① 「異邦人」
13① GS
1 ニフ10・12

オリーブの木の自然の枝を、果樹園のいちばん低い
場所で、自分の意のまま、思いのままに、ある枝は
あちらに、ある枝はこちらにと隠した。
15さて、久しく時がたって、果樹園の主人は僕に、
「さあ、一緒に果樹園に行って働こう」と言った。
16そして、果樹園の主人と僕は、働くために果樹園
に行った。そのとき、僕は主人に、「御覧ください。
ここです。この木を御覧ください」と言った。
17そこで、果樹園の主人がそちらを向いて、野生の
オリーブの枝を接いだ木を見ると、その木はすでに
枝を伸ばし、実を結び始めていた。見ると、それは
良く、その実は自然の実のようであった。
18主人は僕に言った。「見よ、野生の木の枝はこの木
の根から養分を吸い上げ、根は十分な力を与えてい
る。そして、根に十分な力があるので、野生の枝は、
栽培した木が結ぶような実を結んだ。これらの枝を
接がなかったならば、この木は枯れていたであろ
う。さあ、この木が結んだたくさんの実を蓄えよう。
実のとれない時節に備えて、わたし自身のためにこ
の木の実を蓄えることにしよう。」
19そして、果樹園の主人は僕に言った。「さあ、一緒
に果樹園のいちばん低い場所へ行き、その木の自然
の枝もたくさん実を結んでいるかどうか見よう。実
を結んでいれば、実のとれない時節に備えて、わた
し自身のためにその実を蓄えることができる。」
20そして二人は、前に主人がその木の自然の枝を隠
した所へ行った。そして、主人は僕に、「これらの枝
を見なさい」と言った。僕が最初の枝を見ると、そ
れはたくさんの実を結んでいた。僕には、それが良
いものであることが分かった。また、主人は僕に言
った。「この実をとり入れ、わたし自身のために保存
できるように、実のとれない時節に備えてこれを蓄
えなさい。見よ、わたしがこれまで長い間養いを与
えてきたので、これはたくさんの実を結んだ。」
21そこで僕は主人に言った。「この木を、いや、木の
この枝を植えるために、どうしてここにおいでにな
ったのですか。まことに、ここはあなたの果樹園の
すべての土地の中でいちばんやせた場所です。」
22果樹園の主人は僕に言った。「わたしに助言は要
らない。わたしはここがやせ地であることを知って
いた。わたしが前にあなたに言ったように、わたし
はこれまで長い間これに養いを与えてきた。それで

17① ヨハ15・16
20① ヤコ5・39

あなたの見るとおり、これはたくさんの実を結んだのである。」

23さて、果樹園の主人は僕に言った。「こちらを見なさい。わたしはもう一本、木の枝を植えておいた。あなたの知っているように、この土地は最初の土地よりもやせていた。しかし、この木を見なさい。わたしはこれまで長い間これに養いを与えてきたので、これはたくさんの実を結んだ。だから、実を集め、わたし自身のために保存できるように、実のとれない時節に備えてそれを蓄えなさい。」

24そして、果樹園の主人は再び僕に言った。「こちらも見なさい。わたしが前に植えたもう一本の枝を見なさい。これにも養いを与えてきたので、実を結んだ。」

25また、主人は僕に言った。「こちらを向いて、最後の枝を見なさい。見よ、わたしはこれを良い土地に植え、これまで長い間養いを与えてきたが、この木は一部分だけが、栽培した木が結ぶような実を結び、ほかの部分は野生の実を結んだ。見よ、わたしは、この木にもほかの木と同じように養いを与えてきた。」

26そして、果樹園の主人は僕に言った。「良い実を結ばなかった枝は切り落として、火の中に投げ込みなさい。」

27しかし見よ、僕は主人に言った。「木を刈り込み、木の周りを掘って、もうしばらく養いを与えましょう。そうすれば、恐らくこの木はあなたのために良い実を結び、実のとれない時節に備えて実を蓄えられることでしょう。」

28そして、果樹園の主人と僕は、果樹園のすべての実に養いを与えた。

29さて、久しく時がたって、果樹園の主人は僕に言った。「さあ、一緒に果樹園に行って、また果樹園で働こう。見よ、時が近づいており、終わりはすぐに来る。だから実のとれない時節に備えて、わたし自身のために実を蓄えなければならない。」

30そして、果樹園の主人と僕は果樹園へ行き、自然の枝を折り取って野生の枝を接いだ木の所へ行ってみた。すると見よ、いろいろな種類の実を木いっぱいに結んでいた。

31そこで、果樹園の主人は、その実を種類ごとにすべて味見して言った。「見よ、わたしたちは、これま

---

24 ① エゼ17・22−24、アル16・17、3ニフ15・21
25 ① 1ニフ2・20
② 3ニフ10・12−13
26 ① マタ7・15−20、アル24
② GS「終わりの時・末日」
29 ① 5・36、教義97・7
② 教義101・55、103・21
③ 2ニフ30・10、ヤコ6・2
30 ① GS「背教・背信」

で長い間この木に養いを与え、実のとれない時節に
備えてわたし自身のためにたくさんの実を蓄えてき
た。
32 ところが見よ、この度はたくさんの実を結んだけ
れども、一[1]つとして良い実はない。見よ、あるのは
すべて悪い種類の実であり、わたしたちのあらゆる
骨折りにもかかわらず、まったくわたしの利益にな
らない。しかし、この木を失うのは悲しい。」
33 そして、果樹園の主人は僕に、「もう一度わたし自
身のためにこの木の良い実を保存できるようにする
には、どうすればよいだろうか」と言った。
34 すると僕は、主人に言った。「まことにあなたが野
生のオリーブの木の枝を接がれたので、枝が根を養
い、根は今も枯れずに生きています。ですから御覧
のとおり、根はまだ大丈夫です。」
35 そこで、果樹園の主人は僕に言った。「この木が悪
い実を結ぶかぎり、これはわたしにとって何の利益
にもならないし、またこの根も何の役にも立たな
い。
36 それでもわたしは、この根が良いことを知ってお
り、わたし自身のためにこれを残してきた。この根
は十分な力があったので、これまで野生の枝に良い
実を結ばせてきた。
37 ところが見よ、野生の枝が生長して根を負かして
しまった。野生の枝が根を負かしてしまったため
に、この木は悪い実をたくさん結んだ。そして、こ
の木は悪い実をたくさん結んだために、あなたの見
るとおり枯れ始めている。だから、わたしたちがこ
れを残すために何かしなければ、これはすぐだめに
なってしまい、火の中に投げ込まれることになる。」
38 さて、果樹園の主人は僕に言った。「さあ、果樹園
のいちばん低い場所へ行き、元の自然の枝も悪い実
を結んでいないかどうか、見ることにしよう。」
39 そして、二人が果樹園のいちばん低い場所へ行っ
てみると、元の自然の枝の実も悪くなっていた。ま
ことに、[1]最初の枝も、第二の枝も、また最後の枝も、
実がすべて悪くなっていた。
40 また、最後の枝の[1]野生の実は、木の良い実を結ん
だ部分を負かしてしまい、枝は弱り果てて枯れてい
た。
41 そこで、果樹園の主人は涙を流し、僕に言った。
「わたしの果樹園のために、これ以上[1]何ができた

32 ① ジ1歴史1・19
37 ① 教義45・28−30
39 ① ヤコ5・20−23
40 ① モル6・6−18
41 ① 2ニフ26・24
25

であろうか。

42 見よ、果樹園の実が、これらのものを除いてすべて悪くなっていたことは分かっていた。ところが、かつて良い実を結んでいたこれらの枝も悪くなっている。わたしの果樹園の木はどれもこれも役に立たないので、切り倒して火の中に投げ込むしかない。

43 見よ、もう枝が枯れてしまったこの最後の木は、わたしが良い土地[1]に植えたものである。まことに、ここはわたしの果樹園の中で、ほかのあらゆる土地に勝ったえり抜きの土地であった。

44 しかも、あなたの見たとおり、わたしは、この土地をふさいでいたものを切り払って、その代わりにこの木を植えた。

45 また、あなたの見たとおり、この木の一部分は良い実を結び、また一部分は野生の実を結んだ。しかし、わたしが野生の実を結んだ枝を切り落として火の中に投げ込まなかったので、見よ、その枝は良い枝を負かして枯らしてしまった。

46 さて見よ、わたしたちが果樹園でできるだけの世話をしたにもかかわらず、果樹園の木はだめになってしまい、少しも良い実を結ばない。わたしはこれらの木を残しておいて、実のとれない時節に備えて、わたし自身のために実を蓄えようとしてきた。ところが、これらの木は野生のオリーブの木のようになってしまった。これらの木はもう何の価値もないので、切り倒[1]して火の中に投げ込んでしまうしかない。これらの木を失うのは、わたしには悲しいことである。

47 しかしわたしは、果樹園でこれ以上何ができたであろうか。わたしは怠けて養いを与えなかったであろうか。いや、わたしは養いを与えてきた。果樹園を掘り起こし、刈り込み、肥料もやった。ほとんど一日中、手を差し伸べ[1]てきた。しかし、終わり[2]が近づいている。果樹園の木をすべて切り倒し、火の中に投げ込んで燃やしてしまわなければならないのは、わたしには悲しいことである。わたしの果樹園をだめにしたのは何者であろうか。」

48 そこで、僕は主人に言った。「それは果樹園の木が高くそびえているからではありませんか。そのために、木の枝が良い根を負かしたのではありませんか。枝が根を負かしたために、枝が根の力以上に生長し、勢力を奪ったのです。まことに、果樹園の木

---

43 ① 2ニフ1・5
44 ① エテ13・20—21
46 ① 3ニフ27・11
47 ① 2ニフ28・32、ヤコ6・4
② GS「世—世の終わり」

がだめになった原因はこれであると、わたしは申し上げます。」

49 そこで、果樹園の主人は僕に言った。「行って果樹園の木を切り倒し、火の中に投げ込み、それらの木が果樹園の土地をふさがないようにしよう。わたしは手を尽くしてきた。果樹園のためにこれ以上何ができたであろうか。」

50 しかし見よ、僕は果樹園の主人に、「もうしばらく[1]お待ちください」と言った。

51 すると主人は言った。「よろしい。果樹園の木を失うのは悲しいので、もうしばらく待つことにしよう。

52 そして、わたしが果樹園のいちばん低い場所に植えておいたこれらの木の枝を取り、親木に接ぎ返そう。いちばん渋い実のなる枝を何本か親木から切り落とし、代わりに親木の元の自然の枝を接ぐことにしよう。

53 わたしがこうするのは、親木を枯らさないためである。こうすれば、わたし自身のためにその根を残せるかもしれない。

54 また見よ、わたしが良いと思う所に植えた親木の自然の枝の根は、まだ生きている。これらの根もわたし自身のために残せるように、この親木の枝を取って、これらの根に接ごう。まことに、これらの根にその親木の枝を接げば、わたし自身のためにそれらの根も残すことができ、根が十分に強くなると恐らくわたしのために良い実を結べるようになる。そうすれば、わたしは果樹園の実によって、まだ栄えを得ることができる。」

55 そして二人は、すでに野生のようになった自然の親木から枝を取り、これまたすでに野生のようになった自然の木にそれらを接いだ。

56 また二人は、すでに野生のようになった自然の木の枝を取り、それらを親木に接いだ。

57 果樹園の主人は僕に言った。「いちばん渋い実を結ぶ枝のほかは、野生の枝を木から切り落としてはならない。また、切り落とした木には、わたしが言ったように接ぎ木をしなさい。

58 わたしたちは、もう一度果樹園の木に養いを与えよう。そして、枝を刈り込もう。また、もう実を結ばず、枯れることが分かっている枝は、木から切り落として、火の中に投げ込んでしまおう。

---

50 ① ヤコ 5・27
52 ① GS「イスラエルの集合」
54 ① イスラエル 1ニフ 15・12−16

59 わたしがこうするのは、根がまだ良いので、枝を取り換えることで根がまた強くなり、良い枝が悪い枝を負かしてしまうのではないかと思うからである。

60 わたしは元の自然の枝と根を残し、また自然の枝をもう一度親木に接ぎ返して親木の根も残したので、わたしの果樹園の木は恐らくまた良い実を結ぶ[1]であろう。そして、わたしは果樹園の実によって再び喜びを得られるであろう。また恐らく、最初の実を結んだ根と枝を残したことを非常に喜びに感じるであろう。

61 だから、行って僕たち[1]を呼び集めなさい。わたしたちは果樹園で力を尽くして熱心に働き[2]、もう一度自然の実を結ばせる準備をしよう。自然の実は良い実であり、ほかのどんな実よりも価値のあるものである。

62 だから、行って、この最後の時に当たって、わたしたちの力を尽くして働こう。終わりは近づいている。これはわたしが果樹園で刈り込みをする最後の時である。

63 枝を接ぎなさい。[1]最後の枝が最初となり、最初の枝が最後となるように、最後の枝から始めなさい。そして、古い木も新しい木も、最初の木も最後の木も、その周りを掘って、最後の木から最初の木までのすべてが、最後にもう一度養いを与えられるようにしなさい。

64 終わりが近づいているので、最後にもう一度木の周りを掘り、刈り込み、肥料をやりなさい。そして、これらの最後の接ぎ穂が生長して自然の実を結ぶようであれば、生長できるように必要な準備をしなさい。

65 そして、接ぎ穂が生長し始めたら、良い枝の力とその大きさに応じて、渋い実を結ぶ枝を取り除きなさい。しかし、悪い枝を一度にすべて取り除いてはならない。そのようなことをすれば、接ぎ穂に対して根の方が強くなりすぎて、接ぎ穂が枯れてしまい、果樹園の木を失ってしまうことになる。[1]

66 果樹園の木を失うのは悲しいことである。だからあなたがたは、根とこずえの力の釣り合いを取りながら、良い枝が生長するに応じて悪い枝を取り除き、良い枝が悪い枝を負かすようにしなさい。それから、悪い枝を切り取って火の中に投げ込み、悪い

---

60 ① イザ27・6
61 ① ヤコ6・2、教義24・19
② 教義39・11、13、17
63 ① 1ニフ13・42、エテ10・12
13 教義86・6−7
65 ① 13

[1] 最後の枝が最初となり、最初の枝が最後となるように、最後の枝から始めなさい。そして、古い木も新しい木も、最初の木も最後の木も、その周りを掘って、最後の木から最初の木までのすべてが、最後にもう一度養いを与えられるようにしなさい。
[1] 僕たち
[2] 熱心に働き
[1] 取り除いては
[1] 最後の枝が最初となり、最初の枝が最後となるように、最後の枝から始めなさい。
[1] 良い枝の力とその大きさに応じて、渋い実を結ぶ枝を取り除きなさい。

ものが果樹園の土地をふさがないようにしなさい。このようにして、わたしは自分の果樹園から悪いものを一掃してしまおう。

67 わたしは、元の自然の木の枝を、もう一度自然の親木に接ぎ返そう。

68 また、自然の親木の枝を、親木の自然の枝に接ごう。こうしてわたしは、再びそれらのものを組み合わせて、それらの木が自然の実を結び、一つとなるようにしよう。

69 そして、悪いものをわたしの果樹園の全体から捨[1]て去る。そのために、見よ、わたしはもう一度だけ、わたしの果樹園の刈り込みをしよう。

70 そして、果樹園の主人は僕を遣わした。それで僕は行って、主人から命じられたとおりにし、ほかの僕たちを連れて来た。その数は少なかった。

71 それで果樹園の主人は僕たちに言った。「行って、果樹園で力を尽くして働きなさい。[1]これが、わたしが果樹園に養いを与える[2]最後の時である。終わりはすでに近く、時節はすぐに来る。しかし、あなたがたがわたしと一緒に力を尽くして働くならば、わたしがもうすぐやって来る時節に備えてわたし自身のために実を蓄える、その実によってあなたがたは喜[3]びを得るであろう。」

72 そこで、僕たちは行って、力を尽くして働いた。果樹園の主人も彼らと一緒に働いた。僕たちは何事もすべて果樹園の主人の命令に従った。

73 すると、自然の実がまた果樹園で結び始め、自然の枝も生長してよく生い茂り始めた。それで、野生の枝を切り落とし、捨て始めた。僕たちは、木の根とこずえの力に応じて、それらの釣り合いを保つようにした。

74 こうして、僕たちは果樹園の主人の命じたとおりに、力の限り働き、とうとう悪い枝を果樹園から捨ててしまった。そして、主人は自分自身のために木を保存し、これらの木は再び自然の実を結んだ。また、これらの木は[1]一つの体のようになり、実はすべて同じであった。こうして、果樹園の主人は、初めから自分にとって最も価値があると考えていた自然の実を、自分自身のために保存できたのである。

75 そして果樹園の主人は、その実が良く、また自分の果樹園がもはや悪い状態にないことを知ると、僕たちを呼び集めて、彼らに言った。「この最後の時

---

69 ① 1 ニフ 22・15−17、
70 ① 23、2 ニフ 30・9−10、教義 101・55、103・21
71 ① ② 1 ニフ 14・12、マタ 21・28、ヤコ 6・2−3、教義 33・3−4
② 教義 39・17、43・28−
30 教義 18・10−16
74 ① ③ 教義 38・27

に、わたしたちは果樹園に養いを与えてきた。あなたがたの見るとおり、わたしは自分の望むままに行い、自然の実を保存した。その実は最初の時と同じように良い実である。あなたがたは、わたしの果樹園でわたしと一緒に熱心に働き、わたしの命じたことを守り、わたしのために再び自然の実が得られるようにしてくれたからである。わたしの果樹園はもはや悪くない。悪い枝は捨ててしまった。だから、あなたがたはわたしの果樹園の実のことで、わたしと一緒に喜びを得るであろう。

76 さて見よ、わたしはしばらくの間、もうすぐやって来る実のとれない時節に備えて、わたし自身のために果樹園の実を蓄えよう。わたしはこれを最後として、果樹園に養いを与えてきた。刈り込み、周りを掘り、肥料をやってきた。わたしはすでに言ったように、しばらくの間自分自身のために実を蓄えることにしよう。

77 そして、将来再びわたしの果樹園に悪い実が生じる時が来れば、わたしはそのときに良い実と悪い実を集めさせ、良い実はわたし自身のために保存し、悪い実はそれ相応の場所に捨ててしまおう。その後、実を結べない時節、すなわち終わりが来る。そうすれば、わたしは自分の果樹園を火で焼かせよう。」『』

第6章

主は終わりの時にイスラエルを回復される。世界は火で焼かれる。人は火と硫黄の池を避けるには、キリストに従わなければならない。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしは前にあなたがたに預言をすると言ったが、わたしの預言は次のとおりである。すなわち、この預言者ゼノスがイスラエルの家を栽培されたオリーブの木にたとえて語ったことは、必ず起こるに違いない。

2 主なる神が主の民を元に戻す業に再び着手されるのは、主の僕たちが主の果樹園に養いを与え、刈り込みを行うために主の力をもって出て行く日、すなわち最後の時である。そして、その後すぐに終わりが来る。

---

75 ① 1 ニフ 13・37
② GS「イスラエル」
76 ① 1 ニフ 22・24−26、
② GS「福千年」
77 ① 29 22・24、43・29−33、黙示 20・2−10、教義 88・110−116
② GS「世−世の終わり」

第6章
1 ① ヤコ 5・1
② 1 ニフ 22・10−12、教義 110・11、GS「福音の回復」
② ヤコ 5・61
③ GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
④ ヤコ 5・71
⑤ 1 ニフ 14・14
⑥ 2 ニフ 30・10

3 主の果樹園で熱心に働いてきた人々は、何と幸いであろうか。また、自分の定められた場所に投げ込まれる者たちは、何と災いであろう。世界は火で焼[1]かれるであろう。

4 神はわたしたちに対して何と憐れみ深いことか。神はイスラエル[1]の家を根も枝もともに覚えて、終日彼らに手を差し伸べ[2]ておられる。ところが、彼らは強情[3]で反抗的な民である。しかし、心をかたくなにしない者たちは皆、神の王国に救われる。

5 だから、わたしの愛する同胞よ、あなたがたが悔い改めて、十分に固い決意をもって神のもとに来て、神があなたがたを心にかけてこられたと同じように、あなたがたも神に堅[1]くついて離れないように、わたしはまじめな言葉であなたがたに勧める。神の憐れみ[2]の腕が、昼の光の中であなたがたに伸べられている間、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。

6 まことに今日、神の声を聞こうとするならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。なぜあなたがたは死[1]のうとするのか。

7 見よ、あなたがたは、終日神の善い言葉によって養われてきた後に悪い実を結び、そのため切り倒[1]されて、火の中に投げ込まれなければならないようなことをするのだろうか。

8 見よ、あなたがたはこれらの言葉を拒むのだろうか。預言者たちの言葉を拒むのだろうか。非常に多くの人がキリストについて語った後に、あなたがたはキリストについて語られた言葉をすべて拒むのだろうか。またあなたがたは、キリストの善い言葉と、神の力と、[1]聖霊の賜物を否定し、聖なる御霊を退けて、あなたがたのために備えられた偉大な贖いの計画をあざけるのだろうか。

9 もしもあなたがたがこれらのことを行うならば、キリストの内にある贖いと復活の力が、あなたがたを恥とひどい[1]罪悪感をもって神の法[2]廷に立たせる。あなたがたはこのことを知らないのか。

10 [1]正義の要求は拒めないので、正義の力によって、あなたがたは、炎が消えることなく上り、煙がとこしえにいつまでも立ち上るあの火と硫黄[2]の池に、必ず投げ込まれることになる。その火と硫黄の池は、[3]無窮の苦痛[4]である。

11 おお、わたしの愛する同胞よ、悔い改めなさい。

---

3 ① 2ニフ27・2、ヤコ5・77、3ニフ25・1
4 ① サ下7・24　② ヤコ5・47　③ モサ13・29
5 ① GS「一致」　② アル5・33—34、3ニフ9・14
6 ① エゼ18・21—23
7 ① アル5・51—52、3ニフ27・11—12
8 ① GS「聖霊の賜物」
9 ① モサ15・26、GS「罪悪感」　② GS「最後の裁き」
10 ① GS「正義」　② 2ニフ28・23、GS「地獄」　③ 教義19・10—12　④ GS「罰の定め」

そして、狭い門から入り、永遠の命を得るまで細い
道を歩み続けなさい。
12 おお、賢くありなさい。わたしはこのうえ、何を
言えようか。
13 最後に、悪人を非常に恐れおののかせる神の楽し
い法廷であなたがたに会うまで、わたしはあなたが
たに別れを告げる。アーメン。

第 7 章

シーレム、キリストを否定し、ヤコブと議論してしるしを求め、神によって打たれる。預言者はすべてキリストとキリストの贖罪について語る。ニーファイ人は流浪の民として生涯を過ごし、艱難の中で生まれ、レーマン人に憎まれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 さて、それから何年かたって、シーレムという名の男がニーファイの民の中にやって来た。
2 そしてこの男は、民の中で教えを説き、キリストなどというものは存在するはずがないと、民に宣べ始めた。また彼は、民にへつらう事柄をたくさん説いた。これは彼が、キリストの教義を覆そうとして行ったことである。
3 彼は、民の心を惑わそうと熱心に努めたので、多くの人を迷わすのに成功した。また彼は、わたしヤコブが将来来られるキリストを信じているのを知っていたので、わたしのもとに来る機会をしきりに求めていた。
4 彼は博学で、民の言葉に完全に通じていたので、悪魔の力によって多くの甘言と十分な弁舌の力を用いることができた。
5 わたしが多くの啓示を受け、またこれらの事柄についてたくさんのことを先見していたにもかかわらず、彼はわたしの信仰を動揺させることができると思っていた。しかしわたしは、実際に天使に会って教えを受け、また主の声がまことにわたしに言葉をかけてくださるのを時折聞いていたので、動揺することはなかった。
6 さて、彼はわたしのところに来ると、このように言った。「ヤコブ兄弟、わたしはあなたと話ができるように、度々機会を求めてきました。あなたが方々を巡って、あなたが福音と呼んでいるもの、す

11 ① 2ニフ9・41
12 ① モル9・28
13 ① アル40・14
第7章
5 ① 2ニフ11・3、ヤコ2・11

なわちキリストの教義を宣べ伝えていることをわたしは耳にし、知っているからです。

7 あなたがこの民の多くの者を惑わしたので、彼らは神の正しい道を曲げ、正しい道であるモーセの律法を守っていません。[1]また、モーセの律法を変えて、あなたがたの言う、何百年か後に来る一人の人を礼拝しています。さてまことに、わたしシーレムはあなたに言明します。これは神への冒瀆です。だれにもそのようなことは分からないからです。だれも将来のことを告げることはできません。[2]」このようにして、シーレムはわたしに論争を仕掛けた。

8 しかし見よ、主なる神がわたしに神の御霊を注いでくださったので、わたしは彼のすべての言葉について彼を説き破った。[1]

9 わたしは彼に言った。「あなたは将来来られるキリストを否定するのですか。」すると彼は言った。「キリストが必ず存在するのであれば、わたしは否定しません。しかし、キリストなどというものが、現在にも、過去にも、未来にも存在しないことを、わたしは知っています。」

10 次にわたしが、「あなたは聖文を信じていますか」と言うと、彼は、「はい」と言った。

11 それでわたしは彼に言った。「それならば、あなたは聖文を理解していません。聖文はまことにキリストについて証しているからです。見よ、わたしはあなたに言いますが、このキリストについて述べることなしに書き記したり預言したりした預言者は一人もいません。

12 それだけではない。キリストのことは、わたしにも示されました。わたしは目で見、耳で聞いたからです。また、[1]聖霊の力によってもわたしに明らかにされました。ですから、贖罪が行われなければ、全人類が必ず失われた状態になることを、わたしは知っています。[2]」

13 そこで、彼はわたしに、「それでは、そのように多くのことをあなたに教える聖霊のその力によって、わたしにしるしを見せてください」と言った。[1]

14 それで、わたしは彼に言った。「わたしは何者なので、あなたがすでに真実であると知っていることについて、しるしをあなたに見せるために神を試みることができましょうか。あなたはしるしを見ても否定するでしょう。あなたは悪魔に従う者だからで

---

7 ① ヤコ 4・5
② アル 30・13
8 ① GS「霊感」
11 ① 黙示 19・10、1ニフ 10・5、ヤコ 4・4、モサ 13・33−35、教義 20・26、
12 ① GS「イエス・キリスト」GS「神・神会−聖霊なる神」「聖霊」
2 ニフ 2・21
13 ① マタ 16・1−4、アル 30・43−60、GS「しるし」
② アル 30・41−42
14 ① アル 30・53

す。しかしながら、わたしの思いが行われるのではなく、神があなたを打たれるならば、それがすなわち、神が天と地の両方で力を持っておられることと、キリストが将来来られることをあなたに示すしるしとなるでしょう。おお、主よ、わたしの思いではなく、あなたの御心が行われますように。」

15 さて、わたしヤコブがこれらの言葉を語り終えると、主の力が彼に下り、彼は地に倒れた。その後、彼は何日もの間、介抱を受ける身となった。

16 そこで、彼は民に言った。「明日集まってほしい。わたしはもう死ぬ。だから死ぬ前に民に話しておきたい。」

17 さて、翌日、大勢の人が集まった。すると、シーレムは彼らにはっきり語って、自分がこれまで彼らに教えてきたことを取り消し、キリストと、聖霊の力の実在と、天使の働きを告白した。

18 また彼は、彼らにはっきりと、自分が悪魔の力によって欺かれていたことを語り、地獄と永遠と永遠の罰についても語った。

19 また、彼は言った。「わたしは赦されない罪を犯したのではないかと恐れています。神に偽りを言ったからです。また、聖文を信じていると言いながら、キリストを否定したからです。聖文は確かにキリストのことを証しています。わたしはこのように神に偽りを言ったので、わたしの境涯が恐ろしいものになるのではないかと非常に恐れています。しかし、わたしは神に告白します。」

20 そして、彼はこれらの言葉を語り終えると、何も言えなくなって息絶えた。

21 群衆は、シーレムがまさに息を引き取ろうとするときにこれらのことを語ったのを見て、非常に驚いた。そのために、神の力が彼らに及び、彼らは圧倒されて地に倒れた。

22 ところで、これはわたしヤコブにとってうれしいことであった。わたしはこのことを前もって天におられる御父にお願いし、御父はわたしの嘆願に耳を傾けて、祈りにこたえてくださったからである。

23 そして、平和と神の愛が再び民の中に回復された。民は聖文を詳しく調べ、二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかった。

24 さて、レーマン人を再び正して真理の知識のもとに連れ戻すために、多くの手段が講じられたが、い

---

18 ① ② GS「悪魔」アル30・53、GS「欺
19 ① 「き」GS「赦されない罪」
20 ① ② モサ15・26
21 ① エレ28・15−17
23 ① アル19・6
24 ① アル17・2 エノ1・20

ずれも無駄[2]に終わった。彼らは戦争[3]と流血[4]を喜びとし、また、彼らの同胞であるわたしたちに対して、永遠の憎しみ[5]を抱いていたからである。そして彼らは、武力で絶えずわたしたちを滅ぼそうとした。

25 それゆえ、ニーファイの民は自分たちの救いの岩[1]である神に頼りながら、武器とあらんかぎりの力をもって、レーマン人に対する防備を固めた。そのため、この当時までは敵に勝利を収めていた。

26 さて、わたしヤコブは、もう老いが進んだ。この民の記録はニーファイのほかの版[1]に書き継がれるので、わたしは自分の知っているかぎりの事柄を書き記してきたことを宣言し、この記録を終えることにする。わたしたちの時はもう過ぎ去った。一生[2]はあたかも夢のように過ぎてしまった。わたしたちは孤独でまじめな民であり、流浪の民であって、エルサレムから追い出され、艱難のただ中に荒れ野で生まれ、わたしたちの同胞に憎まれてきた。そして、その憎しみが戦争と争いを引き起こし、わたしたちは生涯を嘆き悲しんで送ってきたのである。

27 わたしヤコブは、間もなく墓に入らなければならないことを知った。それで息子のエノス[1]に、「この版を受け継ぎなさい」と言い、また兄ニーファイから命じられたこと[2]を告げたところ、息子はその命令に従うことを約束してくれた。これまで書き記してきたことはわずかであるが、わたしはこの版に書き記すのをこれで終える。そして、わたしの同胞の多くがわたしの言葉を読めるように期待しながら、わたしは読む者に別れを告げる。同胞よ、さらば。

---

24 ② エノ1・14
③ モサ10・11−18
④ ジェロ1・6、アル26・23−25
⑤ ニフ5・1−3、2

25 ① モサ28・2

26 ① GS「岩」
1 ニフ19・1−6、ジェロ1・14−15、GS「版」

27 ① 新ヤコ4・14
② エノ1・1
ヤコ1・1−4

エノス書

エノス、熱烈に祈り、罪の赦しを得る。主の声がエノスの思いに告げて、将来レーマン人に救いが与えられることを約束する。ニーファイ人、レーマン人を再び正そうと努める。エノス、自分の贖い主のことを喜ぶ。紀元前約四百二十年。

1 さて見よ、わたしエノス[1]は、父が正しい人[2]であったことを知っている。父はわたしを父の言葉で、また主の薫陶[3]と訓戒[4]によって教えてくれたからである。神の御名がほめたたえられるように。

2 わたしは、罪[1]の赦しを受けるに先立って神の前で味わった苦闘[2]について、あなたがたに述べよう。

3 見よ、わたしは森で獣を狩ろうとして出かけた。かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの喜び[1]について語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉[2]が、そのときになってわたしの心に深くしみ込んできた。

4 すると、わたしの霊は飢え[1]を感じた。それで、わたしは造り主の前にひざまずき[2]、自分自身のために熱烈な祈り[3]と懇願をもって造り主に叫び求めた。わたしは一日中造り主に叫び求めた。また夜になっても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。

5 すると、わたしに声[1]が聞こえた。「エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。」

6 わたしエノスは、神は偽りを言われるはずがないので、わたしの罪がすでにぬぐい去られたのを知った。

7 それでわたしは、「主よ、それはどうしてですか」と尋ねた。

8 そこで、主はわたしに言われた。「あなたが、これまでに声を聞いたことも見たこともないキリスト[1]を信じているからである。多くの歳月が過ぎた後、キリストは肉にあって自分自身を現すであろう。それゆえ、行きなさい。あなたの信仰があなたを罪[2]のない者としたのである。」

9 さて、この御言葉を聞いたとき、同胞であるニー

エノス書

1 ① GS「エノス（ヤコブの息子）」
② 2ニフ2・2−4
③ エベ6・4
④ 1ニフ1・1−2
2 ① GS「罪の赦し」
② 創世32・24−32、アル8・10、GS「悔い改め」
3 ① GS「喜び」
② 1ニフ10・17−19、アル36・17−21
4 ① 2ニフ9・51、3ニフ12・6
② GS「敬虔」
③ GS「祈り」
5 ① GS「啓示」
8 ① エテ3・12−13、GS「信仰」
② マタ9・22

ファイ人の幸いを願う気持ちがわいてきた。それでわたしは、彼らのためにわたしの心のすべてを神に注ぎ出した。

10 わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、再び主の声がわたしの思いに告げて、次のように言われた。「わたしはあなたの同胞を、わたしの戒めを守る勤勉さに応じて訪れよう。わたしは彼らにこの地を与えた。この地は聖なる地である。罪悪のゆえでなければ、わたしはこれをのろわない。それゆえ、わたしはすでに述べたように、あなたの同胞を訪れよう。また、彼らの背きに対しては、彼ら自身の頭に悲しみを下そう。」

11 わたしエノスは、この御言葉を聞くと、主を信じる信仰が揺るぎないものになってきた。そして、わたしの同胞、すなわちレーマン人のために、何度も長い時間熱烈に主に祈った。

12 そして、わたしが祈り、力の限り努力した後に、主はわたしに、「あなたの信仰のゆえに、わたしはあなたの願いを望みどおりに聞き届けよう」と言われた。

13 さて見よ、わたしが主に望んだこととは、わたしの民のニーファイ人が戒めに背くようになって、何らかの方法で滅ぼされてしまっても、レーマン人が滅ぼされなければ、主なる神が聖なる腕の力によってでもわたしの民ニーファイ人の記録を残し、それが将来いつかレーマン人に伝えられて、彼らが救いにあずかれるようにしていただくことであった。

14 現在のところ、レーマン人を真実の信仰に連れ戻そうとするわたしたちの努力は、むなしいものとなっている。彼らは激しい怒りをもって、何とかしてわたしたちの記録とわたしたち自身を、それにわたしたちの先祖のすべての言い伝えを絶やしてしまおうと誓っているのである。

15 しかしわたしは、主なる神がわたしたちの記録を残す力を持っておられることを知っていたので、また主なる神がかつてわたしに、「あなたがたは必ず与えられると信じて信仰をもってキリストの名によって求めれば、何でも与えられる」と言われたので、わたしは続けて神に叫び求めた。

16 わたしは信仰を持っていたので、わたしたちの記録を残すように神に叫び求めた。すると神は、御自身がふさわしいと思うときにそれらの記録をレーマ

---

9 ① 1ニフ8・12、アルマ36・24
10 ① GS「思い・心」「霊感」
1・8、アルマ34・26−27
② ② 2ニフ33・3、モーサヤ1・6、11、アルマ7・24
11 ① モルモン6・6
12 ① ② モルモン5・21、9・36
③ ② 1ニフ2・20
エテル2・7−12
13 ① モルモン6・1、6
② 7・12、ヒラマン10・5、詩篇37・4、1ニフ
14 ① モルモン6・6
② 37・2
③ アルマ37・19、エテル12・22、教義3・18
④ アルマ9・17
15 ① GS「聖文−保存されるべき聖文」
② GS「モルモン書」
16 ① 3ニフ5・13−15、教義3・19−20、10・46−50

ン人に伝えると聖約された。[3]

17わたしエノスは、神が立てられた聖約のとおりになることを知っていたので、心が安らかになった。

18また、主はわたしに言われた。「あなたの先祖たちも、わたしにこのことを求めた。このことは彼らの信仰に応じて行われるであろう。彼らの信仰も、あなたの信仰と同様であった。」

19そこでわたしエノスは、ニーファイの民の中を巡って、将来起こることを預言し、また自分の見聞きしたことについて証した。

20わたしは、ニーファイの民がレーマン人を、神を信じる真実の信仰に連れ戻そうと熱心に努めたことを証する。しかし、わたしたちの働きは[1]無益であった。レーマン人の憎悪は凝り固まっていた。そして彼らは、邪悪な性質に任せて野蛮で残忍で血に飢えた民となり、偶像礼拝[3]と汚れに満ちた民となり、猛獣を食料として天幕に住み、短い皮帯を腰に締めて、頭をそった姿で荒れ野をさまよっていた。彼らは弓[4]や三日月刀や斧を使うことを得意としていた。また、彼らの多くは生肉のほかは何も食べなかった。そして、彼らは絶えずわたしたちを滅ぼそうとしていた。

21さて、ニーファイの民は地を耕し、あらゆる穀物や果実を[1]作り、大きな家畜の群れやあらゆる家畜の群れ、また、やぎや野やぎ、多くの馬を飼っていた。

22また、わたしたちの中には非常に多くの預言者が[1]いた。しかし民は、物分かりの悪い、[2]強情な民であった。

23それで、非常に厳しく[1]、戦争と争いと滅亡について[2]説き、預言し、また死や永遠の来世、神の裁きと力など、これらすべてのことを絶えず[3]思い起こさせ、主を畏れる気持ちを抱くように、絶えず[1]彼らを奮い立たせるほかに、方法はなかった。これらのことと、きわめて率直に語ることのほかに、彼らが速やかに滅亡に落ちて行くのをとどめる方法はなかったと、わたしは言う。わたしが彼らについて書き記すのは、以上のとおりである。

24わたしは一生の間、ニーファイ人とレーマン人との戦争を見てきた。

25さて、わたしはもう年を取った。わたしたちの先祖リーハイがエルサレムを去ったときから、すでに百七十九年が過ぎ去った。

16③ 2ニフ27・6
20①ジェロ1・6
②モサ9・12、GS「偶像礼拝」
③モサ10・8
④モサ9・9
21①モ言1・16−18
22①ジェロ1・3
23①1ニフ16・2、2ニフ33・5
②GS「宣べ伝える」
③ヒラ12・3
④ジェロ1・12、アルマ31・5
25①1ニフ2・2−4

26 わたしは、自分もやがて墓に入らなければならないことを知った。わたしはこの民に教えを説き、預言しなければならないこと、またキリストにある真理に従って御言葉を告げ知らせなければならないことを、神の力によって感じてきた。それでわたしは、生涯それを宣べ伝え、俗世のことよりもそれを喜びとしてきた。

27 わたしは間もなく安息[1]の場所へ行く。それは、贖い主のもとでの安息である。わたしは、贖い主によって安息を得ることを知っているからである。わたしは自分の死すべき体が[2]不死[3]のものを着て、贖い主の前に立つ日のあることに喜びを感じる。そのとき、わたしは喜んで贖い主の顔を拝するであろう。そして、贖い主はわたしに、「祝福された者よ、わたしのもとに来なさい。わたしの父の住まい[4]には、あなたのために用意された場所がある」と言われるであろう。アーメン。

---

27 ① GS「安息」
② GS「死すべき状態」
③ GS「不死不滅」
④ ヨハ14・2−3、エテ12・32−34、教義98・18・72・4、

ジェロム書

ニーファイ人はモーセの律法を守り、キリストの来臨を待ち望み、その地で栄える。ニーファイ人を真理の道にとどめるために、多くの預言者が働く。紀元前約三百九十九年から三百六十一年に至る。

1 さて見よ、わたしジェロムは、わたしたちの系図[1]を書き継ぐようにという父エノスの命令に従って、少しの言葉を書き記す。

2 この版は小[2]さく、またこれらの事柄は、わたしたちの同胞であるレーマン人[3]に益を与えるという意図をもって書き記[1]されているので、わたしも少し書き記す必要がある。しかし、わたしの預言したことや、わたしが受けた啓示については書き記さない。わたしの先祖たちが書き記してきたこと以上に、わたしに書き記せることが何かあるであろうか。彼らは救いの計画を明らかにしていないであろうか。明らかにしているとわたしはあなたがたに言う。わたしにはそれで十分である。

3 この民の中で行う必要のあることは実にたくさんある。それは、彼らが心をかたくなにし、耳を傾けようとせず、思いをくらまし、強情[1]になっているからである。にもかかわらず、神は彼らに非常に深い憐れみを示し、これまでのところ、彼らを地の面から一掃[2]してはおられない。

4 また、民が皆強情なわけではなく、わたしたちの中には啓示[1]を多く受けている者が大勢いる。そして、強情にならずに信仰を抱いている者は皆、その信仰に応じて人の子らに物事を明らかにされる聖なる御霊[2]と交わりを持っている。

5 ところで、すでに二百年が過ぎ去り、ニーファイの民はこの地で強くなった。彼らはモーセの律法を守[1]り、また安息日[2]を主のために聖なる日として守った。彼らはまた、不敬[3]な言葉を口にせず、神聖を汚[4]さなかった。そして、国の法律は非常に厳しかった。

6 彼らは地の面に広く散らされた。また、レーマン人も同様であった。しかし、ニーファイ人に属する者よりも、レーマン人の方がはるかにおびただしい

ジェロム書
1 ①14 1ニフ3・12、5・2 ①1 ヤコ3・14、オム1・
5 ②1 1ニフ6・1−6 ③2 2ニフ27・6、モル
12 ④価値 GS「聖文−聖文の
23 ①1 エノ1・22−23 ②2 エテ2・8−10 ④1 アル26・22、ヒラ11・
「啓示」 教義107・18−19、GS
34 ①1 2ニフ25・24、アル ②2 GS「聖霊」 ③3 GS「冒瀆・汚す罪」 ④4 GS「不敬」
13−14 出エ35・2、GS「安息日」

数で、彼らは殺人[1]を好み、獣の血をよく飲んでいた。
7 そして彼らは、度々わたしたちニーファイ人に攻めかかって来た。しかし、わたしたちの王[1]や指導者は、主を信じる信仰の篤い人々であり、また民に主の道を教えていたので、わたしたちはレーマン人に立ち向かい、彼らをわたしたち[2]の地から一掃した。そしてわたしたちは、自分たちの町や、そのほかのあらゆる受け継ぎの場所の防備を固める仕事に取りかかった。
8 わたしたちは非常に増えて、地の面に広がり、金や銀や貴重な品々、見事な造りの木工品や建物や機械、それに鉄や銅、真鍮、鋼などを豊かに持つようになった。そして、地を耕すためにあらゆる道具を造り、また戦争の武器[1]、まことに、鋭いやじりの矢と矢筒、投げ矢と投げ槍を造り、さらに戦争のためにすべての準備を整えた。
9 わたしたちがこのようにしてレーマン人と戦う準備を整えていたので、彼らはわたしたちに対して栄えることはなかった。そして、主がわたしたちの先祖に言われた、「あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える」という主の言葉が実証されたのである。
10 そして主の預言者たちは、もし民が戒めを守らず、背くようになるならば、彼らは地の面から滅ぼし去られるという神の言葉に従って、ニーファイの民に強い警告の言葉を発した。
11 そして、預言者や祭司や教師たちは熱心に働き、民にも熱心であるよう、あくまでも寛容な心で勧めた。またモーセ[1]の律法とそれが与えられた目的を彼らに教え、さらにメシヤを待ち望み[2]、あたかもメシヤがすでに来ておられるかのように、将来来られるメシヤ[3]を信じるよう民に勧めた。彼らはこのようにして民を教えた。
12 そして、そうすることによって、彼らは民が地の面で滅ぼされるのを防いだ。彼らが言葉で民の心を刺激し[2]、絶えず民に悔い改めを促したからである。
13 そして、二百三十八年が過ぎ去り、その間、多くの歳月が戦争と争いと不和の有様で暮れた。
14 わたしジェロムは、版が小さいのでこれ以上書き記さない。しかし見よ、わたしの同胞よ、ニーファイのほかの版[1]を見るがよい。わたしたちの戦争の記

---

6 ①ヤコ7・24、エノ1・20
7 ①ヤコ1・9、11、15　②モ言1・14
8 ①モサ10・8
10 ①ニフ12・19−20、オム1・5
11 ①ヤコ4・5、アル25・15−16
12 ②ニフ11・4、エテ12・18−19　③モサ3・13、16・6、ニフ25・24−27、エテ2・10、アル31・5
14 ①ニフ9・2−4　②1ニフ

録は、王たちの書き記したとおりに、または彼らが書き記させたとおりに、その版に刻まれているからである。

15 わたしは先祖たちの命令[1]どおりにこの版が書き継がれるように、息子オムナイの手にこの版を渡す。

15① ヤコ1・1–4

オムナイ書

オムナイ、アメーロン、ケミシ、アビナドム、アマレカイが順次記録を書き継ぐ。モーサヤ、ゼデキヤの時代にエルサレムから来たゼラヘムラの民を発見する。モーサヤ、彼らを治める王とされる。ミュレクの子孫は、かつてゼラヘムラで、ヤレド人の最後の生存者であったコリアンタマーを発見していた。ベニヤミン王、モーサヤの跡を継ぐ。人は自分自身をキリストへのささげ物としてささげなければならない。紀元前約三百二十三年から百三十年に至る。

1 見よ、わたしオムナイは、わたしたちの系図を残すためにこの版に多少のことを書き記すように、父ジェロムに命じられた。

2 それゆえ、わたしはあなたがたに知らせたいことがある。わたしは、自分の民ニーファイ人が敵であるレーマン人の手に落ちないように、彼らを守るために生涯剣を取ってよく戦った。しかし見よ、わたし自身は悪い人間であり、当然守っていなければならないほど主の掟と戒めを守ってこなかった。

3 そして、すでに二百七十六年が過ぎ去った。その間、平和な時代も多くあり、また激しい戦争と流血の時代も多かった。そして要するに、すでに二百八十二年が過ぎ去った。わたしは先祖の命令に従って、この版を保存してきた。そしてわたしは、息子アメーロンにこれを託した。わたしはこれで記録を終える。

4 わたしアメーロンは、今わたしが書き記すことを少しではあるが、父の書に書き記す。

5 さて見よ、すでに三百二十年が過ぎ去り、ニーファイ人の中のひときわ悪い者たちは滅ぼされてしまった。

6 なぜならば、主はニーファイ人をエルサレムの地から連れ出し、敵の手に落ちないように守ってこられたので、かつて先祖に言われた、「あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える」という御言葉が実証されないのを許されないからである。

7 それゆえ、主は彼らに厳しい裁きを下された。しかしながら、主は義人が滅びることのないように彼

オムナイ書
3 ① ヤコ1・1−4、ジェロ1・15
5 ① ジェロ1・9−10

らの命を助け、彼らを敵の手から救われた。
8 そしてわたしは、この版を兄弟のケミシに渡した。
9 わたしケミシは、今書き記しているわずかなことだけを、兄弟と同じ書に書き記す。見よ、わたしは兄弟が書き記した最後の記事を見たが、それは彼が自分自身で書き記したものである。彼は、わたしに版を渡してくれたその日にそれを書き記した。このように、わたしたちは記録を書き継いでいる。それは、わたしたちの先祖の命令によるのである。わたしはこれで記録を終える。
10 見よ、わたしアビナドムはケミシの子である。わたしは、わたしの民であるニーファイ人とレーマン人の間に多くの戦争や争いを見た。またわたしは、同胞を守るために、自分自身の剣で多くのレーマン人の命を奪ってきた。
11 見よ、この民の記録は、歴代の王が所有する版に刻まれている。わたしは、すでに書き記されている啓示や預言のほかには何一つ知らない。したがって、十分なことが書き記されている。わたしはこれで記録を終える。
12 見よ、わたしはアビナドムの子、アマレカイである。見よ、わたしはゼラヘムラの地を治める王とされたモーサヤについて、少しあなたがたに述べよう。見よ、モーサヤはニーファイの地から逃げ出すように、また、主の声に聞き従う者も皆、モーサヤとともにその地から荒れ野へ出て行くように、主から警告を受けた。
13 そこでモーサヤは、主に命じられたとおりにした。また、主の声に聞き従う者も皆、その地から荒れ野へ出て行った。そして、幾度にもわたる説教と預言によって導かれ、また神の言葉により絶えず訓戒を受けた。また彼らは、神の腕の力によって導かれ、荒れ野を通り過ぎてゼラヘムラの地と呼ばれる地に着いた。
14 そして彼らは、ゼラヘムラの民と呼ばれた民を発見した。そのために、ゼラヘムラの民の中に大きな喜びが起こり、またゼラヘムラ自身も、主がモーサヤの民を遣わされたので、ことのほか喜んだ。モーサヤの民はユダヤ人の記録が載っている真鍮の版を持っていたからである。
15 さて見よ、モーサヤが知ったところによれば、ゼ

12 ① 2ニフ5・6—9
② ヤコ3・4
14 ① GS「ゼラヘムラ」
② 1ニフ3・3、19—20、5・10—22
15 ① モサ25・2

ラヘムラの民は、ユダの王ゼデキヤ[2]がバビロンへ囚われの身となって連れ去られたときに、エルサレムから出て来た民であった。

16そして、この民は荒れ野を旅し、主の手によって導かれて大海を渡り、モーサヤが彼らを発見した地に来た。そのときから、彼らはいつまでもそこに住んでいた。

17そして、モーサヤが発見したときには、彼らは非常に大きな数になっていた。しかし、その前に多くの戦争と激しい争いがあって、民が剣によって倒れたことも度々あった。また、彼らの言葉はなまっており、そのうえ、彼らは何一つ[1]記録を持って来ておらず、しかも、自分たちの創造主の存在を否定していた。それでモーサヤも、モーサヤの民も、彼らのことを理解できなかった。

18そこでモーサヤはゼラヘムラの民に、モーサヤの言葉を教えさせた。そして、彼らがモーサヤの言葉を教わった後、ゼラヘムラは自分の記憶に従って先祖の系図を述べた。その系図は書き留められているが、この版には載せない。

19さて、ゼラヘムラの民とモーサヤの民は連合[1]し、モーサヤ[2]が彼らの王に選任された。

20そしてモーサヤの時代に、文字の刻まれている一つの大きな石が彼のもとに運ばれてきた。それで彼は、神の賜物と力によって、刻まれていたものを解[1]読した。

21それには、コリアンタマー[1]という人物と、彼の民の中の殺された者たちの話が載っていた。このコリアンタマーはゼラヘムラの民によって発見され、九か月の間彼らとともに暮らしたのであった。

22また、コリアンタマーの先祖についても少し述べられていた。彼の最初の先祖は、主が人々の言葉を乱[1]されたときに、塔[2]のある所から出て来たのである。そして、主の公正な裁きによって彼の民に主の厳しい罰が下り、現在、北方の地に彼らの骨[3]が散り散りになっている。

23見よ、わたしアマレカイはモーサヤの時代に生まれ、生きている間にモーサヤの死を見た。そして、彼の息子ベニヤミン[1]が父に代わって治めている。

24見よ、わたしはベニヤミン王の時代に、ニーファイ人とレーマン人の間で一度激しい戦争があり、またひどい流血があったのを見た。しかし見よ、ニー

---

15 ①エレ39・1—10、ヒラ8・21
17 ①モサ1・2—6
19 ①モサ25・13
20 ①オム1・12
②モサ8・13—19、GS「聖見者」
21 ①エテ12・1、GS「コリアンタマー」
22 ①創世11・6—9、モサ28・17、エテ1・33
②エテ1・1—5
23 ①モサ8・8
③モモ言1・3

ファイ人がレーマン人よりも大いに優勢であったので、ベニヤミン王はゼラヘムラの地から彼らを追い出した。

25 さて、わたしはもう年を取った。そして、わたしは子供がなく、またベニヤミン王が主の前に正しい[1]人であることを知っているので、この版を彼に渡す。[2] わたしはすべての人に、イスラエルの聖者である神のもとに来て、預言と啓示、天使の働き、異言で語る賜物、言語を解釈する賜物、そのほかすべての善いことを信じるように説き勧めよう。[3] 主から出るもののほかに、善いものは何一つないからである。悪いものは悪魔から出る。

26 ところで、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物として[2]ささげ、[3]断食と祈りを続け、[4]最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、主が生きておられるように確かに、あなたがたは救われるであろう。

27 ところでわたしは、ニーファイの地へ帰ろうとして荒れ野へ行ったある人々のことについて、少々述べたい。自分たちのかつての受け継ぎの地を手に入れたいと思った者たちが、大勢いたのである。

28 それで、彼らは荒れ野へ行った。ところが、彼らの指導者は屈強な力の強い男で、そのうえ強情な男であったので、彼らの中に争いを引き起こした。そして、五十人を除く全員が荒れ野の中で殺され、[1]これらの五十人の者たちは、再びゼラヘムラの地に引き返して来た。

29 そして彼らは、またほかの人々を大勢連れて、再び荒れ野へ旅立った。

30 わたしアマレカイには一人の兄弟がいたが、彼もこれらの人々と一緒に行った。その後の彼らの消息は分からない。わたしは今や、まさに墓に身を横たえようとしている。[1] この版はすでに書き尽くされている。わたしはこれで述べることを終わりにする。

---

25 ① モ言1・17−18、モサ29・13
② モ言1・10
③ アル5・40、エテ4・12
26 ① モロ7・15−17、ヤコ1・7、アル29・2、モロ10・32
② 3ニフ9・20
③ GS「犠牲」
28 ① GS「断食」
④ モサ9・1−4
30 ① 1ニフ6・1−6

モルモンの言葉

モルモン、ニーファイの大版を短くまとめ、小版をほかの版と一緒にする。ベニヤミン王、国内に平和を確立する。紀元約三百八十五年。

1 ところで、わたしモルモン[1]は、これまで自分が作ってきた記録を息子モロナイの手に渡そうとしている。わたしはすでにわたしの民であるニーファイ人がほとんどすべて滅びてしまうのを見た。

2 キリストの来臨後[1]数百年たった今、わたしはこれらの記録を息子の手に渡す。息子は、わたしの民の完全な滅亡を目撃するであろう。しかし、息子が彼らよりも長く生きて、彼らについて多少のことを、またキリストについても多少のことを書き記して、それがいつの日か彼らを益[2]するものとなるように神に祈る。

3 ところで、わたしはこれまで書き記してきたことについて少し述べよう。わたしはニーファイの版から[2]短くまとめたものを、アマレカイの述べたこのベニヤミン王の治世に至るまで作り終えた後、以前にわたしの手に渡されたいろいろな記録[3]を調べてみたところ、ヤコブからこのベニヤミン王[4]の治世に至るまでの預言者たちの短い話と、ニーファイのたくさんの言葉が載っているこの版が見つかった。

4 この版に書き記されていることの中に、キリストの来臨の預言があるので、わたしは喜[1]んでいる。わたしの先祖は、預言の多くが成就したのを知っていた。そして、わたしもまた今日まで、わたしたちについて預言されてきたことがすべて成就したこと、また将来についての預言もすべて必ず成就することを知っている。

5 それゆえ、わたしはこれらの事柄[1]を選んで、それらに関連させてわたしの記録を終えよう。わたしの記録の残りの部分は、ニーファイの版[2]から抜いて書こう。わたしは、自分の民のことを百分の一も書き記すことができない。

6 しかし見よ、わたしはこれらの預言と啓示の載っているこの版を取って、わたしの記録の残りの部分と一緒にしよう。これらの預言と啓示はわたしにと

モルモンの言葉

1 ① 3ニフ5・9−12、モル1・1−4、8・1、4−5、GS「モルモン（ニーファイ人の預言者）」
2 ① モル6・5−6
3 ① ② 教義3・16−20
② 教義10・38−40
4 ① ② ③ 教義10・44、モサ1・6、ヒラ3・13−15、モル4・23
5 ① ④ オム1・23
6 ① 1ニフ6・5
① 第4節に述べられているモルモンを喜ばせた事柄のこと
② 1ニフ9・2
③ 3ニフ5・8−11、26・6−12

って貴いものであり、またわたしの同胞にも貴いものになることを知っているからである。

7 わたしは、ある賢明な目的[1]のためにこのようにする。わたしの内にある主の御霊の働きによって、わたしにそのようなささやきがあるからである。わたしはすべてのことを知っているわけではないが、主は将来起こることをすべて御存じ[2]である。したがって主は、御自分の御心どおりに行うように、わたしに働きかけられるのである。

8 わたしが神にささげる祈り[1]は、わたしの同胞のことであって、彼らが再び神について、まことにキリストの贖いについて知るようになり、また再び喜ば[2]しい民となれるようにということである。

9 さて、わたしモルモンは、ニーファイの版から抜き書きして作るわたしの記録を書き上げる仕事を続けよう。わたしはこの記録を、神が授けてくださった知識と理解に応じて作る。

10 そこで、アマレカイがこの版をベニヤミン王の手に渡したところ[1]、ベニヤミン王はこれを受け取って、彼の代まで歴代[2]の王が譲り伝えてきた記録を含むほかの版[3]と一緒にした。

11 そしてこれらは、ベニヤミン王から代々譲り伝えられて、わたしの手に入ったのである。わたしモルモンは、これらがこれから先も残されるように神に祈っている。またこれらが残されることをわたしは知っている。これらの版には重要な事柄が書き記されており、わたしの民とその同胞は、書き記されている神の言葉のとおりに、大いなる終わりの日にそのことによって裁き[2]を受けるからである。

12 ところで、このベニヤミン王のことであるが、彼の時代に民の中に多少の争いがあった。

13 そして、レーマン人の軍隊がニーファイの地から下って来て、ベニヤミン王の民を攻めた[1]。しかし見よ、ベニヤミン王は軍隊を召集して彼らに立ち向かった。彼はラバンの剣[2]を持ち、自分自身の腕の力を振るって戦った。

14 そして、ベニヤミン王の軍隊は主の力を頂いて敵と戦い、ついにレーマン人を何千人も殺した。彼らはレーマン人と戦って、自分たちの受け継ぎの地の全域からレーマン人を追い払ったのである。

15 また、偽キリスト[1]が現れたが、彼らは口を閉ざされ、罪科に応じて罰せられた。

---

7 ① 1ニフ9・5、19・3、教義3・12−20、10・19、30−47
GS「全知」
8 ① 2ニフ33・3−4、エノ1・1−12
② 2ニフ30・6
10 ① オム1・25、30
② ジェロ1・14
③ 1ニフ9・4
11 ① 3ニフ5・8−12、モル1・1−5
② 2ニフ25・18、29・33・11−15、3ニフ5・14、ヤコ1・10、教義17・1
13 ① 27・23−27、オム1・12
② 1ニフ4・9、2ニフ1・16、教義17・1
15 ① GS「反キリスト」

16 そして、民の中に偽預言者や偽説教者、偽教師も現れたが、彼らも皆、それぞれの罪科に応じて罰せられた。また、多くの争いが起こり、多くの者が離反してレーマン人のもとへ去って行ったが、その後、見よ、ベニヤミン王は、民の中にいる聖なる預言者たち[1]の助けを得た。

17 見よ、ベニヤミン王は聖なる人[1]であり、義をもって自分の民を治めた。また、国内には聖なる人が大勢おり、彼らは力と権能[2]をもって神の言葉を語った。しかも、民が強情であったために、彼らは非常に厳しい[3]言葉を用いた。

18 こうして、ベニヤミン王はこれらの人々の助けを得て、自分の体力の限りを尽くし、能力の限りを尽くして働くことによって、預言者たちの助けを受けながら、国内にもう一度平和を確立したのであった。

---

16 ① エノ1・22
17 ① アル13・26
② アル17・2—3
③ モロ9・4、教義121・41—43

モーサヤ書

第1章

ベニヤミン王、息子たちに彼らの先祖の言葉と預言を教える。いろいろな版に書き継がれた記録のおかげで、彼らの宗教と文明が残される。モーサヤ、王として選ばれ、また、記録とほかの品々を保管する責任が与えられる。紀元前約百三十年から百二十四年に至る。

1 さて、ゼラヘムラの全地[1]では、ベニヤミン王に従ったすべての民の中に、もはや争いが起こらなかったので、ベニヤミン王は残る生涯を引き続き安らかに送った。

2 さて、彼には三人の息子があって、それぞれモーサヤ、ヒローラム、ヒラマンと名付けられた。彼は、先祖のすべての言葉[1]によって彼らが教育[2]を受けられるようにし、それによって彼らが思慮分別のある者となるように、また先祖の口を通して語られ、主の手によってもたらされた数々の預言について知ることができるようにした。

3 また彼は、真鍮の版に刻まれた記録についても彼らに教え、次のように言った。「息子たちよ、これらの記録とこれらの戒めが載っているこの版[1]がなかったならば、わたしたちは今でも神の奥義を知らず[2]に無知のままでいたに違いない。あなたがたは、このことを覚えておいてほしい。

4 この版の助けがなければ、先祖のリーハイは、これらの事柄をすべて思い出して子供たちに教えることなどできなかったであろう。彼はエジプト人[1]の言葉を教えられていたので、これらの刻まれたものを読み、それを子供たちに教えることができた。そして、子供たちもまたその子供たちに教え、そのようにして現在に至るまで、神の命令が果たされてきたのである。

5 息子たちよ、わたしはあなたがたに言う。これらのものが神の御手によって書き継がれ、そして残され[1]たのは、わたしたちがこれを読んで[2]神の奥義[3]を理解し、神の戒めを常に目の前に置いておけるようにするためであって、もしこれらのものがなかったな

モーサヤ書
第1章
1 ① オム1・13
2 ① モル9・32
② モサ4・14−15、教義68・25、28
3 ① GS「版」
② アル37・8−9
4 ① ジ−歴史1・64
5 ① GS「聖文−保存されるべき聖文」
② 申命6・6−8
③ GS「神の奥義」

らば、わたしたちの先祖でさえも不信仰に陥っていたであろう。そしてわたしたちは、同胞のレーマン人のようになっていたに違いない。レーマン人はこれらのことについてまったく知らず、たとえ教えられても、彼らの先祖の正しくない言い伝えがあるために信じないのである。

6 おお、息子たちよ、わたしが望むのは、これらの言葉が真実であり、これらの記録も真実であることを覚えておいてほしいということである。そして見よ、エルサレムを出たときから今に至るまでの先祖の記録と言葉が載っているニーファイの版も真実である。これが今わたしの目の前にあるので、これが確かであることが分かる。

7 さて、息子たちよ、あなたがたはこれらの記録を努めて丁寧に調べることを忘れず、それによって益を得るようにしてほしい。また、神の戒めを守り、主がわたしたちの先祖に立てられた約束どおりに、この地で栄えることができるようにしてほしい。」

8 そしてベニヤミン王は、ほかにもこの書に書き記されていない多くのことを息子たちに教えた。

9 そして、息子たちに教え終えた後、ベニヤミン王は年老いて、自分ももうすぐに世のすべての人が行く道を行かなければならないことを知っていたので、王位を息子の一人に譲る方が望ましいと考えた。

10 そこで、王はモーサヤを自分の前に連れて来させた。王がモーサヤに語った言葉は次のとおりである。「息子よ、全地のすべての民に、すなわちこの地に住んでいるゼラヘムラの民とモーサヤの民に、皆集まるように布告を出してもらいたい。それは明日、わたしの口から、あなたが、主なるわたしたちの神が託してくださった、民を治める王であり統治者であることを、民に宣言するためである。

11 そしてさらに、わたしはこの民に一つの名を与え、主なる神がエルサレムの地から連れて来られたほかのすべての民と区別できるようにしよう。わたしがこうするのは、彼らが主の戒めを熱心に守る民であったからである。

12 そしてわたしは、彼らに名を与えるが、それは戒めに背かなければ決して消されることはない。

13 また、わたしはさらにあなたに言っておく。主の厚い恵みを受けているこの民が、戒めに背くように

---

5 ④ モサ 10・11−17
6 ① 1ニフ 1・3、2ニフ 33・10−11、モロ 10・27
7 ① GS「聖文」
② モサ 2・22、アル 50・20−22
③ アル 9・12−14
④ 詩篇 122・6、1ニフ 2・20
10 ① オム 1・14
② モサ 2・30
11 ① モサ 5・8−12
12 ① GS「罪」
13 ① ヘブ 6・4−6

なり、邪悪で不義な民となるならば、主は彼らを引き渡される。その結果、彼らは同胞のように[2]弱くなるであろう。そして主は、これまでわたしたちの先祖を残してこられたように、もはやそのたぐいない驚くべき力でこの民を残[3]すことはなさらない。

14 わたしはあなたに言うが、もしも主が御腕を伸べてわたしたちの先祖を残してくださらなかったならば、先祖はレーマン人の手に落ちて、彼らの憎悪の犠牲になっていたに違いない。」

15 そして、ベニヤミン王は息子にこれらの言葉を語り終えると、王国の政務のすべてに関する責任を息子にゆだねた。

16 そしてさらに、彼は[1]真鍮の版に刻まれた記録と、ニーファイの版と、ラバン[2]の剣と、荒れ野の中で先祖を導いた球[3]、すなわち指示器についても息子に責任をゆだねた。この指示器は、先祖がそれぞれ主に向けた注意力と熱意に応じて導かれるように、主の手によって備えられたものである。

17 したがって、彼らが忠実でないときには、旅は順調に進まず、またはかどらず、かえって[1]押し戻されて、神の不興を招いた。そしてまた彼らは、自分たちの義務を思い出すように促す飢饉と、ひどい艱難に悩まされたのであった。

18 さて、モーサヤは父から命じられたとおりに行い、ゼラヘムラの地にいるすべての人に、皆連れ立ってモーサヤの父の語る言葉を聞くために神殿に集まるように布告を出した。

第2章

ベニヤミン王、民に語る。自分の治世が平等かつ公正で、霊的な意義の深いものであったことを述べる。天の王に仕えるように民に勧告する。神に背く者は消すことのできない火のような苦しみを受ける。紀元前約百二十四年。

1 さて、モーサヤが父から命じられたとおりに行い、全地に布告を出したところ、民は全地から集まり、ベニヤミン王の語る言葉を聞くために神殿にやって来た。

2 そして、集まった者の数はたいそう多く、数え切れないほどであった。民はすでに非常に増えて、この地で大きな数になっていたからである。

---

13 ② ヒラ4・24—26
③ 教義103・8—10
16 ① モサ1・3
② 1ニフ4・8—19、モ言1・13、教義17・1
③ 1ニフ16・10
17 ① 1ニフ18・12—13

3 そして彼らはまた、自分たちの家畜の群れの初子[1]も連れて来た。それは、モーセ[2]の律法に従って犠牲[3]と燔祭[4]をささげるためであった。
4 また、主なる神に感謝をするためでもあった。この神は彼らをエルサレムの地から連れ出し、敵の手から救い出し、また正しい人々を教師[1]に任じ、また一人の正しい人を王に任じてくださった。そしてその王は、ゼラヘムラ[3]の地に平和を確立し、神の戒め[4]を守るように民に教えて、民が喜びを味わい、神とすべての人に対する愛[5]で満たされるようにしたのであった。
5 さて、彼らは神殿に来ると、その周りに天幕を張った。男たちは皆、自分の妻と息子、娘、孫から成る各々の家族[1]に応じて、最年長の者から最年少の者まで、すべての家族が互いに離れて場所を取った。
6 彼らは神殿の周りに天幕[1]を張ったが、天幕の中にいながらベニヤミン王の語る言葉を聞けるように、すべての者がその天幕の入り口を神殿の方へ向けていた。
7 集まった群衆が非常に大勢であったため、ベニヤミン王は神殿の中ですべての人を教えることができなかった。そこで彼は、自分の語る言葉を民が聞けるように、やぐらを建てさせた。
8 そして王は、そのやぐらから民に語り始めた。しかし、大勢の群衆であったため、王の言葉を聞けない者もいた。それで王は、自分の語る言葉を書き取らせ、それを声の届かない所にいる人々のもとに送って、彼らにもその言葉を知らせた。
9 このときにベニヤミン王が語って書き取らせた言葉は、次のとおりである。「こうして連れ立って集まり、今日わたしが語る言葉を聞くことのできる同胞よ、わたしがあなたがたにここに来るように命じたのは、これからわたしが語る言葉を軽んじさせるためではない。わたしの言葉を聴かせるためである。だから、耳を開いて聞き、胸を開いて理解し、また心を開いて、神の奥義があなたがたの心に明らかにされるようにしなさい。
10 わたしがあなたがたに、ここに来るように命じたのは、あなたがたにわたしを畏れさせるためでもなければ、わたしが死すべき人間以上の者であると思わせるためでもない。

第2章
3 ① 創世4・4
② ニフ2・25、24、アル
30 ③ GS「犠牲」
4 ① ニフ5・9
④ モサ18・18−22、GS
「教える・教師」
② GS「召し・神の召し」
5 ① 出エ33・8−10
④ オム1・12−15
③ ヨハ15・10
5 ⑤ GS「家族」
6 ① 教義6・12
9 ① モサ8・3
③ GS「聞き従う・聴く」
10 ① モサ12・27、3ニフ
④ 19・33
⑤ GS「思い・心」
⑥ GS「神の奥義」
GS「畏れ・恐れ」

11わたしはあなたがたと同じで、心身ともにあらゆる弱さを持っている。それでもわたしは、この民を治める統治者となり王となるように、この民に選ばれ、父によって任じられ、主の御手によって認められた。そして、主から授かった勢力と思いと力を尽くしてあなたがたのために努めるように、主のたぐいない力によって守られてきたのである。

12あなたがたに言うが、わたしは現在まで、生涯をあなたがたのための務めに費やすことを許されてきた。しかし、1)金も銀も、そのほかどんな富もあなたがたに求めたことはない。

13わたしはあなたがたを地下牢に閉じ込めることも、あなたがたが互いを奴隷にすることも、殺すことも、略奪することも、盗むことも、姦淫を犯すことも許したことはない。また、あなたがたがどのような悪を行うことも許したことはなく、主から命じられたすべてのことについて、主の戒めを守るようにあなたがたに教えてきた。

14そして、わたし自身でさえ、自分の手を使って働1)いてきた。それは、わたしがあなたがたのために務めることができるように、またあなたがたが税に苦しむことなく、それに、堪え難いことを何一つ身に受けなくてもよいようにするためであった。わたしがこれまで語ったこれらすべてのことについては、今日あなたがた自身がその証人である。

15しかし、わたしの同胞よ、わたしは自慢するためにこれらのことを行ってきたのでもなければ、あなたがたを責めるためにこれらのことを語っているのでもない。これらのことを語るのは、わたしが今日神の御前で澄んだ1)良心をもって申し開きができるということを、あなたがたに知らせるためである。

16見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしは自分の生涯をあなたがたのための務めに費やしてきたと言ったが、それは自慢したくて言ったのではない。わたしは神のために務めてきたにすぎないからである。

17そして見よ、わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが2)同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということを悟らせるためである。

18見よ、あなたがたは、わたしのことを王と呼んで

12① 使徒20・33−34
14① 1コリ9・18
15① GS「良心」
17① GS「知恵」
② GS「兄弟」「姉妹」
③ マタ25・40、新ヤコ1・27、教義42・29−31、GS「奉仕」

きた。あなたがたが王と呼んでいるわたしでさえ
も、あなたがたのために務めているとすれば、まし
てあなたがたは、互いに務め合うようにすべきでは
ないだろうか。
19 また見よ、あなたがたから王と呼ばれ、生涯をあ
なたがたのための務めに費やし、それによって神に
仕えてきたわたしが、あなたがたから幾らかでも感
謝を受ける値打ちがあるとすれば、おお、あなたが
たはどれほど天の王に感謝すべきであろうか。
20 わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あ
なたがたを造り、あなたがたを守り、あなたがたに
喜びを得させ、互いに平和に暮らせるようにしてく
ださった神に、たとえあなたがたが全身全霊の力を
尽くして一切の感謝と賛美をささげたとしても、
21 さらに言うが、あなたがたがまた、たとえ世の初
めからあなたがたを造り、あなたがたが自分の意の
ままに生きて動き、行動できるようにあなたがたに
息を与えて日々守り、いかなる瞬間にもあなたがた
を支えてくださっている御方に、たとえ全身全霊を
尽くして仕えたとしても、それでもなお、あなたが
たはふつつかな僕である。
22 見よ、神があなたがたに要求しておられるのは、
神の戒めを守ることだけである。そして神は、戒め
を守るならばこの地で栄えると約束してくださって
いる。神は一度言われたことは決して変更されない
ので、あなたがたが神の戒めを守れば、神はあなた
がたを祝福し、栄えさせてくださる。
23 さて、まず第一に、神はあなたがたを造り、あな
たがたに命を与えられた。そのために、あなたがた
は神に恩を受けている。
24 そして第二に、神はあなたがたが神から命じられ
たとおりに行うことを要求しておられる。そして、
あなたがたが命じられたとおりに行うならば、神は
すぐに祝福を授けてくださる。また現にこれまで、
あなたがたに報いてくださった。そのためにあなた
がたは、今も神に恩を受けているし、これからもと
こしえにいつまでも恩を受けるであろう。だから、
あなたがたに何か自慢できるものがあるだろうか。
25 さて、わたしは尋ねたい。あなたがたは自分自身
のことを何か少しでも言えるだろうか。言えない
と、わたしはあなたがたに答える。あなたがたは、
大地のちりに等しい者であるとさえ言うことができ

---

18 ① GS マタ20・26—27
19 ① GS「感謝」
20 ① GS「神・神会」
21 ① GS「選択の自由」
② 1ニフ18・16
22 ① GS「戒め（神の）」
② ルカ17・7—10
② レビ25・18—19、2ニフ1・9
24 ① 教義3・1—2
② 教義14・7、58・2
③ GS「祝福」
1—3

ない。あなたがたは大地のちり[1]から造られたが、見よ、そのちりは、あなたがたを造られた[2]御方のものである。

26そしてわたし、すなわちあなたがたが王と呼ぶわたしでさえも、あなたがたより優れてはいない。わたしもちりから造られた者だからである。そして、あなたがたの見るとおり、わたしは年を取り、まさに死すべき体を母なる大地に返そうとしている。

27それでわたしは、自分が澄んだ良心をもって神の御前を[1]歩みながら、あなたがたのために務めてきたと言ったが、この度わたしがあなたがたを集めさせたのは、わたしがあなたがたに関して神から命じられてきたことについて、神に裁かれるために立つときに、わたしが罪なしと認められるように、また、あなたがたの血[2]がわたしに降りかかることのないようにするためである。

28わたしはあなたがたに言う。わたしがあなたがたを集めさせたのは、わたしがまさに墓に入ろうとしているこの時期に、わたしの衣からあなたがたの血を取り除[1]いて安らかに行けるように、またわたしの不滅の霊[2]が天の聖歌隊[3]に加わって、公正な神を賛美して歌えるようにするためである。

29さらにあなたがたに言う。あなたがたを集めたのは、わたしがもはや、あなたがたの教師ではなく王でもないことを告げ知らせるためである。

30あなたがたに語っている今でさえ、わたしの全身はひどく震えている。しかし、主なる神がわたしを支えてくださっている。そして、主なる神はあなたがたに語れるようにしてくださり、息子モーサヤがあなたがたを治める王であり統治者であることを、今日宣言するようにわたしに命じられた。

31さて、わたしの同胞よ、今まで行ってきたことをこれからも行ってほしい。あなたがたはわたしが命じたことと、わたしの父が命じたことを守って栄え、敵の手に落ちないように守られてきたが、同じように今後もわたしの息子の命じること、すなわち息子があなたがたに告げる神の戒めを守るならば、あなたがたはこの地で栄え、敵はあなたがたを支配する権力をまったく持たないであろう。

32しかし、おお、わたしの民よ、あなたがたの中に争い[1]が起こらないように、また父のモーサヤが語った悪霊に従おうとすることのないように気をつけ

---

25 ① 創世3・19、ヤコ2・21
② GS「創造・創造する」
27 ① GS「歩む（神とともに）」
② ヤコ1・19
28 ① ヤコ2・2
② GS「霊」
③ モル7・7
32 ① 3ニフ11・29−30

なさい。

33 見よ、あの霊に従おうとする者には、災いが宣言
される。もしも悪霊に従うことを望んで、罪の中に
とどまったまま死ぬならば、自分自身に罰[1]の定めを
招く。なぜならその人は、知っていながら神の律法
に背き、その報いとして永遠[2]の罰を受けるからであ
る。

34 わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中には
幼い子供たちを除いて、これらのことについて教え
られていない者はだれ一人おらず、あなたがたは自
分の持ち物と能力をすべてささげるに値するほど、
天の御父にとこしえに恩を受けていることを知って
いる。また、わたしたちの先祖リーハイがエルサレ
ムを去るときまで、聖なる預言者たちが語ってきた
数々の預言を載せている記録についても、あなたが
たは教えられてきた。

35 また、これまで先祖が語ってきた事柄もすべて教
えられている。そして見よ、彼らは、主から命じら
れたことを語ったので、それらは正しくて真実であ
る。

36 さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言
う。あなたがたがこれらのことをすべて知った後、
また教えられた後、もしもそれに背いてすでに告げ
られていることに反した行いをし、主の御霊から身
を引いて、祝福と繁栄と守りを得るための知恵の道
に導く御霊を自分の内に宿さないようにするなら
ば、

37 わたしはあなたがたに言うが、このようにする者
は、公然と神に背く[1]者であって、悪霊に従うことを
望み、あらゆる義の敵となる。したがって、主は清
くない宮には住まわれないので、このような者の内
には決して宿られない。

38 そこで、その者がもしも悔い[1]改めず、神の敵であ
る状態で死ぬならば、神の正義[2]の要求が、その者の
不滅の霊に強烈な罪[3]の意識を起こさせる。そして、
その罪の意識のために、その者は主の御前からしり
ごみし、またその胸は罪悪感と心痛と苦しみで満た
される。その罪悪感と心痛と苦しみは、炎がとこし
えにいつまでも立ち上る、消すことのできない火の
ようである。

39 さて、わたしはあなたがたに言う。そのような者
には憐れみは及ばない。したがって、その者の最後

---

33 ① GS「罰の定め」
37 ① ② 教義19・6、10−12
38 ① ② GS「悔い改め」
39 ① ③ ② GS「正義」GS「罪悪感」
16、GS「憐れみ」アル34・8−9、15−
24−25、GS「背く」モサ3・12、ヒラ8・
アル7・21

の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである。

40 おお、わたしの言葉を理解できるすべての年老いた人々よ、若い人々よ、幼い子供たちよ。わたしはあなたがたが理解できるように、分かりやすく語ってきた。わたしはあなたがたが目を覚まして、神の律法に背いた者の受ける恐ろしい状態を思い起こすように祈っている。

41 そしてさらにあなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。おお、これらのことが真実であることを記憶にとどめ、覚えておきなさい。主なる神がこれを言われたからである。」

第3章

ベニヤミン王、説教を続ける。全能の主が将来、土の幕屋に宿って、人々の中で教え導かれる。主が世の罪を贖われるとき、あらゆる毛穴から血が流れ出る。主の名は救いをもたらす唯一の名である。人は贖罪によって、生まれながらの人を捨てて聖徒となることができる。悪人の受ける苦痛は、火と硫黄の池である。紀元前約百二十四年。

1 「また、わたしの同胞よ、わたしはもう少しあなたがたに話したいことがあるので、さらにあなたがたの注意を促したい。見よ、将来起こる出来事について述べることがある。

2 そして、これから述べることは、神から遣わされた天使がわたしに知らせてくれたものである。天使がわたしに、『目を覚ましなさい』と言ったので目を覚ましたところ、見よ、天使はわたしの前に立っていた。

3 そして、天使はわたしに言った。『目を覚まして、わたしが告げる言葉を聞きなさい。見よ、わたしはあなたに、胸躍る大いなる喜びのおとずれを告げ知らせよう。

4 主はあなたの祈りを聞き、あなたの義を裁かれた。そして、わたしを遣わしてあなたに告げ知らせ、

40① アル5・18
41① GS「喜び」
4 ニフ1・15—18、
② GS「祝福」
③ 教義6・13
④ GS「天」
第3章
2① GS「天使」
3① ルカ2・10—11

あなたが喜びを得られるように、またあなたが民に告げ知らせて、あなたの民も喜びに満たされるようにされた。

5 見よ、現在世を統治しておられ、永遠から永遠にわたってまします全能の主が、力をもって天から人の子らの中に降って来て、土の幕屋に宿り、人々の中に出て行って大きな奇跡を行われる時が来る。しかもそれは遠い先のことではない。この御方はそのときに、病人を癒し、死者を生き返らせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにし、すべての病気を癒される。

6 またこの御方は、悪霊、すなわち人の子らの心の中にとどまる悪い霊どもを追い出される。

7 見よ、この御方は数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に耐えようのないものである。見よ、御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が流れ出るほどだからである。

8 そしてこの御方は、イエス・キリスト、神の御子、天地の父、時の初めからの万物の創造主と呼ばれ、母はマリヤと呼ばれる。

9 見よ、この御方は、御自分の民のところに来られ、人の子らがその御名を信じる信仰を持ちさえすれば、救いが与えられるようにされる。ところが、このようなことがあるにもかかわらず、彼らはこの御方をただの人と思い、また悪魔につかれていると言い、この御方を鞭打ち、十字架につける。

10 しかしこの御方は、三日目に死者の中からよみがえられる。そして見よ、この御方は世を裁く立場に立たれる。また見よ、これらのことはすべて、人の子らに義にかなった裁きが下されるために行われるのである。

11 そして見よ、この御方の血は、アダムの背きのために堕落した者たちの中で、自分たちに関する神の御心を知らずに死んだ者たち、あるいは気づかないで罪を犯した者たちの罪も贖う。

12 しかし、自分が神に背いていることを承知している者は、災いである。災いである。悔い改めて、主イエス・キリストを信じるのでなければ、このような者には決して救いは与えられないからである。

---

5 ① GS「エホバ」
② モサ7・27、アル7・9−13
③ マタ4・23−24、使徒2・22、1ニフ11・31、6 ① GS「奇跡」
② マコ1・32−34
③ イザ53・4−5
7 ① マタ4・1−2
② 教義19・15−18
8 ① GS「神・神会−子なる神」
② アル7・10
③ ヒラ14・12、3ニフ9・15
④ マタ1・16、1ニフ11・14−21
⑤ GS「マリヤ（イエスの母）」
9 ① GS「信仰」
② GS「救い」
③ ヨハ8・48
④ マコ15・15
⑤ ルカ18・33、1ニフ19・10、2ニフ10・3、GS「十字架の刑」
10 ① マタ16・21、2ニフ25・13、ヒラ14・20−27
② GS「復活」
③ GS「裁き」
11 ① GS「血」
② GS「堕落（アダムとエバの）」
③ 2ニフ9・25−26
④ GS「贖罪」
12 ① モサ2・36−38、ヒラ8・25、GS「背く」
② GS「主」

13そして、主なる神はこれらのことをすべての部族、国民、国語の民に告げ知らせるために、聖なる預言者たちをすべての人の子らの中に遣わされた。またそのことによって、キリストが来られると信じるすべての者が、あたかもキリストが自分たちの中にすでに来ておられるかのように自分たちの罪の赦しを受け、また非常に大きな喜びを味わえるようにされた。

14しかし、主なる神は御自分の民が強情な民であることを知って、彼らに律法、すなわちモーセの律法を定められた。

15そして主なる神は、御自分の来臨に関する多くのしるしと不思議、予型と影を彼らに示された。聖なる預言者たちもまた、主の来臨について彼らに語った。それでも、彼らは心をかたくなにし、主の血の贖罪によらなければモーセの律法は決して役に立たないということを理解しなかった。

16また幼い子供たちは、たとえ罪を犯すことができるとしても、贖罪がなければ救いは得られない。しかし、あなたに言っておくが、幼い子供たちは祝福されている。見よ、アダムによって、すなわち生まれながらの本性のために人は堕落することがあるが、それと同じように、キリストの血は人の罪を贖うからである。

17さらにわたしはあなたに言う。全能の主であるキリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。

18見よ、主は裁きをなさり、その裁きは公正である。そして、幼いときに死ぬ乳飲み子は滅びることがない。しかし、大人はへりくだって幼い子供のようになり、救いは過去も現在も未来も、全能の主であるキリストの贖いの血によって、また贖いの血を通じてのみ与えられるということを信じないかぎり、自分自身に罰の定めを招く。

19生まれながらの人は神の敵であり、アダムの堕落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのこ

13①2ニフ25.24−27、ジェロ1.11
②GS「罪の赦し」
14①②GS「モーセの律法」
15①GS「イエス・キリストーキリストの予型と象徴」
②モサ13.27−32
16①②GS「子供」
17①②モロ8.8−9
GS「イエス・キリスト−御名を受ける」
②使徒4.10−12、2ニフ31.21
18①③GS「救い」
②マタ18.3
モサ4.2、ヒラ5.9
19①1コリ2.11−14、モサ16.2−3、GS「生まれながらの人」
②GS「堕落（アダムとエバの）」
③モロ10.4−5、GS「聖霊」
④歴下30.8
⑤⑥GS「聖徒」
3ニフ9.22

とに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも
神の敵となるであろう。
20そしてさらに、わたしはあなたに言う。救い主に
ついての知識[1]が、あらゆる国民[2]、部族、国語の民、
民族の間に広まる時が来る。
21そして見よ、その時が来ると、悔い改めて全能者
である主なる神の御名を信じるのでなければ、幼い
子供たちを除いて、神の御前に罪[1]がないと認められ
る者はだれもいないであろう。
22また、今でさえ、すなわちあなたが主なる神から
命じられてきたことを民に教える現在でさえ、わた
しがあなたに語っている言葉に従わなければ、彼ら
はもはや神の目から見て罪がないとは認められな
い。
23さて、わたしは主なる神が命じられた御言葉を語
り終えた。
24そして、主はこのように言われる。「これらの言葉
は裁きの日にこの民を責める明らかな証となる。こ
れらの言葉によって、この民はそれぞれ皆、自分の
行いが善いかそれとも悪いか、その行いに応じて裁
かれる。
25そして、もし行いが悪ければ、彼らは自分の罪と
忌まわしい行いの恐ろしい思いに引き渡される。そ
して、その恐ろしい思いは彼らを主の前からしりご
みさせ、決して戻ることのできない、[2]惨めな無窮の
苦痛の状態に彼らを陥れる。これらの者は、自分自
身に罰の定めを招いたのである。
26それゆえ、これらの者は神の激しい怒りの杯から
飲んだのである。正義は彼らに対する怒りの杯を取
り消すことはできない。それは、[1]アダムが禁断の実[2]
を食べたために堕落することになったのを取り消せ
ないのと同様である。したがって、[3]憐れみはもはや
とこしえに彼らに及ぶことはない。
27そして、彼らの受ける苦痛[1]は、消えることなく炎
が上り、とこしえにいつまでも煙を吐く火[2]と硫黄の
池のようである。」主はこのように言うことをわた
しに命じられた。アーメン。』」

第４章

ベニヤミン王、説教を続ける。贖罪のゆえに救いが
及ぶ。救われるように神を信じること。忠実であるこ
とによって罪の赦しを保つこと。貧しい者に持ち物を

---

20 ① GS 教義3・16
21 ① GS 「伝道活動」
25 ① 「責任を負う」アル5・18、12・14—15
26 ① モル8・38
② モル9・12
② 創世3・1—12、2ニフ2・15—19、アル12・21—23
27 ① GS 「憐れみ」
② GS 「罪悪感」
③ 2ニフ9・16、ヤコ6・10、教義76・36

分け与えること。賢明に秩序正しくすべてのことを行うこと。紀元前約百二十四年。

1 さて、ベニヤミン王が、主の天使から告げられた言葉を語り終えて、群衆を見渡したところ、見よ、彼らは地に伏していた。主への畏れが彼らに生じたからである。

2 そして彼らは、自分たちがこの世的な状態にあり、大地のちりよりも劣っていると思った。そして彼らは皆、声を合わせて大声で叫んだ。「おお、憐れんでください。わたしたちが罪の赦しを受けて心が清められるように、キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください。わたしたちは、天地と万物を創造され、また将来人の子らの中に降って来られる神の御子イエス・キリストを信じています。」

3 そして、彼らがこれらの言葉を語り終えると、主の御霊が彼らに降られた。そして彼らは、罪の赦しを受け、良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた。それは、彼らがベニヤミン王の語った言葉のとおりに、将来来られるイエス・キリストを深く信じたためである。

4 それからベニヤミン王は、再び口を開いて彼らに語り始めた。「わたしの友よ、わたしの同胞よ、わたしの親族よ、わたしの民よ、これからわたしが語る言葉を聞いて理解できるように、もう一度あなたがたの注意を促したい。

5 見よ、もしも今、あなたがたが神の慈しみを知ったことで、自分たちを無力な者、値打ちのない者、堕落した状態にある者と感じるようになっているならば、

6 あなたがたに言うが、もしあなたがたが、神の慈しみと神のたぐいない力、神の知恵、神の忍耐、人の子らへの神の寛容を知るようになり、また主に頼り、主の戒めを熱心に守って、自分の生涯、すなわち、死すべき体の生涯の最後まで信仰を持ち続ける人に救いが与えられるように、世の初めから贖罪が備えられてきたことをも知るようになったならば、

7 わたしは言うが、その人は、アダムの堕落以来この世に住んだ、あるいは現在住んでいる、あるいは世の終わりまでに住む全人類のために、世の初めから備えられた贖罪によって救いを受ける人である。

8 これが救いが与えられる方法である。これまで語

第4章
1 ① GS「畏れ・恐れ」
2 ① GS「現世的」
② ヒラ12・7−8
③ モサ3・18、ヒラ5・9
④ GS「創造・創造する」
3 ① GS「罪の赦し」
② GS「良心」
③ GS「信仰」
5 ① モセ1・10
6 ① GS「神・神会」
② 詩篇36・7、2ニフ22・2、ヒラ12・1、GS「信頼」
7 ① GS「堕落（アダムとエバの）」
④ GS「贖罪」
③ モサ15・19

ってきたこのことのほかにどのような救いもなく、[1]わたしがあなたがたに述べてきた条件のほかに人が救われる条件はない。

9 神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄[2]すべては理解しないということを信じなさい。

10 さらにあなたがたは、罪を悔い改めてその罪を捨て、神の御前にへりくだらなければならないことを信じなさい。そして、神があなたがたを赦してくださるように真心から求めなさい。これらのことをすべて信じるならば、必ずそれを実行しなさい。

11 そして再び、すでに語ったように、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはすでに神の栄光を知るようになったので、すなわち、神の慈しみを知り、神の愛を味わい、心にこのような非常に大きな喜びを与えた罪の赦しを受けたので、今後も神の偉大さと自分自身の無力さ、それに取るに足りない人間であるあなたがたに対する神の慈しみと寛容、これらを覚えて、いつも記憶にとどめておくようにしてほしい。また、心底謙遜にへりくだって、日々主の御名を呼び、天使の口を通して語られた将来の出来事を確固として信じ続けてほしい。

12 そして見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがこのようにするならば、いつも喜びを感じ、神の愛で満たされ、またいつも罪の赦しを保てるであろう。またあなたがたを造られた御方の栄光、すなわち、正しく真実な事柄をますます知るようになるであろう。

13 またあなたがたは、互いに傷つけ合う心を持たず、平和に暮らし、あらゆる人にその人が当然受けるべきものを与えたいと思うようになるであろう。

14 またあなたがたは、自分の子供たちが飢えていたり、着る物がなかったりするのをほうってはおかないであろう。あなたがたは子供たちが神の律法に背くのも、互いに戦うのも、争い合うのもほうってはおかないであろう。また、罪の頭である悪魔、すなわち、わたしたちの先祖が語ってきた悪霊であり、あらゆる義の敵である悪魔に仕えることも許さないであろう。

---

8 ① 使徒4・12、2ニフ
31・21、モサ3・17
9 ① ロマ11・33−34、ヤコ4・8−13
10 ① イザ55・9
② GS「悔い改め」
教義61・2
③ マタ7・24−27
④ 2ニフ31・19−21
11 ① アル36・24−26
② GS「罪の赦し」
③ モセ1・10
④ 出エ34・6、モロ8・3
⑤ GS「謙遜」
⑥ GS「祈り」
12 ① GS「愛」
② アル4・13−14、5・26−35、教義20・31−34
13 ① GS「平和をつくり出す人」
14 ① 1テモ5・8、教義83・4
② GS「争い」

15 むしろあなたがたは、彼らに真理の道をまじめに歩むように教えるであろう。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであろう。
16 そしてまた、あなたがたは自分自身でも、助けを必要としている人を助け、乏しい人に自分の持ち物を与えるであろう。また、物乞いがあなたがたに請い願うのに応じないで、追い払って死なせるようなことをしないであろう。
17 あるいは、あなたがたは次のように言うかもしれない。『その人は自分でその不幸を招いたのだから、わたしは手を差し伸べない。彼が苦しまなくて済むように食物を与えることはしないし、持ち物を分けることもしない。彼が罰を受けるのは当然なのだから。』
18 しかし、おお、人々よ、わたしはあなたがたに言う。このようにする者はだれでも、大いに悔い改める必要がある。このような者は、自分の行ってきたことを悔い改めなければ、とこしえに滅びて、神の王国にあずかることはない。
19 見よ、わたしたちは皆、物乞いではないだろうか。わたしたちは皆、持っているすべてのものについて、すなわち食物も衣服も、金も銀も、そのほか持っているあらゆる富について、同一の御方、すなわち神に依存してはいないだろうか。
20 そして見よ、今でさえあなたがたは神の御名を呼び、罪の赦しを請い願っている。神はあなたがたが請い願うのに応じないで、聞き流してこられただろうか。いや、神はあなたがたに御霊を注ぎ、あなたがたの心を喜びで満たし、あなたがたが語る言葉を見いだせないで口をつぐむほどにされた。それほどあなたがたの喜びが非常に大きかったのである。
21 さて、もしもあなたがたを造られた神、あなたがたが自分の命についても自分の持ち物と能力のすべてについても頼っている神が、あなたがたが必ず与えられると信じて、信仰をもって求める正当なものを、何でもすべて与えてくださるとすれば、ましてあなたがたは、自分たちの持っているものを互いに分かち合って当然ではないだろうか。
22 また、死を免れるために物乞いをする人を、あなたがたが裁いて罪に定めるならば、自分の持ち物を与えないことで罪に定められることの方が、もっと理にかなってはいないだろうか。あなたがたの持

15 ① GS「歩む（神とともに）」
② 教義68・25−28、モセ6・58、GS「教える・教師」
16 ① GS「慈愛」「奉仕」
② 申命15・7−11、箴言13・21、イザ10・1−2
17 ① 箴言17・5
20 ① GS「喜び」
21 ① GS「福祉」「奉仕」
22 ① マタ7・1−2、ヨハ7・24
② 1ヨハ3・17

ち物はあなたがたのものではなく、神のものであり、命もまた神のものである。にもかかわらず、あなたがたは神にまったく物乞いをせず、自分の行ってきたことを悔い改めもしない。

23 わたしはあなたがたに言う。そのような者は災いである。その持ち物はその者とともに滅びるからである。わたしはこれらのことを、この世のものに富[1]んでいる者たちに告げる。

24 さらに、わたしは、富めるほどではないが、日々の生活には足りるほどの物を持っているあなたがた貧しい人々、すなわち、自分にはないからということで、物乞いに与えることを断るあなたがたに言う。あなたがたは心の中で、『わたしにはないので与えないが、もしあれば与[1]えるであろう』と言うようにしてほしい。

25 さて、心の中でこう言うかぎり依然として罪はない。そうでなければ罪[1]に定められる。まだ得ていないものをむさぼるのであるから、罪の宣告を受けて当然である。

26 さて、あなたがたに語ってきたこれらのことのために、すなわち、神の御前を罪なく歩[1]めるよう、日々罪の赦しを続けて受けるために、自分の持っている分に応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて霊的にも物質的にも助けを与えることである。

27 これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかしまた、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがって、何事も秩序正しく行うようにしなさい。

28 また、このことを覚えておいてほしい。あなたがたはだれであっても、隣人から物を借りたなら、その物を約束どおりに返すようにしなければならない。そうでなければ、自分が罪を犯すばかりでなく、恐らく隣人にも罪を犯させることになる。

29 最後に言うが、あなたがたが罪を犯すもとになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。

30 しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分

---

23 ① 教義 56・16
24 ① マコ 12・44
25 ① 教義 56・17
26 ① GS「歩む（神とともに）」
② ゼカ 7・10、アル 1・27、GS「施し」
③ ヤコ 2・17−19
④ イザ 58・10−11、教義 104・17−18
27 ① 教義 10・4

の思い、[1]言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」

第5章

聖徒たちは、信仰によってキリストの息子および娘となる。その後、キリストの名によって呼ばれる。ベニヤミン王、確固として揺らぐことなく善い行いをするように民に説き勧める。紀元前約百二十四年。

1 さて、ベニヤミン王はこのように民に語り終えると、自分の語った言葉を民が信じているかどうか知りたいと思い、使いを民の中に遣わした。
2 すると民は皆、声を合わせて叫んだ。「そのとおり、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かで真実であることを知っています。御霊は、わたしたちが[1]悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな[2]変化を生じさせてくださいました。
3 そして、わたしたち自身もまた、神の限りない慈しみと神の御霊の現れによって、将来起こることをはっきりと示されており、ふさわしければすべての物事について預言することができます。
4 また、この偉大な知識が与えられたのは、わたしたちが、王が語ってくださったことを信じたからです。その結果、わたしたちはこのように、非常に大きな喜びを得ています。
5 そしてわたしたちは、残りの全生涯、神の御心を行い、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという[1]聖約を交わします。そして、[2]天使によって告げられたような、決して[3]終わることのない苦痛を自分自身に招くことのないように、また神の激しい怒りの杯から飲まないようにします。」
6 さて、これはベニヤミン王が彼らから聞きたいと望んでいた言葉であった。そこで、王は彼らに言った。「あなたがたは、わたしの望んでいた言葉を語ってくれた。あなたがたが交わした聖約は義にかなっ

---

30 ① マコ7・18−23、GS
② マタ15・18−20、GS「不敬」
③ アル12・14、GS「見守る・見守る者」

第5章
2 ① アル19・33
② アル5・14、GS「再び生まれる」
5 ① モサ18・10
② モサ3・2
③ モサ3・25−27

た聖約である。
7さて、あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが霊的にあなたがたを子としてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。
8そしてあなたがたは、この称号の下で自由を得た。このほかにはあなたがたに自由を得させる称号はない。救いをもたらす名はほかに与えられていない。だから、キリストの御名を受けて、神と聖約を交わしたあなたがたは皆、生涯の最後まで従順であってほしい。
9そして、このとおりにする者はだれでも、自分がどのような名で呼ばれるか分かるので、神の右に見いだされるであろう。なぜならば、キリストの御名で呼ばれるからである。
10そして、キリストの御名を受けない者はだれでも、何かほかの名で呼ばれる。それゆえ、神の左にいる自分に気づくであろう。
11そして、これこそが、戒めに背かなければ決して消されることのない名で、わたしがあなたがたに与えると言ったその名であることをあなたがたは覚えておいてほしい。だから、この名があなたがたの心から消えてなくならないように、あなたがたは戒めに背くことのないよう注意しなさい。
12わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの名をいつも心にしっかりと記しておくことを忘れないようにしてほしい。そうすればあなたがたは、神の左に見いだされることがなく、自分がどの声で呼ばれ、どの名で呼ばれるかが聞いて分かるであろう。
13なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。
14人はまた、隣人の持ち物であるろばを連れて来て、これを飼うだろうか。そのようなことはしないと、わたしはあなたがたに言おう。人は、そのろばが自分の群れの中で草をはむことさえ許さず、それを駆り立てて追い出すであろう。わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたがどの名で呼ばれるのか

7①モサ27・24−26、モセ6・64−68、GS「神の息子、娘」
②GS「生まれる・産む・もうける」
③GS「心」
④モサ15・10−11、GS「再び生まれる」
⑤教義11・30
8①ロマ6・18、ガラ5・1、ヒラ14・30
②使徒4・10、12、アル21・9
③モサ26・18
④使徒11・26、アル46・15
10①アル5・38−39
11①マタ25・33
②モサ1・11−12、GS「イエス・キリスト−御名を受ける」
12①教義18・23−25
13①モサ26・24−27

知らなければ、同じようなことがあなたがたの中で起こるであろう。

15したがって、あなたがたは確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるように、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるようにしてほしい。この永遠の救いと永遠の命は、天地の万物を創造された、あらゆるものに勝る神の知恵と力、公正、憐れみによって与えられるものである。アーメン。」

第6章

ベニヤミン王、民の名を記録し、彼らを教える祭司たちを任命する。モーサヤ、義にかなった王として統治する。紀元前約百二十四年から百二十一年に至る。

1さて、ベニヤミン王は民に語り終えると、神の戒めを守るという聖約を神と交わしたすべての人の名を書き留めておく方がよいと思った。

2そこで民は、幼い子供を除いて一人残らず聖約を交わし、キリストの名を受けた。

3そして、さらにベニヤミン王は、これらのことをすべて終えると、息子モーサヤを聖別して民の統治者とし、王とし、王国に関する一切の責任を彼にゆだねた。また、民を教える祭司たちも任命した。人々が神の戒めを聞いて知ることができるように、またすでに立てた誓いを思い起こすように促すためである。その後、ベニヤミン王は群衆を解散させた。そこで民は、それぞれ家族ごとに各自の家へ帰って行った。

4そして、モーサヤが父に代わって統治を始めた。モーサヤが統治を始めたのは三十歳の年であり、リーハイがエルサレムを去ってからおよそ四百七十六年後のことになる。

5そしてベニヤミン王は、その後三年生き長らえて死んだ。

6さて、モーサヤ王は主の道を歩み、主の掟と裁決を守り、主から命じられたすべてのことについて主の戒めを守った。

7またモーサヤ王は、民に地を耕させた。そして、彼自身も地を耕して、民に負担をかけることのないようにし、すべてのことについて、父の行ったとお

15①GS「聖め」「召しと選び」
②コロ1・16、モサ4・2、アル11・39

第6章
1①教義128・8
3①モサ1・10、2・30
②アル4・7
③GS「聖任」
④モサ5・5−7
4①GS「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」
②1ニフ1・4
7①2コリ11・9

りに行おうとした。そして三年間、民の中にはまったく争いがなかった。

第7章

アンモン、リムハイが王となっているリーハイ・ニーファイの地を発見する。リムハイの民、レーマン人の奴隷の状態にある。リムハイ、自分の民の歴史を語る。預言者（アビナダイ）はキリストが万物の神であり父であることを証した。汚れをまく者は旋風を受け、主を信頼する者は救われる。紀元前約百二十一年。

1さて、モーサヤ王は三年間引き続き平和を保った後、かつてリーハイ・ニーファイの地、すなわちリーハイ・ニーファイの町に住もうとして出て行った[1]人々のことを知りたいと思った。それは、その人々がゼラヘムラ[2]の地を去って以来、何の音さたもなかったので、民がうるさく訴えて王を煩わしたからである。

2そこでモーサヤ王は、十六人の屈強な男たちがリーハイ・ニーファイの地へ出かけて行って、同胞のことを調べるのを許した。

3そしてその翌日、彼らはアンモンという男とともに出発した。このアンモンは屈強な力の強い男で、ゼラヘムラの子孫であって、一行の統率者でもあった。

4さて、彼らは、リーハイ・ニーファイの地へ行くのに、荒れ野をどの方向へ旅をしてよいか分からなかったので、荒れ野の中をさまよった。実に、四十日間もさまよった。

5そして、四十日間さまよった後に、彼らはシャイロムの地の北方にある丘にたどり着き、そこに天幕を張った。[1]

6そしてアンモンは、一行の中からアマレカイ、ヘレム、ヘムという名の三人の同僚を連れて、ニーファイの地へ向かった。[1]

7すると見よ、彼らは、ニーファイの地とシャイロムの地に住む人々の王に出会った。そして、王の衛兵に取り囲まれて捕らえられ、縛られて牢に入れられてしまった。

8そして彼らは、牢に二日置かれてから再び王の前に連れて行かれ、縄を解かれた。そして彼らが王の前に立つと、王の問いに答えるのを許された。いや、

第7章
1 ① オム1・27−30
② オム1・13
5 ① モサ9・6、8、14
6 ① 2ニフ5・8

答えるように命じられた。
9 王は彼らに言った。「見よ、わたしはリムハイ[1]といって、ノアの息子である。ノアはゼニフの息子であり、このゼニフは先祖の土地であったこの地を継ごうとしてゼラヘムラの地から出て来て、民の声によって王となった者である。
10 ところで、わたしが衛兵と町の門の外にいたとき、おまえたちはなぜあえて城壁に近づいて来たのか。
11 わたしはそのことを尋ねるために、おまえたちを生かしておいた。そうでなければ、衛兵に殺させていたであろう。それでは、おまえたちが話すのを許す。」
12 さて、アンモンは話すのを許されたことを知ると、王の前に進み出て身をかがめ、また再び身を起こすと、次のように言った。「王様、わたしは今日、自分がまだ生きていて、話すのを許されたことを、神の御前に深く感謝しています。わたしは思い切って話したいと思います。
13 王様は、もしわたしのことを知っておられたら、きっとわたしを縛ることはなさらなかったでしょう。わたしはアンモンといって、ゼラヘムラの子孫[1]で、ゼニフがゼラヘムラの地から連れて出た同胞のことを調べるために、その地からやって来た者だからです。」
14 そこでリムハイは、アンモンの言葉を聞いて非常に喜んで言った。「ゼラヘムラの地にいた同胞が、今もなお生きていることが確かに分かった。うれしいことだ。明日、わたしの民にも喜んでもらおう。
15 見よ、我らは今、レーマン人の奴隷となって堪え難い税[1]をかけられている。しかしながら、見よ、同胞は我らを奴隷の状態から、すなわちレーマン人の手から救い出してくれるであろう。そうしたら、我らは同胞の奴隷になろう。レーマン人の王に貢ぎ物を納めるよりも、ニーファイ人の奴隷になる方がよい。」
16 そこでリムハイ王は衛兵たちに、もうアンモンも彼の同僚たちも縛ってはならないと命じた。そして、アンモンたちをシャイロムの北方にある丘に行かせ、同僚たちを町に連れて来させて、彼らが飲食し、旅の疲れをいやせるようにした。彼らは多くの苦しい目に遭い、飢えと渇きと疲労に苦しんできたからである。

9① モサ11・1
13① オム1・12−15
15① モサ19・15

17そして翌日、リムハイ王はすべての民の中に布告
を出し、すべての者が連れ立って神殿[1]に集まり、王
の語る言葉を聞くようにさせた。
18そして民が連れ立って集まると、リムハイ王は彼
らにこのように言った。「おお、わたしの民よ、頭を
上げて慰めを得なさい。見よ、我らがもはや敵に隷
従しなくて済む時が近づいている。それは遠い先の
ことではない。これまでの多くの戦いは実を結ばな
かったが、実りある戦いがまだ残されていること
を、わたしは確信している。
19だから、頭を上げて喜び、神[1]に頼りなさい。アブ
ラハム、イサク、ヤコブの神に頼りなさい。この神
はイスラエルの子らをエジプトの地から導き出し、
乾いた地を歩いて紅海を渡らせ、また彼らが荒れ野
で滅びることのないように、マナ[3]で彼らを養われ
た。そのほか、もっと多くのことをイスラエルの子
らのためになさった。
20さらに、この同じ神は、我らの先祖をエルサレム
の地から導き出し[1]、現在に至るまで御自分の民を守
ってこられた。見よ、その神が我らを奴隷の状態に
落とされたのは、我らの罪悪と忌まわしい行いのた
めである。
21今日、あなたがたは皆、わたしが次に述べること
の証人である。かつてこの民を治める王とされたゼ
ニフは、先祖の地を受け継ぎたいという望み[1]が強す
ぎたので、レーマン王の悪知恵と悪巧みにだまされ
てしまった。レーマン王はゼニフ王と条約を結び、
国の領土の一部であるリーハイ・ニーファイの町と
シャイロムの町、およびその周辺の土地をゼニフ王
の手に渡した。
22レーマン王がこうしたのは、この民を従える、す
なわち奴隷の状態に置く[1]というただ一つの目的が
あったからである。そして見よ、今我らは貢ぎ物と
して、とうもろこしの半分と大麦の半分とあらゆる
穀物の半分、および大小の家畜の群れの増加分の半
分をレーマン人の王に納めている。レーマン人の王
は、実に我らの持つ、すなわち所有するすべてのも
のの半分を、我らから厳しく取り立てる。これを出
さなければ、我らの命を求める。
23これは堪え難いことではないか。我らの受けてい
るこの苦難は、甚だしいではないか。見よ、嘆き悲
しんで当然ではないか。

17①　2ニフ5・16
19①　出エ3・6、1ニフ19・10
②　出エ12・40−41、アル36・28
③　出エ16・15、35、民数11・7−8、ヨシ5・12
20①　1ニフ2・1−4
21①　モサ9・1−3
22①　モサ10・18

24まことに、あなたがたに告げる。嘆き悲しんで当
然な理由がたくさんある。何と多くの同胞が殺さ
れ、血が無駄に流されたことか。これはすべて罪悪
の結果である。
25もしこの民が戒めに背かなかったならば、主はこ
のように大きな災いが民のうえに及ぶのを許されな
かったであろう。ところが見よ、民は主の御言葉に
聞き従おうとしなかった。そして、民の中に争いが
起こり、それが高じて彼らは血を流し合った。
26また彼らは主の[1]預言者、すなわち神の選ばれた人
も殺した。まことに、その人は民に彼らの悪事と忌
まわしい行いについて告げ、将来起こる多くのこ
と、まことにキリストの来臨さえ預言した。
27その人は民に、キリストは万物の父なる[1]神であら
れると述べ、またキリストは後に人の形を取られる
こと、そしてその形は人が初めにそれに倣って造ら
れた形であることを告げた。言い換えれば、人が[3]神
の形に造られたこと、また神が人の子らの中に降っ
て来て血肉を受け、地の面に出て行かれることを、
その人は民に告げたのである。
28さて、その人がそう言ったので、民は彼を殺して
しまった。また彼らは、ほかにももっと多くのこと
を行い、神の怒りを自分たちに招いたのである。だ
から、この民が現在奴隷の状態にあること、またひ
どい苦難に打たれていることを不思議に思う者がだ
れかいるであろうか。
29見よ、主は言われた。『わたしは、自分の民が戒め
に背く日にはこれを[1]助けず、彼らが栄えないように
その道をふさごう。彼らの行いは、彼らの前に置か
れたつまずきの石のようになる。』
30さらに主は、『わたしの民は、もし[1]汚れをまくなら
旋風の中でその殻を[2]取り入れることになる。そして
その結果は毒である』と言われる。
31また、『わたしの民は、もし汚れをまくなら、速や
かな滅亡をもたらす[1]東風を招くことになる』と言わ
れる。
32さて見よ、主の約束は果たされ、あなたがたは打
たれて苦しんでいる。
33しかし、もしあなたがたが十分に固い決意をもっ
て主に[1]立ち返り、主に頼り、力の限り主に仕えるな
らば、もしあなたがたがこのようにするならば、主
は御自分の意のまま、思いのままに、奴隷の状態か

26 1 モサ17・12—20
27 1 GS「神・神会」
2 創世1・26—28、エテ
3・14—17、教義20・17—
18 モサ13・33—34、15・
3 1—4
29 1 サ上12・15、歴下24・
20
30 1 GS「汚れ」
2 ガラ6・7—8、教義
6・33、GS「刈り入れ」
31 1 エレ18・17、モサ12・
33 1 モル9・6

ら救い出してくださるであろう。」

第 8 章

アンモン、リムハイの民を教える。アンモン、ヤレド人の二十四枚の版のことを知る。聖見者は昔の記録を翻訳することができる。聖見者の賜物より大いなる賜物はない。紀元前約百二十一年。

1さて、リムハイ王は民に多くのことを語ったが、わたしはその中からわずかな事柄だけをこの書に書き記した。王は民に語り終えると、ゼラヘムラの地にいる同胞についても、すべてのことを彼らに告げた。

2そして彼はアンモンを群衆の前に立たせて、ゼニフがゼラヘムラを立ち去ったときからアンモン自身がゼラヘムラを出るときまでに同胞に起こったことを、すべて詳しく語らせた。

3そこでアンモンはリムハイ王の民に、ベニヤミン王がゼラヘムラの民に教えた最後の言葉についても詳しく語り、またリムハイ王の民がベニヤミン王の語った言葉をすべて理解できるように、その言葉を解説した。

4そして、アンモンがこれをすべて終えると、リムハイ王は群衆を解散させ、一人残らず各自の家に帰らせた。

5そして王は、彼の民がゼラヘムラの地を出たときからの記録[1]が載っている版をアンモンの前に持って来させ、彼がそれを読めるようにした。

6さて、アンモンがその記録を読み終えるとすぐに、王は彼に外国の言葉を翻訳できるかどうか尋ねた。アンモンはできないことを王に告げた。

7そこで王はアンモンに言った。「わたしは民の苦難を見て悲しく思い、民の中から四十三人の者を荒れ野へ旅立たせた。彼らがゼラヘムラの地を見つけ、我らを奴隷の状態から救い出してくれるように同胞に頼めると思ったからである。

8ところが彼らは、幾日もの間荒れ野の中で迷ってしまった。それでも彼らは熱心に探したので、ゼラヘムラの地は見つからなかったものの、またこの地に戻って来た。その間、彼らは多くの水のある地方を旅し、人間と獣の骨が辺り一帯に散乱しており、またあらゆる建物の廃虚が一面に散在している地を

第8章
5 ① モサ9−22章

発見した。すなわち、イスラエルの大群ほどに数多くの人が住んでいた地を発見した。

9 そして彼らは、自分たちの語ることが真実であるという証拠として、文字が一面に刻んである二十四枚の版を持ち帰った。その版は純金でできている。[1]

10 また見よ、彼らは幾つかの大きな胸当ても持ち帰ったが、それらは[2]真鍮と銅でできており、まったく傷んでいない。[1]

11 さらに彼らは、剣も何本か持ち帰ったが、その柄は朽ち、刃はさびで腐食していた。ところで、その言葉、すなわちその版に刻まれている事柄を解釈できる者はこの地に一人もいない。だからあなたに、翻訳できるかと尋ねたのである。

12 わたしはもう一度言うが、あなたは翻訳のできる人をだれか知っているか。わたしはこの記録をわたしたちの言葉に翻訳してもらいたい。そうすればこの記録から、この記録を残して滅びた民の残りの者のことが恐らく分かるであろう。あるいは、滅びてしまったこの民そのものについて、分かるかもしれない。わたしは、彼らが滅びた訳を知りたい。」

13 そこでアンモンは王に言った。「王様、わたしはその記録を翻訳できる人を確かにお教えできます。[1]その方は、あるものを持っていて、それを使って見れば、昔の記録でもすべて翻訳することができます。それは神から授けられた賜物です。それは[2]解訳器と呼ばれており、神から命じられないかぎり、だれもそれをのぞいて見ることはできません。求めてはならないものを求めて滅びることのないためです。また、それをのぞいて見るように命じられる人は、[3]聖見者と呼ばれます。

14 まことに、ゼラヘムラの地にいる民の王が、これらのことを行うように命じられた方で、神からこの貴い賜物を授かっています。」

15 すると王は、「聖見者は預言者よりも偉大である」と言った。

16 そこでアンモンは言った。「聖見者は啓示者であり、預言者でもあります。だれ一人として持つことのできないこの神の力を備えていなければ、これより大いなる賜物をだれも持つことはできません。しかし、大きな力が神から授けられることもあります。

17 聖見者は過去のことも将来のことも知ることができます。解訳器によってすべてのことが示される

---

9 ① エテ 1・1−2
10 ① エテ 15・15
13 ① エテ 10・23
② モサ 28・10−17
③ GS「ウリムとトンミム」
GS「聖見者」

のです。というよりむしろ、秘密のことが明らかにされ、隠れたことが明るみに出るのです。知られていないことが解訳器によって知られるようになり、またほかの方法では知ることのできないことが、解訳器によって知られるようになります。

18 このように、神は人が信仰によって偉大な奇跡を行うことができるように、一つの手段を与えてくださいました。それでその人は、同胞に大きな利益をもたらすようになるのです。」

19 さて、アンモンがこれらの言葉を語り終えると、王は非常に喜び、次のように言いながら神に感謝した。「これらの版には疑いもなく大いなる奥義が載[1]っている。そしてその解訳器は、このようなすべての奥義を人の子らに明らかにするために備えられたものである。

20 おお、主の業は何と驚くべき業であろう。主は何と長い間、民のために耐えてこられたことか。人の子らは何と理解力がなく鈍感なことか。人の子らは知恵を求めようとせず、また知恵に支配されるのを望まない。

21 まことに人の子らは、羊飼いから逃げて散り散りになり、森の獣に追われてえじきになる野生の羊の群れのようだ。」

ゼニフの記録——ゼラヘムラの地を出てからレーマン人の手より救い出されるまでのゼニフの民の話。次の第九—二十二章がそれに相当する。

第9章

ゼニフ、リーハイ・ニーファイの地を所有するためにゼラヘムラから人々を率いて行く。レーマン人の王、彼らがその地を受け継ぐことを認める。レーマン人とゼニフの民の間に戦争が起こる。紀元前約二百年から百八十七年に至る。

1 わたしゼニフはニーファイ人の言葉のすべてを教えられており、また先祖の最初の受け継ぎの地であるニーファイ[1]の地のことも知っていたので、密偵としてレーマン人の中に遣わされた。それは、レーマン人の軍を偵察し、わたしたちの軍がこれを襲って滅ぼすためであった。しかし、わたしはレーマン人

---

19 ① エテ 3・21—28、4・4—5
第9章
1 ① 2ニフ 5・5—8、オム 1・12

の中に善いものがあるのを見て、彼らが滅ぼされないように願った。
2そこでわたしは、荒れ野で同胞と論争をした。わたしたちの統率者にレーマン人と条約を結んでもらいたかったからである。ところが、この統率者は冷酷で、血を流すことを好む男であったから、わたしを殺すように命じた。しかしわたしは、多くの流血の末に救い出された。父親同士が戦い、兄弟同士が戦って、とうとうわたしたちの軍の大半が荒れ野で死んでしまった。そこでわたしたち、すなわち命の助かった者は、ゼラヘムラの地に帰り、死んだ者の妻や子供たちにその出来事を話した。
3それでもわたしは、先祖の地を受け継ぎたいという望みが強すぎたので、行ってその地を所有したいと思う人々を皆集め、その地へ出て行こうと再び荒れ野へ旅立った。しかしわたしたちは、主なるわたしたちの神を思い起こすのが遅かったので、飢饉やひどい苦難に悩まされた。
4にもかかわらず、わたしたちは多くの日を荒れ野でさまよった末、前に同胞の殺された場所に天幕を張った。そこは、わたしたちの先祖の地に近い所であった。
5そしてわたしは、一行のうち四人の男たちを伴って再び町へ行き、王のもとを訪れた。それは、王の意向を知り、またわたしの民を連れてその地へ入り、平穏にその地を所有できるかどうかを知るためであった。
6王のもとに行くと、王はわたしにリーハイ・ニーファイの地とシャイロムの地を所有してもよいと誓約してくれた。
7王はまた、その地に住んでいる民に立ち退くように命じてくれた。そこでわたしとわたしの民はこの地に入り、ここを所有することになった。
8そこで、わたしたちは数々の建物を建設し、町の城壁、すなわち、リーハイ・ニーファイの町とシャイロムの町の城壁の補修に着手した。
9また、わたしたちは地を耕し、あらゆる種、すなわち、とうもろこしや小麦、大麦の種、またニアスや、シウム、それにすべての種類の果物の種をまき始めた。こうしてわたしたちはこの地で増え、栄え始めた。
10レーマン王がこの地を譲って、わたしたちがここ

を所有できるようにしてくれたのは、わたしの民を奴隷[1]にしようとする彼の悪知恵と悪巧みによるものであった。

11さて、わたしたちがこの地に住んで十二年たつと、レーマン王は、わたしの民が何らかの方法でこの地で強くなり、自分たちがわたしの民を打ち負かして奴隷にすることができなくなるのではないかと、心配になってきた。

12レーマン人は怠惰で偶像[1]を礼拝する民であったから、わたしたちを奴隷にして、わたしたちの手の労働によって腹を満たし、まことに、わたしたちの牧場の家畜の群れを飽きるほど食べたいと思っていた。

13そこでレーマン王が、民を扇動してわたしの民と戦わせるようにしたので、この地に戦争と争いが起こり始めた。

14ニーファイの地でのわたしの治世の第十三年に、民がシャイロムの地のはるか南で家畜の群れに水を飲ませ、草をはませ、また地を耕していたとき、レーマン人の大軍が襲いかかって彼らを殺し始め、家畜の群れと畑のとうもろこしを奪い始めた。

15そして、レーマン人に追いつかれなかった者は皆、ニーファイの町へ逃げ込み、わたしに保護を求めてきた。

16そこでわたしは、弓と矢、剣、三日月刀、こん棒、石投げ、そのほか考えつくかぎりのあらゆる武器で彼らを武装させた。そして、わたしと民はレーマン人と戦うために出陣した。

17まことにわたしたちは、主の力を受けて、レーマン人と戦うために出陣した。わたしと民は、先祖が救われたことを思い出し、わたしたちを敵の手から解放してくださるように主に熱烈に叫び求めた。

18すると神は、わたしたちの嘆願を聞き、祈りにこたえてくださった。そして、まことにわたしたちは神の力を受けて出て行き、レーマン人と戦って一昼夜に三千四十三人を殺した。わたしたちはレーマン人を殺して、とうとうわたしたちの地から彼らを追い払ってしまった。

19そしてわたしも、自分の手でレーマン人の死体を葬るのを手伝った。しかし見よ、わたしたちにとって非常に悲しく、また痛ましいことであるが、わたしたちの同胞も二百七十九人殺された。

10①モサ7・21−22
12①エノ1・20、GS「偶像礼拝」
18①モサ29・20

第10章

レーマン王、死ぬ。レーマン人は野蛮であり、残忍で、偽りの言い伝えを信じている。ゼニフと彼の民、レーマン人に勝利を得る。紀元前約百八十七年から百六十年に至る。

1さて、わたしたちは再び王国の確立に着手し、また再び平穏にその地を所有することになった。わたしはあらゆる武器を造らせ、レーマン人がまたやって来てわたしの民と戦いをするときに備えて、民が武器を持てるようにした。

2また、わたしはこの地の周囲に見張りの兵を置き、レーマン人がまた不意に襲って来て、わたしたちを滅ぼすことのないようにした。こうしてわたしは、民と家畜の群れを守って、敵の手に落ちないようにした。

3そして、わたしたちは長年、まことに二十二年の間先祖の地を受け継いだ。

4わたしは、男たちには地を耕させて、あらゆる穀[1)]物とあらゆる果物を栽培させた。

5そして、女たちには糸を紡がせ、骨折って働かせ、わたしたちの裸にまとうあらゆる織り目の細かい亜麻布と、あらゆる織[1)]物を織らせた。このようにして、わたしたちはこの地で栄え、二十二年間この地は引き続き平和であった。

6さて、レーマン王[1)]が死んで、代わって息子が統治を始めた。彼は、わたしの民に敵対して立ち上がるように、自分の民を扇動し始めた。そのため、彼らは戦争の準備を始め、攻めて来てわたしの民と戦おうとした。

7しかしわたしは、シェムロン[1)]の地の方々に密偵を出していた。そうすることによって、レーマン人の準備の状態を知って彼らに対する防備を固め、民が襲われて滅びることのないようにしたのである。

8さて、彼らは大軍でシャイロムの地の北方に進軍して来た。その兵は、[1)]弓と矢、剣、三日月刀、石、石投げで武[2)]装しており、頭をそり、腰に皮帯を締めていた。

9そこでわたしは、民の中の女子供を荒れ野に隠れさせた。そして、武器を持てる男たちを、年老いた者も若い者も皆、レーマン人と戦うために集合させ、それぞれの年齢に応じて整列させた。

第10章
1 ① モサ9・9
2 ① アル1・29
3 ① モサ9・10−11、24・
6 ① モサ11・12
7 ① アル3・4−5
8 ① ジェロ1・8

10そしてわたしたちは、レーマン人と戦うために出て行った。わたしも年老いていたが、レーマン人と戦うために出て行った。わたしたちは戦うために主[1]の力を受けて出て行った。

11さて、レーマン人は主についても主の力についてもまったく知らなかったので、自分の力だけを頼みにしていた。しかし、人の力について言えば、彼らは強い民であった。

12彼らは野蛮[1]で残忍で、血に飢えた民であって、先祖の言い伝え[2]を信じていた。彼らが信じている言い伝えとは、彼らの先祖はそのまた先祖の罪悪のためにエルサレムの地から追い出されたこと、そして、荒れ野で同胞から不当な扱いを受け、また航海中にも不当に扱われたということである。

13そしてまた、海を渡った後も、彼らは最初[1]の受け継ぎの地で不当な扱いを受けたというのであった。しかし、これはすべて、ニーファイが兄たちよりも忠実に主の戒めを守ったためである。そのためニーファイは主の恵み[2]を受けた。主はニーファイの祈りを聞いて、祈りにこたえられた。そしてニーファイは、荒れ野で彼らの旅を導いたのである。

14ところが兄たちは、主の計らいを理解[1]しなかったので、ニーファイに対して腹を立てた。彼らは主に対して心をかたくなにしたので、海の上でも彼に対して腹[2]を立てた。

15そしてまた、彼らは約束の地に着いてからも、ニーファイが民を治める[1]権限を自分たちから奪ったと言って彼に対して腹を立て、彼を殺そうとした。

16そしてまた、ニーファイが主に命じられるままに荒れ野へ出て行き、しかも真鍮の版に刻まれた記録[1]を持って行ったので、彼らはニーファイがその記録を自分たちから盗んだ[2]と言って、彼に対して腹を立てた。

17このようにして、彼らは子供たちに、ニーファイの子孫を憎むように、また彼らを殺すように、彼らから盗み、略奪し、彼らを滅ぼすためにできるかぎりのことをするように教えた。そのためにレーマン人は、ニーファイの子孫に対して、尽きることのない憎しみを抱いている。

18まさにこのために、レーマン王は悪知恵と悪巧みを働かせ、もっともらしい約束をしてわたしをだまし、この民をこの地へ連れて来るようにさせて、彼

---

10 ① GS「信頼」
10 ① アル17・14
12 ① ②
13 ① ニフ25・1−3
13 ② ニフ18・23
14 ① ニフ17・35
14 ② ニフ15・7−11
15 ① ニフ18・10−11
15 ② ニフ5・3
16 ① ニフ25・12
16 ② アル20・10、13

の民にわたしの民を滅ぼさせるようにしたのである。それでわたしたちは、長年の間この地で苦しんできた。

19 さて、わたしゼニフは、レーマン人についてこれらのことをすべて民に語り終えると、主を信頼して、力を尽くして戦いに出るように民を励ました。それからわたしたちは、レーマン人と相対して戦った。

20 そしてわたしたちは、レーマン人を再び自分たちの国から追い払った。わたしたちはレーマン人を大勢殺し、その人数は実に多かったので数えなかった。

21 そして、わたしたちは再び自分の土地へ帰り、民はまた家畜の群れの世話をし、地を耕し始めた。

22 さて、わたしは年老いて、王位を息子の一人に譲ったので、これ以上は述べない。主がわたしの民を祝福してくださるように。アーメン。

第11章

ノア王、邪悪な統治をし、妻やそばめたちとの放埒な生活にふける。アビナダイ、民が奴隷になることを預言する。ノア王、アビナダイの命をねらう。紀元前約百六十年から百五十年に至る。

1 さて、ゼニフが王位を息子の一人ノアに譲ったので、ノアが父に代わって統治を始めた。しかし、彼は父の道を歩まなかった。

2 見よ、ノア王は神の戒めを守らず、自分の心の望むままに歩んだ。彼は多くの妻とそばめ[1]を持ち、また民にも罪を犯させ[2]、主の目から見て忌まわしいことを行わせた。そして彼の民は、みだらなこととあらゆる悪事[3]とを行った。

3 また彼は、民が所有するすべてのものに五分の一の税をかけた。すなわち、民の金と銀の五分の一を、そしてジフと銅と真鍮と鉄の五分の一を、また民の肥えた若い家畜の五分の一を、それに穀物の五分の一を徴税した。

4 そして彼は、この税をすべて、自分自身と妻たちとそばめたち、また祭司たちとその妻たちとそばめたちの生活を支えるために取り立てた。このようにして彼は、王国の政務を変えてしまった。

5 彼はかつて父が任命した祭司たちをすべて辞めさ

第11章
2 ① ヤコ3・5
② 列上14・15−16、モサ29・31
3 ① ② ニフ28・15
2 ヘブライ語に、「輝く」（形容詞）、「金属で覆う、あるいは、かぶせる」（動詞）という意の類語がある

せ、代わりに高慢な、心の高ぶっている新しい祭司たちを任命した。
6このようにして、祭司たちは怠惰に暮らして、偶像を拝し、みだらな行いをしながら、ノア王が民に課した税で養われた。このように、民は罪悪を支えるために、非常な骨折りをしたのであった。
7そして民はまた、王や祭司たちのむなしいへつらいの言葉にだまされ、彼らも偶像を礼拝するようになった。王や祭司たちが民にへつらい事を語ったからである。
8そしてノア王は、風雅で広々とした建物をたくさん建て、それらの建物を見事な木細工と、金や銀、また鉄や真鍮やジフや銅などのあらゆる貴重な品から造った見事な細工で飾った。
9彼はまた、自分のために大きな宮殿を建ててその中に王座を設けたが、それらはすべて上等な材木で作り、金や銀や貴重な品で飾った。
10彼はまた職人たちに、上等な材木と銅と真鍮で、神殿内にあらゆる見事な細工をさせた。
11そして彼は、ほかのすべての座よりも高い、大祭司たちのために設けられた座を純金で飾った。そして、大祭司たちがむなしい偽りの言葉を民に述べるときに、体と腕をもたせかけることができるように、台を作らせた。
12そして彼は、神殿の近くに一つの塔[1]、つまり非常に高い塔を建てた。それはきわめて高く、その上に立てば、シャイロムの地と、レーマン人の所有しているシェムロンの地と、付近一帯の地を見渡すことができた。
13そして彼は、シャイロムの地にも多くの建物を建てさせ、シャイロムの地の北方の丘の上にも一つの大きな塔を建てさせた。そこはかつてニーファイの子らが、この地から逃げ出したときに集合場所とした所であった。ノア王は民に課税して得た富でこのように行った。
14さて、王は富に心を寄せ、妻たちやそばめたちとの放埒な生活に時を過ごした。また、王の祭司たちも娼婦たちと時を費やした。
15そして彼は、国内の至る所にぶどう園を設け、ぶどうの搾り場を設けてぶどう酒をたくさん造った。そのために、彼も民も大酒飲み[1]になってしまった。
16そこで、少数でいるノア王の民を、畑にいるとき

12 ① GS モサ19・5−6「知恵の言葉」
15 ①

や家畜の群れの世話をしているときに、レーマン人が襲いかかって殺すようになった。

17 そこでノア王は、レーマン人の来襲を防ぐために見張りの兵を国の周囲に送った。しかし、彼が十分な数の兵を送らなかったので、レーマン人は民を襲って殺し、この国から家畜の群れをたくさん連れ去った。このようにして、レーマン人は彼の民を滅ぼし始め、また彼らに憎しみをあらわにするようになった。

18 そこでノア王は軍隊を送り、彼らを撃退した。すなわち、ノア王の軍は一時レーマン人を撃退した。そこで彼らは分捕り品を得たことを喜びながら帰って来た。

19 さて、この大勝利のために、ノア王の民は高慢な心を募らせ、[1]おごり高ぶりながら、自分たちの五十人は数千人のレーマン人に立ち向かうことができると言って、血を見ることと同胞の血を流すことを喜んだ。これは、王や祭司たちの悪事がもたらしたものである。

20 さて、ノア王の民の中に、[1]アビナダイという名の一人の男がいた。彼は人々の中に出て行って、預言して言った。「見よ、主は次のように言われ、次のようにわたしに命じられた。『出て行って、この民に主が次のように言われると告げなさい。この民は災いである。わたしはこの民の忌まわしい行いと、悪事と、みだらな行いを見たからである。悔い改めなければ、わたしは怒って彼らを罰しよう。

21 彼らが悔い改めて主なる神に立ち返らなければ、見よ、わたしは彼らを敵の手に渡そう。彼らは奴隷になり、敵の手によって苦しめられるであろう。

22 そして彼らは、わたしが主なる神であり、わたしの民の罪悪を罰するねたむ[1]神であることを知るようになる。

23 そしてこの民は、悔い改めて主なる神に立ち返らなければ、奴隷になるであろう。そのときには、主なる全能の神のほかに、だれも彼らを救うことができない。

24 そして、彼らがわたしに叫び求めても、わたしはその叫びを聞き届けることを[1]遅くし、彼らが敵に打たれるままにしよう。

25 彼らが粗布をまとい、灰をかぶって悔い改め、主なる神に熱烈に叫び求めなければ、わたしは彼らの

---

19 ① 教義3・4、GS「高慢」
20 ① GS「アビナダイ」
21 ① モサ12・2、20・21、21・13−15、23・21−23
22 ① 出エ20・5、申命6・15、モサ13・13
24 ① ミカ3・4、モサ21・15

祈りを聞き届けず、彼らを苦難から救い出すこともしない。『主はこのように言われ、このようにわたしに命じられた。」

26 さて、アビナダイが人々にこれらの言葉を語り終えると、人々は彼に腹を立てて、彼の命を奪おうとした。しかし主は、アビナダイを彼らの手から救い出された。

27 ノア王はアビナダイが人々に語った言葉を伝え聞くと、彼もまた腹を立てて言った。「わたしとわたしの民を裁くアビナダイとは何者か。そのようにひどい苦難をわたしの民にもたらす主とは何者か。

28 わたしが殺すことのできるように、アビナダイをここに連れて来るよう、おまえたちに命じる。その男はわたしの民を扇動して互いに怒らせ、民の中に争いを生じさせようとして、これらのことを述べた。だからわたしはその男を殺そう。」

29 さて、人々は目をくらまされていたので、アビナダイの言葉に対して心をかたくなにした。それで彼らは、そのときからアビナダイを捕らえようとした。またノア王は、主の言葉に対して心をかたくなにし、自分の悪い行いを悔い改めなかった。

第12章

アビナダイ、民の滅亡とノア王の死を預言して投獄される。偽祭司たち、聖文を引用し、モーセの律法を守っていると主張する。アビナダイ、彼らに十戒を教え始める。紀元前約百四十八年。

1 さて、それから二年後、アビナダイは人に分からないように姿を変えてやって来て、人々の中で預言し始めた。「主はわたしに次のように命じられた。『アビナダイよ、行ってわたしのこの民に預言しなさい。彼らは、わたしの言葉に対して心をかたくなにしており、まだ自分たちの悪い行いを悔い改めていない。それゆえ、わたしは怒って彼らを罰する。まことに、彼らの罪悪と忌まわしい行いに対して、わたしは激しく怒って彼らを罰しよう。

2 まことに、この時代の人々は災いである。』主はまたわたしに言われた。『あなたの手を伸ばし、次のように預言しなさい。主はこのように言われる。この時代の者たちは罪悪のために奴隷にされ、頬を打たれ、人々に追われて殺される。また、空を飛ぶはげたかと、犬と、野獣がその肉を食う。

---

25 ① イザ1・15、59・2
27 ① 出エ5・2、モサ12・
29 ① モセ4・4
13 ② アル33・20、エテ11・

第12章

1 ① イザ65・6
2 ① モサ11・21、20・21、
② 21・13−15、23・21−23
モサ21・3−4

3 そして、ノア王の命は、熱い炉[1]の中の衣[2]ほどの値打ちもなくなる。彼はわたしが主であることを知るであろう。

4 そして、わたしはこの民をひどい苦難で、また飢饉と疫病[1]で打とう。彼らは終日泣きわめく[2]であろう。

5 また、わたしは、彼らが重荷[1]を背に負わされ、物を言えないろばのように追い立てられるようにしよう。

6 また、わたしは、彼らの中に雹を降らせ、彼らを打たせよう。彼らは東風[1]にも悩まされるであろう。また、昆虫[2]が彼らの地を襲い、穀物を食うであろう。

7 また、彼らはひどい疫病に悩まされるであろう。わたしは、彼らの罪悪[1]と忌まわしい行いのゆえに、すべてこのように行おう。

8 そして、彼らが悔い改めなければ、わたしは彼らを地の面からことごとく滅ぼし[1]去ってしまおう。しかし彼らは記録[2]を後に残すであろう。わたしはその記録を将来、この地を所有するほかの国民のために残そう。わたしがこのように行うのは、この民の忌まわしい行いをほかの国民に明らかにするためである。』」アビナダイはこのほか、この民に災いとなる多くの事柄を預言した。

9 そこで人々は彼のことを怒り、彼を捕らえて縛り上げ、王の前に連れて行った。そして、王に言った。「御覧ください。あなたの民について災いを預言し、神がこの民を滅ぼすと語った男を御前に連れてまいりました。

10 この男はまた、あなたの命についても災いを預言し、あなたの命は火の燃える炉の中の衣のようになると言っています。

11 この男はまた、あなたが草の茎、それも獣に踏まれて足で踏みにじられる、野の枯れた茎のようになると言っています。

12 この男はまた、あなたのことを、満開のときに風が吹けば地面に吹き散らされてしまうあざみの花のようになると言っています。そしてこの男は、主がそのように語ったと主張しています。またこの男は、あなたが悔い改めなければ、このことはすべてあなたに起こる、あなたの罪悪のためにこのことが起こると言っています。

---

3 ① モサ12・10
4 ① 教義97・26
② モサ19・20
5 ① モサ21・9−10
6 ① モサ21・3
② エレ18・17、モサ7・
31 出エ10・1−12
② 教義3・18
7 ① アル45・9−14
8 ① モル8・14−16
②

13 王様、あなたがどのような大きな悪事をなさり、
またあなたの民がどのような重大な罪を犯したの
で、わたしたちは神から罪に定められ、またこの男
から裁かれなければならないのでしょうか。
14 王様、わたしたちには罪はありません。王様、あ
なたもこれまで罪を犯してはこられませんでした。
ですから、この男があなたについて語ったことは偽
りであり、ありもしないことを預言したのです。
15 まことに、わたしたちは強いので、これから先、
奴隷になることも、敵に捕らえられることもありま
せん。そして、あなたはこの地で栄えてこられまし
たし、今後も栄えられることでありましょう。
16 御覧ください。ここにいるのがその男です。わた
したちはこの男をあなたの手にお渡ししますので、
お好きなようになさってください。」
17 そこでノア王は、アビナダイを牢に投げ込ませ
た。そして、1)祭司たちに集まるように命じ、アビナ
ダイをどのようにするかについて、彼らと協議する
ための会合を開いた。
18 そこで祭司たちは王に、「その男をここへ連れて
来て、わたしたちが尋問できるようにしてくださ
い」と言った。そこで王は命令を下して、アビナダ
イを祭司たちの前に連れて来させた。
19 そこで祭司たちは彼に尋問し始め、彼に矛盾した
ことを言わせて、彼を訴える口実を得ようとした。
しかし、アビナダイは大胆に答え、まことに祭司た
ちが驚くほど、彼らのすべての問いを論破した。ア
ビナダイはすべての問いについて彼らを1)論破し、彼
らのすべての言葉について彼らを言い負かした。
20 そこで、祭司の中の一人がアビナダイに言った。
「記録に記されていて、わたしたちの先祖から教わ
ってきた次の言葉はどういう意味か。
21 『1)よきおとずれを伝え、平和を告げて広め、善の
よきおとずれを伝え、救いを告げて広め、シオンに
向かって「あなたの神が統治しておられる」と言う
者の足は、山の上にあって何と麗しいことであろ
う。
22 あなたの見張り人は声を上げ、声を合わせて歌
う。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれを
目の当たりに見るからである。
23 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、とも
に歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖わ

17 ① モサ11・11
19 ① 教義100・5—6
21 ① イザ52・7—10、ナホ1・15

れたからである。
24 主はその聖なる腕を、すべての国民の目の前に現
された。地の果てに至るすべての人は、わたしたち
の神の救いを見るであろう』とある。」
25 そこでアビナダイは彼らに答えた。「あなたがた
は祭司[1]であり、また自分たちはこの民を教えてお
り、預言の霊に通じていると主張していながら、こ
れらのことが何を意味するかをわたしから聞いて知
りたいと言うのか。
26 わたしはあなたがたに言う。主の道を曲げている
あなたがたは災いである。あなたがたはこれらのこ
とを理解しているかもしれないが、それを民に教え
てこなかったので、主の道を曲げてきたことになる。
27 あなたがたは心を注いで理解しようとしてこなか
った。したがって、あなたがたは賢明ではなかった。
あなたがたはこの民に何を教えているのか。」
28 すると彼らは、「我々はモーセの律法を教えてい
る」と言った。
29 そこでアビナダイはまた彼らに言った。「もしあ
なたがたがモーセ[1]の律法を教えているのならば、な
ぜそれを守らないのか。なぜあなたがたは富に執
着するのか。なぜみだら[2]な行いをし、娼婦と過ごし
て精力を費やすのか。また、なぜこの民に罪を犯さ
せるのか。それゆえ主はこの民に対して預言を、ま
ことにこの民に対して大きな災いの預言を述べるた
めに、わたしを遣わされたのである。
30 あなたがたは、わたしが真実を語っているのを知
らないのか。いや、あなたがたは、わたしが真実を
語っているのを知っている。だからあなたがたは、
神の御前で震えおののかなければならない。
31 そしてあなたがたは将来、自分の罪悪のために打
たれるであろう。あなたがたはモーセの律法を教え
ていると言っているからである。モーセの律法につ
いてあなたがたが知っているのは何か。モーセ[1]の律
法によって救いが与えられるのか。あなたがたは何
と答えるか。」
32 すると彼らは、モーセの律法によって救いが与え
られると答えた。
33 そこでアビナダイは彼らに言った。「あなたがた
が神の戒めを守れば救われることを、わたしは知っ
ている。まことに、主がシナイ[1]の山でモーセに告げ

24 ①1 ニフ22・11
25 ①1 モサ11・5
27 ①1 GS「理解」
29 ①1 GS「モーセの律法」
31 ①2 GS「姦淫」、モサ3・15、13・27—
32 アル25・16、出エ19・9、16—20、
33 ①1 モサ13・5

られた戒めを守るならば、あなたがたは救われる。その戒めは次のとおりである。

34 『[1]わたしは主なるあなたの神であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出した者である。

35 あなたはわたし[1]のほかに、何ものをも神としてはならない。

36 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるものの、どのような形をも造ってはならない。』

37 そしてアビナダイは彼らに言った。「あなたがたはこれをすべて守ってきたか。いや、守ってこなかったとわたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの民に、これらのことをすべて守るように教えてきたか。いや、教えてこなかったと、わたしはあなたがたに言う。」

第13章

アビナダイ、神の力によって守られる。十戒を教える。救いはモーセの律法だけでは与えられない。将来、神御自身が贖罪を行われ、御自身の民を贖われる。紀元前約百四十八年。

1 さて、王はこれらの言葉を聞くと、祭司たちに、「この男を連れ出して、殺してしまえ。我らはこの男と何のかかわりがあるか。この男は気が狂っている」と言った。

2 そこで祭司たちが前に出て、アビナダイを捕らえようとしたところ、アビナダイは彼らを防いで言った。

3 「わたしに触れるな。わたしに手をかければ、神があなたがたを打たれるであろう。わたしは、主がわたしを遣わして告げさせようとされたことをまだ伝え終えていない。また、あなたがたがわたしに説明するように求めたことについても、まだ説明していない。したがって、神はわたしが今滅ぼされることを許されない。

4 わたしは神から受けた命令を果たさなければならない。わたしが真実を告げたので、あなたがたはわたしに対して怒っている。また、神の御言葉を告げたので、あなたがたはわたしを気が狂っていると言って裁いた。」

5 さて、アビナダイがこれらの言葉を語ったところ、ノア王の民はあえて彼に手をかけようとしなか

---

34 ① 出エ20・2−4
② 出エ12・51、1ニフ
35 ① 17・40、モサ7・19
ホセ13・4、GS「偶像礼拝」
37 ① モサ13・25−26
第13章
3 ① モサ12・20−24

った。主の御霊がアビナダイのうえにあったからである。そして、彼の顔は非常な輝きを放っていた。それはまるで、モーセがシナイの山で主と語ったときの顔の輝きのようであった。

6 そしてアビナダイは、神から受けた力と権能をもって語り、言葉を続けた。

7 「あなたがたは、わたしを殺す力があなたがたにないことを知っている。だからわたしは、自分の伝えたいことを言ってしまおう。わたしはあなたがたの罪悪について真実を告げるので、それがあなたがたの心を刺すことを承知している。

8 そして、わたしの言葉によってあなたがたは不思議な思いと驚きと、また怒りに満たされている。

9 しかし、わたしは自分の言うことを伝えてしまおう。その後、自分がどこへ行くことになろうとかまわないし、救われればそれでよいと思っている。

10 ただ、これだけはあなたがたに言っておく。これから後あなたがたがわたしに対してすることは、将来起こることの予型であり、影となる。

11 さて、あなたがたに神の戒めの残りの部分を読んで聞かせよう。これらの戒めが、まだあなたがたの心に書き記されていないことが分かるからである。あなたがたがこれまで人生の大半を、罪悪を習い、教えることに費やしてきたことを、わたしは知っているからである。

12 さて、あなたがたが覚えているように、わたしは前にこう言った。『あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。』

13 さらに、このようにある。『あなたはそれらにひれ伏してはならない。それらに仕えてはならない。主なるあなたの神であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎む者には、先祖の罪悪を子孫に報いて、三代、四代にまで及ぼし、

14 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、千代に及ぶまで憐れみを示すからである。

15 あなたは、主なるあなたの神の名をみだりに唱えてはならない。主は、その名をみだりに唱える者を、罪のない者とはしないからである。

16 安息日を覚えて、これを聖なる日として保ちなさい。

---

5 1) 出エ34・29−35
6 1) GS「力」
7 1) 1ニフ16・2
10 1) モサ17・13−19、アル25・10
11 1) 出エ20・1−17
16 1) GS「安息日」

17 六日の間働いて、あなたのすべての仕事をしなさい。
18 しかし、七日目、すなわち主なるあなたの神の安息日には、あなたはどのような仕事もしてはならない。あなたもあなたの息子、娘、僕、はしため、家畜、それにあなたの門の内にいる来訪者もそうである。
19 主は[1]六日の間に、天地と海と、その中にある万物を造ったからである。それで、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。
20 あなたの父と母を敬いなさい。主なるあなたの神があなたに与える地で、末長く暮らせるためである。
21 あなたは[1]殺してはならない。
22 あなたは[1]姦淫してはならない。あなたは[2]盗んではならない。
23 あなたは隣人に対して[1]偽証してはならない。
24 あなたは隣人の家を[1]むさぼってはならない。隣人の妻も、僕も、はしためも、牛も、ろばも、何であっても隣人のものをむさぼってはならない。』」
25 さて、アビナダイはこれらの言葉を語り終えると、彼らに次のように言った。「あなたがたはこれらの戒めを守るために、これらのことをすべて努めて行うようこの民に教えてきたか。
26 いや、教えてこなかったと、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが教えていれば、主はわたしを遣わして、この民について災いを預言させるようなことはされなかったであろう。
27 さて、あなたがたは先ほど、救いはモーセの律法によって与えられると言った。わたしはあなたがたに言う。今はまだ[1]モーセの律法を守る必要がある。しかし将来、もはやモーセの律法を守る[2]必要のない時が来ることを、あなたがたに言っておく。
28 そしてさらに、わたしはあなたがたに言う。[1]救いは[2]律法だけで与えられるものではない。もしも神御自身が民の罪と不義のために行われる[3]贖罪がなければ、たとえモーセの律法があっても、彼らは滅びるほかはない。
29 さて、わたしはあなたがたに言う。イスラエルの子らに律法が、まことに非常に[1]厳しい律法が与えられたのは必要なことであった。彼らは強情な民で、罪悪を行うことは[2]早いが、主なる彼らの神を思い起

19 ① 創世1・31
20 ① マコ7・10
21 ① 42・18、GS「殺人」
22 ① GS「姦淫」
② GS「盗み」
23 ① 箴言24・28、GS「偽り」
24 ① GS「貪欲・むさぼり」
27 ① GS「モーセの律法」
② 3ニフ9・19—20、15・4—5
28 ① ガラ2・16、GS「贖い・贖う」
② ガラ2・21、モサ3・14—15、アル25・15—16
29 ② ① ③ GS「贖罪」
② ヨシ1・7—8、アル46・8

こすことの遅い民であったからである。
30そこで、彼らに律法が、まことに、勤めと儀式の律法が与えられた。その律法は、神と、神に対する義務を思い起こさせるために、日々厳密に守らなければならないものであった。
31しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのものはすべて、将来起こることの予型であった。
32さて、彼らは律法を理解しただろうか。いや、すべての者が理解したわけではないとわたしはあなたがたに言う。それは、彼らの心がかたくなであったからである。神の贖いによらなければだれも救われないことを、彼らは理解しなかった。
33見よ、モーセはメシヤの来臨について、また神が御自分の民を贖われることについて、彼らに預言しなかったであろうか。また、世界が始まって以来、預言を述べてきたすべての預言者たちも、これらのことについて多少にかかわりなく述べてこなかったであろうか。
34神御自身が人の子らの中に降って来て、人の形を取り、偉大な力をもって地の面に出て行かれることを、彼らは述べてこなかったであろうか。
35また、神が死者の復活をもたらされることと、神御自身が虐げられ、苦しめられることも、彼らは述べてこなかったであろうか。」

第14章

イザヤ、メシヤについて述べる。メシヤが受けられる屈辱と苦難が宣言される。メシヤは御自分を罪のためのささげ物とし、背く者のために執り成しをされる。イザヤ書第五十三章と比較せよ。紀元前約百四十八年。

1「まことにイザヤは次のように述べているではないか。『だれがわたしたちの告げたことを信じたか。主の腕はだれに現されたか。
2彼は主の前に、か弱い苗木のように、また乾いた土から出る根のように育つ。彼には見目の良さもなく、華麗さもない。わたしたちが彼を見るときに、彼を慕うような美しさも彼にはない。
3人々から侮られて捨てられている彼は悲しみの人で、悲哀を知っている。そこでわたしたちは、彼から顔を背けるかのように振る舞った。彼は侮られ、

30 ① 出エ20章 GS「儀式」
31 ① ② ③ ヤコ4・5 モサ16・14、アル25・15、GS「象徴」
32 ① 2ニフ25・23−25
33 ① 1ニフ10・5、ヤコ4・4、7・11
34 ① モサ7・27、15・1−3、GS「神、神会」
35 ① イザ26・19、2ニフ2・8

わたしたちは彼を尊ばなかった。
4 まことに彼はわたしたちの悲哀を負い、わたしたちの悲しみを担った。ところがわたしたちは彼のことを、打たれ、神に罰せられ、苦しめられているのだと受け止めた。
5 しかし彼は、わたしたちの背きのために刺し貫かれ、わたしたちの罪悪のために傷つけられた。わたしたちの平安のために、懲らしめが彼に及んだ。彼の鞭の打ち傷によって、わたしたちは癒されている。
6 わたしたちは皆、羊のように迷って、各々自分の道に向かって行った。主はわたしたちすべての者の罪悪を彼に負わせられた。
7 彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかった。彼は小羊のようにほふり場に引かれて行く。毛を刈る者の前の物を言わない羊のように、彼は口を開かなかった。
8 彼は獄から連れ去られ、裁きから取り去られたが、だれが彼の子孫であると名乗るだろうか。なぜなら、彼は生きている者の地から絶たれたからである。また、わたしの民の背きのために、彼は打たれたからである。
9 また彼は、悪人とともにその墓を設け、死んでは富裕な者とともにあった。なぜなら、彼は決して悪を行わず、その口には少しの欺きもなかったからである。
10 それでも、彼を傷つけることは主の御心にかなっていた。主は彼に苦痛を受けさせられた。あなたが彼を罪のささげ物とするとき、彼は自分の子孫を見てその命を延ばし、主の御心は彼の手によって栄える。
11 彼は自分自身の苦しみを知り、それに満足する。彼の知識により、わたしの義にかなった僕は多くの者を義とするが、それは、彼が彼らの罪悪を身に負うからである。
12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者とともに物を分かち取らせ、得たものを強い者に分け与えよう。彼が自分の魂を死に至るまで注いだからである。彼は背く者たちとともに数えられ、多くの者の罪を負い、背く者たちのために執り成しをした。』」

第15章

キリストが御父であり、御子である理由。キリスト

第14章
4 ① マタ8・17
5 ① アル7・11−12、② モサ15・9、アル11・40
6 ① 1ペテ2・24−25、② マタ9・36、2ニフ28・14、アル5・37
7 ① マコ15・3−5、GS「イエス・キリスト」、② GS「神の小羊」「過越」
9 ① マタ27・57−60、マコ15・27、43−46、GS「ヨセフ（アリマタヤの）」、② ヨハ19・4
10 ① モサ15・10−13
11 ① レビ16・21−22、1ペテ3・18、教義19・16−19
12 ① 2ニフ2・9、モサ15・8、モロ7・27−28

は執り成しをし、御自分の民の背きを身に負われる。キリストの民とすべての聖なる預言者たちは、キリストの子孫である。キリストは復活をもたらされる。幼い子供たちは永遠の命を得る。紀元前約百四十八年。

1 さて、アビナダイは彼らに言った。「わたしはあなたがたに、1)神御自身が人の子らの中に降って来て、御自分の民を2)贖われるということを理解してほしいと思う。

2 この神は肉体に宿られるので、神の御子と呼ばれる。またその肉体を御父の御心に従わせられるので、御父にして御子なのである。

3 1)御父とは、神の力によって胎内に宿られるからであり、御子とは、肉体を持たれるからである。このようにして、御父にもなり、御子にもなられるのである。

4 そして御二方は一つの神、まことに、天地のまことの永遠の2)父であられる。

5 このように、肉体が御霊に従い、あるいは御子が御父に一つの神として従われた後、御子は1)誘惑を受けてもその誘惑に負けず、かえって御自分の民から2)あざけられ、鞭打たれ、追い出され、3)拒まれるままになさる。

6 そして、このようなことの後、また人の子らの中で多くの大きな奇跡が行われた後、この御方は、1)イザヤが、『毛を刈る者の前の物を言わない羊のように、彼は口を2)開かなかった』と言ったように連れて行かれる。

7 まことにこの御方は連れて行かれて、1)十字架につけられ、殺され、その肉体は死に従うが、御子の2)御心は御父の御心にのみ込まれてしまう。

8 こうして、神は1)死の縄目を断って死に2)対して勝利を得、人の子らのために3)執り成しをする力を御子に授けられる。

9 また天に昇り、憐れみの心を持ち、人の子らを哀れむ思いに満たされており、人の子らと正義の間に立ち、死の縄目を断ち、人の子らの罪悪と背きを身に負い、彼らを贖い、正義の要求を満たされる。

10 さて、わたしはあなたがたに言うが、だれが御子の子孫であると名乗るであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。御子は罪のためのささげ物にされると、御自分の1)子孫を御覧になる。では、あなた

第15章

1 ① 1テモ3・16、モサ13・33−34、GS「イエス・キリスト」
② GS「贖い・贖う」モサ3・5、7・27、アル7・9−13
2 ① ② 5・12
3 ① ② 教義93・4
② ルカ1・31−33、モサ3・8−9、アル7・10、3ニフ1・14
4 ① 申命6・4、ヨハ17・20−23、GS「神・神会」
② アル11・39
③ モサ3・8、ヒラ14・12、3ニフ9・15、エテ4・7
5 ① ルカ4・2、ヘブ4・15
② ヨハ19・1、マコ8・31、ルカ17・25
③ イザ53・7
6 ① ルカ23・9、ヨハ19・9
② モサ14・7
7 ① GS「十字架の刑」
② ルカ22・42、ヨハ6・38
8 ① 3ニフ11・11、モサ16・7、アル22・14
② ホセ13・14、1コリ15・55−57
9 ① 2ニフ2・9
② イザ53章、モサ14・15
③ 5・12
10 ① GS「贖罪」
② イザ53・10、モサ5・7、27・25、モロ7・19

がたは何と答えるか。御子の子孫とはだれか。
11 見よ、わたしはあなたがたに言う。[1]預言者たち、まことに、主の来臨について預言してきたすべての聖なる預言者の言葉を聞いた人々、預言者たちの言葉を聴き、主が御自分の民を贖われることを信じ、自分たちの罪の赦しのためにその日を待ち望んできたすべての人、わたしはあなたがたに言うが、これらの人々が御子の子孫なのである。すなわち、彼らは神の[2]王国を受け継ぐ者である。
12 これらの人々は、[1]御子が罪を負ってくださる人々だからである。御子はこれらの人々を背きから贖おうとして、彼らのために死なれた。だから彼らは、御子の子孫ではないだろうか。
13 また、口を開いて預言し、戒めに背くことのなかったすべての預言者、すなわち世界が始まって以来のすべての聖なる預言者も、御子の子孫ではないだろうか。彼らは御子の子孫であると、わたしはあなたがたに言う。
14 そして彼らは、平和を告げて広め、善のよきおとずれを伝えた人々であり、救いを告げて広め、シオンに向かって、『あなたの神が統治しておられる』と言った人々である。
15 おお、彼らの足は山の上にあって何と麗しかったことであろう。
16 そしてまた、今なお平和を告げて広めている者たちの足も、山の上にあって何と麗しいことであろう。
17 そしてまた、これから後とこしえに平和を告げて広める者たちの足も、山の上にあって何と麗しいことであろう。
18 見よ、わたしはあなたがたに言うが、これだけではない。おお、よきおとずれを伝えられる御方、[1]平和の創始者、すなわち御自分の民を贖われた主、御自分の民に救いを授けられた御方、まことに、この御方の[2]足は、山の上にあって何と麗しいことであろう。
19 もし、御自分の民のために主が行われる、[1]世の初めから備えられた贖いがなければ、わたしはあなたがたに言うが、これがなければ、全人類は[2]滅びるほかはなかった。
20 しかし見よ、死の縄目は断たれ、御子が統治し、死者を治める力を持たれる。そこで、御子は死者の復活をもたらされる。

11 ① 教義84・36−38　② GS「神の王国・天の王国」「救い」
12 ① モサ14・12、アル7・13、11・40−41
14 ① イザ52・7、ロマ10・15、1ニフ13・37、モサ12・21−24、GS「伝道活動」
18 ① ヨハ16・33、GS「平安・平和」　② 3ニフ20・40、教義128・19
19 ① モサ4・6　② 2ニフ9・6−13

21 こうして、復活が起こる。これは第一の復活、すなわち、過去の人々と、現在の人々と、キリストの復活までの将来の人々の復活である。御子はキリストと呼ばれる。

22 さて、すべての預言者と、預言者たちの言葉を信じた人々、すなわち神の戒めを守ったすべての人の復活は、最初の復活の時にある。したがって、その復活は第一の復活である。

23 彼らはよみがえって、彼らを贖ってくださった神とともに住む。このようにして彼らは、死の縄目を断ってくださったキリストによって、永遠の命を得るのである。

24 彼らは、第一の復活にあずかる人々である。また、これらの人々こそ、救いのことを告げ知らされなかったために無知のままで、キリストが来られる前に死んだ人々である。主はこれらの人々に回復をもたらされる。そして彼らは、主に贖われて第一の復活にあずかり、永遠の命を得る。

25 また、幼い子供たちも永遠の命を得る。

26 しかし見よ、あなたがたは神の御前で畏れ、震えおののきなさい。あなたがたは震えおののいて当然である。主は、御自分に背いて罪の中で死ぬ者、すなわち、世界が始まって以来、故意に神に背き、神の戒めを知っていながらそれらを守ろうとせず、罪の中に滅びてしまったすべての者については、決して贖いをなさらないからである。これらの者は、第一の復活に決してあずかれない者たちである。

27 だから、あなたがたは震えおののいて当然ではないか。救いはこのような者には決して与えられない。主はこのような者を贖われないからである。まったく、主はこのような者を贖うことがおできにならない。主は御自分の御言葉をお取り消しになれないからである。主は正義がその権利を主張するときに、正義を拒むことがおできにならないからである。

28 さて、あなたがたに言っておく。将来、主の救いがあらゆる国民、部族、国語の民、民族に告げ知らされる時が来るであろう。

29 まことに主よ、あなたの見張り人は声を上げ、声を合わせて歌うことでしょう。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれを目の当たりに見るからです。

---

21 ①1 アル40・16−21
23 ①1 詩篇24・3−4、1ニフ15・33−36、教義76・50−70
24 ①2 GS「死（肉体の）」
　②2 ニフ9・25−26、教義137・7
25 ①1 教義29・46、137・10、GS「救い−幼い子供たちの救い」
26 ①1 申命5・29、ヤコ6・9
　②1 ニフ2・21−24
　③2 エゼ18・26、1ニフ15・32−33、モロ10・26
　④4 アル40・19
　⑤1 教義76・81−86
27 ①1 アル34・15−16、42・1
28 ①1 GS「伝道活動」
29 ①1 GS「見守る・見守る者」

30 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、ともに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖われたからである。

31 主はその聖なる御腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、わたしたちの神の救いを見るであろう。」

第16章

神は人々を、迷い堕落した状態から贖われる。肉欲にふける者は、あたかも贖いがないかのような状態にとどまる。キリストは復活をもたらし、人は無窮の命か、無窮の罰の定めを受ける。紀元前約百四十八年。

1 さて、アビナダイはこれらの言葉を語り終えると、手を伸ばして言った。「将来、すべての人が主の救い[1]を見る時が来る。あらゆる国民、部族、国語の民、民族が目と目を合わせて見て、神の裁きが公正であることを神の御前で認める時が来る。

2 そのとき、悪人は追い出[1]されるであろう。そして、彼らは泣き[2]わめき、涙を流し、嘆き悲しみ、歯ぎしりをするに違いない。それは、彼らが主の声に聞き従おうとしなかったからである。そのために、主は彼らを贖われない。

3 彼らは肉欲[1]にふけり、悪魔[2]に従うので、悪魔が彼らを支配する力を持つ。この悪魔はわたしたちの始祖をだまし[3]た、年を経たあの蛇である。その年を経た蛇が始祖をだましたために始祖は堕落[4]し、そのためにすべての人は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従い、善[5]と悪を知りながら悪魔[1]に従うようになった。

4 このようにして、全人類は迷った状態になった。そして見よ、もし神が御自分の民を迷い堕落した状態から贖われなければ、彼らは限りなく迷った状態になっていたであろう。

5 自分自身の肉[1]の性質の中にとどまり、罪の道と神に背く道を進む者は、その堕落した状態にとどまって、悪魔がその者を支配するすべての力を持つということを忘れるな。だから、その者は神の敵であって、あたかも贖い[2]がなかったかのようである。悪魔もまた神の敵なのである。

6 さて、将来起こることをすでに起こ[1]ったことのように話すと、もしもキリストがこの世に来られなかったならば、贖いは決してあり得なかった。

第16章
1 ① GS「救い」
② モサ27・31
2 ① 教義63・53−54
② マタ13・41−42、ルカ13・28、アル40・13
3 ① ガラ5・16−25、モサ3・19、GS「生まれながらの人」
② 2ニフ9・8−9、GS「悪魔」
③ 創世3・1−13、モセ4・5−19
④ GS「堕落（アダムとエバの）」
⑤ 2ニフ2・17−18、22−26
4 ① アル42・6−14
5 ① アル41・11、GS「現世的」
6 ① GS「贖い・贖う」
② モサ3・13

7 また、墓が勝利を得ないように、そして死がとげを持たないように、もしキリストが死者の中からよみがえられなかったならば、すなわち死の縄目を断たれなかったならば、復活はあり得なかった。
8 しかしながら、[1]復活は実際にあるので、墓は勝利を得ず、[2]死のとげはキリストにのみ込まれてしまう。
9 キリストは世の光であり命であられる。[1]まことに、決して暗くなることのない無窮の光であり、また決して死ぬことのない無窮の命であられる。
10 この死すべき体は[1]不死をまとい、この朽ちるものは朽ちないものをまとって、神の法廷に[2]立つように連れ出され、自分の行いが善いか悪いか、その行いに応じて神に[3]裁かれる。
11 すなわち、行いが善ければ[1]無窮の命と幸福の復活にあずかる。また、行いが悪ければ[2]無窮の罰の定めの復活にあずかることになるが、それは、彼らを服従させてきた悪魔に引き渡されるということである。
12 彼らは、自分の肉の思いと欲望のままに振る舞い、主の[1]憐れみの御腕が伸べられている間にも決して主に請い願わず、主の憐れみの御腕が彼らに伸べられても、彼らは頼ろうとせず、罪悪について戒められても、それから離れようとせず、悔い改めるように命じられても、悔い改めようとしなかった。
13 そこであなたがたは、震えおののいて罪を悔い改め、キリストによって、またキリストを通じてのみ救われるということを覚えておくべきではないか。
14 それゆえ、あなたがたがモーセの律法を教えるのであれば、それは将来起こるこれらのことの影であるということも教えなさい。
15 贖いはまことの[1]永遠の父である主なるキリストを通じて与えられるということを、民に教えなさい。アーメン。」

第17章

アルマ、アビナダイの言葉を信じて書き留める。アビナダイ、火で焼かれて死ぬ。アビナダイ、自分を殺す者たちが病気になり、また火で焼かれて死ぬことを預言する。紀元前約百四十八年。

---

7 ①ホセ13・14、モサ15・8、20
8 ①アル42・15、GS「復活」
9 ①教義88・5−13、GS「光・キリストの光」
10 ①アル40・2、GS「不死不滅」
11 ①GS「最後の裁き」
②アル41・3−6
12 ①GS「永遠の命」
②GS「罰の定め」
14 ①GS「憐れみ」
15 ①GS「モーセの律法」
①モサ3・8、5・7、エテ3・14
②イザ25・8、1コリ15・54−55、モル7・5

1さて、アビナダイがこれらの言葉を語り終えると、王は祭司[1]たちに、彼を捕らえて殺させるように命じた。
2ところが、祭司たちの中にアルマという名の者がいて、彼もまたニーファイの子孫であった。彼は年の若い男で、アビナダイが語った言葉を信じた。アビナダイが彼らに向かって証言した罪悪[2]のことを、彼は知っていたからである。そこで、彼は王に、アビナダイを怒らずに、彼が安らかに去るのを許すように懇願し始めた。
3しかし、王はますます腹を立てて、彼らの中からアルマを追い出させ、そのうえ、召し使いたちに彼の後を追わせて殺させようとした。
4しかし、アルマは彼らの前から逃げ出し、彼らに見つからないように身を隠した。彼は幾日も隠れたままで、その間にアビナダイが語った言葉をすべて書き記[1]した。
5さて、王は衛兵にアビナダイを取り囲んで捕らえさせた。そこで衛兵は彼を縛り、牢に投げ込んだ。
6それから三日後、王は祭司たちと相談した末、アビナダイをもう一度自分の前に連れて来させた。
7そして王は彼に言った。「アビナダイよ、おまえの罪状は確定している。おまえは死に値する。
8神[1]自らが人の子らの中に降って来ると言ったからだ。だから、わたしとわたしの民について災いを述べた言葉をすべて取り消さないかぎり、おまえはこの理由で殺されることになる。」
9すると、アビナダイは王に言った。「わたしは王に申し上げます。わたしがこの民についてあなたに申し上げた言葉は真実ですから、わたしは取り消しません。わたしはその言葉が確かであることをあなたに知っていただくために、自らあなたの手に落ちることにしたのです。
10そして、わたしは死に至るまでも苦しみに耐え、自分の言葉を取り消すことはせず、その言葉はあなたを責める証となるでしょう。わたしを殺すならば、あなたは罪[1]のない者の血を流すことになり、これもまた、終わりの日にあなたを責める証となるでしょう。」
11そこでノア王は、彼の言葉を恐れ、彼を釈放しようとした。神の裁きが自分に下ることを恐れたからである。

第17章
1 ①モサ11・1、5−6
2 ①モサ23・6、9−10、
GS ②「アルマ（父）」
4 ①モサ26・15
GS「聖文」
8 ①モサ13・25、33−34
10 ①アル60・13

12 ところが祭司たちは、彼に対して声を上げ、彼のことを訴えて、「この男は王をののしった」と言った。そのため王は、彼に対する怒りをかき立てられ、彼を殺すために引き渡した。
13 そこで祭司たちはアビナダイを捕らえて縛り上げ、薪を燃やしてその肌を焼き苦しめ、火あぶりにして殺した。
14 さて、炎が体を焼き始めると、彼は祭司たちに叫んで言った。
15 「見よ、まことにあなたがたがわたしに行ったように、あなたがたの子孫も多くの人に、わたしが今受けている苦しみ、火あぶりの死の苦しみを与えるであろう。その人々が、主なる彼らの神の救いを信じているという理由でそうするのである。
16 そしてあなたがたは、自分の罪悪のために、あらゆる病気で苦しむであろう。
17 またあなたがたは、至る所で打たれ、野生の羊の群れが猛獣に追われるように、追われてあちらこちらに散らされるであろう。
18 その日にあなたがたは狩り出され、敵の手に捕らえられ、その後、わたしが今受けているように、火あぶりの死の苦しみを受けるであろう。
19 このようにして、神は御自分の民を滅ぼす者に報復をされる。おお、神よ、わたしの霊をお受けください。」
20 アビナダイはこれらの言葉を述べ終えると、倒れて焼け死んだ。まことに、彼は神の命令を拒もうとしなかったために殺され、自分の言葉が真実であることを死によって確かなものとしたのである。

第18章

アルマ、ひそかに教えを説く。バプテスマの聖約を宣言し、モルモンの泉でバプテスマを施す。キリストの教会を設立し、祭司たちを聖任する。祭司たち、自活し、民を教える。アルマと彼の民、ノア王から逃れ、荒れ野に旅立つ。紀元前約百四十七年から百四十五年に至る。

1 さて、ノア王の召し使いたちから逃れたアルマは、自分の罪と不義を悔い改め、人々の中をひそかに巡って、アビナダイの言葉を教え始めた。
2 まことに、将来起こる事柄について、また死者の

15 ① モサ13・9−10、アル
25・4−12
17 ① モサ21・1−5、13
18 ① モサ19・18−20
19 ① GS「報復」
第18章
1 ① モサ23・9−10

復活について、そしてキリストの力[1]や受難、死、復活、昇天によってもたらされる人々の贖い[2]について、教え始めた。

3 そしてアルマは、自分の言葉を聞こうとする人々すべてに教えた。彼は王に知られることのないように、ひそかに教えた。そして、多くの人がアルマの言葉を信じた。

4 そして、アルマの語ったことを信じた人々は皆、モルモンと呼ばれた地[1]へ行った。そこは王がその名を付けた所で、境の地にあり、時節によっては野獣が群れを成していた所である。

5 さて、モルモンには水の清らかな泉があり、アルマはそこへ行った。そこには、泉の近くに小さな木の茂みがあり、彼は日中そこに身を隠して王の捜索から逃れた。

6 そして、アルマの語ったことを信じた人々は皆、彼の言葉を聞くためにそこへ行った。

7 さて、多くの日の後、アルマの言葉を聞くためにモルモンの地に集まった人々は、相当な数に上った。まことに、彼の言葉を信じた人々は皆、彼の語ることを聞くために集まった。そこで彼は、これらの人々を教え[1]、悔い改めと贖いと主を信じる信仰を説いた。

8 そして、アルマは言った。「見よ、ここにモルモンの泉がある。（この泉はこのように呼ばれていた。）あなたがたは神の羊の群れ[1]に入って、神の民と呼ばれたいと願っており[2]、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み[3]、

9 また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ[1]、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命[2]を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても、死に至るまでも神の証人[3]になることを望んでいる。

10 まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るという聖約[1]を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマ[2]を受けるのに何の差し支えがあろうか。」

11 人々はこの言葉を聞くと手をたたいて喜び、「それこそわたしたちが心から望んでいることです」と

---

2 ① GS「贖罪」
② GS「贖い・贖う」
4 ① アル5・3
② アル5・11−13
7 ① GS「イエス・キリストの教会」
8 ① 教義20・37
② GS「哀れみ」
9 ① モサ15・21−26
② GS「永遠の命」
③ GS「証する」「証人・証」
10 ① GS「伝道活動」
② GS「聖約（契約）」
2 ニフ31・17、GS「バプテスマ」

叫んだ。

12さて、アルマは、最初この地にやって来た人々の一人であるヘラムを連れて水の中に立ち、祈り願って言った。「おお、主よ、あなたの僕が聖い心でこの務めを果たせるように、僕にあなたの御霊を注いでください。」

13そして彼がこの言葉を語ったとき、主の御霊[1]が彼のうえにあった。そこで彼は言った。「ヘラム、わたしは全能の神から権能[2]を授かっているので、あなたの肉体が死ぬまで全能の神に仕えるという聖約を交わした証拠として、あなたにバプテスマ[3]を施す。主の御霊があなたに注がれるように。また全能の神が、世の初めから備えてくださっているキリスト[4]の贖いにより[5]、あなたに永遠の命を授けられるように。」

14アルマがこれらの言葉を語り終えると、アルマとヘラムはともに水の中に沈んだ。それから二人は立ち上がると、御霊に満たされて、喜びながら水から出て来た。

15さらに、アルマはまた別の一人を連れて、もう一度水の中に入って行くと、最初のときと同じようにバプテスマを施したが、今度は自分自身は水の中に沈まなかった。

16このようにして、彼はモルモンの地にやって来たすべての人にバプテスマを施した。その数は二百四人ほどであった。そして、これらの人々はモルモンの泉でバプテスマ[1]を受けると、神の恵み[2]に満たされた。

17そしてそれ以後、彼らは神の教会、すなわちキリスト[1]の教会と呼ばれた。また、神の力と権能によってバプテスマを受けた人々はだれでも、神の教会に加えられた。

18そしてアルマは、神から権能[1]を授かっていたので、祭司たちを聖任した。すなわち、彼は五十人ごとに一人の祭司を聖任して、彼らに教えを説き、また神の王国にかかわる事柄について教えられるようにした。

19またアルマは祭司たちに、自分が教えたことと、聖なる預言者たちの口を通して述べられたことのほかは、何も教えないように指示した。

20まことに、彼は祭司たちに、悔い改めと、御自分の民を贖われた主を信じる信仰のほかは、何も説か

---

13 ① GS「聖霊」
② 箇条1・5、GS「神権」
③ 3ニフ11・23−26、教義20・72−74
④ モセ4・2、5・9
⑤ GS「贖い・贖う」
14 ① GS「バプテスマ−全身を水に沈める」
16 ① モサ25・18
② GS「恵み」
17 ① 3ニフ26・21、27・3−8、GS「イエス・キリストの教会」
② GS「神権」
18 ① GS「教える・教師」
② 教義15・6、18・14−16
20 ① GS「聖霊」

ないように指示したのである。

21 また彼は祭司たちに、決して互いに争うことなく、互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマをもって、一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。

22 彼はこのように祭司たちに、教えを説くように指示した。このようにして、人々は神の子となった。

23 また、アルマは彼らに、安息日を守って聖なる日として保つこと、また毎日主なる自分たちの神に感謝することを指示した。

24 また、聖任を受けた祭司たちは自分自身の手を使って生活の糧を得るようにすべきであると、アルマは指示した。

25 さらに、彼らが人々を教え、また主なる自分たちの神を礼拝するために集まる日を週に一日定めること、またほかにもできるかぎりしばしば集まることとした。

26 そして、祭司たちは生活の糧を人々に頼るべきでなく、自分の労働に対して神の恵みを受けるべきであるとされた。それは、彼らが御霊を受けて強くなり、神の知識を得られるようにするため、また神からの力と権能をもって教えることができるようにするためである。

27 アルマはまた、教会の人々が各々自分の持っている分に応じて持ち物を分け与えるように、つまり、ほかの人よりも豊かに持っていれば、ほかの人よりも多く分け与えるべきであり、少しか持っていない人には少ししか求めず、持っていない人には分け与えるべきであると指示した。

28 このように、人々は自分の自由意志と神にかかわる善い望みから、自分の持ち物を、それを必要としている祭司たちと、乏しくて着る物のないすべての人に分け与えなければならなかった。

29 アルマは神から命じられたので、このように彼らに告げた。そして彼らは、各々の必要と入り用に応じて物質的にも霊的にも互いに助け合い、神の前をまっすぐに歩んだ。

30 さて、これはすべてモルモンにおいて、まことにモルモンの泉のそば、つまりモルモンの泉に近い森の中で行われたことである。モルモンの地も、モルモンの泉も、モルモンの森も、自分たちの贖い主を知るようになった人々の目には何と麗しいことか。

---

21 ① GS「争い」　② GS「一致」　③ マタ 6・22、教義 88・67−68
22 ① モサ 5・5−7、モセ 6・64−68
23 ① モサ 13・16−19、教義 59・9−12
24 ① 使徒 20・33−35、モサ 27・3−5、アル 1・26
25 ① GS「礼拝」
26 ① GS「恵み」　② GS「知識」
27 ① 使徒 2・44−45、4 ニフ 1・3
29 ① GS「福祉」　② GS「歩む（神とともに）」
30 ① モサ 26・15

また、これらの人々は何と祝福されていることか。だから、彼らはとこしえに贖い主を賛美して歌うであろう。

31これらのことは、ノア王に知られることのないように、国の境で行われた。

32しかし見よ、王は民の中に動きがあるのを知り、召し使いたちを遣わして民を見張らせた。そのため、人々が神の言葉を聞こうとして集まった日に、彼らのことが王に知られてしまった。

33そこで王は、アルマが民を扇動して自分に対する謀反を起こしていると言って、アルマと彼に従う人々を滅ぼすために、軍隊を派遣した。

34そこでアルマと主の民は、王の軍隊が来るという知らせを受けたので、天幕を持ち、家族を連れて荒れ野へ旅立った。

35その数はおよそ四百五十人であった。

第19章

ギデオン、ノア王を殺そうとする。レーマン人が攻め込んで来る。ノア王、火で焼き殺される。リムハイ、貢ぎ物を納め、王として統治する。紀元前約百四十五年から百二十一年に至る。

1さて、王の軍隊は主の民を捜し回ったが、徒労に終わり、引き返した。

2さて見よ、王の軍勢は人数が減って小規模になり、残った民の中に分裂が生じ始めた。

3そして、少数派が王を脅す言葉を吐き始め、残りの民の中にひどい争いが起こった。

4さて、少数派の中にギデオンという名の者がいた。彼は屈強な男で、王を敵としていたので、自分の剣を抜き、王を殺すと怒りの誓いを立てた。

5そして彼は王と戦った。王は彼に打ち負かされそうになったところで逃げ出し、走って神殿の近くにある塔[1]に登ってしまった。

6そこでギデオンは王の後を追いかけ、王を殺すためにその塔に登ろうとした。このとき、王がシェムロンの地の方を眺めると、見よ、レーマン人の軍隊がすでに国の境を越えていた。

7そこで王は心に苦しみを覚え、叫んで言った。「ギデオンよ、命を助けてくれ。レーマン人が攻めて来ており、我らを滅ぼそうとしている。まことに、民

31① モサ18・4
34① モサ23・1
第19章
5① モサ11・12

を滅ぼそうとしている。」
8 実のところ、王は民のことよりも自分の命のことを心配していたのである。にもかかわらず、ギデオンは王の命を助けた。
9 そこで王は、レーマン人から逃れるように民に命じて、自分がその先頭に立って逃げた。民も女や子供たちを連れて荒れ野へ逃げ込んだ。
10 そこでレーマン人は彼らを追いかけ、追いついて彼らを殺し始めた。
11 そこで王は男たちに、皆、妻子を捨ててレーマン人から逃れるように命じた。
12 しかし、妻子を捨てるくらいなら、一緒にとどまって死ぬ方がよいと考える者が多かった。ほかの者たちは妻子を捨てて逃げ去った。
13 そして妻子とともにとどまった者たちは、美しい娘たちを前に立たせ、自分たちを殺さないようにレーマン人に懇願させた。
14 そこでレーマン人は、彼らの娘たちの美しさに魅せられ、哀れみの心を示した。
15 レーマン人は彼らの命を助け、彼らを捕虜にしてニーファイの地へ連れ戻した。そして、ノア王をレーマン人の手に引き渡すこと、また彼らが所有するものの半分、金や銀やすべての貴重な品々の半分を渡すことを条件として、彼らがその地を所有することを許した。このようにして、彼らは毎年、レーマン人の王に貢ぎ物を納めることになったのである。
16 さて、捕らえられた者たちの中に王の息子が一人おり、その名をリムハイ[1]といった。
17 さて、リムハイは、父が殺されることのないようにと願っていた。それでもリムハイ自身は正しい人であったので、父の犯した罪悪を知らないわけではなかった。
18 さて、ギデオンは、ひそかに人々を荒れ野に遣わして、王と、また王と一緒にいる者たちを捜させた。すると彼らは荒れ野で、王とその祭司たちを除くすべての人に会った。
19 彼らはニーファイの地へ帰って、もし妻子や一緒にとどまった者たちが殺されていたら、その敵を討って、一緒に死のうと心に誓っていた。
20 ところが、王が彼らに帰らないように命じたので、彼らは怒って王を焼き殺してしまった。
21 また彼らは、祭司たちも捕らえて殺そうとした

16① モサ7・9
20① モサ17・13—19、アル25・11

が、祭司たちは逃げてしまった。
22そして、彼らがちょうどニーファイの地へ帰ろうとしていたところで、ギデオンに遣わされた人々に出会ったのである。ギデオンに遣わされた人々は彼らに、自分たちの妻子に起こったすべてのことを告げ、またレーマン人に自分たちの所有するすべてのものの半分を貢ぎ物として納めることによって、その地を所有できると、レーマン人から認められたことを話した。
23また彼らも、ギデオンに遣わされた人々に、自分たちが王を殺したことと、王の祭司たちが荒れ野の奥へ逃げ込んでしまったことを告げた。
24そして彼らは、あいさつを終えると、自分たちの妻子が殺されなかったことを喜びながら、ニーファイの地へ帰った。それから彼らは、自分たちが王に行ったことをギデオンに告げた。
25さて、レーマン人の王は、自分の民がニーファイ人を殺すことはないとニーファイ人に誓った。
26そしてまた、ノア王の子であり、[1]民から王位を与えられたリムハイも、レーマン人の王に、自分の民は所有するすべてのものの半分を貢ぎ物として彼に納めると誓った。
27そして、リムハイは王国を確立し、民の中に平和を確立する業に着手した。
28またレーマン人の王は、その国の周囲に見張りの兵を配置し、リムハイの民を国内にとどまらせ、荒れ野に出て行くことのないようにした。そして王は、ニーファイ人から受け取る貢ぎ物の一部で見張りの兵を養った。
29さて、リムハイ王は、二年間引き続き王国の平和を保ち、レーマン人は彼らを苦しめ悩ますことも、彼らを滅ぼそうとすることもなかった。

第20章

レーマン人の娘たち、ノア王の祭司たちに誘拐される。レーマン人、リムハイと彼の民に戦争を仕掛ける。レーマン人、撃退され、心を和らげる。紀元前約百四十五年から百二十三年に至る。

1さて、シェムロンには、レーマン人の娘たちが集まって歌い、踊り、そして楽しむ場所があった。
2そしてある日のこと、少数のレーマン人の娘たち

25 ① モサ21・3
26 ① モサ7・9

が、歌ったり踊ったりするためにそこに集まった。
3ノア王の祭司たちはニーファイの町へ帰ることを恥じ、また民に殺されることを恐れたので、妻子のところへ帰る勇気がなかった。
4そして、荒れ野にとどまっていたときにレーマン人の娘たちを見つけたので、彼らは身を伏せて娘たちを見ていた。
5そして、踊るために集まった娘たちが少ないときに、彼らは隠れている所から飛び出して娘たちを捕まえ、荒れ野へ連れ去った。まことに、レーマン人の娘たちを二十四人、荒れ野へ連れ去ってしまった。
6さて、レーマン人は娘たちがいなくなったことを知ると、リムハイの民の仕業であると思って、リムハイの民のことを怒った。
7それで彼らは軍隊を出した。まことに、王自身が民を率いて、リムハイの民を滅ぼすためにニーファイの地へ向かった。
8しかしながら、リムハイはすでに塔の上から彼らを見ていた。まことに、彼らが戦いの準備をすべて整えているのを見た。そこで彼は、自分の民を召集し、畑でも森でもレーマン人を待ち伏せた。
9そして、レーマン人がやって来ると、リムハイの民は待ち伏せていた場所から襲いかかり、彼らを殺し始めた。
10そして、彼らは獲物を襲うライオンのように戦ったので、その戦闘は非常に激しいものになった。
11そして、リムハイの民は、レーマン人を追い散らし始めた。彼らはレーマン人の半数にも満たなかったが、自分たちの命のため、また妻子たちのために戦っていたので、力を尽くし、龍のように戦った。
12そして彼らは、レーマン人の死体の間にレーマン人の王を見つけた。しかし、王は傷を負っていただけで死んではいなかった。兵の逃げ足が速かったために、その場に置き去りにされたのであった。
13そこでリムハイの民は、王を捕らえて傷口に包帯を巻き、リムハイのもとへ連れて来て言った。「ここにいるのはレーマン人の王です。王は負傷してレーマン人の死体の間に倒れ、置き去りにされていました。それでわたしたちは、御前に連れてまいりました。この王を殺してしまいましょう。」
14しかし、リムハイは彼らに、「殺してはならない。

第20章
11① アル43・45

わたしが会えるように、ここに連れて来なさい」と
言った。そこで、彼らはレーマン人の王を連れて来
た。そして、リムハイは彼に尋ねた。「あなたがたは
どのような理由で、わたしの民と戦うために攻めて
来たのですか。まことに、わたしの民は、わたしが
あなたに立てた誓いを破ってはいません。それなの
に、なぜあなたはわたしの民に立てた誓いを破った
のですか。」
15 すると、レーマン人の王は言った。「わたしが誓い
を破ったのは、おまえの民がわたしの民の娘たちを
連れ去ったからだ。だから、わたしは怒って、おま
えの民と戦うためにわたしの民を攻めさせたのだ。」
16 さて、リムハイはこのことについて何も聞いてい
なかったので、「わたしは民の中を捜し、そのような
ことをした者はだれであろうと殺す」と言った。そ
して、彼は民の中を捜索させた。
17 さて、ギデオンはこれらのことを聞くと、彼はリ
ムハイ王の軍隊の長であったので、王のもとへ行っ
て、言った。「どうか思いとどまり、この民を調べる
ことなく、またこのことを彼らの責任とすることの
ないようにしてください。

18 父君の祭司であって、この民が殺そうとした者た
ちのことを王は覚えておられませんか。彼らは今、
荒れ野にいるではありませんか。レーマン人の娘た
ちをさらったのは、彼らではないでしょうか。
19 どうかレーマン人の王にこれらのことをお話しく
ださい。そうすれば、王は彼の民に話し、彼らはわ
たしたちに対して心を和らげることでしょう。まこ
とに、彼らはわたしたちを攻めようと、すでに準備
を進めていますし、わたしたちの人数はわずかで
す。
20 そしてまことに、彼らは大軍でやって来ます。で
すから、もしこの王がわたしたちに対して彼らの心
を和らげてくれなければ、わたしたちは滅びてしま
うに違いないのです。
21 わたしたちについてアビナダイが預言した言葉
は、わたしたちが主の御言葉に聞き従って自分たち
の罪悪から離れようとしなかったので、すべて成就
しているではありませんか。
22 ですから、王の心を和らげましょう。わたしたち
は王に立てた誓いを守ります。わたしたちは、命を
失うよりも奴隷の状態にある方がよいからです。で

14 ① モサ19・25−26
17 ① モサ19・4−8
21 ① モサ12・1−8

すから、このように多くの血を流すことはやめましょう。」

23そこでリムハイはレーマン人の王に、自分の父のことと、荒れ野へ逃げ込んだ祭司[1]たちのことをすべて話し、レーマン人の娘たちを連れ去ったのはその祭司たちの仕業であると告げた。

24そこでレーマン人の王は、リムハイの民に対して心を和らげ、彼らに言った。「武器を持たないで、わたしの民に会いに行こう。そうすれば、わたしの民がおまえの民を殺さないことを誓って約束する。」

25そして彼らはレーマン人の王に従い、武器を持たずにレーマン人に会いに出かけた。そして、彼らはレーマン人に会った。するとレーマン人の王は、自分の民の前に伏して、リムハイの民のために執り成してくれた。

26そこでレーマン人は、リムハイの民が武器を持っていないのを見て、彼らを哀れに思い[1]、心を和らげ、王とともに安らかに自分の国へ帰って行った。

第21章

リムハイの民、レーマン人に打たれ、打ち負かされる。リムハイの民、アンモンに会い、改宗する。アンモンにヤレド人の二十四枚の版のことを告げる。紀元前約百二十二年から百二十一年に至る。

1さて、リムハイと彼の民はニーファイの町に帰り、再び平和にその地に住むことになった。

2そして多くの日の後、レーマン人はまたニーファイ人に対して怒りをかき立てられ、周囲の境の地に侵入して来るようになった。

3しかし、彼らの王がリムハイに立てた誓いがあるので、彼らはあえてニーファイ人を殺しはしなかった。それでも彼らは、ニーファイ人の頬[1]を打ち、権力を振るった。そして彼らの背に重荷[2]を負わせ、彼らを物を言えないろばのように追い立てるようになった。

4まことに、これはすべて、主の言葉が成就するために起こったことである。

5さて、ニーファイ人の苦難はひどかったが、レーマン人にあらゆる方面から取り囲まれていたので、彼らがレーマン人の手から逃れる手立てはまったくなかった。

23① モサ19・21、23
26① GS「哀れみ」
第21章
3① モサ12・2
② モサ12・5

6そして民は、自分たちの苦難のことで王につぶやくようになり、また、レーマン人に向かって出て行って戦いたいと願うようになった。このように、彼らが不平を言ってひどく王を悩ましたので、王は彼らに望みどおりにすることを許した。
7そこで彼らは再び集まり、よろいを着け、レーマン人を自分たちの国から追い出すために、彼らに向かって出て行った。
8そして、レーマン人が勝ってリムハイの民を追い返し、多くの者を殺した。
9そのため、リムハイの民の中に大きな嘆きと悲しみがあった。やもめは夫のために嘆き、息子と娘は父のために嘆き、兄弟は兄弟のために嘆いた。
10さて、国内には非常に多くのやもめがおり、そのやもめたちはレーマン人に対するひどい恐れが募っていたので、毎日毎日激しく泣き叫んだ。
11そして、やもめたちが絶え間なく泣き叫んだため、リムハイの民の残りの者たちは、レーマン人に対する怒りをかき立てられた。そして、彼らは再び戦いに出たが、大きな損害を被り、またもや追い返された。
12まことに彼らはもう一度、すなわち三度目の戦いに出たが、同じように損害を被った。そして、殺されなかった者たちは、ニーファイの町にまた帰った。
13また彼らは、地に伏すほどにへりくだって、奴隷のくびきを受け、敵の望むままに打たれ、あちらこちらに追い立てられ、荷を負わされるに任せた。
14それで彼らは、心底謙遜にへりくだり、神に熱烈に叫び求めた。彼らは、自分たちの受けている苦難から救い出してくださるように、終日神に叫び求めた。
15しかし、主は彼らの罪悪のために、彼らの嘆願を聞き届けるのを遅くされた。それでも主は、彼らの嘆願を聞き届け、レーマン人の心を和らげてくださったので、レーマン人はリムハイの民の重荷を軽くするようになった。しかし主は、彼らを奴隷の状態から救い出すのを、ふさわしいとは思われなかった。
16さてその後、彼らはその地で次第に栄え始めた。以前よりも豊かに穀物を栽培し、大小の家畜の群れを飼うようになったので、飢えに苦しむことはなか

---

9 ① モサ12・4
14 ① モサ29・20、GS「謙遜」
15 ① 箴言15・29、モサ11・23−25、教義101・7−9

った。

17ところが、女の数が非常に多くて男の数を上回っていたので、リムハイ王は、[1]やもめとその子供たちが飢えて死ぬことのないように、すべての男に、生活の糧を彼らに分け[2]与えるよう命じた。殺された者がおびただしい数に上っていたので、彼らはそうしたのである。

18さて、リムハイの民はできるかぎり一団となって生活し、自分たちの穀物と家畜の群れを守った。

19また、王自身も何らかの方法でレーマン人の手に落ちることを恐れ、衛兵を連れずには、町の城壁の外に安心して出ようとはしなかった。

20また王は、自分の民に周辺の地を見張らせた。そして、荒れ野の中に逃げ込んでレーマン人の娘[1]たちをさらい、自分の民にこのようなひどい破壊をもたらしたあの祭司たちを、何とかして捕らえさせようとした。

21リムハイの民は、彼らを捕らえて罰したいと思っていた。それは彼らが、夜ニーファイの地へやって来て、民の穀物や多くの貴重な品々を運び去ったからである。それで民は彼らを待ち伏せした。

22そしてその後、[1]アンモンと彼の同僚たちがその地に来るまで、レーマン人とリムハイの民の間に二度と争いがなかった。

23そして、王が衛兵とともに町の門の外にいたときに、アンモンと彼の同僚たちを見つけたのであった。そのとき、王は彼らのことをノアの祭司たちだと思ったので、彼らを捕らえて縛らせ、[1]牢に投げ込ませたのであった。もし彼らがノアの祭司たちであったら、王は殺させたことであろう。

24ところが王は、彼らがそうではなく、自分の同胞で、ゼラヘムラの地からやって来たことを知り、非常に大きな喜びに満たされた。

25さて、リムハイ王は、アンモンが来る前にゼラヘムラの地を探すために[1]少数の人々を派遣したことがあった。しかし、[2]彼らはその地を見つけることができなくて、荒れ野の中で迷ってしまった。

26それでも彼らは、かつて人々の住んでいた地、干からびた骨[1]が辺り一帯に散乱していた地、まことに、かつて人々が住み、滅びてしまった地を発見した。そして彼らは、そこをゼラヘムラの地であると思って、ニーファイの地に引き返し、アンモンが来

---

17 ①　20 ①　22 ①　23 ①　25 ①　26 ①
GS「やもめ」　モサ4・16、20・5　モサ7・6—13　ヒラ5・21　モサ7・14　モサ8・7　モサ8・8

る少し前に、境の地に到着したのであった。
27そのときに、彼らは記録を持ち帰った。すなわち、彼らが発見した、骨を残した民の記録を持ち帰った。それは金属の版に刻まれていた。
28さて、リムハイは、モーサヤ王が神からの賜物[1]を持っており、それによってこのような刻まれた記録を解釈できるということをアンモンの口から聞いて、またもや喜びに満たされた。そして、アンモンも喜んだ。
29しかし、アンモンと彼の同僚たちは、自分たちの同胞がそのように大勢殺されていたので、悲しみでいっぱいになった。
30またノア王と彼の祭司たちが、そのように多くの人に神に対して罪と不義を犯させたことについても、彼らは悲しんだ。また彼らは、アビナダイが死[1]んだことも、アルマや彼と行動を共にした人々が立[2]ち去ったことについても、悲しんだ。アルマとその人々は、神の力と権威と、またアビナダイが語った言葉を信じる信仰によって、神の教会を設立していた。
31まことにアンモンと彼の同僚たちは、彼らが立ち去ったことを悲しんだ。リムハイと彼の民は、彼らがどこへ逃げて行ったか知らなかったからである。もし知っていれば、アルマや彼とともにいた人々は、神に仕え、神の戒めを守るという聖約を神と交わしていたので、リムハイと彼の民は、喜んで彼らと行動を共にしたことであろう。
32さて、アンモンがやって来た後、リムハイ王も彼の民の多くの者も、神に仕え、神の戒めを守るという聖約を神と交わした。
33そして、リムハイ王と彼の民の多くの者は、バプテスマを受けたいと願った。しかしその地には、神から権能[1]を授かっている者は一人もいなかった。またアンモンは、自分自身をふさわしくない僕であると考えて、そのことを行うのを辞退した。
34そこで彼らは、そのとき自分たちで教会を設けることをせずに、主の御霊を待ち望むことにした。彼らは荒れ野に逃げ込んだアルマと彼の同胞のようになりたいと願っていた。
35彼らは心を尽くして喜んで神に仕える証拠として、また証明としてバプテスマを受けたいと願っていたにもかかわらず、その時期は引き延ばされた。

---

28 ① オム1・20−22、モサ28・11−16
30 ① モサ17・12−20
33 ① ② モサ18・34−35
GS「権威・権限・権能」

彼らのバプテスマについての話は、後に載せることにする。

36さて、アンモンとその一行、およびリムハイ王とその民は、レーマン人の手から、また奴隷の状態から抜け出すことをひたすら考え続けた。

第22章

民がレーマン人の下での奴隷の状態から逃れるための計画が立てられる。レーマン人、酒に酔う。民は逃れ、ゼラヘムラに帰り、モーサヤ王の臣民となる。紀元前約百二十一年から百二十年に至る。

1さて、アンモンとリムハイ王は、奴隷の状態から抜け出す方法について民と相談を始めた。彼らはすべての民を連れ立って集まらせた。彼らはこの件について民の声を聞くことができるように、こうしたのである。

2さて、彼らが奴隷の状態から抜け出すには、女子供を伴い、大小の家畜の群れを連れ、天幕を携えて荒れ野へ出て行く以外に何の方法も見いだせなかった。レーマン人が非常に大勢であったため、リムハイの民は剣によって奴隷の状態から抜け出そうと考えても、彼らと戦うことは不可能だったからである。

3さてこのとき、ギデオンが進み出て王の前に立ち、そして言った。「王様、わたしたちが同胞であるレーマン人と戦ったときに、あなたはこれまでに何度も、わたしの言葉を聞き入れてくださいました。

4そして王様、もしわたしをふつつかな僕であったと思われなければ、すなわち、これまで多少なりともわたしの言葉をお聴きになって、それがあなたのお役に立っていましたならば、この度もわたしの言葉をお聴きくださるようにお願いいたします。わたしはこれからもあなたの僕となり、この民を奴隷の状態から救い出しましょう。」

5そこで、王は彼に語ることを許した。すると、ギデオンは王に言った。

6「町の裏手の城壁を通って行く裏道に御注目ください。そこにいるレーマン人、すなわちレーマン人の見張りの兵は、夜は酒に酔っています。ですから、民の全体に布告を出して大小の家畜の群れを集めさせ、夜の間に荒れ野に群れを追って行けるよう

35① モサ25・17—18

にしましょう。
7そして、わたしはあなたの命令に従い、最後の貢ぎ物であるぶどう酒をレーマン人に納めます。すると彼らは、飲んで酔うでしょう。彼らが酔って眠っている間に、わたしたちは彼らの宿営の左手にある間道を通って行きましょう。
8こうしてわたしたちは、女子供を伴い、大小の家畜の群れを連れて荒れ野に出て行き、シャイロムの地を回って進みましょう。」
9そこで王は、ギデオンの言葉を聞き入れることにした。
10そこでリムハイ王は、民に彼らの家畜の群れを集めさせた。また王は、貢ぎ物のぶどう酒をレーマン人に、贈り物としていつもよりたくさん届けた。すると彼らは、リムハイ王が届けたぶどう酒をふんだんに飲んだ。
11さて、リムハイ王の民は、夜の間に大小の家畜の群れを連れて荒れ野へ出て行った。彼らは荒れ野の中をシャイロムの地を回って行き、アンモンとその同僚たちに導かれて、ゼラヘムラの地へ向かって道を進んだ。
12彼らは、自分たちの金や銀、貴重な品々、それに食糧を運べるかぎり持って荒れ野に出て、旅を続けた。
13このようにして、彼らは荒れ野の中で幾日も過ごした後、ゼラヘムラの地に到着してモーサヤの民に加わり、彼の臣民となった。
14そして、モーサヤ王は喜んで彼らを迎え入れ、彼らの記録と、以前にリムハイの民が見つけた記録を受け取った。
15さて、レーマン人は、リムハイの民が夜の間にその地を出て行ったことを知ると、彼らを追跡するために荒れ野に軍隊を送り出した。
16軍隊は二日間彼らを追跡した後、もはやその跡を見つけることができず、荒れ野の中で迷ってしまった。

ノア王の民により荒れ野に追われたアルマと主の民の話。

次の第二十三―二十四章がそれに相当する。

第22章
14 ①モサ8・5
②モサ8・9

第23章

アルマ、王になることを断る。アルマ、大祭司として務める。主、アルマの民を懲らしめられる。レーマン人、ヘラムの地を征服する。ノア王の邪悪な祭司たちの統率者であるアミュロン、レーマン人の王の臣民を治める。紀元前約百四十五年から百二十一年に至る。

1 さて、アルマは、ノア王の軍隊がやって来ると主から警告を受け、それを民に知らせたので、民は家畜の群れを集め、穀物を持ち、ノア王の軍隊を避けて荒れ野に出て行った。
2 主は彼らを強くし、ノア王の民に追いつかれて滅ぼされることのないようにされた。
3 それで彼らは、荒れ野に逃げ込んで、八日間旅をした。
4 彼らは非常に美しく、心地よい地、清らかな水のある地に着いた。
5 そこで彼らは天幕を張り、地を耕し、建物を建て始めた。まことに、彼らは勤勉であり、非常によく働いた。
6 また民は、アルマを愛していたので、彼が王になることを願った。
7 しかし、彼は民に言った。「わたしたちに王がいるのは決して望ましいことではない。主は、『あなたがたは、ある人[1]をほかの人よりも優れていると思ってはならない。すなわち、人は自分自身をほかの人よりも優れていると考えてはならない』と言われた。したがって、あなたがたに王がいるのは望ましいことではないと、わたしはあなたがたに言う。
8 しかしながら、あなたがたが正しい人をいつも王に頂くことが可能であれば、王がいるのもよいであろう。
9 しかし、ノア王と彼の祭司たちの罪悪[1]を思い出してほしい。わたし自身もわなにかかり、主の目から[2]見て忌まわしいことをたくさん行い、つらい悔い改めをした。
10 にもかかわらず、わたしが多くの艱難[1]を味わった後、主はわたしの嘆願を聞いて、わたしの祈りにこたえ、わたしを主の御手に使われる者にしてくださり、このように、あなたがたの多くに主の真理を知[2]らせることができるようにしてくださった。

第23章
7 ① モサ27・3−5
9 ① 箴言16・12、モサ11・1−15
10 ① モサ17・1−4
② 教義58・4
② モサ18・35

11 それでも、わたしはこのことを誇らない。わたしは自分自身について誇るにふさわしくないからである。
12 今、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはかつてノア王に虐げられ、彼と彼の祭司たちに対して奴隷の状態にあり、彼らによって罪悪に引き込まれたため、罪悪の縄目をかけられてしまった。
13 ところがあなたがたは、神の力によってこれらのかせから、すなわちノア王と彼の民の手から、また罪悪のかせから救い出されているので、わたしはあなたがたが解放されたこの自由にしっかりと立つように、まただれもあなたがたを治める王としないように望んでいる。
14 また、神の道を歩み、神の戒めを守っている神の人でなければ、だれも、あなたがたの教師や教え導く者としてはならない。」
15 このようにアルマは、人は皆、自分自身のように隣人を愛し、民の中に決して争いがないようにしなければならないことを、彼の民に教えた。
16 さて、アルマは彼らの教会の創設者であったので、彼らの大祭司であった。
17 そして、アルマを通じて神から与えられなければ、だれも説教をする権能や教える権能を受けられなかった。したがってアルマは、民のすべての祭司とすべての教師を任命した。また、正しい人でなければだれも任命されなかった。
18 そして、彼らは民を見守り、義にかかわることをもって彼らを養った。
19 さて、彼らはその地で非常に栄え、その地をヘラムと名付けた。
20 そして、彼らはヘラムの地で増え、非常に栄えた。そして、一つの町を築いてヘラムの町と名付けた。
21 にもかかわらず、主は御自分の民を懲らしめるのを、御心にかなうことと見ておられる。まことに、主は民の忍耐と信仰を試される。
22 しかしながら、主に頼る者はだれであろうと、終わりの日に高く上げられる。そして、この民はそのように試されたのであった。
23 見よ、わたしは、これからあなたがたに、彼らが奴隷の状態に落とされたことと、主なる彼らの神、すなわちアブラハムとイサクとヤコブの神のほかに、だれも彼らを救い出せなかったことを示そう。

12 1 2ニフ28・19−22
13 1 GS「自由」
2 ガラ5・1
14 3 モサ29・13
14 1 モサ18・18−22
15 2 GS「愛」
16 1 3ニフ11・28−29
16 2 モサ26・7
17 1 GS「権威・権限・権能」「神権」
18 1 1テモ4・6
21 1 ヒラ12・3、教義98・「懲らしめ」
21 2 GS「忍耐」
22 1 GS「信頼」
22 2 1ニフ13・37

24さて、主が彼らを救い出し、彼らに御自分の偉大
な力を示されたので、彼らの喜びは大きかった。
25さて見よ、彼らがヘラムの地、まことに、ヘラム
の町にいて周辺の地を耕していたところ、レーマン
人の軍隊がその地の境に現れた。
26そこでアルマの同胞は、畑から逃げてヘラムの町
に集まった。レーマン人が現れたことで、彼らはひ
どくおびえていた。
27しかし、アルマは出て行って民の中に立ち、怖が
らないように、また主なる自分たちの神を覚えてい
れば主は助けてくださると彼らに説いた。
28そこで彼らは恐れを静め、レーマン人が自分たち
と妻子を助けてくれるように、彼らの心を和らげて
くださることを主に叫び求めた。
29そこで主は、レーマン人の心を和らげてくださっ
た。そこで、アルマと彼の同胞は出て行って、自分
たちの身を彼らにゆだねた。そしてレーマン人は、
ヘラムの地を占領した。
30ところで、リムハイ王の民を追っていたレーマン
人の軍隊は、幾日もの間荒れ野をさまよっていた。
31そして見よ、彼らは、ノア王の祭司たちがアミュ
ロンと名付けた地で、その祭司たちを見つけた。祭
司たちはアミュロンの地を所有し、土地を耕し始め
ていた。
32そして、祭司たちの統率者の名はアミュロンとい
った。
33さて、アミュロンはレーマン人に懇願し、さらに
レーマン人の娘[1]である妻たちを遣わして、夫を殺す
ことのないように同胞に懇願させた。
34そこでレーマン人は、アミュロンと彼の仲間を哀
れみ、その妻たちに免じて彼らを殺さなかった。[1]
35このようにして、アミュロンと彼の仲間はレーマ
ン人に加わった。そして彼らは、ニーファイの地を
探して荒れ野の中を旅していたときに、アルマと彼
の同胞が所有していたヘラムの地を発見したのであ
る。
36さて、レーマン人はアルマと彼の同胞に、ニーフ
アイの地へ通じている道を教えるならば命を助け
て、自由を認めると約束した。
37ところが、アルマがニーファイの地へ通じる道を
教えたところ、レーマン人はその約束を守ろうとせ
ず、彼らはアルマと彼の同胞を見張る兵をヘラムの

33① 34① 37①
GS モサ20・3—5「哀れみ」モサ24・8—15

地の周辺に置いた。
38そして、残りの者たちはニーファイの地へ向かった。それから一部の者は、ヘラムの地に残された見張りの兵の妻子を連れて、またこの地に戻って来た。
39レーマン人の王はアミュロンに、ヘラムの地にいる自分の民の王となり統治者となることを許していた。しかし、それでも彼は、レーマン人の王の意に反して事を行う力は持っていなかった。

第24章

アミュロン、アルマと彼の民を虐げる。祈る者は殺されることになる。主は彼らの重荷を軽くされる。主は彼らを奴隷の状態から救い出され、彼らはゼラヘムラの地に帰る。紀元前約百四十五年から百二十年に至る。

1さて、アミュロンはレーマン人の王の歓心を買った。そこで、レーマン人の王はアミュロンと彼の仲間を、自分の民、すなわちシェムロンの地とシャイロムの地とアミュロンの地に住んでいる民を教える者として任命させた。
2レーマン人は、すでにこれらの地をすべて占領していたからである。またそのためにレーマン人の王は、これらすべての地を治める王たちを任命していた。
3ところでレーマン人の王の名は、その父の名を取って付けられ、レーマンといった。そのため、彼はレーマン王と呼ばれた。彼は大勢の民を治める王であった。
4彼は自分の民が所有するあらゆる地で、アミュロンの仲間の中から教える者を任命した。このようにして、レーマン人のすべての民の中で、ニーファイの言語が教えられるようになった。
5レーマン人は互いに親しみ合う民であった。しかし、神を知らなかった。アミュロンの仲間は彼らに、主なる自分たちの神についてはどのようなことも教えず、モーセの律法についても教えなかった。また、アビナダイの言葉も教えなかった。
6しかし彼らは、記録を書き記すようにレーマン人に教え、また彼らが互いに文書でやり取りができるように教えた。

7 このようにしてレーマン人は富を殖やし始め、互いに商売をして富むようになった。また彼らは、俗世の知恵ということではずる賢く抜け目のない民、まことに、非常に悪知恵にたけた民になり、自分の仲間以外に対して、あらゆる悪事と略奪を働くのを喜びとした。

8 さて、アミュロンはアルマと彼の同胞に対して権[1)]力を振るうようになり、アルマを迫害し、また自分の子供たちにアルマとその同胞の子供たちをいじめさせるようになった。

9 アミュロンはアルマを知っており、アルマがかつてノア王の祭司の一[1)]人であり、アビナダイの言葉を信じて王の前から追い出された者であることを知っていたからである。そのために、アミュロンはアルマに憤りを感じていた。彼はレーマン王の支配を受けていたにもかかわらず、アルマと彼の同胞に対して権力を振るい、彼らに苦役[2)]を課し、彼らを見張る監督を置いた。

10 さて、彼らの苦難は非常に大きかったので、彼らは熱烈に神に叫び求めるようになった。

11 ところが、アミュロンは叫び求めることをやめるように彼らに命じた。そして、彼らを見張る者を置いて彼らを見張らせた。神に叫び求めているところを見つかった者はだれであろうと、殺すことにした。

12 そこでアルマと彼の民は、主なる自分たちの神に声を上げることなく、自分たちの心を主に注ぎ出した。そして主は、彼らの心の思いを御存じであった。

13 そして、苦難の中にいる彼らに主の声が聞こえて、言われた。「あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。わたしは自分の民と聖約を交わし、その民を奴隷の状態から救い出す。

14 またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、あなたがたが奴隷の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがこの後、わたしのために証[1)]人になれるようにするため、また主なる神であるわたしが、苦難[2)]の中にいる自分の民を訪れるということを、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。」

15 そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽

第24章
8 ① 教義121・39
9 ① モサ17・1−4、23・
9 ② GS モサ21・3−6
12 ① GS「祈り」
12 ② GS「証人・証」
14 ① GS「逆境」
14 ②

くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐
えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心
楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。
16さて、彼らは信仰が篤く、忍耐強かったので、主の
声が再び聞こえて、言われた。「喜びなさい。明日、
わたしはあなたがたを奴隷の状態から救い出す。」
17そして、主はアルマに言われた。「あなたはこの民
の先頭に立たなければならない。わたしはあなたと
ともに行き、この民を奴隷の状態から救い出そう。」
18そこでアルマと彼の民は、夜間自分たちの家畜の
群れを集め、また穀物の幾分かを集めた。まことに、
彼らは一晩中家畜の群れを集め続けた。
19そして朝、主はレーマン人を深く寝入るようにさ
れたので、彼らの監督たちは皆、深い眠りに落ちて
いた。
20そこで、アルマと彼の民は荒れ野に出て行った。
そして彼らは一日中旅をして、ある谷に天幕を張
った。彼らは、アルマが荒れ野の中で彼らを導いた
ので、その谷をアルマの谷と名付けた。
21そして、神が自分たちに憐れみをかけ、重荷を軽
くし、自分たちを奴隷の状態から救い出してくださ
ったので、彼らはアルマの谷で神に感謝の気持ちを
注ぎ出した。彼らは奴隷の状態にあって、主なる彼
らの神のほかに、だれも彼らを救い出すことができ
なかったからである。
22そして、彼らは神に感謝をささげた。まことに、
男も女も子供も、語ることのできる者は皆、声を上
げて神を賛美した。
23すると、主がアルマに言われた。「あなたとこの民
は急いでこの地を立ち去りなさい。レーマン人が目
を覚まして、あなたを追っているので、この地を立
ち去りなさい。レーマン人がこれ以上この民を追わ
ないように、わたしは彼らをこの谷でとどめよう。」
24そして、彼らはその谷を出て、荒れ野に旅立った。
25そして彼らは、十二日間荒れ野を旅した後、ゼラ
ヘムラの地に着いた。モーサヤ王は喜んで彼らを迎
え入れた。

第25章

ゼラヘムラのミュレクの子孫はニーファイ人になる。彼らはアルマの民とゼニフの民のことを知る。アルマ、リムハイと彼の民の全員にバプテスマを施す。

15 ① アル31・38、33・23
16 ① マタ11・28−30
17 ② 教義54・10、GS「忍耐」
19 ① GS「とりこ」
21 ① サ上26・12
21 ① GS「感謝」

モーサヤ、神の教会を設立することをアルマに許す。紀元前約百二十年。

1 さて、モーサヤ王はすべての人を集めさせた。
2 当時ニーファイの子ら、すなわちニーファイの子孫であった人々は、ミュレク[1]と、また彼とともに荒れ野へ出た人々の子孫である、ゼラヘムラ[2]の民ほど多くはなかった。
3 また、ニーファイの民とゼラヘムラの民を合わせても、レーマン人ほど多くはなかった。まことに、彼らはその半分にも満たなかった。
4 さて、ニーファイの民は皆集まり、ゼラヘムラの民も皆集まった。彼らは集まって二つの集団を作った。
5 そして、モーサヤ王は民にゼニフの記録を自ら読んで聞かせ、また人にも読ませた。まことに、彼は、ゼニフの民がゼラヘムラの地を立ち去ったときから再び帰って来るまでの、彼らの記録を読んで聞かせた。
6 彼はまた、アルマと彼の同胞の話と、また彼らがゼラヘムラの地を立ち去ったときから再び帰って来るときまでに受けた、あらゆる苦難の話を読んで聞かせた。
7 さて、モーサヤ王がこれらの記録を読み終えると、その地にとどまっていた彼の民は、不思議な思いと驚きに打たれた。
8 彼らには思いも及ばなかったからである。彼らが奴隷の状態から救い出された[1]人々を見ると、その人々は非常に大きな喜びに満たされていた。
9 またその人々は、レーマン人に殺された自分たちの同胞のことを思っては、悲しみでいっぱいになり、悲哀の涙を流した。
10 さらに彼らは、アルマと彼の同胞をレーマン人の手と奴隷の状態から救い出してくださった神の直接の慈しみと神の力のことを思っては、声を上げ、神に感謝をささげた。
11 また彼らは、罪深く汚れた状態にある自分たちの同胞のレーマン人のことを思っては、[1]彼らの幸いを案じて苦痛[2]と苦悩にさいなまれた。
12 さて、レーマン人の娘たちを妻としたアミュロンと彼の仲間の子供たちは、自分の父たちの行為を快く思っていなかった。そして、彼らはもはや父た

第25章
2 ① ヒラ6・10、GS「ミュレク」
② オム1・13−19
8 ① モサ22・11−13
11 ① GS「人（霊を持つ存在としての）−人の価値」
② モサ28・3−4、アル13・27

ちの名で呼ばれることを望まなかったので、ニーファイの名を受けた。それは、ニーファイの子らと呼ばれ、ニーファイ人と呼ばれる人々の中に数えられるようにするためであった。

13 今やゼラヘムラの民はすべて、ニーファイ人とともに数えられた。それは、ニーファイの子孫である人々のほかに、だれにも王位が授けられなかったからである。

14 さて、モーサヤ王は民に語り終え、読み終えると、アルマにも民に語ってもらいたいと思った。

15 そこでアルマは、民が幾つもの大きな集団を成して集まっているときに、彼らに語った。彼は一つの集団から次の集団へと巡って、悔い改めと主を信じる信仰を民に宣べ伝えた。

16 また彼は、リムハイと彼の同胞から成る民、すなわち奴隷の状態から救い出されたすべての人に、彼らを救い出してくださったのが主であることを覚えておくように勧めた。

17 さて、アルマが民に多くのことを教え、彼らに語り終えると、リムハイ王はバプテスマを受けたいと願った。また、彼の民も皆、バプテスマを受けたいと願った。

18 そこでアルマは水の中に入って行き、彼らにバプテスマを施した。まことに、彼はモルモンの泉で同胞に授けた方法で、彼らにバプテスマを施した。そして、彼がバプテスマを施した人々は皆、神の教会に属した。それは彼らがアルマの言葉を信じたからである。

19 さて、モーサヤ王はゼラヘムラの全地に教会を設立することをアルマに許し、またそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を聖任する力を彼に授けた。

20 さて、このように行われたのは、人々の数が非常に多く、一人の教師ですべての人をつかさどることができなかったからであり、また一つの集会ですべての人に神の言葉を聞かせることもできなかったからである。

21 それで彼らは、教会と呼ばれた別々の集団に集まった。それぞれの教会に祭司と教師がいて、祭司は皆、アルマの口により伝えられたとおりの言葉を宣べ伝えた。

22 このように、多くの教会があったにもかかわら

---

13 ① オム1・19
18 ① モサ21・35
19 ① ② モサ18・8−17
GS「神権」

ず、それらはすべて一つの教会、すなわち神の教会
であった。どの教会でも、悔い改めと神を信じる信
仰以外に、どのようなことも説かれなかったからで
ある。
23さて、ゼラヘムラの地には七つの教会があった。
そして、キリストすなわち神の名を受けることを望
んだ者はだれでも皆、神の教会に加わった。
24そして、彼らは神の民と呼ばれた。主は彼らに主
の御霊を注がれ、彼らは祝福され、その地で栄え
た。

第26章

多くの教会員が不信仰な者たちによって罪に誘い込
まれる。アルマ、永遠の命を約束される。悔い改め
てバプテスマを受ける者は赦しを得る。罪を犯した教
会員で、悔い改めてアルマと主に告白する者は赦され
る。そのようにしない者は教会の民の中に数えられな
い。紀元前約百二十年から百年に至る。

1さて、当時の若者の中には、ベニヤミン王が民に
語ったときにまだ幼い子供であったために、彼の言
葉を理解できなかった者が大勢いた。彼らは、自分
たちの先祖の言い伝えを信じなかった。
2彼らは、死者の復活について述べられたことも信
じなければ、キリストの来臨についても信じなかっ
た。
3また、彼らは自分の不信仰のために、神の言葉
を理解できなかった。そして、彼らの心はかたくな
であった。
4彼らは、バプテスマを受けようともしなければ、
教会に加わろうともしなかった。彼らは信仰に関
してはまったく違った民になっており、いつまでも
そのままで肉欲にふける罪深い状態にとどまって
いた。彼らは主なる自分たちの神に請い願おうとし
なかったからである。
5モーサヤ王の治世に、このような者の数は神の民
の半分に満たなかったが、教会の兄弟たちの中
に不和が起こったために、やがて神の民よりも多く
なった。
6そして、これらの者は教会に属していた多くの者
をだまし、彼らに多くの罪を犯させた。そのため、
教会に属していながら罪を犯した者を、教会は説

22① モサ18・17
23① GS「イエス・キリストー御名を受ける」
24① GS「聖約（契約）」
第26章
3① GS「理解」
4① GS「生まれながらの人」
5① GS「争い」「背教・背信」
6① アル5・57−58、6・3、GS「警告」

諭しなければならなかった。
7そこで、教師たちはこれらの者を祭司たちの前に連れて行き、祭司たちに引き渡した。そして祭司たちは、彼らを1)大祭司アルマの前に連れて行った。
8当時モーサヤ王は、教会を管理する権能をアルマに与えていた。
9さて、アルマは彼らのことについて知らなかったが、彼らを訴える証人は大勢いた。まことに、人々は立って、彼らの罪悪についてたくさんの証言をした。
10ところで、このようなことはこれまで教会の中で起こったことがなかったので、アルマは心の中で思い悩み、これらの者を王の前に連れて行かせた。
11そして、アルマは王に言った。「まことにわたしたちは、教会の兄弟たちから訴えられたこれらの多くの者を、王の御前に連れてまいりました。彼らはいろいろな罪悪を犯して連れて来られた者たちですが、自分たちの罪を悔い改めません。ですから、罪科に応じて王に裁いていただくために、王の御前にこれらの者を連れてまいりました。」
12ところが、モーサヤ王はアルマに言った。「まことに、わたしはこの人々を裁きません。あなたが裁くようにあなたの手に1)渡します。」
13そこでアルマは、再び心を悩ました。そして彼は、この問題について何を行えばよいか主に尋ねた。神の目にかなわないことを行うのを恐れたからである。
14アルマが自分の心のすべてを神に注ぎ出したところ、主の声が聞こえて言われた。
15「アルマよ、あなたは幸いである。1)モルモンの泉でバプテスマを受けた者たちも幸いである。あなたはわたしの僕であるアビナダイの言葉だけを深く信じたので、幸いである。
16また彼らは、あなたが彼らに語った言葉だけを深く信じたので、幸いである。
17あなたはこの民の中に1)教会を設立したので、幸いである。この民は立てられ、わたしの民となるであろう。
18まことに、喜んでわたしの1)名を受けるこの民は幸いである。わたしの名によって彼らは呼ばれるからである。彼らはわたしのものである。
19あなたは、戒めに背いた者についてわたしに尋ね

7 1) モサ29・42
12 1) 教義42・78−93
15 1) モサ18・30
2) モサ17・2、GS「信仰」
17 1) モサ25・19−24
18 1) モサ1・11、5・8、GS「イエス・キリスト−御名を受ける」

たので、幸いである。
20 あなたはわたしの僕である。わたしはあなたに、
あなたが永遠の命を受けると聖約する。あなたはわ
たしに仕え、わたしの名によって出て行き、わたし
の羊を集めなさい。
21 そして、わたしの声を聞く者はわたしの羊となる。
る。あなたはその者を教会に受け入れなさい。その
者をわたしも受け入れよう。
22 見よ、これはわたしの教会である。バプテスマを
受ける者はだれでも、悔い改めのためのバプテスマ
を受けなければならない。あなたが受け入れる者は
だれでも、わたしの名を信じなければならない。そ
うすれば、その者をわたしは惜しみなく赦そう。
23 世の罪を負うのはわたしである。世の人々を造っ
たのはわたしであり、最後まで信じる者にわたしの
右の場所を与えるのは、わたしである。
24 見よ、これらの者はわたしの名によって呼ばれる。
これらの者はわたしを知るならば、進み出て、永遠
にわたしの右に一つの場所を得るであろう。
25 そして、第二のラッパが鳴ると、そのとき、わた
しをまったく知らなかった者たちが出て来て、わた
しの前に立つであろう。
26 そのとき、彼らはわたしが主なる彼らの神であり、彼らの贖い主であることを知るであろう。しかし、彼らは贖われないであろう。
27 そのとき、わたしは彼らに、彼らをまったく知らなかったと告げよう。これらの者は、悪魔とその使いのために用意された永遠の火の中に入るであろう。
28 わたしはあなたに言う。わたしの声に耳を傾けない者を、あなたはわたしの教会に受け入れてはならない。そのような者を、わたしは終わりの日に受け入れないからである。
29 わたしはあなたに言う。行きなさい。そして、だれであろうとわたしに背く者を、あなたはその者の犯した罪に応じて裁きなさい。もしその者があなたとわたしの前で罪を告白し、真心から悔い改めるならば、その者をあなたは赦しなさい。わたしもその者を赦そう。
30 そしてわたしは、民が悔い改める度に、わたしに対する彼らの過ちを赦そう。
31 あなたがたも互いに過ちを赦し合わなければなら

20 ①GS「永遠の命」「選民」
21 ①GS「良い羊飼い」
22 ①2ニフ9・23、GS「バプテスマ」
②GS「罪の赦し」「赦し」
23 ①GS「贖い主」
②GS「創造・創造する」
24 ①ヨハ17・3
25 ①教義88・99、109
②教義76・81−86
27 ①マタ7・21−23
②教義76・43−44
③ルカ13・27
28 ①③2ニフ9・31、教義1・14
29 ①GS「責任を負う」
②GS「裁き」
③3ニフ1・25、GS「告白」
④GS「悔い改め」
⑤GS「赦し」
30 ①使徒3・19−20、モサ29・エゼ33・11、15−16、
31 ①②19−20モロ6・8
③ニフ13・14−15、教義64・9−10

ない。まことに、わたしはあなたに言う。隣人が悔い改めると言うときにその過ちを赦さない者は、自分自身に罪の宣告を招くことになる。

32 さて、わたしはあなたに言う。行きなさい。罪を悔い改めようとしない者はだれであろうと、わたしの民の中に数えてはならない。今後、このことを守るようにしなければならない。」

33 さて、アルマはこれらの御言葉を聞くと、それを保存できるように、また神が命じられたとおりに教会の人々を裁けるように、それを書き記した。

34 そして、アルマは行って、罪悪を犯して連れて来られた者たちを主の言葉に従って裁いた。

35 また、罪を悔い改めてそれを告白した者はだれであろうと、教会の人々の中に数えた。

36 しかし、罪を告白しようとせず、罪悪を悔い改めようとしない者は、教会の人々の中に数えられることなく、彼らの名は消された。

37 そして、アルマは教会の諸事をすべて整えた。人々は再び平和を得て、教会の諸事において非常に栄えるようになり、神の前を慎み深く歩み、多くの人を受け入れ、多くの人にバプテスマを施した。

38 さて、ともに教会を管理したアルマと彼の同僚たちは、これらのことをすべて行い、力の限り歩み、すべてのことについて神の言葉を教え、あらゆる苦難に耐え、また、神の教会に属していないすべての者から迫害を受けた。

39 彼らは教会の兄弟たちを戒めた。また、彼らも各々、神の言葉により、自分の罪、すなわち過去に犯した罪に応じて戒めを受け、絶えず祈るように、またすべてのことについて感謝をささげるように神から命じられた。

第27章

モーサヤ、迫害を禁じ、平等を指示する。息子アルマとモーサヤの四人の息子たち、教会を滅ぼそうとする。一人の天使が現れ、悪行をやめるように命じる。アルマ、口が利けなくなる。人は皆、救いを得るためには再び生まれなければならない。アルマとモーサヤの息子たち、喜びのおとずれを告げ知らせる。紀元前約百年から九十二年に至る。

1 さて、不信仰な者たちが教会員に加える迫害が非

---

35 ① GS「告白」
36 ① 出エ32・33、アル1・24、
39 ① GS「命の書」「破門」
② GS「警告」
③ 2ニフ32・8−9 GS「感謝」

常にひどくなったので、教会員はつぶやき、その件
について指導者たちに訴え始めた。そこで、指導者
たちはアルマに訴えた。アルマはその件を王である
モーサヤの前に持ち出し、モーサヤは祭司たちに意
見を求めた。
2そしてモーサヤ王は、不信者は神の教会に属して
いる者を迫害[1]してはならないと、周辺の全地に布告
を出した。
3また、すべての教会に次のような厳しい命令が出
された。すなわち、教会の中に迫害があってはなら
ない。すべての者は平等[1]でなければならない。
4高慢あるいは傲慢になって、平和[1]を乱すようなこ
とがあってはならない。すべての者は隣人を自分自
身のように尊ばなければならない[2]。また、自分自身
の手で働いて生活の糧を得なければならない。
5また、教会の祭司と教師は皆、病気のときやひど
く生活に困ったときのほかは、どのような場合で
も、自分自身で働いて[1]生活の糧を得るようにしなけ
ればならない、というものであった。彼らはこれら
のことを守ったので、神の恵み[2]を豊かに受けた。
6そして、国内は再び非常に平和になってきた。ま
た、民は非常に多くなり始め、地の面に、まことに、
東西南北に広く分散して、その地の全域に大きな町
や村を築き始めた。
7そして、主は彼らを顧み、栄えさせられた。その
ため、彼らは裕福で大きな民となった。
8ところで、モーサヤの息子たちは不信仰な者たち
の中に数えられており、アルマの息子の一人[1]もその
中に数えられていた。アルマのその息子は、父の名
を取ってアルマと名付けられていた。にもかかわら
ず、彼は非常に邪悪な男で、偶像[2]を礼拝する者にな
ってしまった。また、彼は言葉数の多い男で、民に
多くの世辞を述べ、多くの者に自分と同じような罪
悪を犯させた。
9そして彼は、民の心[1]を奪って民の中にひどい不和
を生じさせ、神の敵に民を支配する権力を振るう機
会を与えたので、神の教会の繁栄にとって大きな妨
げとなった。
10さて、彼が神の教会を滅ぼそうとして歩き回って
いたときに、すなわち、彼が神の戒めにも王の命令
にも逆らって、教会を滅ぼし、主の民を惑わそう
と、モーサヤの息子たちとともにひそかに歩き回っ

第27章
2 1 GS「迫害」
3 1 モサ23・7、29・32
4 1 GS「平安・平和」
5 1 GS「尊ぶ」
2 モサ18・24、26
8 1 GS「恵み」
2 GS「アルマ（アルマの息子）」
9 1 GS「偶像礼拝」
2 モサ下15・1−6

ていたときに、
11わたしが前に述べたように、彼らが神に背いて歩
き回っていたときに、見よ、主の天使が彼らに現れ
た。その天使は、まるで雲に包まれて来たかのよう
に降って来て、さながら雷のような声で語り、その
声は彼らの立っていた大地を震わせた。
12彼らはそのためにひどく驚き、地に倒れた。しか
し、彼らには天使の語った言葉が分からなかった。
13それでも天使は、また大声で言った。「アルマよ、
起き上がって立ちなさい。あなたはなぜ神の教会を
迫害するのか。主はかつて、『これはわたしの教会
である。わたしがこれを設ける。わたしの民の背き
のほかに、これを覆すものはない』と言われた。」
14天使はまた言った。「見よ、主は、御自分の民の祈
りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるア
ルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真
理の知識に導かれるように、深い信仰をもってあな
たのことを祈ってきたからである。したがって、わ
たしは神の力と権能が存在することをあなたに認め
させるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信
仰に応じてかなえられるためである。
15さて見よ、あなたは神の力に抵抗することができ
るか。わたしの声は大地を震わせているではない
か。あなたには、わたしがあなたの前にいるのが見
えないか。わたしは神から遣わされた者である。
16さて、わたしはあなたに言う。あなたの先祖がヘ
ラムの地とニーファイの地で囚われの状態にあっ
たことを思い出しなさい。また、神があなたの先祖
のために、どれほど大いなることを行われたかを思
い起こしなさい。あなたの先祖は奴隷の状態にあっ
たが、神が救い出してくださった。アルマよ、わた
しはあなたに言う。行きなさい。これからはもう教
会を滅ぼそうとしてはならない。たとえあなた自身
が捨てられようとも、彼らの祈りが聞き届けられる
ためである。」
17そしてこれは、天使がアルマに語った最後の言葉
である。そのようにして、天使は去って行った。
18さて、アルマと、またアルマとともにいた者たち
は、ひどく驚いて、再び地に倒れた。それは、自分
の目で主の天使を見、天使の声が雷のようであって
大地を震わせ、また大地を震わせてそれが引き裂け
るほどに揺り動かせるのは、神の力のほかにないこ

11①GS「背く」
②GS「天使」
③使徒9・1−9、アル8・15
13①GS「イエス・キリスト−教会の頭」
14①アル10・22
②モル9・36−37
16①モサ23・1−4

とを、知ったからである。
19このときアルマは、ひどく驚いたために物が言えなくなった。口を開くことができなくなったのである。また、体の力が弱くなり、手も動かせないほどになった。そこで、身動きができないまま彼と一緒にいた者たちに運ばれて、彼の父の前に置かれた。
20そして彼らは、彼の父に、自分たちに起こったことをすべて詳しく告げた。すると彼の父は、それが神の力によって起こったことを知って喜んだ。
21彼は主が自分の息子と、また息子と一緒にいた者たちに行われたことを見せようとして、大勢の人を集めた。
22また、彼は祭司たちも集めた。そして、彼らは断食して、主なる自分たちの神に祈り始め、アルマの口を開いて物が言えるようにしてくださること、また彼の手足に力が与えられること、そして、それによって民の目が開かれて、彼らが神の慈しみと栄光を見て知るようになることを請い願った。
23そして、彼らが二日二晩断食して祈ったところ、アルマの手足は力を取り戻した。そして、アルマは立ち上がると、彼らに語り始め、安心するように彼らに言った。
24彼はこのように述べた。「わたしは自分の罪を悔い改め、主に贖われました。まことに、わたしは御霊によって生まれました。
25主はわたしに言われました。『全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける堕落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。
26このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。』
27わたしは皆様に申し上げます。人は実際にこのような状態にならないかぎり、必ず捨てられます。わたしは一度捨てられそうになったので、このことが分かります。
28にもかかわらず、多くの艱難を耐え抜いて、死ぬほどの悔い改めをしたところ、主はわたしを憐れんで、永遠に燃える火からわたしを救い出すことがふ

24① 2ニフ2・6—7、GS「贖い・贖う」
25① ロマ6・3—11、モサ5・7、アル5・14、モセ6・59、GS「再び生まれる」
26① ② GS「現世的」
③ モサ3・19、16・3
28① ヨハ3・5、2ニフ9・16

さわしいとされました。そして、わたしは今、神から生まれたのです。

29 わたしはすでに苦汁と罪悪のかせから贖われました。わたしはかつて、最も暗く深い淵の中にいましたが、今は神の驚くべき光を見ています。わたしはかつて永遠の苦痛に責めさいなまれましたが、今は救い出されており、もう心に苦痛を感じません。

30 わたしはかつて贖い主を拒み、わたしたちの先祖が語ってきたことを受け入れませんでした。しかし今は、贖い主が将来来られるのを全人類が先見できること、また贖い主が御自分の造られたすべてのものを覚えていて、将来すべての人に御自身を現されるということをわたしは知っています。

31 まことに、すべてのひざがかがみ、すべての舌が贖い主の御前で告白します。すべての人が立って贖い主に裁かれる終わりの日に、彼らは贖い主が神であられることを告白します。またそのとき、神に頼らずにこの世の中で生きている者たちは、永遠の罰の裁きが自分たちにとって公正であることを告白します。そして、彼らはすべてのことを見通す贖い主の目の下で震えおののき、縮み上がります。」

32 さて、アルマはこのとき以来、民を教え始めた。また、天使が現れたときにアルマと一緒にいた者たちとともに、全地を旅して回り、自分たちの聞いたり見たりしたことをすべての民に告げ、多くの艱難の中で神の言葉を宣べ伝えた。そして、不信仰な者たちからひどい迫害を受け、彼らの多くから打たれた。

33 しかし、このような目に遭ったにもかかわらず、彼らは教会員に大きな慰めを与え、彼らの信仰を強め、また、ひどい苦労をしながらも、寛容をもって彼らに神の戒めを守るように勧めた。

34 これらの者のうちの四人はモーサヤの息子であり、その名をアンモン、アロン、オムナー、ヒムナイといった。以上はモーサヤの息子たちの名である。

35 そして、彼らはゼラヘムラの全地を旅し、モーサヤ王が治めているすべての民の中を巡って、自分たちがかつて教会に加えたすべての害悪の償いをしようと熱心に努め、自分たちのすべての罪を告白し、自分たちが見たすべてのことを告げ、また自分たちの言葉を聞きたいと望んだすべての人に、預言

29 ① モサ 2・38
31 ① ピリ 2・9−11、モサ 16・1−2、教義 88・104
② GS「イエス・キリスト―裁き」
34 ① ④ ③ アル 41・11
GS「神」
GS「アンモン（モーサヤの息子）」

と聖文について解説した。
36このようにして、彼らは神の手に使われる者となって多くの人を真理の知識に導き、まことに、贖い主について知らせた。
37何と彼らは祝福されていることか。彼らは平和を告げて広め、善のよきおとずれを告げて広め、主が統治しておられることを民に告げ知らせたからである。

第28章

モーサヤの息子たち、レーマン人に宣べ伝えに行く。モーサヤ、二つの聖見者の石を使ってヤレド人の版を翻訳する。紀元前約九十二年。

1さて、モーサヤの息子たちはこれらのことをすべて終えた後、少数の人々を連れて、自分たちの父である王のもとに帰った。そして、自分たちの選んだこれらの人々とともにニーファイの地へ行き、同胞であるレーマン人に自分たちの聞いたことを宣べ伝え、神の言葉を告げることができるように、許可を与えてほしいと願った。
2それは、このようにすれば、レーマン人に主なる彼らの神のことを悟らせ、彼らの先祖の罪悪を立証し、ニーファイ人に対する憎悪をなくさせ、主なる彼らの神を信じて喜ばせ、互いに友好を深めさせて、またニーファイ人とレーマン人の両方に対して主なる彼らの神が与えてくださった全地に、もはや争いがないようにすることができると思ったからである。
3さて、モーサヤの息子たちは、救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った。彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。まことに、無窮の苦痛を受ける人がいると考えただけで、彼らは震えおののいた。
4このように、主の御霊が彼らに働きかけた。彼らはかつて罪人の中でも最も罪深い者であった。しかし主は、その限りない憐れみにより、彼らを救うのが御心にかなうとされた。それでも彼らは、自分たちの罪悪のために心にひどい苦しみを受け、とこしえに捨てられてしまうのではないかと非常に悩み、心配した。
5そして彼らは、ニーファイの地へ行くことができ

37①イザ52・7、モサ15・14−17、GS「宣べ伝える」
②GS「福音」
第28章
1①モサ27・34
②オム1・12−13、モサ9・1
2①ヤコ7・24
3①GS「人（霊を持つ存在としての）−人の価値」
②アル13・27、3ニフ17・14、モセ7・41
③ヤコ6・10、教義19・10−12
4①モサ27・10
②GS「憐れみ」

るように、幾日も父に懇願した。
6そこでモーサヤ王は、息子たちをレーマン人の中へ行かせて御言葉を宣べ伝えさせるべきかどうか、主に尋ねた。
7すると、主はモーサヤに言われた。「彼らを行かせなさい。多くの者が彼らの言葉を信じるからである。そして、彼らは永遠の命を得るであろう。また、わたしはあなたの息子たちをレーマン人の手から救い出そう。」[1]
8そこでモーサヤは、彼らの願いどおりにすることを許した。
9そして、彼らは荒れ野に旅立ち[1]、レーマン人の中で御言葉を伝えるために出かけて行った。彼らが行ったことについての話は後に書き記す[2]。
10さて、モーサヤ王には王位を継ぐ者が一人もいなかった。王の息子たちの中に、王位を受けたいと思う者がだれもいなかったからである。
11そこでモーサヤ王は、リムハイの民が発見し、リムハイの手から王に渡された金の版の記録を翻訳[1]し、書き取らせた後、真鍮の版に刻まれた記録[2]と、ニーファイの版と、神の命令に従って王自身が守り、保存してきたすべてのものを取りまとめた。
12彼がそうしたのは、彼の民がそれを切望したからである。彼らはすでに滅びてしまった人々のことを非常に知りたいと思った。
13さて、彼は、弓形のものの両端にしっかり取り付けられたあの二つの石を用いて、それらを翻訳した。[1]
14これらのものは世の初めから用意され、言語を解訳するために代々伝えられたものであり、
15また、この地を所有するすべての者に、御自分の民の罪悪と忌まわしい行いを明らかにするために、主が御自分の手により守り、保存してこられたものである。
16そして、これらのものを持つ者は、昔言われたように聖見者と言われる。[1]
17さて、モーサヤがこの記録を翻訳したところ、見よ、それはすでに滅びた民についての話であった。[1]彼らが滅びたときからさかのぼって、主が民の言葉を乱されて、民が全地の面に広く散らされた時代[2]の大きな塔の建設に至るまでのこと、さらにその時代からさかのぼって、アダムの創造に至るまでのこ[3]

7①アル19−22−23
②アル17−6−9
9①アル17−26章
11①GS「金版」
②GS「真鍮版」
13①GS「ウリムとトンミム」
②
16①モサ8−13−18、GS「聖見者」
17①モサ8−7−12
②創世11−6−9
③エテ1−1−5

とが書き記されていた。
18さて、モーサヤの民はこの話を聞いて非常に嘆き、まことに、悲しみでいっぱいになった。しかし、それでも彼らはこの話から多くのことを知り、喜びも得た。
19そして、この話の中に書き記されていることを知るのは、見よ、すべての人にとって望ましいので、この話は後に書き記すことにする。
20さて、前にあなたがたに述べたように、モーサヤ王はこれらのことを行った後、[1]真鍮の版と、自分が保存してきたすべてのものを取りまとめ、これらのものをアルマの子であるアルマに託した。まことに、すべての記録と[2]解訳器を取って彼に与え、これらのものを守り、[3]保存すること、また民の記録を書き続けること、そして、リーハイがエルサレムを出たときから伝えられてきたように、今後も代々これらのものを伝えることを彼に命じた。

第29章

モーサヤ、王の代わりにさばきつかさを選ぶことを提案する。不義な王は民を罪に陥らせる。息子アルマ、民の声によって大さばきつかさに選ばれる。また、教会の大祭司も務める。父アルマとモーサヤ、死ぬ。紀元前約九十二年から九十一年に至る。

1さて、モーサヤはこれを終えると、だれが民の王になるべきかについて民の気持ちを知りたいと思い、全地に、すなわち民の全員に自分の言葉を伝えた。
2そして、「わたしたちは王の子アロンが王となり、統治者となることを願っています」というのが民の声であった。
3ところが、アロンはすでにニーファイの地へ行った後であったので、王は彼に王位を譲れなかった。またアロンも、王位を受けることを望まなかったであろう。さらに、[1]モーサヤの息子たちの中には、王位を受けたいと思う者はだれもいなかった。
4そこでモーサヤ王は、民にもう一度自分の言葉を伝えた。すなわち、自分の言葉を書き記した文書を民に送った。その言葉は次のとおりである。
5「見よ、おお、わたしの民、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたを同胞と思っているので、考慮す

20①アル37・3—10
②GS「ウリムとトンミム」
③GS「聖文—保存されるべき聖文」
第29章
3①モサ27・34

るように求められている事柄について、よく考慮してほしい。あなたがたは王を持ちたいと願っているからである。

6さて、あなたがたに告げる。王位を継ぐ権利のある者は辞退し、王位を受けようとしない。

7もし彼の代わりにほかの者が任命されるならば、あなたがたの中に争いが起こる恐れがある。王位を継ぐ権利のあるわたしの息子が後に怒って、民の一部を率いるようにならないともかぎらない。そうなれば、あなたがたの中に戦争と対立が起こって、多くの血が流され、主の道が曲げられる原因になり、また多くの人の霊が滅ぼされることになる。

8わたしはあなたがたに告げる。知恵をよく働かせて、これらのことをよく考えよう。わたしたちにはわたしの息子を滅ぼす権利はまったくないし、彼に代わって任命されるほかの者を滅ぼすいかなる権利もない。

9わたしの息子は、もし再び高慢になり、むなしいことに戻るならば、自分が前に言ったことを取り消し、王国に対する自分の権利を主張するであろう。そうなれば、わたしの息子もこの民もひどい罪を犯すことになる。

10そこでわたしたちは、知恵を働かせてあらかじめこれらのことを考え、この民の平和に役立つことを行うようにしよう。

11したがって、わたしは余生をあなたがたの王として過ごすことにする。しかしわたしたちは、自分たちの法に従ってこの民を裁くさばきつかさを任命しよう。また、神の戒めに従ってこの民を裁く賢明な人々をさばきつかさとして選任し、この民の政務を新たに整えよう。

12さて、人は、神に裁かれる方が人に裁かれるよりもよい。神の裁きはいつも公正であるが、人の裁きは必ずしも公正でないからである。

13したがって、もし神の律法を確立して、神の律法に従ってこの民を裁こうとする正しい人々を、王に持つことが可能であれば、まことに、もしもわたしの父ベニヤミンがこの民のために行ったように行おうとする人々を、自分たちの王に持つことができるならば、あなたがたに告げる、もしもこのようにいつもできるのであれば、いつもあなたがたを治める王がいるのが望ましいであろう。

5①　11①　13①②
サ上8・9—19　出18・13—24　モサ29・25—27　モサ23・8、13—14　モ言1・17—18

14 そして、わたし自身、戦争や争い、盗み、略奪、
殺人、そのほかどのような罪悪も存在することのな
いように、わたしの持つあらゆる力と知力を働かせ
て、あなたがたに神の戒めを教えようと、また全地
に平和を確立しようと努めてきた。
15 また、わたしは罪悪を犯した者に、それがだれで
あろうと、わたしたちの先祖から与えられた法に従
って、その者の犯した罪科に応じて罰を与えてき
た。
16 さて、あなたがたに告げる。すべての人は必ずし
も正しくないので、あなたがたを治める王、あるい
は王たちがいるのは望ましいことではない。
17 見よ、一人の悪い王が犯させる罪悪は何とひどい
ことか。また、滅亡の何と大きいことか。
18 まことに、ノア王を思い出しなさい。ノア王の悪
事と忌まわしい行いと、また彼の民の悪事と忌まわ
しい行いを思い出しなさい。見よ、何と大きな滅亡
が彼らに及んだことか。また彼らは、自分たちの罪
悪のために奴隷の状態に陥ってしまった。
19 もしも彼らが心から悔い改めて、全知の創造主の
介在を受けなかったならば、彼らは必ず現在まで奴
隷の状態のままでいたに違いない。
20 しかし見よ、彼らが主の御前にへりくだったので
、主は彼らを救い出された。また、彼らが主に熱
烈に叫び求めたので、主は彼らを奴隷の状態から救
い出された。このように、どの場合でも、主は人の
子らの中で御自分の力をもって働き、主に頼る者
に憐れみの御腕を伸ばされる。
21 そして見よ、わたしはあなたがたに告げる。あな
たがたは罪深い王を退位させる場合、ひどい争いと
多くの流血によらなければ、それができない。
22 見よ、罪深い王には罪悪を犯す仲間がいる。また
彼は、身辺に衛兵を置き、自分よりも前に義をもっ
て治めてきた王たちの法を破棄し、神の戒めを足の
下に踏みにじり、
23 新しい法律、まことに、自分の悪事にかなう法律
を制定して民の間に発布し、その法律に従わない者
はだれであろうと殺させ、自分に背く者にはだれで
あろうと軍隊を派遣して戦わせ、できればそれらの
者を滅ぼそうとするからである。このように、不義
な王はあらゆる義の道を曲げる。
24 さて見よ、わたしはあなたがたに告げる。このよ

---

15 ① アル1・32—33
17 ① モサ23・7—9
18 ① アル46・9—10
② モサ11・1—15
12・1—8、エテ6・22—
20 ① 23 モサ21・13—15
② 出エ2・23—25、アル
43・49—50
③ GS「信頼」
④ エゼ33・11、15—16、
22 ① モサ26・30
23 ① 列上12・8—14
GS「邪悪」

うな忌まわしいことがあなたがたに及ぶのは、望ましいことではない。
25したがって、あなたがたは、わたしたちの先祖から与えられた法に従って裁かれるように、この民の声によってさばきつかさを選びなさい。先祖によって与えられた法は正しいものであって、主の御手によって先祖に授けられたものである。
26さて、民の声が正しいことに反する事柄を望むのはまれであるが、民の少数が正しくないことを求めるのは度々あることである。したがって、あなたがたは民の声によって職務を果たすように留意し、それをあなたがたの法とすべきである。
27そして、[1]もしも民の声が罪悪を選ぶ時が来れば、それは神の裁きがあなたがたに下る時であり、神がこれまでこの地に報いを下してこられたように、あなたがたにひどい滅亡を及ぼされる時である。
28さて、もしあなたがたにさばきつかさたちがいて、彼らが与えられている法に従ってあなたがたを裁かなければ、あなたがたは、彼らを上級さばきつかさに裁いてもらうことができる。
29もし上級さばきつかさが義にかなった判決を下さなければ、あなたがたは下級のさばきつかさを集め、彼らに民の声に従って上級さばきつかさを裁かせるようにしなさい。
30わたしはあなたがたに、主を畏れてこれらのことを行うようにと命じる。わたしはあなたがたに、王を持つことなくこれらのことを行うように命じる。もしこのような状態にある人々が罪と不義を犯すならば、その責任は人々の頭に帰するであろう。
31見よ、わたしはあなたがたに告げる。過去の多くの人の罪は、彼らの王の罪悪によって引き起こされた。したがって、彼らの罪悪の責任は彼らの王の頭に帰する。
32さて、わたしはもう二度とこの[1]不平等がこの地に、特にわたしのこの民の中にないことを願っている。この地が[2]自由の地となり、わたしたちがこの地に住んでこれを受け継ぐことを、主が御心にかなうと見なしてくださるかぎり、またわたしたちの子孫が一人でもこの地の面に残っているかぎり、[3]すべての人が権利と特権を等しく享受できることを、わたしは願っている。」
33モーサヤ王は、ほかにも多くのことを民に書き記

27① アルマ10・19
32① アルマ30・11
② 2ニフ1・7、10・
③ 11、GS「自由」アルマ27・9

し、義を守る王の直面するあらゆる試練と苦難、ま
ことに、民のために感じる心の苦しみのすべて、民
が王に訴える不平のすべてを彼らに明らかにし、ま
た彼らにそれをすべて説明した。
34また、モーサヤ王は彼らに、このようなことはあ
ってはならないこと、責任は民の全体で分担して、
すべての人が自分の責任を負わなければならないこ
とを告げた。
35彼はまた、不義な王が治めるときに民が被る不利
益、
36まことに、不義な王のすべての罪悪と忌まわしい
行い、またすべての戦争と争い、流血、盗み、略奪、
みだらな行い、そのほか一々数え上げられないすべ
ての罪悪について彼らに明らかにし、またこれらの
ことがあってはならないこと、これらのことは明ら
かに神の戒めに反することを彼らに告げた。
37そして、モーサヤ王がこれらのことを民に書き送
ったところ、彼らは王の言葉が真実であると確信し
た。
38そこで彼らは、王を持とうとする望みを捨て、国
中のすべての人が平等な機会を得ることを非常に
切望するようになった。そして、すべての人が自分
自身の罪の責任を喜んで負うことを言明した。
39そして彼らは、自分たちに与えられた法に従って
裁く、さばきつかさとなるべき人々を、自分たちの
声によって選ぶため、国の方々で幾つかの集団を成
して集まった。そして彼らは、自分たちに与えられ
た自由を非常に喜んだ。
40彼らはモーサヤ王への愛の気持ちをますます深
め、ほかのだれよりも彼を敬った。彼らは王のこと
を、利益すなわち人を堕落させるあの利得を追求す
る暴君とは思わなかったからである。彼は民から富
を厳しく取り立てたことはなく、血を流すことを喜
びとしたこともなく、国内に平和を確立し、民があ
らゆる束縛から救い出されるようにしてきたからで
ある。そのため、彼らは王を非常に、まことに計り
知れないほど敬った。
41さて、彼らは自分たちを治めるさばきつかさた
ち、すなわち法に従って自分たちを裁くさばきつか
さたちを任命した。彼らは国中でこれを行った。
42そして、アルマは最初の大さばきつかさに任命さ
れたが、彼は大祭司でもあった。アルマの父は彼に

39① アル1・14
40① GS「自由」
40② GS「平和をつくり出す人」
41① モサ29・11

その職を授け、教会の諸事全般に関する責任をゆだねていた。

43 さて、アルマは主の道を歩み、[1]主の戒めを守り、義にかなった裁きを行ったので、引き続き国中が平和であった。

44 このようにして、ゼラヘムラの全地で、すなわちニーファイ人と呼ばれたすべての民の中で、さばきつかさの統治が始まった。そして、アルマが最初のさばきつかさであり、大さばきつかさであった。

45 さて、アルマの父は神の命令を果たし終えるまで生きて、八十二歳で死んだ。

46 そしてモーサヤも、在位の第三十三年に、六十三歳で死んだ。[1]リーハイがエルサレムを出たときから数えて五百九年になる。

47 このようにして、ニーファイの民を治めた王たちの統治は終わり、また、民の教会の創設者であったアルマの時代も終わった。

---

43 ① GS「歩む（神とともに）」
46 ① モサ6・4

アルマ書

アルマの息子アルマの書

アルマの息子であり、ニーファイの民を治める最初のさばきつかさであり、大さばきつかさでもあり、教会の大祭司でもあったアルマについての話。さばきつかさの統治と、民の中の戦争と争いについての話。ニーファイ人とレーマン人の間の戦争についての話。これは、最初のさばきつかさであり、大さばきつかさであったアルマの記録による。

第1章

ニーホル、偽りの教義を教え、教会を設立し、偽善売教を始め、ギデオンを殺す。ニーホル、罪科に応じて死刑にされる。偽善売教と迫害が民の中に広まる。祭司たちは自活し、民は貧しい人々を助け、教会は栄える。紀元前約九十一年から八十八年に至る。

1 さて、モーサヤ王は善の戦いに従事し、神の前をまっすぐに歩み、自分に代わって統治する者をだれも残すことなく、世のすべての人の行く道を行ったが、世を去る前に法律を制定し、民がそれを承認した。したがって、ニーファイの民を治めるさばきつかさの統治の第一年以降、民はモーサヤ王の定めた法律に従わなければならなかった。

2 さて、アルマがさばきつかさの職に就いて治めた最初の年に、裁判を受けるために、彼の前に連れ出された一人の男がいた。その男は体が大きく、力が強いことで名高かった。

3 彼は人々の中を巡り歩いて、自分で神の言葉と称したことを彼らに宣べ伝え、教会に圧迫を加え、また、祭司と教師は皆、人望を得るはずであって、自分の手で働く必要はなく、人々によって生活を支えられて当然であると宣言した。

4 彼はまた、全人類は終わりの日に救われるので、人は恐れる必要もおののく必要もない、むしろ頭を上げて喜ぶがよい、主がすべての人を造られ、すべてにすべての人を贖っておられ、結局すべての人が永遠の命を得るからであると、人々に公言した。

アルマ書
第1章
1 ① モサ29・46
② ジェロ1・5、アル4・16、ヒラ4・22
2 ① アル1・15
3 ① エゼ13・3
② GS「反キリスト」
③ ルカ6・26、1ニフ22・23
4 モサ18・24、26、27・
5 ④

5 さて、彼はこれらのことを多く教えたので、多くの者が彼の言葉を信じ、彼の生活を支え、金銭を彼に贈るようになった。
6 そこで彼は、高慢な心で高ぶり始め、非常に高価な衣服を身に着けるようになり、自分の説き教えることにかなう[1]教会を設立するようにさえなった。
7 そして彼は、自分の言葉を信じる者たちに説教するために出かけて行く途中で、神の教会に属する者、すなわち教会の教師の一人に出会った。そこで彼はその人と激しく論争し、教会の人々を惑わそうとした。しかし、その人は彼に反論し、[1]神の言葉をもって彼を論した。
8 さて、その人の名はギデオンという。かつて、神の手に使われる者となって、リムハイの民を奴隷の状態から救い出した人である。
9 さて、ギデオンが神の言葉をもって彼に反論したので、彼はギデオンに対して腹を立て、剣を抜いてギデオンに打ちかかった。ところが、ギデオンは年を取っていたので、その男が切りかかってくるのに抗することができず、剣によって[1]殺されてしまった。
10 それで、ギデオンを殺したその男は教会の人々に捕らえられて、アルマの前に連れて行かれ、彼の犯した罪科に従って[1]裁判されることになった。
11 そこで彼は、アルマの前に立つと非常に大胆に自己弁護をした。
12 しかし、アルマは彼に言った。「見よ、この民の中で[1]偽善売教が起こったのは、これが初めてである。見よ、あなたは偽善売教の罪を犯しただけでなく、剣によってそれを強要しようとした。この民の中で偽善売教が行われれば、民は完全に滅びてしまうであろう。
13 また、あなたは義人、まことに、この民の中で多くの善を行ってきた人の血を流したので、もしわたしたちがあなたを赦したならば、彼の血が[1]報復を求めてわたしたちに降りかかるであろう。
14 したがって、わたしたちの最後の王モーサヤから与えられた法律により、あなたに死刑を宣告する。この法律はこの民によって承認されたものであるから、この民はこの法律に[1]従わなければならない。」
15 そして、人々は彼を捕らえた。彼の名は[1]ニーホルといった。そして人々は、彼をマンタイの丘の頂上に運んで行った。そこにおいて彼は、自分が民に

6 1 ニフ 14・10
7 1 GS「言葉（神の）」
8 1 モサ 20・17、22・3
9 1 アル 6・7
10 1 モサ 29・42
12 1 2 ニフ 26・29、GS「偽善売教」
13 1 GS「報復」
14 1 GS「死刑」
15 1 アル 1・2

教えてきたことが神の言葉に反するものであったことを、天地の間で白状させられた、いや、自分から認めた。そして、彼は不名誉な最期を遂げた。

16 にもかかわらず、偽善売教が国中に広まるのはやまなかった。俗世のむなしいものを非常に好む者が大勢いたからである。彼らは出て行って偽りの教義を宣べ伝えた。[1]富と誉れを得ようとして、このように行ったのであった。

17 それでも、[1]偽りを言う者は罰せられるので、彼らは法律を恐れて、あえて公然とは偽りを言わなかった。それで、自分の信条に従って教えを説いているふりをした。法律は、[2]人の信条については、だれをも罰する力を持たなかったからである。

18 また、盗みを働く者は罰せられるので、彼らは法律を恐れて、あえて[1]盗みをしなかった。彼らは奪い取ることもしなかったし、人も殺さなかった。人を殺す者は[2]死刑に処せられたからである。

19 しかし、神の教会に加わっていない者たちは、神の教会に属してキリストの名を受けた人々を迫害し始めた。

20 まことに彼らは、神の教会に属する人々を迫害し、あらゆる言葉で苦しめ悩ました。これは、教会の人々が謙遜であり、彼らの目に高ぶりがなく、また[1]金を出さず、代価を払わないで、互いに神の言葉を教え合っていたからである。

21 さて、教会の人々の中には厳しい律法があり、教会に属している人は、教会に属していない人を苦しめてはならない、また互いに苦しめ合ってはならないとされていた。

22 にもかかわらず、彼らの中には高ぶり、相手と激しく論争して殴り合いさえするようになった者が大勢いた。まことに、彼らは互いにこぶしで殴り合った。

23 さて、これはアルマの統治第二年にあったことで、教会がひどい苦しみに遭う原因となり、まことに、ひどい試練を受ける原因となった。

24 それは、多くの者の心がかたくなであったからである。そして、これらの者の名が消されたため、[1]彼らはもはや神の民の中で思い出されることはなかった。また、多くの者が自ら神の民のもとを去った。[2]

25 さて、これは信仰にしっかりと立っている人々にとって大きな試練であった。にもかかわらず、彼ら

---

15 ① 申命13・1−9
15 ② 申命13・1−9
16 ① GS「富」「むなしさ」
17 ① GS「偽り」「正直」
17 ② アル30・7−12、箇条1・11
18 ① GS「盗み」
18 ② GS「殺人」
20 ① GS「死刑」
20 ③ イザ55・1−2
21 ① GS「迫害」
24 ① 出エ32・33、モサ26・36、アル6・3、GS「破門」
24 ② アル46・7、GS「背教」「背信」

は確固として動かずに神の戒めを守り、また自分たちに加えられる迫害に辛抱強く耐えた。

26そして、祭司たちが神の言葉を民に告げるために仕事を休めば、民もまた神の言葉を聞くために仕事を休んだ。そして、祭司たちが彼らに神の言葉を告げ終えると、彼らは皆、再び自分たちの仕事に戻り、熱心に働いた。教えを説く者は聞く者よりも偉いわけではなく、教える者は学ぶ者よりも偉いわけではないので、祭司は自分自身を自分の話を聞く者よりも優れているとは思わなかった。このように、彼らは皆、平等であった。そして、彼らは皆、各々自分の力に応じて働いた。

27また彼らは、各々自分の持っている分に応じて、貧しい者や乏しい者、病気の者、苦しんでいる者に自分の持ち物を分け与えた。彼らは高価な衣服を身に着けてはいなかったが、その装いはこざっぱりして麗しかった。

28このように、彼らは教会の諸事を整えた。また、あらゆる迫害にもかかわらず、彼らはまた引き続き平和を保つようになった。

29さて、教会員は堅実であったので、非常に物持ちになり、自分たちが必要としたすべてのものを豊かに持つようになった。すなわち、大小の家畜の群れや、あらゆる若い肥えた家畜、それに穀物や金や銀や貴重な品々、また絹や、より糸で織った亜麻布、あらゆる丈夫で素朴な織物、これらのものを豊かに持つようになった。

30このようにして、彼らは裕福な暮らしの中で、着る物のない者や飢えている者、渇いている者、病気の者、栄養の足りない者を追い払うことがなかった。また、彼らは富に執着することもなかった。そのため、老いた者にも若い者にも、束縛された者にも自由な者にも、男にも女にも、また教会員であるなしの区別なく、助けの必要な人々については人を偏り見ることなく、すべての人に物を惜しまなかった。

31このように彼らは栄え、教会に属していない者たちよりもはるかに裕福になった。

32それは、教会に属していない者が魔術や偶像礼拝にふけり、あるいは怠惰に浸り、また無駄話やねたみや争いにふけり、高価な衣服を身に着け、高慢な目で高ぶり、迫害し、さらには偽りを言い、盗み、強盗をし、みだらな行いをし、人を殺し、そのほか

---

25 ① GS「忍耐」
26 ① モサ18・24、26、27・3−5
② モサ4・27、教義10・4
27 ① ルカ18・22、モサ4・26、教義42・29−31
② GS「施し」
29 ① GS「富」
② アル4・6
30 ① ヤコ2・17−19
② GS「貧しい」
③ アル16・14、教義1・35
32 ① GS「偶像礼拝」
② GS「怠惰」
③ GS「悪口」
④ GS「ねたみ」
⑤ ヤコ2・13、アル31・25、モル8・28、GS「高慢」

あらゆる悪事を行ったからである。しかし、法律に背いた者にはすべて、できるかぎりその法律が適用された。

33そして、法律に背いた者には、その法律が適用され、すべての者が自分の行ったことに応じて処罰されたので、彼らは前よりも穏やかになり、あえて公然とこのような悪事を行おうとしなかった。そのため、さばきつかさの統治第五年まで、ニーファイの民の中は十分に平和が保たれていた。

第2章

アムリサイ、王になろうとするが、民の声により拒絶される。アムリサイに従う者たち、アムリサイを王にする。アムリサイ人、ニーファイ人に戦争を仕掛け、打ち負かされる。レーマン人の軍隊とアムリサイ人の軍隊が連合するが、打ち負かされる。アルマ、アムリサイを殺す。紀元前約八十七年。

1さて、さばきつかさの統治第五年の初めに、民の中に争いが起こった。これは、アムリサイという男のために起こったものである。この男は非常に狡猾な男、まことに、俗世の知恵に関していえば賢い男であり、かつて剣でギデオン[1]を殺し、法律によって死刑にされた男の教団に属していた。

2さて、このアムリサイは、悪知恵によって多くの人を引き寄せて自分につかせた。そして、その人数が非常に多かったので、彼らは大いに勢力を増し、アムリサイを立てて民を治める王にしようとし始めた。

3さて、これは教会の人々にとっても、また、アムリサイの説得に引き寄せられなかったすべての人にとっても、憂慮すべきことであった。法律によれば、このようなことは民[1]の声によって決めなければならないということを、彼らは知っていたからである。

4したがって、もし民の支持を得るようなことになれば、アムリサイは邪悪な男であったので、教会の権利[1]と特権を民から奪うつもりであった。神の教会を滅ぼすことが彼の目的であったからである。

5さて、人々は国の至る所で各々思いのままに、アムリサイに味方する者と反対する者が分かれて集まり、そこには、ひどい論争[1]と驚くほどの争いが見られた。

第2章
1 ① アル1・8
3 ① モサ29・25−27、アル4・16
4 ① アル10・19、ヒラ5・2
5 ① ニフ11・29

6 このようにして、彼らは集まってこの件について投票し、その投票をさばきつかさたちの前に置いた。
7 そして、民の声はアムリサイに反対であったので、彼は民を治める王になれなかった。
8 さてこれは、彼に反対であった人々には大いに喜ばしいことであった。しかし、アムリサイは自分に好意を寄せる者たちを扇動し、自分に好意を寄せない人々に対して怒りを抱かせた。
9 そして、彼らは集まり、アムリサイを自分たちの王に任じた。
10 さて、アムリサイは彼らを治める王になると、同胞に対して武器を取るように彼らに命じた。彼は民を自分に従わせようとして、このように行ったのである。
11 ところで、アムリサイの民はアムリサイの名で区別されて、アムリサイ人[1]と呼ばれ、残りの者はニーファイ人[2]、すなわち神の民と呼ばれた。
12 ニーファイ人はアムリサイ人の意図を知って、彼らと戦いを交える用意をした。まことに、彼らは剣と三日月刀、弓と矢、また石と石投げ、そのほかあらゆる武器[1]で武装した。
13 このように、彼らはアムリサイ人が攻めて来たときのために、彼らと戦いを交える用意をした。また、人数に応じて隊長と大隊長、連隊長が任命された。
14 また、アムリサイもあらゆる武器で自分の兵を武装させ、自分の民をつかさどる統率官と指揮官を任命し、同胞と戦う指揮を執らせた。
15 そしてアムリサイ人は、ゼラヘムラの地[1]のそばを流れるシドン川[2]の東にあるアムナイフの丘にやって来て、そこでニーファイ人と戦いを始めた。
16 さて、アルマはニーファイの民の大さばきつかさ[1]であり、総督であったので、自分の民とともに、すなわち隊長や連隊長たちとともに、まことに軍隊を率いて、戦うためにアムリサイ人に向かって行った。
17 そして、彼らはシドン川の東の丘でアムリサイ人を殺し始めた。しかし、アムリサイ人が非常な力でニーファイ人と戦ったので、多くのニーファイ人がアムリサイ人の前に倒れた。
18 それでも、主がニーファイ人の手を強くされたので、彼らはアムリサイ人を大勢殺し、アムリサイ人

11 ① アル3・4
② ヤコ1・13−14、モサ10・8、ヒラ1・12、アル3・11
12 ① 25・2
15 ① オム1・13−15
14 アル3・3
16 ① モサ29・42
② 25・2

は彼らの前から逃げ始めた。

19そこで、ニーファイ人は終日アムリサイ人を追撃し、多くの者を殺したので、アムリサイ人の戦死者は一万二千五百三十二人に及び、またニーファイ人の戦死者も六千五百六十二人に及んだ。

20そしてアルマは、もはやアムリサイ人を追撃できなくなると、民にギデオンの谷で天幕を張らせた。この谷は、ニーホルの手によって剣で殺されたあのギデオンにちなんで名付けられた所である。この谷で、ニーファイ人はその夜天幕を張った。

21また、アルマは密偵を遣わしてアムリサイ人の残りの者を追わせ、彼らの計画と陰謀を知ろうとした。そうすることによって、彼らに対する防備を固め、自分の民が滅びるのを防ごうとしたのである。

22さて、アムリサイ人の宿営をうかがうために遣わされたのは、ゼラム、アムノル、マンタイ、リムハーという名の者たちであった。これらの者たちは、アムリサイ人の宿営をうかがうために、自分たちの兵を連れて出かけた。

23さて、その翌日、彼らは大いに驚き、またひどく恐れて、ニーファイ人の宿営に大急ぎで帰って来て言った。

24「まことに、わたしたちはアムリサイ人の軍を追って行きましたが、何とも驚いたことに、ニーファイの地へ行く途中の、ゼラヘムラの地の上に当たるマイノンの地で、レーマン人の大軍を見ました。まことに、アムリサイ人は彼らと連合しています。

25そして、彼らはその地でわたしたちの同胞を襲い、同胞は家畜の群れと妻子を連れて、彼らの前をわたしたちの町を目指して逃げています。急がなければ彼らはわたしたちの町を占領し、わたしたちの父と妻子たちを殺してしまうことでしょう。」

26そこでニーファイの民は天幕を携え、ギデオンの谷を出て、自分たちの町であるゼラヘムラの町へ向かった。

27そして見よ、彼らがシドン川を渡っていたときに、まるで海の砂のようにおびただしいレーマン人とアムリサイ人が、彼らを滅ぼそうと襲いかかって来た。

28にもかかわらず、ニーファイ人は主の手によって強くされ、また彼らが敵の手から救い出されるようにと主に熱烈に祈ったので、主は彼らの嘆願を聞

19 ① アル 3・1—2、26、4・2
20 ① アル 6・7
② アル 1・7—15、14・16
24 ① アル 3・4、13—18
26 ① 2ニフ 5・8
② オム 1・14、18
27 ① ジェロ 1・6
28 ① 申命 31・6

いて強くしてくださり、レーマン人とアムリサイ人は彼らの前に倒れた。
29さて、アルマはアムリサイと一対一で、剣で戦った。彼らは互いに激しく戦った。
30そして、神の人であったアルマは、強い信仰に鼓舞され、叫んで言った。「おお、主よ、わたしを憐れんで命を助け、わたしがあなたの御手に使われる者となってこの民を救い、守ることができるようにしてください。」
31さて、アルマはこのように言い終えると、再びアムリサイと戦った。そして、アルマは強くされたので、剣でアムリサイを殺した。
32彼はまたレーマン人の王とも戦った。しかし、レーマン人の王はアルマの前から逃げ帰り、自分の衛兵を出してアルマと戦わせた。
33しかし、アルマは自分の衛兵とともにレーマン人の王の衛兵と戦い、ついに彼らを殺し、また追い返した。
34このようにして、彼はその地の、いや、シドン川の西の岸の妨げとなるものを一掃し、殺されたレーマン人の死体をシドンの水に投げ込んだ。そうすることによって、彼の民が川を渡り、シドン川の西側でレーマン人およびアムリサイ人と戦う場所を得られるようにしたのである。
35さて、彼らが全員川を渡り終えると、レーマン人とアムリサイ人は数え切れないほど大勢であったにもかかわらず、彼らの前から逃げ始めた。
36そして、レーマン人とアムリサイ人は、ニーファイ人の前から、境の地のはるか向こう、西と北の荒れ野へと逃げ出したので、ニーファイ人は力の限り彼らを追撃して殺した。
37まことに、彼らは至る所で戦いを交え、殺され、追われ、西へ北へと散らされて、ついにハーモンツという荒れ野に行き着いた。そこは飢えた猛獣が群れを成して住んでいる荒れ野の一部であった。
38そして多くの者は、負傷していたためにその荒れ野で死に、それらの獣や空を飛ぶはげたかに食われてしまった。後に、彼らの骨が探し出されて、地上に積み上げられた。

第3章

アムリサイ人、預言された言葉のとおりに自分の身

30① GS「信仰」

にしるしを付ける。レーマン人は背いたためののろいをすでに受けていた。人は自分の招いたのろいを自分自身に受ける。ニーファイ人、レーマン人のほかの軍隊を打ち破る。紀元前約八十七年から八十六年に至る。

1さて、武器によって殺されなかったニーファイ人は、殺された者たちを葬った後、すなわち、殺された者はおびただしい数に及んだので、それを数えることもなく死体を葬り終えた後、彼らは皆、自分たちの土地、自分たちの家、自分たちの妻子のもとに帰った。

2ところが、多くの女と子供たちが剣で殺されており、家畜の群れも多く殺され、また穀物畑の多くも軍隊に踏み荒らされていた。

3さて、シドン川の岸で殺されたレーマン人とアムリサイ人の多くは、シドンの水に投げ込まれたので、見よ、彼らの骨は今、海の深みにあり、その数は多い。

4アムリサイ人はレーマン人に倣って、額に赤いしるしを付けていたので、ニーファイ人と見分けることができた。しかし彼らは、レーマン人のようにその頭髪をそってはいなかった。

5一方、レーマン人は頭髪をそっており、腰に皮をまとい、よろいを着け、弓と矢、石と石投げなどを持っているほかは裸であった。

6またレーマン人の肌は、彼らの先祖に付けられたしるしのとおりに黒ずんでいた。そのしるしは、先祖が戒めに背き、兄弟たちに背いたために受けたのろいであった。また、その兄弟たちとは、正しい聖なる人々であったニーファイとヤコブ、ヨセフ、サムである。

7これらの人々の兄たちは、これらの人々を滅ぼそうとしたために、のろわれたのであった。主なる神が彼ら、まことにレーマンとレムエル、およびイシマエルの息子たちとイシマエル人の女たちにしるしを付けられたのである。

8そして、このことが行われたのは、彼らの子孫をその兄弟たちの子孫と見分けられるようにするためであった。それによって主なる神は、御自分の民がのろいを受けた民と縁を結んで間違った言い伝えを信じ、滅びることがないように、彼らを守ろうとされたのである。

第3章
1 ①アル2・19、4・2
1 ②アル2・15
3 ①アル44・22
4 ①アル2・11
4 ②アル3・13−19
5 ①エノ1・20、モサ10・
5 ②8、アル42・18−21
6 ①2ニフ5・21、26・
7 ①33、GS「のろい」
8 ①1ニフ12・23
8 ①GS「結婚」異なった信仰を持つ人との結婚」
8 ②モサ10・11−18、アル9・16

9 さて、自分の子孫をレーマン人の子孫と結婚させた者はだれであろうと、その子孫に同じのろいを招いた。
10 したがって、レーマン人に惑わされた者はだれであろうと、その呼び名で呼ばれ、しるしを付けられた。
11 そして、レーマン人の言い伝えを信じようとせずに、エルサレムの地から持って来たあの記録と先祖の正しい言い伝えを信じた者、神の戒めを信じて守った者はだれであろうと、そのとき以降、ニーファイ人、すなわちニーファイの民と呼ばれた。
12 そしてこの民は、自分の民とレーマン人の民についての記録を書き継いでおり、その記録は真実である。
13 さて、再びアムリサイ人のことに話を戻すと、彼らもまたしるしを付けた。まことに、彼らは自分の身にしるしを、すなわち自分の額に赤いしるしを付けた。
14 このようにして、神の言葉は成就した。神がかつてニーファイに言われた御言葉は次のとおりである。「見よ、わたしはレーマン人をのろった。わたしは彼らにしるしを付けて、今より後とこしえに、彼らと彼らの子孫が悪を悔い改めてわたしに立ち返らないかぎり、あなたとあなたの子孫から区別されるようにする。
15 そしてまた、わたしはあなたの兄弟たちと種を交える者にもしるしを付け、彼らものろおう。
16 そしてまた、わたしはあなたやあなたの子孫と戦う者にもしるしを付けよう。
17 そしてまた、あなたのもとを去る者は、もはやあなたの子孫と呼んではならない。わたしはあなたと、またあなたの子孫と呼ばれる者たちを、これから先とこしえに祝福しよう。」これは、ニーファイと彼の子孫にあてた主の約束である。
18 ところで、アムリサイ人はその額に自分でしるしを付け始めたとき、自分たちが神の言葉を成就しているのを知らなかった。しかし、彼らは公然と神に背いた。したがって、のろいが彼らに下って当然であった。
19 さて、あなたがたは、彼らが自分自身にのろいを招いたということを知ってほしい。また、のろいを受ける者は皆、そのように自分自身に自分の罪の宣

11 ① アル17・9—11
12 ① モサ1・6、エテ4・6—11
13 ① アル3・4
14 ① 2ニフ30・4—6
18 ① 4ニフ1・38、GS「背く」
19 ① 2ニフ5・21—25、アル17・15

告を招くのである。

20 さて、レーマン人とアムリサイ人によるゼラヘムラの地での戦闘の後、あまり日のたたないうちに、レーマン人の別の軍隊がニーファイ人の民を襲撃した。そこは、かつてレーマン人の最初の軍隊がアムリサイ人と合流した所である。

21 そこで、彼らをその地から追い払うために軍隊が派遣された。

22 さて、アルマ自身は負傷していたので、出て行ってレーマン人と戦うことはしなかった。

23 しかし、彼は大規模な軍隊を派遣した。そして、軍隊は出て行って多くのレーマン人を殺し、残りの者たちを境の地から外へ追い払った。

24 そして、彼らはまた帰って来て、その後しばらく敵に悩まされなかったので、国内に平和を確立した。

25 さて、これらのことはすべて、さばきつかさの統治第五年に起こった。まことに、これらの戦争と争いはすべて、その年に始まって同じ年に終わった。

26 そしてその一年間に、何千何万という人々が永遠の世に送られた。彼らはそこで、自分の行いが善いか、それとも悪いか、その行いに応じて報いを刈り取り、自分が従おうとした霊が善い霊であったか悪い霊であったか、その霊に応じて永遠の幸福あるいは永遠の不幸を刈り取るのである。

27 人は皆、自分が従おうとした者から報いを受けるものである。これは預言の霊の言葉によるものであるから、真理にかなってそのようになるであろう。このようにして、さばきつかさの統治第五年が終わった。

第 4 章

アルマ、改心した数千の人々にバプテスマを施す。罪悪が教会に入り込み、教会の発展が妨げられる。ニーファイハ、大さばきつかさに任命される。アルマ、大祭司としての務めに専念する。紀元前約八十六年から八十三年に至る。

1 さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六年には、ゼラヘムラの地に争いも戦争もなかった。

2 しかし、民は同胞を失い、大小の家畜の群れを失い、レーマン人によって足で踏みつけられ、荒らさ

---

20 ① アル 2・24
22 ① アル 2・29−33
26 ① GS「行い」
27 ① ロマ 6・16、ヒラ 14・29−31、GS「従順・従う」
② モサ 2・31−33、アル 5・41−42

第 4 章
1 ① オム 1・12−19
2 ① アル 2・19、3・1−2、26

れて穀物畑を失ったので苦しんだ。

3 すべての者が嘆き悲しんで当然なほど、彼らの受けた苦難はひどいものであった。そして彼らは、自分たちの悪事と忌まわしい行いのために神の裁きが下されたと思い、目覚めて自分たちの義務を思い起こした。

4 そして彼らは、さらに完全に教会を確立する業に取りかかり、多くの人がシドンの水で[1]バプテスマを受けて、神の教会に加えられた。彼らはアルマの手によってバプテスマを受けた。このアルマは、彼の父アルマの手によって、教会の人々を見守る[2]大祭司に聖任されていた。

5 さて、さばきつかさの統治第七年には、[1]神の教会に加わった者、バプテスマを受けた者は、およそ三千五百人に上った。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第七年が終わり、その間は引き続き平和であった。

6 さて、さばきつかさの統治第八年には、教会の人々は次第に高慢になり始めた。それは、彼らが勤勉であることによって得た非常に多くの富と[1]織り目[2]の細かい絹と、より糸で織った亜麻布と、大小の多くの家畜の群れと、金と銀、あらゆる貴重な品々のためであった。彼らはこれらのものに恵まれて非常に高価な衣服を身に着けるようになり、高慢な目をもって高ぶった。

7 これは、アルマにとっても、またアルマから教会を見守る教師や祭司、長老の職に[1]任じられた多くの人にとっても、ひどい苦痛の種であった。彼らの多くは、すでに悪が教会の人々の中に入り始めているのを見て、非常に嘆いた。

8 教会の人々は[1]高慢な目をもって高ぶり、富や俗世のむなしいものに執着するようになり、互いにあざけり合い、[2]自分たちの思いと望みに添った考え方をしない者を迫害するようになってきた。アルマは、このような有様を見て、非常に憂い悲しんだ。

9 このようにして、さばきつかさの統治第八年に、教会の人々の中にひどい[1]争いが起こった。すなわち、[2]ねたみ、争い、悪意、迫害、高慢があり、彼らの高慢は神の教会に属していない者の高慢よりもひどかった。

10 このようにして、さばきつかさの統治第八年が終わった。教会員の悪事は、教会に属していない者た

---

4 ①モサ18・10—17 ②モサ29・42
5 ①モサ25・18—23、3ニフ26・21 ②GS「富」
6 ①アル1・29 ②GS「権威・権限・権能」
7 ①GS「うぬぼれ」「高慢」 ②アル1・21
8 ①GS「争い」 ②GS「ねたみ」

ちにとって大きなつまずきの石となり、そのために教会の発展が鈍り始めた。

11 そして第九年の初めに、アルマは教会員の悪事を見た。また、教会員の良くない手本のために信仰心のない者たちが次々と罪悪を犯し、民の滅亡が訪れようとしているのも見た。

12 まことに彼は、人々の中にひどい不平等があり、一部の者たちが高慢になって高ぶり、ほかの者をさげすみ、[1]乏しい者や着る物のない者、[2]飢えている者、渇いている者、病気の者、苦しんでいる者に背を向けているのも見た。

13 さてこれは、人々の中に憂いをもたらした大きな原因であったが、その一方で、ある人々はへりくだり、自分の持ち物を貧しい者や乏しい者に[1]分け与え、飢えている者に食物を与えるなどして、助けを必要としている者を助けており、さらにあらゆる苦[2]難に耐えていた。[3]彼らは預言の霊の示すとおりに、将来来られるキリストを信じていたからである。

14 また彼らは、キリストの来臨の日を待ち望んで、罪の赦しを[1]保ち、イエス・キリストの御心と力と死の縄目からの解放とによって死者の復活がもたらされることを考えて、大きな[2]喜びに満たされた。

15 さて、アルマは神に従う謙遜な人々の受けている苦難と、ほかの者たちが彼らに加える迫害と、民のあらゆる[1]不平等を見て、非常に嘆いたが、それでも主の御霊は彼から離れなかった。

16 アルマは教会の長老たちの中から一人の賢明な人を選び、[1]民の声によって彼に権限を授けて、彼がすでに定められている[2]法律に添う法律を制定する権限と、また人々の悪と罪科とに応じてその法律を適用する権限を持てるようにした。

17 さて、この人の名はニーファイハといって、[1]大さばきつかさに任命された。そして、彼は人々を裁判し、また治めるために、さばきつかさの職に就いた。

18 しかしアルマは、教会の大祭司としての職は彼に授けることなく、大祭司の職は自分で保有し、さばきつかさの職だけをニーファイハに譲った。

19 彼がこのようにしたのは、[1]彼自身が民の中に、すなわちニーファイの民の中に出て行って、人々に[2]神の言葉を宣べ伝えて、彼らの義務を[3]思い起こすように[4]促すため、また人々の中にあるあらゆる高慢と悪巧みと争いを、神の言葉によって取り除くためであ

---

11 ① サ下12・14、アル39・
12 ① イザ3・14、ヤコ2・
13 ① GS「施し」
② モサ4・26
14 ① 26−35、GS「義認・義とされる」
② 2コリ12・10
③ モサ4・12、アル5・
15 ① GS「喜び」
② 教義38・27、49・20
16 ① アル2・3−7
17 ① アル1・1、14、18
② アル50・37
19 ① アル7・1
② アル31・5、教義11・21
③ 22
④ モサ1・17、ヒラ12・3
エノ1・23

る。それは、純粋な証をもって責めるほかに、人々を改心させる方法がないことを知っていたからである。

20 このように、ニーファイの民のさばきつかさの統治第九年の初めに、アルマはニーファイハにさばきつかさの職を譲り、自分はひたすら神の聖なる位の大祭司の職に専念し、啓示と預言の霊に従って御言葉を証した。

神の聖なる位による大祭司であるアルマが、全地の町と村で人々に告げた言葉。

次の第五章がそれに相当する。

第5章

救いを得るために、人は悔い改めて戒めを守り、再び生まれ、キリストの血によって衣を清め、へりくだって高慢とねたみを除き去り、義の業を行わなければならない。良い羊飼いは自分の民を呼び集める。悪い行いをする者は悪魔の子である。アルマ、自分の語る教義が真実であることを証し、人々に悔い改めるように命じる。義人の名は命の書に書き記される。紀元前約八十三年。

1 さて、アルマは最初にゼラヘムラの地で、その後、国内の至る所で、人々に神の言葉を告げ始めた。

2 アルマ自身の記録によると、彼がゼラヘムラの町に設けられた教会で人々に語った言葉は、次のとおりである。

3 「わたしアルマは、父アルマによって神の教会の大祭司に聖任された。父はこのことを行う力と権能を神から授かっていたからである。見よ、わたしはあなたがたに言う。父はニーファイの地の境、まことに、モルモンの地と呼ばれた所で教会の設立に取りかかり、モルモンの泉で同胞にバプテスマを施した。

4 そして見よ、わたしはあなたがたに言う。彼らは神の憐れみと力により、ノア王の民の手から救い出された。

5 そして見よ、その後、彼らは荒れ野でレーマン人の手によって奴隷の状態となった。あなたがたに言う。まことに、彼らは囚われの状態にあったが、再

---

1 ① アル5・61
1 ② アル4・19
3 ① アル4・4、18、20
3 ② GS「聖任」
3 ③ モサ18・13、3ニフ
11・25 ④ モサ18・4、3ニフ
5・12 ① モサ23・1—3
4 ① モサ23・37—39、24・8—15
5 ① モサ23・37—39、24・
19 ⑤ GS「証」
20 ① アル8・12
20 ② モサ29・42、アル5・3、44、49

第5章

び主は、御言葉の力によって彼らを奴隷[2]の状態から救い出された。そしてわたしたちはこの地に導かれ、この地でも至る所に神の教会を設立するようになった。

6 さて見よ、今この教会に属している同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、先祖が囚われの状態にあったことをよく覚えているか。先祖に対する神の憐れみと寛容をよく覚えているか。また神が彼らを地獄から救い出されたことをよく覚えているか。

7 見よ、神は彼らの心を改めさせ、彼らを深い眠りから覚まされたので、彼らは目覚めて神に従った。見よ、彼らはかつて暗闇のただ中にいたにもかかわらず、後に永遠の御言葉の光に照らされるようになった。まことに彼らは死の縄目[2]と地獄の鎖に縛られ、永遠の滅びが彼らを待ち受けていた。

8 さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。彼らは滅ぼされたか。見よ、あなたがたに言う。いや、滅ぼされなかった、と。

9 わたしはまた尋ねる。死の縄目は断たれ、彼らを縛っていた地獄の鎖は解かれたか。わたしはあなたがたに言う。そのとおり、死の縄目と地獄の鎖は解かれ、彼らの心は広がり、彼らは贖いをもたらした愛について歌った。彼らは今、救われている、とわたしはあなたがたに言う。

10 それではあなたがたに尋ねるが、彼らはどのような条件で救われているのであろうか。まことに、彼らは何を根拠にして、救いを望むことができたのであろうか。彼らが死の縄目と地獄の鎖から解かれた理由は何であろうか。

11 見よ、わたしはあなたがたに告げることができる。父アルマは、アビナダイ[1]の口から告げられた御言葉を信じなかったか。アビナダイは聖なる預言者ではなかったか。彼は神の御言葉を語らなかったか。父アルマはそれを信じなかったか。

12 父は信じたので、心の中に大きな変化[1]が生じた。見よ、わたしはあなたがたに言う。このことはすべて真実である。

13 そして見よ、父はあなたがたの先祖に御言葉を宣べ伝え[1]、彼らの心の中にも大きな変化が生じた。そして、彼らはへりくだり、まことの生ける神[2]に信頼[3]を寄せた。そして見よ、彼らは最後[4]まで忠実であっ

---

5 ② モサ 24・17
6 ① モサ 15・8
7 ① アル 12・11、教義 138・
7 ② 23
10 ① GS「贖いの計画」
10 ②「救い」
11 ① モサ 17・1—4
12 ① GS「改宗」
13 ① モサ 18・7
13 ② モル 9・28、教義 20・
19 ③ GS「信頼」
19 ④ GS「堪え忍ぶ」

たので、救われたのである。

14 さて見よ、教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。

15 あなたがたは、自分たちを造られた御方の贖いを信じる信仰を働かせているか。あなたがたは信仰の目をもって待ち望み、この死すべき体がよみがえって不死のものとなり、この朽ちるものがよみがえって朽ちないものとなって、死すべき体にあってなした行いに応じて裁かれるために神の御前に立っている有様を見ているか。

16 わたしはあなたがたに言う。あなたがたはその日、『祝福された者たちよ、わたしのもとに来なさい。見よ、地の面でのあなたがたの行いは義の業であった』と言われる主の声を聞く自分自身を、今、心に描くことができるか。

17 それとも、あなたがたが今、心に描いているのは、その日主に向かって偽りを言い、『主よ、地の面でのわたしの行いは義にかなった行いでした』と語って、主から救いを得ようとしている自分自身であろうか。

18 それとも、自分のすべての罪を思い起こし、まことに、自分の犯したすべての悪をことごとく思い出し、まことに、神の戒めを無視してきたことを思い起こしながら、罪悪感と悔恨の情にさいなまれながら、神の裁きの座に連れ出される自分自身を、今、心に描くことができるであろうか。

19 わたしはあなたがたに言う。あなたがたはその日、純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか。あなたがたに言うが、あなたがたは、自分の顔に神の面影を刻まれた有様で仰ぎ見ることができるか。

20 わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、たとえ自分の身をゆだねて悪魔の手下になったとしても救われる、と考えているだろうか。

21 わたしはあなたがたに言う。あなたがたが救いを得られないことは、その日に分かるであろう。だれも衣を白く洗い清められないかぎり、救いを得られないからである。まことに、人の衣は、わたしたちの先祖がこれまで語ってきた御方の血によって、すべての汚れがきれいになるまで清められなければな

---

14 ①モサ27・24−27、アル22・15、GS「再び生まれる」　②ロマ8・11−17、モサ5・2、モセ6・65、GS「改宗」
15 ①GS「復活」　②GS「創造、創造する」
16 ③GS「最後の裁き」、マタ25・31−46
17 ①3ニフ14・21−23
18 ①エゼ20・43、2ニフ9・14、モサ3・25、アル11・43
19 ①ヨハ3・1−3、モサ2・32
20 ①GS「救い」
21 ①1ニフ12・10、アル13・11−13、3ニフ27・19　②20−③GS「清さ」

らない。その御方は、御自分の民を罪から贖うために必ず来られる。

22 そこで、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたの中で血とあらゆる汚れで汚れた衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば、その人はどのように感じるであろうか。見よ、それらのものは、あなたがたについてどのような不利な証言をするであろうか。

23 見よ、それらのものは、あなたがたが人殺しであること、また、あらゆる悪事を犯した者であることを証言しないであろうか。

24 見よ、わたしの同胞よ、あなたがたはこのような人が、今清められていて染みのない、清くて白い衣を着ているアブラハム、イサク、ヤコブ、そのほかすべての聖なる預言者とともに、神の王国で座に着く場所を得られると思うか。

25 わたしはあなたがたに言う。それは得られない。あなたがたがわたしたちの創造主を世の初めからの偽り者としないかぎり、または世の初めからの偽り者であると思わないかぎり、このような人々が天の王国で住む場所を得られるとは思えない。かえって、このような人々は悪魔の王国の子であるから、追い出されるであろう。

26 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。

27 あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、心の中で自分は十分にへりくだっていると言えるであろうか。また、自分の衣は、将来御自分の民を罪から贖うために来られるキリストの血によって清められ、白くされていると言えるであろうか。

28 見よ、あなたがたは高慢な心を取り去っているか。わたしはあなたがたに言う。もし取り去っていなければ、神にお会いする用意ができていない。見よ、あなたがたは早く用意をしなければならない。天の王国はすでに近く、このような人は永遠の命を得られないからである。

29 見よ、わたしは言う。あなたがたの中にねたみを

22 ① イザ 59・3
② GS「汚れ」
23 ① イザ 59・12
② ルカ 13・28
24 ① 2ニフ 9・9
25 ① GS「改宗」
26 ① アルモサ 26・13
② 4・12、教義 20・31－34
③ GS「義認・義とされる」
27 ① GS「義認・義とされる」
② GS「謙遜」
③ GS「贖い・贖う」
28 ① GS「高慢」
29 ① GS「ねたみ」

取り去っていない人がいるか。わたしはあなたがたに言う。このような人は用意ができていないので、早く用意をしてほしい。時は近づいており、いつその時が来るか分からないからである。そして、このような人は罪がないとは認められない。

30 また、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中に自分の兄弟をあざけっている人、あるいは兄弟に迫害を加えている人がいるか。

31 このような人は、用意ができていないので災いである。悔い改めなければならない時が近づいている。悔い改めなければ救われないであろう。

32 まことに、[1]罪悪を行う人はすべて災いである。『悔い改めよ。悔い改めよ』と主なる神は言われた。

33 見よ、主は[1]すべての人を招き、[2]憐れみの御腕を伸べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れよう』と言われる。

34 まことに、主は言われる。『[1]わたしのもとに来なさい。あなたがたは[2]命の木の実を食べるであろう。あなたがたは価なし[3]に[4]命のパンを食べ、命の水を飲むであろう。

35 まことに、わたしのもとに来て、義の業を行いなさい。そうすれば、あなたがたは切り倒されて火の中に投げ込まれることはない。

36 見よ、[1]良い実を結ばない者、すなわち義の業を行わない者の嘆き悲しむ時が近づいている。』

37 おお、罪悪を行う人々よ。俗世のむなしいものを誇る人々よ。義の道を知っていると公言しながら、羊飼いがこれまでも、また現在も[2]呼んでおられるに もかかわらず、その声を聴[3]こうとしないで、まるで羊飼いのいない[4]羊のように迷っている人々よ。

38 見よ、あなたがたに言う。[1]良い羊飼いはあなたがたを呼んでおられる。しかも御自分の御名、すなわちキリストの御名によってあなたがたを呼んでおられる。もしあなたがたがその[2]良い羊飼いの声を、将来その名によってあなたがたが呼ばれるその御名を聴[1]こうとしないならば、見よ、あなたがたはその良い羊飼いの羊ではない。

39 さて、もし良い羊飼いの羊でなければ、あなたがたは[1]何の羊の群れに属しているのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。[2]悪魔があなたがたの羊飼いであり、あなたがたは悪魔の羊の群れに属している。これを否定できる者がだれかいるであろ

---

30 1 GS「悪口」
32 1 詩篇5・5
33 1 アル19・36、3ニフ18・25
2 ヤコ6・5、3ニフ9・14
34 1 2ニフ26・24−28、3ニフ9・13−14
2 1ニフ8・11、15・
36 1 2ニフ9・50−51、アル42・27
3 2ニフ9・50−51、
4 マタ3・10、7・15−20、3ニフ14・19、教義
37 1 GS「むなしさ」
2 65・12 箴言1・24−27、イザ97・7
3 エレ26・4−5、アル10・6
4 マタ9・36、2ニフ12・5、28・
5 モサ14・6
38 1 GS「良い羊飼い」
2 3ニフ15・24、18・31、モサ5・8、アル34・38
3 レビ26・14−20、教義101・7
4 マタ6・24、ルカ16・13
39 1 モサ5・10、GS「悪魔」
2

うか。見よ、わたしはあなたがたに言う。これを否定する者は偽り者であり、悪魔の子である。

40 わたしはあなたがたに言う。善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出るからである。

41 したがって、人がもし善い行いをするならば、その人は良い羊飼いの声を聴き、良い羊飼いに従う。しかし、悪い行いをする者はだれであろうと、悪魔の子になる。悪魔の声を聴き、悪魔に従うからである。

42 そして、このように行う者はだれであろうと、悪魔から報いを受ける。したがって、このような者はすべての善い行いに対して死んだ有様になるので、義にかかわることについて報いとして死を受けるのである。

43 さて、わたしの同胞よ、わたしの言うことを聞いてほしい。わたしは心を込めて語っており、またあなたがたが誤解しないように、見よ、分かりやすく語ってきた。すなわち、神が命じられるままに語ってきた。

44 わたしは、キリストなるイエスにある神の聖なる位に従って、このように語るように召されているからである。まことに、わたしは、将来起こることについて先祖が語ってきたことを、立ってこの民に証するように命じられている。

45 そしてこれだけではない。あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであるのを知ったと思うか。

46 見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であるのを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。

47 さらに、あなたがたに言う。先祖が語ってきた言葉が真実であることは、わたしの内にある預言の霊

---

39 ③ 1ヨハ2・22
40 ④ 2ニフ9・9
40 ① オム1・25、エテ4・12、モロ7・12、15—17
41 ① 3ニフ14・16—20、GS「行い」
41 ② モサ16・3—5、アル11・23
42 ① アル3・26—27、教義29・45
42 ② ロマ6・23
42 ③ ヒラ14・16—18、GS「死（霊の）」
44 ① アル13・6
44 ① GS「証」
45 ① 1コリ2・9—16
46 ② GS「断食」
46 ③ GS「啓示」

によってもわたしに示されてきた。これはまた、神の御霊の現れによるものである。

48 わたしはあなたがたに言う。将来起こることについてこれからあなたがたに語ることは、何事もすべて真実であると、わたしは自分で知っている。わたしはあなたがたに言う。わたしはイエス・キリストが将来来られることを知っている。イエス・キリストは御子、すなわち御父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。見よ、世の罪、まことにその御名を確固として信じるすべての人の罪を取り除くために来られるのは、この御方である。

49 わたしはあなたがたに言う。まことに、わたしの愛する同胞とこの地に住むすべての人に教えを説き、まことに、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、まことに、老人にも中年の人にも青年にも、すべての人に教えを説き、まことに、彼らに悔い改めて再び生まれなければならないことを叫び求めること、これが、わたしが召された位である。

50 まことに御霊は言われる。『地の果てに至るすべての者よ、悔い改めよ。天の王国はもう近い。まことに、神の御子は、栄光、威勢、尊厳、力、主権を帯びて来られる。』まことに、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに言う。御霊は、『見よ、全地の王であり、また天の王でもある御方の栄光が、間もなくすべての人の子らの中に輝き渡る』と言われる。

51 御霊はまたわたしに語り、まことに、力強い声でわたしに叫んで、『出て行ってこの民に、「悔い改めよ。悔い改めないかぎり決して天の王国を受け継ぐことはできない」と言いなさい』と言われる。

52 またわたしはあなたがたに言う。御霊は言われる。『見よ、斧は木の根元に置かれている。したがって、良い実を結ばない木はことごとく切り倒されて火の中に、まことに燃え尽きることのない火、すなわち消すことのできない火の中に投げ込まれる。見よ、聖者がこのように言われたということをよく覚えておきなさい。』

53 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこれらの御言葉に反論できるか。まことに、これらのことを退け、聖者を足の下に踏みつけることができるか。まことに、あなた

---

49 ① GS「再び生まれる」
② GS「神権」「召し」
50 ① 神の召し」
GS「イエス・キリストの再臨」「栄光」
② 詩篇24篇、マタ2・2、ルカ23・2、2ニフ10・14、教義38・21−22、128・22−23、モセ7・53、GS「イエス・キリスト」「神の王国・天の王国」
51 ① GS「天」
52 ① ルカ3・9、教義97・7
② ヤコ5・46、6・7、3ニフ27・11−12
53 ① 1ニフ19・7

がたの心を高慢[2]にして誇ることができるか。まことに、あなたがたはこの後もなお、高価[3]な衣服を着て、俗世のむなしいもの、自分の富に執着[4]し続けるつもりか。

54 まことに、あなたがたはこの後もなお、自分はほかの者よりも優れていると思い続けるつもりか。まことに、へりくだり、神の聖なる位に従って歩む同胞を、迫害し続けるつもりか。その同胞は、神の聖なる位によってこの教会に導かれ、聖なる御霊によって聖[1]められており、そして今、悔い改めにふさわしい行いをしている。

55 また、あなたがたはこの後もなお、貧[1]しい人や乏しい人に背を向け、彼らにあなたがたの持ち物を与えないつもりか。

56 最後に、自分の悪の中にとどまるつもりのすべての人に言う。これらの人々は、すぐに悔い改めないかぎり、切り倒されて火の中に投げ込まれてしまうであろう。

57 さて、良い羊飼いの声[1]に従いたいと望んでいるすべての人に、わたしは言う。悪人から去り、離[2]れ、彼らの清くないものに触れてはならない。見よ、悪人の名は消[3]され、義人の名の中には数えられない。それは神の御言葉が成就するためである。神は言われる。『悪人の名が、わたしの民の名とともに並べられることはない。

58 義人の名は命[1]の書に書き記されるからである。わたしは義人に、わたしの右において受け継ぎを授ける』と。さて、わたしの同胞よ、あなたがたはこれに対して、何か反論することがあるであろうか。わたしはあなたがたに言う。たとえ反論したとしても、大したことはない。神の御言葉は必ず成就するからである。

59 多くの羊を飼っているとき、おおかみが入って来て、羊の群れを食い尽くすことのないように、羊の番をしない羊飼いがあなたがたの中にいるであろうか。そして見よ、おおかみが羊の群れの中に入って来れば、羊飼いはそのおおかみを追い払わないであろうか。そして最後に、できれば羊飼いは、そのおおかみを殺すであろう。

60 さて、わたしはあなたがたに言う。良い羊飼いは今、あなたがたを呼んでおられる。あなたがたがその声を聴くならば、良い羊飼いはあなたがたを御自

53 ② GS「高慢」
③ 2ニフ28・11−14、モル8・36−39
④ 詩篇62・10、教義56・16−18
54 ① GS「聖め」
55 ① 詩篇109・15−16、ヤコ2・17、ヒラ6・39−40
57 ① GS「良い羊飼い」
② エズ6・21、9・1、ネヘ9・2、2テサ3・6、教義133・5、14
③ 申命29・20、モロ6・7、教義20・8
58 ① GS「命の書」

分の羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊になる。また良い羊飼いは、あなたがたが滅びることのないように、飢えたおおかみをあなたがたの中に決して入れてはならないと、あなたがたに命じておられる。

61 さて、わたしアルマは、あなたがたに語ってきた言葉を、わたしに命じられた[1]御方の御言葉のとおり実行するように、あなたがたに命じる。

62 わたしは教会に属しているあなたがたに、これらのことを命令として告げる。そして、教会に属していない人々には、招きの言葉として次のように言う。『あなたがたも命の木の実を食べる者となれるように、来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい』と。」

第6章

ゼラヘムラの教会は清められ、整えられる。アルマ、教えを説くためにギデオンへ行く。紀元前約八十三年。

1 さて、アルマはゼラヘムラの町に設けられた教会の人々に語り終えると、神の位に従って、[1]按手により、教会を管理し[2]見守る祭司たちと[3]長老たちを聖[4]任した。

2 そして、教会に属していない者たちの中で、罪を悔い改めた者は、悔い改めのためのバプテスマを受け、教会に受け入れられた。

3 そして、教会に属していながら自分の悪事を悔い[1]改めず、神の前にへりくだらない者、すなわち[2]高慢な心で高ぶる者はだれであろうと、拒まれて、その名は[3]消され、彼らの名は義人の中に数えられなかった。

4 このようにして祭司たちと長老たちは、ゼラヘムラの町で教会の秩序を確立するようになった。

5 さて、あなたがたは神の言葉がすべての人に自由に与えられたこと、神の言葉を聞くために集会をする特権が、だれからも奪われなかったことを理解してほしい。

6 それでも神の子たちは、しばしば集まって、神を知らない者たちの幸いのためにともに[1]断食し、熱烈に祈るように命じられた。

7 さて、アルマはこのように整え終えると、彼らの

---

61 ① アル5・44
62 ① 1ニフ8・10、11・21−23

第6章
1 ① GS「按手」
① 教義52・39
② GS「長老」
③ GS「聖任」
2 ① GS「バプテスマ」
3 ① モサ26・6
② GS「高慢」
③ 出エ32・33、モサ26・36、アル1・24、5・57
6 ① 1−58、GS「断食」

もとを、まことに、ゼラヘムラの町にある教会を去り、シドン川の東に渡ってギデオンの谷へ行った。[1] ニーホルの手によって剣で殺された、ギデオンの名にちなんで名付けられたこの谷には、ギデオンの町という一つの町があった。[2]

8 そして、アルマはそこへ行き、彼の先祖が語った言葉が真実であることを告げる啓示に従って、また彼の内にある預言の霊に従って、さらに、御自分の民を罪から贖うために来られる神の御子イエス・キリストの証と、[1] 彼が召された聖なる位によって、ギデオンの谷に設けられている教会に神の言葉を宣言した。書き記されているのは以上のとおりである。アーメン。

アルマがギデオンに住む民に告げた言葉。これはアルマ自身の記録による。

次の第七章がそれに相当する。

第 7 章

キリストはマリヤからお生まれになる。キリストは死の縄目を解き、御自分の民の罪を負われる。悔い改めてバプテスマを受け、戒めを守る者は、永遠の命を得る。汚れた者は神の王国を受け継ぐことができない。謙遜と信仰、希望、慈愛が求められる。紀元前約八十三年。

1 「見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたのもとに来る機会を得たので、わたし自身の言葉で、まことに、わたしの口からあなたがたに話したいと思う。[1] わたしにはあなたがたのもとに来られないほど多くの務めがあり、さばきつかさの職にすっかり掛かり切りになっていたので、[2] 直接あなたがたに語るのはこれが初めてである。

2 また、もしもさばきつかさの職を、わたしに代わって治めるほかの人に譲れなかったとしたら、[1] わたしはこの度も来られなかったであろう。しかし主は、深い憐れみをもって、わたしがあなたがたのもとに来られるようにしてくださった。

3 また見よ、わたしはあなたがたが神の御前にへりくだり、神の恵みを懇願し続けていること、あなたがたが神の御前に罪のないこと、ゼラヘムラに住ん

---

7 ① アル 2・20
8 ① ② アル 1・9　黙示 19・10

第 7 章

1 ① ② アル 4・19　モサ 29・42
2 ① アル 4・16—18

でいる同胞が陥っているひどい苦境にあなたがたが陥っていないこと、これらのことを知りたいという大きな期待と深い望みを抱いてやって来た。

4 神の御名をほめたたえまつる。ゼラヘムラに住んでいる同胞が再び神の義の道に堅く立っていることを、神はわたしに知らせてくださり、まことにそれによって、非常に大きな喜びをわたしに与えてくださったからである。

5 わたしは、自分の内にある神の御霊によって、あなたがたについても喜べるであろうと確信している。しかしわたしは、あなたがたについての喜びが、ゼラヘムラの同胞のことで感じたような、ひどい苦しみと悲しみの末に得られるものでないことを願っている。見よ、彼らについてのわたしの喜びは、ひどい苦しみと悲しみに耐え抜いた末に得られたものだからである。

6 しかし見よ、わたしは、あなたがたが同胞のようにひどい不信仰な状態にないことを確信している。わたしは、あなたがたが高慢な心で高ぶっていないことを確信している。まことに、あなたがたが富や俗世のむなしいものに執着していないことを、わたしは確信している。まことに、あなたがたが偶像[1]を礼拝しておらず、まことの生ける神[2]を礼拝していること、そして、永遠の信仰をもって、将来与えられる自分の罪の赦しを待ち望んでいることを、わたしは確信している。

7 見よ、わたしはあなたがたに言う。将来多くのことがある。そして見よ、それらのどれよりも重要なことが一つある。見よ、贖い主が命を得て、御自分の民の中に来られる時は遠くない。[1]

8 見よ、贖い主が御自分の死すべき幕屋に宿っておられるときにわたしたちの中に来られるとは、わたしは言わない。見よ、御霊はそのようにはわたしに言われなかった。今わたしは、このことについては知らない。しかし主なる神が、御自分の御言葉のとおりにすべてのことを行う力をお持ちであるということ、これについてわたしは知っている。

9 しかし見よ、御霊はわたしにこれだけを言われた。『この民に叫んで言いなさい。「悔い改めよ。[1]主の道を備えよ。まっすぐな主の道を歩め。見よ、天の王国は近づいており、神の御子は地の面に来られるからである」と。』[2]

6 ① 2 ニフ 9・37、ヒラ
6・31 ② ダニ 6・26
7 ① アル 9・26
9 ① マタ 3・2—3、アル
9・25 ② モサ 3・5、7・27、
15・1—2

10 そして見よ、神の御子は、わたしたちの先祖の地であるエルサレムで、マリヤからお生まれになる。マリヤは聖霊の力により覆われて身ごもり、男の子、まことに神の御子をもうけるおとめであって、尊い、選ばれた器である。

11 そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

12 また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。

13 さて、御霊はすべてのことを御存じである。にもかかわらず、神の御子は御自分の民の罪を負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられる。さて見よ、これがわたしの内にある証である。

14 さて、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、再び生まれなければならない。再び生まれなければ天の王国を受け継ぐことができない、と御霊が言われるからである。したがって、自分の罪から洗い清められ、神の小羊を信じる信仰を持てるように、やって来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい。神の小羊は世の罪を取り除く御方であり、人々を救い、すべての不義から清める力を持つ御方である。

15 まことに、あなたがたに言う。来なさい。恐れてはならない。たやすくまとわりつき、あなたがたを束縛して滅亡に至らせるすべての罪を捨てなさい。まことに、来て、罪を進んで悔い改める気持ちのあること、また、神の戒めを守るという神との聖約に進んで入ることを、神に示しなさい。そして、今日バプテスマの水に入ることによって、神にそのことを証明しなさい。

16 だれであってもこのように行い、その後、神の戒めを守る人は、わたしがその人に言うことを覚えているであろう。まことに、わたしの内で証する聖なる御霊の証によって、わたしがその人に永遠の命を得るであろうと語ったことを、その人は覚えている

---

10 ① 歴上9・3、歴下15・9、1ニフ1・4、3ニフ20・29　② モサ3・8、GS「マリヤ（イエスの母）」　③ イザ7・14、ルカ1・27　④ マタ1・20、モサ15・3
11 ① 1ニフ11・13—21　⑤ イザ53・3—5、モサ14・3—5
12 ① 2ニフ2・8、アルマ24—25、GS「十字架の刑」　② ヘブ2・18、4・15、教義62・1
13 ① GS「神・神会」　② モサ15・12、GS「贖罪」
14 ① GS「再び生まれる」
15 ① 2ニフ4・18

であろう。

17さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはこれらのことを信じるか。見よ、あなたがたに言う。まことに、わたしは、あなたがたがこれらのことを信じているのを知っている。あなたがたがこれらのことを信じていることが分かるのは、わたしの内にある御霊の示しによる。そしてそれについて、すなわちわたしが語ってきた事柄について、あなたがたが深く信じているので、わたしは大いに喜んでいる。

18わたしは初めに、あなたがたが同胞のように苦境に陥っていないことを深く望んでいると言ったが、わたしの望みがそのとおりにかなえられたことを、わたしは知った。

19それは、あなたがたが義の道にいることがわたしには分かるからである。あなたがたが神の王国に通じる道にいること、まことに、1)神の道をまっすぐにしていることが、わたしには分かる。

20神は曲がった道を歩まれないということが、神の御言葉の証によってあなたがたに知らされてきたことを、わたしは知っている。神は一度言われたことは変更されないし、右から左へ、すなわち正しいことから誤ったことへ転じる気配さえもお見せにならない。したがって、神の道は一つの永遠の環である。

21また、神は1)清くない宮には住まわれない。そればかりでなく、汚れや清くないものは神の王国に受け入れられない。したがって、わたしはあなたがたに言う。2)汚れている者が、その汚れの中にとどまる時が来る。それは終わりの日である。

22さて、わたしの愛する同胞よ、これらのことをあなたがたに語ってきたのは、神への義務感をあなたがたに自覚させ、あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように、またあなたがたが、かつてそれによって受け入れられた神の聖なる位に従って歩めるようにするためである。

23さて、わたしはあなたがたが1)謙遜であり、従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐と寛容に富み、すべてのことについて自制し、いつも熱心に神の戒めを守るように、また霊的にも物質的にも、必要としているものは何でも求め、与えられるものについては何であろうといつも神に感謝するように願っている。

24また、あなたがたは1)信仰と希望、慈愛を必ず持つ

19 ① マタ 3・3
20 ① 1 ニフ 10・19、アル 37・12、教義 3・2
21 ① 1 コリ 3・16—17、モサ 2・37、アル 6・19、② 34・36
2 ニフ 9・16、モル 9・14、教義 88・35
23 ① GS「謙遜」
24 ① 1 コリ 13・1—13、エテ 12・30—35、モロ 7・33—48

ようにしてほしい。そうするときに、あなたがたはいつも多くの善い行いをするであろう。

25 主があなたがたを祝福し、あなたがたの衣を染[1]みのない状態に保ってくださって、最後にはアブラハム、イサク、ヤコブ、および世界が始まって以来この世に住んだ聖なる預言者たちとともに、彼らの衣が染みのない状態であるようにあなたがたも染みのない衣を着て、もはや外に出されることなく天の王国で座に着けるように。

26 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは自分の内で証する御霊によって、これらの言葉をあなたがたに語ってきた。あなたがたが非常に熱心に、注意深くわたしの言葉を聞いてくれたので、心からうれしく思う。

27 神の平安[1]が、あなたがたの信仰と善い行いに応じて、今から後とこしえに、あなたがたと、あなたがたの住まい、土地、家畜の群れ、すべての所有物、および婦人たちと子供たちのうえにとどまるように。」わたしが語ったのは以上のとおりである。アーメン。

第 8 章

アルマ、ミレクで教えを説き、バプテスマを施す。アモナイハで拒まれ、そこを去る。一人の天使が、引き返して民に悔い改めを叫ぶようにアルマに命じる。アルマ、アミュレクに迎えられる。アルマとアミュレク、アモナイハで教えを説く。紀元前約八十二年。

1 さて、アルマはここに書き記せない多くのことをギデオンの民に教え、また、以前ゼラヘムラの地で行ったように教会の秩序を確立した後、まことに、ギデオン[1]の地からゼラヘムラの自宅に帰り、それまで果たしてきた務めを離れて休んだ。

2 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第九年が終わった。

3 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年の初めに、アルマはゼラヘムラを出て、シドン[1]川の西にあって西方に荒れ野を望むミレクの地へ旅立った。

4 そして彼は、自分が召された神の聖[1]なる位に従って、ミレクの地で人々を教え始めた。彼はミレクの全地で人々を教え始めたのである。

---

25 ① 2ペテ 3・14
27 ① GS「平安・平和」
第8章
1 ① アル 2・20、6・7
3 ① アル 16・6−7
4 ① 教義 107・2−4、GS「メルキゼデク神権」

5 そこで、その地の荒れ野の境の全域で、人々が彼のもとにやって来た。そして、その地の全域で、人々はバプテスマを受けた。
6 このようにして、彼はミレクの地で務めを終えると、そこを去り、ミレクの地の北方を三日間旅した。そして、アモナイハという町に着いた。
7 さて、ニーファイの民の地や町や村は、小さい村であってもすべて、最初にそこを所有した人の名を付けるというのが彼らの習わしであった。アモナイハの地についても同様であった。
8 さて、アルマはアモナイハの町に着くと、人々に神の言葉を宣べ伝え始めた。
9 しかし、サタンがすでにアモナイハの町の人々の心をしっかりと捕らえていたので、彼らはアルマの言葉を聴こうとしなかった。
10 それでも、アルマは精神を込めて熱心に働き、神に取りすがって熱烈に祈り、その町に住む人々に御霊を注いでくださるように、また、彼らに悔い改めのためのバプテスマを施させてくださるように願った。
11 それでも、彼らは心をかたくなにして、彼に言った。「見よ、我々はおまえがアルマであることを知っている。またおまえが、おまえたちの言い伝えによって国内の多くの場所に設けた教会の大祭司であることも、我々は知っている。我々はおまえの教会の者ではないし、そのような愚かな言い伝えは信じていない。
12 また、我々はおまえの教会の者ではないから、おまえには我々を治める力がないことも、我々は知っている。おまえはもうさばきつかさの職をニーファイハに譲ってしまったので、我々を治める大さばきつかさではない。」
13 人々はこのように言って、彼の言葉にことごとく反論し、彼をののしり、彼につばきを吐きかけ、彼を自分たちの町から追い出したので、彼はそこを去ってアロンという町へ向かって旅立った。
14 さて、彼がアモナイハの町に住んでいる人々の悪事のために悲しみに打ちひしがれ、多くの艱難と苦しみに耐えながら旅をしていたときに、すなわち、アルマがこのように悲しみに打ちひしがれていたときに、見よ、主の天使が彼に現れて言った。
15 「アルマ、あなたは幸いである。頭を上げて喜び

---

9 ① 教義10・20
2 ニフ28・19−22、
10 ① ② アル17・5
エノ1・1−12
③ 3 ニフ27・1、GS「祈り」
12 ① アル4・20
14 ① GS「逆境」
② アル10・7−10、20、GS「天使」

なさい。あなたには喜んでよい十分な理由がある。あなたは初めて神から御告げを受けて以来、忠実に神の戒めを守ってきたからである。見よ、わたしはあなたにその御告げを伝えた者である。

16 そして見よ、わたしが遣わされたのは、あなたがアモナイハの町へ引き返してその町の民にもう一度教えを説くように、あなたに命じるためである。まことに、彼らに教えを説きなさい。まことに、悔い改めなければ主なる神が彼らを滅ぼされることを告げなさい。

17 見よ、彼らは今、あなたの民の自由を損なおうともくろんでいる。（主がこのように言われる。）それは、神が御自分の民に与えられた掟と裁決と戒めに反することである。」

18 さて、アルマは主の天使から御告げを受けると、すぐにアモナイハの地へ引き返した。そして、別の道、すなわちアモナイハの町の南にある道を通って町に入った。

19 町に入ったとき、彼は飢えていたので、一人の人に、「神の至らない僕に何か食べるものを下さいませんか」と言った。

20 するとその人は、彼に言った。「わたしはニーファイ人であり、あなたが神の聖なる預言者であることを存じています。示現の中で天使が、『迎えなさい』と、あなたのことを告げたからです。ですから、一緒にわたしの家においでください。わたしの食べ物を差し上げます。わたしは、あなたがわたしと家族に祝福をもたらす方であることを存じています。」

21 そしてその人は、アルマを自分の家に迎えた。その人はアミュレクといった。彼はパンと肉を運んで来ると、アルマの前に置いた。

22 そこでアルマは、パンを食べて満たされた。そして彼は、アミュレクとその家族を祝福し、また神に感謝をささげた。

23 彼は食事をして満たされると、アミュレクに言った。「わたしはアルマであり、全地の神の教会を管理する大祭司です。

24 そしてまことに、わたしは啓示と預言の霊によって、このすべての民の中で神の御言葉を宣べ伝えるように召されて、この地にやって来ましたが、人々はわたしを受け入れようとせず、追い出しました。そこでわたしは、とこしえにこの地に背を向けるつ

15 ① モサ27・11—16
16 ① アル9・12、18、24
20 ① アル10・7—9
21 ① GS「アミュレク」
22 ① アル10・11
23 ① アル5・3、44、49、13・1—20
24 ① アル8・13

もりでした。

25 ところがまことに、わたしはもう一度引き返してこの民に預言し、彼らの罪悪について彼らを責める証を述べるように命じられました。

26 さて、アミュレク、あなたは食べ物を与え、わたしを受け入れてくれたので、祝福を受けます。わたしは幾日もの間断食をしていたので、飢えていました。」

27 それからアルマは民に教えを説き始めるまで、幾日もの間アミュレクの家に滞在した。

28 さて、民はますますひどい罪悪を犯すようになった。

29 そこで、御言葉がアルマに下った。「行きなさい。また、わたしの僕アミュレクにも告げなさい。『出て行って、この民に預言し、悔い改めるように言いなさい。悔い改めなければ主は怒ってこの民を罰し、その激しい怒りを解かれないと言いなさい』と。」

30 それでアルマとアミュレクは、神の言葉を告げ知らせるために人々の中に出て行った。そして、二人は聖霊に満たされた。

31 また彼らは、だれも彼らを地下牢に閉じ込めることもできなければ、殺すこともできないほどの力[1]を与えられていた。それでも彼らは、縄で縛られて牢に投げ込まれるまで、その力[2]を使わなかった。それは、主が彼らによって主の力を現されるようにするためであった。

32 さて、彼らは出て行くと、主から授かった御霊と力によって、人々に教えを説き、また預言し始めた。

アモナイハの地にいる民に告げ知らされたアルマの言葉とアミュレクの言葉。アルマとアミュレクは牢に投げ込まれたが、彼らの内にある奇跡を起こす神の力によって救われる。これはアルマの記録による。

次の第九−十四章がそれに相当する。

第 9 章

アルマ、アモナイハの民に悔い改めるように命じる。主は終わりの時にレーマン人に憐れみを示される。ニーファイ人は、光を捨てればレーマン人によって滅ぼされる。神の御子が間もなく来られる。神の御子は、悔い改めてバプテスマを受け、御子の名を信じ

---

29 ① アル 9・12、18、GS
31 ① 1ニフ 1・20
② 「悔い改め」アル 14・17−29

る人々を贖われる。紀元前約八十二年。

1 さらに、わたしアルマは、アミュレクを連れて出て行って、もう一度この民に、すなわちアモナイハの町にいる人々に教えを説くように神から命じられたので、彼らに教えを説き始めたところ、彼らはわたしと論争を始めて言った。

2 「おまえは何者だ。人一人が大地は過ぎ去ると我々に説いて、我々がその人の証を信じるとでも思うのか。」

3 彼らは、自分たちの語った言葉を理解していなかった。大地が過ぎ去ることを、彼らは知らなかったからである。

4 彼らはまた、「たとえおまえが、この大きな町が一日で滅びてしまうと預言しても、我々はおまえの言葉を信じない」と言った。

5 彼らは、心がかたくなで強情な民であったので、神にそのような驚くべき業がおできになることが分からなかった。

6 また彼らは言った。「神は何者なので、そのように大いなる驚くべき業が現実に起こることをこの民に告げ知らせるのに、権能を持つ者をたった一人しか送らないのか。」

7 そして、彼らはわたしを捕らえようとして進んで来たが、しかし見よ、捕らえなかった。そこで、わたしは彼らに告げ知らせるために勇気を奮って立ち、まことに、彼らに大胆に証して言った。

8 「見よ、おお、邪悪でよこしまな時代の人々よ、どうしてあなたがたは先祖の言い伝えを忘れてしまったのか。まことに、何と早く神の戒めを忘れてしまったことか。

9 あなたがたは、わたしたちの先祖リーハイが神の御手によってエルサレムから導き出されたことを覚えていないのか。あなたがたは、彼らが皆、神に導かれて荒れ野を通り抜けたことを覚えていないのか。

10 またあなたがたは、神が何度もわたしたちの先祖を敵の手から救い出し、また、彼ら自身の同胞の手にかかって滅びることのないように彼らを守ってくださったことを、こんなに早く忘れてしまったのか。

11 まことに、もしも神のたぐいない力と、神の憐れみと、わたしたちに対する神の寛容がなかったなら

第9章
2 ① 申命17・6
4 ① アル16・9—10
6 ① 出エ5・2、モサ11・27、モセ5・16
8 ① ② アル10・12—25
9 ① ニフ2・1—7

ば、わたしたちは間違いなく、はるか以前に地の面から絶たれていたであろうし、また恐らく無窮[1]の惨めで不幸な状態に置かれていたことであろう。

12 見よ、あなたがたに言う。神はあなたがたに、悔い改めるように命じておられる。悔い改めなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐことはできない。しかし見よ、そればかりではない。神はあなたがたに悔い改めるように命じてこられたので、悔い改めなければ、神はあなたがたを地の面からことごとく滅ぼされるであろう。まことに、神は怒ってあなたがたを罰し、その激[2]しい怒りを解かれることはないであろう。

13 見よ、あなたがたは、神がリーハイに、『あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える』[1]と言われた御言葉を覚えていないのか。また神は、『わたしの命令を守らなければ、わたしの前から絶たれる』とも言っておられる。

14 レーマン人は神の戒めを守らなかったので、主の御前から絶たれた。あなたがたはこのことを覚えておいてほしい。わたしたちは、このことにおいて主の御言葉がすでに実証されていることを知っている。レーマン人はこの地で戒めに背き、主の御前から絶たれた。[1]

15 にもかかわらず、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが自分の罪の中にとどまるならば、裁きの日には、彼らの方があなたがたよりも堪[1]えやすいであろう。また、あなたがたが悔い改めなければ、まことに、この世でも彼らの方があなたがたよりも堪えやすいであろう。

16 それは、レーマン人に与[1]えられている約束が多くあるからである。彼らを無知[2]の状態にとどめたのは、彼らの先祖の言い伝[3]えである。したがって、主は彼らを憐れみ、彼らがこの地に長く住[4]めるようにされるであろう。

17 そして、彼らはある時期に、導[1]かれて主の御言葉を信じ、自分たちの先祖の言い伝えが正しくないことを知るようになるであろう。そして、彼らの多くが救われるであろう。主は御名を呼[2]ぶすべての人に憐れみを示されるからである。

18 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが悪事を続けるならば、この地でのあなたがたの生涯は延ばされない。[1]レーマン人があなたが

---

11 ①モサ16・11
12 ①アル8・16、10・19、23、27
13 ①アル8・29　②ニフ1・20、モサ2・7、アル37・13
14 ①ニフ5・20−24、アル38・1
15 ①マタ11・22、24
16 ①アル17・15
17 ①モサ3・11　②モサ10・11−17　③ヒラ15・10−12　④エノ1・13
18 ①アル38・5、教義3・8　②アル16・2−3

たのもとに送られるからである。もしあなたがたが悔い改めなければ、彼らが気づかないうちにやって来て、あなたがたは完全な滅亡に見舞われるであろう。これは主の激しい怒りによるのである。

19 あなたがたが罪悪のあるまま生き続けて主の民を滅ぼすことを、主は許されないからである。わたしはあなたがたに、そのとおりであると言う。もしニーファイの民と呼ばれる主の民が、主なる自分たちの神から授けられた非常に多くの光と非常に多くの知識を受けた後、罪と背きに陥るようなことがあるとすれば、主はむしろレーマン人がニーファイの民をことごとく滅ぼすのを許されるであろう。

20 まことに、ニーファイの民は、そのように主から厚い恵みを受けた民であり、まことに、ほかのあらゆる国民、部族、国語の民、民族に勝る恵みを受け、彼らの望みと信仰と祈りに応じて、過去、現在、未来のことをすべて示され、

21 また、神の御霊の訪れを受け、天使と語り、主の声による御告げを受け、預言の霊と啓示の霊と、そのほか異言で語る賜物、説教の賜物、聖霊の賜物、翻訳の賜物など、多くの賜物を受けてきた。

22 また、神によりエルサレムの地から主の御手によって救い出され、飢饉や病気、あらゆる患いから救われ、戦闘の際には滅ぼされないように強くされ、幾度も奴隷の状態から導き出されて現在に至るまで守られ、保護され、そしてこのように栄えてあらゆるものに富むようになった。

23 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。このように多くの祝福を主の御手から受けてきたこの民が、もし現在受けている光と知識に背くとすれば、わたしはあなたがたに言うが、もし彼らが戒めに背くならば、レーマン人の方がこの民よりもはるかに堪えやすいであろう。

24 見よ、主の約束がレーマン人に与えられているからである。しかし、あなたがたが戒めに背くならば、主の約束はあなたがたには及ばない。もし主に背くならば、あなたがたは地の面からことごとく滅ぼされてしまうと、主がはっきり約束し、そう明確に定めておられないであろうか。

25 このために、すなわちあなたがたが滅ぼされることのないために、主は天使を遣わして御自分の民の多くの者を訪れさせられた。そして、天使はこれら

---

18 ② アル 16・9
19 ① アル 8・29
③ 1ニフ 12・15、19—
20 ① アル 45・10—14
② アル 24・30
21 ① 13—19、28・11—17
② GS「啓示」
22 ① 2ニフ 1・4
23 ① モサ 27・16
② マタ 11・22—24
24 ① 2ニフ 30・4—6、教義 3・20

の者に、出て行って、この民に次のように力強く叫ぶように告げた。『悔い改めよ。天の王国は近づいている。

26 今から多くの日が過ぎないうちに、神の御子が栄光のうちに来られる。神の御子の栄光は御父の独り子の栄光であり、その独り子は恵みと公平と真理に満ち、忍耐と憐れみと寛容に富み、御自分の民の嘆願を聞くのも、また彼らの祈りにこたえるのも早い御方である。

27 そして見よ、神の御子は、御子の御名を信じて悔い改めのためのバプテスマを受ける人々を贖うために来られる。

28 だから、主の道を備えなさい。すべての人が自分の行いに応じて、その行いの報いを刈り取る時が近づいているからである。すなわち、人はその行いが義にかなっていれば、イエス・キリストの力と解放によって自分自身の救いを刈り取り、その行いが悪ければ、悪魔の力と束縛によって自分自身の罰の定めを刈り取ることになる。』

29 さて見よ、これが民に向かって叫ぶ天使の声である。

30 そこで、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはわたしの同胞であるから、愛されて当然である。しかし、あなたがたの心は神の御言葉に対して非常にかたくなになっており、あなたがたは、迷い堕落した民となっているので、悔い改めに導く行いをしなくてはならない。」

31 さて、わたしアルマがこれらの言葉を語り終えると、見よ、人々はわたしに腹を立てた。わたしが彼らのことを、心のかたくなな、強情な民であると言ったからである。

32 また、わたしが彼らのことを迷い堕落した民であるとも言ったので、彼らは腹を立て、わたしを捕らえて牢に投げ込もうとした。

33 しかしそのとき、主は彼らがわたしを捕らえて牢に投げ込むのを許されなかった。

34 そこで、アミュレクも進み出て、彼らに教えを説き始めた。この書にはアミュレクの言葉をすべては書き記さず、その言葉の一部だけを記すことにする。

第10章

リーハイはマナセの子孫である。アミュレク、アル

---

25 ① アル7・9、ヒラ5・32
26 ① GS「独り子」アル7・7
② GS「恵み」
③ GS「憐れみ」
④ GS申命26・7
⑤ GS「バプテスマ」
27 ① GS「贖い・贖う」教義1・10、6・33
28 ① 詩篇7・16
② GS「罰の定め」
30 ③ 1ヨハ4・11
アル12・22
31 ① 2ニフ25・28、モサ3・14
② アル10章
34 ①

マの世話をするように天使から命じられたことを述べる。義人の祈りは人々の命が救われる元となる。不義な法律家とさばきつかさが、民の滅亡の基を据える。紀元前約八十二年。

1 さて、アミュレク[1]がアモナイハの地に住む人々に説いた言葉[2]は、次のとおりである。

2 「わたしはアミュレクである。わたしはギドーナの子であり、ギドーナはイシマエルの子、イシマエルはアミナダイの子孫である。このアミナダイは、神殿の壁に神の指で書き記された言葉を解き明かした、あのアミナダイである。

3 そして、アミナダイはニーファイの子孫であり、ニーファイはエルサレムの地から来たリーハイの子、リーハイはマナセ[1]の子孫、マナセは兄たちの手によってエジプトに売られたヨセフ[2]の子である。

4 そして見よ、わたしも、わたしを知っているすべての人の中では少なからず信望を得ている者であり、まことに見よ、わたしには多くの親族[1]と友人がいる。わたしはまた勤勉に働いて大きな富も得た。

5 それでもわたしは、主の道[1]と、主の奥義と、驚くべき力については、まだ多くのことを知らない。いや、わたしはこれらのことについて多くを知らないと言ったが、しかし見よ、それは間違いである。わたしはすでに、主の奥義と、まことにこの民の命を守るために現された主の驚くべき力を、多く見てきたからである。

6 それでもわたしは、心をかたくなにした。幾度となく呼ばれ[1]たが、わたしは聞こうとしなかった。だからわたしは、これらのことについて知っていながら、知りたいと思わなかった。そこでわたしは、悪い心のまま、さばきつかさの統治第十年のこの七月の四日まで、神に背き続けた。

7 そしてわたしが、ごく身近な親族に会おうとして出かけたときに、見よ、主[1]の天使がわたしに現れてこう言った。『アミュレクよ、あなたは主の預言者に食べ物を与えなければならないので、家へ戻りなさい。その預言者は聖なる人であり、神の選ばれた人である。その人は、この民の罪のために、幾日もの間、断食[2]をして飢えている。あなたは彼を自分の家に迎え[3]、食べ物を与えなさい。そうすれば、彼はあなたとあなたの家族を祝福し、主の祝福があなた

第10章
1 ① アル8・21—29
1 ② アル9・34
3 ① 創世41・51、歴上9・3
3 ② 創世37・29—36
3 ③ GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
4 ① アル15・16
5 ① GS「神の奥義」
6 ① アル5・37
7 ① 教義39・9
7 ② アル8・20
7 ③ GS「断食」
アル5・46、6・6、使徒10・30—35

とあなたの家族のうえにとどまるであろう。』

8 そこでわたしは、その天使の声に従い、我が家へ向かった。そして、我が家へ帰る途中で、天使がわたしに『自分の家に迎えよ』と言ったその人に会った。その人こそ、これまであなたがたに神にかかわる事柄について語ってこられた、この方である。

9 天使は、この方が聖なる人であるとわたしに言った。それでわたしは、この方が聖なる人であることを知っている。神の天使がそう言ったからである。

10 わたしはまた、この方が証されたことが真実であることを知っている。見よ、わたしはあなたがたに言う。主が生きておられるように確かに、主は御自分の天使を遣わして、これらのことをわたしに明らかにしてくださった。この方アルマがわたしの家に住んでおられたときに、天使がこれを明らかにしたのである。

11 見よ、この方はわたしの家族を祝福された。わたしと、女たち、子供たち、わたしの父、わたしの親族、すなわちわたしの一族全員を祝福されたので、この方の告げられた言葉のとおりに、主の祝福がわたしたちのうえにとどまった。」

12 さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、人々は、自分たちが責めを受けている事柄について証する証人が一人にとどまらなかったので、またその証人たちがその内にある預言の霊によって将来起こることも証したので、驚いた。

13 それでも彼らの中には、この二人を問い詰めようと考えた者たちがいた。これらの者は、狡猾な策略によって二人の言葉じりをとらえ、彼らに不利な証拠を見つけ、彼らをさばきつかさたちに引き渡して法律によって裁いてもらい、自分たちが彼らについて見せかけることができた、あるいは証明できた罪科に応じて彼らを殺すか、あるいは投獄するかしようとした。

14 さて、この二人を滅ぼそうとしたのは法律家たちであった。法律家とは、人々が裁判のときに、すなわち人々がさばきつかさの前で犯罪の審理を受けるときに、彼らに雇われて、または任命されて法律を取り扱う者たちであった。

15 この法律家たちは、民のあらゆる策略と悪知恵に通じていた。そして、それによって彼らはその職業を巧みにこなしていた。

---

8 アル 8・19—21
9 GS「聖い」
10 ① 11・30—31
11 ② アル 8・27
12 ① アル 8・22
13 ① アル 9・6
14 ① アル 11・21
15 ① アル 10・24、11・20、14・18—21

16さて、彼らはアミュレクに質問を始め、彼に言葉の混乱を起こさせようと、すなわち、彼の語る言葉に矛盾を生じさせようとした。

17しかし彼らは、アミュレクに自分たちの企てが知れてしまったのを知らなかった。彼らが質問を始めたとき、アミュレクは彼らの思いを見抜いて言った。「おお、[2]邪悪でよこしまな時代の人々よ、法律家たちと偽善者たちよ。あなたがたは悪魔の基を据えている。神の聖なる人々を捕らえるために、[3]わなと落とし穴を仕掛けている。

18義人の道を曲げるために策を巡らし、自分たちの頭に、この民が全滅するまで神の怒りを招こうとしている。

19まことに、我々の最後の王モーサヤが王位を譲ろうとしたときに言ったことは、適切であった。モーサヤ王が王位を譲る相手がだれもいなかったので、この民は、民自身の声によって治められることになった。そのときに、もしこの民の声が罪悪を選ぶ時が来れば、すなわちこの民が戒めに背く時が来れば、民の滅亡の機が熟しているとモーサヤ王が言ったが、実にそのとおりであった。

20さて、わたしはあなたがたに言う。主があなたがたの罪悪を裁かれるのはふさわしいことである。主が御自分の天使たちの声によってこの民に、『悔い改めよ。悔い改めよ。天の王国は近づいているからである』と叫ばれるのはふさわしいことである。

21まことに、主が天使の声によって、『わたしは公平と公正を手に携えて、わたしの民の中に降ろう』と叫ばれるのはふさわしいことである。

22また、わたしはあなたがたに言う。もしも今、この地に住む義人の祈りがなかったならば、あなたがたは完全な滅亡に見舞われていたことであろう。しかし、それはノアの時代の人々のように洪水によるのではなく、飢饉と疫病と剣によったことであろう。

23しかし、あなたがたが救われているのは、義人の祈りによる。したがって、もしあなたがたが自分たちの中から義人を追い出すならば、そのときに主は手をとどめず、激しい怒りのうちに降って来て、あなたがたを責められるであろう。そのとき、あなたがたは飢饉と疫病と剣によって打たれるであろう。あなたがたが悔い改めなければ、その時はすで

---

17 ① アル12・3、18・20、32、教義6・16
② マタ3・7、アル9・8
18 ① 教義10・21—27
19 ① 使徒13・10
② モサ29・27、アル2・3—7、ヒラ5・2
20 ① アル8・14—16、13・22
21 ① モサ13・34
22 ① 新ヤコ5・16、モサ27・14—16
② 創世8・21、3ニフ22・8—10、GS「ノアの時代の洪水」
23 ① GS「祈り」
② アル34・32—35

に近い。」

24そこで、民はますますアミュレクに腹を立て、「この男は我々の公正な法律と我々の選んだ賢い法律家をののしっている」と叫んだ。

25しかし、アミュレクは手を伸ばし、さらに力強く彼らに叫んだ。「おお、邪悪でよこしまな時代の人々よ、なぜサタンはこのようにあなたがたの心をしっかりと捕らえたのか。なぜあなたがたはサタンに自分自身をゆだねようとするのか。サタンはあなたがたに告げられている御言葉を、あなたがたがその真実なままに理解しないように、あなたがたを支配する力を得て、あなたがたの目をくらましている。[1]

26見よ、わたしはあなたがたの法律に逆らう証を述べたか。あなたがたは分かっていない。あなたがたは、わたしがあなたがたの法律をけなしたと言うが、わたしはそのようなことはしていない。むしろわたしは、あなたがたの法律を支持し、あなたがたが罪に定められることを語った。

27見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがた[1]の法律家たちとさばきつかさたちの不義によって、この民の滅亡の基が据えられている。」

28さて、アミュレクがこれらの言葉を語ったところ、人々は彼を非難して叫んだ。「我々には分かる。この男は悪魔の子だ。我々にうそを言っている。[1]この男は我々の法律をけなした。それなのに、法律をけなさなかったと言っている。

29そのうえこの男は、我々の法律家とさばきつかさをののしった。」

30そして法律家たちは、アミュレクを責めるためにこれらの事柄を覚えておくように、人々の心の中にそれを植え付けたのである。

31その法律家たちの中に、ゼーズロムという名の者がいた。彼は法律家の中では最も有能な者の一人であり、民の中で多くの仕事を抱えていたので、アミュレクとアルマを責めた中心人物であった。[1]

32この法律家たちの目的は、利益を得ることであり、彼らは自分の働きに応じて利益を得たのであった。

第11章

ニーファイ人の貨幣制度についての説明。アミュレク、ゼーズロムと論じ合う。キリストは人々を罪のあ

25 ① 2コリ4・4、アル14・6
27 ① ルカ11・45—52
28 ① アル14・2
31 ① アル11・20—36

るままでは救われない。天の王国を受け継ぐ人々だけが救われる。すべての人が不死不滅の状態によみがえる。復活後には死はない。紀元前約八十二年。

1さて、モーサヤ王の法律では、法律のさばきつかさであるすべての者、すなわち、さばきつかさとして任命されている者たちは、彼らの前に連れて来られた者たちを裁判するために働いた時間に応じて、俸給を受けることになっていた。

2そこで、もしある人がほかの人に借金をしてそれを返さないならば、その人はさばきつかさに訴えられた。すると、さばきつかさは職権を行使し、役人たちを遣わしてその人を自分の前に連れて来させた。そして、さばきつかさはその人を法律と、その人に対して提出された証拠によって裁判した。その結果、その人は強制的に借金を払わされるか、強制的に持ち物を取り上げられるか、または盗人や強盗として強制的に民の中から追い出された。

3また、さばきつかさは自分の働いた時間に応じて俸給を受けた。すなわち、一日について金一セナイン、または銀一セヌムを受けた。銀一セヌムは金一セナインに相当する。これは、定められた法律による。

4さて、ニーファイ人の各種の金貨と銀貨の名称は、その価値に従って挙げると次のとおりである。この名称はニーファイ人が付けたものである。彼らはエルサレムにいたユダヤ人の方法では計算していなかった。また、ユダヤ人の方法で量ることもしなかった。彼らはモーサヤ王が[1]確立したさばきつかさの治世に至るまで、民の意向と状況に応じて、時代ごとに貨幣単位と度量法を変えてきたのである。

5さて、その貨幣単位は次のとおりである。すなわち、金一セナイン、金一セオン、金一シュム、金一リムナ。

6銀一セヌム、銀一アムノル、銀一エズロム、銀一オンタイがあり、

7銀一セヌムは金一セナインに等しく、どちらも大麦一升、または各種の穀物一升分に相当した。

8さて、金一セオンの額はセナインの二倍の価値があり、

9また、金一シュムはセオンの二倍の価値があり、

10また、金一リムナは、一セナインと一セオンと一

第11章
4 ① モサ29・40−44

シュムを合わせた価値があった。
11また、銀一アムノルは二セヌムに等しく、
12また、銀一エズロムは四セヌムに等しく、
13また、銀一オンタイは、一セヌムと一アムノルと一エズロムを合わせたものに等しかった。
14さて、貨幣単位の小さいものの価値は次のとおりである。
15一シブロンは一セヌムの半分である。したがって、一シブロンは大麦半升分に相当する。
16また、一シブルムは一シブロンの半分であり、
17そして、一レアは一シブルムの半分である。
18さて、これがニーファイ人の貨幣評価による数の取り方である。
19また、金一アンテオンは三シブロンに等しい。
20さて、さばきつかさたちは利益を得ることを唯一の目的としており、自分たちの働きに応じて俸給を受けたので、騒動を起こすように、またあらゆる争いと悪事を行うように人々を扇動した。それは、自分たちがさらに多くの働きができるように、そして、自分たちの前に持ち出される訴訟によって[1]金銭を得られるようにするためであった。そこで、彼らは人々を扇動してアルマとアミュレクに逆らわせたのである。
21それで、ゼーズロムはアミュレクに質問を始め、「わたしが尋ねる少しの質問に答えてもらえるだろうか」と言った。ゼーズロムは善いことを損なうために悪魔の[1]策略に長じていた男であったので、アミュレクに、「わたしが質問することに答えてもらえるだろうか」と尋ねたのである。
22そこで、アミュレクは彼に、「もしそれがわたしの内にある[1]主の御霊にかなうならば答える。わたしは主の御霊にかなわないことは何も言わない」と答えた。するとゼーズロムは彼に、「見よ、ここに銀六オンタイがある。あなたが至高者の実在を否定するならば、わたしはこれをすべてあなたに進呈しよう」と言った。
23そこでアミュレクは言った。「おお、[1]地獄の子よ、なぜわたしを[2]そそのかすのか。義人はこのような誘惑に決して屈しないことを、あなたは知っているではないか。
24あなたは神がおられないと信じているのか。いや、わたしはあなたに言うが、あなたは神がおられ

---

20 ① アルマ10・13
21 ① アルマ10・32
22 ① GS「聖霊」
23 ① GS「誘惑」
23 ② アルマ5・41

ることを知っている。しかし、あなたは神よりもその金の方を愛している。[1]

25 さて、あなたは神の御前でわたしに偽りを言った。あなたはわたしに、『この大枚の六オンタイを見なさい。これを進呈しよう』と言ったが、あなたは心の中では、それをわたしに渡すまいと考えている。あなたの望みはただ、わたしにまことの生ける神を否定させて、わたしを滅ぼす口実を得ることであった。さて見よ、あなたはこの大きな悪事のために報いを受けるであろう。」

26 そこで、ゼーズロムがまた彼に、「あなたはまことの生ける神がいると言うのか」と問うた。

27 そこでアミュレクは、「そのとおり、まことの生ける神がおられる」と答えた。

28 そこでゼーズロムが、「神は何人もいるのか」と問うので、

29 彼は、「そうではない」と答えた。

30 またゼーズロムが重ねて、「どうしてあなたは、これらのことを知っているのか」と問うので、

31 彼は、「[1]天使がわたしにそれを知らせてくれた」と答えた。

32 そして、ゼーズロムがまた、「将来来るというのはだれか。神の子なのか」と問うので、

33 彼は「そのとおり」と答えた。

34 ゼーズロムはまた、「神の子は、自分の民を罪[1]があるまま救うのか」と言った。そこで、アミュレクは答えて言った。「わたしはあなたに、そうではないと言おう。神の御子は御自分の御言葉を否定し得ないからである。」

35 ここで、ゼーズロムは人々に向かって言った。「あなたがたはこれらのことをしっかり覚えていてほしい。この男は、神はただ一人であると言った。しかし、神の子は将来来るが、自分の民を救わないとこの男は言う。まるで、この男は神に命じる権能を持っているかのようだ。」

36 さて、アミュレクはまた彼に言った。「あなたは偽りを言っている。神の御子が御自分の民を罪のあるまま救われないとわたしが言ったことで、わたしが神に命じる権能を持っているかのように語ったとあなたは言う。

37 わたしはもう一度あなたに言う。神の御子は人々を罪[1]のあるまま救うことはおできにならない。わた

24 ① 1テモ6・10、テト1・11
31 ① アル10・7—10
34 ① ヒラ5・10—11
37 ① 1コリ6・9—10

しは神の御子の御言葉を否定することはできない。神の御子は、清[2]くない者は決して天の王国を受け継[3]ぐことができないと言われた。天の王国を受け継がなければ、どうして救われるであろうか。だから、あなたがたは罪のあるまま救われることはできないのである。」

38 さて、ゼーズロムはまた彼に、「神の子はまことの永遠の父であるのか」と尋ねた。

39 そこでアミュレクは彼に答えた。「そのとおり。神の御子は、天地とその中にある万物[1]のまことの永遠[2]の父である。神の御子は初めであり終わりであり、最初であり最後である。

40 また、神の御子は御自分の民を贖[1]うために、将来この世[2]に来られ、御自分の御名を信じる人々の背きを負[3]われる。これらの人々は永遠の命を得る人々であり、これ以外の人々に救いは与えられない。

41 したがって、悪人はあたかも贖[1]いがなかったかのような有様であり、ただ死の縄目からの解放だけがある。見よ、すべての人が死者の中からよみがえって神の御前に立ち、自分の行いに応じて裁[3]かれる日が来るからである。

42 さて、肉体の死と呼ばれる死がある。そして、キリストの死は将来この肉体の死の縄目[1]を解き、すべての人がこの肉体の死からよみがえる。

43 霊と体は再び結合[1]して完全な形になり、手足も関節も、ちょうど今のわたしたちのような、その本来の造りに回復される。そして、わたしたちは今持っている知識を保ったまま、神の御前に連れ出されて立ち、自分のすべての罪[2]をはっきりと思い出す。

44 さて、この復活は、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、男にも女にも、悪人にも義人にも、すべての人に与えられる。そして、髪の毛一筋さえも失われることはなく、すべてのものが今あるような、その完全な造りに、すなわち体に回復される。それから、自分の行いが善いか、それとも悪いか、行いに応じて裁[2]かれるために、一[3]つの永遠の神である御子なるキリストと御父[4]なる神と聖なる御霊との法廷に連れ出され、罪の有無を問われる。

45 さて見よ、わたしは死すべき体の死について、また死すべき体の復活[1]についてあなたに語ってきた。わたしはあなたに言う。この死すべき体は不死[2]不滅わたしはあなたに言う。この死すべき体は不死[2]不滅

---

37 ② 1ニフ15・33、アルマ40・26、3ニフ27・19、GS「不信心」
③ GS「神の王国・天の王国」
39 ① コロ1・16、モサ4・2
② イザ9・6
40 ① ロマ11・26−27
② GS「世」
③ 出エ34・6−7、イザ53・5、1ヨハ2・2、モサ14・5、15、12、教義19・16−19
41 ① アル12・18、教義88・33
② 黙示20・12−13、アル42・23
42 ① GS「最後の裁き」
② アル12・16
③ ニフ9・13、アル43・1
40 ② GS「罪悪感」
③ 2ニフ9・14、モサ3・25、アル5・18
44 ① アル41・12−15
② 黙示20・12−13
③ 3ニフ11・27、36、GS「神・神会」
④ GS「神・神会↑父なる神」
45 ① アル40・23、教義88・16
② GS「不死不滅」

の体によみがえる。[3] 死から、すなわち第一の死から命に移り、すべての人がもう死ぬことはあり得ない。[4] 彼らの霊は体と結合して、決して分離しない。このように相合したものは、[5] 霊的な、不死不滅のものとなり、彼らはもはや朽ちることがない。」

46 さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、人々はまた驚き、ゼーズロムもおののき始めた。このようにして、アミュレクの話は終わった。すなわち、わたしが書き記した言葉はこれだけである。

第12章

アルマ、ゼーズロムと論じ合う。神の奥義は忠実な人々にだけ示される。人は自分の思い、信じていること、言葉、行いによって裁かれる。悪人は霊の死を受ける。この死すべき生涯は試しの状態である。贖いの計画は復活をもたらし、また信仰によって罪の赦しをもたらす。悔い改めた者は、神の独り子を通じて憐れみを受ける権利を持つ。紀元前約八十二年。

1 さて、ゼーズロムは、アミュレクを滅ぼすための[1]偽りと欺きをアミュレクに見破られ、彼の言葉に沈黙してしまうとともに、自分の罪を自覚して[2]震えおののき始めた。アルマはその様子を見ると、口を開いてゼーズロムに語り、アミュレクの言葉を確認し、さらに多くのことを説き始めた。すなわち、アミュレクよりもさらに詳しく聖文を説き明かし始めた。

2 さて、アルマがゼーズロムに語った言葉は、取り巻いていた人々にも聞こえた。群衆は大勢であった。アルマは次のように語った。

3 「ゼーズロムよ、あなたの偽りと悪巧みは見破られている。あなたは人に偽りを言っただけでなく、神にも偽りを言ったのだ。見よ、神はあなたの[1]思いをすべて御存じである。そして、あなたも分かっているように、あなたの思いは神の御霊によってわたしたちに知らされている。

4 あなたも分かっているように、わたしたちは、あなたのはかりごとが悪魔の狡猾さによって非常に狡猾であって、この民を偽り欺いて彼らにわたしたちに対する反感を抱かせ、わたしたちをののしり、追い出させるのに有効であることを知っている。

5 これはあなたの[1]敵のはかりごとであって、彼はあ

---

45 ③ GS「復活」
④ 黙示21・4、教義63・
⑤ 49、88・116、1コリ15・44

第12章

1 ① アル11・20—38
② GS「良心」
3 ① ヤコ2・5、アル10・
② 17、教義6・16
5 ① GS「悪魔」

なたの中で力を行使してきたのである。さて、わたしがあなたに告げることは、すべての人に告げることでもある。あなたがたはそのことを覚えておいてほしい。

6 見よ、わたしはあなたがた全員に言う。これはこの民を捕らえるために敵対する者の仕掛けたわなであり、これによって彼は、あなたがたを自分に服従させ、[1]鎖であなたがたを縛り、束縛の力によってあなたがたに鎖をかけたまま、永遠の滅びに陥れようとしたのである。」

7 さて、アルマがこれらの言葉を語り終えると、ゼーズロムはさらにひどくおののき始めた。彼はますます神の力を感じ、またアルマとアミュレクが自分のことを知っていると分かったからである。彼は、二人が自分の心の思いと意図を知っていることに気づいた。彼ら二人は、預言の霊によってこれらのことが分かるように、力を与えられたのである。

8 そこでゼーズロムは、神の王国についてもっと多く知ろうとして、熱心に彼らに尋ね、アルマにこう言った。「アミュレクが死者の復活について語り、すべての人は正しい者も正しくない者も死者の中からよみがえり、ともに行いに応じて裁かれるために神の御前に引き出されて立つと言ったのは、どういう意味ですか。」

9 そこでアルマは、このことを次のように詳しく述べて彼に言った。「神の[1]奥義を知ることは多くの人に許されている。しかしこれらの人々は、神が人の子らに授けておられるだけの[2]御言葉しか伝えてはならないという、厳しい命令を受けている。神の御言葉は、人の子らが神に寄せる注意力と熱意の度合いに応じて与えられる。

10 したがって、心をかたくなにする[1]者はわずかな御言葉しか受けないが、心をかたくなにしない[2]者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される。

11 また、心をかたくなにする者はわずか[1]な御言葉しか与えられず、ついに神の奥義をまったく知[2]らない有様となる。その後、これらの者は悪魔に捕らえられて、悪魔の意のままに滅びに引き込まれる。[3]地獄の[1]鎖とはこのことを意味する。

12 そしてアミュレクは、[1]死と、この死すべき状態か

6 ① アル5・7—10
9 ① アル26・22、GS「神の奥義」
② ヨハ16・12、アル29・8、3ニフ26・8—11、エテ4・7
10 ① 2ニフ28・27、エテ4・8
② 教義93・39
③ GS「謙遜」
④ 2ニフ28・30、教義50・24
11 ① マタ25・29
② GS「背教・背信」
③ 箴言9・18、2ニフ2・29、GS「地獄」
④ ヨハ8・34、2ニフ28・19
12 ① アル11・41—45

ら不死不滅の状態によみがえることと、行いに応じて裁かれるために神の法廷に連れ出されることについて分かりやすく話した。

13したがって、もしわたしたちの心がかたくなであり、まことに、わたしたちが御言葉に対して心をかたくなにして、御言葉がわたしたちの中に見いだされないようになれば、そのとき、わたしたちの状態は恐ろしいものになるであろう。そのとき、わたしたちは罪に定められるからである。

14わたしたちの言葉がわたしたちを罪に定め、まことに、行いもすべてわたしたちを罪に定めるので、わたしたちは染みのない者とは認められない。また、わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。そして、このような恐ろしい状態の中で、わたしたちはあえて神を仰ぎ見ようとはしないであろう。そして、神の御前から隠れるために、岩や山に自分の上に落ちてくるように命じることができれば、喜んでそうするであろう。

15しかし、それはできない。わたしたちは出て来て、栄光と力、威勢、尊厳、主権を帯びておられる神の御前に立ち、永遠の恥辱を感じながら、神の裁きがすべて公正であること、神がすべての業を公正に進めておられること、神が人の子らに対して憐れみに富んでおられること、神が御名を信じて悔い改めにふさわしい実を結ぶあらゆる人を救う一切の権威を持っておられることを、認めなければならない。

16さて見よ、わたしはあなたに言う。そのときに死がやって来る。第二の死、すなわち霊の死がやって来る。それは、肉体の死に関して罪のあるまま死ぬ者が霊の死をも受ける時である。まことにその人は、義にかかわることについて死ぬのである。

17それは、彼らの受ける苦痛が、炎がとこしえに立ち上って消えることのない、火と硫黄の池のようになる時である。またそれは、彼らがサタンの力と束縛によって鎖をかけられて、永遠の滅びに至る時である。それは、サタンが意のままに彼らを従わせてしまったからである。

18またあなたに言う。そのとき、彼らはあたかも贖いがなかったかのようになるであろう。彼らは神の正義によれば、贖いを受けることができないからである。また彼らは、もはや朽ちることがないので、死ぬこともできない。」

---

12 ② GS「最後の裁き」
14 ① 3・6、マタ12・36、新ヤコ
② ヨブ34・22、2ニフ
12・10 ③ ホセ10・8、2ニフ
26・5
15 ① モサ3・25
② 2ペテ2・9—10
16 ① GS「死（霊の）」
② アル11・40—45
③ 1ニフ15・33、アル
17 ① 黙示19・20、21・8、
40・26
18 ① モサ3・27
② アル11・41
45 ② 黙示21・4、アル11・
45、教義63・49

19 さて、アルマがこれらの言葉を語り終えると、人々はことのほか驚いた。

20 ところが、人々の中に高官の一人でアンテオナという人がいた。彼は進み出ると、アルマに言った。「人は死者の中からよみがえって、この死すべき状態から、決して死ぬことのできない[1]不死不滅の状態に変えられるとあなたは言ったが、それはどういうことか。

21 聖文には、神がエデンの園の東にケルビム[2]と燃える剣を置いて、わたしたちの始祖が園に入って命の木の実を食べ、とこしえに生きることのないようにされたとあるが、それはどういう意味か。そうであるとすれば、わたしたちの始祖がとこしえに生きるという可能性がまったくないことになる。」

22 そこで、アルマは彼に言った。「わたしは、それを説明しようと思っていた。わたしたちの知っているように、アダムは禁断の実[1]を食べたことによって神の御言葉のとおりに堕落[2]した。また、わたしたちの知っているように、アダムが堕落したことにより、全人類は[3]迷い堕落した民となった。

23 さて見よ、わたしはあなたに言う。もしそのときにアダムが命の木の実を食べることができたとすれば、死ぬことはなく、御言葉はむなしくなって、神は偽り者とされていたことであろう。なぜなら神は、『[2]もし食べればあなたは必ず死ぬであろう』と言われたからである。

24 そして、わたしたちの知っているように、現在、[1]死が人類に及んでいる。まことに、アミュレクが語った死、つまり肉体の死が及んでいる。にもかかわらず、[2]人が悔い改めることができるように、猶予期間が与えられた。したがって、この世の生涯は試しの状態、すなわち神にお会いする[3]用意をする時期、わたしたちが前に語った死者の復活後に訪れるあの無窮の状態に対して用意をする時期となった。

25 さて、もし世の初めから備えられていた[1]贖いの計画がなかったならば、[2]死者の復活はあり得なかったであろう。しかし、前に語った死者の復活をもたらす贖いの計画はすでに備えられていた。

26 さて見よ、もしもわたしたちの始祖が行って[1]命の木から食べることができたとすれば、準備の状態がまったくないので、始祖はとこしえに不幸な状態でいたことであろう。したがって、[2]贖いの計画は挫折

20 ① GS「不死不滅」
21 ① GS「エデン」 ② 創世3・24、アル42・2、モセ4・31 GS「ケルビム」
22 ① 創世3・6、2ニフ2・15—19、モサ3・26 GS「堕落（アダムとエバの）」 ② モサ16・4—5
23 ① アル42・2—9 ② 創世2・17
24 ① GS「死（肉体の）」 ② 2ニフ2・21、モセ5・8—12 ③ アル34・32—35
25 ① GS「贖いの計画」 ② 2ニフ2・8、アル7・12、42・23
26 ① 創世2・9、1ニフ15・36、アル32・40 ② アル34・8—16、42・6—28、モセ6・59—62

し、神の御言葉はむなしくなって、何も成就しなかったであろう。

27 しかし見よ、実際はそのようにはならず、人々は死ななければならないこと、そして死後に裁きを受けなければならないことが定められた。その裁きとは、わたしたちが前に語ったあの裁きであり、すなわち終わりである。

28 また、神はこれらのことが人に起こるように定められた後、見よ、御自分が人のために定められたことについて、人が知っておくのが望ましいと認められた。

29 そこで神は[1]天使たちを遣わして人々と語らせ、天使たちは人々に神の栄光を示した。

30 すると人々は、そのときから神の御名を呼ぶようになった。そこで神は人々と[1]語り、世の[2]初めから備えられていた[3]贖いの計画を人々に示された。これを神は、彼らの信仰と悔い改め、彼らの聖なる行いに応じて示された。

31 そして、神は人々に数々の戒めを与えられた。人々がすでに現世にかかわることについての[2]最初の戒めに背き、神々のように[3]善悪をわきまえて[4]行動する状態に自分自身を置いたため、すなわち、自分の意のまま、思いのままに、悪でも善でも行える状態に置かれたためである。

32 そこで神は、贖いの計画を人々に[1]示された後、悪を行ってはならないという戒めを彼らに与えられた。悪を行うことに対する罰は第二の[2]死、すなわち義にかかわることについての永遠の死であった。このような者には、贖いの計画は何の力も及ぼさない。神の至善によれば、[3]正義の働きが損なわれてはならないからである。

33 しかし神は、御自分の御子の御名によって人々に勧めて言われた。（これが用意された贖いの計画である。）『もしあなたがたが悔い改めて、心をかたくなにしなければ、そのとき、わたしは独り子を通じてあなたがたに憐れみを示そう。

34 それゆえ、悔い改めて、心をかたくなにしない者はだれであろうと、わたしの独り子を通じて[1]憐れみを受け、[2]罪の赦しを得る権利を持つ。これらの者はわたしの[3]安息に入るであろう。

35 しかし、心をかたくなにして、罪悪を行おうとする者はだれであろうと、見よ、わたしは怒って、そ

27 ① GS「最後の裁き」
② ヘブ9・27、教義42・48
29 ① モロ7・25、31、教義42・29
30 ① モセ5・4—5、6・51
② モサ18・13、アル13・3、5、7—8
31 ① GS「贖いの計画」
② GS「戒め（神の）」
③ 創世2・16—17、2・ニフ2・18—19
32 ① GS「死（霊の）」
② モセ5・4—9
③ モサ15・27、アル34・15—16、42・15
34 ① GS「憐れみ」
② GS「罪の赦し」
③ GS「安息」
31 ④ 2ニフ2・16、GS「選択の自由」
32 ③ 創世3・22—23、モセ4・11

の者をわたしの安息に入れないと誓う。』

36 さて、わたしの同胞よ、見よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心をかたくなにするならば、あなたがたは主の安息に入れないであろう。そこで、あなたがたの罪悪は神を怒らせ、ちょうど人々が最初、神の怒りを引き起こしたときのように、神はあなたがたに怒りを下される。まことに、最初の時と同じように、最後の時にも神の御言葉のとおりに怒りが下され、あなたがたは永遠の滅びに至るのである。したがって、あなたがたは神の御言葉のとおりに、最初の死と同じように最後の死も受ける。

37 さて、わたしの同胞よ、わたしたちはこれらのことを知っており、これはほんとうのことであるので、主なるわたしたちの神がわたしたちに与えてくださったこれらの第二の戒めについて神を怒らせ、神の激しい怒りを招くことのないように、悔い改めて、心をかたくなにしないようにしようではないか。そして、神の御言葉のとおりに備えられている神の安息に入ろうではないか。

第13章

人々が大祭司として召されるのは、その人自身の非常に深い信仰と善い行いのためである。大祭司は戒めを教えなければならない。彼らは義によって聖められ、主の安息に入る。メルキゼデクはその一人であった。天使たち、国中で喜びのおとずれを告げ知らせる。天使たちは将来、キリストの実際の来臨を知らせる。紀元前約八十二年。

1 「さて、わたしの同胞よ、主なる神が御自分の子供たちにこれらの戒めを与えられたときのことに、あなたがたの注意を向けたいと思う。あなたがたは、主なる神が、御子の位に従う聖なる位に従って祭司たちを聖任し、民にこれらの戒めを教えるようにされたことを覚えておいてほしい。

2 その祭司たちは神の御子の位に従って聖任されたが、人々はその聖任の仕方から、どのようにすれば神の御子を待ち望んで贖いを得られるかを知ることができた。

3 そして、祭司たちが聖任された方法は次のとおりである。すなわち、祭司たちは彼らの非常に深い信

36 ① ヤコ1・7—8、アル42・6、9、14
② GS「罰の定め」
37 ① 1ニフ17・30、ヤコ1・8、ヒラ7・18
② アル13・6—9
第13章
1 ① アブ2・9、11
2 ① 教義107・2—4
② アル13・16

仰と善い行いのために、神の先見の明によって世の初めから召され、備えられていた。彼らは初めに善を選ぶのも悪を選ぶのも任されていた。そこで彼らは、善を選んで、非常に深い信仰を働かせたので、現在、聖なる召しを受けている。まことに、このような者のために前もって用意された贖いとともに備えられ、また贖いに応じて備えられた、その聖なる召しを受けている。

4 このように、祭司たちは彼らの信仰のゆえにこの聖なる召しを受けたのである。一方、ほかの者たちは、その心がかたくなで、思いをくらませているために、神の御霊を拒んだ。もしそうでなかったならば、彼らはその同胞と同じ大きな特権を得ることができたであろう。

5 要するに、彼らは初めはその同胞と同じ立場にいた。このように、この聖なる召しは、心をかたくなにしない人々のために世の初めから備えられており、前もって用意された神の独り子の贖罪によって、また贖罪を通して定められている。

6 このように、祭司たちは人の子らに神の戒めを教えて、彼らも神の安息に入ることができるようにするため、この聖なる召しによって召され、神の聖なる位の大神権に聖任されたのである。

7 この大神権は神の御子の位に従うものであり、その位は世の初めから存在していた。言い換えれば、それは日の初めもなく年の終わりもなく、すべての物事に対する神の先見の明によって、永遠から永遠にわたって備えられているのである。

8 さて、彼らは次のようにして聖任された。すなわち、彼らは聖なる召しによって召され、聖なる儀式によって聖任されて、聖なる位の大神権を受けた。この召しと儀式と大神権は、初めもなく終わりもない。

9 このようにして、彼らはとこしえに御子の位に従う大祭司となる。この御子は御父のもうけられる独り子であり、日の初めもなく年の終わりもない御方であり、恵みと公平と真理に満ちておられる御方である。まことにそのとおりである。アーメン。

10 さて、この聖なる位、すなわち大神権について述べたように、聖任されて神の大祭司になった人は大勢いた。それは彼らの非常に深い信仰と悔い改めと、神の御前での彼らの義によるものであり、彼ら

---

3 ① 教義38・2
② アル12・25、30、GS「前世」
③ 教義127・2、GS「選び」
④ 教義138・55−56
⑤ GS「選択の自由」
⑥ GS「信仰」
⑦ GS「神権」「召し・神の召し」
4 ① エテ12・10
② 1ニフ17・32−35
5 ① 2ニフ26・28
6 ① アル12・37、16・17、GS「安息」
7 ① ヘブ7・3
② GS「神・神会」
8 ① 教義84・33−42、GS「メルキゼデク神権」
9 ① GS「大祭司」
② 2ニフ2・6、GS「恵み」
10 ① 教義84・18−22
② GS「悔い改め」

は滅びることよりも、むしろ悔い改めて義を行う方を選んだのである。

11 そのために、彼らはこの聖なる位に従って召され、[1]聖められて、彼らの[2]衣は小羊の血によって白く洗い清められた。

12 そして彼らは、[1]聖霊によって聖められ、[2]衣を白くされ、神の御前に[3]清く、染みのない状態になったので、[4]罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった。このように清められて、主なる神の安息に入った人々は大勢おり、非常に多くの数に上った。

13 さて、わたしの同胞よ、あなたがたもその安息に入れるように、神の御前にへりくだり、[1]悔い改めにふさわしい実を結んでほしい。

14 まことに、[1]メルキゼデクの時代の民のようにへりくだりなさい。メルキゼデクも、わたしがこれまで語ってきたこの同じ位に従う大祭司であり、とこしえに大神権を受けた人である。

15 アブラハムが[2]什分の一を納めた相手はこのメルキゼデクであった。まことに、わたしたちの先祖アブラハムは、彼の所有したすべてのものの十分の一をこの人に納めたのである。

16 さて、これらの儀式は、[1]それによって人々が神の御子を待ち望めるように定められた。それは神の御子の位の[2]予型、すなわち神の御子の位そのものであった。これが行われたのは、人々が自分の罪の赦しを受けるために神の御子を待ち望んで、主の安息に入れるようにするためであった。

17 ところで、このメルキゼデクは、サレムの地を治める王であった。彼の民はかつて罪悪と忌まわしい行いを募らせていた。彼らは皆迷って、あらゆる悪事にふけっていたのである。

18 しかし、メルキゼデクは力強い信仰を働かせ、神の[1]聖なる位に従う大神権の職を受けたので、民に悔い改めを説いた。すると見よ、彼らは悔い改めた。そして、メルキゼデクは生涯その地に平和を確立した。そのために、彼はサレムの王であったので、平和の君と呼ばれた。彼はその父の下で国を治めた。

19 さて、メルキゼデクよりも前に[1]多くの人がおり、メルキゼデクより後にも多くの人がいたが、彼よりも偉大な人は[2]一人もいなかった。そのため、人々が彼について述べることは特別であった。

20 さて、わたしがそのことを並べ立てる必要はな

---

11 ① モセ6・59—60 ② 1ニフ12・10、アル5・21—27、3ニフ27・19—20
12 ① GS「聖霊」 ② ロマ8・1—9、GS「聖め」 ③ GS「清さ」、モサ5・2、アル19・33 ④ 箴言8・13、アル37・29 ⑤ ルカ3・8
13 ① 教義84・14、JS創世14・25—40、GS「メルキゼデク」
14 ① GS「アブラハム」 ② 創世14・18—20、マラ3・8—10、GS「什分の一」
15 ① GS「儀式」 ② GS「象徴」
16 ① GS「メルキゼデク神権」
18 ① ヒラ8・18、教義84・6—16、107・40—55 ② 教義107・1—4
19 ①

く、これまで語ってきたことで十分であろう。見よ、1)聖文はあなたがたの前にある。もし聖文を曲げて解釈するならば、あなたがた自身の滅びを招くであろう。」

21さて、アルマは彼らにこれらの言葉を語り終えると、彼らに向かって手を伸ばし、力強い声で叫んだ。「今こそ1)悔い改める時である。救いの日は近づいている。

22主の声は、天使たちの1)口を通して、すべての国民にそれを告げ知らせておられる。まことに、彼らが胸躍る大いなる喜びのおとずれを得られるように、それを告げておられる。主は御自分のすべての民の中に、すなわち地の面に広く散らされている御自分の民に、これらの喜びのおとずれを告げて広めておられる。そして、それはわたしたちにも明らかにされたのである。

23また、そのおとずれは、わたしたちが誤りなく理解できるように、1)分かりやすい言葉で知らされている。これは、わたしたちが異郷で2)流浪の民となっているからである。このようにわたしたちは、自分のぶどう園の全域でこれらの喜びのおとずれを告げ知らされているので、非常に恵まれている。

24見よ、1)天使たちはわたしたちの地で多くの人にそれを宣言している。これは、主が栄光のうちに来られるときに、人の子らが主の御言葉を受け入れるように、彼らの心を備えさせるためである。

25そして、今や主の来臨について、天使たちの口を通してわたしたちに告げ知らされる、喜びに満ちたおとずれを聞くのを待つばかりである。どれくらい早く来るか1)分からないが、その時が来るからである。それがわたしの生きている間であるようにと神に願っている。しかし、それが早くても遅くても、わたしはそれを喜ぶ。

26主の来臨の時には、そのことが天使たちの口を通して、1)正しい聖なる人々に知らされるであろう。それは、わたしたちの先祖が彼らの内にある預言の霊に従って主について語ってきたとおりに、彼らの言葉が成就するためである。

27さて、わたしの同胞よ、まことにわたしが心痛を感じるほどにひどく心配するとともに、心の底から1)願っていることがある。それは、あなたがたがわたしの言葉を聴き、罪を捨て、悔い改めの日を先に

20 ① GS「聖文」
② 2ペテ3・16、アル41・1
21 ① GS「悔い改め」
22 ① アル10・20
23 ① 2ニフ25・7—8、31・3、32・7、ヤコ4・13、エテ12・39
24 ① アル10・10、39・19
② ヤコ7・26
25 ① 1ニフ10・4、3ニフ1・13
26 ① アモ3・7、ルカ2・8—11
27 ① モサ28・3

延ばすことのないようにということである。

28 しかし、あなたがたは主の御前にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈りなさい。そのようにして、聖なる御霊の導きを得て、謙遜、柔和、従順になり、忍耐強くなり、愛に富み、限りなく寛容になって、

29 さらに主を信じる信仰を持ち、永遠の命を得る希望を抱き、常に心の中に神の愛を持って、終わりの日に上げられて神の安息に入れるようにしてほしい。

30 主があなたがたに悔い改めることを許してくださって、あなたがたが主の激しい怒りを招くことのないように、また地獄の鎖につながれることのないように、そして、第二の死を受けることのないように願っている。」

31 アルマはこの書に書き記されていないもっと多くの言葉を人々に語った。

第14章

アルマとアミュレク、投獄され、打たれる。信じた者たちと彼らの聖文が火で焼かれる。これらの殉教者たちと、栄光のうちに主によって受け入れられる。牢の壁は裂けて崩れ落ちる。アルマとアミュレクは救われ、迫害者たちは殺される。紀元前約八十二年から八十一年に至る。

1 さて、アルマが人々に語り終えた後、多くの人がアルマの言葉を信じ、悔い改めて聖文を調べ始めた。

2 しかし大半の人々は、アルマとアミュレクを殺してしまいたいと思っていた。アルマがゼーズロムに あからさまに語ったことで、彼らはアルマに怒りを抱いたからである。彼らはまた、アミュレクが自分たちに偽りを言い、自分たちの法律と、法律家と、さばきつかさをののしったと言った。

3 彼らは、アルマとアミュレクのことを怒った。そして、二人が彼らの悪事をあからさまに証言したので、二人をひそかに殺してしまおうとした。

4 しかし、結局彼らはそうせずに、二人を捕らえ、丈夫な縄で縛って、その地の大さばきつかさの前に連れて行った。

---

28 ① GS「祈り」
② GS「柔和」「忍耐」
29 ① アル7・24
② 教義20・31、76・116、GS「慈愛」
30 ① GS「地獄」
② 教義84・24「罰の定め」
③ GS「死（霊の）」

第14章

1 ① 列下22・8—13、GS「聖文」
2 ① アル12・3—7
② アル10・27

5 そして、人々は進み出て、二人について不利な証言をした。彼らは二人が法律とその地の法律家たち、さばきつかさたち、またその地にいるすべての人をののしり、さらに、唯一の神がおられてその御子を人々の中に遣わされるが、御子は人々を救われないと述べたと証言した。人々はアルマとアミュレクについてこのように多くの不利な証言をした。これはその地の大さばきつかさの前で行われた。

6 そこでゼーズロムは、告げられた言葉に驚くとともに、自分の虚言によって人々の思いがくらまされたのを知った。そのため、彼は自分の罪を自覚して心をひどく苦しめ始めた。まことに、彼は地獄の苦しみに包まれ始めたのである。

7 そしてゼーズロムは、人々に向かって叫び、「見よ、わたしには罪がある。この方々は神の御前に染みがない」と言った。そして彼は、そのときから二人の弁護を始めた。しかし、人々は彼をののしり、「おまえも悪魔に取りつかれたのか」と言って、彼につばきを吐きかけて、彼を追い出した。また、アルマとアミュレクの語った言葉を信じた人々も全員追い出された。人々はこれらの人を追い出したうえ、追手を出してこれらの人に石を投げつけさせた。

8 また彼らは、追い出された人々の妻子たちを集めて、神の言葉を信じている者たちと信じるように教えられた者たちを火の中に投げ込ませた。さらに彼らは、神の言葉を信じる者たちが持っていた聖文の載っている記録を持ち出し、それも火の中に投げ込んで、焼き捨ててしまった。

9 そして彼らは、アルマとアミュレクを引き出すと、二人を殉教の場へ運んで行き、火で焼かれている人々の死ぬ様子を見せた。

10 するとアミュレクは、火で焼かれている女や子供たちの苦しみを見て自分も苦痛を感じ、アルマに向かって、「この痛ましい有様をどうして見ていられましょうか。わたしたちの手を伸べ、わたしたちの内にある神の力を行使して、彼らを炎から救い出しましょう」と言った。

11 しかし、アルマは彼に言った。「御霊が、手を伸べてはならないとわたしを制されます。まことに、主はこの人々を栄光のうちに御自分のみもとに受け入れられるからです。主は彼らがこのことを行うのを、すなわち人々が心のかたくななままにこの人々

6 ① GS「良心」
7 ① ② アルマ 15:5
10 ① ② アルマ 11:21—37
11 ① ① GS「栄光」 アルマ 8:30—31

にこのことを行うのを黙認しておられます。それは、主が怒って彼らに下される罰が公正なものとなるためです。罪のない者の血は彼らを責める証拠となり、終わりの日に彼らを非難して激しく叫ぶことでしょう。」

12 すると、アミュレクはアルマに、「まことに、彼らは恐らくわたしたちも火あぶりにするでしょう」と言った。

13 そこで、アルマは言った。「主の御心のままであるように。しかしまことに、わたしたちの務めはまだ終わっていないので、彼らがわたしたちを火あぶりにすることはないでしょう。」

14 さて、火の中に投げ込まれた人々の体と、また彼らとともに火の中に投げ込まれた記録が焼けてしまうと、その地の大さばきつかさが縛られたままのアルマとアミュレクの前にやって来て立ち、手で二人の頬を打って言った。「おまえたちはこれを見てもなお、この民に、火と硫黄の池に投げ込まれるとまた説くつもりか。

15 見よ、おまえたちが分かったように、おまえたちには、火に投げ込まれた者たちを救い出す力はない。彼らはおまえたちと同じ信仰を持っていたが、神は彼らを救わなかったではないか。」それから、このさばきつかさはまた二人の頬を打ち、「おまえたちは何と弁解するのか」と言った。

16 ところで、このさばきつかさはギデオンを殺したニーホルの教団に属し、同じ信仰を持っていた者である。

17 さて、アルマとアミュレクはさばきつかさに何も答えなかった。そこで、彼はもう一度二人を打ち、役人に引き渡して牢に入れさせた。

18 そして、二人が牢に入れられて三日後、ニーホルの教団に属している多くの法律家やさばきつかさ、祭司、教師たちがやって来て牢の中に入り、二人に会った。そして彼らは、二人に多くの事柄について質問したが、二人は何も答えなかった。

19 そこで、あのさばきつかさが二人の前に立って、「なぜこの人々の質問に答えないのか。おまえたちを炎の中に投げ込ませる力がわたしにあることを、おまえたちは知らないのか」と言った。そして、彼は答えるように二人に命じたが、二人は答えなかった。

---

11 ② 詩篇37・8—13、アルマ60・13、教義103・3、GS「正義」
③ モサ17・10
④ GS「殉教者・殉教」
14 ① アル12・17
16 ① アル1・7—15
18 ① アル10・14、11・20

20そこで彼らは去って行った。ところが、彼らはまた翌日にやって来て、あのさばきつかさがまた二人の頬を打った。それから、ほかに多くの者たちも進み出て、二人を打って言った。「おまえたちはまた立ってこの民を裁き、我々の法律を非難するつもりか。おまえたちにそのような大きな力があるならば、なぜ自分自身を救わないのか。」

21そして、彼らは歯ぎしりをし、二人につばきを吐きかけながら、このようにたくさんのことを並べ立て、「我々は罰の定めを受けるとき、どのような有様なのか」と言った。

22また彼らはたくさんのことを、まことにこのようなことをいろいろと二人に言った。このように、彼らは幾日もの間二人をあざけった。そのうえ彼らは、二人を飢えさせるために食物を与えず、渇かせるために水も飲ませず、また、二人の着物をはぎ取って裸にした。このようにして二人は、丈夫な縄で縛られ、牢に閉じ込められていた。

23そして、二人がこのように幾日もの間苦しんだ後（ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年の十月十二日に）、アモナイハの地の大さばきつかさと、多くの教師と法律家が、アルマとアミュレクが縄で縛られて閉じ込められていた牢に入って来た。

24そして、大さばきつかさは二人の前に立つと、二人をまた打ち、「もしおまえたちに神の力があるのであれば、この縄から自分自身を解き放て。そうすれば、おまえたちの言葉のとおりに主がこの民を滅ぼすということを、我々は信じよう」と言った。

25そして、ほかの者たちも、最後の一人に至るまで皆進み出て、大さばきつかさと同じことを言いながら二人を打った。ところが、最後の者が二人に言い終えたとき、[1]神の力がアルマとアミュレクに下った。そこで、二人は起きて、立ち上がった。

26そして、アルマは叫んで言った。「おお、主よ、わたしたちはいつまでこのようなひどい[1]苦しみに耐えればよろしいのでしょうか。おお、主よ、キリストを信じるわたしたちの信仰に応じて、自由になる力をわたしたちにお与えください。」そして二人は、自分たちを縛っていた縄を断ち切った。人々はそれを見ると、滅ぼされるのではないかという恐怖に襲われ、逃げ始めた。

27さて、彼らの恐れは非常に大きかったので、彼ら

20 ① マタ27・39—43
25 ① アル8・31
26 ① 新ヤコ5・10—11、モサ17・10—20、教義121・7—8

は地に倒れ、牢の外側の出口までも逃げ出せなかった。そして、地が激しく揺れ動き、牢の壁が二つに裂けて崩れ落ち、アルマとアミュレクを打った大さばきつかさと法律家たち、祭司たちは、崩れ落ちた壁に打たれて死んでしまった。

28 そして、アルマとアミュレクは牢を出た。二人はキリストを信じる彼らの信仰に応じて主から力を授けられていたので、傷も負っていなかった。彼らは牢からすぐに出て来たが、彼らを縛っていた縄は解けていた。牢はすでに崩れ落ちており、牢の中にいた者は、アルマとアミュレクを除いてことごとく死んだ。そこで、二人はすぐに町に入って行った。

29 そのとき、大きな物音を聞いた民が、その訳を知ろうとして群れを成して走って来た。そして彼らは、アルマとアミュレクが牢から出て来たのを目にし、また牢の壁が地に崩れ落ちているのを見ると、ひどい恐怖に襲われ、アルマとアミュレクの前から逃げた。それはまるで、やぎが子やぎを連れて二頭のライオンの前から逃げるのに似ていた。このように彼らは、アルマとアミュレクの前から逃げたのである。

第15章

アルマとアミュレク、シドムへ行き、教会を設立する。アルマ、ゼーズロムを癒し、ゼーズロムは教会に加入する。多くの人がバプテスマを受け、教会が栄える。アルマとアミュレク、ゼラヘムラへ向かう。紀元前約八十一年。

1 さて、アルマとアミュレクはその町を立ち去るように命じられたので、そこを去ってシドムの地へ行った。すると見よ、彼らはそこで、アモナイハの地を出て来たすべての人に会った。これらの人々は、アルマの言葉を信じたために追い出され、石を投げつけられた人々である。

2 そこで、二人は彼らに、彼らの妻子たちの身の上に起こった出来事をすべて話し、また自分たちのことと、自分たちを解放した力のことについても述べた。

3 また、ゼーズロムもシドムにいて、燃えるような高熱を出して病床に伏していた。その高熱は、自分の悪事のことで心にひどい苦しみを受けたために起こったものであった。彼はアルマとアミュレクがも

27 ① 使徒16・26、エテ12・13
28 ① ヤコ4・6、3ニフ28・19—22
第15章
1 ① アル16・2—3、9、11
2 ① アル14・7
② アル14・8—14
3 ① アル14・28
② アル14・6—7

う生きていないと思い、二人が殺されたのは自分の罪悪のためであると考えたからである。この大きな罪と、そのほか数多くの罪により心をひどく苦しめられて、とうとう介抱する手立てもないほど心をひどく痛めてしまった。そして、そのために彼は燃えるような熱で身を焼かれ始めたのである。

4 ところがゼーズロムは、アルマとアミュレクがシドムの地にいると聞くや、心が奮い立ち、すぐに二人に伝言を送って、自分のもとに来てほしいと伝えた。

5 そこで二人は、ゼーズロムからの伝言に応じてすぐに出かけた。そして、ゼーズロムのいる家に入って行ったところ、彼は燃えるような高熱で実に弱々しい有様で病んで床に伏していた。また彼は、自分の罪悪のためにひどく心を痛めていた。そして、二人を見ると、手を伸ばし、癒してほしいと懇願した。

6 そこでアルマは彼の手を取って、「あなたは救いを得させるキリストの力を信じますか」と尋ねた。

7 すると彼はそれに答え、「はい。わたしはあなたが教えた言葉をすべて信じています」と言った。

8 そこでアルマは、「キリストの贖いを信じるならば、あなたは癒しを得られます」と言った。

9 すると彼は、「はい。わたしはあなたの言葉のとおりに信じています」と答えた。

10 そこでアルマは、主に叫び求めて言った。「おお、主なるわたしたちの神よ、この人に憐れみを示し、キリストを信じるこの人の信仰に応じて癒しをお与えください。」

11 アルマがこれらの言葉を語り終えると、ゼーズロムは立ち上がり、そして歩き始めた。これは、民のすべての者にとって大きな驚きであった。そして、このことはシドムの全地に知れ渡った。

12 アルマはゼーズロムにバプテスマを施して主に属する者とし、ゼーズロムはそのとき以来、民に教えを説き始めた。

13 そしてアルマは、シドムの地に教会を設立し、その地で祭司たちと教師たちを聖任して、バプテスマを受けたいと望むすべての人にバプテスマを施し、主に属する者とするようにした。

14 さて、バプテスマを受けたいと望む人々は多く、シドムの周囲のすべての地方から群れを成してやって来て、バプテスマを受けた。

6① マコ 9・23
8① GS「癒し」
10① マコ 2・1—12
11① 使徒 3・1—11

15しかし、アモナイハの地に住む人々は依然として心のかたくなな、強情な民であったので、アルマとアミュレクの力はすべて悪魔によるものであるとして、自分たちの罪を悔い改めなかった。彼らはニーホルの教団に属しており、自分たちの罪を悔い改める必要があるとは信じていなかったからである。

16さて、アミュレクはかつて自分の友であった者たちから拒まれ、また自分の父親や親族からも拒まれたので、アモナイハの地にある自分の金、銀、貴重な品々をすべて神の言葉のために捨てた。

17したがって、アルマはシドムに教会を設立した後、大きな抑制が働いたこと、まことに、民がその心の高ぶりを抑え、神の前にへりくだるようになり、聖壇の前で神を礼拝するために聖堂に集まって、サタンと死と滅亡から救われるように、目を覚ましていて絶えず祈るようになったことを知り、

18すでにわたしが語ったように、アルマはこれらのことをすべて見てから、アミュレクを連れてゼラヘムラの地へ向かい、自分の家に彼を迎えた。そして、艱難に遭っているアミュレクに必要なものを与え、主にあって彼を強くした。

19このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年が終わった。

第16章

レーマン人、アモナイハの民を滅ぼす。ゾーラム、ニーファイ人を率いてレーマン人に勝利を得る。アルマとアミュレクとそのほか多くの人、御言葉を宣べ伝え、キリストが復活後にニーファイ人に御自身を現されることを教える。紀元前約八十一年から七十七年に至る。

1さて、ゼラヘムラの地は非常に平和であり、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十一年二月五日までの数年の間、戦争もなければ争いもなかった。ところが、第十一年の二月五日に、全地で戦争を告げる叫びが聞かれた。

2見よ、レーマン人の軍隊がすでに荒れ野の方から境の地に侵入してアモナイハの町に入り、民を殺して町を破壊し始めたからである。

3そして、ニーファイ人がレーマン人をその地から追い払うに足る軍隊を起こす前に、レーマン人はア

15① アル1・2―15
16① GS「迫害」
② ルカ14・33、アル10・4
17① アル16・21
② GS「謙遜」
③ GS「礼拝」
④ GS「死（霊の）」
⑤ GS「祈り」

第16章
2① アル15・1、15―16

モナイハの町にいた人々を殺し、ノアの地の境付近でもかなりの人々を殺し、また残りの人々を捕らえて荒れ野へ連れ去ってしまった。

4 そこでニーファイ人は、囚われの身となって荒れ野に連れ去られた人々を取り戻したいと思った。

5 そのため、ニーファイ人の軍隊を指揮する司令官に任命された人（その名はゾーラムといい、彼には二人の息子、リーハイとエーハがいた）、すなわち、ゾーラムと彼の二人の息子は、アルマが教会を管理する大祭司であることを知っており、またアルマが預言の霊を受けていることも聞いて知っていたので、彼のもとを訪れ、レーマン人に捕らえられた同胞を捜すのに、主は自分たちが荒れ野のどこへ行くのを望んでおられるか知りたいと彼に告げた。

6 そこでアルマは、その件について主に尋ねた。それから戻って来ると、彼らに言った。「見よ、レーマン人はマンタイの地の境のはるか向こうにある南の荒れ野でシドン川を渡るでしょう。見よ、あなたがたはシドン川の東側で彼らを迎えて戦いなさい。そうすれば主はあなたがたに、レーマン人に捕らえられた同胞を渡されます。」

7 そこで、ゾーラムと息子たちは、軍隊を率いてシドン川を渡り、マンタイの地の境を越えて、シドン川の東側に当たる南の荒れ野まで進軍した。

8 そして彼らは、レーマン人の軍隊に攻めかかり、レーマン人を散り散りに荒れ野の中へ追い払った。このようにして彼らは、レーマン人に捕らえられていた同胞を取り戻した。しかも、捕らえられていた同胞は一人も失われていなかった。そして彼らは、同胞に連れられて、それぞれの土地に帰った。

9 このようにして、さばきつかさの統治第十一年が終わった。レーマン人はすでにその地から追い払われ、アモナイハの民は滅びた。まことに、アモナイハ人はことごとく殺され、非常に大きいので神でも破壊できないと彼らが述べた、その大きな町もまた滅びた。

10 見よ、その町は一日で荒れ廃れた所となり、しかばねは犬と荒れ野の野獣に食い裂かれてしまった。

11 それでも多くの日の後、彼らの死体は地の面に積み上げられ、薄く土がかけられた。しかし、そのにおいがとてもひどかったので、長年の間、アモナイハの地に来てそこを所有しようとする者はいなかっ

---

1) 3①アル9・18
1) 6①アル43・23—24
2) 9①アル8・16—24、モル6・15—22、9・18
1) 10①②アル25・1—2、アル9・4

た。そして、その土地は「ニーホル人の廃虚」と呼ばれた。それは、そこで殺された者たちがニーホル[1]の教団に属し、彼らの地が荒れ廃れたままであったからである。

12 ニーファイの民のさばきつかさの統治第十四年まで、レーマン人は再びやって来てニーファイ人と戦うことをしなかった。このようにして三年間、ニーファイの民は引き続き全地に平和を保った。

13 そして、アルマとアミュレクは出て行って、ユダヤ人に倣って建てられた神殿[1]や聖堂[2]や会堂で、民に悔い改めを宣べ伝えた。

14 そして彼らは、自分たちの言葉を聞こうとするすべての人に、[1]偏り見ることなく、引き続き神の言葉を告げた。

15 このように、アルマとアミュレクと、その務めを果たすように選ばれたさらに多くの人は、全地に御言葉を宣べ伝えるために出て行った。そして全地で、すなわち周辺のすべての地方で、ニーファイ人に属するすべての人の中に広く教会が設立されるようになった。

16 また、教会員の中には少しの[1]不平等もなかった。主は人の子らの心を備えさせるために、すなわち、主の来臨の時に、彼らの中で教えられる御言葉を受け入れるように彼らの心を備えさせるために、その地の全面に主の御霊を注がれた。

17 彼らが御言葉に対してかたくなになることがなく、また不信仰になって滅亡に至ることもなく、むしろ喜んで御言葉を受け入れて、一つの枝[1]としてまことのぶどう[2]の木に接がれ、主なる彼らの神の安息[3]に入れるようにするためである。

18 さて、民の中に出て行ったその祭司[1]たちは、あらゆる偽りと欺き[2]、ねたみ[3]、争い、悪意、ののしり、盗み、強盗、略奪、殺人、姦淫、およびあらゆる好色を責める教えを説き、これらのことを行ってはならないと訴えた。

19 そして彼らは、間もなく必ず起こること、まことに、神の御子の来臨[1]と、御子のお受けになる苦しみと死、死者の復活について説いた。

20 それで多くの人は、神の御子が来られる場所について尋ね、神の御子が復活後にこの民に御自身を現されるということを教わった。そして人々は、これを聞いて非常に喜んだ。

---

11 ① アル 1・15、24・28
13 ① 1—30
② 2ニフ 5・16
14 ① アル 1・30
16 ① モサ 18・19—29、4ニフ 1・3
② GS「打ち砕かれた心」
17 ① ヤコ 5・24
② GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
③ アル 12・37、13・10—13
18 ① アル 15・13
② GS「欺き」
③ GS「ねたみ」
19 ① GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
20 ① 1ニフ 12・4—6
② 2ニフ 26・9、3ニフ 11・7—14

21このように、教会が全地に設立され、悪魔に勝利し、神の言葉が純粋なままに国中に宣べ伝えられて、主は人々に祝福を注がれた。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十四年が終わった。

神の言葉のために王位を継ぐ権利を放棄し、レーマン人に教えを説こうとしてニーファイの地へ上って行ったモーサヤの息子たちの話。彼らの受けた苦難と解放。これはアルマの記録による。

次の第十七—二十七章がそれに相当する。

第17章

モーサヤの息子たち、預言と啓示の霊を受ける。レーマン人に御言葉を告げ知らせるために、各々別々の道を行く。アンモン、イシマエルの地へ行き、ラモーナイ王の僕になる。アンモン、セブスの泉のそばで王の羊の群れを救い、敵を殺す。第一—三節は紀元前約七十七年、第四節は約九十一—七十七年、第五—三十九節は約九十一年の出来事である。

1さて、アルマはギデオンの地から南方のマンタイの地へ向かって旅をしていたとき、見よ、思いがけず、ゼラヘムラの地を指して旅をしていたモーサヤ[1]の息子たちに出会った。

2モーサヤのこの息子たちは、天使が初めてアルマに現れたときにアルマとともにいた人々である。そのため、アルマは自分の仲間に会えたことでひとかたならず喜んだ。しかも、彼らがなおも主にあって兄弟であったので、その喜びはいっそう深かった。さらに、彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

3それればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食[1]もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。

4そして彼らは、それまで十四年間レーマン人の中で神の言葉を教えて、多くの人に真理を知らせるのに大きな成功を収めていた。まことに、彼らの言葉の力によって、多くの人が神の聖壇の前に導かれ、神の名を呼び、神の前で自分たちの罪を告白した。

21① アル15・17
第17章
1① モサ27・34
② アル27・16
2① モサ27・11—17
② GS「聖文」
3① GS「祈り」「断食」
② GS「教える・教師—御霊によって教える」
4① GS「伝道活動」
② アル29・14
③ GS「告白」

5 さて、彼らが旅をしていた間の状況は次のとおりである。彼らは多くの苦難に遭い、飢えや渇き、疲労、多くの霊的な労苦など、肉体的にも精神的にもひどく苦しんだ。

6 さて、彼らの旅は次のとおりであった。彼らの父モーサヤが彼らに王位を譲りたいと思い、また民も同じ思いを抱いていたが、彼らは王位を受けることを辞退し、さばきつかさの統治の第一年に、父に別れを告げて出かけた。

7 彼らは、譲位の話があったにもかかわらずゼラヘムラの地を去ったのである。彼らは自分たちの剣と槍、弓、矢、石投げを持って行った。荒れ野で食べ物を手に入れるためであった。

8 このように、彼らはすでに選んでおいた人々とともに荒れ野に旅立ち、レーマン人に神の言葉を宣べ伝えるためにニーファイの地へ上って行った。

9 そして、彼らは荒れ野の中を幾日も旅をした。また彼らは、主が御霊の一部を授けて自分たちに伴わせてくださり、またとどめてくださることを願って、大いに断食し、大いに祈った。それは、彼らが神の手に使われる者となり、できれば自分たちの同胞であるレーマン人に真理を知らせ、彼らの先祖の正しくない言い伝えが不純であることを知らせるためであった。

10 そこで主は彼らに御霊を下し、「慰めを得なさい」と言われた。そこで彼らは慰めを得た。

11 主はまた彼らに、「あなたがたの同胞であるレーマン人の中へ行き、わたしの言葉を確立しなさい。しかし、あなたがたはわたしにあって彼らに良い模範を示せるように、長い苦しみと苦難の中で忍耐強くありなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをわたしの手に使われる者として多くの人を救おう」と言われた。

12 そこで、モーサヤの息子たちと、一緒にいた人々は、レーマン人のところへ行って彼らに神の言葉を告げ知らせる勇気を得た。

13 そこで彼らは、レーマン人の地の境に着くと、主が刈り入れの後に自分たちを再会させてくださることに信頼を寄せ、各々別れて次々に去って行った。彼らは自分たちが取りかかった業が大変なものであると考えていた。

14 そして確かに、それは大変なものであった。彼ら

---

5 ① アル 8・10
6 ① モサ 28・1、5−9
6 ② モサ 29・3
9 ① アル 25・17、GS「祈り」
9 ② モサ 23・10、アル 26・3
10 ① アル 3・10−12
10 ② GS「聖霊」
10 ③ 教義 5・16
11 ① アル 26・27
11 ③ アル 20・29、GS「忍耐」
13 ① マタ 9・37
13 ② アル 21・1

は、野蛮[1]でかたくなで残忍な民に神の言葉を宣べ伝えようとしていたからである。その民は、ニーファイ人を殺したり、ニーファイ人のものを盗んだり、奪ったりすることを喜びとしていた。また彼らは、富、すなわち金銀や宝石に執着しており、しかも彼らは、これらのものを手に入れるのに自分の手で働くことなく、殺人や略奪によって手に入れようとしていた。

15 このように、彼らは非常に怠惰な民であり、その中の多くの者は偶像を礼拝していた。そして、彼らの先祖の言い伝えのために、神の[1]のろい[2]が彼らに下っていた。それでも、悔い改めを条件として、主の約束が彼らに与えられていたのである。

16 したがって、モーサヤの息子たちは、恐らく彼らを悔い改めさせることができると思い、また恐らく彼らに贖いの計画を知らせることができると思って、その業に着手したのであった。

17 そこで彼らは、各々別れて、自分に与えられた神の言葉と力をもって、独りでレーマン人の中へ入って行った。

18 さて、アンモンは彼らの指導者であったので、いや、彼らに必要なものを与え、各々の職に応じて彼らに祝福[1]を授け、彼らに神の言葉を告げた後、すなわち自分の出発に先立って彼らに祝福を授けた後、彼らのもとを去った。このようにして、彼らはそれぞれ別れて全地に旅立った。

19 そして、アンモンはイシマエルの地へ行った。そこは、レーマン人となったイシマエル[1]の息子にちなんで名付けられた地である。

20 アンモンがイシマエルの地へ入ったところ、レーマン人は彼を捕らえて縛った。レーマン人は、自分たちの手に落ちたニーファイ人を皆縛って、王の前に連れて行くのを習わしとしていたからである。そして、捕らえたニーファイ人を殺すか、束縛の身に置くか、牢に入れるか、それともその地から追い出すか、それは王の意のまま、思いのままに任されていた。

21 このようにして、アンモンはイシマエルの地を治めている王の前に連れて行かれた。この王は名をラモーナイといって、イシマエルの子孫であった。

22 王はアンモンに、この地にいてレーマン人の中で暮らしたいか、すなわち自分の民の中で暮らしたい

---

14 ① モサ 10・12
15 ① アル 9・16—24、18・5
② アル 3・6—19、3ニフ 2・15—16
16 ① モサ 28・1—3
18 ① GS「祝福」
19 ① 1ニフ 7・4—6

かどうか尋ねた。

23そこでアンモンは王に、「はい。しばらくこの民の中で暮らしたいと思います。死ぬまでここに住むかもしれません」と答えた。

24そこでラモーナイ王は、アンモンのことを非常に気に入り、彼を縛っている縄を解かせた。そして、アンモンに自分の娘の一人を妻にめとらせようとした。

25しかしアンモンは、「そうではなく、王の僕になりたいのです」と言い、ラモーナイ王の僕になった。そして彼は、レーマン人の習わしに従って、ほかの僕たちの中に加えられてラモーナイ王の家畜の群れを守ることになった。

26そして彼は、三日間王に仕えた後、レーマン人である僕たちとともに、家畜の群れを水のある場所へ連れて行くことになった。その場所はセブスの泉と呼ばれた。レーマン人は皆、それぞれ家畜の群れをここに追って来て水を飲ませるのである。

27こうして、アンモンと王の僕たちが家畜の群れをこの水のある場所に追って行く途中、見よ、すでに家畜の群れに水を飲ませてしまったあるレーマン人の一団が立っていて、アンモンと王の僕たちが連れた家畜の群れを追い散らした。そして、彼らが追い散らしたために、家畜は方々に逃げ去ってしまった。

28すると、王の僕たちは、「我々の仲間は前に、この連中の悪事のために群れを追い散らされたので、王に殺されてしまった。我々も王に殺される」とつぶやき始めた。そして、「見よ、我々の群れはもう散ってしまった」と言いながら、激しく泣き始めた。

29彼らは殺されるのを恐れて泣いたのである。アンモンはこれを見ると喜びで胸がいっぱいになり、「王のためにこの家畜を元どおりにして、同僚であるこの僕たちにわたしの力を、すなわちわたしの内にある力を示し、同僚であるこの僕たちの信頼を得て、彼らにわたしの言葉を信じさせるようにしよう」と言った。

30さて、これはアンモンが自分の同僚と呼んだ者たちの悩む様子を見て、心に思ったことであった。

31そしてアンモンは、次のように言って彼らをなだめた。「同僚たち、元気を出してください。群れを捜しに行きましょう。群れを集めて水のある場所へ連っ

れ戻しましょう。こうして王のために群れを守れば、王はわたしたちを殺さないでしょう。」

32そして、彼らは群れを捜しに行った。彼らはアンモンに従って大急ぎで走って行き、王の家畜の先に立って、群れを再び水のある場所に集めた。

33ところが、あの男たちが、アンモンたちの家畜の群れを追い散らそうとしてまた立っていた。そこでアンモンは同僚たちに、「群れが逃げ出さないように周りを囲んでいてください。わたしは行って、わたしたちの群れを散らすあの男たちと戦います」と言った。

34そこで彼らは、アンモンから指示されたとおりにした。一方、アンモンは進んで行くと、セブスの泉のそばに立っている者たちと戦う身構えをした。しかし、相手は少ない数ではなかった。

35そのため彼らは、独りでも思いのままにアンモンを殺せると思い、彼を恐れなかった。主がモーサヤに、レーマン人の手から彼の息子たちを救い出すと[1]約束しておられたことを、彼らは知らなかったからである。彼らはまた、主のことをまったく知らなかったので、自分たちの同胞が滅びるのを喜びとしていた。そのために彼らは、王の家畜の群れを追い散らそうと待ち構えていたのである。

36そこでアンモン[1]は、進み出て身構えると、石投げを使って彼らに石を投げ始めた。まことに、彼は大いなる力で彼らの中に石を投げた。このようにして、彼がその幾人[2]かを殺したので、彼らはその力に驚き始めた。それでも、彼らは仲間の中の殺された者のために怒り、アンモンを必ず倒そうと心に決めた。そこで彼らは、石でアンモンを撃[3]てないことを知ると、こん棒を持って近づき、彼を殺そうとした。

37しかし見よ、アンモンを打とうとしてこん棒を振り上げた者は、ことごとくアンモンの剣で腕を切り落とされた。アンモンが剣の刃で彼らの腕を打って、彼らが打ちかかってくるのを防いだからである。そのため彼らは驚いて、彼の前から逃げ始めた。彼らの数は少なくなかったが、アンモンはその腕の力によって彼らを退けたのである。

38ところで、石投げで倒れた者は六人であったが、アンモンは首謀者のほかは剣でだれも殺さず、自分に向かって腕を振り上げた者の腕を切り落としただけであった。それでも、その数は少なくなかった。

---

35 ① モサ28・7、アル19・3
36 ① 22—23 エテ12・15 アル18・16
② ③

39 アンモンは彼らを追い払うと、引き返して来た。そして彼らは群れに水を飲ませ、王の牧場に群れを連れ戻した。それから彼らは、アンモンを殺そうとした者たちの、剣で切り落とされた腕を持って王のもとへ行った。それらの腕は、彼らが行ったことの証拠として、王のもとに運ばれたのである。

第18章

ラモーナイ王、アンモンを大霊であると思う。アンモン、創造と、人々に対する神の計らいと、キリストを通じて与えられる贖いについて王に教える。ラモーナイ、それを信じて地に倒れ、死んだようになる。紀元前約九十年。

1 さて、ラモーナイ王は僕たちを前に立たせ、その事件について見たことをすべて証言させた。
2 そして、彼らが皆自分たちの見たことを証言したので、王はアンモンが忠実に自分の家畜の群れを守ったことと、また彼を殺そうとした者たちと戦ったときに大いなる力を振るったことを知った。そして王は非常に驚いて、「確かに、その人は人間以上の人である。見よ、彼は、この民が行う殺人の罪のために重い罰を下す、あの大霊ではないだろうか」と言った。
3 すると、彼らは王に答えて言った。「彼が大霊か、それとも人間か、わたしどもには分かりません。しかし、彼は王様の敵に殺されるような人ではなく、また技量と大きな力があるので、わたしたちと一緒にいるときには敵も王様の群れを追い散らせないということだけは、わたしどもにも分かります。わたしどもは、彼が王様の味方であることを知っています。王様、ただの人間にこのような大きな力があるとは思えません。彼はほかの者に殺されるような人ではないことを、わたしどもは知っているからです。」
4 すると王は、これらの言葉を聞いて彼らに言った。「わたしにはその人が大霊であることが分かる。わたしは前におまえたちの仲間を殺したが、それと同じようにおまえたちを殺すことのないよう、その人はおまえたちの命を守るために降って来たのだ。その人は我らの先祖が語っていた大霊だ。」
5 このように、大霊が実在するということは、ラモ

第18章
3 ① アル17・34—38
4 ① アル17・28—31
5 ① アル19・25—27、「神・神会」GS

ーナイが彼の父から受けた言い伝えであった。そして彼らは、大霊を信じていたにもかかわらず、自分たちの行うことはすべて正しいと思っていた。しかしラモーナイは、僕たちを殺したことで自分が間違いを犯したのではないかという恐れを抱き、非常に心配になってきた。

6 僕たちが水のある場所で同胞によって家畜の群れを追い散らされたことで、王は大勢の僕を殺していたからである。このように、僕たちは家畜を散らされたために殺されていた。

7 さて、これらのレーマン人たちは、いつもセブスの泉のそばに立っていて、民の家畜の群れを追い散らしていた。そして、散った家畜をたくさん自分たちの地へ追い立てて行くのである。これが彼らの略奪の手口であった。

8 さて、ラモーナイ王は僕たちに、「そのような大きな力のあるその人はどこにいるか」と尋ねた。

9 すると彼らは、「王様の馬にえさをやっています」と答えた。王は僕たちに、王の馬と馬車を用意してニーファイの地へ案内して行くようにと、彼らが群れに水を飲ませに行く前に命じておいたのである。

全地を治める王であるラモーナイの父が、ニーファイの地で盛大な宴会を催すことになっていたからである。

10 さて、ラモーナイ王は、アンモンが王の馬と馬車の用意をしていると聞いて、アンモンの忠義にますます驚いて言った。「まことにわたしの僕の中にいまだかつてこの人のように忠実な者はいなかった。この人はわたしの命じたことをよく覚えていて、すべてそれを行う。

11 わたしにはこの人が大霊であることが確かに分かる。わたしのところに来てもらいたいと思ってはいるが、わたしにはその勇気がない。」

12 さて、アンモンは王と僕たちのために馬と馬車の用意を終えると、王のもとに入って来た。しかし、王の顔色が変わったのを見て、彼は王の前を立ち去ろうとした。

13 そのとき、王の僕の一人が彼に、「ラバナ」と言った。ラバナとは勢力のある王、すなわち大王という意味である。彼らの王は皆、勢力があると考えられていたのである。このように王の僕の一人が彼に、「ラバナ、王様はあなたがいてくださることを願って

おいでです」と言った。
14そこでアンモンは、王に向き直って、「王様、わたしが何をすることをお望みでしょうか」と尋ねた。ところが王は、何と言ってよいか分からなかったので、彼らの時間で一時間、アンモンに返答しなかった。
15そこで、アンモンはもう一度王に、「わたしに何をお望みですか」と尋ねたが、この度も返答がなかった。
16さて、アンモンは神の御霊に満たされ、王の思い[1]を見抜いて言った。「王様は、わたしが王様の僕たちと家畜の群れを守って、石投げと剣で同国人を七人殺し、また王様の家畜の群れと僕たちを守るために、ほかの者たちの腕を切り落としたと聞いて、そのことで驚いておられるのですか。
17王様に申し上げますが、王様はどうしてそんなに驚いておられるのですか。まことに、わたしはただの人間であって、王様の僕です。ですから、わたしは王様がお望みになることで正しいことは何でもいたします。」
18王はその言葉を聞くと、アンモンが自分の思いを見抜[1]くことができたのを知って、またもや驚いた。しかし、それでもラモーナイ王は口を開き、「おまえはだれなのだ。すべての物事を知っているあの大霊か[2]」と尋ねた。
19アンモンは王に答えて、「そうではありません」と言った。
20すると、王は言った。「どうしてわたしの心の思いが分かるのか。はっきりと言ってよい。わたしに話しなさい。わたしの家畜の群れを追い散らす同国人を殺したり、その腕を切り落としたりしたのは何の力によったのかも、わたしに話してくれ。
21おまえがもし、これらのことをわたしに話してくれるなら、何でも望むものをやろう。必要であれば、軍隊でおまえを守ろう。しかし、おまえがわたしの全軍よりも強いことを、わたしは知っている。それでも、おまえがわたしに望むものは何でもやろう。」
22アンモンは賢いけれども素直な人であったので、ラモーナイ王にこう言った。「もしわたしが何の力によってこれらのことを行ったか申し上げれば、王様はわたしの言葉をお聞きくださいますか。わたしが王様に望むのはそのことです。」

---

16 ① アル12・3
18 ① GS「識別の賜物」
② GS「神・神会」

23 すると王は、彼に答えて、「分かった。わたしはおまえの言葉をすべて信じよう」と言った。このようにして、王は策に乗ったのである。

24 そこでアンモンは、王に大胆に語り始めて、「王様は神のましますことを信じますか」と尋ねた。

25 すると王は答えて、「わたしにはそれがどういう意味か分からない」と言った。

26 そこでアンモンは、「王様は大霊のましますことを信じますか」と尋ねた。

27 すると王は、「信じる」と答えた。

28 そこでアンモンは、「その大霊が神です」と言った。アンモンはまた王に、「王様は、神でましますこの大霊が天地にある万物を創造されたことを信じますか」と尋ねた。

29 すると王は、「信じる。わたしは神が地にある万物を創造されたことを信じる。しかし、わたしは天というものを知らない」と答えた。

30 そこで、アンモンは王に、「天とは、神と神のすべての聖なる天使が住んでおられる所です」と言った。

31 するとラモーナイ王は、「それは地の上の方にあるのか」と言った。

32 そこでアンモンは、「そのとおりです。そして、神はすべての人の子らを見下ろしておられます。また、人の子らはすべて初めから神の御手によって造られたので、神はその心の思いと志をすべて御存じです」と言った。

33 するとラモーナイ王は、「わたしはあなたの語ったこれらのことをすべて信じよう。あなたは神から遣わされたのか」と言った。

34 アンモンは王に言った。「わたしはただの人間です。[1]人は初めに神の形に造られました。わたしはこの民にこれらのことを[2]教えて、正しい真実のことを知らせるために、神の聖なる御霊によって召されています。

35 そして、その[1]御霊の一部がわたしの内にとどまっていて、神に対するわたしの信仰と望みに応じて、[2]理解と力を与えてくれるのです。」

36 さて、アンモンはこれらの言葉を[1]述べてから、世界の創造とアダムの造られたことから始めて、人の堕落に関する一切のことを告げ、また[2]預言者たちが語ってきたことを、自分たちの先祖リーハイがエル

24 ① アル38・12
32 ① アモ4・13、3ニフ28・6、教義6・16
34 ① モサ7・27、エテ3・13—16
② GS「教える・教師—御霊によって教える」
35 ① GS「霊感」
② GS「知識」
36 ① モサ1・4、アル22・12、37・9
② 使徒3・18—21

サレムを去った当時に至るまで語り、その民の記録と聖文を王の前に置いた。

37 アンモンはまた彼ら（王と王の僕たち）に、自分たちの先祖が荒れ野を旅したことと、彼らが飢えや渇きに苦しんだこと、彼らの労苦など、すべてのことを語った。

38 また彼は、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちの反抗についても彼らに語った。まことに、彼は彼らの反抗についてすべて話した。そして彼は、リーハイがエルサレムを去ったときからその時点までのすべての記録と聖文について、彼らに説き明かしたのである。

39 しかも、それだけではなかった。彼は世の初めから備えられていた贖いの計画についても彼らに説き明かし、またキリストの来臨についても彼らに知らせ、主のすべての業について彼らに明らかにしたのである。

40 さて、アンモンがこれらのことをすべて述べ、王にそれを説き明かしたところ、王は彼の言葉をすべて信じた。

41 そして王は主に向かって、「おお、主よ、憐れみをおかけください。あなたがこれまでニーファイの民に示してこられた深い憐れみにより、わたしとわたしの民にも憐れみをおかけください」と叫び求めた。

42 そして、王はそのように言うと、地に倒れて死んだようになった。

43 そこで王の僕たちは、王を王妃のもとに運んで行き、床の上に横たえた。王は二日二晩まるで死んだように横たわっていた。また、王妃と王の息子たちと娘たちは、王を亡くしたことを深く悲しみ、レーマン人の習わしに従って王の喪に服した。

第19章

ラモーナイ、永遠の命の光を受け、贖い主を見る。王の家の者たち、意識を失って倒れ、多くの者たちは天使を見る。アンモン、奇跡的に守られる。アンモン、多くの人にバプテスマを施し、彼らの中に教会を設立する。紀元前約九十年。

1 さて、二日二晩たってから、彼らは死者を葬るために造っておいた墓に王の遺体を運んで、まさに葬

---

36 ③ 「聖文」 GS
39 ① 「贖いの計画」 GS
41 ① 「憐れみ」 GS

ろうとしていた。
2そのとき、王妃はアンモンの名声を聞いていたので、人を遣わして、アンモンに自分のところに来てほしいと告げた。
3そこでアンモンは、命じられたとおりに王妃のもとへ行き、自分が何をすることを望んでいるのか知りたいと言った。
4すると、王妃は彼に言った。「夫の僕たちは、あなたが聖なる神の預言者[1]であり、あなたには神の御名によって多くの力ある業を行う力があると、わたしに教えてくれました。
5もしそうであれば、入ってわたしの夫に会ってほしいのです。夫は二日二晩の間、床に伏したままです。夫はまだ死んでいないと言う者もいれば、もう死んでいて悪臭を放っているので墓に葬らなければならないと言う者もいます。しかし、わたしが見たところ、においはありません。」
6さて、これはアンモンが望んでいたことであった。アンモンは、ラモーナイ王が神の力の下にあることを知っていたからである。アンモンは、王の心から不信仰という暗黒の覆い[1]が取り除かれつつあること、そしてその心を照らす光[2]、神の栄光の光であり神の慈しみの驚くべき光であるこの光が、まことに、王自身の中に大きな喜びを注ぎ込んで暗黒の雲が消え去り、永遠の命の光が王自身の中にともされたことを知っていた。まことに、アンモンはこれが王の肉体に打ち勝って、王が神によって意識を失っていたことを知っていたのである。
7したがって、王妃が彼に求めたことは、彼がただ一つ願っていたことであった。そこで、彼は王妃から求められるままに、王に会うために入って行った。そして、彼は王を見ると、王がまだ死んでいないことが分かった。
8そこで彼は王妃に、「王は亡くなっていません。神によって眠っているので、明日、再び起き上がります。ですから王を葬ってはなりません」と言った。
9そしてアンモンは王妃に、「このことをお信じになりますか」と尋ねた。すると、王妃は彼に、「あなたの言葉とわたしたちの僕たちの言葉のほかに何の証拠もありませんが、あなたの言ったとおりになると信じます」と答えた。
10そこで、アンモンは王妃に言った。「お妃様は信

第19章
4 ① GS「預言者」
6 ① 2コリ4・3−4、
GS「幕」
② GS「光・キリストの光」

仰が非常に深いので幸いです。お妃様、わたしは申し上げます。ニーファイ人のすべての民の中にさえ、これほどの深い[1]信仰はありませんでした。」

11 さて、王妃はそのときから、王が起き上がるとアンモンが告げた翌日のその時刻まで、夫の床のそばで起きていた。

12 そして王は、アンモンの言葉のとおりに起き上がった。そして王は、起き上がると、王妃に向かって手を伸ばして言った。「神の御名がほめたたえられるように。また、あなたは幸いである。

13 あなたが生きているように確かに、見よ、わたしは贖い主を見た。贖い主は将来おいでになり、一人の女から[1]お生まれになり、御名を信じるすべての人を贖われる。」王はこれらの言葉を言い終えると、胸がいっぱいになり、喜びのあまり再び倒れてしまった。すると、王妃も御霊に強く感じて倒れた。

14 アンモンは、罪悪と言い伝えのためにこれまでニーファイ人の中に、すなわち神のすべての民の中にひどい嘆きをもたらしてきた同胞のレーマン人に、自分の祈りに応じて主の御霊が注がれたのを見て、ひざまずいた。そして、その心を注ぎ出して祈り、神が自分の同胞のために行ってくださったことについて神に感謝した。それから、彼もまた喜びのあまり力を失ってしまった。このように、彼らは三人とも地に倒れたのであった。

15 さて、王の僕たちは彼らが倒れたのを見ると、主への畏れが生じていたので、彼らもまた神に叫び求めた。以前に王の前に立って、アンモンの大きな力について王に証言したのは、この僕たちであった。

16 そして彼らは、力の限り主の名を呼び、ついに一人のレーマン人の女を除いて、全員が地に倒れてしまった。この女は名をエービシといい、父の驚くべき示現のために、何年も前からすでに主に帰依していた。

17 このようにして、エービシは主に帰依していたので、ほかの者たちにはそのことを知られてはいなかったものの、ラモーナイの僕たちが皆、地に倒れ、また自分の主である王妃も王も、またアンモンまでが地に倒れて横たわっているのを見ると、それが神の力であることを知った。そして、この機会に彼らの中に起こったことを知らせてこの有様を見せれば、人々は神の力を信じるようになるであろうと思

---

10 ① ルカ7・9、GS「信仰」
13 ① 1ニフ11・13—21
② GS「イエス・キリスト—降誕と死に関する預言」
14 ① モサ1・5
② 教義42・14
③ GS「喜び」
④ アル27・17
15 ① アル18・1—2
17 ① モサ27・14

ったので、エービシは家から家へと走り回って、人々にそのことを知らせた。

18 そこで人々は、王の宮殿に集まり始めた。そして、大勢の人がそこにやって来ると、驚いたことに、王と王妃と彼らの僕たちが地に倒れていた。彼らは皆、死んだようにそこに横たわっていた。また、人々はアンモンも見たが、見よ、その人はニーファイ人であった。

19 そこで人々は、互いにつぶやき始めた。そして、ある者たちは、王がこのニーファイ人にこの地に住むことを許したので、彼ら、すなわち王と王の家に属するすべての者に大きな災いが及んだのだと言った。

20 しかし、別の者たちは彼らをたしなめて、「王はセブスの泉で家畜の群れを追い散らされた僕たちを殺したために、この災いを王の家に属するすべての者に招いてしまったのだ」と言った。

21 しかし、こう言った者たちも、セブスの泉のそばに立っていて王の家畜の群れを追い散らした者たちからとがめられた。これらの者たちは、アンモンがセブスの泉で王の家畜の群れを守ったときに仲間を何人も殺したことで、アンモンに怒りを抱いていたからである。

22 そして、その中に、アンモンの剣によって兄弟を殺された者がいた。その男はアンモンのことを非常に怒っていたので、剣を抜くと前に進み出て、その剣でアンモンを殺そうとした。そして、アンモンを殺そうとして剣を振り上げたところ、見よ、その男は倒れて死んでしまった。

23 これでわたしたちは、だれもアンモンを殺せないことが分かる。主が彼の父モーサヤに、「わたしは彼の命を救おう。あなたの信仰に応じてそれは彼に起こる」と言われ、モーサヤが主にアンモンのことをお任せしたからである。

24 さて、大勢の人は、アンモンを殺そうとして剣を振り上げた男が倒れて死んだのを見て、皆恐れを抱き、アンモンにも、倒れているほかの者にも、あえて手を伸ばして触れようとはしなかった。そして彼らは、この大きな力の元は何であろうか、これらのことは皆どのような意味があるのか、と思い始めた。

25 さて、彼らの中には、アンモンが大霊であると言

---

19 ① アル 17・22—23
20 ① アル 17・26、18・7
21 ① アル 17・27、18・3
22 ① アル 17・38
23 ① モサ 28・7、アル 17・35 ②
GS「信頼」

う者が多かったが、1)大霊から遣わされたのだと言う者もいた。

26しかし、その両者をたしなめて、アンモンは自分たちを苦しめるためにニーファイ人から遣わされた怪物であると言う別の者たちもいた。

27またある者たちは、アンモンは自分たちが罪悪を犯したので、自分たちを苦しめるために大霊から遣わされた者であり、大霊はいつもニーファイ人についていて、自分たちの手から彼らを救い出してきたとも言った。これらの者たちは、自分たちの同胞であるレーマン人を大勢滅ぼしてきたのはこの大霊であると言った。

28このようにして、彼らの中で非常に激しい争いが起こった。そして、彼らがそのように言い争っていたときに、その大勢の人を集めたはしためがやって来た。その女は大勢の人が言い争っているのを見ると、ひどく嘆いて涙を流した。

29そしてその女は、王妃のそばに行くと、王妃を地から起き上がらせようとでもするかのように、その手を取った。すると、その女が王妃の手に触れた途端、王妃は起きて立ち上がり、大声で叫んだ。「お、1)恐ろしい地獄からわたしを救われた、祝福に満ちたイエス様。おお、祝福に満ちた神様。この民に2)憐れみをおかけください。」

30そして、王妃はこのように言うと、喜びに満たされて両手を組み、人々の理解できない多くの言葉を語った。そして、語り終えて、ラモーナイ王の手を取ると、王も起きて立ち上がった。

31そして、王は民の間に争いがあるのを知ると、すぐに出て行って彼らをたしなめ、アンモンから聞いた1)言葉を彼らに教え始めた。すると、王の言葉を聞いた人々は皆信じて、主に帰依した。

32しかし、王の言葉を聞こうとしない者たちもたくさんいて、彼らは立ち去った。

33そして、アンモンも起き上がると、彼らに教えを授け、ラモーナイの僕たちも皆同じようにした。彼らは皆すでにその心が改まっており、もう二度と1)悪を行いたいとは思わなかったので、そのことを口をそろえて人々に告げた。

34そして見よ、多くの僕たちが1)天使を見、また天使と話をしたと告げた。このように、彼らは神と神の義にかかわることを人々に述べたのである。

---

25 ① アル18・2—5
28 ① アル19・16
29 ① 1ニフ14・3
31 ① GS「憐れみ」
② アル18・36—39
33 ① GS「再び生まれる」
34 ① モサ5・2、アル13・12 ② GS「天使」

35 そして、彼らの言葉を信じた人々は大勢いて、信じた人々は皆バプテスマを受け、義にかなった民となり、自分たちの中に教会を設けた。
36 このようにして、主の業がレーマン人の中に始まり、主は彼らに主の御霊を注がれた。このことから、主の腕が、悔い改めて主の名を信じるすべての人に伸べられることが分かるのである。

第20章

アンモンが牢にいる兄弟たちを救い出せるように、主は彼をミドーナイの地に遣わされる。アンモンとラモーナイ、全地を治める王であるラモーナイの父に会う。アンモン、その年取った王に自分の兄弟たちの釈放を認めさせる。紀元前約九十年。

1 さて、彼らがその地に教会を設立した後、ラモーナイ王はアンモンを自分の父に会わせたいと思い、自分とともにニーファイの地へ行くように彼に求めた。
2 すると、主の声がアンモンに聞こえて、「あなたはニーファイの地へ上って行ってはならない。王があなたの命をねらうであろう。見よ、あなたの兄弟アロンと、ミュロカイ、アンマが牢に入っているので、ミドーナイの地へ行きなさい」と言われた。
3 さて、アンモンはこの御言葉を聞くと、ラモーナイに言った。「見よ、わたしの兄弟と同僚たちがミドーナイの牢に入れられているので、わたしは行って彼らを救い出します。」
4 すると、ラモーナイはアンモンに言った。「わたしはあなたが主の力で何事でもできることを知っています。しかし見よ、わたしも一緒にミドーナイの地へ行きましょう。ミドーナイの地の王はその名をアンテオムノといい、わたしの友です。ですから、わたしもミドーナイの地へ行って、その地の王をなだめましょう。そうすれば、彼はあなたの兄弟たちを牢から出してくれるでしょう。」また、ラモーナイは彼に、「あなたの兄弟たちが牢に入っているとあなたに告げたのはだれですか」と尋ねた。
5 そこでアンモンは彼に、「わたしに告げたのはほかでもない、神です。神がわたしに、『あなたの兄弟たちがミドーナイの地で牢に入っているので、行って救い出しなさい』と言われたのです」と答えた。

---

35 ① GS「バプテスマ」
36 ① 2ニフ26・33、アル5・33
第20章
4 ① アル26・12
② アル20・28—30

6 ラモーナイはこの言葉を聞くと、僕たちに自分の馬と馬車を用意させた。
7 そして、彼はアンモンに言った。「さあ、わたしもあなたとともにミドーナイの地へ行き、あなたの兄弟たちを牢から出すように王に頼みましょう。」
8 さて、アンモンとラモーナイがその地へ向かって旅をしていたところ、彼らは途中で、ラモーナイの父である全地を治める王に出会った。
9 すると見よ、ラモーナイの父はラモーナイに、「わたしが息子たちと民のために宴会を催したあの特別な日に、なぜおまえはその宴会に来なかったのか」と尋ね、
10 また、「おまえは偽り者の子孫の一人であるこのニーファイ人と連れ立って、どこへ行こうとしているのか」と言った。
11 そこでラモーナイは、父を怒らせるのを恐れて、自分がどこへ行こうとしているかを語った。
12 彼はまた、父が用意した宴会に出るために父のもとへ行かずに自分の国にいた理由をすべて父に告げた。
13 さて、ラモーナイがこれらのことをすべて語ったところ、見よ、意外なことに、彼の父は彼に怒りを示し、「ラモーナイ、おまえはそのニーファイ人たちを救い出そうとしているが、その者たちは偽り者の子孫だ。見よ、その偽り者は我らの先祖から物を奪った。そして、今その子孫も我らの中にやって来て、悪知恵と偽りによって我らを欺き、また我らから持ち物を奪おうとしている」と言った。
14 そしてラモーナイの父は、剣でアンモンを殺すようにラモーナイに命じた。また、ミドーナイの地へ行かず、自分とともにイシマエルの地へ帰るように命じた。
15 しかし、ラモーナイは父に言った。「わたしはアンモンを殺すつもりはありませんし、イシマエルの地へも帰りません。ミドーナイの地へ行って、アンモンの兄弟たちを解き放します。わたしは彼らが正しい人々であり、まことの神の聖なる預言者であることを知っているからです。」
16 彼の父はこれらの言葉を聞くと、彼に怒りを発し、剣を抜いて彼を地に打ち倒そうとした。
17 そのとき、アンモンが進み出て、ラモーナイの父に言った。「まことに、あなたは自分の息子を殺して

6 ① アルマ18・9—10
8 ① アルマ22・1
9 ① アルマ18・9
10 ① モサイア10・12—17
14 ① アルマ17・19

はなりません。彼はすでに罪を悔い改めているので、もし殺されたとしても、あなたが倒れるよりはよいでしょう。しかし、あなた自身は、今怒ったまま倒れるならば救われません。

18 あなたは思いとどまった方がよいでしょう。もしあなたが自分の息子を殺せば、彼には罪がないので、彼の血は地から主なる神に向かって、あなたに報復するように叫ぶでしょう。そして、恐らくあなたは命を失うでしょう。」

19 アンモンがラモーナイの父にこれらの言葉を語り終えると、彼はそれに答えて、「わたしは、息子を殺せば罪のない者の血を流すことになるのを知っている。おまえこそわたしの息子を滅ぼそうとした者だ」と言った。

20 そして、彼は腕を伸ばして、アンモンを殺そうとした。しかし、アンモンは彼が打ちかかってくるのを防ぐとともに、彼の腕を打ってその腕を利かなくした。

21 そこで王は、アンモンに自分を殺す力があるのを知って、命を助けてほしいとアンモンに懇願し始めた。

22 しかし、アンモンは剣を振り上げ、「まことに、わたしの兄弟たちを牢から出すのを認めないかぎり、わたしはあなたを討つ」と言った。

23 すると王は、命を失うのを恐れて、「わたしの命を助けてくれれば、おまえの求めるものは何でも与えよう。王国の半分でも与える」と言った。

24 そこでアンモンは、自分の望みどおりにその年老いた王に影響を与えることができたのを知って、こう言った。「わたしの兄弟たちを牢から出すことと、ラモーナイに彼の王位を保たせることと、ラモーナイに対して怒りを示さず、何事でも彼の望むままに彼の考えていることを行わせることを認めるならば、わたしはあなたの命を助けよう。そうでなければ、あなたを地に打ち倒す。」

25 さて、アンモンがこれらの言葉を語り終えると、王は自分の命が助かることを喜んだ。

26 また彼は、アンモンが自分を殺す気がなく、また息子ラモーナイを深く愛していることを知って、非常に驚いて言った。「おまえが求めたのはただ、おまえの兄弟たちを釈放することと、わたしの息子ラモーナイに彼の王位を保たせること、それだけであ

---

17 ① アル 19:12—13
18 ① ② アル 48:23
24 ① ② 教義 42:18 GS「殺人」 アル 21:21—22

るから、まことにわたしは、これから先とこしえに息子に王位を保たせ、今後二度と息子に指図をするまい。

27わたしはまた、おまえの兄弟たちを牢から出すことと、おまえとおまえの兄弟たちがわたしの国でわたしのもとに来ることを認めよう。わたしはぜひおまえに会いたいからである。」王はアンモンが語った言葉と、息子ラモーナイが語った言葉に非常に驚き、それを知りたいと思ったのである。

28さて、アンモンとラモーナイは、ミドーナイの地へ旅を続けた。そして、ラモーナイはその地の王の好意を得、アンモンの兄弟たちは牢から連れ出された。

29アンモンは、彼らに会うと非常に心を痛めた。見よ、彼らが裸であったうえに、丈夫な縄で縛られていたため、体の皮膚がすりむけていたからである。また、彼らは飢えと渇きとあらゆる苦難を受けて苦しんでいた。それでも、彼らはすべての苦しみに耐えていたのである。

30このように、彼らはアンモンが出会った人々よりももっとかたくなで、もっと強情な人々の手に落ちる巡り合わせにあったのである。人々は彼らの言葉を聴こうとせず、彼らを追い出し、打ちたたき、家から家へ、こちらからあちらへと彼らを追い払い、とうとう彼らはミドーナイの地へやって来た。そこで彼らは捕らえられ、牢に入れられて丈夫な縄で縛られ、幾日もの間牢に閉じ込められていて、ラモーナイとアンモンによって救い出されたのであった。

アロンとミュロカイと彼らの同僚たちがレーマン人に教えを説いたことについての話。

次の第二十一―二十六章がそれに相当する。

第21章

アロン、アマレカイ人にキリストとキリストの贖罪について教える。アロンと彼の同僚たち、ミドーナイで投獄される。アロンたち、解放された後、会堂で教え、多くの人を改宗させる。ラモーナイ、イシマエルの地の人々に信教の自由を認める。紀元前約九十年から七十七年に至る。

27① 29① 30①

GS「謙遜」アル17・11 アル26・29

1さて、アンモンと彼の同僚たちがレーマン人の国の境でそれぞれ別れたとき、アロンは、レーマン人がエルサレムと名付けた地を指して旅をした。そこは彼らの先祖の生まれた地にちなんで名付けられた所で、はるか遠くモルモンの地と境を接していた。
2レーマン人とアマレカイ人とアミュロンの民は、そこに大きな町を築き、エルサレムと名付けた。
3ところで、レーマン人はもともと相当にかたくなであったが、アマレカイ人とアミュロン人はことのほかかたくなであったので、彼らはレーマン人の心をさらにかたくなにさせ、悪事と忌まわしい行いにふけるようにさせた。
4さて、アロンはエルサレムの町に着くと、最初にアマレカイ人に教えを説き始めた。アロンは彼らの会堂で教えを説き始めたが、それは彼らがニーホルの教団の会堂を幾つも建てていたからである。アマレカイ人とアミュロン人の多くがニーホルの教団に属していたのであった。
5そこでアロンが、人々に教えを説くために、彼らの会堂の一つに入って彼らに語っていたときに、一人のアマレカイ人が立ち上がり、アロンと論じ始めた。「おまえが証したのは何のことだ。おまえは天使に会ったのか。なぜ天使は我々にも現れないのか。この民はおまえの民よりも善くないと言うのか。
6おまえはまた、我々が悔い改めないかぎり滅びると言ったが、どうしておまえに我々の心の思いと志が分かるのか。我々に悔い改めなければならない理由があることがどうしておまえに分かるのか。我々が義にかなった民でないことがどうしておまえに分かるのか。見よ、我々は聖堂を建てたし、神を礼拝するために集まっている。我々は、神がすべての人を救われることを信じている。」
7そこでアロンは彼に、「あなたは、神の御子が人類を罪から贖うために来られるということを信じていますか」と尋ねた。
8するとその人はアロンに言った。「我々は、おまえにそのようなことが分かるとは信じない。我々はそのような愚かな言い伝えは信じない。また、おまえに将来のことが分かるとも信じないし、おまえの先祖と我々の先祖が、自分たちが語った将来のことについて分かっていたとは信じない。」
9そこでアロンは、キリストの来臨と死者の復活に

第21章
1 1① アル17・13、17
2 2① モサ24・1、アル25・4—9
4 4① アル1・2—15
5 5① モサ27・11—15
8 8① ヤコ7・1—8

ついての聖文を彼らに説明し、キリストの死と苦しみと、キリストの血による贖罪によるほかに、人類のための贖いはあり得ないことを話し始めた。

10 そして、アロンがこれらのことを彼らに説き明かしたところ、彼らはアロンに怒りを示し、また彼をあざけり始めた。そして、彼らは彼の語る言葉を聞こうとしなかった。

11 そこでアロンは、彼らが自分の言葉を聞こうとしないのを見て、会堂を去り、アナイ・アンタイと呼ばれている村を訪れた。そこで彼は、人々に御言葉を宣べ伝えていたミュロカイに出会い、またアンマと彼の同僚たちに会った。それから彼らは、御言葉について多くの人と論じ合った。

12 そして彼らは、人々が心をかたくなにするのを見て、そこを去り、ミドーナイの地を訪れた。そして彼らは、多くの人に御言葉を宣べ伝え、わずかな人が彼らの教えた御言葉を信じた。

13 にもかかわらず、アロンと彼の同僚たちの中の数人は、捕らえられて牢に入れられた。また、残りの同僚たちは、ミドーナイの地から周辺の地へ逃れて行った。

14 そして、牢に入れられた人々は多くの苦しみを受けたが、後にラモーナイとアンモンの手によって救い出された。そして、食べる物と着る物を与えられたのである。

15 それから、彼らは御言葉を告げ知らせるために再び出て行った。彼らが初めて牢から救い出された次第は以上のとおりであり、彼らが苦しんだ次第も以上のとおりである。

16 そして彼らは、主の御霊に導かれる所へならばどこへでも行き、彼らが入ることのできたアマレカイ人のすべての会堂で、またレーマン人のすべての集会で、神の言葉を宣べ伝えた。

17 そこで、主が彼らに祝福を授けてくださるようになり、彼らは多くの人に真理を知らせることができた。すなわち、彼らは多くの人に、各自に罪のあることと、彼らの先祖の言い伝えが正しくないことを納得させた。

18 そして、アンモンとラモーナイは、ミドーナイの地からラモーナイと彼の民の受け継ぎの地であるイシマエルの地へ帰った。

19 ラモーナイ王は、アンモンを自分に仕えさせよう

---

9 ① GS「贖罪」
② モサ5・8、アル38・
14 ① アル20・29
16 ① アル22・1
17 ① 教義18・44

とせず、自分の僕でいることを許そうとしなかった。

20また王は、イシマエルの地に幾つもの会堂を建てさせた。また彼は自分の民、すなわち自分の統治下にある人々をともに集めさせた。

21そこで彼は、集まった人々を見て喜び、彼らに多くのことを教えた。また、彼らが自分の下にある民であることと、自分の父である王の圧制を受けない自由の民であることを彼らに告げ知らせた。ラモーナイ王の父が彼に、イシマエルの地とその周辺の全地にいる人々を治めることを認めたからである。

22ラモーナイ王はまた、自分の統治下にある地であればどこででも、自分たちの望むままに、主なる自分たちの神を礼拝する自由が彼らにあることを告げ知らせた。

23そしてアンモンは、ラモーナイ王の民に教えを説いた。彼は、義にかかわることについてあらゆる事柄を民に教えた。アンモンは日々力の限り彼らに説き勧め、また彼らは彼の言葉を心に留めて、熱心に神の戒めを守った。

第22章

アロン、創造と、アダムの堕落と、キリストによる贖いの計画についてラモーナイの父に教える。王と王の家のすべての者が改宗する。ニーファイ人とレーマン人の領土の区分についての説明。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、アンモンはこのようにして引き続きラモーナイの民を教えていたので、話をアロンと彼の同僚たちのことに戻そう。アロンはミドーナイの地を去った後、御霊によってニーファイの地へ導かれ、王の宮殿に行った。この王は、イシマエルの地を除く全地を治めている王であり、ラモーナイの父であった。

2そこでアロンは、彼の同僚たちとともに王の宮殿に入り、王のもとに進み出て、王の前にひれ伏して言った。「まことに、王様、わたしたちはアンモンの仲間であり、あなたに牢から救い出していただいた者であります。

3王様、わたしたちの命を助けてくださるならば、わたしたちは王様の僕になります。」すると王は彼

22 ① 教義134・1—4、箇条1・11、GS「自由」
第22章
1 ① アル21・16—17
2 ① ② アル21・21—22、アル20・26

らに言った。「立ちなさい。わたしはあなたがたの命を許そう。しかし、わたしの僕になることは認めない。その代わりに、わたしにぜひとも教えてもらいたい。あなたの兄弟アンモンの言葉が寛大であり、偉大であったので、わたしは少々心に思い悩んでいることがある。また、アンモンがあなたとともにミドーナイから上って来なかった理由も知りたい。」

4 そこでアロンは王に、「まことに、主の御霊が彼をほかの場所へ呼ばれたのです。彼はラモーナイの民を教えるために、イシマエルの地へ行きました」と言った。

5 すると、王は彼に言った。「あなたは主の御霊について語っているが、それはどういうことなのか。見よ、わたしが思い悩んでいるのはそのことである。

6 アンモンは、『悔い改めるならば救われるが、悔い改めなければ終わりの日に捨てられる』と言ったが、それはどういうことなのか。」

7 そこでアロンは王に答えて、「王様は神がましますことを信じておられますか」と言った。すると、王は、「アマレカイ人が神がいると言っているのは知っている。わたしは彼らが集まって神を礼拝することができるように、幾つかの聖堂を建てることを彼らに許してきた。だから、今あなたが神はましますと言うならば、見よ、わたしは信じよう」と答えた。

8 さて、アロンはこれを聞いて心に喜びを覚え、「王様、まことに、あなたが今生きておられるように確かに、神は生きておられます」と言った。

9 すると王は、「神とは、我らの先祖をエルサレムの地から導き出したあの大霊のことか」と尋ねた。

10 そこでアロンは王に、「そのとおりです。神とはあの大霊のことです。神は天と地の両方で万物を創造されました。王様はこのことをお信じになりますか」と言った。

11 すると、王は答えた。「まことに、わたしは信じる。わたしは大霊が万物を創造されたことを信じる。だから、これらすべてのことについてわたしに話してほしい。わたしはあなたの言葉を信じよう。」

12 そこでアロンは、王が自分の言葉を信じようとするのを見て、聖文を王に読んで聞かせながら、アダムの造られたこと、すなわち神が御自分の形に人を創造されたことから始めて、神がアダムに戒めを与

6 ① アル 20・17—18
7 ① 教義 46・13—14
9 ① アル 18・18—28
10 ① GS「創造・創造する」
11 ① GS「信じる」
12 ① 1 ニフ 5・10—18、アル 37・9

えられたことや、人が背きのために堕落したことを話して聞かせた。

13 そしてアロンは、アダムが造られたことから始めて王に聖文を説き明かし、人が堕落したことと、人類のこの世の状態と、[2]贖いの計画について話した。この贖いの計画は、キリストの名を信じようとするすべての人のために、キリストによって世の初めから備えられたものである。

14 また人類は堕落したので、自分自身で何も良い報いを得ることはできなかった。しかし、信仰と悔い改めなどによって、キリストの苦しみと死が彼らの罪を贖うのである。そして、キリストは死の縄目を断ち、墓は勝利を得ず、死のとげは栄光の望みの中にのみ込まれてしまう。アロンはこれらのことをすべて王に説き明かした。

15 さて、アロンがこれらのことを王に説き明かした後、王は言った。「あなたの語ったこの永遠の命を得るには、わたしは何をすればよいのか。まことに、わたしは何をすれば、この悪い霊をわたしの胸からことごとく取り除いて、神から生まれ、神の御霊を受けて、喜びに満たされ、終わりの日に捨てられなくて済むのか。見よ、この大きな喜びを得るために、わたしは持ち物をすべて捨てよう。まことに、王位も譲ろう。」

16 しかし、アロンは王に言った。「あなたがこのことを願い、神の御前にひれ伏すならば、まことに、あなたの罪をすべて悔い改め、神の御前にひれ伏して、与えられると信じて信仰をもって神の御名を呼ぶならば、そのときあなたは、今願っているものを得るでしょう。」

17 そして、アロンがこれらの言葉を語ると、王はひざまずいて主の前にひれ伏した。まことに、王は地に平伏し、熱烈に叫び求めた。

18 「おお、神よ、アロンは、あなたがましますことをわたしに告げました。もしも神が生きてましますならば、そしてあなたがその神であられるならば、あなた御自身のことをわたしにお知らせください。わたしはあなたを知り、死者の中からよみがえり、終わりの日に救われるように、自分の罪をすべて捨てます。」王はこれらの言葉を語り終えると、倒れて死んだようになった。

19 さて、王の僕たちが走って行って、王の身に起こ

---

13 ① 創世1・26—28
② GS「贖いの計画」
③ 2ニフ9・18
14 ① GS「堕落（アダムとエバの）」
② 2ニフ25・23、アル42・10—25
③ アル34・8—16、GS「贖罪」
④ イザ25・8、1コリ15・55
15 ① 使徒2・37
② アル5・14、49
③ マタ13・44—46、19・16—22
16 ① GS「改宗」
② エテ12・4
17 ① 教義5・24
② GS「祈り」

ったことをすべて王妃に知らせたので、王妃は王のもとに来た。そして、死んだように横たわっている王と、張本人であるかのように立っているアロンと彼の同僚たちを見て、王妃は彼らに怒りを発し、自分の僕たち、いや王の僕たちに、彼らを捕らえて殺すように命じた。

20 ところが僕たちは、王が倒れた訳を知っていたので、アロンと彼の同僚たちにあえて手をかけようとせず、王妃に懇願して言った。「どうしてこの人々を殺すようにお命じになるのですか。この人々の一人は、わたしたち全員よりも強いのです。わたしたちはこの人々の前で倒れてしまうでしょう。」

21 すると王妃は、僕たちが恐れているのを見て、自分に何か災いが及ぶかもしれないと思い、非常に恐れ始めた。そして、自分の僕たちに、行って人々を呼び集め、アロンと彼の同僚たちを殺させるように命じた。

22 さて、アロンは王妃の決意を知ると、人々の心がかたくなであるのも知っていたので、大勢の人が集まって、彼らの中にひどい争いと騒動が起こるのではないかと心配した。そこで彼は、手を差し伸べて王を地から起こし、「立ちなさい」と言った。すると、王は力を得て立ち上がった。

23 さて、このことは王妃と多くの僕たちの前で行われた。そこで彼らは、それを見ると非常に驚き、恐れた。すると、王は前に進み出て、彼らを教え始めた。そして、王が彼らを教えたので、王の家のすべての者が主に帰依した。

24 ところが、すでに王妃が命令を出していたので、大勢の人が集まって来た。そして彼らは、アロンと彼の同僚たちのことでひどくつぶやき始めた。

25 しかし、王が出て行って彼らの中に立ち、彼らを教えたので、彼らはアロンと、また彼と一緒にいた人々に対して心を和らげた。

26 そして王は、人々が心を和らげたのを見ると、アロンと彼の同僚たちを群衆の中に行かせて立たせ、彼らに御言葉を宣べ伝えさせた。

27 そして王は全地に、すなわち自分の国内にいるすべての民と、その周辺の全地方にいるすべての民に布告を出した。この国は東と西で海に接しており、またゼラヘムラの地とは、東の海から西の海まで続いている細長い荒れ野で隔てられていた。ま

---

20 ① アル18・1—3
23 ① GS「教える・教師」
② 「仕える」「宣べ伝える」
27 ① GS「改宗」
② アル23・1—4
オム1・13—17

た、この荒れ野は海岸線で湾曲しており、その北方の境はゼラヘムラの地からマンタイの境を通り、また東から西に流れるシドン川の源まで達していた。レーマン人とニーファイ人はこのようにして分かれていた。

28 さて、レーマン人の中でさらに怠惰な者たち[1]は荒れ野にいて、天幕に住んでいた。彼らはニーファイの地に含まれる西方の荒れ野全体に広く住んでおり、また、ゼラヘムラの地の西方の海岸に近い境の地付近にも、さらには、ニーファイの地の西方の、彼らの先祖が最初受け継ぎの地とした所にも住んでいた。このように、彼らは海沿いの境の地に住んでいた。

29 また、東方の海岸近くにも多くのレーマン人がいた。彼らはニーファイ人によってそこに追い込まれたのである。このように、ニーファイ人はほとんどレーマン人に囲まれていた。それでも、ニーファイ人はシドン川の源で荒れ野に接する地の北部全体を所有してきた。その地は東から西まで荒れ野に沿っており、北方は彼らがバウンティフル[1]と名付けた地まで達していた。

30 バウンティフルの地は、ニーファイ人がデソレション[1]と名付けた地に接していた。そのデソレションの地ははるか北方にあって、かつて人々が住んでいたが今はもう滅びてしまい、前に述べたようにゼラヘムラの民がその人々の骨[2]を発見した地である。またそこは、ゼラヘムラの民が最初[3]に上陸した所でもある。

31 彼らはそこから南の荒れ野へ上って来た。このようにして、北方の地はデソレション[1]と呼ばれ、南方の地は、あらゆる野生動物で満ちている荒れ野があったので、バウンティフルと呼ばれた。その野生動物の一部は、食べ物を求めて北方の地から来たものであった。

32 さて、東の海から西の海までは、バウンティフルとデソレションの地の境界線上をニーファイ人が一日半旅をすれば行けるわずかな距離[1]であった。このように、ニーファイの地とゼラヘムラの地はほとんど海に囲まれており、北方の地と南方の地の間には小さい地峡[2]があった。

33 そしてニーファイ人は、東の海から西の海に至るまでバウンティフルの地に住んでいた。このよう

28 ① 2ニフ5・22−25
29 ① アル52・9、63・5
30 ① アル50・34、モル4・1−3
② モサ8・7−12、28・11−19
31 ① ヒラ6・10
③ ヒラ3・5−6
32 ① ヒラ4・7
② アル50・34

に、ニーファイ人は賢明に彼らの見張りの兵と軍隊をもってレーマン人を南方に閉ざし、レーマン人が北方に領土を持って北方の地で増え広がることのないようにした。

34そのためにレーマン人は、ニーファイの地と周辺の荒れ野の中にしか領土を持てなかった。これはニーファイ人の知恵であった。レーマン人は彼らの敵であったので、彼らはあらゆる方面で苦難を受けることのないようにし、またどこへでも思うままに逃げて行く先を確保できるようにしたのである。

35さて、このことはこれで終わりとし、再びアンモンとアロン、オムナーとヒムナイ、および彼らの同僚たちの話に戻ることにする。

第23章

信教の自由が宣言される。七つの地と町のレーマン人が改宗する。彼らはアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と自称し、のろいを解かれる。アマレカイ人とアミュロン人、真理を拒む。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて見よ、レーマン人の王はすべての民の中に布告を出して、国内のどこにおいても、民はアンモンやアロン、オムナー、ヒムナイ、そのほか神の言葉を宣べ伝えながら旅をしているその同僚たちに、手をかけてはならないと告げた。[1]

2まことに、王は民に布告を出して、民は彼らを捕らえて縛ったり、牢に入れたりしてはならない、つばきを吐きかけたり、打ったり、会堂から追い出したり、鞭打ったりしてはならない、また彼らに石を投げつけてはならない、むしろ彼らが民の家や、神殿や、聖堂に自由に出入りできるようにしなければならないとした。

3そのため彼らは、思いのままに巡り歩いて御言葉を宣べ伝えることができた。それは、王と王の家のすべての者が主に帰依したからである。王は民にあてて全地に布告を出し、神の言葉が何の妨げにも遭うことなく国中に伝わって、先祖の言い伝えが正しくないことを民が納得するように、また自分たちは皆同胞であるので、殺人や略奪、盗み、姦淫、そのほかどのような悪事も行ってはならないことを納得するように仕向けた。

第23章
1① アル22・27
3① アル26・24

4 さて、王がこの布告を出した後、アロンと彼の同僚たちは町から町へ、また礼拝の建物から建物へと巡って、国中のレーマン人の中に教会を設け、祭司たちと教師たちを聖任して、彼らの中で神の言葉を宣べ伝え、教えるようにした。このようにして、彼らは大きな成功を収め始めた。

5 そして、何千もの人々が主を知るようになった。まことに、何千もの人々がニーファイ人の言い伝[1]えを信じるようになったのである。そしてこれらの人々には、その当時まで伝えられてきた数々の記録[2]と預言が教えられた。

6 そして、主が生きておられるように確かに、アンモンと彼の同僚たちが啓示と預言の霊によって行った宣教と、彼らを通じて数々の奇跡を行われた神の力によって信仰を持つようになったすべての人、すなわち真理を知るようになったすべての人は、あなたがたに申し上げるが、主が生きておられるように確かに、彼らの説教を信じて主に帰依[1]したレーマン人は皆、二度と道を踏み外さなかった。

7 彼らは義にかなった民となったのである。まことに、彼らは謀反に使う武器を捨てて、もはや神と戦わず、同胞のだれとも戦わなかった。

8 さて、主に帰依したのは次の人々[1]である。

9 すなわち、イシマエルの地にいたレーマン人の民、

10 また、ミドーナイの地にいたレーマン人の民、

11 また、ニーファイの町にいたレーマン人の民、

12 また、シャイロム[1]の地、シェムロンの地、レムエルの町、シムナイロムの町にいたレーマン人の民。

13 以上は主に帰依[1]したレーマン人の住んでいた町の名であり、また謀反に使う武器、すなわち戦争に使うすべての武器を捨てた人々である。彼らはすべてレーマン人であった。

14 ところが、アマレカイ人はたった一人が改宗[1]しただけであり、アミュロン[2]人はだれも改宗しなかった。むしろ彼らは心をかたくなにし、彼らの住んでいる地で、すなわち彼らのすべての村と彼らのすべての町で、レーマン人の心をかたくなにさせた。

15 そのために、悔い改めて真理を知り、改宗したレーマン人の住む町の名を、すべて挙げたのである。

16 さて、王と改宗した人々は、彼らの同国人と区別される名を持ちたいと望んだ。そこで王は、何と

---

5 ① アル37・19
② アル63・12、GS「聖」
6 ① 文
② GS「改宗」
8 ① アル27・27
② アル26・3、31
12 ① モサ22・8、11
13 ① アル53・10
14 ① アル24・29
② モサ23・31−39

いう名を受けて区別されるのがよいかについて、アロンと多くの祭司たちに意見を求めた。

17そして彼らは、自分たちをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と名付けた。彼らはこの名で呼ばれるようになり、もはやレーマン人とは呼ばれなかった。

18そして彼らは、非常に勤勉な民になった。また彼らは、ニーファイ人と親しくなったので、ニーファイ人と交わりを持つようになった。そして、神のろいはもはや彼らから離れ去った。

第24章

レーマン人、神の民を攻める。アンタイ・ニーファイ・リーハイ人、キリストのことを喜び、天使たちの訪れを受ける。彼らは自衛するよりもむしろ死ぬ方を選ぶ。さらに多くのレーマン人が改宗する。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、アミュロンの地、またヘラムの地、さらにエルサレムの地、要するに周辺の全地にいて、改宗しておらず、アンタイ・ニーファイ・リーハイの名も受けていないアマレカイ人とアミュロン人とレーマン人たちは、アマレカイ人とアミュロン人に扇動されて同胞に怒りを示すようになった。

2そして、同胞に対する彼らの憎しみは非常にひどくなって、ついに彼らは自分たちの王に背くようになり、その王が自分たちの王であることを望まなくなった。その結果、彼らはアンタイ・ニーファイ・リーハイの民に対して武器を取った。

3ところで、王は息子に王位を譲り、彼の名をアンタイ・ニーファイ・リーハイと呼んだ。

4そして王は、レーマン人が神の民と戦うための準備を始めたその年に亡くなった。

5さて、アンモンと彼の同僚たちと、彼と行動を共にしていたすべての人は、レーマン人がその同胞を滅ぼす準備をしているのを見て、ミデアンの地へ向かった。そこでアンモンは同僚たち全員と落ち合い、そこから彼らはイシマエルの地へ向かった。ラモーナイおよび彼の兄弟であるアンタイ・ニーファイ・リーハイとともに、レーマン人に対して自衛するために何をすればよいか協議するためであった。

---

17 ① GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
18 ① 1ニフ2・23、2ニフ30・5—6、3ニフ2・14—16
第24章
1 ① アル21・1
② アル25・1、13
5 ① アル27・4—13

6 ところが、すでに主に帰依していた人々の中には、その同胞に対して武器を取ろうとする人はだれ一人いなかった。それだけでなく、彼らは戦いの準備をすることさえも望まなかった。また、彼らの王も戦いの準備をしてはならないと命じたのである。

7 さて、王がこの件について民に語った言葉は次のとおりである。「愛する民よ、わたしは神に感謝する。大いなる神は慈しみをもって、同胞であるこのニーファイ人たちを我らのもとに遣わしてくださった。そして、我らに教えを説き、また、不義な先祖の言い伝えが正しくないことを認めさせてくださった。

8 また見よ、我らの心を和らげるために、大いなる神が御霊の一部をお授けくださったことに、わたしは感謝している。おかげで我らは、同胞であるこれらのニーファイ人たちと行き来するようになった。

9 また見よ、行き来することによって、我らが自分たちの罪と、これまでに犯した多くの殺人を自覚するようになったことも、わたしは神に感謝している。

10 さらに、わたしの神、まことに大いなる神は、我らがこれらのことを悔い改められるようにしてくださり、またこれまでに犯した多くの罪と殺人の罪を赦し、神の御子の功徳によって我らの心から罪を取り除いてくださった。わたしはこのことも神に感謝している。

11 さて見よ、わたしの同胞よ、（我らは全人類の中で最も霊的にすさんだ者であったので）我らができることはただ、我らのすべての罪と、これまでに犯した多くの殺人の罪を悔い改めて、我らの心からそれらのものを神に取り去っていただくことであった。我らができることはただ、神に我らの汚れを取り除いていただけるように、神の御前に十分に悔い改めをすることであったからである。

12 さて、わたしの最愛の同胞よ、神がすでに我らの汚れを取り除いてくださり、我らの剣は光を放つようになったので、剣を二度と同胞の血で汚すことのないようにしようではないか。

13 見よ、わたしはあなたがたに言う。我らは剣が同胞の血で汚されることのないようにしようではないか。恐らく、もし我らが再び剣を汚すならば、それらは、将来我らの罪の贖いのために流される、大い

7① モサ1・5
9① 教義18・44
10① ダニ9・9
11① GS「罪悪感」
11② イザ53・4−6

なる神の御子の血[1]によって洗われて光を放つことは二度とないであろう。

14 大いなる神は我らを憐れみ、我らが滅びないようにこれらのことを知らせてくださった。神は我らの子供たちを愛するように[1]我らも愛してくださっているので、これらのことをあらかじめ知らせてくださったのである。そのために、神は憐れみをもって天使たちを遣わして、将来の子孫と同じように我らにも救いの計画[2]を知らせてくださっている。

15 おお、我らの神は何と憐れみ深いことか。さて見よ、我らは汚れを取り除いていただくためにできることはすべて行ってきて、今我らの剣は光っているので、その輝きを保てるように、それを隠してしまおうではないか。そうすればその剣は、終わりの日に、すなわち裁きを受けるために神の御前に連れ出される日に、神の御言葉を伝えて我らを清めてくださって以来、我らが剣を同胞の血で汚したことはないという、神への証拠となることであろう。

16 さて、わたしの同胞よ、たとえ同胞が我らを殺そうとしても、見よ、我らは剣を隠してしまおう。それを決して使わなかったという証拠として、終わりの日に輝きを保っているように、それを地中深く埋めてしまおう。そうすれば、たとえ同胞に殺されても、見よ、我らは神のみもとへ行き、救われることであろう。」

17 さて、王がこのように語り終えると、民は皆集まり、自分たちの剣と、かつて人の血を流すのに使ったあらゆる武器を取って来て、それを地中深く埋めてしまった。

18 彼らがこのようにしたのは、こうすることが、武器を使って人の血を流すことは決[1]してないことを神と人に示す証拠になると考えたからである。彼らはこのようにして、同胞の血を流すよりは自分の命を捨て[2]、同胞から奪うよりは同胞に与え、怠惰に生涯を送るよりは自分の手を使って一生懸命に働くつもりであることを証明し、神に聖約[3]したのである。

19 このことから分かるように、このレーマン人たちは信仰を持ち、真理を知るようになったときに、確[1]固とした者になり、罪を犯すよりは死に至るまでも苦しみに耐えようとしたのである。また、前に述べたことから分かるように、彼らは平和の武器、すな

13 ① 黙示1・5
14 ① GS「人（霊を持つ存在としての）—人の価値」
16 ① GS「贖いの計画」
16 ② アル40・11—15
17 ① ヒラ15・9
18 ① アル53・11
19 ① GS「信仰」
19 ② GS「聖約（契約）」
19 ③ GS「犠牲」

わち平和を得るための戦いの武器を埋めてしまったのである。

20さて、彼らの同胞であるレーマン人は戦いの準備を整え、ニーファイの地に向かって来た。彼らが目的としていたのは、王を殺してほかの者を代わりに立て、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民もまたその地から滅ぼし尽くすことであった。

21さて、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民は、レーマン人が攻めて来るのを見ると、出て行って彼らに会い、彼らの前で地に身を伏せて、主の名を呼び始めた。彼らがこのような姿勢を取っていたところ、レーマン人は彼らに襲いかかり、彼らを殺し始めた。

22このようにして、レーマン人は何の抵抗も受けることなく、アンタイ・ニーファイ・リーハイ人を千五人殺した。これらの人々は神とともに住むために世を去ったので幸いであることを、わたしたちは知っている。

23ところでレーマン人は、自分たちの同胞が剣から逃れようとせず、右にも左にも身をかわそうとせずに、伏したまま死のうとしており、剣に倒れるその最中でさえ神をほめたたえるのを見て、

24すなわち、レーマン人はそれを見て、彼らを殺すのをやめた。そして、多くの者が自分たちのしたことを悔い、剣に倒れた同胞のためにひどく心を痛めた。

25そして、これらの者は自分たちの武器を投げ捨て、人を殺してきたことにひどく苦しみを覚え、二度と武器を取ろうとしなかった。それから彼らは、同胞と同じように身を伏せて、彼らを殺すために腕を振り上げた者たちのなすがままに任せたのであった。

26そしてその日、殺された人の数よりも多くの者が神の民に加わった。また、殺された人々は義にかなった人々であったので、彼らが救われたことは決して疑う余地がない。

27また、このようにして死んだ人々の中には一人の悪人もなく、しかも真理を知るようになった人々は千人を超えた。このことから、主は御自分の民を救うために様々な方法を用いられることが分かる。

28ところで、そのように多くの同胞を殺したレーマン人に属する者の大多数は、アマレカイ人とアミュ

21 ① アル27・3
23 ① アル26・32
24 ① アル25・1
26 ① ② GS「哀れみ」
27 ① 黙示14・13、イザ55・8—9、アル37・6—7

ロン人であり、しかもその大多数はニーホル[1]の教団[2]に属する者であった。

29 主の民に加わった人々の中には、アマレカイ人やアミュロン人、あるいはニーホルの教団に属する者はだれ一人おらず、主の民に加わったのはレーマンとレムエルの実の子孫だけであった。

30 このことから明らかに分かるように、民は一度神の御霊に照らされ[1]、義にかかわることに関して大いなる知識を得てから[2]、その後、罪と背きに陥ると[3]、前よりもいっそうかたくなになる。したがって彼らの状態は、これらのことをまったく知らない場合よりももっと悪くなる[4]のである。

第25章

レーマン人の侵略が広がる。ノアの祭司たちの子孫、アビナダイが預言したように滅びる。多くのレーマン人が改宗し、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民に加わる。彼らはキリストを信じ、モーセの律法を守る。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1 さて見よ、そのレーマン人は自分たちの同胞を殺すことになったのでますます怒り、ニーファイ人への報復を誓った。そして、そのときにはもうアンタイ・ニーファイ・リーハイ人[1]を殺そうとはしなかった。

2 その代わりに、彼らは軍隊を率いてゼラヘムラの地の境を越え、アモナイハの地にいる民を攻めて滅[1]ぼした。

3 その後、彼らはニーファイ人と何度も戦ったが、その戦いで追い払われ、殺された。

4 そして、ノアの祭司であったアミュロンと彼の仲間たちの子孫[1]は、そのほとんど全員が殺されてレーマン人の戦死者の中にいた。彼らはニーファイ人の手によって殺されたのである。

5 また、生き残った者たちは東の荒れ野に逃げ込んで、レーマン人を支配する権力と権能を奪い取り、彼らが信仰を持っているという理由でレーマン人の多くを火あぶりにして殺させた[1]。

6 それというのも、レーマン人の中の多くの者たちが、多くの同胞を失い、非常に多くの苦難を受けた後、かつてアロンと彼の同僚たちが自分たちの地で宣べ伝えた言葉[1]を思い出すに至ったからである。そ

---

28 ① アル1・15、2・1、
20 ① アル1・4
29 ① アル21・4
② アル23・14
30 ① マタ12・45
② ヘブ10・26、アル47・36
③ 2ニフ31・14、アル9・19、GS「背教・背信」
④ 2ペテ2・20—21

第25章
1 ① GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
2 ① アル8・16、16・9
4 ① モサ23・35
5 ① モサ17・15
6 ① アル21・9

して、これらの者たちは、先祖の言い伝えを信じるのをやめて主を信じるようになり、また主がニーファイ人に大きな力を与えられたことを信じるようになったのである。このように、荒れ野の中で大勢のレーマン人が改宗した。

7 さて、アミュロンの子孫の生き残りの者で支配者になった者たちは、まことに、これらのことを信じているすべての人を殺させてしまった。

8 すると、この殉教を見て多くの同胞が怒りをかき立てられ、荒れ野で争いが起こった。そして、レーマン人がアミュロンと彼の仲間の子孫を狩り出して殺し始めたため、彼らは東の荒れ野に逃げ込んでしまった。

9 そして見よ、彼らは今でもレーマン人に追い回されている。このようにして、自分を焼き殺すように仕向けた祭司たちの子孫について、アビナダイの述べた言葉は成就した。

10 アビナダイは、「あなたがたがわたしに行うことは、将来起こることの予型である」と言ったからである。

11 さて、アビナダイは神を信じているという理由で火あぶりにされて死んだ最初の人であった。したがって、彼が言おうとしたことは、多くの人が自分と同じように火あぶりにされて死ぬということである。

12 アビナダイはノアの祭司たちに、彼らの子孫はアビナダイが殺されるのと同じ方法で多くの人を殺すが、その後彼らは、羊飼いのいない羊が野獣に追われて殺されるように、方々に散らされて殺されると述べた。見よ、これらの言葉は実証されたのである。祭司たちの子孫はレーマン人に追われ、狩り出され、打たれたからである。

13 さて、レーマン人はニーファイ人を打ち負かせないことを知ると、再び自分の国に引き揚げた。そして、その中の多くの者がイシマエルの地とニーファイの地に移り住み、神の民、すなわちアンタイ・ニーファイ・リーハイの民に加わった。

14 彼らもまた、その同胞がしたように自分たちの武器を埋め、義にかなった民になった。そして主の道を歩み、主の戒めと主の掟を守るように努めた。

15 また、彼らはモーセの律法も守った。モーセの律法はまだすべては成就していなかったので、彼らは

---

6 ② アル26・24
7 ① アル21・3、24・1、28—30
8 ① ② モサ17・18 GS「殉教者・殉教」
10 ① モサ13・10
11 ① モサ17・13
13 ① アル23・16—17
14 ① アル24・15、26・32

モーセの律法を守る必要があったからである。しかし彼らは、[1]モーセの律法を守っていたにもかかわらず、キリストの来臨を待ち望んでいた。彼らは、モーセの律法はキリストの来臨の予型[2]であると考え、キリストが自分たちに御姿を現されるときまでは、それらの外形上[3]の勤めを守らなければならないと信じていたからである。

16 ところで彼らは、[1]モーセの律法によって救い[2]が得られるとは思っていなかった。しかしモーセの律法は、キリストを信じる信仰を強めるのに役立った。このようにして彼らは、将来起こることについて告げる預言の霊に頼りながら、信仰をもって永遠の救いにあずかることができるという希望[3]を抱き続けたのである。

17 さて見よ、アンモンとアロン、オムナー、ヒムナイ、およびその同僚たちは、主が彼らの祈り[1]に応じて願いをかなえてくださり、またすべてのことについて御自身の言葉を実証してくださったことを知って、彼らがレーマン人の中で得た成功に非常に喜びを得たのであった。

第26章

アンモン、主を誇って喜ぶ。忠実な者は主によって強められ、知識を与えられる。人は信仰によって何千もの人々を悔い改めさせることができる。神は一切の権威を持ち、すべてのことを悟っておられる。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1 さて、アンモンが同僚たちに語った言葉は、次のとおりである。「わたしの兄弟たちと同僚たちよ、わたしはあなたがたに言いたい。わたしたちは大いに喜んでよい。わたしたちは、ゼラヘムラの地を出[1]たときに、神がこれほどまでに大きな祝福を与えてくださると想像できただろうか。

2 さて、わたしは尋ねるが、神はわたしたちにどんな大きな祝福を与えてくださっただろうか。あなたがたはそれを告げることができるだろうか。

3 見よ、あなたがたに代わってわたしが答えよう。わたしたちの同胞のレーマン人は、かつて暗闇の中に、まことに最も暗い、深い淵の中にいた。しかし今は何と多くのレーマン人が神の驚くべき光を見[1]ようになったことか。わたしたちがこの大いなる業

15 ① ヤコ4・5、ジェロ1・11、GS「モーセの律法」
14 ② モサ3・14—15、16・
③ モサ13・29—32
16 ① 2ニフ11・4
② モサ12・31—37、13・27—33
17 ① 1テサ5・8—9
③ アル17・9
第26章
1 ① モサ28・9、アル17・6—11
3 ① アル23・8—13

を成し遂げるために、神の御手に使われる者とされたことは、わたしたちに与えられた祝福である。

4 見よ、何千人[1]ものレーマン人が今喜びを得ており、神の羊の群れに入っている。

5 見よ、畑は熟していた。そして、あなたがたは鎌[2]を入れ、力を尽くして刈り入れ、まことに一日中働いたので、あなたがたは幸いである。見よ、あなたがたの得た束[3]は何と多いことか。それらの束は、無駄にならないように倉に納められるであろう。

6 まことに、それらの束は終わりの日に嵐に打たれることなく、旋風に巻き上げられることもない。嵐[1]が来るときに、それらの束はそのあるべき場所に集められるので、嵐がその束に吹きつけることはない。まことに、敵が追いやろうと思う所に暴風で押しやられることもないであろう。

7 しかし見よ、それらの束は収穫[1]をつかさどる主の御手の中にあり、それらは主のものである。主は終わりの日にそれらの者をよみがえらせてくださる。

8 神の御名がほめたたえられるように。わたしたちの神を賛美して歌[1]おう。神の聖なる御名に感謝[2]をささげよう。神はとこしえに義を行われるからである。

9 もしわたしたちがゼラヘムラの地から来なかったならば、わたしたちを今心から愛してくれている、またわたしたちが深く愛するこの同胞は、今もなおわたしたちに対する憎[1]しみで苦しみ、また神を知らなかったであろう。」

10 そして、アンモンがこれらの言葉を語り終えると、兄弟のアロンが彼をたしなめて言った。「アンモン、あなたは喜びのあまり、我を忘れて誇るようになってしまったのではないか。」

11 そこで、アンモンはアロンに言った。「わたしは自分の力も知恵も誇[1]ってはいない。しかし見よ、わたしの喜び[2]は満ちており、胸は喜びでいっぱいである。だから、わたしは主にあって喜ぼう。

12 まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知っている。わたしは力の弱い者である。だから、わたしは自分のことを誇[1]るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力[2]によって何事でもすることができるからである。まことに見よ、わたしたちはこの地で多くの偉大な奇跡を行ってきた。だから、とこしえに神の御名をほめたたえよう。

---

3 ① 23・10
② 2コリ4・5、モサ4・13、1ニフ17・3
4 ① 23・5
5 ① ヨハ4・35—37、教義33・2、5
② 教義33・7—11、75・4・4
③ ヨエ3・13
6 ① ヒラ5・12、3ニフ24—27
7 ① GS「刈り入れ」
② モサ23・22、アル36・2、5
8 ① 教義25・12
② GS「感謝」
9 ① モサ28・1—2
11 ① 2コリ7・14
② 教義18・14—16、GS「喜び」
12 ① エレ9・24、アル29・9
② 詩篇18・32—40、ピリ4・13、1ニフ17・3

13 見よ、神が地獄[1]の苦痛から解き放してくださった同胞の数は、何千人にも上るではないか。彼らは今、贖いをもたらした愛について歌うようになっている。これはわたしたちの内にある神の御言葉の力のおかげである。だから、大いに喜んでよいのではないだろうか。

14 まことにわたしたちは、とこしえに神をほめたたえて当然である。わたしたちの神はいと高き神であり、わたしたちの同胞を地獄[1]の鎖から解き放してくださった。

15 まことに、わたしたちの同胞はかつて永遠の暗闇と滅びに取り巻かれていたが、しかし見よ、神は彼らを御自分の永遠の光[1]の中に、まことに永遠の救いの中に導いてくださった。そして今、彼らはたぐいない豊かな神の愛に取り巻かれている。そして、わたしたちは神の御手に使われる者となって、この大いなる驚くべき業を行ってきた。

16 だから、わたしたちは誇って喜ぼう。まことに、主を誇[2]って喜ぼう。まことに、わたしたちの喜びは満ちているので、喜びを味わおう。まことに、とこしえに神をほめたたえよう。見よ、主を誇って喜びすぎるということがあり得ようか。まことに、主の大いなる力と、主の憐れみと、人の子らに対する主の寛容について語りすぎるということがあり得ようか。見よ、わたしはあなたがたに言うが、わたしは感じていることの万分の一も言い表せない。

17 神はわたしたちを恐ろしい、罪深い、汚れた状態から救い出してくださったが、神がそのように憐れみ深い御方であられることを、だれが想像できただろうか。

18 見よ、かつてわたしたちは怒って出て行き、ひどい脅迫によって神の教会を滅ぼ[1]そうとした。

19 おお、そのときに神は、なぜわたしたちを恐ろしい滅びに引き渡されなかったのだろうか。まことに、なぜわたしたちに罰の剣を下し、わたしたちを永遠の絶望の淵に落とされなかったのだろうか。

20 おお、そのことを考えると、わたしは消え入ってしまいそうである。見よ、神はわたしたちに御自分の正義を行使されることなく、深い憐れみによって、死と不幸のあの永遠の淵[1]からわたしたちを救いに導いてくださった。

21 さて見よ、兄弟たちよ、生まれながらの人[1]でこれ

13 ① GS「地獄」
② アル5・26
14 ① アル12・11
15 ① GS「光・キリストの光」
16 ① ロマ15・17、1コリ1・31
② 2コリ10・15—18、教義76・61
③ 詩篇36・5—6
18 ① モサ27・8—10
19 ① 2ニフ1・13、ヒラ3・29—30
20 ① 2ニフ1・13、ヒラ3・29—30
21 ① GS「生まれながらの人」

らのことを知っている人がいるだろうか。わたしはあなたがたに言う。悔い改めた人以外、これらのことを知っている人はだれもいない。

22 まことに、悔い改めて信仰を働かせ、善い行いをし、絶えず祈り続ける人には、神の奥義を知ることが許され、まことに、まだ明らかにされていないことを明らかにすることが許される。また、この同胞を悔い改めに導く務めがわたしたちに与えられたように、何千もの人々を悔い改めに導く務めがその人に与えられる。

23 さて、兄弟たちよ、わたしたちがゼラヘムラの地に住む同胞に、わたしたちの同胞であるレーマン人に教えを説くためにニーファイの地へ行くと言ったとき、彼らがわたしたちをあざけり笑ったのを覚えているだろうか。

24 彼らはわたしたちに言った。『あなたがたはレーマン人に真理を知らせることができると思っているのか。今見るとおりの強情な民であるレーマン人に、彼らの先祖の言い伝えが正しくないことを納得させることができると思っているのか。彼らは今でも血を流すことを喜びとしており、日々ひどい罪悪に明け暮れ、彼らの生活は初めから背く者の生活だ。』兄弟たち、あなたがたは彼らがこう言ったのを覚えているはずである。

25 また彼らは、『レーマン人に打ち負かされて滅びることのないように、我々は武器を取って、彼らと彼らの罪悪を地から一掃しよう』とも言った。

26 しかし見よ、愛する兄弟たちよ、わたしたちは同胞を滅ぼすためではなく、わずかな人でも救えるのではないかということで荒れ野にやって来た。

27 そして、わたしたちが意気消沈して、まさに引き返そうとしたときに、見よ、主はわたしたちを慰め、『あなたがたの同胞であるレーマン人の中に行き、忍耐して苦難に耐えなさい。そうすれば、あなたがたに成功を得させよう』と言われた。

28 さて見よ、わたしたちはレーマン人の中に来て方々を巡り、様々な苦難に耐え、あらゆる窮乏をしのいできた。まことに、世の人々の憐れみに頼りながら、家々を訪れた。世の人々の憐れみばかりでなく、神の憐れみにも頼ってきた。

29 そして、わたしたちは彼らの家に入って、彼らを教え、また通りでも、丘の上でも教えた。彼らの神

21 ① 1コリ2・9—16、② ヤコ4・8
22 ① アル36・4—5、GS「悔い改め」 ② GS「信仰」 ③ GS「神の奥義」
24 ① モサ13・29 ② モサ10・11—17
27 ① アル17・9—11 ② GS「忍耐」 ③ アル20・29—30、GS「逆境」

殿や会堂にも入って教えた。そして、わたしたちは追い出され、あざけられ、つばきを吐きかけられ、頬を打たれた。また、石を投げつけられ、捕らえられて丈夫な縄で縛られ、牢に入れられた。その後、わたしたちは神の力と知恵によって、再び救い出された。

30 また、わたしたちはあらゆる苦難に耐えてきた。これはすべて、だれか一人でも救う仲立ちになれるようにと行ってきたことであった。わたしたちは、だれかを救う仲立ちになれたら喜びに満たされるだろうと思った。

31 さて見よ、わたしたちは、自分たちの労苦の成果を見て、それを目にすることができる。その成果はわずかだろうか。あなたがたに言う。いや、その成果は多い、と。また、彼らが同胞とわたしたちに示してきた愛から、彼らの誠実さを見ることができる。

32 見よ、彼らは、敵の命であっても、その命を奪うよりはむしろ自分の命を犠牲にする方を選んだ。そして彼らは、同胞を愛していたので、自分たちの武器を地中深く埋めてしまった。

33 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。これまで全地でこれほどの深い愛があっただろうか。見よ、あなたがたに言う。いや、ニーファイ人の中にさえなかった、と。

34 見よ、ニーファイ人ならば、同胞に対して武器を取るであろう。殺されるに任せることはないであろう。しかし見よ、これらのレーマン人の何と多くが命を捨てたことか。これらの人々は愛があり、罪を憎んでいたので、自分たちの神のみもとに行ったことをわたしたちは知っている。

35 それでも、喜んでよい理由はないのだろうか。あると、あなたがたに言おう。世界が始まって以来、わたしたちほど喜んでよい、立派な理由を持っている者はいない。わたしは神にあって自分の喜びを誇るほどまでに、今喜びに浸り切っている。神は、一切の権威とあらゆる知恵、あらゆる理解を備えておられる。神はすべてのことを悟っておられる。神は憐れみ深い御方であり、悔い改めて神の御名を信じる人々に救いを与えてくださる。

36 さて、もしこれが誇っていることになると言うのであれば、わたしはこれからもこのように誇ろう。この御方はわたしの命、わたしの光、わたしの喜び、

---

30 ① 教義18・15—16
31 ① アルマ23・8—13
32 ① アルマ24・20—24
35 ① GS「力」
② アルマ24・15
③ 教義88・41
③ GS「憐れみ」

わたしの救いであり、またわたしを永遠の苦悩から贖ってくださる御方である。まことに、イスラエルの木の一枝[1]であって、親木から分けられて異郷でさまよっているこの民を心にかけてくださった神の御名がほめたたえられるように。まことに、異郷で流[2]浪の民となっているわたしたちを心にかけてくださったわたしの神の御名がほめたたえられるように。

37さて、兄弟たち、神は民がどの地に住んでいようとも、すべての民[1]を心にかけられることが分かる。まことに、神は御自分の民を数えておられ、神の憐れみの心は全地のうえに及んでいる。これがわたしの喜びであり、わたしの深く感謝しているところである。わたしはとこしえに神に感謝をささげよう。アーメン。」

第27章

主はアンモンに、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民を安全な地に導くように命じられる。アンモン、アルマに出会い、喜びのあまり力を失う。ニーファイ人、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民にジェルションの地を譲り与える。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民は、アンモンの民と呼ばれる。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、ニーファイ人に向かって進んだレーマン人は、ニーファイ人を攻めて、彼らを滅ぼそうと何度も戦闘を繰り返した後、彼らを滅ぼそうとしても無駄であることを知って、ニーファイの地へ引き揚げた。

2そして、アマレカイ人は仲間を失ったことで非常に怒っていたので、ニーファイ人に報復する機会が得られなくなったのを知ると、民を扇動して、[1]同胞であるアンタイ・ニーファイ・リーハイ[2]の民に対して怒りを抱かせた。そこで彼らは、再びアンタイ・ニーファイ・リーハイの民を殺し始めた。

3ところがこの民は、[1]またもや武器を取ることを拒み、相手の思いのままに殺されるに任せた。

4アンモンと彼の同僚たちは、自分たちが非常に深く愛するとともに、また自分たちを非常に深く愛してくれた民の中でこのような殺害が行われているのを見て、すなわち、アンモンと彼の同僚たちは、永遠の滅びからその民を救うために神より遣わされた

---

36 ① 創世49・22—26、ヤコ2・25、5・25
37 ① ② ヤコ7・26
ヨフ26・33、使徒10・34—35、2ニ
第27章
2 ① アル43・11
② アル25・1、GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
3 ① アル24・21—26

天使であるかのような扱いを受けていたので、このようなひどい殺害が行われているのを見て哀れみの情に動かされ、王に言った。

5「この主の民を集めて、わたしたちの同胞であるニーファイ人のいるゼラヘムラの地へ下って行き、滅ぼされることのないように敵の手から逃れましょう。」

6しかし、王は彼らに、「見よ、我らはこれまで、ニーファイ人に対して殺人と罪を度々犯してきたので、ニーファイ人は我らを殺すであろう」と答えた。

7そこでアンモンは、「わたしは行って、主に尋ねましょう。もし主がわたしたちの同胞のところへ行くように言われたら、あなたがたは行かれますか」と尋ねた。

8すると、王は彼に言った。「そうしよう。主がもし行くように言われるなら、我らは同胞のところへ行こう。そして、これまで彼らに対して度々犯してきた殺人と罪の償いを終えるまで、彼らの奴隷になろう。」

9しかし、アンモンは王に言った。「わたしたちの同胞の中に奴隷がいることは、わたしの父が制定した法律に反することです。ですから、行って、同胞の憐れみにすがりましょう。」

10しかし、王は彼に、「主に尋ねてほしい。もし主が行くように言われるなら、我らは行く。そうでなければ、我らはこの地で滅びよう」と言った。

11そこで、アンモンが行って主に尋ねると、主はアンモンにこう言われた。

12「この民が滅びないように、この地を立ち去らせなさい。サタンがアマレカイ人の心をしっかりと捕らえているからである。アマレカイ人はレーマン人を扇動して、その同胞に対して怒りを抱かせ、殺させようとしている。それゆえ、あなたがたはこの地を立ち去りなさい。この時代のこの民は幸いである。わたしがこの民を守るからである。」

13そこで、アンモンは王のもとに行き、主が言われた御言葉をすべて王に告げた。

14すると彼らは、自分たちの民、すなわち主の民を全員集め、また彼らの家畜の群れもすべて集めて、その地を去り、ニーファイの地とゼラヘムラの地を隔てる荒れ野に入って行った。そして彼らは、ゼラヘムラの地の境の近くにやって来た。

4①
9①
アル24・5
38、40 モサ2・13、29・32、

15 そして、アンモンは彼らに言った。「わたしと同
僚たちはゼラヘムラの地へ行きます。あなたがた
は、わたしたちが戻って来るまでここで待っていて
ください。あなたがたがその地に入ることをわたし
たちの国の者が許すかどうか、彼らの気持ちを探っ
て来ます。」
16 そして、アンモンがその地に向かっていたとき
に、彼と同僚たちは、前に述べた場所[1]でアルマに出
会ったのである。そして見よ、これは喜ばしい出会
いであった。
17 アンモンの喜び[1]はたとえようもなく、胸にあふれ
るほどであった。まことに、彼は力が尽きてしまう
ほどに神の喜びにのまれてしまった。そして、彼は
またもや地に倒れた。[2][3]
18 これは非常な喜びではなかっただろうか。見よ、
これは心から悔いて謙遜に幸福を求める者でなけれ
ば得られない喜びである。
19 同僚たちに出会ったときのアルマの喜びはまこ
とに大きく、また、アロンとオムナー、ヒムナイの
喜びも大きかった。しかし見よ、彼らの喜びはその
身の力をしのぐほどではなかった。
20 さて、アルマは同僚たちをゼラヘムラの地へ案内
して帰り、自分の家に連れて行った。それから彼ら
は、大さばきつかさ[1]のもとに行き、自分たちの同胞
であるレーマン人の中にいた間にニーファイの地で
自分たちに起こったことを、すべて彼に話した。
21 そこで大さばきつかさは全地に布告を出し、同胞
であるアンタイ・ニーファイ・リーハイの民を国に
入れることについて民の声を求めた。
22 そして、民の声は次のとおりであった。「見よ、
我々は、東の方の海のそばにあり、バウンティフル
の地の南方にあって、バウンティフルの地と境を接
しているジェルションの地を譲ろう。このジェルシ
ョンの地を受け継ぎの地として同胞に譲ろう。
23 見よ、我々は、ジェルションの地とニーファイの
地の間に軍隊を配備して、ジェルションの地の同胞
を守る。彼らが同胞に対して武器を取ることにより
罪を犯すことになるのを恐れるからである。彼らが
このことをひどく恐れるのは、彼らがかつて多くの
殺人と恐ろしい悪事を行ってきたことについて、つ
らい悔い改めをしたからである。
24 さて見よ、我々は同胞のためにこのようにして、

16 ① アル17・1—4
17 ① GS「喜び」
② 1ニフ1・7
③ アル19・14
20 ① アル4・16—18

彼らがジェルションの地を受け継ぐことができるようにしよう。また、彼らが物資の一部を提供して、我々の軍隊を維持できるように援助するという条件の下に、我々は軍隊をもって彼らをその敵から守ろう。」

25さて、アンモンはこれを聞くと、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民が天幕を張っている荒れ野へアルマと一緒に引き返し、これらのことをすべて彼らに知らせた。そしてアルマもまた、自分がアンモンやアロン、そのほかの同僚たちとともに改心したときのことを彼らに話した。

26さて、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民は非常に喜び、ジェルションの地へ下って行って、そこを所有した。また彼らは、ニーファイ人からアンモンの民と呼ばれたので、その後いつまでもその名によって区別された。

27また彼らは、ニーファイの民の中にあり、神の教会に属する民の中に数えられた。さらに彼らは、神と人々に貢献する熱心さでも秀でていた。彼らはすべてのことについてまったく正直でまっすぐであり、また最後まで確固としてキリストを信じた。

28そして彼らは、同胞の血を流すことを最も忌まわしいことであると考えていた。そこで彼らは、同胞に対して武器を取るように説かれても決してそれに応じなかった。また彼らは、キリストと復活についての望みと思いがあったので、死を少しも恐ろしいと思わなかった。彼らにとっては、死はすでにそれに打ち勝つキリストの勝利にのまれてしまったのである。

29したがって彼らは、剣や三日月刀を取って同胞を討つよりも、むしろ同胞が加える最も無残で痛ましい死を受ける方を望んだ。

30このように、彼らは熱心な愛すべき民であり、主から厚い恵みを受けた民であった。

第28章

レーマン人は激しい戦闘で敗れる。その戦闘で、数万の人々が死ぬ。悪人は無窮の不幸な状態に置かれ、義人は決して終わりのない幸福を得る。紀元前約七十七年から七十六年に至る。

1さて、アンモンの民がジェルションの地に定住

25 ① モサ27・10−24
27 ① GS「正直」
29 ① アル23・6
② アル24・20−23
第28章
1 アル27・22、30・1、
19 ①

し、教会もジェルションの地に設けられ、ニーファイ人の軍隊がジェルションの地の周囲に、まことに、ゼラヘムラの地の周囲の境の全域に配備された後、見よ、レーマン人の軍隊が彼らの同胞を追って荒れ野に進んで来た。

2 このようにして、すさまじい戦闘が始まった。まことに、リーハイがエルサレムを去って以来、この地で人々が一度も経験したことのない規模の戦闘であった。そして、殺され、方々に追い散らされたレーマン人は数万人にも及んだ。

3 また、ニーファイの民にもすさまじい殺戮が及んだが、それでもレーマン人は追い払われ、散らされた。そしてニーファイの民は、再び自分たちの地に帰った。

4 これによって国中至る所に、すなわちニーファイのすべての民の中に大きな嘆きと悲しみの声が起こった。

5 まことに、やもめは夫のことを嘆き、父は息子のことを、娘は兄弟のことを、まことに、兄弟は父のことをそれぞれ嘆いて泣き叫んだ。このようにすべての人の中で、殺された親族のことを嘆く叫び声が聞かれた。

6 さて、これはまことに嘆きに満ちた日であり、まことに、厳粛な時、1)断食と祈りを重ねた時であった。

7 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十五年が終わる。

8 アンモンと彼の同僚たちがニーファイの地を旅したことと、その地で受けた苦しみ、悲嘆、苦難、1)計り知れない喜び、同胞がジェルションの地に迎えられて安全に暮らしたことについての話は、以上のとおりである。万人の贖い主である主が、とこしえに彼らを祝福してくださるように。

9 ニーファイ人の中の戦争と争い、およびニーファイ人とレーマン人の間の戦争についての話は以上のとおりである。これで、さばきつかさの統治第十五年が終わる。

10 さばきつかさの統治の第一年から第十五年までの間に、何千もの人々が殺された。まことに、その間に流血の惨事もあった。

11 そして、何千もの遺体が地中に葬られたが、地の面に積み上げられたまま1)朽ちている遺体も何千とある。また、身内を失ったことで2)嘆いている人々も何

3① アルマ30・1
6① アルマ30・2
8① アルマ27・16—19
11① アルマ16・11
45② アルマ48・23、教義42・45—46

千人といる。彼らが嘆くのは、主の約束によってその親族が無窮の不幸な状態に置かれることを恐れる理由があるからである。

12 また一方では、親族を失ったことをまことに悲しみながらも、彼らがよみがえって、決して終わることのない幸福な状態で神の右に住むであろうという望みに喜びを感じ、また主の[1]約束によってそれを知ってさえいる人々が何千人もいる。

13 以上のことから、悪魔が人の心を捕らえようとして企てた狡猾な[1]策謀によって生じる、罪と背きと悪魔の力とのために、人々の[2]差異がどれほど大きくなるものであるかが、わたしたちに分かるのである。

14 また以上のことから、主の[1]ぶどう園で働く人々が勤勉であるように大いに求められていることも分かる。さらに、悲しみの大きな原因と喜びの大きな原因についても分かる。悲しみは人々の中の死と滅亡のために生じ、喜びは命に至る[2]キリストの光のために生じるのである。

第29章

アルマ、天使のような熱意をもって悔い改めを叫ぶことを望む。主はすべての国民のために教える人々を与えられる。アルマ、主の業を誇り、またアンモンと彼の同僚たちの成功を誇る。紀元前約七十六年。

1 「おお、わたしが天使であって、わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは、出て行って、神のラッパのように地を震わせる声で語り、すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

2 まことに、わたしは雷のような声で、あらゆる人に悔い改めと贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのないように、悔い改めて神のみもとに来ることを[1]彼らに勧めたい。

3 しかし見よ、わたしはただの人であり、このように願うことさえも罪である。わたしは主から与えられたもので満足すべきだからである。

4 わたしは、公正な神の堅い定めを、わたしの願いによって乱してはならないのである。人が死ぬことを望もうと生きることを望もうと、神が彼らの[1]望むままにされることを知っているからである。まことに、人々が救いを望もうと滅びを望もうと、神は彼

12 1 アル11・41
13 1 2ニフ9・28
14 1 GS「ぶどう園（果樹園）（主の）」
2 GS「光・キリストの光」

第29章
2 1 オム1・26、3ニフ21・20
4 1 詩篇37・4

らの意[2]のままに、不変の定めを彼らに布告されるということをわたしは知っている。

5 またわたしは、善と悪がすべての人の前にあることも知っている。善悪の分からない人は、罪のない状態にある。しかし、[1]善悪の分かる人には、善を望もうと悪を望もうと、生を望もうと死を望もうと、喜びを望もうと[2]良心のとがめを望もうと、自分の望むままに与えられるのである。

6 さて、わたしはこれらのことを知っていながら、どうして自分の召された務めを果たすこと以上に多くのことを望んでよいだろうか。

7 わたしはどうして、天使になって地の果てに至るすべての人に語ることができればと願ってよいだろうか。

8 見よ、主は[1]すべての国民に、その国民を使い、その国民の[2]言葉を使って主の御言葉を教えることを許されるからである。まことに、主は賢明にも、御自分が彼らにとって[3]ふさわしいと思われるすべての事柄を教えることを許される。したがって、賢明にも主は正しく真実なことに応じて勧告されるということが、わたしたちには分かるのである。

9 わたしは主から命じられた事柄を知っており、それに誇りを感じている。わたしは自分自身のことを[1]誇らないで、主から命じられた事柄を誇る。神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りであり、喜びである。

10 見よ、わたしは、多くの同胞が心から悔いて、主なる神のみもとに来るのを見るとき、喜びに満たされる。またそのとき、わたしは主がわたしのために[1]行ってくださったこと、すなわちわたしの祈りを聞き届けてくださったことを思い出す。まことに、わたしはそのときに、主がかつてわたしに憐れみ深い御腕を伸べてくださったことを思い出す。

11 わたしはまた、先祖が囚われの状態にあったことも思い出す。[1]主がわたしの先祖を奴隷の状態から救い出し、そうすることによって御自分の教会を設けられたことを、わたしは確かに知っているからである。まことに、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主なる神は、わたしの先祖を奴隷の状態から救い出してくださったのである。

12 まことにわたしは、先祖が囚われの状態にあったことをいつも思い出す。わたしの先祖をエジプト人

4 ② GS「選択の自由」
5 ① 2 ニフ 2・18、26、モロ 7・15−19、GS「識別の賜物」
8 ① ② 2 ニフ 29・12
9 ① ③ ② 教義 90・11、アル 12・9−11
10 ① アル 26・12
11 ① モサ 27・11−31
5・3−5 モサ 24・16−21、アル

の手から救い出してくださったその同じ神が、わたしの先祖を奴隷の状態からも救い出してくださった。

13 まことに、その同じ神がわたしの先祖の中に御自分の教会を設けられた。また、その同じ神が、この民に御言葉を宣べ伝えるために、聖なる召しによってわたしを召し、わたしに大きな成功を得させてくださった。そして、その成功によってわたしは喜びに満たされている。

14 しかしわたしは、自分の成功だけを喜ぶことはしない。ニーファイの地へ行ったわたしの兄弟たちの成功で、わたしはなおさら喜びに満たされている。

15 見よ、彼らは非常によく働き、大きな成果を得た。将来彼らの得る報いは何と大きいことだろう。

16 さて、この兄弟たちの成功を考えると、わたしの喜びは大きくて、まるで自分の霊が肉体を離れるかと思うほどに我を忘れてしまう。

17 わたしの兄弟であるこれらの人々が神の王国で座に着くことを、神がお許しくださり、また彼らの労苦の結ぶ実であるすべての人が、もはや二度と出て行くことなく、とこしえに神をほめたたえることもお許しくださるように。神がわたしの言葉のとおりに、すなわち、わたしがこれまで語ってきたようになることをお許しくださるように。アーメン。」

第30章

反キリストのコリホル、キリストと贖罪と預言の霊をあざける。コリホル、神は存在せず、人の堕落はなく、罪に対する罰はなく、キリストも存在しないと教える。アルマ、将来キリストが来られることと、万物が神の存在を示していることを証する。コリホル、しるしを求め、物が言えなくなる。悪魔が天使のようにコリホルに現れ、語ることを彼に教えていた。コリホル、踏みつけられて死ぬ。紀元前約七十六年から七十四年に至る。

1 さて見よ、アンモンの民がジェルションの地に定住した後、またレーマン人がその地から追い払われ、レーマン人の死体がその地の民によって葬られた後、

2 レーマン人の死体はおびただしい数であったので

12 ① 出エ14・30—31
13 ① 教義18・14—16
14 ① アル17・1—4

第30章
1 ① アル27・25—26、GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
② アル28・1—3

数えられることなく、ニーファイ人の死者も数えられなかったが、その地の民が彼らの死者を葬った後、そして断食と喪と祈りの日々が終わった後、（ニーファイの民のさばきつかさの統治第十六年には）全地に平和が続くようになった。

3 そして民は、主の戒めを守るように努め、またモーセの律法に従って神の儀式を厳密に守った。彼らはモーセの律法が成就するまで、その律法を守るように教えられていたからである。

4 このように、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十六年には、一年間、国民の間にまったく不和がなかった。

5 そして、さばきつかさの統治第十七年の初めも、引き続き平和であった。

6 ところが、第十七年の末に、ゼラヘムラの地に一人の男がやって来た。その男は反キリストであった。彼は預言者たちがキリストの来臨について語った預言に反対して、民に教えを説き始めた。

7 このときには、人の信条を禁止する法律はなかった。人々を不平等な立場に置く法律があることは、まったく神の戒めに反していたからである。

8 聖文には、「あなたがたの仕える者を、今日、選びなさい」とある。

9 そこで、もし人が神に仕えたいと思うならば、神に仕える特権があった。いや、その人が神を信じるならば、神に仕える特権があった。しかし、たとえ人が神を信じなくても、その人を罰する法律はなかった。

10 しかし、人殺しをすれば、その人は死刑に処せられた。また、略奪する者も罰せられ、盗む者も罰せられ、姦淫を行う者も罰せられた。まことに、すべてこのような悪事を行う者は罰せられた。

11 人々は罪科に応じて裁かれるという法律があったからである。にもかかわらず、人の信教に反対する法律はなかった。したがって、人は自分の行った犯罪についてだけ罰せられたので、すべての人が平等な立場にあった。

12 そして、名前をコリホルというこの反キリストは、（法律は彼をまったく拘束できなかったので）キリストはいないと民に教えを説き始めた。そして、彼は次のように述べた。

13 「おお、愚かでむなしい希望の下に縛られている

3 ① GS「モーセの律法」
② 2ニフ25・24−27、アル25・15
6 ① GS「反キリスト」
7 ① アル1・17
8 ① ヨシ24・15、GS「選択の自由」
10 ① GS「死刑」
11 ① モサ29・32

人々よ、あなたがたはどうしてこのような愚かなことに束縛されているのか。あなたがたはどうしてキリストを待ち望んでいるのか。だれも将来起こることを知ることはできない。

14 見よ、あなたがたが預言と呼び、聖なる預言者から伝えられたと言っているこれらのことは、見よ、あなたがたの先祖の愚かな言い伝えである。

15 あなたがたはどのようにしてそれが確かであると分かるのか。見よ、あなたがたはまだ見ていない物事を知ることはできない。だから、将来キリストが現れるということを前もって知ることはできないのである。

16 あなたがたは将来を見通して、自分たちの罪が赦されるのが分かると言う。しかし見よ、それは精神がおかしくなっている結果である。このような精神の錯乱は、実際にはないことを信じるように惑わす、あなたがたの先祖の言い伝えのために生じたものである。」

17 コリホルはこのようなことをほかにも多く民に語り、人々の罪のために行われる贖罪などあり得ないこと、人は皆、この世の生涯を善く暮らすも悪く暮らすも、その人の対処の仕方次第であるから、人は皆自分の素質に応じて栄え、自分の力に応じて勝利を得ること、また人がすることはどんなことも決して罪にならないことを民に告げた。

18 彼は民にこのように説いて、多くの人の心を惑わし、平然と悪事を犯させ、まことに、多くの男女を惑わしてみだらな行いをさせた。そして、人が死ねばそれで終わりである、と民に語った。

19 またこの男は、かつてレーマン人であったアンモンの民の中でこのことを教えようとして、ジェルシヨンの地へも行った。

20 しかし見よ、アンモンの民は多くのニーファイ人よりも賢明であった。彼らはコリホルを捕らえて縛り、その民の大祭司であるアンモンの前に連れて行った。

21 そこでアンモンは、彼をその地から連れ出させた。そこで彼はギデオンの地へ行き、その地の民にも教えを説き始めた。しかし、ここでもあまり成果は上がらなかった。彼は捕らえられて縛られ、その地の大祭司と大さばきつかさの前に連れて行かれたからである。

15① エテ12・5—6

22そこで、大祭司はコリホルに、「なぜあなたは方々歩き回って主の道を曲げようとしているのか。なぜキリストは現れるはずがないとこの民に教えて、彼らの喜びを妨げるのか。なぜ聖なる預言者たちのすべての預言に逆らって語るのか」と尋ねた。
23この大祭司の名はギドーナであった。コリホルはギドーナに答えた。「その訳は、わたしがあなたがたの先祖の愚かな言い伝えをこの民に教えていないからであり、また昔の祭司たちによって設けられた愚かな儀式と勤めに自分自身を縛りつけるように、この民に教えていないからである。昔の祭司たちは民を支配する権力と権能を奪い取り、民がその頭を上げることなくあなたの言葉に従うようにするために、民を無知の中にとどめておこうとして、それらの儀式と勤めを設けたのだ。
24あなたがたは、この民は自由の民であると言う。見よ、わたしに言わせれば、この民は奴隷の状態にある。あなたがたは昔の預言は真実であると言う。見よ、それらが真実であることはあなたがたには分からない、とわたしは言おう。
25あなたがたは、この民は親の背きのために罪のある堕落した民になっていると言う。見よ、子は親のために罪を負わない、とわたしは言おう。
26またあなたがたは、将来キリストが来るとも言っている。しかし見よ、将来キリストが来ることはあなたがたには決して分からない、とわたしは言う。あなたがたはまた、キリストが世の罪のために殺されるとも言っている。
27このようにしてあなたがたは、先祖の愚かな言い伝えによって、あなたがたの望むままにこの民を惑わしている。そしてあなたがたは、この民の労苦で飽きるほどに食べようと、まるで奴隷ででもあるかのように民を抑圧している。そのため、民はあえて勇気を奮って頭を上げようとせず、またあえて自分たちの権利と特権を享受しようともしない。
28まことにこの民は、祭司たちを怒らせるのを恐れて、自分自身のものもあえて使おうとしない。この祭司たちは自分たちの望むままに民にくびきをかけ、また自分たちの言い伝えと幻想と気まぐれと空想と偽りの奥義によって、もし民が祭司たちの言葉のとおりに行わなければ、民は神と呼ばれる未知の存在者を怒らせることになると民に信じ込ませた。

26① イザ53・4—7

しかし、彼らの言う神は、いまだかつて人が見たこともなく知ってもおらず、過去にも現在にも未来にも決して存在しない者である。」

29さて、大祭司と大さばきつかさは、コリホルの心がかたくなであるのを見ると、また彼が神さえものしろうとするのを見ると、彼の言葉にまったく応じることなく、彼を縛らせて役人の手に引き渡し、ゼラヘムラの地へ送った。それは、彼をアルマと全地の総督である大さばきつかさの前に引き出すためであった。

30さてコリホルは、アルマと大さばきつかさの前に引き出されても、ギデオンの地で語ったように語り、不敬な言葉を吐き続けた。

31また彼は、アルマの前で大言壮語し、祭司たちと教師たちをののしり、彼らは民の労苦によって飽きるほど食べるために先祖の愚かな言い伝えで民を惑わしていると言って彼らを非難した。

32そこで、アルマは彼に言った。「あなたは我々が民の労苦で飽きるほど食べるようなことはしていないことを知っている。見よ、わたしは、民に神の御言葉を告げ知らせるために何度も国の方々を旅したが、さばきつかさの統治の初めから今に至るまで、自分の手で働いて生活の糧を得てきた。

33またわたしは、教会で多くの務めを果たしてきたが、これまで自分の働きに対して一セナイン[1]も報酬を受けたことはなかった。わたしの同胞も、さばきつかさの職を務める者のほかは皆そうである。そして、さばきつかさの職にある者も、法律に定められたとおり、務めた時間の分の報酬を受けるだけである。

34では、もし教会での働きに対して何も報酬を受けないとすれば、我々は、真理を告げ知らせて同胞の喜ぶのを見て喜びとするほかに、どのような得があって教会で働くのであろうか。

35また、あなた自身、我々が何の報酬も受けていないことを知っているのに、どうして我々が利を得るためにこの民に教えを説いていると言うのか。また、あなたは、この民の心の中にこのような喜びが満ちているのは、我々がこの民を欺いているためだとでも思っているのか。」

36するとコリホルはアルマに、「そのとおり」と答えた。

30① GS「冒瀆・汚す罪」
31① ヒラ13・22
33① アル11・3
34① GS「喜び」

37そこで、アルマは彼に、「あなたは神がましますことを信じるか」と尋ねた。
38すると彼は、「いや」と答えた。
39また、アルマは彼に言った。「あなたは神がましますことをまたもや否定し、キリストも否定するのか。見よ、あなたに言う。わたしは神のましますことと、将来キリストが来られることを知っている。
40あなたは何の証拠があって神は実在せず、またキリストは来られないと言うのか。あなたの言葉のほかには何一つ証拠がないと、わたしはあなたに告げる。
41しかし見よ、わたしはすべての事物をもって、これらのことが真実であると証する。[1]また、これらのことが真実であることを証するすべての事物があなたにもあるのである。それでもあなたは、これらのことを否定するつもりか。あなたはこれらのことが真実であることを信じるか。
42見よ、わたしは、あなたが信じていることを知っている。ところがあなたは偽りを言う霊に取りつかれている。あなたが自分に神の御霊が宿らないように遠ざけてしまったので、悪魔があなたを支配する力を持ったのである。そして、悪魔は神の子たちを滅ぼすために様々な策略を働かせ、あなたを方々に行かせるのである。」
43すると、コリホルはアルマに、「もしあなたが、神のいることを確信させるしるし[1]をわたしに見せ、まことに、神に力のあることを示してくれるなら、あなたの言葉が真実であることを納得するだろう」と言った。
44しかし、アルマは彼に言った。「あなたはすでに数々のしるしを十分に持っている。あなたは神を試みようとするのか。あなたの同胞であるこのすべての人の証と、すべての聖なる預言者たちの証があるのに、あなたは『しるしを見せてくれ』と言うのか。あなたの前に聖文が置いてある。まことに、[2]万物は神がましますことを示している。まことに、[3]大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と[4]運行しているすべての[5]惑星も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。
45それでも、あなたは方々を歩き回ってこの民の心を惑わし、神は実在しないと彼らに証するつもりか。また、あなたはそれでも、このように証するす

40① 詩篇14・1
41① GS「証人・証」
41① ヤコ7・13—21、教義46・8—9、GS「しるし」
43① 44① 「し」
47② モサ13・33—34
③ 詩篇19・1、教義88・41
④ ヨブ12・7—10
⑤ ヒラ12・11—15
モセ6・63

べてのものに逆らって否定するつもりか。」するとコリホルは、「そのとおり。しるしを見せてくれないかぎり、わたしは否定する」と答えた。

46そこでアルマは彼に言った。「まことに、あなたの心がかたくなであって、なおも真理の霊に逆らって霊の滅びを招こうとしていることを、見よ、わたしは嘆かわしく思う。

47しかし見よ、あなたが仲立ちになって、あなたの偽りとへつらいの言葉により多くの人を滅びに至らせるよりは、むしろあなた自身が滅びる方がよい。したがって、もしあなたがもう一度否定するならば、まことに神はあなたを打たれるであろう。あなたは物が言えなくなり、二度と口を開くことができず、もはやこの民を欺くことができなくなるであろう。」

48ところが、コリホルはアルマに、「わたしは神の存在を否定はしないが、神がいるとは信じない。だから、神がいることはあなたたちには分からないと言っているのだ。しるしを見せてくれなければ、わたしは信じない」と言った。

49そこで、アルマは彼に、「あなたにしるしを示そう。あなたはわたしの言うとおり物が言えなくなるというのがそれである。わたしは神の御名によって言う。あなたは物が言えなくなり、今後二度と口を利くことができないであろう」と言った。

50アルマがこの言葉を言い終えると、アルマの言葉のように、コリホルは物が言えなくなり、語ることができなくなった。

51さて、大さばきつかさはこれを見ると、手を差し伸べてコリホルに書き示し、「あなたは神の力を認めるか。あなたはだれにしるしを示すようにアルマに求めたのか。あなたにしるしを示すために、彼がほかの人々を苦しめることを願ったか。見よ、彼はもうすでにあなたにしるしを示した。それでもなおあなたは反論するか」と告げた。

52するとコリホルも、手を差し伸べて書き示し、言った。「わたしは今、話すことができないので、物が言えなくなったことを認めます。また、神の力によるのでなければ、わたしにこのようなことが決して起きないことも、わたしは知っています。また、わたしは神がましますことを前から知っていました。

53しかし見よ、悪魔がわたしを欺いたのです。悪魔は天使の姿でわたしに現れて、『この民は皆、未知の

47①1ニフ4・13
52①30・42アルマ
53①7・14ヤコ
②2コリ11・14、2ニフ9・9

神を求めて迷っているので、行って改心させよ』と言いました。また悪魔はわたしに、『[3]神はいない』と言い、わたしが言うべきことも教えてくれました。そこで、わたしは悪魔の言葉を教えてきました。わたしは、悪魔の言葉が肉の[1]思いに快いので、それを教えてきたのです。また、わたしはそれを教えてついに大きな成功を収めたので、自分でもそれが真実だとまったく信じるようになりました。このようなわけで、わたしは真理に逆らい、とうとうこの大きなのろいを招いてしまいました。」

54 さて、コリホルはこのように言うと、そののろいが取り去られるように神に祈ってほしいとアルマに懇願した。

55 しかし、アルマは彼に、「こののろいがあなたから取り去られると、あなたはまた、この民の心を惑わすようになるであろう。だから、主が望まれるとおりになるがよい」と言った。

56 そして、そののろいはコリホルから取り去られなかった。そして、彼は追い出され、食べ物を請うて家々を巡るようになった。

57 一方、コリホルの身に起こったことは、すぐ全地に告げ知らされた。まことに、大さばきつかさが国のすべての人に布告を出し、コリホルの言葉を信じた人々に、同じ裁きを受けることのないように速やかに悔い改めなければならないと告げたのである。

58 そこで彼らは皆、コリホルの悪事を認め、再び主に帰依するようになった。そして、これによってコリホルに倣った罪悪は後を絶った。コリホルは家々を巡り、食べ物を請うて命をつないだ。

59 さて、ニーファイ人から分かれ、ゾーラムという名の男に率いられて自分たちをゾーラム人と呼ぶようになった民があったが、コリホルはその民の中を歩き回っていたときに、見よ、突き倒されて踏みつけられ、とうとう死んでしまった。

60 このことから、主の道を曲げる者の末路が分かる。また、[1]悪魔は終わりの日には自分の子らを助けようとせず、速やかに[3]地獄に引きずり込むということも、わたしたちに分かるのである。

第31章

アルマ、神の教えに背いているゾーラム人を改心させるために、先頭に立って伝道の業に従事する。ゾー

---

53 ③ 詩篇10・4
60 ① ④ GS「現世的」
② GS「悪魔」
アル3・26−27、5・41−42、教義29・45
③ GS「地獄」

ラム人、キリストを否定し、選民についての間違った考えを信じ、決まり文句の祈りで礼拝する。宣教師たち、聖なる御霊に満たされる。彼らの苦難はキリストの喜びにのまれてしまう。紀元前約七十四年。

1 さて、コリホルの死後、アルマは、ゾーラム人が主の道を曲げており、また彼らの指導者であるゾーラムが人々の心を迷わせて、物の言えない偶像を拝ませているという知らせを受けたので、その民の罪悪のために再び心を痛めた。

2 自分の民の中に罪悪があるのを知ることは、アルマにとって深い嘆きの種であったからである。したがって、ゾーラム人がニーファイ人から別れたことで、彼は心に非常な悲しみを覚えた。

3 ところで、ゾーラム人は彼らがアンテオヌムと名付けた地に集まっていた。その地はゼラヘムラの地の東にあり、ほとんど海岸に接しており、ジェルションの地の南にあって、南方の荒れ野にも接していた。その南方の荒れ野にはレーマン人が大勢いた。

4 そこでニーファイ人は、ゾーラム人がレーマン人と行き来し、そのためにニーファイ人の側に大きな損害が出るのではないかとひどく恐れた。

5 ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。

6 それでアルマは、アンモンとアロンとオムナーを連れて出かけた。アルマはヒムナイをゼラヘムラの教会に残して、先の三人とミレクにいたアミュレクとゼーズロム、および自分の二人の息子を連れて行ったのである。

7 このとき、アルマは長男を連れて行かなかった。その長男の名はヒラマンという。また、彼が連れて行った息子たちの名は、シブロンとコリアントンである。以上が、ゾーラム人に御言葉を宣べ伝えるために、アルマと一緒にゾーラム人の中に出かけて行った人々の名である。

8 さて、ゾーラム人はニーファイ人から離反した者たちであったので、彼らは以前に御言葉を聞いていた。

第31章

1 ① 2ニフ9・37、GS「偶像礼拝」
② 出エ20・5、モサ13・
13 アル35・15
2 ① モサ28・3、3ニフ
17・14、モセ7・41
③ ヘブ4・12、ヤコ2・
5 ① 8、アル36・26
② エノ1・23、アル4・
19 GS「宣べ伝える」
③ ジェロ1・11—12、教義11・2
7 ① GS「ヒラマン（アルマの息子）」
② アル30・59
8 ① アル24・30

9 しかし彼らは、モーセの律法に従って神の戒めと神の掟を守ろうと努めなかったので、大きな過ちに陥っていた。
10 また彼らは、誘惑に陥らないために神への祈りと嘆願を日々続けるようにという教会の決まりを守ろうとしなかった。
11 要するに、彼らは非常に多くの点で主の道を曲げていた。それでアルマと彼の同僚たちは、彼らに御言葉を伝えようとしてその地に入って行ったのである。
12 さて、彼らがその地に入ってみると、見よ、驚いたことに、ゾーラム人は会堂を幾つも建てており、一週のうちの一日を主の日と呼んで、その日に集まることにしていた。そして彼らは、アルマと彼の同僚たちがまだ一度も見たことのない方法で礼拝していた。
13 彼らは会堂の中央に一つの場所、すなわち立ち台を設けていた。それは人の背丈よりも高く、その上の部分は人が一人しか立てない広さであった。
14 そして、礼拝したいと思う者はだれでも、進み出てその台の上に立ち、両手を天に向けて伸ばし、大声で次のように叫ばなければならなかった。
15 「聖なる、聖なる神よ、わたしたちはあなたが神でましますことを信じています。あなたが聖なる御方であり、あなたが過去に霊であり、現在も霊であり、将来もとこしえに霊であられることを、わたしたちは信じています。
16 聖なる神よ、わたしたちは、あなたがわたしたちを同胞から分けられたことを信じています。わたしたちは、同胞の先祖が愚かにも同胞に伝え、彼らが今もなお受け入れている言い伝えを信じていません。しかし、あなたがわたしたちをあなたの聖なる子となるように選ばれたこと、またわたしたちにキリストが現れることはないと知らせてくださったことを、わたしたちは信じています。
17 またあなたは、昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方でまします。あなたはわたしたちを選んで、わたしたちが将来救われるようにしてくださいました。一方、わたしたちの周りの者は皆、あなたの怒りによって地獄に投げ込まれるように定められています。おお、神よ、わたしたちを聖い者としてくださったことを、わたしたちは感謝します。また、

9① GS「背教・背信」
14① マタ6・1—7
16① イザ65・3、5
17① アル38・13—14
17② GS「うぬぼれ」

わたしたちを選んで、同胞の愚かな言い伝えに惑わされることのないようにしてくださったことを感謝します。その愚かな言い伝えは彼らを束縛してキリストを信じさせ、彼らの心を神でましますあなたから遠く引き離しています。

18 おお、神よ、今一度、わたしたちが選ばれた聖なる民であることをあなたに感謝します。アーメン。」

19 さて、アルマと同僚たちと彼の息子たちは、この祈りを聞いて非常に驚いた。

20 見よ、すべての男が進み出て、この同じ祈りをささげたからである。

21 ところで、ゾーラム人はその場所をラミアンプトムと名付けた。それは聖台という意味である。

22 さて、彼らは一人残らずこの台からまったく同じ祈りを神にささげ、自分たちが神から選ばれていること、また神が自分たちを同胞の言い伝えに惑わされないようにされたこと、また心を奪われて、自分たちのまったく知らない将来のことを信じるように仕向けられることのなかったことを、自分たちの神に感謝した。

23 人々は皆この方法で感謝をささげてから各々の家に帰ったが、その後は、再びその方法で感謝をささげるためにその聖台に集まるまで、神のことをまったく口にしなかった。

24 さて、アルマはこれを見ると、1)心が痛んだ。彼らが邪悪でよこしまな民であるのを見たからである。まことに彼らが、金銀そのほかあらゆる立派な品々に執着しているのを見たからである。

25 アルマはまた、彼らが心を高ぶらせて、非常に誇るようになり、高慢になっているのも見た。

26 そこでアルマは、天に向かって声を上げ、1)叫び求めた。「おお、いつまで、おお、主よ、あなたは僕たちが肉にあってこの地上で暮らし、人の子らの中でこのようなひどい悪事を見るのをそのままにしておかれるのでしょうか。

27 まことに、おお、神よ、この民はあなたに1)叫び求めていますが、その心は高慢にのまれています。まことに、おお、神よ、彼らは口ではあなたに叫び求めながら、俗世のむなしいものをもって、甚だしく2)誇り高ぶっています。

28 まことに、おお、わたしの神よ、彼らの高価な衣服と小環、1)腕輪、金の装身具、そのほか装飾に用い

23 1) 新ヤコ1・21—25
24 1) 創世6・5—6
25 1) ヤコ2・13、アル1・32
26 1) モセ7・41—58
27 1) イザ29・13
28 1) GS「高慢」
2) イザ3・16—24

るすべての高価な品々を御覧ください。まことに、彼らはそれらのものに執着していながら、あなたに叫び求め、『おお、神よ、ほかの人々は滅びますが、わたしたちはあなたにとって選ばれた民であることを、あなたに感謝します』と言っています。

29 また彼らは、キリストは現れることはないと、あなたが彼らに示されたと言っています。

30 おお、主なる神よ、いつまでこのような悪事と不信仰がこの民の中にあるのをお許しになるのでしょうか。おお、主よ、わたしが自分の弱さに耐えられるように、どうかわたしに力をお与えください。わたしは弱い者であり、この民の中のこのような悪がわたしを苦しめます。

31 おお、主よ、わたしの心は非常に嘆いています。どうか、キリスト[1]にあってわたしを慰めてください。おお、主よ、この民の罪悪のためにこれから先わたしに降りかかるこれらの苦難を、忍耐をもって乗り切ることができるように、どうか力を得させてください。

32 おお、主よ、どうかわたしを慰め、わたしに成功を収めさせてください。また、わたしとともにいる同僚のアンモンとアロン、オムナー、アミュレク、ゼーズロム、および二人[1]の息子たちにも成功を収めさせてください。おお、主よ、これらの人々をすべて慰めてください。どうかキリストにあって彼らを慰めてください。

33 民の罪悪のために彼らに降りかかる苦難に耐えることができるように、どうか彼らに力を得させてください。

34 おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功[1]を収められるようにしてください。

35 まことに、おお、主よ、彼らは貴い[1]人々であり、その多くはわたしたちの同胞です。ですから、おお、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」

36 さて、アルマはこれらの言葉を述べ終えると、ともにいたすべての人に手[1]を置いた。すると見よ、アルマが手を置いたので、彼らは聖なる御霊に満たされた。

37 その後、彼らはそれぞれ分かれて出かけたが、何

31 ① ヨハ16・33
32 ① アル31・7
34 ① 2ニフ26・33
35 ① GS「人（霊を持つ存在としての）—人の価値」
36 ① GS「按手」
② 3ニフ18・36—37

を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかなど
と思い煩うことはまったくなかった。
38 彼らが飢えることも渇くこともないように、主が
彼らのために備えをされたのである。また主は、彼
らに力を与え、キリストの喜びにのまれてしまう苦
難のほか、彼らがどのような苦難も受けることがな
いようにされた。これはアルマの祈りによるもので
あった。彼が信仰をもって祈ったので、このように
なったのである。

第32章

アルマ、多くの苦しみを受けて謙遜になった貧しい人々を教える。信仰とはまだ見ていない真実のことを待ち望むことである。アルマ、天使たちが男も女も、子供たちをも教え導くことを証する。アルマ、御言葉を種にたとえる。それは植えて養いを与えなければならない。そうすればそれは生長して木になり、永遠の命の実を得ることができる。紀元前約七十四年。

1 さて、アルマと同僚たちは出て行って、ゾーラム人の会堂や彼らの家に入り、人々に神の言葉を宣べ伝え始めた。彼らはまた、通りでも御言葉を宣べ伝えた。
2 そして、人々の中で多くの労苦を重ねた末、彼らは貧しい階層の人々の中で成功を収め始めた。見よ、これらの人々は、衣服が粗末であるために会堂から追い出されていたからである。
3 これらの人々は衣服が粗末なため汚れた者と見なされ、会堂に入って神を礼拝することを許されていなかった。彼らは貧しく、同胞からかすのように見なされていたので、この世のものに関して貧しく、心が謙遜であった。
4 さて、アルマがオナイダの丘で人々に教え、語っていたときに、今述べた人々、すなわちこの世のものに関して貧しいために心が謙遜になっている人々が、大きな群れを成してアルマのもとにやって来た。
5 そして、彼らはアルマのもとにやって来ると、その群衆の中心になっている一人の人がアルマに言った。「まことに、ここにいるわたしの仲間は、どうすればよいのでしょうか。この人々は、貧乏であるためにすべての人から見下されています。とりわけ

37 ① マタ6・25—34、3ニフ13・25—34
38 ① マタ5・10—12、モサ24・13—15、アル33・23
② GS「信仰」
第32章
2 ① GS「貧しい」
3 ① アル34・40
4 ① GS「貧しい—心が謙遜な状態」
5 ① 箴言18・23

祭司たちに嫌われています。祭司たちは、わたしたちが自分の手を使って大いに働いて建てた会堂から、わたしたちを追い出しました。わたしたちがひどく貧乏だからということで、わたしたちを追い出したのです。わたしたちには神を礼拝する場所がどこにもありません。どうすればよいでしょうか。」

6 アルマはこれを聞くと、振り返って彼の方に面と向かい、非常に喜びながらじっと彼を見詰めた。彼らが多くの苦しみを受けて心がへりくだっており、御言葉を聞く用意のできていることが、アルマに分かったからである。

7 そこでアルマは、もうほかの群衆にそれ以上語るのをやめ、しかし、目の前にいる、心から悔い改めている彼らに向かって手を伸ばして大声で言った。

8 「わたしの見るところ、今あなたがたの心はへりくだっている。もしそうならば、あなたがたは幸いである。

9 見よ、あなたがたの仲間の一人は、『どうすればよいでしょうか。わたしたちは会堂から追い出され、自分たちの神を礼拝できません』と言った。

10 見よ、あなたがたに尋ねたい。あなたがたは自分たちの会堂でしか神を礼拝することができないと思っているのか。

11 そして、さらに尋ねたい。あなたがたは週に一度しか神を礼拝してはならないと思っているのか。

12 あなたがたに言う。会堂から追い出されていることは、あなたがたが謙遜になれるので、また知恵を得られるのでよいことである。あなたがたが知恵を得ることは必要だからである。あなたがたが今へりくだった心でいるのは、追い出されているためであり、また非常に貧しいために同胞から見下されているためである。あなたがたは、やむを得ずへりくだっている。

13 さて、やむを得ずへりくだっているので、あなたがたは幸いである。人は時々、やむを得ずへりくだっていても悔い改めようとするからである。そして、悔い改める人はだれでも、必ず憐れみを受ける。そして、憐れみを受けて最後まで堪え忍ぶ人は救われる。

14 わたしは、あなたがたがやむを得ずへりくだっているので幸いであると言ったが、御言葉のために自

---

5 ② アル 33・10
6 ① ③ 使徒 2・37—38
GS 「逆境」
② GS 「謙遜」
③ アル 16・16—17、教義 10・8
8 ① マタ 5・3—5
10 ① GS 「礼拝」
12 ① 伝道 4・13
13 ① 箴言 16・8
② アル 38・2

ら進んで心からへりくだる人々は、なおさら幸いであると思わないか。

15 まことに、自ら進んで心からへりくだり、罪を悔い改め、最後まで堪え忍ぶ人は祝福を受ける。まことにこのような人は、非常に貧しいためにやむを得ずへりくだっている人々よりも、なおさら祝福を受ける。

16 したがって、やむを得ず[1]へりくだるのではなく、自らへりくだる人々は幸いである。いや、心をかたくなにすることなく、また御言葉を知るように仕向けられたり、知るように強いられたりして初めて信じるというのではなく、進んで神の御言葉を信じ、バプテスマを受ける人は幸いである。

17 まことに、もし天からしるしを見せてくれれば、それが確かなことが分かるから信じようと言う人々が大勢いる。[1]

18 さて、わたしは尋ねる。これは信仰であろうか。見よ、わたしはそうではないと答える。もし人がある物事を知っているならば、それを信じる理由はない。[1]すでに知っているからである。

19 さて、神の御心を知っていながらそれを行わない人は、ただ信じているだけで、あるいは信じる理由があるだけで背いてしまうよりも、どれほどひどいのろいを受けることであろう。

20 このことについて、あなたがたは判断しなければならない。見よ、わたしはあなたがたに言う。両者はそれぞれ同様に裁かれ、人は皆、各々の行いに応じて報われるのである。

21 さて、信仰についてわたしがすでに語ったように、[1]信仰とは物事を完全に知ることではない。したがって、もし信仰があれば、あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである。[2]

22 さて見よ、あなたがたに言う。このことを覚えておいてほしい。それは、神は御自分の御名を信じるすべての人に憐れみをかけられるということである。したがって、神はまず初めに、あなたがたが、まことに神の御言葉を信じることを望んでおられる。

23 さて、神は天使によって、人々に、まことに男ばかりでなく女にも御自分の御言葉を伝えられる。それだけではない。知者や学者を辱める御言葉が、これまで何度も幼い子供に与えられてきた。[1]

---

16 ① GS「謙遜」
17 ① GS「しるし」
18 ① エテ12・12、18
19 ① ヨハ15・22—24
21 ① ヨハ20・29、ヘブ11
章
23 ① ② ③ ② エテ12・6 GS「希望」 ヨエ2・28—29 マタ11・25、ルカ10・21、3ニフ26・14—16、教義128・18

24 さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは今、苦しめられ、追い出されているので、どうすればよいかわたしから聞いて知りたいと望んでいる。ところで、わたしは事実によってだけあなたがたのことを判断しようとしていると思われたくない。

25 つまり、あなたがた全員がやむを得ずへりくだっているのではないということである。どのような境遇にあっても進んでへりくだろうとする人々が、あなたがたの中に何人もいることを、わたしは確かに信じているからである。

26 さて、信仰についてわたしが言ったように、信仰とは完全に知ることではない。わたしの言葉についてもそのとおりである。信仰が完全に知ることではないのと同じように、あなたがたはわたしの言葉が確かであることも最初から完全に知ることはできない。

27 しかし見よ、もしあなたがたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ[1]信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。

28 さて、御言葉を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたがたが[2]心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御霊に逆らおうとする[4]不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの[5]理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』

29 さて見よ、これによってあなたがたの信仰は増さないであろうか。わたしはあなたがたに言う。信仰は増す、と。にもかかわらず、まだ完全に知るというところまでは行かない。

30 しかし見よ、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めると、あなたがたはその種を良いものであると思うに違いない。見よ、それがふくらんで芽を出し、生長しているからである。さて見よ、これはあ

---

27 ① マコ 11・24
28 ① アル 33・1
28 ② GS「心」
28 ③ ルカ 8・11
28 ④ マタ 17・20
28 ⑤ GS「理解」

なたがたの信仰を強めないであろうか。まことに、それはあなたがたの信仰を強めるであろう。あなたがたは、『これは良い種であることが分かる』と言う。見よ、それが芽を出し、生長し始めているからである。

31 ところで見よ、あなたがたはこれが良い種であると確信しているであろうか。確信していると、わたしはあなたがたに言う。種はその種独自の形を生じるからである。

32 したがって、もし種が芽を出して生長するならば、それは良い種である。しかし、芽を出さなければ、見よ、それは良い種ではないので捨てられる。

33 さて見よ、あなたがたはすでに試して種を植え、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めているので、その種が良いものであることを知るに違いない。

34 さて見よ、あなたがたの知識[1]は完全であろうか。そのとおり、あなたがたの知識はそのことに関しては完全であるが、あなたがたの信仰[2]は眠ったままである。この理由はあなたがたが知っている。というのは、あなたがたは、御言葉があなたがたの心を高めたのを知っており、またあなたがたは、それがすでに芽を出し、あなたがたの理解力に光が注がれ、あなたがたの心[3]が広がり始めているのを知っているからである。

35 おお、それならば、このことはほんとうではないだろうか。わたしはあなたがたに言う。確かにほんとうである、と。なぜなら、それは光[1]だからである。光は何であろうと善である。というのは、そのように見分けがつくからであり、こうしてあなたがたは、それが善であることを必ず知るようになる。さて見よ、この光を経験した後、あなたがたの知識は完全であろうか。

36 見よ、そうでないとあなたがたに言おう。あなたがたは自分の信仰を捨ててはならない。あなたがたは、種が良いものかどうかを知ろうとして、ただ信仰を働かせてその種を植えてみただけだからである。

37 そして見よ、木が生長し始めると、あなたがたは、『この木が根付き、生長し、わたしたちのために実を結ぶように、十分に注意して養いを与えよう』と言うであろう。さて見よ、あなたがたが十分に注

31 ① 創世1・11−12
34 ① GS「知識」
35 ① ③ ② エテ3・19 GS「思い・心」 ヨハ3・18−21、「光・キリストの光」
GS

意して養いを与えれば、それは根付き、生長し、実を結ぶであろう。

38 しかし、もしあなたがたがその木に構わず、養い育てることに心を配らなければ、見よ、それが根付くことはないであろう。そして、太陽の暑さが及んでその木を熱すると、その木はまったく根がないので枯れてしまうであろう。そこであなたがたは、その木を抜いて捨てる。

39 さてこれは、種が良くなかったからでもなければ、実が好ましいものでなかったからでもない。ただ、あなたがたの土地がやせているためである。あなたがたがその木に養いを与えようとしないので、実を得ることができないのである。

40 このように、もし信仰の目をもって実を期待しながら御言葉を養おうとしなければ、あなたがたは決して命の木の実を得ることができない。

41 しかし、あなたがたが御言葉に養いを与えようとすれば、つまり、その木が生長を始めるときに、非常な熱意と、忍耐を伴う信仰を働かせてその実を期待しながら養いを与えようとすれば、それは根付くであろう。そして見よ、それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。

42 あなたがたは、御言葉が自分の中に根付くように、熱意と信仰と忍耐をもってそれを養うので、見よ、やがてその実を得るであろう。その実は最も価値があり、どんな甘いものよりも甘く、どんな白いものよりも白く、どんな清いものよりも清い。また、あなたがたは満ち足りるまでその実を食べて、もう飢えることも、渇くこともないであろう。

43 それで、わたしの同胞よ、そのときにあなたがたは、その木があなたがたのために実を結ぶのを待ちながら示した、あなたがたの信仰と熱意と忍耐と寛容の報いを刈り入れるのである。」

第33章

ゼノス、人はどんな場所でも祈り、礼拝すべきであることと、御子のゆえに裁きが遠ざけられることを教える。ゼノク、御子のゆえに憐れみがかけられることを教える。モーセが荒れ野で神の御子の予型を掲げたこと。紀元前約七十四年。

1 アルマがこれらの言葉を語り終えると、彼らはア

38 ① GS「背教・背信」
39 ① マタ13・5
40 ① 創世2・9、1ニフ15・36
41 ① GS「忍耐」
② アル33・23、教義63・23
42 ① GS「熱心」
② 1ニフ8・10—12

ルマのもとに人をやって、彼が述べたその実を得るためには、1)唯一の神を信じなければならないのかどうか、その種、2)すなわち、心の中に植えなければならないとアルマが述べたその御言葉をどのようにして植えればよいのか、すなわち、どのような方法で信仰を働かせ始めればよいのかを知りたいと伝えさせた。

2 そこで、アルマは彼らに言った。「見よ、あなたがたは、自分たちの会堂から追い出されているので、神を礼拝できないと言っている。1)しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。もし神を礼拝できないと思っているのであれば、あなたがたはひどく誤解している。2)聖文を調べてみるべきであろう。もしあなたがたが聖文からそのことを教わったと思っているのであれば、あなたがたは聖文を理解していない。

3 あなたがたは、昔の預言者ゼノス1)が祈りについて、すなわち2)礼拝について述べたものを以前に読んだのを覚えているだろうか。

4 ゼノスはこう述べている。『おお、神よ、あなたは憐れみ深い御方です。わたしが荒れ野にいたときでさえ、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。またわたしが敵について祈ったときも、憐れみ深くあって、彼らがわたしに心を向けるようにしてくださいました。

5 まことに、おお、神よ、わたしが畑で叫び求めたとき、わたしを憐れんでくださいました。あなたに叫び求めたとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

6 さらにまた、おお、神よ、わたしが家に向かったときも、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

7 また、おお、主よ、わたしが自分の部屋に戻ってあなたに祈ったとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

8 まことに、あなたの子供たちが人々にではなくあなたに聞いていただくために叫び求めるとき、あなたは彼らを憐れんで、彼らの祈りを聞き届けてくださいます。

9 まことに、おお、神よ、あなたはわたしを憐れんで、会衆の中でわたしの嘆願をお聞きくださいました。

10 また、あなたはわたしが敵から追い出され、さげすまれたときにも、わたしの祈りをお聞きください

第33章
1 ①2ニフ31・21、モサ15・2—4
②アル32・28—43
2 ①②アル32・5
3 ①②アル37・3—10
GS「聖文—失われた聖文」
4 ①②GS「ゼノス」「礼拝」
5 ①マタ5・44
7 ①アル34・20—25
8 ①マタ6・5—6、アル34・26
10 ①アル32・5

ました。まことに、わたしの嘆願を聞き届け、わたしの敵に怒りを示されました。そして、怒って彼らを速やかに滅ぼされました。

11 わたしが苦難に遭いながらも誠実であったので、あなたはわたしの祈りをお聞きくださいました。あなたがこのようにわたしを憐れんでくださったのは、御子のおかげです。ですからわたしは、これからもあらゆる苦難のさなかで、あなたに叫び求めます。あなたの内にわたしの喜びがあるからです。あなたは御子のゆえに、わたしからあなたの裁きを遠ざけてくださったからです。』」

12 また、アルマは彼らに言った。「あなたがたは昔の人々が書いた[1]聖文を信じているか。

13 見よ、もし信じているならば、[1]ゼノスが述べたことも信じているに違いない。見よ、ゼノスは、『あなたは御子のゆえに、あなたの裁きを遠ざけてくださいました』と述べた。

14 さて見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは聖文を読んだことがあるかどうか、わたしは尋ねたい。もし読んだことがあるならば、どうして神の御子を信じないでいられようか。

15 ゼノスだけがこれらのことを述べたとは書き記されていない。[2]ゼノクもこれらのことについて述べた。

16 見よ、ゼノクはこう述べている。『おお、主よ、あなたが御子のゆえにこの民にかけてこられた憐れみを、この民が理解しようとしないので、あなたはこの民のことを怒っておられます。』

17 さて、わたしの同胞よ、このことから分かるように、昔の預言者がもう一人神の御子について証を述べている。ところが民は、この預言者の言葉を理解しようとしないで、彼を[1]石で打ち殺してしまった。

18 しかし見よ、これだけではない。神の御子について述べたのは、これらの人々だけではない。

19 見よ、[1]モーセも神の御子について述べた。荒れ野で[2]一つの予型が[3]掲げられ、それを仰ぎ見ようとした者はだれでも、生き延びられるようにされた。そして、多くの人がそれを見て生き延びた。

20 しかし、そのことの意味を理解した人はわずかであった。彼らの心がかたくなであったからである。そして、予型を見ようともしないほどかたくなな人が大勢おり、彼らは死んでしまった。彼らが見ようとしなかったのは、それで自分が[1]癒されるとは信じ

---

12 ① GS「聖文」
13 ① アル34・7
15 ① ヤコ4・4
② 1ニフ19・10、アル34・7
17 ① GS「殉教者・殉教」
19 ① 申命18・15、18、アル34・7
② 民数21・9、2ニフ25・20、モサ3・15
③ ヨハ3・14、ヒラ8・14—15
20 ① 1ニフ17・40—41

なかったからである。

21おお、わたしの同胞よ、もしあなたがたが癒しを得るために、目を向けるだけでよいとしたら、あなたがたはすぐにも見ようとしないだろうか。それとも、不信仰のままで心をかたくなにし、怠けて目を向けようとしないで死ぬことを望むだろうか。

22もしそうであれば、災いがあなたがたに降りかかるであろう。しかし、それを望まなければ、あなたがたの目を向けて、神の御子を[1]信じるようにしなさい。神の御子が将来、御自分の民を贖うために降臨されること、御子がその民の罪を贖うために苦しみを受け、死なれること、御子が死者の中からよみがえり、[4]復活をもたらされること、終わりの裁きの日に、すべての人が各々の行いに応じて裁きを受けるために神の御子の御前に立つこと、これらのことを信じてほしい。

23さて、わたしの同胞よ、あなたがたがこの御言葉を心の中に植えて、それがふくらみ始めたら、あなたがたの信仰によってそれを養い育ててほしい。そうすれば見よ、それはあなたがたの心の中で生長して、永遠の命をもたらす木になるであろう。そのときに、神があなたがたのために、神の御子の喜びによって重荷を軽くしてくださるように。これまで述べてきたことは、もしあなたがたにこれを行う意志さえあれば、すべて行えることである。アーメン。」

第34章

アミュレク、御言葉はキリストの内にあって救いを得させるものであることを証する。贖罪が行われないかぎり、全人類は必ず滅びる。モーセの全律法が神の御子の犠牲を指し示している。永遠の贖いの計画は信仰と悔い改めに基づいている。物質的な祝福のためにも、霊的な祝福のためにも祈ること。現世の生涯は人が神にお会いする用意をする時期である。神の前に畏れて自分の救いを達成すること。紀元前約七十四年。

1さて、アルマは彼らにこれらの言葉を語り終えると、地に腰を下ろした。次いでアミュレクが立ち上がり、彼らを教え始めた。

2「わたしの同胞よ、今わたしたちはキリストが神の御子であると教えたが、わたしが思うに、そのキリストの来臨についてこれまで述べられてきたこと

22①アル32・27－28
②アル22・14、34・8
19③GS「復活」
④アル11・44
⑤GS「行い」
23①アル33・1、34・4
②アル32・41、教義63・
③23アル31・38

第34章
1①アル8・21

を、あなたがたが知らないはずはない。あなたがたがわたしたちから背いて去る前に、これらのことがあなたがたに十分教えられていたことを、わたしは知っている。

3 あなたがたは苦難に遭っているので、どうしたらよいか教えてほしいとわたしの愛する兄弟に頼み、わたしの兄弟はあなたがたに心の備えをさせるために、多少のことを述べてきた。また彼は、信仰と忍耐をあなたがたに勧めた。

4 まことに、御言葉を心に植えるほどの信仰を持ち、その御言葉の良さを試してみるように、あなたがたに勧めた。

5 そしてわたしたちは、その御言葉が神の御子の内にあるのかどうか、キリストが将来降臨されるのかどうかという大きな疑問が、あなたがたの心の中にあることが分かった。

6 また、あなたがたも見たように、わたしの兄弟は、その御言葉がキリストの内にあって救いに至らせるものであることを、多くの例を引きながらあなたがたに立証した。

7 わたしの兄弟は、贖いが神の御子を通して与えられるというゼノスの言葉と、またゼノクの言葉を参照した。また、モーセも引き合いに出して、これらのことが真実であることを立証した。

8 さて見よ、わたしも、これらのことが真実であることをあなたがたに証しよう。見よ、あなたがたに言う。将来キリストは、御自分の民の背きを御自身に負うために人の子らの中に来られ、世の罪を贖われる。わたしはこのことを知っている。主なる神がそう言われたからである。

9 贖罪が行われることは必要である。というのは、永遠の神の偉大な計画によって贖罪が行われなければならず、そうでなければ、全人類が滅びるのは避けられないからである。まことに、すべての人はかたくなになっており、堕落し、迷った状態にあるので、贖罪によらなければ必ず滅びる。贖罪は必ず行われなければならない。

10 大いなる最後の犠牲が必要である。それは、人を犠牲にすることでも、獣や鳥類を犠牲にすることでもない。人の犠牲であってはならず、無限にして永遠の犠牲でなければならない。

11 さて、自分の血をささげてほかの人の罪を贖うこ

---

2 ① アル16・13−21
4 ① アル33・23
6 ① ヨハ1・1、14
8 ① GS「証する」
9 ① GS「贖罪」
② アル33・22
10 ① アル12・22−33、モセ5・6−7
② モセ5・6−7
③ 2ニフ9・7
6・62 GS「堕落（アダムとエバの）」
GS「犠牲」

とができる人など、だれ一人いない。さて、ある人が人を殺した場合、見よ、わたしたちの公正な法律は、その人の兄弟の命を奪おうとするだろうか。そのようなことはないと、わたしはあなたがたに言う。

12 そうではなく、法律は人を殺した当人の命を要求する。したがって、無限の贖罪でなくては世の罪を十分に贖うことはできない。

13 それゆえ、大いなる最後の犠牲が必要である。そのときに、血を流すことは終わるであろうし、また、やめなければならない。それで、モーセの律法が成就するのである。まことに、モーセの律法は一点一画に至るまでことごとく成就し、むなしくなるものは何一つない。

14 見よ、これが律法の目的そのものであり、すべての部分がこの大いなる最後の犠牲を指し示している。そして、この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので、まことに、これは無限にして永遠の犠牲である。

15 このように神の御子は、その御名を信じるすべての人に救いをもたらされる。この最後の犠牲の目的は、憐れみの心を成し遂げることであり、この憐れみは正義に打ち勝ち、また人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設けるのである。

16 このように、憐れみは正義の要求を満たし、これらの人々を腕に包み込んで保護する。一方、悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法にこたえなければならない。したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。

17 それゆえ、神がわたしの同胞であるあなたがたに、あなたがたが悔い改めを生じる信仰を働かせて、神の聖なる御名を呼び始め、神の憐れみを得られるようにしてくださいますように。

18 まことに、神に憐れみを叫び求めなさい。なぜなら、神は人を救う力を備えておられるからである。

19 まことに、へりくだって、神に祈り続けなさい。

20 牧場にいるときには、まことに、すべての家畜の群れについて神に叫び求めなさい。

21 家にいるときには、まことに、あなたがたの家のすべての者について、朝も昼も晩も神に叫び求めなさい。

---

11 1) 申命24・16、モサ29・25
12 1) GS「殺人」
13 1) 「死刑」
3ニフ9・17—19—20
14 1) 3ニフ15・5
2) GS「モーセの律法」
15 1) アル30・3
2) 教義138・35
16 1) GS「救い」
2) GS「憐れみ」
3) GS「正義」
4) アル12・32「贖いの計画」
17 1) GS「信仰」
2) GS「祈り」
18 1) 詩篇5・1—3、3ニフ18・21

22 まことに、敵の力を防ぐことができるように、神に叫び求めなさい。
23 まことに、あらゆる義の敵である悪魔を防ぐことができるように、神に叫び求めなさい。
24 あなたがたの畑の収穫が豊かであるように、作物について神に叫び求めなさい。
25 あなたがたの牧場の家畜が増えるように、家畜の群れについて叫び求めなさい。
26 しかし、これだけではない。あなたがたは自分の部屋でも、人目に触れない場所でも、荒れ野でも、あなたがたの心を注ぎ出さなければならない。
27 また、声に出して主に叫び求めないときでも、あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸いを気遣う気持ちを心に満たし、それが絶えず主への祈りになるようにしなさい。
28 さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに言う。これですべてであると思ってはならない。これらのことをすべて行っても、もし乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば、あなたがたに言うが、もしあなたがたがこれらのことのどれも行うことがなければ、見よ、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じである。
29 したがって、もし愛を示すことを覚えていなければ、あなたがたは精錬する者たちが（価値のないものとして）捨てて、人が足で踏みつけるかすのようなものである。
30 さて、わたしの同胞よ、あなたがたはすでに多くの証拠を得ており、聖文がこれらのことを立証しているのも知っているので、進み出て悔い改めの実を結んでもらいたい。
31 まことに、進み出て、もはや心をかたくなにしないでほしい。見よ、今があなたがたの救いの時であり、救いの日である。したがって、あなたがたが悔い改めて心をかたくなにしなければ、偉大な贖いの計画はすぐにあなたがたに効果を及ぼすであろう。
32 見よ、現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。

23 ① GS「義」
② GS「悪魔」
3 ニフ18・15、18
26 ① マタ6・5—6
27 ① GS「心」
② GS「深く考える」
28 ① GS「貧しい」
② GS「施し」
③ マタ15・7—8
29 ① ④ モロ7・6—8
30 ① GS「慈愛」
マタ3・8、アル13・12・24、42・4—6
31 ① 13 ロマ13・11—12
2 ニフ2・21、アル
32 ①

33 さて、前に話したように、あなたがたにはすでに非常に多くの証拠があるので、最後まで悔い改めの日を引き延ばすことのないように切に勧める。永遠に備えるためにわたしたちに与えられている現世の生涯を終えると、見よ、もしわたしたちが現世にいる間に時間を有益に用いなければ、後から暗闇の夜がやって来る。そして、そこでは何の働きもできない。

34 あなたがたはその恐ろしい危機に陥るときに、『わたしは悔い改めて神に立ち返ろう』と言うことはできない。あなたがたはこのように言うことはできない。なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。

35 見よ、もし死ぬときまで悔い改めの日を引き延ばしたならば、見よ、あなたがたはすでに悪魔の霊の支配を受けるようになっているので、悪魔はあなたがたに自分のものであるという印を押す。したがって、主の御霊はもはや退き去って、あなたがたの内に決して宿ることはなく、悪魔があなたがたを支配するすべての力を得る。これが悪人の最後の状態である。

36 わたしはこのことを知っている。主は清くない宮に住まず、義人の心に住むと言われたからである。主はまた、義人は主の王国で座に着いて二度とそこを去ることがなく、義人の衣は小羊の血によって白くされるとも言われた。

37 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがこれらのことを思い出すように、また神を畏れて自分の救いを達成するように、さらに、キリストの来臨を二度と否定することのないように願っている。

38 また、あなたがたがこれから二度と聖霊に逆らうことなく、聖霊を受け、キリストの御名を受けるように、そして地に伏すほどにへりくだり、どこにいても霊とまことをもって神を礼拝するように、さらに、神が授けてくださる多くの憐れみと祝福を日々感謝しながら生活するように、わたしは願っている。

39 また、わたしの同胞よ、悪魔の誘惑に惑わされることなく、悪魔に打ち負かされることなく、終わりの日に悪魔の手下になることのないように、絶えず

33 ① GS「悔い改め」ヒラ13・38、教義45・
② 2
③ 2
④ 17
34 ① GS「暗闇（霊的な）」
35 ① 2
② 「死（霊の）」ヨハ9・4、教義45・
36 ① アル40・13—14
② 2ニフ28・19—23
37 ① 2ニフ9・9
② モサ2・37、アル7・21、ヒラ4・24
38 ① GS「争い」モサ5・8、アル5・
② GS「礼拝」
③ 詩篇69・30、教義59・7、
④ GS「感謝」
39 ① GS「誘惑」

祈りに心を配ることを、あなたがたに勧める。見よ、悪魔はあなたがたに決して良いものを報いとして与えないからである。

40 わたしの愛する同胞よ、忍耐するように、そしてあらゆる苦難に耐えるように、あなたがたに勧める。また、ひどく貧乏だからということであなたがたを追い出した者のような罪人にならないために、彼らをののしることのないように勧める。

41 むしろあなたがたは忍耐し、いつの日かあらゆる苦難を離れて休めるという確固とした望みをもってそれらの苦難に耐えるように、あなたがたに勧める。」

第35章

御言葉が宣べ伝えられたことで、ゾーラム人の慣行が崩れる。ゾーラム人から追い出された改宗者たち、ジェルションの地に住むアンモンの民に加わる。アルマ、民の悪を嘆く。紀元前約七十四年。

1 さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、二人は群衆のもとを去り、ジェルションの地へ行った。

2 また、ほかの兄弟たちも、ゾーラム人に御言葉を宣べ伝えた後、ジェルションの地へ行った。

3 さて、ゾーラム人の中で多数派を占める者たちは、ゾーラム人に宣べ伝えられた御言葉について協議した後、御言葉のために自分たちの慣行が崩れたことに腹を立て、宣べ伝えられた御言葉に聞き従わないことにした。

4 そして、彼らは使いを出し、その地の至る所にいるすべての民を集め、宣べられた御言葉について彼らの意見を求めた。

5 さて、ゾーラム人の指導者たちと祭司たちと教師たちは、自分たちの意図していることを民に知らせず、ひそかに民の意向をうかがった。

6 そして、彼らがすべての人の意向を探り出した後、アルマと彼の兄弟たちが語った言葉を支持した人々は、その地から追い出された。これらの人々の数は多く、彼らもまたジェルションの地へ行った。

7 そこで、アルマと彼の兄弟たちは、これらの人々に教えを授けた。

8 さて、ゾーラム人の民は、ジェルションにいるア

---

39 ② GS「見守る・見守る者」
40 ③ アル30・60
① GS「忍耐」
② 教義31・9
第35章
3 ① GS「偽善売教」

ンモンの民に腹を立てた。また、ゾーラム人の指導者の長は、非常に悪い男であったので、アンモンの民に使いを送り、ゾーラム人の地から彼らの地に行ったすべての人を、その地から追い出すように求めた。

9 また彼は、アンモンの民を脅す言葉をたくさん吐いた。ところが、アンモンの民は彼らの言葉を恐れなかったので、これらの人々を追い出すことなく、自分たちのもとに来たすべての貧しいゾーラム人を受け入れた。そして彼らは、これらの人々に食べる物や着る物を与え、また土地を受け継ぎとして譲り与えた。彼らは、これらの人々の入り用に応じて必要なものを提供したのであった。

10 さて、このことによってゾーラム人は、アンモンの民に対する怒りをかき立てられた。そして、彼らはレーマン人と交わり始め、レーマン人を扇動してアンモンの民に対して怒らせるようにした。

11 このようにして、ゾーラム人とレーマン人は、アンモンの民とニーファイ人に対して戦う用意を始めた。

12 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十七年が終わった。

13 アンモンの民はジェルションの地を去ってミレクの地に移り、ジェルションの地をニーファイ人の軍に明け渡して、ニーファイ人の軍がジェルションの地でレーマン人の軍およびゾーラム人の軍と戦えるようにした。このようにして、さばきつかさの統治第十八年に、レーマン人とニーファイ人の間で戦争が始まった。この戦争の話は後に述べることにする。

14 アルマとアンモンと彼らの兄弟たちとアルマの二人の息子は、神の手に使われる者となって多くのゾーラム人を悔い改めさせた後、ゼラヘムラの地に帰った。また、悔い改めに導かれた人々は皆、自分たちの地から追い出されたが、ジェルションの地で自分たちの受け継ぎの土地を得た。そして、自分自身と妻子、および自分たちの土地を守るために武器を取った。

15 さて、アルマは自分の民の罪悪、すなわち民の中にある戦争と流血と争いを嘆き、出かけて行って、すなわち遣わされて、あらゆる町のすべての民に御言葉を告げ知らせた。ところが、民の心はかたくな

9 ① モサ 4・26、GS「福祉」
13 ① アル 43・3
14 ① アル 35・6

になり、また御言葉が厳しいために彼らは次第に怒[1]るようになった。それを見たアルマの心は非常な憂いにさいなまれた。

16そこで、アルマは息子たちを集め、義にかかわることについて、息子たちにそれぞれの責任[1]を与えることにした。アルマが息子たちを戒めた事柄の記録は今わたしたちの手もとにあるが、これはアルマ自身が記録したものである。

アルマが息子のヒラマンに与えた戒め。

次の第三十六—三十七章がそれに相当する。

第36章

アルマ、自分が天使によって改心に導かれたことをヒラマンに証する。アルマが罰の定めを受けた者の苦痛を経験し、イエスの名を呼び、神から生まれたこと。快い喜びに満たされたこと。神をほめたたえる天使の群れを見たこと。多くの改宗者も、アルマと同じように味わい、同じような光景を見た。紀元前約七十四年。

1「わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしはあなたに誓う。あなたは神の戒めを守るかぎり地に栄えるであろう。

2あなたはわたしと同じように、わたしたちの先祖が囚われの身にあったことを思い起こしてもらいたい。わたしたちの先祖は奴隷[1]の状態にあり、アブラハム[2]の神、イサクの神、ヤコブの神のほかにはだれも彼らを救い出せなかった。そして神は、確かに苦難の中にいる彼らを救い出された。

3おお、わが子ヒラマンよ、見よ、あなたは若い。だから、わたしの言葉を聞いて、わたしに学ぶように勧める。神に頼る者はだれであろうと、試練[1]や災難や苦難の中にあって支えられ、また終わりの日に高く上げ[2]られるということをわたしは知っているからである。

4しかし、わたしがそれを自分独りで知ったと思ってもらいたくない。物質的なものからではなく、霊的なものから知ったのであり、肉[2]の思いからではなく、神から知らされたのである。

5見よ、わたしはあなたに言う。わたしは神から生[1]まれていなかったならば、これらのことを知[2]ること

---

15 ① GS「背教・背信」
16 ① GS「管理人・管理人の職」

第36章

1 ① ヒラ5・9—14
2 ① モサ23・23、24・17—
21 ② 出エ3・6、アル29・11
3 ① ロマ8・28
4 ① モサ23・21—22
5・45—46、GS「知識」
4 ① 1コリ2・11、アル
5 ① GS「現世的」
② GS「再び生まれる」
② アル26・21—22

はなかったであろう。しかし、神は聖なる天使の口を通して、これらのことをわたしに知らせてくださった。わたし自身はまったくふさわしくなかったにもかかわらず、そうしてくださった。[3]

6 わたしはかつてモーサヤの息子たちと一緒に歩き回って、神の教会を滅ぼそうとしていた。[1]ところが見よ、神は、聖なる天使を遣わして、道の途中でわたしたちを止められた。

7 見よ、その天使はわたしたちに語りかけたが、それはまるで雷の音のようであった。そして、大地全体がわたしたちの足もとで揺れ動き、[1]わたしたちは皆、地に伏した。主への畏れを覚えたからである。[2]

8 ところが見よ、その声がわたしに、『起きなさい』と言った。そこでわたしは起き上がって立ち、その天使を見た。

9 すると、天使はわたしに、『たとえあなた自身が滅ぼされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそうとしてはならない』と言った。

10 そして、わたしは地に倒れた。そして[1]三日三晩、口を利くことができず、手足を動かすこともできなかった。

11 天使はわたしにもっと多くのことを語り、仲間はそれを聞いたが、わたしには聞こえなかった。わたしは、『たとえあなた自身が滅ぼされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそうとしてはならない』という言葉を聞いたときに、自分は滅ぼされるのではないかというひどい恐れと驚きに打たれて地に倒れ、それ以上は何も聞こえなかったからである。

12 しかしわたしは、[1]永遠の苦痛に責めさいなまれた。わたしはきわめてひどい苦しみを受け、自分のすべての罪に責めさいなまれた。

13 まことに、わたしは自分のあらゆる罪と不義を思い出し、そのために地獄の苦しみを味わった。[1]わたしは自分が神に逆らってきたことと、神の聖なる戒めを守っていなかったことを知ったのである。

14 また、わたしは神の子供たちを大勢殺した。いや、彼らを惑わして滅びに至らせた。要するに、わたしの罪悪が非常に大きかったので、神の御前に行くことを考えるだけで、わたしは言いようのない恐怖に責めさいなまれた。

15 おお、そのときにわたしが思ったのは、自分が追放されて霊と肉体がともになくなってしまえば、神

---

5 ③ GS「ふさわしさ」
6 ① モサ 27・10
7 ① モサ 27・18
② GS「畏れ・恐れ—神への畏れ」
10 ① モサ 27・19—23
12 ① 教義 19・11—15
13 ① GS「罪悪感」
15 ① 黙示 6・15—17、アルマ 12・14

の御前に立たされて自分の行いを裁かれることはないだろうということであった。

16 さて、三日三晩、わたしはまさに罰の定めを受けた者の苦痛に責めさいなまれた。

17 そして苦痛に責めさいなまれていたときに、わたしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について民に預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

18 心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください』と叫んだ。

19 さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

20 おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。

21 わが子よ、まことに、あなたに言うが、わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わった。また息子よ、わたしは言う。それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わった。

22 思うに、ちょうどわたしたちの先祖リーハイが見たように、わたしも神が御座に着き、神を賛美しほめたたえる様子で群れ集まる無数の天使たちに取り囲まれておられるのを見た思いがした。そして、わたしはそこに行きたいと切に望んだ。

23 すると見よ、わたしの手足は再び力を取り戻した。そこでわたしは立ち上がり、自分が神から生まれたことを民に言明した。

24 また、そのときからまさに現在まで、わたしは絶えず働き続け、人々を悔い改めに導き、わたしが味わった非常な喜びを味わわせ、彼らも神から生まれ、聖霊に満たされるようにしてきた。

25 そして、見よ、おお、わが子よ、今主はわたしの労苦の結ぶ実によって非常に大きな喜びをわたしに与えてくださっている。

26 主がわたしに告げてくださった御言葉のために、

---

15 ② アル41・3、教義1・9—10
16 ① GS「罰の定め」
17 ① コリ7・10
18 ① ひどい悔恨の念に駆られ
22 ② の意
② ニフ9・45、28・2、アル12・11、モセ7・26
19 ① GS「罪悪感」
20 ① GS「喜び」
22 ① ニフ1・8
23 ① モセ1・10
② アル5・14、GS「再び生まれる」
24 ① ニフ8・12、モサ4・11
② ニフ32・5、3ニフ9・20、GS「聖霊」
26 ① アル31・5

見よ、多くの人が神から生まれ、わたしの味わったように味わい、わたしが見たように目の当たりに見た。そのために彼らは、わたしが述べてきたこれらのことを、わたしが今知っているように知っている。わたしが今知っていることは、神から出たものである。

27そしてわたしは、あらゆる試練と災難の下で、またあらゆる苦難の中で支えられてきた。まことに、神は牢から、また束縛から、死からわたしを救い出してくださった。わたしは神を信頼している。神はこれからもわたしを救い出してくださるであろう。

28わたしは、神が終わりの日にわたしをよみがえらせ、栄光のうちに御自身とともに住めるようにしてくださることを知っている。わたしは神をとこしえにほめたたえよう。神はわたしたちの先祖をエジプトから導き出してくださったからである。神はエジプト人を紅海の中にのみ込ませ、御自分の力によって、わたしたちの先祖を約束の地に導かれた。また神は、何度も奴隷と束縛の状態から先祖を救い出してくださった。

29神はまた、エルサレムの地からわたしたちの先祖を連れ出してくださった。また、永遠の力によって、今日に至るまで何度も奴隷と束縛の状態から先祖を救い出してくださった。わたしは先祖が囚われの身にあったことをいつも思い起こすようにしてきた。あなたもわたしと同じように、先祖が囚われの身にあったことを思い起こすようにしなければならない。

30しかし見よ、わが子よ、それだけではない。神の戒めを守るかぎり地に栄えることを、わたしが知っているように、あなたも知らなければならない。また、神の戒めを守らなければ神の御前から絶たれるということも、あなたは知らなければならない。これは神の御言葉による。」

第37章

真鍮の版とそのほかの聖文が、人々を救いに導くために保存される。ヤレド人が彼らの悪事のために滅ぼされたこと。ヤレド人の秘密の誓いの言葉と誓約は民に隠しておかなければならない。自分のすべての行いについて主と相談すること。リアホナがニーファイ人を導いたように、キリストの言葉は人々を永遠の命に導く。紀元前約七十四年。

---

27 ① 詩篇34・17
28 ① 3ニフ15・1
② GS「栄光」
③ 出12・51
④ 出14・26−27
29 ① モサ24・17、27・16、アル5・5−6
30 ① 2ニフ1・9−11、アル50・19−22

1「さて、わが子ヒラマンよ、わたしはあなたに、これまでわたしに託されてきた[1]記録を[2]受け取るように告げる。

2また、わたしが行ってきたように、この民の記録をニーファイの版に書き続け、またわたしが行ってきたように、これまでわたしが保存してきたこれらのものをすべて神聖に保つようあなたに告げる。これらのものは、ある賢明な[1]目的のために保存されているからである。

3また、この真鍮の版も保存しなさい。この真鍮の版には様々な記録が刻まれており、聖文も記されていて、まことに世の初めからのわたしたちの先祖の系図も載っている。

4見よ、わたしたちの先祖が預言したように、この版はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に明らかに示されて、彼らがこれに書き記されている奥義を[1]知るようになるときまで、これは代々保存され、伝えられ、また主の御手によって保存され、残されることになっている。

5さて見よ、この版は、保存されるならばその輝きを保つに違いない。確かに、この版はその輝きを保つであろう。また、聖文の載っている版はすべてそうである。

6記録を保存するのはわたしが愚かだからであると、あなたは思うかもしれない。しかし見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。そして、小さな手段が度々知者を辱める。

7主なる神は偉大な永遠の目的を達するために、様々な手段によって事を行われる。また、ごく小さな手段によって、主は知者を辱め、また多くの人を救われる。

8これまでこれらの記録が残されてきたのは、神の知恵によるものであった。見よ、これらの記録はこの民に多くのことを思い出させ、また多くの人に彼らの行いが誤っていることを納得させ、神について知らせて彼らが救われるようにしてきたからである。

9まことに、わたしはあなたに言う。もしこれらの記録に載っている、すなわちこれらの版に載っているこれらのものがなければ、アンモンと彼の同僚たちは何千人ものレーマン人に、彼らの先祖の言い伝

第37章
1 ①モサ28・20 ②アル45・2—8
2 ①エノ1・13—18、モ言1・6—11、アル37・9—12
3 ①1ニフ5・10—19、
4 ①GS「真鍮版」 GS「神の奥義」
6 ①1コリ2・14 ②1ニフ16・28—29、教義64・33、123・15—17
7 ①イザ55・8—9 ②列下5・1—14
8 ①2テモ3・15—17、
9 ①モサ1・3—5 モサ1・5

えが正しくないことを納得させることはできなかったであろう。これらの記録と彼らの言葉は、レーマン人を悔い改めに導いた。すなわち、これらの記録と彼らの言葉は、レーマン人に主なる神について知らせ、彼らの贖い主イエス・キリストのことを喜ぶように彼らを導いた。

10 また、だれもこれらの記録が、将来何千人ものレーマン人と、また今、罪と悪事の中で心をかたくなにしている、わたしたちの強情な同胞である何千人ものニーファイ人に、彼らの贖い主について知らせる手段にならないとは言い切れない。

11 これらの奥義は、まだ全部はわたしに知らされていないので、わたしはそれを語ることを控えなければならない。

12 ただこれらの記録は、神が御存じの、ある賢明な目的のために残されるとだけ言えば、それで十分であろう。神は御自分が造られたすべてのものに知恵をもって助言を与えられる。そして、主の道はまっすぐで、その道は一つの永遠の環である。

13 おお、覚えておきなさい。わが子ヒラマンよ、神の戒めがどれほど厳しいか覚えておきなさい。神は、『あなたがたはわたしの戒めを守るかぎり地に栄える』と言われた。しかし、神の戒めを守らなければ、神の御前から絶たれるであろう。

14 わが子よ、神がこれらのものをあなたに託されたということを覚えておきなさい。これらのものは神聖であり、神はこれまでこれらのものを神聖に保ってこられた。そしてこれからも、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のためにこれらのものを保存し、守られるであろう。

15 さて見よ、わたしは預言の霊によってあなたに告げる。もしあなたが神の戒めに背くならば、これらの神聖なものは神の力によってあなたから取り去られる。そして、あなたはサタンに引き渡され、サタンはあなたを風に吹かれるもみ殻のようにふるいにかけるであろう。

16 しかし、あなたが神の戒めを守り、主から命じられるとおりにこれらの神聖なものを扱うならば（すなわち、あなたはこれらのものをどのように扱わなければならないかについて、一切のことを主に請い求めなければならない）、見よ、この世のどのような

---

9 ② アル18・36、22・12
③ GS「福音」
12 ① 2ニフ9・28、ヤコ4・10
③ 1ニフ10・19、アル7・20
② 13 ① 2ニフ9・41
② アル9・13、3ニフ5・22
③ モサ1・7、アル50・20
14 ① 教義3・5
② GS「聖い」
③ 1ニフ9・3—6

力も、地獄のどのような力も、決してあなたからこれらのものを取り去ることはできない。[1]神は御自分の御言葉をすべて成就する十分な力を持っておられる御方だからである。

17 神は、あなたに立てるすべての約束を果たされる。神はこれまでもわたしたちの先祖と交わした約束を果たしてこられたからである。

18 神は、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のためにこれらのものを守ろうと、わたしたちの先祖に約束された。

19 さて見よ、神はすでに一つの目的を達せられた。[1]何千人ものレーマン人が再び真理を知るようになったのである。そして、神はこれらの記録によって御自分の力を示された。[2]神はまた後の時代の人々にも、これらの記録によって御自分の力を示されるであろう。そのために、これらのものは残される。

20 そこで、わが子ヒラマンよ、わたしはあなたに告げる。あなたは勤勉にわたしのすべての言葉に従いなさい。また、神の戒めを記されているとおりに熱心に守りなさい。

21 また、あの[1]二十四枚の版について話そう。あなたはあの版を保存し、様々な秘密の行いと闇の業、隠れた業、すなわち滅ぼされてしまったあの民の[2]秘密の業が、この民に明らかにされるようにしなさい。すなわち、彼らのあらゆる殺人、強盗、略奪、またあらゆる悪事と忌まわしい行いがこの民に明らかにされるようにしなさい。また、あなたはこの[3]解訳器も保存しなさい。

22 見よ、主は、御自分の民が暗闇の中で業を行い始めたこと、すなわち暗殺と忌まわしい行いをするようになったことを御覧になった。そこで主は、もし悔い改めなければ、彼らは地の面から滅ぼし去られると言われた。

23 また、主は言われた。『わたしは暗闇の中で輝いて光を放つ[1]一つの石を、わたしの僕ガゼレムのために用意しよう。それによってわたしは、わたしに仕える民のために彼らの同胞の業、すなわち同胞の秘密の業、闇の業、悪事と忌まわしい行いを明らかにしよう。』

24 わが子よ、この解訳器は神の御言葉が成就するように備えられたものである。神はこれについて次のように言われた。

16 ① ジ—歴史1・59
18 ① 教義5・9
19 ① アル23・5
② エノ1・13、モル7・8—10
21 ① エテ1・1—5
② GS「秘密結社」
③ GS「ウリムとトンミム」
23 ① モサ8・13

25 『わたしは彼らのあらゆる秘密の業と忌まわしい行いを暗闇から明るみに出そう。また、彼らが悔い改めなければ、彼らを地の面から滅ぼし去ろう。そしてわたしは、彼らのあらゆる秘密と忌まわしい行いを、今後この地を所有するすべての国民に明らかに示そう。』

26 さて、わが子よ、わたしたちが知っているように、彼らは悔い改めなかったので滅ぼされてしまった。そして、これまで神の御言葉は成就し、彼らの秘密の忌まわしい行いは暗闇から出されて、わたしたちに知らされてきた。

27 わが子よ、あなたに告げる。彼らのあらゆる誓いの言葉と誓約と、彼らの秘密の忌まわしい行いについての取り決めを忘れないようにしなさい。また、彼らのすべての合図と不思議なことをこの民に隠して、この民がそれらのものを知ることなく、彼らも暗闇に陥って滅ぼされることのないようにしなさい。

28 見よ、この地の全体に、一つのろいがあるからである。そののろいとは、闇の業を行う者たちの悪が完全に熟すとき、神の力によってそれらの者たちが皆滅ぼされるというものである。わたしはこの民が滅ぼされることのないように願っている。

29 だからあなたは、彼らの誓いの言葉と誓約から成る秘密のはかりごとを、この民に隠しなさい。彼らの悪事と殺人と忌まわしい行いだけをこの民に知らせて、そのような悪事と忌まわしい行いと殺人を忌み嫌うように彼らに教えなさい。また、これらの人々が彼らの悪事と忌まわしい行いと殺人のために滅ぼされたことも、彼らに教えなさい。

30 見よ、彼らは自分たちの中にやって来て、その罪悪について告げ知らせた主の預言者をすべて殺した。そのため、彼らに殺された人々の血が、主なる神に向かって、自分たちを殺した者たちに報復するように叫んだ。その結果、神の裁きが、これらの闇の業を行い、秘密結社を作った者たちに下ったのである。

31 また、それらの闇の業を行い、秘密結社を作った者たちに対して、この地はとこしえにいつまでものろわれる。彼らは、悪事が完全に熟す前に悔い改めなければ滅びるであろう。

32 わが子よ、わたしがあなたに語ってきた言葉を覚

25 ① 教義88・108—110
② モサ21・26
27 ① ヒラ6・22
② アル45・16、エテ2・
28 ① 7—12
29 ① ヒラ6・25
② アル13・12

えておきなさい。あの秘密のはかりごとをこの民に明らかにすることなく、罪と悪事を永遠に憎むことを教えなさい。

33 悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰についてこの民に宣べ伝えなさい。謙遜になるように、また柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。

34 善い行いをするのに決して疲れず、柔和で心のへりくだった者になるようにこの民に教えなさい。このような者は、その霊に安息を得るであろう。

35 おお、覚えておきなさい、わが子よ。若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。

36 また、あなたの必要とするあらゆる助けを神に叫び求めなさい。まことに、あなたの行うことはすべて、主のために行うようにしなさい。どこへ行くにも主にあって行くようにしなさい。まことに、あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい。

37 あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるように、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。

38 さて、わが子よ、わたしは先祖が球、すなわち指示器と呼んだものについて少々話しておかなければならない。先祖はこれをリアホナと呼んだ。それは、羅針盤という意味である。主が用意してくださったのである。

39 見よ、これほど入念に細工のできる人はあり得ない。それは、先祖に荒れ野の中で旅をする進路を教えるために用意されたものであった。

40 そしてこれは、神を信じる先祖の信仰に応じて働いた。したがって、先祖が信仰を持ち、神がその指針によって自分たちの行くべき方向を示してくださると信じたときには、見よ、そのようになった。そこで彼らは、この奇跡と、また日々神の力によって

---

32 ① 2ニフ4・31
33 ① GS「宣べ伝える」
① GS「柔和」
② GS「誘惑」
③ 詩篇37・4−7、マタ
34 ① 11・28−30
35 ① GS「知恵」
36 ① GS「祈り」
37 ① ヤコ4・10、教義3・4
38 ① 教義46・32
② 1ニフ16・10、18・教義17・1
40 ① 12、1ニフ16・28

行われたほかの多くの奇跡を経験したのである。

41 しかし、それらの奇跡は小さな手段によって行われたため、それは彼らに数々の驚くべき業を示した。ところが、彼らが怠けて、信仰を働かせることと熱意を示すことを忘れると、それらの驚くべき業は止まってしまい、彼らの旅は進まなかった。

42 そのために彼らは、荒れ野に長居することになってしまった。すなわち、彼らはまっすぐな道を進まず、自分たちの背きのために飢えと渇きに苦しんだのである。

43 さて、わが子よ、このようなことには必ず影があることを理解してもらいたい。先祖はこの羅針盤を心に留めることを怠ったので（これらは物質的なことであり）、旅は順調ではなかった。霊的なことについても同様である。

44 見よ、キリスト[1]の御言葉は、永遠の喜びに至るまっすぐな道を指し示すものであるが、その御言葉を心に留めることが容易であるのは、約束の地に至るまっすぐな道を示すこの羅針盤に注意を払うのが、先祖にとって容易であったのと同じである。

45 さて、わたしは尋ねるが、このことの中に予型はないだろうか。この指示器がその示す道をたどる先祖を約束の地に導いたように、確かにキリストの御言葉は、わたしたちがキリストの御言葉の示す道をたどるならば、この悲しみの谷を越えてはるかに良い約束の地へわたしたちを導き入れてくれるのである。

46 おお、わが子よ、[1]方法が容易だからということで怠[2]けないようにしよう。わたしたちの先祖がそうであったからである。それは先祖のために備えられたもので、彼らがそれを見ていたら生き延[3]びることができたであろう。わたしたちについても同様である。方法はすでに備えられており、わたしたちが見ようとすれば、とこしえに生きることができるであろう。

47 さて、わが子よ、あなたはこれらの神聖なものを大切にしなさい。神に頼って生きるようにしなさい。この民のところへ出て行き、御言葉を告げ知らせなさい。まじめでありなさい。さらば、わが子よ。」

アルマが息子のシブロンに与えた戒め。

次の第三十八章がそれに相当する。

---

41 ① アル37・6—7
44 ① 詩篇119・105、1ニフ11・25、ヒラ3・29—30
46 ① ヨハ14・5—6、2ニフ9・41、31・17—21、教義132・22、25
② 1ニフ17・40—41
③ ヨハ11・25、ヒラ8・15、3ニフ15・9

第38章

シブロンは義のために迫害された。救いは世の命であり光であるキリストの内にある。自分の激情をすべて制すること。紀元前約七十四年。

1 「わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしはヒラマンに言ったようにあなたにも言う。あなたは神の戒めを守るかぎり地に栄えるであろう。また、神の戒めを守ろうとしなければ、神の御前から絶たれるであろう。

2 わが子よ、あなたが確固としており、神に忠実であるので、わたしはあなたによって大きな喜びを得られると確信している。あなたは若いときから主なる神に頼り始めたので、これからも神の戒めを守り続けるようにしてもらいたい。最後まで堪え忍ぶ者は幸いだからである。

3 わが子よ、わたしはあなたに言う。あなたはゾーラム人の民の中にあって忠実で、勤勉で、忍耐強く、寛容であったので、わたしはあなたによってすでに大きな喜びを得た。

4 わたしは、あなたが縛られていたのを知っているからである。また、御言葉のために石を投げられたのも知っている。主があなたとともにおられたので、あなたは忍耐してこれらすべてのことに耐えた。そして、今あなたは、神があなたを救い出してくださったことを知っている。

5 わが子シブロンよ、神を信頼すればするほど、あなたはそれだけ試練や災難や苦難から救い出され、そして終わりの日に高く上げられるということを覚えていてもらいたい。

6 わが子よ、わたしは、自分独りでこれらのことを知ったとあなたに思ってもらいたくない。わたしの内にある神の御霊が、これらのことをわたしに知らせてくださるのである。もし神から生まれていなかったならば、わたしはこれらのことを知ることはなかったであろう。

7 しかし見よ、主は深い憐れみをもって、主の民の中での滅びの業をやめなければならないとわたしに告げるために、主の天使を遣わされた。そして、わたしは顔と顔を合わせて天使を見、天使はわたしに語った。その天使の声はまるで雷鳴のようで、大地全体を揺り動かした。

第38章
2 ① アル63・1—2
② 2ニフ31・15—20、
3 ニフ15・9、27・6、16—17
① アル31・7
4 ① ロマ8・35—39
5 ① GS「忍耐」
② アル36・27、GS「信頼」
6 ① 教義3・8、121・7—8
② マタ11・28—30
③ アル36・26、教義5・16、GS「再び生まれる」
7 ① アル26・17—18、36・6—11
② モサ27・11—17

8 そして、わたしは三日三晩、激烈な苦痛と苦悩にさいなまれ、主イエス・キリストに憐れみを叫び求めるまでは、決して[1]罪の赦しを受けなかった。しかし見よ、主に叫び求めたところ、自分の霊に安息を得た。

9 わが子よ、このことをあなたに話したのは、あなたが知恵を得るため、また人が救われるのはただキリストにより、キリストを通じてだけであり、決してほかの方法や手段はないことを、わたしから学べるようにするためである。見よ、キリストは世の命であり[2]光であられる。見よ、キリストは真理と義の御言葉であられる。

10 あなたは御言葉を教え始めているので、今後も教え続けてもらいたい。そして、すべてのことに勤勉であり、自制するようにしてもらいたい。

11 高慢にならないようにしなさい。自分の知恵や優れた力を誇ら[1]ないようにしなさい。

12 大胆でありなさい。しかし、尊大であってはならない。また、激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。怠惰にならないようにしなさい。

13 ゾーラム人のように祈ってはならない。あなたが見たとおり、彼らは人に聞こえて自分の知恵が称賛されるように祈っているからである。

14 『おお、神よ、わたしたちが同胞よりも[1]優れていることを感謝します』と祈ってはならない。むしろ、『おお、主よ、わたしがふさわしくない[2]者であることをお許しください。憐れみをもってわたしの同胞を思い起こしてください』と祈りなさい。まことに、いつも神の御前で自分がふさわしくないことを認めなさい。

15 主があなたを祝福し、終わりの日にあなたを王国に迎え入れて、安らかに座に着かせてくださるように。さあ、わが子よ、行ってこの民に御言葉を教えなさい。まじめでありなさい。さらば、わが子よ。」

アルマが息子のコリアントンに与えた戒め。

次の第三十九—四十二章がそれに相当する。

第39章

性的な罪は忌まわしい行いである。コリアントンの罪は、ゾーラム人が御言葉を受け入れる妨げとなっ

8 ①GS「罪の赦し」
9 ①ヒラ5・9
9 ②モサ16・9
11 ①GS「高慢」
11 ②アル31・16
14 ①ルカ18・10—14
14 ②

た。キリストの贖いは、それよりも前の時代の忠実な人々をもさかのぼって救う。紀元前約七十四年。

1 「わが子よ、あなたには、あなたの兄弟に言ったことよりも少し多く言っておきたい。あなたは自分の兄弟が神の戒めを守るのに確固としており、忠実であり、勤勉であったのを見なかったか。見よ、彼はあなたのために良い模範を示さなかったか。

2 あなたはゾーラム人[1]の民の中で、あなたの兄弟のようにはわたしの言葉に注意を払わなかった。わたしがあなたに戒めたいのはこのこと、すなわち、あなたが自分の力と知恵を自慢し続けたことである。

3 わが子よ、それだけではない。あなたはわたしを悲しませることをした。あなたは神の道を説く務めを放棄して、レーマン人の境にあるサイロンの地まで娼婦[1]イザベルを追って行った。

4 この娼婦は多くの人の心を奪ったが、だからといって、わが子よ、これはあなたにとって決して言い訳にはならない。あなたは自分に託された務めに心を注ぐべきであった。

5 わが子よ、あなたはこのことが主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為であることを知らないのか。

6 見よ、聖霊が一度あなたに宿ってから、あなたがその聖霊を否定するならば、しかも自分で聖霊を否定していることを知っているならば、見よ、これは赦[2]されない罪である。神の光と知識に逆らって人を殺す者が赦[3]しを得るのは容易ではない。まことに、わが子よ、あなたに言うが、このような者が赦しを得るのは容易ではない。

7 わが子よ、あなたはそのような重大な罪[1]を犯さなければよかったものを。あなたの罪についてくどくどと述べてあなたをひどく苦しめることが、あなたのためにならないようであれば、わたしはそうはしなかったであろう。

8 しかし見よ、あなたは自分の罪を神から隠すことはできない。また、悔い改めなければ、あなたの罪は終わりの日にあなたを責める証となるであろう。

9 わが子よ、悔い改めて自分の罪を捨て、これからはもう自分の目の欲[1]を追うことなく、これらのこと

第39章
2 1 アル38・3
3 1 GS「肉欲」
4 1 箴言7・6—27
5 1 GS「性的不道徳」
6 1 教義76・35—36
2 GS「赦されない罪」
3 教義64・10、GS「赦し」
7 1 GS「罪悪感」
9 1 GS「現世的」

をすべて断つようにしてほしい。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことができないからである。おお、このことを覚えて、これらのことを必ず断つようにしなさい。

10 また、あなたが行おうとすることについて、必ず兄たちと相談するように、わたしはあなたに告げておく。見よ、あなたはまだ若く、兄たちから助けを受ける必要があるからである。兄たちの忠告を心に留めなさい。

11 どんなむなしいものにも、愚かなものにも惑わされてはならない。二度と心を悪魔に惑わされて、あの邪悪な娼婦たちを追ってはならない。見よ、おお、わが子よ、あなたは何と大きな罪悪をゾーラム人に招いたことか。彼らはあなたの行いを見て、わたしの言葉を信じなかった。

12 それで、主の御霊はわたしに、『あなたの子供たちが多くの人の心を惑わして滅びに至らせることのないように、善を行うことを彼らに命じなさい』と言われる。したがって、わが子よ、わたしは神を畏れてあなたに命じる。罪悪から遠ざかりなさい。

13 思いと勢力と力を尽くして主に立ち返りなさい。だれの心をも悪いことを行うように惑わしてはならない。むしろ彼らのところに帰り、あなたの過ちと、あなたが行った悪事を認めなさい。

14 富やこの世のむなしいものを求めてはならない。見よ、あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである。

15 さて、わが子よ、キリストの来臨についてあなたに少し述べておきたい。見よ、あなたに言う。キリストは確かに世の罪を取り除くために来られる。キリストは御自分の民に救いの喜びのおとずれを告げ知らせるために来られる。

16 さて、わが子よ、あなたが召された務めは、この民にこの喜びのおとずれを告げ知らせて、彼らの心を備えること、いや、救いがこの民に与えられるようにすること、この民がその子孫の心を備えて、キリストの来臨の時に御言葉を聞けるようにすることであった。

17 さて、わたしはこの件についてあなたの心を少し軽くしよう。見よ、あなたはどうしてこれらのことが、このようにずっと前から分かるのかと不思議に思っている。見よ、あなたに言おう。今の人はキリ

---

9 ② 3ニフ12・30
11 ① アル35・2—14
② ロマ2・21—23、14・13
12 ① GS「戒め（神の）」「教える・教師」
13 ① モサ27・34—35
14 ① マタ6・25—34、ヤコ2・18—19、教義6・6—7、68・31—32
16 ① GS「家族—親の責任」

ストが来られる時代の人と同じように、神にとって貴い存在ではないだろうか。

18 贖いの計画は、この民の子孫と同じように、この民にも知らされることが必要ではないだろうか。

19 今、主が天使を遣わして、この喜びのおとずれをわたしたちに告げ知らせてくださるのは、わたしたちの子孫に宣言されるのと同様に、あるいはキリストの来臨の後に宣言されるのと同様に容易なことではないだろうか。」

第40章

キリストはすべての人の復活を実現される。義人の死者はパラダイスへ行き、悪人は外の暗闇に追い出されて、それぞれ復活の日を待つ。復活の際、すべてのものが本来の完全な体の造りに回復される。紀元前約七十四年。

1 「さて、わが子よ、あなたに言っておきたいことがもう少しある。死者の復活について、あなたが心を悩ましていることが分かるからである。

2 見よ、わたしはあなたに言っておく。キリストの来臨[1]後までは復活はない。言い換えれば、そのときまで、この死すべき体が不死[2]のものを着ることはなく、この朽ちるものが朽ち[3]ないものを着ることはないということである。

3 見よ、キリストは、死者の復活[1]を実現される。しかしわが子よ、その復活の時はまだ来ていない。あなたに一つの奥義を明らかにしよう。神御自身のほかだれも知らない隠[2]されている奥義[3]がたくさんある。しかし、わたしが知りたいと思って神に熱心に尋ねた一つのことについて、あなたに告げよう。それは復活に関することである。

4 見よ、すべての人が将来、死者の中から出て来る[1]定められた時がある。さて、その時がいつやって来るかはだれも知らない。しかし、神は定められているその時を御存じである。

5 さて、人が死者の中から出て来るのは一度だけか、それとも二度[1]か、三度か、それは重要ではない。神はこれらのことをすべて御存じ[2]だからである。これが事実であるということ、すなわち、すべての人が死者の中からよみがえる時が定められているということが分かれば、わたしにはそれで十分である。

第40章
2 ① 1コリ15・20
② モサ16・10−13、GS「不死不滅」
3 ① 1コリ15・53−54
② GS「復活」
③ 教義25・4、124・41
4 ① GS「神の奥義」
③ ヨハ5・28−29
5 ① モサ26・24−25、教義43・18、76・85
② GS「神・神会」

6 さて、死ぬ時と復活の時の間には、時の隔たりが必ずあるに違いない。
7 そこでわたしは尋ねたい。[1]人が死んだ時から復活の定められた時に至るまで、どのようなことが人に起こるのだろうか。
8 人がよみがえるように定められている時が二度以上あるのかどうか、それは重要ではない。すべての人は同時には死なないからである。また、このことも重要ではない。すなわち、神にあってはすべてが一日のようであり、時が計られるのは人に対してだけである。
9 したがって、人に対して、死者の中からよみがえるように定められた時がある。そして、死ぬ時と復活の時の間には、時の隔たりがある。この時の隔たりに関してどのようなことが人の霊に起こるのか、それが知りたくて、わたしは主に熱心に尋ねた。そして、このことをわたしは今知っている。
10 すべての人がよみがえる時が来ると、神は人に定められている[1]時をすべて御存じであるということが分かるであろう。
11 さて、[1]死と復活の間の人の状態についてであるが、見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、まことに、善い霊であろうと悪い霊であろうと、彼らに命を与えられた[2]神のみもとへ連れ戻される。
12 そして、義人の霊は[1]パラダイスと呼ばれる[2]幸福な状態、すなわち[3]安息の状態、[4]平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。
13 さて、そのときの悪人の霊の状態はといえば、見よ、彼らは少しも主の御霊を受けずに、見よ、善い行いよりも悪い行いを好んだので、悪魔の霊が彼らの内に入り込んで、彼らの体を支配していた。それで、これらの霊は外の[1]暗闇に追い出され、そこで[2]涙を流し、泣きわめき、歯ぎしりをする。これは、彼ら自身の罪悪のために、悪魔の意のままに捕らえられて連れ去られた結果である。
14 さて、これが[1]悪人の霊の状態である。まことに、暗闇の中で、自分たちに下る火の憤りのような神の激しい怒りを、ひどく[2]恐れながら待っている状態である。義人がパラダイスにとどまるように、彼らは

---

7 ① アル40・21、教義138章、GS「人（霊を持つ存在としての）」
10 ① 使徒17・26
11 ① ルカ16・22—26、1ペテ3・18—19、4・6、教義76・71—74、138章
② 伝道12・7、2ニフ9・38
12 ① GS「パラダイス」
② GS「喜び」
③ GS「安息」
④ 教義45・46、GS「平安・平和」
13 ① GS「地獄」
② マタ8・12、モサ16・1
14 ① 教義138・20
② ヤコ6・13、モセ7・2

このように、自分たちの復活の時までこの[3]状態にとどまるのである。

15 さて、ある人々は、復活前の霊のこの幸福な状態とこの不幸な状態を、第一の復活と解釈してきた。まことに、わたしに告げられた御言葉からすれば、霊すなわち魂が引き上げられて幸福か不幸かの状態に置かれることを復活と呼んでもよいとわたしは認める。

16 また見よ、別に第一[1]の復活[2]があると述べられているが、それは過去にいたすべての人、現在いるすべての人、死者の中からキリストが復活されるまでの将来のすべての人の復活である。

17 さて、このように述べられているこの第一の復活とは、霊の復活があって幸福か不幸かの状態に置[1]かれることではないと、わたしは考えている。これがそういう意味であると考えてはならない。

18 見よ、わたしはあなたに言うが、そうではなく、それはアダムの時代からキリスト[1]の復活に至るまでの人々の、霊と体との再結合を意味する。

19 さて、これらの人々が、悪人であっても義人であっても、同時に皆その霊と体が再結合されるかどうか、わたしは言わない。ただ、彼らは皆出て来る、すなわちキリストの復活後に死ぬ人々の復活に先立って彼らの復活が起こると言えば十分である。

20 さて、わが子よ、わたしは彼らの復活がキリストの復活の時に起こるとは言わない。しかし見よ、わたしの考えとして述べるならば、義人の霊と体はキリストの復活の時、またキリストの昇天[1]の時に再結合される。

21 しかし、それがキリストの復活の時かその後か、わたしは言わない。しかし、肉体の死と復活の間には時[1]の隔たりがあるとだけ言っておこう。また、霊は幸福か不幸[2]かいずれかの状態に置かれ、この状態は神が定められた時まで続く。その時が来ると、死者は出て来てその霊と体とが再結合され、神の御前に連れ出[4]されて立ち、自分の行いに応じて裁かれるのである。

22 まことに、これがそれらのものの回復をもたらし、その回復については、預言者たちの口を通して語られてきたとおりである。

23 霊[1]は体に回復[2]され、体[3]は霊に回復される。そして、手足と関節はことごとくその体に回復される。

---

14 ③ アル 34・34
16 ① ヤコ 4・11、モサ 15・21—23
17 ① GS「復活」
② 教義 76・17、32、50—51
18 ① マタ 27・52—53
19 ① モサ 15・26
20 ① GS「昇天」
21 ① ルカ 23・39—43
② GS「パラダイス」
③ GS「地獄」
23 ① アル 42・23
④ 教義 88・15—17、GS「人（霊を持つ存在としての）」
② 2 ニフ 9・12—13、アル 11・40—45
③ GS「体」

まことに、髪の毛一筋さえも失われることなく、すべてのものが本来の完全な造りに回復される。

24 わが子よ、これこそが預言者たちの口を通して語られてきた回復なのである。

25 そのとき、義人は神の王国で輝きを放つ。

26 しかし見よ、悪人には恐ろしい死が及ぶ。彼らは清くないので、義にかかわることに関して死んだ状態になるからである。清くない者は決して神の王国を受け継ぐことができず、彼らは追い出されて、自分の働きの成果、すなわち自分の悪い行いの結果を受けるように定められる。そして、苦い杯のかすを飲むのである。」

第41章

復活の時に、人々は出て来て、無窮の幸福な状態か、無窮の不幸な状態に入る。悪事は決して幸福を生じたことがない。この世的な状態にある者は、現世で神なしに生きている。人は皆、死すべき状態にあって身に付けた特質と性質を、回復の時に再び受ける。紀元前約七十四年。

1 「さて、わが子よ、今述べた回復について言っておくことが少しある。見よ、ある人々は聖文を曲げて解釈し、このことについて大いに迷っているからである。また、あなたもこのことについて心を悩ませてきたことが分かる。しかし見よ、このことについてあなたに説明しよう。

2 わが子よ、あなたに言っておく。回復の計画は神の正義にとって必要である。すべてのものがふさわしい状態に回復されることは必要だからである。見よ、キリストの力と復活からいえば、人の霊がその体に回復されることと、体のあらゆる部分が体そのものに回復されることは、必要であり正当なことである。

3 また、人々が自分の行いに応じて裁かれること、そして現世での彼らの行いが善く、心の望みも善かったならば、彼らが終わりの日に善なるものに回復されることは、神の正義にとって必要である。

4 また、彼らの行いが悪ければ、それらの行いは災いとして彼らに回復される。したがって、すべてのものはふさわしい状態に回復され、あらゆるものはその本来の体に回復されるのである。すなわち、死

24 ① イザ26・19
26 ① 1ニフ15・33、アル12・16
② アル11・37

第41章

1 ① 2ペテ1・20、3・16、アル13・20
② GS「背教・背信」
2 ① アル40・23
3 ① GS「行い」
② GS「裁き」「責任を負う」
4 ① ヒラ14・31
② GS「正義」
③ アル42・28
教義138・17、GS「復活」
② 2ニフ9・12—13、

すべき状態は不死に、[3]朽ちるものは朽ちないものによみがえるのである。そして、[4]無窮の幸福な状態によみがえって神の王国を受け継ぐか、あるいは無窮の不幸な状態によみがえって悪魔の王国を受け継ぐ。すなわち、前者は一方にあり、後者は他方にある。

5 前者は幸福を望んだことによって幸福に、すなわち善を望んだことによって善によみがえり、後者は悪を望んだことによって悪によみがえる。後者は終日悪を行うことを望んだので、夜がやって来ると、報いとして災いを受けるからである。

6 もう一方も同様である。罪を悔い改めて、生涯の最後まで義を望む者は、義にかなう報いを与えられるであろう。

7 [1]このような人々は主に贖われる。まことに、このような人々は、あの無窮の暗黒の夜から連れ出され、救われるのである。このようにして、人々は立ったり倒れたりする。見よ、人々は善を行うか悪を行うか自分で判断するからである。

8 さて、神の定めは変えることができない。そして、道は用意されており、望む者はだれでもその道を歩いて、救われるようになっている。

9 さて見よ、わが子よ、あなたはこれまで、教義のある点について罪を犯すという危険を冒してきたが、もう二度とその点について、神に対して罪を犯さないようにしなさい。

10 回復について述べられているというので、罪から幸福へ回復されると思ってはならない。見よ、あなたに言っておくが、[1]悪事は決して幸福を生じたことがない。

11 さて、わが子よ、[1]生まれながらの状態、すなわち[2]この世的な状態にあるすべての人は、苦汁の中にあり、罪悪の縄目を受けている。彼らはこの世で[3]神なしに生きている人々であり、神の性質に反して行動してきた。したがって彼らは、幸福の本質に反する状態にある。

12 さて見よ、回復とは、あるものを自然の状態から取り去って不自然な状態、すなわちそのものの本質に反する状態に置くことであろうか。

13 おお、わが子よ、そうではない。回復とは悪を悪に、肉欲を肉欲に、悪心を悪心に、善を善に、義を義に、公正を公正に、憐れみを憐れみに再び返すこ

---

4 ③ 1コリ15・51−55
7 ① ④ GS「永遠の命」
② 教義76・50−70、2ニフ2・26、アルマ42・27、ヒラ14・30、GS「選択の自由」
8 ① 教義1・38
9 ① 教義42・23−28
10 ① 詩篇32・10、イザ57・20−21、ヒラ13・38
11 ① モサ3・19、GS「生まれながらの人」
③ ② GS「現世的」エペ2・12

とである。

14 したがって、わが子よ、同胞に対して常に憐れみ深くありなさい。[1]公正に振る舞い、[2]義にかなって裁き、絶えず[3]善を行いなさい。これらのことをすべて行えば、そのときあなたは報いを受けるであろう。まことに、あなたに[4]憐れみが再び回復され、再び公正が回復され、再び義にかなった裁きが回復され、再び善が報われるであろう。

15 あなたから出るものがあなたに返って来て、回復されるからである。したがって、回復という言葉は罪人をさらにはっきりと罪に定めるのであって、決して義とはしないのである。」

第42章

死すべき状態の現世は、人が悔い改めて神に仕えることを可能にする試しの時期である。堕落は全人類に肉体の死と霊の死をもたらした。贖いは悔い改めを通じて与えられる。神御自身が世の罪のために贖いをなさる。憐れみは悔い改める人々のためにある。悔い改めない者は皆、神の正義の支配を受ける。憐れみは贖罪により与えられる。心から悔い改める者だけが救われる。紀元前約七十四年。

1 「さて、わが子よ、今あなたの心を悩ましている、あなたの理解できないことがほかにも多少あることを、わたしは知っている。それは罪人を罰する神の[1]公正についてである。あなたは罪人が不幸な状態に置かれるのは不当であると思っている。

2 さて見よ、わが子よ、このことをあなたに説明しよう。見よ、主なる神はわたしたちの始祖をエデン[1]の園から[2]追い出して、彼らの肉体が造られた土を耕すようにされた後、まことに主なる神は人を追い出された後、エデンの園の東の端にケルビム[3]とあらゆる方向に回る燃える剣を置いて、[4]命の木を守らせられた。

3 わたしたちが知っているように、人は神のようになり、善悪をわきまえるようになった。そこで、人が手を伸ばして命の木からも取って食べ、とこしえに生き長らえることのないように、主なる神はケルビムと燃える剣とを置いて、人がその木の実を食べられないようにされた。

4 このことから分かるように、人が悔い改めること

---

14 ① GS「正直」
② ヨハ7・24、教義11・12
③ 教義6・13、58・27
④ 1—28 GS「憐れみ」

第42章

1 ① 2ニフ26・7、モサ15・26—27、GS「正義」
2 ① 創世3・23—24、モセ4・28—31
② GS「エデン」
③ GS「ケルビム」
④ 創世2・9

を許された期間があった。まことに、それは試しの時期であり、悔い改めて神に仕える時期である。

5 見よ、もしアダムがすぐに手を伸ばして命の木から取って食べていたら、彼は悔い改めの期間がまったくないまま、神の御言葉のとおりにとこしえに生き長らえたであろう。そして、神の御言葉はむなしくなり、偉大な救いの計画は挫折していたことであろう。

6 しかし見よ、人は死ぬものと定められた。そこで人は、命の木から絶たれたときに、地の面から絶たれることとなった。そして人は、とこしえに迷った状態になり、まことに、堕落した者となったのである。

7 さて、これによって分かるように、わたしたちの始祖は、肉体的にも霊的にも主の御前から絶たれてしまった。このようにして、わたしたちが知っているように、彼らは自分の意志に従う者となったのである。

8 さて見よ、そのときすぐに人がこの肉体の死から救われることは、偉大な幸福の計画を損なうことになるので適当ではなかった。

9 そこで、魂は決して死ぬことがあり得ず、また堕落は全人類に肉体の死だけでなく霊の死ももたらしたので、すなわち彼らは主の御前から絶たれたので、人類はこの霊の死から救われることが望まれた。

10 人類は生まれながらの本性のために、肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となったので、この試しの状態は彼らが用意をする状態となった。すなわち、準備の状態となったのである。

11 さて、わが子よ、覚えておきなさい。もし贖いの計画がなければ（それを捨てるならば）、人が死ぬとすぐに、その霊は主の御前から絶たれるので不幸な状態に陥ったであろう。

12 さて、人々をこの堕落した状態から救い出す手段はまったくなかった。この堕落した状態は、人が自分の不従順のために自分自身に招いたものである。

13 したがって、正義によれば、贖いの計画はこの試しの状態、すなわちこの準備の状態で人々が悔い改めるという条件がなければ成し遂げられない。これらの条件がなければ、正義の働きを損なうことなしに憐れみが効力を発することは不可能だからで

---

4 ①アル34・32−33
6 ①GS「死（肉体の）」
②モサ16・3−5、GS「堕落（アダムとエバの）」
7 ①2ニフ2・5、9・6、ヒラ14・16、GS「死（霊の）」
8 ①②GS「選択の自由」
アル34・9、モセ6・62
9 ①GS「堕落（アダムとエバの）」
10 ①GS「生まれながらの人」
②GS「現世的」
③GS「死すべき状態」
11 ①2ニフ9・7−9
12 ①GS「贖いの計画」
13 ①②GS「悔い改め」

ある。正義の働きが損なわれることはあり得ない。もしそのようなことがあれば、神は神でなくなる。

14 このようにして、わたしたちが知っているように、全人類は堕落[1]した状態になり、正義[2]の支配下に入った。まことに、この正義は神の正義であり、全人類がとこしえに神の御前から絶たれることになったのである。

15 さて、憐れみの計画は、贖罪が行われなければ成し遂げることができなかった。したがって、神は憐れ[1]みの計画を成し遂げるため、正義[2]の要求を満たすため、また御自分が完全[3]で公正な神、憐れみ深い神であり続けるために、御自分で世の罪の贖い[4]をされるのである。

16 さて、罰がなければ、人は悔い改めをすることができなかった。この罰も霊の命と同じように永遠[1]のものであり、霊の命と同じように永遠である幸福の計画に相対して定められたのである。

17 人は罪を犯[1]さなければ、どうして悔い改めることができようか。律法[2]がまったくなければ、どのようにして人は罪を犯すことができようか。罰がなければ、どうして律法があり得ようか。

18 罰が定められ、公正な律法が与えられて、それらが人に良心のとがめを生じさせた。

19 もしも、人殺しをした者は死ななければならないという律法が与えられていなければ、人は人殺し[1]をすれば自分が死ぬことになると恐れるであろうか。

20 また、もし罪を禁じる律法がまったく与えられていなければ、人は罪を犯すことを恐れないであろう。

21 もし律法[1]がまったく与えられていなければ、たとえ人が罪を犯しても、正義や憐れみに何ができるであろうか。正義も憐れみもその人について何も要求する権利を持たないであろう。

22 しかし、現在、律法が与えられ、罰が定められており、悔い改めが許[1]されている。そして、憐れみは悔い改めを要求する。そうでなければ、正義がその人について権利を主張し、律法を執行し、律法は罰を負わせる。もしそうでなければ、正義の働きは損なわれ、神は神でなくなる。

23 しかし、神が神でなくなることはなく、憐れ[1]みは悔い改める者について権利を主張する。憐れみは贖罪[2]によって与えられるのである。そして、贖罪

13 ③ 2ニフ2・13—14
14 ① アル22・13—14
15 ① GS「憐れみ」
② 2ニフ2・5
③ GS「正義」
④ 3ニフ12・48
16 ① モサ16・7—8、GS「贖罪」
17 ① 教義19・10—12
② GS「罪」
18 ① ロマ4・15
19 ① GS「良心」
21 ① 2ニフ9・25—26、
② GS「殺人」
22 ① モサ3・11
23 ① GS「悔い改め」
② GS「憐れみ」
GS「贖罪」

は死者の[3]復活をもたらし、死者の復活は人を神の御前に連れ戻す。[4]このようにして、人は神の御前に連れ戻され、律法と正義により、自分の行いに応じて裁かれる。[5]

24 見よ、正義は正義のすべての要求を働かせ、また、憐れみは憐れみを受ける資格のあるすべての者について権利を主張する。したがって、心から悔い改める者のほかにはだれも救われない。

25 そもそも、あなたは憐れみが[1]正義から奪えると思うのか。いや、少しも奪えない、とわたしは言おう。もし奪えるようであれば、神は神でなくなる。

26 このようにして神は、[1]世の初めから用意されていた御自分の偉大な永遠の[2]目的を達せられる。そしてこのようにして、人の救いと贖いと、また滅びと不幸が生じるのである。

27 したがって、おお、わが子よ、来たいと思う者は[1]だれでも来て、価なしに命の水を飲むことができる。また、来たいと思わない者はだれも来るように強いられない。しかしその者は、終わりの日にその行いに応じて[2]回復[3]を受ける。

28 もし彼が[1]悪を行いたいと望んで、生涯悔い改めなければ、神の回復の原則によって、見よ、彼に災いが及ぼされる。

29 さて、わが子よ、あなたはこれからはもう、これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。

30 おお、わが子よ、あなたはこれからはもう、神の正義を否定しないようにしてもらいたい。神の正義を否定することによって、どんなささいなことでも罪の言い訳をしようとしてはならない。むしろ、神の正義と憐れみと寛容があなたの心の中で存分に力を振るえるようにし、そのために[1]へりくだって地にひれ伏すことができるようにしなさい。

31 さて、おお、わが子よ、あなたはこの民に御言葉を告げ知らせるために神から召されている。わが子よ、あなたの道を行き、誠実にまじめに御言葉を告げ知らせて、人々を悔い改めに導き、偉大な憐れみの計画が彼らについて権利を主張できるようにしなさい。神がまことにわたしの言葉のとおりにあなたにかなえてくださるように。アーメン。」

---

23 ③ 2ニフ2・8、9・4、アル7・12、11・41—45、12・24—25、ヒラ14・15—18、モル9・13
24 ④ アル40・21—24
25 ⑤ GS「最後の裁き」
26 ① 1・14
① アル13・3、3ニフ2・14—30、
② 2ニフ2・14—30、
27 ① モセ1・39
30 GS「選択の自由」
② アル5・34、ヒラ14・59・18、黙示20・12
28 ① アル41・15
29 ③ アル41・2—5
30 ① GS「謙遜」

第43章

アルマとその息子たち、御言葉を宣べ伝える。ゾーラム人とほかのニーファイ人の離反者たち、レーマン人となる。レーマン人、ニーファイ人を攻める。モロナイ、ニーファイ人に防御用の武具を着けさせる。主、アルマにレーマン人の作戦を明らかにされる。ニーファイ人、自分たちの家と自由、家族、宗教を守る。モロナイの軍隊とリーハイの軍隊、レーマン人を包囲する。紀元前約七十四年。

1 さて、アルマの息子たちは御言葉を告げ知らせるために民の中に出て行った。また、アルマ自身も休んでいることができず、彼もまた出て行った。
2 ところで、彼らの宣教についてはこれ以上述べないが、ただ、彼らが預言と啓示の霊によって御言葉と真理を宣べ伝えたとだけ言っておく。彼らは召されている神の[1]聖なる位に従って教えを説いた。
3 ここで、ニーファイ人とレーマン人の間の戦争の話に戻ろう。それはさばきつかさの統治第十八年のことである。
4 さて見よ、ゾーラム人[1]はレーマン人となってしまった。そして第十八年の初めに、ニーファイ人の民はレーマン人が攻め寄せて来るのを見て、戦争の準備をした。すなわち、彼らはジェルションの地に軍隊を集めた。
5 さて、レーマン人は数千人の軍勢でやって来ると、ゾーラム人の土地であるアンテオヌムの地に入って来た。彼らの指揮官はゼラヘムナという名の男であった。
6 ところで、アマレカイ人は元来レーマン人よりももっと邪悪で、殺人を好む気質を持った者たちであったので、ゼラヘムナがレーマン人を率いる連隊長として任命した者たちは皆、アマレカイ人とゾーラム人であった。
7 彼がこのようにしたのは、レーマン人に引き続きニーファイ人を憎ませ、レーマン人を服従させて自分の企てを果たすためであった。
8 見よ、彼の企ては、レーマン人をそそのかしてニーファイ人に対して怒りを抱かせることであった。彼がこのようにしたのは、レーマン人を支配する大きな権力を自分のものとし、さらにニーファイ人を奴隷にして彼らを支配する権力をも得るためであ

第43章
2 ① GS「メルキゼデク神権」
4 ① アル35・2−14、52・33

った。

9 ところが、ニーファイ人の目的は、自分たちの土地と家、[1]妻子を保護して、これらのものが敵の手に落ちないようにすること、また自分たちの権利と特権と、望みのままに神を礼拝できる[2]自由を保つことであった。

10 彼らは、もしレーマン人の手に落ちれば、[1]霊とまことをもって神を、すなわちまことの生ける神を[2]礼拝する者を皆、レーマン人が殺すことを知っていたからである。

11 彼らはまた、レーマン人が彼らの[1]同胞、すなわちアンモンの民と呼ばれているアンタイ・ニーファイ・リーハイ人に対してひどい憎しみを抱いていることも知っていた。アンモンの民は武器を取ろうとしなかった。彼らは聖約を交わしており、それを破ろうとはしなかった。したがって、もしレーマン人の手に落ちれば、彼らは滅ぼされたであろう。

12 ニーファイ人は、彼らが滅ぼされるままにしておくのを望まなかったので、彼らに受け継ぎとして土地を譲った。

13 そして、アンモンの民はニーファイ人に、彼らの軍隊を支援するために自分たちの持ち物の多くを提供した。このようなわけで、ニーファイ人はやむを得ず単独でレーマン人に立ち向かうことになった。一方レーマン人は、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちの子孫、およびニーファイ人から離反してアマレカイ人やゾーラム人になったすべての者、ならびにノアの祭司たちの[1]子孫から成っていた。

14 その子孫はニーファイ人とほぼ同数であった。したがって、ニーファイ人は自分たちの同胞と血を流してでも戦わざるを得なかった。

15 さて、レーマン人の軍隊がアンテオヌムの地に集まっていたので、見よ、ニーファイ人の軍隊はジェルションの地で彼らと戦いを交える用意をした。

16 ところで、ニーファイ人の指揮官、すなわちニーファイ人を率いる司令官に任命された人、この司令官がニーファイ人の全軍の指揮を執ったが、その人はモロナイという名であった。

17 モロナイは一切の指揮を執り、軍政をつかさどった。彼がニーファイ人の軍隊を率いる司令官に任命されたのは、わずか二十五歳のときであった。

---

9 ① アル44・5、46・12
10 ① GS「自由」
10 ② ヨハ4・23—24
11 ① GS「礼拝」
11 ② アル24・1—3、5、20、25・1、13、27・2、
13 ① 21—26
13 ① アル25・4

18さて、彼はジェルションの地の境でレーマン人と
相対した。このとき、彼の民は剣と三日月刀、その
ほかあらゆる武器で武装していた。
19レーマン人の軍隊がニーファイの民を見ると、モ
ロナイは胸当てと腕盾と、頭部を防御する防具を彼
の民に装備させていた。また、彼らは厚手の衣を着
ていた。
20ところが、ゼラヘムナの軍隊はそのようなものは
着けておらず、ただ剣と三日月刀、弓と矢、石と石
投げを携えているだけであった。また、腰に皮をま
とっているほかは裸であった。ゾーラム人とアマレ
カイ人以外、全員が裸であった。
21そのように、彼らは胸当てや盾で武装していなか
ったので、ニーファイ人より人数が多かったにもか
かわらず、ニーファイ人の軍隊の武具を見てひどく
恐れた。
22見よ、そこで彼らは、ジェルションの地の境であ
えてニーファイ人を攻めようとせず、アンテオヌム
を去って荒れ野へ向かった。そして、はるかシドン
川の源の近くを、荒れ野の中を遠回りして進み、マ
ンタイの地に入ってその地を占領しようとした。彼
らは自分たちがどこへ行ったかモロナイの軍隊には
分からないであろうと思ったからである。
23しかし、彼らが荒れ野に向かって出発するとすぐ
に、モロナイは数人の密偵を荒れ野に送り込んで、
彼らの陣営をうかがわせた。モロナイはまた、アル
マの数々の預言のことを知っていたので、ある人々
をアルマのもとに遣わし、レーマン人を防ぐために
ニーファイ人の軍隊はどこへ行けばよいか、主に尋
ねてほしいと願った。
24そこで、主の言葉がアルマに下った。そして、ア
ルマはモロナイの使者たちに、レーマン人の軍隊は
荒れ野の中を遠回りして進んでおり、彼らはマンタ
イの地へ行って民の弱い部分に攻撃を仕掛けようと
していると告げた。そこで、使者たちは帰って、モ
ロナイにその伝言を伝えた。
25そこでモロナイは、軍隊の一部をジェルションの
地に残して、レーマン人の一部がその地にやって来
て町を占領することのないように備えておき、軍隊
の残りを率いてマンタイの地へ進軍した。
26そしてモロナイは、その地のすべての人を集め、
レーマン人と戦って彼らの土地と国、権利と自由

23 ① 20 ① エノ 1・20 アル 48・16

を守らせるようにした。このようにして彼らは、レ[1]
ーマン人の来襲に備えたのである。
27さて、モロナイは、シドン川の岸に近い谷に自分
の軍隊を隠した。そこはシドン川の西方の荒れ野の
中であった。
28またモロナイは、方々に密偵を配置し、レーマン
人の軍隊が来たときにそれが分かるようにした。
29モロナイはレーマン人の目的を知っていた。彼ら
の目的は、自分たちの同胞を滅ぼすか、そうでなけ
れば同胞を服従させて奴隷にし、全地に彼ら自身の
ための王国を築くことであった。
30またモロナイは、ニーファイ人のただ一つの望み
が自分たちの土地と自由[1]と教会を守ることである
のを知っていたので、計略を用いてニーファイ人を
守ることは少しも罪ではないと思った。そこで彼は
何人もの密偵を使って、レーマン人がどの進路を取
ろうとしているかを探った。
31その結果、彼は自分の軍隊を分けて、一部を川を
渡らせて谷に入れ、東方に、すなわちリプラの丘の
南方に彼らを隠した。
32また、残りの兵をシドン川の西方の西の谷に、マ
ンタイの地の境に至るまで隠した。
33このように彼は、自分の望むままに軍隊を配置
し、レーマン人と戦いを交える用意をした。
34そして、レーマン人はモロナイの軍隊の一部が隠
れている丘の北方を上って来た。
35そして彼らは、リプラの丘を過ぎて谷に入り、シ
ドン川を渡り始めた。そこで、丘の南方に隠れてい
て、リーハイ[1]という名の人に率いられていた軍隊
が、彼の指揮の下に東方からレーマン人の背後を包
囲した。
36そこでレーマン人は、ニーファイ人が背後から攻
めて来るのを見て、向きを変えてリーハイの軍隊と
戦い始めた。
37そして、双方ともに死者が出始めたが、死者はレ
ーマン人の方がはるかに多かった。レーマン人はニ
ーファイ人の剣と三日月刀による激しい攻撃にそ
の裸[1]の体をさらしており、ほとんど一太刀ごとに死
んだからである。
38一方、ニーファイ人は体の特に大切な部分が保護
されていたので、すなわち、体の特に大切な部分
が胸当て[1]と腕盾とかぶとでレーマン人の攻撃から保

26 ① 教義134・11
30 ① アル46・12−35
35 ① アル49・16
37 ① アル3・5
38 ① アル44・8−9

護されていたので、レーマン人の剣に触れ、血を失ったことにより倒れる者が時折いたくらいであった。このようにニーファイ人はレーマン人を殺し続けた。

39 そこでレーマン人は、味方が大勢殺されたことでおびえ、とうとうシドン川の方へ逃げ始めた。

40 そして彼らは、リーハイと彼の兵たちに追撃され、リーハイによってシドンの水の中に追い込まれて、シドンの水を渡った。しかしリーハイは、軍隊をシドン川の岸にとどめ、彼らには川を渡らせなかった。

41 そして、モロナイと彼の軍隊がシドン川の対岸の谷でレーマン人を迎え、攻めかかって彼らを殺し始めた。

42 そこでレーマン人は、再び彼らの前から逃げ出し、マンタイの地へ向かった。ところが、またしてもモロナイの軍隊に出会ってしまった。

43 するとこの度は、レーマン人も激しく戦った。レーマン人はいまだかつて知られていないほど、すなわち、両者の戦争が始まって以来一度もなかったほど、非常に大きな力と勇気を奮って戦った。

44 彼らは自分たちの連隊長であり指揮官であるゾーラム人とアマレカイ人、および総隊長すなわち総指揮官であり総司令官であるゼラヘムナに励まされた。[1] まことに、彼らは龍のように戦い、多くのニーファイ人が彼らの手によって殺された。まことに、彼らはニーファイ人のかぶとをたくさん打ち割り、ニーファイ人の胸当てをたくさん刺し貫き、ニーファイ人の腕をたくさん切り落とした。このようにレーマン人は激しく怒って打ちかかった。

45 しかし、ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた。彼らは君主制のために戦ったのではなく、権力のためでもなく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦っていた。[1] [2]

46 彼らは、神に義務を負っていると感じていたことを行っていたのである。主は彼らに、また彼らの先祖に、「あなたがたは最初の攻撃についても、二度目の攻撃についても、罪を犯していないかぎり、敵の手によって殺されるに任せてはならない」と言われたからである。[2] [3]

47 主はまた、「あなたがたは血を流してでも自分た

---

44 ① アル43・6
45 ① アル44・5
46 ① GS「自由」
46 ② GS「義務」
98 ② 3ニフ3・21、教義98・23−24
98 ③ アル48・14、教義98・33−36

ちの家族を守りなさい」とも言われた。したがって、ニーファイ人は自分自身と家族、土地、国、権利、宗教を守るためにレーマン人と戦っていたのである。

48 さて、モロナイの兵たちは、レーマン人の勇猛ぶりと怒りを見ると、恐れをなして逃げ出そうとした。しかしモロナイは、兵たちの思いを見抜くと、使者を出し、次のこと、すなわち自分たちの土地と自由のこと、まことに奴隷の状態に陥るのを免れることを思い出させて、彼らの心を奮い立たせた。

49 そこで彼らは、レーマン人の方に向き直り、声を合わせて主なる神に、自由を保ち、奴隷の状態に陥るのを免れることができるように叫び求めた。

50 そして彼らは、力を得てレーマン人に立ち向かった。すると、彼らが主に自由を叫び求めると同時にレーマン人は彼らの前から逃げ始め、シドンの水際まで退いた。

51 レーマン人はニーファイ人よりも多く、まことに倍以上の人数であったにもかかわらず、彼らは追いやられて、その谷でシドン川の岸に一団となって集まった。

52 そこで、モロナイの軍隊は彼らを包囲した。すなわち、リーハイの兵たちが川の東側にいたため、川の両側から包囲する形になった。

53 ゼラヘムナはシドン川の東にいるリーハイの兵とシドン川の西にいるモロナイの軍隊を見て、自分たちがニーファイ人に包囲されているのを知り、彼らは恐れおののいた。

54 モロナイは彼らが恐れているのを見て、血を流すのをやめるように兵に命じた。

第44章

モロナイ、平和の誓いを立てるようにレーマン人に命じ、そうしなければ滅びると警告する。ゼラヘムナ、その申し出を拒絶し、戦いが続く。モロナイの軍隊、レーマン人を打ち負かす。紀元前約七十四年から七十三年に至る。

1 さて、モロナイの兵は戦うのをやめて、レーマン人から一歩退いた。そこで、モロナイはゼラヘムナに言った。「見よ、ゼラヘムナよ、我々は血を流す者にはなりたくない。おまえたちにも分かるとおり、

---

47 ① 教義134・11
49 ① 出エ2・23−25、モサ29・20
第44章
1 ① アル43・45

おまえたちは我々の手の中にある。しかし、我々は
おまえたちを殺したくない。
2 見よ、我々がおまえたちと戦うためにやって来た
のは、おまえたちの血を流して権力を得るためでは
決してない。また、だれかに奴隷のくびきをかけた
いと思っているためでもない。しかし、おまえたち
が我々を攻めて来たのは、まさにこのためである。
そのうえ、おまえたちは我々の宗教のことで我々
に腹を立てている。
3 しかし、おまえたちの見るとおり、主は我々とと
もにおられる。おまえたちの見るとおり、主はおま
えたちを我々の手に渡された。主が我々にこうして
くださったのは、我々の宗教とキリストを信じる
我々の信仰のためであることを知ってもらいたい。
また、おまえたちの見るとおり、おまえたちはこの
我々の信仰を打ち砕くことはできない。
4 おまえたちの見るとおり、これは神のまことの信
仰である。まことに、おまえたちの見るとおり、
我々が神と自分の信仰と宗教に忠実であるかぎ
り、神は我々を支え、保ち、守ってくださる。また、
我々が戒めに背いて自分の信仰を否定するようなこ
とがなければ、主は我々が滅ぼされるのを決してそ
のままにしておかれない。
5 ゼラヘムナよ、我々の腕を強くしておまえたちを
打ち負かす力を得させてくださったあの全能の神の
御名によって、また我々の信仰、宗教、礼拝の儀[1]
式、教会にかけて、妻子を養う神聖な務めにかけ
て、我々の国土に愛着を起こさせる自由にかけて、[2]
我々のあらゆる幸福の源である神の神聖な御言葉を
守る行為にかけて、また我々にとって非常に大切な
すべてのものにかけて、わたしはおまえに命じる。
6 それだけではない。おまえたちが生き延びたいと
思っている望みにかけて、おまえに命じる。我々に
武器を引き渡せ。そうすれば、我々はおまえたちの
血を求めない。もしおまえたちが去って、再び攻め
て来ないというのであれば、命を助けてやろう。
7 しかし、もしそうしないのであれば、見よ、おま
えたちは我々の手の中にあるので、わたしは兵に命
じて攻撃させ、おまえたちの身に致命傷を負わせて
全滅させよう。そのときに、我々のどちらがこの民
を治める権力を持ち、どちらが奴隷になるかが分か
るであろう。」

5
②①
GS GS
「儀式」
「自由」

8 さて、ゼラヘムナはこれらの言葉を聞くと、前に進み出て、剣と三日月刀と弓をモロナイの手に渡して言った。「見よ、我々の武器はこのとおりおまえたちに渡そう。しかし、将来我々も子孫も破ると分かっている誓いについては、これをおまえたちに立てることはできない。だが、武器を受け取り、我々を荒れ野へ去らせてくれ。さもなければ、我々は自分の剣を渡さずに、滅びるか勝利を得るか決するまで戦い続ける。

9 見よ、我々は、おまえたちと同じ信仰を持ってはいない。神が我々をおまえたちの手に渡したなどとは信じない。我々は、おまえたちを我々の剣から守ったのはおまえたちの悪知恵であると思っている。見よ、おまえたちを守ったのは胸当て[1]と盾だ。」

10 ゼラヘムナがこれらの言葉を語り終えると、モロナイは受け取った剣と武器をゼラヘムナに返して言った。「さあ、戦いの決着をつけよう。

11 わたしはすでに語った言葉を取り消すことができないので、主が生きておられるように確かに、二度と我々のもとに戻って来て戦わないと誓って去るのでなければ、おまえたちを去らせるわけにはいかない。おまえたちは我々の手の中にあるので、我々はおまえたちの血を地上に流そう。それが嫌ならば、おまえたちはわたしの告げた条件に従え。」

12 モロナイがこれらの言葉を述べると、ゼラヘムナは剣を取った。そして、モロナイのことを怒り、モロナイを殺そうとして駆け寄った。しかし、ゼラヘムナが剣を振り上げたとき、見よ、モロナイの兵の一人がそれを地にたたき落とした。すると、それは柄のところで折れてしまった。その兵はまた、ゼラヘムナを打って彼の頭の皮をはぎ、それを地に落とした。そこでゼラヘムナは、自分の兵の中に逃げ込んでしまった。

13 そして、傍らに立っていたゼラヘムナの頭の皮をはぎ取った兵は、その頭皮を、髪をつかんで地から拾い上げ、剣の先に引っかけてレーマン人の方に差し伸べ、大声で彼らに言った。

14 「おまえたちが武器を引き渡して平和の誓いを立てて去らなければ、おまえたちの指揮官のこの頭の皮が地に落ちたように、おまえたちも地に倒れることになるだろう。」

15 レーマン人はこの言葉を聞き、剣にかけられてい

---

8 ① GS「誓い」
9 ① アル43・38

る頭の皮を見て、多くの者が恐れをなした。そして、多くの者が進み出て、モロナイの足もとに武器を投げ出し、平和の誓いを立てた。そして、誓いを立てた者は皆、荒れ野へ立ち去ることを許された。

16そこで、ゼラヘムナは非常に怒り、残った兵たちをそそのかして怒らせ、前よりもさらに激しくニーファイ人と戦わせた。

17そして、モロナイもレーマン人が強情であることを怒って、彼らを攻めて殺すように民に命じた。そこで、彼の民はレーマン人を殺し始め、レーマン人も剣を振るい、力を尽くして応戦した。

18しかし見よ、レーマン人は、むき出しの肌と覆いのない頭をニーファイ人の鋭い剣にさらしており、まことに見よ、彼らは刺し貫かれ、討たれて、ニーファイ人の剣の前で見る間に倒れていった。そして、モロナイの兵が預言したように、彼らは一掃され始めた。

19するとゼラヘムナは、彼らが皆殺しにされてしまいそうなのを見て、モロナイに必死に叫び求めて、残った者の命を助けてくれるならば自分も部下も二度と攻めて来ないと誓うことを約束した。

20そこでモロナイは、再び殺すのをやめさせ、レーマン人から武器を取り上げた。こうしてレーマン人は、モロナイと平和の誓いを立てた後、荒れ野へ立ち去ることを許された。

21両軍の死者は多数に及んだために数えられなかった。死者の数はニーファイ人側でもレーマン人側でも非常に多かった。

22そこで彼らは死体をシドンの水に投げ込み、死体は流れて行って海の深みに葬られた。

23その後、ニーファイ人の軍隊、すなわちモロナイの軍隊は引き揚げ、自分たちの家と土地へ帰って行った。

24このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十八年が終わった。これでニーファイの版に書き記されていたアルマの記録は終わった。

ヒラマンの時代のニーファイの民と、彼らの戦争と不和についての話。ヒラマンが生涯書き続けた記録による。

次の第四十五—六十二章がそれに相当する。

15 ① 1ニフ4・37、アル50・36
19 ① アル47・6
20 ① アル62・16—17

第45章

ヒラマン、アルマの言葉を信じる。アルマ、ニーファイ人の滅亡を預言する。アルマ、地を祝福し、またのろう。アルマ、モーセのように御霊によって取り上げられたと伝えられる。教会の中に不和が募る。紀元前約七十三年。

1 さて見よ、主が再び敵の手から救ってくださったので、ニーファイの民は非常に喜び、主なる神に感謝をささげた。そして、彼らは大いに断食し、大いに祈り、非常に大きな喜びをもって神を礼拝した。
2 さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十九年に、アルマは息子ヒラマンのところに来て、「これまで書き継がれてきた記録についてあなたに語った言葉を信じるか」と彼に言った。
3 そこで、ヒラマンは、「はい、信じています」と言った。
4 すると、アルマはまた、「将来来られるイエス・キリストを信じるか」と言った。
5 そこで彼は、「はい。お父さんの言った言葉をすべて信じています」と言った。
6 すると、アルマはまた彼に、「あなたはわたしの命じてきたことを守るか」と言った。
7 そこで彼は、「はい、命じられたことを、わたしは心を尽くして守ります」と言った。
8 すると、アルマは彼に言った。「あなたは幸いだ。主はあなたをこの地で栄えさせてくださるであろう。
9 見よ、あなたに預言しておくことが少しある。しかし、わたしがあなたに預言することを公にしてはならない。まことに、わたしがあなたに預言することは、その預言が成就するまで公にしてはならない。だから、わたしが告げる言葉を書き留めなさい。
10 その言葉は次のとおりである。見よ、わたしは自分の内にある啓示の霊によって知っている。この民、ニーファイ人は、イエス・キリストがこの民に御自身を現されるときから四百年たつと不信仰に陥る。
11 そのときに彼らは戦争と疫病、まことに、飢饉と流血を目にし、ついにニーファイの民は全滅するであろう。
12 これは、彼らが不信仰になり、また闇の業と好色

第45章
1 ① GS「断食」
2 ① 38 アル37・1−5、50・
6 ① GS「戒め（神の）」「従順・従う」
8 ① 1ニフ4・14、アル48・15−16、25
9 ① GS「預言」
10 ① 1ニフ12・10−15、ヒラ13・9、モル8・6−7
② GS「背教・背信」「不信仰」
11 ① ジェロ1・10、モル8・2−3、6−7
12 ① GS「欲望」

とすべての罪悪に陥るからである。わたしはあなたに言う。彼らが非常に大きな光と知識に対して罪を犯すからである。まことに、言っておくが、その日から第四世代の人々が全員世を去る前に、この大きな罪悪が起こるであろう。

13 その大いなる日が来ると、見よ、今いる者たち、今ニーファイの民の中に数えられている者たちの子孫がもはやニーファイの民の中に数えられない時がすぐに来る。[1]

14 そのときに生き残って、大いなる恐るべき日に滅ぼされない者は、主の弟子と呼ばれる少数の者を除いて、皆レーマン人の中に数えられ、レーマン人のようになる。しかも、主の弟子と呼ばれる者たちもレーマン人に追われ、ついに彼らも絶えてしまう。[2] 罪悪のために、将来この預言は成就するであろう。」

15 さて、アルマはヒラマンにこれらのことを述べた後、彼を祝福し、ほかの息子たちをも祝福し、さらに義人のために地をも祝福した。[1]

16 そして、アルマは言った。「主なる神は言われる。『地は、まことにこの地は悪を行うあらゆる国民、部族、国語の民、民族に対してのろわれる。悪が完全に熟すとき、彼らは滅びるであろう。』[1] 必ずわたしが言ったようになる。これは神が地に下されたのろいであり、祝福だからである。[2] 主はほんのわずかでも、罪を見過ごしにされることはないからである。」

17 アルマはこれらの言葉を語り終えると、教会員を、すなわちそのときから後信仰にしっかりと立つすべての人を祝福した。[1]

18 そして、アルマはこれを済ませると、ミレクの地へ向かうようにゼラヘムラの地を出て行った。ところがそれ以降、彼の消息は絶えてしまった。彼の死や埋葬についてわたしたちは知らない。[3]

19 見よ、わたしたちが知っているのは、彼が義人であったということである。また、彼は御霊によって取り上げられた、すなわち、モーセのように主の手によって葬られたという説が教会員の間に広まった。[1] しかし見よ、聖文には主がモーセを御自分のもとに受け入れられたと述べられているので、わたしたちは主がアルマも霊にあって御自分のもとに受け入れられたと考えている。このために、わたしたちは彼の死と埋葬について何も知らないのである。

20 さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十

13 ① ヒラ 3・16
14 ① モロ 9・24
15 ① モロ 1・1−3
② アル 46・10、62・40
16 ① 2 ニフ 1・7、アル 37・31、エテ 2・8−12
17 ① ③ ② 教義 130・21
教義 1・31
19 ① GS「イエス・キリストの教会」
GS「身を変えられた人」

九年の初めに、ヒラマンは御言葉を告げ知らせるために民の中に出て行った。
21 見よ、レーマン人との戦争のため、また民の中にあった多くの小さな不和と騒動のために、1)神の言葉を民の中で告げ知らせることと、教会全体にわたって統一を図ることが必要になったからである。
22 そこで、ヒラマンと彼の同僚たちは、すべての地に、すなわちニーファイの民が所有している全地のすべての町に再び教会を設けるために出て行った。そして彼らは、全地の至る所でそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を任命した。
23 そして、ヒラマンと彼の同僚たちがそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を任命した後、教会員の中に1)不和が起こり、彼らはヒラマンと彼の同僚たちの言葉を心に留めようとしなくなった。
24 彼らは非常に豊かに富を持つようになったために、心の中で高ぶり、次第に高慢になった。そのため、彼らはますます富に目を向けるようになり、また、神の前をまっすぐに歩むようにという、ヒラマンとその同僚たちの言葉を心に留めようとしなくなった。

第46章

アマリキヤ、王になろうとたくらむ。モロナイ、自由の旗を掲げる。モロナイ、宗教を守るために民を呼び集める。まことの信者はクリスチャンと呼ばれる。ヨセフの残りの者が守り残される。アマリキヤと離反者たち、ニーファイの地へ逃げる。自由の大義を支持しようとしない者たちは死刑に処せられる。紀元前約七十三年から七十二年に至る。

1 さて、ヒラマンと彼の同僚たちの言葉に聞き従おうとしない者たちは皆、同胞に対抗するために集まった。
2 そして見よ、彼らはひどく怒って、同胞を殺そうと決意した。
3 このように同胞に対して怒った者たちの首謀者は、大きな強い男で、その名をアマリキヤといった。
4 アマリキヤは王になることを望んでおり、また、怒りを抱いた者たちも、彼が王になることを願った。これらの者たちはその大半が国の1)下級さばきつかさであり、権力を得ようとしていた。
5 彼らは、もし自分を支持して王に立ててくれれば

21 ① アル31・5
23 ① ニフ11・28−29
24 ① GS「富」
② GS「高慢」
第46章
4 ① モサ29・11、28−29

民の指導者にしようという、アマリキヤの甘言に乗ったのである。

6 このようにして、ヒラマンと彼の同僚たちが教えを説いたにもかかわらず、また、教会をつかさどる大祭司であった彼らの、教会に対する非常に深い配慮があったにもかかわらず、これらの者たちはアマリキヤに惑わされて離反してしまった。

7 そして、アマリキヤのへつらいの言葉を信じた者が教会の中に大勢おり、彼らは教会から離反してしまった。ニーファイの民はレーマン人に対して1)大勝利を収め、主の手によって解放されたことで大きな喜びを得たにもかかわらず、このように彼らの状態は非常に不安定で危険であった。

8 以上のことから、人の子らが主なる神を忘れるのがどれほど1)早く、また罪悪を行うことや悪しき者に惑わされることがどれほど早いかが分かる。

9 さらに、一人の非常に悪い人間が、人の子らの中に大きな1)悪事を引き起こす原因になることがあるということも分かる。

10 また、わたしたちの知っているように、アマリキヤは狡猾な策略に通じた男であり、多くのへつらいの言葉に長じた男であったので、多くの人の心を惑わして悪いことを行わせ、また神の教会を滅ぼさせようとし、さらに神がニーファイ人に与えられた自由の基、すなわち神が義人のために地の面に送られた祝福である自由の基を損なわせようとした。

11 さて、ニーファイ人の軍隊の1)総司令官であったモロナイは、これらの離反について聞き、アマリキヤのことを怒った。

12 そして、自分の衣を裂いて、その一片を取り、それに「1)我々の神と宗教、自由、平和、妻子のために」と書いて、竿の先にしっかりとくくり付けた。

13 それから、彼は自分のかぶとと胸当てと盾をしっかりと身に着け、よろいを腰にまとい、先端に裂いた衣を付けた竿を取って（彼はそれを自由の旗と呼んだ）、地にひれ伏し、そしてクリスチャンの一団が残ってその地を所有しているかぎり、自分の同胞に自由の祝福をとどめてくださるようにと、熱烈に神に祈った。

14 神の教会に属しているキリストのまことの信者は皆、教会に属していない者たちからクリスチャンと呼ばれていた。

---

7 ① アル44・19−20
8 ① ヒラ12・2、4−5
9 ① モサ29・17−18
10 ① ニフ1・7
10 ② 2ニフ1・7、モサ29・32
11 ① アル43・16−17
12 ① ネヘ4・14、アル44・5

15 教会に属している人々は忠実であった。キリストのまことの信者であった人々は皆、将来来られるキリストを信じていたので、呼ばれるままにキリスト[1]の名、すなわちクリスチャン[2]という名を喜んで受けた。

16 したがって、このときモロナイは、クリスチャンの大義と国の自由に神の恵みがあるようにと祈ったのであった。

17 さて、彼はその心を神に注ぎ出してから、デソレション[1]の地の南の全地を、要するに、北方も南方も含めた全地を、選ばれた地、自由の地と名付けた。

18 そして、彼は言った。「わたしたちはキリストの御名を受けているためにさげすまれるが、わたしたちが自分の背きによって自分の身に災いを招くまでは、決して神はわたしたちが踏みにじられ、滅ぼされるのをお許しにならない。」

19 モロナイはこの言葉を述べてから、民の中に出て行き、裂いた衣の一片に書いた文字がすべての人に見えるように、その裂いた衣を空中で打ち振り、大声で叫んで言った。

20 「見よ、この地にこの旗を立てて守ろうとする者たちは皆、主の力をもって出て来なさい。そして、主なる神から祝福を頂けるように、自分たちの権利と宗教を守るという聖約を交わそうではないか。」

21 さて、モロナイがこの言葉を宣言したところ、見よ、人々は腰によろいをまとって走ってやって来て、主なる神を捨てないしるしとして、すなわち聖約として自分たちの衣を裂いた。言い換えれば、もし神の戒めに背くならば、すなわち律法に背いてキリストの名を受けるのを恥[1]とするならば、自分たちが衣を裂いたように、主が自分たちを裂かれてもよいということであった。

22 これが彼らの交わした聖約である。そして彼らは、自分たちの衣をモロナイの足もとに投げ出して言った。「わたしたちは神と聖約します。わたしたちはもし戒めに背くならば、北方の地の同胞のように滅ぼされるでしょう。まことに、もし戒めに背くならば、わたしたちが衣をあなたの足もとに投げ出し、踏みつけられるに任せるように、神がわたしたちを敵の足もとに投げ出されますよう。」

23 そこでモロナイは、彼らに言った。「見よ、わたしたちはヤコブの子孫の残りの者である。また、わた

15 ① モサ 5・7—9
② 使徒 11・26、1 ペテ 4・16
17 ① アル 22・30—31
19 ① GS「旗」
21 ① 1 ニフ 8・25—28、モル 8・38

したちは兄弟に衣をずたずたに裂かれた、ヨセフ[2]の子孫の残りの者である。見よ、わたしたちは神の戒めを守るのを忘れないようにしよう。さもなければ、わたしたちの衣は同胞によって裂かれ、わたしたちは牢に入れられるであろう。あるいは売られたり、殺されたりするであろう。

24 わたしたちはヨセフの残りの者として自由を保とう。ヤコブが死ぬ前に語った言葉を覚えておこう。見よ、ヤコブはヨセフの衣の切れ端が保存されており、朽ちていないのを見て言った。『息子の衣のこの切れ端が保存されてきたように、息子の子孫の一部の者は神の御手によって守られ、神御自身のみもとに受け入れられるであろう。しかし、ヨセフの子孫の残りの者は、彼の衣のほかの部分のように滅びてしまう。

25 さて見よ、これはわたしにとって悲しいことだが、息子の子孫の一部の者が神のみもとに受け入れられるので、わたしはその息子のために喜ぶ。』

26 見よ、ヤコブはこのように語った。

27 ヨセフの衣のように滅びてしまうヨセフの残りの者とは、わたしたちから離反した者たちではないと、だれに分かるであろうか。わたしたちがキリストの信仰をもってしっかりと立たなければ、それはわたしたち自身にさえ当てはまるであろう。」

28 さて、モロナイはこれらの言葉を語り終えると出て行き、また離反のあったすべての地方へ使者を送って、アマリキヤと、すでに離反してアマリキヤ人と呼ばれている者たちとに立ち向かって、自分たちの自由を守りたいと望むすべての人を集めた。

29 さて、アマリキヤは、モロナイの民がアマリキヤ人よりも多いのを見て、また自分の民が自分たちの行ってきたことの正当性に疑いを抱いているのを知ると、目的を達せられなくなるのを恐れて、その民の中で行くことを望んだ者たちを連れてニーファイの地へ向かった。

30 しかしモロナイは、レーマン人がこれ以上の兵力を持つことは望ましくないと思ったので、アマリキヤの民の合流を阻むか、そうでなければ彼らを捕らえて連れ戻し、アマリキヤを殺してしまおうと思った。まことに、アマリキヤがレーマン人を扇動してニーファイ人に対して怒りを抱かせ、ニーファイ人を攻めるように仕向けることを知っていたからで

23 ① 創世37・3、31—36
② GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
③ 創世49・22—26、1ニフ5・14—15
24 ① アモ5・15、3ニフ5・21—24、10・17
② 2ニフ3・5—24、エテ13・6—7

ある。モロナイは、アマリキヤが自分の目的を達するためにこのようにするのを知っていた。

31そこでモロナイは、すでに集まって武装し、平和を守るという聖約を交わしている自分の軍隊を率いて行くのがよいと思った。このようにして彼は、荒れ野でアマリキヤの進路を断つために、軍隊を率いて、天幕を携えて荒れ野に進軍した。

32そして彼は、自分の望むままに行い、荒れ野に進軍し、アマリキヤの軍隊の前に立ちはだかった。

33そこでアマリキヤは、少数の兵とともに逃げ去った。そして、残りの者たちはモロナイの手に引き渡されて、ゼラヘムラの地へ連れ戻された。

34さて、モロナイは大さばきつかさたちと民の声とによって[1]任命されていたので、ニーファイ人の軍隊については自分の意のままにこれを組織することも、軍隊に対する権威を行使することもできる権限を持っていた。

35そこでモロナイは、アマリキヤ人の中の、自由政体を守るために自由の大義を支持するという誓いを立てようとしなかった者をすべて殺させた。しかし、自由の誓いを拒否した者はごくわずかであった。

36そして彼は、ニーファイ人が所有していた全地にあるすべての塔の上に自由の旗を掲げさせた。モロナイはこのようにニーファイ人の中に自由の旗を掲げさせた。

37そしてニーファイ人は、再び国内に平和を保つようになった。このようにして、彼らはさばきつかさの統治第十九年の終わりごろまで国内に平和を保った。

38また、ヒラマンと[1]大祭司たちも、教会内の秩序を保った。そして、四年の間、教会の中には大いに平安と喜びがあった。

39そして、死んだ人が大勢いたが、彼らは主イエス・キリストによって贖われることを固く[1]信じていたので、喜びながらこの世を去った。

40またある季節になると、この地によく熱病が起こったので、それにかかって死んだ人々もいた。しかし、熱病で死んだ人はそれほど多くはなかった。多くの[1]草根木皮の効能が著しかったからである。これらの草根木皮は、特有な気候の下で人がかかりやすい病気を原因から取り除くために、神が用意してくださったものであった。

---

34 ① アルマ46・6、7、43・16
38 ① モロナイ7・3、
39 ① 教義89・10
40 ①

41さらに、老衰で死んだ人も多かった。キリストを信じながら死んだ人々は、今キリストにあって幸いを得ていると確信できる。

第47章

アマリキヤ、裏切りと殺人と陰謀によってレーマン人の王となる。ニーファイ人の離反者たち、レーマン人よりも邪悪で残忍な者となる。紀元前約七十二年。

1さて、アマリキヤおよび彼とともに荒れ野へ逃げて行った者たちの記録に戻ろう。見よ、アマリキヤは、自分に従う者たちを連れてニーファイの地へ上って行き、レーマン人の中に行って、レーマン人を扇動してニーファイの民に対して怒らせた。そのため、レーマン人の王は国中至る所に、すなわち自分のすべての民の中に、ニーファイ人との戦いに出るためもう一度集まるようにという布告を出した。

2そして、その布告が彼らの中に出されると、彼らはひどく恐れた。王の気持ちを損ねるのを恐れるとともに、ニーファイ人と戦うために出て行けば命を失うことになるのではないかと恐れたのであった。そこで彼らは、正確に言えば彼らの大半は、王の命令に従おうとしなかった。

3そして王は、彼らが従おうとしないので怒った。そして王は、自分の軍隊の中の、命令に従順な者たちに対する指揮権をアマリキヤに与え、行って強制的に彼らに武器を取らせるように彼に命じた。

4さて見よ、これはアマリキヤの願っていたことであった。アマリキヤは悪を行うのに非常に巧みな男であったので、レーマン人の王を王位から退ける計画を心の中で練っていた。

5彼はレーマン人の中の、王を支持する者たちに対する指揮権を得たので、次に、従わない者たちの歓心を買おうとした。そこで彼は、オナイダと呼ばれている所へ進んで行った。レーマン人は皆、そこへ逃げていたからである。彼らは軍隊がやって来るのを知ると、自分たちを滅ぼすために来たのだと思い、オナイダ、すなわち武器の場所へ逃げたのである。

6そして彼らは、ニーファイ人と戦わされることのないようにしようと固く決意していたので、一人の男を任命して自分たちを治める王とし、また指揮官

41 ① 黙示14・13
第47章
1 ① アル46・33
② 2ニフ5・5−8、オム1・12−13
5 ① アル32・4

としていた。
7そして彼らは、戦う準備をして、アンテパスと呼ばれている山の頂上に集まっていた。
8ところで、王の命令に従って彼らと戦うことは、アマリキヤの本意ではなかった。しかし見よ、彼の目的はレーマン人の軍隊の歓心を買い、自分が彼らの長の地位に就き、王を退位させて、自分が王位を手に入れることであった。
9見よ、そこで彼は、自分の軍隊にアンテパス山に近い谷で天幕を張らせた。
10そして夜になると、彼は密使をアンテパス山に派遣し、その名をレホンタイという、山上にいる者たちの指揮官に、会談したいので山のふもとに下りて来るように求めた。
11さて、レホンタイはその伝言を受けても、山のふもとに下りて来ようとはしなかった。そこでアマリキヤは再度伝言を送って、下りて来るように彼に求めた。それでもレホンタイは下りて来ようとしなかった。そこで彼は、三度目の伝言を送った。
12さて、アマリキヤは、レホンタイを山から下りて来させることができないのを知ると、自分から山を登って行き、レホンタイの宿営の近くまで行った。そして彼は、四度目の伝言をレホンタイに送り、下りて来るように、また衛兵を連れて来るように求めた。
13そして、レホンタイが衛兵とともにアマリキヤのところに下りて来たとき、アマリキヤは彼に、夜の間に軍隊を率いて下りて来て、王が自分に指揮権を与えてくれた宿営中の兵を包囲するように求めた。また、もしレホンタイが自分（アマリキヤ）を全軍の副指揮官にしてくれるならば、その兵をレホンタイの手に引き渡してもいいと言った。
14そこでレホンタイは、兵を率いて下りて来て、アマリキヤの兵を包囲した。このようにアマリキヤの兵は、夜が明けて目を覚ます前にレホンタイの軍隊に包囲されたのであった。
15さて、アマリキヤの兵は、自分たちが包囲されているのを見ると、滅ぼされることのないように同胞に合流させてもらいたいとアマリキヤに懇願した。これはまさにアマリキヤが願っていたことであった。
16そこで彼は、王の命令に背いて兵を引き渡した。

これは王を退位させるという企てを成し遂げるために、アマリキヤが願っていたことであった。
17ところで、レーマン人の中では、総指揮官が殺されることがあれば、副指揮官を総指揮官に任命するというのが習わしであった。
18そこでアマリキヤは、部下の一人を使って、少しずつレホンタイに毒を盛らせた。そのために彼は死んでしまった。
19さて、レホンタイが死ぬと、レーマン人はアマリキヤを自分たちの指揮官、自分たちの総司令官に任命した。
20そして、アマリキヤは（自分の望みを達したので）軍隊を率いてニーファイの地へ、すなわち首府であるニーファイの町へ向かった。
21すると王は、衛兵を伴い、彼を迎えるために出て来た。王は、アマリキヤが自分の命令を果たし、ニーファイ人に向かって戦いに出るために、これほどの大軍を集めてきたのだと思ったからである。
22ところが見よ、王が迎えようとして出て来ると、アマリキヤは部下を先に行かせて王を迎えさせた。彼の部下は王の前に出ると、王が偉大であるために王を敬うかのように王の前にひれ伏した。
23そこで王は、手を差し伸べて彼らを立たせようとした。そうすることがレーマン人の習わしであり、平和のしるしであった。彼らはこの習わしをニーファイ人から取り入れたのであった。
24そして、王が最初の者を地から立たせたとき、見よ、その男は王の心臓を突き刺したので、王は地に倒れた。
25これを見て、王の僕たちは逃げ出した。そこで、アマリキヤの部下たちは叫んだ。
26「見よ、王の僕たちが王の心臓を突き刺し、王を倒して逃げた。来て確かめてみよ。」
27そこで、アマリキヤは自分の兵に、行って、王に何事が起こったのか見るように命じた。そして、彼らがその場に着いて、血まみれになって倒れている王を見つけたとき、アマリキヤは怒ったふりをして、「王を愛していた者は皆行って、王の僕たちを追いかけて殺せ」と言った。
28そこで、王を愛していた者たちは皆、この言葉を聞くと、王の僕たちの後を追いかけた。
29王の僕たちは軍隊が自分たちを追って来るのを見

て、またもやおびえ、荒れ野へ逃げ込んだ。そして、ゼラヘムラの地へ行って、アンモンの民に加わった。

30 一方、彼らを追いかけた軍隊は、追跡が無駄に終わって戻って来た。このようにして、アマリキヤは欺瞞によって民の信用を得た。

31 そして、その翌日、彼は軍隊を率いてニーファイの町に入り、町を支配下に置いた。

32 さて、王妃は王が殺されたことを聞くと――というのは、アマリキヤはすでに使者を遣わして、王が王の僕たちによって殺されたことと、自分が軍隊を率いて彼らを追いかけたが、そのかいがなく彼らを取り逃がしてしまったことを、王妃に知らせておいたからである――

33 したがって、王妃はこの知らせを受けると、アマリキヤに使者を送って、その町の民の命を助けてくれるように求めた。また王妃は、彼に自分のもとに来てほしいと伝え、さらに王の死について立証する証人たちを一緒に連れて来てほしいと告げた。

34 そこでアマリキヤは、王を殺したその部下、および一緒にいたすべての者を連れて王妃のもとへ、王妃の座している所へ入って行った。そして、彼らは皆、王が王自身の僕たちによって殺されたことを王妃に証言し、また、「彼らは逃げました。このことは彼らに対する証拠にならないでしょうか」と言った。このようにして、彼らは王の死について王妃の問いに十分に答えたのであった。

35 そして、アマリキヤは王妃の歓心を買うように努め、王妃を妻にした。このようにして、彼は欺瞞により、また悪賢い部下たちの助けによって王位を得、全地の至る所で、レーマン人のすべての民の中で王と認められた。このレーマン人の民は、レーマン人とレムエル人、イシマエル人、それにニーファイの統治からその当時に至るまでのニーファイ人のすべての離反者から成っていた。

36 これらの離反者たちは、ニーファイ人と同じ教えと同じ知識を得ていた。また、同じように主について知る教えを受けていた。にもかかわらず、不思議な話であるが、離反後間もなく、レーマン人よりもかたくなで悔い改めない者、また彼らよりも野蛮で邪悪、残忍な者となってしまい、レーマン人の言い伝えを受け入れ、怠惰やあらゆる好色に身を任せ、主なる神をすっかり忘れてしまったのである。

---

29 ① アル43・11−12、GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」
35 ① ヤコ1・13−14
36 ① GS「背教・背信」
② ヘブ10・26−27、アル24・30
③ エレ8・12

第48章

アマリキヤ、レーマン人を扇動してニーファイ人に反感を抱かせる。モロナイ、クリスチャンの大義を守るために民を備える。モロナイは自由と解放を喜ぶ偉大な神の人である。紀元前約七十二年。

1 さて、アマリキヤは王位を得るやいなや、ニーファイの民に反感を抱くようにレーマン人の心をあおり始めた。彼は幾人かの者たちを任じて、方々の塔からレーマン人に向かってニーファイ人の悪口を言わせた。

2 このようにして、彼はニーファイ人に反感を抱くように彼らの心をあおった。そして、さばきつかさの統治第十九年の末に、彼はそれまで自分の企てを成し遂げていたので、すなわちすでにレーマン人を治める王になっていたので、全地と全地のすべての人、すなわちレーマン人だけでなくニーファイ人をも支配しようとした。

3 彼はレーマン人の心をかたくなにし、思いをくらまし、彼らの怒りをかき立てるのに成功して、自分の企てを成し遂げたので、ニーファイ人に対して戦いに出て行くために大軍を召集した。

4 彼は自分の民がおびただしい数であったので、ニーファイ人を打ち負かして奴隷にしようと決意した。

5 そのため彼は、ゾーラム人の中から連隊長を任命[1]した。ゾーラム人がニーファイ人の戦う力と、彼らが身を隠す場所と、方々の町の最も弱い箇所を最もよく知っていたので、軍隊の連隊長に任命したのであった。

6 そして彼らは、それぞれ軍隊を率いて、ゼラヘムラの地を指して荒れ野の中を進んだ。

7 さて、アマリキヤがこのように欺瞞と偽りによって権力を手に入れていた間、一方でモロナイは、主なる神に忠実であるように民の心を備えさせていた。

8 また彼は、ニーファイ人の軍隊を強化し、小さいとりで、すなわち身を隠す場所を幾つも築き、軍隊を囲む土手を造り、また軍隊を囲む石垣も築いて、ニーファイ人の方々の町と方々の地の境、まことに国の周囲一帯を囲った。

9 また彼は、防御の最も弱いとりでにさらに多くの

第48章
5 ① アル43・6
7 ① アル49・8

兵を配備した。このようにして彼は、ニーファイ人の所有する地の防備を固め、強化した。

10 このように彼は、ニーファイ人の自由と土地、妻子、平和を維持する備えをして、彼らが主なる神のために生きることができるように、また敵からクリスチャンの大義と呼ばれているものを保つことができるようにした。

11 モロナイは屈強で勢いのある人であり、完全な理解力を備えた人であり、また流血を喜ばない人であった。そして、自分の国が自由であり、同胞が束縛や奴隷の状態にないことを喜びとした人であった。

12 まことに彼は、神が民に授けてくださった多くの特権と祝福について、神への感謝で胸をいっぱいにした人であり、民の幸いと安全のために大いに働いた人であった。

13 また彼は、確固としてキリストを信じた人であり、血を流してでも、自分の民と、自分の権利と、自分の国と、自分の宗教を守ると固く誓っていた。

14 ニーファイ人は、必要であれば血を流してでも敵に対して自衛するように教えられていた。さらに、自分から危害を加えないように、また敵に立ち向かうのでなければ、すなわち自分の命を守るためでなければ、決して剣を振り上げないようにとも教えられていた。

15 そのようにすれば、神は自分たちをこの地で栄えさせてくださると、彼らは信じていた。言い換えれば、神の戒めを忠実に守るならば、神は自分たちをこの地で栄えさせてくださり、また自分たちの直面する危険に応じて、逃れるように、あるいは戦争の準備をするように警告してくださると、彼らは信じていた。

16 また、神は敵を防ぐためにどこへ行けばよいかを自分たちに知らせてくださり、そのとおりにすれば主は自分たちを救ってくださることも、彼らは信じていた。これはモロナイが信じていたことであり、彼は心の中でそのことに誇りを感じていた。すなわち、血を流すことではなく、善を行うこと、民を守ること、神の戒めを守ること、罪悪に立ち向かうことに誇りを感じていた。

17 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのよ

10 ① アル46・12−13
11 ① GS「理解」
12 ① アル46・20−22
13 ① GS「福祉」
14 ① アル43・46−47、3ニフ3・20−21、モル3・10
16 ① 11、教義98・16、アル55・19

うであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔[1]は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。

18 見よ、モロナイは、モーサヤの息子アンモンや、モーサヤのほかの息子たち、またアルマとアルマの息子たちのような人であった。彼らは皆、神の人であったからである。

19 さて見よ、ヒラマンと彼の同僚たちも、モロナイに劣らず民のためによく働いた。彼らは神の言葉を宣べ伝え、また彼らの言葉を聴くすべての人に悔い改めのためのバプテスマを施した。

20 そのために彼らは出て行った。そして人々は、彼らの言葉のために謙遜[1]になったので、主から豊かに恵み[2]を授けられた。したがって四年の間、ニーファイ人の中には戦争も争いもなかった。

21 しかし、前に述べたように、第十九年の末に、ニーファイ人の中は平和であったにもかかわらず、彼らは不本意ながら同胞のレーマン人と戦わざるを得なくなった。

22 要するに、甚だ不本意ではあったが、レーマン人との戦争が長年の間絶えなかった。

23 ニーファイ人は血を流すことは喜ばなかったので、レーマン人に対して武器を取るのをつらく思った。それだけではない。神にお会いする用意ができていない多くの同胞を、自分たちがこの世から永遠の世に送り込むことになるのをつらく思った。

24 それでも、彼らは命を捨てるわけにはいかなかった。命を捨てれば、妻や子供[1]たちが、かつて同胞であった者たちの野蛮なむごい仕打ちによって虐殺されることになるからである。その同胞はニーファイ人の教会から離反[2]し、彼らのもとを去り、レーマン人に加わって彼らを滅ぼそうとしていた。

25 まことにニーファイ人は、神の戒めを守る者がいるかぎり、その同胞がニーファイ人の血を流すことを喜ぶのに耐えられなかった。それは、主の戒めを守るかぎりニーファイ人はその地で栄えるであろうという、主の約束があったからである。

第49章

侵攻して来たレーマン人は、防備を施したアモナイハの町とノアの町を攻略できない。アマリキヤ、神をのろい、モロナイの血を飲むと誓う。ヒラマンと同僚

---

17 ① 1ニフ22・26、3ニフ6・15
20 ① GS「謙遜」
23 ① ② 1ニフ17・35
24 ① 教義42・45
② アル46・12
GS「背教・背信」

たち、教会を強化し続ける。紀元前約七十二年。

1 さて、第十九年の十一月十日に、レーマン人の軍隊がアモナイハの地に近づいて来るのが見えた。
2 見よ、すでにその町は再建されており、モロナイは町の境の近くに軍隊を配備していた。そして彼らは、レーマン人の矢と石を避けるために、周囲に土を盛り上げておいた。レーマン人は石と矢で戦ったからである。
3 見よ、わたしはアモナイハ[1]の町が再建されたと述べたが、町は一部分再建されたと言い直そう。レーマン人は、民の罪悪のためにその町がかつて滅ぼされたことがあるので、再びそこが容易に自分たちのえじきになるであろうと思ったのである。
4 しかし見よ、彼らの期待は何と大きく外れたことか。ニーファイ人は自分たちの周囲に土手を築き上げており、それが非常に高かったので、レーマン人はニーファイ人に石を投げても矢を射ても効果を上げることができず、また入り口からでなければ彼らを攻めることができなかったのである。
5 このとき、レーマン人の連隊長たちは、ニーファイ人が防御の場所を備えるに当たって知恵を働かせたことに非常に驚いた。
6 レーマン人の指揮官たちは、自分たちの人数が非常に多かったので、これまでと同じように当然ニーファイ人を攻めることができると思っていた。また、レーマン人も盾と胸当てを装備し、さらに皮の衣、まことに裸を覆う非常に厚い衣を着ていた。
7 このように装備を整えていたので、レーマン人は、自分たちの意のままに容易に同胞を打ち負かして、彼らに奴隷のくびきをかけることができる、そうでなければ彼らを殺し、虐殺できると思っていた。
8 しかし見よ、まったく驚いたことに、ニーファイ人はこれまでリーハイの子孫の中にまったく知られていなかった方法で、レーマン人に対する備え[1]をしていた。ニーファイ人はモロナイの指示に従って、レーマン人と戦う備えをしていたのである。
9 そして、レーマン人、いやアマリキヤ人はニーファイ人の戦いの備え方に非常に驚いた。
10 さて、もしアマリキヤ王が軍隊を率いてニーファイ[1]の地から下って来ていたら、恐らく彼はレーマン

第49章
3 ① アル16・2−3、9、
11 ① アル48・7−10
8 ① ニフ5・8、オム
10 ① 2ニフ5・8、オム
1・12、アル47・1

人にアモナイハの町でニーファイ人を攻撃させていたことであろう。見よ、彼は自分の民の血など気にもかけなかったからである。

11しかし見よ、アマリキヤ自身は戦うために下って来てはいなかった。そこで彼の連隊長たちは、アモナイハの町であえてニーファイ人を攻撃しようとしなかった。モロナイがニーファイ人の中の諸事の管理体制を変えていたからである。そのため、レーマン人はニーファイ人が避難する場所を設けていたことに期待を裏切られ、彼らを攻めることができなかった。

12そこで彼らは荒れ野へ退き、軍隊を率いてノアの地へ向かって進軍した。そこがニーファイ人を攻める次の最適地だと思ったからである。

13彼らはモロナイがすでに国中のすべての町で防備を固めていたこと、すなわち防御のとりでを築いていたことを知らなかった。そのため、彼らは固い決意をもってノアの地へ進軍した。実に、彼らの連隊長たちは前に進み出て、その町の民を滅ぼすと誓ったのであった。

14しかし見よ、驚いたことに、これまで弱い所であったノアの町は、モロナイの働きによって今や堅固になっており、アモナイハの町の堅固さをしのぐほどになっていた。

15さて見よ、これはモロナイの知恵によるものであった。モロナイは、彼らがアモナイハの町に驚くであろうと思い、またこれまでノアの町がその地でいちばん弱い所であったので、彼らはそこへ進軍して戦おうとするであろうと思ったからである。そして、それは彼の望みどおりになった。

16見よ、すでにモロナイはリーハイを、その町の兵を指揮する司令官に任命していた。このリーハイはシドン川の東の谷でレーマン人と戦ったあのリーハイである。

17さて見よ、レーマン人はリーハイがその町で指揮を執っていることを知ると、またもや意気消沈した。彼らはリーハイを非常に恐れていたのである。それでも、彼らの連隊長たちはその町を攻撃すると固く誓っていたので、それぞれの軍隊を率いて攻め寄せた。

18見よ、周囲に築き上げられた土手は高く、堀は深かったので、レーマン人は入り口による以外、ほか

---

13 ① アル48・8
16 ① アル43・35

の道からニーファイ人の防御のとりでに入ることはできなかった。

19このように、ニーファイ人は入り口以外の所からとりでに入ろうとして登って来る者たちに、上から石を投げつけ、矢を射て全員を殺してしまおうと備えをしていた。

20また彼らは、ニーファイ人の中でも最も強い兵の一団を置いて、入り口からニーファイ人の防御地に入って来ようとするすべての者を、剣と石投げで打ち倒そうと待ち構えていた。このように彼らは、レーマン人に対して自衛する備えをしていた。

21さて、レーマン人の隊長たちは、それぞれの軍隊を入り口の前に率いて行き、ニーファイ人の防御地に入ろうとしてニーファイ人と戦い始めた。しかし見よ、彼らは何度も撃退され、おびただしい数の死者を出した。

22彼らはその通路でニーファイ人に勝てないことを知ると、次に、土手を掘り崩してニーファイ人の軍隊に近づく道を開き、対等に戦う機会を得ようとした。しかし見よ、その最中に彼らは石を投げつけられ、矢を射られて倒された。そのため、土手を掘り崩して堀を埋める代わりに、死者や負傷者の体で多少堀が埋められることになった。

23このように、ニーファイ人はあらゆる点で敵に勝っていた。また、このようにレーマン人はニーファイ人を滅ぼそうと試みたが、とうとう彼らの連隊長たちは全員殺されてしまった。そして、千人を越えるレーマン人が殺された。一方、ニーファイ人で殺された者はただの一人もいなかった。

24しかし、負傷者がおよそ五十人いた。それは通路でレーマン人の矢が当たった者たちである。彼らは盾と胸当てとかぶとで保護されていたので、負傷した箇所は足で、その多くが重傷であった。

25さて、レーマン人は、連隊長たちが全員殺されたのを知ると、荒れ野へ逃げて行った。そして彼らはニーファイの地へ引き返し、生まれはニーファイ人でありながら今は王となっているアマリキヤに、自分たちの被った大きな損害について報告した。

26そこで彼は、自分の民をひどく怒った。ニーファイ人を支配するという望みを達せられず、ニーファイ人に奴隷のくびきをかけることができなかったからである。

27まことに、彼はひどく怒り、神とモロナイをのろい、必ずモロナイの血を飲むと誓った。[2]それは、モロナイが神の命じられたことを守って、民を保護する備えをしたからである。

28さて一方、ニーファイの民は、主がたぐいない力で自分たちを敵の手から救ってくださったことを、主なる神に感謝した。[1]

29このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十九年が終わった。

30そして、彼らの中には引き続き平和があり、また彼らが神の言葉に注意を払い、勤勉であったために、教会は非常に大きな繁栄を見た。神の言葉はヒラマンとシブロン、コリアントン、アンモン、彼の同僚たち、および悔い改めのためのバプテスマを受けて神の聖なる位によって聖任され、民の中で教えを説くように遣わされたすべての人により、彼らに告げ知らされたのである。[1]

第50章

モロナイ、ニーファイ人の住む方々の地の防備を固める。ニーファイ人、多くの新しい町を築く。ニーファイ人が悪事と忌まわしい行いに陥った時代には、戦争と滅亡がニーファイ人に降りかかった。モリアントンと彼に従う離反者たち、テアンクムに打ち負かされる。ニーファイハが死んで、その息子パホーランがさばきつかさの職に就く。紀元前約七十二年から六十七年に至る。

1さて、モロナイは戦争の準備をし、レーマン人から民を守る準備を整えるのをやめなかった。彼はさばきつかさの統治第二十年の初めに、軍隊に命じて、ニーファイ人が所有していた全地の至る所ですべての町の周囲に土を盛り上げて土塁を築く作業を開始させた。

2彼はまた、町を囲むこれらの土手の上に木材を、すなわち人の背丈ほどの高さの木材の建造物を築かせた。

3そして、町を囲むこれらの木材の建造物の上に、先端のとがった杭で柵を造らせた。この杭は丈夫で、丈が高かった。

4また彼は、この柵を見下ろすやぐらを建てさせ、そのやぐらの上に防御の場所を造らせて、レーマン

27 ① GS「冒瀆・汚す罪」
28 ① ② 使徒23・12
30 ① GS「感謝」アル43・2

人の石や矢がそこにいる人々に当たらないようにした。

5また、ニーファイ人の兵たちは自分たちの思うままに、また力の及ぶかぎり、そのやぐらの上から石を投げつけ、町の防壁に近づこうとする者を殺せるように備えをした。

6このように、モロナイは全地のすべての町の周囲にとりでを築いて、敵の来襲に備えた。

7そしてモロナイは、軍隊を東の荒れ野に行かせた。そこで、彼らは出て行って、東の荒れ野にいたすべてのレーマン人を、ゼラヘムラの地の南にある彼らの土地へ追い払った。

8ニーファイの地は、東の海からまっすぐ西の海に及んでいた。

9さて、モロナイは、彼らの所有地の北方にある東の荒れ野からすべてのレーマン人を追い払うと、ゼラヘムラの地とその周辺の地に住む者たちを東の荒れ野に行かせ、海岸に近い地方までやって、その地に住まわせた。

10彼はまた、南方の彼らの領土の境に軍隊を配置して、軍隊と民が敵の手から守られるように幾つものとりでを築かせた。[1)]

11このようにして、彼は東の荒れ野のレーマン人のとりでをすべて断ち切り、また西の方でも同様にして、ニーファイ人とレーマン人の間の境界線上をとりでで固めた。この境界線はゼラヘムラの地とニーファイの地の間にあり、西の海からシドン川の源の付近を走っていた。ニーファイ人はその北方の全地を、すなわち、バウンティフルの地の北方にある全地を自分たちの好むままに所有した。

12このようにして、モロナイは自分の軍隊をもって、すなわち、彼の働きによって守りが与えられると確信して日々増え続ける軍隊をもって、レーマン人の兵力と勢力をニーファイ人の所有地から断ち切り、レーマン人がニーファイ人の所有地でまったく権力を振るえなくしようと努めた。

13そしてニーファイ人は、一つの町の建設を始め、その町の名をモロナイと呼んだ。それは東の海の近くで、レーマン人の領土の境界線に近い南の方にあった。

14彼らはまた、モロナイの町とアロンの町の間に、アロンの町の境とモロナイの町の境に接して一つの

第50章
10 ① アル49・18−22

町の建設を始めた。そして彼らは、その町の名、すなわちその地の名をニーファイハと呼んだ。

15 彼らはまた、同じ年に北の方で多くの町を築き始めた。その代表的なものはリーハイと名付けた町で、北の方の海岸に近い所にあった。

16 このようにして、第二十年が終わった。

17 また、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十一年の初めに、ニーファイの民はこのように繁栄していた。

18 彼らは非常に栄え、豊かになり、また増えて、その地で強くなった。

19 以上のことから、主が人の子らに言われた御言葉をすべて成就されるに当たって、主の計らいが皆どれほど憐れみ深く、公正であるかが分かる。また、主がリーハイに言われた御言葉が今このときでさえ実証されていることを、わたしたちは知ることができるのである。主の言われた御言葉は次のとおりである。

20 「あなたとあなたの子孫とは幸いである。彼らは祝福を受けるであろう。彼らはわたしの命令を守るかぎり地に栄える。しかし、わたしの命令を守らなければ主の前から絶たれるということを覚えておきなさい。」[1]

21 そして今わたしたちは、この約束がニーファイの民に実証されていることを知っている。彼らの中に口論や争い、殺人、略奪、偶像礼拝、みだらな行い、忌まわしい行いがあって、それらが彼らに戦争と滅亡を招いたからである。

22 しかし、主の命令を忠実に守っていた人々はいつも救い出された。一方、邪悪な同胞は何千人も奴隷の状態に陥ったり、剣で殺されたり、不信仰に陥ってレーマン人と混じり合ったりした。

23 しかし見よ、ニーファイの時代からこのかた、ニーファイの民にとって、モロナイの時代、すなわちさばきつかさの統治第二十一年当時以上に幸せな時はかつて一度もなかった。

24 そして、さばきつかさの統治第二十二年が平穏に終わり、第二十三年も同様であった。

25 さて、さばきつかさの統治第二十四年の初めも、リーハイの地とモリアントンの地について起こった争いがなければ、ニーファイの民の中には平和が続いたことであろう。このモリアントンの地はリー

---

20 ① 教義1・14
23 ① モサ2・41
25 ① GS「争い」

ハイの地と境を接しており、両方とも、海岸に近い地方にあった。

26見よ、モリアントンの地を所有していた人々が、リーハイの地の一部について所有権を主張したのである。そのため、両者の間に激しい争いが起こり、モリアントンの民は同胞に対して武器を取り、剣で相手を殺そうとした。

27しかし見よ、リーハイの地を所有していた人々はモロナイの宿営に逃げ込んで、モロナイに助けを求めて訴えた。彼らに非がなかったからである。

28さて、モリアントンという名の男の指導下にあったモリアントンの民は、リーハイの民がモロナイの宿営に逃げ込んだことを知ると、モロナイの軍隊がやって来て自分たちは滅ぼされてしまうのではないかと非常に恐れた。

29そこでモリアントンは、大きな湖沼がたくさんある北方の地へ逃げて行って北方の地を占有しようとする思いを民の心に抱かせた。

30そして見よ、彼らはこの計画を実行しようとした。（これが成功していれば、悲しい事態が生じていたであろう。）しかし見よ、モリアントンは、ひどく怒りっぽい男であったので、はしための一人に腹を立て、なぐりかかってその女をひどく打ちたたいてしまった。

31そこでその女は、逃げ出してモロナイの宿営にやって来ると、その件について、また北方の地へ逃げようとしている彼らの企てについて、すべてのことをモロナイに告げた。

32さて見よ、バウンティフルの地にいる人々は、いや、モロナイは、バウンティフルの地にいる人々がモリアントンの言葉に聞き従って彼の民に加わり、そのために彼がその地の各所の支配権を得てニーファイの民の中に重大な結果をもたらし、ニーファイの民の自由[1]を覆すことになるのではないかと懸念した。

33そこでモロナイは、モリアントンの民の行く手を遮って、彼らが北方の地へ逃げるのを阻止するために、装備を整えた軍隊を派遣した。

34さて、デソレション[1]の地の境に達するまで、彼らはモリアントンの民の進路を断てなかった。それでも、海に近く北方の地に通じており、また西も東も海に近い地峡のそばで、彼らはモリアントンの民の

32① GS「自由」
34① アル46・17

進路を断つことができた。

35そして、モロナイによって派遣され、テアンクムという名の人によって率いられた軍隊は、モリアントンの民と相対した。ところが、モリアントンの民は（モリアントンの悪事とへつらいの言葉に感化されて）非常にかたくなになっていたので、両者の間で戦いが始まった。そして、その戦いでテアンクムはモリアントンを殺し、彼の軍隊を破って彼らを捕虜にし、モロナイの宿営に帰った。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十四年が終わった。

36モリアントンの民はこのようにして連れ戻された。そして彼らは、平和を守ると誓ってモリアントンの地へ返され、彼らとリーハイの民の間で和合が成立した。そして、リーハイの民も自分たちの土地へ戻った。

37さて、ニーファイの民が平和を取り戻したその同じ年に、二代目の大さばきつかさであったニーファイハが、神の前に完全に正しくさばきつかさの職を果たして亡くなった。

38ニーファイハは神の前に完全に正しい人であったが、アルマと彼の先祖たちが最も神聖であると見なしていた、数々の記録と品々をアルマから預かることは辞退していた。そこでアルマは、それらのものを息子ヒラマンに託していた。

39見よ、ニーファイハの息子が、父に代わってさばきつかさの職を務めるように任命された。まことに、彼は義にかなって裁判すること、民の平和と自由を守ること、民に彼らの主なる神を礼拝する神聖な特権を与えること、生涯神の大義を支持し、守ること、悪人にそれぞれの罪科に応じた罰を科すこと、これらのことを誓って、神聖な儀式により民の大さばきつかさ兼総督に任命された。

40見よ、この人の名はパホーランという。彼が父の座に着き、第二十四年の終わりにニーファイの民を治める彼の統治が始まった。

第51章

王政党の者たち、法律を変えて王を立てようとする。パホーランと自由党、民の声によって支持される。モロナイ、王政党の者たちに、戦って国を守るように求め、従わなければ処刑することを告げる。アマリキ

ヤとレーマン人はとりでで固められた多くの町を占領する。テアンクム、レーマン人の侵略を撃退し、アマリキヤを天幕の中で殺す。紀元前約六十七年から六十六年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十五年の初めには、彼らはリーハイの民とモリアントンの民との間に彼らの土地のことについて和解を確立しており、第二十五年が平穏に始まった。
2しかし、国内の完全な平和は長くは続かなかった。大さばきつかさのパホーランについて民の中に争いが起こったのである。というのは、法律の条項を少し変えてほしいと望んだ者たちが民の中にいたからである。
3しかし見よ、パホーランは法律を変えることを望まず、また法律が変えられるのを認めようとも思わなかった。そのため、法律の変更について請願の形で意見を表明した者たちの言うことにも、彼は耳を傾けなかった。
4そのため、法律が変更されることを願った者たちは彼に腹を立て、彼が引き続き国の大さばきつかさであるのを望まなかった。その結果、その件について激しい論争が起こったが、血を流すには至らなかった。
5さて、パホーランをさばきつかさの職から退けることを願った者たちは、王政党と呼ばれた。彼らは法律を変更して自由政体を廃し、国を治める王を立てることを願ったからである。
6また、パホーランが引き続き国を治める大さばきつかさでいることを願った人々は、自ら自由党と称した。このようにして、民の中に分裂が生じた。自由党の人々は、自由政体によって自分たちの権利と宗教の特権を守ることを誓った、すなわち聖約したからである。
7さて、両者の争いに関するこの件は、民の声により解決された。そして、民の声により自由党が支持を受け、パホーランはさばきつかさの職を保った。これはパホーランの同胞と自由を願う多くの人に大きな喜びを与えた。また、このようにして彼らは王政党の者たちを沈黙させたので、王政党の者たちはあえて反対せず、仕方なしに自由の大義を守ることになった。

8 王を立てることを支持した者たちは上流の生まれの者であり、自分が王になろうとしていた。そして彼らは、民を治める権力と権能を得ようとした者たちから支持を受けた。

9 しかし見よ、このような争いがニーファイの民の中にあったこのときは、危機であった。アマリキヤが再びレーマン人の民の心をあおって、ニーファイ人の民に対して反感を抱かせていたからである。そして彼は、自分の国の全地方から兵を集め、彼らを武装させ、着々と戦争の準備をしていた。彼はモロナイの血を飲むと誓っていたからである。

10 しかし見よ、後に分かるように、彼が立てた約束は無分別なものであった。それでも、彼はニーファイ人を攻めるために、自分自身と自分の軍隊を備えていた。

11 彼の軍隊はすでにニーファイ人の手によって何千人も殺されていたので、その人数は以前ほど多くなかった。しかし、多大の損害を被っていたにもかかわらず、アマリキヤは驚くほどの大軍を集めたので、ゼラヘムラの地へ向かうことを恐れなかった。

12 まことに、アマリキヤ自身がレーマン人を率いて下って来た。それはさばきつかさの統治第二十五年のことであり、大さばきつかさパホーランに関する争いの問題が収まり始めたちょうどそのときであった。

13 さて、王政党と呼ばれた人々は、レーマン人がニーファイ人と戦うために進んで来ていると聞いて内心喜んだ。そして彼らは、武器を取ることを拒んだ。彼らは大さばきつかさと自由を願う人々のことをひどく怒っていたので、武器を取って国を守る気持ちがなかったからである。

14 さて、モロナイはこのことを知り、さらにレーマン人が国境を越えているのを知ると、自分がこれまでそれらの人々を守るために精いっぱい努めてきたにもかかわらず、彼らがかたくなであるのを非常に怒った。彼は激怒し、彼の心は彼らに対する怒りでいっぱいになった。

15 そして彼は、民の声を受けて、国の総督に請願書を送ってそれを読むように求め、自分たちの国を守るようにそれらの離反者たちに強要する力と、また従わなければ彼らを処刑する力を自分（モロナイ）に与えてほしいと願った。

第51章
8 ① GS「高慢」
9 ① アルマ49・26−27
13 ① アルマ46・10−16

16 彼が第一になすべきことは、民の中にこのような争いと不和をなくすことであった。というのは、見よ、民の中の争いと対立がこれまで彼らの被ったすべての滅亡の原因となってきたからである。そしてそれは、民の声に応じて聞き届けられた。

17 そこでモロナイは、自分の軍隊に、それら王政党の者たちと戦って彼らの高慢と特権意識を打ち倒し、彼らを地に倒すように、そうでなければ彼らに武器を取って自由の大義を守らせるように命じた。

18 そこで、軍隊が彼らに向かって進軍し、彼らの高慢と特権意識を打ち倒した。彼らの中で武器を振り上げてモロナイの兵に立ち向かう者は、切られて地に倒された。

19 そして、離反者[1]たちの中の四千人が剣で切り倒された。また、戦いで殺されなかった彼らの指導者たちは、捕らえられて、すぐに審理する暇がなかったので牢に入れられた。

20 また、残りの離反者たちは、剣によって地に打ち倒されるよりも自由の旗に従うことを選んだ。そして、仕方なく自分たちのやぐらと自分たちの町に自由の旗を掲げ、また国を守るために武器を取った。

21 このようにして、モロナイは王政党の者たちを滅ぼし、王政党という名で知られる者はだれ一人いなくなった。また、このようにして彼は、高貴な血統の出であると主張した者たちの強情と高慢をくじいた。そして彼らは、同胞のように謙遜になり、奴隷とならないために勇敢に戦うようになった。

22 さて見よ、モロナイがこのように自分の民の中の戦いと争いを鎮め、民の中に平和と秩序を確立し、レーマン人と戦う準備をするための規則を定めている間に、レーマン人は海岸に近い地方にあるモロナイの地に入って来た。

23 そして、モロナイの町にいたニーファイ人は耐えられるほど強くなかったので、アマリキヤは彼らを追い出し、多くの者を殺した。そして、アマリキヤはその町を占領し、まことにすべてのとりでを占領した。

24 そこで、モロナイの町から逃げ出した人々は、ニーファイハの町へ行った。また、リーハイの町の民も集まって準備を整え、レーマン人を迎え撃つ用意をした。

25 しかし、アマリキヤはレーマン人にニーファイハ

---

19 ① アル60・16
20 ① アル46・12—13
22 ① GS「モロナイ（司令官）」

の町を攻めさせようとしないで、海岸近くに彼らをとどめ、それぞれの町にそこを守る兵を置いた。

26 このようにして、彼は進軍を続けて、ニーファイハの町、リーハイの町、モリアントンの町、オムナーの町、ギドの町、ミュレクの町などの多くの町を占領した。これらの町はすべて海岸に近い東の国境地方にあった。

27 このように、レーマン人はアマリキヤの悪知恵と無数の軍勢によって非常に多くの町を手に入れた。しかも、これらの町はどれも皆モロナイのとりでの築き方に倣って強固に防備が固められており、レーマン人はこれらをすべて自分たちのとりでとした。

28 そして、彼らは行く手のニーファイ人を追い払い、また多くの者を殺しながら、バウンティフルの地に進軍した。

29 ところが、彼らはテアンクムと相対することになった。このテアンクムはかつてモリアントンが逃走しようとしたときに彼を殺し、彼の民の前に立ちはだかった人である。

30 そして、このテアンクムがここでまたアマリキヤの前に立ちはだかったのである。このときアマリキヤは、バウンティフルの地とその北方の地を占領しようとして、大軍を率いて進んでいた。

31 しかし見よ、テアンクムとその兵が偉大な戦士であったために、アマリキヤは彼らに撃退されて望みを遂げることができなかった。テアンクムの兵は一人残らず体力の面で、また戦いの技術の面でレーマン人をしのいでいたので、彼らはレーマン人よりも優位に立った。

32 そして、テアンクムとその兵はレーマン人を休みなく攻め、暗くなるまで彼らを殺した。それから、テアンクムとその兵はバウンティフルの地の境で天幕を張った。また、アマリキヤも海岸に近い境の地で天幕を張った。彼らはここまで追われたのである。

33 さて、夜になると、テアンクムとその部下は夜に紛れてひそかに出て行き、アマリキヤの宿営に忍び込んだ。すると見よ、レーマン人は、日中の戦いと暑さのためにひどく疲れて眠り込んでいた。

34 そこでテアンクムは王の天幕に忍び込み、投げ槍を王の心臓に突き立てて王を即死させたので、王は僕たちを起こすことができなかった。

---

27 ① アル48・8—9
29 ① アル50・35

35それから、テアンクムがひそかに自分の宿営に帰ると、見よ、兵は眠っていた。そこで彼は兵を起こして、自分が行ってきたことをすべて告げた。
36また彼は、レーマン人が目を覚まして攻め寄せて来るのではないかと案じ、軍隊に準備をして待ち受けさせた。
37このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十五年が終わり、またアマリキヤの生涯も終わるのである。

第52章

アモロン、アマリキヤの跡を継いでレーマン人の王となる。モロナイとテアンクムとリーハイ、ニーファイ人を率いて戦い、レーマン人に勝利を得る。ミュレクの町は取り返され、ゾーラム人ヤコブは死ぬ。紀元前約六十六年から六十四年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十六年の一月一日の朝、見よ、レーマン人は目を覚まし、見よ、アマリキヤが彼の天幕の中で死んでいるのを発見した。また彼らは、テアンクムがその日彼らと戦う準備をしているのも見た。
2レーマン人はこれを見て驚き恐れ、北方の地へ進軍する企てを捨てて、全軍がミュレクの町へ退き、とりでにこもって守りを固めようとした。
3そして、アマリキヤの兄弟が民を治める王に選ばれた。その王の名はアモロンという。このようにアマリキヤ王の兄弟であるアモロン王が選ばれ、アマリキヤ王に代わって治めることになった。
4そしてアモロン王は、血を流して奪い取ったそれらの町を守り通すように民に命じた。彼らが多くの血を失わずに奪い取った町は一つとしてなかったからである。
5さて、テアンクムは、レーマン人がこれまでに奪い取ったそれらの町と、手に入れたそれらの土地を守り通そうと決意しているのを知り、また彼らの人数がおびただしいのを見て、とりでにこもっている彼らを攻撃しようとするのは得策ではないと思った。
6それでも彼は、戦う準備をしているかのように、兵をとりでの近くにとどめておいた。そして、実際はその間に方々に防壁を築き、身を隠す場所を用意

第52章
6 ① アル50・1−6、53・3−5

して、レーマン人の来襲を防ぐ準備を進めていた。
7そして、彼が戦いの準備を続けていると、やがてモロナイからテアンクムの軍隊を強化する大勢の兵が送られてきた。
8また、モロナイからテアンクムに、彼の手に落ちた捕虜は全員そのまま捕らえておくようにとの命令も届いた。レーマン人も大勢を捕虜にしていたので、レーマン人に捕らえられている人々と交換するために、レーマン人の捕虜を全員残しておく必要があったからである。
9モロナイはまた、バウンティフルの地の防備を固めて北方の地に通じる地峡[1]を守り、レーマン人がその地点に達して四方からニーファイ人を攻め悩ます力を持たないようにすることをテアンクムに命じた。
10さらにモロナイは彼に伝言を送り、忠実にその地域を守るように、またニーファイ人の手から奪い取られたそれらの町を、計略やそのほかの方法で再び取り返すことができるかもしれないので、できるかぎりあらゆる機会を求めてその地域でレーマン人を苦しめ悩ますように、さらに、レーマン人の手に落ちていない方々の町を防備を固めて強化するように求めた。
11また、モロナイは彼に、「わたしはあなたのところに行きたいが、まことにレーマン人が西の海に近い境の地でわたしたちを攻めて来ており、まことに、わたしは彼らに立ち向かっているので、あなたのところへは行けない」とも述べた。
12さて、（アモロン）王はゼラヘムラの地を去って、王妃に自分の兄弟の死について知らせ、大勢の兵を集めて、西の海に近い境の地でニーファイ人と戦うために軍隊を進めていた。
13このようにして、彼はニーファイ人を休みなく攻めて、その地域にニーファイ人の軍の一部を引き寄せるようにした。その一方で、彼は以前に奪い取った町を守るために残してきた者たちにも、東の海に近い境の地でニーファイ人を休みなく攻め、兵力の及ぶかぎりできるだけニーファイ人の地を占領するように命じておいた。
14ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十六年の終わりに、ニーファイ人はこのような危うい状況にあった。
15しかし見よ、さばきつかさの統治第二十七年に

9
29①
アル22・32、モル2・

は、モロナイは南と西の境を守る軍隊の組織を終え、以前に失った町をテアンクムと彼の兵が取り返すのを助けるために、バウンティフルの地へ軍隊を進めた。

16さて、テアンクムは、ミュレクの町に攻撃を加えて、できればそこを取り返すようにという命令を受けていた。

17そこでテアンクムは、ミュレクの町に攻撃を加える準備をし、軍隊を率いてレーマン人に攻めかかる準備を整えた。しかし、レーマン人がとりでの中にいる間は打ち負かせないことを知ったので、その計画を断念し、バウンティフルの町に引き返してモロナイの到着を待ち、軍隊を増強することにした。

18そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十七年の末に、モロナイが軍隊を率いてバウンティフルの地に到着した。

19また、第二十八年の初めに、モロナイとテアンクムと多くの連隊長たちが作戦会議を開き、レーマン人を外に出して戦わせるにはどうすればよいか、また何らかの方法で彼らをとりでから誘い出し、彼らより優位に立って再びミュレクの町を取り返すにはどうすればよいかを協議した。

20そして彼らは、ミュレクの町を守っているレーマン人の軍隊に、すなわちヤコブという名の彼らの指揮官に使者を送り、軍隊を率いて出て来て二つの町の間の平原で戦いを交えるように求めた。しかし見よ、ゾーラム人であったヤコブは、軍隊を率いて出て来て平原で戦いを交えようとはしなかった。

21そこでモロナイは、対等の条件で彼らと戦いを交える望みを失ったため、策を用いてレーマン人をとりでから誘い出すことにした。

22彼はテアンクムに少数の兵を連れて海岸の近くを下って行かせた。また、モロナイと彼の軍隊は夜に紛れてミュレクの町の西方の荒れ野に進軍した。するとその翌朝、レーマン人の見張りの兵たちがテアンクムを見つけ、走って行って、そのことを自分たちの指揮官であるヤコブに知らせた。

23そして、レーマン人の軍隊は、テアンクムの兵の数が少なかったので自分たちの手勢で打ち負かせると思い、テアンクムに向かって進んで行った。そこでテアンクムは、レーマン人の軍隊が自分に向かって出て来たのを見て、海岸の近くを北方に退却し始

めた。

24さて、レーマン人は、彼が逃げ出したのを見て勇み立ち、勢いよく彼らを追った。また、テアンクムが無駄な追跡をして来るレーマン人をこのように誘い出している間に、見よ、モロナイは自分が率いていた軍の一部に、町に入ってそこを占領するように命じた。

25そこで彼らは、町に入ってそこを占領し、町を守るために残っていたすべての者、すなわち武器を引き渡そうとしないすべての者を殺した。

26このようにしてモロナイは、自分の軍の一部をもってミュレクの町を手に入れるとともに、自分はテアンクムの追跡から戻って来るレーマン人と戦いを交えるために、残りの兵を率いて進軍した。

27さて、レーマン人はテアンクムを追跡し、ついにバウンティフルの町の近くまでやって来た。そして、彼らはそこで、バウンティフルの町を守るために残っていたリーハイと少数の軍隊に出会った。

28さて見よ、レーマン人の連隊長たちは、リーハイが彼の軍隊を率いて向かって来るのを見たとき、自分たちがミュレクの町に帰り着く前にリーハイに追いつかれるのではないかと大慌てで逃げ出した。彼らは行軍のために疲れているのに、リーハイの兵たちは元気であったからである。

29さて、このときレーマン人は、モロナイが彼の軍隊を率いて彼らの後方に迫っていたのを知らず、ただリーハイとその兵だけを恐れていた。

30ところでリーハイは、モロナイとその軍隊に出会うまで、彼らに追いつこうとしなかった。

31そしてレーマン人は、遠くへ退く前にニーファイ人に取り囲まれてしまった。一方にはモロナイの兵、もう一方にはリーハイの兵がいて、どちらも皆、元気で力に満ちあふれていた。それに引き替え、レーマン人は長い行軍で疲れ切っていた。

32そこで、モロナイは兵に、彼らが武器を引き渡すまで攻撃を続けるように命じた。

33さて、レーマン人の指揮官ヤコブはゾーラム人[1]であり、不屈の精神を持っていたので、レーマン人を率いてモロナイに向かって猛烈な戦いを仕掛けてきた。

34モロナイがレーマン人の行く手を遮っていたので、ヤコブはモロナイの兵を殺し、道を切り開いて

33 ① アル31・12

ミュレクの町へ帰ろうと決意したのであった。しかし見よ、モロナイとその兵の方が強く、レーマン人に道を譲らなかった。
35そして彼らは、どちらも非常に激しく戦った。そして、双方ともに多くの者が殺され、モロナイは負傷し、ヤコブは死んだ。
36また、リーハイが屈強な兵を率いて激しくレーマン人の後方を攻め立てたので、後方のレーマン人は武器を引き渡した。また残りの者たちもひどくうろたえ、どこへ行けばよいのか、どこを攻めればよいのか分からない有様であった。
37それでモロナイは、彼らがうろたえているのを見て、「もし武器を持って進み出て、それを引き渡すならば、おまえたちの血を流すのをやめよう」と彼らに告げた。
38さて、レーマン人がこの言葉を聞くと、まだ殺されていないその連隊長たちは皆進み出て、武器をモロナイの足もとに投げ出し、兵たちにも同じようにすることを命じた。
39しかし見よ、そうすることを望まない者も多かった。そこで、剣を引き渡そうとしない者たちは捕らえられて縛られ、武器を取り上げられた。そして、彼らの仲間とともにバウンティフルの地へ引っ立てられて行った。
40捕らえられた捕虜の人数は、殺された者の数よりも、まことに両軍の殺された者の数よりも多かった。

第53章

レーマン人の捕虜はバウンティフルの町の防備を固めるために働かされる。ニーファイ人の中の不和がもとで、レーマン人が勝利を得る。ヒラマン、アンモンの民から出た二千人の青年の指揮を執る。紀元前約六十四年から六十三年に至る。

1さて、ニーファイ人は捕虜のレーマン人を見張る番兵を置き、その捕虜たちにレーマン人の死体と、殺されたニーファイ人の死体とを葬らせた。モロナイは、彼らが働いている間彼らを見張る兵を置いた。
2またモロナイは、リーハイとともにミュレクの町へ行き、その町の指揮権を掌握し、それをリーハイ

に与えた。見よ、このリーハイは、モロナイが戦闘に出るときにはほとんどいつも彼とともにいた人で、モロナイに似た人物であった。そして、二人は互いの無事を喜び合い、また互いに愛し合い、ニーファイの民も皆この二人を愛していた。

3 さて、レーマン人は同胞の死体とニーファイ人の死体を葬り終えると、バウンティフルの地へ連れ戻された。それからテアンクムは、モロナイの命令によって彼らにその地、もっと正確に言えばその町、バウンティフルの町の周りに堀を築く作業を開始させた。

4 またテアンクムは、彼らに堀の内土手の上に木材で胸壁を築かせ、さらにその胸壁に堀から上げた土を盛らせた。このようにニーファイ人はレーマン人を働かせて、ついにバウンティフルの町を木材と土から成る非常に高い丈夫な防壁で囲んだ。

5 この町は、それ以来非常に堅固なとりでとなった。そして、彼らはこの町の中で、すなわち捕虜のレーマン人の手で築かせた防壁を持つこの町の中で、捕虜たちを見張ったのであった。レーマン人が働いている間は彼らを見張るのは容易であり、またレーマン人に攻撃を仕掛けるのに全軍が欲しかったので、モロナイはどうしてもレーマン人を働かせなければならなかった。

6 そしてモロナイは、レーマン人の中で最強の軍隊の一つに勝利を収め、またニーファイの地におけるレーマン人の最も堅固なとりでの一つであるミュレクの町を手に入れたのである。そして、捕虜を抑留するとりでも一つ築いたのであった。

7 さて、彼はその年にはもうレーマン人と戦いをしようとせずに、兵を使って戦争の準備をし、レーマン人を防ぐためのとりでを築き、ニーファイ人の女子供を飢饉と苦難から救い、またニーファイ人の軍隊のために兵糧の備えをした。

8 さて、ニーファイ人の中に大きな陰謀が企てられて彼らの中に不和が生じたため、モロナイが出かけて不在になった間に、西の海に近い南方のレーマン人の軍隊がニーファイ人に対して多少優勢になり、その地方でニーファイ人の町をまとめて占領した。

9 このようにして、ニーファイ人は自分たちの罪悪のために、すなわち自分たちの中の不和と陰謀のために、最も危険な状況に陥った。

第53章
2 ① アル48・16—17
4 ① アル50・2—3

10 さて見よ、アンモンの民について少々述べておかなければならない。アンモンの民は初めはレーマン人であったが、アンモンとその同僚たちによって、いや、神の力と言葉によって主を信じるようになった。そして彼らは、ゼラヘムラの地に連れて来られ、それ以来ニーファイ人によって守られてきた。

11 また彼らは、誓いを立てていたので、同胞に対してこれまで武器を取らなかった。彼らは、これからはもう決して血を流さないと誓いを立てていたからである。したがって、もしアンモンとその同僚たちが彼らに示した同情と深い愛情がなければ、彼らは自分たちの誓いのために滅ぼされていたであろう。すなわち、甘んじて同胞の手に落ちていたことであろう。

12 このようなわけで、彼らはゼラヘムラの地に連れて来られ、ニーファイ人によって守られてきたのである。

13 しかし、彼らは自分たちのためにニーファイ人が危険に遭い、多くの苦難と艱難を負っているのを見て申し訳なく思い、自分たちの国を守るために武器を取りたいと願った。

14 しかし見よ、彼らはまさに武器を取ろうとしたときに、ヒラマンやその同僚たちの説得を受けて心を翻した。このようにヒラマンたちが彼らを説得したのは、彼らが以前に立てた誓いをまさに破ろうとしていたからである。

15 ヒラマンは、彼らがそうすることによって滅びることになりはしないかと懸念したのである。このようにして、以前にこの誓いを立てたすべての人は、当時の危うい状況の中で彼らの同胞が何とか苦難を切り抜けるのを見ているほかなかった。

16 しかし見よ、彼らには多くの息子たちがおり、その息子たちは武器を取って敵を防ぐことはしないという誓いをまだ立てていなかった。そこで、彼らの中で武器を取ることのできる者は皆このときに集まり、自分たちをニーファイ人と呼んだ。

17 そして彼らは、ニーファイ人の自由のために戦うという、つまり自分たちの命を捨ててでも国を守るという誓いを立てた。また、自分たちの自由を決して放棄することなく、ニーファイ人と自分たちが奴隷の状態に陥らないようにするために、どのような場合でも戦うと誓った。

---

10 ① アルマ27・24—26
11 ② アルマ23・8—13
12 ① アルマ24・17—19
13 ① アルマ27・23
14 ① アルマ56・7
14 ① 民数30・2、GS「誓い」
17 ② アルマ56・47、GS「自由」

18 さて見よ、この誓いを立てて、国を守るために武器を取った青年たちは、二千人であった。
19 見よ、この青年たちは、これまで一度もニーファイ人にとって負担となったことがなく、この度も大いなる助け手となった。彼らは武器を取り、ヒラマンが自分たちの指揮官になることを願った。
20 彼らは皆、青年であって、非常に勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった。
21 まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。
22 そしてヒラマンは、西の海に近い南方の境の地にいる人々を支援するために、この二千人の若い兵士を率いて行った。
23 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十八年が終わった。

第54章

アモロンとモロナイ、捕虜の交換を交渉する。モロナイ、撤兵して残忍な攻撃をやめるようレーマン人に要求する。アモロン、武器を捨ててレーマン人に服従することをニーファイ人に要求する。紀元前約六十三年。

1 さて、さばきつかさの統治第二十九年の初めに、アモロン[1]は捕虜を交換することを求めて、使者をモロナイに送ってきた。
2 そして、モロナイはこの要請を非常に喜んだ。というのは、捕虜のレーマン人を養うのに使っている食糧を自分の民を養うのに充てたいと思い、また民を返してもらって自分の軍隊を増強したいとも思っていたからである。
3 ところで、レーマン人は多くの女子供を捕らえていたが、モロナイのすべての捕虜、すなわち、モロナイが捕らえていた捕虜の中には女と子供はいなかった。そこでモロナイは、できるだけ多くのニーファイ人の捕虜をレーマン人から取り返すために、一つの策を講じることにした。
4 それでモロナイは手紙をしたため、自分に手紙を持って来てくれたアモロンの部下にそれを託した。

---

20 ① GS「勇敢・勇気」
21 ② GS「高潔」
21 ① GS「歩む（神とともに）」
22 ① アル56・3−5
第54章
1 ① アル52・3

彼がアモロンに書いた言葉は次のとおりである。

5「アモロンよ、見よ、あなたがわたしの民に仕掛けたこの戦争、いや、あなたの兄弟[1]がわたしの民に仕掛け、あなたが兄弟の死後もなお続けようとしているこの戦争について、わたしは以前に少しあなたに書き送ったことがある。

6見よ、わたしは、神の[1]正義と神の激しい怒りの剣について、少しあなたに告げたい。あなたがたが悔い改めて、軍隊をあなたの土地、すなわち、あなたの所有地であるニーファイの地に撤退させなければ、神の激しい怒りの剣があなたのうえに迫るであろう。

7まことに、もしこれらのことを聴く度量があなたにあるならば、まことにわたしはあなたに告げたい。すなわち、あなたがたが悔い改めて残忍なもくろみを捨て、軍隊を率いて自分の土地へ帰らなければ、あの恐ろしい地獄があなたやあなたの兄弟のような殺人者[2]を迎え入れようと待ち受けていることを、あなたに告げたい。

8しかし、あなたはかつてこれらのことを拒み、主の民に敵対して戦ったので、わたしはあなたがまたそのようにするであろうと思う。

9さて見よ、我々にはあなたがたを迎え撃つ用意ができている。また、あなたは自分のもくろみを捨てなければ、あなたが拒んだあの神の激しい怒りを自分の身に受け、完全な滅亡を被るであろう。

10あなたがたが撤退しなければ、主が生きておられるように確かに、我々の軍隊はあなたがたに攻め上り、あなたがたは間もなく死に見舞われるであろう。我々は自分たちの町と土地を保有し、また自分たちの宗教と神の大義を守るつもりだからである。

11しかし見よ、これらのことをあなたに述べても無駄であるとわたしには思われる。また、あなたは地獄の子であるようにわたしには思われる。したがってわたしは、手紙を結ぶに当たって告げる。一人の捕虜に対して男一人とその妻とその子供たちを引き渡すという条件に同意しなければ、わたしは捕虜の交換をしない。もしあなたがたがそのようにするならば、交換をしよう。

12見よ、もしあなたがたがこれを行わなければ、わたしは軍隊を率いてあなたがたを攻めるつもりである。まことに、わたしは女たちと子供たちを武装さ

5①アルマ48・1
6①GS「正義」
7①GS「地獄」
②アルマ47・18、22−24、
11①GS「殺人」
ヨハ8・42−44

せてあなたを攻め、1)我々の最初の受け継ぎの地である現在のあなたがたの地までも追って行こう。そして、血には血を、命には命を求めよう。そしてわたしは、あなたがたが地の面から滅ぼし去られるまで戦おう。

13 見よ、わたしは怒っており、わたしの民も怒っている。あなたがたはこれまで我々を殺そうとしてきたが、我々は防衛にのみ努めてきた。しかし、もしあなたがたがこれ以上我々を滅ぼそうとするならば、我々もあなたがたを滅ぼすようにしよう。そして、我々は自分たちの土地、すなわち我々の最初の受け継ぎの地を手に入れるであろう。

14 これでわたしは手紙を結ぶ。わたしはモロナイであり、ニーファイ人の民の指揮官である。」

15 さて、アモロンはこの手紙を受け取ると腹を立て、モロナイに手紙をもう一通書いた。彼が書いた言葉は次のとおりである。

16 「わたしはレーマン人の王、アモロンであり、おまえたちが殺したアマリキヤの兄弟である。見よ、1)わたしはおまえたちに、兄弟の血の報復をするつもりである。またわたしは、おまえの脅迫など恐れないので、軍隊を率いておまえたちを攻めよう。

17 見よ、おまえの先祖は自分の兄たちを不当に扱った。1)統治権は正当にはその兄たちのものであったのに、おまえの先祖はそれを兄たちから奪った。

18 さて見よ、もしおまえたちが武器を捨てて、統治権の正当な所有者の統治に服するならば、そのとき、わたしも民に武器を捨てさせ、もう決して戦争をさせないようにしよう。

19 見よ、おまえはわたしとわたしの民に脅迫の言葉をたくさん吐いたが、我々はおまえの脅迫を恐れない。

20 しかしながら、わたしは喜んでおまえの求めると おりに捕虜を交換することを認め、食糧をわが軍の兵たちのために蓄えておくようにしよう。そして、我々はニーファイ人が我々の権威に服従するまで、そうでなければ、ニーファイ人を永遠に絶滅させるまで、いつまでも戦争を続けよう。

21 また、我々が拒んだとおまえの言うその神についてであるが、見よ、我々はそのような者を知らないし、おまえにも分かるはずがない。しかし、もしそのような者がいるとすれば、その者はおまえだけで

---

12 1) 2ニフ5・5−8
16 1) アル51・34
17 1) 2ニフ5・1−4、モサ10・12−17

なく、我々をも造ったことになる。
22また、もし悪魔がおり、地獄があるとすれば、わたしの兄弟を殺したうえに、彼はそのような場所に行ったとほのめかすおまえたちも、悪魔によってそこへ送り込まれ、わたしの兄弟とともにそこで住むことにならないだろうか。しかし、これらのことはどうでもよい。
23わたしはアモロンであって、おまえの先祖によって無理やりにエルサレムから連れ出されたゾーラムの子孫である。
24そして見よ、今やわたしは勇敢なレーマン人である。見よ、この戦争はレーマン人が受けた不当な扱いの報復をし、レーマン人の統治権を守り、手に入れるために行われてきたものである。これでモロナイにあてた手紙を結ぶ。」

第55章

モロナイ、捕虜を交換することを断る。レーマン人の番兵たちは誘いに負けて酔っ払い、捕虜のニーファイ人は解放される。ギドの町は血を流すことなく取り返される。紀元前約六十三年から六十二年に至る。

1さて、モロナイはこの手紙を受け取ると、アモロンが彼自身の欺瞞[1]をよくよく承知しているのを知り、またニーファイの民と戦争をするのが正当な動機によるものではないことも承知しているのを知り、ますます怒った。
2そして、彼は言った。「見よ、わたしが手紙の中で述べたように、もしアモロンが彼のもくろみを捨てなければ、わたしは彼と捕虜の交換をしない。彼がこれまで得てきた力以上に大きな力を持つことを、彼に認めるつもりはないからである。
3見よ、わたしは、レーマン人が捕虜にしたわたしの民をどこで見張っているのか、その場所をよく知っている。手紙に記したわたしの要求をアモロンが認めようとしないので、見よ、わたしは、自分の言葉のとおりに彼に行おう。まことに、彼らが和平を求めるまで彼らの中に死を求めよう。」
4さて、モロナイはこの言葉を語り終えると、自分の兵の中にレーマンの子孫に当たる者がいるかもしれないと思い、兵の中を調べさせた。
5そして、レーマンという名の者が見つかった。この者はアマリキヤによって殺された王の僕の一人で

23① 1ニフ4・31—35
第55章
1① アル47・12—35
5① アル47・29

あった。
6そこでモロナイは、レーマンと自分の少数の兵を、ニーファイ人を見張っている番兵たちのところへ行かせた。
7ニーファイ人はギドの町に囚われていたので、モロナイはレーマンを任命し、少数の兵を彼とともに行かせた。
8そして、夜になってレーマンがニーファイ人を見張っている番兵たちのもとへ行くと、見よ、彼らはレーマンがやって来るのを見て、彼に呼びかけた。そこで、レーマンは彼らに言った。「怖がるな。わたしはレーマン人だ。我々はニーファイ人のもとから逃げ出して来た。ニーファイ人は今眠っている。だから、ぶどう酒を手に入れて持って来た。」
9さて、レーマン人はこの言葉を聞くと、喜んで彼を迎え入れ、「ぶどう酒を我々にも飲ませてくれ。我々は疲れているので、このようにおまえがぶどう酒を持って来てくれたことはうれしいことだ」と彼に言った。
10ところがレーマンは、「ニーファイ人に向かって戦いに出るまで我々のぶどう酒は取っておこう」と彼らに言った。しかしこの言葉は、そのぶどう酒を飲みたいという彼らの気持ちを募らせるばかりであった。
11そして、彼らは言った。「疲れているから、今そのぶどう酒を飲もう。そのうちに配給のぶどう酒が来る。ニーファイ人に向かって行く力はそれでつけることにしよう。」
12そこで、レーマンは彼らに、「思うとおりにするがよい」と言った。
13そこで彼らは、ぶどう酒をふんだんに飲んだ。しかも、彼らの味の好みに合っていたので、彼らはなおさらふんだんに飲んだ。ところが、そのぶどう酒は濃く造られていたので、強かった。
14そして彼らは、飲むといい気持ちになり、やがて全員酔っ払ってしまった。
15さて、レーマンと兵たちは、番兵たちが全員酔ってぐっすり眠っているのを見て、モロナイのもとに引き返して事の次第をすべて報告した。
16これはモロナイの計画のとおりであり、モロナイは兵たちに武器を持たせて準備を整えていた。そして、レーマン人が酔って熟睡している間に、ギドの

町へ行って町に武器を投げ込み、捕虜たちに渡した。そこで捕虜は皆武装した。

17モロナイが捕虜を全員武装させたとき、武器を使える者は、女や子供に至るまで全員が武装した。これらのことはすべてまったく静かに行われた。

18しかし、たとえレーマン人を起こしたとしても、見よ、レーマン人は酔っていたので、ニーファイ人は彼らを殺すことができたであろう。

19しかし見よ、それはモロナイが願っていたことではなかった。彼は殺人や流血を喜ばず、自分の民を滅亡から救うことを喜びとしていた。そして彼は、不当な行為を働くことができなかったので、レーマン人が酔っている間に彼らを襲って殺すことは望まなかった。

20それでも彼は、自分の願いを達していた。彼は町の城壁の内側にいる捕虜のニーファイ人を武装させ、城壁内の町を手に入れる力を彼らに与えていたからである。

21それから彼は、自分の率いる兵を彼らから一歩退かせて、レーマン人の軍隊を包囲させた。

22さて見よ、これは夜間に行われたので、朝レーマン人が目を覚まして見ると、外側はニーファイ人が包囲しており、内側では捕虜たちが武装していた。

23このようにして彼らは、ニーファイ人が自分たちを打ち負かす力を得ているのを知った。このような状況の中で、彼らはニーファイ人と戦うのは得策ではないのを知ったので、彼らの連隊長たちは武器の引き渡しを命じた。そこで彼らは、武器を持って来てニーファイ人の足もとに投げ出し、連隊長たちは哀れみを請うた。

24さて見よ、これはモロナイが願っていたことであった。そこでモロナイは、彼らを捕虜にして、その町を占領し、捕虜になっていたニーファイ人を全員解放した。そしてこれらの人々は、モロナイの軍隊に加わり、彼の軍隊にとって大きな力となった。

25そして、彼は捕虜にしたレーマン人に、ギドの町の周囲の防備を強固にする仕事を始めさせた。

26そして彼は、自分の望みどおりにギドの町の防備を固め終えると、捕虜たちをバウンティフルの町へ連れて行かせた。そして、彼はまた非常に強力な軍隊でその町を守った。

27そして、レーマン人の陰謀が何度かあったにもか

19① アル48・16
25① アル53・3−5

かわらず、彼らはそれまでに捕らえたすべての捕虜を見張って守り、また取り返したすべての土地を守り通し、優位を保ち続けた。

28 そしてニーファイ人は、再び勝利を収めるようになり、自分たちの権利と特権を取り戻し始めた。

29 レーマン人は何度も夜に紛れてニーファイ人を包囲しようとしたが、その度に彼らは、多くの者を捕虜として失った。

30 また彼らは、ニーファイ人にぶどう酒を飲ませて毒で殺すことや、酔わせて殺すことを何度も企てた。

31 しかし見よ、ニーファイ人は、この苦難のときにすぐ主なる神を思い起こした。そのため、レーマン人のわなにかからなかった。彼らはまず捕虜のレーマン人の幾人かに飲ませてからでなければ、レーマン人のぶどう酒を飲もうとはしなかったのである。

32 彼らはこのように用心したので、彼らの中には毒を飲まされた者は一人もいなかった。もしぶどう酒がレーマン人を中毒させるようであれば、それはニーファイ人をも中毒させるからである。このように、彼らはレーマン人の酒をすべて試したのであった。

33 さて、モロナイは、モリアントンの町を攻撃するために様々な準備を整える必要があった。見よ、レーマン人が自ら骨折ってモリアントンの町の防備を固め、それが非常に堅固なとりでとなっていたからである。

34 そして彼らは、絶えずその町に新たな軍隊と食糧を運び込んでいた。

35 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十九年が終わった。

第56章

ヒラマン、モロナイに手紙を送り、レーマン人との戦いの状況を詳しく述べる。アンテプスとヒラマン、レーマン人に大勝利を収める。ヒラマンの二千人の息子たちは奇跡的な力で戦い、一人も殺されない。第一節は紀元前約六十二年、第二−十九節は約六十六年、第二十−五十七節は約六十五−六十四年の出来事である。

31 ① アル62・49−51

1さて、さばきつかさの統治第三十年の初め、一月二日にモロナイはヒラマンから手紙を受け取ったが、それには彼がいる地方の民に関する事柄が述べられていた。

2ヒラマンが書いた言葉は次のとおりである。「戦時の艱難の中にあっても、主にあっても兄弟である、わたしの心から深く愛する兄弟、モロナイ殿。まことに、愛する兄弟、わたしはこの地方の戦況について少々お知らせしておきたいと思います。

3まことに、それは、アンモンがニーファイの地から連れて来た人々の息子たち[1]二千人のことについてです。御存じのように、アンモンが連れて来たこれらの人々は、わたしたちの先祖リーハイの長男であるレーマンの子孫です。

4わたしがあなたに彼らの言い伝えや不信仰について事細かに述べるまでもなく、あなたはこれらのことをすべて御存じです。

5ですから、この二千人の青年たちが武器を取り、わたしに彼らの指揮官になるように望んだこと、そしてわたしたちが自分の国を守るために出て行ったこと、これらのことだけあなたに申し上げれば十分です。

6そして、あなたはまた、彼らの先祖が交わした同胞に対して武器を取って血を流すことはしないという聖約[1]についても御存じです。

7しかし、第二十六年に、彼らはわたしたちが彼らのために苦難と艱難に陥っているのを見て、わたしたちを援護するために、彼らが以前に交わした聖約を破って[1]武器を取ろうとしました。

8しかし、わたしは神がわたしたちを強くしてくださるので、彼らが自分たちの立てた誓いを守るならばわたしたちはそれ以上苦しみを受けないであろうと思い、彼らが以前に交わしたこの聖約を破ることを認めませんでした。

9しかしまことに、わたしたちにとって非常にうれしいことが一つあります。第二十六年に、わたしヒラマンはこの二千人の青年たちを率いて、アンテプスを助けるためにユダヤの町へ進軍しました。このアンテプスは、あなたがその地の民の指揮官に任命した人です。

10そしてわたしは、アンテプスの軍隊にわたしの二千人の息子たち（彼らは息子と呼ばれるにふさわし

第56章
3 ① アル53・22
6 ① アル24・17−18
7 ① アル53・13−15

い人々です）を加えたので、アンテプスはその兵力を非常に喜びました。というのは、まことにレーマン人の軍隊によっておびただしい数の兵が殺され、彼の軍隊の兵の数が減っていたからです。このように大勢の人が殺されたことを、わたしたちは嘆き悲しまないではいられません。

11 にもかかわらず、わたしたちは、彼らが自分たちの国と神のために死んで、今 1)幸せな状態にあるということで、自らを慰めることができます。

12 レーマン人はまた多くの捕虜を残しており、その全員が連隊長です。彼らはほかの者をだれ一人生かしておかなかったからです。彼らは今ニーファイの地にいると思います。殺されていなければそこにいます。

13 レーマン人が、そのように多くのわたしたちの勇敢な兵たちの血を流して支配権を得た町は、次のとおりです。

14 マンタイの地、すなわちマンタイの町、ゼーズロムの町、クメナイの町、アンテパラの町。

15 以上は、わたしがユダヤの町に着いたときにレーマン人が占領していた町です。またわたしは、アンテプスとその兵がユダヤの町の防備を固めるのに力を尽くしているのを見ました。

16 そして彼らは、町を守り抜くために昼は勇ましく戦い、夜は夜で苦労を重ねていたので、肉体も精神も疲れ切っていました。彼らはこのように、ありとあらゆるひどい苦難に耐えてきました。

17 また彼らは、この地で勝利を得るか、そうでなければ死のうと決意していたので、あなたにも十分に想像がつくと思いますが、わたしが連れて来たこの小さな軍隊、すなわちわたしの息子たちは、彼らに大きな希望と大きな喜びを与えました。

18 さて、レーマン人は、アンテプスが軍隊に援兵を得たのを知ると、アモロンの命令で、戦闘のためにユダヤの町に来るのを、すなわちわたしたちを攻めるのを禁じられました。

19 このようにして、わたしたちは主の恵みを受けました。というのは、もし彼らがこの弱い状態にあるわたしたちに攻め寄せていたら、わたしたちの小さな軍隊は恐らく滅ぼされていたことでしょう。しかし、このようにしてわたしたちは守られたのです。

20 彼らは、それまでに奪ってきた町を守るようにア

11 ① アル28・12

モロンから命じられたのです。このようにして、第二十六年が終わりました。第二十七年の初めに、わたしたちは自分たちの町と自分自身を守る準備を終えました。

21そしてわたしたちは、レーマン人が攻めて来てくれることを願いました。わたしたちは、とりでにこもっている彼らを攻撃することを望まなかったからです。

22そして、レーマン人が夜に紛れて、あるいは日中にでも、わたしたちのもとを通り過ぎて北方にあるほかの町に攻撃を加えるようなことがないよう、わたしたちはレーマン人の動きを見張るために方々に密偵を置きました。

23北方にあるそれらの町の人々には、レーマン人と交戦できるほどの力がないことをわたしは知っていたからです。したがって、もしレーマン人がそばを通り過ぎるようであれば、彼らを背後から攻めて、正面からの交戦と同時に、背後からも彼らを攻めたいと思っていました。そうすれば彼らを打ち負かせると思ったのですが、まことに、この望みはくじかれてしまいました。

24彼らは、あえて全軍でわたしたちのそばを通り過ぎようとはせず、また軍隊の一部でも、力が足りなくて負けるのを心配して通り過ぎようとしませんでした。

25また彼らは、あえてゼラヘムラの町に対して進軍することも、またシドンの源を越えてニーファイハの町へ向かうこともしませんでした。

26このように彼らは、以前に奪ったそれらの町を自分たちの軍隊で守ろうと決意していたのです。

27さて、この年の二月に、わたしの二千人の息子たちの父親から多くの食糧がわたしたちのもとに届きました。

28さらに、ゼラヘムラの地からわたしたちのもとに、二千人の兵も送られてきました。このようにして、わたしたちには一万人の兵と、この兵たちとその妻子たちのための食糧が備わりました。

29レーマン人は、このようにわたしたちの軍隊が日々増大し、またわたしたちの支えである食糧が届くのを見て恐れ始め、できればわたしたちにもう食糧と兵力を得させないようにしようということで、出撃して来るようになりました。

30わたしたちは、レーマン人がこのように次第に不安になり始めたのを知ると、彼らに一つの策を講じたいと思いました。そこでアンテプスの命を受け、わたしはあたかも食糧を運んでいるところであるかのように、若い息子たちとともに近隣のある町へ出かけて行くことになりました。

31わたしたちはアンテパラの町の近くを、あたかも海岸に近い地方にあるその先の町へ向かっているかのように進むことになりました。

32そして、食糧を運んでその町へ向かっているかのように進軍しました。

33そしてアンテプスも、町を守るために彼の軍隊の一部を残し、残りの兵とともに進軍しました。しかし、わたしが自分の若い軍隊とともにアンテパラの町に近づくまで、彼は進軍しませんでした。

34アンテパラの町には、レーマン人の最強の軍隊が最大の規模で配備されていました。

35さて彼らは、密偵から知らせを受けると、軍隊を出し、わたしたちに向かって進んで来ました。

36そこでわたしたちは、彼らの前を北方へ逃げました。このようにしてわたしたちは、レーマン人の最も強い軍隊を連れ出したのです。

37まことに、かなり遠くまで連れ出しました。彼らは、アンテプスの軍隊が全力で追って来るのを知ると、右にも左にも曲がらず、まっすぐにわたしたちを追って来ました。今思うに、彼らはアンテプスに追いつかれる前にわたしたちを殺し、わたしたちの民に取り囲まれることのないようにしようと考えたようです。

38アンテプスは、わたしたちが危ういのを見て、行軍の速度を増しましたが、しかしまことに、夜になってしまいました。そのため、レーマン人はわたしたちに追いつかず、アンテプスもレーマン人に追いつかなかったので、わたしたちは夜の間野営しました。

39そして、夜明け前に、レーマン人はまたわたしたちを追って来ました。しかしわたしたちは、彼らと戦えるほど強くなく、またわたしは若い息子たちを彼らの手に落としたくないと思ったので、そのまま行軍を続け、荒れ野へ向かいました。

40レーマン人は取り囲まれることを恐れて、あえて右にも左にも曲がらず、わたしも彼らに追いつかれ

るのを恐れて、右にも左にも曲がりませんでした。わたしたちは追いつかれれば抵抗できず彼らに殺され、彼らは逃れていたことでしょう。したがって、暗くなるまで、わたしたちは一日中荒れ野の中を逃げました。

41 そして、また翌日夜が明けると、わたしたちはレーマン人が追って来るのを見て、彼らの前から逃げました。

42 ところが、彼らはわたしたちを遠く追わないうちに立ち止まりました。それは七月三日の朝のことでした。

43 わたしたちには、アンテプスが彼らに追いついたのかどうか分かりませんでしたが、わたしは兵たちに言いました。『見よ、彼らは我々に攻撃をさせ、我々をわなにかけて捕らえるために止まったのかもしれない。

44 したがって、わたしの息子たちよ、あなたがたはどうだろうか。彼らと戦うつもりがあるか。』

45 愛する兄弟、モロナイ殿。わたしは申し上げます。わたしはこれまでこのような大いなる勇気を一度も見たことがありません。ニーファイ人の中にはないことでした。

46 わたしがいつも彼らを（皆、非常に若かったので）わたしの息子たちと呼んできたように、彼らもわたしに、『父よ、まことに、神はわたしたちとともにいて、わたしたちが敗れることのないようにしてくださいます。ですから、出て行きましょう。もしわたしたちの同胞が仕掛けてこなければ、わたしたちは彼らを殺しません。彼らがアンテプスの軍隊を打ち負かすことのないように、わたしたちは行きましょう』と言いました。

47 彼らはまだ一度も戦ったことがありませんでしたが、死を恐れませんでした。そして彼らは、自分の命よりも父親たちの自由のことを考えていました。彼らは母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わっていたのです。

48 そして彼らは、わたしに母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません』と言いました。

49 そこで、わたしたちを追って来たレーマン人と戦うために、わたしは二千人の兵とともに引き返しました。すると、アンテプスの軍隊が彼らに襲いかか

45 ① アルマ53・20−21
47 ① アルマ53・16−18
② アルマ57・21、GS「母」

り、激しい戦いが始まっていました。

50しかも、アンテプスの軍隊はそのようなわずかな日時で長い道のりを進んだことで疲れており、まさにレーマン人の手に落ちようとしていたところでした。もしわたしが二千人の兵とともに引き返さなければ、レーマン人は彼らの目的を達していたことでしょう。

51アンテプスと彼の指揮官たちの多くが、行軍が速かったために疲れ果てて、すでに剣に倒れていたからです。そしてアンテプスの兵たちは、指揮官たちが倒れたことでうろたえ、レーマン人の前から退却を始めました。

52そこでレーマン人は勇み立ち、彼らを追撃し始めました。このように、レーマン人が激しい勢いで彼らを追撃していたときに、ヒラマンが二千人の兵とともにレーマン人の背後から攻めかかり、彼らを大いに殺し始めたのです。そこでレーマン人の全軍は立ち止まって、今度はヒラマンに向かいました。

53するとアンテプスの民は、レーマン人が向きを転じたのを見て自分たちの兵を集め、再びレーマン人の背後を攻めました。

54そして、わたしたちニーファイの民、すなわちアンテプスの民とわたしとわたしの二千人の兵がレーマン人を取り囲み、彼らを殺したので、彼らは仕方なく武器を引き渡し、捕虜となりました。

55さて、彼らがわたしたちに降伏したので、わたしはともに戦ってきた青年たちが大勢殺されたのではないかと心配になり、彼らの人数を数えました。

56ところがまことに、非常にうれしいことに、彼らの中で地に倒れた者は一[1]人もいませんでした。彼らはまるで神の力を得たかのように戦いました。このように奇跡的な力で戦った人はこれまでに一人もいません。彼らはレーマン人が肝をつぶすほどの大いなる力で彼らに攻めかかり、そのために、レーマン人は降伏して捕虜になりました。

57また、そこには捕虜をレーマン人の軍隊から遠ざけて見張っておける場所がなかったので、わたしたちは殺されなかったアンテプスの兵の一[1]部を付けて、彼らをゼラヘムラの地に送りました。そして、残りの兵はわたしが率いて若いアンモン人に加え、ユダヤの町に引き返しました。」

---

56 ① アル 57・25、58・39
57 ① 1−11、16 アル 27・26、53・10

第57章

ヒラマン、アンテパラの奪回と明け渡しと、クメナイの防御について述べる。アンモン人の青年たち、勇敢に戦う。全員が負傷するが、一人も死なない。ギド、捕虜のレーマン人の殺害と逃亡について報告する。紀元前約六十三年。

1「さて、わたしは王のアモロンから手紙を受け取りましたが、それは、もしわたしたちが捕らえた捕虜を引き渡すならば、アンテパラの町をわたしたちに譲り渡そうというものでした。
2しかし、わたしは王に手紙を送り、わたしたちの軍隊には自力でアンテパラの町を取り返す力があると確信しているので、捕虜と町を交換するのは賢明ではないと思う、したがって、捕虜同士を交換するときにのみ捕虜を引き渡すつもりである、と告げました。
3するとアモロンは、捕虜の交換はしたくなかったので、わたしの手紙での申し出を拒絶しました。そこでわたしたちは、アンテパラの町を攻める準備を整えました。
4ところが、アンテパラの民はその町を去り、彼らが支配していたほかの町へ逃げて行き、それらの町の防備を固めました。このようにして、アンテパラの町はわたしたちの手に落ちました。
5このようにして、さばきつかさの統治第二十八年が終わりました。
6さて、第二十九年の初めに、わたしたちはゼラヘムラの地と周辺の地から、食糧と六千人の援兵を受け、またほかにアンモン人の息子[1]たち六十人が彼らの同胞、すなわち二千人から成るわたしの小さな軍隊に加わりました。そしてまことに、わたしたちは強くなり、また食糧もたくさん補給されました。
7そこでわたしたちは、クメナイの町を守るために配置されている軍隊と一戦交えたいと思いました。
8さて、まことに、わたしたちがやがて自分たちの望みを遂げたことをあなたに明らかにしたいと思います。まことにわたしたちは、クメナイの町の者が食糧を受け取ることになっていた少し前から、わたしたちの強い軍隊をもって、いや、わたしたちの強い軍隊の一部をもって、夜その町を包囲しました。
9そしてわたしたちは、幾晩もその町の周囲で野営

第57章
6 ① アル53・16—18

しました。しかしわたしたちは、夜に紛れてレーマン人に襲われ、殺されることのないように、剣を身に着けたまま眠り、また見張りの兵を置きました。それでも彼らは、何度も襲撃を試みて、その度に彼らの血が流されたのでした。

10 そのうちにやっと彼らの食糧が到着し、レーマン人は夜に紛れて町に入ろうとしました。ところが、わたしたちはレーマン人ではなくニーファイ人であったので、彼らを捕らえ、彼らの食糧を奪いました。

11 しかしレーマン人は、このようにして補給を断たれたにもかかわらず、なおもその町を守り通そうと決意していました。そこでわたしたちは、それらの食糧を運んでユダヤに送り、また捕虜はゼラヘムラの地に送る必要がありました。

12 そして、それほど多くの日数がたたないうちに、レーマン人は救援を得られる望みをすっかり失い、その町をわたしたちの手に明け渡しました。このようにして、わたしたちはクメナイの町を手に入れる計画を達成しました。

13 しかし、捕虜の数が甚だ多かったので、わたしたちの兵の数が非常に多かったにもかかわらず、わたしたちは彼らを見張るのに全軍を用いるか、そうでなければ彼らを処刑するかしなければなりませんでした。

14 というのは、まことに彼らは大勢で逃げ出し、石やこん棒や、そのほか手に入るものを何でも手に取って戦おうとしたからです。そのために、彼らが降伏して捕虜になった後、わたしたちは彼らの中の二千人以上を殺しました。

15 そのようなわけで、わたしたちは彼らの命を取るか、そうでなければ剣を手にしたまま彼らをゼラヘムラの地へ護送して行くことが必要になりました。そのうえ、わたしたちが以前にレーマン人から奪った食糧があったにもかかわらず、食糧はわたしたちの軍隊にも十分ではありませんでした。

16 そのような危うい状況の下で、この捕虜たちについて判断を下すことは非常に重大な問題となりました。にもかかわらず、彼らをゼラヘムラの地へ送ることにしました。そして、兵の一部を選んで捕虜を見張る任務を彼らに与え、ゼラヘムラの地へ下って行かせました。

17 ところがその翌日、彼らは戻って来ました。しかし、わたしたちは彼らに捕虜のことを尋ねませんでした。まことに、わたしたちはそのときレーマン人に攻められており、彼らはちょうどよいときに戻って来て、わたしたちがレーマン人の手に落ちるのを救ってくれたからです。というのは、まことに、レーマン人を支援するために、アモロンが新たな食糧と大勢の兵を送ってきたからでした。

18 そして、わたしたちが捕虜に付けて送り出した兵たちは、わたしたちがまさにレーマン人に負かされようとしたときに、ちょうど折よく到着して彼らを食い止めてくれたのです。

19 しかしまことに、二千六十人の兵から成るわたしの小さな軍隊は必死に戦い、まことに、彼らはレーマン人の前に確固として立ちはだかり、向かって来るすべての者を殺しました。

20 わたしたちの軍隊のほかの兵たちがレーマン人の前から退却しようとしていたときに、まことにその二千六十人の兵は確固としており、ひるみませんでした。

21 まことに、彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めたのです。そして、実に彼らの信仰に応じて、そのようになりました。そのことでわたしは、彼らが母親たちから教わったと言ってわたしに話してくれた言葉を思い出しました。

22 わたしたちがこの大勝利を収めたのは、実にわたしのこの息子たちと、選ばれて捕虜を護送して行ったその兵たちのおかげです。レーマン人を打ち負かしたのは、これらの兵たちでした。そしてレーマン人は、マンタイの町へ追い返されました。

23 わたしたちはクメナイの町を守り、全員が剣で滅ぼされることは避けられたものの、それでもわたしたちは大きな損害を被っていました。

24 さて、レーマン人が逃げ去った後、わたしはすぐに、負傷した兵を死者の中から連れ出すように命令を下し、彼らの傷の手当てをし、包帯をさせました。

25 さて、わたしの二千六十人の兵のうち、二百人が失血のために意識を失っていました。にもかかわらず、神の慈しみによってだれ一人死なずに済んだことは、わたしたちにとってまったく驚きであり、またわたしたち全軍の喜びでもありました。彼らの中には傷をたくさん負わなかった者は一人もいません

21 ① アルマ56・47−48
25 ① アルマ56・56

でした。
26 彼らが守られたのは、わたしたち全軍にとって驚きでした。千人の同胞が殺されながら、彼らは命を救われたのです。それは神の奇跡を起こす力によったものと考えざるを得ません。彼らは信じるように教えられたことを深く[2]信じていたので、すなわち、公正な神がましますことと、疑わない者はだれでも神の驚くべき力によって守られるということを深く信じていたので、それが起こったのです。
27 わたしの述べてきたこれらの者たちは、これを信じていました。彼らは若いながらも考えはしっかりしていて、絶えず神に頼っています。
28 さて、このように味方の負傷兵の世話を終え、味方の死者と多くのレーマン人の死者を葬り終えた後、わたしたちはギドに、彼らがゼラヘムラの地へ連れて行った捕虜たちのことを尋ねました。
29 ギドは、その地に彼らを護送して行くように任命された軍隊の連隊長でした。
30 ギドがわたしに述べた言葉は、次のとおりです。『まことに、わたしたちは捕虜を連れてゼラヘムラの地へ下って行くために出発しました。すると途中で、レーマン人の軍を見張るために遣わされていたわたしたちの軍の密偵たちに出会いました。
31 ところが、彼らはわたしたちに向かって、「レーマン人の軍がクメナイの町へ向かって進んでいる。彼らはクメナイの町にいる者を襲い、わたしたちの民を滅ぼすつもりだ」と叫んだのです。
32 そこで捕虜たちは、彼らの叫び声を聞いて勇み立ち、わたしたちに対して暴動を起こしました。
33 さて、彼らが暴動を起こしたので、わたしたちは剣で彼らを討ちました。彼らが一団となってわたしたちの剣を目がけて走り寄って来たため、わたしたちは彼らの大半を殺しました。しかし、残りの者たちはわたしたちを押し分けて逃げて行ってしまいました。
34 まことに、彼らが逃げてしまい、追いつけなかったので、わたしたちはクメナイの町へ向かって急いで進み、まことに、ちょうどよいときに到着して、町を守っていた同胞を助けることができました。
35 まことにわたしたちは、敵の手からまた救い出されました。わたしたちの神の御名がほめたたえられますように。まことに、わたしたちの神はわたした

26
① 「力」
② 「信仰」
GS GS

ちを救い出し、まことに、わたしたちのためにこのような大いなることを行ってくださいました。』

36さて、わたしヒラマンはギドのこの言葉を聞くと、わたしたちを守ってわたしたち全員が滅びることのないようにしてくださっている神の慈しみを思い、非常な喜びに満たされました。またわたしは、これまでに殺された人々の霊がすでに神の安息[1)]に入っているものと信じています。」

第58章

ヒラマンとギドとテオムナー、策を用いてマンタイの町を取り返す。レーマン人、撤退する。アンモンの民の息子たち、しっかりと立って自分たちの自由と信仰を擁護するときに守られる。紀元前約六十三年から六十二年に至る。

1「さて、まことに、わたしたちの次の目標は、マンタイの町を手に入れることでしたが、わたしたちの小さな軍隊ではどうしてもレーマン人をその町から誘い出せませんでした。彼らはわたしたちがこれまでに行ったことを覚えていたため、彼らをとりでからおびき出せませんでした。[1)]

2また、彼らがわたしたちの軍隊よりもはるかに大勢であったので、わたしたちはあえて出て行って、とりでにこもっている彼らを攻撃しませんでした。

3また、わたしたちは、これまでに取り返した土地を守り通すために兵を使うことが必要になり、ゼラヘムラの地からもっと多くの援兵と新たな食糧が届くのを待たなければなりませんでした。

4そこでわたしは、国の総督のもとに使者を送って、わたしたちの民の状況について知らせました。そしてわたしたちは、ゼラヘムラの地から食糧と援兵が来るのを待ちました。

5しかしまことに、レーマン人も日々多くの援兵と多くの食糧を得ていたので、これは、わたしたちにとってあまり得にはなりませんでした。当時のわたしたちの状況は以上のとおりでした。

6またレーマン人は、策を巡らしてわたしたちを滅ぼそうとして、時々出撃して来ました。しかし、彼らには待避所ととりでがあったので、わたしたちは彼らと戦うことができませんでした。

7そしてわたしたちは、難しい状況の下で何か月

36① アル12・34
第58章
1① アル52・21、56・30

も待ち、とうとう食糧の欠乏で飢え死にしそうになりました。

8 さて、わたしたちを援助するために来た二千人の兵から成る軍隊に守られて、食糧が届きました。しかし、わたしたちが自分自身と国とを敵の手に落ちないように守り、おびただしい数の敵と戦うために受け取った援助は、ただこれだけでした。

9 このような苦しい事態に至った原因、すなわち、なぜ彼らがわたしたちにもっと多くの援兵を送ってくれなかったのか、その理由はわたしたちには分かりません。そのため、わたしたちは心を痛め、また何らかの手段で神の裁きがわたしたちの国に下って、わたしたちが打ち倒され、完全に滅ぼされてしまうのではないかという恐れでいっぱいになりました。

10 そこでわたしたちは、心を神に注ぎ出して祈り、わたしたちを強めてくださるように、また敵の手から救ってくださるように、さらにわたしたちの民を支えるために、わたしたちの町と土地と所有物を取り返す力をわたしたちに与えてくださるようにとお願いいしました。

11 そして、主なるわたしたちの神は、わたしたちを救うという保証を与えてくださいました。わたしたちの霊に平安を告げ、わたしたちに大いなる信仰を授け、また主によって解放されるという望みをわたしたちに抱かせてくださったのです。

12 そこでわたしたちは、少数ながら援兵を得たことに勇気を奮い起こし、敵を打ち破って、わたしたちの土地と所有物と妻子と自由の大義を守ろうと固く決意しました。

13 このようにしてわたしたちは、マンタイの町にいるレーマン人と戦うために全勢力を注いで出て行き、その町に近い荒れ野のそばに天幕を張りました。

14 その翌日、レーマン人はわたしたちが町に近い荒れ野のそばの境の地にいるのを見ると、わたしたちの軍隊の兵数と兵力を知るために、わたしたちの周りに何人もの密偵を送ってきました。

15 そして密偵の調べで、わたしたちが兵数のうえで強力でないのが分かると、彼らは、出撃して戦ってわたしたちを殺さなければ自分たちへの支援が断たれるに違いないと恐れ、また自分たちの大軍で容易にわたしたちを滅ぼせると思い、わたしたちを攻

---

12 ① GS「自由」
② アル46・12−13、モル2・23

撃する用意を始めました。
16 彼らが攻撃の用意をしているのを知り、まことに、わたしはギドを少数の兵とともに荒れ野の中に隠れさせ、またテオムナーと少数の兵も荒れ野の中に隠れさせました。
17 ギドと彼の兵は右側に、ほかの者たちは左側にいました。彼らがこのように隠れてしまうと、まことに、わたしは最初に天幕を張ったその同じ場所にわたしの軍隊の残りの兵とともにとどまり、レーマン人が攻めて来るのを待ちました。
18 そこでレーマン人は、わたしたちに向かって大軍で攻めて来ました。そして、彼らが攻めて来て、わたしたちに剣でまさに襲いかかろうとしたとき、わたしは率いていた兵を荒れ野に退却させました。
19 そこでレーマン人は、何としてでも追いついてわたしたちを殺したいと思ったので、猛烈な速さでわたしたちの後を追い、荒れ野に入って来ました。わたしたちはギドとテオムナーの真ん中を通り抜けたため、彼らはレーマン人に気づかれませんでした。
20 さて、レーマン人が通り過ぎると、すなわちその軍隊が通り過ぎると、ギドとテオムナーは隠れていた場所から立ち上がり、レーマン人の密偵たちが町に帰れないように彼らの帰路を断ちました。
21 そして、ギドとテオムナーと兵たちは密偵たちの帰路を断ってから町に走って行き、その町を守るために残っていた見張りの兵たちに襲いかかって、彼らを殺し、町を占領しました。
22 これは、レーマン人が少数の見張りの兵を残して全軍を荒れ野に誘い出されてしまったために起こったことでした。
23 そしてギドとテオムナーは、レーマン人のとりでを手に入れました。一方、わたしたちはしばらく荒れ野の中を逃げた後、ゼラヘムラの地の方向に進路を取りました。
24 するとレーマン人は、ゼラヘムラの地に向かって進んでいるのに気づき、自分たちを滅亡に誘い込むために練られた計略があるのではないかと非常に恐れました。そこで彼らは再び荒れ野に戻り、やって来た同じ道を引き返しました。
25 そしてまことに夜になり、彼らは天幕を張りました。レーマン人の連隊長たちは、ニーファイ人も行軍で疲れ切っていると思ったからです。また彼ら

は、すでにニーファイ人の全軍を追い払ってしまったと思い、マンタイの町のことは少しも考えませんでした。

26さて、夜になると、わたしは兵を眠らせずに、別の道からマンタイの地へ向かわせました。

27そして、わたしたちは夜の間行軍したため、まことに、翌日にはレーマン人よりはるかに先になり、彼らよりも早くマンタイの町に着きました。

28そして、この策によってわたしたちは血を流すことなくマンタイの町を占領しました。

29そして、レーマン人の軍隊は町の近くに到着し、わたしたちが彼らと戦いを交える用意をしているのを見て非常に驚き、またひどい恐怖を覚えて、荒れ野の中へ逃げて行きました。

30そして、レーマン人の軍隊は、この地方の全域から逃げ出しました。しかしまことに、彼らはこの地から多くの婦人たちと子供たちを連れ去ってしまいました。

31かつてレーマン人に奪われた町は、1)現在すべてわたしたちの所有下にあります。そして、わたしたちの父親たちと婦人たちと子供たちは、捕虜になってレーマン人に連れ去られた人々を除いて、全員各自の家へ帰っているところです。

32しかしまことに、わたしたちの軍隊は、そのように多くの町とそのようにたくさんの領土を守り通すには小さすぎます。

33それでもまことに、わたしたちは、それらの土地でわたしたちに勝利を得させ、かつて所有していたそれらの町と土地を取り返させてくださった神に頼っています。

34わたしたちには、政府がもっと多くの援兵を送ってくれない理由が分かりません。わたしたちのもとに来た兵たちも、どうしてわたしたちにもっと援兵が送られなかったのか、その訳を知りません。

35まことに、あなたの方が首尾よくいっておらず、そちらの地方に軍隊を退却させなければならなかったのかもしれません。もしそうであれば、わたしたちはつぶやきたくありません。

36また、もしそうでなければ、政府の中に何らか1)の対立があり、彼らはわたしたちを援助する兵をこれ以上送ってこないのではないかと、わたしたちは懸念しています。なぜならば、すでに派遣されてき

31① アル56・14
36① アル61・1—5

た兵よりももっと多くの兵がいることを、わたしたちは知っているからです。

37しかしまことに、それはどうでもよいことです。わたしたちの軍隊が弱くても、神がわたしたちを救い、敵の手から救い出してくださることを信じています。

38まことに、今は第二十九年の末で、わたしたちは自分たちの土地を所有しており、レーマン人はニーファイの地へ逃げました。

39わたしが前に大いにほめたたえたアンモンの民の息子たちは、今わたしと一緒にマンタイの町にいます。主は彼らを力づけ、剣で倒されないように守ってくださったので、一人も殺されませんでした。

40しかしまことに、彼らは多くの傷を負いました。それでも彼らは、神が自分たちを自由な者にしてくださったその自由にしっかりと立っています。そして彼らは、日々主なる神をよく覚え、まことに、主の掟と裁決と戒めをいつも守るように努めており、将来起こることについての預言を深く信じています。

41愛する兄弟、モロナイ殿。わたしたちを贖い、自由にしてくださった主なるわたしたちの神が、いつもあなたを御前にとどめてくださいますように。また、主がこの民に恵みを授けてくださり、かつてレーマン人がわたしたちから奪った生活に必要なすべてのものを、あなたがたが首尾よく取り返すことができますように。まことに、これでわたしの手紙を結びます。わたしはアルマの子、ヒラマンです。」

第59章

モロナイ、ヒラマンの軍隊を強化するようにパホーランに要請する。レーマン人、ニーファイ人の町を奪う。モロナイ、政府に腹を立てる。紀元前約六十二年。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十年に、モロナイはヒラマンの手紙を受け取って読むと、その幸いを、すなわち、以前に失った土地を得るのにヒラマンが大きな成功を収めたことを非常に喜んだ。

2また、彼は自分の民にも喜んでもらおうとして、自分のいるその地方の全域ですべての民にそれを知らせた。

3そして彼は、すぐにパホーランに手紙を書き、ヒ

37① 列下17・38—39
39① アル56・56
40① GS「自由」

第59章
1① アル56・1
3① アル50・40
② アル60・1—3

ラマンがそのように奇跡的に首尾よく取り返した地方を容易に守り通せるように、ヒラマンを、いや、ヒラマンの軍隊を強化するために兵を集めるように依頼した。

4 そして、その手紙をゼラヘムラの地へ送ると、モロナイは、レーマン人がニーファイ人から奪った領土と町の中でまだ取り返していない分を手に入れるために、再び策を練り始めた。

5 さて、モロナイがこのようにレーマン人を攻める準備をしている間に、モロナイの町、リーハイの町、モリアントンの町から集まったニーファイハの民が、レーマン人から攻撃を受けた。

6 まことに、マンタイの地とその周辺の地から追われた者たちが、この地方のレーマン人のもとに来て合流していた。

7 このようにして、彼らは非常に人数が多くなったうえに、日々援兵を得たので、アモロンの命令によってニーファイハの民を攻め、彼らに対して大変な殺戮を始めたのである。

8 彼らの軍隊が非常に大軍であったので、ニーファイハの民の中で生き残った者たちは仕方なく彼らの前から逃げ出し、モロナイのもとへやって来て彼の軍隊に加わった。

9 ところでモロナイは、ニーファイハの町にすでに兵が送られていて、その町を守り通すために民を助ける任務に就いているものと思っており、またレーマン人の手に落ちないように町を守ることの方が、それを彼らから取り返すことよりも容易であるのを知っていたので、ニーファイハの町の民が容易にその町を守り通せると思った。

10 そこで彼は、自分が取り返した所を何か所も守るために、自分の全軍を用いていた。

11 モロナイは、ニーファイハの町を失ったことを知って非常に嘆き、またニーファイ人が民の悪のために同胞の手に落ちてしまうのではないかと危ぶみ始めた。

12 これは彼の連隊長たちも皆同じであった。彼らも民の悪を危ぶみ、驚いた。それは、レーマン人がニーファイハの町の民に勝ったからである。

13 そしてモロナイは、政府が国の自由を守るのに冷[1]淡であるということで、彼らに腹を立てた。

---

13 ① 1−3　アル58・34、61・2

第60章

モロナイ、政府が軍隊に心を配らないことについてパホーランを非難する。主は義人が殺されるのをそのままにしておかれる。ニーファイ人は敵を防ぐためにあらゆる力と手段を用いなければならない。モロナイ、自分の軍隊に援助が与えられなければ政府を敵として戦うと脅す。紀元前約六十二年。

1 さて、モロナイは国の総督であるパホーランに再び手紙を書いた。彼が書いた言葉は次のとおりである。「わたしはゼラヘムラの町にいる大さばきつかさであり国の総督であるパホーランと、またこの戦争の諸事を統轄し取り仕切るためにこの民によって選ばれたすべての方々にあてて、この手紙を記します。

2 さてまことに、これらの方々に語って非難したいことが少々あります。まことに、あなたがた自身御存じのように、あなたがたは兵を集め、彼らを剣と三日月刀とあらゆる武器で武装させ、またレーマン人がわたしたちの国に入って来る所に派遣して彼らと戦わせる、そのような職に任命されています。

3 そこでまことに、あなたがたに申しますが、わたし自身もわたしの兵も、ヒラマンも彼の兵も、とてもひどい苦難を受けてきました。飢えや渇き、疲労、そのほかあらゆる苦難を味わってきました。

4 しかしまことに、わたしたちの受けたのがこれだけであれば、わたしたちはつぶやかず、不平も言わなかったでしょう。

5 ところがまことに、わたしたちの民の受けた殺戮はひどく、すでに数千人が剣に倒れています。もしわたしたちの軍隊に十分な援兵と援助を与えてくれていたら、このようにはならなかったかもしれません。まことに、あなたがたはわたしたちのことをないがしろにしています。

6 今まことに、わたしたちは、このように甚だしくないがしろにされた理由を知りたいと思います。あなたがたが無頓着な状態にある理由を知りたいと思います。

7 敵があなたがたの周囲で死の業を繰り広げているのに、あなたがたは考えもなくぼんやりとした状態で座に着いていられると思うのですか。まことにその間に、彼らはあなたがたの同胞を何千人も殺して

第60章
1 ① アル50・39−40

いるのです。

8 まことに、あなたがたの同胞はあなたがたの保護を頼りにし、自分たちを救う地位にあなたがたを任じました。まことに、自分たちのもとに軍隊を派遣して自分たちを強化し、数千の人々が剣に倒されるのを救える、そのような地位にあなたがたを任じたのです。

9 しかしまことに、それだけではありません。あなたがたは彼らに食糧を送りませんでした。それでも、多くの人はこの民の幸いを深く望んでいたので、戦いに出て血を流し、命を失いました。彼らは飢え死にしそうになりながらも、このようにしたのです。あなたがたが彼らを甚だひどく軽視したからです。

10 愛する兄弟たち、あなたがたは愛されるようにすべきであり、またこの民の幸いと自由のために、もっと熱心に務めるべきでした。しかしまことに、あなたがたは彼らに心を配らなかったので、将来数千人の血が、報復を求めてあなたがたの頭に降りかかることでしょう。まことに、彼らの嘆願と彼らの苦しみを、すべて神は御存じだからです。

11 まことに、あなたがたは、これからも自分は座に着いていることができ、神の深い慈しみのおかげで何もすることなく神によって救われると考えることができるでしょうか。まことに、そのように考えているのであれば、それはむなしいことです。

12 非常に多くの同胞が殺されたのは彼らの悪のためであると、あなたがたは思っているのですか。あなたがたに申します。もしそのように考えているのであれば、それはむなしいことです。あなたがたに申しますが、剣で殺された人々は大勢おり、まことに、あなたがたはそのために罪の宣告を受けるでしょう。

13 主は御自分の罰と裁きを悪人に下せるように、義人が殺されるのをそのままにしておかれます。したがって、あなたがたは、義人が殺されても捨てられたと思うには及びません。まことに、彼らは主なる神の安息に入るのです。

14 さてまことに、ここであなたがたに申しますが、わたしは神の裁きが一部の人々のひどい怠慢のために、すなわち、わたしたちの政府の怠慢のために、また同胞である殺された者たちを彼らが甚だひどく

9① アルマ58・7
12① ルカ13・1—5
13① アルマ14・10—11、教義42・46—47

軽視したために、この民に下るのではないかと非常に懸念しています。

15 わたしたちの国の指導者から始まった悪[1]がなければ、わたしたちは敵を防ぐことができ、わたしたちを支配する権力を決して彼らに得させなかったでしょう。

16 まことに、もしわたしたち自身の中に起きた内戦[1]がなかったならば、またわたしたち自身の中にあれほど多くの流血を引き起こした王政党[2]の者たちがいなければ、またわたしたちの中に争いのあったときに、これまで行ってきたようにわたしたちが力を合わせていたならば、また王政党の者たちがわたしたちを支配する権力と権能を得ようと望まなかったならば、また彼らがわたしたちに対して武器を取って、非常に多くの流血をわたしたちの中に引き起こすことなく、自由の大義に誠実であり、わたしたちと結束し、敵と戦っていたならば、そしてわたしたちが主の力をもって敵と戦っていたならば、わたしたちは敵を追い散らしていたでしょう。主の御言葉のとおりにそれは成るからです。

17 しかしまことに、今レーマン人はわたしたちの土地を占領し、わたしたちに攻め寄せています。彼らはわたしたちの民を剣で殺し、まことに女や子供さえも殺し、また女と子供を捕らえて連れて行き、あらゆる苦難を彼らに負わせています。これは権力と権威を求めている者たち、すなわちあの王政党の者たちのひどい悪事のせいです。

18 しかしわたしは、このことをどうしてくどくどと言えましょうか。あなたがたも権威を求めていないとは言い切れないからです。あなたがたも国賊でないとは言い切れません。

19 それとも、あなたがたがわたしたちのことを心にかけず、わたしたちに食糧を送らせず、またわたしたちの軍隊を強める兵も派遣させないのは、あなたがたが国の中央部にいて、周りが安全なためなのですか。

20 あなたがたは、主なる神の戒めを忘れたのですか。まことに、あなたがたは先祖が囚われの身にあったことを忘れたのですか。わたしたちが幾度も敵の手から救われたことを忘れたのですか。

21 それとも、わたしたちが座に着いているまま、主から与えられた手段を利用しないでいて、主がそれ

---

15 ① アル51・9、13
16 ① アル51・16—19
② アル51・5、8

でもなおわたしたちを救ってくださると思っているのですか。

22まことに、境の地の至る所で、何千もの人々が剣に倒れて傷つき、血を流しているのに、あなたがたは、何もせずに座している何千何万の者たちに囲まれたまま、自分も何もせずに座しているつもりですか。

23あなたがたはただじっと座してこれらのことを見ていて、神があなたがたを罪のない者と見なしてくださるとでも思っているのですか。まことに、わたしはあなたがたに、そのようなことはないと申します。神がかつて、『まず器の内側[1]を清めなさい。それから器の外側も清めなさい』と言われたことを、忘れないようにしてほしいと思います。

24ところで、あなたがこれまで行ってきたことを悔い改め、立ち上がって行動を起こし、わたしたちとヒラマンに食糧と兵を送り、ヒラマンがすでに取り返したわたしたちの国のあの地方を維持できるようにし、またわたしたちにもこの地方の領土の残りを取り返せるようにしてくれなければ、わたしたちはまず器の内側、すなわちわたしたちの政府の最高責任者を清め終えるまで、もはやレーマン人と戦わないのが得策でしょう。

25あなたがわたしの手紙による要請を聞き届け、ことの自由の精神[1]をわたしに示し、わたしたちの軍隊を強化し堅固にする努力を払い、軍隊を養うための食糧を送ってくれなければ、まことに、わたしは自由党の者たちの一部を国のこの地方を守るために残し、また神の力と祝福を彼らに残してほかのいかなる力も彼らに及ばないようにしておきます。

26彼らの深い信仰と艱難の中での忍耐のゆえに、ほかの力は彼らに及びません。

27そして、わたしはあなたがたのもとへ行き、もしあなたがたの中に自由を求める者がいれば、まことに、自由の痕跡でも残っていれば、権力と権威を奪い取ることを願っている者たちが死に絶えるまで、わたしはあなたがたの中で謀反を扇動しましょう。

28まことに、わたしは、あなたがたの権力もあなたがたの権威も恐れません。わたしが畏れるのはわたしの神[1]です。わたしが国の大義を守るために剣を取ることは、神の命じられたことにかなっています。わたしたちがこのように多大の損害を被ったのは、

23 ① マタ23・25—26
25 ① アル51・6、61・15
28 ① 使徒5・26—29

あなたがたの罪悪のためです。

29まことに、もしあなたがたが自分たちの国と子供たちを守る努力を払わなければ、罰の剣があなたがたのうえに迫る時が今や近づいています。やがてそれはあなたがたのうえに落ち、あなたがたを討ってことごとく滅ぼすことでしょう。

30まことに、わたしはあなたがたからの援助を待っています。もしあなたがたがわたしたちの救援に必要なものを与えてくれなければ、わたしはあなたがたのもとへ、まことにゼラヘムラの地へ行って剣であなたがたを討ちます。したがってあなたがたは、この民が自由の大義を広めるのを妨げる力を二度と持てなくなるでしょう。

31まことに、あなたがたが生きていて罪悪を募らせ、主の義にかなった民を滅ぼすことを、主は許されません。

32まことに、レーマン人の憎悪のもとになったのは、彼らの先祖の言い伝えであり、それは、わたしたちから離反した者たちによって倍加されました。一方あなたがたの罪悪は、あなたがたが誉れと俗世のむなしいものに愛着して生じたものです。そうであるのにあなたがたは、主があなたがたの命を救い、レーマン人に対しては裁きを下されると考えられるでしょうか。

33あなたがたは、自分たちが神の律法に背いていることを承知しています。また、神の律法を足の下に踏みつけていることも承知しています。まことに、主はわたしに、『もしあなたがたが総督に選んだ者たちが、自分の罪と不義を悔い改めなければ、あなたがたは上って行って彼らと戦いなさい』と言われます。

34さてまことに、わたしモロナイは、以前に自分が交わした聖約に応じて、神の命じられたことを果たすように強く促されています。したがって、あなたがたが神の御言葉に従うこと、またあなたがたの食糧と兵をわたしとヒラマンのもとに速やかに送ることをわたしは願っています。

35まことに、もしあなたがたがこうしてくださらなければ、わたしは速やかにあなたがたのもとへ行きます。まことに、わたしたちが飢えのために滅びるのを、神は許されないからです。したがって、たとえ剣によってであろうと、神はわたしたちにあなた

29①
2・19 ヒラ13・5、3ニフ

がたの食糧をお与えくださるでしょう。今すぐに神の御言葉を実行に移すように手はずを整えてください。

36まことに、わたしはあなたがたの司令官、モロナイです。わたしは権力[1]を求めず、むしろそれを引き倒そうとしています。わたしは世の誉れを求めず、むしろ神の栄光とわたしの国の自由と幸いとを求めています。これでわたしの手紙を結びます。」

第61章

パホーラン、政府に対する謀反と反抗があることをモロナイに告げる。王政党の者たち、ゼラヘムラを奪い、レーマン人と同盟を結ぶ。パホーラン、謀反人たちと戦うために軍の援助を要請する。紀元前約六十二年。

1さて見よ、モロナイは総督に手紙を送った後、間もなくその総督であるパホーラン[1]から返事を受け取った。彼が受け取った言葉は次のとおりである。

2「この地の総督であるわたしパホーランは、軍の司令官モロナイにこの言葉を送ります。まことに、モロナイ殿、あなたに申しますが、わたしはあなたがひどい苦難[1]を受けていることを喜ばず、むしろ、そのことを深く悲しんでいます。

3しかしまことに、あなたの苦難を喜んでいる者たちがいます。まことに、彼らはわたしに、またわたしの民の自由党員[1]である人々に反抗して立ち上がりました。反抗して立ち上がった者はおびただしい数に上ります。

4わたしからさばきつかさの職を奪い取ろうとした者たちこそ、この大きな罪悪のもとになった者たちです。彼らは多くの甘言を用い、また多くの人の心を惑わしてきました。これは将来わたしたちの中にひどい苦難を生じる原因になることでしょう。彼らはわたしたちの食糧を差し止め、また自由党の人々の勇気をくじいたので、その人々はあなたのもとへ行けなかったのです。

5そしてまことに、彼らはわたしを追い出しました。そこでわたしは、集められるかぎりの多くの人を伴い、ギデオンの地に逃れました。

6またまことに、わたしは、国のこの地方の至る所に布告を出したので、まことに、人々は武器を取っ

36① 教義121・39−42
第61章
1① アル50・39−40
2① アル60・3−9
3① アル51・6−7

て自分たちの国と自分たちの自由を守るために、また わたしたちが受けた不当な仕打ちに報復するために、日々わたしたちのもとに群れを成して集まっています。

7そして、彼らがわたしたちのもとに来たので、わたしたちに謀反を起こした者たちは脅威を覚えてわたしたちを恐れ、あえてわたしたちに攻めて来ようとはしません。

8彼らはすでにゼラヘムラの地、すなわちその町を占領し、自分たちを治める王を選びました。そしてその王はレーマン人の王に手紙を書き、彼と同盟を結び、その同盟条約の中でゼラヘムラの町を守り通すことに同意しました。彼は、そこを守り通せばレーマン人が国の残りの部分を征服できると思い、またこの民が征服されてレーマン人の支配下に入るときには、自分がこの民を治める王に任じられると思っています。

9ところで、あなたは手紙の中でわたしをとがめましたが、それはどうでもよいことです。わたしは怒っておらず、むしろあなたの心の広さを喜んでいます。わたしパホーランは、民の権利と自由を守れるようにさばきつかさの職を保つこと以外、何の権力も求めません。わたしは、神がわたしたちを自由な者にしてくださったその自由にしっかりと立っています。

10ところでまことに、わたしたちは血を流してでも悪に抵抗するつもりです。もしレーマン人が彼らの国にとどまっているならば、わたしたちは彼らの血を流さないでしょう。

11わたしたちの同胞が謀反を起こさず、わたしたちに対して剣を取らなければ、わたしたちは同胞の血を流さないでしょう。

12もし神の公正によって必要とされるならば、また は神がわたしたちにそうするようにお命じになるならば、わたしたちは奴隷のくびきを受けましょう。

13しかしまことに、神は敵に服従するようにとはわたしたちに命じられず、むしろ神に頼るように、そうすればわたしたちは救われると言われます。

14したがって、愛する兄弟モロナイ殿、悪を阻止しましょう。そして、言葉で阻止できない悪、すなわち謀反や離反のような悪は剣で阻止し、わたしたちの自由を保てるように、またわたしたちの教会の大

6①　GS「自由」
9①　ヨハ8・31−36、教義88・86
13①　GS「信仰」「信頼」
14①　アル43・47

きな特権と、わたしたちの贖い主、わたしたちの神の大義を喜べるようにしましょう。

15したがって、少数の兵を率いてすぐにわたしのもとに来てください。残りの兵はリーハイとテアンクムにその指揮を託し、国のその地方で神[1]の御霊、すなわち彼らの内にある自由の精神に応じて戦いを指揮できるように、彼らに力を与えておいてください。

16まことに、わたしはすでに彼らに食糧を少し送っておいたので、あなたがわたしのもとに来るまで、彼らは死ぬことはないでしょう。

17こちらに行軍する間に、できるだけ兵を集めてください。そしてわたしたちは、自分たちの内にある信仰により、神の力をもって速やかに離反者たちを攻めましょう。

18そしてわたしたちは、リーハイとテアンクムに送る食糧をもっとたくさん手に入れるために、ゼラヘムラの町を占領しましょう。まことに、主の力をもって彼らと戦いましょう。そして、この大きな罪悪を根絶しましょう。

19ところで、モロナイ殿、わたしはあなたの手紙を受け取って喜んでいます。わたしは、わたしたちのなすべきことについて、すなわち同胞と戦うことが正当かどうかについて少々思い悩んでいたからです。

20ところがあなたは、彼らが悔い改めなければ彼らと戦うように主が命じられたと言いました。

21主にあってリーハイとテアンクムを必ず強めるようにしてください。恐れないように彼らに告げてください。神は彼らを救い、また神が自由な者にしてくださったその自由にしっかりと立つ人々もすべて救ってくださるからです。これでわたしは愛する兄弟モロナイにあてたわたしの手紙を結びます。[1]」

第62章

モロナイ、ギデオンの地にいるパホーランを助けるために進軍する。国を守ることを拒む王政党の者たち、処刑される。パホーランとモロナイ、ニーファイハの町を取り返す。多くのレーマン人がアンモンの民に加わる。テアンクム、アモロンを殺し、また自分も殺される。レーマン人がその地から追い払われ、平和が確立される。ヒラマン、神の務めに戻り、教会を確

15① 2コリ3・17、「聖霊」GS
21① ゼカ10・12

立する。紀元前約六十二年から五十七年に至る。

1さて、この手紙を受け取ると、モロナイの心は奮い立ち、またパホーランが自分の国の自由と大義に背く[1]者ではなく忠実であったので、非常に大きな喜びに満たされた。

2しかし同時に、パホーランをさばきつかさの職から追放した者たち、要するに、自分たちの国と神に背いた者たちの罪悪を非常に嘆かわしく思った。

3そこでモロナイは、パホーランの望むとおり少数の兵を伴い、軍隊の残りの兵に対する指揮権をリーハイとテアンクムに与えておいて、ギデオンの地に向かって進軍した。

4また彼は、行く先々のすべての地方で自由の旗[1]を掲げ[2]、ギデオンの地へ向かって進みながら、できるだけ多くの兵を集めた。

5そこで、何千もの人々が彼の旗の下に群れを成して集まり、奴隷にならないよう自由を守るために武器を取った。

6このようにして、モロナイは行軍中にできるだけ多くの兵を集めて、ギデオンの地にやって来た。そして、彼の軍隊とパホーランの軍隊が連合したので、彼らは非常に強力になり、ペーカスの兵よりも強くなった。このペーカスとは、ゼラヘムラの地から自由党[1]の人々を追い出してその地を占領した、あの離反者たちの王[2]である。

7そしてモロナイとパホーランは、軍隊を伴ってゼラヘムラの地へ行き、町を攻め、ペーカスの兵と相対して戦った。

8そして見よ、ペーカスは殺され、彼の兵は捕虜となり、パホーランは元のさばきつかさの職に戻った。

9ペーカスの兵は法律によって裁判を受け、また捕らえられて牢に入れられた王政党の者たちも、法律によって裁判を受けた。そして、彼らは法律によって処刑[1]された。まことに、ペーカスの兵と、王政党の者の中で国を守るために武器を取ろうとせず、むしろ国家に反抗して戦おうとした者たちは皆、だれであろうと処刑された。

10このように、国の安全のためにこの法律を厳しく執行することが必要になった。そして、人々の自由を阻んでいることが明らかになった者はだれであろ

第62章
1 1 アル60・18
4 1 GS「自由」
2 アル46・12−13、36、
6 1 GS「旗」
2 アル51・5−7
9 1 アル61・4−8
2 GS「死刑」

うと、法律によって速やかに処刑された。
11このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十年が終わった。この年のうちに、モロナイとパホーランは自由の大義に忠実でないすべての者に死刑を科し、ゼラヘムラの地の彼ら自身の民の中に平和を回復した。
12さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十一年の初めに、ヒラマンが国のその地方を守るのを助けるために、モロナイは彼のもとにすぐに食糧を送らせ、また六千人の兵から成る軍隊を派遣させた。
13彼はまた、リーハイとテアンクムの軍隊にも十分な食糧とともに六千人の兵から成る軍隊を送った。これはレーマン人に対して国の防備を固めるために行われたことであった。
14さて、モロナイとパホーランは、ゼラヘムラの地に大勢の兵を残しておいて、ニーファイハの町にいるレーマン人を打ち破ろうと決意し、大勢の兵を率いてニーファイハの地を指して進軍した。
15そして彼らは、その地へ進軍しながら、途中でレーマン人の兵を大勢捕らえ、多くの者を殺し、また彼らの食糧と武器を奪った。
16そして彼らは、これらの者を捕らえた後、二度とニーファイ人に対して武器を取らないという誓いを彼らに立てさせた。
17そして、これらの者が誓いを立てると、彼らはこれらの者をアンモンの民とともに住めるように送り出した。このときに殺されなかった者は、およそ四千人であった。
18さて、彼らはこれらの者を送り出してしまうと、ニーファイハの地を指して進軍を続けた。そして、ニーファイハの町に着くと、町に近いニーファイハの平原に天幕を張った。
19モロナイは、レーマン人が出て来て平原で戦うことを望んだ。しかしレーマン人は、モロナイの兵が非常に勇敢であるのを知っており、また人数も非常に多いのを見たので、あえて出て来て戦おうとせず、その日は戦いがなかった。
20夜になると、モロナイは暗闇の中を出て行き、城壁の上に登って、レーマン人が町のどこに軍隊を宿営させているかを探った。
21さて、彼らは、東の方の入り口のそばにおり、全

員眠っていた。そこでモロナイは自分の軍へ引き返
し、兵たちに急いで丈夫な縄とはしごを幾つも準備
させた。城壁の上から内側に降ろすためであった。
22そしてモロナイは、兵を出して城壁の上に登ら
せ、レーマン人が軍隊を宿営させていない町の西の
方に彼らを降ろした。
23そして彼らは皆、夜の間に丈夫な縄とはしごを使
って町の中に降りたので、朝には、全員が町の城壁
の内側に入っていた。
24そしてレーマン人は目を覚まし、モロナイの軍隊
が城壁の内側に入っているのを見ると、非常に驚き
恐れ、間道を通って外へ逃げ出した。
25モロナイは、彼らが自分の前から逃げるのを見
て、兵を彼らに向かわせた。兵は多くの者を殺し、
また多くの者を取り囲んで捕虜にした。そのほかの
者たちは海岸に近い地方にあるモロナイの地へ逃げ
た。
26このようにして、モロナイとパホーランは味方を
一人も失うことなく、ニーファイハの町を手に入れ
た。しかし、レーマン人は多くの者が殺された。
27さて、捕虜になったレーマン人の多くは、アンモ
ンの民に加わって自由な民になることを願った。
28そして、願った者は皆、願いどおりに認められた。
29そこで、捕虜のレーマン人は皆、アンモンの民に
加わって、土地を耕し、あらゆる穀物を栽培し、あ
らゆる家畜を飼い、大いに働き始めた。このように
してニーファイ人は大きな重荷を取り除かれた。ま
ことに、レーマン人のすべての捕虜の監視から解放
されたのである。
30さて、モロナイはニーファイハの町を手に入れ、
多くの者を捕虜にしてレーマン人の軍隊を大いに減
らし、また捕虜になっていたニーファイ人の多くを
奪い返して自分の軍隊を大いに増強した後、ニーフ
アイハの地からリーハイの地へ向かった。
31そこでレーマン人は、モロナイが攻め寄せて来る
のを見て、またもや肝をつぶし、モロナイの軍隊の
前から逃げ出した。
32そこで、モロナイと彼の軍隊は町から町へと彼ら
を追撃し、追われたレーマン人はリーハイとテアン
クムに出会うことになった。そしてレーマン人は、
リーハイとテアンクムからも逃げて海岸に近い地方
へ逃れて行き、ついにモロナイの地に至った。

27① GS「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」

33 このようにして、レーマン人の軍隊はすべて集まり、モロナイの地で一団となった。レーマン人の王アモロンも彼らとともにいた。

34 そして、モロナイとリーハイとテアンクムが彼らの軍隊を率いてモロナイの地の境一帯に陣を張ったので、レーマン人は南方の荒れ野によって、また東方の荒れ野によって、その地に包囲されてしまった。

35 この状態で、夜ニーファイ人は宿営した。見よ、ニーファイ人もレーマン人も強行軍で疲れ切っていたので、その夜は何の戦略も決めず、ただテアンクムだけがそれを考えていた。彼はアモロンのことをひどく怒り、アモロンと彼の兄弟のアマリキヤこそがニーファイ人とレーマン人の間のこの長期の大戦のもとであり、このようにひどい戦争と流血と、またこのようにひどい飢饉のもとであると考えた。

36 そしてテアンクムは、怒ってレーマン人の宿営に入って行き、町の城壁を越えて下に降りた。そして彼は、縄を持ってあちらこちらへ行き、ついに王を捜し出した。そこで彼は、王をねらって投げ槍を投げ、心臓のそばを貫いた。しかし見よ、王が死ぬ前に部下を起こしたので、テアンクムは彼らに追われて殺されてしまった。

37 さて、リーハイとモロナイは、テアンクムが死んだことを知って非常に悲しんだ。見よ、テアンクムは自分の国のために勇ましく戦った人であり、自由のまことの友であったからである。彼はこれまで非常に多くのひどい苦難に耐えてきた。しかし見よ、今は死んで、世のすべての人の行く道を行った。

38 そして翌日、モロナイは進軍してレーマン人を攻め、モロナイの兵はレーマン人を大勢殺し、その地からレーマン人を追い払った。そして、レーマン人は逃げ出し、そのときには、戻って来てニーファイ人と戦うことはしなかった。

39 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十一年が終わった。ニーファイ人は長年の間、戦争と流血と飢饉と苦難に遭ってきたが、それは以上のとおりである。

40 ニーファイの民の中には、殺人と争いと不和とあらゆる罪悪があった。それでも義人がいたために、まことに、義人の祈りのおかげで彼らは救われた。

41 しかし見よ、ニーファイ人とレーマン人の間の戦

---

35 ① アルマ48・1
36 ① アルマ51・33—34
40 ① アルマ45・15—16

争が非常に長期に及んだため、多くの者がかたくなになった。戦争が非常に長期に及んだためにそうなったのである。しかし、苦難[1]を受けたために柔和になった者も多く、彼らは神の前に心底謙遜にへりくだった。

42 さて、モロナイは、レーマン人の攻撃をきわめて受けやすい何か所かの地方の防備を固め、それらの地方が十分堅固になると、ゼラヘムラの町へ帰った。また、ヒラマンも彼の受け継ぎの地へ帰った。そして、ニーファイの民の中に再び平和が確立された。

43 モロナイは、軍の指揮権をモロナイハという名の息子の手にゆだねた。そして彼は家に引きこもり、余生を安らかに送ることにした。

44 パホーランは元のさばきつかさの職に戻った。またヒラマンも、神の言葉を民に宣べ伝える務めに就いた。このように多くの戦争と争いがあったので、再び教会内の統一を図ることが必要になった。

45 そこで、ヒラマンと彼の同僚たちは出て行って、多くの人に各自の悪を自覚させるため、非常に力強く神の言葉を告げ知らせた。その結果、人々は罪を悔い改めてバプテスマを受け、主なる神の民となった。

46 そして、ヒラマンと彼の同僚たちは、全地の至る所に再び神の教会を確立した。

47 そして、法律について数々の条例が定められた。また、民のさばきつかさたちと大さばきつかさたちが選ばれた。

48 ニーファイの民は再び地で栄え始め、増え始め、再び非常に力をつけるようになった。そして彼らは大変豊かになった。

49 しかし彼らは、富と力と繁栄を得たにもかかわらず、高慢な目をもって高ぶることなく、主なる神を忘れることもなく、主の前に深くへりくだった。

50 まことに彼らは、主が自分たちのためにどれほど大いなることを行ってくださったかを忘れず、主が自分たちを死から、束縛から、牢から、あらゆる苦難から救い出してくださったこと、また敵の手からも救い出してくださったことを忘れなかった。

51 そして彼らは、主なる神に絶えず祈ったので、主は御言葉のとおりに彼らを祝福された。そのため、彼らはその地で力をつけ、栄えた。

---

41 ① 45 ① 47 ① 48 ①

GS「逆境」教義 18・44　モサ 29・39　アル 50・20

52さて、これらのことはすべて以上のとおりになった。そしてヒラマンは、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十五年に死んだ。

第63章

シブロンが聖なる記録を所有し、後にヒラマンが所有する。多くのニーファイ人が北方の地へ行く。ハゴス、何隻もの船を造り、それらの船は西の海に出る。モロナイハ、戦いでレーマン人を打ち破る。紀元前約五十六年から五十二年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十六年の初めに、1)シブロンは、アルマがヒラマンに渡した神聖な品々を所有することになった。

2シブロンは正しい人であって、神の前をまっすぐに歩んでいた。そして、絶えず善を行い、主なる神の戒めを守るように努めた。彼の兄弟もまた同様であった。

3さて、モロナイもまた死んだ。このようにして、さばきつかさの統治第三十六年が終わった。

4さて、さばきつかさの統治第三十七年には、ゼラヘムラの地から1)北方の地へ旅立った大きな一団があった。その一団は五千四百人の男たちと、彼らの妻子から成っていた。

5さて、ハゴスという人がおり、彼は非常に技量の優れた人であったので、出かけて行って、デソレション の地に近いバウンティフルの地の境で一隻の非常に大きな船を建造し、それを西の海に進水させた。そこは北方の地へ通じている1)地峡の近くであった。

6そして見よ、多くのニーファイ人がそれに乗り込み、たくさんの食糧を持って船出した。多くの女と子供も一緒であった。そして、彼らは北方へ進路を取った。このようにして、第三十七年が終わった。

7第三十八年に、この人はほかにも何隻か船を建造した。最初の船が戻って来ると、また多くの人がそれに乗り込み、彼らもたくさんの食糧を持って再び北方の地へ出発した。

8そして、彼らの消息は絶えてしまった。思うに、彼らは海の深みに沈んでおぼれてしまったのであろう。また、ほかにも一隻が船出したが、それもどこへ行ったかわたしたちには分からない。

第63章
1 ①アル38・1−2
② アル37・1−12、GS「聖い」
4 ①アル22・31
5 ①アル22・32、エテ10・20

9 そして、この年に多くの人が北方[1]の地へ行った。
そして、第三十八年が終わった。
10 さて、さばきつかさの統治第三十九年に、シブロンも死んだ。コリアントンは、北方の地へ行った人々に食糧を届けるために船でその地へ出かけて行った。
11 そこでシブロンは死ぬ前に、ヒラマン[1]の息子に神聖な品々を託さなければならなかった。ヒラマンのこの息子は、父の名にちなんで名付けられ、ヒラマンと呼ばれていた。
12 さて見よ、ヒラマンが所有した版に刻まれた記録[1]は、公[2]にしてはならないとアルマが命じた部分を除いて、すべて書き写されて全地の至る所の人の子らに送られた。
13 それでも、これらの品々は神聖に保ち、代々伝えなければならないので、この年に、シブロンが死ぬ前にヒラマンに託されたのである。
14 さて、この年にレーマン人のもとへ去って行った何人かの離反者がおり、レーマン人はまたそのかされてニーファイ人に対して怒った。
15 そしてこの同じ年に、彼らはモロナイハ[1]の民、いや、モロナイハの軍隊と戦うために大軍で下って来た。しかし、彼らは打ち負かされ、大きな損害を受けて自分たちの国へ追い返された。
16 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第三十九年が終わった。
17 これで、アルマと、息子ヒラマンと、アルマの息子シブロンについての話は終わった。

9① ヒラ3・11−12
11① 「ヒラマン書」の前書きを参照
12① アル18・36
13② アル37・27−32
13① アル37・4
15① アル62・43

ヒラマン書

ニーファイ人についての話。彼らの戦争と争いと、彼らの不和についての話。キリストの来臨前の、多くの聖なる預言者たちの預言についての話。ヒラマンの息子であるヒラマンの記録、および彼の息子たちの記録によるもので、キリストの来臨の時にまで至る。また、多くのレーマン人が改宗する。彼らの改宗についての記事。レーマン人の義、およびニーファイ人の悪事と忌まわしい行いについての記事。ヒラマンと彼の息子たちの記録によるもので、キリストの来臨の時にまで至る。この記録はヒラマン書と呼ばれる。

第1章

パホーラン二世、大さばきつかさになり、キシクメンに殺される。パクメナイ、さばきつかさの職に就く。コリアンタマー、レーマン人の軍隊を率いてゼラヘムラを奪い、パクメナイを殺す。モロナイハ、レーマン人を破り、ゼラヘムラを取り返す。コリアンタマー、殺される。紀元前約五十二年から五十年に至る。

1 さて見よ、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十年の初めに、ニーファイ人の民の中に一つの重大な問題が起こった。
2 見よ、1)パホーランが死んで、世のすべての人の行く道を行ってしまったので、だれがさばきつかさの職に就くべきかについて、パホーランの息子たちである兄弟の中で深刻な争いが起こったからである。
3 さばきつかさの職のために争って、民をも争わせたこの兄弟たちの名は、パホーラン、パアンカイ、パクメナイという。
4 パホーランの息子はこの三人だけではない。（彼には多くの息子がいた。）しかし、さばきつかさの職のために争ったのはこの三人であり、彼らは民を三つの集団に分裂させてしまった。
5 それでも、パホーランが1)民の声によって大さばきつかさとなり、ニーファイの民を治める総督となるように任命された。
6 そしてパクメナイは、自分がさばきつかさの職を得られないことを知ると、民の声に同意した。

ヒラマン書
第1章
2 ① アル50・40
5 ① モサ29・26–29

7 しかし見よ、パアンカイと、彼が総督になることを願った民の一部の者たちは、非常に怒った。そのため彼は、その人々にへつらって、同胞に対して謀反を起こさせようとした。

8 そして彼は、まさにそれを実行しようとしたときに、捕らえられ、民の声によって裁かれ、死刑を宣告された。彼が謀反を起こし、民の自由を損なおうとしたからである。

9 ところが、彼が総督になることを願った者たちは、彼に死刑が宣告されたことを知って怒った。そして彼らは、キシクメンという者をさばきつかさの職にあるパホーランのもとに遣わし、さばきつかさの席に着いているパホーランを殺した。

10 パホーランの従者たちはキシクメンを追いかけたが、キシクメンの逃げ足が非常に速かったので、だれも彼に追いつけなかった。

11 そして、彼は自分を行かせた者たちのところに帰り、彼らは全員誓いを立てた。すなわち、彼らはキシクメンがパホーランを殺したことをだれにも話さないと、自分たちの永遠の造り主にかけて誓ったのである。

12 そのためキシクメンは、パホーランを殺したときに姿を変えていたので、ニーファイの民に知られることはなかった。そしてキシクメンも、彼と誓った仲間も、見つかることのないように民の中に交じっていたが、見つかった者は皆、死刑を宣告された。

13 さて見よ、パクメナイが民の声によって大さばきつかさとなり、民の総督となるように任命され、彼の兄弟パホーランに代わって治めることになった。それは彼の権利にかなっていた。これはすべてさばきつかさの統治第四十年にあったことであり、この年は終わった。

14 さて、さばきつかさの統治第四十一年に、レーマン人はおびただしい数の兵を集めて、剣と三日月刀、弓、矢、かぶと、胸当て、それにあらゆる盾で武装させていた。

15 そして彼らは、ニーファイ人と戦うためにまたもやって来た。彼らはコリアンタマーという名の男に率いられていた。この男はゼラヘムラの子孫であり、ニーファイ人からの離反者であって、大きな強い男であった。

16 それで、アモロンの息子で名をツバロスというレ

---

8 ① GS「自由」
12 ① GS「死刑」
16 ① アル52・3

ーマン人の王は、コリアンタマーが強い男であり、彼の力と深い知恵でニーファイ人に立ち向かえると思ったので、彼を行かせてニーファイ人を支配する権力を得ようとした。

17そこでツバロスは、レーマン人を扇動して怒らせ、自分の軍隊を集め、コリアンタマーを軍隊の指揮官に任命して、ニーファイ人と戦うために彼らをゼラヘムラの地へ進軍させた。

18さて、ニーファイ人は、政府内に多くの争いと多くの問題があったので、ゼラヘムラの地に十分な見張りの兵を配置していなかった。彼らはレーマン人があえて自分たちの地の中央部に入って来て、この大きな町ゼラヘムラを攻撃することはないと思っていたからである。

19ところが、コリアンタマーは大軍を率いて進み、その町に住む者を襲ったのである。しかも、彼らの進軍が非常に速かったので、ニーファイ人は軍隊を集める暇がなかった。

20そのためコリアンタマーは、町の入り口の近くで警備兵を切り倒し、全軍を率いて町に入った。そして、彼らは手向かう者をすべて殺し、町全体を占領した。

21さて、大さばきつかさであったパクメナイは、コリアンタマーから逃れて町の城壁の所まで行った。しかし、そこで城壁に寄りかかった状態でコリアンタマーに討たれ、死んだ。このようにして、パクメナイの生涯は終わった。

22コリアンタマーは、ゼラヘムラの町が手に入ったのを見て、またニーファイ人がレーマン人の前から逃げ出し、殺され、捕らえられ、牢に入れられなどして、自分が全地で最も堅固なとりでの占領を終えたのを見て、心が奮い立ち、全地に向かって出て行こうとした。

23そして、彼はゼラヘムラの地に長居せず、大軍を伴ってバウンティフルの町に向かって進軍した。それは、進んで行って剣で道を切り開き、国の北部も手に入れようと決意していたからである。

24また彼は、ニーファイ人の軍隊の主力が国の中央部にいると思っていたので、ニーファイ人が幾つかの小さな軍隊に集まる以外に集まる暇のないように進軍した。このようにして、彼らはニーファイ人を攻め、地に切り倒したのであった。

25 しかし見よ、国の中央部を通ったこのコリアンタマーの進軍は、殺されたニーファイ人がおびただしい数に上ったにもかかわらず、彼らに対してモロナイハを非常に有利な立場に置くことになった。
26 見よ、モロナイハは、レーマン人があえて国の中央部に入って来ることはなく、これまで行ってきたように、境の地の方々の町を攻撃して来るであろうと思い、ニーファイ人の強い軍隊に境の地の方々を守らせていたからである。
27 しかし見よ、レーマン人は彼の願ったようには恐れず、国の中央部に入って来て首府であるゼラヘムラの町を奪い、国の最も重要な地方を経由して進みながら、男、女、子供の区別なく民を大勢殺し、多くの町と多くのとりでを占領した。
28 モロナイハはこれを知ると、彼らがバウンティフルの地へ達する前に遠回りして彼らの進路を断つため、すぐにリーハイを軍隊とともに派遣した。
29 そして、リーハイはそのように行った。彼はレーマン人がバウンティフルの地に達する前に、彼らの進路を断って攻撃したので、彼らはゼラヘムラの地へ向かって退却し始めた。
30 そこでモロナイハも、退却中の彼らの退路を断って攻撃した。そのため、非常に血なまぐさい戦いになった。まことに、多くの者が殺され、殺された者たちの中に[1]コリアンタマーもいた。
31 さて、レーマン人はあらゆる方向からニーファイ人に取り囲まれたので、北にも、南にも、東にも、西にも、どの方向にも退却できなかった。
32 このように、コリアンタマーがレーマン人をニーファイ人のただ中へ突入させたので、彼らはニーファイ人の手中に落ちて、コリアンタマー自身も殺されてしまった。そして、レーマン人はニーファイ人に降伏した。
33 そこでモロナイハは、ゼラヘムラの町を取り返し、捕虜になったレーマン人を安らかに国外へ去らせた。
34 このようにして、さばきつかさの統治第四十一年が終わった。

第 2 章

ヒラマンの息子ヒラマン、大さばきつかさになる。ガデアントン、キシクメンの団を率いる。ヒラマンの

30 ① ヒラ1・15

僕がキシクメンを殺し、ガデアントンの団は荒れ野へ逃げる。紀元前約五十年から四十九年に至る。

1さて、さばきつかさの統治第四十二年に、モロナイハはニーファイ人とレーマン人の間に再び和平を成立させていたが、さばきつかさの職に就く人はだれもいなかった。そのため、だれがさばきつかさの職に就くべきかについて、民の中に再び争いが起こった。

2そして、ヒラマンの息子であるヒラマンが、民の声によって選ばれ、さばきつかさの職に就いた。

3しかし見よ、以前にパホーランを殺したキシクメンは、ヒラマンをも殺そうとして待ち伏せした。彼は自分の仲間に支援され、その仲間はだれにもキシクメンの悪事を知らせないという誓いを立てていた。

4多くの言葉を非常に巧みに操り、またひそかに殺人と強盗を行う悪知恵にも非常にたけていたガデアントン[1]という者がいた。この男はこのように巧みな者であったので、キシクメンの団の首領になった。

5そこで彼は、仲間とキシクメンとをおだてて、もし自分をさばきつかさの職に就かせてくれるならば、団に所属する者たちを民の中で権力と権威のある地位に就かせようと言った。そこでキシクメンはヒラマンを殺そうとしたのである。

6さて、キシクメンがヒラマンを殺すためにさばきつかさのもとへ向かっていたとき、ヒラマンの僕に会った。この僕は、前に夜出て行って姿を変えてこの団に紛れ込み、この団がヒラマンを殺すために企てた計画を知っていた。

7そこで彼は、キシクメンに会うと合図を送った。それでキシクメンは自分がしようとしていることを打ち明け、ヒラマンを殺せるように自分をさばきつかさの席に案内してもらいたいと言った。

8ヒラマンの僕はキシクメンの心がすべて分かった。人を殺すことが彼の目的であり、また人を殺し、盗み、権力を得ることが彼の団に所属しているすべての者の目的であった。（これが彼らの陰謀[1]であり、彼らの結社である。）ヒラマンの僕はこのことを知ると、キシクメンに、「さばきつかさの席へ行こう」と言った。

9キシクメンはこれを非常に喜んだ。自分の企てを

第2章
3 ① ヒラ1・9
4 ① GS「ガデアントンの強盗団」
8 ① 2ニフ10・15、GS「秘密結社」

遂げられると思ったからである。ところが見よ、さばきつかさの席へ行く途中、ヒラマンの僕がキシクメンを心臓まで突き刺したので、キシクメンはうめき声さえ立てずに死んで倒れた。そこで、ヒラマンの僕は走って行き、自分が見たこと、聞いたこと、行ったことをすべてヒラマンに告げた。

10 そこでヒラマンは、この強盗団の者たちを法律によって処刑するために、人々を送って彼らを捕らえようとした。

11 しかし見よ、ガデアントンは、キシクメンが帰って来ないのを知ると、自分が殺されることになるのではないかとひどく心配になり、仲間に自分について来るように告げた。そして彼らは、間道を通ってその地から荒れ野へ逃げ出した。したがって、ヒラマンが彼らを捕らえるために人々を送ったときには、彼らはどこにもいなかった。

12 このガデアントンのことは、後でもっと述べることにする。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十二年が終わった。

13 そして見よ、あなたがたは本書の終わりで、このガデアントン[1]がニーファイの民を覆す、まことにほとんど完全に滅ぼしてしまう元になることを知るであろう。

14 見よ、わたしが言うのは、ヒラマン書の終わりではなく、わたしがこれまで書いてきたすべての話の基であるニーファイの書の終わりのことである。

第 3 章

多くのニーファイ人が北方の地へ移住する。彼らはセメントで家を造り、また多くの記録を記す。数万人が改宗し、バプテスマを受ける。神の言葉は人を救いに導く。ヒラマンの息子ニーファイ、さばきつかさの職に就く。紀元前約四十九年から三十九年に至る。

1 さて、さばきつかさの統治第四十三年には、ニーファイの民の中にまったく争いがなかった。ただ教会員の中に少し高慢があり、それが民の中に多少の不和を引き起こしたが、第四十三年の終わりにはその問題は解決した。

2 また、第四十四年には民の中にまったく争いがなく、第四十五年にもひどい争いはなかった。

3 さて、第四十六年には、ひどい争いと多くの離反

---

13 ① 1・42 ヒラ 6・18、4 ニフ

があった。そのために、ゼラヘムラの地を去り、北方の地へ行ってそこに住もうとした者が非常に大勢いた。

4 彼らは非常に遠くまで旅をし、幾つもの大きな湖[1]沼と多くの川のある所に着いた。

5 そして、彼らはその地の全域に広がった。以前にその地に住んでいた多くの者のために荒らされておらず、樹木もなくなっていない方々の地方に広がった。

6 その地はどこも樹木のほかは少しも荒れていなかった。しかし、前にその地に住んでいた人々の滅亡[1]がひどかったので、荒れ果てた地[2]と呼ばれた。

7 その地の面には樹木がほとんどなかったので、そこへやって来た人々はセメントの工事が非常に上手になった。そこで彼らは、セメント造りの家を建てて住んだ。

8 そして彼らは増え、広がり、南方の地から北方の地へ移り、広がったので、南の海から北の海まで、西[1]の海から東の海まで、全地の面を覆い始めた。

9 北方の地にいた人々は天幕やセメント造りの家に住んでいた。そして彼らは、その地の面に生える木はどんなものでも育てるようにして、将来材木を得て自分たちの家を建てられるように、まことに自分たちの町を築き、自分たちの神殿や会堂、聖堂、そのほかあらゆる建物を建てられるようにした。

10 そして、北方の地には材木が非常に乏しかったので、南方の地の人々は[1]船で多くの材木を送った。

11 このようにして、彼らは北方の地の人々が、多くの町を木とセメントの両方で建設できるようにした。

12 そして、生まれがレーマン人であったアンモン[1]の民も、多くの者がこの地に移った。

13 ところで、この民の多くの者がこの民の行ってきたことを書き続けてたくさんの記録を残しており、その記録は詳細で非常に大部である。

14 しかし見よ、この民が行ってきたことの百分の一も、本書に載せることができない。すなわち、レーマン人についての話とニーファイ人についての話、彼らの戦争と争いと不和、宣教と預言、海運と船の建造、[1]神殿と会堂と聖堂の建設、義と悪、殺人と強盗と略奪、あらゆる忌まわしい行いとみだらな行い、これらについての話の百分の一も載せることは

第3章

3 ① アル63・4
4 ① モサ8・8、モル6・1、17、3ニフ11・1
6 ① ④ モサ21・25—27
8 ① アル22・31、32
10 ① アル63・5—8
12 ① アル27・21—26
14 ① 2ニフ5・16、ヤコ

できない。

15しかし見よ、多くの書とあらゆる多くの記録がある。これらはおもにニーファイ人が書き記してきたものである。

16そして、ニーファイ人が戒めに背き、殺され、略奪され、狩り出され、追い出され、虐殺され、地の面に散らされ、レーマン人と交じってもはやニーファイ人と呼ばれなくなり、[1]邪悪で野蛮で残忍になり、まことにレーマン人になってしまうまで、これらはニーファイ人によって代々伝えられてきた。[2]

17さて、わたしの話に戻ろう。わたしがこれまで述べてきたことは、ニーファイの民の中にひどい争い、騒動、内戦、不和があった後に起こったことである。

18さばきつかさの統治第四十六年が終わった。

19そして、この地にはなお、第四十七年にも、第四十八年にもひどい争いがあった。

20それでもヒラマンは、公正と公平をもってさばきつかさの職を務めた。まことに彼は、神の掟と裁決と戒めを守るように努めた。そして、引き続き神の目から見て正しいことを行った。また彼は、自分の父の道を歩んだので、この地で栄えた。

21さて、彼には二人の息子がおり、兄にニーファイ[1]という名を付け、弟にリーハイ[2]という名を付けた。そして、二人は成長して主の役に立つようになった。

22そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十八年の末には、ニーファイ人の民の中の内戦と争いは多少収まり始めた。

23さて、さばきつかさの統治第四十九年には、秘密結社を別にして、国内は引き続き平和が確立されていた。強盗のガデアントン[1]は、人々が住んでいる地域の大半ですでにこの秘密結社を設けていたが、当時この秘密結社は、政府の指導的な立場にある人々には知られていなかったので、この国から駆逐されていなかった。

24そして、この同じ年に、教会は非常に大きな発展を遂げ、数千人が教会に加わって悔い改めのためのバプテスマを受けた。

25教会の発展は著しく、また人々に注がれた祝福はとても多く、大祭司たちや教師たちでさえ非常に驚いたほどであった。

---

16 ① アル45・12–14
② ニファ5・16–19、アル37・4
21 ① GS「ニーファイ（ヒラマンの息子）」
② GS「リーハイ（ニーファイ人の宣教師）」
23 ① ヒラ2・4

26そして、主の業は発展し、バプテスマを受けて神の教会に加わった人は多く、まことに数万人に及んだ。

27これによって分かるように、主は、真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる。

28まことに、これによって分かるように、天の門[1]はすべての人に、言い換えれば、神の御子イエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれているのである。

29まことに、望む者はだれでも、神[1]の言葉を手に入れることができるということも、わたしたちに分かるのである。この神の言葉は生きていて[2]力があり、悪魔の悪知恵とわなと策略をことごとく断つ。また、悪人をのみ込むために備えられている、あの不幸の永遠の淵[3]を横切る細くて狭い道[4]にあって、キリストの人を導き、

30また彼らを、まことに彼らの不滅の霊を天の王国におられる神の右[1]に至らせ、もはや外に出されることなく、アブラハム、イサク、ヤコブ、およびわたしたちのすべての聖なる先祖とともに座に着かせるものである。

31この年には、ゼラヘムラの地と周辺のすべての地方、まことにニーファイ人が所有していた全地に引き続き喜びがあった。

32そして、第四十九年の残りの期間は平和であり、非常に大きな喜びがあった。また、さばきつかさの統治第五十年も引き続き平和であり、大きな喜びがあった。

33さばきつかさの統治第五十一年も、教会の中に入り込んできた高慢を別にすれば、平和であった。教会の中に入り込んできたと言ったが、神の教会の中ではなく、神の教会に属していると公言する人々の心の中に入り込んできたのである。

34そして彼らは高慢[1]になり、多くの兄弟たちを迫害するようになった。これは大きな悪であり、このために彼らよりも謙遜な人々はひどい迫害を受け、多くの苦難を踏み越えなければならなかった。

35それでも彼らは、しばしば断食[1]して祈り[2]、ますます謙遜[3]になり、ますますキリストを信じる信仰を確固としたものにしたので、喜びと慰めで満たされ、まことに清められ[4]、心の聖めを受けた[5]。この聖め

---

28 ① 2ニフ31:9、17
② 使徒10:28、ロマ2:11

29 ① GS「言葉（神の）」
② ヘブ4:12、教義11:10–11

2 ④ 2ニフ9:41、33
③ 1ニフ15:28–30

30 ① GS「断食」
② GS「祈り」
③ GS「謙遜」
④ GS「清さ」
⑤ GS「聖め」

34 ① マタ25:33–34

35 ①

は、彼らが心を神に従わせたために受けたのである。

36そして、第五十二年も平穏に終わったが、民の心の中には大変にひどい高慢が入り込んでいた。それは彼らが非常に豊かに富み、その地で栄えていたためであり、それは日に日に募ってきた。

37さて、さばきつかさの統治第五十三年にヒラマンが死んで、彼の長男ニーファイが彼に代わって治め始めた。彼は公正と公平をもってさばきつかさの職を務め、まことに、神の戒めを守り、自分の父の道を歩んだ。

第4章

ニーファイ人の離反者とレーマン人、軍隊を連合して、ゼラヘムラの地を奪う。ニーファイ人、自らの悪事のために敗北する。教会は衰え、民はレーマン人のように弱くなる。紀元前約三十八年から三十年に至る。

1さて、第五十四年に教会内に多くの不和があった。また、民の中にも争いがあり、多くの流血があった。

2そして謀反を起こした者たちは、殺されたり、国から追放されたりした。そこでこれらの者は、レーマン人の王のもとへ行った。

3そして彼らは、レーマン人を扇動してニーファイ人と戦わせようとしたが、レーマン人は非常に恐れて、離反者たちの言葉を聴こうとしなかった。

4ところが、さばきつかさの統治第五十六年にも、ニーファイ人のもとからレーマン人のもとへ行った離反者たちがおり、彼らはほかの者たちとともに、レーマン人を扇動してニーファイ人に対して怒りを抱かせるのに成功した。そこで、彼らはその年の間、戦争の準備をした。

5第五十七年に、彼らはニーファイ人のもとに来て戦い、死の業を開始した。そして、さばきつかさの統治第五十八年に、彼らはゼラヘムラの地と、またバウンティフルの地に近い地方まですべての地を占領することに成功した。

6そして、ニーファイ人とモロナイハの軍隊は、バウンティフルの地に追い込まれた。

7そこで彼らは、西の海から東の海に至るまで、そ

35⑥ 歴下30・8、モサ3・19
36①19 GS「富」
第4章
1① 3ニフ11・29
4① ヒラ5・17

の地でレーマン人に対する防備を固めた。彼らが北の地を守るために防備を固めて軍隊を配備したその境界線上では、西の海から東の海まで、ニーファイ人が一日旅をすれば行ける距離であった。

8 このようにして、ニーファイ人の離反者たちは、レーマン人の大軍の助けを得て、南方の地にあるニーファイ人の領土をすべて手に入れたのであった。これはすべて、さばきつかさの統治第五十八年と第五十九年にあったことである。

9 さて、さばきつかさの統治第六十年に、モロナイハは軍隊をもってその地の多くの地方を手に入れることに成功した。まことに、彼らはレーマン人の手に落ちていた多くの町を取り返した。

10 そして、さばきつかさの統治第六十一年には、彼らは自分たちの全領土の半分まで取り返すことに成功した。

11 ところで、ニーファイ人の被ったこの大きな損害と、彼らの中で行われたひどい殺戮は、彼らの中にあった悪事と忌まわしい行いがもしもなかったならば、起こらなかったであろう。この悪事と忌まわしい行いは、神の教会に属していると公言する者たちの中にもあった。

12 彼らは非常に富んでいたために心が高慢になり、また飢えている者に食物を与えず、着る物のない者に着る物を与えず、謙遜な同胞の頬を打つなどして貧しい者を虐げ、神聖なものをあざけり、預言と啓示の霊を否定し、人を殺し、略奪し、偽りを言い、盗み、姦淫を犯し、ひどい争いを起こし、ニーファイの地へ逃げて行ってレーマン人に加わったために、

13 すなわち、彼らはこのように大きな悪事を行ったために、また自分の力を誇ったために、自分の力しか頼れない状態に置かれたのであった。したがって、彼らは栄えることなく、苦しめられ、悩まされ、レーマン人の前から追い出されて、とうとうほとんどすべての所有地を失ってしまった。

14 しかし見よ、モロナイハは民が罪悪を犯していたので彼らに多くのことを説き、またヒラマンの息子であるニーファイとリーハイも民に多くのことを説き、また彼らの罪深い状態と、罪を悔い改めなければ彼らに起こることについて、多くのことを預言した。

---

12 ① フ 9・42 ② オパ 1・3—4、教義 1・テモ 6・17、2・ニ
13 ① ③ 101・42 教義 42・30—31 GS「高慢」
14 ① ヒラ 3・21

15 そこで、彼らは悔い改めた。そして、悔い改めた程度に応じて栄え始めた。
16 モロナイハは民が悔い改めたのを見ると、大胆にもあちらこちらに、また町から町へと彼らを率いて行き、ついに彼らは自分たちの所有物の半分とすべての所有地の半分を取り返した。
17 このようにして、さばきつかさの統治第六十一年が終わった。
18 さて、さばきつかさの統治第六十二年には、モロナイハはそれ以上レーマン人から領土を取り返すことができなかった。
19 それで彼らは、残りの土地を手に入れる計画を断念した。レーマン人が非常に大勢であったので、ニーファイ人は彼らに勝って勢力を得ることが不可能になったからである。そこでモロナイハは、それまでに取り返した地方を守るために、自分の全軍を使った。
20 そして、レーマン人の数が非常に多かったので、ニーファイ人は打ち負かされ、踏みにじられ、殺され、滅ぼされるのではないかとひどく恐れた。
21 まことに彼らは、アルマの預言とモーサヤの言葉を思い出し始めた。そして彼らは、自分たちが強情な民であったこと、また神の戒めを軽んじてきたこと、
22 自分たちがモーサヤの法律[1]、すなわち主が民に与えるようにとモーサヤに命じられた法律を変更し、足で踏みつけてきたことを知った。また彼らは、自分たちの法律が不正なものになってしまったこと、そして自分たちが邪悪な民になってしまったために、まさにレーマン人のように悪くなっていることを知った。
23 また、彼らの罪悪のために、教会は衰え始めていた。そして彼らは、預言の霊と啓示の霊を信じなくなり、神の裁きは彼らの目前に迫っていた。
24 彼らは、自分たちが同胞のレーマン人のように弱[1]くなってしまったこと、また主の御霊がもはや自分たちを守ってくださらないことを知った。まことに、[2]主の御霊は清くない[3]宮にはとどまらないので、彼らから去ってしまわれたのである。
25 したがって主は、奇跡を起こすたぐいない力で彼らを守ることをおやめになった。彼らが不信仰[1]な、ひどい邪悪な状態に陥っていたからである。また彼

22 ① アル1・1
23 ① GS「背教・背信」
24 ① モサ1・13
② GS「聖霊」
③ モサ2・37、アル7・21
25 ① GS34・36「不信仰」

らは、レーマン人が自分たちよりもはるかに大勢であり、もし自分たちが主なる神に堅くすがらなければ必ず滅びるに違いないということを知った。[2)]

26 見よ、彼らは、レーマン人の兵力が自分たちの兵力と同等であり、一人一人を比べても同等であることを知ったからである。このように彼らは大きな背きに陥っていた。まことに、彼らは背きに陥ったので、このように、[1)]わずかな歳月で弱くなってしまったのであった。

第5章

ニーファイとリーハイ、宣教に専念する。この二人の名は、先祖に倣って生活するように彼らを促すものである。キリストは悔い改める人々を贖われる。ニーファイとリーハイ、多くの人を改宗させ、投獄され、火に包まれる。暗黒の雲が三百人を覆う。大地が揺れ動き、悔い改めるように命じる声が人々に聞こえる。ニーファイとリーハイ、天使たちと語り、群衆は火に包まれる。紀元前約三十年。

1 さて、この同じ年に、[1)]ニーファイはセゾーラムという名の人にさばきつかさの職を譲った。

2 それは、ニーファイ人の法律と彼らの政体が民の声によって定められ、[2)]悪を選んだ者が善を選んだ者よりもはるかに大勢であったために、法律が改悪されて彼らの滅亡の機が熟していたからである。

3 また、これだけではない。彼らは強情な民であったので、法律によっても正義によっても彼らを治めることができず、ただ滅亡があるのみであった。

4 そしてニーファイは、彼らの罪悪にうんざりしてしまった。そこで彼はさばきつかさの職を譲り、[1)]神の言葉を宣べ伝える務めに余生をささげた。また、彼の弟リーハイも同じ務めに余生をささげた。

5 彼らは父ヒラマンが自分たちに語った言葉を思い出したからである。ヒラマンが語った言葉は次のとおりである。

6 「見よ、わが子らよ、わたしはあなたたちが神の戒めを守ることを忘れないようにと願っている。また、次の言葉を民に告げ知らせてもらいたい。わたしは、エルサレムの地からやって来たわたしたちの最初の[1)]先祖の名を、あなたたちに付けた。わたしがこうしたのは、あなたたちが自分の名を思うときに

---

25 ① ヤコ 6・5
② アル 46・8、ヒラ 12・3−4
26 ① ヒラ 3・37
② モサ 29・25−27

第5章
1 ① ヒラ 3・37
2 ① モサ 29・25−27
4 ① アル 10・19
② アル 4・15−20
6 ① ニフ 1・1、5

先祖を思い起こせるように、そして先祖を思い起こすときに先祖の行いを思い起こせるように、そして先祖の行いを思い起こすときに、先祖の行いが善かったことがどのように言い伝えられ、書き記されているか分かるようにするためである。

7わが子らよ、あなたたちは先祖について言い伝えられ、書き記されてきたように、自分たちについても言い伝えられ、書き記されるように善いことをしてもらいたい。

8わが子らよ、見よ、あなたたちに望むことがもう少しある。それは、誇るためにこれらのことを行うのではなく、まことに永遠の、消えてなくなることのない宝を自分自身のために天に蓄えるため、これらのことを行うようにということ、そしてわたしたちの先祖にすでに与えられていると考えて当然である、あの貴い永遠の命の賜物をあなたたちも持てるようにということである。

9おお、覚えておきなさい。わが子らよ、ベニヤミン王が彼の民に語った言葉を覚えておきなさい。まことに、将来来られるイエス・キリストの贖いの血によってのみ人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もないことを覚えておきなさい。まことに、イエス・キリストが世を贖うために来られることを覚えておきなさい。

10また、アミュレクがアモナイハの町でゼーズロムに語った言葉も覚えておきなさい。アミュレクは彼に、主は確かに主の民を贖うために来られるが、彼らを罪のあるまま贖うためではなく、彼らを罪から贖うために来られるのであると語った。

11主は、彼らが悔い改めるときに彼らを罪から贖うために、御父から授けられた力を持っておられるのである。したがって、主は悔い改めの条件について告げ知らせるために、天使たちを遣わしてこられた。この悔い改めは人々を贖い主の力のもとに導き、彼らに救いを得させるものである。

12わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。

---

6 ②2ニフ33章
8 ①3ニフ13・19—21
①教義14・7
9 ①モサ2・9
②モサ3・17—18、GS「贖罪」
10 ③GS「世—戒めに従わない人々」
④GS「贖い・贖う」
11 ①アル11・34
①アル13・24—25
12 ①マタ7・24—27、教義6・34、モセ7・53、GS「岩」「隅の石」
②イザ28・16、ヤコ4・16
③ニフ14・25、27

なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」

13 さてこれは、ヒラマンが息子たちに教えた言葉である。まことに、彼はここに書き記されていない多くのことと、ここに書き記されている多くのことを彼らに教えた。

14 ヒラマンの息子たちは父の言葉を思い出したので、神が命じられるままに、ニーファイのすべての民の中で神の言葉を教えるために出て行った。そして、最初にバウンティフルの町で教えた。

15 そして、そこからギドの町へ行き、ギドの町からミュレクの町へ行った。

16 そして、町から町へと巡って、ついに彼らは南方の地にいたすべてのニーファイの民の間を巡り終え、そこからゼラヘムラの地へ行ってレーマン人の中に入って行った。

17 そして彼らは、大きな力をもって教えを説き、前にニーファイ人から別れて去った離反者たちの多くを説き破った。そこで、これらの者たちは進み出て、罪を告白し、悔い改めのためのバプテスマを受け、以前にニーファイ人に対して自分たちが行った不当な仕打ちを償うために、すぐにニーファイ人のもとに帰って行った。

18 そしてニーファイとリーハイは、レーマン人にも同じように大きな力と権能をもって教えを説いた。彼らは語ることができるように力と権能を与えられており、また語るべき事柄も示されたからである。

19 そこで彼らは語ってレーマン人を非常に驚かせ、彼らに確信を抱かせたので、ゼラヘムラの地とその周りで悔い改めのためのバプテスマを受け、自分たちの先祖の言い伝えが正しくないことを確信したレーマン人は八千人に上った。

20 そして、ニーファイとリーハイはそこからニーファイの地へ向かった。

21 さて、彼らは、レーマン人の軍隊に捕らえられ、牢に入れられてしまった。まことに、アンモンと彼の同僚たちがリムハイの部下によって入れられた、あの牢であった。

22 ニーファイとリーハイが食べ物もなく牢に入れられたまま幾日も過ぎてから、見よ、人々が二人を連れ出して殺そうと、牢の中に入って来た。

---

13 ① モサ 1・4
17 ① ヒラ 4・4
18 ① 教義 100・5–8、GS「預言」
19 ① GS「改宗」「伝道活動」
21 ① モサ 7・6–7、21・23

23さて、ニーファイとリーハイは火のようなものに包まれていた。そのため、人々は自分たちが焼かれてしまうのではないかと恐れ、あえて二人に手をかけようとしなかった。それでも、ニーファイとリーハイは焼かれなかった。二人は火の中に立っているようでありながら焼かれなかった。

24二人は、自分たちが火の柱に包み込まれていながらも焼かれないのを見て、心に勇気を得た。

25二人は、レーマン人があえて自分たちに手をかけようとせず、またあえて近づこうともせず、驚きのあまり物が言えなくなったかのような有様で立っているのを見たからである。

26そこで、ニーファイとリーハイは進み出て、彼らに語り始めた。「恐れてはならない。見よ、あなたがたにこの驚くべきことを示されたのは神である。わたしたちに手をかけて殺すことはできないということが、これによってあなたがたに示されているのである。」

27見よ、二人がこれらの言葉を語り終えると、大地が激しく揺れ動き、牢の壁がまさに地に崩れ落ちるほどに揺れた。それでも壁は倒れなかった。このときに牢の中にいた者たちは、レーマン人と、離反者のニーファイ人であった。

28そして彼らは、暗黒の雲に覆われ、非常な恐怖に襲われた。

29そして、その暗黒の雲の上の方から聞こえるかのように、一つの声があって言った。「悔い改めよ、悔い改めよ。よきおとずれを告げ知らせるためにあなたがたのもとに遣わした僕たちを、二度と滅ぼそうとしてはならない。」

30さて、彼らはこの声を聞いたが、それは雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫いた。

31その声は優しかったにもかかわらず、見よ、大地は激しく揺れ動き、まさに地に崩れ落ちるほどに牢の壁は再び揺れた。見よ、彼らを覆っていた暗黒の雲は消え去らなかった。

32そして見よ、再び声が聞こえた。「悔い改めよ、悔い改めよ。天の王国は近いからである。二度とわたしの僕たちを滅ぼそうとしてはならない。」その後、再び大地が揺れ動き、壁が揺れた。

---

23 ① 出エ3:2
24 ① 出エ14:24、1ニフ1:6、教義29:12、ジー歴史1:16
28 ① 出エ14:20
29 ① 3ニフ11:3–14
30 ① 列上19:12、教義85:6

33 それから三度目の声が聞こえ、人に言い表せない驚くべき言葉を彼らに告げた。そして、またもや壁が揺れ、大地がまさに引き裂けるほどに揺れ動いた。34 さてレーマン人は、暗黒の雲に覆われていたので、逃げることができなかった。また恐怖に打たれていたので、動くこともできなかった。35 このレーマン人の中に、生まれがニーファイ人で、かつて神の教会に属していたが、その後教会から離反していた者が一人いた。36 そして、彼は振り返ると、暗黒の雲を通してニーファイとリーハイの顔を見た。すると見よ、二人の顔はまるで天使の顔のように非常に輝いていた。また彼は、二人が目を天に向けて、二人には見えているある人に語りかけて、すなわち声を上げているような様子であるのも見た。37 そこでこの男は大勢の者たちに、振り向いて見るように叫んだ。そして見よ、振り向いて見る力が彼らに与えられたので、彼らはニーファイとリーハイの顔を見た。38 そして彼らはその男に、「見よ、これは一体どういうことなのだ。この者たちが話している相手はだれなのか」と尋ねた。39 その男の名はアミナダブといった。アミナダブは彼らに、「二人は神の天使たちと話している」と言った。40 そこで、レーマン人は彼に、「我々を覆っているこの暗黒の雲が離れ去るようにするには、我々はどうすればよいのか」と言った。41 そこでアミナダブは彼らに、「あなたがたは悔い改めて、アルマとアミュレクとゼーズロムがあなたがたに教えた、キリストを信じる信仰を持てるまで、先ほどの声に向かって叫び求めなければならない。このようにするときに、あなたがたを覆っている暗黒の雲は離れ去るだろう」と言った。42 そこで、彼らは皆、大地を震わせた御方の声に向かって叫び求め、まことに、暗黒の雲が消え去るまで叫び求めた。43 そして周りを見回すと、彼らを覆っていた暗黒の雲は離れ去り、見よ、彼らは一人残らず火の柱に包み込まれていた。44 そして、ニーファイとリーハイが彼らの真ん中にいた。まことに、彼らは包み込まれ、まるで燃える

36 ① 6・15 出エ34・29–35、使徒
40 ① 使徒2・37–39
41 ① GS「悔い改め」
41 ② GS「信仰」
43 ① 3ニフ17・24、19・14

火の中にいるかのようであったが、その火は彼らを損なうことなく、また牢の壁に燃えつくこともなかった。また彼らは、言いようのない、栄光に満ちた喜びに満たされた。

45 そして見よ、神の聖なる御霊が天から降って、彼らの心の中に入られたので、彼らはあたかも火で満たされたかのようになり、驚くべき言葉を語ることができた。

46 そして彼らに声が、すなわち、まるでささやくような快い声が聞こえた。

47 「平安があるように。あなたがたは世の初めからいる、わたしの心から愛する者を信じているので、あなたがたに平安があるように。」

48 彼らはこの声を聞くと、どこから声が聞こえてくるのか見ようとするかのように仰ぎ見た。すると見よ、天が開くのが見えた。そして、天使たちが天から降って来て、彼らを教え導いた。

49 これらのことを見聞きした者はおよそ三百人であった。彼らは不思議に思うことなく、また疑うこともなく出て行くように命じられた。

50 そこで、彼らは出て行き、民を教え、自分たちが見聞きしたすべてのことを、周りのすべての地方に告げ知らせた。その結果、レーマン人の大半がそれらのことを確信するようになった。彼らの得た証拠が偉大であったからである。

51 そして、確信を得た者たちは皆、武器を捨て、また憎悪と先祖の言い伝えも捨てた。

52 そして彼らは、ニーファイ人の所有地をニーファイ人に譲り渡した。

第 6 章

義人のレーマン人、悪人のニーファイ人に教えを説く。民はともに栄え、平和で豊かな時代を迎える。罪の根源であるルシフェル、悪人とガデアントンの強盗たちの心をかき立て、殺人と悪事を行わせる。強盗たち、ニーファイ人の政権を握る。紀元前約二十九年から二十三年に至る。

1 さて、さばきつかさの統治第六十二年が終わったときには、これらのことがすべて起こり、レーマン人はその大半が義人になっていたので、レーマン人の義はニーファイ人の義をしのいでいた。彼らは確

---

44 ① GS「喜び」
45 ① 3ニフ9・20、エテ12・14
② GS「御霊の賜物」
47 ① GS「平安・平和」
48 ① 1ニフ1・8
51 ① アル31・5

第6章
1 ① ヒラ13・1

固として揺るぎない信仰を抱いていたからである。
2 見よ、ニーファイ人の多くはかたくなになり、悔い改めをせず、非常に邪悪になっていたので、神の言葉と彼らの中で行われた宣教と預言を少しも受け入れなかった。
3 にもかかわらず、教会の人々は、レーマン人が改宗したことと、レーマン人の中に神の教会が設立されたことで大きな喜びを得た。そして両者は互いに親しく交わり、またともに喜び、大きな幸せを得た。
4 そして、多くのレーマン人がゼラヘムラの地にやって来て、自分たちが改宗[1]した次第をニーファイ人の民に告げ知らせ、信仰をもって悔い改めるように勧めた。
5 そして、多くの者が非常に大きな力と権能をもって教えを説き、ニーファイ人の多くを心底謙遜にへりくだらせ、神と小羊に謙遜に従う者とした。
6 そして、多くのレーマン人が北方の地へ行き、ニーファイとリーハイも民に教えを説くために北方[1]の地へ行った。このようにして、第六十三年が終わった。
7 見よ、全地が平和であったので、ニーファイ人はニーファイ人の中であろうとレーマン人の中であろうと、自分が行きたい所へはどこへでも行った。
8 そしてレーマン人も、レーマン人の中であろうとニーファイ人の中であろうと、自分の行きたい所へはどこへでも行った。このようにして、彼らは互いに自由に交流し、自分たちの思いのままに売買をして利益を得た。
9 そしてレーマン人もニーファイ人も、ともに非常に豊かになった。また、南の地でも北の地でも、彼らは非常にたくさんの金と銀とあらゆる貴い金属を持っていた。
10 ところで、南の地はリーハイと呼ばれ、北の地はゼデキヤの息子にちなんでミュレク[1]と呼ばれた。主がミュレクを北の地へ導き、リーハイを南の地へ導いてこられたからである。
11 見よ、これらの地には両方とも、あらゆる金と銀、あらゆる貴いあらがねがあった。また、あらゆるあらがねを加工し精錬する、技量の優れた職人たちもおり、そのために彼らは豊かになった。
12 彼らは北でも南でも豊かに穀物を栽培し、北でも南でも非常に栄えた。また、彼らは増えて、その地

2 1 ロマ 1・28—32
3 1 GS「フェローシップ」
4 1 ブ
6 1 GS「改宗」
10 1 3・11—12 アル 63・4—9、ヒラ 8・21 モサ 25・2—4、ヒラ

で非常に力をつけた。そして、多くの大小の家畜の群れ、多くの肥えた若い家畜を飼育した。

13 見よ、女たちは骨折って働き、糸を紡ぎ、裸にまとうためにあらゆる織物を、すなわち、より糸で織った亜麻布とあらゆる織物を作った。このようにして、第六十四年が平穏に過ぎ去った。

14 第六十五年も、大きな喜びがあり、平和であって、まことに多くの宣教が行われ、将来起こることについて多くの預言が述べられた。このようにして、第六十五年が過ぎ去った。

15 さて、さばきつかさの統治第六十六年に、セゾーラム[1]が、さばきつかさの席に着いていたときに何者かによって殺された。また、同じ年に、彼に代わって民によって任じられた彼の息子も殺されてしまった。このようにして、第六十六年が終わった。

16 第六十七年の初めに、民はまた非常に悪くなり始めた。

17 見よ、主が長い間、世の富を彼らに恵んでこられたので、彼らは扇動されて怒ることも、戦うことも、流血を起こすこともなかった。そのため、彼らは富に執着するようになり、互いに相手の上に立てるように、利益を得ようと求め始めた。その結果、彼らは暗殺[1]や強盗や略奪をして利益を得始めたのである。

18 さて見よ、そのような殺人者たちと略奪者たちは、キシクメンとガデアントン[1]が作った団に所属していた。そして、ニーファイ人の中にさえガデアントンの団に所属している者が大勢おり、レーマン人の中の悪い者たちの中にはもっと多くの者がいた。そして彼らは、ガデアントンの強盗および殺人者と呼ばれた。

19 大さばきつかさセゾーラムとその息子を、さばきつかさの職にある間に殺したのは彼らであったが、殺人者は見つからなかった。

20 さて、レーマン人は自分たちの中に強盗がいることを知ると、非常に嘆いた。そして彼らは、できるかぎりあらゆる手段を使って、地の面から強盗たちを滅ぼし去ろうとした。

21 ところが見よ、ニーファイ人の大半はサタンにひどく心をあおり立てられ、それらの強盗の団に加わった。そして彼らは、どのような困難な状態に置かれても、自分たちの殺人や略奪や盗みのために苦し

15 ① ヒラ5・1
17 ① 3ニフ9・9
18 ① ヒラ2・4、12–13

みを受けることのないように、互いに保護し、守り合うという誓約と誓いを交わした。

22そして、彼らには合図、すなわち秘[1]密の合図と秘密の言葉があった。これは、仲間がどのような悪事を働いても、その仲間から、すなわちこの誓いを立てて団に所属した者たちから害を受けることのないように、誓いを立てた仲間を確認できるようにするためのものであった。

23したがって彼らは、国の法律にも神の律法にも背いて人を殺し、略奪し、盗み、みだらな行いをし、あらゆる悪事を行うことができた。

24また、団に所属している者はだれであろうと、彼らの悪[1]事と忌まわしい行いを世の人々に漏らしたならば、国の法律によってではなく、ガデアントンとキシクメンが定めた、彼らの邪悪な掟によって裁かれることになっていた。

25さて見よ、これらの秘密の誓[1]いの言葉と誓約こそ、アルマが息子に、民を滅亡に至らせる手段とならないように世の人々に公にしてはならないと命じたものである。

26見よ、それらの秘[1]密の誓いの言葉と誓約は、ヒラマンに渡された記録からガデアントンに伝わったのではない。それらは、禁断の実を食べるようにわたしたちの始祖をそそのかした者によって、ガデアントンの心に植え付けられたのである。

27まことにその者は、弟のアベルを殺しても、世の人々には分からないと、カイン[1]とはかりごとを巡らしたその者である。その者は、そのとき以来、カインおよび彼に従う者たちとはかりごとを巡らしてきた。

28また、十分に高い[1]塔を建てて天に達することができるようにしようという思いを、民の心に与えたのも、その者である。その塔からこの地に来た人々を惑わし、闇の業と忌まわしい行いを地の全面に広め、ついに民を完[2]全に滅ぼし、永遠の地獄に引きずり落としてしまったのも、その者である。

29まことに、闇の業と暗殺の業をなお続けようという思いをガデアントン[1]の心に与えたのも、その者である。彼は人類の始まりから現在に至るまで、それを続けてきた。

30見よ、彼こそ、あらゆる罪の根[1]源である。見よ、彼は、人の子らの心を支配できるかぎり代々闇の業

22 ① GS「秘密結社」
22 ① GS「邪悪」
24 ① アルマ 37・27—32
25 ① モセ 5・29、49—52
26 ① ニフ 6・28、モセ 3・6—12
27 ① モセ 5・18—33
28 ① 創世 11・1—4、エテ 1・3
29 ① ヒラ 2・4—13
29 ② エテ 8・9、15—25
30 ① モロ 7・12、17、モセ 4・4

と暗殺の業を続け、カインと彼に従う者たちのはかりごとと、誓いの言葉と、誓約と、恐ろしい悪事の策を伝えている。

31 さて見よ、彼は、すでにニーファイ人の心を大いに支配しており、そのために、彼らは非常に邪悪になっていた。彼らの大半はすでに義の道を離れており、神の戒めを足の下に踏みつけ、[1]自分勝手な道に向かい、自分のために金と銀で偶像を造っていた。

32 そして、これらの罪悪はすべて、[1]わずかな年数で彼らに起こった。しかもそのほとんどは、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六十七年に彼らに起こったのであった。

33 そして彼らは、第六十八年にもますます罪悪を募らせ、義人の深い悲しみと嘆きを誘った。

34 このことから分かるように、ニーファイ人は不信仰に陥って、ますます悪事と忌まわしい行いをするようになった。一方レーマン人は、神をますます深く知るようになった。まことに、彼らは神の掟と戒めを守り、神の前を真理にかなってまっすぐに歩み始めたのであった。

35 またこのことから、ニーファイ人の心が邪悪でかたくなであったので、主の御霊が彼らから去り始めたことが分かる。[1]

36 またこのことから、レーマン人が主の言葉を容易に喜んで信じたので、主が彼らに主の御霊を注ぎ始められたことも分かる。

37 そしてレーマン人は、ガデアントンの強盗団を捜し、強盗団の中のひときわ悪い者たちの中で神の言葉を宣べ伝えたので、この強盗団はレーマン人の中から完全に絶えてしまった。

38 そして、他方ニーファイ人は、強盗団の中のひときわ悪い者たちをはじめとして、強盗団を盛り上げ、彼らを支援した。そのため、ついに強盗団はニーファイ人の地の全体に広がり、義人の大半を惑わしてしまった。そしてついには、これらの者たちも強盗団の行うことを信頼し、奪ったものの分け前をもらうようになり、彼らと暗殺を共にし、彼らの秘密結社に加わるようになった。

39 このようにして、強盗団は政府のすべての管理権を手に入れ、[1]まず貧しい者と柔和な者と神に謙遜に従う者を足の下に踏みつけ、打ち、裂き、また彼らを無視した。

31 ①1ニフ19・7
32 ①アル46・8
35 ①モサ2・36、教義121・39
①37詩篇109・16、アル5・54–56、教義56・16

40 このことから、彼らが恐ろしい状態にあり、永遠の滅びの機が熟してきたことが分かる。
41 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六十八年が終わった。

ヒラマンの息子であるニーファイの預言――神はニーファイの民に、悪事を悔い改めなければ怒りを下して罰し、ことごとく滅ぼしてしまおうと脅される。神は疫病をもってニーファイの民を打たれる。ニーファイの民、悔い改めて神に立ち返る。レーマン人サムエル、ニーファイ人に預言する。

次の第七―十六章がそれに相当する。

第 7 章

ニーファイ、北方で拒まれ、ゼラヘムラの地に帰る。ニーファイ、自分の庭にある塔の上で祈り、次いで民に悔い改めるように求め、悔い改めなければ滅びることを告げる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1 見よ、ニーファイ人の民のさばきつかさの統治第六十九年に、ヒラマンの息子であるニーファイは、北方の地からゼラヘムラの地に帰って来た。
2 彼は北方の地にいる人々の中を巡って、彼らに神の言葉を宣べ伝え、また多くのことを彼らに預言した。
3 ところが、彼らがその御言葉をまったく受け入れなかったので、彼は彼らの中にとどまっていることができず、生まれ故郷に帰って来たのであった。
4 そして、彼が見ると、民はひどく邪悪な状態にあり、あのガデアントンの強盗たちがさばきつかさの職に就いていて、国の権力と権威を奪い取っていた。また、強盗たちは神の戒めを捨て、神の前に少しも正しいことを行わず、人の子らをまったく公正に扱わず、
5 義人を彼らの義のゆえに罪に定め、罪人と悪人は金銭を受け取って無罪放免とし、さらに自分たちが利益と世の誉れを得られるように、またもっと安易に姦淫を犯し、盗み、殺し、自分の思いどおりのことを行えるように、政府の要職に就いて統治し、自分の思いどおりに行っていた。
6 このひどい罪悪は、わずかな年数でニーファイ人

40 ① 教義 18・6
第7章
1 ① ヒラ 6・6
5 ① マタ 13・22、16・26

に及んでいた。ニーファイはそれを見ると、悲しみで胸が詰まり、苦しみもだえて叫んだ。

7「おお、わたしの先祖のニーファイが初めてエルサレムの地からやって来たその時代にわたしも生きていて、約束の地で先祖のニーファイと一緒に喜ぶことができたらよかったのに。当時のニーファイの民は容易に勧告に従い、神の戒めを確固として守り、罪悪を犯すように誘われるのは遅く、主の御言葉を聴くのは早かった。

8まことに、もしわたしがその時代に生きていたら、同胞の義を喜んだことだろう。

9しかし見よ、わたしはこの時代を自分の時代とし、同胞のこの悪事を見て悲しみに打ちひしがれるように定められている。」

10さて見よ、それは、ニーファイの庭にある塔の上で叫んだことであった。彼の庭はゼラヘムラの町にある最も大きな市場へ通じている大通りのそばにあった。そしてニーファイは、自分の庭にあるその塔の上でひれ伏していた。その塔も大通りに出る庭の門の近くにあった。

11さて、ある人々が近くを通りかかり、ニーファイが塔の上でその心を神に注ぎ出しているのを見た。そして、彼らは走って行って、自分たちの見たことを人々に告げた。すると人々は、彼が民の悪事をそのように深く嘆いている訳を知ろうとして、大勢集まって来た。

12さて、ニーファイは立ち上がると、大勢の人々が集まっているのを見た。

13そして彼は口を開くと、彼らに言った。「見よ、1)何のためにあなたがたは集まって来たのか。あなたがたの罪悪についてわたしに語らせるためか。

14まことに、それはわたしがあなたがたの罪悪のことで心に深い憂いを覚え、その心を神に注ぎ出すために塔に登ったからである。

15わたしが嘆き、悲しんでいるので、あなたがたは集まって驚いている。あなたがたは大いに驚く必要がある。あなたがたは悪魔に引き渡されて、心をこのように大いに支配されてきたので、驚いて当然である。

16まことに、どうしてあなたがたは、永遠の不幸と無窮の苦悩へ投げ落とそうとしている者の誘惑に身をゆだねることができたのか。

---

13 ① マタ3・5–8

17 おお、悔い改めなさい、悔い改めなさい。なぜあなたがたは死のうとするのか。立ち返りなさい、主なるあなたがたの神に立ち返りなさい。なぜ主はあなたがたを見捨てられたのか。

18 それは、あなたがたが心をかたくなにしたからである。まことに、あなたがたは、良い羊飼いの声を聴こうとしない。まことに、あなたがたは、自分たちのことで良い羊飼いを怒らせてしまったのだ。

19 見よ、あなたがたが悔い改めようとしなければ、羊飼いはあなたがたを集めるどころか、追い散らして犬と野獣のえじきにされるであろう。

20 おお、どうしてあなたがたは、神が助けてくださったその日に、神を忘れることができたのか。

21 しかし見よ、それは利益を得、人々から称賛され、また金と銀を得ようとするからである。あなたがたは富と、この世のむなしいものに執着してきた。そのためにあなたがたは人を殺し、略奪し、盗み、隣人に不利な偽証をし、あらゆる罪悪を行っている。

22 だから、悔い改めなければ、あなたがたに災いが下るであろう。もしあなたがたが悔い改めようとしなければ、見よ、わたしたちの所有地にあるこの偉大な町も、周りの偉大な町々もすべて奪われ、そこにあなたがたの居場所はなくなるであろう。見よ、主は、これまでしてくださったようには、敵を防ぐ力をあなたがたに与えてくださらないからである。

23 見よ、主はこう言われる。『自分たちの罪を悔い改め、わたしの言葉に聞き従う者でなければ、わたしは悪人にはほかの者以上に力を示すまい。』そのため、同胞よ、あなたがたが悔い改めなければ、レーマン人の方があなたがたよりも幸いであることを知ってほしい。

24 見よ、彼らは、あなたがたに与えられてきたあの大いなる知識に対して罪を犯さなかったので、あなたがたよりも義にかなっている。そのため、主は彼らに憐れみをかけられる。まことに、主は彼らの日を長くして、子孫を増し加えられる。一方あなたがたは、悔い改めなければことごとく滅ぼされる。

25 まことに、あなたがたの中に起こったあのひどく忌まわしいもののために、あなたがたは災いである。あなたがたはその忌まわしいもの、ガデアントンが設けたあの秘密の団に加わっている。

---

17 ① エゼ18・23、31–32
18 ① エゼ34・12、ヨハ10・14–16、アル5・38–41、GS「良い羊飼い」
19 ① ニフ10・4–7
21 ① GS「物欲」
22 ① モサ7・29
23 ① ヒラ15・11–15
24 ① アル9・16、教義5・19–20
25 ① ヒラ3・23
33 ② アル9・19
36 ② ヤコ1・8、アル12・57–60
37 ② 出エ20・16、マタ15・

26まことに、あなたがたの心に募る高慢のために、[1]災いが下るであろう。その高慢は、あなたがたが非常に多くの[2]富を得たために、度を越してあなたがたを高ぶらせた。
27まことに、あなたがたの悪事と忌まわしい行いのために、あなたがたは災いである。
28あなたがたは悔い改めなければ滅びるであろう。すなわち、あなたがたの土地は奪われ、あなたがたは地の面から滅ぼし去られるであろう。
29見よ、わたしは、これらのことが起こるであろうと、わたし自身から言うのではない。わたしがこれらのことを知っているのは、わたしが独りで知ったのではない。しかし見よ、主なる神がこれらのことを知らせてくださったので、わたしはこれらのことが真実であると知っているのである。したがって、これらのことが将来起こると証する。」

第8章

邪悪なさばきつかさたち、民をそそのかしてニーファイのことを怒らせようとする。アブラハム、モーセ、ゼノス、ゼノク、イザイアス、イザヤ、エレミヤ、リーハイ、ニーファイは皆、キリストについて証した。ニーファイ、大さばきつかさが殺されたことを霊感によって告げる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1さて、ニーファイがこれらの言葉を語り終えたとき、見よ、そこには、さばきつかさでありながらガデアントンの秘密の団にも所属している男たちがおり、彼らは怒ってニーファイに非難の声を上げ、人々に言った。「なぜあなたがたはこの男を捕らえて連れて来て、この男が犯した罪科に応じて罪に定められるようにしないのか。
2なぜあなたがたはこの男に見とれていて、この男がこの民と我々の法律を非難するのを聞いているのか。」
3見よ、ニーファイが、彼らの法律が腐敗していることについて彼らに語ったからである。まことに、ニーファイはここに書き記せない多くのことを語った。しかし、神の戒めに反することは何一つ言わなかった。
4ところが、ニーファイがさばきつかさたちの[1]隠れた闇の業について、彼らにあからさまに語ったので、

26① イザ5・8−25
29① ヤコ2・13
29② アル5・45−46
第8章
4① 1ニフ16・2−3

さばきつかさたちは、彼に対して怒ったのである。それでもさばきつかさたちは、あえて彼を捕らえようとはしなかった。彼らは、人々が自分たちに非難の声を上げるのではないかと恐れたからである。

5 それで彼らは、人々に向かって叫んだ。「なぜあなたがたはこの男が我々を非難するのを許しておくのか。この男はこの民の全員に滅亡を宣告している。そのうえ、これらの偉大な町が我々から奪われ、そこに我々の居場所がなくなるとも言っている。

6 我々は、このようなことがあり得ないのを知っている。まことに、我々は強く、町は偉大であるので、敵は我々を支配する権力を持てないからだ。」

7 そして、彼らは人々を扇動してニーファイのことを怒らせ、人々の中に争いを生じさせた。というのは、次のように叫んだ人々もいたからである。「この人をそのままにしておけ。この人は立派な人だ。我々が悔い改めなければ、この人の言うことは必ず起こるだろう。

8 そして見よ、この人が我々に証した裁きは、すべて我々に下るだろう。我々は、この人が我々の罪悪について正しく証したのを知っている。見よ、我々の罪悪は多い。この人は、我々の罪悪を知っているように、将来我々に起こるすべてのことも知っている。[1]

9 まことに見よ、もしこの人が預言者でなかったならば、それらのことについて証ができなかっただろう。」

10 そして、ニーファイを殺そうとした者たちは恐れ、彼を捕らえることはどうしてもできなかった。そこで彼は、ある人々が自分に好意を寄せ、またそのことでほかの者が恐れているのを見て、人々に再び話し始めた。

11 彼はもっと話すように強く促されて、人々に言った。「見よ、同胞よ、あなたがたは神が一人の人モーセに、紅海の水を打つ力を与えられたことを読んだことがないのか。[1]紅海の水は右と左に分かれたので、わたしたちの先祖であるイスラエル人は、乾いた地を通って出て来た。また、その水はエジプト人の軍勢の上に閉じ、彼らをのみ尽くしてしまった。

12 そして見よ、神がかつてこのような力をこの人に与えられたのであれば、なぜあなたがたは互いに論じ合うのか。あなたがたが悔い改めなければあなた

8 ① ヒラ7:29
11 ① 出エ14:16、17:26、モサ7:19、1ニフ8:2–3、教義1:25

がたに及ぶことになる裁きについて、知ることのできる力を、神がわたしに与えられなかったと言うのか。

13 しかし見よ、あなたがたは、わたしの言葉を否定しているだけでなく、わたしたちの先祖が語ったすべての言葉と、このような偉大な力を与えられたこのモーセが語った言葉、まことに、彼がメシヤの来臨に関して語った言葉をも否定している。

14 まことに彼は、神の御子が将来来られることを証しなかったか。彼が荒れ野で青銅の蛇を上げたように、将来来られる神の御子も上げられるであろう。

15 また、その蛇を仰ぎ見る者が皆生きたように、悔いる霊を抱いて、信仰をもって神の御子を仰ぎ見る者は皆、生きることができ、永遠であるあの命にあずかるであろう。

16 さて見よ、これらのことを証したのはモーセだけではない。彼の時代からアブラハムの時代にさかのぼる聖なる預言者たちも皆、証した。

17 そして見よ、アブラハムは、神の御子の来臨を見て、喜びに満たされ、うれしく思った。

18 見よ、あなたがたに言うが、これらのことを知っていたのはアブラハムだけではない。アブラハムの時代以前にも、神の位に従って、すなわち神の御子の位に従って召された人々が多数いた。これは、神の御子の来臨に先立つ何千年も前に、将来贖いが与えられるということを民に示すためであった。

19 またあなたがたは、アブラハムの時代以降にもこれらのことを証した預言者が多くいたということを知ってほしい。まことに、預言者ゼノスは大胆に証し、そのために殺された。

20 また見よ、ゼノクも、イザイアスも、イザヤも、エレミヤもいた。（エレミヤとは、エルサレムの滅亡について証したあの預言者である。）そしてわたしたちは、エルサレムがエレミヤの言葉のとおりに滅ぼされたことを知っている。おお、それならば、どうして彼の言葉のとおりに神の御子が来られないことがあろうか。

21 あなたがたはエルサレムが滅ぼされたという事実に反論するつもりか。あなたがたは、ゼデキヤの息子たちがミュレクのほか皆殺されたのに、殺されなかったと言うつもりか。ゼデキヤの子孫がエルサレムの地を追われ、今わたしたちとともにいるのを、

---

14 ① 民数21・6–9、2ニフ25・20、アル33・19–22、GS「イエス・キリストの予型と象徴」
15 ① 1ニフ17・41、アル37・45–47、3ニフ15・9
16 ① 11 ② ヨハ11・25、ヤコ4・4–5、7
17 ① 11 創世22・8–14、ヨハ8・56
18 ① GS「メルキゼデク神権」 ② アル13・19、教義84・6–16、136・37
19 ① アル34・7 ① 1ニフ19・10、3ニフ10・15–16、GS「聖文—失われた聖文」
20 ① イザ53章 ② 1ニフ5・13、7・14 ③ エレ26・18、1ニフ2ニフ6・8、オム1・4
21 ① 列下25・7、エレ39・6、52・10 ② 1・15 ③ エゼ17・22–23、ヒラ6・10

あなたがたは見ていないのか。しかし見よ、これだけではない。

22 わたしたちの先祖リーハイは、これらのことを証したためにエルサレムから追い出された。ニーファイもこれらのことを証し、現在に至るまでの先祖たちもほとんど皆、証した。彼らはキリストの来臨[1]について証し、将来を見通し、将来来るキリストの日を喜んだ。

23 見よ、キリストは神であり、今わたしたちの先祖とともにおられる。また、キリストは彼らに御自身を現し、彼らがキリストによって贖われることを告げられた。そこで彼らは、将来起こることのために、キリストに栄光を帰した。

24 あなたがたはこれらのことを知っており、偽りを言うのでなければこれらのことを否定できないので、このことにおいてあなたがたは罪を犯した。あなたがたは、このように多くの証拠を与えられてきたにもかかわらず、これらのことをすべて受け入れなかったからである。まことに、あなたがたはこれらのことが真実であるという証拠として、[1]万物を、すなわち天にあるものと地にある万物を、ともに与えられてきた。

25 しかし見よ、あなたがたは真実を受け入れず、聖なる神に[1]背いてきた。そして、今でさえあなたがたは、何ものも朽ちない、また清くないものは何一つ入れない天に、自分自身のために[2]宝を蓄えるのではなく、[3]裁きの日に対して自分自身のために激しい怒りを積み重ねている。

26 まことに、今でさえあなたがたは、殺人と[1]不貞と悪事のために永遠の滅びの機を熟させつつある。悔い改めなければ、それは間もなくあなたがたに及ぶであろう。

27 まことに見よ、それは今まさにあなたがたの戸口にある。さばきつかさのいる所へ行って調べてみなさい。見よ、あなたがたのさばきつかさは殺されており、血の中に[1]横たわっている。彼はさばきつかさの職に就くことを求めている自分の[2]兄弟に殺されたのである。

28 見よ、彼らは二人とも、あなたがたの秘密の団に所属している。その秘密の団の[1]創設者は、ガデアントンと、人々の霊を滅ぼそうとしている悪しき者である。」

---

22 ①GS「イエス・キリスト降誕と死に関する預言」
24 ①アル30・44、モセ6・63
25 ①モサ2・36–38、3・12
②ヒラ5・8、3ニフ13・19–21
③教義10・20–23、121・23–25
26 ①GS「不貞」
27 ①ヒラ9・3、15
②ヒラ9・6、26–38
28 ①ヒラ6・26–30

第 9 章

使いの者たち、大さばきつかさがさばきつかさの席で死んでいるのを発見する。彼らは投獄され、後に釈放される。ニーファイ、霊感によってセアンタムを殺人者と断定する。ニーファイ、ある人々から預言者として受け入れられる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1 さて見よ、ニーファイがこれらの言葉を語り終えると、彼らの中のある者たちがさばきつかさのいる所へ走って行った。すなわち、五人の者が行き、行く途中で互いに言った。

2 「見よ、この男が預言者かどうか、またこのような驚くべきことを我々に預言するように、神がこの男に命じたのかどうか、必ず分かるだろう。見よ、我々は神が命じたとは信じない。まことに、彼が預言者であるとも信じない。しかし、彼が大さばきつかさについて言ったこのことがほんとうで、大さばきつかさが死んでいれば、彼の語ったほかの言葉もほんとうだと、我々は信じよう。」

3 そして彼らは力の限り走って、さばきつかさのいる所に入って行った。すると見よ、大さばきつかさが地に倒れ、血の中に横たわっていた。

4 さて見よ、彼らはこれを見ると非常に驚き、地に倒れてしまった。彼らはニーファイが大さばきつかさについて語った言葉を信じていなかったからである。

5 しかし、彼らは見て信じ、ニーファイの語った裁きがすべて民に下るのではないかという恐れに打たれた。そして、そのために彼らは震えおののき、地に倒れてしまったのである。

6 ところで、さばきつかさが殺されるとすぐに、すなわち、彼の兄弟がひそかに彼を突き刺して逃げるとすぐに、従者たちは走って行き、人々に殺害のことを大声で告げ知らせた。

7 すると見よ、人々はさばきつかさの席のある場所に集まって来たが、見よ、驚いたことに、五人の者が地に倒れていた。

8 さて見よ、人々は、ニーファイの庭[1]に集まっていた大勢の者のことは何も知らなかったので、互いに、「この男たちはさばきつかさを殺した者たちだ。この男たちが我々から逃げられないように、神が打

第9章
3 ① ヒラ8:27
8 ① ヒラ7:10

たれたのだ」と言った。
9 そして彼らは、この五人を捕らえて縛ると、牢に入れた。それから、さばきつかさが殺され、殺人者たちが捕らえられて牢に入れられたということが広く告げ知らされた。
10 そしてその翌日、殺された大さばきつかさの埋葬に当たって、人々は哀悼の意を表し、1)断食するために集まった。
11 そのため、ニーファイの庭にいて、彼の言葉を聞いたさばきつかさたちも、埋葬に集まっていた。
12 そして彼らは人々の中で、「大さばきつかさが死んでいるかどうか調べるために遣わされた五人の者はどこにいるだろうか」と尋ねた。すると人々は、「あなたがたが遣わしたと言うその五人については、我々は知りませんが、殺人者である五人の者は牢に入れてあります」と答えた。
13 そこでさばきつかさたちは、彼らを連れて来るように求め、彼らは連れて来られた。見よ、それは遣わされた五人の者たちであった。そこで見よ、さばきつかさたちは、その件について彼らに尋ね、彼らは自分たちの行ったことをすべて、さばきつかさたちに話した。
14 「わたしたちは走って、さばきつかさのいる所に行きました。そして、ニーファイが証したとおりのことをすべて見たので、驚いて地に倒れてしまいました。そして、驚きが収まって正気に戻ると、牢に入れられていました。
15 この方の殺害に関しては、わたしたちはだれがそれを行ったのか知りません。わたしたちの知っているのは、ただ、あなたがたに求められたとおりにわたしたちが走って行ったところ、まことに、ニーファイの言葉のとおりに、この方が死んでいたことです。」
16 そこでさばきつかさたちは、人々にそのことをよく説明し、ニーファイを非難して叫んで言った。「見よ、我々は知っている。そのニーファイという者がだれかと共謀して、さばきつかさを殺したに違いない。そして彼は、その後に我々にそのことを告げ、我々を彼の信仰に転向させて、自分が神の選ばれた偉大な者に、また預言者になろうとしたのだ。
17 さて見よ、我々はその男を調べよう。その男は自分の悪事を自白し、このさばきつかさのほんとうの殺害者を我々に告げるだろう。」

10 ① GS「断食」

18そして五人の者は、埋葬の日に釈放された。しかし彼らは、さばきつかさたちがニーファイを非難して語った言葉のことで、さばきつかさたちをたしなめ、彼らの一人一人と論じ合って、彼らを言い伏せた。

19にもかかわらず、さばきつかさたちはニーファイを捕らえて縛らせ、群衆の前に連れて来させた。そして彼らは、いろいろな方法で彼を尋問し、彼に矛盾したことを言わせて、死刑にする訴えを起こせるように謀った。

20そして、彼らは彼に言った。「おまえは共謀者だ。この殺害を行った当人はだれだ。我々に話して、おまえの悪事を認めよ。」また言った。「見よ、ここに金がある。もしおまえが我々に話して、おまえが殺人者と取り決めを結んだことも認めるならば、我々はおまえの命を許してやろう。」

21しかし、ニーファイは彼らに言った。「おお、[1]愚かな者、心に割礼のない者、盲目な者、[2]強情な民よ。あなたがたがこの罪の道を歩き続けるのを、主なる神がいつまで許されるか、あなたがたは知っているのか。

22おお、あなたがたは悔い改めなければ、今あなたがたを待ち受けているひどい滅亡のために、泣きわめき、[1]嘆き悲しむようになるに違いない。

23見よ、わたしがある男と共謀して、わたしたちの大さばきつかさであるセゾーラムを殺させたと、あなたがたは言う。しかしまことに、あなたがたに言うが、あなたがたがそう言うのは、あなたがたがこのことについて知ることができるように、わたしが証したためである。すなわち、あなたがたの中にある悪事と忌まわしい行いを知っている証拠として、あなたがたに証したためである。

24ところが、わたしがこのようにしたので、あなたがたは、わたしがある男と共謀してこのことを行わせたと言う。また、わたしがこのしるしをあなたがたに示したので、あなたがたはわたしのことを怒り、わたしの命を取ろうとしている。

25さて見よ、わたしはもう一つのしるしをあなたがたに示し、あなたがたがこのことで、わたしを殺そうとするかどうかを見よう。

26見よ、あなたがたに言う。セゾーラムの[1]兄弟であるセアンタムの家に行き、彼に、

---

21 ① 使徒7:51
22 ① GS「背く」
22 ② モサ7:24
26 ① ヒラ8:27

27 『この民について非常に多くの災いを預言している、自称預言者のニーファイがあなたと共謀し、それであなたがたが兄弟のセゾーラムを殺したのですか』と言いなさい。
28 見よ、彼は、『そうではない』とあなたがたに言うだろう。
29 そこで、あなたがたは彼に、『あなたが兄弟を殺したのですか』と言いなさい。
30 すると彼は恐れて立ち尽くし、言葉に詰まる。そして彼はあなたがたの言葉を打ち消し、驚いたふりをするだろう。それでも、自分は潔白であるとあなたがたに告げるだろう。
31 しかし彼をよく調べなさい。そうすれば、彼の外套のすそに血が見つかるだろう。
32 あなたがたはこれを見たら、『この血はどこでついたのですか。これはあなたの兄弟の血ではないですか』と言いなさい。
33 すると彼は震えおののき、まるで死んだように蒼白になる。
34 そこであなたがたは、『このように恐れ、また顔色が蒼白になったからには、きっとあなたが罪を犯したのだろう』と言いなさい。
35 すると彼は、ますます恐れて、やがてあなたがたに自白し、自分がこの殺害を行ったことをもはや否定しないだろう。
36 それから彼は、神の力によってわたしニーファイにそれが示されたのでなければ、そのことについて分かるはずがないと、あなたがたに告げるだろう。そのときあなたがたは、わたしが正直な男であり、あなたがたのもとに神から遣わされていることを知るだろう。」
37 そこで彼らは行って、ニーファイから言われたとおりにした。するとまことに、彼の言った言葉はほんとうであった。セアンタムはその言葉のとおりに否定し、またその言葉のとおりに自白した。
38 そして、彼自身がまさにその殺害者であることが立証されたので、五人の者は釈放され、ニーファイも釈放された。
39 ニーファイの言葉を信じた者がニーファイ人の中に何人もおり、また五人の者が証したことで信じた者も何人もいた。五人の者は、牢の中にいた間に改心していたからである。

40 そして、ニーファイは預言者であると言う者が、民の中に何人もいた。

41 また、「神でなければすべてのことを知ることができないので、まことにこの人は神だ。この人はわたしたちの心の思いを告げ、またいろいろなこともわたしたちに告げてきた。わたしたちの大さばきつかさのほんとうの殺害者さえも教えてくれた」と言う者たちもいた。

第10章

主、ニーファイに結び固めの権威を授けられる。ニーファイ、地上でも天でもつなぎ、解く力を付与される。ニーファイ、悔い改めるように民に命じ、悔い改めなければ滅びることを告げる。ニーファイ、御霊によって群衆から群衆へと連れて行かれる。紀元前約二十一年から二十年に至る。

1 さて、民の中に不一致が生じたため、彼らはあちらこちらに分かれて、それぞれ去って行った。そしてニーファイは、彼らの真ん中に立っていて、ただ一人残された。

2 そこでニーファイも、主が自分に示してくださったいろいろなことを深く考えながら、家路に就いた。

3 そして、彼は深く考え、ニーファイの民の悪事と、彼らの隠れた闇の業と、殺人と、略奪と、あらゆる罪悪のことでひどく沈んでいた。そして、彼がこのように心の中で深く考えていたとき、まことに一つの声が彼に聞こえて、こう言われた。

4 「ニーファイ、あなたはこれまで行ってきたことのために幸いである。わたしがあなたに授けた言葉を、あなたが根気よくこの民に告げ知らせたことを、わたしは見たからである。あなたは彼らを恐れることなく、また自分の命を得ようとせず、わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろうとしてきた。

5 さて、あなたがこのように根気よくこのことを行ってきたので、見よ、わたしはとこしえにあなたを祝福しよう。また、わたしはあなたを言葉にも行いにも、信仰にも働きにも、力のある者にしよう。あなたはわたしの思いに反することを求めないので、まことに、すべてのことがあなたの言葉のとおりに行われるであろう。

第10章
2 ① GS「深く考える」
4 ① GS「熱心」
② GS「犠牲」
5 ① ③ 3ニフ11・11
2ニフ4・35、教義
46・30 ② 3ニフ18・20、教義
88・63－65 ③ エノ1・12

6 見よ、あなたはニーファイであり、わたしは神である。見よ、わたしは天使たちの前であなたに宣言する。あなたはこの民に対して力を持ち、またこの民の悪に応じて飢饉、疫病、破壊で地を打つであろう。

7 見よ、あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれるように、わたしはあなたに力を授ける。したがって、あなたはこの民の中で力を持つであろう。

8 したがって、もしあなたがこの神殿に向かって二つに裂けるように言えば、そのとおりになるであろう。

9 もしあなたがこの山に向かって、『崩れて平らになれ』と言えば、そのとおりになるであろう。

10 また見よ、もしあなたが神はこの民を打たれると言えば、そのようになるであろう。

11 さて見よ、今わたしはあなたに命じる。あなたは行ってこの民に、『全能者である主なる神は、「あなたがたは悔い改めなければ滅びるまで打たれる」と言われる』と告げ知らせなさい。」

12 さて見よ、主がこれらの御言葉をニーファイに言われると、ニーファイは立ち止まり、自分の家に帰らず、地の面の方々に散っている群衆のもとへ戻って行った。そして、彼らは悔い改めなければ滅びるという、自分に告げられた主の言葉を彼らに告げた。

13 さて見よ、ニーファイが大さばきつかさの死について彼らに告げて行った、あの大きな奇跡があったにもかかわらず、彼らは心をかたくなにし、主の言葉に聞き従わなかった。

14 そこでニーファイは、彼らに主の言葉を告げ、『あなたがたは悔い改めなければ滅びるまで打たれる』と主が言われる」と語った。

15 さて、ニーファイが彼らにその御言葉を告げても、見よ、彼らはなおも心をかたくなにし、彼の言葉に聞き従おうとしなかった。そして彼らは、ニーファイをののしり、また牢に入れるために彼を捕らえようとした。

16 しかし見よ、神の力がニーファイとともにあったので、彼らはニーファイを捕らえて牢に入れることができなかった。彼は御霊によって取り上げられ、彼らの中から連れ去られてしまったからである。

---

6 ①ヒラ11・4—18
7 ①マタ16・19、GS「奉仕」「結び固め」
9 ①マタ17・20、ヤコ4・6、モル8・24、エテ12・30
11 ①ヒラ5・2

17そして、彼は御霊の内にあって群衆から群衆へと巡り、神の言葉を告げ知らせた。そして、ついに彼はすべての者に神の言葉を告げ終え、すべての民の中に神の言葉を伝え終えた。

18さて、彼らはニーファイの言葉を聴こうとしなかった。そして、争いが起こったため、彼らは分かれて互いに剣で殺し合うようになった。

19このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第七十一年が終わった。

第11章

ニーファイ、民の戦争の代わりに飢饉があるように主に願う。多くの人が死ぬ。人々は悔い改め、ニーファイは主に雨を請い願う。ニーファイとリーハイ、多くの啓示を受ける。ガデアントンの強盗たち、その地で勢力を確立する。紀元前約二十年から六年に至る。

1さて、さばきつかさの統治第七十二年に、争いが激しくなり、国中至る所ですべてのニーファイの民の中に戦争が起こった。

2この滅亡と悪の業を行ったのは、あの秘密強盗団[1]であった。この戦争は年内続き、第七十三年にも続いた。

3そしてこの年に、ニーファイは主に叫び求めた。

4「おお、主よ、この民が剣で滅びることのないようにしてください。おお、主よ、むしろ国内に飢饉があるようにし、彼らに主なる彼らの神を思い起こさせてください。恐らく彼らは悔い改めて、あなたに立ち返るでしょう。」

5すると、ニーファイの言葉のとおりになった。その地に、すなわちすべてのニーファイの民の中に大飢饉があった。このようにして、第七十四年にも飢饉は続き、剣による滅亡の業はやんだが、飢饉によって滅亡がひどくなった。

6この滅亡は第七十五年にも続いた。地は打たれて乾き、穀物の実る季節にも穀物を産しなかった。また、全地が打たれて、ニーファイ人の中だけでなくレーマン人にも影響が及んだ。その結果、民は打たれ、ひときわ邪悪な地方では何千もの人々が死んだ。

7そこで人々は、自分たちがまさに飢饉によって滅びようとしているのを見て、主なる神を思い起こす[1]

第11章
2 ①ヒラ6・18－24、11・25－26
4 ①列上17・1、ヒラ10・6
7 ①ヒラ12・3

ようになり、またニーファイの言葉を思い返すようになった。

8 そして人々は、自分たちの大さばきつかさたちと指導者たちに、ニーファイに対して次のように言うよう頼んだ。「まことに、わたしたちはあなたが神の人であることを知っています。ですから、あなたがわたしたちの滅亡について語った言葉[1]がすべて成就することのないように、主なるわたしたちの神に、この飢饉を遠ざけてくださるよう叫び求めてください。」

9 そこでさばきつかさたちは、人々が望んだ言葉のとおりにニーファイに言った。するとニーファイは、人々が悔い改め、粗布をまとってへりくだっているのを見て、再び主に叫び求めて言った。

10 「おお、主よ、この民は悔い改めています。彼らが自分たちの中からガデアントンの団を一掃したため、団の者たちはいなくなり、彼らは秘密のはかりごとを地中に隠してしまいました。

11 おお、主よ、このように彼らは謙遜になっていますので、あなたの怒りを解いてください。あなたがすでに滅ぼされたあの悪人たちの滅亡をもって、あなたの怒りを和らげてください。

12 おお、主よ、あなたの怒り、まことにあなたの激しい怒りを解いて、この地における飢饉をやませてください。

13 おお、主よ、わたしの祈りをお聴きください。わたしの言葉のとおりになり、地の面に雨が降り、穀物の実る季節に、地が果実と穀物を産するようにしてください。

14 おお、主よ、わたしが、『飢饉があって、剣による滅亡がやむようにしてください』と申し上げたときに、あなたはわたし[1]の言葉をお聴きくださいました。また、あなたがかつて、『この民が悔い改めるならば、わたしは彼らの命を助けよう』と言われましたので、わたしはこの度も、あなたがわたしの言葉をお聴きくださることを存じています。

15 まことに、おお、主よ、彼らに起こった飢饉と疫病と滅亡のために、彼らがすでに悔い改めていることを、あなたは御存じです。

16 おお、主よ、あなたの怒りを解き、彼らがあなたに仕えるかどうかもう一度お試しください。もし仕えるならば、おお、主よ、かつて言われた御言葉の

8 ① ヒラ10・11–14
13 ① 列上18・1、41–46
14 ① ヒラ11・4

とおりに、彼らを祝福してください。」

17そこで、第七十六年に、主は民から怒りを遠ざけて地に雨が降るようにされたので、地は果実の実る季節に果実を産した。また、穀物の実る季節に穀物を産した。

18そこで見よ、民は喜び、神をあがめ、喜びが地の全面に満ちた。そして彼らは、もうニーファイを殺そうとせず、彼を偉大な預言者として、また神から授けられた大いなる力と権能を持つ神の人として尊んだ。

19見よ、彼の弟リーハイも、義にかかわることに関しては少しもニーファイに劣らなかった。

20さて、ニーファイの民は再びその地で栄えるようになり、荒れ果てた所を建て直し始めた。また彼らは、増えて広がり始め、ついに北方と南方の地の全面を、西の海から東の海に至るまで覆った。

21そして、第七十六年が平穏に終わり、第七十七年も平穏に始まった。教会は全地の面に広がり、ニーファイ人もレーマン人も、民の大半が教会に所属し、彼らはその地で非常に大いなる平和を得た。このようにして、第七十七年が終わった。

22また第七十八年も、預言者たちによって定められた教義の幾つかの点について少し争いがあったほかは、平和であった。

23ところが第七十九年に、多くの争いが始まった。しかし、ニーファイとリーハイと、彼らの同僚たちの多くは、教義の真の要点について理解し、日々多くの啓示を受けていたので、人々に教えを説き、その年のうちに争いを鎮めた。

24さて、何年か前にニーファイの民からレーマン人のもとへ行き、自らレーマン人と名乗った離反者たちがおり、また、その離反者たちによって怒りをかき立てられたレーマン人の実の子孫たちもいて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十年に、これらの者たちが同胞と戦争を始めた。

25彼らは殺人と略奪を行っては、山の中や荒れ野や隠れ場に引き揚げて身を隠し、見つからないようにしていた。そして、彼らのもとに行く離反者たちがいたため、日々その人数が増えた。

26このようにしてついに、何年もたたないうちに、彼らは非常に大きな強盗団になった。そして彼らは、ガデアントンの秘密のはかりごとをすべて探し

---

17 ① 申命11・13–17
18 ① ヒラ10・5–11
19 ① ヒラ5・36–44
21 ① GS「イエス・キリストの教会」
23 ① アル26・22、教義107・19

出し、ガデアントン流の強盗になった。
27さて見よ、この強盗たちは、ニーファイの民の中に、またレーマン人の民の中にも、ひどい荒廃、まことにひどい滅亡をもたらした。
28そこで、この滅亡の業をやめさせることが必要であったので、この強盗団を捜し出して滅ぼすために、荒れ野と山に強い兵から成る軍隊が送り込まれた。
29しかし見よ、その年のうちに、兵はそれぞれの地へ追い返された。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十年が終わった。
30さて、第八十一年の初めに、彼らは再びこの強盗団に向かって出て行き、多くの者を殺した。しかし、彼らもひどい損害を受けた。
31また、山や荒れ野に群れを成していたその強盗たちの数が非常に多かったので、兵は再び荒れ野と山からそれぞれの地に引き揚げざるを得なかった。
32そして、このようにしてこの年は終わった。強盗たちは依然として増え続け、強くなったため、ニーファイ人とレーマン人の全軍をものともしなかった。そして、彼らは地の全面で人々をひどく恐れさせた。
33まことにそれは、彼らが多くの地方を襲って、民にひどい滅亡をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去ったからである。
34そこで民は、自分たちの罪悪のために受けたこの大きな災いに促され、再び主なる彼らの神を思い起こすようになった。
35このようにして、さばきつかさの統治第八十一年が終わった。
36ところが第八十二年に、彼らはまた主なる神を忘れ始めた。そして第八十三年に、彼らはさらに罪悪を募らせ、第八十四年にも行いを改めなかった。
37そして第八十五年には、彼らはますます高慢と悪事を募らせ、そのために再び滅亡の機が熟してきた。
38このようにして、第八十五年が終わった。

第12章

人は不安定で、愚かで、悪を行うのが早い。主は御自分の民を懲らしめられる。人の無力さと対比される

36 ① アル46・8

神の力。裁きの日に、人は永遠の命か永遠の罰の定めかのどちらかを受ける。紀元前約六年。

1 このことからわたしたちは、人の子らの心がどれほど不誠実で不安定であるかを知ることができる。まことに、主を信頼[1]する者たちを、主が大いなる限りない慈しみをもって祝福し、栄えさせられるということも、わたしたちは知ることができる。[2]

2 また、主が御自分の民を栄えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民を救い出し、また宣戦することのないように敵の心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。[1] [2]

3 またこのことから、主が多くの苦難をもって御自分の民を懲らしめられなければ、まことに、死と恐怖と飢饉とあらゆる疫病を下されなければ、彼らは主を思い起こそうとしないことが分かる。[2]

4 おお、人の子らは何と愚かで、虚栄心が強く、邪悪で悪魔に従い、何と罪悪を行うのが早く、[1]善を行うのが遅いことか。何と悪しき者の言葉を聴くのが早く、俗世のむなしいものに執着するのが早いことか。[2]

5 まことに、何と高慢[1]になるのが早いことか。何と誇るのが早く、あらゆる罪悪を行うのが早いことか。人の子らは何と主なる神を思い起こすのが遅く、主の勧告に耳を傾けるのが遅いことか。何と知恵の道を歩む[2]のが遅いことか。

6 見よ、人の子らは、自分たちを造って[1]くださった主なる神に治められ、統治されるのを望[2]まない。主が深い慈しみと憐れみをかけてくださっているのに、人の子らは主の勧告を軽んじ、主が自分たちの導き手になってくださるのを望まない。

7 おお、人の子らは何と無力[1]なことか。まことに、地のちりよりも劣っている。

8 見よ、地のちりは、わたしたちの大いなる永遠の神の命令に応じてあちらこちらに動いて分かれる。

第12章
1 ① 詩篇36・7–8、2ニフ22・2、モサ4・6、GS「信頼」
② 歴下26・5、詩篇1・2–3
2 ① GS「背教・背信」
② アル5・53、3ニフ28・35
3 ① モサ23・21、教義98・101・8
② 21、アモ4・6–11
4 ① 出エ32・8
② マタ15・19、ヘブ3・12
5 ① 箴言29・23、GS「高慢」
② GS「歩む（神とともに）」
6 ① イザ45・9、教義58・30、モセ7・32–33
② 教義60・4
7 ① イザ40・15、17、モサ4・19、モセ1・10

9 まことに見よ、神の声によって丘と山は揺れ動き、[1]震える。
10 神の声の[1]力によってそれらは崩れて平らになり、まことに谷のようにさえなる。
11 まことに、神の声の力によって[1]全地が揺れ動く。
12 まことに、神の声の力によって地の基がその中心までも振動する。
13 そして、もし神が大地に向かって、「動け」と言われれば、大地は動く。
14 まことに、もし神が[1]大地に向かって、「[2]逆に進んで、昼を何時間も[3]長くせよ」と言われれば、そのとおりになる。
15 このように、神の言葉のとおりに大地は逆に進むので、人には太陽が静止しているように見える。見よ、これは事実である。確かに動いているのは大地であり、太陽ではないからである。
16 また見よ、もし神が[1]大いなる深みの水に向かって、「[2]干上がれ」と言われれば、そのとおりになる。
17 見よ、もし神がこの山に向かって、「持ち上がって、[1]行ってあの町の上に落ち、町を埋めよ」と言われれば、見よ、そのとおりになる。
18 見よ、もしある人が地中に宝を隠し、主が、「それを隠した者の罪悪のために、それは[2]のろわれよ」と言われれば、見よ、それはのろわれる。
19 もし主が、「今から後とこしえにだれにも見つからないように、おまえはのろわれよ」と言われれば、見よ、これから先とこしえに、だれもそれを得られない。
20 見よ、もし主がある人に向かって、「あなたは自分の罪悪のためにとこしえにのろわれる」と言われれば、そのとおりになるであろう。
21 もし主が、「あなたは自分の罪悪のためにわたしの前から絶たれる」と言われれば、主はそのようになさるであろう。
22 主からこのように言われる者は災いである。罪悪を行う者はそのとおりになり、その者は救われないからである。このため、人々が救われるように、悔い改めが告げ知らされてきたのである。
23 したがって、悔い改めて、主なる神の声に聞き従おうとする者は幸いである。[1]救われるのはこれらの者だからである。
24 神が御自分の大いなる完全さに照らして、人々を

---

9 ① 3 ニフ 22:10
10 ① 1 ニフ 17:46
11 ① 5 モル 23、エテ 4:
14 ① 9 ヨシ 10:12–14
② イザ 38:7–8
③ 列下 20:8–11
16 ① マタ 8:27
② イザ 44:27、51:10
17 ① 3 ニフ 8:10
18 ① 1 モル 1:18、エテ 14:
1 ② ヒラ 13:17
23 ① GS「救い」

悔い改めと善行に導き、それぞれの行いに応じた恵[1)]みに回復してくださるように。

25 わたしはすべての人が救われることを願っている。しかし、わたしたちの読んだところによれば、大いなる終わりの日には、捨てられる者たち、まことに、主の前から追い出される者たち、

26 まことに、無窮の惨めな状態に置かれる者たちがいるとのことである。そして、「善を行った者は[1)]永遠の命を受け、悪を行った者は永遠の[2)]罰の定めを受ける」という御言葉が成就するのである。まことにそのとおりである。アーメン。

レーマン人サムエルがニーファイ人に語った預言。

次の第十三―十五章がそれに相当する。

第13章

レーマン人サムエル、ニーファイ人は悔い改めなければ滅亡することを預言する。ニーファイ人と彼らの富はのろわれる。ニーファイ人は預言者たちを拒んで石を投げつけ、悪霊たちに取り囲まれ、罪悪を行うことに楽しみを求める。紀元前約六年。

1 さて、第八十六年にも、ニーファイ人は依然として悪事を、まことに大きな悪事を続けていた。一方[1)]レーマン人は、モーセの律法に従って神の戒めを厳密に守るように努めていた。

2 そしてこの年に、レーマン人のサムエルという者がゼラヘムラの地にやって来て、民に教えを説き始めた。彼は幾日もの間、民に悔い改めを宣べ伝えたが、民が彼を追い出したので、彼は自分の国へ帰ろうとした。

3 ところが見よ、主の声が彼に聞こえて、もう一度引き返し、[1)]心の中に浮かぶことを、どのようなことであろうと民に預言するように言われた。

4 さて、民は、彼が町に入るのを許さなかった。そこで彼は、町の城壁の上に登り、手を伸ばして大声で叫び、主が心に与えてくださることをすべて民に預言した。

5 彼は民に言った。「見よ、わたし、レーマン人サムエルは、主がわたしの心に与えてくださる主の御言葉を告げる。この民に告げるように主がわたしの心

24 ① GS「恵み」
26 ① マタ25・46、ヨハ5・②28−29、ロマ6・13 GS「罰の定め」
第13章
1 ① ヒラ15・4−5
3 ① 教義100・5

に与えてくださったことは次のとおりである。罰の剣が今この民のうえに迫っている。四百年たたないうちに、罰の剣はこの民のうえに振り下ろされる。

6 まことに、ひどい滅亡[1]がこの民を待ち受けており、それは必ずこの民に下る。悔い改めて、主イエス・キリスト、すなわち、将来必ずこの世に来て、多くの苦しみを受け、御自分の民のために殺される主イエス・キリストを信じる以外に、何事もこの民を救うことはできない。

7 そして見よ、主の天使[1]がそれをわたしに告げた。また主の天使は、わたしに喜び[2]のおとずれを携えて来た。見よ、あなたがたもその喜ばしいおとずれを得られるように、わたしはあなたがたにそれを告げ知らせるために遣わされたのである。しかし見よ、あなたがたはわたしを受け入れようとしなかった。

8 したがって、主は次のように言われる。『ニーファイ人の民の心がかたくなであるので、彼らが悔い改めなければ、彼らからわたしの言葉を取り去ろう。また、わたしの霊も取り去ろう。そしてわたしは、もはや彼らをそのままにはしておかず、彼らの同胞に彼らに対する敵対心を抱かせよう。

9 四百年[1]たたないうちに、わたしは彼らが打たれるようにしよう。まことに、わたしは剣と飢饉と疫病を彼らに及ぼそう。

10 まことにわたしは、激しい怒りをもって彼らを罰しよう。あなたがたの敵の第四世代[1]の者の中には、生き長らえて、あなたがたの完全な滅亡を見る者がいるであろう。あなたがたが悔い改めなければ、このことは必ず起こる』と、主は言われる。『その第四世代の者たちがあなたがたを滅ぼすであろう。

11 しかし、もしあなたがたが悔い改めて、主なるあなたがたの神に立ち返[1]るならば、わたしは怒りを解こう』と、主は言われる。まことに、主は次のように言われる。『悔い改めてわたしに立ち返ろうとする者は幸いである。しかし、悔い改めない者は災いである。

12 まことに、この大きなゼラヘムラの町は災い[1]である。見よ、この町が今救われているのは、義を守っている者たちのおかげである。まことに、この大きな町は災いである。多くの者、まことにこの大きな町の大半の者が将来わたしに対して心をかたくなにすることを、わたしは知っているからである』と、

---

5 ① アル 60・29、3ニフ 9・3
6 ① 2・19 アル 45・10–14、ヒラ 15・17
7 ① アル 13・26 ② イザ 52・7 ヒラ 6・35
8 ① アル 45・10–12
9 ① 1ニフ 12・10、3ニフ 27・32 2ニフ 8・8、24、
10 ① フ 26・9、
11 ① 3ニフ 10・5–7
12 ① 3ニフ 9・3

主は言われる。

13 『しかし、悔い改める者は幸いである。わたしはその者たちの命を救うからである。しかし見よ、もしこの大きな町に義人がいなければ、見よ、わたしは天から火を下し、この町を滅ぼしていたであろう。

14 しかし見よ、この町が今助かっているのは、義人のためである。しかし見よ、あなたがたが義人を追い出す時が来る。そのとき、あなたがたの滅亡の機は熟する』と、主は言われる。『まことに、この大きな町は、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。

15 また、ギデオンの町も、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。

16 また、周りの地にあるニーファイ人が所有しているすべての町は、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。』

17 また見よ、万軍の主は言われる。『この地にいる民のために、まことに彼らの悪事と忌まわしい行いのために、のろいが地に下るであろう。』

18 そしてこのように、万軍の主、まことにわたしたちの大いなるまことの神は言われる。『地中に宝を隠す者は、その者が義人であって、主に託してそれを隠すのでなければ、地のひどいのろいのために、もはや二度とそれを見いだせないであろう。』

19 主は言われる。『宝を隠す者はわたしに託して隠すようにわたしは望む。わたしに託すことなく宝を隠す者はのろわれる。義人以外にはだれも、わたしに託して宝を隠さないからである。わたしに託すことなく宝を隠す者はのろわれるし、その宝ものろわれる。また、地がのろわれるために、それを取り出す者はだれもいない。

20 人々が富に執着して自分の宝を隠す日が来る。人々は自分の富に執着し、敵の前から逃げるときに自分の宝を隠すであろう。しかし、彼らは宝を隠すときにわたしに託さないので、彼らも宝ものろわれる。そしてその日に彼らは打たれる』と、主は言われる。

21 見よ、あなたがた、この大きな町の民よ、注意を払い、わたしの言葉を聴きなさい。まことに、主が言われる御言葉を聴きなさい。あなたがたは富のためにのろわれると、主は言われる。また、あなたがたが富に執着し、それを授けてくださった御方の

13 ① 創世19:24、列下1:9–16、3ニ7:11
17 ① ヒラ12:18
18 ① モル1:18、エテ14:
21 ① 1 GS「聞き従う・聴く」

御言葉に聞き従わなかったので、あなたがたの富も
のろわれると、主は言われる。
22 あなたがたは、主なる神が授けてくださったもの
について、主を思い起こさない。あなたがたはいつ
も富のことを心にかけていて、主なるあなたがたの
神に富のことを感謝するのを忘れている。まこと
に、あなたがたの心は主に向いておらず、ひどくお
ごり高ぶって、誇りや大言壮語、ねたみ、争い、悪
意、迫害、殺人、そのほかあらゆる罪悪に陥ってい
る。
23 このために、主なる神は、のろいが地に下るよう
に、またあなたがたの富にも下るようにされた。そ
れはあなたがたの罪悪のためである。
24 まことに、この民は災いである。あなたがたは昔
の人々が行ったように、今、預言者たちを追い出し、
あざけり、石を投げつけ、彼らを殺し、また彼らに
対してあらゆる罪悪を行っているからである。
25 あなたがたは語るとき、『わたしたちは、もし昔
の先祖の時代に生きていたならば、預言者たちを殺
さなかったであろう。預言者たちに石を投げつける
ことも、彼らを追い出すこともしなかったであろ
う』と言う。
26 見よ、あなたがたは彼らよりも悪い。主が生きて
おられるように確かに、もし預言者があなたがたの
中に来て、あなたがたの罪と不義を証する主の御言
葉を告げ知らせたならば、あなたがたはその預言者
のことを怒り、追い出し、あらゆる方法を使って殺
そうとする。まことに、彼があなたがたの行いは悪
いと証するので、あなたがたは、彼は偽預言者であ
り、罪人であり、悪魔から出た者であると言う。
27 しかし見よ、もしある人があなたがたの中に来
て、『これを行いなさい。行っても罪悪ではない。そ
れを行いなさい。行っても苦しみを受けない』と言
えば、また、『あなた自身の心の高ぶりに従って歩き
なさい。まことに、あなたの目の高ぶりに従って歩
きなさい。あなたの心が望むことを何でも行いなさ
い』と言えば、すなわち、もしある人があなたがた
の中に来てこのように言えば、あなたがたは彼を受
け入れ、彼は預言者であると言うであろう。
28 まことに、あなたがたは彼をあがめ、彼にあなた
がたの持ち物を与え、彼にあなたがたの金銀を与
え、また彼に高価な衣服を着せるであろう。そして、

22 ① ルカ 12・34、GS「富」
「物欲」
② GS「高慢」
③ GS「ねたみ」
24 ① 歴下 36・15–16、1ニフ・1・20
③ 使徒 7・51、歴下 18・7、ルカ 16・26
25 ① 31
② 30・9–10
③ イザ 4・16
④ ガラ 13・57
27 ① マタ 2・11、GS「偽善売教」

彼があなたがたにへつらいの言葉を語り、万事よしと言うので、あなたがたは彼を非難しないであろう。
29 おお、邪悪でよこしまな人々よ、かたくなで強情な民よ、あなたがたは、主がいつまであなたがたをそのままにしておかれると思っているのか。まことに、あなたがたはいつまで愚かな盲目の導き手たちに引かれていくつもりか。まことに、あなたがたはいつまで光よりも闇を選ぶつもりか。
30 まことに見よ、主の怒りはすでにあなたがたに向かって燃えている。見よ、主はあなたがたの罪悪のために地をのろわれた。
31 また見よ、主があなたがたの富をのろわれて、それがなくなりやすくなり、あなたがたがそれを保つことのできない時が来る。あなたがたは、貧しいときにそれを保てない。
32 あなたがたの貧しいときに、あなたがたは主に叫び求めるであろう。しかし、あなたがたが叫び求めても無駄である。すでに荒廃があなたがたに及んでおり、あなたがたの滅亡が確定しているからである。そして、『その日、あなたがたは涙を流し、泣きわめくであろう』と、万軍の主は言われる。また、そのときにあなたがたは嘆いて、
33 『おお、わたしは悔い改め、預言者たちを殺さず、石を投げつけず、追い出さなければよかった』と言うであろう。まことに、その日にあなたがたは言うであろう。『おお、主なるわたしたちの神が富を与えてくださったその日に、主を思い起こしておけばよかった。そうすれば、富がなくなりやすくなって、それを失うということはなかったであろう。見よ、わたしたちの富は今はもうわたしたちのもとにない。
34 見よ、わたしたちがここに道具を置くと、翌日にはそれはなくなる。見よ、戦いのために自分の剣を捜す日には、それはなくなっている。
35 まことに、わたしたちは自分の宝を隠しておいたのに、地ののろいのために失われてしまった。
36 おお、主の御言葉がわたしたちに及んだ日に、悔い改めておけばよかった。今、地はのろわれ、すべてのものがなくなりやすくなっており、わたしたちはそれらを保てない。
37 見よ、わたしたちは悪霊に取り囲まれている。わたしたちの霊を滅ぼそうとしてきた者の使いに取り

---

29 ① 28 ①
33 ② 31 ①
② ① ④ ③ ② ① ②
マタ 23・37
モル 2・10–15
モル 1・17–18
ヨハ 3・19
ヨハ 24・13
マタ 15・14
ニフ 2・28–9
テモ 4・3–4

囲まれている。わたしたちの罪悪は大きい。おお、主よ、あなたの怒りを解いていただけませんでしょうか。』これがその日にあなたがたの言う言葉である。

38 しかし見よ、あなたがたの試しの日はすでに過ぎ去った。あなたがたは自分の救いの日を引き延ばしたので、とうとう永遠に間に合わなくなってしまい、あなたがたの滅亡は確定してしまった。まことに、あなたがたは手に入れることのできないものを、生涯をかけて求めてきたのである。あなたがたは、罪悪を行いながら幸福を求めてきた。それはわたしたちの大いなる永遠の頭の内にある、あの義の本質に反することである。

39 おお、この地の民よ、わたしの言葉を聞いてもらいたい。わたしは主の怒りが解かれるように、またあなたがたが悔い改めて救われるようにと祈っている。」

第14章

サムエル、キリストの降誕の時には夜中も明るく、一つの新しい星が現れることを予告する。キリストは人々を肉体の死と霊の死から贖われる。キリストの死のしるしとして、三日間の暗闇があり、岩が裂け、自然の大変動がある。紀元前約六年。

1 さて、レーマン人サムエルは、ほかにもここに書き記せない非常に多くのことを預言した。

2 見よ、彼は民に言った。「見よ、わたしはあなたがたにしるしを与える。もう五年たつと、見よ、神の御子がその御名を信じるすべての人を贖うために来られる。

3 見よ、神の御子の来臨の時のしるしとして、あなたがたに次のことを知らせておく。見よ、天に大いなる光があるために、神の御子が来られる前の夜は暗闇がなく、人にはまるで昼のように思われる。

4 したがって、二昼一夜がまるで一日のようであって、夜がない。これがあなたがたへのしるしである。あなたがたには日の出も日の入りも分かるので、二昼一夜であることが確かに分かる。しかし、夜は暗くならない。それが神の御子のお生まれになる前夜である。

5 また見よ、あなたがたが一度も見たことのないよ

---

38 ① モル2・15
② アル34・33－34
③ アル41・10－11

第14章
1 ① ヒラ13・2
3 ① ニフ1・15
4 ① GS「イエス・キリストー降誕と死に関する預言」

うな一つの新しい星[1]が現れる。これもあなたがたへのしるしである。

6 そして見よ、これだけではない。天には多くのしるしと不思議がある。

7 そして、あなたがたは皆、驚き、不思議に思い、地に倒れ[1]るであろう。

8 そして、神の御子を信じる[1]者は皆、永遠の命を受ける。

9 見よ、わたしが来て、このことをあなたがたに告げるように、主は天使を通じてわたしに命じられた。まことに、これらのことをあなたがたに預言するようにと、主は命じられた。まことに、主はわたしに、『悔い改めて主の道を備えよと、この民に叫びなさい』と言われた。

10 ところが、わたしがレーマン人であって、主から命じられた御言葉をあなたがたに語ったので、また、それがあなたがたにとって堪え難かったので、あなたがたはわたしを怒って、わたしを殺そうとし、あなたがたの中からわたしを追い出した[1]。

11 あなたがたは、わたしの言葉を聞かなければならない。わたしがこの町の城壁に登ったのは、あなたがたの罪悪のゆえにあなたがたを待ち受けている神の裁きについて、あなたがたが聞いて知ることができるように、またあなたがたが悔い改めの条件を知ることができるようにするためである。

12 また、あなたがたがイエス・キリスト、すなわち神の御子、天地の[1]父、時の初めからの万物の創造主の来臨を知ることができるようにするためであり、さらにあなたがたがイエス・キリストの来臨のしるしを知って、イエス・キリストの御名を信じられるようにするためである。

13 あなたがたは、イエス・キリストの御名を信じ[1]るならば、罪をすべて悔い改めるであろう。それによってあなたがたは、イエス・キリストの功徳[2]を通じて罪の赦しを得るのである。

14 見よ、さらにわたしはもう一つのしるし、すなわち、イエス・キリストの死のしるしをあなたがたに知らせておく。

15 見よ、イエス・キリストは必ず死なくてはならない。救い[1]がもたらされるためである。まことに、それはイエス・キリストの務めである。死者の復活[2]をもたらし、それによって人々が主の御前に導かれ

---

5 ① マタ 2・1–2、3
7 ① ニフ 1・21
8 ① ヨハ 3・16
10 ① ヒラ 13・2
12 ① モサ 3・8、3 ニフ 9・15、エテ 4・7、GS「イエス・キリスト」
13 ① 使徒 16・30–31
② 教義 19・16–20
15 ① GS「救い主」
② アル 42・23、GS「復活」

るようにするために、イエス・キリストが死なれることが必要になっているのである。

16 まことに見よ、この死は復活をもたらし、第一の死、すなわちあの霊の死から全人類を贖う。[1]全人類は、アダムが堕落[2]したことによって主の御前から絶[3]たれているので、現世の事柄に関しても霊的な事柄に関しても、ともに死んだ[1]と考えられているからである。

17 しかし見よ、キリストの復活は人類、まことに全人類を贖って[1]主の御前に連れ戻す。

18 そして、それは悔い改めの条件を果たし、悔い改める者は、切り倒されて火の中に投げ込まれることはないが、悔い改めない者は皆、切り倒されて火の中に投げ込まれる。そしてこれらの者には、再び霊の死、まことに第二の死が及ぶ。彼らは義にかかわる事柄に関して再び絶たれるからである。

19 だから、あなたがたは悔い改めなさい、悔い改めなさい。さもなければ、あなたがたはこれらの事柄を知っていて行わないので、罪の宣告を受けることになり、またこの第二の死に落とされることになる。

20 ところで見よ、前に言ったように、もう一つのしるし、すなわちキリストの死のしるしについて述べ[1]ると、見よ、キリストが死なれる日には、太陽は暗[2]くなって、あなたがたにその光を与えようとしない。また、月も星も同様である。キリストが亡くなられるときから三日間[3]、すなわちキリストが再び死者の中からよみがえられるときまで、この地の面にはまったく光がない。

21 まことに、キリストが息を引き取られるときには、何時間[1]も雷と稲妻があり、大地が震動し、揺れ動くであろう。また、この地の面にある岩は地上の岩も地下の岩も、今あなたがたの知っているように堅固であり、その大半は頑丈な一つの塊であるが、それが砕かれる[2]であろう。

22 まことに、それらの岩は二つに裂けて、ひびや割れ目や砕けた破片がその後いつまでも、全地の面に、また地上にも地下にも見いだされる[1]であろう。

23 また見よ、大暴風雨があるであろう。そして、多くの山が谷のように低くなり、現在谷と呼ばれている多くの場所が、非常に高い山となるであろう。

24 また、多くの街道が破壊され、多くの町が荒れ果[1]

---

16 ① GS「贖いの計画」
② GS「堕落（アダムとエバの）」
③ GS「死（霊の）」
④ GS「贖い・贖う」
17 ① モルモン3・10
20 ① アルマ42・6–9
② カモ23・44
21 ① ニフ8・5–25
② ニフ8・6
③ ニフ10・9
22 ① ニフ8・18
24 ① ニフ9・3–12

てるであろう。
25 さらに、多くの墓が開かれて、多くの死者を出し、多くの聖徒が多くの人に現れるであろう。
26 見よ、このように天使がわたしに語った。何時間にもわたって雷と稲妻があると、天使はわたしに言った。
27 また天使はわたしに、これらのことは、このように雷と稲妻と暴風雨が続く間にあり、さらにまた暗闇が三日間、全地の面を覆うと言った。
28 また天使はわたしに、これらのしるしとこれらの不思議がこの地の全面に現れることを、多くの者が信じられるように、また人の子らの中に不信仰の起こることがないように、多くの者はこれらのことよりも大いなることを見るであろうと言った。
29 またこれは、信じる者が皆救われ、信じない者に義の裁きが下るようにするためでもある。そして、もし彼らが罪に定められるとすれば、自分の罪の宣告を自分自身に招くのである。
30 覚えておきなさい。わたしの同胞よ、覚えておきなさい。滅びる者は自分で滅び、罪悪を行う者は自分でそれを行うのである。なぜなら、あなたがたは自由であり、あなたがたは随意に行動することを許されているからである。見よ、神はあなたがたに知識を与えて、あなたがたを自由にしてくださったからである。
31 神はあなたがたが善悪をわきまえられるようにしてくださり、また、あなたがたが生でも死でも選べるようにしてくださった。あなたがたは善を行って、善であるものに回復される。言い換えれば、あなたがたに回復された善であるものを持つことができる。また、あなたがたは悪を行って、あなたがたに回復された悪であるものを持つこともできるのである。」

第15章

主はニーファイ人を愛しておられたので、彼らを懲らしめられた。改宗したレーマン人は信仰が確固として堅固である。主は末日にレーマン人に憐れみをかけられる。紀元前約六年。

1 「わたしの愛する同胞よ、見よ、あなたがたに告げる。悔い改めなければ、あなたがたの家は荒れ果

25 ①マタ23・27－54、9・11
26 ①ニフ1・19・10、3ニアル13・26
27 ①ニフ8・3
28 ①1ニフ12・4－5
29 ①GS「最後の裁き」
30 ①2ニフ2・26－29、GS「選択の自由」
モセ6・56、
31 ①②GS「知識」
②モロ7・16
③2ニフ2・28－29、アル3・26－27、アル41・3－5
第15章
1 ①マタ23・37－38

てたまま残されるであろう。

2 まことに、あなたがたが悔い改めなければ、あなたがたの婦人たちは乳を飲ませる日に嘆き悲しむことになる。あなたがたは逃げようとするが、避け所となる場所がない。また、子供を宿している婦人たちは災いである。身重で逃げられないからである。したがって、その婦人たちは踏みにじられ、置き去りにされて死ぬであろう。

3 まことに、ニーファイの民と呼ばれているこの民は、自分たちに示されるこれらのしるしと不思議をすべて見るときに、悔い改めなければ災いである。まことに、彼らは主の選ばれた民であったからである。まことに、ニーファイの民を主は愛してこられ、また主はこの民を懲らしめてこられた。主はニーファイの民を愛しておられたので、彼らが罪悪を犯した日に彼らを懲らしめられた。

4 しかし見よ、わたしの同胞よ、主はレーマン人を憎んでこられた。彼らの行いがいつも悪かったからであり、これは彼らの先祖の言い伝えが正しくなかったためである。ところが見よ、ニーファイ人の宣教によって、救いがレーマン人に与えられ、このために主は彼らの時代を引き延ばされた。

5 またあなたがたは、レーマン人の大半が自分の義務の道にあり、神の御前を注意深く歩み、モーセの律法に従って神の戒めと神の掟と神の裁決を守るように努めているのを、見てもらいたい。

6 まことに、あなたがたに言うが、彼らの大半がこのように行っている。そして彼らは、残りの同胞にも真理を知らせようと熱心に勤勉に努めているので、日々彼らの仲間に加わる者が多い。

7 見よ、あなたがた自身見て知っているとおり、彼らの多くは今真理を知っており、彼らの先祖の言い伝えが邪悪で忌まわしいことも知っており、また聖文、まことに書き記されている聖なる預言者たちの預言を信じるようになっている。これらの預言は主を信じる信仰と悔い改めに彼らを導き、その信仰と悔い改めが彼らに心の変化をもたらしている。

8 したがって、あなたがた自身知っているとおり、このようになった者は皆、信仰において、また彼らに自由を得させた事柄において確固として堅固である。

9 また、あなたがたも知っているように、彼らは自

---

2 ① マタ24・19
3 ① 箴言3・12、ヘブ12・5–11、教義95・1
4 ① GS「言い伝え」
② アル9・16
5 ① ヒラ13・1
7 ① GS「改宗」
8 ① アル23・6、27・27、
3 ニフ6・14

分たちの武器を埋めてしまった。そして彼らは、決して罪を犯してはならないと思い、武器を取ることを恐れている。まことに、あなたがたは彼らが罪を犯すのを恐れているのを見ることができる。見よ、彼らは敵に踏みにじられて殺されるに任せ、敵に対して剣を振り上げようとしない。これは、彼らがキリストを信じているためである。

10 また彼らには、自分の信じていることを信じる確固とした強さがあり、一度啓発されると固く守り通す強さもあるので、彼らが罪悪を犯したにもかかわらず、見よ、主は将来彼らを祝福し、彼らの時代を引き延ばされるであろう。

11 まことに、たとえ彼らが不信仰に陥ったとしても、主は彼らの時代を引き延ばされ、わたしたちの先祖と預言者ゼノスとそのほか多くの預言者が語ってきた時が訪れるであろう。すなわち、同胞であるレーマン人に、[3]再び以前のように真理が知らされることについて語ってきた、その時が訪れるであろう。

12 まことに、あなたがたに言う。末の時代における主の[1]約束はわたしたちの同胞であるレーマン人に与えられている。彼らは多くの苦難に遭い、地の面であちらこちらへ追い立てられ、[2]狩り出され、打たれ、広く散らされて、避け所となる場所がなくなるにもかかわらず、主は彼らに[3]憐れみをかけられる。

13 これは、彼らが真実の知識、すなわち彼らの贖い主、彼らの大いなるまことの[1]羊飼いを知る知識に再び導かれて、その羊飼いの羊の中に数えられるという預言にかなっている。

14 したがって、あなたがたに言う。あなたがたが悔い改めなければ、彼らの方があなたがたよりも幸い[1]である。

15 見よ、これまであなたがたに示されてきた[1]力ある業が、彼らに、まことに先祖の言い伝えのために不信仰に陥っている彼らに示されていたならば、彼らは決して二度と不信仰に陥らなかったであろう。あなたがた自身、それを見ることができる。

16 したがって主は、『彼らを完全には滅ぼさず、わたしの知恵にかなう日に、彼らを再びわたしに立ち返らせよう』と言われる。

17 また見よ、主は、ニーファイ人の民について、『もし彼らが悔い改めてわたしの思いを行うように努め

---

9 ① アル 24・17–19
11 ① アル 9・16
11 ② ヒラ 8・19
11 ③ ニフ 30・5–8
12 ① エノ 1・12–13
12 ② モル 5・15
12 ③ 1ニフ 13・31、2ニフ 10・18–19、ヤコ 3・5
13 ① GS「良い羊飼い」
13 ② ニフ 16・12
14 ① ヒラ 7・23
15 ① マタ 11・20–23

なければ、わたしが彼らの中で行ってきた多くの力ある業にもかかわらず、彼らは不信仰であるので、わたしは彼らをことごとく滅ぼそう。[1]主が生きているように確かに、これらのことは行われる』と言われる。」

第16章

サムエルの言葉を信じたニーファイ人、ニーファイからバプテスマを受ける。悔い改めないニーファイ人の矢も石も、サムエルを殺すことはできない。ある者は心をかたくなにし、別の者は天使を見る。キリストを信じることも、エルサレムにキリストが来臨されることを信じることも道理にかなっていないと、不信者たちは言う。紀元前約六年から一年に至る。

1さて、レーマン人サムエルが町の城壁の上で語る言葉を聞いた者は大勢いた。そして、彼の言葉を信じた者は皆、出て行ってニーファイを捜した。彼らは行ってニーファイを見つけると、バプテスマを受けて主のものとなることを願って、罪を彼に告白して否定しなかった。

2しかし、サムエルの言葉を信じない者たちもおり、彼らは皆サムエルに腹を立てた。そして彼らは、城壁の上にいる彼に石を投げつけた。また、城壁の上に立っている彼に多くの者が矢を射かけた。しかし、主の御霊が彼に伴っていたので、彼らは石も矢も当てることができなかった。

3そして、当てることができないのを見て、さらに多くの者が彼の言葉を信じた。そして彼らは、バプテスマを受けるためにニーファイのもとへ行った。

4見よ、それは、ニーファイがバプテスマを施し、預言し、教えを説き、民に悔い改めを叫び、またキリストが[1]間もなく必ず来られることを民に知らせるために、数々のしるしと不思議を示し、彼らの中で数々の[2]奇跡を行っていたからである。

5ニーファイは、間もなく起こることを民に告げていた。それらのことが実際に起こったときに信じることができるように、あらかじめそれが知らされていたということを認めさせ、思い起こさせるためであった。そこで、サムエルの言葉を信じた者は皆、バプテスマを受けるためにニーファイのもとへ行った。彼らは悔い改め、罪を告白するために行ったの

17 ① ヒラ13・6–10
第16章
4 ① ヒラ14・2
② GS「奇跡」

である。

6 しかし、民の大半はサムエルの言葉を信じなかった。そこで彼らは、石も矢も彼に当てることができないのを見ると、彼らの隊長たちに叫び、「この男を捕らえて、縛ってくれ。この男には悪霊がついている。この男の内にある悪魔の力のために、我々は石も矢も当てることができない。だから、この男を捕らえて、縛り、追い払ってくれ」と言った。

7 そこで、隊長たちが行ってサムエルを捕らえようとしたところ、見よ、彼は城壁から飛び降りて、彼らの地から逃げ出し、自分の国へ帰って行った。そして彼は、自分の民の中で教えを説き、預言し始めた。

8 見よ、彼がこれ以上ニーファイ人を訪れたという話は一度もない。民の状況は以上のとおりであった。

9 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十六年が終わった。

10 また、さばきつかさの統治第八十七年もこのようにして終わり、民の大半は依然として高慢で悪事を続けており、神の前をさらに注意深く歩んでいたのは、少数の者にすぎなかった。

11 さばきつかさの統治第八十八年もこのような状態であった。

12 また、さばきつかさの統治第八十九年も、民がさらに罪悪にふけるようになり、ますます神の戒めに反することを行うようになったことを除けば、民の状況はほんの少し変わっただけであった。

13 ところが、さばきつかさの統治第九十年になると、民に数々の大きなしるしと不思議が与えられ、預言者たちの言葉が成就し始めた。

14 また、1)天使たちが人々、すなわち賢い人々に現れ、胸躍る大いなる喜びのおとずれを彼らに告げ知らせた。このように、聖文に記されていることがこの年に成就し始めた。

15 にもかかわらず、ニーファイ人もレーマン人も、民の中で最も信仰の深い人々を除いて、彼らは皆、心をかたくなにし始め、自分自身の力と自分自身の知恵に頼るようになって、こう言った。

16 「このように多くのことの中で、彼らがうまく言い当てたことも幾らかある。しかし見よ、これまで述べられてきたこれらの大いなる驚くべき業が、す

13① 3ニフ1・4
14② ヒラ14・3–7
14① アルマ13・26
15① イザ5・21

べて現実に起こることはあり得ないのを我々は知っている。」

17 また、彼らは互いに論じ、論争して言った。

18 「キリストのような者が来ることは道理に合わない。仮にそうだとして、これまで言われてきたように、その人が神の御子であり天地の父であるとすれば、なぜエルサレムにいる者たちだけでなく、我々にも現れないのか。

19 まことに、なぜエルサレムの地だけでなく、この地にも姿を現さないのか。

20 しかし見よ、我々は、これが我々の先祖から伝えられてきた悪い言い伝えであることを知っている。これが伝えられたのは、将来起こるある大いなる驚くべきことを我々に信じさせるためであるが、それは我々の中ではなく、我々の知らない遠くの地で起こる。だから、我々はその言い伝えがほんとうであることを自分の目で見ることができないので、彼らは我々を無知の中にとどめておくことができる。

21 また彼らは、悪しき者の悪知恵と不思議な術策によって、我々の理解できないある大きな奇跡を起こ

し、我々を従えて彼らの言葉の奴隷とし、彼らの僕にしようとする。それは、我々が彼らから御言葉を教わろうとするからである。このように我々が彼らに自分の身をゆだねようとすれば、彼らは生涯我々を無知の中にとどめておくだろう。」

22 民は、愚かでむなしいことをほかにもたくさん心に思い浮かべた。またサタンが絶えず罪悪を行うように彼らをあおり立てたので、彼らはひどく心を乱された。まことに、サタンは方々を巡って地の全面にうわさと争いを広め、善いことと将来起こることに対して民の心をかたくなにさせたのであった。

23 そして、主の民の中で数々のしるしと不思議が行われ、また主の民が多くの奇跡を行ったにもかかわらず、サタンは地の全面で人々の心を大いに支配するようになった。

24 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第九十年が終わった。

25 これでヒラマンと彼の息子たちの記録によるヒラマン書は終わる。

---

18 ① アル30・12–13
20 ① GS「言い伝え」
22 ① エテ12・5–6、19
② GS「むなしさ」

第三ニーファイ
ニーファイの書

このニーファイは、ヒラマンの息子であったニーファイの息子である

そのヒラマンはヒラマンの息子であり、そのヒラマンはアルマの息子であり、アルマはアルマの息子であり、そのアルマはリーハイの息子ニーファイの子孫であり、リーハイはユダの王ゼデキヤの治世の第一年にエルサレムを出て来た人である。

第1章

ヒラマンの息子ニーファイはゼラヘムラの地を去り、その息子ニーファイが記録を書き継ぐ。しるしと不思議がたくさんあったにもかかわらず、悪人は義人を殺そうとする。キリストの降誕の夜が来る。しるしが示され、新しい星が現れる。偽りと欺きが増し、ガデアントンの強盗が多くの者を殺す。紀元約一年から四年に至る。

1 さて、第九十一年が過ぎ去った。それはリーハイがエルサレムを去ったときから六百年であり、その年には、ラコーニアスが大さばきつかさであり、国の総督であった。

2 ヒラマンの息子ニーファイは、[1]真鍮の版と、それまで書き継がれてきたすべての記録と、リーハイがエルサレムを去って以来神聖に保存されてきたすべての品々に関する責任を、長男の[2]ニーファイにゆだねて、ゼラヘムラの地を去っていた。

3 彼はその地を去ったが、彼がどこへ行ったかはだれも知らない。そして、彼の息子ニーファイが父に代わって記録を、すなわちこの民の記録を書き継いだ。

4 さて、第九十二年の初めには、見よ、預言者たちの預言がさらに完全に成就し始めた。民の中にさらに大きなしるしと、さらに大きな奇跡が行われ始めたからである。

5 しかし、レーマン人サムエルによって述べられた[1]言葉の成就する時は過ぎ去ったと言い出す者たち

第三ニーファイ
第1章
1 ① 2 ニフ 25・19
2 ① アル 37・3–5
② GS「ニーファイ（ニーファイの息子、ヒラマンの孫）」
3 ① 3 ニフ 2・9
5 ① ヒラ 14・2–4

が何人かいた。
6 彼らは同胞のことを喜び始めて、「見よ、時は過ぎ去り、サムエルの言葉は成就していない。だから、あなたがたがこのことを喜び、信じたのは、むなしいことだった」と言った。
7 そして彼らは、国中にひどい騒動を起こした。そこで、信じていた人々は、述べられていることが何らかの理由で起こらないようなことがありはしないかと、非常に悩み始めた。
8 しかし見よ、彼らは、まるで夜のない一日のような二昼二夜を確固として待ち設け、自分たちの信仰がむなしいものでなかったことを知ろうとした。
9 さて、信仰心のない者たちはある一日を特に定め、預言者サムエルによって告げられたしるしがその日までに現れなければ、これらの言い伝えを信じているすべての人を殺すことにした。
10 さて、ニーファイの息子ニーファイは、自分の民のこの悪事を見て、心に非常な憂いを覚えた。
11 そこで彼は、出て行って地に伏し、自分の民のために、すなわち先祖の言い伝えを信じていることで殺されようとしている人々のために、熱烈に神に叫び求めた。
12 そして彼は、1)終日熱烈に主に叫び求めた。すると見よ、主の声が彼に聞こえて言われた。
13 「頭を上げて、元気を出しなさい。見よ、時は近い。今夜、しるしが示され、1)明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して2)語ってきたすべてのことを成就することを、世の人々に示す。
14 見よ、わたしは、世の1)初めから人の子らに知らせてきたすべてのことを2)成就するため、また父と子の3)両方の思いを行うために、4)わたし自身の民のもとへ行く。わたし自身のゆえに父の御心を行い、わたしの肉のゆえに子の思いを行う。見よ、時は近い。今夜、しるしが示されるであろう。」
15 さて、ニーファイに下された御言葉は告げられたとおりに成就し、見よ、太陽が沈んでも少しも1)暗くならなかった。こうして夜になっても暗くならなかったので、民は驚いた。
16 そして、預言者たちの言葉を信じなかった多くの者は地に1)倒れ、まるで死んだようになった。預言者たちの言葉を信じた者たちに対して企てた2)殺害の大

9 ①GS「殉教者・殉教」
エノ1・4、アル5・
12 ①
13 ①46
②GS「イエス・キリスト―降誕と死に関する預言」
ルカ2・10―11
14 ①アル42・26
②マタ5・17―18
③教義93・3―4
15 ④ヨハ1・11
①ヒラ14・3
16 ①ヒラ14・7
②ニフ1・9
3

計画が破れてしまったことが分かったからである。また、かつて告げられたしるしがすでに現れたからである。

17そして彼らは、神の御子が間もなく御姿を現されるに違いないということを知るようになった。まことに、要するに北の地でも南の地でも、西から東に至るまで全地の面にいる人々は皆、非常に驚いて地に倒れた。

18彼らは預言者たちが長年これらのことについて証してきたこと、またかつて告げられたしるしがすでに現れたことを知ったからである。そして彼らは、自分たちの罪悪と不信仰のために恐れ始めた。

19そして、その夜は一晩中少しも暗くならず、まるで真昼のように明るかった。そして朝には、いつものとおりに再び太陽が昇った。そこで彼らは、しるしが与えられていたので、その日に主がお生まれになったことを知った。

20そして、預言者の言葉のとおりに、すべてのことがことごとく成就した。

21そして、一つの新しい星[1]もその言葉のとおりに現れた。

22さて、このとき以後、サタンは民の心をかたくなにし、彼らが見たそれらの数々のしるしと不思議を信じないようにさせるために、民の中に偽りを広め始めた。しかし、これらの偽りと欺きにもかかわらず、民の大半は信じて、主に帰依した。

23さて、ニーファイは民の中に出て行き、またほかにも多くの者が出て行き、悔い改めのためのバプテスマを施し、それによって民の中に罪の大きな赦し[1]があった。このようにして、民はその地に再び平和を保つようになった。

24そして、もうモーセの律法を守る必要[1]がないことを、聖文を使って立証しようと努めながら、教えを説き始めた数人の者がいたほかは、何の争いもなかった。この数人の者は、聖文を理解していなかったので、このことを誤解したのである。

25さて、彼らは間もなく心を改め、自分たちが思い違いをしていたことを納得した。律法はまだ成就していないことと、それはことごとく成就しなければならないことが彼らに知らされたからである。律法は成就しなければならず、まことに、それがすべて成就するまで一点一画もむなしくなることはない

---

21 ① ルカ 2・1–7、ヒラマタ 2・1–2
19 ① マタ 5・17–18
23 ① 14・5 GS「罪の赦し」
24 ① アル 34・13
25 ①

という御言葉が彼らに与えられた。したがって、この年のうちに彼らは自分たちの思い違いを知り、自分たちの誤りを告白した。

26 このように、すべての聖なる預言者たちの預言の言葉のとおりに数々のしるしが現れ、民に喜びのおとずれがもたらされて、第九十二年が過ぎ去った。

27 そして、第九十三年も平穏に過ぎ去ったが、ただガデアントンの強盗が山々に住んでいて、この地を荒らし回っていた。彼らのとりでと隠れ場が非常に堅固であったので、民は彼らを打ち負かせなかった。そのため彼らは多くの殺人を犯し、民の中でひどい殺戮を行った。

28 そして第九十四年に、ニーファイ人の多くの離反者たちが彼らのところへ逃げ込んだため、彼らは非常に増え始めた。このことはこの地に残っているニーファイ人に深い憂いを与えた。

29 また、レーマン人の中にも深い憂いを与える事柄があった。見よ、彼らには成人になった子供たちと年齢の進んできた子供たちが大勢いたが、彼らは独り立ちすると、あるゾーラム人たちの偽りとへつらいの言葉に惑わされ、あのガデアントンの強盗の仲間になった。

30 このようにレーマン人も苦しんだ。そして、若者たちの悪事のために、彼らの信仰と義は衰え始めた。

第 2 章

悪事と忌まわしい行いが民の中に増える。ニーファイ人とレーマン人は結束して、ガデアントンの強盗に対して自衛する。改宗したレーマン人、肌が白くなり、ニーファイ人と呼ばれる。紀元約五年から十六年に至る。

1 さて、第九十五年も過ぎ去り、民は前に聞いたあの数々のしるしと不思議を忘れ始め、またしるし、すなわち天からの不思議に次第に驚かなくなってきた。そして、彼らの心はかたくなになり、思いはくらみ、彼らはかつて見聞きしたすべてのことを信じなくなった。

2 すなわち、そのしるしは民の心を惑わし欺くために、人によって、また悪魔の力によって行われたものであるという、愚かな思いを心に抱くようになった。このようにしてサタンは再び民の心を支配し

25 ② モサ26・29
27 ① GS「ガデアントンの強盗団」
29 ① アル30・59
第2章
2 ① GS「欺き」

た。そして、彼らの目をくらまし、彼らを惑わして、キリストの教義は愚かでむなしいものであると信じさせた。

3そこで民は、悪事と忌まわしい行いを重ね、さらにこれからもしるし、すなわち不思議が示されることを信じなかった。そしてサタンは、方々を巡って民の心を惑わし、誘惑し、民にこの地で大きな悪事を行わせた。

4このようにして、第九十六年が過ぎ去り、また第九十七年も、第九十八年も、第九十九年も過ぎ去った。

5また、ニーファイ人の民の王モーサヤの時代からすでに百年が過ぎ去った。

6リーハイがエルサレムを去ってからすでに六百九年が過ぎ去った。

7キリストが世に来られるしるしが預言者たちによって告げられたが、そのしるしが示されたときから九年が過ぎ去った。

8ニーファイ人はしるしが示されたこのときから、すなわちキリストの来臨から彼らの時を数え始めた。したがって、九年が過ぎた。

9ニーファイは記録について責任を負っていたが、その父のニーファイはゼラヘムラの地に帰って来ず、国中どこにも見当たらなかった。

10そして、民の中で多くの宣教と預言が行われたにもかかわらず、民は依然として悪事を続けていた。このようにして、第十年も過ぎ去り、第十一年も罪悪のうちに過ぎ去った。

11そして第十三年には、国中至る所で戦争と争いが始まった。ガデアントンの強盗がおびただしい数になり、民の中の多くの者を殺し、多くの町を荒らし、国中に多くの虐殺を広めたので、民は皆、ニーファイ人もレーマン人も、彼らに対して武器を取ることが必要になった。

12そのため、主に帰依していたレーマン人は皆、同胞であるニーファイ人と結束し、自分たちの命と女子供を守るために、また自分たちの権利と教会の特権、礼拝の特権と自由を守るために、仕方なくガデアントンの強盗に対して武器を取った。

13そして、この第十三年が過ぎ去る前に、ニーファイ人は、非常に激しくなったこの戦争のために全滅の危機にさらされた。

3①　教義10:27
5①　モサ29:46—47
9①　ニフ1:2—3
12①　GS「自由」

14 さて、ニーファイ人に合流していたレーマン人は、ニーファイ人の中に数えられ、
15 彼らののろいは取り去られ、彼らの肌はニーファイ人のように白くなった。
16 また、彼らの若い男たちと娘たちは非常に麗しくなり、ニーファイ人の中に数えられ、ニーファイ人と呼ばれた。このようにして第十三年が終わった。
17 そして、第十四年の初めにも強盗たちとニーファイの民の間の戦争は続き、ますます激しくなった。それでも、ニーファイの民は強盗たちに対して幾分優位に立ったため、自分たちの土地から彼らを山や彼らの隠れ場に追い返した。
18 このようにして、第十四年が終わったが、第十五年に彼らはニーファイの民に向かって出て来た。そして、ニーファイの民の悪事と多くの争いと不和のために、ガデアントンの強盗はニーファイの民に対して何度も優位に立った。
19 このようにして、第十五年が終わった。このように民は多くの苦難を受け、滅亡の剣は彼らのうえに迫っていて、彼らはまさにその剣によって打たれようとしていた。これは彼らの罪悪のためである。

第3章

ガデアントン強盗団の首領のギデアンハイ、降伏して土地を明け渡すようにラコーニアスとニーファイ人に要求する。ラコーニアス、ギドギドーナイを軍の総司令官に任命する。ニーファイ人、自衛のためにゼラヘムラとバウンティフルの地に集まる。紀元約十六年から十八年に至る。

1 さて、キリストの来臨から十六年目に、国の総督であるラコーニアスは、この強盗団の首領であり、支配者である者から手紙を受け取った。それに記されていた言葉は次のとおりである。
2 「国の総督であるラコーニアス閣下。見よ、わたしはあなたにこの手紙を書き、あなたとあなたの民が、自己の権利であり自由であると考えているものを守るに当たって確固としていることに、甚だ大いなる賛辞を呈するものである。あなたがたは自分たちの自由と自分たちの所有物、自分たちの国、すなわちあなたがたがそのように呼んでいるものを守るのに、まるで神の手によって支えられているかのようにしっかりと立っている。

15 ① アルマ17・15、23 18
② 2ニフ5・21、30・
19 ① 6、ヤコ3・8
アルマ60・29

3 しかし、ラコーニアス閣下。あなたがたがわたしの指揮に従うこのように多くの勇敢な部下たちに立ち向かえると考えるほど、愚かでうぬぼれが強いことは、わたしには残念に思われる。わたしの勇敢な部下たちは今、武器を身に着けて待ち、『ニーファイ人のもとへ下って行って滅ぼせ』という言葉を大いに待ち焦がれている。

4 わたしはすでに戦場で部下たちを試して、彼らに不屈の精神があるのを知っており、また、あなたがたが彼らに行った多くの不当な扱いのために、彼らがあなたがたにいつまでも変わらない憎悪を抱いていることも知っている。したがって、彼らがあなたがたに向かって下って行けば、あなたがたを完全に滅ぼしてしまうことだろう。

5 そこでわたしは、あなたがたの幸いを思いつつこの手紙を書いて、自分自身の手で封じるものである。それは、あなたがたが自分の正しいと思ったことに対して確固としており、また戦場で高潔な精神を示しているからである。

6 したがって、わたしはあなたに手紙を書き送り、あなたがたがわたしの部下の剣を受けて滅亡するよりは、むしろこのわたしの民にあなたがたの町と土地と所有物を引き渡すように望む次第である。

7 つまり、あなたがたが降伏し、我々と連合して我々の[1]秘密の業をよく知り、仲間になって我々のようになること、すなわち、我々の奴隷ではなく、仲間になり、すべての持ち物の共有者になることである。

8 見よ、わたしはあなたがたに、もしこのように行うならば、あなたがたは滅ぼされないと誓って[1]約束する。しかし、もしこのように行わなければ、わたしは誓って言うが、来月命令を下して、軍隊をあなたがたに向かって下って行かせよう。わたしの軍隊は手をとどめることなく、助命することもなく、あなたがたを殺し、あなたがたが絶滅するまで剣を浴びせることだろう。

9 見よ、わたしはギデアンハイである。わたしはこのガデアントン[1]秘密結社の支配者である。わたしはこの結社と結社の業が善いものであることを知っている。これらは[3]昔からあり、我々に伝えられたものである。

10 ラコーニアス殿。わたしはあなたにこの手紙を書

第3章
7 ① ヒラ6・22–26
8 ① エテ8・13–14
9 ① GS「秘密結社」
② アル30・53
③ ヒラ6・26–30、モセ5・29、49–52

き送る。あなたがたは、血を流すことなく土地と所有物を引き渡し、あなたがたから離反したこの民が、自分たちの権利と統治権を回復できるようにしてもらいたい。この民は、あなたがたが不当にも統治権を与えなかったために離反したのである。したがって、もしあなたがたがこのようにしなければ、わたしはこの民が受けた不当な扱いに報復しよう。わたしはギデアンハイである。」

11 さて、ラコーニアスは、この手紙を受け取ると非常に驚いた。ギデアンハイが大胆にも、ニーファイ人の地の所有権を要求し、民を脅迫し、また不当な扱いを少しも受けたことのない者たちのために不当な扱いの報復をすると述べていたからである。これらの者たちは、その邪悪な忌まわしい強盗たちのところへ離反して行ったことで、自らに[1]損害を招いただけであった。

12 さて見よ、総督であるこのラコーニアスはまことに正しい人であり、[1]強盗の要求も脅迫も恐れなかった。そこで彼は、強盗の支配者ギデアンハイの手紙を気にせず、自分の民に、強盗たちが下って来るときに備えて主に力を叫び求めるようにさせた。

13 まことに、彼はすべての民の中に布告を出し、土地は別にして、女子供と大小の家畜の群れ、それにすべての持ち物を一か所に集めるように伝えた。

14 そして彼は、民を囲むとりでを幾つも築かせ、それを非常に堅固にさせた。また彼は、ニーファイ人と、レーマン人、すなわちニーファイ人の中に数えられたすべてのレーマン人の両方から成る軍隊を、見張りとして周囲に配置して民を見守らせ、日夜強盗から彼らを守らせた。

15 まことに、彼は民に言った。「主が生きておられるように確かに、あなたがたは罪悪をすべて悔い改めて主に叫び求めなければ、あのガデアントンの強盗の手から決して救われない。」

16 ラコーニアスの言葉と預言は、まことに大いなる驚くべきものであり、民の全員に恐れを生じさせた。そこで彼らは、ラコーニアスの言葉のとおりに行おうと力の限り努力した。

17 さて、ラコーニアスは、ニーファイ人の全軍隊に連隊長を任命し、強盗たちが荒れ野から攻めて来るときに軍隊を指揮できるようにした。

18 また、すべての連隊長の中の最高位の者である、

11① ヒラ 14・30
12① アル 54・5–11、ニフ 4・7–10

ニーファイ人の全軍の総司令官も任命された。その人の名はギドギドーナイといった。

19 ニーファイ人の中には、（彼らが悪事を働いている時代は別にして）啓示と預言の霊を持っている人を連隊長に任命するという習わしがあった。したがって、このギドギドーナイも大さばきつかさと同じように、民の中の偉大な預言者であった。

20 そこで、民はギドギドーナイに言った。「主に祈ってください。そして、わたしたちが山や荒れ野に上って行き、強盗たちを攻めて、彼ら自身の土地で滅ぼせるようにしてください。」

21 しかし、ギドギドーナイは彼らに言った。「主は許されない。もしわたしたちが彼らに向かって上って行けば、主はわたしたちを彼らの手に渡されるであろう。だからわたしたちは、自分たちの土地の中央で準備し、わたしたちの全軍を集めよう。彼らに向かって出て行かないで、彼らが向かって来るまで待とう。主が生きておられるように確かに、わたしたちがこのようにすれば、主は彼らをわたしたちの手に渡してくださる。」

22 さて、第十七年の末に、ラコーニアスの布告が地の面の至る所に出された。そして民は、自分たちの馬と馬車、家畜、すべての大小の家畜の群れ、穀物、そのほかすべての持ち物を携えて、何千人となく、何万人となく進んで行き、彼らは皆、敵を防ぐために集まるように指定された所へ向かった。

23 指定された地は、ゼラヘムラの地と、ゼラヘムラの地とバウンティフルの地の間の地であり、バウンティフルの地とデソレションの地の間の境界にまで達していた。

24 そして、ニーファイ人と呼ばれる非常に大勢の人々がこの地に集まった。ラコーニアスが南方の地に彼らを集めさせたのは、北方の地にひどいのろいが及んでいたためである。

25 そして彼らは、敵に対して防備を固め、同じ土地に一団となって住んだ。また彼らは、ラコーニアスの語った言葉を恐れて、自分たちのすべての罪を悔い改めた。そして、主なる彼らの神に祈りをささげ、敵が攻め下って来るときに自分たちを救ってくださるように願った。

26 彼らは自分たちの敵のことで深い憂いを抱いた。また、ギドギドーナイは彼らにあらゆる武器を造ら

---

18 ① 3ニフ6・6
19 ① GS「預言」
21 ① サ上14・12
② アル48・14
24 ① GS「信頼」22・31
25 ① 2ニフ5・14
26 ①

せ、自分の指示に従ってよろいと盾と小盾で身を固めさせた。

第４章

ニーファイ人の軍隊、ガデアントンの強盗を打ち負かす。ギデアンハイは殺され、彼の後継者ゼムナライハは木につるされる。ニーファイ人、勝利を得たことで主をほめたたえる。紀元約十九年から二十二年に至る。

1 さて、第十八年の末に、強盗たちの軍勢は戦いの準備をし、方々の丘や山、荒れ野、とりで、隠れ場から下って出撃して来た。そして彼らは、南の地と北の地の両方で方々の土地を占領し始め、ニーファイ人が捨てた土地と、荒れ果てるに任せた町をすべて占領し始めた。

2 しかし見よ、ニーファイ人が捨てた土地には、まったく野生の獣がおらず、獲物となる動物もいなかった。荒れ野の中でなければ強盗たちの食糧になる鳥獣はいなかった。

3 そして強盗たちは、食糧がないために、荒れ野でなければ暮らせなかった。それは、ニーファイ人が土地を荒れ果てるに任せて、自分たちの大小の家畜の群れとすべての持ち物を集め、一団となっていたからである。

4 そのため強盗たちには、ニーファイ人に向かって公然と攻め上るほかに略奪して食べ物を得る機会はなかった。一方、ニーファイ人は一団となっていて、その数は非常に多く、食糧や馬や家畜やあらゆる家畜の群れを蓄えとして持っており、七年間暮らすことができたので、彼らはその間に地の面から強盗たちを滅ぼしてしまいたいと思っていた。このようにして、第十八年が過ぎ去った。

5 そして第十九年に、ギデアンハイはニーファイ人に向かって攻め上ることが必要であることを知った。彼らは略奪し、強奪し、人殺しをする以外に生きていく方法がなかったからである。

6 また彼らは、ニーファイ人に襲われて殺されるのではないかと恐れ、思い切って地の面に広がって穀物を作ることもできなかった。そこでギデアンハイはこの年に、ニーファイ人に向かって攻め上る命令を自分の軍隊に下した。

第4章
1 22 ① 3 ニフ 3・13–14、

7 そして、彼らは攻め上った。それは六月のことであり、彼らが攻め上った日は、見よ、大変な恐ろしい日であった。彼らは強盗風の装いをしており、腰に子羊の皮を巻き、体を血で染め、頭髪を刈り込み、かぶとをかぶっていた。ギデアンハイの軍隊はよろいをまとい、体を血で染めていたので、ひどい、恐ろしい姿であった。

8 さて、ニーファイ人の軍隊はギデアンハイの軍隊の姿を見ると、全員地に伏して、主なる神に、命を助けて敵の手から救ってくださるように叫んだ。

9 そこで、ギデアンハイの軍隊はこれを見て、ニーファイ人が自分たちの恐ろしい姿に恐れをなして倒れたのだと思い、喜んで、大声を上げて叫び始めた。

10 しかし、彼らのこの期待は外れた。ニーファイ人は彼らを恐れたのではなかったからである。ニーファイ人は神を畏れ、守護を叫び求めたのである。そこで、ギデアンハイの軍隊が突撃して来たときには、ニーファイ人は彼らと戦いを交える用意ができており、主の力をもって彼らを迎えた。

11 戦いはこの六月に始まり、その戦いは大変な恐ろしいものであった。まことに、その戦いでの殺戮は大変な恐ろしいものであって、リーハイがエルサレムを去って以来、これほどひどい殺戮はリーハイの民の中にまったく知られていない。

12 そして、ギデアンハイの脅迫や誓いにもかかわらず、見よ、ニーファイ人が彼らを打ち負かしたため、彼らはニーファイ人の前から退いた。

13 さて、ギドギドーナイは自分の軍隊に、荒れ野の境まで彼らを追撃するように、そして途中でニーファイ人の手に落ちる者はだれも容赦しないようにと命じた。そこで彼の軍隊は、荒れ野の境まで彼らを追撃して殺し、ギドギドーナイの命令を果たした。

14 そして、立ち向かって勇ましく戦っていたギデアンハイも、ついに逃げ出して追撃された。そして、激しく戦って疲れていたので、追いつかれて殺されてしまった。強盗ギデアンハイの最期はこのようであった。

15 さて、ニーファイ人の軍隊は自分たちの防御の地へ引き返した。そして、この第十九年が過ぎ去り、強盗たちはもう攻めて来なかった。また、第二十年にも彼らはやって来なかった。

16 第二十一年に、彼らは攻めることはなかったもの

---

10 ① 12 ① 13 ① GS「畏れ・恐れ」
3 ニフ 3・1—10
3 ニフ 3・18

の、ニーファイの民を包囲するためにあらゆる方面
から上って来た。彼らは、もしニーファイの民を彼
らの土地から遮断して、あらゆる方面で彼らを閉じ
込めれば、また、外で活動する特権をすべて差し止
めれば、自分たちの望みどおりに彼らを降伏させる
ことができると思ったからである。
17 ところで彼らは、ゼムナライハという名の別の首
領を選んでいた。したがって、この包囲を行わせた
のはゼムナライハであった。
18 しかし見よ、これはニーファイ人にとって有利で
あった。強盗たちがニーファイ人に何らかの影響を
及ぼすほど、十分に長く包囲を続けることは不可能
であったからである。というのは、ニーファイ人は
多くの食糧を蓄えており、
19 強盗たちの食糧は乏しかったからである。見よ、
彼らには命をつなぐための肉、すなわち荒れ野で手
に入れた肉のほかには何もなかった。
20 そして、1)野生の鳥獣は荒れ野に少なくなったので、強盗たちはまさに飢えて死にそうになった。
21 しかも、ニーファイ人は昼も夜も絶えず出撃して
敵を攻め、何千人も、何万人も殺した。

22 それで、ゼムナライハの民は昼も夜も大勢の人が
殺されたため、自分たちの企てを取りやめたいと思
うようになった。
23 そして、ゼムナライハは自分の民に、包囲を解い
て、北方の地の最も遠い地方へ行くように命令を下
した。
24 ところがギドギドーナイは、彼らの企てを知り、
また食糧の不足とそれまでに受けた大きな殺戮の
ために彼らが弱っているのを知っていたので、夜の
間に軍隊を送って彼らの退路を断ち、また彼らの退
路に軍隊を配置した。
25 彼の軍隊は夜の間にこれを行い、強盗たちを追い
越して進軍した。そして翌日、強盗たちが行軍を始
めると、ニーファイ人の軍隊は前方と後方の両面か
ら彼らを攻撃した。
26 また、南方にいた強盗たちも彼らの待避所で絶た
れた。これらのことはすべて、ギドギドーナイの命
令によって行われたことである。
27 そして、ニーファイ人に降伏して捕虜になった者
は何千人にも上り、ほかの者たちは殺された。
28 また、彼らの首領であったゼムナライハは捕らえ

20 ① 1ニフ18・25

られ、木に、すなわち木の頂につるされて死んだ。ニーファイ人は彼をつるし、彼が死んでしまうと、その木を地に倒して大声で叫んで言った。

29 「どうか主よ、義にかなった、心の清い民をお守りくださり、この男が地に倒されたように、権力と秘密結社のために主の民を殺そうとするすべての者を地に倒れさせてくださいますように。」

30 また、彼らは喜び、再び声を合わせて、「どうかアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神よ、義にかなったこの民を、この民が守護を求めて神の御名を呼ぶかぎりお守りくださいますように」[1]と叫んだ。

31 そして彼らは、神が大いなることを自分たちのために行い、敵の手に落ちないように守ってくださったので、皆一斉に声を放って歌い、神をほめたたえた。

32 まことに彼らは、「いと高き神に、ホサナ」[1]と叫び、また、「いと高き神、[2]全能の主なる神の御名はほむべきかな」と叫んだ。

33 そして、敵の手から救ってくださった神の深い慈しみのために、彼らの心は喜びにあふれ、多くの涙を流した。また彼らは、自分たちが永遠の滅亡から救われたのは、悔い改めて謙遜であったためであることを知ったのである。

第 5 章

ニーファイ人、悔い改めて罪を捨てる。モルモン、民の歴史を記し、また民に永遠の御言葉を告げ知らせる。イスラエルは将来、久しく散乱した状態から集められる。紀元約二十二年から二十六年に至る。

1 さて見よ、ニーファイ人の民の中には、すべての聖なる預言者たちがかつて語った言葉をわずかでも疑う者はいなかった。彼らはそれらの言葉が必ず成就することを知っていたからである。

2 また彼らは、預言者たちの言葉のとおりに多くのしるしが示されたので、キリストが来られたに違いないことを知っていた。そして、いろいろなことが起こったので、かつて告げられたとおりにすべてのことが将来起こるに違いないことも、彼らは知っていた。

3 そこで彼らは、自分たちの罪と、忌まわしい行いと、みだらな行いをすべて捨てて、日夜、力の限り

30 ① アル 29・11
② エテ 4・15
31 ① アル 26・8、GS「感謝」
32 ① GS「ホサナ」
② 1ニフ 1・14、GS「神・神会」

神に仕えた。

4 さて、ニーファイ人は殺されなかった強盗たちを一人も逃すことなく全員捕らえて捕虜にすると、その捕虜たちを牢に入れ、彼らに神の言葉を説き聞かせるようにした。そして、罪を悔い改めて、もう二度と殺人をしないという聖約を交わそうとした者は皆、1)釈放された。

5 しかし、聖約を交わさず、依然として暗殺の心を持ち続ける者、まことに、同胞を脅していることが分かった者は皆、罪に定められ、法律に従って罰せられた。

6 このようにして彼らは、そのようなひどい悪事と多くの殺人を犯したあの邪悪な秘密の忌まわしい結社をことごとく絶やした。

7 このようにして、1)第二十二年が過ぎ去り、第二十三年も、第二十四年も、第二十五年も過ぎ去った。このようにして、二十五年が過ぎ去った。

8 ある人々の目に大いなる驚くべきことと映った多くのことが、これまでに起こった。しかし、それらをすべてこの書に書き記すことはできない。まことに、この書には、二十五年間にそのように多くの人の中で行われたことの百分の1)一も載せることができない。

9 しかし見よ、この民の行ったことをすべて載せている1)記録が幾つかある。また、短いけれども真実の記録がニーファイによって記された。

10 そこでわたしは、ニーファイの版と呼ばれる版に刻まれたニーファイの記録に従って、これまでこれらのことについて記録してきた。

11 そして見よ、わたしは今、自分の手で造った版に記録している。

12 見よ、わたしはモルモン1)と呼ばれている。この名は、アルマが人々の中に教会を、まことに彼らの背きの後で最初の教会を彼らの中に設立した地、モルモン2)の地にちなんで名付けられたものである。

13 見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。

14 すでに世を去った聖なる人々の祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるように、これまでに起こっ

第5章
4 ① GS「自由」
7 ① ニフ2・8
8 ① ニフ3・26・6–12
9 ① ヒラ3・13–15
12 ① モル1・1–5
3 ② モサ18・4、アル5・

たこれらのことを、神の御心に従って記録することは望ましいことである。

15 まことにわたしは、リーハイがエルサレムを去ったときから現在までに起こったことを、簡潔に記録する。

16 したがってわたしは、自分が生まれるときまでのことを、わたしよりも前に生きていた人々が記してきた記事から取って記録し、

17 次に、わたし自身の目で見てきたことを記録する。

18 わたしは自分の記す記録が正しく真実の記録であることを知っている。それでも、わたしたちの言語では書けないことがたくさんある。

19 わたしは自分自身のことについて述べるのを終え、わたしの生まれる前にあったことについて記録を書き進めることにする。

20 わたしはモルモンであり、リーハイの生っ粋の子孫である。神であって救い主であるイエス・キリストをわたしが賛美するのは正当である。神はわたしたちの先祖をエルサレムの地から連れ出された。（このことは神御自身と、その地から連れ出された人々のほかにはだれも知らない。）また、神はわたしとわたしの民に、わたしたちが救われるように多くの知識を与えてくださった。

21 確かに神はヤコブの家を祝福し、ヨセフの子孫に憐れみをかけてこられた。

22 また、リーハイの子孫が神の戒めを守るかぎり、神は御自分の言葉のとおりに彼らを祝福し、栄えさせてこられた。

23 そして、神はヨセフの子孫の残りの者に、主なる彼らの神のことを再びお知らせになる。

24 また、主が生きておられるように確かに、主は将来、地の全面に広く散らされているヤコブの子孫の残りの者をすべて地の四方から集められる。

25 主はヤコブの家に属するすべての者と聖約されたので、主がヤコブの家と交わされた聖約は主御自身がふさわしいと思われるときに果たされ、ヤコブの家に属するすべての者に、主がかつて彼らと交わされた聖約が再び元のように知らされる。

26 そのとき彼らは、自分たちの贖い主、神の御子イエス・キリストを知るようになる。そして彼らは、地の四方から、散らされる前に住んでいた自分たちの土地に集められる。まことに、主が生きておられ

---

14 ① エノ1・13–18、教義3・19–20
17 ① モル1・1
18 ① エテ12・25
20 ① ニフ4・1–36
21 ① 創世32・28
② GS「イスラエル」
③ 申命33・13–17
22 ① ニフ1・20
23 ① アル46・24
② ニフ3・12
24 ① GS「イスラエル―イスラエルの集合」
25 ① ニフ16・5
26 ① ニフ30・5–8、20・29–34
3 ニフ

るように確かに、それは起こる。アーメン。

第 6 章

ニーファイ人、栄える。高慢な者、富裕な者が出て、階級差別が生じる。不和のために教会が分裂する。サタン、民を惑わして公然と謀反を起こさせる。多くの預言者たち、悔い改めを叫んで殺される。殺人者たち、政府の乗っ取りを企てる。紀元約二十六年から三十年に至る。

1 さて、第二十六年に、ニーファイ人の民は皆各々の家族を伴い、大小の家畜の群れ、馬、牛を連れ、持ち物をすべて携えて自分の土地へ帰って行った。
2 そして彼らは、食糧を食べ尽くしていなかったので、残っているあらゆる穀物を、また金銀やすべての貴重な品々を携えて、南北に分かれ、北方の地と南方の地のそれぞれの所有地に帰って行った。
3 また、国の平和を守ると聖約を交わし、引き続きレーマン人でいたいと望んだ強盗たちには、自分の労働で生きていくことができるように、彼らの人数に応じて土地が与えられた。このようにして、彼らは全地に平和を確立した。
4 そして、彼らは再び栄えて富み始めた。第二十六年、第二十七年が過ぎ去り、国の秩序はしっかり保たれていた。また彼らは、公平かつ公正に法律を制定した。
5 民が戒めに背くことさえなければ、彼らが引き続き栄えるのを妨げるものは全地に何一つなかった。
6 国にこの大いなる平和を確立した人々は、ギドギドーナイと、大さばきつかさのラコーニアスと、指導者に任命された人々である。
7 そして、多くの町が新たに築かれ、多くの古い町が改築され、
8 町から町へ、地方から地方へ、地域から地域へと通じる多くの街道が造られ、多くの道路が建設された。
9 このようにして、第二十八年が過ぎ去り、民は引き続き平和を保っていた。
10 ところが第二十九年に、民の中に多少の分裂が起こった。そして、ある者たちは非常に豊かに富んでいたために高慢になって誇り、ひどい迫害さえ加えるようになった。

第6章
10 ① GS「高慢」

11 国には多くの商人がおり、また多くの法律家と役人もいた。
12 そして民は、彼らの富と[1]学問の機会の多少に応じて階級に区別され始めた。まことに、貧しいために無学な者もいれば、富んでいたので大いに教育を受けた者もいた。
13 高慢になった者もいれば、非常に謙遜な者もいた。そしる者にそしり返す者もいれば、そしりや迫害やあらゆる苦難を受けながらも、向き直ってのしり返すことをせず、神の前にへりくだって悔いる者もいた。
14 このように、全地にひどい不平等が生じたために、教会が分裂し始めた。まことに第三十年には、真実の信仰に帰依している少数のレーマン人の中の教会を除いて、全地の教会が分裂してしまった。この少数のレーマン人は堅く確固として動かず、喜んで[1]力の限り主の戒めを守っていたので、真実の信仰から離れようとしなかった。
15 ところで、民のこの罪悪の原因は、あらゆる罪悪を行うように民をそそのかし、民を誇らせて高慢にし、民を誘惑して権力と権威、富、俗世のむなしいものを求めさせる大きな力をサタンが持っていたことである。
16 このように、サタンがあらゆる罪悪を行うように民の心を惑わしたため、民が平和を享受したのはほんの数年にすぎなかった。
17 したがって、第三十年の初めには、民はすでに悪魔の手に引き渡されて久しくたっており、悪魔が行かせたいと思う所へはどこへでも[1]誘いに乗って行き、また悪魔が行わせたいと思う罪悪はどんなことでもするようになっていた。そのためにこの第三十年の初めには、彼らは恐ろしい邪悪な状態にあった。
18 彼らは[1]無知で罪を犯したのではない。自分たちに関する神の御心を教えられて知っていた。したがって、彼らは故意に神に[2]背いたのである。
19 それはラコーニアスの息子ラコーニアスの時代のことである。このラコーニアスはその年に父の職に就いて民を治めたのであった。
20 また、何人もの人々が天から[1]霊感を受け、遣わされて、全地の民の中に立って教えを説き、民の罪と不義について大胆に証言し、また主が御自分の民のために行われる贖い、言い換えれば、キリストの復

12 ①1テモ6・17–19、ヒラ4・12
13 ②GS「迫害」
14 ①1・34、マタ5・39、4ニフ教義98・23–25
17 ①GS「熱心」
18 ①GS「誘惑」
19 ②GS モサ3・11「背く」
20 ①GS「預言者」「霊感」

活に関して彼らに証した。さらに彼らは、キリストの死と苦しみについても大胆に証した。

21 ところが、民の中には、これらのことについて証した人々のことを非常に怒る者が多かった。このように怒った者たちは、特に大さばきつかさたちと、かつて大祭司や法律家を務めた者たちであった。ま[1]ことに、当時法律家であった者も皆、これらのことを証した人々のことを怒った。

22 しかし、法律家もさばきつかさも大祭司も、国の総督が宣言書に署名しないかぎり、だれに対しても死刑を宣告する力を持たなかった。

23 ところが、キリストに関することについて大胆に証した人々の多くが、さばきつかさたちによって捕らえられ、ひそかに殺されてしまった。そのため、国の総督が彼らの死について知ったのは、彼らが死んだ後のことであった。

24 さて見よ、このことは、国の総督から権限を受けないかぎり人を死刑にしてはならないという国の法律に反していた。

25 そこで、法律に背いて主の預言者たちに死刑を宣告したこれらのさばきつかさたちに対して、ゼラヘムラの地にいた国の総督への訴えが起こされた。

26 そして、彼らは捕らえられ、大さばきつかさの前に連れ出されて、犯した罪悪を、民によって定められた法律[1]に従って裁かれることになった。

27 さて、それらのさばきつかさたちには多くの友人と親族がいた。また、ほかの者たち、すなわち法律家たちと大祭司たちもほとんど全員が集まり、法律によって裁判されることになったそれらのさばきつかさたちの親族と結束した。

28 そして、彼らは互いに誓いを立てた。すなわち、あらゆる義に敵対して結束するために、昔の人々によって設けられたあの誓い、[2]悪魔によって与えられ実施された誓いを立てたのである。

29 このために彼らは、主の民に敵対して結束し、主の民を滅ぼすという誓いを立て、また殺人罪を犯した者たちを、法律に従って実施されようとしている罰の執行から救い出すという誓いも立てた。

30 そして、彼らは国の法律と権利に反抗した。また彼らは総督を殺し、国を治める王を立て、国をもはや自由な国ではなく、王の支配を受ける所にしようと互いに誓いを立てた。

---

20 ② GS「十字架の刑」「贖罪」
21 ① 教義121・36–37、GS「背教・背信」
26 ① モサ29・25、アル1・14
28 ① GS「秘密結社」
② ヒラ6・26–30
30 ① サ上8・5–7、アル51・5

第7章

大さばきつかさが殺され、政府は滅ぼされ、民は部族に分かれる。反キリストのヤコブ、秘密結社の王となる。ニーファイ、悔い改めとキリストを信じる信仰を宣べ伝える。天使たち、日々ニーファイを教え導く。ニーファイ、自分の兄弟を死者の中からよみがえらせる。多くの人が悔い改めてバプテスマを受ける。紀元約三十年から三十三年に至る。

1 さて見よ、わたしはあなたがたに、彼らが国を治める王を立てなかったことを示そう。この年、すなわち第三十年に、彼らはさばきつかさの席に着いていた国の大さばきつかさを殺した。
2 そして、民は互いに分裂し、家族と親族と友人ごとにそれぞれ部族に分かれた。このようにして、彼らは国の政府を滅ぼした。
3 そして各部族は、彼らを治める族長や指導者を任命した。このようにして、彼らは部族の者となり、部族の指導者となった。
4 さて見よ、彼らの中には家族や親族や友人が大勢いない者はだれ一人いなかったので、彼らの部族は非常に大きなものとなった。
5 さて、このようなことがすべて行われたが、彼らの中にはまだ戦争はなかった。この罪悪はすべて、民がサタンの力に身をゆだねたために民に及んだのであった。
6 また、預言者たちを殺した者の友人や親族から成る秘密結社[1]のために、政府の条例は損なわれてしまった。
7 また、彼らがその地にひどい争いを引き起こしたので、民の中でひときわ義にかなった者たちも、ほとんど皆すでに悪くなってしまい、まことに、民の中に義人はほんのわずかになった。
8 このようにして六年たたないうちに、民の大半は、自分の吐いたものに帰る犬のように、あるいは泥の中に転がる豚のように、義に背いてしまった。
9 さて、このようなひどい罪悪を民にもたらしたこの秘密結社の者たちは、ともに集まり、ヤコブと呼ばれた一人の男を自分たちの頭に立てた。
10 そして、彼らはヤコブを自分たちの王と呼び、彼はこの邪悪な団を治める王となった。預言者たちはイエスについて証をしたが、この男は、その預言者

第7章
5 ① ロマ6・13—16、アル
10・25
6 ① 2ニフ9・9
8 ① 箴言26・11、2ペテ
2・22

たちに敵対する声を上げた首謀者の一人である。
11 さて、彼らは、同盟を結んだ民の部族ほど人数が多くなかった。民の部族は同盟していたが、彼らの法はそれぞれ部族ごとに指導者が定めていた。それでも彼らは、秘密結社に敵対していた。彼らは義を守る者たちではなかったにもかかわらず、政府を滅ぼす誓いを立てた者たちを憎むことでは一致していた。
12 したがって、ヤコブはその団の王であったので、敵が自分たちよりもはるかに多いのを見ると、自分の民に、その地の最北部へ逃げて行き、そこで王国を築いて離反者を加え（彼は多くの離反者が出るように民にへつらっていた）、民の部族と戦うのに十分な力を蓄えるようにと命じた。そして、彼らはそのようにした。
13 彼らの移動は非常に速かったので、妨げられることなく、民の手の届かない所へ行ってしまった。このようにして第三十年が終わった。ニーファイの民の状況はこのようであった。
14 さて、第三十一年に、民は家族と親族と友人ごとに部族に分かれていた。それでも彼らは、互いに戦争をしないという取り決めを結んでいた。ところが、彼らの法や統治方法は、彼らの族長と指導者の思いのままに定められていたので、一致していなかった。しかし彼らは、部族がほかの部族を侵害してはならないという、非常に厳しい法を定めていたので、ある程度地は平和であった。にもかかわらず、彼らの心は主なる神からそれていた。そして彼らは、預言者たちに石を投げつけ、預言者たちを自分たちの中から追い出した。
15 さて、ニーファイは天使の訪れを受け、主の声も聞き、天使を見て見証者となり、キリストの務めについて知る力を与えられ、また民が義から悪事と忌まわしい行いに早々と戻ったことを目撃した。
16 したがって、彼は民の心がかたくなで、思いをくらませていることを悲しく思い、その年に民の中に出て行って、悔い改めと、主イエス・キリストを信じる信仰による罪の赦しについて大胆に証し始めた。
17 彼は多くのことを民に教えたが、それを全部書き記すことはできない。また、一部では不十分であるから、この書には書き記さない。ニーファイは、力

---

12 ① 1) おうこく 王国
15 ① 1) ちから 力
17 ① 1) ちから 力

GS 3 ニフ 6・30 「力」 3 ニフ 1・2

と大きな権能をもって教えた。
18そこで民は、彼が自分たちよりも大きな力を持っていたので、彼に腹を立てた。主イエス・キリストを信じる彼の信仰が非常に深かったので、天使が日々彼を教え導き、そのため彼らは、彼の言葉を信じないわけにはいかなかったからである。
19また彼は、イエスの名によって悪霊と汚れた霊を追い出し、また、民に石を投げつけられて殺された自分の兄弟を、死者の中からよみがえらせた。
20民はそれを目にし、目撃し、彼に力があることで腹を立てた。また彼は、民の目の前でイエスの名によってさらに多くの奇跡を行った。
21そして第三十一年が過ぎ去った。そして、主に帰依した者はごくわずかであったが、心を改めた者は皆、自分たちが信じているイエス・キリストの内にある神の力と御霊を与えられたことを、民に実際に示した。
22悪霊を追い出された者、病気や肉体の弱さを癒された者は皆、神の御霊の働きを受けて癒されたことを民に実際に告げた。また彼らは、数々のしるしを示し、民の中で多少の奇跡を行った。
23このようにして、第三十二年も過ぎ去った。第三十三年の初めに、ニーファイは民に叫び、悔い改めと罪の赦しを宣べ伝えた。
24ところで、悔い改めに導かれた者で水でバプテスマを受けなかった者は一人もいなかったことも、覚えておいてもらいたい。
25したがってニーファイは、人々をこの務めに聖任した。彼らのもとに来る人々がすべて水でバプテスマを受けられるようにするためであった。このバプテスマは、これを受ける人々が悔い改めて罪の赦しを受けたことを、神の前に、また民に対して立証し、証するものである。
26この年の初めに、悔い改めのためのバプテスマを受けた人々が多くいた。このようにして、その年の大半が過ぎ去った。

第8章

暴風雨や地震、火事、旋風、自然の大変動で、キリストの十字架の刑が証明される。多くの者が滅びる。暗闇が三日間地を覆う。生き残った者たち、自分の運命を嘆く。紀元約三十三年から三十四年に至る。

---

18 ①2ニフ33・1、アル
19 ①4・19 GS「霊―悪霊」
20 ①3ニフ8・1 GS「バプテスマ」
24 ①教義20・37、GS「罪の赦し」
25 ①

1 さて、わたしたちの記録によれば、そして、わたしたちはこの記録が真実であることを知っているが、見よ、それは記録を書き継いだのが正しい人であったからである――その人は、イエスの[1]名によって実際に多くの[2]奇跡を行った。そして、自分の罪悪からことごとく清められなければ、イエスの名によって奇跡を行える人はだれもいなかった。――

2 さて、わたしたちの時の計算についてこの人が間違いをしていなければ、[1]第三十三年が過ぎ去った。

3 そして民は、レーマン人の預言者サムエルによって知らされたしるし、すなわち地の面に三日間[1]暗闇が続く時を、大きな期待をもって待ち望むようになった。

4 また、非常に多くの[1]しるしが現れていたにもかかわらず、民の中にひどい疑いと論争が起こった。

5 さて、第三十四年一月四日に、全地でこれまでにまったく知られていないような大きな嵐が起こった。

6 また、激しくすさまじい暴風雨もあった。また、すさまじい[1]雷があり、まさに引き裂くほどに全地を[2]揺り動かした。

7 さらに、全地でこれまでにまったく知られていないような非常に強烈な稲妻があった。

8 そして、ゼラヘムラの町に火がついた。

9 モロナイの町は海の深みに沈んで、そこに住む者はおぼれた。

10 また、地がモロナイハの町の上に持ち上がり、その町のあった所に大きな山ができた。

11 南方の地にも大変な恐ろしい破壊があった。

12 しかし見よ、北方の地にはもっと大変な恐ろしい破壊があった。見よ、暴風雨と旋風と雷と稲妻と全地の非常に激しい震動のために、地の全面が変わってしまった。

13 [1]街道は破壊され、平坦な道は損なわれ、多くの平らな場所が起伏の激しい所となり、

14 多くの大きな名の知れた町が[1]沈み、多くの町が焼け、また多くの町が揺れ動いて建物が地に倒れ、そこに住む者が死に、方々の地が荒れ果てるに任された。

15 残った町も多少あったが、それでもそれらの町の受けた被害は非常に大きく、それらの町の多くの者が死んだ。

第8章

1 ① 使徒3・6、ヤコ4・6
② モル9・18–19
3 ① ニフ7・19–20、ニフ2・8
4 ① 14・20、27、3ニフ10・9「十字架の刑」GS
6 ① ニフ19・11、ヒラ1・12・4
8 ① ヒラ14・24、3ニフ4・7–8
② 14・21 マタ27・45、50–51
13 ① ヒラ14・24、3ニフ
14 ① 6・8

16 また、旋風によって運び去られた者もかなりいた。人々は彼らが運び去られたことは知っているが、どこへ運ばれて行ったのかだれも知らない。
17 このように、暴風雨と雷と稲妻と地の震動のために、全地の面が形を変えてしまった。
18 そして見よ、方々の[1]岩は二つに裂けて、全地の面に及んだので、地の全面に砕けた破片として、ひびとして、割れ目として見られるようになった。
19 そして、雷と稲妻、嵐、暴風雨、地の震動はやんだ。見よ、これらはおよそ[1]三時間続いた。その時間はもっと長かったと言う人々もいたが、このような大変な恐ろしい出来事はすべて、およそ三時間続いた。その後、見よ、地の面が暗くなった。
20 そして、地の全面に深い暗闇があり、それまでに倒れなかった民がその暗黒の霧に触れると、それを[2]感じることができるほどであった。
21 また、暗闇のために光はまったく存在することができず、ろうそくも、たいまつもともすことができなかった。また、良質の十分に乾燥した木にも火をつけることができなかったので、光はまったくなかった。
22 地の面にある暗黒の霧が非常に深かったので、どんな光も見えず、火も、かすかな光も、太陽も、月も、星も見えなかった。
23 そして、光のまったく見えない状態が[1]三日間続き、すべての民の中に大きな悲しみとわめき声と泣き声が絶えなかった。まことに、民に及んだ暗闇と大きな破壊のために、民のうめき声は大きかった。
24 そして、ある所では民が、「おお、この大変な恐ろしい日が来る前に悔い改めておけばよかった。そうすれば、我々の同胞は命を助けられ、あの大きな町[1]ゼラヘムラで焼かれることはなかっただろう」と叫ぶのが聞かれ、
25 また別の所では、「おお、この大変な恐ろしい日が来る前に悔い改めておき、預言者たちを殺さず、石を投げつけず、追い出さなければよかった。そうすれば、我々の母も、麗しい娘たちも、子供たちも命を助けられ、あの大きな町モロナイハで埋められることはなかっただろう」と叫ぶのが聞かれた。このように、民は大いに、またひどくうめき苦しんだ。

---

18 ① ヒラ 14・21–22
19 ① ルカ 23・44、12・5、19・11
20 ① 出エ 10・21–22
23 ① 1ニフ 19・10
24 ① ヒラ 13・12

第 9 章

暗闇の中でキリストの声が聞こえ、民の悪事のために多くの者が滅び、多くの町が破壊されたことが宣言される。キリストはまた、御自分の神性を宣言し、モーセの律法が成就したことを告げ、御自分のもとに来て救われるようにと人々を招かれる。紀元約三十四年。

1 さて、この地の全面で、地に住むすべての者に次のように告げる声が聞こえた。

2 「災いである、災いである、この民は災いである。全地の民は悔い改めなければ災いである。わたしの民の麗しい息子、娘たちが殺されたことを、悪魔は笑い、悪魔の使いは喜んでいる。わたしの民の麗しい息子、娘たちが倒されたのは、彼らの罪悪と忌まわしい行いのためである。

3 見よ、あの大きな町ゼラヘムラとそこに住む者たちを、わたしは火で焼いた。

4 また見よ、あの大きな町モロナイを、わたしは海の深みに沈め、そこに住む者たちをおぼれさせた。

5 また見よ、あの大きな町モロナイハとそこに住む者たちを土で覆い、彼らの罪悪と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

6 見よ、ギルガルの町を沈め、そこに住む者たちを地の深みに埋めた。

7 また、オナイハの町とその民、モクムの町とその民、エルサレムの町とその民も同様であり、わたしはそれらの町に代わって水をわき上がらせ、彼らの悪事と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

8 また見よ、ガデアンダイの町、ガデオムナの町、ヤコブの町、ギムギムノの町、これらをすべて沈め、それらの場所に丘と谷を造った。また、それらの町に住む者たちを地の深みに埋め、彼らの悪事と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

9 また見よ、ヤコブ王の民が住んでいたあの大きな町ヤコブガスを、全地のどんな悪事も及ばない彼ら

第 9 章
1 ① 1 ニフ 19・11、3 ニフ 11・10
2 ① マタ 11・20–21
7 ① モセ 7・26
7 ② エゼ 26・19
8 ① 1 ニフ 19・11

の罪と悪事のゆえに、また彼らの[1]暗殺と秘密結社のゆえに、わたしは火で焼かせた。わたしの民の平和を破り、国の政府を滅ぼしたのは彼らである。したがって、わたしは彼らを焼かせ、わたしの前から彼らを滅ぼ[2]して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

10 また見よ、レーマンの町と、ヨシの町と、ガドの町と、キシクメンの町と、それらの町に住む者たちを、わたしは火で焼かせた。彼らが預言者たちを追い出すという悪事、また彼らの悪事と忌まわしい行いのことを彼らに告げさせるために、わたしが遣わした者たちに石を投げつけるという悪事を行ったからである。

11 彼らが預言者たちをすべて追い出し、彼らの中に一人も義人がいなくなったので、わたしは火を[1]下して彼らを滅ぼし、彼らの悪事と忌まわしい行いがわたしの前から隠されて、わたしが彼らの中に遣わした預言者たちと聖徒たちの血が、[2]地から叫んで彼らについてわたしに訴えることのないようにした。

12 わたしは、[1]多くのひどい破壊がこの地とここに住む者たちに及ぶようにさせたが、それは彼らの悪事と忌まわしい行いのゆえである。

13 おお、彼らよりも義にかなっているために、[1]命を助けられているすべての者よ。わたしがあなたがたを[2]癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。

14 まことに、あなたがたに言う。あなたがたは、わたしのもとに来るならば[2]永遠の命を得るであろう。見よ、わたしの[3]憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。

15 見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは天地とその中にある万物を[1]創造した。わたしは初めから父とともにいた。[2]わたしは父におり、父はわたしにおられる。そして、わたしによって父は御名に栄光を受けられた。

16 わたしは自分の民のところに来たのに、民はわたしを[1]受け入れなかった。わたしの来臨に関する聖文は成就している。

17 わたしを受け入れた者に、わたしは神の子となる

---

9 ① ヒラ 6・17–18、21
11 ① ② ラ 13・13 列下 1・9–16、ヒ モサ 12・8
12 ① ② 3 ニフ 8・8–10、14
13 ① ② 3 ニフ 10・12–3・22、3 ニフ エレ
14 ① 18・32 2 ニフ 26・24–28、アル 5・33–36 ヨハ 3・16–19・36
15 ① ③ ② 1・16、ヒラ 14・12、エテ ヨハ 1・1–3、コロ 4・7、ヨハ 17・20–22、3 ニ 教義 14・9
16 ① 21 フ 11・27、19・23、29 ヨハ 1・11、教義 6・

ことを許した。わたしの名を信じる者にも同様にしよう。見よ、わたしによって贖いは可能になっており、またわたしによってモーセの律法は成就している。

18 わたしは世の光であり命である。わたしはアルパでありオメガであり、初めであり終わりである。

19 あなたがたは、もはや血を流すことをわたしへのささげ物としてはならない。あなたがたの犠牲と燔祭は取りやめなさい。わたしはこれから、あなたがたの犠牲と燔祭を受け入れないからである。

20 あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしはレーマン人に授けたように、火と聖霊によってバプテスマを授けよう。レーマン人は改心したときにわたしを信じたので、火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。

21 見よ、わたしは、世に贖いをもたらし、世の人々を罪から救うために世に来た。

22 それゆえ、悔い改めて幼子のようにわたしのもとに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう。神の王国はこのような者の国である。見よ、このような者のために、わたしは自分の命を捨て、再びそれを得た。それゆえ、地の果てに至る人々よ、悔い改め、わたしのもとに来て救われなさい。」

第10章

地が何時間も静かであったこと。キリストの声が聞こえ、めんどりがひなを集めるように御自分の民を集めることを約束される。守られた者は、ひときわ義にかなった人々であった。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて見よ、この地のすべての人がこれらの御言葉を聞き、それについて証人となった。そして、これらの御言葉の後、地は何時間も静かであった。

2 民があまりの驚きに、親族を失ったのを嘆くこと、また泣きわめくことをやめてしまったからである。そのために、全地は何時間も静かであった。

3 そして、再び民に声が聞こえた。すべての人はそれを聞き、それについての証人となったが、その声は次のように語られた。

---

17 ①ヨハ1・12、GS「神の息子、娘」「人－天の御父のようになる可能性を持った人間」
②③GS「贖い・贖う」
3ニフ12・19、46－47、15・2－9
18 ①GS「光・キリストの光」
②黙示1・8、GS「アルパとオメガ」
19 ①34・13
3ニフ12・19、教義20・37
20 ①2ニフ31・13－14
②②GS「悔い改め」
22 ②3ニフ11・37－38
③19、マコ10・15、モサ3・ヨハ10・15－18

4 「おお、ヤコブの子孫であり、イスラエルの家に属する者である、崩れ落ちたこれらの大きな町の民よ。めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集め、養ってきたことか。

5 さらにまた、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。まことに、おお、罪を犯してきたイスラエルの家の民よ。まことに、おお、同じように罪を犯してきたエルサレムに住むイスラエルの家の民よ。まことに、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。

6 おお、わたしが命を助けたイスラエルの家よ。あなたがたが悔い改め、十分に固い決意をもってわたしに立ち返るならば、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度も集めよう。

7 しかし、おお、イスラエルの家よ、もし悔い改めて立ち返らなければ、あなたがたの住居のある所は、あなたがたの先祖に立てた聖約が果たされるときまで荒れ果てた所となるであろう。」

8 さて、民はこれらの御言葉を聞いた後、見よ、親族と友人を失ったことで再び涙を流し、泣きわめき始めた。

9 そして三日たった。そして朝になると、暗闇は地の面から消え去り、地が揺れ動くのはやみ、岩が裂けるのもやみ、恐ろしいうなりは静まり、騒々しい音はすべてやんだ。

10 地は再び合わさってそのままになった。また、命を助けられた人々の嘆きや泣き悲しむ声もやんだ。そして、彼らの嘆きは喜びに変わり、彼らの悲しみは、彼らの贖い主なる主イエス・キリストへの賛美と感謝に変わった。

11 預言者たちによって述べられた聖文はここまで成就した。

12 このときに命を助けられたのは、ひときわ義にかなった人々である。彼らは預言者たちを受け入れた人々で、預言者たちに石を投げつけなかった。また、聖徒たちの血を流したこともなかった。

13 彼らは命を助けられ、地の中に沈められることも埋められることもなかった。海の深みにおぼれることもなく、火で焼かれもせず、落ちて押しつぶされて死ぬこともなかった。また、彼らは旋風に運び去

第10章
4 1 ニフ 8・14
5 1 ニフ 17・3
2 マタ 23・37、教義 43・24—25
6 1 ニフ 9・13
2 サム上 7・3、ヒラ 13・3
7 1 ニフ 24・7
11 GS「聖約（契約）」
9 1 ニフ 8・19
11 1 使徒 3・18—20
12 1 ニフ 26・8、3 ニフ 9・13

られることもなく、立ち込める煙と暗黒の霧に打ち倒されるということもなかった。

14 さて、読む者は理解しなさい。聖文を持っている者は聖文を調べて、火と煙、暴風雨、旋風、それに人々をのみ込む地の裂け目による[2]これらの死と破壊がすべて、多くの聖なる預言者たちの預言を成就するものでないかどうか確かめなさい。

15 見よ、あなたがたに言う。まことに、多くの預言者が、キリストの来臨の時のこれらのことについて証し、そしてこれらのことを証したために殺された。

16 まことに、預言者ゼノス[1]はこれらのことについて証し、ゼノクもこれらのことについて述べ、彼らは特に、彼らの子孫の残りの者であるわたしたちについて証した。

17 見よ、わたしたちの先祖ヤコブも、ヨセフの子孫の残りの者[1]について証した。わたしたちはヨセフの子孫の残りの者ではないだろうか。わたしたちについて証するこれらのことは、先祖リーハイがエルサレムから持って来た真鍮の版に書き記されてはいないだろうか。

18 さて、第三十四年の末に、命を助けられたニーファイの民と、レーマン人と呼ばれた命を助けられた人々に大きな恵みが与えられ、彼らの頭に大きな祝福が注がれたことを、見よ、わたしはあなたがたに示そう。キリストは[1]天に昇られてからすぐに、実際に彼らに御自身を現し、

19 彼らに御自分の体を示し、教えと導きを授けられた。キリストの務めについての話は後に記すことにする。したがって、今はわたしの言葉を終わりにする。

大勢の人がバウンティフルの地に集まったとき、イエス・キリストはニーファイの民に御自身を現し、彼らを教え導かれた。イエス・キリストが彼らに御自身を現された次第は、次に記すとおりである。

次の第十一—二十六章がそれに相当する。

第11章

御父、愛する御子について証される。キリストが現れ、御自分の贖罪について宣言される。人々、キリス

14 ①価値」
② GS「聖文—聖文の
15 ①フ26・5
16 ①GS「殉教者・殉教」
17 ①ヒラ8・19—20
①2ニフ3・4—5、アル46・24、3ニフ5・23—24
18 ①使徒1・9—11
19 ①3ニフ11・12—15

トの両手と両足とわきの傷跡に触れる。人々、「ホサナ」と叫ぶ。キリスト、バプテスマの様式を述べられる。争いの心は悪魔のもの。キリストの教義とは、人は信じてバプテスマを受け、聖霊を受けなければならないというものである。紀元約三十四年。

1 さて、ニーファイの民の大勢の群衆がバウンティフルの地にある神殿の周りに集まり、互いに驚き、不思議に思い、また各地に起こった大いなる驚くべき変化について互いに話し合っていた。
2 彼らはまた、すでにその死にかかわるしるしが現れたイエス・キリストについても語り合っていた。
3 そして、彼らが互いに語り合っていたとき、天から発せられるような声が聞こえた。しかし彼らは、自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分からなかったので、辺りを見回した。それは耳障りな声ではなく、大きな声でもなかったが、小さな声でありながら、聞いた人々の心の中まで貫いたので、彼らの全身はことごとくそれによって震えた。まったく、それは魂そのものにまで彼らを貫き、彼らの心を燃え上がらせた。
4 そして彼らは、再びその声を聞いたが、それでもその声の告げる意味が分からなかった。
5 その声は三度まで聞こえ、彼らはこの度は耳を開いてそれを聞き、目をその声のする方へ向けて、その声が発せられる天を見詰めていた。
6 すると見よ、三度目には、彼らは自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分かった。その声は彼らに語った。
7 「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」
8 そして、彼らはその意味が分かったので、再び天を見上げた。すると見よ、天から一人の男の方が降って来られるのが見えた。この御方は白い衣を着ておられ、降って来て群衆の中に立たれた。全群衆の目がこの御方に注がれたが、彼らは互いの間でさえ、あえて口を開こうとはしなかった。また彼らは、自分たちに御姿を現された御方を天使であると思ったが、これがどういうことなのか分からなかった。
9 そこでこの御方は、片手を差し伸べて人々に言われた。

第11章
1 ①ニフ 3・8、11–14
2 ①ヒラ 14・20–27
3 ①申命 4・33–36、ヒラ 5・29–33
② 列上 19・11–13、教義 85・6
7 ①マタ 3・17、17・5、ジ–歴史 1・17
8 ①ニフ 9・15
② ニフ 12・6、2ニフ 26・1

10 「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に
来ると預言者たちが証した者である。
11 見よ、わたしは世の光であり命である。わたしは、
父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み、世の罪
を自分に負うことによって父に栄光をささげた。わ
たしは世の罪を負うことによって、初めから、すべ
てのことについて父の御心に従ってきた。」
12 さて、イエスがこれらの御言葉を語り終えられる
と、群衆は全員地に伏した。彼らは、キリストが天
に昇られた後、自分たちに御自身を現されること
が預言されていたのを思い出したからである。
13 そこで、主は彼らに言われた。
14 「立ってわたしのもとに来て、あなたがたの手を
わたしのわきに差し入れ、またわたしの両手と両
足の釘の跡に触れて、わたしがイスラエルの神であ
り、全地の神であること、そして世の罪のために殺
されたことを知りなさい。」
15 そこで群衆は進み出て、主のわきに手を差し入
れ、また主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは
一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目
で見、自分の手で触れ、この御方が、将来来られる
と預言者たちによって書き記された主であられるこ
とを、確かに知って証した。
16 彼らは全員進み出て、自ら確認した後、一斉に叫
んだ。
17 「ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられま
すように。」そして、彼らはイエスの足もとに伏し
て、イエスを拝した。
18 そして、イエスは（ニーファイが群衆の中にいた
ので）ニーファイに語りかけ、進み出るように命じ
られた。
19 そこでニーファイは、立ち上がって進み出て、主
の前にひれ伏し、主の両足に口づけした。
20 すると主は、立ち上がるように彼に命じられた。
そこで彼は、身を起こして主の前に立った。
21 すると主は彼に、「わたしはあなたに力を授ける。
わたしが再び天に上げられるとき、あなたはこの力
をもってこの民にバプテスマを施しなさい」と言わ
れた。
22 さらに主は、ほかの人々も召して、彼らにも同じ
ように言われた。そして主は、バプテスマを施す力
をこれらの人に授けられた。それから、主は彼らに

11 ①GS「光・キリストの光」 ②マタ26・39、42 ③ヨハ1・29、教義19・18 ④マコ14・36、ヨハ6・38、教義19・2
12 ①アル16・20 14 ①ヨハ20・27 ②ルカ24・36–39、教義19・2 ③イザ45・3、3ニフ29・2
15 ①1ニフ11・6 ④GS「イエス・キリスト—死後の現れ」 5
17 ①GS「礼拝」 18 ①3ニフ1・2、10
21 ①GS「力」 ②GS「バプテスマ」
22 ①1ニフ12・7、3ニフ12・1

言われた。「次の方法であなたがたはバプテスマを施しなさい。あなたがたの中に決して[2]論争があってはならない。

23 まことに、あなたがたに言う。あなたがたの言葉[1]によって罪を悔い改め、わたしの名によってバプテスマを受けたいと望む[2]人に、次の方法でバプテスマを施しなさい。見よ、あなたがたは水の中に下りて行って立ち[3]、わたしの名によって彼らにバプテスマを施しなさい。

24 さて見よ、そのときにあなたがたの言う言葉は次のとおりである。まず、バプテスマを受ける人の名を呼んで、

25 『わたしはイエス・キリストより[1]権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名[2]によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン』と言いなさい。

26 それから、あなたがたはその人を水中に沈め[1]、水から上がりなさい。

27 このような方法で、わたしの名によってバプテスマを施しなさい。見よ、まことに、あなたがたに言う。父と子と聖霊は一[1]つである。わたしは父におり、父はわたしにおられ、父とわたしは一つである。

28 わたしが命じたとおり、あなたがたはこのようにバプテスマを施しなさい。これまであったような論[1]争が、今後は決してあなたがたの中にあってはならない。また、わたしの教義の要点について、これまでにあったような論争が、今後決してあなたがたの中にあってはならない。

29 まことに、まことに、あなたがたに言う。争い[1]の心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔[2]につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる。

30 見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。

31 見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。あなたがたにわたしの教義を告げよう。[1]

32 これから述べるのがわたしの教義であり[1]、父がわたしに与えてくださった教義である。わたしは父のことを証し[2]、父はわたしのことを証され、聖霊は父とわたしのことを証する[3]。父は、どこにいる人でもすべての人に、悔い改めてわたしを信じるように命じておられることを、わたしは証する。

---

22 ① 3ニフ18・34
② 3ニフ12・2
23 ① 4・11—14、教義20・28
② 3ニフ「バプテスマ資格」
GS
24 ① 1コリ1・10、エペ4・26、モサ23・15、JS エペ4・26、モサ23・15、GS「争い」
② 2・32—33
25 ① 2ニフ31・2—21
② GS「キリストの教義」
③ 3ニフ19・10—13
26 ① 1ヨハ5・7
② 3ニフ28・11、エテ5・4
③ GS「神・神会」
27 ① ヨハ17・20—22、3ニフ28・10、モル7・7、教義20・28
② GS「バプテスマ」
28 ① 2テモ2・23—24、GS「争い」
② 3ニフ18・34
29 ① 4・11—14、教義38・27
② モサ18・13、教義20・73、GS「バプテスマ」正当な権能」
30 ① 全身を水に沈める」
31 ① 3ニフ19・10—13
32 ① 教義20・73、GS「バプテスマ」正当な権能」
② 3ニフ28・11、エテ

33 わたしを信じてバプテスマを受ける者は、だれでも救われる。神の王国を受け継ぐのはこれらの者である。

34 また、わたしを信じないでバプテスマを受けない者は、だれでも罰の定めを受ける。

35 まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。わたしは、父から告げられたとおりにこれを証する。わたしを信じる者は父をも信じるのである。その者に、父はわたしのことを証されるであろう。父はその者に火と聖霊を与えられる。

36 このようにして、父はわたしのことを証され、聖霊はその者に父とわたしのことを証する。父とわたしと聖霊は一つである。

37 もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、幼子のようになり、わたしの名によってバプテスマを受けなければならない。そうしなければ、あなたがたは決してこれらのものを受けることができない。

38 もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、わたしの名によってバプテスマを受け、幼子のようにならなければならない。そうしなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐことができない。

39 まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。この教義の上に建てる者はわたしの岩の上に建てるのである。地獄の門もこれらの者に打ち勝つことはない。

40 また、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを告げ知らせて、それをわたしの教義とする者は、悪から出る者であり、わたしの岩の上に建てられてはいない。このような者は、砂の土台の上に建てているのである。地獄の門は開かれており、洪水が起こり、風が打ちつけるときにこのような者を迎え入れる。

41 したがって、あなたがたはこの民の中に出て行き、わたしの語った言葉を地の果てまで告げ知らせなさい。」

第12章

イエス、十二弟子を召して力を授けられる。イエス、ニーファイ人に山上の垂訓に似た説教をし、至福の

33 ① マコ16・16、GS「バプテスマ―必要不可欠な条件」
② GS「救い」
③ GS「日の栄え」
35 ① エテ4・12
② 3ニフ9・20、12・
37 ① 2GS「聖霊」
③ マコ10・15、ルカ18・17、モサ3・19、3ニフ
39 ① 9・22
5・12、GS「岩」
マタ7・24―29、ヒラ
40 ① 3ニフ18・12―13
② 3ニフ14・24―27

教えを説かれる。イエスの教えはモーセの律法をしのぎ、モーセの律法に優先する。イエスと御父が完全であられるように完全になることが、人々に命じられる。マタイによる福音書第五章と比較せよ。紀元約三十四年。

1さて、イエスはこれらの御言葉をニーファイと前に召された人々（召されてバプテスマを施す力と権能を授けられた人々の数は十二人であった）に語り終えると、見よ、群衆に手を伸ばして、大きな声で言われた。「わたしがあなたがたの中から選んで、あなたがたを教え導き、またあなたがたの僕となるようにしたこの十二人の言葉に注意を払うならば、あなたがたは幸いである。わたしは水であなたがたにバプテスマを施す力をこの十二人に授けた。あなたがたが水でバプテスマを受けた後、見よ、わたしはあなたがたに火と聖霊によってバプテスマを授けよう。あなたがたはすでにわたしを見ており、わたしが実在することを知っているので、わたしを信じてバプテスマを受けるならば、あなたがたは幸いである。

2さらにまた、あなたがたがわたしに会ったと証し、わたしが実在することを知っていると証するとき、あなたがたのその言葉を信じる人々は、なおさら幸いである。まことに、あなたがたの言葉を信じて、心底謙遜になってバプテスマを受ける人々は、幸いである。彼らは火と聖霊を授かり、罪の赦しを受けるからである。

3まことに、わたしのもとに来る心の貧しい人々は、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。

4また、悲しむ人々は皆、幸いである。彼らは慰められるからである。

5柔和な人々は、幸いである。彼らは地を受け継ぐからである。

6義に飢え渇いている人々は皆、幸いである。彼らは聖霊に満たされるからである。

7憐れみ深い人々は、幸いである。彼らは憐れみを受けるからである。

8心の清い人々は皆、幸いである。彼らは神を見るからである。

9平和をつくり出す人々は皆、幸いである。彼らは神の子と呼ばれるからである。

第12章

1 ① ② GS ニフ13・25「召し・神の召し」
2 ① ③ GS「祝福」
② ③ 教義46・13–14、GS「信じる」
③ エテ4・13–15
3 ニフ11・35、19・
3 ① 13 マタ11・28–30
② 教義56・17–18、GS「謙遜」
4 ① ② 教義93・1
5 ① ロマ12・16、モサ3・19、GS「柔和」
② GS「地球（地）」
6 ① 箴言21・21
② 2ニフ9・51、エノ1・4
7 ① エレ29・13
③ GS「憐れみ」
8 ① GS「清さ」
② 教義93・1「平和をつくり出す人」
9 ① GS「神の息子、娘」

10 わたしの名のために迫害される[1]人々は皆、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。
11 わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、またあなたがたに対して偽って悪口を言うときには、あなたがたは幸いである。
12 あなたがたは大きな喜びを得て、非常に喜ぶようになる。天においてあなたがたの受ける[1]報いは大きいからである。あなたがたより前にいた預言者たちも、同じように迫害されたのである。
13 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたを地の[1]塩とする。しかし、もし塩がその塩気を失ったら、地は何によって塩味をつけられようか。その塩はもはや何の役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけである。
14 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの民の光とする。丘の上にある町は隠れることができない。
15 見よ、人は[1]ろうそくに火をつけて升の下に置くだろうか。そのようなことはせず、燭台に立てて、家の中のすべてのものを照らす。
16 だから、あなたがたの[1]光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。
17 わたしが律法や預言者を廃するために来た、と思ってはならない。わたしが来たのは廃するためでなく、成就するためである。
18 まことに、あなたがたに言う。[1]律法は一点一画もむなしくなることがなく、わたしによってすべて成就した。
19 そして見よ、わたしはあなたがたに、わたしを信じ、罪を悔い改めて、[1]打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来るようにという父の律法と戒めを与えた。見よ、あなたがたの前には戒めがあり、[2]律法はすでに成就している。
20 だから、わたしのもとに来て救いを得なさい。まことに、あなたがたに言う。今あなたがたに命じたわたしの戒めを守らなければ、あなたがたは決して天の王国に入れないであろう。
21 昔の人々により、『あなたがたは[1]殺してはならない。殺す者はだれでも、神の裁きを受ける恐れがある』と言われてきたことは、あなたがたの聞いているところであり、またそれは、あなたがたの前に書

---

10 ① 「迫害」 教義122・5–9、GS
12 ① エテ12・4
13 ① 教義101・39–40、GS
「塩」
15 ① ルカ8・16
16 ① 3ニフ18・24
18 ① GS「モーセの律法」
19 ① 3ニフ9・20、GS「打ち砕かれた心」
21 ① 出エ20・13、モサ13・3ニフ9・17
② 教義42・18
21、

き記されている。

22 しかし、あなたがたに言う。自分の兄弟に対して怒る者はだれであろうと、神の裁きを受ける恐れがある。自分の兄弟に向かって『愚か者』と言う者はだれでも、議会に引き渡される恐れがある。また、『ばか者』と言う者はだれでも、地獄の火に投げ込まれる恐れがある。

23 だから、あなたはわたしのもとに来るとき、またはわたしのもとに来たいと思うとき、兄弟があなたに対して何か恨みを抱いていることを思い出したら、

24 あなたの兄弟のところに行って、まずその兄弟と和解[1]し、それから十分に固い決意をもってわたしのもとに来なさい。そうすれば、わたしはあなたを受け入れよう。

25 自分に敵意を抱いている者と、一緒にいる間に早く仲直りしなさい。そうしないと、いつか彼はあなたを捕らえるであろう。そして、あなたは牢に入れられるであろう。

26 まことに、まことに、あなたに言う。あなたは最後の一セナインを支払ってしまうまで、決してそこから出て来ることはできない。あなたは牢の中にいて一セナイン[1]でも支払えるだろうか。まことに、まことに、あなたに言う。『支払うことはできない』と。

27 見よ、昔の人々は、『あなたは姦淫[1]してはならない』と書いている。

28 しかし、あなたがたに言う。情欲[1]を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を行ったのである。

29 見よ、わたしはあなたがたに、これらのことを決して心の中[1]に入れないようにと命じる。

30 あなたがたは、これらのことを断って自分の十字架[1]を負う方が、地獄に投げ込まれるよりもよいからである。

31 『妻を出す者は離縁状[1]を渡せ』と書かれている。

32 まことに、まことに、あなたがたに言う。だれでも、不貞以外[1]の理由で自分の妻[2]を出す者は、姦淫[3]を行わせるのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである。

33 さらに、『偽り誓うな。誓ったことは、すべて主に対して果たせ』と書かれている。[1]

---

24 ① GS「赦し」
26 ① アル11・3
27 ① 2ニフ9・36、教義59・6
28 ① 教義42・23、GS「欲望」
29 ① 使徒8・22
30 ① マタ10・38、16・24、ルカ9・23
31 ① GS「離婚」
32 ① GS「不貞」
② マコ10・11–12
③ GS「姦淫」
33 ① GS「誓い」

34 しかし、まことに、まことに、あなたがたに言う。一切誓ってはならない。[1]天にかけて誓ってはならない。そこは神の御座であるから。
35 また、地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台であるから。
36 また、自分の頭にかけて誓ってはならない。あなたは髪の毛一筋さえ黒くも白くもすることができない。
37 あなたがたの言葉はただ、『はい、はい』『いいえ、いいえ』であるべきだ。それ以上のものから出るものはすべて悪である。
38 また見よ、『[1]目には目を、歯には歯を』と書かれている。
39 しかし、あなたがたに言う。悪人に[1]手向かってはならない。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの[2]頬をも向けてやりなさい。
40 あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。
41 もし、だれかが、あなたを強いて一マイル行かせようとするなら、その人とともに二マイル行きなさい。
42 求める者には[1]与え、借りようとする者を断らないようにしなさい。
43 また見よ、『隣人を愛し、敵を憎め』とも書かれている。
44 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの[1]敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために[2]祈りなさい。
45 こうして、天におられるあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも善い者の上にも太陽を昇らせてくださるからである。
46 以前律法の下にあったことはすべて、わたしによって成就している。
47 [1]古いものは廃されて、すべてのものが新しくなったのである。
48 わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも[1]完全になることを、わたしは望んでいる。」

第13章

イエス、主の祈りをニーファイ人に教えられる。人

34 ①GS「不敬」
38 ①レビ24・20
39 ①3ニフ6・13、4ニフ1・34、教義98・23–32
42 ①②ヤコ2・17–19、モサ4・22–26
44 ①箴言24・17、アル48・23
47 ①②使徒7・59–60
48 ①教義22・1、3ニフ15・2、7、27、マタ5・48、3ニフ27・27、GS「完全」

は天に宝を蓄えなければならない。主の務めに携わる十二弟子、この世のものを思い煩わないように命じられる。マタイによる福音書第六章と比較せよ。紀元約三十四年。

1「まことに、まことに、わたしは言う。あなたがたは貧しい者に施しをしてほしい。しかし、見られるために人々の前で施しをすることのないように注意しなさい。もし、そうしないと、天におられるあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。

2だから、施しをするときには、偽善者たちが人から[1]褒められるために会堂や通りでするように、自分の前でラッパを吹いてはならない。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまっている。

3あなたは施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知らせてはならない。

4それは、あなたのする施しが隠れているためである。そうすれば、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

5また、[1]祈るときには、偽善者たちのようにしてはならない。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまっている。

6あなたは祈るとき、自分の部屋に入り、戸を閉じて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。すると、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

7また、祈るとき、異教徒のように無益に繰り返すことはやめなさい。彼らは、言葉数が多ければ聞き入れられると思っている。

8だから、彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、求めない先から、あなたがたに必要なものを[1]御存じだからである。

9だから、あなたがたは[1]こう[2]祈りなさい。『天におられるわたしたちの[3]父よ、御名があがめられますように。

10御心が天で行われるように、地でも行われますように。

11わたしたちが自分に負債のある者を赦しています

第13章
1 ① GS「施し」
2 ① 教義121・34–35
5 ① GS「祈り」
8 ① 教義84・83
9 ① マタ6・9–13
② GS「祈り」
③ GS「神・神会—父なる神」

ように、わたしたちの負債をお赦しください。
12 わたしたちを誘惑に陥らせることのないようにし、悪からお救いください。
13 王国と力と栄光はとこしえにあなたのものです。アーメン。』
14 もしあなたがたが人の過ちを赦すならば、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださるであろう。
15 もし人を赦さないならば、あなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してくださらないであろう。
16 さらにあなたがたは、断食をするときには、偽善者のように悲しげな顔つきをしてはならない。彼らは断食をしていることを人に知らせようとして、自分の顔を見苦しくする。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまっている。
17 あなたがたは断食をするときには、頭に油を塗り、顔を洗いなさい。
18 それは、断食をしていることを人に知られないで、隠れた所におられるあなたの父に知っていただくためである。そうすれば、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。
19 あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝を蓄えてはならない。
20 むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝を蓄えなさい。
21 あなたの宝のある所には、心もあるからである。
22 体の明かりは目である。だから、あなたの目が正しく見ていれば、あなたの全身に光が満ちるであろう。
23 しかし、あなたの目が悪を見ていれば、全身に暗闇が及ぶであろう。だから、もしあなたの内にある光が暗闇になるならば、その暗さはどんなに深いことか。
24 だれも、二人の主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」
25 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選んだ十二人を見て言われた。「わたしが語った言葉を覚えておきなさい。見よ、あなたがたは

---

12 ①JS マタ 6・14
14 ①モサ 26・30–31、教義 64・9、GS「赦し」
16 ①イザ 58・5–7、GS「断食」
18 ①教義 38・7
20 ①ヒラ 5・8、8・25
22 ①教義 88・67
24 ①サ上 7・3

この民を教え導くようにわたしが選んだ者だからである。あなたがたに言う。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思い煩い、何を着ようかと自分の体のことで思い煩ってはならない。命は食物に勝り、体は衣服に勝っていないだろうか。
26 空の鳥を見なさい。まくことも刈ることもせず、倉に納めることもしない。それでも、あなたがたの天の父は鳥を養っておられる。あなたがたは、鳥よりもはるかに優れた者ではないか。
27 あなたがたの中のだれが、思い煩ったからといって、自分の背丈を一キュビト伸ばすことができようか。
28 また、なぜ衣服のことで思い煩うのか。野のゆりがどのように育っているか考えてみなさい。野のゆりは働きもせず、紡ぎもしない。
29 しかし、あなたがたに言うが、栄華を極めたときのソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。
30 だから、今日はあって、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神がこのように装ってくださるとすれば、あなたがたの信仰が薄くないかぎり、神はあなたがたにも同じように装わせてくださるであろう。
31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って思い煩ってはならない。
32 あなたがたの天の父は、これらのものがすべてあなたがたに必要であることを御存じだからである。
33 まず神の王国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。
34 だから、明日のことを思い煩ってはならない。明日のことは明日自身が思い煩うであろう。その日はその日の苦労だけで十分である。」

第14章

イエス、裁かないように、神を求めるように、偽預言者に気をつけるようにと命じられる。イエス、御父の御心を行う者に救いを約束される。マタイによる福音書第七章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、もう一度群衆の方に向き直って、再び彼らに口を開かれた。「まことに、まことに、あなたがたに

25 ① GS「仕える」
② アル31・37−38、教義
33 ① 84・79−85
ルカ12・31

言う。1)裁いてはならない。自分が裁かれないためである。
2 あなたがたが裁くその裁きで、自分も1)裁かれ、あなたがたが量るそのはかりで、あなたがたも量られるからである。
3 なぜ兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。
4 自分の目には梁があるのに、どうして兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取らせてください』と言えようか。見よ、自分の目の中に梁があるではないか。
5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるであろう。
6 1)聖なるものを犬に与えてはならない。また豚の前に真珠を投げてはならない。彼らはそれらを足で踏みつけ、向き直って、あなたがたを引き裂くであろう。
7 求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。捜しなさい。そうすれば、見いだすであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。
8 すべて求める者は与えられ、捜す者は見いだし、たたく者には開かれるからである。
9 あなたがたの中に、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。
10 魚を求めるのに、蛇を与える者があろうか。
11 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天におられるあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか。
12 だから、何事でも人からしてほしいと望むことは、1)人々にもそのとおりにしなさい。これが律法であり、預言者である。
13 1)狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。そして、そこから入って行く者が多い。
14 命に至る1)門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が3)少ない。
15 1)偽預言者に気をつけなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。

第14章
1 ①JS マタ 7・1–2、ヨハ 7・24
2 ①モル 8・19
5 ①ヨハ 8・3–11
6 ①GS「聖い」
7 ①ニフ 27・29、GS「祈り」
12 ①GS「哀れみ」
13 ①ルカ 13・24、3ニフ 27・33
14 ①教義 132・25
②2ニフ 9・41、31・9、17–18、教義 22・1–
4 ②1ニフ 8・20
15 ①エレ 23・21–32、2ニフ 28・9、12–15

16 あなたがたは、その実によって彼らを見分けるであろう。いばらからぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。
17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。
18 良い木が悪い実を結ぶことはないし、悪い木が良い実を結ぶこともあり得ない。
19 [1]良い実を結ばない木はことごとく切り倒されて、火の中に投げ込まれる。
20 このように、あなたがたはその実[1]によって彼らを見分けるのである。
21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の王国に入るのではなく、ただ、天におられるわたしの父の御心を行う者だけが入るのである。
22 その日には、多くの者がわたしに向かって、『主よ、主よ、わたしたちはあなたの御名によって預言したではありませんか。あなたの御名によって悪霊を追い出し、あなたの御名によって多くの驚くべき業を行ったではありませんか』と言うであろう。
23 そのとき、わたしは彼らにはっきりこう言おう。『わたしはあなたがたをまったく知[1]らない。罪悪を行う者たちよ、わたしのもとから去[2]りなさい。』
24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者を、わたしは岩[1]の上に家を建てた賢い人にたとえよう。
25 [1]雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それは倒[2]れなかった。岩を土台としていたからである。
26 また、わたしのこれらの言葉を聞いて行わない者は皆、砂[1]の上に家を建てた愚かな人にたとえられる。
27 雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまった。そして、その倒れ方はひどかった。」

第15章

イエス、モーセの律法が御自分によって成就したことを告げられる。イエスがエルサレムで言われた他の羊とは、ニーファイ人のことである。エルサレムにいる主の民は、罪悪のために、イスラエルの散らされた羊のことを知らない。紀元約三十四年。

1 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、

---

19 ①マタ3・10、アル5・36－41、教義97・7
20 ①ルカ6・43－45、モロ7・5
22 ①アル5・17
23 ①モサ5・13、26・24－
24 ①GS「岩」
25 ①ルカ13・27
26 ①②12箴言12・7
27 ②アル26・6、ヒラ5・3ニフ11・40

群衆を見回して、「見よ、あなたがたは、わたしが父のみもとに昇って行く前に教えたことを聞いた。だから、わたしのこれらの言葉を覚えていて行う者を、わたしは終わりの日によみがえらせよう」と言われた。

2 そしてイエスは、これらの御言葉を述べると、彼らの中に、イエスはモーセの律法をどうするおつもりかと驚き怪しんでいる人々がいるのに気づかれた。これらの人々は、古いものは過ぎ去って、すべてのものが新しくなったという御言葉の意味を、理解していなかったからである。

3 そこでイエスは、彼らに言われた。「わたしが、古いものは過ぎ去って、すべてのものが新しくなったとあなたがたに言ったことを、不思議に思ってはならない。

4 見よ、あなたがたに言う。モーセに与えられた律法はもう成就している。

5 見よ、その律法を与えたのはこのわたしであり、わたしの民イスラエルと聖約した者はわたしである。律法はわたしによって成就している。わたしは律法を成就するために来たからである。したがって、律法は終わった。

6 見よ、わたしは、預言者を廃止することはしない。まことに、わたしはあなたがたに言う。まだわたしによって成就していないことはすべて、これから成就するであろう。

7 わたしは、古いものは過ぎ去ったとあなたがたに言った。ということは、将来のものについて告げられてきたことを、廃していないということである。

8 見よ、わたしが民と交わした聖約は、まだすべては成就していないからである。しかし、モーセに与えられた律法は、わたしによって成就している。

9 見よ、わたしは律法であり、光である。わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。最後まで堪え忍ぶ者に、わたしは永遠の命を与えるからである。

10 見よ、わたしはあなたがたに戒めを与えたので、わたしの戒めを守りなさい。これは律法であり、預言者である。律法と預言者は、実際にわたしについて証したからである。」

11 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選んだあの十二人に向かって言われた。

第15章

1 ① 新ヤコ 1・22
② 1ニフ 13・37、教義

5 ① 5・35
② GS「モーセの律法」

4 ① モサ 13・27–31、3ニフ 9・17–20
② 1コリ 10・1–4、GS「エホバ」

6 ① アル 34・13
② 3ニフ 23・1–5

8 ① 3ニフ 5・24–26
② 2ニフ 26・1

9 ① GS「光・キリスト」
② 3ニフ 11・14、GS「エの光」
③ ヨハ 11・25、教義 84・44

10 ① GS「堪え忍ぶ」
② 3ニフ 12・20、モサ 13・33

12 「あなたがたはわたしの弟子である。またあなたがたは、ヨセフ[1]の家の残りの者であるこの民にとって光である。
13 見よ、この地はあなたがたの受け継ぎの地である。父はこれをあなたがたに与えてくださった。
14 このことを、エルサレムにいるあなたがたの同胞に告げるように、父は一度もわたしに命じられなかった。
15 また父が、その地から導き出されたイスラエルの家のほかの部族[1]について、彼らに告げるようにわたしに命じられたことも、これまでに一度もない。
16 彼らに告げるようにと、父がわたしに命じられたことはただ、
17 『わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼い[1]となるであろう』ということだけである。
18 ところが、彼らは強情であり、不信仰であったので、わたしの言葉を理解しなかった。そこで、このことについてそれ以上彼らに言わないように、わたしは父から命じられた。
19 しかしまことに、わたしはあなたがたに言う。父から命じられたので、わたしはあなたがたに告げる。彼らが罪悪を犯したために、あなたがたは彼らから分けられた。だから、彼らがあなたがたのことを知らないのは、彼らの罪悪のためである。
20 まことに、もう一度あなたがたに言う。父はほかにも彼らから幾つかの部族を分けられた。彼らがそれらの部族のことを知らないのは、彼らの罪悪のためである。
21 まことに、あなたがたに言う。『わたしには、この囲いにいない他の羊[1]がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとなるであろう』とわたしが言ったその羊とは、あなたがたのことである。
22 しかし、彼らはわたしの言ったことを理解しなかった。それは異邦人[1]のことであると、彼らは思った。異邦人は彼らの宣教によって改宗[2]するということを、彼らは理解していなかったからである。
23 また、『彼らもわたしの声に聞き従うであろう』と

---

12 ①GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
13 ①1ニフ18・22–23
14 ①3ニフ5・20
15 ①3ニフ16・1–4、GS「イスラエル—行方の知れない十部族」
17 ①GS「良い羊飼い」
18 ①教義10・59
21 ①ヨハ10・14–16
22 ①GS「異邦人」
②使徒10・34–48

わたしが言った意味を、彼らは理解しなかった。異邦人は決してわたしの声を聞かないということ、すなわち、[2]聖霊による以外にわたしは異邦人に自分自身を現さないということを、彼らは理解しなかった。

24しかし見よ、あなたがたは[1]わたしの声を聞き、わたしを見た。あなたがたはわたしの羊である。そしてあなたがたは、父がわたしに[2]与えてくださった者の中に数えられている。」

第16章

イエスはこの後、行方の知れないイスラエルの他の羊を訪れられる。末日に、福音は異邦人に伝わり、次いでイスラエルの家に伝わる。主がシオンを再び元に戻されるとき、主の民はそれを目の当たりに見るであろう。紀元約三十四年。

1「まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしには、この地におらず、エルサレムの地にもおらず、またわたしがこれまでに行って教え導いた周囲の地のどこにもいない[1]他の羊がいる。

2わたしの言うその羊は、まだわたしの声を聞いたことがなく、またわたしも彼らに自分自身を現したことはない。

3しかし、わたしは[1]彼らのところへ行って、彼らがわたしの声を聞いて、わたしの羊の中に数えられるようにし、一つの群れ、一人の羊飼いとなるようにすることを、父から命じられた。だから、わたしは行って彼らにわたし自身を現す。

4また、わたしはあなたがたに、わたしが去った後にこれらの[1]言葉を書き記すように命じる。エルサレムにいるわたしの民、すなわち、わたしを目にし、わたしが務めを果たしている間わたしとともにいた民が、聖霊によってあなたがたについて知ることができるように、また彼らの知らないほかの部族についても知ることができるように、わたしの名によって父に求めなければ、あなたがたがこれから書き記すこれらの言葉は、書き継がれて[2]異邦人に明らかにされるであろう。それは、エルサレムにいるわたしの民の不信仰のために、地の面に散らされる彼らの子孫の残りの者が、異邦人が満ちみちた恵みにあずかることによって導かれるためである。すなわち、

23 ① マタ15・24
② 1ニフ10・11、GS
24 ① アル5・38、3ニフ16・1－5
② ヨハ6・37、教義14・27

第16章
1 ① 3ニフ15・15、GS「イスラエル」行方の知れない十部族
3 ① 3ニフ17・4
4 ① GS「聖文」
② 1ニフ10・14、3ニフ21・6

彼らの贖い主であるわたしについて知るようになるためである。

5 そのとき、わたしは彼らを地の四方から集めよう。またそのとき、わたしは父がイスラエルの家のすべての民に立てられた聖約を果たそう。

6 異邦人は、わたしと父について証する聖霊によってわたしを信じるので、幸いである。

7 見よ、父が言われるには、彼らはわたしを信じ、おお、イスラエルの家よ、あなたがたは信じないので、末日には異邦人に真理が明らかにされて、これらのことがことごとく彼らに知らされるであろう。

8 しかし、異邦人の中の信仰心のない者は災いであると、父は言われる。彼らはこの地の面にやって来るにもかかわらず、イスラエルの家に属するわたしの民を散らすからである。そして、イスラエルの家に属するわたしの民は、彼らの中から追い出され、彼らに足で踏みつけられる。

9 父は異邦人を憐れみ、イスラエルの家に属するわたしの民を裁かれるので、まことに、まことに、あなたがたに言うが、これらの後、わたしはイスラエルの家に属するわたしの民が打たれ、苦しめられ、殺され、異邦人の中から追い出され、彼らに憎まれ、軽蔑の的となり、笑いぐさとなるようにする。

10 また父は、あなたがたに次のことを言うように、わたしに命じられた。『異邦人がわたしの福音に背いて罪を犯し、わたしの完全な福音を受け入れず、あらゆる国民、全地のあらゆる民にも増して高慢な心で高ぶり、あらゆる偽りと欺き、悪事、あらゆる偽善と殺人、偽善売教、みだらな行い、秘密の忌まわしい行いにふけるその日、もし彼らがそのようなことをすべて行い、わたしの完全な福音を受け入れなければ、見よ、わたしは彼らの中からわたしの完全な福音を取り去ろう』と、父は言われる。

11 『そのとき、わたしはかつてわたしの民、イスラエルの家に立てたわたしの聖約を思い出し、彼らにわたしの福音を伝えよう。

12 そして、おお、イスラエルの家よ、異邦人にはあなたがたを支配する権力がないことを、わたしはあなたがたに示そう。おお、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたに立てたわたしの聖約を思い出そう。そしてあなたがたは、わたしの完全な福音を知るようになるであろう。

---

4 ③ エゼ 20:42–44、3ニ
5 ① フ 20:13 GS「イスラエル―イスラエルの集合」
② 1ニフ 22:9、3ニフ 21:26–29
6 ① 1ニフ 13:30–42、
③ 3ニフ 5:24–26
2 ニフ 30:3
② 2ニフ 32:5、3ニフ 11:32、35–36、GS「聖霊」
7 ① GS「福音の回復」
8 ① 1ニフ 13:14、モルモ 5:20
9 ① 3ニフ 20:27–29
② アモ 9:1–4
10 ① モルモ 8:35–41
② 2ニフ 26:29
11 ① 3ニフ 21:1–11、
② モルモ 5:20
12 ① ヒラ 15:12–13

13 しかし、もし異邦人が悔い改めて、わたしに立ち
返るならば、見よ、彼らはわたしの民、イスラエル
の家の中に数えられる[1]』と、父は言われる。
14 『また、わたしはイスラエルの家に属するわたし
の民が彼らの中を通り過ぎて、彼らを踏みにじるこ
とを許さない』と、父は言われる。
15 『しかし、もし彼らがわたしに立ち返らず、わた
しの声に聞き従おうとしなければ、わたしは彼ら
が、すなわちわたしの民イスラエルの家が彼らの中
を通り過ぎて、彼らを踏[1]みにじることを許そう。彼
らは塩気を失った塩のようで、もう何の役にも立た
ず、捨てられて、わたしの民イスラエルの家の足の
下に踏みつけられるだけである。』
16 まことに、まことに、あなたがたに言う。父はわ
たしに、この地を受け継ぎとしてこの民に与えるよ
うにと命じられた。
17 そのとき、預言者イザヤの言[1]葉が成就するであろ
う。イザヤは言った。
18 『[1]あなたの見張[2]り人は声を上げ、声を合わせて彼
らは歌う。主がシオンを元に戻されるとき、彼らは
それを目の当たりに見るからである。
19 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、とも
に歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖わ
れたからである。
20 主はその聖なる腕を、すべての国民の目の前に現
された。地の果てに至るすべての人は、わたしたち
の神の救いを見るであろう。』

第17章

イエス、民に御自分の言葉について深く考え、理解力を祈り願うように指示される。イエス、民の病気を癒される。イエス、書き記せない言葉で民のために祈られる。天使たちは幼い子供たちに恵みを施し、幼い子供たちは火に包まれる。紀元約三十四年。

1 さて見よ、イエスはこれらの御言葉を語り終える
と、再び群衆を見回して言われた。「見よ、わたし
の時[1]は近づいた。
2 あなたがたは弱く、あなたがたに今告げるように
と父から命じられているわたしの言葉を、すべて
は理[1]解できないことを、わたしは知っている。
3 だから、自分の家に帰り、わたしが述べたこと

13 ① ガラ3・7、29、1ニフ15・13−17、2ニフ10・18、3ニフ30・2、アブ2・9−11
15 ① ミカ5・8−15、3ニフ20・16−19、21・12−21、教義87・5
17 ① 3ニフ20・11−12
18 ① イザ52・8−10
② エゼ33・1−7、GS「見守る・見守る者」

第17章
1 ① 御父のもとに帰る時のこと。第4節参照
2 ① ヨハ16・12、教義78・17−18

を深く考えなさい。そして、理解できるように、また明日のために心が備えられるように、わたしの名によって父に願いなさい。わたしはもう一度あなたがたのところに来るであろう。

4 しかし、わたしは今は父のみもとに帰り、またイスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身を現そう。彼らは父にとっては行方知れずではない。父は彼らを導いた先を御存じだからである。

5 さて、イエスはこのように言うと、もう一度群衆を見回して、彼らが涙を流しながら、もうしばらくとどまっていてほしいと願うかのように、イエスをじっと見詰めているのを御覧になった。

6 そこで、イエスは彼らに言われた。「見よ、わたしの心は、あなたがたに対する哀れみに満たされている。

7 あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、手の不自由な者、重い皮膚病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。

8 あなたがたは、わたしがエルサレムにいるあなたがたの同胞に示したことを、自分たちにも示してほしいと思っている。わたしはそのことを知っている。また、あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも、わたしは知っている。」

9 さて、イエスがこのように言われると、群衆はこぞって、病気の者、苦しんでいる者、足の不自由な者、目の見えない者、口の利けない者、そのほかどんなことでも苦しんでいる者たちを伴って前に進み出た。するとイエスは、御自分のところに連れて来られた者をことごとく癒された。

10 そこで、彼らは皆、癒された者も健康な者も、イエスの足もとにひれ伏して、イエスを拝した。また、群衆の中を近づくことのできた者はイエスの足に口づけし、涙でイエスの足をぬらした。

11 さて、イエスは、幼い子供たちを連れて来るように命じられた。

12 そこで、彼らは幼い子供たちを連れて来て、イエスの傍らに降ろした。イエスはその真ん中に立って

---

3 ① GS「深く考える」
② 3ニフ19・2
③ 教義132・3
4 ① 3ニフ18・39
② GS「イスラエル―行方の知れない十部族」
③ 3ニフ16・1–3
6 ① GS「哀れみ」
③ ルカ18・42
8 ① 2ニフ27・23、エテ
② モサ3・5、3ニフ
9 ① 12・12
10 ① 26・15
11 ① ルカ7・38
フ26・14、16
マタ19・13–14、3ニ

おられた。また、群衆は道を譲って、幼い子供たちが皆、イエスのもとに来られるようにした。
13 さて、幼い子供たちが皆連れて来られると、イエスはその真ん中に立ち、地にひざまずくように群衆に命じられた。
14 そして、彼らが地にひざまずくと、イエスは心の中で苦悩され、「父よ、イスラエルの家に属する民の悪事のために、今わたしは心が騒いでいます」と言われた。
15 そして、イエスはこのように言われると、御自分も地にひざまずき、見よ、御父に祈られた。イエスが祈られた事柄を書き記すことはできないが、イエスの祈りを聞いた群衆はそのことを証した。
16 彼らは次のように証した。「わたしたちはイエスが御父に話されるのを見聞きしたが、それは目がまだ見たこともなく、耳がまだ聞いたこともないほど、大いなる驚くべきことであった。
17 わたしたちはイエスが話されるのを見聞きしたが、それはどんな舌も語ることができず、どんな人も書き記すことができず、人々の心が想像できないほど、大いなる驚くべきことであった。またわたしたちは、イエスがわたしたちのために御父に祈ってくださるのを聞いたが、そのときにわたしたちの心に満ちた喜びは、だれも想像することができない。」
18 さて、イエスは御父に祈り終えると、立ち上がられた。しかし、群衆は喜びが非常に大きかったので力を失っていた。
19 そこで、イエスは彼らに語り、立ち上がるように命じられた。
20 そこで、彼らは地から立ち上がった。すると、イエスは彼らに、「あなたがたは信仰があるので、幸いである。見よ、わたしの喜びは満ちている」と言われた。
21 そして、イエスはこれらの御言葉を語ると、涙を流された。群衆はそのことを証した。また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。
22 そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。
23 また、イエスは群衆に語って、「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」と言われた。
24 そこで彼らは、見ようとして天に目を向けたと

13 ① モセ 7・41、ルカ 22・41、使徒 20・36
14 ① ① 16 ① 2・9、イザ 64・4、1 コリ 2・9、教義 76・10、114–119
17 ① ① 18 ① ① 21 ② ① GS「喜び」、2 コリ 12・4、ヨハ 11・35、マコ 10・14–16

き、天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのような有様で天から降って来るのを見た。天使は降って来ると、幼い子供たちを取り囲み、幼い子供たちも火に包まれた。そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。

25 群衆はそれを見聞きして、証した。彼らは皆、自分自身で見聞きしたので、その証が真実であることを知っている。群衆の人数はおよそ二千五百人であり、男と女と子供から成っていた。

第18章

イエス、ニーファイ人の中に聖餐を定められる。ニーファイ人、イエスの名によって常に祈るように命じられる。ふさわしくないままでイエスの肉を食べ、イエスの血を飲む者は、罰の定めを受ける。弟子たち、聖霊を授ける力を与えられる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは弟子たちに、幾らかのパン[1]とぶどう酒を持って来るように命じられた。

2 そして、彼らがパンとぶどう酒を取りに行っている間に、イエスは群衆に、地に腰を下ろすよう命じられた。

3 そして、弟子たちがパン[1]とぶどう酒を持って来ると、イエスはパンを取り、それを裂いて祝福された。それからイエスは、弟子たちに与えて、食べるように命じられた。

4 彼らが食べて満たされると、イエスは群衆にも与えるように命じられた。

5 そして、群衆が食べて満たされると、イエスは弟子たちに言われた。「見よ、あなたがたの中の一人を聖任しよう。わたしはその人に力を授け、彼がパンを裂いて祝福し、わたしの教会の人々、すなわち信じてわたしの名によってバプテスマを受けるすべての人に、それを与えることができるようにしよう。

6 またあなたがたは、わたしがしたように、すなわち、わたしがパンを裂いて祝福し、それをあなたがたに与えたように、いつもこれを行うように努めなさい。

7 あなたがたは、わたしがあなたがたに示したわたしの体を記念[1]して、これを行いなさい。それは、あなたがたがいつもわたしを覚えているということを、父に示す証となるであろう。そして、あなたが

---

24 ①
45 ①
ヒラ 5・23－24、43－

第18章
1 ①
3 ①
マタ 26・26－28
5 ①
GS「聖餐」
モロ 4章
7 ①
モロ 4・3

たは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御霊を受けるであろう。」

8 さて、イエスはこれらの御言葉を語ると、弟子たちに、器のぶどう酒を取って飲むように告げ、さらに群衆にも与えて飲ませるように命じられた。

9 そこで、弟子たちはそのようにして、飲んで満たされた。また、彼らは群衆にも与え、群衆も飲んで満たされた。

10 弟子たちがこれをなし終えると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたはこれを行ったので、幸いである。これはわたしの戒めを守ることである。またこれは、わたしの命じたことをあなたがたが喜んで行うということを、父に証明するものである。

11 これをあなたがたは、悔い改めてわたしの名によってバプテスマを受ける人々のためにいつも行いなさい。あなたがたは、わたしがあなたがたのために流したわたしの血の記念として、それを行いなさい。そうすれば、あなたがたはいつもわたしを覚えているということを、父に証明することができる。そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御霊を受けるであろう。

12 わたしはあなたがたに、これらのことを行うようにという戒めを与える。あなたがたはいつもこれらのことを行うならば、わたしの岩[1]の上に建てられているので、幸いである。

13 しかし、あなたがたの中で、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを行う者は、わたしの岩の上に建てられておらず、砂の土台の上に建てられているのである。雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてこれらの者に打ちつけると、彼らは倒れてしまう[1]。また地獄[2]の門は、彼らを受け入れるためにいつでも開かれている。

14 だから、あなたがたに与えるように父がわたしに命じられたわたしの戒めを守るならば、あなたがたは幸いである。

15 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは悪魔に誘惑されないように、また悪魔に捕らえられないように、常に目を覚ましていて祈[1]らなくてはならない。

16 わたしがあなたがたの中で祈ったように、あなたがたもわたしの教会で、悔い改めてわたしの名によってバプテスマを受けるわたしの民の中で祈りなさ

12 ① GS「岩」
13 ① GS「背教・背信」
② 3ニフ11・39
15 ① アル34・17–27、「祈り」
② GS

い。見よ、わたしは光[1]である。わたしはあなたがたのために模範[2]を示した。」

17 さて、イエスはこれらの御言葉を弟子たちに語り終えると、再び群衆の方に向き直って、言われた。

18 「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。サタン[1]はあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを願っているからである。

19 だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。

20 与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何[1]でもあなたがたに与えられる。

21 あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈[1]りなさい。

22 見よ、あなたがたはしばしばともに集いなさい。また、ともに集うときには、どんな人もあなたがたのところに来るのを禁じてはならない。彼らがあなたがたのところに来るのを許しなさい。禁じてはならない。

23 むしろあなたがたは彼らのために祈りなさい。[1]彼らを追い出してはならない。もし彼らがしばしばあなたがたのところに来るならば、彼らのためにわたしの名によって父に祈りなさい。

24 あなたがたの光[1]を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる光[2]とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。見よ、あなたがたはわたしが父に祈るのを見た。皆、目の当たりに見ている。

25 また、あなたがたが見たように、わたしはあなたがたのだれにも立ち去るように命じることなく、むしろわたしのもとに来て、触[2]れるように、また見るように命じた。あなたがたも世の人々にそのようにしなさい。この戒めを破る者はだれでも、誘惑に陥ることを自ら許す者である。[1]」

26 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選ばれた弟子たちにもう一度目を向けて言われた。

27 「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。

16 ① GS「光・キリストの光」
② GS「イエス・キリスト・模範」
18 ① ルカ22:31、2ニフ2:17–18、教義10:22–27
20 ① マタ21:22、ヒラ10:5、モロ7:26、教義88:63–65
21 ① アルマ34:21
23 ① 3ニフ18:30
24 ① マタ5:16
② モサ16:9
25 ① アルマ5:33
② 3ニフ11:33–14:17

わたしはあなたがたにもう一つの戒めを与える。その後、わたしは父のみもとに帰り、父から与えられているほかの命令を果たさなければならない。

28 さて見よ、わたしがあなたがたに与える戒めはこれである。すなわち、あなたがたは、わたしの肉と血を分け与えるとき、だれであってもふさわしくないままでわたしの肉と血にあずかることを、承知のうえで許してはならないということである。

29 ふさわしくないままでわたしの肉を食べ、血を飲む者は、そうすることで自分に罰の定めを招くからである。だから、ある人がわたしの肉を食べ、血を飲むのにふさわしくないと分かったならば、あなたがたはその人に禁じなさい。

30 それでもあなたがたは、その人をあなたがたの中から追い出すことなく、教え導き、またその人のために わたしの名によって父に祈りなさい。もしその人が悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受けるならば、あなたがたはその人を受け入れて、わたしの肉と血を分け与えなさい。

31 しかし、悔い改めなければ、その人がわたしの民を滅ぼすことのないように、あなたがたはその人をわたしの民の中に数えてはならない。見よ、わたしは自分の羊を知っており、わたしの羊は数えられているからである。

32 それでも、あなたがたは引き続き教え導くことができるように、その人を会堂や礼拝の場所から追い出してはならない。彼らが立ち返って悔い改め、十分に固い決意をもってわたしのもとに戻って来るようにならないとは言い切れないからである。彼らがそうするならば、わたしは彼らを癒そう。だからあなたがたは、彼らに救いをもたらす者になりなさい。

33 罪の宣告を受けることのないように、あなたがたはわたしが命じたこれらの言葉を守りなさい。なぜなら、父から罪に定められる者は災いだからである。

34 わたしがあなたがたにこれらの戒めを与えるのは、これまであなたがたの中に論争があったからである。あなたがたの中にこれから論争がなければ、あなたがたは幸いである。

35 今、わたしは父のみもとに行く。あなたがたのために父のみもとに行くことが必要だからである。」

36 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、

---

27 ① GS「神・神会―父なる神」
28 ① ニフ 3・16・1–3　② モロ 9・29
29 ① コリ 11・27–30　② 教義 46・4
30 ① GS「聖餐」「血」　② 教義 46・3
31 ① ヨハ 10・14、アル 5・38、3 ニフ 15・24
32 ① 3 ニフ 9・13–14、教義 112・13
33 ① GS「罪の宣告」
34 ① 3 ニフ 11・28–30
35 ① 1 ヨハ 2・1、2 ニフ 2・9、モロ 7・27–28、教義 29・5

以前に御自分が選ばれた弟子[1]たち全員に一人ずつ手[2]で触れ、触れながら彼らに何事かを言われた。

37 群衆はイエスの言われた御言葉を聞かなかったので、彼らは証しなかった。しかし弟子たちは、聖[1]霊を授ける力[2]をイエスから授けられたと証した。わたしはこの証が真実であることを、後にあなたがたに示そう。

38 さて、イエスが彼ら全員に手で触れられると、雲[1]が現れて群衆を覆ったので、彼らはイエスを見ることができなかった。

39 そして、群衆が覆われている間に、イエスは彼らのもとを去り、天に昇られた。弟子たちはイエスが再び天に昇って行かれたのを見て、そのことを証した。

第19章

十二人の弟子、民を教え導き、聖霊を求めて祈る。十二人の弟子、バプテスマを受け、聖霊を授かり、天使から教えと導きを受ける。イエス、書き記せない言葉で祈られる。イエス、これらのニーファイ人の信仰が非常に深いことを認められる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスが天に昇って行かれると、群衆は解散し、男たちは各々妻子を連れて家に帰った。

2 そして、群衆がイエスにお会いしたことと、イエスが彼らを教え導かれたことと、イエスが翌日も群衆に御自身を現されることが、暗くなる前に、すぐに民の中に広く告げ知らされた。

3 まことに、一晩中イエスのことが広く告げ知らされた。そして彼らは、民に使いを出して、多くの者、まことに非常に大勢の者が一晩中大いに働き、イエスが群衆に御自身を現される場所に、翌日人々が集まることができるようにした。

4 そしてその翌日、群衆が集まったときに、見よ、ニーファイと、ニーファイが死者の中からよみがえらせた彼の兄弟テモテと、ヨナという名のニーファイの息子と、マソーナイと、その兄弟マソーナイハと、クメンと、クメノンハイと、エレミヤと、シェムノンと、ヨナと、ゼデキヤと、イザヤ、以上はイエスが選ばれた弟子たちの名であるが、さて、彼らは進み出ると、群衆の中に立った。

5 そして見よ、群衆が非常に大勢であったため、彼らは群衆を十二組に分けた。

---

36 ① 1ニ12・7、3ニ
19・4
37 ① GS「按手」
② GS「聖霊の賜物」
38 ① GS「力」
② 出エ19・9、16

6 十二人はその群衆を教え、また見よ、彼らは群衆を地の面にひざまずかせ、イエスの名によって御父に祈らせた。
7 また弟子たちもイエスの名によって御父に祈った。そして、彼らは立ち上がり、民を教え導いた。
8 彼らは、イエスが言われたとおりの御言葉を、イエスが教えられた御言葉と少しも異なることなく教えると、見よ、再びひざまずいて、イエスの名によって御父に祈った。
9 彼らは、自分たちが最も望んでいるものを求めて祈った。1)聖霊が授けられるようにと望んでいたのである。
10 彼らはこのように祈り終えると、水際に下りて行き、群衆も彼らに続いた。
11 そして、ニーファイが1)水の中に入って行き、バプテスマを受けた。
12 そして彼は、水の中から出て来ると、バプテスマを施し始め、イエスが選ばれた者たち全員にバプテスマを施した。
13 そして、彼らが皆1)バプテスマを受けて、水から上がると、聖霊が彼らに降られた。そして、彼らは2)聖霊と火に満たされた。
14 見よ、彼らは火のようなものに1)包まれた。それは天から降って来たものである。群衆はそれを見て証した。また、天使たちが天から降って来て、彼らを教え導いた。
15 さて、天使たちが弟子たちを教え導いていたときに、見よ、イエスが来られ、彼らの中に立って教えを授けられた。
16 そして、イエスは群衆に語りかけ、もう一度地にひざまずくように命じ、弟子たちにも地にひざまずくように言われた。
17 そして、彼らが皆、地にひざまずくと、イエスは弟子たちに、祈るように命じられた。
18 見よ、彼らは祈り始め、イエスを自分たちの主、自分たちの神ととなえて、イエスに向かって祈った。
19 そこでイエスは、彼らの中から去り、少し離れた所に行って御自分も地に伏して、言われた。
20 「父よ、わたしが選んだこれらの者に聖霊を与えてくださり、感謝いたします。彼らがわたしを信じたので、わたしは彼らを世から選び出しました。

第19章
9 ① ニフ 9・20
11 ① 3 ニフ 11・23
13 ① GS「バプテスマ」
② 3 ニフ 12・2、モル 7・10、GS「聖霊の賜物」
14 ① 45、3 ニフ 17・24 ヒラ 5・23–24、43–

21 父よ、どうか彼らの言葉を信じるすべての者に聖
霊をお与えください。
22 父よ、あなたは彼らがわたしを信じているので、
彼らに聖霊を与えてくださいました。彼らが祈るの
をお聞きになってお分かりのように、彼らはわたし
を信じています。彼らはわたしに祈っています。わ
たしが彼らとともにいるので、彼らはわたしに祈っ
ています。
23 さて、父よ、わたしは彼らのために、また彼らの
言葉を信じるすべての者のためにお願いします。彼
らがわたしを信じることができるようにしてくださ
い。父よ、あなたがわたし[1]におられるように、わた
しが彼らにいることができ、わたしたちが一[2]つとな
れるようにしてください。」
24 さて、イエスはこのように御父に祈り終えると、
弟子たちのところに来られた。ところが見よ、彼ら
は、絶え間なくなおもイエスに向かって祈り続けて
いた。彼らは言葉[1]数を多くしたのではない。祈るべ
き事柄が彼らに示され、また彼らには、願い事がい
っぱいあったからである。
25 そこで、弟子たちがイエスに祈っている間に、イ
エスは彼らを祝福された。また、イエスは彼らに
ほほえみかけ、イエスの顔[1]の光が彼らを照らした。す
ると彼らも、イエスの顔のように、またイエスの衣
のように白くなった。そして見よ、その白さはあら
ゆる白さに勝っており、まことに、地上のものでこ
れほど白いものはあり得ないほどであった。
26 また、イエスは彼らに、「祈り続けなさい」と言わ
れた。しかし、実は彼らはまだ祈るのをやめていな
かった。
27 イエスは彼らからまた向き直り、少し離れた所に
行って地に伏された。そして、再び御父に祈って言
われた。
28 「父よ、わたしが選んだ者たちを、彼らの信仰の
ゆえに清めてくださり[1]感謝します。わたしは彼らの
ために、また彼らの言葉を信じる者たちのためにも
お願いします。彼らがわたしによって清められてい
るように、彼らの言葉を信じる者たちも、彼らの言
葉を信じることでわたしによって清められるように
してください。
29 父よ、わたしは世のためではなく、信仰があると
いうことであなたが世[1]から選んで、わたしに与えて

23 ① ニフ 9・15
② ヨハ 17・21–23、GS
24 ① 「一致」マタ 6・7
② 教義 46・30
25 ① 民数 6・23–27
② GS「変貌」変貌した人」
28 ① モロ 7・48、教義 50・28–29、88・74–75、GS「清さ」
29 ① ヨハ 17・6

くださった者たちのためにお願いします。彼らがわたしによって清められるようにしてください。父よ、あなたがわたしのうちにおられるように、わたしが彼らのうちにいることができ、わたしたちが一つとなり、わたしが彼らによって栄光を受けることができるようにしてください。」

30 イエスはこれらの御言葉を語ると、また弟子たちのところに来られた。すると彼らは、絶え間なく続けてイエスに向かって祈っていた。そこでイエスは、また彼らにほほえみかけられた。見よ、彼らはイエスのように白かった。[1]

31 さて、イエスはまた少し離れた所に行って、御父に祈られた。

32 イエスが祈られた御言葉を舌は語ることができないし、イエスが祈られた御言葉を人は書き記すことができない。[1]

33 群衆は聞いて、証している。彼らの心は開かれ、彼らはイエスが祈られた御言葉を心の中で理解した。

34 しかし、イエスが祈られた御言葉は、まことに大いなる驚くべきものであったので、人はそれを書き記すこともできなければ、言い表すこともできない。[1]

35 さて、イエスは祈り終えると、また弟子たちのところに来て彼らに言われた。「わたしはすべてのユダヤ人の中で、これほどの深い信仰を見たことがない。[1] わたしは、彼らの不信仰のゆえに、このように大きな奇跡を彼らに現すことができなかった。[2]

36 まことに、あなたがたに言う。彼らの中には、あなたがたが見たような大いなることを見た者、またあなたがたが聞いたような大いなることを聞いた者は一人もいない。」

第20章

イエス、不思議な力でパンとぶどう酒を用意し、再び聖餐を執行される。ヤコブの残りの者は将来、主なる彼らの神を知るようになり、アメリカ大陸を受け継ぐ。イエスはモーセのような預言者である。ニーファイ人は預言者たちの子孫である。主の民に属するほかの者たち、将来エルサレムに集められる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは群衆と弟子たちに、祈るのをやめ

---

30 ① マタ 17・2
32 ① 教義 76・116
34 ① 2コリ 12・4、3ニフ 17・17
35 ① GS「信仰」
② マタ 13・58、GS「不信仰」

るように、しかし心の中で祈ることはやめないようにと命じられた。
2また、イエスは彼らに、体を起こして立ち上がるように命じられた。そこで、彼らは体を起こして立ち上がった。
3そして、イエスは再びパンを裂いて、それを祝福し、弟子たちに食べるようにとお与えになった。
4そして、彼らが食べ終えると、イエスは彼らに、パンを裂いて群衆に与え終えると、イエスは彼らにぶどう酒も与えて飲ませ、また群衆にも与えるように命じられた。
5彼らが群衆に与え終えるように命じられた。
6ところで、弟子たちと群衆は、パンもぶどう酒も持って来ていなかった。
7しかしイエスは、実際に彼らにパンを与えて食べさせ、ぶどう酒を与えて飲ませられたのであった。
8そして、イエスは彼らに言われた。「このパンを食べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであり、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたしの血を飲むのである。その者は決して飢えることも渇くこともなく、満たされるであろう。」
9さて、群衆は皆食べ終え、飲み終えると、見よ、彼らは御霊に満たされた。そして、彼らは声を合わせて叫び、自分たちが見たり聞いたりしたイエスに栄光を帰した。
10そして、彼らが皆、イエスに栄光を帰すると、イエスは彼らに言われた。「見よ、今、わたしはイスラエルの家の残りの者であるこの民について、父から命じられたことを果たそう。
11あなたがたが覚えているように、わたしはあなたがたに、イザヤの言葉が成就するときのことを語った。見よ、イザヤの言葉は書き記されてあなたがたの前にあるので、それを調べなさい。
12まことに、まことに、あなたがたに言う。イザヤの言葉が成就するのは、父が御自分の民、イスラエルの家に立てられた聖約が果たされるときである。
13そのとき、地の面に広く散らされる残りの者たちが、東から西から、南から北から集められる。そして、彼らを贖われた主なる彼らの神を知るようになる。
14また父は、受け継ぎとしてこの地をあなたがたに与えるように、わたしに命じられた。

第20章
1 ①2ニフ32・9、モサ
24・12 ①マタ14・19–21
6 ①ヨハ6・9–14
7 ①ヨハ6・50–58、3ニフ18・7、GS「聖餐」
8 ①モル8・23
11 ①2ニフ25・1–5、②3ニフ16・17–20、23・1–3
12 ①3ニフ15・7–8
13 ①GS「イスラエルの散乱」②3ニフ16・11–12、21・2–7
14 ①GS「イスラエルの集合」③3ニフ16・4–5

15 あなたがたに言う。異邦人がわたしの民を散らした後、祝福を受けてから、もし悔い改めなければ、
16 そのとき、ヤコブの家の残りの者であるあなたがたは、彼らの中に出て行くであろう。異邦人の数は多いが、あなたがたは彼らの中にいる。あなたがたは彼らの中で、森の獣の中のライオンのようであり、羊の群れの中の若い[1]ライオンのようである。若いライオンは通り過ぎるときに[2]踏みにじり、引き裂いて、だれも救うことができない。
17 あなたの手はあなたに敵意を抱いている者のうえに振り上げられ、あなたの敵はことごとく絶たれる。
18 人が刈り束を床に集めるように、わたしは自分の民を集めよう。
19 父が聖約を交わされたわたしの民、わたしはあなたの角を鉄とし、またあなたのひづめを真鍮としよう。あなたは多くの民を打ち砕くであろう。わたしは彼らの利得を主のために聖別し、彼らの所有物を全地の主のために聖別しよう。見よ、それを行うのはわたしである。
20 さて、わたしの[1]罰の剣はその日彼らのうえに迫ると、父は言われる。彼らが悔い改めなければ、それは彼らに、すなわち異邦人のすべての国民に下ると、父は言われる。
21 そしてわたしは、自分の[1]民、イスラエルの家を築き上げよう。
22 見よ、わたしはこの民をこの地に立てて、わたしがかつてあなたがたの先祖ヤコブと交わした[1]聖約を果たそう。この地は[2]新エルサレムとなるであろう。天の力はこの民の中にあり、まことに、[3]わたしはあなたがたの中にいるであろう。
23 見よ、モーセが語ったのはわたしのことである。モーセは言った。『主なるあなたがたの神は、あなたがたのために、あなたがたの同胞の中からわたしのような[1]預言者を一人お立てになる。その預言者があなたがたに語るすべてのことに耳を傾けなさい。そして、その預言者に耳を傾けない者はすべて、民の中から絶たれるであろう。』
24 まことに、あなたがたに言う。サムエルをはじめとして、彼に続いて語った[1]預言者は皆、わたしについて証した。
25 見よ、あなたがたは預言者たちの子孫であり、イスラエルの家に属する者であり、父があなたがたの

---

15 ①ニフ 3・16・10–14
16 ①モル 5・24、教義 19・
②27 ミカ 5・8–9、3ニ
18 ①ミカ 4・12–13
19 ①ニフ 29・4
20 ①3ニフ 16・8–15
21 ①創世 49・22–26、教義
22 ①57・2–3
②イザ 2・2–5、3ニフ 21・23–24、エテ 13・1–12、教義 84・2–4、「新エルサレム」
③GS
23 ①3・1、申命 18・15–19、使徒 3・22–23、1ニフ 22・
24 ①20–21、使徒 3・24–26、1ニフ 10・5、ヤコ 7・11

先祖と交わされた聖約[1]を受けている者である。父は
アブラハムに、『[2]あなたの子孫により、地のすべて
の部族は祝福を受けるであろう』と言われた。
26父はわたしをよみがえらせ、まずあなたがたに遣
わされた。あなたがた一人一人を罪悪から遠ざけて
祝福にあずからせるためである。これは、あなたが
たが聖約の子孫だからである。
27あなたがたが祝福にあずかった後、父は、『[1]あな
たの子孫により、地のすべての部族が祝福を受ける
であろう』と言ってアブラハムと交わした聖約を果
たされる。それは、わたしを通じて、異邦人に聖霊
が注がれるためである。[2]異邦人はこの祝福を与え
られて、何者にも増して強くなり、わたしの民、イ
スラエルの家を散らすであろう。
28そして異邦人は、この地の民にとって鞭[1]となるで
あろう。それでも、彼らがわたしの完全な福音を受
け入れたとき、『もしもわたしに対して心をかたく
なにするならば、わたしは彼らの罪悪を彼ら自身の
頭に戻そう』と、父は言われる。
29『またわたしは、自分の民と交わした聖約を思い[1]
起こそう。わたしは自分がふさわしいと思うときに
彼らを集め、[2]彼らの先祖の地を受け継ぎとして再び
彼らに与えると聖約した。その先祖の地とはエルサ
レムの地、彼らのためのとこしえの約束の地である[3]
[4]』と、父は言われる。
30そして将来、わたしの完全な福音が彼らに宣べ伝
えられる時が来る。
31そして彼らはわたしを信じ、わたしが神の子イエ
ス・キリストであることを認め、わたしの名によっ
て父に祈るようになるであろう。
32そのとき、彼らの見張り人[1]たちは声を上げ、彼ら
は声を合わせて歌う。彼らは目の当たりに見るから
である。
33そのとき、父は再び彼らを集め、彼らの受け継ぎ
の地としてエルサレムを彼らに与えられる。
34そのとき、彼らは喜びの声を上げる。『[1]エルサレ
ムの荒れた所よ、ともに歌え。父が御自分の民を慰
め、エルサレムを贖われたからである。』
35父はその聖なる御腕を、すべての国民の目の前に
現された。地の果てに至るすべての人は、父の救い
を見るであろう。父とわたしは一つである。
36そのとき、書き記されていることが成就するで

25 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
② 創世12・1–3、22・18
26 ① 箴言16・6
27 ① ガラ3・8、2ニフ3・14、アブ2・9
29 ① 3ニフ16・6–7
28 ① 3ニフ16・8–9
② イザ44・21、3ニフ29・16
31 ① ② GS「イスラエルの集合」
③ アモ9・14–15
GS「エルサレム」
32 ① 3ニフ5・21–26、31・26–29
イザ52・8、3ニフ16・18–20
GS「見守る・見守る者」
34 ① イザ52・9

あろう。『[1]おお、シオンよ、目覚めよ、再び目覚めよ、
力を着よ。おお、聖なる都エルサレムよ、美しい衣
を着よ。これからはもう、割礼を受けていない者と
清くない者は、あなたの中に入って来ることはない
からである。
37 あなたの身からちりを振り落とせ。おお、エルサ
レムよ、立ち上がって座せ。おお、囚われたシオン
の娘よ、あなたの首の縄を解き捨てよ。
38 主はこう言われる。「あなたがたは自分自身をた
だで売り渡した。あなたがたは金を払わずに贖われ
るであろう。」』
39 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたし
の民はわたしの名を知るであろう。まことに、その
日、彼らは語っている者がわたしであることを知る
であろう。
40 そのとき、彼らは言う。『よきおとずれを伝え、平
和を告げて広め、善のよきおとずれを伝え、救いを
告げて広め、シオンに向かって「あなたの神が統治
しておられる」と言う者の足は、山の上にあって[2]何
と麗しいことであろう。』
41 またそのとき、叫び声が起こる。『[1]去れ、去れ、そ
こを出よ。[2]清くないものに触れるな。その中を出
よ。主の器を担う者たちよ、[3]清くあれ。
42 あなたがたは慌てて出る[1]必要もなければ、逃げる
ようにして去る必要もない。主があなたがたの前を
行き、イスラエルの神があなたがたのしんがりとな
られるからである。
43 見よ、わたしの僕は賢く振る舞う。彼はあがめら
れ、たたえられ、非常に高くなる。
44 多くの人があなたに驚いたように――彼の顔つき
はほかのだれよりも損なわれて、また彼の姿も、人
の子らのようではなかった――
45 彼は多くの国民を清める。王たちは彼を見て口を
つぐむ。彼らはまだ告げられたことのないことを
見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。』
46 まことに、まことに、あなたがたに言う。これら
のことはすべて、父がわたしに命じられたように必
ず起こる。そのとき、父が御自分の民と交わされた
聖約が果たされる。そのとき、[1]エルサレムは再びわ
たしの民の住む所となり、彼らの受け継ぎの地とな
るであろう。」

---

36 ① 113・1–3、教義133・5
40 ① 7–10、GS「シオン」
41 ① 13・37 イザ52・1–15、モサ15・13–18、教義128・19
② GS「清いものと清くないもの」
42 ① 13・10、1ニフ
③ 教義133・5
46 ① 3ニフ21・29、エテ13・5、11

第21章

『モルモン書』が出るときに、イスラエルは集められる。異邦人、自由な民としてアメリカ大陸に住む。異邦人、信じて従うならば救われる。そうでなければ、絶たれて滅ぼされる。イスラエルは新エルサレムを築き、行方の知れない部族は戻って来る。紀元約三十四年。

1 「まことに、あなたがたに言う。これらのことが起こる時、[1]すなわち、わたしが自分の民、イスラエルの家を長年の離散した状態から集めて、彼らの中に再びわたしのシオンを設ける時を、あなたがたが知ることのできるように、一つのしるしをあなたがたに示そう。

2 見よ、わたしが一つのしるしとしてあなたがたに示すのは、次のことである。まことに、あなたがたに言う。今あなたがたに告げるこれらのこと、またわたし自身と、父があなたがたに授けられる聖霊の力とによって、わたしがこの後あなたがたに告げるこれらのことは、将来異邦人に知らされるであろう。異邦人がヤコブの家の残りの者であるこの民について、また彼らによって散らされるこのわたしの民について、知るようにするためである。

3 まことに、まことに、あなたがたに言う。これらのことは父によって彼らに知らされ、父から出て彼らからあなたがたに伝わる。[1]

4 彼らがこの地に定住し、父の力によって[1]自由な民とされて、これらのことが彼らからあなたがたの子孫の残りの者に伝わり、父が御自分の民、イスラエルの家と交わされた父の[2]聖約が果たされるようになることは、父の知恵にかなうことである。

5 これらの業と、この後あなたがたの中で行われる業は、罪悪のために不信仰に陥るあなたがたの[1]子孫に、[2]異邦人から伝わるであろう。

6 このようにして、父が望んでおられるように、それは[1]異邦人から伝わって、父が御自分の力を異邦人に示されるようになり、またその結果、異邦人は心をかたくなにしなければ、悔い改めてわたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受け、わたしの教義の真の要点を知って、わたしの民、イスラエルの家の中に[2]数えられるようになるであろう。

7 これらのことが起こって、あなたがたの[1]子孫がこ

第21章
1 ①末日 GS「終わりの時」
3 ①エテ4・17、ジー歴史1・34–36
4 ①教義101・77–80、モル5・20、GS「アブラハムの聖約（契約）」
5 ①モル5・15、教義3・18–19
6 ①②19 3ニフ26・8、1ニフ10・14、ヤコ5・54、3ニフ16・4–7
②7 ガラ3・7、29、3ニフ16・13、アブ2・9–11
7 ①3ニフ5・21–26

れらのことを知るようになるとき、それは彼らにとって一つのしるしとなって、彼らは、父がイスラエルの家に属する人々に立てられた聖約を果たすために業を始められた、ということを知るのである。

8 その日が来ると、そこで王たちは口をつぐむようになる。王たちはまだ告げられたことのないことを見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。

9 その日、わたしのために父は異邦人の中で一つの業を、すなわち大いなる[1]驚くべき業を行われる。一人の男が彼らにその業について告げるが、彼らの中にはそれを信じない者たちがいる。

10 しかし見よ、わたしの僕の命はわたしの手の内にあるので、彼は彼らによって[1]損なわれることはあっても、害は受けない。損なわれても、わたしは彼を癒そう。[2]わたしの知恵が悪魔の悪知恵よりも深いことを、わたしは彼らに示そう。

11 さて、父はこの僕がイエス・キリストであるわたしの言葉を異邦人にもたらすことを許し、また異邦人にわたしの言葉をもたらす力を彼に与えられる。わたしの言葉を信じない者はだれであろうと、聖約を受けているわたしの民の中から[2]絶たれるであろう。（それは、モーセの言ったとおりになる。）

12 ヤコブの残りの者であるわたしの民は、異邦人の中で、彼らのただ中で、森の獣の中のライオンのように、羊の群れの中の若いライオンのようになるであろう。若いライオンは通り過ぎるときに[2]踏みにじり、引き裂いて、だれも救うことができない。

13 彼らの手は彼らに敵意を抱いている者のうえに振り上げられ、彼らの敵はことごとく絶たれるであろう。

14 まことに、異邦人は悔い改めなければ災いである。父は言われる。『そしてその日には、わたしはあなたのうちから馬を絶やし、[1]戦車を壊し、

15 あなたの国のもろもろの町を絶やし、あなたの城をことごとく覆す。

16 また、あなたの国から魔術を絶やす。あなたのうちには占い師がないようになる。

17 また、あなたのうちから[1]彫像と石の柱を絶やす。あなたは重ねて手で造ったものを拝むことはない。

18 また、あなたのうちからアシラ像を抜き倒し、あなたのもろもろの町を滅ぼす。

19 そして、[1]偽りや欺きやねたみ、また争いや偽善売

---

9 ① イザ29・14、使徒13・41、1ニフ22・8、GS「福音の回復」
10 ① 教義135・1–3
② 教義10・43
11 ① 2ニフ3・6–15、モル8・16、25
② 教義1・14
12 ① ミカ5・8–15、3ニフ20・16
② 教義1・25
14 ① 3ニフ16・13–15
② 2ニフ10・18、33・
17 ① 出エ20・3–4、モサ9
13 GS「偶像礼拝」12–13、教義1・16、
19 ① 3ニフ30・2

教、みだらな行いはすべて廃される。『
20そして、父は言われる。『その日、悔い改めてわた
しの愛子のもとに来ない者を、わたしは自分の民、
イスラエルの家の中から絶とう。
21わたしは異教徒に及ぼすように、彼らが聞いたこ
ともないほどの報復と怒りを彼らに及ぼそう。』
22しかし、彼らが悔い改めてわたしの言葉に聞き従
い、心をかたくなにしなければ、わたしは彼らの中
にわたしの教会を設けよう。彼らは聖約を交わし、
わたしがこの地を彼らの受け継ぎとして与えた、こ
のヤコブの残りの者の中に数えられるであろう。
23そして、わたしの民であるヤコブの残りの者と、
将来やって来るイスラエルの家のすべての者が、新
エルサレムと呼ばれる一つの都を築くのを、彼らは
助けるであろう。
24そのとき、地の全面に散らされているわたしの民
が新エルサレムに集まるのを、彼らは助けるであろ
う。
25そのとき、天の力が彼らの中に下り、わたしも彼
らの中にいるであろう。
26またその日、すなわちこの福音がこの民の残りの
者の中で宣べ伝えられるとき、父の業が始まるであ
ろう。まことに、あなたがたに言う。その日、父の
業は、わたしの民のすべての散らされた者の中で、
すなわち、父がエルサレムから連れ出された行方の
知れない部族の中で始まるであろう。
27まことに父は、わたしの民のすべての散らされた
者がわたしのもとに来て、わたしの名によって父に
請い願うことができるように、道を備えるために彼
らの中でその業を始められる。
28そのとき、父は、御自分の民が彼らの受け継ぎの
地に戻されるように、道を備えるためにすべての国
民の中で業を始められる。
29『そして、彼らはあらゆる国民の中から出て来る。
彼らは慌てて出る必要もなければ、逃げるようにし
て去る必要もない。わたしが彼らの前を行き、また
わたしが彼らのしんがりとなるからである』と、父
は言われる。」

第22章

終わりの時に、シオンとシオンのステークが確立さ
れ、イスラエルは憐れみと慈しみをもって集められ

22 ① GS「神権時代」
② ニフ 10・18–19、
23 ① 3ニフ 2・13
② 3ニフ 16・13
13・1–12、GS「新エルサレム」
3ニフ 20・22、エテ
25 ① 1ニフ 13・37
② イザ 2・2–4、3ニフ 24・1
26 ① GS「イスラエルの行方の知れない十部族」
② 1ニフ 14・17、3ニフ 21・6–7
27 ① 3ニフ 16・4–5
28 ① GS「イスラエルのイスラエルの集合」
29 ① イザ 52・12、3ニフ 20・42

る。イスラエルは勝利を得る。イザヤ書第五十四章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 「書き記されていることは、そのときに起こる。『おお、子を生まなかった不妊の女よ、[1]歌いなさい。産みの苦しみを味わわなかった者よ、声を放って歌い、声高らかに叫びなさい。見捨てられた者の子供は、夫のある者の子供よりも多いからである」と、主は言われる。

2 「あなたの天幕の場所を広くし、あなたの住まいの幕を張って広げなさい。惜しむことなく、あなたの綱を長くし、あなたの[1]杭を強固にしなさい。

3 あなたは右にも左にも広がり、あなたの子孫は異[1]邦人から受け継いで、荒れ果てたもろもろの町を人の住む所とするからである。

4 あなたは恥じることはないので、恐れてはならない。あなたは[1]辱められることはないので、うろたえてはならない。あなたは若いときの恥を忘れ、若いときの恥辱を思い出さず、寡婦であったときの恥辱を決して思い出すことはない。

5 あなたを造った者があなたの夫であり、その名は万軍の主である。あなたの贖い主はイスラエルの聖者であり、全地の神ととなえられる。

6 主はあなたを、見捨てられて心に痛手を負っている女のように、また若いときに拒まれた妻のように招かれたからである」と、あなたの神は言われる。

7 「わたしは少しの間あなたを捨てたが、深い憐れみをもってあなたを集めよう。

8 わたしはいささか怒って、少しの間あなたから顔を隠したが、永遠の慈しみをもってあなたを[1]憐れもう」と、あなたの贖い主である主は言われる。

9 「[1]このことは、わたしにはノアの[2]洪水のようである。わたしはかつてノアの洪水が二度と地を覆うことはないと誓ったが、そのように、わたしはあなたを怒らないと誓った。

10 [1]山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから[2]去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことがない」と、あなたを憐れむ主は言われる。

11 「おお、苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰めを得ない者よ。見よ、わたしは麗しい色であなたの[1]石を敷き、サファイヤであなたの基を据えよう。

12 また、めのうであなたの窓を造り、紅玉であなた

第22章

1 ①GS「歌う」
1 ②GS「ステーク」
3 ①GS「異邦人」
4 ①2ニフ6・7、13
8 ①GS「憐れみ」
9 ①イザ54・9
9 ②GS「ノアの時代の洪水」
10 ①イザ40・4
10 ②詩篇94・14、教義35・25
11 ①黙示21・18–21

の門を造り、あなたの境をすべて宝石で造ろう。
13 あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。
14 あなたは義をもって堅く立てられる。あなたは恐れないので、虐げられることはない。また、恐怖から遠ざかる。それはあなたに近づくことがないからである。
15 見よ、彼らは必ずあなたに敵対して集まるが、それはわたしによるのではない。あなたに敵対して集まる者はだれであろうと、あなたのゆえに倒れる。
16 見よ、わたしは炭火を吹きおこして、自分の仕事のために道具を造る鍛冶を造った。また、わたしは荒らし滅ぼす者も造った。
17 あなたを攻めるために造られる武器は、まったく役に立たない。また、裁きの時にあなたに向かってののしる舌はことごとく、あなたがそれを罪に定める。これが主の僕たちの受け継ぐものであって、彼らの義はわたしから出る」と、主は言われる。』」

第23章

イエス、イザヤの言葉を是認される。イエス、預言者の書を調べるように民に命じられる。復活についてのレーマン人サムエルの言葉が記録に加えられる。紀元約三十四年。

1 「さて見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこれらのことを調べなさい。まことにわたしは、これらのことを熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える。イザヤの言葉はまことに偉大だからである。
2 確かにイザヤは、イスラエルの家に属するわたしの民について、すべてのことを述べた。そこで、どうしても彼は異邦人にも語る必要があった。
3 彼の語ったことはすべて、彼の語った言葉のとおりにこれまで起こっており、またこれからも起こるであろう。
4 したがって、わたしの言葉を心に留め、わたしがあなたがたに告げたことを書き記しなさい。これらの言葉は、父の定められたときに、父の御心のままに異邦人に伝わるであろう。
5 わたしの言葉に聞き従い、悔い改めてバプテスマを受ける者は、だれであろうと救われる。預言者の

13 ① エレ31・33−34
14 ① GS「義」
第23章
1 ① GS「聖文」
② モル8・23、GS「イザヤ」
2 ニフ25・1−5、
3 ① ニフ20・11−12
5 ① ルカ24・25−27

書を調べなさい。これらのことについて、証している預言者が多いからである。」

6 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、再び彼らに語り、彼らに与えられている聖文をすべて説き明かした後、「見よ、あなたがたが書いていない別の聖文を書き記すことを、あなたがたに望む」と、彼らに言われた。

7 そして、イエスはニーファイに、「あなたがたが書き継いできた記録を持って来なさい」と言われた。

8 そこでニーファイが記録を持って来てイエスの前に置くと、イエスはそれらの記録に目をやって言われた。

9 「まことに、あなたがたに言う。わたしはレーマン人であるわたしの僕サムエル[1]に、この民に証するようにと命じた。その証とは、父がわたしによって御名に栄光を受けられる日に、[2]多くの[3]聖徒が死者の中から[4]よみがえって、多くの者に現れ、彼らを教え導くであろうということである。」そして、イエスは彼らに、「そのとおりではなかったか」と言われた。

10 そこでイエスの弟子たちは、イエスに答え、「はい、主よ、サムエルはあなたの御言葉のとおりに預言し、それはすべて成就しました」と言った。

11 するとイエスは彼らに、「多くの聖徒がよみがえって多くの者に現れ、彼らを教え導いたことを書き記していないのはどうしてか」と言われた。

12 そこでニーファイは、このことがまだ書き記されていないのを思い出した。

13 そして、イエスがそれを書き記すように命じられたので、イエスが命じられたとおりにそのことが書き記された。

14 さて、弟子たちが書き記してきたすべての聖文をまとめて説き明かした後、[1]イエスは、御自分が説き明かした事柄を教えるように、彼らに命じられた。

第24章

主の使者が再臨のために道を備える。キリスト、裁きの座に着かれる。イスラエル、什分の一を納め、さげ物をするように命じられる。覚えの書が記される。マラキ書第三章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは、御自分がこれから告げる御言葉を書き記すように、彼らに命じられた。それは、御

9 ① ヒラ13・2
② GS ヒラ「聖徒」14・25
③ マタ27・52−53、
④ GS「復活」
14 ① ルカ24・44−46

父がマラキに与えられた御言葉である。そして、それらの御言葉が書き記された後、イエスはそれを説き明かされた。イエスが彼らに告げられた御言葉は次のとおりである。「父はマラキに次のように言われた。『「見よ、わたしは使者を遣わす。[1]彼はわたしの前に道を備える。あなたがたの求める主、すなわちあなたがたの喜ぶ聖約の使者は、突如主の神殿に来る。見よ、主は来る」と、万軍の主は言う。

2 しかし、主の来る日には、だれが堪え得よう。[1]主の現れるときには、だれが立ち得よう。主は[2]精錬する者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。

3 主は銀を精錬し清める者として座に着き、[1]レビの子らを清め、金銀のように彼らを清めて、彼らが義をもってささげ物を主にささげられるようにされる。

4 そのとき、ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる。

5 「そして、わたしはあなたがたに近づいて、裁きをなし、魔法を使う者、姦淫を行う者、偽りの誓いを立てる者、賃金について雇い人を虐げる者、やもめと[1]父のいない子供を虐げる者、外来者を退ける者、わたしを畏れない者に対して速やかに証を立てる」と、万軍の主は言う。

6 「わたしは主であるので、変わることがない。それゆえ、ヤコブの子らよ、あなたがたは焼き尽くされることがない。

7 あなたがたは、先祖の時代からわたしの定めを[1]離れて、それを守らなかった。[2]わたしに帰りなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに帰ろう」と、万軍の主は言う。「ところが、あなたがたは、『どのようにして帰りましょうか』と言う。

8 人は神から盗むだろうか。ところが、あなたがたはわたしから盗んでいる。しかし、あなたがたは、『わたしたちはどのようにしてあなたから盗んでいるのでしょうか』と言う。[1]什分の一とささげ物によってである。

9 あなたがたはのろいをもってのろわれる。あなたがた、まことに民のすべてがわたしから盗んでいるからである。

10 わたしの家に食物があるように、[1]什分の一をすべてわたしの倉に携えて来なさい。これをもってわ

第24章

1 1① 教義45・9
2 1② 3ニフ25・1
2② ゼカ13・9、教義128・24、GS「イエス・キリストの再臨」「地球（地）—地球の清め」
3 1① 申命10・8、教義84・31—34
5 1① 教義13・1
5 1② 新ヤコ1・27
7 1① GS「背教・背信」
7 1② ヒラ13・11、3ニフ6、モロ9・22
8 1① GS「什分の一」
8 1② GS「ささげ物」
10 1① 教義64・23、119・1—7

たしを試み、わたしが天の窓を開いて、受け入れる余地がないほどの祝福を、あなたがたに注ぐかどうかを見なさい」と、万軍の主は言う。

11 「わたしは食い荒らすものをあなたがたのために抑えて、あなたがたの地の産物が荒らされないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が熟す前に、その実を畑に落とすことのないようにしよう」と、万軍の主は言う。

12 「諸国の民は皆、あなたがたを祝福された者と言うであろう。あなたがたは喜ばしい国となるからである」と、万軍の主は言う。

13 「あなたがたは言葉を激しくしてわたしに逆らった」と、主は言う。ところが、あなたがたは、「わたしたちはあなたに逆らって何を言いましたか」と言う。

14 あなたがたは言った。「神に仕えることは無益だ。神の定めを守ってきたことが、また万軍の主の前を悲しんで歩んできたことが、どんな益になっているか。

15 今わたしたちは、高ぶる者は幸せであると言う。まことに、悪を行う者は高く上げられ、まことに、神を試みる者でさえも救われる」と。

16 そのとき、主を畏れる者たちはしばしば互いに語り合い、主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして、主を畏れ、主の名を尊んだ者たちのために、主の前で一つの覚えの書が書き記された。

17 万軍の主は言う。「わたしがわたしの宝石を集める日に、彼らはわたしのものとなる。人が自分に仕える息子を憐れむように、わたしは彼らを憐れもう。

18 そのとき、あなたがたは帰り、義人と悪人、神に仕える者と神に仕えない者との区別を知るようになる。」』」

第25章

再臨の時には、高ぶる者と悪人はわらのように焼かれる。エリヤは大いなる恐るべき日の前に戻って来る。マラキ書第四章と比較せよ。紀元約三十四年。

1 「『見よ、炉のように燃える日が来る。すべて高ぶる者と悪を行う者は、わらのようになる。やがて来る日が彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない」と、万軍の主は言う。

---

10 ① GS「祝福」
② モロ6・5
16 ① 教義85・9、モセ6・
② 教義「覚えの書」
17 ① 5、教義101・3
GS「識別の賜物」
18 ① GS「高慢」
② 2ニフ20・33、GS

第25章
1 ① イザ24・6、1ニフ22・15、教義29・9、3ニフ24・2、64・23−24、ジー歴史1・37、GS133「地球（地）−地球の清め」
② 2ニフ20・33、GS

2「しかし、わたしの名を畏れるあなたがたのために、義の御子は翼に癒しを携えて現れる。あなたがたは出て行って、牛舎の中の子牛のように育つ。
3そしてあなたがたは、悪人を踏みつける。わたしがこれを行う日に、彼らはあなたがたの足もとで灰となる」と、万軍の主は言う。
4「あなたがたは、わたしが全イスラエルのために[1]ホレブでわたしの僕モーセに命じたモーセの律法と、掟と裁決を思い出しなさい。
5見よ、[1]主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者[2]エリヤをあなたがたに遣わす。
6彼は先祖の心を子孫に[1]向けさせ、子孫の心をその先祖に向けさせる。これは、わたしが来て、のろいをもって地を打つことのないようにするためである。」『』

第26章

イエス、初めから終わりに至るまでのすべてのことについて説き明かされる。乳飲み子と小児たち、書き記せない驚くべき事柄を述べる。キリストの教会の人々、すべてのものを共有する。紀元約三十四年。

1さて、イエスはこれらのことを語り終えると、群衆にそれを説き明かし、また大小を問わず、あらゆることを彼らに説き明かされた。
2そしてイエスは、「あなたがたの持っていないこれらの聖文が、後の時代の人々に伝えられることは、父の知恵にかなっていたので、父は、これらの聖文をあなたがたに伝えるようにわたしに命じられた[1]」と言われた。
3そして、イエスは世の初めから将来御自分が栄光[1]のうちに来られるときまでのすべてのこと、すなわち、[2]諸元素が酷熱に溶け、大地が巻き物のように巻[3]かれ、天地が過ぎ去るときまでに地の面に起こるすべてのことについて説き明かされた。
4すべての民族、すべての部族、すべての国民および国語の民が、彼らの行いが善いか悪いか、行いに応じて裁かれるために神の前に立つ、[1]大いなる終わりの日に至るまでのことを、イエスは説き明かされたのであった。
5行いが善ければ永遠の命の復活にあずかり、悪ければ罰の定めの復活を受ける。すなわち、世の始ま[2]る前からすでにおられたキリストの内にある憐れみ

---

2 ① エテ9・22
② アモ6・4、1ニフ
3 ① 22・24
② 教義45・58
4 ① 出3ニフ21・12
5 ① GS「イエス・キリストの再臨」
② 列下2・1−2、教義2・1、GS「エリヤ」
6 ① 28・17−18、GS「死者の救い」「結び固め」
② 教義2・2

第26章
2 ① マラ3、4章が、3ニフ24、25章に引用されている
3 ① GS「イエス・キリスト−栄光」
② アモ9・13、2ペテ3・10、12、モル9・2、GS「地球（地）−地球の清め」「世−世の終わり」
4 ① モル5・23
② モサ16・10−11、GS「最後の裁き」
5 ① ヒラ12・25、3ニフ28・31
② ダニ12・2、ヨハ5・29
6 ① エテ3・14、GS「イエス・キリスト−前世におけるキリスト」

と公正と神聖さによって、前者は一方にあり、後者は他方にあって、互いに平行している。

6 ところで、イエスが実際に民に教えられたことは、その百分の一もこの書に書き記せない。

7 しかし見よ、ニーファイの版には、イエスが民に教えられたことの大部分が載せられている。

8 わたしがこれまで書き記したこれらのことは、イエスが民に教えられたことのほんの一部でしかない。わたしが書き記してきたのは、これらのことがイエスの言われた御言葉のように、異邦人からこの民に再び伝えられるためである。

9 彼らがまずこれを持つことは、彼らの信仰を試すのに必要である。彼らはこれを与えられたとき、これらのことを信じるならば、そのときにはもっと大いなることが彼らに明らかにされる。

10 しかし、彼らがこれらのことを信じなければ、そのときにはそれより大いなることは彼らに与えられることなく、彼らは罪の宣告を受けるであろう。

11 見よ、わたしがニーファイの版に刻まれているすべてのことを書き記そうとしたところ、主はそれを禁じて、「わたしは自分の民の信仰を試みよう」と言われた。

12 そこでわたしモルモンは、主から命じられたことを書く。わたしモルモンは、これでわたしの言葉を終え、命じられたことを書き進めよう。

13 したがって、わたしは、あなたがたに知ってもらいたい。主は実際に三日間民を教えられた。その後、主はしばしば彼らに御自身を現し、しばしばパンを裂いて祝福し、彼らに与えられた。

14 そしてイエスは、前に述べた群衆の子供たちをも教え導き、彼らの舌を緩められた。そこで子供たちは、大いなる驚くべきことを、実に、イエスがかつて民に明らかにされたことよりも大いなることを、自分たちの父親に語った。イエスが子供たちの舌を緩められたので、彼らは語ることができたのであった。

15 そして、イエスが天に昇って行かれた後、すなわち、イエスが二度目に群衆に御自身を現し、彼らの中の病気の者も、足の不自由な者もすべて癒し、目の見えない者の目を開け、耳の聞こえない者の耳を開き、そのほか彼らの中であらゆる癒しを与え、一人の男を死者の中からよみがえらせ、彼らに御自

---

5 ③ GS「正義」 ヨハ 21・25、3ニフ 6 ① 5・8 GS「版」 7 ① 3ニフ 21・5—6 8 ① エテ 4・4—10 9 ① アル 12・9—11 10 ① エテ 12・6 11 ① ヨハ 21・14 13 ① 3ニフ 20・3—9、GS「聖餐」 14 ② 3ニフ 17・11—12 ① アル 32・23、3ニフ 26・16 15 ① 3ニフ 17・9、GS「癒し」「奇跡」

分の力を示して、御父のもとに昇って行かれた後の、

16 見よ、その翌日、群衆は集まり、これらの子供たちが語るのを、まことに乳飲み子でさえも口を開いて驚くべきことを語るのを見聞きした。しかし、彼らの語ったことはだれも書き記してはならないと止められた。

17 さて、イエスから選ばれた弟子[1]たちは、そのときから、彼らのもとに来るすべての者にバプテスマを施し、彼らを教え始めた。そして、イエスの名によってバプテスマを受けた者[2]は皆、聖霊に満たされた。

18 また、彼らの多くは、語ってはならない様々なことを見たり聞いたりした。今、それを書き記すことは許されていない。

19 また彼らは、互いに教え、互いに仕え合った。そして、彼らはすべてのものを共有[1]し、皆、互いに公正に振る舞った。

20 そして彼らは、イエスから命じられたとおりにすべてのことを行った。

21 そして、イエスの名によってバプテスマを受けた人々は、キリストの教会[1]と呼ばれた。

第27章

イエス、御自分の名によって教会を呼ぶように命じられる。イエスの使命と贖いの犠牲がイエスの福音を構成する。人々は聖霊によって聖められるために、悔い改めてバプテスマを受けるように命じられる。人はイエスのようにならなければならない。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて、イエスの弟子たちは旅をしながら、自分たちがそれまで聞いたり見たりしたことを宣べ伝え、イエスの名によってバプテスマを施していた。また、弟子たちは集まり、一つ[1]になって熱烈に祈り、断食[2]をした。

2 そして、彼らがイエスの名によって御父に祈っていると、イエスが再び彼らに御自身を現[1]された。イエスは来て彼らの中に立つと、「あなたがたはわたしから何を与えられたいのか」と彼らに言われた。

3 そこで彼らはイエスに、「主よ、この教会をどのような名で呼ぶべきか、わたしたちにお教えいただきたいと存じます。この件について民の中に論争がございますから」と言った。

---

16 ①マタ11・25
17 ①3ニフ19・4−13
18 ②4ニフ1・1
18 ①4ニフ26・11
19 ①3ニフ26・1、3
19 ②GS「奉献・奉献の律法」
21 ①モサ18・17、GS「イエス・キリストの教会」

第27章

1 ①教義29・6
1 ②アル6・6、GS「断食」
2 ①3ニフ26・13、GS「イエス・キリスト−死後の現れ」

4 すると主は、彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言う。民がこのことについてつぶやき、論じ合うのはなぜか。

5 彼らは、『[1]キリストの名を受けなければならない』という聖文を読んだことがないのか。キリストとはわたしの名である。終わりの日にあなたがたは、この名によって呼ばれるのである。

6 わたしの名を受け、最後まで堪え忍ぶ者は、終わりの日に救われるであろう。

7 だから、あなたがたが行うことは何事でも、わたしの名によって行いなさい。あなたがたは教会をわたしの名で呼びなさい。また、父がわたしのために教会を祝福してくださるように、わたしの名によって父に呼び求めなさい。

8 わたしの名で呼ばれなければ、どうして[1]わたしの[2]教会であろうか。ある教会がモーセの名で呼ばれれば、それはモーセの教会である。あるいは、ある人の名で呼ばれれば、それはその人の教会である。しかし、わたしの名で呼ばれ、人々がわたしの福音の上に築かれていれば、それはわたしの教会である。

9 まことに、あなたがたに言う。あなたがたはわたしの福音の上に築かれている。だから、あなたがたが呼ぶものは何であろうと、わたしの名によって呼びなさい。あなたがたが教会のために、わたしの名によって父に呼び求めるならば、父はあなたがたの祈りを聞いてくださる。

10 また、教会がわたしの福音の上に築かれていれば、父は教会の中で御自分の業を示されるであろう。

11 しかし、教会がわたしの福音の上に築かれておらず、人の業の上に、あるいは悪魔の業の上に築かれていれば、まことにあなたがたに言う、彼らはしばらくの間は自分たちの業を楽しむが、やがて最後が来て、彼らは[1]切り倒されて火の中に投げ込まれ、そこから二度と戻ることができない。

12 彼らの[1]業は彼らにつき従い、彼らはその業のために切り倒される。だから、わたしがあなたがたに告げたことを覚えておきなさい。

13 見よ、わたしはあなたがたに、わたしの[1]福音について告げた。わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣

5 ① GS「イエス・キリスト—御名を受ける」
6 ① 3ニフ15・9
8 ① 教義115・4
② GS「イエス・キリスト—教会の頭」
11 ① アル5・52
12 ① 黙示14・13、教義59・
13 ① 2 教義76・40–42、GS「福音」

わされたので、わたしは父の御心を行うために世に来た。

14 父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。

15 このために、わたしは上げられたのである。それで、父の力によってすべての人をわたしのもとに引き寄せ、彼らが各々の行いに応じて裁かれるようにするのである。

16 さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者としよう。

17 また、最後まで堪え忍ばない者は、切り倒されて火の中に投げ込まれ、父の正義のゆえに、そこから二度と戻ることができない。

18 これは父が人の子らに告げられた御言葉である。父は御自分の正義のゆえに、御自分が告げられた御言葉をことごとく成就される。父は偽らず、御自分の御言葉をことごとく成就される。

19 清くない者は、決して父の王国に入ることができない。したがって、信仰を持ち、罪をすべて悔い改め、最後まで忠実であることによって、わたしの血により衣を洗われた者のほかには、父の安息に入る者はいない。

20 さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。

21 まことに、まことに、あなたがたに言う。以上がわたしの福音である。あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。

---

13 ② ヨハ 6・38–39
14 ① 1 ニフ 11・32–33、モセ 7・55
② ヨハ 6・44、2 ニフ 9・5、教義 27・18
③ GS「イエス・キリスト―裁き」
15 ① GS「贖罪」
16 ① GS「悔い改め」
② GS「バプテスマ」
③ 1 ニフ 13・37、GS「堪え忍ぶ」
17 ① GS「正義」
② アル 11・37、黙示 1・5、7・14、アル 5・21、27、13・7–11
③ 13 教義 84・24、GS「安息」
19 ① エテ 4・18
② GS「バプテスマ―必要不可欠な条件」
20 ① GS「聖め」
② ③ 教義 4・2

22 あなたがたは、これらのことを行うならば、幸いである。終わりの日に高く上げられるからである。
23 あなたがたが見たこと、聞いたことを、1)禁じられているものを除いてすべて書き記しなさい。
24 これまで書き記されてきたように、これからもこの民の行いを書き記しなさい。
25 見よ、これまで書き記されてきた数々の書と、これから書き記される数々の書によって、この民は1)裁かれるであろう。これらの書によって彼らの2)行いが人々に知られるからである。
26 また見よ、すべてのことは父によって書き1)記されている。したがって、これから書き記される数々の書によって、世の人々は裁かれるであろう。
27 あなたがたが知っているように、将来1)あなたがたは、わたしがあなたがたに与える公正な判断力によって、この民を裁く者となるであろう。したがって、あなたがたは2)どのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。3)わたしのようでなければならない。
28 さて、わたしは1)父のみもとに行くが、まことに、あなたがたに言っておく。あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何であろうと、あなたがたに与えられる。
29 だから、1)求めなさい。そうすれば与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば開かれるであろう。求める者には与えられ、たたく者には開かれるからである。
30 さて見よ、あなたがたとこの時代の人々についてのわたしの喜びは、大きくて限りがない。また父も、あなたがたとこの時代の人々のことを喜んでおられ、すべての聖なる天使たちも喜んでいる。だれ一1)人、失われていないからである。
31 見よ、あなたがたに理解してもらいたい。わたしが言っているのは、1)今2)この時代に生きている人々のことである。彼らはだれ一人、失われていない。そして、彼らのことでわたしは満ちみちる喜びを得ている。
32 しかし見よ、この時代から四代目の1)人々について、わたしは悲しむ。彼らは滅びの子が捕らえられたように、悪魔に捕らえられるからである。彼らは銀や金、また2)虫のつくものや盗人が押し入って盗むもののためにわたしを売るであろう。その日、わた

23 ①3 ニフ26・16
25 ①1 モ言1・11
②2 ニフ33・10–15、
26 ①1 ニフ15・32–33
②3 ニフ24・16、GS「命の書」
27 ①1 ニフ12・9–10、モル3・19
②GS「イエス・キリスト—模範」
③マタ5・48、3 ニフ
28 ①12・48 ヨハ20・17
29 ①マタ7・7、3 ニフ
30 ①14・7 ヨハ17・12
31 ①3 ニフ9・11–13、
②10・12 3 ニフ28・23
③GS「喜び」
32 ①2 ニフ26・9–10、
②アル45・10、12
マタ6・19–21、3 ニフ13・19–21

しは彼らに報いを下し、彼らの業を彼ら自身の頭上に浴びせよう。」

33 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、弟子たちに言われた。「1)狭い門から入りなさい。命に至る門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。しかし、死に至る門は広く、その道も広い。そして、だれも働くことのできない夜が来るまで、そこから入って行く者が多い。」

第28章

十二弟子のうち九人は、死後にキリストの王国で受け継ぎを得ることを望み、そのことを約束される。三人のニーファイ人は、イエスが再び来られるときまで地上にとどまることを望み、とどまるために死を制する力を与えられる。彼らは身を変えられ、語るのを許されていない数々のことを見る。彼らが現在も人々の中で務めを果たしていること。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分の弟子たち一人一人に、「わたしが父のみもとに行った後、あなたがたはわたしに何を願うか」と言われた。

2 すると弟子たちは、三人を除いて皆、「わたしたちは人の寿命まで生き長らえたら、あなたから召されたわたしたちの務めを終え、速やかにあなたの王国であなたのみもとに行けるように願っています」と答えた。

3 そこで、イエスは彼らに、「あなたがたは、わたしにこのことを願ったので、幸いである。あなたがたは七十二歳になると、わたしの王国でわたしのもとに来て、わたしとともに1)安息を得るであろう」と言われた。

4 イエスは彼らに語り終えると、三人の方を向き、「わたしが父のみもとに行ったら、あなたがたはわたしに何をしてもらいたいか」と言われた。

5 すると彼らは、自分たちの望んでいることをイエスに思い切って言えなかったので、心の中でつらく思っていた。

6 するとイエスは、彼らに言われた。「見よ、わたしはあなたがたの1)思いを知っている。あなたがたは、愛する2)ヨハネがわたしに願ったことを願っている。

---

33 ① マタ7・13−14、3ニフ14・13−14、教義22・1−4
第28章
3 ① GS「安息」
6 ① アモ4・13、アル18・
② 32 ヨハ21・21−23、教義7・1−4

ヨハネとは、わたしがユダヤ人によって上げられる前に、わたしとともに務めに携わっていた者である。

7 したがって、あなたがたはさらに幸いである。あなたがたは決して[1]死を味わうことがない。わたしが[3]天の力をもってわたしの栄光のうちに来るときまで、すなわち父の御心のとおりにすべてのことが成就するそのときまで、あなたがたは生き長らえて、父が人の子らのために行われるすべてのことを見るであろう。

8 また、あなたがたは決して死の苦しみを受けることなく、わたしがわたしの栄光のうちに来るとき、一瞬のうちに[1]死すべき状態から[2]不死の状態に変えられる。その後、あなたがたは父の王国で祝福を受けるであろう。

9 またあなたがたは、肉体に宿っている間、苦しみを感じることなく、また世の罪に対する以外に悲しみを感じることもない。わたしがすべてこのように行うのは、あなたがたがわたしに願ったためである。あなたがたは世界が存在する間、人々をわたしのもとに[1]導きたいと願ったからである。

10 このために、あなたがたは満ちみちる喜びを得、父の王国で座に着くであろう。父が満ちみちる喜びをわたしに与えてくださったように、まことに、あなたがたの喜びは満ちるであろう。そして、あなたがたはわたしのようになる。わたしは父のようであり、父とわたしは[1]一つである。

11 聖霊は父とわたしのことを証する。そして父は、わたしのゆえに人の子らに聖霊を与えられる。」

12 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、とどまることになった三人を除いて、ほかの全員に一人一人指で触れ、その後去って行かれた。

13 すると見よ、天が開かれ、三人の者は天に[1]引き上げられて、言い表すことのできない様々なことを見聞きした。

14 彼らはそれらのことについて語るのを[1]禁じられ、また見聞きしたことについて語る力も与えられなかった。

15 それが体のままであったか、体を離れてであったか、彼らには分からなかった。彼らには、神のものを見ることができるように、自分たちがこの肉の体から不死の状態に変えられ、[1]変貌したように思わ

---

7 ① 4ニフ1・14、モル
8 ① 10—11、エテ12・17
② GS「身を変えられた人」
③ 3ニフ20・22
9 ① GS「死すべき状態」
② GS「不死不滅」
10 ① 教義84・36—38
② ヨハ17・20—23
11 ① 2ニフ31・17—21、
13 ① 3ニフ11・32
14 ① 2コリ12・2—4
② 教義76・114—116
15 ① モセ1・11、GS「変貌」

れたからである。
16 さて、彼らは再び地の面で教えを説いたが、天で
与えられた戒めがあったので、自分たちが見聞きし
たことについては教えなかった。
17 ところで、彼らが変貌した日以来、死すべき状態
にあったのか不死の状態にあったのか、わたしは知
らない。
18 しかし、これまで記されてきた記録によってわた
しが知っていることは次のとおりである。すなわ
ち、彼らは地の面に出て行き、すべての民に教えを
説き、彼らの宣教を信じる者を皆、教会に加えた。
彼らにバプテスマを施したのである。そして、バプ
テスマを受けた者は皆、聖霊を受けた。
19 また彼らは、教会に属していない者たちによって
牢に入れられた。しかし、1)牢は二つに裂け、彼らを
閉じ込めておくことができなかった。
20 また彼らは、地の中に投げ込まれた。しかし彼ら
は、神の言葉で地を打ったので、神の1)力によって地
の深みから救い出された。そのため人々は、彼らを
閉じ込めておけるほどの穴を掘ることはできなかっ
た。
21 また、彼らは三度、1)炉の中に投げ込まれたが、何
の害も受けなかった。
22 また二度、猛獣の穴の中に投げ込まれたが、見
よ、子供が乳離れしていない子羊と遊ぶように猛
獣たちと戯れ、何の害も受けなかった。
23 そして、彼らはすべてのニーファイの民の中に出
て行って、地の面のすべての人に、キリストの1)福音
を宣べ伝えた。すると人々は、主に帰依し、キリス
トの教会に加わった。このように、2)その時代の人々
はイエスの言葉のとおりに祝福を受けた。
24 さて、わたしモルモンは、これらのことについて
述べるのを少しの間やめよう。
25 見よ、わたしは、決して死を味わうことのない
人々の名を書き記そうとしたが、主から禁じられた。
したがって、その名が世から隠されているので、
わたしはそれを書き記さない。
26 しかし見よ、わたしはかつて彼らに会い、彼らは
わたしを教え導いてくれた。
27 見よ、彼らは将来異邦人の中に行くが、異邦人は
彼らに気づかないであろう。
28 彼らはユダヤ人の中にも行くが、ユダヤ人も彼ら

19 ① 使徒16・26、アル14・26–28
20 ① モル8・24
21 ① ダニ3・22–27、4ニ
22 ① ダニ6・16–23、4ニ
23 ① ファ1・32
② G「福音」
25 ① 3ニフ27・30–31
② 3ニフ19・4

に気づかないであろう。
29 そして、主が御自分の知恵でふさわしいと見なされるときに、彼らは自分たちの望みが果たされるように、また彼らの内に神の説得力があるために、イスラエルのすべての散らされた部族、およびすべての国民、部族、国語の民、民族を教え導き、彼らの中から多くの人をイエスのもとに導くであろう。
30 彼らは神の天使のようであり、イエスの名によって御父に祈るならば、彼らはふさわしいと思う人にはだれにでも、自分自身を現すことができる。
31 それであるから、大いなる来るべき日の前に、大いなる驚くべき業が彼らによって行われるので、すべての人は、必ずキリストの裁きの座の前に立たなければならない。
32 まことに、あの裁きの日に先立って、異邦人の中で一つの大いなる驚くべき業が彼らによって行われる。
33 あなたがたは、キリストの驚くべき業の一切を記しているすべての聖文を持っているならば、キリストの言葉のとおりに、これらのことが必ず起こることが分かるであろう。
34 イエスの言葉と、イエスが選んで民の中に遣わされた人々の言葉に聞き従わない者は、災いである。イエスの言葉と、イエスが遣わされた人々の言葉を受け入れない者は、イエスをも受け入れないからである。イエスは終わりの日に、彼らを受け入れることはなさらないであろう。
35 彼らは生まれない方が、彼らのためによかったであろう。あなたがたは不当な扱いを受けた神の正義から逃れることができると思うか。神はかつて人々に足の下に踏みつけられ、そのために救いがもたらされたのではなかったか。
36 さて見よ、わたしは主が選ばれた人々、すなわち天に引き上げられた三人について、死すべき状態から不死の状態に清められたかどうか知らないと前に述べたが、
37 しかし見よ、わたしはそう書き記した後、主に尋ねた。すると主はわたしに、ある変化が彼らの体に生じなければならない、そうでなければ、彼らは必ず死を味わうということを明らかにしてくださった。
38 彼らが死を味わわないように、ある変化が彼らの

29 1 GS「イスラエル－イスラエルの散乱」「イスラエル－行方の知れない十部族」
30 1 GS「天使」ヒラ 12・25、3 ニフ
31 1 26・4－5
32 1 2 ニフ 25・17
34 1 GS「預言者」エテ 4・8－12
35 1 2 ヒラ 12・2
38 1 GS「身を変えられた人」

体に生じ、彼らは世の罪に対する以外に苦しみも悲しみも受けないようになったのである。

39 ところで、この変化は終わりの日に起こる変化と同様のものではなかったが、彼らに変化が生じたので、サタンは彼らを支配する力をまったく持てず、彼らを誘惑[1]できなかった。そして、彼らは肉にあって聖め[2]られ、聖なる者[3]となり、地の力も彼らを閉じ込めておくことができなかった。

40 この状態で、彼らはキリストの裁きの日までとどまることになった。そして、その日、彼らはさらに大きな変化を受けて、御父の王国に受け入れられ、二度とそこを去ることがなく、永遠に神とともに天に住むことになるのである。

第29章

『モルモン書』が出ることは、主がイスラエルを集め、御自分の聖約を果たし始められたことのしるしである。末日の主の啓示と賜物を拒む者はのろわれる。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 さて見よ、わたしはあなたがたに言う。主が御自分の知恵で、これらの御言葉を御自分の言葉のとおりに異邦人に明らかにするのがふさわしいと見なされるときに、あなたがたは、御父がイスラエルの子らと交わされた聖約[2]、すなわち彼らが自分たちの受け継ぎの地へ回復されることについての聖約が、すでに果たされ始めていることを知るであろう。

2 また、聖なる預言者たちによって述べられた主の言葉がすべて成就するということも、あなたがたは知るであろう。あなたがたは、主がイスラエルの子らのもとに来るのを遅らせておられると言ってはならない。

3 またあなたがたは、述べられてきた御言葉がむなしいと、心の中で思ってはならない。見よ、主は、イスラエルの家に属する御自分の民に立てられた御自分の聖約を思い起こされるからである。

4 あなたがたは、これらの御言葉があなたがたの中で事実となるのを見るときに、主の行われることを、もはやはねつけてはならない。主の罰[1]の剣[2]は主の右手にあり、見よ、その日、あなたがたが主の行われることをはねつけるならば、主はその剣をすぐにあなたがたに下されるであろう。

第29章
1 ① ② 1ニフ30・3−8
2 ① ② ルモ5・14、20
4 ① ② GS「正義」ルカ12・45−48
3 ニフ20・20
39 ① ② ③ GS「誘惑」GS「聖め」GS「聖い」

5 主の行われることをはねつける者は、[1]災いである。[2]まことに、キリストとキリストの業を[3]否定する者は、災いである。

6 まことに、主の啓示を否定し、主はもはや啓示や預言、[1]賜物、異言、癒し、聖霊の力によって業を行われることはないと言う者は、[2]災いである。

7 またその日、[1]利益を得るために、イエス・キリストによって行われる[2]奇跡などないと言う者は、災いである。このように言う者は、キリストの言葉のとおりに、まったく憐れみを受けなかった[3]滅びの子のようになるからである。

8 そして、あなたがたは、もはやユダヤ人[1]についても、イスラエルの家のどの残りの者についても、あざけったり、はねつけたり、[2]嘲[3]笑したりしてはならない。見よ、主は彼らに対する聖約を思い起こし、誓われたことをそのとおりに彼らに行われる。

9 それであるから、あなたがたは、主がイスラエルの家に立てられた聖約を果たすための裁きを行えないように、あなたがたの手で主の右手を左手に変えることができると思ってはならない。

第30章

末日の異邦人は、悔い改め、キリストのもとに来て、イスラエルの家とともに数えられるように命じられている。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1 聴きなさい、おお、あなたがた異邦人よ。生ける神の御子イエス・キリストの言葉、すなわち、イエス・キリストがあなたがたについて述べるようにとわたしに[1]命じられた御言葉に耳を傾けなさい。そのために見よ、イエス・キリストは、次の御言葉を書き記すようにわたしに命じられた。

2 「あなたがたすべての[1]異邦人よ、あなたがたの悪い道を離れなさい。あなたの悪事、偽り、欺き、みだらな行い、秘密の忌まわしい行い、偶像礼拝、殺人、偽善売教、ねたみ、争い、あらゆる悪事と忌まわしい行いを[2]悔い改め、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは罪の赦しを受け、聖霊に満たされて、イエスル家に属するわたしの民とともに[3]数えられるであろう。」

---

5 ① モル8・17、エテ4・10
6 ① ② ③ ニフ28・15−16
マタ10・32−33
6 ① ② GS「御霊の賜物」
7 ① ② GS モル9・7、11、15
7 ② ③ ニフ28・4−6、モル9・15−26
8 ① ② GS「滅びの子」
8 ③ GS「ユダヤ人」
1 ① ニフ19・14
2 ① ニフ29・4−5
第30章
1 ① GS「異邦人」
2 ① GS「悔い改め」
2 ② ガラ3・27−29、2ニフ10・18−19、3ニフ16・21−22、10−13、2・10−25、アブ

第四ニーファイ
ニーファイの書

このニーファイは、イエス・キリストの弟子の一人であったニーファイの息子である

ニーファイの記録によるニーファイの民の話。

ニーファイ人とレーマン人は皆、主に帰依する。すべてのものを共有し、数々の奇跡を行い、地で栄える。二世紀後、分裂と悪、偽りの教会、迫害が起こる。三百年後、ニーファイ人もレーマン人もともに悪くなる。アマロン、神聖な記録を隠す。紀元約三十五年から三百二十一年に至る。

1 さて、第三十四年が過ぎ去り、第三十五年も過ぎ去って、見よ、イエスの弟子たちは周囲の全地でキリストの教会を設立した。そして、彼らのところに来て、罪を心から悔い改めた者は皆、イエスの名によってバプテスマを受け、また聖霊を受けた。
2 そして第三十六年には、民はニーファイ人もレーマン人もともに皆、地の全面で主に帰依した。そして、彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。
3 また、彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者も、束縛された者も自由な者もなく、皆自由となり、天の賜物にあずかる者となった。
4 さて、第三十七年も過ぎ去り、地は依然として引き続き平和であった。
5 そして、イエスの弟子たちは大いなる驚くべき業を行い、病気の者を癒し[1]、死者をよみがえらせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにした。また彼らは、人の子らの中で様々な奇跡[2]を行った。しかし、イエスの名のほかには、どのような名でも奇跡を行わなかった。
6 このようにして、第三十八年が過ぎ去り、また第三十九年、第四十一年、第四十二年、そして第四十九年も過ぎ去り、また第五十一年、第五十二年、さらに第五十九年も過ぎた。

第四ニーファイ
3 ① 使徒4・32、3ニフ26・19、GS「奉献・奉献の律法」
5 ① GS「癒し」
② ヨハ14・12、GS「奇跡」

7 主は民を地上で非常に栄えさせられたので、まことに、彼らは以前に焼けた町のあった所に再び町を築いた。
8 まことに、あの大きな町ゼラヘムラさえも復興した。
9 しかし、1)沈められ、水に覆われた町も多く、これらの町は再建することができなかった。
10 さて見よ、ニーファイの民は力をつけ、急速に増え、非常に麗しくて喜ばしい民になった。
11 彼らはめとり、嫁ぎ、主が彼らに立てられた多くの約束のとおりに祝福された。
12 また彼らは、もはやモーセの律法の勤めと儀式を守ることなく、自分たちの主、自分たちの神から受けた戒めに従って歩み、3)断食と祈りを続け、また祈りをささげ、主の言葉を聞くためにしばしば集まった。
13 そして、全地ですべての民の中にまったく争いがなく、イエスの弟子たちの中で数々の大きな奇跡が行われた。
14 さて、第七十一年が過ぎ、第七十二年も過ぎ、要するに第七十九年まで過ぎ去った。また、第百年も過ぎ去った。そして、イエスが選ばれた弟子たちは、とどまることになっていた三人を除いて、全員がすでに神のパラダイスへ行き、彼らに代わってほかの弟子たちが聖任された。また、その世代の多くの人もすでに世を去った。
15 そして、民の心の中に宿っていた神の愛のために、地の面にはまったく争いがなかった。
16 また、ねたみや紛争、騒動、みだらな行い、偽り、殺人もなく、どのような好色もなく、神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。
17 強盗も人殺しもおらず、レーマン人とか何々人とか言われる者もなく、彼らは一つであり、キリストの子であり、神の王国を受け継ぐ者であった。
18 このように、彼らは何と祝福されていたことか。主が彼らの行うすべてのことについて彼らを祝福されたからである。第百十年が過ぎ去るまで、彼らは祝福されて栄えた。そして、キリストからの最初の世代の人々が世を去ったが、全地に少しも争いがなかった。
19 さて、ここまでの記録を記したニーファイ（彼は

---

8 ①3 ニフ8・8
9 ①3 ニフ9・4、7
10 ①6 モル9・6
12 ①GS「モーセの律法」 ②2 ニフ25・30、3 ニフ15・2–8 ③モロ6・5、教義88・76–77
14 ①GS「身を変えられた人」 ②GS「パラダイス」 ③GS「弟子」 ④GS「聖任」
15 ①3 ニフ28・3–9、GS「平安・平和」
16 ①GS「一致」 ②GS「欲望」 ③GS「喜び」
17 ①23、GS「シオン」 ③モサ2・41、アル50・ヨハ17・21、GS「

それをニーファイの版に記した[1]）が死に、彼の息子アモスが代わって書き継いだ。そして、アモスもニーファイの版に記した。

20 彼は八十四年間記録を書き継ぎ、その地は依然として平和であった。ただ教会から背いて、自らレーマン人と名乗った者たちが少数いただけである。このために再びこの地にレーマン人が存在することになった。

21 さて、アモスも死んで（それはキリストの来臨から数えて百九十四年目のことであった）、彼の息子アモスが彼に代わって記録を書き継いだ。息子のアモスもまた、ニーファイの版に書き記した。その記録はニーファイの書、すなわちこの書にも書き記されている。

22 さて、二百年が過ぎ去り、第二世代の人々は、わずかな人々を除いてすべて世を去った。

23 さて、わたしモルモンがあなたがたに知ってもらいたいのは、民が増えて地の全面に広がり、キリストにあって栄えたために非常に豊かになったということである。

24 ところが、この第二百一年には、高価な衣服を着て、あらゆる見事な真珠と世の美しいものを身に着けるなどして、高慢[1]になった者たちが彼らの中に現れ始めた。

25 そのときから、彼らはもはや自分たちの所有物と持ち物を共有しなくなった。

26 そして、彼らは階級に分かれ始めた。また、彼らは利益[1]を得ようとして自分自身のために教会[2]を築き始め、キリストのまことの教会を否定するようになった。

27 さて、第二百十年が過ぎたとき、国中に多くの教会があった。すなわち、キリストを知っていると公言する教会がたくさんあった。それらの教会はキリストの福音の大半を否定[1]し、あらゆる悪を受け入れ、また神聖なものを、ふさわしくないので与えてはならないと禁じ[2]られた者にまで与えた。

28 この教会[1]は罪悪のために、また彼らの心を捕らえたサタンの力のために、非常に人数が増えた。

29 さらに、ほかにキリストを否定する教会もあった。彼らはキリストのまことの教会の人々が謙遜で、キリストを信じていたために、これらの人を迫害[1]した。また、これらの人の中で多くの奇跡が行わ

---

19 ① GS「版」
24 ① GS「高慢」
25 ① 4ニフ1・3
26 ① 教義10・56、GS「偽善売教」
27 ① ② 1ニフ22・23、2ニフ28・3、モル8・32–38
28 ① ② GS「背教・背信」
29 ① 3ニフ18・28–29の教会」GS「迫害」

れたために、彼らはこれらの人をさげすんだ。
30 そして彼らは、自分たちとともにいたイエスの弟子たちに権力と権威を振るい、イエスの弟子たちを牢に入れた。[1]しかし、イエスの弟子たちの内にある神の言葉の力によって牢は二つに裂け、弟子たちは出て来て人々の中で大きな奇跡を行った。
31 にもかかわらず、民は心をかたくなにした。そして、エルサレムのユダヤ人がイエスをその御言葉のとおりに殺そうとしたように、イエスの弟子たちを殺そうとした。
32 そして彼らは、イエスの弟子たちを燃え盛る炉[1]の中に投げ込んだが、弟子たちは何の害も受けずに出て来た。[2]
33 彼らはまた、イエスの弟子たちを猛獣の穴[1]の中に投げ込んだが、弟子たちは子供が子羊と遊ぶように猛獣たちと戯れ、何の害も受けずに猛獣たちの中から出て来た。
34 それでも、民は多くの教会を築き、様々な罪悪を行うように多くの祭司たちと偽預言者たちに誘われたので、心をかたくなにした。そして、彼らはイエスの民を打った。[1]しかし、イエスの民は打ち返さなかった。このために彼らは、二百三十年が過ぎるまでには、年々、次第に不信仰になり、悪に陥っていった。
35 そして、この年、すなわち第二百三十一年に、まことに、民の中に大きな分裂があった。
36 そしてこの年に、ニーファイ人と呼ばれる民が起こった。この民はキリストのまことの信者であった。また、この民の中にはレーマン人からヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人と呼ばれた人々もいた。
37 そこで、キリストのまことの信者、またキリストのまことの礼拝者は（この世にとどまることになっていたイエスの[1]三人の弟子たちもその中にいた）、ニーファイ人、ヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人と呼ばれた。
38 そして、福音を受け入れなかった者は、レーマン人、レムエル人、イシマエル人と呼ばれた。彼らは次第に不信仰に陥ったのではなく、故意にキリスト[1]の福音に背いたのである。そして、彼らの先祖が初めから信仰が薄らいでいたように、彼らは自分の子供たちに信じてはならないと教えたのであった。

30 ①ニフ28・19–20
32 ①ダニ3・26–27 ②ニフ28・21
33 ①ニフ28・22 ①ニフ12・39、教義
34 ①98・23–27
37 ①ニフ28・6–7、モル8・10–11
38 ①GS「背く」

39 それは、初めの時と同じように、彼らの先祖の悪事と忌まわしい行いのためであった。レーマン人が初めからニーファイの子孫を憎むことを教えられたように、彼らも神の子たちを憎むように教えられたのである。

40 さて、すでに第二百四十四年が過ぎ去り、民の状況はこのようであった。そして、民の中のひときわ悪い者たちが力をつけ、神の民よりもはるかに数が多くなった。

41 彼らは依然として自分自身のために教会を築くことを続け、あらゆる貴重な品々で教会を飾った。このようにして、第二百五十年が過ぎ去り、第二百六十年も過ぎ去った。

42 さて、民の中の悪い者たちは再びガデアントンの秘密の誓いと[1]結社を設け始めた。

43 また、ニーファイの民と呼ばれた民も、自分たちの非常に多くの富のために心の中で誇り、同胞であるレーマン人のように虚栄心が強くなり始めた。

44 このときから、弟子たちは世の罪を悲しむようになった。

45 さて、第三百年が過ぎ去ると、ニーファイの民もレーマン人もともに、同じように非常に悪くなっていた。

46 そして、ガデアントンの強盗たちが地の全面に広がっており、イエスの弟子たちのほかには、義人は一人もいなかった。ガデアントンの強盗たちは金と銀を豊かに蓄え、またあらゆる商品を交易していた。

47 さて、第三百五年が過ぎ去り（民は依然として悪い状態であり）、アモスが死んで、彼の兄弟アマロンが彼に代わって記録を書き継いだ。

48 さて、第三百二十年が過ぎ、アマロンは聖霊に強く促されて、神聖な数々の記録、言い換えれば、キリストの来臨から第三百二十年まで代々伝えられてきたすべての神聖な記録を[1]隠した。

49 彼はそれらの記録が主の預言と約束のとおりに、ヤコブの家の残りの者に再び[1]伝えられるように、それらの記録を主に託して隠したのである。これでアマロンの記録は終わる。

---

39 ① モサ 10・17
42 ① GS「秘密結社」
44 ① ニフ 28・9
48 ① ヒラ 3・13、15–16
49 ① エノ 1・13

モルモン書

第1章

アマロン、神聖な数々の記録についてモルモンに指示を与える。ニーファイ人とレーマン人の間に戦争が始まる。三人のニーファイ人、よそに連れ去られる。悪事と不信仰が広がり、魔術と魔法が広く行われる。紀元約三百二十一年から三百二十六年に至る。

1 さて、わたしモルモン[1]は、自分がこれまでに見聞きしたことを記録[2]して、これをモルモン書と呼ぶ。
2 アマロン[1]は数々の記録を主に託して隠したころ、わたしのところにやって来た。（当時わたしは十歳くらいで、わたしの民の教育方法に従ってかなり教育[2]を受け始めていた。）そして、アマロンはわたしに言った。「わたしはあなたがまじめな子供で、観察が鋭いことを知っている。
3 だから、あなたが二十四歳くらいになったら、この民についてあなたが見てきたことを思い出してもらいたい。そして、その年齢になったら、アンタムの地の、シム[1]と呼ばれる丘へ行きなさい。そこにわたしは、この民のことが刻まれているすべての神聖な記録を、主に託して隠してある。
4 見よ、あなたはニーファイの版[1]を取り出し、残りの版は今それがある場所にそのままにしておきなさい。そして、この民についてあなたが見てきたことをすべてニーファイの版に刻みなさい。」
5 わたしモルモンはニーファイ[1]の子孫であり（わたしの父の名もモルモンであった）、わたしはアマロンから命じられたことを思い出した。
6 さて、わたしは十一歳のとき、父に連れられて南方の地、ゼラヘムラへ行った。
7 地の全面が建物でいっぱいであり、人々はまるで海の砂のように大勢であった。
8 さてこの年に、ニーファイ人とヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人から成るニーファイ人の間に戦争が始まった。この戦争は、ニーファイ人に対して、レーマン人とレムエル人とイシマエル人が戦ったものであった。
9 ところで、レーマン人とレムエル人、それにイシ

モルモン書
第1章
1 ① GS「モルモン（ニーファイ人の預言者）」
② 3ニフ5・11–18
2 ① 4ニフ1・47–49
3 ① モサ1・3–5
② エテ9・3
4 ① モ言1・1、11、GS
「版」
5 ① 3ニフ5・12、20

マエル人はレーマン人と呼ばれていたので、この戦いはニーファイ人とレーマン人との間で行われたものであった。

10 さて、その戦争は、シドンの水のそばにあるゼラヘムラの境で始まった。

11 そしてニーファイ人は、三万人を越える大勢の兵を集めていた。この年に彼らは何度も戦い、ニーファイ人はレーマン人を打ち負かして、多くの者を殺した。

12 そこでレーマン人は彼らの企てを捨て、地は平和になった。そして、およそ四年間平和が続き、まったく流血がなかった。

13 しかし、悪事が全地の面に広がったので、主は御自分の愛する弟子たちをよそに連れ去ってしまわれた。[1]そして、民の罪悪のために、奇跡と癒しの業はやんだ。

14 また、民の悪事と不信仰のために、主から何の賜物も与えられず、[1]聖霊はだれにも降られなかった。[2]

15 わたしは十五歳で、多少まじめな心の持ち主であったので、主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わって知った。

16 そこで、わたしはこの民に教えを説こうとしたが、わたしの口は閉じられ、彼らに教えを説くことを禁じられた。見よ、彼らが神に故意に背いたからである。[1]また、愛された弟子たちは、民の罪悪のためにその地からよそに連れ去られてしまった。[2]

17 しかし、わたしは民の中に残った。それでも、彼らの心がかたくなであったので、彼らに教えを説くことは禁じられた。そして、彼らがかたくなであったので、地は彼らのためにのろわれた。[1]

18 また、レーマン人の中にいたガデアントンの強盗たちが、この地を荒らし回ったので、この地に住む者たちは、自分たちの宝を地中に隠すようになった。[1]ところが、主がすでに地をのろっておられたので、彼らの宝はなくなりやすくなってしまい、彼らはそれらの宝を保つことも、再び所有することもできなくなった。

19 そして、魔術と魔法と呪術が行われ、悪しき者の力が地の全面に働いて、まことにアビナダイの言葉とレーマン人のサムエルの言葉がすべて事実となったのであった。

---

13 ① 3 ニフ28・2、12
14 ① GS「不信仰」
② モロ10・8–18、24
③ GS「聖霊」
16 ① GS「背く」
② モル8・10
17 ① 2 ニフ1・7、アルマ45・10–14、16
18 ① 14・1–2 ヒラ13・18–20、エテ

第2章

モルモン、ニーファイ人の軍隊を率いる。流血と虐殺が地に広がる。ニーファイ人、罰の定めを受ける者の苦しみを思い、嘆き悲しむ。ニーファイ人のための猶予の日は過ぎ去る。モルモン、ニーファイの版を取り出す。戦争が続く。紀元約三百二十七年から三百五十年に至る。

1 さて、その同じ年に、ニーファイ人とレーマン人の間で再び戦争が始まった。そして、わたしは若かったにもかかわらず、身の丈が高かったので、ニーファイの民はわたしを彼らの指揮官に、すなわち彼らの軍の指揮官に任命した。

2 そこでわたしは、十六歳になる年に、ニーファイ人の軍隊を率いてレーマン人に向かって出て行った。当時、すでに三百二十六年が過ぎ去っていた。

3 さて、第三百二十七年に、レーマン人が非常に大きな力で攻めて来たので、わたしの軍隊は彼らにおびえて戦おうとせず、北の地方に向かって退却し始めた。

4 そして、わたしたちはアンゴラの町に着いて、その町を占領し、レーマン人に対して自衛する準備をした。わたしたちは力の限りその町の防備を固めた。しかし、わたしたちは防備を固めたにもかかわらず、レーマン人に攻められ、その町から追い出された。

5 わたしたちはまた、彼らによってダビデの地から追い出された。

6 そこで、わたしたちは軍隊を進め、海岸に近い西の境にあるヨシュアの地に着いた。

7 そしてわたしたちは、自分たちの民を一団として集めることができるように、可能なかぎり速やかに民を集めた。

8 しかし見よ、地には強盗とレーマン人が満ちていた。また、ひどい滅亡がわたしの民に迫っていたにもかかわらず、わたしの民は、自分たちの邪悪な行いを悔い改めなかった。そのために、地の全面でニーファイ人とレーマン人の双方に流血と虐殺が広がった。それは地の全面に広がった一つの完全な変革であった。

9 さて、レーマン人には王がおり、その名をアロンといった。彼は四万四千人の軍隊を伴って、わたし

たちを攻めて来た。そこで見よ、わたしは、四万二千人で彼らに立ち向かった。そして、自分の軍隊で彼を打ち負かし、彼はわたしの前から逃げ出した。そのようなことがあって、三百三十年が過ぎていった。

10 さて、ニーファイ人は自分たちの罪悪を悔い改めるようになり、預言者サムエルによって預言されたように叫び始めた。その地に盗人と強盗と人殺しがおり、また呪術と魔法が行われていて、見よ、だれも自分のものを保っておくことができなかったからである。

11 その結果、これらのことのために全地に嘆きと悲しみが起こった。しかも、特にニーファイの民の中でそれがひどかった。

12 さて、わたしモルモンは、彼らの悲しみと嘆きと、主の前での彼らの悲嘆ぶりを見ると、心の中で喜び始めた。わたしは主の憐れみと寛容を知っていたので、主が彼らに憐れみをかけてくださり、彼らが再び義にかなった民になるであろうと思ったからである。

13 しかし見よ、わたしのこの喜びは無駄であった。彼らの悲しみは、神の慈しみを思って悔い改めに至るものではなかった。それはむしろ、彼らに罪のあるままで幸福になるのを主がいつでも許そうとなさらないことに対する悲しみであり、罰の定めを受ける者の悲しみと同じであった。

14 彼らは、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってイエスのもとに来ることをせずに、神をのろい、死ぬことを願った。それでも彼らは、自分の命を守るために剣で戦おうとした。

15 そこで、わたしの悲しみが再び戻ってきた。わたしは、彼らのための猶予の日が、この世的にも霊的にも過ぎ去ってしまったことを知ったのである。わたしの民が、何千人も自分たちの神に公然と背いた状態で切り倒され、糞のように地の面に積み上げられているのを見たからである。このようにして、三百四十四年が過ぎ去った。

16 さて、ニーファイ人は第三百四十五年にレーマン人の前から逃げ始め、追撃されて、とうとうジェションの地に至った。レーマン人は、退却しているニーファイ人をその地まで止めることができなかった。

第2章
13 ① 2コリ7・10、アル42・29
② ③ アル41・10
14 ① ③ ② GS「罰の定め」
「心」① GS「打ち砕かれた
15 ① ② GS「冒瀆・汚す罪」
GS「恵み」
16 ③ ② ヒラ13・38、エレ8・20、教義56・

17 ところで、ジェションの町は、アマロンが主に託して数々の記録を隠して損なわれないようにした地の近くにあった。そこで見よ、わたしは、アマロンの言葉のとおりに行ってニーファイの版を取り出し、アマロンの言葉に従って記録した。

18 わたしはニーファイの版に、あらゆる悪事と忌まわしい行いを残らず記録した。しかし、この版に彼らのあらゆる悪事と忌まわしい行いを残らず記録することは控えた。それは見よ、わたしが人の道を十分に見られるようになって以来、いつも悪事と忌まわしい行いがわたしの目の前に絶えなかったからである。

19 彼らの悪事のためにわたしは悲しい。彼らの悪事のために、わたしの心は日々いつも悲しみに満たされてきた。それでも、わたしは自分が終わりの日に高く上げられることを知っている。

20 さてこの年に、ニーファイ人は再び狩り出され、追われた。そして、わたしたちは北方へ、セムと呼ばれる地に着くまで追い立てられた。

21 そしてわたしたちは、セムの町の防備を固め、わたしたちの民を滅亡から救えるように、できるだけ大勢民を集めた。

22 さて、第三百四十六年に、レーマン人は再びわたしたちを攻め始めた。

23 そこでわたしは、自分の民に語り、レーマン人の前に断固として立ちはだかって自分たちの妻子と家と家庭を守るために戦うように、大いに力を込めて彼らに勧めた。

24 すると彼らは、わたしの言葉で多少奮い立ったので、レーマン人の前から逃げることなく、勇ましく彼らに立ち向かった。

25 そしてわたしたちは、三万人の軍隊で五万人の軍隊と戦い、彼らがわたしたちの前から逃げ出すほどにしっかりと彼らの前に立ちはだかった。

26 そして、彼らが逃げ出すと、わたしたちは軍隊を率いて追撃し、再び彼らと戦いを交えて、彼らを打ち負かした。それでも、主の力はわたしたちに伴っていなかった。主の御霊はわたしたちの内にとどまっておらず、自分の力に頼るしかなかったので、わたしたちはすでに同胞のように弱くなっていた。

27 わたしの民の受けたこの大きな災いと、また民の悪事と忌まわしい行いのために、わたしの心は悲し

17 ①モル1・1–4
18 ①GS「版」
19 ①モサ23・22、エテ4・23
23 ①モサ20・11、アル43・45

みに沈んだ。しかし見よ、わたしたちは、レーマン人とガデアントンの強盗たちに向かって出て行き、再びわたしたちの受け継ぎの地を取り返した。
28 第三百四十九年が過ぎ去った。第三百五十年に、わたしたちはレーマン人およびガデアントンの強盗たちと条約を結び、その条約によって分割された受け継ぎの地を得た。
29 レーマン人は北方の地を、南方の地に通じる地峡[1]までわたしたちに譲り、わたしたちは南方の地をすべてレーマン人に譲った。

第 3 章

モルモン、ニーファイ人に悔い改めを叫ぶ。ニーファイ人、大勝利を収め、自分自身の強さを誇る。モルモン、民の指揮を執ることを断る。モルモン、祈りがかなえられるという信仰のないまま民のために祈る。『モルモン書』は、福音を信じるようにイスラエルの十二部族を招くものである。紀元約三百六十年から三百六十二年に至る。

1 さて、レーマン人は再び攻めて来ることなく十年が過ぎ去った。見よ、その間に、わたしは自分の民、ニーファイ人を使い、戦いのときのために土地と武器を備えさせた。
2 そして、主はわたしに言われた。「この民に、『悔い改めてわたしのもとに来てバプテスマを受け、わたしの教会を再建しなさい。そうすれば、あなたがたは救われる』と宣言しなさい。」
3 そこでわたしはこの民に宣言したが、無駄であった。これまで彼らの命を助け、彼らに悔い改めの機会を与えてこられたのが主であることを、彼らは悟っていなかった。そして見よ、彼らは主なる神に対して心をかたくなにした。
4 さて、この十年目が過ぎ去り、キリストの来臨から数えて三百六十年目になると、レーマン人の王がわたしに手紙を送ってきた。そして、彼らが再びわたしたちを攻める準備をしていることを知らせてきた。
5 そこでわたしは、自分の民をデソレションの地に、すなわち南方の地に通じる地峡のそばの境の地にある町に集めた。
6 わたしたちはまた、レーマン人の軍隊を阻止し、

29 ① アル 22:32

わたしたちの土地を少しも占領させないように、軍隊を配置した。そのように、わたしたちは総力を挙げて彼らに対する防備を固めた。

7 さて、第三百六十一年に、レーマン人はわたしたちと戦うためにデソレションの町に下って来た。しかしその年に、わたしたちは彼らを打ち負かしたので、彼らは自分たちの土地へ引き返した。

8 第三百六十二年に、彼らは戦うためにまた下って来たが、わたしたちはまた彼らを打ち負かして大勢を殺した。そして、彼らの死体は海に投げ込まれた。

9 ところが、わたしの民ニーファイ人は、このような大きな戦果を得たため、自分たちの力を誇るようになるとともに、また敵に殺された同胞の血の報復をすると天の前に誓い始めた。

10 彼らは敵と戦うために上って行って、地の面から敵を絶つと、天にかけて、また神の御座にかけて誓った。

11 そこでわたしモルモンは、この民の悪事と忌まわしい行いのために、彼らの司令官となり指揮官となることを、このとき以来きっぱりと断るようにした。

12 見よ、わたしはこれまで彼らを導いてきた。彼らの悪事があったにもかかわらず、わたしは何度も彼らを率いて戦い、またわたしの内にある神の愛によって、心を尽くして彼らを愛してきた。また、彼らのために終日心を注ぎ出して神に祈った。それでも、彼らの心がかたくなであったので、祈りがかなえられるという信仰はわたしになかった。

13 わたしはこれまで三度、民を敵の手から救い出したが、彼らは自分たちの罪を悔い改めなかった。

14 そして彼らが、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストによって禁じられていた、すべてのものにかけて、自分たちは敵のところに上って行って戦い、同胞の血の報復をすると誓ったとき、見よ、主の声がわたしに聞こえてこう言われた。

15 「報復はわたしのすることである。わたしが報復する。この民はわたしによって救い出された後に悔い改めなかったので、見よ、地の面から絶たれる。」

16 さて、わたしは敵に向かって上って行くことをきっぱりと断り、主から命じられたとおりにした。わたしは、将来起こることについて証をされた御霊の示しのとおりに、自分が見聞きしたことを世の人々

第3章
9 ① 2ニフ4・34
10 ① 3ニフ3・20—21、モル4・4
12 ① GS「愛」
14 ② モル5・2
15 ① 3ニフ12・34—37
② GS「報復」教義82・23

に明らかにする証人になった。

17したがって、異邦人よ、わたしはあなたがたに書き伝える。また、イスラエルの家よ、あなたがたが自分の受け継ぎの地に帰る用意をする、その業が始まるときに読めるように、あなたがたにも書き伝える。

18まことに見よ、わたしは地の果てに至るすべての人に書き伝える。イエスがエルサレムの地で御自分の弟子となるように選ばれた十二人から、自分の行いに応じて裁きを受けるイスラエルの十二部族よ、あなたがたにも書き伝える。

19わたしはまた、この地でイエスが選ばれた十二人から同じく裁きを受ける、この民の残りの者にも書き伝える。この十二人は、イエスがエルサレムの地で選ばれた、別の十二人から裁きを受けるであろう。

20これらのことは、御霊がわたしに示してくださった。そこで、わたしはあなたがた全員に書き伝える。わたしがあなたがたに書き伝えるのは、あなたがた全員が、まことにアダムの全人類、家族に属するすべての人が、キリストの裁きの座の前に立たなければならないこと、あなたがたの行いが善いか悪いか、自分の行いについて裁かれるために立たなければならないことを、あなたがたに知らせるためであり、

21また、将来あなたがたの中にあるイエス・キリストの福音を、あなたがたに信じさせるためであり、また、主の聖約の民であるユダヤ人に、彼らがかつて殺したイエスがまことのキリストであり、まことの神であられることを知らせることになっている、彼らの見聞きした証人以外の別の証人を与えるためである。

22わたしは地の果てに至るすべての人に、悔い改めてキリストの裁きの座に立つ備えをするように説き勧めることができればと願っている。

第 4 章

戦争と虐殺が続く。悪人が悪人を罰する。これまでイスラエル全体のどこにもなかったひどい悪事が広がる。女子供が偶像のいけにえにされる。レーマン人、ニーファイ人を一掃し始める。紀元約三百六十三年から三百七十五年に至る。

---

17 ①2 ニフ30・3–8、ニフ29・1
18 ①3 マタ19・28、ルカ22・29–30、教義29・12
19 ①1 ニフ12・9–10
20 ①1 教義27・11「最後の裁き」
21 ①2 GS教義3・20「ユダヤ人」
②2 ニフ26・12、モサ
③7・27
22 ①4 2ニフ25・18、アル29・1

1 さて、第三百六十三年に、ニーファイ人はレーマン人と戦うために、デソレションの地から彼らの軍隊とともに上って行った。
2 さて、ニーファイ人の軍隊はデソレションの地に追い返された。そして、彼らがまだ疲れているうちに、レーマン人の新手の軍隊が彼らを攻めた。そして、激しい戦いがあって、レーマン人がデソレションの町を占領し、多くのニーファイ人を殺し、多くの者を捕虜にした。
3 残りの者は逃げて、テアンクムの町に住む者たちに合流した。テアンクムの町は海岸に近い境の地にあり、デソレションの町にも近かった。
4 ニーファイ人が討たれ始めたのは、彼らの軍隊がレーマン人のところに上って行ったためである。もしそのようにしなければ、レーマン人はニーファイ人を支配する権力を持てなかったであろう。
5 しかし見よ、神の裁きは悪人に下る。そして、悪人によって悪人が罰せられる。人の子らの心をあおり立てて流血を生じさせるのは悪人だからである。
6 さて、レーマン人はテアンクムの町を攻める準備を整え、
7 そして、第三百六十四年に、テアンクムの町も占領しようとして、テアンクムの町を攻めた。
8 さて、彼らはニーファイ人によって撃退され、追い返された。するとニーファイ人は、自分たちがレーマン人を追い払ったのを見て、またもや自分たちの力を誇った。そして彼らは、自分の力だけに頼って出て行き、デソレションの町をもう一度取り返した。
9 さて、このようなことが終わってみると、双方で、すなわち、ニーファイ人とレーマン人の両方で何千もの人々が戦死していた。
10 さて、第三百六十六年が過ぎ去り、レーマン人がまたニーファイ人と戦うためにやって来た。それでもニーファイ人は、自分たちの行ってきた悪事を悔い改めず、絶えず悪事を続けていた。
11 ニーファイ人とレーマン人の双方の民の中に見られた、流血と虐殺のすさまじい有様は、口で述べることができず、人がそれを完全に描写して書き記すことも不可能である。彼らは一人残らず心をかたくなにし、血を流すことを絶えず喜びとした。
12 この民の中にあったようなひどい悪事は、リーハ

第4章
4 ① モル 3・10
5 ① 教義 63・33
12 ① 創世 6・5、3ニフ 9・9

イのすべての子孫の中に、また主の言葉によれば、イスラエルの家に属するすべての者の中にも、これまで決してなかった。
13 そして、レーマン人はデソレションの町を占領した。これができたのは、彼らの人数[1]がニーファイ人の人数よりも多かったからである。
14 そして彼らは、さらにテアンクムの町に向かって進軍し、その町から民を追い払い、女子供を大勢捕虜にし、自分たちの偶像[1]の神にいけにえとしてささげた。
15 さて、第三百六十七年に、ニーファイ人はレーマン人が自分たちの女子供をいけにえにしたことに腹を立て、非常に激怒してレーマン人に向かって行ったので、またもやレーマン人を打ち負かし、彼らを自分たちの土地から追い出した。
16 その後、第三百七十五年まで、レーマン人は再びニーファイ人を攻めて来ることはなかった。
17 しかしこの年に、彼らは全軍でニーファイ人に向かって攻め下って来た。彼らの人数はあまりにも多くて、数えられなかった。
18 [1]このとき以来、ニーファイ人はレーマン人に勝つ力を得られず、朝日に露が消えるようにレーマン人によって一掃され始めた。
19 そしてレーマン人は、デソレションの町に攻め下って来た。そして、デソレションの地で非常に激しい戦いがあり、その戦いでレーマン人がニーファイ人を打ち負かした。
20 そこでニーファイ人は、レーマン人の前からまた逃げ出し、ボアズの町に至った。そして、彼らはそこで非常に勇ましくレーマン人に立ち向かったので、レーマン人は二度目の攻撃をかけるまでニーファイ人を打ち負かせなかった。
21 そして、レーマン人が二度目に攻め寄せたとき、ニーファイ人は追い払われ、非常に大勢の者が殺された。さらにニーファイ人の女子供が、また偶像のいけにえにされた。
22 そこでニーファイ人は、彼らの前からまた逃げ、方々の町や村のすべての民を一緒に伴って行った。
23 わたしモルモンは、レーマン人がまさに全土を征服しようとしているのを見て、[1]シムの丘へ行き、アマロンが主に託して隠しておいたすべての記録を取り出した。

---

13 ① モル 5・6
14 ① GS「偶像礼拝」
18 ① モル 3・3
23 ① モル 1・3

第5章

モルモン、再びニーファイ人の軍隊を率いて流血と虐殺の戦いに出る。イエスがキリストであることを全イスラエルに確信させるために、将来『モルモン書』が出る。不信仰のため、レーマン人は散らされ、御霊は彼らを励ますのをやめる。レーマン人は末日に異邦人から福音を受ける。紀元約三百七十五年から三百八十四年に至る。

1 さて、わたしはニーファイ人の中に出て行き、彼らをもう助けないと以前に誓った誓いを取り消した。すると彼らは、わたしなら自分たちを苦難から救い出せるであろうと考え、わたしにもう一度ニーファイ人の軍の指揮権を与えた。

2 しかし見よ、わたしは主の裁きが彼らに下ることを知っていたので、1)望みを持っていなかった。彼らが自分たちの罪悪を悔い改めず、自分たちを造られた御方に請い願うことなく、ただ自分たちの命のために戦っていたからである。

3 さて、わたしたちがヨルダンの町に逃げていたので、レーマン人はわたしたちを攻めた。しかし見よ、彼らは撃退され、そのときにはその町を奪えなかった。

4 そして、彼らはまたわたしたちを攻めたが、わたしたちはその町を守り通した。ほかにもニーファイ人が守り通した町が幾つもあり、レーマン人はそれらの町のとりでに遮られて、わたしたちの先にある地方に入って行って、わたしたちの国の民を滅ぼすことができなかった。

5 しかし、わたしたちが素通りしてきた土地と、わたしたちが集めなかった土地に住む者たちは、すべてレーマン人によって滅ぼされ、彼らの集落や村や町は火で焼かれた。このようにして、三百七十九年が過ぎ去った。

6 そして第三百八十年に、レーマン人がまた攻め寄せて来たので、わたしたちは勇ましく彼らに立ち向かった。しかし、それはまったく無駄であった。彼らは人数が非常に多く、ニーファイ人の民を足で踏みにじったからである。

7 そこで、わたしたちはまた逃げた。そして、逃げ足がレーマン人の追撃よりも速かった者は逃れ、レーマン人より速くなかった者は襲われて殺された。

第5章
1 ① モル3・11
2 ① モル3・12

8 さて見よ、わたしモルモンは、自分の目で見たこのような流血と虐殺の恐ろしい光景を人々の前に持ち出して、人々をひどく苦しめたいとは思わない。しかしわたしは、これらのことが将来必ず知らされ、現在隠されているすべてのことが将来屋根の上で明らかにされることを知っており、

9 またこれらのことが、将来これらの民の残りの者と異邦人に知らされることも知っている。主は、異邦人がこの民を散らし、この民が彼らの中で価値のない者と見なされるようになると言われた。わたしは以上のことを知っているので、あえて自分がこれまで見てきたことを全部は記録せず、小さな短くまとめた記録を書き記している。それは、そのように命じられたからであり、またあなたがたが、この民の悪事のことであまりひどく嘆くことのないようにするためである。

10 さて見よ、わたしはこのことをこの民の子孫と、また異邦人に、すなわち、イスラエルの家を心にかけ、自分たちの祝福がどこから来るかをはっきり自覚して知っている異邦人に述べる。

11 わたしは、このような人々がイスラエルの家の災いについて嘆くことを知っているからである。まことに、彼らはこの民の滅亡を嘆き、また、この民が悔い改めをしなかったためにイエスの腕の中にしっかり抱き締められることがなかったことを嘆くであろう。

12 わたしは、これらのことをヤコブの家の残りの者に書き伝える。これらのことをこのように書き伝えるのは、邪悪な者がこれらの記録を伝えることはないと、神から知らされているからである。そこで、これらのことが主御自身がふさわしいと思われるときに伝わるように、主に託してこれを隠しておかなければならない。

13 これがわたしの受けた命令である。そして見よ、これらのことは、主が御自分の知恵でふさわしいと見なされるときに、主の命令どおりに伝わるであろう。

14 そして見よ、これらのことは、ユダヤ人の中の信仰のない者に伝わる。これらのことが伝わる目的は、彼らにイエスが生ける神の御子キリストであられることを信じさせることである。また、ユダヤ人、さらに正確に言えば、イスラエルの家に属するすべ

8 ① ルカ12・2－3、2ニフ27・11、教義1・3
9 ① 4ニフ1・49　② 3ニフ16・8
12 ① モルエノ1・16、ヒラ15・1　② 11－13、教義3・16－20、GS「モルモン書」　③ モルモ8・4、13－14、10・1－2
14 ① 2ニフ29・13、30・7－8、GS「ユダヤ人」　② 2ニフ25・16－17

ての者を、主なる彼らの神がお与えになった受け継ぎの地に連れ戻すという、あの御父の偉大な永遠の目的が、御父のこの上なく愛する御子を通じて成し遂げられ、御父の聖約が果たされるようにすることである。

15 またこの民の子孫に、異邦人から伝わる主の福音をさらによく信じさせることである。この民はこの後散らされて、これまでわたしたちの中になかったほど、すなわちかつてレーマン人の中になかったほど、肌の黒ずんだ、汚らしい、不快な民になる。これは彼らの不信仰と偶像礼拝のためである。

16 見よ、主の御霊は、すでにこれらの者たちの先祖を励ますのをやめてしまった。そして彼らは、この世の中でキリストも神もなく生きており、風に吹かれるもみ殻のようにあちらこちらに追いやられている。

17 彼らはかつて喜ばしい民であって、キリストを自分たちの羊飼いとし、まことに、父なる神からも導かれていた。

18 ところが見よ、彼らは今、サタンによってあちらこちらに誘われている。まるでもみ殻が風に吹かれているようであり、また船が帆や錨のないまま、あるいは舵を取る手段のないまま波間に漂っているようである。彼らは、ちょうどその船のようである。

19 見よ、主は、彼らがこの地で受けることのできた祝福を、将来この地を所有する異邦人のために残しておられる。

20 しかし見よ、将来この民は異邦人に追われ、散らされるであろう。そして、彼らが異邦人に追われ、散らされた後、見よ、主はアブラハムとイスラエルの家に属するすべての者に立てられた聖約を思い出されるであろう。

21 また主は、彼らのためにささげられた義人の祈りも思い出されるであろう。

22 おお、異邦人よ、あなたがたは悔い改めて悪の道から離れなければ、どうして神の力の前に立てるであろうか。

23 あなたがたは自分が神の手の内にあるのを知らないのか。あなたがたは神が一切の権威を持っておられることと、神の大いなる命令で将来大地が巻き物のように巻かれることを知らないのか。

24 だからあなたがたは、悔い改めて神の前にへりく

---

14 ③ 3ニフ29・1–3
15 ① 3ニフ21・3–7、
24 ② 1ニフ13・20–29、26
38 ③ 1ニフ10・12–14、モル7・8–9
3 ④ 2ニフ26・33
16 ① エテ2・15
17 ① GS「良い羊飼い」
詩篇1・4
18 ① 3ニフ20・27–28
19 ① 2ニフ28・21
20 ① GS「アブラハムの聖約（契約）」
21 ① エノ1・12–18、モル3・37
23 ① 9・36–37
② ヒラ12・8–17
3ニフ26・3

だりなさい。さもなければ、神はあなたがたに罰を下される。すなわち、ヤコブの子孫の残りの者が、ライオン[1]のようにあなたがたの中に出て行って、あなたがたを引き裂くであろう。そして、救う者はだれもいない。

第6章

ニーファイ人、最後の戦いのためにクモラの地に集まる。モルモン、神聖な記録をクモラの丘に隠す。レーマン人が勝利を収め、ニーファイ人の国は滅亡する。数十万人が剣で殺される。紀元約三百八十五年。

1さて、これでわたしの民、ニーファイ人の滅亡[1]についてのわたしの記録を終わりにする。わたしたちは、レーマン人の前に進軍した。

2そして、わたしモルモンは、レーマン人の王に手紙を書いて、クモラと呼ばれる丘に近い[1]クモラの地に民を集め、そこでレーマン人と戦えるようにするのを認めてほしいと頼んだ。

3そこで、レーマン人の王はわたしが求めたことを認めてくれた。

4そこで、わたしたちはクモラの地に進軍し、クモラの丘の周りに天幕を張った。その丘は多くの水と川、泉のある地にあった。わたしたちはここで、レーマン人に対して優位に立てることを期待した。

5三百八十四年が過ぎ去ったとき、わたしたちは民の残っている者を全員クモラの地に集め終えていた。

6そして、わたしたちが民を全員一団としてクモラの地に集め終えたとき、見よ、わたしモルモンは老いが進んでいた。わたしは、これが自分の民の最後の戦闘であることを知っており、また、先祖から伝えられてきた神聖な記録をレーマン人の手に渡してはならないと主から命じられていたので（レーマン人はそれらの記録を損なうからである）、わたしはニーファイの版からこの記録を作り、主の手によってわたしに託されたすべての記録をクモラの丘に隠[2]した。そして、このわずかな版だけを息子モロナイ[4]に渡す。

7さて、わたしの民は妻子たちとともに、レーマン人の軍隊[1]がこちらに向かって進んで来るのを見た。そして、すべての悪人の胸に満ちているあのひどく

24 ① ミカ5・8、3ニフ
20・15–16
第6章
1 ① 1ニフ12・19、ジェロ1・10、アル45・9–14、ヒラ13・5–11
2 ① エテ9・3
6 ① GS「版」
② エテ15・11
③ モニ1・2
④ モル8・1
7 ① 1ニフ12・15

死を恐れる気持ちをもって、レーマン人を迎え撃とうと待ち受けた。

8 そして、レーマン人がわたしたちに攻めかかって来た。すると、レーマン人がおびただしい人数であったので、わたしの民は一人残らず恐れでいっぱいになった。

9 そしてレーマン人は、剣と弓、矢、斧、そのほかあらゆる武器でわたしの民に襲いかかった。

10 そこでわたしの民、すなわちわたしとともにいた一万人の者が切り倒され、わたしも負傷してその中に倒れた。すると、レーマン人はわたしを殺さず、わたしのそばを通り過ぎて行った。

11 彼らは通り過ぎて、わたしたちの中の二十四人（この中にはわたしの息子モロナイもいた）を除くわたしの民をことごとく切り倒した。そこで、レーマン人が彼らの宿営に引き揚げた翌日、生き延びたわたしたちがクモラの丘の頂上から、わたしの民の死んだ者たちを見たところ、わたしが率いて指揮を執っていた一万人が切り倒されているのが見えた。

12 また、息子モロナイが指揮を執っていた一万人も見えた。

13 また見よ、ギドギドーナの一万人が倒れており、ギドギドーナもその中に倒れていた。

14 また、レーマも彼の一万人とともに倒れており、ギルガルも彼の一万人とともに倒れており、リムハも彼の一万人とともに倒れており、ジェニウムも彼の一万人とともに倒れており、クメナイハとモロナイハ、アンテオヌム、シブロム、セム、ヨシもそれぞれの一万人とともに倒れていた。

15 そしてほかにも、十人の者とそれぞれの一万人が剣で倒れていた。まことに、わたしの民は、わたしとともにいた二十四人と、南の地方へ逃げて行った少数の者と、レーマン人のもとへ脱走した少数の者を除いて、全員が倒れていた。そして、彼らの肉と骨と血は、彼らを殺した者の手によってそのまま放置されて地の面にあり、地上で朽ち、また朽ち果てて母なる大地に返るに任された。

16 わたしの心は、わたしの民の殺された者たちのことで苦しみのあまり張り裂けてしまいそうになり、わたしは叫んだ。

17 「おお、麗しい者たちよ、あなたがたはどうして

11 ① 1ニフ 12・19—20、ヒラ 15・17
15 ① アル 9・24

主の道から離れてしまったのか。おお、麗しい者たちよ、あなたがたは両腕を広げて立ってあなたがたを受け入れようとしておられた、あのイエスをどうして拒んだのか。

18 見よ、あなたがたはそのようにしなければ、倒れなかったであろうに。しかし見よ、あなたがたはもう倒れてしまい、わたしはあなたがたを失ったことを嘆き悲しんでいる。

19 おお、麗しい息子と娘よ、父と母よ、夫と妻よ、麗しい者たちよ、あなたがたはどうして倒れたのか。

20 しかし見よ、あなたがたはもう去ってしまい、わたしが悲しんでも、あなたがたを連れ戻すことはできない。

21 あなたがたの死すべき体が不死のものを着て、今朽ちつつあるこれらの体が朽ちない体になる日がもうすぐ来る。そのときあなたがたは、行いに応じて裁かれるために、キリストの裁きの座の前に立たなければならない。そして、もしあなたがたが義にかなっていれば、あなたがたはあなたがたよりも前に世を去った先祖とともに祝福を受けるのである。

22 おお、あなたがたは、この大きな滅亡が及ぶ前に悔い改めておけばよかったものを。しかし見よ、あなたがたはもう去ってしまった。御父は、まことに天の永遠の御父は、あなたがたの状態を御存じであり、御自分の[1]公正と[2]憐れみによってあなたがたを扱われるであろう。」

第 7 章

モルモン、末日のレーマン人に、キリストを信じ、キリストの福音を受け入れて救われるように勧める。『聖書』を信じる者はすべて、『モルモン書』も信じるであろう。紀元約三百八十五年。

1 さて見よ、わたしは命を助けられているこの民の[1]残りの者に、もしも神がわたしの言葉を彼らに伝えてくださるならば、彼らが自分たちの先祖のことについて知ることができるように、少々述べたい。イスラエルの家の残りの者よ、わたしはあなたがたに述べる。わたしが告げる言葉は次のとおりである。

2 あなたがたは、自分がイスラエルの家に属していることを知りなさい。[1]

---

21 ① コリ 15・53−54
22 ① GS 1「正義」
② GS「憐れみ」
第7章
1 ① ヒラ 15・11−13
2 ① アル 10・3

3 あなたがたは、悔い改めなければ救われないことを知りなさい。
4 武器を捨て、もはや血を流すことを喜びとせず、神から命じられるのでなければ、二度と武器を取ってはならないことを知りなさい。
5 先祖について知り、[1]すべての罪と不義を悔い改め、イエス・キリストを[2]信じなければならないことを知りなさい。イエス・キリストは神の御子であり、またイエス・キリストはユダヤ人によって殺され、御父の力によって再びよみがえって墓に対して[3]勝利を得られた。そして、死のとげはイエス・キリストにのまれてしまった。
6 そして、イエス・キリストは死者の[1]復活をもたらされる。したがって、人はよみがえってイエス・キリストの[2]裁きの座の前に立たなければならない。
7 そして、イエス・キリストは世の[1]贖いをもたらされた。そのため、裁きの日にイエス・キリストの前に[2]罪がないと認められる者は、神の王国で神の前に住み、[3]天の聖歌隊とともに、[4]一つの神である御父と御子と聖霊に、[5]絶え間ない賛美の歌を歌うことを許され、決して終わりのない[6]幸福な状態にいることができる。
8 だから、悔い改め、イエスの名によってバプテスマを受け、キリストの[1]福音を手にしなさい。キリストの福音はこの記録だけでなく、ユダヤ人から異邦人に伝わり、異邦人からあなたがたに伝わる記録によってもあなたがたに知らされるであろう。
9 見よ、[1]この記録を書き記しているのは、ユダヤ人から伝わる記録をあなたがたに[2]信じさせるためである。また、あなたがたはそれを信じるならば、これも信じるであろう。そして、もしこれを信じるならば、あなたがたの先祖について知り、また先祖の中で神の力によって行われた驚くべき業についても知るようになるであろう。
10 またあなたがたは、自分がヤコブの子孫の残りの者であり、そのために最初の聖約の民の中に数えられるということも知るようになるであろう。もしあなたがたがキリストを信じて、わたしたちの救い主の[1]模範に従って、救い主がわたしたちに命じられたとおりにまず水でバプテスマを受け、次に火と聖霊によってバプテスマを受けるならば、あなたがたは裁きの日に幸いを得るであろう。アーメン。

---

5 ① 2ニフ3・12 ② GS「信仰」「信じる」 ③ イザ25・8、モサ16・7—8
6 ① GS「復活」 ② GS「イエス・キリスト—裁き」「最後の裁き」
7 ① GS「贖い・贖う」 ② GS「義認・義とされる」 ③ 1ニフ10・21、教義76・62、モセ6・57
8 ① GS「福音」 ② 2ニフ29・4—13 ③ 1ニフ13・38 ④ GS「聖書」 ⑤ GS「モルモン書」 ⑥ GS「喜び」
9 ① 2ニフ2・28 ② 教義20・28、GS「神会」
10 ① 1ニフ13・38—41 ② 2ニフ31・5—9

第8章

レーマン人、ニーファイ人を捜し出して殺す。『モルモン書』は将来神の力によって出る。主の業に対して怒りと争いの言葉を吐く者に宣言された数々の災い。ニーファイ人の記録は、悪事と退廃と背教の時代に出る。紀元約四百年から四百二十一年に至る。

1 見よ、わたしモロナイ[1]は父モルモンの記録[2]を書き上げる。見よ、わたしが書く事柄はわずかであり、それは父から指示されたものである。

2 さて、クモラでの大規模[1]ですさまじい戦いの後、見よ、南方の地方に逃げていたニーファイ人は、レーマン人[2]によって狩り出され、とうとう全員殺されてしまった。

3 わたしの父も彼らに殺された。そして、わたしだけが一人[1]生き残り、わたしの民の滅亡の悲話を書き記すことになった。見よ、わたしの民はもう世を去ってしまったので、わたしは父から命じられたことを果たす。わたしはこの後レーマン人に殺されるかどうか分からない。

4 そこでわたしは、記録を書き記して、地の中に隠そう。そうすれば、わたしはどこへ行こうとかまわない。

5 見よ、父はこの記録を作り、この記録の目的を書いた。そしてまことに、わたしも版[2]に余地があればそれを書きたいが、その余地はない。また、あらがねもない。わたしは孤独である。わたしの父は戦いで殺され、親族も全員殺されてしまった。わたしには友もなく、行く所もない。また、主がわたしをいつまで生かしてくださるか、わたしには分からない。

6 見よ、わたしたちの主、救い主の来臨から四百年[1]が過ぎ去った。

7 また見よ、レーマン人は、わたしの民ニーファイ人を町から町へ、地方から地方へと追い詰めて、とうとうニーファイ人は一人[1]もいなくなった。その滅亡はひどかった。まことに、わたしの民ニーファイ人の滅亡は、ひどく驚くべきものである。

8 そして見よ、それを行われたのは主の手である。また見よ、レーマン人も互いに戦い合っていて[1]、この地の全面が殺人と流血の絶えない有様を見せており、だれも戦争の終わる日を知らない。

9 さて見よ、わたしはもうニーファイ人のことにつ

第8章
1 ①GS「モロナイ（モルモンの息子）」
2 ①GS「版」
3 ①モロ9:22
5 ①モル2:17－18
6 ①教義3:18
7 ①モル6:2－15
8 ①アル45:10
1 ①ニフ12:2－3
1 ①ニフ12:20－23

いて述べない。地の面にいるのはレーマン人と強盗だけで、ほかにはだれもいないからである。

10 イエスの弟子たちのほかに、まことの神を知っている者はだれもいない。イエスの弟子たちは民の悪事がひどくなるまではこの地に住んでいたが、悪事が非常にひどくなったので、主は彼らが民とともにいることをお許しにならなかった。彼らが今この地の面にいるかどうか、だれも知らない。

11 しかし見よ、父とわたしはかつて彼らに会い、彼らはわたしたちを教え導いてくれた。

12 この記録を受け入れ、この中に不完全なところがあるからといって非難したりしない者は、これらのことよりも大いなることを知るであろう。見よ、わたしはモロナイである。できれば、わたしはあなたがたにすべての事柄を知らせたい。

13 見よ、これでこの民について述べるのを終える。わたしはモルモンの息子であり、わたしの父はニーファイの子孫であった。

14 わたしは、主に託してこの記録を隠す者である。この記録の版は、主の命令があるので、金銭上の価値はまったくない。利益を得るためにこの記録の版を所有する者はだれもいないと、主が実際に言っておられるからである。しかし、この版の記録は非常に価値がある。これを明るみに出す者に、主は祝福を授けられるであろう。

15 これを明るみに出す力は、神から与えられるのでなければ、だれも持つことができない。神は、神の栄光にひたすら目を向けながらこれを明るみに出すように、あるいは長い間散らされている昔の主の聖約の民の幸いのためにこれを行うように望んでおられる。

16 この記録を明るみに出す者は幸いである。神の言葉のとおりに、これは暗闇から明るみに出される。まことに、これは地から出され、暗闇から輝き出て、民に知られるようになる。それは神の力によって行われる。

17 もし誤りがあるとすれば、それは人の誤りである。しかし見よ、わたしたちはまったく誤りを見いださない。それでも、神はすべてのことを御存じであるので、非難する者は、地獄の火に投げ込まれる恐れのないように用心しなければならない。

18 「わたしに見せよ。さもなければ、おまえを打つ」

---

9 ① モル 2・8
10 ① 3ニフ 28・7、エテ
12 ニ ① 17、GS 「三人の弟子ファイ人の」
11 ② モル 1・16
11 ① 3ニフ 28・24—26
12 ① 3ニフ 26・6—11
13 ① 3ニフ 5・20
14 ① モロ 10・1—2
14 ② ジョ歴史 1・46
15 ① 教義 4・5
16 ① 2ニフ 3・6—7、
16 ② 11、13—14 イザ 29・18、2ニフ
17 ① 27・29 モル 9・31、33、エテ
17 ② 12・23—28 3ニフ 29・5、エテ
4・8

と言う者は、主から禁じられていることを命じないように気をつけなければならない。

19 それは見よ、軽率に裁く者[1]は同じように軽率に裁かれ、人の報いは当人の行いに応じるものだからである。したがって、打つ者は同じように主から打たれるであろう。

20 見よ、「『人は打ってはならないし、裁いてもならない。裁きはわたしのすることである。報復もわたしのすることである。わたしが仕返しをする』と、主が言われる」と、聖文は述べている。

21 主の業に対して、またイスラエルの家である主の聖約の民に対して、怒りと争いの言葉を吐き、「主の業を絶やそう。主はイスラエルの家に立てた聖約を思い出しはしない」と言う者は、切り倒されて火の中に投げ込まれる恐れがある。

22 主のすべての約束が果たされるまで、主の永遠の目的[1]は続くからである。

23 イザヤ[1]の預言を調べなさい。見よ、わたしはそれを書き記すことはできないが、まことに見よ、あなたがたに言っておく。この地を所有していて、わたしよりも前に世を去った聖徒たちは叫ぶ[2]。まことに、彼らは地から主に叫ぶ。そして、主が生きておられるように確かに、主は彼らと交わした聖約を思い出されるであろう。

24 主は、同胞のためにささげられた聖徒たちの祈り[1]を御存じである。また主は、彼らの信仰も御存じである。彼らは、主の名によって山々[2]を移すことができた。彼らは、主の名によって地を揺り動かすこともできた。また、主の言葉の力によって牢[3]を地に倒した。まことに、主の言葉の力のために、火の燃える炉も彼らを害することができず、猛獣も毒蛇も危害を加えることができなかった。

25 また見よ、彼らの祈り[1]は、将来これらのものを世に出すことを主から許される者のためにもささげられた。

26 だれも、これらのものは出て来ることはないと言ってはならない。主が言われたので、これらのものは必ず出て来るからである。これらのものは主の手によって地[1]から出て来る。だれもそれを妨げることはできない。それは、奇跡[2]がやんでしまったと言われる時代に出て来る。あたかも人が死者の中[3]から語るかのようにそれは出て来る。

---

19 ① JS マタ 7・1–2、3 ニフ 14・1–2、モロ 7・14
22 ① 教義 3・3
23 ① ニフ 20・11、23・3
24 ① 3・19–20、26・16、教義 10・46、ヒラ 10・4、6、② 1 イザ 29・4、2 ニフ 26・36、エノ 1・12–18、モル 9・30、モロ 10・27、② 9 ヤコ 4・6、③ 9 アル 14・27–29
25 ① モル 5・21、③ 9 イザ 29・4、2 ニフ 26・15–16、
26 ① 33 モル 9・15–26、モロ 10・27、② 33 モル 9・30、③ 7 27–29、33–37、2 ニフ 26・15–16、

27 聖徒たちの血が[1]秘密結社と[2]闇の業のことで主に叫んで訴える時代に、それは出て来る。
28 まことに、神の力が否定され、もろもろの教会[1]が汚れたものとなり、教会の者たちが高慢な心で高ぶる時代に、それは出て来る。まことに、教会の指導者たちと教師たちが心を高慢にして、彼らの教会に属する者たちさえねたみの目で見るようになる時代に、それは出て来る。
29 まことに、ほかの国々の火と暴風雨と立ち込める煙のことを[2]伝え聞く時代に、それは現れ出る。
30 またそのとき、様々な地における[1]戦争と戦争のうわさと地震のことも伝え聞くであろう。
31 まことに、地の面にひどい汚れがあり、殺人と強盗と偽りと欺きとみだらな行いとあらゆる忌まわしい行いがある時代に、また、「これを行え。あれを行え。それをしてもかまわない。主は終わりの日に[1]護してくださる」と言う者が多くいる時代に、それは出て来る。しかし、このように言う者は災いである。彼らは[2]苦汁の中におり、[3]罪悪の縄目を受けているからである。
32 まことに、「わたしのところに来なさい。金銭と引き換えにあなたがたの罪は赦される」と言う教会が設けられている時代に、それは出て来る。
33 おお、邪悪でよこしまで強情な民よ、なぜあなたがたは[1]利益を得ようとして自分自身のために教会を設けたのか。なぜあなたがたは神の聖なる言葉を[2]変えて、自分に[3]罰の定めを招くようにしたのか。見よ、神の啓示に頼りなさい。見よ、これらのことがすべて必ず成就する時が、その時代に来るからである。
34 見よ、これらのことがあなたがたの中に起こるその時代に、間もなく必ず出て来るものについて、主は大いなる驚くべきことをわたしに示してくださった。
35 見よ、わたしはあなたがたがここにいるかのように語っているが、あなたがたはまだこの世にいない。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあなたがたを見せてくださったので、わたしはあなたがたが行うことを知っている。
36 わたしは、あなたがたが心を高慢にして[1]歩くことを知っている。心を高慢にして[2]高ぶることをしない者はわずかしかいない。高慢な者は、[3]非常に華やかな衣服を着て、ねたみや争い、悪意、迫害、またあ

27 ①エテ8・22—24、教義
28 ①②GS「秘密結社」
1ニフ14・9—10、2ニフ3・1—7、
29 ①ニフ28・3、32、教義33・4
②45・39—42
1ニフ19・11、教義
30 ①マタ24・6、1ニフ27・2—3
②ヨエ2・28—32、2ニフ15—17
31 ①2ニフ28・21—22
②2ニフ28・8
33 ①GS「偽善売教」
②アル41・11
34 ①GS「罰の定め」
②1ニフ13・26—29
36 ①GS「歩む（神ともに）」
②ヤコ2・13
③アル5・53

らゆる罪悪に染まる。また、あなたがたの教会、ことにすべての教会は、あなたがたの心が高慢なために汚れたものになってしまった。

37 見よ、あなたがたは、貧しい人と乏しい人、病人と苦しんでいる人を愛する以上に、[1]金銭や財産、華やかな衣服を愛し、あなたがたの教会を飾ることを大切にする。

38 おお、腐食するもののために自分自身を売る汚れた者たちよ、偽善者たちよ、教師たちよ、なぜあなたがたは神の聖なる教会を汚したのか。なぜあなたがたは、キリストの名を受けるのを恥じるのか。なぜあなたがたは、無窮の幸福が、決して尽きないあの[2]ふ不幸な状態よりも大きな価値があることを考えないのか。それは世の[3]ほ誉れのためである。

39 なぜあなたがたは、命のないもので自分自身を飾りながら、飢えている人や乏しい人、着る物のない人、病人、苦しんでいる人を見過ごしにし、彼らに注意を払わないのか。

40 まことに、なぜあなたがたは、利益を得るために[1]ひ秘密の忌まわしい行いを企て、やもめを主の前で嘆き悲しませ、みなしごも主の前で嘆き悲しませ、彼らの父と夫の血があなたがたの頭に報復が及ぶよう訴えて、地の中から主に叫ぶようにさせるのか。

41 見よ、報復の剣があなたがたに迫っている。主はもはや聖徒たちの嘆願をそのままにしておかれないので、主があなたがたに彼らの血のために[1]報復される時がすぐに来るであろう。

第 9 章

モロナイ、キリストを信じていない者に悔い改めるように呼びかける。忠実な者に数々の啓示を与え、数々の賜物としるしを注いでくださる奇跡の神について宣言する。不信仰のために奇跡はやむ。信じる者にはしるしが伴う。賢くあって戒めを守るように、人々に勧告が与えられる。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 さて、わたしは、キリストを信じていない者についても語ろう。

2 見よ、あなたがたは刑罰の日に信じるのであろうか。主が来られる時に、すなわち、[1]だ大地が巻き物のように巻かれて、諸元素が酷熱に[2]と溶かされるあの[3]おお大

---

37 ① 2ニフ28・9−16
38 ① 1・8、ロマ1・16、2テモ1・8、1ニフ8・25−28
② アルモサ46・21
③ 1ニフ13・9
40 ① GS「秘密結社」
③ 1ニフ22・14
41 ① 第9章
2 ① モル5・23、教義63・20−21、GS「世−世の終わり」
② アモ9・13、3ニフ26・3
③ マラ4・5、3ニフ28・31

いなる日に、まことに、あなたがたが神の小羊の前に立たされるあの大いなる日に、あなたがたは神はいないと言うであろうか。

3 そのとき、まだあなたがたはキリストを否定するであろうか。あるいは、あなたがたは神の小羊を見るのに堪えられるであろうか。あなたがたは、自分に罪の意識のあるままで、神の小羊とともに住めると思うか。あなたがたは、神の小羊の律法を踏みにじったという罪の意識に苦しんでいながら、あの聖なる御方とともに幸せに暮らせると思うのか。

4 見よ、あなたがたに言うが、聖なる公正な神の前に自分は汚れているという意識のあるままで、神とともに住むときの悲惨は、地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう。

5 見よ、あなたがたが、自分が神の前で裸であるのを見せられ、また神の栄光とイエス・キリストの神聖さを見せられるとき、あなたがたのうえに消すことのできない火の炎が燃え盛ることであろう。

6 おお、だから、信仰のない者たちよ、主に立ち返りなさい。小羊の血によって清められて、あの大いなる終わりの日に染みがなく、清く、美しく、潔白であると認められるように、イエスの名によって熱烈に御父に叫び求めなさい。

7 さらに、神の啓示を否定して、啓示はやんでしまった、今は啓示も、預言も、賜物も、癒しも、異言で語ることも、異言の解釈もないと言うあなたがたにわたしは告げる。

8 見よ、あなたがたに言うが、これらのことを否定する者は、キリストの福音を知らない者、まことに、聖文を読んだことのない者である。もし読んだことがあれば、聖文を理解していない。

9 神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であり、また神には変化も変化の兆しもないということを読んでいないのか。

10 さて、もしあなたがたが変わることのある神や、変わる兆しのある神を想像しているならば、あなたがたは奇跡の神ではない神を想像しているのである。

11 しかし見よ、わたしはあなたがたに奇跡の神、すなわちアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神について明らかにしよう。奇跡の神は、天地とその中

---

4 ① 1 GS「地獄」
② 2 GS「罰の定め」
5 ① 1 ニフ 9・14
② 1 GS「不信仰」
6 ① 1 エゼ 18・23、32、教義
② 2
9 8・47
③ 3 GS「神の小羊」
④ 4 GS「清さ」
7 ① 1 ニフ 29・6—7
② 2 1コリ 12・7—10、箇条 1・7
8 ① 1 GS「福音」
② 2 マタ 22・29、ヘブ 13・8、1ニフ 10・18—19、アル 7・20、モロ 8・18、教義 20・12

にある万物を創造されたあの神[1]である。
12 見よ、神はアダムを造られた。そして、アダムによって人の堕落[2]が生じ、人の堕落のためにイエス・キリスト、すなわち御父であり御子である御方が来られた。そして、イエス・キリストによって人の贖いがもたらされた。
13 そして、イエス・キリストにより人にもたらされた贖いのおかげで、人は主の前に連れ戻される。まことに、これがすべての人の贖われる方法である。キリストの死は復活[1]をもたらし、復活は無窮の眠り[2]からの贖いをもたらし、すべての人は、ラッパが鳴るときに、神の力によってその眠りから起こされる。そして人は、小さな者も大いなる者も出て来て、すべての人が肉体の死であるこの永遠の死の縄目[3]から贖われ、解き放されて、キリストの法廷に立つ。
14 次いで、聖者の裁き[1]が彼らに下る。それから、汚れ[2]ている者は汚れているままになり、義にかなった者は義にかなった状態にとどまり、幸せな者は幸せなままになり、不幸な者は不幸なままになる時が来る。
15 さて、おお、奇跡を行え[1]ない神を心に描いてきたすべての人よ、わたしはあなたがたに尋ねたい。わたしが述べてきたこれらのことはすべて起こったか。終わりはもう来たか。見よ、まだであると、あなたがたに答えよう。また、神は奇跡の神であることをやめてはおられない。
16 見よ、神が行ってこられたことは、わたしたちの目に驚くべきものではないだろうか。また、だれが神の驚くべき業[1]を悟れるであろうか。
17 神[1]の言葉によって天と地があること、また神の言葉の力によって、人が地のちりから[2]造られたことを、奇跡ではないと言う者はだれであろうか。神の言葉の力によって、奇跡が行われてこなかったであろうか。
18 イエス・キリストが多くの偉大な奇跡[1]を行われなかったと言う者は、だれであろうか。使徒たちの手によって行われた大きな奇跡もたくさんあった。
19 その当時に数々の奇跡[1]が行われたのであれば、どうして神は奇跡の神であることをやめられたのであろうか。それでいて、変わらない御方であると言えるであろうか。見よ、あなたがたに言うが、神は変わってはおられない。もし変わっておられるとすれ

11 ①創世1・1、モサ4・2、教義76・20–24、GS「イエス・キリスト」
12 ①モサ3・26　②GS「堕落（アダムとエバの）」
13 ①GS「贖い・贖う」　②ヒラ14・15–18　③教義43・18
14 ①教義138・16　②GS「最後の裁き」　③アル7・21、教義88・25
15 ①35モロ7・35–37、教義8、GS「奇跡」
16 ①35詩篇40・5、教義76・114
17 ①モセ1・3–5　②ヤコ4・9　③創世2・7、モサ2・25
18 ①GS「創造・創造する」
19 ①ヨハ6・14　②教義63・7–10

ば、神は神であることをやめられたのであろう。しかし、神は神であることをやめてはおられず、今も奇跡の神であられる。

20 神が人の子らの中で奇跡を行うのをやめられるのは、彼らが不信仰に陥り、正しい道から離れ、[2]頼るべき神を知らないためである。

21 見よ、あなたがたに言うが、何も疑わないでキリストを信じる者には、キリストの名によって御父に求めるものは[1]何でも与えられるであろう。この約束はすべての人に、すなわち地の果てまで及ぶものである。

22 見よ、神の御子イエス・キリストは、群衆の聞いている所で、この世にとどまることになっていた御自分の弟子たちと、ほかのすべての弟子たちに次のように言われた。「[1]全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

23 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、信じない者は[1]罰の定めを受ける。

24 信じる者には次のようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名によって[2]悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、蛇を取り上げるであろう。また彼らは、毒を飲んでも害を受けない。彼らが病人に手を置けば、病人は快復する。

25 何も疑わないでわたしの名を信じる者に、わたしは自分の言葉が確かであることを証明する。[1]地の果てに至るまで、そのとおりにする。」

26 さて見よ、だれが主の業に立ち向かえるであろうか。[1]だれが主の言われたことを否定できるであろうか。だれが主の全能の力に反抗して立てるであろうか。主の業を侮る者がだれかいるであろうか。キリストの子らを侮る者が、だれかいるであろうか。見よ、主の業を侮るすべての者よ、あなたがたは怪しみ、そして滅びるであろう。

27 おお、だから、侮ってはならない。怪しんではならない。主の言葉に聞き従いなさい。そして、あなたがたが必要としているものは何でも、イエスの名によって御父に求めなさい。疑ってはならない。信じなさい。昔のようになり、[1]心を尽くして主のもとに来て、主の前に恐れおののいて、自分の救いを[3]達成しなさい。

28 試しの生涯にあって[1]賢くありなさい。あらゆる汚れを取り除きなさい。求めるものを自分の[2]欲望のた

---

20 ① 士師6・11–13、エテ12・12–18、モロ7・35–37 ② GS「信頼」
21 ① マタ21・22、3ニフ
22 ① 18・20 マコ16・15–16、GS「伝道活動」
23 ① GS「罰の定め」 マコ16・17–18、GS「しるし」
24 ① ② ③ 使徒16・16–18 GS「病人への癒しの祝福」
25 ① GS「証」「啓示」 26 ① 3ニフ29・4–7 ② 箴言13・13
27 ① ヨシ22・5、教義64・22、34、GS「心」 ② モロ10・30–32 ③ ピリ2・12
28 ① ヤコ6・12 ② GS「欲望」

めに無益なものにせず、むしろどんな誘惑にも負けないで、まことの生ける神に仕えようという、確固とした決意をもって求めなさい。

29 あなたがたは、ふさわしくないままでバプテスマを受けることのないようにしなさい。ふさわしくないままでキリストの聖餐を受けないようにしなさい。むしろあなたがたは、ふさわしい状態ですべてのことを行い、しかも、生ける神の御子イエス・キリストの名によって行うようにしなさい。このように行い、最後まで堪え忍ぶならば、あなたがたは決して追い出されることはないであろう。

30 見よ、わたしは今、死者の中から語っているかのようにあなたがたに述べている。わたしはあなたがたが将来、わたしの言葉を手に入れることを知っているからである。

31 不完全なところがあるからということで、わたしを非難してはならない。わたしの父をも、不完全なところがあるからということで非難してはならないし、父よりも前に書き記してきた人々も、非難してはならない。むしろこれまでのわたしたちよりも、あなたがたがもっと賢くなれるようにと、わたしたちの不完全なところをあなたがたに明らかにしてくださった神に、感謝しなさい。

32 さて見よ、わたしたちは、わたしたちの中で改良エジプト文字と呼ばれている文字で、わたしたちの知っていることに従ってこの記録を書いてきた。この文字は、わたしたちに代々伝えられ、わたしたちの言葉の使い方に応じて変えられたものである。

33 もしわたしたちの版が十分に大きかったならば、わたしたちはヘブライ語で書き記したであろう。しかし、ヘブライ語もわたしたちによって変えられてきた。もしわたしたちがヘブライ語で書き記せたならば、見よ、わたしたちの記録は不完全なところがまったくなかったであろう。

34 しかし主は、わたしたちが書き記してきたことを御存じであり、またわたしたちの言語を知っている民はほかにないということも、御存じである。そして、わたしたちの言語を知っている民はほかにないので、主はわたしたちの言語を翻訳する手段を備えられた。

35 また、これらのことを書き記したのは、不信仰に陥った同胞の血が、わたしたちの衣に降りかかるの

---

28 ① アル 5・13
29 ① GS「バプテスマ資格」
② 1コリ 11・27—30、ニフ 3・18—32
③ GS「ふさわしさ」
30 ① モル 8・26、モロ 10・3
31 ① 27 モル 8・17、エテ 12・22—28、35
32 ① 1ニフ 1・2、モサ 1・4
34 ① モサ 8・13—18、エテ 3・23、28、教義 17・1
35 ① 2ニフ 26・15

を避けるためである。

36 見よ、わたしたちが同胞について望んできたこれらのこと、まことに、彼らが再びキリストについて知ることができるようにすることは、この地に住んでいたすべての聖徒たちの祈りにかなっている。

37 主イエス・キリストが、信仰に応じて彼らの祈りを聞き届けてくださるように。また父なる神が、イスラエルの家と交わされた聖約を思い起こしてくださるように。そして、父なる神が彼らを、イエス・キリストの名を信じる信仰によって、とこしえに祝福してくださるように。アーメン。

36 ① モル 8・24–26、教義 10・46–49

エテル書

モーサヤ王の時代にリムハイの民が発見した、二十四枚の版から取ったヤレド人の記録。

第1章

モロナイ、エテルの書いた記録を短くまとめる。エテルの系図。ヤレド人の言語、バベルの塔のある地で乱されることを免れる。主はヤレド人をえり抜きの地に導き、大いなる国民とすることを約束される。

1 わたしモロナイは、この北の地の面で主の手によって滅ぼされた、昔のあの民について話をすることにする。
2 わたしは、リムハイの民が発見した二十四枚の版から取ってわたしの記録とする。その版はエテル書と呼ばれている。
3 その版の記録の最初の部分には、世界の創造とアダムが造られたこと、そのときから大塔に至るまでの話、それに大塔のときまでに人の子らの中に起こったことが載っているが、この部分はユダヤ人も持っていると思うので、
4 わたしは、アダムの時代から大塔のときまでに起こったそれらの事柄については書き記さない。それらの事柄はその版に載っているので、その版を見つける者は、すべての内容を手に入れる力を持つであろう。
5 しかし見よ、わたしが記すのはすべての話ではない。塔のときから彼らが滅びるときまで、話の一部のみを記す。
6 わたしが記す話は次のとおりである。この記録を書き記したのはエテルであって、コリアントルの子孫であった。
7 コリアントルはモロンの息子であり、
8 モロンはイーサムの息子であり、
9 イーサムはエーハの息子であり、
10 エーハはセツの息子であり、
11 セツはシブロンの息子であり、
12 シブロンはコムの息子であり、
13 コムはコリアンタムの息子であり、

エテル書
第1章
1 ①Ⓢ「モロナイ（モルモンの息子）」 ②モル5・23、教義87・6–7
2 ①アル37・21、エテ15・33
3 ①オム1・22、モサ28・17、ヒラ6・28
4 ①創世1–10章と同じ時代のこと
6 ①エテ12・2、15・34

14 コリアンタムはアムニガダの息子であり、
15 アムニガダはアロンの息子であり、
16 アロンはヘテの子孫であり、ヘテはヒアルサムの
息子であり、
17 ヒアルサムはリブの息子であり、
18 リブはキシの息子であり、
19 キシはコロムの息子であり、
20 コロムはレビの息子であり、
21 レビはキムの息子であり、
22 キムはモリアントンの息子であり、
23 モリアントンはリプレーキシの子孫であり、
24 リプレーキシはシェズの息子であり、
25 シェズはヘテの息子であり、
26 ヘテはコムの息子であり、
27 コムはコリアンタムの息子であり、
28 コリアンタムはイーマーの息子であり、
29 イーマーはオメルの息子であり、
30 オメルはシュールの息子であり、
31 シュールはキブの息子であり、
32 キブはオライハの息子であり、オライハはヤレド
の息子であった。

33 ヤレド[1]は彼の一人の兄弟と彼らの家族、および何
人かのほかの人々と彼らの家族と一緒に、大塔のある
所から出て来た。それは、主が民の言語を乱し、
また激しく怒って民を地の全面に散らすと誓われた
ときのことである。そして、主の言葉のとおりに民
は散らされた。
34 ヤレドの兄弟[1]は体の大きな強い人であり、主から
大いに恵みを受けていた人であったので、彼の兄弟
ヤレドは彼に言った。「主がわたしたちの言語を乱
して、わたしたちが自分たちの言葉を理解できなく
なることのないように、主に祈り願ってほしい。」
35 そこで、ヤレドの兄弟が主に叫び求めたところ、
主はヤレドを哀れんで、ヤレドの言語を乱されなか
った。そのため、ヤレドと彼の兄弟には言語の混乱
はなかった。
36 その後、ヤレドは彼の兄弟に言った。「もう一度
主に叫び求めてほしい。そうすれば、主はわたした
ちの友である人々から怒りを解いて、彼らの言語を
乱されないかもしれない。」
37 そこでヤレドの兄弟が主に叫び求めたところ、主
は彼らの友人たちとその家族も哀れんで、彼らの言

33 ① GS「ヤレド」
34 ① GS「ヤレドの兄弟」
② 創世11・6–9
③ モサ28・17

語も乱されなかった。

38 そして、ヤレドは再び彼の兄弟に言った。「主がわたしたちをこの地から追い出すおつもりかどうか、行って主に尋ねてほしい。そして、もし主がわたしたちをこの地から追い出すおつもりであれば、わたしたちはどこに行くのか、主に祈って尋ねてもらいたい。主は、全地の中でえり抜きの地に、わたしたちを連れ出してくださるかもしれない。もしそうであれば、わたしたちはそこを受け継ぎとして頂けるように、主に忠実であろうではないか。[1]」

39 そこでヤレドの兄弟は、ヤレドの口を通して述べられたとおりに主に叫び求めた。

40 そこで主は、ヤレドの兄弟の祈りを聞き、彼を哀れんで言われた。

41 「行って、あなたの家畜の群れを全種類雄も雌も集め、また地の種も全種類にわたって集めなさい。また、あなたの家族[1]と、あなたの兄弟ヤレドと彼の家族、あなたの友人[2]たちと彼らの家族、ヤレドの友人たちと彼らの家族を集めなさい。

42 そして、あなたはこれを終えたら、彼らを率いて北方にある谷に下って[1]行きなさい。そこでわたしはあなたに会おう。そして、わたしはあなたの前[2]を行き、地のあらゆる土地に勝ったえり抜きの土地[3]へとあなたを導こう。

43 そしてわたしは、あなたとあなたの子孫をそこで祝福し、またあなたの子孫と、あなたの兄弟の子孫と、あなたがたとともに行く者たちの子孫から、わたしのために一つの大いなる国民を起こそう。わたしがあなたがたの子孫からわたしのために起こす国民よりも大いなる国民は、地の全面に一つもないであろう。わたしがあなたにこのように行うのは、あなたがこのように長い間わたしに叫び求めてきたからである。」

第 2 章

ヤレド人、約束の地へ旅立つ用意をする。約束の地はえり抜きの地であり、この地の人々はキリストに仕えなければ一掃される。主は三時間ヤレドの兄弟に語られる。ヤレド人、数隻の船を造る。主はヤレドの兄弟に、どのようにして船内を明るくすることを望むかお尋ねになる。

---

38 ① GS「約束の地」
41 ① エテ 6・20
② エテ 6・16
42 ① 1 ニフ 2・1–2、アブ 2・3
② 教義 84・88
③ 1 ニフ 13・30

1 さて、ヤレドと彼の兄弟と、彼らの家族と、ヤレドの友人たちと、ヤレドの兄弟の友人たちと、友人たちの家族は、彼らの集めたあらゆる家畜の群れを雄も雌も連れて、北方にある谷に下って行った。（その谷の名は、力ある狩人にちなんで名付けられ、ニムロデ[1]といった。）

2 彼らはまた、わなを仕掛けて空の鳥を捕らえた。また、器を用意して水の魚を運んだ。

3 また、彼らはデゼレトも運んだ。デゼレトとは、蜜蜂という意味である。このようにして、彼らは幾つかの蜂の群れを運び、また地の面にあるあらゆるもの、あらゆる種も携えて行った。

4 さて、彼らがニムロデの谷に下って行くと、主が降って来て、ヤレドの兄弟と話された。しかし、主は雲[1]の中におられたので、ヤレドの兄弟には主が見えなかった。

5 そこで主は彼らに、荒れ野の中へ、すなわち、これまで人が決して住んだことのない地方へ行くように命じられた。そして、主は彼らの前を行かれた。また、主は雲[1]の中に立って彼らと話し、彼らの旅をする方向について指示を与えられた。

6 そこで、彼らは荒れ野を旅し、数隻の船を造ってそれで多くの水を渡り、絶えず主の手に導かれて行った。

7 主は、彼らが海を越えた荒れ野にとどまることを許さず、彼らが約束[1]の地まで行くことを望まれた。約束の地とは、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地で、主なる神が義にかなった民のために残しておかれた所である。

8 また主は激しく怒って、この約束の地を所有する者はだれでもそのときから後とこしえに、主に、すなわちまことの唯一の神に仕えなければならず、さもなければ神の限りない怒りが彼らに下るときに彼らは一掃[2]されると、ヤレドの兄弟に誓っておられた。

9 さて、わたしたちは、約束の地であるこの地について神の定めを知ることができる。この地を所有する国民はどの国民も神に仕えなければならない。さもなければ、神の限りない怒りが彼らに下るときに彼らは一掃される。また、彼らの罪悪が熟したときに、神の限りない怒りが彼らに下るのである。

10 見よ、まことにこの地が、ほかのあらゆる地に勝

第2章
1 ①創世10・8
1 ①民数11・25、教義34・4
7 ①1―9、ジー歴史1・68
5 ①出エ13・21―22
7 ①1ニフ4・14、GS
8 ①エテ13・2
8 ②ジェロ1・3、10、アル37・28、エテ9・20

ったえり抜きの地だからである。したがって、この地を所有する者は神に仕えなければならない。さもなければ一掃される。これは神の永遠の定めである。しかし、この地の子らの中に罪悪が満ちるまで、彼らが[2]一掃されることはない。

11 おお、異邦人[1]よ、この記録をあなたがたに伝えるのは、あなたがたに神の定めを知らせるためである。また、あなたがたが悔い改めて、罪悪の満ちるまであなたがたの罪悪を続けることのないように、またこれまで、この地に住む民が自分のうえに神の限りない怒りを招いてきたようなことを、あなたがたもすることのないようにさせるためである。

12 見よ、この地はえり抜きの地であり、この地を所有する民はどの国民も、この地の神に仕えさえすれば、奴隷の状態[2]にも囚われの身にもなることなく、天下のほかのどのような国民からも支配[1]を受けない。この地の神とはイエス・キリストであり、わたしたちが書き記してきたことによって、明らかにされた御方である。

13 さて、わたしは自分の記録を続けよう。見よ、主はヤレドと彼の同行者たちを、陸地と陸地を分けている大海まで導かれた。そこで彼らは、海に着くと天幕を張り、その場所をモリアンカマーと名付けた。そして、彼らは天幕に住んだ。彼らは四年間、その海岸で天幕に住んだ。

14 さて、四年の終わりに、主は再びヤレドの兄弟を訪れ、雲の中に立って彼と話された。そして、主は三時間ヤレドの兄弟と話し、彼が主の名を呼ぶ[1]ことを思い起こさなかったので、彼を懲らしめられた。[2]

15 そこでヤレドの兄弟は、自分が行った悪を悔い改め、自分とともにいた同行者たちのために主の名を呼んだ。すると、主は彼に言われた。「わたしはあなたを赦し、またあなたの同行者たちの罪を赦そう。あなたはもう罪を犯してはならない。あなたがたは覚えておきなさい。わたしの御霊[1]はいつでも人を励[2]ますわけではない。したがってあなたがたは、罪の熟するまで罪を犯すならば、主の前から絶たれるであろう。これが、受け継ぎとしてあなたがたに与える土地についてのわたしの考えである。なぜならば、この地は、ほかのあらゆる地に勝ったえり抜き[3]の地だからである。」

16 また主は、「仕事に取りかかり、あなたがたが前に

---

10 ① 2ニフ28・16
11 ① 1ニフ17・37—38
12 ① 2ニフ28・32
12 ② イザ60・12「自由」
14 ① GS「祈り」
14 ② GS「懲らしめ」
15 ① エテ15・19
15 ② 創世6・3、2ニフ26・11、モル5・16
③ エテ9・20

造った船に倣って船を造りなさい」と言われた。そこで、ヤレドの兄弟と彼の同行者たちは仕事に取りかかり、主の指示のとおりに、彼らがかつて造った方法で数隻の船を造った。その船は小さく、水の上に軽く浮き、まるで水の上に軽く浮いた鳥のようであった。

17 またその船は、透き間[1]がなく非常によく造られており、水の漏れないことは皿のようであった。その船底は皿のように透き間がなく、船腹も皿のように透き間がなく、船のへさきとともはとがっており、船の屋根も皿のように透き間がなく、その船の長さは一本の木の長さであった。また、船の入り口は、閉じると皿のように透き間がなかった。

18 さて、ヤレドの兄弟は主に祈って言った。「おお、主よ、わたしはあなたから命じられた務めを果たし、あなたから指示されたとおりに船を造りました。

19 まことに、おお、主よ、船の中には光がありません。わたしたちはどこへ向かえばよいのでしょうか。また、わたしたちは死んでしまうことでしょう。船の中にある空気だけでは呼吸ができなくなるからです。それゆえ、わたしたちは死んでしまうでしょう。」

20 すると、主はヤレドの兄弟に言われた。「見よ、屋根と船底に一つずつ穴を作りなさい。そして、空気で苦しむようになったら、その穴の栓を抜いて空気を入れなさい。もし水が入って来るようであれば、水があふれて死ぬことのないように、見よ、その穴をふさぎなさい。」

21 そこでヤレドの兄弟は、主から命じられたとおりにした。

22 そして、彼は再び主に祈って言った。「おお、主よ、わたしはあなたから命じられたように行いました。そして、わたしの民のために船を準備しました。しかし、船の中には光がありません。まことに、おお、主よ、あなたはわたしたちに、暗闇の中でこの大海を渡らせようとなさるおつもりですか。」

23 主はヤレドの兄弟に言われた。「あなたがたは、船の中に光があるようにするために、わたしに何をしてもらいたいのか。窓はばらばらに砕けるので、見よ、窓を付けることはできない。また、火を携えることもない。火の光を使って旅をすることはないからである。

---

17 ① 1 ニフ 17・50–51
16 ① エテ 6・7

24見よ、あなたがたは、海の中の鯨のようになるであろう。山のような波があなたがたに打ちつける。しかし、わたしは再び海の深みからあなたがたを連れ出そう。[1]風はわたしの口から吹き出し、また[2]雨と多くの水もわたしは送り出した。
25見よ、わたしはこれらのものに対してあなたがたを備えさせる。わたしが海の波と、吹きつける風と、寄せ来る多くの水に対してあなたがたを備えさせなければ、あなたがたはこの大いなる深みを渡ることができないからである。したがって、あなたがたが海の深みにのまれるときに光があるように、あなたがたはわたしに何をしてもらいたいか。」

第 3 章

ヤレドの兄弟、主が十六個の石に触れられたときに主の指を見る。キリスト、ヤレドの兄弟に御自分の霊体をお見せになる。完全な知識を持つ者は、幕の内側を見ることを禁じられない。ヤレド人の記録を明るみに出すために解訳器が準備される。

1さて（このときに準備された船の数は八隻であった）、ヤレドの兄弟は、非常に高いために彼らがシーレム山と名付けた山に行き、一つの岩から十六個の小さな石を溶かし出した。その石は白く、透き通っており、透明なガラスのようであった。そして、彼はそれらの石を両手に持って山の頂上に登り、再び主に祈って言った。
2「おお、主よ、あなたは、わたしたちが必ず水の深みに取り囲まれると言われました。まことに、おお、主よ、あなたの僕があなたの御前にあって弱いからということで、あなたの僕をお怒りにならないでください。わたしたちはあなたが聖なる御方であり、天に住んでおられること、そしてわたしたちがあなたの御前に取るに足りない者であることを存じています。[1]堕落のために、わたしたちの[2]性質は絶えず悪くなっています。にもかかわらず、おお、主よ、あなたはわたしたちに戒めを与えられ、わたしたちの望みに応じてあなたから得られるようにあなたに請い願わなければならないと言われました。
3まことに、おお、主よ、あなたはわたしたちの罪悪のためにわたしたちを打ち、わたしたちを追い出されました。そして、わたしたちはこれまで何年間

24① エテ6・5
② 詩篇148・8
第3章
2① GS「堕落（アダムとエバの）」
② モサ3・19

も荒れ野で暮らしてきました。それでも、あなたは
わたしたちに憐れみをかけられました。おお、主よ、
わたしたちを哀れと思い、あなたのこの民からあな
たの怒りを遠ざけ、この民が暗闇の中でこの荒れ狂
う深みを越えて行くことのないようにしてくださ
い。わたしが岩から溶かし出したこれらのものを御
覧ください。
4 おお、主よ、わたしはあなたが一切の権威をお持
ちであり、あなたが人のために望まれることは何で
もおできになることを存じています。ですから、お
お、主よ、これらの石にあなたの指で触れて、これ
らの石が暗闇の中で光を放つものとなるようにして
ください。そうすれば、これらの石はわたしたちが
準備した船の中でわたしたちのために光を放ち、わ
たしたちは海を渡る間、光を得ることができるでし
よう。
5 まことに、おお、主よ、あなたにはこれがおでき
になります。わたしたちはあなたが大いなる力を示
されることを存じています。その力は人々の理解で
は小さく見えますが、実は大いなるものです。」
6 そして、ヤレドの兄弟がこれらの言葉を述べ終え
ると、見よ、主は手を差し伸べて、指で一つ一つ石
に触れられた。すると、ヤレドの兄弟の目から幕が
取り除かれ、彼は主の指を見た。それは人の指のよ
うで、血肉の指に似ていた。ところが、ヤレドの兄
弟は恐怖に打たれ主の前に倒れた。
7 主はヤレドの兄弟が地に倒れたのを見て、彼に言
われた。「立ち上がりなさい。なぜあなたは倒れたの
か。」
8 そこで彼は主に答えた。「わたしは主の指を見て、
主に打たれるのではないかと恐れました。主が血肉
をお持ちであることを知らなかったからです。」
9 すると主は彼に言われた。「あなたは信仰がある
ので、わたしが将来血肉を受けるのを見たのであ
る。これまでにあなたのような深い信仰をもって、
わたしの前に来た者は一人もいない。もしそうでな
ければ、あなたはわたしの指を見ることができなか
ったであろう。あなたはこれ以外に何かを見たか。」
10 そこで彼は答えた。「いいえ。主よ、わたしに御
自身を現してください。」
11 すると主は彼に言われた。「あなたはわたしが告
げる言葉を信じるか。」

---

3 ① エテ1・34−43
4 ① GS「力」
5 ① イザ55・8−9、1ニフ16・29
6 ① GS「イエス・キリスト」
9 ① エテ12・19、21
② GS「イエス・キリスト」「死すべき状態」「肉」

12 そこで、彼は答えた。「はい。主よ、わたしはあなたが真実を告げられることを存じています。あなたは真理の神であり、[1]偽りを言われることはありません。」

13 彼がこれらの言葉を述べ終えると、見よ、主は彼に御自身を[1]現して言われた。「あなたはこれらのことを知っているので、[2]堕落から贖われ、わたしの前に連れ戻されている。そこで、わたしはあなたにわたし自身を[3]現す。

14 見よ、わたしは、自分の民を[1]贖うために世の初めから備えられた者である。わたしはイエス・キリストである。わたしは[2]父であり、子である。わたしによって全[3]人類は命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。そして、これらの者はわたしの[4]息子となり、娘となる。

15 わたしは、これまでわたしの造った者に一度もわたし自身を現したことはない。あなたほど深くわたしを[1]信じた者がいなかったからである。あなたは、あなたがたがわたし自身の[2]形に造られていることが分かったか。まことに、すべての人は初めにわたし自身の形に造られたのである。

16 見よ、あなたが今見ているこの体は、わたしの[1]霊の体である。わたしは自分の霊の体に倣って人を造った。わたしは今、霊の状態であなたに現れているように、将来肉にあってわたしの民に現れる。」

17 さて、わたしモロナイは、書き記されているこれらのことについて、すべてを記すことはできないと前に述べたので、次のことを言えばわたしにとって十分である。すなわちイエスは、ニーファイ人に御自身を[1]現されたときと同じように、同じ体の形で、霊の状態でこの人に御自身を現された。

18 またイエスは、ニーファイ人を教え導かれたように、彼をも教え導かれた。これはすべて、主がこれまでこの人に示された多くの大いなる業によって、御自分が神であられることを彼に知らせるためであった。

19 この人は知識があったので、幕の内側を[1]見るのを禁じられなかった。そして彼は、イエスの指を見て、見たときに恐れて倒れてしまった。それが主の指であることを知ったからである。彼が得ているものは、もはや信仰ではなかった。なぜなら、彼は何の疑いもなく知ったからである。

---

12 ① ヘブ 6・18
13 ① 教義 67・10−11
② エノ 1・6−8
③ GS「イエス・キリスト」前世におけるキリスト」
14 ① GS「贖い主」「贖い」
② モサ 15・1−4
③ モサ 16・9
④ GS「神の息子、娘」
15 ① GS「信じる」
② 創世 1・26−27、モサ 7・27、教義 20・17−18
16 ① GS「霊」
17 ① ニフ 11・8−10
19 ① GS「幕」

20 したがって、彼は神についてのこの完全な知識を
得たので、幕の内側を見るのを禁じられなかった。
それゆえ彼は、イエスにまみえ、イエスから教えと
導きを授けられたのであった。
21 さて、主はヤレドの兄弟に言われた。「見よ、わた
しが肉にあってわたしの名に栄光を受ける時が来る
まで、あなたは見聞きしたこれらのことを、世の
人々に公にしてはならない。あなたは見聞きしたこ
とを心に留めておき、だれにもそれを知らせてはな
らない。
22 見よ、あなたはわたしのもとに来るとき、これら
のことを書き記し、それを封じて、だれもこれらの
ことを解釈できないようにしなさい。あなたは人々
が読めない言語でこれらのことを書き記すので、だ
れも読むことができない。
23 見よ、これらの二つの石をあなたに与えよう。あ
なたは書き記すこととともに、これらの石も封じな
さい。
24 見よ、あなたが書き記す言語はわたしがすでに乱
したので、わたしは自分がふさわしいと思うとき
に、あなたが書き記すこれらのことを、これらの石
によって人々の目に明らかにさせよう。」
25 主はこれらの御言葉を語ると、かつてこの世にい
た地のすべての民と、これからこの世に来るすべて
の民をヤレドの兄弟にお見せになった。また主は彼
らを、地の果てに至るまで彼に見せずにはおかれな
かった。
26 主は以前に何度か、もし自分を信じるならばあら
ゆるものを見せることができる、必ず見せると、彼
に言っておられた。そこで主は、彼に何事も見せず
にはおかれなかった。彼は、主があらゆるものを自
分に見せることがおできになることを、知っていた
からである。
27 主は彼に言われた。「これらのことを書き記し
て封じなさい。わたしは自分がふさわしいと思うと
きに、これらのことを人の子らに知らせよう。」
28 そして主は彼に、彼の受け取った二つの石も封じ
て、主がこれらのことを人の子らに示されるときま
で、これを示してはならないと命じられた。

第 4 章

モロナイ、ヤレドの兄弟の記録を封じるように命じ

20 ① エテ 12・19−21
21 ① エテ 4・1
23 ① GS「ウリムとトンミム」
25 ① モセ 1・8
26 ② エテ 3・11−13
③ GS「信じる」
27 ① エテ 4・4
28 ① 2ニフ 27・6−8
教義 17・1

られる。その記録は、人々がヤレドの兄弟のような信仰を持つまで明らかにされない。キリスト、御自分の言葉と弟子たちの言葉を信じるように人々に命じられる。人々は、悔い改めて福音を信じることによって救いを得るように命じられる。

1 主はヤレドの兄弟に、主の前を去って山を下り、見たことを書き記すように命じられた。しかし、書き記す内容は、主が十字架に上げられる後まで、人の子らに明らかにするのを禁じられた。このためにモーサヤ王は、キリストが御自分の民に御自身を現される後まで、その記録が世の人々に明らかにされることのないように保存したのであった。

2 そしてキリストは、実際に御自分の民に御自身を現された後、それを明らかにするようにと命じられたのである。

3 その後、彼らは皆不信仰に陥り、今はレーマン人のほかにはだれもいない。そして、レーマン人もキリストの福音を拒んだので、わたしはその記録を再び地の中に隠すように命じられている。

4 見よ、わたしは、ヤレドの兄弟が見たとおりのことをこの版に書き記した。ヤレドの兄弟に明らかにされたこと以上に大いなることは、いまだかつて明らかにされたことがない。

5 そこで主はわたしに、それらのことを書き記すように命じられた。そして、わたしはそれを書き記した。すると、主はわたしに、それを封じるように命じられた。また、主がその解訳も封じるようにと命じられたので、わたしは主の命じられたとおりに解訳器も封じた。

6 主がわたしに、「異邦人が彼らの罪悪を悔い改めて、わたしの前に清くなる日まで、これらのものは異邦人に伝わることがないであろう」と言われたからである。

7 また、主は言われる。「彼らがわたしによって聖い者となるために、ヤレドの兄弟のようにわたしを信じる日に、わたしはヤレドの兄弟が見たことを彼らに示し、わたしが啓示したことをすべて彼らに明らかにしよう」と、神の御子であり、天地とその中にある万物の父であるイエス・キリストは言われる。

8 「主の言葉に逆らう者はのろわれよ。これらのことを否定する者ものろわれよ。わたしはそのような

第4章

1 ①文」エテ3・21
② エテ12・24、GS「聖史」1・52、GS「ウリムとトンミム」
3 ①モルモ8・14
② エテ5・1
5 ①教義17・1、ジーモル8・17
② ニフ2・27・14、28・29−30
7 ①GS「聖め」
② モサ3・8
8 ①ニフ29・5−6、
② ニフ2・27・14、28・29−30

者には、これ以上大いなることを示すまい。このように語るのはわたしである」と、イエス・キリストは言われる。

9 「わたしの命令で天は開かれ、また閉ざされる。わたしの言葉で地は揺れ動く。また、わたしの命令で、地に住む者はまさに火で焼かれるようにして世を去る。

10 わたしの言葉を信じない者は、わたしの弟子たちをも信じない。わたしが語っていないかどうか、考えてみなさい。今語っているのがわたしであることを、あなたがたは終わりの日に知るであろう。

11 わたしが語ったこれらのことを信じる者に、わたしはわたしの御霊の示しを与えるので、その者は知って、証を述べるであろう。わたしの御霊のゆえに、その人はこれらのことが真実であることを知るであろう。わたしの御霊は、善を行うように人々を促すからである。

12 善を行うように人々を促すものはすべて、わたしから出る。善はわたし以外の者からは出ない。人々をあらゆる善に導く者はわたしである。わたしの言葉を信じない者は、わたしを、すなわちわたしが実在していることを信じない。わたしを信じない者は、わたしを遣わされた父をも信じない。見よ、わたしは父であり、光であり、命であり、世の真理である。

13 おお、異邦人よ、わたしのもとに来なさい。わたしはもっと大いなること、すなわち不信仰のために隠されている知識をあなたがたに示そう。

14 おお、イスラエルの家よ、わたしのもとに来なさい。父が世の初めから、あなたがたのためにどれほど大いなるものを備えてこられたかを、あなたがたに示そう。それがまだあなたがたに知らされていないのは、不信仰のためである。

15 見よ、おお、イスラエルの家よ、あなたがたを恐ろしい邪悪な状態、心のかたくなな状態、思いをくらまされた状態にとどめさせるあの不信仰の幕をあなたがたが裂くとき、世の初めからあなたがたに対して隠されてきた大いなる驚くべきことが明らかにされるであろう。まことに、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしの名によって父に呼び求めるとき、あなたがたは、父があなたがたの先祖に立てられた聖約をすでに思い出されたことを知るであろ

---

8 ③ アル12・10—11、3ニフ26・9—10
9 ① 列上8・35、教義77・8 ② ヒラ12・8—18、モルロ10・4—5
10 ① 2ニフ33・10—15
11 ① 教義5・16、エテ5・3—4、モロ7・10 ② GS「証」
12 ① アル5・40、モロ7・16—17 ③ 3ニフ28・34
13 ① 3ニフ12・2—3 ② GS「光・キリストの光」 ④ ヨハ8・12、アル38・21
14 ① 教義121・26—29
15 ① 2ニフ27・10

う。
16 その後、わたしが僕ヨハネに書き記させたわたしの[1]啓示は、すべての民の目に明らかにされるであろう。覚えておきなさい。あなたがたはこれらのことを目にするとき、その啓示が実際に明らかにされる時の近いことが分かるであろう。
17 したがって、あなたがたはこの[1]記録を受けるとき、父の業が地の全面で始まっているのを知るであろう。
18 だから、地の果てに至るすべての者よ、[1]悔い改めてわたしのもとに来なさい。そして、わたしの福音を信じて、わたしの名によって[2]バプテスマを受けなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、信じない者は罰の定めを受ける。わたしの名を信じる者にはしるしが伴う。
19 終わりの日に、わたしの名に忠実であると認められる者は幸いである。そのような者は高く上げられて、世の初めから用意されている王国に住むであろう。[2]見よ、これを語ったのはわたしである。アーメン。」

第 5 章

三人の証人と書物そのものが、『モルモン書』が真実であることの証となる。

1 さて、わたしモロナイは、命じられた言葉を記憶に従って書き記してきた。また、わたしが[1]封じたものについてもあなたに告げた。したがって、封じられているものに手を着けて翻訳しようとしてはならない。そのことは禁じられているからである。しかし、やがてそれが神の知恵にかなう時が来るであろう。
2 また見よ、あなたは、この書物を出す助けをする[1]者たちに版を見せるのを、特別に許されるであろう。
3 版は神の力によって[1]三人の者に示されるので、その三人はこれらのことが[2]真実であるのを確かに[3]知るであろう。
4 そして、三人の[1]証人の口を通してこれらのことは確認される。また、三人の証とこの書物、すなわち、御父と御子と聖霊が証しておられる神の言葉と神の力を明らかにするこの書物は、終わりの日に世の人々に対する証となるであろう。

---

16 ① 黙示1・1、1ニフ
17 ① 1ニフ21・1−9、28
18 ① 3ニフ27・20、モロ7・34
② ヨハ3・3−5、GS「バプテスマ−必要不可欠な条件」
19 ① GS「御霊の賜物」
② モサ2・41、教義6・13、GS「イエス・キリスト−御名を受ける」
2ニフ9・18

第5章
1 ① 2ニフ27・7−8、エテ4・4−7
② 21、2ニフ27・12−14、教義5・9−15
2 ① 3ニフ11・3、27・
3 ① 教義17章の前書きと第1−3節を参照。「モルモン書」の序のページの「三人の証人の証」を参照
② 教義5・25
4 ① エテ4・11
③ 12

5 もしも世の人々が悔い改めて、イエスの名によって[1]御父のもとに来るならば、彼らは神の王国に迎え入れられるであろう。
6 さて、これらのことを述べる権能がわたしにないかどうか、考えてみなさい。あなたがたは終わりの日にわたしに会い、ともに神の前に立つとき、わたしに権能があることを知るであろう。アーメン。

第６章

ヤレド人の船は風に運ばれて約束の地に向かう。民は主の慈しみを思い、主をほめたたえる。オライハ、民を治める王に選ばれる。ヤレドと彼の兄弟、死ぬ。

1 さて、わたしモロナイは、ヤレドと彼の兄弟についての記録を書き進めよう。
2 さて、ヤレドの兄弟が山に持って登った石を主が備えてくださった後、ヤレドの兄弟は山を下り、すでに準備しておいた船の中の、へさきとともにその石を一つずつ置いた。すると見よ、その石によって船の中が明るくなった。
3 このように主は、暗闇の中で石が輝くようにして、男や女、子供たちが暗闇の状態で大海を渡らなくてもよいように、彼らに光を与えられた。
4 さて、彼らは海の上で暮らせるように、あらゆる食物を準備し、また大小の家畜の群れと、一緒に連れて行くあらゆる獣や動物や鳥のためのえさも準備した。そして、これらのことをすべて終えると、彼らのはしけのような船に乗り込み、主なる神に身を託して海に出た。
5 そこで主なる神は、水の面に約束の地に向かって吹く激しい[1]風を起こされた。そのために、船は追い風を受けて海の波の上を運ばれて行った。
6 そして船は、砕ける山のような波と、激しい風によって生じたすさまじい大暴風雨のために、何度も海の深みに沈められた。
7 さて、彼らの船は深みに沈められても、皿のように[1]透き間がなく、ノアの[2]箱船のようにしっかりして水が漏らなかったので、彼らは少しも水による害を受けなかった。そこで彼らは、海の深みに沈むと、主に叫び求めた。すると、主は船を再び水面に引き戻された。
8 そして、船が海上にある間、風は一度もやむこと

---

5 ① モル9・27、モロ10・30－32
第6章
2 ① エテ3・3－6
5 ① エテ2・24－25
7 ① エテ2・17
43 ② 創世6・14、モセ7・

なく約束の地に向かって吹き続けた。そのために、
彼らは追い風を受けて進んだ。
9 そして、彼らは主に賛美の歌を歌った。まことに、
ヤレドの兄弟は主に賛美の歌を歌い、一日中主
に感謝[2]し、主をほめたたえた。夜になっても、彼ら
は主をほめたたえるのをやめなかった。
10 このようにして、彼らは進んで行き、海の怪物も
彼らの船を裂くことができず、鯨も彼らの船を害す
ることができなかった。また、海上にあるときも、
海中にあるときも、いつも彼らには光があった。
11 このようにして、船は海上を三百四十四日間運ば
れて行った。
12 そして、彼らは約束の地の海岸に上陸した。彼ら
は約束の地の海岸に足を踏み下ろすと、地の面にひ
れ伏して主の前にへりくだり、主が深い憐れみを豊
かにかけてくださったことについて、主の前に喜び
の涙を流した。
13 そして彼らは、地の面に出て行き、地を耕し始め
た。
14 ヤレドには四人の息子がおり、その息子はジェコ
ム、ギルガ、メーハ、オライハと呼ばれた。
15 また、ヤレドの兄弟も息子たちと娘たちをもうけ
た。
16 また、ヤレドの友人[1]たちとヤレドの兄弟の友人た
ちの人数はおよそ二十二人であり、彼らも約束の地
に来る前に息子たちと娘たちをもうけていた。その
ために彼らは多くなり始めた。
17 彼らは主の前をへりくだって歩[1]むことを教えら
れ、天からも教[2]えを受けた。
18 そして彼らは、地の面に広がり、増えて、土地を
耕し始め、その地で強くなった。
19 ヤレドの兄弟は老いが進んで、間もなく墓に入ら
なければならないことを知った。そこで、彼はヤレ
ドに言った。「わたしたちの民の人数を数えるため
に、またわたしたちが墓に入る前に、民がわたした
ちに何を望むかを知るために、民を集めよう。」
20 そこで、民が集められた。ヤレドの兄弟の息子、
娘の人数は二十二人、ヤレドの息子、娘の人数は十
二人で、ヤレドには四人の息子がいた。
21 さて、彼らは民の人数を数えた。そして、人数を
数え終えると、彼らは自分たちが墓に入る前に何を
してほしいか、民に尋ねた。

9 ① GS「歌う」 ② ルー歴上16:7−9、アモ37:37、教義46:32
16 ① GS エテ1:41
17 ① GS「歩む（神とともに）」 ② GS「啓示」

22 そこで民は、彼らの息子たちの中の一人に油を注
いで、民を治める王にするように求めた。
23 さて見よ、これは彼らにとって嘆かわしいことで
あった。そこで、ヤレドの兄弟は、「そのようなこと
をすれば、必ず囚われの身に陥ることになる」と民
に言った。
24 しかし、ヤレドは彼の兄弟に、「彼らが王を持つ
のを許そう」と言った。そこでヤレドの兄弟は、「わ
たしたちの息子たちの中から、あなたがたが望む者
を王に選びなさい」と民に言った。
25 そこで、彼らはヤレドの兄弟の長男を選んだ。彼
の名はペーガグといった。ところが、彼は断って、
王になろうとしなかった。そこで民は彼の父に、彼
を何としてでも王にするように願ったが、父はそう
しようとせず、王になることをだれにも強いてはな
らないと民に命じた。
26 そして、民はペーガグの兄弟を次々に選んだが、
彼らはだれも応じなかった。
27 そして、ヤレドの息子たちも、ただ一人を除いて
だれも望まなかったので、オライハが油を注がれ
て、民を治める王になった。
28 そして、オライハが統治し始め、民は栄えるよう
になり、非常に豊かになった。
29 そして、ヤレドが死に、彼の兄弟も死んだ。
30 そして、オライハは主の前をへりくだって歩み、
主が彼の父のためにどれほど偉大なことを行われた
かを覚え、また主が民の先祖のためにどれほど大い
なることを行われたかを民に教えた。

第 7 章

オライハ、義をもって治める。侵略と争いの中で、シュールの王国とコーホルの王国が互いに敵対して築かれる。預言者たちが民の悪事と偶像礼拝を非難し、民は悔い改める。

1 さて、オライハは生涯この地で義をもって裁き
を行い、彼の一生は非常に長かった。
2 また、彼は息子たちと娘たちをもうけた。すなわ
ち、彼は三十一人の子供をもうけ、その中の二十三
人が息子であった。
3 そして、彼は年老いてキブをもうけた。そして、
キブが彼に代わって統治し、またキブはコリホルを

22 ① 23 ① 29・16−23 GS「油注ぎ」サ上8・10−18、モサ

もうけた。
4 ところがコリホルは、三十二歳のときに父に背いて、ニーホルの地へ行って住んだ。そして彼は、息子たちと娘たちをもうけた。ところが、子供たちが非常に美しくなったので、コリホルは多くの人を引き寄せて自分につかせた。
5 そして彼は、軍隊を召集すると、王の住んでいたモロンの地へ上って行き、王を捕らえた。このことによって、囚われの身に陥るであろうというヤレドの兄弟の言葉が事実となったのであった。
6 王が住んでいたモロンの地は、ニーファイ人がデソレションと呼んでいる地に近かった。
7 そして、キブは高齢になるまで囚われの身で暮らし、彼の民も、キブの息子であるコリホルの下で囚われの身であった。それでもキブは、囚われの状態にありながら、年老いてシュールをもうけた。
8 さて、シュールは兄のことを怒った。シュールは強くなり、体力の点でも強くなり、また判断力も優れた者になった。
9 さて、彼はエフライムの丘に行き、その丘で金属を溶かし出し、自分に引き寄せていた者たちのために鋼で剣を造った。そして彼は、剣で彼らを武装させてから、ニーホルの町に引き返し、兄のコリホルを攻めた。その結果、彼は王国を手中に収め、それを父キブに返した。
10 すると、シュールがこのことを行ったので、父は王位をシュールに授けた。そこで、シュールは父に代わって統治し始めた。
11 そして彼は、義をもって裁きを行い、また民が非常に大勢になったので、地の全面に王国の領土を広げた。
12 そして、シュールも多くの息子、娘をもうけた。
13 さらに、コリホルが彼の行った多くの悪事を悔い改めたので、シュールは彼に王国内で力を持たせた。
14 さて、コリホルにも多くの息子、娘がおり、息子たちの中にノアという名の者がいた。
15 さて、ノアは、王のシュールと父コリホルに背いて、兄弟コーホルとほかの兄弟全員と多くの人を味方に引き入れた。
16 そして彼は、王のシュールを攻めて、彼らの最初の受け継ぎの地を手に入れ、この地方を治める王になった。

第7章
5 ① エテ6・23

17そして彼は、また王のシュールを攻めて捕らえ、
モロンに連れ去った。
18そして、ノアがまさにシュールを殺そうとしたと
きに、シュールの息子たちは、夜に紛れてノアの家
に忍び込んでノアを殺し、牢の扉を壊して父を連れ
出した。そして彼らは、シュールをシュール自身の
王国で王座に着かせた。
19また、ノアの息子もノアに代わって王国を築き上
げたが、彼らは二度と王のシュールを支配する勢
力を持つことはなかった。そして、シュール王の統
治下にある人々は、非常に栄えて富んだ。
20しかし、国は分割され、二つの王国、すなわち、
シュールの王国と、ノアの息子コーホルの王国があ
った。
21ノアの息子コーホルは、民にシュールを攻めさせ
たが、その戦いでシュールは彼らを打ち負かして、
コーホルを殺した。
22コーホルには、ニムロデと呼ばれた息子がいた。
このニムロデは、コーホルの王国をシュールに譲り
渡し、シュールの好意を得た。その結果、彼はシュ
ールから大いに引き立てられ、シュールの王国内で
自分の思いどおりのことを行った。
23また、シュールの治世に、主から遣わされた預言
者たちが民の中にやって来て、民の悪事と偶像礼拝[1)]
が地にのろいを招いており、もし悔い改めなければ
民は滅ぼされると預言した。
24さて民は、その預言者たちをののしり、あざけっ
た。そこでシュール王は、預言者たちをののしった
すべての者を罰した。
25また彼は、全地で法律を施行し、その法律によっ
て預言者たちに、彼らの望む所へはどこへでも行け
る権限を与えた。このことによって、民は悔い改め
るようになった。
26そして民が、彼らの罪悪と偶像礼拝を悔い改めた
ので、主は彼らを赦された。そして彼らは、再び地
に栄え始めた。またシュールは、年老いて息子たち
と娘たちをもうけた。
27シュールの時代には、もはや戦争はなかった。そ
して彼は、主が自分の先祖のために数々の偉大なこ
とを行って、大いなる深みを渡らせて先祖を約束の
地に導いてくださったことを思い起こし、生涯義を
もって裁きを行った。

23① 27① GS「偶像礼拝」エテ6・4、12

第8章

王国全体に対立と争いがある。エーキシ、王を殺すために誓いの言葉で結ばれた秘密結社を作る。秘密結社は悪魔から出たものであり、結局は国々を滅ぼす。あらゆる地、あらゆる国民、あらゆる国々の自由を覆そうとする秘密結社について、現代の異邦人に警告が発せられる。

1 さて、シュールはオメルをもうけ、オメルがシュールに代わって統治した。また、オメルはヤレドをもうけ、ヤレドは息子たちと娘たちをもうけた。
2 そして、ヤレドは父に背き、ヘテの地に行って住んだ。彼は巧みな言葉で多くの人にへつらい、とうとう王国の半分を得るに至った。
3 そして彼は王国の半分を得ると、父を攻め、父を連れ去って囚われの状態に置き、囚われの状態で仕えさせた。
4 オメルは彼の統治の間、生涯の半分を囚われの身で過ごした。それから彼は息子たちと娘たちをもうけ、その中にエズロムとコリアンタマーがいた。
5 この二人は自分たちの兄ヤレドの行ったことを非常に怒り、軍隊を組織してヤレドを攻めた。そして夜に紛れて、二人は彼を攻めたのである。
6 そして彼らは、ヤレドの軍隊を滅ぼしてしまうと、ヤレドも殺してしまおうとした。するとヤレドは、殺さないでほしい、そうすれば王国を父に譲り渡そうと言って懇願した。そこで彼らは彼の命を許した。
7 さて、ヤレドは王国と世の誉れに執着していたので、王国を失ったことを非常に悲しく思った。
8 ところで、ヤレドの娘は非常に利口であったので、父が悲しんでいるのを見て、父のために王国を取り戻す策を講じようとした。
9 ヤレドの娘は非常に美しかった。そこで彼女は父と語って言った。「父上はどうしてそのようにひどく悲しんでおられるのですか。わたしたちの先祖が大いなる深みを渡って持って来た記録を、お読みになったことがないのですか。[1]秘密のはかりごとによって王位と大きな栄華を得た、昔の人々についての話があるではありませんか。
10 父上、キムノルの息子のエーキシを迎えにやってください。まことに、わたしは美しいので、彼の前

第8章
9 ① 3ニフ6・28、ヒラ6・26−30、モセ5・51−52

で踊り、彼を喜ばせて、わたしを妻にしたいと思わ
せるようにしましょう。もし彼がわたしを妻にした
いと父上に願ったら、そのとき父上は、『王であるわ
たしの父の首をわたしのところに持って来れば娘を
与えよう』と言ってください。」
11 オメルはエーキシの友人であった。さて、ヤレド
がエーキシを迎えにやると、ヤレドの娘は彼の前で
踊って彼を喜ばせたので、彼は彼女を妻にしたいと
思った。そして、彼はヤレドに、「あなたの娘をわた
しに妻として下さい」と言った。
12 そこで、ヤレドは彼に言った。「王であるわたしの
父の首をわたしのところに持って来れば娘を与えよ
う。」
13 そこでエーキシは、ヤレドの家に自分の親族を皆
集めて言った。「わたしがこれから頼むことについ
て、わたしに忠誠を誓ってくれるだろうか。」
14 そこで彼らは皆、エーキシが求めた援助を行わな
い者はだれでも首をはねられ、また、エーキシから
知らされたことを何事でも漏らす者はだれでも命を
失うと、天の神にかけて、また天にかけ、地にかけ
て、さらに自分の頭にかけて彼に誓った。
15 そして、彼らはエーキシに同意した。そこでエー
キシは、権力を求めて昔の人々が行った誓いを彼ら
に立てさせた。これらの誓いは、世の初めから人殺
しであったカインから伝えられてきたものである。
16 この誓いは、民にこの誓いを立てさせて民を暗闇
の中にとどめるために、また権力を求める者に権
力を得させ、殺人と略奪と偽りと、あらゆる悪事と
みだらな行いを犯させるために、悪魔の力によって
保たれてきたものであった。
17 ヤレドの心の中に、これらの昔のことを探り出す
気持ちを起こさせたのは、ヤレドの娘であった。そ
して、ヤレドがその気持ちをエーキシの心の中に起
こさせたので、エーキシは自分の親族と友人たちに
誓いを立てさせ、もっともらしい約束で彼らを惑わ
して、自分の求めることを何事でも行わせたのであ
った。
18 そして、彼らは昔の人々のように秘密結社を作っ
た。この結社は、神の目から見て、どのようなもの
にも増して最も忌まわしく、邪悪なものである。
19 主は秘密結社によって事を行われることはなく、
また主は、人が血を流すことを望まれず、人が造ら

10 ① マコ 6・22—28
10 ① GS「冒瀆・汚す罪」
14 ① GS「誓い」
15 ① 創世 4・7—8、モセ
15 ② GS「秘密結社」
18 ① 5・28—30

れて以来あらゆることにおいてそれを禁じてこられた。

20 さて、わたしモロナイは、彼らの誓いの方法と結社の様式について書き記さない。これらがあらゆる民の中にあり、レーマン人の中にもあることが、わたしに知らされたからである。

21 これらが、わたしの今述べているこの民の滅亡[1]を引き起こしたのである。また、ニーファイの民の滅亡も同じである。

22 権力と利益を得るために、このような秘密結社が全地に広がるまで支援する国民は、見よ、どのような国民でも滅ぼされる。なぜならば、秘密結社によって流される主の聖徒たちの血が、秘密結社への報復[2]を訴えて地からいつまでも主に叫ぶのに、主が秘密結社に報復なさらないということはあり得ないからである。

23 おお、あなたがた異邦人よ、これらのことがあなたがたに知らされるのは、神の知恵にかなっている。それによってあなたがたが罪を悔い改めることができるようにするためであり、また権力と利益を得るために築かれるこれらの殺人結社に支配されることのないようにするためであり、その業、すなわち滅亡の業があなたがたに及ばないようにするためである。もしこれらのことが起こるのを許すならば、永遠なる神の罰の剣があなたがたに下り、あなたがたは打ち倒され、滅びるであろう。

24 そこで、主はあなたがたに、これらのものがあなたがたの中に起こるのを見るときに、自分たちがひどい状態にいるという意識に目覚めるようにと命じておられる。この秘密結社があなたがたの中にあるからである。殺された者たちの血のゆえに、秘密結社は災いである。これらの者たちの血が、秘密結社への、また秘密結社を築いた者たちへの報復を訴えて、地から叫ぶからである。

25 さて、秘密結社を築く者はあらゆる地、国民、国々の自由[1]を覆そうとする。そして、秘密結社はあらゆる民の滅亡をもたらす。それはあらゆる偽りの父である悪魔によって築かれるからである。悪魔はわたしたちの始祖をだましたあの偽り者[2]であり、また初めから人に殺人を犯させたあの偽り者であり、また人々の心をかたくなにして、初めから人々に預言者を殺させ、石で打たせ、追い出させたあの偽り

---

21 ① ヒラ 6・28
22 ① モル 8・27、40–41
② GS「報復」
23 ① ニフ 22・22–23、
25 ① モセ 6・15
② GS「自由」
創世 3・1–13、2 ニフ 9・9、モサ 16・3、モセ 4・5–19

者である。
26そこでわたしモロナイは、これらのことを書き記すように命じられている。このことによって、悪がなくなるようにするためであり、またサタンが人の子らの心を支配する力を持つことなく、彼らが絶えず善を行うように促されてあらゆる義の源に来て、救われる時が来るようにするためである。

第 9 章

血統により、また陰謀と殺人により、王位が次々に移る。イーマー、義の御子にまみえる。多くの預言者が悔い改めを叫ぶ。飢饉と毒蛇が民を苦しめる。

1さて、わたしモロナイは記録を続ける。さて見よ、エーキシと彼の仲間たちは、彼らの秘密結社でオメルの王国を倒した。
2それでも主は、オメルとオメルを殺そうとしなかった彼の息子たちと娘たちに憐れみをかけられた。
3そして主は、その地を去るように夢の中でオメルに警告された。そこでオメルは、家族を連れてその地を去り、幾日もの間旅をして、シムの丘のそばを通り、ニーファイ人が滅ぼされた地方の近くを通り、そこから東の方に向かって、海岸に近いアブロムと呼ばれる地方に着いた。そして彼はそこに天幕を張り、またヤレドと彼の家族を除く、オメルの息子たちと娘たち、およびオメルの家のすべての者が皆、そこに天幕を張った。
4さて、ヤレドは、悪の手によって油を注がれて、民を治める王になり、娘をエーキシに妻として与えた。
5さて、エーキシは義父の命を取ろうとして、昔の人々の誓いの言葉で誓っていた仲間に頼んだ。そして彼らはエーキシの義父の首をはねた。それは、彼が王座に着いて、民の訴えを聞いていた最中のことであった。
6この邪悪な秘密結社は、その広がりが非常に大きく、すでにすべての民の心を腐敗させていた。そのために、ヤレドは王座に着いていて殺され、エーキシが彼に代わって統治したのであった。
7さて、エーキシは息子をねたむようになり、息子を牢に閉じ込めてほとんど食物を与えず、とうとう飢え死にさせてしまった。

26①　1ニフ22・26
②　2ニフ33・4、モロ7・12−17
第9章
1①　エテ8・13−17
3①　モル1・3、4・23
②　モル6・1−15

8 すると、死んだ息子の兄弟（その名をニムラという）が、自分の兄弟に対して行った父の仕打ちのことで父を怒った。
9 そしてニムラは、少数の人々を集めてその地から逃げ出し、オメルのもとに行ってともに住んだ。
10 さて、エーキシはほかにも息子たちをもうけた。しかし、その息子たちは、父から求められるままにあらゆる悪事を行うと父に誓っていたにもかかわらず、民の信用を得た。
11 エーキシが権力を得たいと望んでいたように、エーキシの民も利得を得ることを望んでいたので、エーキシの息子たちは彼らに金銭を与えて、民の大半を引き寄せて自分たちに従わせたのである。
12 そこで、エーキシの息子たちとエーキシの間で戦争が始まり、その戦争は何年間も続いた。そして、王国の民はほとんど皆滅びてしまった。まことに、三十人の者と、オメルの家族と一緒に逃げた者たちを除く全員が死んでしまった。
13 そこで、オメルは再び自分の受け継ぎの地へ戻った。
14 さて、オメルは年を取ったが、それでも老年に及んでイーマーをもうけた。そして、オメルはイーマーに油を注ぎ、彼を自分に代わって統治する王とした。
15 オメルは、油を注いでイーマーを王とした後、二年間、国の平和な有様を見てから死んだ。彼の一生は非常に長かったが、悲しみに満ちたものであった。その後、イーマーが父に代わって統治し、父の足跡を歩んだ。
16 主は再び地からのろいを取り去られ、イーマーの家はイーマーの統治の間に非常に栄えた。そして、六十二年の間に彼らは大きな力をつけ、非常に豊かになった。
17 彼らはあらゆる果物や穀物、絹布や織り目の細かい亜麻布、また金や銀や貴重な品々を持つようになり、
18 またあらゆる家畜、雄牛、雌牛、羊、豚、やぎ、そのほか人の食用となる多くの動物も持つようになった。
19 彼らは馬とろばも持ち、また象とクレーロムとクモムもいた。これらはすべて人のために役立ったが、特に象とクレーロムとクモムは役に立った。

19 ① 1ニフ18・25

20 このように、主はほかのあらゆる地に勝ったえり[1]
抜きのこの地に祝福を注がれた。そして主は、この
地を所有する者はだれであろうと、主のためにここ
に住まなければならず、さもなければ、民の罪悪が
熟したときに民は滅ぼされると命じられた。なぜな[2]
らば主は、「わたしはそのような者にわたしの限り
ない怒りを注ぐ」と言われるからである。
21 イーマーは生涯義をもって裁きを行い、また多く
の息子たちと娘たちをもうけた。また、彼はコリア
ンタムをもうけ、彼に油を注いで自分に代わって統
治させた。
22 彼は自分に代わって統治するようにコリアンタム
に油を注いだ後、四年間生き長らえ、国の平和な有
様を見た。また、彼は義の御子にさえまみえ、主の[1]
日を喜んで誇りに思い、そして安らかに死んだ。
23 さて、コリアンタムは父の足跡に従って歩んだ。
そして、多くの大きな町を築き、生涯民に良いもの
を与えた。しかし、高齢になるまで彼には子供がい
なかった。
24 そして、彼の妻が百二歳で死んだので、コリアン
タムは老年に及んで若いおとめをめとり、息子たち
と娘たちをもうけた。彼は百四十二歳まで生き長ら
えた。
25 そして、彼はコムをもうけ、コムが彼に代わって
統治した。コムは四十九年間統治した。また、彼は
ヘテをもうけ、ほかにも息子たちと娘たちをもうけ
た。
26 民はすでに再び地の全面に広がっており、地の面
でひどい大きな悪事が行われ始めた。そして、ヘテ
は自分の父を殺そうとして、昔の秘密のはかりごと
をまた受け入れるようになった。
27 そして、彼は自分の剣で父を殺して王位から退
け、自分が代わって統治した。
28 すると、またこの地に預言者たちがやって来て、
民に悔い改めを叫び、民は主の道を備えなければな
らない、さもなければ地の面にのろいが下る、すな
わち、悔い改めなければひどい飢饉があって滅ぼさ
れる、と告げた。
29 しかし民は預言者たちの言葉を信じることなく、
彼らを追い出した。また、民はある預言者たちを穴
の中に投げ込み、そのまま放置しておいて死なせ
た。そして、民はこれらのことをすべて、ヘテ王の

20 ① エテ2・15
② エテ2・8–11
22 ① ニフ25・2
② 3

命令によって行ったのであった。
30さて、地にひどい飢饉が起こり、その飢饉のため
にその地に住む者たちが次から次へと死んでいっ
た。地の面に雨が少しも降らなかったからである。
31また、地の面に毒蛇も現れ、多くの人がその毒で
死んだ。そして、彼らの家畜の群れは毒蛇に追われ
て、ニーファイ人がゼラヘムラと呼んだ南方の地へ
向かって逃げ始めた。
32そして、途中でその多くが死んだ。それでも、あ
る群れは南方の地へ逃げ込んだ。
33そこで主は蛇にそれ以上家畜の群れを追うのをや
めさせ、人々が通り抜けられないようにその道をふ
さがせて、通り抜けようとする者が毒蛇のために倒
れるようにされた。
34そして、民は家畜の逃げた道をたどり、途中で倒
れた家畜の死体をむさぼり食い、一つも残さずに食
い尽くした。そして民は今や自分たちの滅びるのが
避けられないことを知ると、罪悪を悔い改めて主に
叫び求め始めた。
35そして、彼らが主の前に十分にへりくだったの
で、主は地の面に雨を降らせられた。そこで民は再
び力を取り戻し、また北の地方と周りのあらゆる地
方で、実がとれ始めた。このようにして、主は民を
飢饉から守ることによって彼らに御自分の力を示さ
れた。

第10章

王が何代も代わる。義にかなった王もいれば、邪悪な王もいる。義が勝利を得ているとき、民は主によって祝福され、栄える。

1さて、ヘテと彼の家のすべての者は、シェズを除
いて全員飢饉のために死んでしまった。そこで、ヘ
テの子孫であったシェズは、離散した民を再び立て
直し始めた。
2そしてシェズは、先祖が滅びたことを忘れず、義
にかなった王国を築いた。彼は、主がヤレドと彼の
兄弟に大海を渡らせるに当たって行われたことを
覚えていたからである。そして彼は主の道を歩み、
また息子たちと娘たちをもうけた。
3ところが、シェズという名の彼の長男が彼に背い
た。しかし、このシェズは非常に多くの富を持って

31① オム1・13
33① 民数21・6－9
34① アル34・34、教義101・8
35① 教義5・24
第10章
2① エテ6・1－12

いたために、強盗の手で殺されてしまった。そして、
再び彼の父に平和が戻った。
4さて、彼の父は地の面に多くの町を築き、民はま
た地の全面に広がり始めた。そしてシェズは高齢に
なるまで生き長らえた。また彼はリプレーキシをも
うけた。そして、彼が死ぬと、代わってリプレーキ
シが統治した。
5さて、リプレーキシは、主の目から見て正しいこ
とを行わなかった。彼は多くの妻とそばめを持ち、
また堪え難い重荷を人々の肩に負わせたからであ
る。彼は重い税を人々に課し、その税で多くの大き
な建物を建てた。
6彼は自分のために非常に美しい王座を作り、また
牢もたくさん建てた。そして、課税に服そうとしな
い者を牢に入れ、また税を納める能力のない者も牢
に入れて、彼らを絶えず働かせて生計を立てさせ
た。また彼は、働くことを拒む者を殺させた。
7また彼は見事な品物をすべて手に入れた。彼は牢
の中で純金を精錬させ、あらゆる見事な細工を造ら
せて、それを自分のものとした。そして彼は、みだ
らな行いと忌まわしい行いをして民を苦しめた。

8そこで、彼が四十二年間統治した後、民は彼に対
して謀反を起こした。そして、国でまた戦争が始ま
り、リプレーキシは殺され、彼の子孫は国から追放
された。
9さて、それから長年たって、（リプレーキシの子孫
であった）モリアントンが追放された者たちを大勢
集め、出て行って民を攻め、多くの町の支配権を得
た。そこで、戦争は非常に激しくなり、何年もの長
い間続いた。そして彼は全地の支配権を得て、自分
で全地を治める王になった。
10彼は自分で王になった後、民の負担を軽くして、
民の好意を得た。そこで民は彼に油を注いで、彼を
自分たちの王とした。
11彼は民に対しては公正であったが、自分自身に対
してはそうではなかった。多くのみだらな行いをし
ていたからである。そのために、彼は主の前から絶
たれてしまった。
12さて、モリアントンは多くの町を築き、民は彼の
統治の間に非常に豊かになった。そして、建物や金
や銀、また穀物の栽培、大小の家畜の群れ、および
彼らに回復されたそのほかのものに富むようになっ

5 ①
2 ヤコ3・5、モサ11・

た。
13また、モリアントンは非常に高齢になるまで生き
長らえ、老年にキムをもうけた。そして、キムが父
に代わって統治し、八年治めたときに父は死んだ。
キムは義をもって統治しなかったので、主の恵みを
受けなかった。
14その後、彼の兄弟が彼に対して謀反を起こし、彼
を囚われの身に陥れた。そして彼は生涯囚われの身
で過ごし、囚われの身で息子たちと娘たちをもうけ
た。そして彼は年取ってからレビをもうけて死ん
だ。
15さて、レビは父の死後四十二年間、囚われの身に
あって仕えた。その後、彼は国の王と戦い、その戦
争によって王位を得た。
16彼は王位を得た後、主の目から見て正しいことを
行い、民はこの地で栄えた。そして彼は高齢になる
まで生き長らえ、息子たちと娘たちをもうけた。彼
はまたコロムをもうけ、油を注いで自分に代わる王
とした。
17そして、コロムは生涯主の目から見て善いことを
行い、また多くの息子たちと娘たちをもうけた。彼
は多くの日を過ごした後、世のほかの人々と同じよ
うに世を去った。そして、キシが彼に代わって統治
した。
18そして、キシも世を去り、リブが彼に代わって統
治した。
19さて、リブも主の目から見て善いことを行った。
また、リブの時代に毒蛇が全滅したので、人々は南
方の地へ行き、狩りをして民の食糧を手に入れた。
その地には森の動物が満ちていたからである。そし
て、リブ自身も卓越した狩人になった。
20また、彼らは地峡のそばに、すなわち海によって
陸が分けられている場所の近くに一つの大きな町を
築いた。
21また、彼らは南方の地を、猟の獲物をとる荒れ野
としてそのまま残しておいた。そして北方の地に
は、全面にわたって人々が住んでいた。
22彼らは非常に勤勉であり、売買し、互いに交易し
て利益を得た。
23また、彼らはあらゆるあらがねで物を造った。彼
らは金や銀や鉄や真鍮、そのほかあらゆる金属を造
った。彼らはあらがねを地の中から掘り出したの

19 ① エテ 9・31
23 ① 2 ニフ 5・15

で、金や銀や鉄や銅のあらがねを得るために大きな土の山が幾つもできた。そして彼らはあらゆる見事な細工を造った。

24 彼らは絹布とより糸で織った亜麻布を得ていた。また、裸を覆うためにあらゆる織物を作った。

25 また、彼らは地を耕すあらゆる道具を造り、すく道具、種をまく道具、刈り取る道具、脱穀する道具を造った。

26 また、彼らは家畜に付けて働かせるためのあらゆる道具を造った。

27 彼らはあらゆる武器を造った。また彼らは非常に入念な造りのあらゆる細工を造った。

28 彼らほど祝福された民、また彼らほど主の手によって繁栄を得た民はなかった。彼らはあらゆる地に勝ったえり抜きの地に住んでいた。主がそのように言われたからである。

29 さて、リブは長年生きて、息子たちと娘たちをもうけ、またヒアルサムをもうけた。

30 そして、ヒアルサムが父に代わって統治した。しかし、ヒアルサムは二十四年間統治して、見よ、王位を奪われた。そして、彼は囚われの身で何年もの長い間、まことに、余生を仕えて暮らしたのであった。

31 また、彼はヘテをもうけ、ヘテも囚われの身で生涯を送った。そしてヘテはアロンをもうけ、アロンも囚われの身で生涯を送った。そして彼はアムニガダをもうけ、アムニガダも囚われの身で生涯を送った。そして彼はコリアンタムをもうけ、コリアンタムも囚われの身で生涯を送った。そして彼はコムをもうけた。

32 さて、コムは王国の半分を引き寄せ、四十二年間王国の半分を統治した。それから彼はアムギド王と戦うために出て行き、両者は長年の間戦った。その間にコムはアムギドに対する支配権を得て、王国の残りも治める権力を手に入れた。

33 ところが、コムの時代に国に強盗が出始めた。そして強盗たちは昔のはかりごとを取り入れ、昔の人々に倣って[1]誓いを立て、またもや王国を滅ぼそうとした。

34 そこでコムは大いに彼らと戦ったが、彼らに勝てなかった。

---

33 ① 社」　GS「誓い」「秘密結

第11章

戦争、不和、悪事がヤレド人の生活を支配する。預言者たち、悔い改めなければヤレド人が完全に滅びることを預言する。民は預言者たちの言葉を拒む。

1 コムの時代にまた多くの預言者が来て、この大いなる民は、悔い改めて主に立ち返り、殺人と悪事を捨てなければ滅びると預言した。
2 さて、預言者たちは民に拒まれ、民に殺されそうになったため、保護を求めてコムのもとに逃げた。
3 そして彼らはコムに多くのことを預言し、コムは残りの全生涯にわたって祝福を受けた。
4 そして彼は高齢になるまで生き長らえ、シブロムをもうけた。そして、シブロムが彼に代わって統治した。ところが、シブロムの兄弟が彼に背き、全地で非常に大きな戦争が始まった。
5 そして、シブロムの兄弟は民の滅亡を預言したすべての預言者を殺させた。
6 すると、全地にひどい災いが生じた。かつて預言者たちが、もしも民が悪事を悔い改めなければ、ひどいのろいが地と民に下り、地の面にかつてなかったほどのひどい滅亡が彼らの中にあり、彼らの骨は土の山[1]のように地の面に積み上げられると証していた。
7 ところが民は邪悪な結社があったために、主の声に聞き従わなかった。そのために、全地で戦争と争いが始まり、また多くの飢饉と疫病が起こって、地の面にこれまでまったく知られていなかったほどのひどい滅亡が生じた。これはすべて、シブロムの時代に起こったことである。
8 すると民は自分たちの罪悪を悔い改め始めた。そして、彼らが悔い改めたので、主は彼らに憐れみ[1]をかけられた。
9 さて、シブロムは殺され、セツは囚われの身に陥って、生涯囚われの状態で過ごした。
10 そして、彼の息子エーハは王位を得て、生涯民を治めた。しかし彼は生涯あらゆる罪悪を行い、多くの血を流したので、彼の一生は短かった。
11 また、イーサムはエーハの子孫であり、王位を得たが、彼もまた生涯邪悪なことを行った。
12 そして、イーサムの時代に多くの預言者が来て、民に再び預言をした。預言者たちは、民が悔い改め

第11章
6 ① オム1・22、エテ14・
8 ①21 GS「憐れみ」

なければ、主は地の面から民をことごとく滅ぼしてしまわれると預言した。

13さて、民は心をかたくなにして、預言者たちの言葉に聞き従おうとしなかった。そこで預言者たちは、悲しみながら民の中から去って行った。

14さて、イーサムは生涯悪をもって裁きを行った。そして彼はモロンをもうけた。その後、モロンが彼に代わって統治し、主の前に邪悪なことを行った。

15さて、民の中に謀反が起こった。それは権力と利益を得るために築かれたあの秘密結社のために生じたものである。また民の中に、罪悪に勢いのある一人の男が現れ、モロンと戦って、その戦いで王国の半分を打ち破った。そして、彼は長年の間その王国の半分を治めた。

16さて、モロンはこの男を倒して、再び王位を取り戻した。

17そして、また別の勢いのある男が現れた。彼はヤレドの兄弟の子孫であった。

18そして、彼はモロンを打ち破って、王位を得た。そのために、モロンは囚われの身で余生を送り、コリアントルをもうけた。

19そして、コリアントルも囚われの身で生涯を送った。

20また、コリアントルの時代に多くの預言者が来て、大いなる驚くべきことを預言し、民に悔い改めを叫んで、もしも悔い改めなければ、主なる神が彼らに対して裁きを行って、彼らを完全に滅ぼされると告げた。

21また主なる神が、かつてこの民の先祖を導いたように御自分の力によって別の民を送り、いや、別の民を導いてこの地を所有させられると、預言者たちは告げた。

22しかし、民は彼らの秘密結社と邪悪な忌まわしい行いのために、預言者たちの言葉をことごとく拒んだ。

23さて、コリアントルはエテルをもうけ、囚われの身で生涯を過ごして死んだ。

第12章

預言者エテル、神を信じるよう民に説き勧める。モロナイ、信仰によって行われた数々の不思議と驚くべきことを列挙する。信仰によってヤレドの兄弟がキリ

13① モサ16・2
15① GS「背く」
20① GS「裁き」
21① エテ13・20–21
23① エテ1・6、15・33–34

ストにまみえたこと。主は人々が謙遜になるように、人々に弱さを与えられる。ヤレドの兄弟が信仰によってゼリン山を移したこと。信仰と希望と慈愛は救いに欠かせない。モロナイ、顔と顔を合わせてイエスにまみえる。

1さて、エテルとコリアンタマーは同時代の人である。このコリアンタマーは、全地を治める王であった。[1]

2エテルは主の預言者であった。そこで、エテルはコリアンタマーの時代に出て行って、民に預言し始めた。彼の内に主の御霊があったために、そうせずにはおれなかったからである。[2]

3彼は朝から日の沈むまで大声を上げ、滅ぼされることのないように、神を信じて悔い改めることを民に勧め、また信仰によってすべてが成就することを彼らに告げた。[3]

4さて、神を信じる者はだれであろうと、もっと良い世界を、まことに神の右に一つの場所を、確かに望むことができる。この望みは信仰から生じ、人々にとってその心をしっかりとした不動のものにする錨となる。そしてそのような人々はいつも多くの善い行いをし、神をあがめるようになる。[4]

5そして、エテルは数々の大いなる驚くべきことを民に預言した。しかし彼らは、現実にそれらのことを見なかったので信じなかった。

6さて、わたしモロナイはこれらのことについて少々述べたい。信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものであることを、世の人々に示したい。あなたがたは、自分が見ていないからということで疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。[1]

7キリストが死者の中からよみがえられた後、わたしたちの先祖に御自身を現されたのは、信仰による。先祖がキリストを信じてからでなければ、キリストは先祖に御自身を現されなかった。したがって、キリストを信じていた人々がいたに違いない。キリストは、俗世の人々には御自身を現されなかったからである。

8しかし、人々が信じたので、キリストは世の人々に御自身を現し、御父の名の栄光を表し、さらに、ほかの人々が天の賜物にあずかる者となれるよう

第12章
1 ①エテル13:13−31
1 ①GS「エテル」
2 ②エレ20:9、エノ1:105:19、121:7−8
2 ①アル43:1
3 ①教義112:5
3 ②GS「信仰」
4 ①GS「希望」
4 ②ヘブ6:19
4 ③1コリ15:58
4 ④ニフ12:16
6 ①ヘブ11:1
6 ②ロマ8:24−25
6 ③アル32:21
6 ④ニフ26:11、教義

に、また、彼らがまだ見ていないものを待ち望むことができるように、道を備えられた。

9 したがって、あなたがたも信仰を持ちさえすれば、望みを持つことができ、賜物にあずかる者となれるのである。

10 見よ、昔の人々が神の聖なる位に従って召された[1]のは、信仰による。

11 それで、信仰によってモーセの律法が与えられた。しかし神は、御子を送ることによってもっとす[1]ばらしい方法を備えられた。そして、信仰によって、モーセの律法が成就したのである。

12 もしも人の子らの中にまったく信仰がなければ、神は人の子らの中で何の奇跡[2]も行うことがおできにならない。したがって、彼らが信じてからでなければ、神は御自身を現されなかった。

13 見よ、牢[1]を地に倒したのは、アルマとアミュレクの信仰であった。

14 見よ、レーマン人に変化[1]を生じさせて、彼らに火と聖霊[2]によるバプテスマを受けさせたのは、ニーフアイとリーハイの信仰であった。

15 見よ、レーマン人の中であのように大きな奇跡[1]を行ったのは、アンモン[2]と彼の同僚たちの信仰であった。

16 そして、奇跡[1]を行った者は皆、キリスト以前にいた者でも、キリスト以後にいた者でも、信仰[2]によって奇跡を行った。

17 三人の弟子たちが死を味わ[1]わないという約束を得たのは、信仰によるものであった。しかし彼らは、信じてからでなければ、その約束を得なかった。

18 どのようなときでも、信じてからでなければ奇跡を行った者はいない。したがって、奇跡を行った者はまず神の御子を信じたのである。

19 キリストが来られる以前[1]にも、非常に深い信仰を持っていた人々が多くおり、これらの人は幕[2]の内側を見るのを禁じられなかったので、彼らは実際に自分の目で様々なものを見た。それらのものは、彼らがすでに信仰の目で見ていたものである。そして、彼らは喜んだ。

20 見よ、この記録で分かるように、これらの人の中の一人がヤレドの兄弟であった。神を信じる彼の信仰が非常に深かったので、神は御自分の指[1]を差し伸べられたときに、ヤレドの兄弟の目からその指を隠

---

10 ①アル13・3–4、GS「召し・神の召し」
11 ①1コリ12・31
12 ①2ニフ27・23、モロ7・37、教義8・18、②35・8–11、マタ13・58、モル9・
14 ②ヒラ5・45、3ニフ
13 ①アル14・26–29
14 ①ヒラ5・50–52
20 ①アル17・26章
15 ①アル17・29–39
9 ②GS「奇跡」
16 ①ヘブ11・7–40
17 ①3ニフ28・7、モル
8 ①10–12
19 ①2ニフ11・1–4、ヤコ4・4–5、ジェロ
20 ①1–11、アル25・15–16、②エテ3・6、GS「幕」エテ3・4

すことがおできにならなかった。神が以前に彼に言われた御言葉があったからである。その御言葉は、ヤレドの兄弟が信仰によって得たものである。

21 また、主の指を見た後、ヤレドの兄弟には信仰によって得た[1]約束があったので、主は彼の目から何も隠すことがおできにならなかった。そこで、主は彼にすべてのものをお見せになった。彼はもはや[2]幕の外側にとどめられなかったからである。

22 また、これらのことが異邦人を通じて同胞に伝わるという[1]約束をわたしの先祖が得たのも、信仰による。そのために、主は、すなわちイエス・キリストは、わたしに命じられたのである。

23 わたしは主に言った。「主よ、わたしたちの物を書き記す力が[1]弱いので、異邦人はこれらのことをあざけるでしょう。主よ、あなたはわたしたちを、信仰によって言葉に力のある者とされましたが、物を書き記す[2]力のある者とはされませんでした。あなたはこの民に聖霊をお授けになり、聖霊のためにすべての者が大いに語れるようにされました。

24 また、わたしたちの手が不器用であったために、わたしたちがわずかしか書けないようにされました。まことに、あなたはわたしたちを、ヤレドの兄弟のように物を書き記す[1]力のある者とはされませんでした。あなたはヤレドの兄弟を物を書き記す力のある者とされたので、彼の書き記したことはあなた御自身のように力強く、それを読む者を圧倒するほどのものとなりました。

25 あなたはまた、わたしたちの言葉を力強くまた大いなるものとし、わたしたちがそれを書き記せないほどのものとされました。そのため、わたしたちは書き記すときに、わたしたちの弱さを知り、またわたしたちの言葉の用法を誤ってしまいます。ですから、異邦人がわたしたちの言葉を[1]あざけるのではないかと心配です。」

26 わたしがこのように言うと、主はわたしに言われた。「愚か者は[1]あざけるが、後に嘆き悲しむ。わたしの恵みは柔和な者に十分であり、彼らがあなたの弱さに付け込むことはない。

27 もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の[1]弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを[2]与える。わたしの前に[3]へりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは[4]十分であ

---

21 ① エテ 3・25–26
② エテ 3・20、教義 67・
10–13 ① エノ 1・13
22 ① モル 8・17、9・33
② ニフ 2・33・1
23 ① GS「言葉・言語」
24 ① 1コリ 2・14
25 ① ガラ 6・7
26 ① ヤコ 4・7
② 出エ 4・11、1コリ 2・27
1 ③ ルカ 18・10–14、教義 28、GS「謙遜」
1 ④ GS「恵み」

る。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。

28 見よ、わたしは異邦人に彼らの弱さを示し、また信仰と希望と慈愛が彼らをわたしのもとに、すなわち、あらゆる義の源に導くことを彼らに示そう。」

29 わたしモロナイは、これらの御言葉を聞くと慰めを得て言った。「おお、主よ、あなたの義の御心が行われますように。わたしはあなたが人の子らのために、彼らの信仰に応じて働かれることを存じています。

30 ヤレドの兄弟がゼリン山に向かって、『移れ』と言うと、移りました。もし彼に信仰がなかったならば、移らなかったでしょう。ですから、人々が信仰を持った後に、あなたは働かれます。

31 このようにあなたは、弟子たちに御自身を現されました。彼らが信仰を持ち、あなたの御名によって語った後に、あなたは大いなる力をもって彼らに御自身を現されました。

32 わたしはまた、あなたの言われたことを覚えています。あなたは御父の住まいの中に、人のために住む所を用意したと言われました。人がもっと大きな希望を持てるようにするためでした。ですから、人は希望を持たなければなりません。さもなければ、あなたの用意してくださった場所に受け継ぎを得ることができません。

33 さらに、わたしはあなたの言われたことを覚えています。あなたは、世のために御自分の命を捨てるほどこの世を愛したと言われました。あなたは再び御自分の命を得て、人の子らのための場所を用意するために、御自分の命を捨てられたのです。

34 あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。ですから、人は慈愛を持たなければ、あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません。

35 ですから、あなたの言われたこのことから、もし異邦人がわたしたちの弱さを見て慈愛を持たなければ、あなたは彼らを試し、彼らのタラントを、彼らがすでに得ているものまでも取り上げて、もっと豊かに持っている者たちに与えられるということが分

---

27 ⑤ ルカ 9・46–48、2コリ 12・9
28 ① モロ 7・39–47
① 1コリ 13・1–13、マタ 17・20、ヤコ 4・6、ヒラ 10・6、9、GS「力」
30 ① モロ 7・27、教義 72・4、98・18
31 ① GS「信仰」
32 ① ヨハ 14・2、エノ 1・27、教義 72・4、98・18
② GS「希望」
33 ① ヨハ 3・16–17
34 ① モロ 7・47、GS「愛」
「慈愛」
35 ① マタ 25・14–30、GS「賜物」「タラント」

かります。」

36 そしてわたしは、異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに[1]恵みを授けてくださることを主に祈った。

37 そこで主はわたしに言われた。「たとえ彼らに慈愛がなくても、あなたにとっては問題ではない。あなたは忠実であったので、あなたの衣は清くされるであろう。また、あなたは自分の弱さを[2]認めたので、強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。」

38 さて、わたしモロナイは、キリストの[1]裁きの座の前で会うときまで、異邦人とわたしの愛する同胞に別れを告げる。その裁きの座の前で、すべての人は、わたしの衣があなたがたの血で[2]汚れていないことを知るであろう。

39 またそのとき、あなたがたはわたしがイエスにま[1]みえたことと、イエスが[2]顔と顔を合わせてわたしと話をされたことと、人が人に語るようにまったく謙遜に、イエスがわたしの言語でわたしにこれらのことについて話されたことを知るであろう。

40 しかし、わたしは物を書き記す力が弱いので、少ししか書き記さなかった。

41 わたしは、預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを[1]求めるように、あなたがたに勧めたい。そうすれば、父なる神と主イエス・キリストと、この御二方のことを[2]証される聖霊の恵みが、とこしえにあなたがたの内にとどまるであろう。アーメン。

第13章

エテル、ヨセフの子孫によって新エルサレムがアメリカに築かれることを述べる。エテルは預言し、追い出され、ヤレド人の歴史を書き記し、ヤレド人の滅亡を予告する。全地で激しい戦争が起こる。

1 さて、わたしモロナイは、これまでこの民のことを書き記してきたが、民の滅亡についてのわたしの記録を続けて、これを終えることにしよう。

2 見よ、彼らはエテルの言葉をことごとく拒んだ。エテルは、人の始まりからの一切のことを実際に彼らに告げた。[1]水がこの地の面から引いた後、この地がほかのあらゆる地に勝ったえり抜きの地、すなわち主の選ばれた土地になったので、主はこの地の面

---

36 ① GS「恵み」
37 ① 教義38・42、88・74−75、135・4−5
38 ① エテ12・27
② GS「イエス・キリスト−裁き」
39 ① ヤコ1・19
② GS「イエス・キリスト−死後の現れ」
41 ① 創世32・30、出エ33・11
② 教義88・63、101・38
第13章
2 ① 創世7・11−24、8・3
3 ニフ11・32

に住むすべての人に、御自分に仕えることを望まれたと、エテルは告げた。

3 またこの地は新エルサレムが天から降って来る場所であり、主の聖所であると、彼は告げた。

4 見よ、エテルはキリストの時代を目にし、またこの地の新エルサレムについて述べた。

5 彼はイスラエルの家と、リーハイが出て来るエルサレムについても述べた。エルサレムは破壊された後、主のために聖なる都として再び築かれる。したがって、それは昔存在していたので、新しいエルサレムではあり得ないが、それは再び築かれて、主の聖なる都となる。それはイスラエルの家のために築かれる。

6 また新エルサレムは、ヨセフの子孫の残りの者のためにこの地に築かれる。このことについてはすでに予型があった。

7 ヨセフは自分の父をエジプトの地に導いたので、父はそこで死んだ。そして主は、ヨセフの父が滅びないように、彼に憐れみをかけられたと同様に、ヨセフの子孫が滅びないように、彼らに憐れみをかけ、ヨセフの子孫の残りの者をエルサレムの地から導き出された。

8 ヨセフの家の残りの者は将来この地で増えて、この地は彼らの受け継ぎの地となる。そして、彼らは主のために昔のエルサレムのような聖なる都を築く。また、彼らはもはや乱されることはなく、終わりが来て大地が過ぎ去る。

9 しかも、新しい天と新しい地がある。その天と地は以前のものに似ている。ただ以前のものは過ぎ去り、すべてのものが新しくなるだけである。

10 その後、新エルサレムが成る。そこに住む者たちは幸いである。彼らの衣は小羊の血によって白いからである。彼らは、イスラエルの家に属するヨセフの子孫の残りの者の中に数えられる者たちである。

11 またそのときに、昔のエルサレムも成る。そこに住む者たちは幸いである。彼らは、小羊の血によって洗われているからである。彼らは散らされた後に、地の四方および北の地方から集められた者たちであり、神が彼らの先祖アブラハムと交わされた聖約を果たされるときに、それにあずかる者たちである。

12 これらのことが起こるときに、先にいた者で後に

---

2 ① エテ2・8
2 ② ニフ20・22、21・23—24、GS「新エルサレム」
3 ① ニフ1・18—20
3 ② GS「エルサレム」
4 ① 黙示3・12、21・2
4 ② GS「シオン」
5 ① ニフ1・18—20
5 ② GS「エルサレム」
6 ① 黙示21・10、3・ニフ20・29—36
6 ② 教義42・9、45・66—67、84・2—5、箇条10
6 ③ GS「ヨセフ（ヤコブの息子）」
7 ① 創世46・2—7、47・24、GS「象徴」
7 ② GS「アブラハムの聖約（契約）」
8 ① ニフ3・5
8 ② GS「約束の地」
9 ① モロ10・31
9 ② 2ペテ3・10—13、黙示21・1、教義101・23—25、3ニフ26・3
10 ① 黙示7・14、1ニフ12・10—11、教義133・26—35
11 ① アル5・27
11 ② GS「イスラエル—イスラエルの集合」
12 ① マコ10・31、1ニフ13・42、ヤコ5・63、教義90・9

なる者がおり、また後にいた者で先になる者がいる、という聖文が事実となる。

13 わたしはもっと書き記そうとしたが、そうすることを禁じられた。エテルの預言は大いなる驚くべきものであった。ところが民は、彼を取るに足りない者と見なして、追い出してしまった。そこで彼は日中は岩の洞穴に身を隠し、夜に出て行って、民に及ぶ様々な出来事を見た。

14 また彼は岩の洞穴に住んでいたときに、民に及んだ滅亡を夜の間に見て、この記録の残りの部分を記した。

15 さて、彼が民の中から追い出されたその年に、民の中に大きな戦争が始まり、力のある者たちが多く立って、前に述べた悪事の秘密のはかりごとによって、コリアンタマーを滅ぼそうとした。

16 ところがコリアンタマー自身も、あらゆる戦術と世のあらゆる悪知恵を研究していたので、自分を滅ぼそうとした者たちを攻めた。

17 しかし彼は悔い改めなかった。また、彼の麗しい息子たちや娘たちも、コーホルの麗しい息子たちや娘たちも、コリホルの麗しい息子たちや娘たちも、要するに全地の面にいる麗しい息子たちと娘たちはだれ一人、自分の罪を悔い改めなかった。

18 さて、エテルが岩の洞穴に住むようになった最初の年に、王位を得ようとしてコリアンタマーと戦った、あの[1]秘密結社の者たちの剣で殺された者がたくさんいた。

19 そして、コリアンタマーの息子たちは大いに戦い、ひどく傷ついた。

20 そして、第二年に主の言葉がエテルに下り、コリアンタマーのもとに行って預言するようにと言われた。その預言は次のとおりである。すなわち、もし彼と彼の家のすべての者が悔い改めるならば、主は彼に王位を与え、民の命を救われる。

21 さもなければ、彼らは滅ぼされ、彼の家のすべての者も彼一人を除いて全員が滅ぼされる。そして、彼はただ一人生き長らえて、この地を受け継ぎとして受ける[1]別の民について前に述べられている預言が成就するのを見る。その後、コリアンタマーは彼らによって葬られる。[2]コリアンタマーを除いてすべての者が滅ぼされる。

22 さて、コリアンタマーも、彼の家の者たちも、民

---

18 ① エテ 8・9–26
20 ① エテ 12・1–2
21 ① オム 1・19–21、エテ 15・29–32
② 11・21

も悔い改めず、戦争はやまなかった。そして、民は
エテルを殺そうとした。しかし、彼は民の前から逃
げて、再び岩の洞穴に隠れた。
23そして、シェレドが立って、彼もコリアンタマー
を攻めた。そして、シェレドはコリアンタマーを打
ち負かし、第三年に彼を囚われの身に陥れた。
24しかし、第四年にコリアンタマーの息子たちがシ
エレドを打ち負かし、父のために王位を取り戻した。
25さて、地の全面で戦争が始まり、男は皆それぞれ
自分の仲間とともに、自分の望みを遂げようとして
戦った。
26また、強盗もいた。要するに、地の全面であらゆ
る悪事が行われていた。
27さて、コリアンタマーはシェレドのことを非常に
怒り、軍隊を伴って彼と戦うために出て行った。そ
して、両者はひどい怒りを抱いて出会い、ギルガル
の谷で戦いを交えた。その戦いは非常に激しいもの
となった。
28そしてシェレドは、三日間コリアンタマーと戦っ
た。その後、コリアンタマーは彼を打ち負かし、ヘ
シロンの平原に着くまで追撃した。
29そこでシェレドはその平原でまたコリアンタマー
と戦い、見よ、今度は彼を打ち負かして、ギルガル
の谷までまた追い返した。
30そしてコリアンタマーはギルガルの谷でまたシェ
レドと戦い、彼を打ち負かして殺してしまった。
31しかし、コリアンタマーはシェレドのためにもも
を負傷した。そのために、彼は二年間戦いに出なか
った。その間、地の面で民は皆、血を流し続け、そ
れを止める者はだれもいなかった。

第14章

民の罪悪が地にのろいを招く。コリアンタマー、ギ
レアデと戦い、次いでリブと戦い、シズと戦う。流血
と虐殺が地を覆う。

1さて、民の罪悪のために、全地にひどいのろいが
下り始めた。人が自分の道具や剣を棚の上か、それ
を保管しておく場所に置いておくと、見よ、翌日に
はそれを見つけることができなかったほど、地に下
ったのろいはひどかった。[1)]
2そこで、人は皆、自分のものをしっかりと手に握

第14章
1 ① 23、モル1・17－18、13・17－10－14
ヒラ12・18、2・

り締め、借りようとも貸そうともしなかった。そして男は皆、自分の財産と命と妻子を守るために、いつも右手に剣の柄を握っていた。
3 さて、シェレドが死んだ後二年たって、見よ、今度はシェレドの兄弟が立ち、コリアンタマーを攻めた。しかし、コリアンタマーは彼を打ち負かし、エーキシの荒れ野まで彼を追撃した。
4 そこでシェレドの兄弟は、エーキシの荒れ野で彼に攻めかかって来た。そして、戦いは非常に激しくなり、何千人も剣で倒れた。
5 そこでコリアンタマーは荒れ野を包囲した。しかし、シェレドの兄弟は夜に紛れて荒れ野から出て来て、コリアンタマーの軍隊の一部が酒に酔っていたので、彼らを殺した。
6 そして彼はモロンの地へ進んで行って、コリアンタマーの王座に上った。
7 そこで、コリアンタマーは二年間、軍隊とともに荒れ野の中で暮らし、大きな兵力を加えた。
8 シェレドの兄弟はその名をギレアデといい、秘密結社のおかげで彼もまた軍隊に大きな兵力を加えた。
9 さて、彼が王座に着いていたときに、彼の大祭司が彼を殺してしまった。
10 そして、秘密結社に属する者の一人が、間道でその大祭司を殺し、王位を奪った。この男の名はリブといった。リブは非常に背丈の高い男で、民の中のだれよりも高かった。
11 さて、リブの治世第一年に、コリアンタマーはモロンの地へ上って行き、リブを攻めた。
12 そして、彼はリブと戦ったが、リブに腕を打たれて負傷した。しかし、コリアンタマーの軍隊がリブに攻めかかったので、リブは海岸の境の地へ逃げて行った。
13 そこでコリアンタマーは彼を追撃した。するとリブは、海岸で彼に攻めかかって来た。
14 そして、コリアンタマーの軍隊はリブに打たれ、またもやエーキシの荒れ野に逃げた。
15 そして、リブはコリアンタマーをエーゴシの平原に着くまで追撃した。しかし、コリアンタマーはリブに追われて逃げながら、自分の逃げた地方の民をことごとく引き連れて行った。
16 そして彼はエーゴシの平原に着くと、リブに攻め

かかり、彼を討って、とうとう殺してしまった。ところが、今度はリブの兄弟がリブに代わってコリアンタマーを攻め、戦いは非常に激しくなった。そして、コリアンタマーはまたもやリブの兄弟の軍隊の前から逃げた。

17リブの兄弟の名はシズと呼ばれた。シズはコリアンタマーの後を追い、多くの町を滅ぼし、女も子供も殺し、幾つもの町を焼いた。

18そして、シズに対する恐れが全地に広がり、「だれがシズの軍隊の前に立てようか。見よ、シズは地を荒らして行く」という叫び声が全地に広がった。

19さて、民は地の全面で群れを成し、幾つもの集団となった。

20そして、彼らは分かれ、ある者たちはシズの軍隊へ逃げ込み、またある者たちはコリアンタマーの軍隊へ逃げ込んだ。

21戦争は大規模で、長期間続き、また流血と虐殺の有様が久しく続いたので、地の全面に死体が散乱していた。

22また、戦争は急激で速やかであったことから、残って死者を葬る者がなく、彼らは流血から流血へと進んで行き、男女子供の区別なく死体が地の面に散乱したまま、肉に付くうじのえさになるに任された。

23そして、そのにおいが地の面に、すなわち地の全面に広がったので、民は昼も夜もそのにおいに悩まされた。

24それでもシズは、コリアンタマーを追撃するのをやめなかった。それは彼が、殺された自分の兄弟の血のために、コリアンタマーに報復すると誓っていたからであり、またコリアンタマーが剣によって倒れることはないという主の言葉が、エテルに下されていたからである。

25これによって分かるように、主は限りない怒りをもって彼らを罰せられた。そして、彼らは悪事と忌まわしい行いによって、自分たちの永遠の滅亡の道を備えていたのである。

26さて、シズはコリアンタマーを追いかけて東の方向へ、海岸に近い境の地まで進んでいた。すると、そこでコリアンタマーがシズに攻めかかり、三日間戦った。

27そして、シズの軍隊の被った損害が非常にひどか

---

21 ① エテ11・6
22 ① イザ14・9–11

ったため、民はおびえて、コリアンタマーの軍隊の前から逃げ始めた。そして彼らはコリホルの地まで逃げ、その途中で、自分たちに合流しようとしない民をことごとく滅ぼした。

28 それから彼らはコリホルの谷に天幕を張った。一方コリアンタマーはシャーの谷に天幕を張った。シャーの谷はコムノルの丘に近かった。そこで、コリアンタマーはコムノルの丘の上に軍隊を集め、シズの軍隊を戦いに誘い出すために、彼らに向かってラッパを吹き鳴らした。

29 そこで彼らは出て来たが、また撃退された。そして、再度出て来たが、再び撃退された。それから、彼らが三度目に出て来ると、戦いは非常に激しくなった。

30 そして、シズはコリアンタマーを打ち、多くの深手を負わせた。そのため、コリアンタマーは血を失って意識をなくし、まるで死んだ者のように運び去られた。

31 さて、両軍ともに男女子供の区別なく死者が非常に多かったので、シズは民に、コリアンタマーの軍隊を追わないように命じた。そこで、彼らは自分たちの宿営に引き返した。

第15章

数百万人のヤレド人、戦いで死ぬ。シズとコリアンタマー、民をことごとく集めて決戦に備える。主の御霊、民を励ますのをやめる。ヤレド人の国は完全に滅びる。コリアンタマー、ただ一人生き残る。

1 さて、コリアンタマーは傷が快復すると、エテルが告げた言葉を思い出した。

2 彼は、民が二百万人ほど剣で殺されたのを見て、心の中で嘆いた。また、二百万人の屈強な男だけでなく、彼らの妻子も殺されていた。

3 彼は自分がこれまで行ってきた悪事を悔い改め始め、すべての預言者たちの口を通して述べられてきた御言葉を思い出した。彼はこれまでそれらの預言がことごとく成就したのを見て、嘆き悲しみ、決して安らぐことはなかった。

4 そして、彼はシズに手紙を書き、民の命を助けてほしい、そうすれば民の命の代わりに王位を譲ろうと告げた。

第15章
1 ① エテ13・20－21

5そこでシズは、コリアンタマーの手紙を受け取ると返事を書き、もしコリアンタマー自身がシズの剣で殺されるためにその身を引き渡すならば、民の命を助けると告げた。
6さて、民は罪悪を悔い改めなかった。そして、コリアンタマーの民はシズの民に対して怒りをかき立てられ、シズの民もコリアンタマーの民に対して怒りをかき立てられた。そこでシズの民は、コリアンタマーの民に攻めかかった。
7コリアンタマーは自分がまさに敗れそうであるのを見て、またもやシズの民の前から逃げた。
8そして、彼はリプリアンクムの海に着いた。リプリアンクムとは、広大な、すなわち、すべてをしのぐという意味である。彼らはこの海に着くと、天幕を張った。シズもまた彼らの近くに天幕を張った。そして翌日、彼らは戦いに出た。
9そして、彼らは非常に激しく戦い、コリアンタマーはまた負傷し、血を失って意識をなくした。
10さて、コリアンタマーの軍隊はシズの軍隊を攻め立てて打ち負かし、彼らを敗走させた。そして、シズの軍隊は南方に逃げて、オーガスと呼ばれた場所に天幕を張った。
11そして、コリアンタマーの軍隊は、ラマの丘の近くに天幕を張った。その丘は、わたしの父モルモンが主に託して神聖な記録を[1]隠したあの丘である。
12そして彼らは、それまでに殺されなかった地の全面の民を、エテルを除いてことごとく集めた。
13さて、エテルは民の行ったことをすべて見た。彼は、コリアンタマーに味方する者がコリアンタマーの軍隊に集まり、シズに味方する者がシズの軍隊に集まるのを見た。
14彼らは四年の間、地の面にいるすべての者を集めて、得られるかぎりの兵力をすべて得ようと、民を集め続けた。
15そして、すべての者が妻子を伴い、それぞれ自分の望む軍隊に集まった。男も女も子供も、武器で身を固め、盾と[1]胸当てとかぶとを身に着け、戦いのいでたちで集まった。それから彼らは、戦うために互いに進軍し、一日中戦ったが、勝負がつかなかった。
16そして夜になると、彼らは疲れ果てて、それぞれの宿営に引き揚げた。そして彼らは宿営に引き揚

11① モル6・6
15① モサ8・7—10

げた後、民の殺された者たちのために泣き叫び、悲しんだ。彼らの泣き叫び、悲しむ声は非常に大きく、大気を激しくつんざくほどであった。
17そして翌日、彼らはまた戦いに出た。その日は大変な恐ろしい日であったが、それでも勝負がつかなかった。そして、また夜がやって来ると、彼らは民の殺された者たちのために泣き叫び、悲しむ声が大気をつんざくほどであった。
18そこでコリアンタマーは、再びシズに手紙を書いて、もう戦いに出て来ないように、王位を譲ってよいので民の命を助けてほしいと告げた。
19しかし見よ、主の御霊は民を励ますのをやめており、サタン[1]が民の心を完全に支配していた。そして彼らは心をかたくなにし、思いをくらませるに任され、滅びに至るようにされたのである。そこで彼らは、またもや戦いに出て行った。
20そして、彼らは一日中戦い、夜になると、剣を手にしたまま眠った。
21翌日も、彼らは夜になるまで戦った。
22夜になると、彼らはまるでぶどう酒に酔っている者のように、怒りに酔った。そして、また剣を手にしたまま眠った。
23その翌日、彼らはまた戦った。そして、夜になったときには、五十二人のコリアンタマーの民と六十九人のシズの民を除いて、全員が剣で倒れていた。
24そしてこの残った者たちは、その夜も剣を手にしたまま眠り、翌日、再び戦った。彼らは剣と盾をもって、一日中、力の限り戦った。
25そして、夜になったときには、シズの民が三十二人で、コリアンタマーの民が二十七人になっていた。
26そこで彼らは食べて眠り、翌日の死に備えた。彼らは体の大きな、体力のある男たちであった。
27そして、彼らは三時間戦い、血を失って意識をなくした。
28さて、コリアンタマーの兵たちは、力を得て歩けるようになると、命を惜しんで逃げ出そうとした。ところが見よ、シズと彼の兵たちは立ち上がり、シズはコリアンタマーを殺す、そうでなければ剣で死ぬと、怒って誓いを立てた。
29そのため、彼はコリアンタマーの民を追いかけて、翌日彼らに追いつき、彼らはまた剣で戦った。

---

19 ① GS「悪魔」
22 ① モロ 9・23

そして、コリアンタマーとシズを除く全員が剣で倒
れた後、見よ、シズは血を失って意識をなくした。
30そこでコリアンタマーは、自分の剣に寄りかかっ
て少し休んでから、シズの首を打ち落とした。
31そして、彼がシズの首を打ち落としたところ、シ
ズは両手で身をもたげてから倒れ、息をしようとも
がいた後に死んだ。
32そして、コリアンタマーも地に倒れ、まるで死ん
だ者のようになった。
33そこで、主はエテルに、「出て行きなさい」と言わ
れた。そして、エテルは出て行くと、主の言葉がこ
とごとく成就したのを見た。そして、彼は記録を書
き終えて（わたしはその百分の一も書いていない）、
それを隠し、後にリムハイの民がそれを発見したの
である。
34エテルの書き記した最後の言葉は、次のとおりで
ある。「主がわたしの身を変えてわたしを天に移す
ことを望まれようと、あるいはわたしが肉にあって
生き長らえ、主の御心に従うことを望まれようと、
わたしは神の王国に救われるのであれば、それはど
うでもよい。アーメン。」

29 ① エテ13・20–21
32 ① オム1・20–22
33 ① モサ8・9、アル37・31、エテ1・1–5
34 ① エテ12・2

モロナイ書

第1章

モロナイ、レーマン人のために書き記す。キリストを否定しないニーファイ人は殺される。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 さて、わたしモロナイはヤレドの民の話を短くまとめ終えた後、もうこれ以上は書き記さないと思ったが、わたしはまだ命を失っていない。わたしはレーマン人に殺されないために、わたしのことを彼らに知られないようにしている。
2 見よ、レーマン人同士の戦争が今非常に激しい。また、彼らは憎しみのために、キリストを否定しないニーファイ人をすべて殺している。
3 わたしモロナイはキリストを否定しないので、命の安全を得られる場所を求めてさまよっている。
4 さて、わたしは以前の思いとは違って、もう少し書き記すことにする。わたしはもう書き記さないと思っていたが、主の御心のままに、将来いつかわたしの同胞であるレーマン人のために価値をもたらすと思われることを、もう少し書き記すことにする。

第2章

イエス、聖霊の賜物を授ける力を十二人のニーファイ人の弟子たちに与えられる。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 キリストが御自分の選ばれた十二人の弟子たちに手を置かれたとき、彼らに言われた御言葉は次のとおりである。
2 キリストは彼らの名を呼んで言われた。「わたしの名によって熱烈に祈って父に請い願いなさい。あなたがたはこのように行った後に、あなたがたが手を置く者に聖霊を授ける力を持つであろう。わたしの名によって聖霊を授けなさい。わたしの使徒たちはこのように行うからである。」
3 キリストは初めてその御姿を現されたとき、彼らにこれらの御言葉を語られた。群衆はこれを聞かず、弟子たちだけがこれを聞いた。そして、彼ら

モロナイ書
第1章
1 ① GS「モロナイ（モルモンの息子）」
② ① 1ニフ12・20−23
2 ① アル45・14
② ① マタ10・32−33、3ニフ29・5
第2章
1 ① 3ニフ13・25
2 ① GS「按手」
② 3ニフ18・37
③ GS「力」

が手を置いたすべての者に聖霊が降られた。

第3章

長老たち、按手によって祭司と教師を聖任する。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 教会の長老と呼ばれた弟子たちが祭司と教師を聖任した方法は、次のとおりである。
2 彼らはキリストの名によって御父に祈った後、聖任を受ける者に手を置いて言った。
3 「イエス・キリストの御名によって、わたしはあなたを祭司に聖任し（もし教師であるならば、あなたを教師に聖任し）、悔い改めを宣べ伝える者、また最後までイエス・キリストの御名を信じ続ければ、イエス・キリストを通じて罪の赦しが得られることを宣べ伝える者とします。アーメン。」
4 このような方法で、彼らは人々に授けられる神の賜物と召しに応じて祭司と教師を聖任した。彼らは、自分たちの内にある聖霊の力によって聖任した。

第4章

長老と祭司が聖餐のパンを祝福する方法についての説明。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 長老と祭司が、教会員にキリストの肉と血を分け与えた方法は、次のとおりである。彼らがキリストの命じられたとおりに執行したので、わたしたちはこの方法が正しいことを知っている。長老または祭司がそれを執行した。
2 彼らは教会員とともにひざまずき、キリストの名によって御父に祈って言った。
3 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このパンを頂くすべての人々が、御子の体の記念にこれを頂けるように、また、進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように、このパンを祝福し、聖めてください。アーメン。」

---

3 ① 使徒19・6

第3章

1 ① 「長老」 ア ル6・1、GS「長老」
② GS「聖任」
3 ① GS「罪の赦し」
② GS「賜物」
4 ① GS 教義18・32、20・60
② 1ニフ13・37、モロ6・9
③ 3ニフ18・1－7
教義20・76－77
③ GS「聖餐」
3 ① ルカ22・19、1コリ11・23－24、3ニフ18・7
② GS「イエス・キリストの御名を受ける」
③ GS「聖霊」

第4章

第5章

聖餐のぶどう酒を祝福する方法についての説明。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 ぶどう酒を分け与えた方法[1]は、次のとおりである。見よ、彼らは器を取って言った。

2 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このぶどう酒[1]を頂くすべての人々が、この人々のために流された御子の血の記念[2]にこれを頂けるように、また、いつも御子を覚えていることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、御子の御霊を受けられるように、このぶどう酒を祝福し、聖めてください。アーメン。」

第6章

悔い改めた人々は、バプテスマを受けて教会員になる。悔い改める教会員は赦される。集会は聖霊の力によって行われる。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 次にバプテスマ[1]について述べよう。見よ、長老、祭司、教師たちはバプテスマを受けた。しかし彼らは、バプテスマを受けるに値するふさわしい実を結[2]ばなければ、バプテスマを施されなかった。

2 また彼らは、打ち砕かれた[1]心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたことを教会員に証明した者でなければ、だれにもバプテスマを認めなかった。

3 また、最後までキリストに仕える決心をしてキリストの名を受け[1]た者でなければ、だれもバプテスマを認められなかった。

4 そして人々はバプテスマを認められ、聖霊の力が働いて清められ[1]ると、キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録[2]された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ、彼らの信仰の創始者[1]であり完成者であるキリストの功徳にだけ頼[5]らせるためである。

5 教会員[1]は断食[2]し、祈るため、また人の幸いについて互いに語り合うために[3]しばしば集まった。

6 また、主イエスを記念してパンとぶどう酒を頂く

第5章
1 ① 3ニフ18・8－11、教義20・78－79
2 ① 教義27・2－4、GS「聖餐」
② ルカ22・19－20、1コリ11・25

第6章
1 ① GS「バプテスマ」
2 ① GS「ふさわしさ」
② GS「打ち砕かれた心」
3 ① GS「イエス・キリストー御名を受ける」
4 ① GS「清さ」
② 教義20・82、3ニフ27・20
③ アル34・39、3ニフ18・15－18
④ ヘブ12・2
⑤ 2ニフ31・19、教義88・76
5 ① GS「イエス・キリストの教会」
② GS「断食」
③ 3ニフ18・22、4ニフ1・12、教義88・76

ためにしばしば集まった。
7また彼らは、自分たちの中に決して罪悪があってはならないということを厳密に守った。そして、ある者たちが罪悪を犯したことが分かり、教会員の三人の証人が長老たちの前でその者たちを罪があるとし、もしその者たちが悔い改めず告白もしなければ、彼らの名は消されて、彼らはキリストの民の中に数えられなかった。
8しかし、悔い改めて真心から赦しを求めた者は、その度に赦された。
9また教会員の集会は、御霊の働くままに、聖霊の力によって教会員が指導した。教えを説くことも、勧めることも、祈ることも、請い願うことも、歌うことも、聖霊の力によって導かれるままに行われた。

第7章

主の安息に入るようにとの招き。真心から祈ること。キリストの御霊は人が善悪をわきまえることができるようにする。サタンはキリストを否定して、悪を行うように人に説き勧める。預言者たち、キリストの来臨について明らかにする。信仰によって奇跡が行われ、天使は教え導く。人は永遠の命を望み、慈愛を固く守らなければならない。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1さて、わたしモロナイは、父モルモンが信仰と希望と慈愛について述べた言葉を少々書き記しておく。父は、民が礼拝の場所として建てた会堂で彼らを教えたとき、次のように述べた。
2「さて、わたしモルモンは、愛する同胞であるあなたがたに話したい。父なる神とわたしたちの主イエス・キリストの恵みにより、また主がわたしに召しの賜物をお与えくださったので、主の聖なる御心により、わたしは今あなたがたに語る機会を得ている。
3そこでわたしは、教会に属しているあなたがた、すなわち、今から後、天で主とともに安息を得るときまで、キリストに穏やかに従い、主の安息に入れるという十分な望みを得ているあなたがたに、話したいと思う。
4わたしの同胞よ、わたしは、あなたがたが人の子

1①コリ13・1－13、エテ12・3－22、27－37、モロ8・14、GS「召し」・10・20－23神の召し」
2①GS「安息」
3①教義20・54
②教義42・80－81、GS「証人・証」
③アル6・1、GS「長老」
④GS「告白」
⑤出エ32・33、教義20・83、GS「破門」
8①モサ26・30－31
②GS「赦し」
9①GS「聖霊」
②教義20・45、46・2

第7章

らと穏やかに交わって暮らしているので、あなたがたのことをこのように判断している。

5 わたしは、『あなたがたはその行いによって彼らを見分ける[1]のである』と言われた神の御言葉を覚えているからである。彼らの行いが善ければ、彼らも善い。

6 見よ、神は、『悪い[1]者は善いことを行えない』と言われた。人はささげ物をしても、神に祈[2]っても、真心からしなければ、その人にとって何の役にも立たない。

7 見よ、それは彼にとって義と認められないからである。

8 見よ、悪い[1]者はささげ物をしても、惜しみながら[2]するので、ささげ物をしなかったと同じように見なされる。したがって、神の御前で悪と見なされる。

9 それと同様に、人が真心[1]の伴わない祈りをするならば、それはその人にとって悪と見なされる。そして、それはその人にとって何の役にも立たない。神はそのような祈りを受け入れられないからである。

10 したがって、悪い者は善いことを行えず、また良い贈り物もしない。

11 見よ、苦い泉[1]は良い水を出せないし、良い泉も苦い水を出せない。そこで、悪魔の僕になっている者は、キリストに従うことができない。もしキリスト[2]に従うとすれば、悪魔の僕ではあり得ない。

12 したがって、善いもの[1]はすべて神から出て、悪い[2]ものは悪魔から出る。悪魔は神に対する敵であって、絶えず神と戦い、また人を誘い、そそのかして罪[3]を犯させ、いつも悪いことを行わせようとする。

13 しかし見よ、神から出るものはいつも善を行うように誘い、促す。したがって、善を行い、神を愛し、神に仕えるように誘い、[1]促すものはすべて、神の霊[2]感を受けているのである。

14 さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは悪[1]いものを神から出たと思わないように、あるいは善いもので神から出ているものを、悪魔から出たと思わないように気をつけなさい。

15 見よ、わたしの同胞よ、善悪をわきまえることができるように、物事を判断[1]することはあなたがたに任されている。そして、その判断の方法は明らかであり、善悪の違いは昼が闇夜と違うように、完全に

---

5 ①ニフ14・15—20
6 ①マタ7・15—18
6 ②アル34・28、GS「祈り」
8 ①箴言15・8
8 ②教義64・34
9 ①新ヤコ1・6—7、
9 ②モロ10・4
11 ①新ヤコ3・11—12
11 ②マタ6・24、2ニフ
12 ①31・10—13、教義56・2
12 ②新ヤコ1・17、1ヨハ4・1—2、エテ4・
12 ③アル5・39—42
12 ④ヒラ6・30、GS「罪」
13 ①2ニフ33・4、エテ
13 ②8・26、GS「霊感」
14 ①イザ5・20、2ニフ
15 ①15・20、GS「識別の賜物」

理解してわきまえることができる。

16 見よ、1)善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。2)善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。

17 しかし、1)悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないように、人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。

18 さて、わたしの同胞よ、あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知っているので、誤って裁かないように注意しなさい。1)あなたがたが裁くその2)裁きで、あなたがたも裁かれるからである。

19 そこでわたしは、同胞であるあなたがたに、善悪をわきまえることができるように、キリストの光の1)中で熱心に求めることを切に勧める。もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。2)

20 さて、わたしの同胞よ、どのようにすればあなたがたは、善いものをことごとく手にできるのであろうか。

21 ここで、わたしが話したいと前に言った信仰に行き着くのである。では、あなたがたが善いものをことごとく手にできる方法について話そう。

22 見よ、神は永遠から永遠にわたって存在し、すべてのことを御存じであるために、見よ、2)天使たちを遣わして、人の子らを教え導き、キリストの来臨について明らかにされた。キリストにあって、善いものがことごとく来るのである。

23 また神は、キリストが来られることを御自身の口を通して、預言者たちに宣言された。

24 見よ、いろいろな方法によって、神は人の子らに善いものを明らかにされた。そして、善いものはす

---

16 ① 創世3・5、2ニフ3・5、18、26、モサ16・29・5、ヒラ14・31 ② GS「光・キリストの光」「良心」

17 ① GS「罪」

18 ① モサ16・9、教義50・24、88・7—13、GS「光・キリストの光」

19 ① 教義84・45—46 ② JSマタ7・1—2、ルカ6・37、ヨハ7・24

22 ① モサ15・10—12、27・25、GS「神の息子・娘」 ② GS「神・神会」モセ5・58、GS「天使」

べてキリストから来る。そうでなければ、人は堕落[1]した状態になったので、善いものはまったく人に及ばなかったことであろう。

25 さて、[1]天使の働きによって、また神の口から出る一つ一つの御言葉によって、人はキリストを信じるようになった。その結果、信仰によって人は善いものをことごとく手にした。キリストの来臨までそうであった。

26 また、キリストが来られた後も、人はキリストの御名を信じる信仰によって救われた。信仰によって人は神の子となっている。キリストが生きておられるように確かに、キリストはわたしたちの先祖にこのように言われた。すなわち、『あなたがたが与えられると信じて、信仰をもってわたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、[1]何でもあなたがたに与えられる。』

27 さて、わたしの愛する同胞よ、キリストは、人の子らに対して持っておられる御自分の[1]憐れみの権利を御父に求めるために、天に昇って神の右の座に着かれたので、[2]奇跡がやんでしまったのであろうか。

28 キリストは律法の目的を達せられた。そして、キリストを信じるすべての者を、御自分に属するものと主張しておられる。また、キリストを信じる者は一切の善いものを[1]固く守るので、キリストは人の子らを[2]弁護してくださる。そして、キリストは永遠に天に住まわれるのである。

29 わたしの愛する同胞よ、キリストがこのように行われたので、奇跡はやんでしまったのであろうか。見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。また天使たちも人の子らに働きかけることをやめてはいない。

30 見よ、天使はキリストに従っており、深い信仰と確固とした心をもって、あらゆる方法で神を敬う者に自分自身を示し、キリストの命じられる御言葉のとおりに教え導いている。

31 天使の務めは、人を招いて悔い改めさせることと、御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行することと、主の選ばれた器にキリストの御言葉を告げ知らせることによって彼らがキリストについて証を述べるようにして、人の子らの中に道を備えることである。

32 このようにして、主なる神は道を備えて、残りの

---

24 ① 2ニフ2・5
25 ① アル12・28–30
26 ① 3ニフ18・20、GS「祈り」
27 ① イザ53・12、モサ14・12 ② GS「奇跡」
28 ① ロマ12・9、教義98・11 ② 1ヨハ2・1、2ニフ2・9、GS「弁護者」

人々もキリストを信じる信仰を持ち、聖霊がその力によって彼らの心の中に宿られるようにされるのである。このような方法で、御父は人の子らに立てられた聖約を果たされる。

33 キリストは言われた。『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう』と。

34 また、『地の果てに至るすべての人よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。救われるためにわたしを信じなさい』と、キリストは言われた。

35 さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに話したこれらのことが真実であれば、また神は、これらのことが真実であることを、終わりの日に力と大いなる栄光とをもってあなたがたに示されるであろうが、もしこれらのことが真実であれば、奇跡の日は終わってしまったと言えるであろうか。

36 天使が人の子らに現れることは、終わってしまったのであろうか。神は聖霊の力を人の子らに与えられなくなったのであろうか。時が続くかぎり、大地が存在するかぎり、地の面に救われる人が一人でもいるかぎり、神は聖霊の力を与えるのを控えられるであろうか。

37 見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。奇跡が行われるのは信仰によるからである。天使が人に現れて教え導くのも、信仰による。したがって、もしこれらのことがなくなっているとすれば、それは不信仰のためであり、すべてはむなしいので、人の子らは災いである。

38 キリストの御言葉にあるとおり、キリストの御名を信じなければ、だれも救われないからである。したがって、もしこれらのことがなくなっているとすれば、信仰もなくなっている。そして、人はひどい状態にある。なぜならば、人はまるで贖いがまったくなかったかのような有様になるからである。

39 しかし見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたのことをもっと良い状態にあると判断している。あなたがたが柔和であるのを見て、あなたがたにはキリストを信じる信仰があると思うからである。あなたがたはキリストを信じていなければ、キリストの教会の民の中に数えられるにふさわしくない。

---

32 1 GS「信仰」
33 1 マタ17・20
34 1 教義88・64—65
2 ニフ3・27・20、エテ4・18
35 1 教義35・8
2 ニフ33・11
36 1 モロ10・4—5、7、19
37 1 マタ13・58、モル9・20、エテ12・12—18
39 1 モロ10・19—24
2 GS「ふさわしさ」

40 また、わたしの愛する同胞よ、わたしは希望[1]についてあなたがたに話したいと思う。あなたがたに希望がなければ、どうして信仰が得られるであろうか。

41 また、あなたがたは何を望[1]めばよいのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠[2]の命によみがえることを望[3]まなければならない。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。

42 したがって、もし人に信仰[1]があれば、必ず希望[2]もあるに違いない。信仰のない希望はあり得ないからである。

43 さらに見よ、あなたがたに言う。柔和[1]で心のへりくだった人でなければ、信仰と希望を持つことはできない。

44 たとえ持てたとしても、その人の信仰[1]と希望はむなしいものである。柔和で心のへりくだった人でなければ、神の御前に受け入れられないからである。また、人が柔和で、心がへりくだっており、イエスがキリストであることを聖霊の力によって認[2]めるならば、その人には慈愛が必ずなければならない。慈愛がなければ、その人は何の価値もない。したがって、人には慈愛が必ずなければならない。

45 慈愛[1]は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪事を少しも考えず、罪悪を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。[2]

46 したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

47 しかし、この慈愛[1]はキリストの純粋な愛[2]であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

48 したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う[1]者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈[2]りなさ

40 ① 望」エテ12・4、GS「希
41 ① 教義138・14
② GS「永遠の命」
③ テト1・2、ヤコ4・4、アル25・16、モロ9・25
42 ① GS「信仰」
② モロ10・20
43 ① GS「柔和」
② アル7・24、エテ12・28
44 ① ルカ12・8−9、GS「証」「告白」
② 34
45 ① 1コリ13・1−13
② GS「ねたみ」、GS「慈愛」
47 ① 2ニフ26・30、GS「慈愛」
② ヨシ22・5、GS「愛」
48 ① GS「イエス・キリスト−模範」「従順・従う」
② GS「祈り」

い。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に[3]似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められ[1]て清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。アーメン。」

第 8 章

幼児のバプテスマは邪悪な忌まわしい行いである。幼い子供たちは、贖罪のおかげでキリストによって生きている。信仰、悔い改め、柔和で心のへりくだった状態、聖霊を受けること、最後まで堪え忍ぶこと、これらは人々を救いに導く。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 わたしモロナイにあてて書かれた父モルモン[1]の手紙は、次のとおりである。これは、わたしが神の務めに召されて間もなく、わたしにあてて書かれたものである。父はわたしに次のように述べている。

2 「愛する息子モロナイよ、わたしは、主イエス・キリストがあなたを心にかけ、主の務めに、また主の聖なる業にあなたを召してくださったことを、非常に喜んでいる。

3 わたしは祈る度に、いつもあなたのことを心にかけ、御父の限りない慈しみ[1]と恵み[2]によって、またあなたが最後まで御父の聖なる御子イエスの御名を信じ続ける信仰によって、御父があなたをお守りくださるようにと、御子イエスの御名により父なる神に絶えず祈っている。

4 ところで、わが子よ、わたしが非常に憂慮している事柄についてあなたに述べよう。あなたがたの中に論争[1]が起こるのは、わたしにとって悲しいことである。

5 もしわたしの聞いたことが事実であれば、あなたがたの中には、幼い子供たちのバプテスマについて論争があったということである。

6 わが子よ、わたしが願うのは、あなたが力を尽くして、この大きな過ちがあなたがたの中から取り除かれるようにすることである。わたしがこの手紙を書いたのはそのためである。

7 わたしは、あなたがたのこの状況を聞いた後すぐに、この件について主に尋ねた。すると、主の御[1]

---

1 ① モ言 1・1
3 ① モサ 4・11
GS「恵み」
4 ① ② ニフ 11・22、28、
7 ① 18・34
GS「言葉（神の）」
第8章
48 ③ 1 ヨハ 3・1–3、
3 ニフ 27・27
GS ④ 3 ニフ 19・28–29、
GS「清さ」

言葉が聖霊の力によってわたしに下ってこう言われた。

8 『あなたがたの贖い主、あなたがたの主、あなたがたの神であるキリストの言葉を聴きなさい。見よ、わたしがこの世に来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。[1]健康な人には医者は要らない。要るのは病人である。幼い子供[2]たちは、罪[3]を犯すことができないので[4]健康である。したがって、アダムののろいは、わたしによって彼らから取り去られており、彼らを支配する力を持っていない。また、[5]割[6]礼の律法もわたしによって廃されている。』

9 聖霊がこのように神の御言葉をわたしに明らかにしてくださったので、愛する息子よ、わたしは、幼い子供たちにバプテスマを施すことが、神をひどくあざける行為であることを知っている。

10 見よ、わたしはあなたに言う。あなたがたは[1]責任を負うことができ、罪を犯す可能性のある者に、このこと、すなわち悔い改めとバプテスマについて教えなさい。親たちに、悔い改めてバプテスマを受け、幼い[2]子供たちのようにへりくだらなければならないことを教えなさい。そうすれば、彼らは皆、幼い子供たちとともに救われるであろう。

11 幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない。見よ、バプテスマは悔い改めに導くものであり、[2]罪の赦しを得るための戒めを守ることである。

12 幼い子供[1]たちは、世の初めからキリストによって生きている。もしそうでなければ、神は不公平な神であり、気まぐれな神であり、人を偏[2]り見る御方である。何と多くの幼い子供たちが、これまでバプテスマを受けることなく死んだことであろう。

13 もし幼い子供たちがバプテスマなしでは救われないとすれば、これらの子供たちは無窮の地獄へ行ったに違いない。

14 見よ、わたしはあなたに言うが、幼い子供たちにもバプテスマが必要であると考える者は、苦汁の中におり、罪悪の縄目を受けている。このような者には[1]信仰も希望も慈愛もない。したがって、そのような考えを抱いたまま絶たれることにでもなれば、地獄に下って行かなければならない。

15 ある子供はバプテスマを受けたので神によって救われるが、ほかの子供はバプテスマを受けていない

8 ① マコ 2・17
② マコ 10・13–16
③ GS「罪」
④ モサ 3・16、教義 74・
7 ⑤ 2 ニフ 2・25–27、GS「堕落（アダムとエバの）」
⑥ 創世 17・10–11、GS「割礼」
10 ① GS「責任を負う」
② GS「謙遜」「子供」
11 ① GS「子供」「バプテスマ」「資格」
② GS「罪の赦し」
12 ① 教義 29・46–47、93・
② 38 エペ 6・9、2 ニフ 26・33、教義 38・16
14 ① 1 コリ 13・1–13、エテ 12・6、モロ 7・25–28、10・20–23

ので滅びる、と考えることは恐ろしい悪である。
16 このように主の道を曲げる者たちは災いである。
このような者たちは、悔い改めなければ滅びるから
である。見よ、わたしは神から授けられた権能[1]を持
っているので、大胆に語る。わたしは人のすること
は恐れない。完全な愛[2]はあらゆる恐れを取り除[3]くか
らである。
17 わたしは慈愛[1]、すなわち永遠の愛で満たされてい
るので、すべての子供はわたしにとって等しい存在
である。したがって、わたしは完全な愛をもって幼
い子供[2]たちを愛している。幼い子供たちは皆等しい
存在であり、救いにあずかる者である。
18 わたしは神が不公平[1]な神ではなく、気まぐれな御
方でもなく、永遠[1]から永遠にわたって変わ[2]らない御
方であることを知っている。
19 幼い子供[1]たちは悔い改めることができないので、
幼い子供たちへの神の清い憐れみを否定すること
は、恐ろしい悪である。幼い子供たちは皆、神の憐[2]
れみのおかげで、神によって生きているからであ
る。
20 幼い子供たちにバプテスマが必要であると言う者
は、キリストの憐れみを否定し、キリストの贖罪[1]と
キリストの贖いの力を軽んじる者である。
21 このような者は災いである。このような者は、死
と地獄[1]と無窮[2]の苦痛を被る恐れがあるからである。
わたしは神から命じられたのでこのことを大胆に語
る。これらの御言葉に耳を傾け、注意を払いなさい。
さもなければ、これらの御言葉は、キリストの裁[3]き
の座であなたを責めるものとなる。
22 見よ、すべての幼い子供たちはキリストによっ
て生[1]きている。律法[2]のない者たちも皆同様であ
る。贖[3]いの力は律法を持たないすべての者に及ぶか
らである。したがって、罪に定められない者、すな
わち罪の宣告を決して受けない者は、悔い改めるこ
とができないので、このような者にとってバプテス
マは何の役にも立たない。
23 むしろ、それは神をあざける行為であり、キリス
トの憐れみと神の聖なる御霊の力を否定し、死[1]んだ
行いに頼るものである。
24 見よ、わが子よ、このようなことがあってはなら
ない。悔い改め[1]は罪の宣告を受ける者、律法を犯し
てのろいを受ける者のためにあるのである。

16 ① GS「権威・権限・権能」
17 ① GS「慈愛」 ② ヨハ4・18 ③ GS「愛」
18 ① モロ7・22、モル9・19 ② モサ3・16–19
19 ① GS「神・神会」 ② ルカ18・15–17
20 ① GS「贖いの計画」 ② GS「憐れみ」
21 ① GS「地獄」 ② ヤコ6・10、モサ28・3、教義19・10–12 ③ GS「イエス・キリスト—裁き」
22 ① GS「救い—幼い子供たちの救い」 ② 使徒17・30、教義76・71–72 ③ GS「贖い・贖う」
23 ① 教義22・2
24 ① GS「悔い改め」

25 悔い改めの最初の実はバプテスマである。バプテスマは信仰によって行われ、戒めを守ることである。そして、戒めを守ることは罪の赦しを生じ、
26 罪の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによって、すべての聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。
27 見よ、わが子よ、わたしがすぐにレーマン人に向かって出て行くことがなければ、またあなたに書こう。見よ、この国民、すなわちニーファイ人の民は、悔い改めなければ高慢のために滅びてしまう。
28 わが子よ、彼らが悔い改められるように、彼らのために祈りなさい。しかし見よ、御霊がすでに彼らを励ますのをやめているのではないかと、わたしは懸念している。この地方の者たちも、神から出ているすべての権威と権能を倒そうとしており、また聖霊を否定している。
29 わが子よ、彼らはこれまで理解していたそのように大いなる知識を拒んだので、間もなく滅びるに違いない。そして、預言者たちの述べた預言と、わたしたちの救い主御自身の御言葉が成就するであろう。
30 わが子よ、わたしがまたあなたに書くときまで、あるいはあなたに会うときまで別れを告げる。アーメン。」

モルモンが息子モロナイにあてた第二の手紙。
次の第九章がそれに相当する。

第 9 章

ニーファイ人もレーマン人もともに邪悪になり、堕落している。彼らは互いに苦しめ合い、殺し合う。モルモン、恵みと慈しみがとこしえにモロナイにあるように祈る。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 「愛するわが子よ、わたしは自分がまだ生きていることを知らせるためにまたあなたに書いている。しかし、悲しいことを多少書くことになる。
2 見よ、わたしはレーマン人と激しい戦いをした

---

25 ① GS「バプテスマ―資格」
② モセ 6・58−60
③ 教義 76・52、GS「罪の赦し」
26 ① GS「柔和」
② GS「聖霊」
③ GS「慰め主・助け主」
④ GS「希望」
⑤ 1ペテ 1・22、1ニフ 11・22−25
⑥ GS「熱心」
⑦ GS「祈り」
⑧ GS「聖徒」
27 ① 教義 38・39、GS「高慢」
28 ① モル 5・16
② アル 39・6、GS「赦されない罪」

が、勝利は得なかった。アルキアンタスは剣に倒れ、ルラムとエムロンも倒れた。また、わたしたちは優秀な兵を多数失ってしまった。

3 さて見よ、わが子よ、わたしはレーマン人がこの民を滅ぼしてしまうのではないかと恐れている。この民が悔い改めず、サタンが絶えずこの民をあおり立てて、互いを怒るように仕向けているからである。

4 見よ、わたしは絶えず彼らに働きかけている。しかし、わたしが厳しく[1]神の御言葉を告げると、彼らは身を震わせてわたしに対して怒り、また、わたしが厳しく言わないと、神の御言葉に対して心をかたくなにする。だからわたしは、主の御霊がすでに彼らを励[2]ますのをやめているのではないかと心配している。

5 彼らは、死をも恐れないと見えるほどにひどく怒っている。互いに対する愛をすでに失っており、いつも血と報復を渇望[1]している。

6 さて、愛するわが子よ、彼らがかたくなであっても、わたしたちは力を尽くそう。[1]働くことをやめれば、わたしたちは罪の宣告を受けるに違いない。わたしたちには、あらゆる義の敵を打ち破って、神の王国で安息を得るために、この土の幕屋に宿っている間に果たさなければならない務めがあるからである。

7 さて、わたしはこの民の被っている苦難について少し書こう。わたしがアモーロンから受けた知らせによれば、見よ、レーマン人にはシェライザの塔から連れ去った多くの捕虜がいるとのことである。捕虜は、男もいれば女もおり、子供もいた。

8 そしてレーマン人は、女子供の夫や父親を殺して、夫の肉を妻に、父親の肉を子供に食べさせ、また水はほんの少ししか与えていない。

9 レーマン人の行いは、このようにひどく忌まわしいものではあるが、モリアンタムでのわたしたちの民の行いはそれ以上である。見よ、わたしたちの民はレーマン人の多くの娘たちを捕虜にし、あらゆるものに勝って最も大切で貴いもの、すなわち純潔[1]と徳を奪った後、

10 彼らはこのようなことをした後、非常にむごい方法で彼女たちをなぶり殺しにした。そして、彼らはそうした後、心がかたくなであったので、野獣のよ

第9章
4 ①2 ニフ1・26—27、教義121・41—43
②教義1・33
5 ①モル4・11—12
6 ①GS「熱心」
②ヤコ1・19、エノ1・20、GS「義務」
9 ①GS「純潔」
②GS「徳」

うにその娘たちの肉を食べてしまい、それを勇気の
ある証拠としている。
11おお、愛するわが子よ、どうしてこのような野蛮
な民に対して、
12（わずか数年前まで、彼らは礼儀正しい喜ばしい
民であったが）
13おお、わが子よ、どうしてこのようにひどい忌ま
わしい行いを喜びとするこのような民に対して、
14どうしてこのようなわたしたちに対して、神が裁
きの御手をとどめてくださるなどと期待できよう
か。
15見よ、わたしの心は、『この民は災いだ。おお、神
よ、裁きを下して、この民の罪と悪事と忌まわしい
行いを、あなたの御前から隠してください』と叫ん
でいる。
16また、わが子よ、シェライザには多くのやもめと
その娘たちが残っている。レーマン人が運び去らな
かった食糧は、見よ、すでにゼネファイの軍隊が運
び去ってしまい、やもめたちとその娘たちは、食べ
物を求めてさまようままに放置されている。そして
多くの老女たちは、行き倒れになり死んでいる。
17また、わたしとともにいる軍隊は弱く、しかもレ
ーマン人の軍隊がシェライザとわたしの間にいる。
これまでアロンの軍隊に逃げ込んで行った者は皆、
彼らの恐ろしい蛮行の犠牲となった。
18おお、わたしの民は何と堕落したことか。彼らに
は秩序もなく、情けもない。見よ、わたしはただの
人であり、わたしには一人の人間としての力しかな
い。わたしはもはや命令を実行させることはできな
い。
19彼らは邪悪の度を増し、皆同じように残忍になり、
老若の区別なくだれの命も助けない。また、彼らは
善いことでなければどんなことでも喜ぶ。この地の
全面でニーファイ人の女子供の被っている苦難は、
あらゆるものを越えており、まことに、筆舌に尽く
し難い。
20さて、わが子よ、わたしはこのすさまじい有様に
ついてはもう述べない。見よ、あなたはこの民の悪
事を知っており、また彼らが道義心のない、心の鈍
い民であることも知っている。彼らの悪事はレーマ
ン人の悪事を越えている。
21見よ、わが子よ、わたしは神に打たれるのを恐れ

14 ① アル10・23
16 ① GS「やもめ」
17 ① モル2・9
20 ① ヒラ6・34–35

て、この民を神に推薦することができない。
22しかし見よ、わが子よ、あなたのことは神に推薦しよう。わたしは、あなたが救われるであろうということについては、キリストに信頼を寄せている。また、神があなたの命を助けて、神の民が神に立ち返るところを、あるいは彼らが完全に滅びるところを、あなたに見せてくださるように、わたしは神に祈っている。彼らが悔い改めて神に立ち返らなければ、必ず滅びることを知っているからである。
23もし彼らが滅びるとすれば、それはヤレド人と同様であり、彼らが強情であって、彼らが血と報復を求めてそうなるのである。
24また、もし彼らが滅びるならば、わたしたちが知っているように、わたしたちの同胞の多くがすでにレーマン人のもとに脱走して行ったが、もっと多くの者がレーマン人のもとに脱走して行くであろう。ところで、もしあなたが命を助けられ、わたしが死んであなたに会えないようであれば、少し書き記しなさい。しかしわたしは、もうすぐあなたに会えると確信している。あなたに渡したい神聖な記録を持っているからである。
25わが子よ、キリストに忠実でありなさい。わたしの書いたことを悲しんで、打ちひしがれて死ぬことのないように。キリストに支えられて、キリストの苦しみと死と、キリストがわたしたちの先祖に御自分の体を示されたことと、キリストの憐れみと寛容と、キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、とこしえにあなたの心の中にとどまるように。
26天の高い所にある王座に着いておられる父なる神の恵みと、また万物が従うまで神の右に座する主イエス・キリストの恵みが、とこしえにあなたとともにあるように。アーメン。」

第10章

『モルモン書』についての証は、聖霊の力によって与えられる。御霊の賜物は忠実な者に分け与えられる。霊的な賜物は必ず信仰に伴う。モロナイの言葉は地から語る。キリストのもとに来て、キリストによって完全になり、清められなさい。紀元約四百二十一年。

1さて、わたしモロナイは、自分がよいと思うままに少し書き記す。わたしは同胞であるレーマン人に

---

22 ① モルマ8・3　② ヒラ13・11、ニフ10・6、24・3
23 ① エテ15・15－31　② モル4・11－12
24 ① モル6・6　② アル45・14
25 ① GS「贖罪」　② GS「永遠の命」　③ GS「思い・心」
26 ① ルカ22・69、使徒7・55－56、モサ5・9、アル28・12
第10章
1 ① 教義10・48

書き記す。キリストの来臨のしるしが現れてから、すでに四百二十年以上たったことを知ってほしい。
2 わたしはあなたがたへの勧めとして少しの言葉を述べた後、この記録を封じることにする。
3 見よ、わたしはあなたがたに勧めたい。あなたがたにとってこの記録を読むことが、神の知恵にかなうようであれば、あなたがたはこれを読むときに、アダムが造られてからあなたがたがこれを受けるときまで、主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考えてほしい。
4 また、この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。
5 そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。
6 善いものは何であろうと、正しくて真実である。したがって、善いものはキリストを否定することなく、キリストがおられることを認める。
7 そしてあなたがたは、キリストがおられることを聖霊の力によって知ることができる。したがって、わたしはあなたがたに、神の力を否定しないようにと勧めたい。神は今日も、明日も、とこしえに同じ御方で、人の子らの信仰に応じて力をもって働かれる。
8 さらに、わたしは同胞であるあなたがたに、神の賜物は多いので、これらの賜物を否定しないように勧める。これらの賜物は同じ神から出る。これらの賜物の与えられ方は様々であるが、すべての人の中ですべての働きをされるのは同じ神である。これらの賜物は人を益するために、神の御霊の現れによって人に授けられるのである。
9 見よ、ある人には神の御霊によって、知恵の言葉を教える賜物が授けられ、
10 ある人には同じ御霊によって、知識の言葉を教える賜物、
11 ある人には非常に深い信仰、ある人には同じ御霊によって癒しの賜物、
12 また、ある人には大きな奇跡を行う賜物、

2 ① モル 8・4、13—14、GS「聖文—出現を預言された聖文」
3 ① 申命 6・6—7
② 申命 11・18—19、GS「深く考える」
4 ① 1ニフ 13・39、14・30、モサ 1・6、エテ 4・11、5・3
10 GS「祈り」
② GS「信仰」
③ GS「正直」
④ 新ヤコ 1・5—7、
⑤ モロ 7・9
⑥ GS「真理」
⑦ GS「啓示」
5 ① ヨハ 8・32
② 教義 35・19、GS「証」
「識別の賜物」
7 ① 1ニフ 10・17—19
② GS「御霊の賜物」
8 ① 教義 46・15
② 1コリ 12・8—11、
9 ① 教義 46・8—29
② 教義 88・77—79、118
11 ① GS「信仰」
② GS「癒し」
12 ① GS「奇跡」

13 また、ある人にはあらゆる事柄について預言する賜物、
14 また、ある人には天使と仕える霊を見る賜物、
15 また、ある人にはあらゆる異言、
16 また、ある人には様々な言語といろいろな異言を解釈する賜物が授けられる。
17 これらの賜物はすべて、キリストの御霊によって授けられる。そして、キリストの望まれるままに、それぞれすべての人に授けられるのである。
18 わたしは愛する同胞であるあなたがたに、あらゆる善い賜物はキリストから来るということを覚えておくように勧めたい。
19 また、わたしは愛する同胞であるあなたがたに勧めたい。キリストは昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であるということと、わたしが述べたこれらの霊的な賜物はすべて、人の子らが不信仰になるときでなければ、世界のあるかぎり決してなくならないことを覚えておきなさい。
20 したがって、信仰がなければならない。もし信仰がなければならないとすれば、希望もまたなければならない。そして、もし希望がなければならないとすれば、慈愛もまたなければならない。
21 あなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは決して神の王国に救われない。また、信仰がなければ神の王国に救われないし、また希望がなければ救われない。
22 もしあなたがたに希望がなければ、あなたがたは必ず絶望を味わうであろう。絶望は罪悪のために生じる。
23 キリストは、まことにわたしたちの先祖に、「信仰があれば、あなたがたは、わたしの心にかなうすべてのことを行うことができる」と言われた。
24 さて、わたしは地の果てに至るすべての人に告げる。もしあなたがたの中に、神の力と賜物のなくなる時が来るとすれば、それは不信仰のためである。
25 もしこのようになるとすれば、人の子らは災いである。あなたがたの中には、善を行う者は一人としていないからである。もしあなたがたの中に善を行う者がいれば、その人は神の力と賜物をもって働くであろう。
26 これらのものを絶やして死ぬ者たちは災いである。彼らは罪のうちに死ぬので、神の王国に救われ

---

16 ①GS「異言の賜物」
18 ①新ヤコ1・17
19 ①ヘブ13・8　②モロ7・37
20 ①エテ12・3–37
21 ①1コリ13・1–13、モロ7・1、42–48、GS「慈愛」
23 ①モロ7・33
24 ①モロ7・37、GS「不信仰」
25 ①JS詩篇14・1–7、ロマ3・10–12
26 ①エゼ18・26–27、1ニフ15・32–33、モサ15・26　②ヨハ8・21

ることはあり得ないからである。わたしはこのことを、キリストの言葉のとおりに告げる。わたしは偽りを言わない。

27 わたしは、これらのことを覚えておくように勧める。わたしが偽りを言っていないことが、あなたがたに分かる時がすぐに来るからである。あなたがたは、神の法廷でわたしに会うであろう。そして、主なる神はあなたがたに、「わたしはあなたがたに、死者の中から[1]叫ぶもののように、まことに地の[2]中から語るもののように、この人が書き記したわたしの[3]言葉を告げなかったか」と言われるであろう。

28 わたしがこれらのことを告げるのは、預言が成就するためである。見よ、これらのことは永遠の神の口から出るであろう。そして、神の言葉は代々[1]響き渡るであろう。

29 また神は、わたしの書き記してきたことが事実であるということをあなたがたに示されるであろう。

30 さらに、わたしはあなたがたに、キリストのもとに来て、あらゆる善い賜物を得るように、また悪い賜物や清くないものに[2]触れないように勧めたい。

31 おお、エルサレムよ、[1]目を覚まして地から立ち上がりなさい。おお、シオンの[2]娘よ、美しい衣を着なさい。おお、イスラエルの家よ、あなたの[3]杭を強くし、あなたの境をとこしえに広げて、決して[4]二[5]度と乱されることのないようにし、また永遠の御父があなたに立てられた聖約が果たされるようにしなさい。

32 まことに、[1]キリストのもとに来て、キリストによって[2]完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を[3]愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の[4]恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。

33 さらにあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になり、神の力を否定しなければ、神の恵みによりキリストによって[1]聖められる。それはキリストの血が流されたことによるものである。キリストの血が流されたのは、あなたがたの[3]罪の赦しのために御父が聖約されたことによるものであり、そ

---

27 ① 2ニフ3・19–20、33・13、モル9・13、イザ29・4
28 ① 1ニフ6・4、モル9・27、エテ5・5
28 ② 2ニフ29・2
28 ③ 2ニフ33・10–11
30 ① アル5・57
31 ① イザ52・1–2
31 ② GS「シオン」
31 ③ GS「ステーク」
31 ④ イザ54・2
31 ⑤ エテ13・8
31 ⑥ 2ニフ26・33、マタ11・28、ヤコ1・7、オム1・26
32 ① マタ5・48、3ニフ12・48、GS「完全」
32 ② 教義4・2、59・5–6
33 ① 2ニフ25・23
33 ② GS「聖め」
33 ③ GS「贖罪」
33 ④ GS「罪の赦し」

れによってあなたがたは染みのない清い者となるのである。

34 さて、わたしはすべての者に別れを告げる。わたしは間もなく行って、神のパラダイス[1]で安息[2]を得る。その後、わたしの霊[3]と体は再び結合[4]する。そしてわたしは勝利を得て空中[5]に上げられ、生者と死者双方の永遠の裁き主[6]である大いなるエホバ[7]の楽しい法廷[8]であなたがたに会うことになる。アーメン。

完

---

33 ① GS「聖い」
34 ① GS「パラダイス」
② GS「安息」
③ GS「霊」
④ GS「復活」
⑤ 1テサ4・17
⑥ GS「イエス・キリスト―裁き」
⑦ GS「エホバ」
⑧ ヤコ6・13

聖句ガイド

序　文

項目リスト

序　文

『聖句ガイド』は，『聖書』や『モルモン書』，『教義と聖約』，『高価な真珠』にある教義や原則，人物，地名の中から主要なものを選んで，その意味を解説したものである。また，各項目について学習ができるように，聖句のおもな参照箇所も付記した。この『聖句ガイド』は，個人や家族による聖典の学習に役立てることができる。また，福音に関する疑問の答えを見つけたり，テーマ別に聖典を研究したり，話やレッスンの準備をしたり，福音についての知識や証（あかし）を深めたりする際にも活用できるであろう。

『聖句ガイド』の項目リストは，聖典の学習に役立つ特色を幾つか備えている。例えば，「イエス・キリスト」という項目を見ると，そこには項目リストの中にある，救い主とその務めに関するすべての項目が列挙してある。項目リストの中でそのように多くの関連項目を列挙したものは「イエス・キリスト」だけであるが，それはとりもなおさず，全人類にとってキリストがいかに大切な存在であられるかを物語るものである。さらに，「年表」の項では，『聖書』や『モルモン書』の時代の重要な出来事が，おおよその年代とともに列挙してある。また「福音書」の項目には「福音書対観表」がある。これは，マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネによる福音書ならびに末日の啓示の中の救い主の教えを比較したものである。

『聖句ガイド』では以下の略記法を用いる。

旧約聖書

創世……創世記
出エ……出エジプト記
レビ……レビ記
民数……民数記
申命……申命記
ヨシ……ヨシュア記
士師……士師記
ルツ……ルツ記
サ上……サムエル記上
サ下……サムエル記下
列上……列王紀上
列下……列王紀下
歴上……歴代志上
歴下……歴代志下
エズ……エズラ記
ネヘ……ネヘミヤ記
エス……エステル記
ヨブ……ヨブ記
詩篇……詩篇
箴言……箴言
伝道……伝道の書
雅歌……雅歌
イザ……イザヤ書
エレ……エレミヤ書
哀歌……哀歌
エゼ……エゼキエル書
ダニ……ダニエル書
ホセ……ホセア書
ヨエ……ヨエル書
アモ……アモス書
オバ……オバデヤ書
ヨナ……ヨナ書
ミカ……ミカ書
ナホ……ナホム書
ハバ……ハバクク書
ゼパ……ゼパニヤ書
ハガ……ハガイ書

ゼカ……ゼカリヤ書
マラ……マラキ書

新約聖書
マタ……マタイによる福音書
マコ……マルコによる福音書
ルカ……ルカによる福音書
ヨハ……ヨハネによる福音書
使徒……使徒行伝
ロマ……ローマ人への手紙
１コリ…コリント人への第一の手紙
２コリ…コリント人への第二の手紙
ガラ……ガラテヤ人への手紙
エペ……エペソ人への手紙
ピリ……ピリピ人への手紙
コロ……コロサイ人への手紙
１テサ…テサロニケ人への第一の手紙
２テサ…テサロニケ人への第二の手紙
１テモ…テモテへの第一の手紙
２テモ…テモテへの第二の手紙
テト……テトスへの手紙
ピレ……ピレモンへの手紙
ヘブ……ヘブル人への手紙
新ヤコ…ヤコブの手紙
１ペテ…ペテロの第一の手紙
２ペテ…ペテロの第二の手紙
１ヨハ…ヨハネの第一の手紙
２ヨハ…ヨハネの第二の手紙
３ヨハ…ヨハネの第三の手紙
ユダ……ユダの手紙
黙示……ヨハネの黙示録

モルモン書
１ニフ…ニーファイ第一書
２ニフ…ニーファイ第二書
ヤコ……ヤコブ書
エノ……エノス書
ジェロ…ジェロム書
オム……オムナイ書
モ言……モルモンの言葉
モサ……モーサヤ書
アル……アルマ書
ヒラ……ヒラマン書
３ニフ…第三ニーファイ
４ニフ…第四ニーファイ
モル……モルモン書
エテ……エテル書
モロ……モロナイ書

教義と聖約
教義……教義と聖約
公式１…公式の宣言一
公式２…公式の宣言二

高価な真珠
モセ……モーセ書
アブ……アブラハム書
ジ―マタ…ジョセフ・スミス―マタイ
ジ―歴史…ジョセフ・スミス―歴史
箇条……信仰箇条

JS……ジョセフ・スミス訳聖書
KJ……欽定訳聖書

項目リスト

使い方　『聖句ガイド』の項目リストは，福音に関する項目を五十音順に並べたものである。それぞれの項目について，まず短い解説があり，次いで最も重要と思われる参照聖句の箇所が挙げてある。そしてそれぞれの聖句には，その聖句の直接の引用または内容を短くまとめたものが付いている。参照聖句の掲載順は，(1)『旧約聖書』，(2)『新約聖書』，(3)『モルモン書』，(4)『教義と聖約』，(5)『高価な真珠』である。以下はその例である。なお『聖書』の聖句については，特に指定がないかぎり，日本聖書協会発行『聖書』（1954，55 年改訳）を用いた。

項目は大きめの太字で示される。

聖文　「教義と聖約」「高価な真珠」「言葉（神の）」「聖書」「正典」「年表」「モルモン書」参照

時々『聖句ガイド』の中の別の項目に，探している情報が含まれていることがある。鍵括弧の項目はそれを調べるのに役立つ。

各項目の解説。

神の聖なる人々が聖霊に感じて書いたり，話したりした言葉。当教会が今日，公式の正典として認めている聖文は，『聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』である。イエスと『新約聖書』の著者たちは，『旧約聖書』の各書を聖文と見なしていた（マタ 22：29；ヨハ 5：39；2 テモ 3：15；2 ペテ 1：20—21）。

括弧内の聖句は，項目の解説をさらに深く理解できるようにするためのものである。

項目によっては，このように再分類しているものもある。分類項目は字体を変えて表示してある。

聖文の価値：あなたはイスラエルのすべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない（申命 31：10—13）。すべての聖文を自分たちに当てはめて，それが自分たちの利益となり（1ニフ 19：23）。わたしは聖文に喜びを感じる（2ニフ 4：15—16）。民は聖文を詳しく調べ，二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかった（ヤコ 7：23〔アル 14：1〕）。

参照聖句には，その聖句の引用または内容を短くまとめたものが付いている。

〔　〕の中は関連聖句である。

時々その項目の中に見つけたい情報がないことがある。そのときは鍵括弧の項目を調べてみる。

選択　「選ぶ」「選択の自由」参照

多妻結婚　「結婚—多妻結婚」参照

参照項目の中で再分類してあるものについては，—を用いて示してある。

アーメン　「祈り」参照

「そうでありますように」あるいは「そのとおりです」の意味。これは，心から厳粛に受け入れて同意すること（申命 27：14−26），あるいは自分の語ることが真実であること（列上 1：36）を示すために述べる言葉。今日では，祈りや証，話の後で，同意し，受け入れたことを示すために，それを聞いた人々がこの言葉を声に出して唱える。

旧約の時代には，誓いを立てるときに「アーメン」と唱えるように求められた（歴上 16：7，35−36；ネヘ 5：13；8：2−6）。キリストは「アァメンたる者，忠実な，まことの証人」と呼ばれている（黙示 3：14）。この言葉はまた，預言者の塾で聖約のしるしとして用いられた（教義 88：133−135）。

愛　「哀れみ」「慈愛」「敵意」参照

心から大切に思い，そのために献身すること。神への愛には，献身，礼拝，敬虔，思いやり，憐れみ，赦し，同情，優しさ，奉仕，感謝，親切などの要素が含まれる。御自身の子供たちに対する神の愛は，イエス・キリストの無窮の贖罪の中に最もよく示されている。

あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない（レビ 19：18〔マタ 5：43−44；22：37−40；ロマ 13：9；ガラ 5：14；新ヤコ 2：8；モサ 23：15；教義 59：6〕）。あなたは心をつくして，あなたの神，主を愛さなければならない（申命 6：5〔モロ 10：32；教義 59：5〕）。あなたがたの神，主はあなたがたが主を愛するか，どうかを知ろうと，あなたがたを試みられる（申命 13：3）。主は，愛する者を，戒められる（箴言 3：12）。友はいずれの時にも愛する（箴言 17：17）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった（ヨハ 3：16〔教義 138：3〕）。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい（ヨハ 13：34〔ヨハ 15：12，17；モセ 7：33〕）。もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである（ヨハ 14：15〔教義 42：29〕）。人がその友のために自分の命を捨てること，これよりも大きな愛はない（ヨハ 15：13）。ペテロよ，わたしを愛するか（ヨハ 21：15−17）。どんな被造物も，わたしたちの主イエス・キリストにおける神の愛から，わたしたちを引き離すことはできない（ロマ 8：35−39）。目がまだ見なかったことを，神は，ご自分を愛する者たちのために備えられた（1コリ 2：9）。愛をもって互に仕えなさい（ガラ 5：13）。夫たる者よ。妻を愛しなさい（エペ 5：25〔コロ 3：19〕）。世を愛してはいけない（1ヨハ 2：15）。神は愛である（1ヨハ 4：8）。わたしたちが愛し合うのは，神がまずわたしたちを愛して下さったからである（1ヨハ 4：19）。人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられる（1ニフ 19：9）。神とすべての人を愛して力強く進まなければならない（2ニフ 31：20）。子供たちに，互いに愛し合い，互いに仕え合うように教える（モサ 4：15）。贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば，今でもそのように感じられるか（アル 5：26）。聖なる御霊の

導きを得て，謙遜になり，愛に富み（アル 13：28）。激情をすべて制し，愛で満たされるようにしなさい（アル 38：12）。民の心の中に宿っていた神の愛のために，地の面にはまったく争いがなかった（4ニフ 1：15）。神を愛するように誘い，促すものはすべて，神の霊感を受けているのである（モロ 7：13−16）。慈愛はキリストの純粋な愛であって（モロ 7：47）。完全な愛はあらゆる恐れを取り除く（モロ 8:16〔1ヨハ 4：18〕）。愛を持つ者には，神の業に携わる資格がある（教義 4:5〔教義 12：8〕）。聖めは，神を愛し，神に仕えるすべての人に与えられる（教義 20：31）。あなたはわたしを愛するならば，わたしに仕え，わたしのすべての戒めを守るべきである（教義 42：29〔ヨハ 14：15〕）。あなたの責めた人にいっそうの愛を示しなさい（教義 121:43）。神よりもサタンを愛した（モセ 5：13，18，28）。

哀歌

『旧約聖書』の中の 1 書。エレミヤが書いたもの。エルサレムとイスラエル人の国の滅亡を嘆く詩と歌の集成。哀歌はエルサレムが滅ぼされた後の紀元前 586 年ごろに書かれた。

証　「証する」「証人；証」「聖霊」参照

聖霊によって与えられる知識と霊的な確信。個人が真理として理解していることを公式に，あるいは法律に基づいて宣言する証言も証の一つである（教義 102：26）。

わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる（ヨブ 19：25−26）。わたしたちの主のあかしをすることを，決して恥ずかしく思ってはならない（2テモ 1：8）。イエスのあかしは，すなわち預言の霊である（黙示 19：10）。いつでも神の証人になる（モサ 18：9）。純粋な証をもって責めるほかに，人々を改心させる方法がない（アル 4：19−20）。わたしはすべての事物をもって，これらのことが真実であると証する（アル 30：41−44）。信仰が試されてからでなければ，証は得られないからである（エテ 12：6）。わたしはあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大いなる証があるであろうか（教義 6：22−23）。そして今，小羊についてなされてきた多くの証の後，わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである（教義 76：22−24）。わたしは，人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした（教義 88：81−82）。その遺言者たちは今や死に，彼らの遺言は効力を持つ（教義 135：4−5）。エノクは，天使たちが御父と御子のことを証するのを見た（モセ 7：27）。示現を見たと言ったことで憎まれ，迫害されたとしても，それは真実であった（ジ一歴史 1：24−25）。

証する　「証」参照

聖霊の力によって証言をすること，また自分の知識や信念に基づいて厳粛に真理を宣言すること。

助け主はわたしについてあかしをするであろう（ヨハ 15：26）。人々に宣べ伝え，またあかしするようにと，神

はわたしたちにお命じになった（使徒10：42）。3人はその書物が真実であることを証する（2ニフ27：12）。聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである（2ニフ33：1）。聖文はキリストを証している（ヤコ7：10−11〔ヨハ5:39〕）。わたしは，自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている（アル5：45〔アル34：8〕）。あなたがたは神の力によってこれらのものについて証しなければならない（教義17：3−5）。御霊があなたがたに証する事柄を行うように（教義46：7）。わたしは，人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした（教義88：81）。

贖い；贖う　「イエス・キリスト」「死（肉体の）」「死（霊の）」「贖罪」「救い」「堕落（アダムとエバの）」参照

代価を払って人を束縛の境遇から自由にするように，人を解放したり，買い取ったり，人のために賠償をしたりすること。贖いという言葉は，イエス・キリストの贖罪と罪からの解放を指す。イエスの贖罪は，全人類を肉体の死から贖う。贖罪により，キリストを信じる信仰をもって悔い改める人は，霊の死からも贖われる。

わたしはあなたをあがなった（イザ44：22）。彼らを死から，あがなう（ホセ13：14〔詩篇49：15〕）。わたしたちはキリストの血を通して贖いを得ている（エペ1：7，14〔ヘブ9：11−15；1ペテ1：18−19；アル5：21；ヒラ5：9−12〕）。主はわたしを地獄から贖ってくださった（2ニフ1：15）。贖いは聖なるメシヤによって，またメシヤを通じてもたらされる（2ニフ2：6−7，26〔モサ15：26−27；26：26〕）。彼らは贖いをもたらした愛について歌った（アル5：9〔アル5：26；26：13〕）。悪人はあたかも贖いがなかったかのような有様であり（アル11：40−41〔アル34：16；42：13；ヒラ14：16−18〕）。イエス・キリストは世の贖いをもたらされた（モル7：5−7）。贖いの力は律法を持たないすべての者に及ぶ（モロ8：22〔教義45：54〕）。信じない者は霊的な堕落からの贖いを受けることができない（教義29：44）。幼い子供たちは，世の初めから贖われている（教義29：46）。主はその民を贖われた（教義84：99）。ジョセフ・F・スミスは示現の中で死者の贖いを見た（教義138章）。アダムとエバは，贖いを受けられることを喜んだ（モセ5：9−11）。

贖い主　「イエス・キリスト」「救い主」参照

贖罪によって全人類の罪の代価を払い，万人が復活できるようにされたイエス・キリストは，人類の偉大な贖い主であられる。

わたしをあがなう者は生きておられる（ヨブ19：25）。わたしはあなたを助ける。あなたをあがなう者はイスラエルの聖者である（イザ41：14〔イザ43：14；48：17；54：5；59：20〕）。あなたの救主，またあなたのあがない主であることを知る（イザ49：26〔イザ60：16〕）。その名をイエスと名づけなさい。彼は，おのれの民をもろもろの罪から救う者となるからである（マタ1：21）。人の子がきたのも，多

くの人のあがないとして，自分の命を与えるためである（マタ 20：28〔1テモ 2：5−6〕）。主なるイスラエルの神はその民を顧みてこれをあがない（ルカ 1：68）。わたしたちは御子の死によって神との和解を受けた（ロマ 5：10）。キリストが，わたしたちのためにご自身をささげられたのは，わたしたちをすべての不法からあがない出して，聖別するためにほかならない（テト 2：13−14）。イエス・キリストは，その血によってわたしたちを罪から解放された（黙示 1：5）。贖いは聖なるメシヤによって，またメシヤを通じてもたらされる（2ニフ 2：6−7，26）。御子は人の子らの罪悪と背きを身に負い，彼らを贖い，正義の要求を満たされる（モサ 15：6−9，18−27）。キリストは，悔い改めのためのバプテスマを受ける人々を贖うために来られる（アル 9：26−27）。神の御子は御自分の民を贖うために，将来この世に来られ（アル 11：40−41）。贖いは悔い改めを条件に成し遂げられる（アル 42：13−26）。イエス・キリストが世を贖うために来られる（ヒラ 5：9−12）。キリストは人類を肉体の死と霊の死から贖われた（ヒラ 14：12−17）。キリストによって贖いは可能になる（3ニフ 9：17）。わたしは，自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である（エテ 3：14）。主なるあなたがたの贖い主は，肉体において死を受けた（教義 18：11）。神であるわたしはすべての人に代わって苦しみを負い（教義 19：1，16−20）。幼い子供たちは，独り子によって贖われている（教義 29：46）。わたしは，世の贖いのためにわたしの独り子を世に遣わし（教義 49：5）。キリストは世の光であり，世の贖い主である（教義 93：8−9）。ジョセフ・F・スミスは死者の贖いに関する示現を受けた（教義 138 章）。わたしたちは，キリストの贖罪により，全人類は救われ得ると信じる（箇条 1：3）。

贖いの計画　「イエス・キリスト」「贖罪」「救い」「堕落（アダムとエバの）」「福音書」参照

人の不死不滅と永遠の命をもたらすために定められたイエス・キリストの完全な福音。その中には，創造や堕落，贖罪，ならびに神から与えられたすべての律法と儀式と教義が含まれる。この計画によってすべての人が昇栄し，永遠に神とともに住むことができるようになった（2ニフ 2；9 章）。この計画は聖典の中で，救いの計画，幸福の計画，憐れみの計画とも呼ばれている。

彼はわれわれのとがのために傷つけられ（イザ 53：5〔モサ 14：5〕）。わたしたちを救いうる名は，これを別にしては，天下のだれにも与えられていない（使徒 4：12）。アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである（1コリ 15：22）。あなたがたの救われたのは，信仰によるのである（エペ 2：8〔2ニフ 25：23〕）。神が永遠の昔に約束された永遠のいのち（テト 1：2）。彼は永遠の救の源となり（ヘブ 5：8−9）。贖いの計画が死者にも伝えられた（1ペテ 3：18−20；4：6〔教義 138 章〕）。死は大いなる創造主の憐れみに満ちた計画を

成就する（2ニフ 9：6）。わたしたちの神の計画の何と偉大なことよ（2ニフ 9：13）。贖(あがな)いの計画は復活と罪の赦(ゆる)しをもたらす（アル 12：25−34）。アロンはラモーナイ王の父に贖(あがな)いの計画について教えた（アル 22：12−14）。アミュレクは救いの計画について説明した（アル 34：8−16）。アルマは救いの計画について説明した（アル 42：5−26，31）。近代の啓示の中で創造や堕落，贖罪(しょくざい)，バプテスマの教義が確認された（教義 20：17−29）。この計画は世界が存在する前に定められた（教義 128：22）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。これが，すべての人に与えられる救いの計画である（モセ 6：52−62）。わたしたちはこれによって彼らを試し（アブ 3：22−26）。

悪魔　「地獄」「反キリスト」「滅びの子」「滅ぼす者」「ルシフェル」「霊—悪霊」参照

サタン。悪魔は義の敵であり，また神の御心を行おうと努める人々の敵である。悪魔は実際には神の霊の子であり，かつては神の前で権威を持っていた天使であった（イザ 14：12；2ニフ 2：17）。しかし，彼は前世で御父に背き，御父の霊の子供の 3 分の 1 を説きつけて背かせた（教義 29：36；モセ 4：1−4；アブ 3：27−28）。彼らは天から投げ落とされ，肉体を受けて現世の生活を体験する機会を与えられず，やがては永遠の罰の定めを受ける。悪魔は天から投げ落とされて以来，絶えずすべての人を欺いて神の業から遠ざけ，自分と同じように惨めにしようとしている（黙示 12：9；2ニフ 2：27；9：8−9）。

イエスがおしかりになると，悪魔は出て行った（マタ 17：18）。悪魔とその使(つかい)たちとのために永遠の火が用意されている（マタ 25：41）。悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば，彼はあなたがたから逃げ去るであろう（新ヤコ 4：7）。邪悪な人々は悪魔に束縛されるようになる（1ニフ 14：7）。悪魔はあらゆる偽りの父である（2ニフ 2：18〔モセ 4：4〕）。悪魔は，すべての人が自分のように惨めになることを求めている（2ニフ 2：27）。もしも肉体がもう二度と起き上がることがないとすれば，わたしたちの霊は，悪魔となったあの天使に従うようになり（2ニフ 9:8−9）。悪魔は，荒れ狂い，人々をなだめ，へつらう（2ニフ 28：20−23）。悪いものは悪魔から出る（オム 1：25〔アル 5：40；モロ 7：12，17〕）。あなたがたの中に争いが起こらないように，また悪霊に従おうとすることのないように気をつけなさい（モサ 2：32）。もし良い羊飼いの羊でなければ，悪魔があなたがたの羊飼いであり（アル 5：38−39）。悪魔は終わりの日には自分の子らを助けようとせず（アル 30：60）。悪魔の誘惑に惑わされることのないように，絶えず祈りに心を配る（アル 34：39〔3ニフ 18：15，18〕）。贖(あがな)い主の上に基を築けば，悪魔の大嵐(おおあらし)に屈することはない（ヒラ 5：12）。サタンはあらゆる罪の根源である（ヒラ 6：26−31）。悪魔は狡猾(こうかつ)な計画を企ててきた（教義 10：12）。悪魔が人の子らを誘惑するのは必要であ

る。そうでなければ，人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない（教義 29：39）。アダムは誘惑に負けたので，悪魔の意に従うことになった（教義 29：40）。滅びの子たちは，悪魔やその使いとともに永遠に治める（教義 76：33，44）。悪魔は千年の間縛られる（教義 88：110〔黙示 20：2〕）。邪悪な者が光と真理を取り去る（教義 93：39）。サタンはその第一の位を守らなかった（アブ 3：28）。

悪魔の教会：純粋で完全な福音をねじ曲げ，神の小羊に戦いを挑む，この世のすべての邪悪で世俗的な組織。

悪魔は大きな忌まわしい教会を設けた（1ニフ 13：6〔1ニフ 14：9〕）。教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり，もう一つは悪魔の教会である（1ニフ 14：10〔アル 5：39〕）。悪魔の教会のほか，いかなる教会とも争ってはならない（教義 18：20）。大きな忌まわしい教会は，倒されるであろう（教義 29：21）。

アグリッパ　「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ヘロデ・アグリッパ 1 世の息子。ベルニケとドルシラの兄弟。レバノンのカルキスの王。彼は使徒パウロの言葉に耳を傾け，もう少しでクリスチャンとなるほどの確信を得た（使徒 25−26 章；ジ―歴史 1：24）。

悪霊　「霊―悪霊」参照

アサ

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国 3 代目の王。『聖書』には「アサの心は一生の間，主に対して全く真実であった」（列上 15:14）と記されている。彼は在位中に軍隊を強化して，エジプトのくびきを断ち，偽りの偶像を取り除き，民にエホバを求めるという誓いを立てさせた（列上第 15−16 章；歴下第 14−16 章）。しかし，足を病んだときに主の助けを求めず，死んだ（列上 15：23−24；歴下 16：12−13）。

欺き　「偽り」参照

聖典では，人に真実でないものを信じさせるという意味で用いられる。

偽って誓わない者は主の山に登る（詩篇 24：4）。よこしまな人からわたしを助け出してください（詩篇 43:1）。わざわいなるかな，彼らは悪を呼んで善といい，善を呼んで悪といい（イザ 5：20〔2ニフ 15：20〕）。だれも自分を欺いてはならない（1コリ 3：18）。だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない（エペ 5：6）。悪人は人を惑わし人に惑わされる（2テモ 3：13）。全世界を惑わしたサタンは地に投げ落とされた（黙示 12：9）。サタンは諸国民を惑わすことがないようにつながれた（黙示 20：1−3）。主を欺くことはできない（2ニフ 9:41）。御子に従い，神の前に決して欺きを行うことがなければ，あなたがたは聖霊を受ける（2ニフ 31：13）。シーレムは，自分が悪魔の力によって欺かれていたことを告白した（ヤコ 7：18）。ノア王の民はへつらいの言葉にだまされた（モサ 11：7）。賢い者は自分の導き手として聖なる御霊（みたま）を受け，欺かれない（教義

45：57)。欺く者は災いである（教義 50：6)。彼はサタン，すなわち，あらゆる偽りの父である悪魔となって，人々を欺き，惑わし（モセ 4：4)。

アセル　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアのつかえめジルパの間に生まれた息子（創世 30：12−13)。

アセルの部族：ヤコブはアセルに祝福を授け（創世 49：20)，モーセはアセルの子孫に祝福を授けた（申命 33：1，24 − 29)。アセルの子孫は「えりぬきの大勇士」と呼ばれた（歴上 7：40)。

アダム　「アダム・オンダイ・アーマン」「エデン」「エバ」「堕落（アダムとエバの)」「天使長；天使のかしら」「ミカエル」参照

地上で創造された最初の人。

アダムは地上の人類の始祖，族長である。エデンの園での背きにより（創世 3 章；教義 29：40−42；モセ 4 章)，アダムは「堕落」し，死すべき者となった。それは人類がこの地上で進歩するのに必要な一つの段階である（2 ニフ 2：14−29；アル 12：21−26)。したがってアダムとエバは，人類に成長の機会を与えるという役割を果たしたことで，称賛を受けるに値する。アダムは日の老いたる者であり，またミカエルという名でも知られている（ダニ 7 章；教義 27：11；107：53−54；116 章；138：38)。アダムは天使長であり，イエス・キリストの再臨に先立ち，人類家族の長として再び地上を訪れる（教義 29：26)。

神は自分のかたちに人を創造された（創世 1：26−28〔モセ 2：26−28；アブ 4：26−28〕)。神は人に地を従わせる権威を与え，ふえよ，地に満ちよ，と命じられた（創世 1：28−31〔モセ 2：28−31；アブ 4：28−31〕)。神はエデンの園にアダムとエバを置き，善悪を知る木からは取って食べてはならないと命じられた（創世 2：7−9，15−17〔モセ 3：7−9，15−17；アブ 5：7−13〕)。アダムはすべての生き物に名を与えた（創世 2：19−20〔モセ 3：19−20；アブ 5：20−21〕)。アダムとエバは神によって夫婦となった（創世 2：18−25〔モセ 3：18−25；アブ 5：14−21〕)。アダムとエバはサタンに誘惑され，禁断の実を食べたために，エデンの園から追放された（創世 3 章〔モセ 4 章〕)。アダムは 930 歳で死んだ（創世 5：5〔モセ 6：12〕)。アダムは最初の人であった（教義 84：16)。アダムは死ぬ前に，義にかなった子孫をアダム・オンダイ・アーマンに呼び集め，彼らに祝福を授けた（教義 107：53−57)。アダムは犠牲をささげた（モセ 5：4−8)。アダムはバプテスマを受け，聖霊を受け，神権に聖任された（モセ 6：51−68)。

アダム・オンダイ・アーマン　「アダム」参照

アダムが自らの死の 3 年前に，義にかなった子孫に祝福を授けた場所（教義 107：53−56)。再臨の前にアダムはこの地を訪れる（教義 116 章)。

新しくかつ永遠の聖約　「聖約(契約)」参照

イエス・キリストの完全な福音（教義 66：2)。背教の時代の後に新たに啓示されるイエス・キリストの完全な福音は，いつの場合も新しいということができる。またそれは神の聖約であり，進んで受け入れようとする人々がいたすべての神権時代に授けられてきたという意味では，永遠である。新しくかつ永遠の聖約は，預言者ジョセフ・スミスを通して，イエス・キリストにより再び地上の人々に明らかにされた。その中には，神権の権能によって執行されるバプテスマや神殿結婚などの神聖な儀式も含まれる。これらの儀式は人の救い，不死不滅，永遠の命の備えとなるものである。人々が福音を受け入れ，神の戒めを守ると約束するときに，神は新しくかつ永遠の聖約に伴う祝福を与えると聖約される。

わたしはあなたと契約を立て（創世 17：7)。これは彼とその後の子孫に永遠の祭司職の契約となるであろう（民数 25：13)。とこしえの契約を破った(イザ 24：5〔教義 1：15〕)。わたしは，あなたがたと，とこしえの契約を立てて（イザ 55：3〔エレ 32：40〕)。これは彼らの永遠の契約となる（エゼ 37：26)。神は，「新しい」と言われたことによって，初めの契約を古いとされた(ヘブ 8：13)。新しい契約の仲保者(ちゅうほしゃ)イエス（ヘブ 12：24〔教義 76：69〕)。これは一つの新しくかつ永遠の聖約である（教義 22：1)。わたしの永遠の聖約を世に送って（教義 45：9〔教義 49：9〕)。主は完全な福音，すなわち永遠の聖約を送られた（教義 66：2〔教義 133：57〕)。日の栄えの王国の最高の階級を得るためには，人は結婚の新しくかつ永遠の聖約に入らなければならない（教義 131：1−2)。新しくかつ永遠の聖約が，主の完全な栄光のために定められた（教義 132：6, 19)。

悪口(あっこう)　「争い」「偽り」「うわさ」「うわさ話」参照

正しくない，人を傷つけるような，悪意のあることを口にすること。聖典では，人を苦しめようとの意図を持つ人の言動を指していうことが多い。

あなたの舌をおさえて悪を言わせず（詩篇 34：13〔1 ペテ 3：10〕)。よこしまな人は悪を企てる（箴言 16：27)。人々があなたがたに対し偽って様々の悪口(あっこう)を言う時には，あなたがたは，さいわいである（マタ 5：11〔3 ニフ 12：11〕)。悪い思いは，心の中から出てくるのであって（マタ 15：19〔マコ 7；21〕)。民のかしらを悪く言ってはいけない（使徒 23：5)。いっさいの悪意を捨て去りなさい(エペ 4：31)。互(たがい)に悪口(わるくち)を言い合ってはならない（新ヤコ 4：11)。陰口，悪口(あっこう)のないように取り計らう（教義 20：54)。

アッスリヤ

宿敵バビロニアと同様，旧約の時代に長期にわたって，シリアとパレスチナの国々の多くを支配した古代帝国。アッシリア人（アッスリヤ人）は紀元前 12 世紀中ごろから紀元前 7 世紀末にかけて大きな勢力を振るっていたが，決して安定した政治体系を確立す

ることはできなかった。彼らは火と剣で敵を壊滅させる，あるいは民の大部分を帝国内の他の地域に追放して弱体化を図るなど，恐怖による統治を行った。征服された人々の敵意は消えることがなく，帝国の全歴史を通して反乱が頻発した(列下 18−19 章;歴下 32 章;イザ 7：17−20；10 章；19：37)。

アナニヤ（エルサレムの）

『新約聖書』の中の人物。妻のサッピラとともに，主に奉献した金銭の一部を差し出さずに，主を欺いた。ペテロに見破られ，二人は地に倒れ，息絶えた（使徒 5：1−11)。

アナニヤ（ダマスコの）「パウロ」参照

ダマスコにいたキリストの弟子。パウロにバプテスマを施した（使徒 9：10−18；22：12)。

アハブ「イゼベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。北王国の非常によこしまな強権を誇った王。シドンの王女イゼベルと結婚。彼女の影響によって，イスラエルにバアルとアシタロテへの礼拝が持ち込まれ（列上 16：29−33；列下 3：2)，預言者を殺し，エホバ礼拝を滅ぼそうとの企てがなされた（列上 18：13)。

サマリヤで 22 年イスラエルを治めた（列上 16：29〔列上 16−22 章〕)。彼よりも先にいたすべての者にまさって，主の目の前に悪を行った（列上 16：30)。戦いで殺された（列上 22：29−40)。

アビナダイ「殉教者；殉教」参照

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者。

悔い改めなければ，神が邪悪なノア王の民を罰せられると預言した（モサ 11：20−25)。ノア王とその民の滅亡を預言したために投獄された（モサ 12：1−17)。ノア王の邪悪な祭司たちにモーセの律法とキリストについて教えた（モサ 12−16 章)。アルマは彼の言葉を信じてそれを記録した（モサ 17：2−4)。ノア王によって焼き殺された（モサ 17：20)。

油「油注ぎ」「オリーブの木」「病人への癒(いや)しの祝福」参照

一般的に，聖典に出てくる油という言葉は，オリーブ油を指す。旧約の時代から，オリーブ油は神殿や幕屋での儀式，また油注ぎに用いられ，灯火用や食用にも使われてきた。時として，オリーブ油は純粋さや，聖なる御霊(みたま)とその影響力の象徴とされることもある（サ上 10：1，6；16：13；イザ 61：1−3)。

祭司は油を右の耳たぶにつけなければならない（レビ 14：28−29)。主は，わたしをつかわし，あなたに油をそそいで，その民イスラエルの王とされました（サ上 15：1)。やもめの油のびんは空にならなかった（列上 17：10−16)。わたしのこうべに油をそそがれる（詩篇 23：5)。大ぜいの病人に油をぬっていやした（マコ 6：13)。教会の長老たちを招き，オリブ油を注いで祈ってもらうがよい（新ヤコ 5：13−15)。あなたがたのランプの芯(しん)を

切りそろえて火をともし，油を備えて（教義 33：17〔マタ 25：1−13〕）。

油注がれた者　「イエス・キリスト」「メシヤ」参照

イエスはキリスト（ギリシャ語）あるいはメシヤ（アラム語）と呼ばれるが，これらはどちらも「油注がれた者」の意味である。イエスは人類の救いに関するすべての事柄について，御父の代理を務める者として，御父から油を注がれた御方である。

主がわたしに油を注いで（イザ 61：1−3）。主は福音を宣（の）べ伝えさせるために，聖別してくださった（ルカ 4：16−22）。イエスは父なる神から油を注がれた（使徒 4：27）。神はイエスに油を注がれた（使徒 10：38）。

油注ぎ　「油」「病人への癒（いや）しの祝福」参照

昔，主の預言者は，アロンや祭司，イスラエルを治める王など，特別な務めを果たす人々に油を注いだ。今日の教会では，特別な祝福の一部として，頭に聖別された油を 1，2 滴注ぐ。これは，メルキゼデク神権の権能と権威によってのみ行われる。油が注がれた後，一人のメルキゼデク神権者がその油注ぎを結び固め，油注ぎを受けた人に対して特別な祝福を授けることができる。

彼らに油を注ぎ，彼らを聖別し，わたしに仕えさせなければならない（出エ 28：41〔レビ 8：6−12，30〕）。その人に油を注いで，わたしの民イスラエルの君としなさい（サ上 9：16；10：1）。長老たちは病人に油を注ぎ，祝福を授ける（新ヤコ 5：14−15〔教義 42：44〕）。

アブラハム　「アブラハムの聖約（契約）」参照

テラの息子。カルデヤのウルの生まれ（創世 11：26，31；17：5）。アブラハムは主の預言者であり，主は彼と永遠の聖約（契約）を交わされた。その聖約を通して地上のあらゆる国民が祝福を受ける。アブラハムの元の名はアブラムであった。

ハランに移住した（創世 11：31−32〔アブ 2：1−5〕）。神から召されてカナンへ旅をし，神聖な契約を受けた（創世 12：1−8〔アブ 2：4，15−17〕）。エジプトに旅をした（創世 12：9−20〔アブ 2：21−25〕）。ヘブロンに住んだ（創世 13：18）。ロトを救った（創世 14：1−16）。メルキゼデクに会った（創世 14：18−20）。ハガルが息子イシマエルを産んだ（創世 16：15−16）。名をアブラハムと変えられた（創世 17：5）。主はアブラハムとサラに男の子を授けると言われた（創世 17：15−22；18：1−14）。サラが息子イサクを産んだ（創世 21：2−3）。イサクを犠牲としてささげるように命じられた（創世 22：1−18）。サラが死んで葬られた（創世 23：1−2，19）。アブラハムは死んで葬られた（創世 25：8−10）。アブラハムがイサクをささげようとしたことは，神と神の独り子の相似であった（ヤコ 4：5）。メルキゼデクに什分（じゅうぶん）の一を納めた（アル 13：15）。キリストの来臨を予見して，証（あかし）した（ヒラ 8：16−17）。メルキゼデクから神権を受けた（教義 84：14）。忠実な人々はアブラ

ハムの子孫となる（教義 84：33−34〔ガラ 3：27−29〕）。啓示によってすべてのものを受けた（教義 132：29）。昇栄に入った（教義 132：29）。先祖の祝福と神権に任じられることを求めた（アブ 1：1−4）。カルデヤの偽りの祭司から迫害された（アブ 1：5−15）。主によって救い出された（アブ 1：16−20）。太陽と月と数々の星について学んだ（アブ 3：1−14）。前世と創造について学んだ（アブ 3：22−28）。

アブラハム書：アブラハムが書いた古代の記録で，1835 年に当教会の所有となった。この記録は幾体かのミイラとともに，アントニオ・レボロがエジプトの地下納骨堂で発見したもので，レボロによりマイケル・チャンドラーに遺贈された。チャンドラーは 1835 年にアメリカ合衆国の各地でこれらを展示した。ジョセフ・スミスの友人たちがこれらをチャンドラーから買い求め，預言者に贈った。そこで預言者ジョセフ・スミスはこれを翻訳した。現在，この記録の一部は『高価な真珠』の中に収められている。

第 1 章には，カルデヤのウルでアブラハムの身の上に起こったことが記録されている。ウルの邪悪な祭司たちは，アブラハムを犠牲としてささげようとした。第 2 章には，アブラハムのカナンへの旅の様子が述べられている。主がアブラハムに現れ，聖約（契約）を交わされた。第 3 章には，アブラハムが宇宙を見て，様々な天体の間の関係を理解したことが記されている。第 4−5 章は，天地創造に関する記録である。

アブラハムの子孫：イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うことにより，神がアブラハムに授けられた約束と聖約（契約）を受ける人々。アブラハムの血統に属する人，また福音を受け入れてバプテスマを受けることにより，アブラハムの家族に養子縁組された人は，男女を問わずこの祝福にあずかることができる（ガラ 3：26−29；4：1−7；教義 84：33−34；103：17；132：30−32；アブ 2：9−11）。しかし，アブラハムの文字どおりの子孫であっても，不従順によって祝福を失うことがある（ロマ 4：13；9：6−8）。

アブラハムの子孫　「アブラハム―アブラハムの子孫」参照

アブラハムの聖約（契約）　「アブラハム」「割礼」「聖約（契約）」参照

アブラハムは福音を受け入れ，大神権に聖任され（教義 84：14；アブ 2：11），昇栄の聖約である日の栄えの結婚をした（教義 131：1−4；132：19，29）。アブラハムは，これらの聖約に伴うすべての祝福が地上の自分の子孫にも授けられるという約束を受けた（教義 132：29−31；アブ 2：6−11）。これらの聖約と約束は，まとめてアブラハムの聖約（契約）と呼ばれる。この聖約の回復が，終わりの時における福音の回復であった。それは，地上のすべての国民がこの聖約を通して祝福を受けるためである（ガラ 3：8−9，29；教義 110：12；124：58；アブ 2：10−11）。

アブラム　「アブラハム」参照

アベデネゴ　「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク，メシャク，アベデネゴの3人のイスラエルの若者は，ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。アベデネゴのヘブライ語名は，アザリヤである。この4人の若者は，王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ(ダニ1章)。シャデラク，メシャク，アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが，神の御子によって守られた（ダニ3章)。

アベル　「アダム」「カイン」参照

『旧約聖書』の中の人物。アダムとエバの息子。

カインよりも優れた犠牲を神にささげた（創世4：4－5〔ヘブ11：4；モセ5:16−21〕)。カインに殺された（創世4：8〔モセ5：32〕)。アダムから神権を受けた（教義84：16)。サタンはアベルを殺すようにカインと謀った(モセ5：28−31〔ヒラ6：27〕)。

アマリキヤ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の反逆者。レーマン人の中で権力を握り，彼らをニーファイ人と戦わせた（アル46−51章)。

アマレカイ人

神の教えに背いたニーファイ人のグループ。ニーファイ人と戦うようにレーマン人をそそのかした（アル21−24；43章)。

アマレク人

アラバと地中海の間にあるパランの荒れ野に住んでいたアラブの1部族。彼らはモーセの時代（出エ17：8）からサウルやダビデの時代（サ上15章;27：8；30章；サ下8：11−12）に至るまで，絶えずヘブライ人と戦った。

アミュレク　「アルマ(アルマの息子)」参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの同僚宣教師。

天使の訪れを受けた（アル8：20；10:7)。アルマを自分の家に迎えた(アル8：21−27)。アモナイハの民に，教えを説いた（アル8：29−32；10：1−11)。ニーファイ，リーハイ，マナセの子孫であった（アル10：2−3)。真理について証(あかし)した（アル10：4−11)。人々に悔い改めを呼びかけたが，拒まれた（アル10：12−32)。ゼーズロムと論じ合った（アル11：20−40)。復活と裁き，回復について教えた（アル11：41−45)。信じた人々の殉教を阻止したいと思った（アル14：9−10)。アルマとともに投獄された（アル14：14−23)。信仰によって牢(ろう)から解放された(アル14:24−29)。贖罪(しょくざい)と憐(あわ)れみ，正義について証(あかし)した（アル34：8−16)。祈りについて教えた（アル34：17−28)。悔い改めを引き延ばすことのないように人々に勧めた（アル34：30−41)。牢(ろう)を地に倒したのは，アルマとアミュレクの信仰であった（エテ12：13)。

アムリサイ；アムリサイ人

『モルモン書』の中の人物。さばきつかさの治世に，王を望むニーファイ人の一団を率いた。アムリサイ人と呼ばれたこのニーファイ人たちは公然と神に背き，そのためにのろいを受けた（アル 2−3 章）。

アモス

旧約の預言者。ユダの王ウジヤとイスラエルの王ヤラベアムの時代に，紀元前 792−740 年ごろにかけて預言した。

アモス書：『旧約聖書』の中の 1 書。アモスの預言の多くは，イスラエルとその近隣諸国に，義に立ち返れとの警告を発している。

第 1−5 章では，イスラエルとその近隣諸国に悔い改めを呼びかけている。第 3 章では，主が預言者に隠れたことを啓示されること，また，イスラエルが背きのために敵から滅ぼされることが述べられている。第 6−8 章では，アッスリヤ（アッシリア）の侵攻よりもはるか以前にイスラエルが没落することが預言されている。第 9 章では，イスラエルがやがて彼らの所有の地に回復されることが預言されている。

歩む（神とともに）　「義」「従順；従う」「道」参照

神の教えに従い，神が望んでおられる生活をすること。聖霊の促しを受け入れ，それに従うこと。

主は直く歩む者に良い物を拒まれることはありません（詩篇 84：11）。彼らがわたしの定めに歩み，わたしのおきてを守って行い，わたしの民となるためである（エゼ 11：20−21〔申命 8：6〕）。主のあなたに求められることは，ただへりくだって神と共に歩むことではないか（ミカ 6：8〔教義 11：12〕）。神が光の中にいますように，わたしたちも光の中を歩くならば（1ヨハ 1：7〔2 ヨハ 1：6；3 ヨハ 1：4；4 ニフ 1：12〕）。命に至る細い道を歩み（2ニフ 33：9）。ベニヤミン王は澄んだ良心をもって神の前を歩んだ（モサ 2：27）。あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように（アル 7：22）。信仰深い歩みと会話によって，すなわち主の前を聖（きよ）く歩むことによって（教義 20：69）。わたしの前を完全に聖（きよ）く歩み，わたしの言葉と戒めを受けるとき（教義 21：4）。子供たちに祈ることと，主の前をまっすぐに歩むことを教えなければならない（教義 68：28）。あなたはわたしにつながっていなさい。そうすれば，わたしはあなたとつながっていよう。それゆえ，わたしとともに歩みなさい（モセ 6：34）。

洗い　「贖罪（しょくざい）」「バプテスマ」参照

肉体的あるいは霊的に清めること。悔い改めた人は，象徴的な意味において，イエス・キリストの贖（あがな）いの犠牲を通して，罪を負った生活とその結果から清められる。正当な神権の権能の下に執行される洗いは，神聖な儀式の中に数えられている。

祭司は衣服を洗い，水に身をすすいで（民数 19：7）。わたしの不義をことごとく洗い去り（詩篇 51：2，7）。身を洗って，清くなり，悪を行うことをやめ（イザ 1：16−18）。イエスは

弟子たちの足を洗われた（ヨハ 13：4−15〔教義 88：138−139〕）。バプテスマを受け，あなたの罪を洗い落としなさい（使徒 22：16〔アル 7：14；教義 39：10〕）。だれも衣を白く洗い清められないかぎり，救いを得られない（アル 5：21〔3 ニフ 27：19〕）。彼らの衣はキリストの血によって白く洗い清められた（アル 13：11〔エテ 13：10〕）。戒めを守ることによって，彼らが自分のすべての罪から洗われて清くされ（教義 76：52）。あなたがたの油注ぎと，あなたがたの洗いは，わたしの聖なる家の儀式によって定められる（教義 124：39−41）。

争い　「背く」参照

不和，敵対，論争など。特に主の教会の会員同士の争い，家族同士の争いは，主の不興を招く。

わたしとあなたの間に争いがないようにしましょう（創世 13：8）。高ぶりはただ争いを生じる（箴言 13：10）。もし互（たがい）に責むべきことがあれば，ゆるし合いなさい（コロ 3：13）。愚かな議論と争いを避けなさい（テト 3：9）。主なる神は，互いに言い争ってはならないと命じられた（2ニフ 26：32）。あなたがたは子供たちが互いに戦うのも，争い合うのもほうってはおかないであろう（モサ 4：14）。アルマは，教会員の間に決して争いがないように指示した（モサ 18：21）。サタンはうわさと争いを広め（ヒラ 16：22）。悪魔は争いの父であり，互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる（3ニフ 11：29〔モサ 23：15〕）。わたしの福音を確立し，ひどい争いがないようにするためである（教義 10：62−64）。互いに言い争うのをやめなさい（教義 136：23）。

アルコール飲料　「知恵の言葉」参照

アルパとオメガ　「イエス・キリスト」参照

アルパはギリシャ語アルファベットの最初の文字で，オメガは最後の文字である。これはまた，イエス・キリストに与えられた名称でもあり，創造された万物の本源と究極の目標がキリストであることを示す象徴として用いられている（黙示 1：8；教義 19：1）。

アルマ（アルマの息子）　「アミュレク」「アルマ（父）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の国の最初の大さばきつかさであり，預言者であった人。初め彼は教会を滅ぼそうとした（モサ 27：8−10）。しかし天使の現れを受けて，福音に心を向けた（モサ 27：8−24；アル 36：6−27）。後に，人々に教えを宣（の）べるために，大さばきつかさの職を辞した（アル 4：11−20）。

アルマ書：『モルモン書』の中の 1 書。アルマの息子であった預言者アルマと，その子ヒラマンの記録を要約したもの。アルマ書に書かれているのは，紀元前約 91−52 年にかけての出来事である。63 の章から成っている。第 1−4 章には，ニーホルやアムリサイに従った者たちのニーファイ人に対する反逆の様子が述べられている。そ

の結果起きた戦争は，それまでのニーファイ人の歴史の中で最も悲惨なものであった。第5−16章には，良い羊飼いに関する説教（アル5章）や，アモナイハの町でアミュレクと行った宣教など，アルマの初期の伝道での話が述べられている。第17−27章には，モーサヤの息子たちについて，またレーマン人の中での彼らの働きについての記録が収められている。第28−44章には，アルマの説教の中でも特に重要なものが幾つか含まれている。第32章で，アルマは御言葉を種にたとえている。第36章では，息子ヒラマンに自分が改心したいきさつを述べている。第39−42章には，道徳的な過ちを犯した息子コリアントンへの勧告が記されている。この重要な説教は，正義，憐れみ，復活，贖罪について説明したものである。第45−63章には，当時のニーファイ人の戦争と，ハゴスのもとでの移住のことが述べられている。司令官モロナイ，テアンクム，リーハイなどの偉大な指導者が，勇気と時宜を得た行動によって，ニーファイ人を窮地から救っている。

アルマ（父）

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者。邪悪なノア王の時代に教会を設立した。

邪悪な王ノアの祭司で，ニーファイの子孫であった（モサ17：1−2）。アビナダイの言葉を聞いて信じたが，王に追い出された。彼は逃げて身を隠し，アビナダイの言葉を記録した（モサ17：3−4）。悔い改めてアビナダイの言葉を教えた（モサ18：1）。モルモンの泉でバプテスマを施した（モサ18：12−16）。教会を設立した（モサ18：17−29）。民とともにゼラヘムラの地に着いた（モサ24：25）。教会を管理する権能を与えられた（モサ26：8）。教会員を裁き，導いた（モサ26：34−39）。息子を大祭司の職に聖任した（アル4:4〔モサ29:42;アル5:3〕）。

アロン（モーサヤの息子）「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。アロンは宣教師として働き，その熱心な努力によって多くの人がキリストに帰依することとなった。

不信仰で，教会を滅ぼそうとした（モサ27：8−10，34）。天使が彼と彼の仲間に現れた（モサ27：11）。悔い改めて，神の言葉を宣べ伝え始めた（モサ27：32−28：8）。王位を受けることを辞退し，神の言葉を宣べ伝えるためにレーマン人の地へ行った（アル17:6−9）。導きを求めて断食し，祈った（アル17：8−11）。ラモーナイ王の父を教えた（アル22：1−26）。ゾーラム人のもとに行って御言葉を宣べ伝えた（アル31：6−7）。

アロン（モーセの兄）「アロン神権」「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。アムラムとヨケベデの息子。レビの部族（出エ6：16−20）。モーセの兄（出エ7：7）。

モーセを助けてイスラエルの子らをエジプトから導き出すように，またモーセの代弁者となるように主から

召された（出エ 4：10−16，27−31；5：1−12：51）。モーセはシナイ山で，アロンとその 4 人の息子をアロン神権に任じることについて指示を受けた（出エ 28：1−4）。民の求めに応じて金の子牛を造った（出エ 32：1−6，21，24，35）。ホル山で 123 歳で死んだ（民数 20：22−29〔民数 33：38−39〕）。主はアロンとその子孫にも，代々一つの神権を確認した（教義 84：18，26−27，30）。神権の召しを尊んで大いなるものとする者はモーセの息子たち，またアロンの息子たちとなる（教義 84：33−34）。主はアロンのように御父から召された人々の義にかなった働きを義とされる（教義 132：59）。

アロン神権　「アロン（モーセの兄）」「神権」「モーセの律法」参照

小神権（ヘブ 7：11−12；教義 107：13−14）。アロン神権にはビショップ，祭司，教師，執事の職がある（教義 84：30；107：10，14 − 15，87 − 88）。古代においてはモーセの律法の下に大祭司，祭司，レビ人がいた。アロン神権がモーセに啓示されたのは，古代のイスラエル人が神に背いたためである。彼らは，聖めを受けることと，メルキゼデク神権とその儀式を受けることを拒んだ（教義 84：23−25）。アロン神権は，律法と福音の実務上また外形上の儀式を執り行う（歴上 23：27−32；教義 84：26−27；107：20）。アロン神権は，天使の働きの鍵と，悔い改めの福音の鍵と，バプテスマの鍵を持つ（教義 13 章）。アロン神権は，この神権時代において，1829 年 5 月 15 日に地上に回復された。バプテスマのヨハネが，ペンシルベニア州ハーモニー近くのサスケハナ川の岸辺で，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けた（教義 13 章；ジ一歴史 1：68−73）。

彼は永遠の神権の聖約を交わすであろう（KJ 民数 25：13）。主はレビの子らを清められる（マラ 3：3〔3 ニフ 24：3〕）。だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく（ヘブ 5：4）。レビ神権によって完全になることはない（ヘブ 7：11）。レビの子らがささげ物をささげるまで，この神権は決して再び地上から取り去られることはない（教義 13：1）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはアロン神権に聖任された（教義 27：8）。小神権は天使の働きの鍵を持つ（教義 84：26〔教義 13：1〕）。二つの神権，すなわち，メルキゼデク神権とアロン神権がある（教義 107：1）。第二の神権は，アロンの神権と呼ばれる（教義 107：13）。

哀れみ　「愛」「憐れみ」「慈愛」参照

聖典の中では，同情や気の毒に思う心，慈しみなどの意味で用いられる。

主は民に哀れみを示すように求められた（ゼカ 7：8−10）。彼らを深くあわれまれた（マタ 9：36〔マタ 20：34；マコ 1：41；ルカ 7：13〕）。あるサマリヤ人が彼を見て気の毒に思い（ルカ 10：33）。同情し合いなさい（1 ペテ 3：8）。キリストは人の子らを哀れむ思いに満たされている（モサ 15：9）。わたしの心は，あなたがたに対する哀れみに満たされている（3ニフ 17：6）。ジョセフ・スミスは主の哀れ

みを祈り求めた（教義 121：3−5）。

憐れみ　「イエス・キリスト」「贖罪」「正義」「恵み」「赦し」参照

同情，優しさ，赦しの精神。憐れみは神の属性の一つである。イエス・キリストは贖いの犠牲を通してわたしたちに憐れみをかけられる。

主は，あわれみあり，恵みあり（出エ 34：6〔申命 4：31〕）。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない（歴上 16：34）。恵みといつくしみとが伴うでしょう（詩篇 23：6）。貧しい人をあわれむ者はさいわいである（箴言 14：21）。わたしはいつくしみを喜び，犠牲を喜ばない（ホセ 6：6）。あわれみ深い人たちは，さいわいである，彼らはあわれみを受けるであろう（マタ 5：7〔3 ニフ 12：7〕）。もっと重要な，公平とあわれみと忠実とを見のがしている（マタ 23：23）。あなたがたの父なる神が慈悲深いように，あなたがたも慈悲深い者となれ（ルカ 6：36）。わたしたちの行った義のわざによってではなく，ただ神のあわれみによって，救われたのである（テト 3:5）。主の深い憐れみは，すべての者のうえに及び（1ニフ 1：20）。悔い改めない者には憐れみは及ばない（モサ 2：38−39）。神は御自分の御名を信じるすべての人に憐れみをかけられる（アル 32：22）。憐れみは正義の要求を満たし（アル 34：16）。あなたは憐れみが正義から何を奪うことができると思うか（アル 42：25〔アル 42：13−25〕）。幼い子供たちは皆，神の憐れみのおかげで，神によって生きている（モロ 8：19−20〔教義 29：46〕）。憐れみの腕があなたがたの罪に対する贖いをした者（教義 29：1）。わたしは，わたしの名を信じたすべての者を受け入れた者である。わたしが流した血によって，父の前で彼らのために弁護をしてきた（教義 38：4）。聖約を守ってきた者は憐れみを受ける（教義 54：6）。主なるわたしは罪を赦し，またへりくだった心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い（教義 61：2）。主なるわたしは，柔和な者すべてに憐れみを示す（教義 97：2）。幼子のようにあなたを受け入れる者は，わたしの王国を受ける。彼らは憐れみを受けるからである（教義 99：3）。憐れみはあなたの前を進み（モセ 7：31）。

按手　「聖任」「聖霊の賜物」「任命」「病人への癒しの祝福」参照

神権の儀式の一部として，人の頭に手を置く行為。聖任や祝福，病人への癒しの祝福，教会員としての確認，聖霊の授与など，神権の儀式の多くがこの按手によって行われる。

モーセは主が命じられたようにし，彼の上に手をおき（民数 27：18，22−23〔申命 34：9〕）。病人に手をおいていやされた（マコ 6：5〔モル 9：24〕）。使徒たちは祈って手を彼らの上においた（使徒 6：5−6）。手を彼らの上においたところ，彼らは聖霊を受けた（使徒 8：14−17）。アナニヤはサウロの上に手をおいて彼が再び見えるようにした（使徒 9：12，17−18）。パウロは手を彼の上においていやしてやった（使徒 28：8）。パウロはバプテスマや按手についての教義を教えた（ヘブ 6：2）。アルマは按手により祭

司たちと長老たちを聖任した（アル 6：1）。イエスは弟子たちに，按手（あんしゅ）によって聖霊を授ける力を与えられた（3ニフ 18：36−37）。あなたがたが手を置く者に聖霊を授ける（モロ 2：2）。長老たちは子供に手を置き，彼らに祝福を授けなければならない（教義 20：70）。按手（あんしゅ）によって人々は聖霊を受けるであろう（教義 35：6〔箇条 1：4〕）。長老たちは病人に按手（あんしゅ）をしなければならない（教義 42：44〔教義 66：9〕）。子供たちはバプテスマの後で按手（あんしゅ）を受けなければならない（教義 68：27）。神権は按手（あんしゅ）によって授けられる（教義 84：6−16）。

安息　「安息日（あんそくにち）」「平安；平和」参照

心配事や不安から解放された安らぎの状態。主は忠実に従う人々に，現世においてこのような安息を与えると約束された。また主はこのような人々のために，来世にも安息の場を備えておられる。

わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう（出エ 33：14）。すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう（マタ 11：28−29）。わたしたちは，民が神の安息に入るようにするために，民の中で熱心に働いて（ヤコ 1：7〔ヘブ 4：1−11〕）。悔い改める者はだれであろうと，わたしの安息に入るであろう（アル 12：34）。清められて，主なる神の安息に入った人々は大勢おり，非常に多くの数に上った（アル 13：12−16）。パラダイスと呼ばれる幸福な状態，すなわち安息の状態（アル 40：12〔アル 60：13〕）。わたしの血により衣を洗われた者のほかには，父の安息に入る者はいない（3ニフ 27：19）。この民に悔い改めを告げて人々をわたしのもとに導き，父の王国で彼らとともに安息を得られるように（教義 15：6〔教義 16：6〕）。死ぬ者はその労苦をすべて解かれて休み（教義 59：2〔黙示 14：13〕）。主の安息とは，主の完全な栄光のことである（教義 84：24）。

安息日（あんそくにち）　「安息」「創造；創造する」参照

休息と礼拝のために設けられた，週に 1 度の聖日。神は万物を創造された後，7 日目に休まれた。そして週の 1 日を，人々に神を思い起こさせるための安息の日とするように命じられた（出エ 20：8−11）。

キリストの復活まで，教会員はユダヤ人と同じように週の最後の日を安息日（あんそくにち）として守っていた。復活後は，ユダヤ人であれ異邦人であれ，教会員は主の復活を記念するために週の最初の日（主の日）を安息日（あんそくにち）とするようになった。今日の教会員も週の 1 日を，神を礼拝し世の働きを休む聖なる安息日（あんそくにち）として守り続けている。

安息日（あんそくにち）は人々に霊的な養いの必要性と神に従う義務を思い起こさせる。安息日（あんそくにち）の遵守をおろそかにする国は，生活全般にその影響を受け，その宗教生活が崩れ始める（ネヘ 13：15−18；エレ 17：21−27）。

神は第 7 日に休まれた（創世 2：1−3）。イスラエルの民は安息日（あんそくにち）にはマナを集めなかった（出エ 16：22−30）。安息

日を覚えて，これを聖とせよ（出エ 20：8−11〔モサ 13：16−19〕）。安息日は神と人との間のしるしとして与えられた（出エ 31：12−17〔エゼ 20：12，20〕）。安息日には売り買いをしてはならない（ネヘ 10：31）。安息日を喜びの日と呼び，主の聖日を尊ぶべき日ととなえ，おのが楽しみを求めず（イザ 58：13−14）。安息日は人のためにあるもので，人が安息日のためにあるのではない（マコ 2：23−28）。人の子は安息日の主である（ルカ 6：1−10）。イエスは安息日に会堂で教え，病人を癒された（ルカ 13:10−14）。ニーファイ人は安息日を聖なる日として守った（ジェロ 1：5）。安息日を守って聖なる日として保つ（モサ 18：23）。わたしの聖日に祈りの家に行って，聖式をささげなければならない（教義 59：9−13）。シオンに住む者はまた，安息日を守らなければならない（教義 68：29）。神であるわたしは，わたしのすべての業を離れて休んだ（モセ 3：1−3〔創世 2：1−3；アブ 5：1−3〕）。

アンタイ・ニーファイ・リーハイ人　「アンモン（モーサヤの息子）」「ヒラマンの息子たち」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の，モーサヤの息子たちによって改宗したレーマン人の呼び名。アンモンの民とも呼ばれたこの人々は，改宗した後，生涯従順であった（アル 23：4−7，16−17；27：20−27）。

彼らは，自分たちをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と名付けた（アル 23：16−17；24：1）。彼らは人の血を流すことを拒み，武器を埋めた（アル 24：6−19）。彼らの息子たちは戦争に備え，ヒラマンを自分たちの指揮官に選んだ（アル 53：16−19；56−58 章〔これらの息子たちは 2 千人の若い兵士としても知られていた〕）。

アンデレ

『新約聖書』の中の人物。シモン・ペテロの兄弟。イエスが地上で務めを果たしておられたときに召された十二使徒の一人（マタ 4：18−19；マコ 1：16−18，29）。

アンナ

『新約聖書』の中の人物。アセル族の女預言者。イエスの降誕のときに，彼女は年老いた寡婦であった。彼女は神殿に連れて来られた幼子イエスを見て，贖い主であると認めた（ルカ 2：36−38）。

アンナス　「カヤパ」参照

『新約聖書』の中の人物。サンヒドリン（議会）の有力者。イエスは逮捕されたとき，まずアンナスのもとに連行された（ヨハ 18：13）。使徒たちの裁判においても指導的な役割を演じた（使徒 4：3−6）。

アンモン（ゼラヘムラの子孫）　「リムハイ」参照

『モルモン書』の中の人物。屈強な力の強い男で，ゼラヘムラからニーファイ・リーハイの地へ向かう捜索隊を率いた（モサ 7：1−16）。昔の記録を見せられて，聖見者とは何かを説明

した（モサ 8：5−18）。後に，リムハイ王とその民をレーマン人から解放する手助けをし，彼らをゼラヘムラに連れ戻した（モサ 22 章）。

アンモン（モーサヤの息子）「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。アンモンは宣教師として働き，彼の熱心な努力によって多くの人がキリストに帰依することとなった。

不信仰で，教会を滅ぼそうとした（モサ 27：8−10，34）。天使が彼と彼の仲間に現れた（モサ 27：11）。悔い改めて，神の言葉を宣(の)べ伝え始めた（モサ 27：32−28：8）。王位を受けることを辞退し，神の言葉を宣(の)べ伝えるためにレーマン人の地へ行った（アル 17：6−9）。導きを求めて断食し，祈った（アル 17：8−11）。縛られてラモーナイ王の前に連れて行かれた（アル 17：20−21）。ラモーナイの羊の群れを取り戻した（アル 17：26−39）。ラモーナイに教えを説いた（アル 18：1−19：13）。神に感謝し，喜びのあまり力を失ってしまった（アル 19：14）。彼が改宗に導いた人々は，二度と道を踏み外さなかった（アル 23：6）。神の手に使われる者となり，何千もの人々を真理に導けたことを喜んだ（アル 26：1−8〔アル 26：1−37〕）。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民を安全な地に導いた（アル 27 章）。同僚たちとともにアルマに出会って，大きな喜びを感じた（アル 27：16−18）。

言い伝え

代々伝えられていく考えや習慣（2 テサ 2：15）。主は聖典の中で義人に対し，人の邪悪な言い伝えを避けるよう絶えず警告しておられる（レビ 18：30；マコ 7：6−8；モサ 1：5；教義 93：39−40）。

イエス・キリスト「贖(あがな)い；贖(あがな)う」「贖(あがな)い主」「贖(あがな)いの計画」「油注がれた者」「アルパとオメガ」「イエス・キリストの再臨」「生ける水」「命のパン」「岩」「インマヌエル」「生まれる；産む；もうける」「エホバ」「解放者」「神；神会」「神の小羊」「犠牲」「ゴルゴタ」「山上の垂訓」「主」「十字架」「十字架の刑」「昇天」「贖罪(しょくざい)」「信仰」「救い主」「隅の石」「創造；創造する」「堕落（アダムとエバの）」「血」「仲保者(ちゅうほしゃ)」「長子；初子(ういご)」「罪の赦(ゆる)し」「慰め主；助け主」「初め」「花婿」「光；キリストの光」「羊飼い」「人の子」「福音書」「復活」「蛇（青銅の）」「弁護者」「変貌(へんぼう)」「マリヤ（イエスの母）」「道」「無窮」「恵み」「メシヤ」「良い羊飼い」「良心」「わたしは有る」参照

キリスト（ギリシャ語）とメシヤ（ヘブライ語）はともに「油注がれた者」の意味。イエス・キリストは霊における御父の長子であり（ヘブ 1：6；教義 93：21），肉における御父の独り子であられる（ヨハ 1：14；3：16）。またイエス・キリストはエホバであり（教義 110：3−4），世界が創造される前に，その偉大な召しに予任された。イエスは御父の指示の下に，地球と地上の万物を創造された（ヨハ 1：3，14；モセ 1：31−33）。イエスはマリヤの子

としてベツレヘムで生まれ，罪のない生活をし，また血を流し，十字架上で命をささげることによって，全人類の罪を完全に贖われた（マタ 2：1；1 ニフ 11：13−33；3 ニフ 27：13−16；教義 76：40−42）。イエスは死者の中からよみがえり，全人類がやがては復活できるようにされた。自分の罪を悔い改め，神の戒めに従う人は，イエスの贖罪と復活を通して，永遠にイエスと御父とともに住むことができる（2 ニフ 9：10−12；21−22 章；教義 76：50−53，62）。

イエス・キリストはこの地上に生を受ける者の中で，最も偉大な御方である。その生涯は，すべての人にいかに生きるべきかを教える完全な模範である。祈りや祝福，神権の儀式はすべてイエス・キリストの名によって行われなければならない。イエス・キリストは主の主，王の王，創造主，救い主，全地の神であられる。

イエス・キリストは福千年の間地上を統治するために，力と栄光とをもって再び来られる。終わりの日に，イエス・キリストは全人類を裁かれる（アル 11：40−41；ジ―マタ 1 章）。

イエス・キリストの生涯の要約（出来事順）：イエスの降誕と使命が預言された（ルカ 1：26−38〔イザ 7：14；9：6−7；1 ニフ 11 章〕）。イエスの降誕（ルカ 2：1−7〔マタ 1：18−25〕）。割礼を受けられた（ルカ 2：21）。神殿へ連れて行かれた（ルカ 2：22−38）。博士たちが訪れて来た（マタ 2：1−12）。マリヤとヨセフに連れられてエジプトへ逃れられた（マタ 2：13−18）。ナザレに連れて帰られた（マタ 2：19−23）。12 歳のとき，神殿に行かれた（ルカ 2:41−50）。弟や妹がいた（マタ 13：55−56〔マコ 6：3〕）。バプテスマを受けられた（マタ 3:13−17〔マコ 1：9−11；ルカ 3：21−22〕）。悪魔に試みられた（マタ 4：1−11〔マコ 1：12−13；ルカ 4：1−13〕）。弟子たちを召された（マタ 4：18−22〔マタ 9：9；マコ 1：16−20；2：13−14；ルカ 5：1−11，27−28；6：12−16；ヨハ 1：35−51〕）。十二弟子に権威をお授けになった（マタ 10:1−4〔マコ 3:13−19；ルカ 6：12−16〕）。山上の垂訓を述べられた（マタ 5−7 章）。御自身の死と復活を予告された（マタ 16：21〔マタ 17：22−23；20：17−19；マコ 8：31；9：30−32；10：32−34；ルカ 9：22；18：31−34〕）。変貌された（マタ 17：1−9〔マコ 9：2−8；ルカ 9:28−36〕）。七十人を遣わされた（KJ ルカ 10：1−20）。エルサレムに勝利の入城をされた（マタ 21：1−11〔マコ 11：1−11；ルカ 19：29−40；ヨハ 12：12−15〕）。聖餐を定められた（マタ 26：26−29〔マタ 14：22−25；ルカ 22：19−20〕）。ゲツセマネで苦しみ，祈られた（マタ 26：36−46〔マコ 14：32−42；ルカ 22：39−46〕）。裏切られ，捕らえられ，見捨てられた（マタ 26：47−56〔マコ 14：43−53；ルカ 22：47−54；ヨハ 18：2−13〕）。十字架につけられた（マタ 27:31−54〔マコ 15：20−41；ルカ 23：26−28，32−49；ヨハ 19：16−30〕）。復活された（マタ 28：1−8〔マコ 16：1−8；ルカ 24：1−12；ヨハ 20：1−10〕）。復活の後に御姿を現された（マタ 28:9−20〔マコ 16：9−18；ルカ 24：13−48；ヨハ 20：11−31；使徒 1：3−8；1 コリ

15：5−8〕)。天に昇られた（マコ 16：19−20〔ルカ 24：51−53；使徒 1：9−12〕)。ニーファイ人に御姿を現された(3ニフ 11：1−17〔3 ニフ 11−26 章〕)。ジョセフ・スミスに御姿を現された(ジ―歴史 1：15−20)。

前世におけるキリスト：主はアブラムに現れ（創世 12：7〔創世 17：1；18：1；アブ 2：6−8〕)。主はモーセと顔を合わせて語られた（出エ 33：11〔申命 34：10；モセ 1：1−2〕)。わたしは祭壇のかたわらに立っておられる主を見た（アモ 9：1)。初めに言(ことば)があった。言(ことば)は神と共にあった。そして言(ことば)は肉体となり，わたしたちのうちに宿った（ヨハ 1：1，14〔1 ヨハ 1：1−3〕)。アブラハムの生れる前からわたしは，いるのである（ヨハ 8：58)。父よ，世が造られる前に，わたしがみそばで持っていた栄光で，今み前にわたしを輝かせて下さい（ヨハ 17：5)。ニーファイやヤコブが贖(あがな)い主にまみえたと同じように，イザヤも贖(あがな)い主にまみえた（2ニフ 11：2−3)。明日，わたしは世に来る（3ニフ 1：12−14)。世の始まる前からすでにおられた（3ニフ 26：5〔ヨハ 6：62〕)。わたしはあなたに現れているように，将来肉にあってわたしの民に現れる（エテ 3：14−17)。エノクは主にまみえ，主とともに歩んだ（教義 107：48−49)。初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子（モセ 4：2)。主は言われた。「わたしはだれを遣わそうか。」すると，一人が人の子のように答えた。「わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。」（アブ 3：27)。

降誕と死に関する預言：おとめがみごもって男の子を産む（イザ 7：14〔1 ニフ 11：13−20〕)。ベツレヘムから，イスラエルを治める者が出る（ミカ 5：2)。レーマン人サムエルは，2 昼 1 夜がまるで 1 日のようになる日，暗くならない夜，新しい星，そのほかのしるしについて預言した（ヒラ 14：2−6)。レーマン人サムエルは，暗闇(くらやみ)や雷，稲妻，地震について預言した（ヒラ 14：20−27)。キリスト降誕のしるしが成就した（3ニフ 1：15−21)。イエスの死のしるしが成就した（3ニフ 8：5−23)。

キリストの予型と象徴：アベルは群れの初子(ういご)をささげた（創世 4：4〔モセ 5：20〕)。あなたのひとり子イサクを燔祭(はんさい)としてささげなさい（創世 22：1−13〔ヤコ 4：5〕)。主はイスラエルの子らに，傷のない子羊をささげるよう命じられた（出エ 12：5，21，46〔民数 9：12；ヨハ 1：29；19：33；1 ペテ 1：19；黙示 5：6〕)。これは主があなたがたの食物として賜わるパンである（出エ 16：2−15〔ヨハ 6：51〕)。岩を打ちなさい。水がそれから出て，民はそれを飲むことができる（出エ 17：6〔ヨハ 4：6−14；1 コリ 10：1−4〕)。やぎは彼らのもろもろの悪をになって（レビ 16：20−22〔イザ 53：11；モサ 14：11；15：6−9〕)。モーセは，それを仰ぎ見る人々を救うために青銅のへびを掲げた（民数 21：8−9〔ヨハ 3：14−15；アル 33：19；ヒラ 8：14−15〕)。ヨナは 3 日(か)3 夜(よ)その魚(うお)の腹の中にいた（ヨナ 1：17〔マタ 12：40〕)。これは，御父の，恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである（モセ 5：4−8)。

権威：まつりごとはその肩にあり（イザ 9：6〔2 ニフ 19：6〕）。権威ある者のように教えられた（マタ 7：28−29〔マコ 1：22〕）。人の子は地上で罪をゆるす権威をもっている（マタ 9：6）。イエスが権威をもって命じられると，汚れた霊は従った（マコ 1：27〔ルカ 4：33−36〕）。イエスは 12 人を立て，権威を授けられた（マコ 3：14−15）。イエスの言葉には権威があった（ルカ 4：32）。裁きのことはすべて御父からゆだねられた（ヨハ 5：22，27）。神はイエスに聖霊と力とを注がれ（使徒 10：38）。創世の前から予任されていた（1ペテ 1：20〔エテ 3：14〕）。地獄と死との鍵（かぎ）を持っておられる（黙示 1：18）。すべての人が大いなる創造主に従うようになる（2ニフ 9：5）。天地の父，時の初めからの万物の創造主であられる（ヒラ 14：12）。父の御心を行うために，父の御心によって来られた（教義 19：24）。御父の完全な栄光を受け，また一切の権威を受けられた（教義 93：3−4，16−17〔ヨハ 3：35−36〕）。

模範：わたしは手本を示した（ヨハ 13：15）。わたしは道であり，真理であり，命である（ヨハ 14：6）。キリストも，あなたがたのために苦しみを受け，御足（みあし）の跡を踏み従うようにと，模範を残されたのである（1ペテ 2：21）。人は生ける神の御子の模範に倣って，最後まで堪え忍ばなければ救われない（2ニフ 31：16）。わたしが完全であるように，あなたがたも完全になることを，わたしは望んでいる（3ニフ 12：48）。あなたがたは，わたしがしたように，いつもこれを行うように努めなさい（3ニフ 18：6）。わたしはあなたがたのために模範を示した（3ニフ 18：16）。わたしが行うのを見たそのとおりのことを，あなたがたも行いなさい（3ニフ 27:21, 27）。イエス・キリストに真に従う者は御子に似た者となる（モロ 7：48）。

栄光：主の栄光が幕屋に満ちた（出エ 40：34−38）。その栄光は全地に満つ（イザ 6：3〔2 ニフ 16：3〕）。主の栄光があなたの上にあらわれる（イザ 60：1−2）。人の子は父の栄光のうちに来る（マタ 16：27）。父よ，世が造られる前に，わたしがみそばで持っていた栄光で，今み前にわたしを輝かせて下さい（ヨハ 17：5）。イスラエルの聖者が大いなる栄光をもって必ず統治される（1ニフ 22：24）。キリストの栄光を待ち望んでいた（ヤコ 4：4）。神の御子は栄光を帯びて来られる（アル 5：50）。イエスは世の初めから将来御自分が栄光のうちに来られるときまでのすべてのことについて説き明かされた（3ニフ 26：3）。わたしの使徒たちは，わたしと同じように栄光を受けて（教義 29：12〔教義 45：44〕）。わたしたちは御父の右に御子の栄光を見（教義 76：19−23）。ヨハネはわたしの完全な栄光を見て，証（あかし）した（教義 93：6〔ヨハ 1：14〕）。その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた（教義 110：3）。神の栄光がわたしのうえにあり，わたしは神の御顔を見た（モセ 1：1−11）。これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。

教会の頭（かしら）：キリストが教会のかしらであって（エペ 5:23〔エペ 1:22;4:15〕）。自らは，そのからだなる教会の

かしらである（コロ 1：18）。これはわたしの教会である（モサ 26：22〔モサ 27：13〕）。彼らの信仰の創始者であり完成者である（モロ 6：1−4）。わたしはこの教会を設け（教義 33：5〔3ニフ 27：3−8〕）。

御名を受ける：わたしたちを救いうる名は，これを別にしては，だれにも与えられていない（使徒 4：12〔2ニフ 31：21〕）。使徒たちは，御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜び（使徒 5：38−42）。その戒めというのは，神の子イエス・キリストの御名を信じることである（1ヨハ 3:23）。バプテスマを受けることによって，キリストの名を喜んで受けることを御父に証明する（2ニフ 31：13）。キリストの御名を受けてほしい（モサ 5：6−12〔モサ 1：11〕）。神の名を受けることを望んだ者はだれでも皆，神の教会に加わった（モサ 25：23）。キリストのまことの信者であった人々は皆，クリスチャンという名を喜んで受けた（アル 46:15）。天の門はイエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれている（ヒラ 3：28）。終わりの日に，わたしの名に忠実であると認められる者は幸いである（エテ 4：19）。進んで御子の御名を受け（モロ 4：3〔教義 20：77〕）。キリストの名を受けなさい（教義 18：21−25）。

イエス・キリストについての証（あかし）：パウロはイエスがキリストであることを証（あかし）した（使徒 18：5）。悪霊でさえも，イエスを知っていると証（あかし）した（使徒 19：15）。聖霊によらなければ，だれも「イエスは主である」と言うことができない（1コリ 12：3）。あらゆるものがひざをかがめ，また，あらゆる舌が，「イエス・キリストは主である」と告白し（ピリ 2：10−11）。わたしたちはキリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを預言し（2ニフ 25：26）。『モルモン書』は，イエスがキリストであられることをユダヤ人と異邦人に確信させる（2ニフ 26：12〔『モルモン書』のタイトルページ〕）。預言者と聖文はキリストについて証（あかし）している（ヤコ 7：11，19）。預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めるように（エテ 12：41）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは小羊を見，小羊が御父の独り子であられるという証（あかし）の声を聞いた（教義 76：20−24）。永遠の命とは，神とイエス・キリストとを知ることである（教義 132：24）。わたしたちは，永遠の父なる神と，その御子イエス・キリストと，聖霊とを信じる（箇条 1：1）。わたしたちは，キリストが自ら地上を統治されることを信じる（箇条 1：10）。

死後の現れ：イエスはよみがえって，まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた（マコ 16：9〔ヨハ 20：11−18〕）。イエスはエマオへの道で二人の弟子と一緒に歩き，話をされた（ルカ 24：13−34）。イエスが弟子たちに御姿を現され，弟子たちはその手と足に触れた（ルカ 24：36−43〔ヨハ 20：19−20〕）。イエスはトマスに御姿を現された（ヨハ 20：24−29）。イエスはテベリヤの海べで，ご自身をまた弟子たちにあらわされた（ヨハ 21：1−14）。イエスは復活の後，40 日にわたって人々を教え導かれた（使徒 1:2−3）。

ステパノは，イエスが神の右に立っておられるのを見た（使徒 7：55−56）。イエスはサウロに御姿を現された（使徒 9：1−8〔JS 使徒 9：7；使徒 26：9−17〕）。キリストは 500 人以上の兄弟たちに御姿を現された（1コリ 15：3−8）。イエス・キリストはニーファイの民に御自身を示された（3ニフ 11：1−17）。2,500 人の人々がイエスにまみえ，その声を聞いた（3ニフ 17：16−25）。モルモンは主の訪れを受けた（モル1:15）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは神の右にイエスを見た（教義 76：22−23）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，カートランド神殿で主にまみえた（教義 110:1−4）。ジョセフ・スミスは神の右にイエスを見た（ジ―歴史 1：15−17）。

キリストによる福千年の統治：まつりごとはその肩にあり（イザ 9：6〔2ニフ 19：6〕）。わたしが来て，あなたの中に住むからである（ゼカ 2：10−12〔ゼカ 14：9〕）。神は彼に父ダビデの王座をお与えになり（ルカ 1：30−33）。主は世々限りなく支配なさる（黙示 11：15）。キリストと共に千年の間，支配した（黙示 20：4〔教義 76：63〕）。聖者の民の義のために，サタンはまったく力を持たず（1ニフ 22：26〔黙示 20：1−3〕）。わたしは千年の間地上で人々とともに義のうちに住む（教義 29：11〔教義 43：29−30〕）。治める権利を持つ者が治めるまで，今ある権力に従いなさい（教義 58：22〔1コリ 15：25〕）。キリストが自ら地上を統治される（箇条 1:10〔イザ 32:1〕）。

裁き：主は正義をもって世界をさばき（詩篇 9：8〔3ニフ 27：16〕）。主は地をさばくために来られる（詩篇 96：13）。神は正しい者と悪い者とをさばかれる（伝道 3：17）。彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い（イザ 2：4〔ミカ 4：3；2ニフ 12：4〕）。正義をもって貧しい者をさばき（イザ 11：2−4）。さばきのことはすべて，子にゆだねられた（ヨハ 5：22）。もしわたしがさばくとすれば，わたしのさばきは正しい（ヨハ 8：16）。生者と死者との審判者として神に定められたかたである（使徒 10：42〔2テモ 4：1〕）。神がキリスト・イエスによって人々の隠れた事がらをさばかれる（ロマ 2：16）。わたしたちはみな，キリストのさばきの座の前に立つのである（KJ ロマ 14：10〔2コリ 5：10；アル 12：12；モル 3：20；7：6；エテ 12：38；教義 135：5〕）。人は皆，神の内にある真理と聖（きよ）さによって裁かれる（2ニフ 2：10）。行いに応じて裁かれるために神の御前に立つ（アル 5：15〔アル 12：15；33：22；3ニフ 27：14〕）。神とキリストが万民の審判者であられる（教義 76：68）。

イエス・キリストの教会　「神の王国；天の王国」「教会の名称」「聖徒」「福音の回復」「まことの教会のしるし」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

バプテスマと確認によってイエス・キリストの名を受けた信者の組織。まことの教会であるということは，主の教会でなければならない。すなわち，主の権能，教え，律法，儀式，御名を持ち，主から任じられた代表者を通して，主によって治められていなければならない。

主は，救われる者を日々仲間に加えて下さった（使徒 2：47）。わたしたちも数は多いが，キリストにあって一つのからだであり（ロマ 12：5）。わたしたちは皆，一つの御霊（みたま）によって，一つのからだとなるようにバプテスマを受け（1コリ 12：13）。教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：19−20）。使徒や預言者は教会に欠かせない（エペ 4：11−16）。キリストが教会のかしらであって（エペ 5：23）。多くの教会があったにもかかわらず，それらはすべて一つの教会であった（モサ 25：19−22）。教会は清められ，秩序が確立された（アル 6：1−6）。キリストの教会は，キリストの名で呼ばれなければならない（3ニフ 27：8）。教会員は断食し，祈るため，また互いに語り合うためにしばしば集まった（モロ 6：5）。これは唯一まことの生ける教会である（教義 1：30）。この終わりの時にキリストの教会が起こされた（教義 20：1）。主は御自分の教会を築き上げるために僕（しもべ）を召される（教義 39：13）。わたしの教会は，終わりの時にこのように呼ばれなければならない（教義 115：4）。

イエス・キリストの降誕と死のしるし
「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストの降誕と死に伴って起きた数々の出来事。

降誕：おとめがみごもって男の子を産む（イザ 7：14）。ベツレヘムから，イスラエルを治める者が出る（ミカ 5：2）。レーマン人サムエルは，2 昼 1 夜がまるで 1 日のようになる日，暗くならない夜，新しい星，その他のしるしについて預言した（ヒラ 14：2−6）。しるしが成就した（3ニフ 1：15−21）。

死：レーマン人サムエルは，暗闇（くらやみ）や雷，稲妻，地震について預言した（ヒラ 14：20−27）。しるしが成就した（3ニフ 8：5−23）。

イエス・キリストの再臨　「イエス・キリスト」「ゴグ」「時のしるし」「ハルマゲドン」「マゴグ」参照

福千年の初めに，キリストは地上に戻って来られる。この出来事は，地球の現世の状態の終わりを告げるものである。悪人は地から除かれ，義人は地球が清められている間，雲の中に取り上げられる。キリストが再び来られる正確な日時はだれにも分からないが，キリストは，再臨の時が近いことを示すしるしとして，わたしたちが待ち受けるべきものを幾つか与えてくださった（マタ 24 章；ジ—マタ 1 章）。

後の日に彼は必ず地の上に立たれる（ヨブ 19：25）。すべてのひざはわが前にかがみ，すべての舌は誓いをたてる（イザ 45：23〔教義 88：104〕）。人の子のような者が，天の雲に乗ってきて（ダニ 7：13〔マタ 26：64；ルカ 21：25−28〕）。彼らはその刺した者を見る（ゼカ 12：10）。人が彼に「あなたの背中の傷は何か」と尋ねるならば（ゼカ 13：6〔教義 45：51〕）。その来る日には，だれが耐え得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり（マラ 3：2〔3 ニフ 24：2；教義 128：24〕）。人の子は父の栄光のうちに来る（マタ 16：27〔マタ 25：31〕）。その日，

その時は，だれも知らない。ただ父だけが知っておられる（マタ 24：36〔教義 49：7；ジ―マタ 1：38−48〕）。このイエスは，天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で，またおいでになるであろう（使徒 1：11）。主ご自身が天から下ってこられる（1テサ 4：16）。主の日は盗人のように襲って来る（2ペテ 3：10）。主は無数の聖徒たちを率いてこられた（ユダ 1：14）。彼は，雲に乗ってこられる。すべての人の目は，彼を仰ぎ見るであろう（黙示 1：7）。わたしが立って世の人々を裁く（3ニフ 27：14−18）。あなたがたは備えなさい。備えなさい。主は近いからである（教義 1：12）。わたしは力をもって，天から姿を現し，千年の間地上に住む（教義 29：9−12）。声を上げ，悔い改めを叫んで，主の再臨のために道を備えるように（教義 34：5−12）。わたしはイエス・キリストである。わたしは突如わたしの神殿に来る（教義 36：8〔教義 133：2〕）。あなたがたがわたしを見て，わたしのいることを知る日がすぐに来る（教義 38：8）。わたしを畏れる者は，人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう（教義 45：39）。主の顔が現される（教義 88：95）。主の大いなる恐るべき日が近く（教義 110：16）。救い主が御姿を現されるとき，わたしたちは，救い主をありのままに見るであろう（教義 130：1）。救い主がその民のただ中に立ち，すべての肉なるものを治める（教義 133：25）。染めた衣をまとって天の神のみもとから降って来られるこの御方はどなたか（教義 133：46〔イザ 63：1〕）。

生かす　「復活」参照

神のもとにいることができるように，人を命ある者とし，復活させ，変えること。

神はわたしたちを，キリストと共に生かし（エペ 2：4−5〔コロ 2：6，12−13〕）。キリストは，肉においては殺されたが，霊においては生かされたのである（1ペテ 3：18〔教義 138：7〕）。御霊によって変えられないかぎり，いまだかつて肉体において神を見た者はいない（教義 67：11）。贖いは，万物を生かす者によって来る（教義 88：16−17）。聖徒たちは，身を変えられて，キリストに会うために引き上げられる（教義 88：96）。アダムは内なる人において生かされる者となった（モセ 6：65）。

怒り　「愛」「憎しみ；憎む」参照

腹を立てた状態。主は聖徒たちに，怒りを抑えるように戒められた（マタ 5：22）。家庭にあっては，親も子供も互いをののしってはならない。聖典では，怒りはしばしば火にたとえられる（2ニフ 15：25；教義 1：13）。

カインは大いに憤って，顔を伏せた（創世 4：5）。主は怒ることおそく，いつくしみ豊かです（詩篇 145：8）。柔らかい答は憤りをとどめ（箴言 15：1）。憤りやすい者は争いをおこし，怒りをおそくする者は争いをとどめる（箴言 15：18〔箴言 14：29〕）。わが名のために，わたしは怒りをおそくする（イザ 48：9）。民に，わたしはひねもす手を伸べて招いた。この民はまのあたり常にわたしを怒らせ（イザ 65：2

−3)。もし，だれかがあなたの右の頬(ほお)を打つなら，ほかの頬(ほお)をも向けてやりなさい（マタ 5：39)。父たる者よ。子供をおこらせないで（エペ 6：4)。わたしが真実を告げたので，あなたがたはわたしに対して怒っている（モサ 13：4)。主は怒ってこの民を罰し（アル 8：29)。すべてのことの中に神の手を認めない者のほかに，どのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない（教義 59：21)。主なるわたしは悪人のことを怒っており（教義 63：32)。

憤り　「怒り」参照

生ける水　「イエス・キリスト」参照

主イエス・キリストとその教えの象徴。肉体の命を保つのに水が不可欠であるように，永遠の命を得るには，救い主とその教え（生ける水）が欠かせない。

あなたがたは喜びをもって，救(すくい)の井戸から水をくむ（イザ 12：3)。生ける水の源であるわたしを捨てて（エレ 2：13)。わたしが与える水を飲む者は，いつまでも，かわくことがない（ヨハ 4：6−15)。だれでもかわく者は，わたしのところにきて飲むがよい（ヨハ 7：37)。鉄の棒は人を生ける水の源に導く（1ニフ 11：25)。価なしに命の水を飲む（教義 10：66)。主の戒めは生ける水の井戸となる（教義 63：23)。

異言の賜物(たまもの)　「舌」「御霊(みたま)の賜物(たまもの)」参照

聖霊の賜物(たまもの)の一つ。霊感を受けた人はこの賜物(たまもの)によって，自分が知らない言語を話したり，理解したり，通訳したりすることができる。わたしたちは異言の賜物(たまもの)を信じている（箇条 1：7)。

一同は聖霊に満たされ，いろいろの他国の言葉で語り出した（使徒 2：4)。異言を語る者は，人にむかって語るのではなく，神にむかって語るのである（1コリ 14：1−5，27−28)。異言は未信者のためのしるしである（1コリ 14：22−28)。火と聖霊によるバプテスマを受ける。すると天使の言葉で語ることができる（2ニフ 31：13−14)。異言で語る賜物(たまもの)を信じるように説き勧めよう（オム 1：25)。ある人には，異言で語ることが許される。また，別の人には，異言の解釈が与えられる（教義 46：24−25〔1 コリ 12：10；モロ 10：8，15−16〕)。異言の賜物(たまもの)が注がれますように（教義 109：36)。

イサク　「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の族長。老年のアブラハムとサラにイサクが生まれたのは，一つの奇跡であった（創世 15：4−6；17：15−21；21：1−8)。アブラハムが進んでイサクをささげたことは，神と神の独り子の相似であった（ヤコ 4：5)。イサクはアブラハムの聖約に伴う約束を受け継ぐ者であった（創世 21：9−12；1 ニフ 17：40；教義 27：10)。

誕生（創世 21：1−7)。モリヤの山で犠牲としてささげられることになった（創世 22：1−19〔教義 101：4〕)。結婚した（創世 24 章)。息子たちへの対応（創世 27 章；28：1−9)。アブラハムやヤコブとともに昇栄を受けた

（教義 132：37〔マタ 8：11〕）。

イザヤ

旧約の預言者。紀元前 740−701 年にかけて預言した。イザヤはヒゼキヤ王の中心的な相談役として，宗教と政治の両面で大きな影響力を持っていた。

イエスは他のどの預言者の預言よりもイザヤの預言を多く引用された。イザヤの言葉は，ペテロ，ヨハネ，パウロによっても，『新約聖書』によく引用されている。『モルモン書』と『教義と聖約』は，他のどの預言者の言葉よりもイザヤの言葉を多く含み，その解釈に大きな貢献をしている。ニーファイはイザヤの言葉を引いて民を教えた（2 ニフ 12−24 章;イザ 2−14 章）。主はニーファイ人に「イザヤの言葉はまことに偉大」であり，イザヤの預言したすべてのことは成就すると言われた（3 ニフ 23：1−3）。

イザヤ書：『旧約聖書』の中の 1 書。イザヤの預言の多くは贖（あがな）い主の来臨について述べたものであり，主の地上での務め（イザ 9：6）と末日における偉大な王としての来臨（イザ 63 章）の両面を含んでいる。イザヤはイスラエルの将来についても多くの預言を残している。

第 1 章は，イザヤ書全体に対する序章である。イザヤ 7：14；9：6−7；11：1−5；53：1−12；61：1−3 は，救い主の使命をあらかじめ示すものである。第 2；11；12；35 章には，福音が回復され，イスラエルが集められ，乾いた地がばらのように花咲く，末日の数々の出来事が記されている。第 29 章には，『モルモン書』の出現に関する預言がある（2 ニフ 27 章）。第 40−46 章には，エホバが異教徒の礼拝する偶像神をしのぐまことの神であることが宣言されている。残る第 47−66 章には，主がその民の中にとどまられることとともに，イスラエルの最終的な回復とシオンの設立に伴う様々な出来事が描かれている。

イシマエル（アブラハムの息子）「アブラハム」「ハガル」参照

『旧約聖書』の中の人物。アブラハムとハガルの子供。ハガルはエジプト人で，サラのつかえめであった（創世 16：11−16）。主はアブラハムとハガルに，イシマエルは大いなる国民の父祖になると約束された（創世 21：8−21）。

契約はイシマエルとではなく，イサクとの間に立てられた（創世 17：19−21〔ガラ 4：22−5：1〕）。神はイシマエルに，多くの子孫を得させるとの祝福を与えられた（創世 17：20）。アブラハムを埋葬した（創世 25：8−9）。イシマエルの 12 人の息子の名が述べられる（創世 25：12−16）。イシマエルの死（創世 25：17−18）。エサウはイシマエルの娘マハラテを妻にめとった（創世 28：9）。

イシマエル（ニーファイの義父）「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。約束の地へ旅するリーハイの一行に，家族とともに加わった。

イシマエルとその家族は，リーハイ

やその家族と一緒に約束の地へ行くよう招きを受けた(1ニフ 7：2−5)。リーハイの子供たちとイシマエルの子供たちが結婚した（1ニフ 16：7)。荒れ野で死んだ（1ニフ 16：34)。

イスラエル　「アブラハム―アブラハムの子孫」「ヤコブ(イサクの息子)」「養子縁組」参照

『旧約聖書』には，イサクの子でありアブラハムの孫であるヤコブに，主がイスラエルという名を与えられたことが記されている（創世 32：28；35：10)。このイスラエルという名は，ヤコブやその子孫に対して，またその子孫がかつて旧約の時代に築いた王国に対して用いられる（サ下 1：24；23：3)。イスラエルの子らは，モーセによってエジプトの奴隷の状態から導き出された（出エ 3−14 章）後，300 年以上にわたって士師により治められた。サウル王から始まりソロモンの死に至るまで，統一イスラエルは王による統治を受けた。ソロモンの死に際して，10 の部族がレハベアムに背いて，別の国を作った。イスラエル王国の分裂後，数において勝っていた北の諸部族はイスラエルの名を継承したが，一方，南の王国はユダと呼ばれた。今日では，カナンの地もイスラエルと呼ばれている。別の意味で，イスラエルはキリストを心から信じる者を指す（ロマ 10：1；11：7；ガラ 6：16；エペ 2：12)。

イスラエルの十二部族：アブラハムの孫でイスラエルと改名したヤコブには，12 人の息子がいた。彼らの子孫は，イスラエルの十二部族，あるいはイスラエルの子らと呼ばれる。以下がその十二部族の名である。ルベン，シメオン，レビ，ユダ，イッサカル，ゼブルン（以上はヤコブとレアの子)，ダンとナフタリ（ヤコブとビルハの子)，ガドとアセル（ヤコブとジルパの子)，ヨセフとベニヤミン（ヤコブとラケルの子）（創世 29：32−30：24；35：16−18)。

ヤコブは死を前にして，各部族の指導者に祝福を与えた（創世 49：1−28)。詳細については，ヤコブのそれぞれの息子の項を参照のこと。

ヤコブの最初の妻レアの第一子ルベンは，不品行のゆえに（創世 49：3−4)，長子の特権の祝福と 2 倍の相続分とを失ってしまった。そして長子の特権は，ヤコブの 2 番目の妻ラケルの第一子ヨセフに与えられることになった（歴上 5：1−2)。レビは，神権の務めをなす部族として主から選ばれ，全部族の中で特別な務めを果たすように召されたため，受け継ぎの地は与えられなかった。これによってヨセフは 2 倍分を相続し，二人の息子エフライムとマナセがそれを分け（歴上 5：1；エレ 31：9)，この二人はそれぞれ独立した部族と見なされた（JS 創世 48：5−6)。

メシヤが来られるまでは，ユダの部族に属する者がイスラエルの民を統治することになっていた（創世 49：10；JS 創世 50：24)。終わりの時に，エフライムの部族は世の人々に福音の回復の知らせを伝え，散らされたイスラエルを集める特権を持つ（申命 33：13−17)。イエス・キリストの福音により，エフライムがイスラエルの全部族を統一させる業において指導的な役割を果たす時が来る（イザ 11：12−13；教義 133：26−34)。

イスラエルの散乱：主はイスラエルの十二部族を，その不義と背反のゆえに散らし，苦しめられた。しかし，主は選ばれた民をこのように国々の中に散乱させ，それによってその国々に祝福をもたらす機会とされた。

わたしはあなたがたを国々の間に散らし（レビ 26：33）。主はもろもろの民のうちにあなたがたを散らされるであろう（申命 28：25，37，64）。わたしは彼らを地の万国に忌みきらわれるものとなし（エレ 29：18−19）。わたしはイスラエルの家を万国民（ばんこくみん）のうちでふるう（アモ 9：9〔ゼカ 10：9〕）。イエスはイスラエルの家の失われた羊に遣わされた（マタ 15：24）。わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある（ヨハ 10：16）。イスラエルは地の全面に散らされる（1ニフ 22：3−8）。ヤコブ，栽培されたオリーブの木と野性のオリーブの木についての，ゼノスの述べた比喩（ひゆ）を引用する（ヤコ 5−6 章）。父の業は，散らされた者の中で始まるであろう（3ニフ 21：26）。

イスラエルの集合：イスラエルの家は，キリストの来臨に先立って終わりの時に集められる（箇条 1：10）。主が御自分の民イスラエルを集められるのは，彼らが主を受け入れ，主の戒めを守るときである。

主は旗をあげて招き，彼らは走って来る（イザ 5：26）。わたしは大いなるあわれみをもってあなたを集める（イザ 54：7）。イスラエルとユダは彼らの地に集められる（エレ 30:3）。主はイスラエルの家の者を，その散らされたもろもろの民の中から集められる（エゼ 28：25）。時の満ちる神権時代に，神はすべてのものを，キリストにあって一つに帰せしめようとされた（エペ 1：10）。イスラエルは散らされるが，また集められる（1ニフ 15：12−17）。主はイスラエルの家に属する民をすべて集められる（1ニフ 19:16〔3ニフ 16：5〕）。彼らはその受け継ぎの地に集められます。そして暗黒から連れ戻されます（1ニフ 22：12）。神はその子らを集めて，数えられる（1ニフ 22：25）。異邦人の国民はイスラエルを受け継ぎの地に連れ戻す（2ニフ 10：8〔3ニフ 16：4〕）。わたしの民は集め戻され，わたしの言葉も一つに集められる（2ニフ 29：13−14）。長老たちは選民を集めるために召されている（教義 29：7〔教義 39：11〕）。わたしはわたしの選民を集めよう（教義 33：6）。あなたがたが義にかなった民としてわたしのもとに集められるために（教義 38：31−33）。わたしがイスラエルの家に属するわたしの民を再び元に戻す（教義 39：11）。聖徒たちは地の四方から出て来るであろう（教義 45：46）。モーセが集合の鍵（かぎ）をゆだねた（教義 110：11）。義と真理は洪水のように地を満たし，主の選民を集める（モセ 7：62）。集合が，死体にはげたかが集まることにたとえられる（ジ―マタ 1：27）。

行方の知れない十部族：イスラエルの北王国を成していた十部族は，紀元前 721 年にアッシリア（アッスリヤ）に捕囚として連れ去られた。それから彼らは「北の地」へ向かい，やがて消息を絶った。この十部族は終わりの時に戻って来る。

わたしは北にむかって「ゆるせ」と言い（イザ 43：6）。人々は北から来る（イザ 49：12〔1 ニフ 21：12〕）。ユダとイスラエルは北の地から出て，共に来る（エレ 3：18）。イスラエルの民を北の国から導き出した主は生きておられる（エレ 16：14−16）。わたしは彼らを北の国から連れ帰り（エレ 31：8）。ニーファイ人とユダヤ人は，イスラエルの行方の知れない部族の言葉を得る（2ニフ 29：12−13）。わたしはイスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身を現そう（3ニフ 17：4）。福音がイスラエルの家の残された者たちに宣（の）べ伝えられるとき，行方の知れない部族が彼らの受け継ぎの地に戻される（3ニフ 21：26−29）。モーセがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにイスラエルの集合の鍵（かぎ）をゆだねた（教義 110：11）。北の地にいる者たちは主の前に覚えられるようになる（教義 133:26−32）。わたしたちは，イスラエルの文字どおりの集合を信じる（箇条 1：10）。

イスラエルの家　「イスラエル」参照

イスラエルの子ら　「イスラエル」参照

イスラエルの集合　「イスラエル—イスラエルの集合」参照

イスラエルの十二部族　「イスラエル—イスラエルの十二部族」参照

イスラエルの聖者　「イエス・キリスト」参照

イゼベル　「アハブ」参照

『旧約聖書』の中の人物。フェニキア出身の邪悪な女。エリヤが預言者であったときのイスラエルの王アハブの妻（列上 16：30−31）。

イゼベルとアハブの結婚は，他のいかなる出来事にも増して，イスラエルの北王国の衰亡の大きな原因となった。イゼベルは，母国フェニキアからイスラエルに，エホバ礼拝に代えて最も邪悪な偶像礼拝の様式を持ち込んだのである（列上 18：13，19）。

神の預言者を大勢殺した（列上 18：4）。エリヤを殺そうとした（列上 19：1−3）。イゼベルの悪行は悲惨な死をもって終わった（列下 9：30−37）。

イッサカル　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの息子（創世 30：17−18；35：23；46：13）。イッサカルの子孫はイスラエルの十二部族の一つとなった。

イッサカルの部族：ヤコブがイッサカルに授けた祝福は，創世 49：14−15 に記されている。カナンに定住した後，この部族はエスドラエロン平原を含むパレスチナで最も肥沃な地を与えられた。イッサカルの領域には，カルメル，メギド，ドタン，ギルボア，エズレル，タボル，ナザレ（ヨシ 19:17−23）など，ユダヤ人の歴史の中で重要な場所が幾つかあった。

一致　「神；神会」参照

思いや望み，目的において，まず天

の御父とイエス・キリスト，次に他の聖徒たちと一つになること。

兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう（詩篇133：1）。わたしと父とは一つである（ヨハ10：30〔教義50：43〕）。わたしたちが一つであるように，彼らも一つとなるためであります（ヨハ17：11−23〔3ニフ19：23〕）。お互(たがい)の間に分争がないようにし，堅く結び合っていてほしい（1コリ1：10）。思いを一つにし，心を一つにして決意を固め，あらゆることに結束しなさい（2ニフ1：21）。互いに和合し，愛し合って結ばれた心を持ち（モサ18：21）。イエスはニーファイ人の間に一致があるように祈り求められた（3ニフ19：23）。弟子たちは集まり，一つになって熱烈に祈り，断食をした（3ニフ27：1）。御父と御子と聖霊は，一つの神であられる（教義20：27−28〔教義35：2；50：43〕）。まことの教会に加わるのが，あなたの務めである（教義23:7）。あなたがたが信仰をもって求めるものは，何でも与えられるであろう（教義29：6）。もしもあなたがたが一つでなければ，あなたがたはわたしのものではない（教義38：27）。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし，思いを一つにし，義のうちに住んだからである（モセ7：18）。

一夫多妻制　「結婚—多妻結婚」参照

偽り　「欺き」「悪口(あっこう)」「正直」参照

欺くことを目的に，真実でないことを言うこと。

互(たがい)に偽ってはならない（レビ19：11）。わたしは偽りを憎み，忌みきらいます（詩篇119：163）。偽りを言うくちびるは主に憎まれ（箴言12：22）。彼らはわが民，偽りのない子らである（イザ63：8）。彼は偽り者であり，偽りの父である（ヨハ8：44〔2ニフ2：18；エテ8：25；モセ4：4〕）。あなたは人を欺いたのではなくて，神を欺いたのだ（使徒5:4〔アル12:3〕）。「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は，偽り者である（1ヨハ4：20）。すべて偽りを言う者は第二の死を報いとして受ける（黙示21：8〔教義63：17〕）。偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである（2ニフ9：34）。少しばかり偽りを言っても悪いことではない，と言う者が大勢いる（2ニフ28：8−9〔教義10：25〕）。主に向かって偽りを言えるであろうか（アル5：17）。あなたは真理の神であり，偽りを言われることはありません（エテ3：12〔民数23：19；サ上15：29；テト1：2；ヘブ6：18；エノ1：6〕）。偽りを言って悔い改めようとしない者は，追い出されなければならない（教義42：21）。偽りを言う者は星の栄えの世界を受け継ぐ（教義76：81，103−106）。わたしたちは，正直であるべきことを信じる（箇条1：13）。

命　「永遠の命」「光；キリストの光」参照

神の力によってこの世的また霊的な存在が可能とされているもの。

わたしは，きょう，命とさいわいをあなたの前に置いた（申命30：15

−20)。あなたはいのちの道をわたしに示される（詩篇 16：11)。正義を追い求める者は，命を得る（箴言 21：21)。自分の命を得ている者はそれを失い，わたしのために自分の命を失っている者は，それを得るであろう（マタ 10：39〔マタ 16：25；マコ 8：35；ルカ 9：24；17：33〕)。この言（ことば）に命があった。そしてこの命は人の光であった（ヨハ 1：4)。わたしをつかわされたかたを信じる者は，死から命に移っている（ヨハ 5：24)。わたしは道であり，真理であり，命である（ヨハ 14：6)。もしわたしたちが，この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば，わたしたちは，最もあわれむべき存在となる（1コリ 15：19−22)。信心は，今のいのちと後の世のいのちとが約束されてあるので，万事に益となる（1テモ 4：8)。キリストの内にある命を待ち望むことができるようにする（2ニフ 25：23−27)。現世は人が神にお会いする用意をする時期である（アル 34：32〔アル 12：24〕)。わたしは世の光であり命である（3ニフ 9:18〔モサ 16:9；3 ニフ 11：11；エテ 4：12〕)。忠実な者は，生きるも死ぬも幸いである（教義 50：5)。永遠の命とは，神とイエス・キリストとを知ることである（教義 132：24)。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1:39)。

命の木　「エデン」参照

エデンの園と神のパラダイスにある木（創世 2：9；黙示 2：7)。リーハイの夢の中の命の木は神の愛を象徴し，神のあらゆる賜物（たまもの）の中で最も大いなるものとされている（1 ニフ 8 章；11：21−22，25；15：36)。

ケルビムと，回る炎のつるぎとを置いて，命の木の道を守らせられた（創世 3：24〔アル 12：21−23；42：2−6〕)。ヨハネは命の木と，その木の葉が諸国民を癒（いや）す力を持っているのを見た（黙示 22：2)。リーハイは命の木を見た（1ニフ 8：10−35)。ニーファイは父が見た木を見た（1ニフ 11：8−9)。鉄の棒は命の木に導く神の言葉である（1ニフ 11：25〔1 ニフ 15：22−24〕)。恐ろしい淵（ふち）が悪人を命の木から隔てていた（1ニフ 15：28，36)。禁断の実に対しては命の木がある（2ニフ 2:15)。わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう（アル 5：34，62)。もしもわたしたちの始祖が行って命の木から食べることができたとすれば，とこしえに不幸な状態でいたことであろう（アル 12:26)。御言葉を養おうとしなければ，あなたがたは決して命の木の実を得ることができない（アル 32：40)。主は園の中央に命の木を植えられた（モセ 3：9〔アブ 5：9〕)。神は，アダムが命の木からも取って食べ，永久に生きることのないように，彼をエデンの園から追い出された（モセ 4：28−31)。

命の書　「覚えの書」参照

ある意味で命の書とは，人の思いと行いを一まとめにしたもので，人生の記録である。しかし聖典は，忠実な人について記録が残されているとも教えている。その書には忠実な人々の名前

と，彼らの義にかなった行いが記されている。

主は罪を犯した者を主の書から消し去られる（出エ 32：33）。勝利を得る者は，その名をいのちの書から消されない（黙示 3：5）。もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった（黙示 20：12〔教義 128：6−7〕）。義人の名は命の書に書き記される（アル 5：58）。あなたがたの祈りは聖（きよ）められた者の名前の書に記録されている（教義 88：2）。

命のパン　「イエス・キリスト」「聖餐（せいさん）」参照

イエス・キリストは命のパンである。聖餐（せいさん）のパンはキリストの体を象徴的に表している。

わたしが命のパンである（ヨハ 6：33−58）。命のパンを食べ，命の水を飲みなさい（アル 5：34）。キリストの体の記念にパンを食べる（3ニフ 18：5−7）。パンはキリストの肉の象徴である（教義 20：40，77〔モロ 4：1−3〕）。

祈り　「アーメン」「深く考える」「求める」「礼拝」参照

神に感謝し，祝福を願い求める，厳粛な神との交わり。祈りはイエス・キリストの名によって天の御父にささげる。祈りは声に出すこともできるし，心の中で唱えることもできる。神に向けられたものであれば，人が心に思うことも祈りといえる。義人の歌もまた神への祈りとなる（教義 25：12）。

祈りの目的は，神の御心を変えることではなく，神がわたしたちに与えようとすでに備えておられる祝福を，自分のため，また人々のために得ることである。しかし，それを得るには求めなければならない。

わたしたちはキリストの名によって御父に祈る（ヨハ 14：13−14；16：23−24）。自分の望みとキリストが望んでおられることが一致するときに，わたしたちは真の意味でキリストの名により祈ることができる（ヨハ 15：7；教義 46：30）。そうするときに，わたしたちは，正当であって神が与えるのをよしとされることを願い求めるのである（3ニフ 18：20）。祈りによっては，キリストが望んでおられることではなく，人間の利己心から出たものであるために，聞き届けられないものもある（新ヤコ 4：3；教義 46：9）。確かに，不当なことを神に求めるなら，それは罪の宣告となるのである（教義 88：65）。

この時，人々は主の名を呼び始めた（創世 4：26）。祭壇の所に行き，そこでアブラムは主の名を呼んだ（創世 13：4）。アブラハムの僕（しもべ）はイサクの妻を見つけられるよう助けを祈り求めた（創世 24：10−19）。わたしは，あなたがたのために祈ることをやめて主に罪を犯すことは，けっしてしないであろう（サ上 12：23）。主は正しい者の祈（いのり）を聞かれる（箴言 15：29）。あなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば，わたしはあなたがたに会う（エレ 29：12−13）。迫害する者のために祈れ（マタ 5：44〔ルカ 6：28；3ニフ 12：44〕）。隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい（マタ 6：

5−8〔3ニフ 13：5−8〕)。だから，あなたがたはこう祈りなさい（マタ 6：9−13〔ルカ 11：2；3ニフ 13：9〕)。求めよ，そうすれば，与えられるであろう（マタ 7：7〔3ニフ 14：7；教義 4：7；6：5；66：9〕)。イエスは祈るためひそかに山へ登られた（マタ 14：23)。誘惑に陥らないように，目をさまして祈っていなさい（マタ 26：41〔マコ 14：38；3ニフ 18：15−18；教義 31：12〕)。疑わないで，信仰をもって願い求めなさい（新ヤコ 1:5−6〔教義 42：68；46：7〕)。義人の祈りは，大いに力があり（新ヤコ 5：16)。祈るように人に教えてくださる御霊（みたま）に耳を傾ける（2ニフ 32：8−9)。わたしは熱烈な祈りをもって造り主に叫び求めた（エノ 1：4)。わたしは幾日もの間，断食をして祈ってきた（アル 5：45−46〔アル 26：22〕)。しばしば祈り，また断食もした（アル 17：3)。ゼノスが祈りについて，すなわち礼拝について述べたものを覚えているだろうか（アル 33：3)。へりくだって，神に祈り続けなさい（アル 34：18−27)。あなたのすべての行いについて主と相談しなさい(アル 37:37)。あなたがたは，わたしの名によって常に父に祈らなければならない（3ニフ 18：19−20)。あなたがたの家族の中で祈りなさい（3ニフ 18：21)。イエスは御父に祈られた（3ニフ 19：31−34〔ヨハ 17 章；3ニフ 18：16〕)。イエスは，心の中で祈ることはやめないようにと命じられた（3ニフ 20：1)。神に祈っても，真心からしなければ，その人にとって何の役にも立たない（モロ 7：6−9)。求めてはならないものを求めないようにしなさい（教義 8：10)。勝利者となるために，常に祈りなさい（教義 10：5)。あなたに命じる。あなたは心の中で祈るだけでなく，声に出しても祈りなさい（教義 19：28)。御霊（みたま）は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう（教義 42：14)。祈りの家に行って，聖式をささげなければならない（教義 59：9〔マタ 21：13〕)。子供たちに祈ることを教えなければならない（教義 68：28)。主なる彼らの神は，彼らの祈りを聴くのを遅くする（教義 101：7−8〔モサ 21：15〕)。謙遜（けんそん）でありなさい。そうすれば，主なるあなたの神はあなたの祈りに答えを与えるであろう（教義 112：10)。アダムは，御子の名によって神に呼び求めるように命じられた（モセ 5：8)。御父と御子がジョセフ・スミスの祈りにこたえて御姿を現された（ジ―歴史 1：11−20)。

異邦人

聖典で用いられている「異邦人」という言葉には幾つかの意味がある。あるときはイスラエルの血統に属さない人々を指し，あるときはユダヤ人の血統以外の人々を指す。あるいは，イスラエルの血が幾分入っていても，福音を持っていない民を指す場合もある。この最後の用法は,『モルモン書』や『教義と聖約』に特に顕著である。

イスラエル人は異邦人と婚姻してはならない（申命 7：1−3)。わたしはあなたを，もろもろの国びとの光として与え（イザ 42：6)。ペテロは異邦人に福音を伝えるように命じられた（使徒 10：9−48)。神は，異邦人にも悔改めをお与えになった（使徒 11：18)。

わたしたちは，ユダヤ人もギリシヤ人も，一つのからだとなるようにバプテスマを受け（1コリ 12：13）。異邦人が，福音によりキリストにあって，共に神の国をつぐ者となり（エペ 3：6）。『モルモン書』は異邦人のために記録された（『モルモン書』のタイトルページ〔モル 3：17〕）。異邦人の中の一人の男が大海を渡った（1ニフ 13：12）。ほかにも幾つかの書物が異邦人から伝わった（1ニフ 13：39）。完全な福音が異邦人に与えられ（1ニフ 15：13〔3ニフ 16：7；教義 20：9〕）。この地は異邦人にとって自由の地となり（2ニフ 10：11）。異邦人は野性のオリーブの木にたとえられる（ヤコ 5 章）。福音は異邦人の時にもたらされる（教義 45：28〔教義 19：27〕）。御言葉が地の果てまで，すなわちまず異邦人のもとに出て行き，それから，ユダヤ人に向かう（教義 90：8−10）。七十人は異邦人に対する特別な証人となる（教義 107：25）。わたしの教会の長老たちを，もろもろの国民に遣わしなさい。まず異邦人へ，次いでユダヤ人へと呼びかけなさい（教義 133：8）。

戒め（神の）　「言葉（神の）」「十戒（じっかい）」「従順；従う」「罪」「律法」参照

神が人類に対し，個人的にあるいは一つの民としてお授けになる律法や要求。戒めを守る人には，主の祝福が授けられる（教義 130：21）。

ノアはすべて神の命じられたようにした（創世 6：22）。わたしの定めに歩み，わたしの戒めを守って（レビ 26：3）。わたしの戒めを守って，命を得よ（箴言 4：4〔箴言 7：2〕）。もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである（ヨハ 14：15〔教義 42：29〕）。願い求めるものは，なんでもいただけるのである。それは，わたしたちが神の戒めを守っているからである（1ヨハ 3：22）。神の戒めはむずかしいものではない（1ヨハ 5：3）。主の戒めを守ることにおいて揺るぎなくあるように（1ニフ 2：10）。主が命じられることには道が備えられており，それでなくては，主は何の命令も下されない（1ニフ 3：7）。わたしは神の厳しい命令に従ってこれを果たさなければならない（ヤコ 2：10）。あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える（ジェロ 1：9〔アル 9：13；50：20〕）。神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい（アル 37：35）。これらの戒めはわたしから出ており（教義 1：24）。これらの戒めを調べなさい（教義 1：37）。戒めを守らなければ，救われることはできない（教義 18：46〔教義 25：15；56：2〕）。わたしの戒めは霊にかかわるものだからである。それらは自然のものでも，現世のものでもなく（教義 29：35）。あなたがたに戒めを与えて，あなたがたがわたしの思いを理解できるようにする（教義 82：8）。わたしには分かりません。ただ，主がわたしに命じられたのです（モセ 5：6）。主は，御自分が命じるすべてのことを人がなすかどうかを御覧になる（アブ 3：25）。

戒めの書　「教義と聖約」「啓示」参照

預言者ジョセフ・スミスが受けた多くの啓示が，1833 年に『キリストの

教会の統治のための戒めの書』という書名で出版されることになり，その準備が進められた。主は御自分の僕たちとの交わりを続けられ，2年後に増補版が『教義と聖約』として出版された。

教義と聖約第1章は，主の戒めの書へのはしがきである（教義1：6）。主は最も賢い者に，『戒めの書』の中の最も小さい啓示と同等のものを書くように挑まれた（教義67：4−9）。啓示を出版するために管理人となる者たちが聖任された（教義70：1−5）。

忌まわしい行い　「罪」参照

聖典では，義人や清い人々に不愉快な思いや嫌悪感を抱かせるものとして用いられる言葉。

偽りを言うくちびるは主に憎まれる（箴言12：22）。高慢は主の目に忌まわしいことである（ヤコ2：13−22）。悪人は自分の忌まわしい行いの恐ろしい思いに引き渡される（モサ3：25）。不貞は，人を殺すことや聖霊を否定することを除いて，最も忌まわしい罪である（アル39：3−5）。主の憤りは，彼らの忌まわしい行いに向かって燃えている（教義97：24）。

忌まわしい教会　「悪魔—悪魔の教会」参照

癒し　「油注ぎ」「病人への癒しの祝福」参照

肉体的また霊的に健康な状態に戻すこと。聖典には，主とその僕による奇跡的な癒しの実例が数多く記録されている。

わたしは主であって，あなたをいやすものである（出エ15：26）。ナアマンは7たびヨルダンに身を浸すと，清くなった（列下5：1−14）。その打たれた傷によって，われわれはいやされた（イザ53：5〔モサ14：3〕）。義の太陽がのぼり，その翼には，いやす力を備えている（マラ4：2）。イエスはあらゆるわずらいをおいやしになった（マタ4：23〔マタ9：35〕）。イエスは十二弟子にあらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった（マタ10：1）。主はわたしをつかわして，打ちひしがれている者に自由を得させ（ルカ4：18）。人々は神の小羊の力によって癒され（1ニフ11：31）。キリストの贖いを信じるならば，あなたは癒しを得られます（アル15：8）。イエスは，連れて来られた者をことごとく癒された（3ニフ17：9）。癒されるという信仰を持っている者は，癒されるであろう（教義42:48）。わたしの名によって，彼らは病人を癒す（教義84：68）。わたしたちは，癒しの賜物があることを信じる（箇条1：7）。

岩　「イエス・キリスト」「啓示」「福音」参照

堅固な土台であり支えであるイエス・キリストとその福音を象徴的に示す（教義11：24；33：12−13）。神が人に福音を明らかにされる手段である啓示を指す言葉としても用いられる（マタ16：15−18）。

主は岩であって，そのみわざは全く（申命32：4）。主はわが岩，わたしは彼に寄り頼む（サ下22：2−3）。一つ

の石が人手によらずに切り出されて（ダニ 2：34−35）。岩を土台としているからである（マタ 7：25〔3 ニフ 14：25〕）。イエス・キリストは家造りらに捨てられた石である（使徒 4：10−11）。この岩はキリストにほかならない（1コリ 10：1−4〔出エ 17：6〕）。岩の上に建てられる者は喜んで神の真理を受け入れる（2ニフ 28：28）。ユダヤ人はその上に建物を建てることのできる石を拒む（ヤコ 4：15−17）。贖い主の岩の上に基を築かなければならない（ヒラ 5：12）。キリストの教義の上に建てる者はキリストの岩の上に建てるのであり，洪水が起こっても倒れない（3ニフ 11：39−40〔マタ 7：24−27；3 ニフ 18：12−13〕）。賢い人は岩の上に家を建てる（3ニフ 14：24）。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば，それら〔この世と地獄〕は打ち勝つことができない（教義 6：34）。この岩の上に建てる者は，決して倒れることはない（教義 50：44）。わたしはメシヤであり，シオンの王であり，天の岩である（モセ 7：53）。

インマヌエル　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストの呼び名の一つ。「神われらとともにいます」という意味のヘブライ語から出た言葉。

インマヌエルは神の救いのしるしとして与えられた呼称である（イザ 7：14）。マタイは，インマヌエルに関するイザヤの言葉はイエスの降誕の預言であると，明確な指摘をしている（マタ 1：18−25）。この呼び名は末日聖典にも出てくる（2 ニフ 17：14；18：8；教義 128：22）。

ウィリアムズ，フレデリック・G

回復された教会の初期の指導者。一時，大神権の大管長会で顧問を務めた（教義 81 章；90：6，19；102：3）。

受け継ぐ者

物質的あるいは霊的な賜物を受け継ぐ権利を持つ人。聖典には，義人は神が持っておられるすべてのものを受け継ぐ者になることが約束されている。

アブラムは家を継ぐ者を欲していた（創世 15：2−5）。アブラハムは信仰の義によって，世界を相続する者となった（ロマ 4：13）。神の相続人であって，キリストと共同の相続人なのである（ロマ 8：16−17〔教義 84：38〕）。あなたがたは子である。また神による相続人である（ガラ 4：7）。神は御子を万物の相続者と定め（ヘブ 1：2）。自分たちの罪の赦しを待ち望んでいる者は神の王国を受け継ぐ（モサ 15：11）。彼らはキリストの子であり，神の王国を受け継ぐ者であった（4ニフ 1：17）。福音を知らずに死んだ者は，神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる（教義 137：7−8）。悔い改める死者は，救いを受け継ぐ者である（教義 138：58−59）。アブラハムは，その義によって正当な相続人となった（アブ 1：2）。

失われた聖典　「聖文―失われた聖文」参照

失われた聖文　「聖文―失われた聖文」

参照

歌う　「音楽」「賛美歌」参照

歌によって神を礼拝し，賛美すること。

主に向かって歌え（歴上 16：23−36〔詩篇 96 篇〕）。主をほめうたい，感謝せよ（詩篇 30：4）。主にむかって喜ばしき声をあげよ（詩篇 100:1）。彼らは，さんびを歌った後，オリブ山へ出かけて行った（マタ 26：30）。歌うことも，聖霊の力によって導かれるままに行われた（モロ 6：9）。義人の歌はわたしへの祈りである（教義 25：12）。あなたは楽しければ，歌をもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

打ち砕かれた心　「犠牲」「悔い改め」「謙遜（けんそん）」「心」「柔和」参照

打ち砕かれた心を持つとは，謙遜（けんそん）であり，罪を悔い，柔和であること，すなわち神の御心をよく感じ取ることのできる状態をいう。

わたしは心砕けて，へりくだる者と共に住み（イザ 57：15）。メシヤは，打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために，御自身をささげられる（2ニフ 2：7）。打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：20〔教義 59：8〕）。打ち砕かれた心と悔いる霊を持つ者だけがバプテスマを認められる（モロ 6：2）。イエスが世の罪のために，すなわち悔いる心に罪の赦（ゆる）しをもたらすために，十字架につけられた（教義 21：9）。悔いる霊を持っている者は受け入れられる（教義 52：15）。悔いる状態の人には聖なる御霊（みたま）が約束されている（教義 55：3）。わたしの御霊（みたま）はへりくだって悔いる者を照らすために，世に送られている（教義 136：33）。

ウッドラフ，ウィルフォード　「公式の宣言一」「宣言」参照

預言者ジョセフ・スミスを通して福音が回復された後の教会の第 4 代大管長。1807 年に生まれ，1898 年に死去した。

十二使徒評議会の空席を満たすために召された（教義 118：6）。時満ちる時代に来るようにとどめられていた選ばれた霊たちの中にいた（教義 138：53）。教会における多妻結婚を中止する啓示を受けた（公式 1）。

促し　「聖霊」参照

何かをするように，あるいはしないようにとの強い働きかけ。特に，聖霊の影響や力によるものを指す。

わたしのうちの霊がわたしに迫る（ヨブ 32：18）。キリストの愛がわたしたちに強く迫っている（2コリ 5：14）。わたしはラバンを殺すように強く御霊（みたま）に促された（1ニフ 4：10）。御霊（みたま）が，わたしを制されます（アル 14：11）。わたしは，聖約に応じて，強く促されています（アル 60：34）。アマロンは聖霊に強く促されて，神聖な数々の記録を隠した（4ニフ 1：48）。上から来るものは，御霊（みたま）の促しによって語るようにしなければならない（教義 63：64）。

うぬぼれ　「高慢」参照

偽り，欺き，慢心。

あの大きく広々とした建物は，うぬぼれた空想と高慢である（1ニフ 12：18）。虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた（教義 84：54−55）。わたしたちが自分のうぬぼれた野望を満たそうとするとき，天は退き去り（教義 121：37）。

生まれながらの人　「現世的」「堕落(アダムとエバの)」「再び生まれる」参照

聖なる御霊(みたま)の促しよりも，激情，情欲，欲望，肉欲に影響された選択をする人。このような人は，物質的なことは理解できても，霊的なことは理解できない。アダムとエバの堕落によって，人は皆肉欲に従い，死すべき状態にある。生まれながらの状態から抜け出すには，イエス・キリストの贖罪(しょくざい)を通して，再び生まれなければならない。

生れながらの人は，神の御霊(みたま)の賜物(たまもの)を受けいれない（1コリ 2：14）。生まれながらの人は神の敵であり（モサ 3：19）。自分自身の肉の性質の中にとどまる者は，その堕落した状態にとどまって（モサ 16：5〔アル 42：7−24；教義 20：20〕）。生まれながらの人でこれらのことを知っている人がいるだろうか（アル 26：19−22）。生まれながらの状態，すなわちこの世的な状態にあるすべての人は，この世で神なしに生きている（アル 41：11）。その背きのゆえに，彼は霊的に死ぬことになった（教義 29：41）。生まれながらの人はだれも神の臨在に堪えられない（教義 67：12）。人々は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となり始めた（モセ 5：13〔モセ 6：49〕）。

生まれる；産む；もうける　「神の息子，娘」「キリストの子」「独り子」「再び生まれる」参照

聖典では，神によって生まれるということを指して用いられる場合が多い。イエス・キリストは肉において御父がもうけられた唯一の子であるが，人はだれでもキリストを受け入れ，その戒めに従い，聖霊の力によって新たな人となることにより，霊的にキリストから生まれることができる。

きょう，わたしはおまえを生んだ（詩篇 2：7〔使徒 13：33；ヘブ 1：5−6；5：5〕）。それは父のひとり子としての栄光であって（ヨハ 1：14〔2ニフ 25：12；アル 12：33−34；教義 76：23〕）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった（ヨハ 3：16〔教義 20：21〕）。キリストが霊的にあなたがたを子としてもうけられた（モサ 5：7）。主によって生まれる者は皆，長子の教会である（教義 93：22）。

敬う　「敬虔(けいけん)」「尊ぶ」参照

通常，聖典では，何かを尊び，礼を尽くすことの意味で用いられる。

あなたの父と母を敬え（出エ 20：12〔1ニフ 17：55；モサ 13：20〕）。あなたの財産をもって主をあがめよ（箴言 3：9）。もしわたしに仕えようとする人があれば，その人を父は重んじて下さるであろう（ヨハ 12：26）。夫は妻を尊ばなければならない（1ペテ 3：7）。この民は唇ではわたしをあがめるが（2ニフ 27：25〔イザ 29：13〕）。わたしは世の誉れを求めず（アル 60：36）。悪魔は，「わたしにあな

たの誉れを与えてください」と言って，わたしに背いた（教義 29：36）。忠実であれば，誉れを冠として与えられるであろう（教義 75：5〔教義 124：55〕）。主なるわたしは，わたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする（教義 76：5）。なぜ彼らは選ばれないのであろうか。人の誉れを得ることを望んでいるためである（教義 121：34−35）。わたしたちは，法律を守り，尊び，支えるべきことを信じる（箇条 1：12〔教義 134：6〕）。

ウリムとトンミム　「聖見者」「胸当て」参照

人が啓示を受けたり翻訳をしたりするのを助ける目的で，神が備えられた道具。ヘブライ語で「光と完全」を意味する。ウリムとトンミムは銀のつるにはめた二つの石で，胸当てとともに使われることもあった（教義 17：1；ジ―歴史 1：35，42，52）。この地球は聖（きよ）められて不滅の状態になると，一つの雄大な「ウリムとトンミム」となる（教義 130：6−9）。

あなたはさばきの胸当にウリムとトンミムを入れて（出エ 28：30）。勝利を得る者には，白い石を与えよう（黙示 2：17）。その方は，あるものを持っていて，それを使って見れば翻訳することができます（モサ 8：13）。これらの二つの石をあなたに与えよう（エテ 3：23−24，28〔エテ 4：5〕）。ジョセフ・スミスはウリムとトンミムによって数々の啓示を受けた（教義 6；11；14−16 章の前書き）。あなたはウリムとトンミムによって翻訳する力を与えられた（教義 10：1）。三人の証人は，ヤレドの兄弟が山の上で授けられたウリムとトンミムを目にする（教義 17：1）。神が住んでおられる所は，一つの雄大な「ウリムとトンミム」である（教義 130：6−11）。わたしアブラハムは，ウリムとトンミムを持っていた（アブ 3：1，4）。

ウル

『旧約聖書』の中の地名。カルデア（カルデヤ）のウルはアブラハムが初め住んでいた場所である（創世 11：27−28，31；15：7；ネヘ 9：7；アブ 2：1，4）。

うわさ　「悪口（あっこう）」「うわさ話」参照

サタンは人々を神とあらゆる善いものから遠ざけるために，うわさ話や争いを広める（ヒラ 16：22；ジ―歴史 1：1）。それらは一部事実に基づいていることもある。イエス・キリストの再臨のしるしの一つとして，人々の間での戦争や戦争のうわさがある（マタ 24：6；教義 45：26；ジ―マタ 1：23）。

うわさ話　「悪口（あっこう）」「うわさ」参照

ほかの人について，本人の許しもなくとやかく言うこと。

人はその語る無益な言葉に対して，言い開きをしなければならない（マタ 12：36）。聖徒たちは，むだごとをしゃべったり，いたずらに動きまわったり，口にしてはならないことを言ったりしないように勧告されている（1テモ 5：11−14）。あなたは隣人の悪口（あっこう）を言ってはならない（教義 42：27）。あなたのすべての生き方により，あなたの兄

弟たちを強めなさい（教義 108：7）。

永遠の命　「命」「冠」「昇栄」「贖罪（しょくざい）」「日の栄え」参照

神の家族として，親しく神の前に永遠に住むこと（教義 132：19−20，24，55）。永遠の命は，人に与えられる神の最も大いなる賜物（たまもの）である。

永遠の命の言（ことば）をもっているのはあなたです（ヨハ 6：68）。永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります（ヨハ 17：3〔教義 132：24〕）。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて，永遠のいのちを獲得しなさい（1テモ 6：12）。人には自由と永遠の命を選ぶ自由がある（2ニフ 2：27〔ヒラ 14：31〕）。霊的な思いを抱くことは永遠の命である（2ニフ 9：39）。そのとき，あなたがたは，永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる（2ニフ 31：17−20）。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶ（2ニフ 33：4〔3ニフ 15：9〕）。永遠の命を持つ者は豊かである（教義 6：7〔教義 11：7〕）。永遠の命は，神のあらゆる賜物（たまもの）の中で最も大いなるものである（教義 14：7〔ロマ 6：23〕）。義の業を行う者は，この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける（教義 59：23）。最後まで堪え忍ぶ者は永遠の命の冠を受ける（教義 66：12〔教義 75：5〕）。福音を知らずに死んだ者で，もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆，神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる（教義 137：7−9）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすことが神の業であり，神の栄光である（モセ 1：39）。神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命（モセ 5：11）。

永遠の御父　「神；神会」「天の御父」参照

永遠の聖約　「新しくかつ永遠の聖約」「聖約（契約）」参照

栄光　「栄光の階級」「真理」「光；キリストの光」参照

聖典では，神の光と真理を指す言葉としてしばしば用いられる。また賛美，誉れ，永遠の命に伴うある特定の状態，神の栄光を指す場合もある。

聖なるかな，万軍の主，その栄光は全地に満つ（イザ 6：3〔2ニフ 16：3〕）。わたしたちは，栄光から栄光へと，主と同じ姿に変えられていく（2コリ 3：18）。神がわたしをよみがえらせ，栄光のうちに御自身とともに住めるようにしてくださる（アル 36：28）。復活の時に受ける栄光は，義に応じて違いがある（教義 76：50−119）。神の栄光は英知である（教義 93：36）。神の栄光は，人の不死不滅と永遠の命をもたらすことである（モセ 1：39）。わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方を見た（ジ―歴史 1：17）。

栄光の階級　「月の栄え」「日の栄え」「星の栄え」参照

天の様々な王国。最後の裁きにおいて，滅びの子を除くすべての者がそれぞれにふさわしい栄光の王国に永遠の

住まいを割り当てられる。

わたしの父の家には，すまいがたくさんある（ヨハ 14：2〔エテ 12：32〕）。日の栄光があり，月の栄光があり，星の栄光がある（1コリ 15：40−41）。パウロは第三の天にまで引き上げられた（2コリ 12：2）。栄光がなく，また永遠の罰を受ける所がある（教義 76：30−38，43−45）。3 つの栄光の階級がある（教義 76：50−113；88：20−32）。

英知　「真理」「光;キリストの光」「霊」参照

英知という言葉には幾つかの意味があり，以下はその中の 3 つの意味である。(1) 宇宙の万物に命と光を与える真理の光。これは常に存在してきた。(2)「英知たち」という言葉で神の霊の子供たちを指す場合がある。(3) 聖典では，人が霊の子供としてもうけられる前から存在していた霊の元素を指して英知ということもある。

英知は英知に結びつき（教義 88：40）。英知は，創造されることも，作られることもないものである（教義 93：29）。すべての英知は，神がそれを置かれた領域において独立している（教義 93：30）。神の栄光は英知である（教義 93：36−37）。この世において得る英知の一切は，復活の時にわたしたちとともによみがえる（教義 130：18−19）。主はすべての英知たちを治めておられる（アブ 3：21）。主はアブラハムに，世界が存在する前に組織された英知たちをお見せになった（アブ 3：22）。

エサウ　「イサク」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。イサクとリベカの長男。双子として生まれたヤコブの兄。エサウとヤコブは生まれたときから対抗的な関係にあった（創世 25：19−26）。エサウの子孫であるエドム人とヤコブの子孫であるイスラエル人は，互いに張り合う民となった（創世 25：23）。

エサウは長子の特権をヤコブに売った（創世 25：33〔ヘブ 12：16−17〕）。エサウはヘテびとを妻にめとり，両親にとって心の痛みとなった（創世 26：34−35）。ヤコブとエサウは和解した（創世 33 章）。

エジプタス

ノアの息子ハムの妻と娘の名前。この名はカルデア語でエジプト，すなわち禁じられたものの意味（アブ 1：23−25）。

エジプト

アフリカの北東の隅にある国。エジプトの多くは不毛の荒れ野である。ほとんどの住民は約 900㎞にわたって伸びるナイル渓谷に住んでいる。

古代のエジプトは豊かで繁栄していた。灌漑（かんがい）用水路，堅固な要塞（ようさい）都市，そして特にピラミッドと呼ばれる墓や神殿などの王家の記念建造物に代表される壮大な公共建築物は，今なお世界の驚異としてその姿をとどめている。一時期エジプトでは，神権の族長制度を模倣した政体が取られていた（アブ 1：21−27）。

アブラムとヨセフはエジプトへ導かれ，家族を飢饉（ききん）から救った（創世 12：10〔創世 37：28〕）。ヨセフはエジプトに売られた（創世 45：4−5〔1 ニフ 5：14−15〕）。ヤコブはエジプトへ導かれた（創世 46：1−7）。モーセはイスラエルの子らをエジプトから導き出した（出エ 3：7−10；13：14〔ヘブ 11：27；1 ニフ 17：40；モセ 1：25−26〕）。エジプトは悪を象徴した（エゼ 29：14−15〔ホセ 9：3 −7；アブ 1：6，8，11−12，23〕）。幼な子とその母を連れて，エジプトに逃げなさい（マタ 2：13〔ホセ 11：1〕）。

エステル

エステル記に登場する主要人物で，偉大な信仰の女性。

エステル記：『旧約聖書』の中の 1 書。自分の民を滅亡から救うために働いた，王妃エステルの偉大な勇気の物語が描かれている。

第 1−2 章には，ユダヤ人モルデカイの養女であったユダヤ人エステルが，その美しさのゆえにペルシャの王妃として選ばれた経緯が記されている。第 3 章には，王宮で王の次に権力を得ていたハマンが，モルデカイを憎み，すべてのユダヤ人を殺害する詔（みことのり）を得たことが書かれている。第 4−10 章には，エステルが大きな危険を冒して，自分がユダヤ人であることを王に明かし，詔（みことのり）の取り消しを許されたことが書かれている。

エズラ

『旧約聖書』の中の祭司，学者。一部のユダヤ人をバビロンでの捕囚の境遇からエルサレムへ連れ戻した（エズ 7−10 章；ネヘ 8；12 章）。紀元前 458 年に，エズラはペルシャの王アルタシャスタから，自ら希望するユダヤ人を捕囚の境遇からエルサレムへ連れ帰る許しを得た（エズ 7：12−26）。

エズラの時代より以前は，「律法」と呼ばれる文書化された聖典の朗読は，ほぼ祭司が掌握していたが，エズラの助けによってどのユダヤ人も聖文を手にすることができるようになった。「律法の書」の公開朗読は最終的にはユダヤ国民の生活の中心となった。エズラの最も偉大な教えは，心の準備をして主の律法を調べ，それを行い，人に教えるという彼自身の模範から生じたものであろう（エズ 7：10）。

エズラ記：第 1−6 章には，紀元前 537 年のクロス王の勅令（ちょくれい）とゼルバベルの下に行われたユダヤ人の帰還など，エズラがエルサレムに到着する 60 年から 80 年前に起きた出来事が記録されている。第 7−10 章には，エズラのエルサレムへの帰還の様子が描かれている。エズラは同行した民とともに守りを求めて断食し，祈った。彼らはエルサレムで，以前にゼルバベルに率いられて帰っていたユダヤ人男性の多くが聖約外の結婚をし，自らを汚しているのを見た。エズラは彼らのために祈り，妻を離縁することを誓わせた。エズラのその後の生涯については，ネヘミヤ記に記されている。

エゼキエル

『旧約聖書』のエゼキエル書を書いた預言者。エゼキエルはザドクの家系

の祭司であり，ネブカデネザルにとりことして連れ去られたユダヤ人の一人であった。彼はユダヤの捕囚の民とともにバビロンに住み，紀元前592−570年の22年間，預言者として働いた。

エゼキエル書：エゼキエル書は4つの部分に分けることができる。第1−3章には，神の啓示とエゼキエルへの召しが述べられている。第4−24章には，エルサレムへの裁きとその原因が書かれている。第25−32章では国々への裁きの宣告がなされ，第33−48章には末日のイスラエルに関する示現が書かれている。

エッサイ　「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデの父。キリストとユダ王国のすべての王の先祖。

ルツの息子オベデはエッサイの父であった（ルツ4：17，22）。ユダに至るまでのエッサイの先祖が述べられる（歴上2：5−12〔マタ1：5−6〕）。

エテル　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中のヤレド人の最後の預言者（エテ12：1−2）。

エテル書:『モルモン書』の中の1書。この書の中には，ヤレド人の記録の一部が含まれている。ヤレド人は，リーハイの民より何世紀も前に西半球にいた。エテル書はリムハイの民が発見した24枚の版から取られたものである（モサ8：8−9）。

第1−2章には，ヤレド人がバベルの塔の時代に故郷を離れて，現在アメリカ大陸として知られている地へ旅を始めた経緯が書かれている。第3−6章には，ヤレドの兄弟が肉体を受けられる前の救い主にまみえたこと，またヤレド人が8隻の船で旅をしたことが書かれている。第7−11章には，ヤレド人の歴史を色濃く染めていた悪事の数々が書かれている。エテルの記録を編集したモロナイは，第12−13章の中で，信仰によって行われた奇跡について，またキリストと将来の新エルサレムについて記録している。第14−15章には，強大な国家となったヤレド人が，悪事に帰因する内乱により滅びた経緯が記されている。

エテロ　「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ミデアンの地の有力者，祭司。エジプトから逃れてきたモーセを迎え入れた。エテロはリウエルとも呼ばれた（出エ2：18）。モーセは後に，エテロの娘チッポラを妻とした（出エ3：1；4：18；18：1−12）。エテロはモーセに委任について教えた（出エ18：13−27）。モーセはエテロからメルキゼデク神権を受けた（教義84：6−7）。

エデン　「アダム」「エバ」参照

人類の最初の両親であるアダムとエバの住んでいた所（創世2：8−3：24；4：16；2ニフ2：19−25；モセ3；4章；アブ5章）。東の方，エデンに園があった。アダムとエバは，禁断の実を食べて死すべき存在となった後，エデンを追われた（モセ4：29）。末日の啓示は，エデンの園に関する『聖書』の記述を確認し，さらにエデンの

園は現在北アメリカ大陸と呼ばれている地にあったという重要な知識を提供している（教義 116 章；117：8）。

エデンの園　「エデン」参照

エノク　「シオン」参照

シオンの町の民を導いた預言者。エノクの働きについては，『旧約聖書』と『高価な真珠』の両方に記録されている。彼はアダムから数えて 7 代目の族長であり，ヤレドを父とし，メトセラの父であった（創世 5：18−24；ルカ 3：37）。

エノクは偉大な人物であり，『聖書』中の彼に関する短い記録が示す以上の重要な働きをした。『聖書』には彼が身を変えられたことが記されているが（ヘブ 11：5），その働きの詳細は示されていない。ユダ 1：14 には，エノクが残した預言が引用されている。末日の啓示にはエノクについてはるかに多くのこと，具体的には彼の宣教の働き，シオンと呼ばれた彼の町，彼が受けた示現，および彼の預言が記されている（教義 107：48−57；モセ 6−7 章）。シオンはそこに住む民の義のゆえに，天に取り上げられた（モセ 7：69）。

神はエノクに御自身を現された（モセ 6：26−37）。エノクは福音を教えた（モセ 6:37−68）。エノクは人々を教え，シオンを確立した（モセ 7：1−21）。エノクはキリストの再臨を含めて，未来を見た（モセ 7：23−68）。

エノス（ヤコブの息子）

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者，記録者。エノスはキリストを信じる信仰を通して罪の赦（ゆる）しを祈り求め，それを受けた（エノ 1：1−8）。主はエノスに対して，レーマン人に『モルモン書』を授けると聖約された（エノ 1：15−17）。

エノス書：『モルモン書』の中の 1 書。この書には，エノスが罪の赦（ゆる）しのため，また自分の民と他の人々のために主に祈ったことが書かれている。主はエノスに，『モルモン書』が保存され，将来レーマン人に伝えられることを約束された。エノス書には一つの章しかないが，祈りの中で神を求め，神の戒めに従って生活し，この世において贖（あがな）い主を知った人物の力強い物語が描かれている。

エバ　「アダム」「エデン」「堕落（アダムとエバの）」参照

この地上に生を受けた最初の女性（創世 2：21−25；3：20）。アダムの妻であった。この名前はヘブライ語で「命」を意味し，エバが地上で最初の母親であったことを示唆している（モセ 4：26）。彼女と最初の人アダムは，全人類の永遠の進歩を可能にするという彼らの務めを果たしたことに対して，ともに永遠の栄光を受ける。

エバは誘惑され，禁断の実を食べた（創世 3 章〔2 ニフ 2：15−20；モセ 4 章〕）。ジョセフ・F・スミス大管長は，霊界についての示現の中でエバを見た（教義 138：39）。エバは堕落が必要であったことと贖（あがな）いの喜びを知った（モセ 5：11−12）。

エフライム　「イスラエル」「マナセ」「モルモン書」「ヨセフ(ヤコブの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヨセフとアセナテの2番目の息子（創世41：50−52；46：20)。エフライムはそれまでの習わしに反して，長男のマナセに代わって長子の特権の祝福を受けた(創世48：17−20)。エフライムはエフライムの部族の先祖となった。

エフライムの部族：エフライムはイスラエルにおける長子の特権を与えられた（歴上5：1−2；エレ31：9)。終わりの時における彼らの特権と責任は，神権を受け，世の人々に回復された福音の教えを伝え，散乱したイスラエルを集めるために旗を掲げることである（イザ11：12−13；2ニフ21：12−13)。エフライムの子らは，終わりの時に北の地から戻る人々に栄光を冠として授ける（教義133：26−34)。

エフライムまたはヨセフの木：エフライムの部族で，紀元前600年ごろにエルサレムからアメリカに導かれた民の記録。この民の記録は，エフライムまたはヨセフの木，すなわち『モルモン書』と呼ばれる。この木（モルモン書)とユダの木(聖書)は一つとなって，主イエス・キリストとその復活，またイスラエルの家のこれら二つの群れの中で主がなされた業を証(あかし)している。

エフライムの枝が折り取られ，キリストについてのもう一つの証(あかし)を記す（JS創世50：24−26，30−31)。ユダの木とヨセフの木は一つになる（エゼ37：15−19)。ユダの記録とヨセフの記録が一つに合わされる（2ニフ3：12)。主は多くの国民に語られる（2ニフ29章)。エフライムの木の記録の鍵(かぎ)がモロナイにゆだねられた（教義27：5)。

エフライムの木　「エフライム—エフライムまたはヨセフの木」参照

エペソ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。使徒パウロがエペソの聖徒たちにあてた手紙。この手紙は，キリストの教会についてのパウロの教えが含まれている点で非常に重要なものである。

第1章には通常のあいさつが述べられている。第2−3章には，人々が教会員となるとき，すなわち一つの教会の中で異邦人とユダヤ人が一致し，聖徒たちと同じ国籍の者となるときに，彼らに生じる変化が説明されている。第4−6章には，使徒と預言者の役割，一致の必要性，神の武具を身に着けなければならないことが説かれている。

エホバ　「イエス・キリスト」「わたしは有る」参照

イスラエルの神の契約名または固有名。「わたしは有る」の意（出エ3：14；ヨハ8：58)。エホバは肉体を受けられる前のイエス・キリストであり，マリヤの子として地上に来られた（モサ3：8；15：1；3ニフ15：1−5)。『旧約聖書』に出てくる「主」という言葉は，通常，エホバを指している。

エホバはキリストである：古代の預言者たちはエホバを知っていた（KJ

出エ 6：3；アブ 1：16)。使徒パウロは，キリストは旧約のエホバであると教えている（出エ 17：6；1 コリ 10：1−4)。『モルモン書』のヤレドの兄弟は，肉体を受けられる前のキリストにまみえ，礼拝した（エテ 3：13−15)。モロナイもキリストをエホバと呼んでいる（モロ 10：34)。カートランド神殿において，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは復活されたエホバにまみえた（教義 110：3−4)。

エライアス　「エリヤ」参照

エライアス（邦訳『新約聖書』中では，エリヤと訳されている）という名前あるいは称号は，聖典の中において幾つか異なる用い方をされている。

エリヤ：マタイ 17：3−4；ルカ 4：25−26；新約ヤコブ 5：17 などに出てくるエライアス（邦訳『聖書』では，エリヤ）は，列王紀上，列王紀下にその働きが記されている古代の預言者エリヤである。

先駆ける者：エライアスは先駆ける者の称号でもある。例えば，バプテスマのヨハネはエライアスであった。彼はイエスのために道を備えるように遣わされた（マタ 17：12−13)。

回復する者：エライアスという称号は，黙示者ヨハネ（教義 77：14）や，ガブリエル（ルカ 1：11−20；教義 27：6−7；110：12）など，特別な使命を持つ人々に対しても用いられる。

アブラハムの神権時代の人：アブラハムの時代にいたと思われる，イザヤスあるいはエライアスと呼ばれる一人の預言者（教義 84：11−13；110：12)。

選ばれた者　「召し；神の召し」参照

神によって選ばれて特別な責任を受けた者。

わたしはわたしの選んだ者と契約を結び（詩篇 89：3)。招かれる者は多いが，選ばれる者は少ない（マタ 22：14〔マタ 20：16；教義 95：5；121：34，40〕)。あなたがたは，選ばれた種族，祭司の国（1ペテ 2：9)。キリストは，初めから神が愛し選んだ者である（モセ 4：2)。

選び　「召しと選び」参照

神は，前世におけるふさわしさに基づいて，アブラハムの子孫となり，イスラエルの家に属する者となり，また聖約（契約）の民となる者を選ばれた（申命 32：7−9；アブ 2：9−11)。これらの人々は世のすべての国民を祝福できるよう，特別な祝福と義務を与えられている（ロマ 11:5−7;1 ペテ 1:2；アル 13：1−5；教義 84：99)。しかし，これらの選ばれた人といえども，救いを得るには，この世において召され，また選ばれなければならない。

選ぶ　「自由」「選択の自由」「召し；神の召し」参照

主が個人やグループを選ばれるとき，その人々に奉仕の召しをお与えになるのが普通である。

あなたがたの仕える者を，きょう，選びなさい（ヨシ 24：15〔アル 30：8；モセ 6：33〕)。わたしは苦しみの

炉をもってあなたを試みた（イザ 48：10〔1ニフ 20：10〕）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである（ヨハ 15：16）。神は，知者をはずかしめるために，この世の愚かな者を選び（1コリ 1：27）。神は天地の造られる前から，わたしたちを選び（エペ 1：4）。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27）。初めに選ばれた，高潔で偉大な者たち（教義 138：55−56）。イスラエルは神により選ばれた（モセ 1：26）。アブラハムは生まれる前に選ばれた（アブ 3：23）。

エリ　「サムエル（旧約の預言者）」参照

『旧約聖書』の中の人物。主がサムエルを預言者に召された当時の大祭司，士師（サ上 3 章）。主はエリを，息子たちの罪悪を見過ごしにしたことで叱責（しっせき）された（サ上 2：22−36；3：13）。

エリコ

ヨルダン渓谷の城塞（じょうさい）都市。海面下約 250 m の低い位置にある。エリコは，イスラエル人が約束の地に初めて足を踏み入れたときに川を渡った場所の近くにあった（ヨシ 2：1−3；3：16；6 章）。

イスラエル人はエリコで戦った（ヨシ 6：1−20）。ヨシュアはエリコにのろいを置いた（ヨシ 6：26〔列上 16：34〕）。エリコはベニヤミンの領地の中にあった（ヨシ 18：11−12，21）。主はエルサレムへの最後の旅のときにエリコを訪れられた（マコ 10：46〔ルカ 18：35；19：1〕）。

エリサベツ　「ヨハネ（バプテスマの）」参照

『新約聖書』の中の人物。ザカリヤの妻。バプテスマのヨハネの母。マリヤの親族であった（ルカ 1：5−60）。

エリシャ

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの北王国の預言者。北王国の王たちに顧問として信頼された。

エリシャは燃えるような熱意の師エリヤとは趣を異にし，温和で優しい人物であった。よく知られているエリシャの奇跡（列下 2−5；8 章）は，彼がエリヤの後を継いで預言者となったときに，確かにエリヤの力を受けたことを証（あかし）している（列下 2：9−12）。エリシャの奇跡としては，悪い水を清めたこと，ヨルダン川の水を分けたこと，やもめの油を増やしたこと，子供を生き返らせたこと，重い皮膚病にかかった人を癒（いや）したこと，おのを水面に浮かばせたこと，スリヤびとの目をくらませたこと（列下 2−6 章）がある。エリシャの働きは，ヨラム，エヒウ，エホアハズ，ヨアシの治世にわたり，50 年以上続いた。

エリヤの外套（がいとう）を受け取った（列下 2：13）。やもめの油を増やした（列下 4：1−7）。シュネムの女の子供を生き返らせた（列下 4：18−37）。スリヤ人ナアマンを癒（いや）した（列下 5：1−14）。スリヤ人の兵たちの目をくらまし，ま

た，エリシャの召し使いの目が開かれた（列下 6：8−23）。

エリヤ　「エライアス」「救い」「結び固め」参照

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに結び固めの力の鍵を授けるため，末日に再び地上を訪れた旧約の預言者。エリヤはこの世にいたとき，イスラエルの北王国で務めを果たした（列上 17− 列下 2 章）。彼は主に対して大いなる信仰を持ち，多くの奇跡をなした人として知られている。3 年半にわたって雨が降らないようにし，死んだ少年を生き返らせ，天から火を呼び寄せた（列上 17−18 章）。ユダヤ教の人々は，マラキが預言したようにエリヤが戻って来るのを，今も待ち望んでいる（マラ 4：5）。彼らは，過越の祭のときには戸を開け放ち，一つの席を空け，いまだにエリヤを客として招いている。

預言者ジョセフ・スミスは，エリヤはメルキゼデク神権の結び固めの力を持つ預言者であり，またイエス・キリスト以前の時代にこの力を持っていた最後の預言者であると語っている。エリヤは変貌の山にモーセとともに現れ，ペテロ，ヤコブ，ヨハネに神権の鍵を授けた（マタ 17：3）。エリヤは 1836 年 4 月 3 日にも，モーセなどとともにオハイオ州のカートランド神殿に現れ，同じ鍵をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けた（教義 110：13−16）。これはすべて，マラキ 4：5−6 に述べられているように，主の再臨への備えとしてなされた。

エリヤが持っていた力は，神権の結び固めの力であり，これによって地上でつながれ，解かれることは，天においてもつながれ，解かれるのである（教義 128：8−18）。今日この世で主に選ばれた僕もこの結び固めの力を持ち，生者と死者のために福音の救いの儀式を執行することができる（教義 128：8）。

雨も露も降らせず，からすに養われた（列上 17：1−7）。やもめに，かめの粉は尽きず，びんの油は絶えないと告げた（列上 17：8−16）。やもめの子供を生き返らせた（列上 17：17−24）。バアルの預言者たちを打ち破った（列上 18：21−39）。静かな細い声が彼に語りかけた（列上 19：11−12）。火の車に乗って天に上った（列下 2：11）。マラキは末の日にエリヤが再び遣わされることを預言した（マラ 4：5−6〔3 ニフ 25:5〕）。1836 年にオハイオ州カートランドの神殿に現れた（教義 110：13−16）。

エルサレム

現代のイスラエルにある都市。『聖書』の歴史の中で最も重要な都市。エルサレムにはキリスト教徒やユダヤ教徒，イスラム教徒が最も神聖視している場所が幾つかあり，多くの信心深い人々が定期的に訪れる。しばしば聖なる都と言われる。

かつてはサレムと呼ばれていた（創世 14：18；詩篇 76：2）。ダビデに攻め取られるまで，エルサレムはエブス人の町であった（ヨシ 10：1；15：8；サ下 5：6−7）。ダビデはここを都とした。海抜約 800 mのこの場所は，それまではおもに山中のとりでとして機

能を果たしていた。北側を除く全面が深い谷で囲まれている。

ダビデ王はエルサレムでの治世の間，木造の宮廷に住んでいた。しかし，ソロモン王の治世に，民は王宮や神殿の建設をはじめとして，エルサレムを美しい都とするために多くのことを行った。

イスラエル王国とユダ王国に分裂した後も，エルサレムは引き続きユダ王国の都であった。エルサレムはしばしば侵略軍の攻撃にさらされた（列上 14：25；列下 14：13；16：5；18−19 章；24：10；25 章）。ヒゼキヤの時代にエルサレムは宗教の中心地となったが，紀元前 320 年，168 年，65 年に町の一部が破壊された。その後ヘロデが城壁と神殿を再建したが，紀元 70 年にローマ軍によって完全に破壊されてしまった。

メルキゼデクはサレムの王であった（創世 14：18〔ヘブ 7：2〕）。イザヤはエルサレムに美しい衣を着るように叫んだ（イザ 52：1）。主の言葉はエルサレムから出る（ミカ 4：2）。キリストはエルサレムの行く末を嘆かれた（マタ 23：37−39〔ルカ 13：34〕）。エルサレムは生ける神の都である（ヘブ 12：22）。悔い改めなければエルサレムは滅ぼされる（1ニフ 1:4, 13, 18〔2ニフ 1：4；ヒラ 8：20〕）。破壊の後に，エルサレムは再び民の住む所となる（3ニフ 20：46）。エルサレムが再び築かれる（エテ 13:5）。キリストは，エルサレムに警告されたように，末日聖徒にも警告を与えられた（教義 5：20）。ユダに属する人々はエルサレムに逃げなさい（教義 133：13）。主はエルサレムから語られる（教義 133：21）。

エルサレム（新しい）　「シオン」「新エルサレム」参照

エルバアル　「ギデオン（旧約聖書）」参照

『旧約聖書』の中のギデオンの別名。バアルの祭壇を打ち壊した後に彼に付けられた名（士師 6：32；7：1；9 章；サ上 12：11）。

エレミヤ　「哀歌」参照

旧約の預言者。祭司の家系に生まれ，紀元前 625−586 年にかけて，ユダ王国で預言した。エレミヤと大体同時代の偉大な預言者としては，リーハイ，エゼキエル，ホセア，ダニエルがいる。

エレミヤは前世において，預言者となるように聖任された（エレ 1：4−5）。預言者として活動した約 40 年の間，エレミヤはユダヤ人の中に見られた偶像礼拝と不道徳を糾弾（きゅうだん）した（エレ 3：1−5；7：8−10）。エレミヤは絶えず抵抗と侮辱を受けた（エレ 20：2；36：18−19；38：4）。エルサレム陥落後，エジプトへ逃げたユダヤ人たちはエレミヤも連れて行き（エレ 43:5−6），言い伝えによると，その地で彼を石で打ち殺したということである。

エレミヤ書：第 1−6 章には，ヨシヤの治世に与えられた預言が記されている。第 7−20 章には，エホヤキムの時代の預言が記録されている。第 21−38 章には，ゼデキヤの治世のことが採り上げられている。第 39−44 章

には，数々の預言と，エルサレム陥落後の歴史上の出来事が述べられている。第45章には，エレミヤの筆記者バルクに対して与えられた，彼の命は守られるという約束が記されている。第46−51章には，諸外国に対する預言が述べられており，第52章は歴史的結末である。エレミヤの預言の幾つかは，ニーファイが手に入れたラバンの真鍮版にも含まれていた(1ニフ5:10−13)。エレミヤについては，『モルモン書』の中で，ほかに2度言及されている（1ニフ7：14；ヒラ8：20)。

エレミヤ書には，人の前世とエレミヤの予任に関する記述もある（エレ1:4−5)。また，イスラエルは町から一人，氏族から二人とシオンに集められて，その散らされた状態から帰り，ユダとイスラエルが良い地で安全に安らかに住むようになるという預言（エレ3：12−19）や，主は多くの「漁夫」や「猟師」を遣わしてイスラエルの民を探し，北の地から集められるという預言（エレ16：14−21）もある。末日におけるこの業は，モーセがイスラエルをエジプトから導き出したときよりも規模の大きなものとなるであろう（エレ16：13−15；23：8)。

エロヒム　「神；神会」「天の御父」参照

エンダウメント　「神殿；主の宮」参照

一般的には，神からの力の賜物。資格のある教会員は，神殿の儀式を通して力の賜物を授かることができる。その賜物は，昇栄を得るのに必要な聖なる神権の教えと聖約を授けるものである。エンダウメントには救いの計画に関する教えが含まれている。

あなたがたはそこで，高い所から力を授けられるであろう（教義38：32，38〔ルカ24：49；教義43：16〕)。わたしはこの家の中で，わたしが選んだ者たちに力を授けようと考えている(教義95：8)。わたしは，一つの大いなるエンダウメントと祝福を用意している（教義105：12，18，33)。幾千幾万の人の心が，僕たちに授けられるエンダウメントのゆえに，大いに喜ぶであろう（教義110：9)。栄光と誉れとエンダウメントは，わたしの聖なる家の儀式によって定められる（教義124：39)。アロンのように，御父から召された人々は神権の鍵を授けられる(教義132：59)。

王政党

『モルモン書』に出てくる党派。ニーファイ人の政府の転覆を謀った（アル51：1−8)。

大きな忌まわしい教会　「悪魔—悪魔の教会」参照

奥義（神の）　「神の奥義」参照

行い

人が行うことで，善いことも悪いことも含む。人は皆，自分の行いによって裁かれる。

主はおのおのの行いにより，人に報いられる（箴言24：12)。あなたがたの光を人々の前に輝かし，人々があな

たがたのよいおこないを見て（マタ 5：16〔3 ニフ 12：16〕）。御父の御心を行う者だけが天国に入る（マタ 7：21）。行いのない信仰は死んだものである（新ヤコ 2：14−26）。肉体をもってなした行いによって裁かれなければならない（1ニフ 15：32〔モサ 3：24〕）。わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に，神の恵みによって救われることを知っている（2ニフ 25：23）。善い行いをするのに決して疲れず（アル 37：34）。人々が自分の行いに応じて裁かれることは必要である（アル 41：3）。あなたがたはその行いによって彼らを見分けるのである（モロ 7：5〔教義 18：38〕）。主なるわたしは，すべての人をその行いに応じて裁く（教義 137：9）。

行う　「従順；従う」参照

幼い子供たちの救い　「子供」「救い—幼い子供たちの救い」参照

教える；教師　「聖霊」参照

人に知識，特に福音の真理についての知識を与え，義に導くこと。福音を教える人は御霊の導きを受けなければならない。親は皆，それぞれの家族の中にあって教師である。聖徒たちは，主と指導者の教えを求め，進んで受け入れなければならない。

それらのことを，あなたの子孫に知らせなければならない（申命 4：8−9）。努めてこれをあなたの子らに教え（申命 6：7〔申命 11：18−19〕）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6）。あなたの子らはみな主に教をうけ（イザ 54：13〔3 ニフ 22：13〕）。わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています（ヨハ 3：2）。なぜ，人を教えて自分を教えないのか（ロマ 2：21）。わたしは父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた（1ニフ 1：1〔エノ 1：1〕）。力の限り神の言葉を民に教えなければ，民の罪を自分たちの頭に受ける（ヤコ 1：18−19）。耳を開いて聞き（モサ 2：9）。互いに愛し合い，互いに仕え合うように教えるであろう（モサ 4：15）。神の人でなければ，だれも，あなたがたの教師としてはならない（モサ 23：14）。主は，御言葉を受け入れるように彼らの心を備えさせるために，その地の全面に主の御霊を注がれた（アル 16：16）。神の力と権能をもって教えた（アル 17：2−3）。母親から教わっていた（アル 56：47〔アル 57：21〕）。知恵を求めたならば，教えを授けられるため（教義 1：26）。わたしがあなたがたを任命したその職に応じて，互いに教え合いなさい（教義 38：23）。『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義 42：12）。あなたがたは高い所から教えを受けなければならない（教義 43：15−16）。親は子供たちに教えなければならない（教義 68：25−28）。互いに王国の教義を教え合わなければならない（教義 88：77−78，118）。あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい（教義 88：122）。あなたは，あなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。あなたが苦難を受けてきた原因はこれである（教義 93：39−42）。あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい

（モセ 6：57−61）。

御霊によって教える：語る者は，あなたがたではなく，あなたがたの中にあって語る父の霊である（マタ 10：19−20）。聖書を説き明してくださったとき，お互の心が内に燃えたではないか（ルカ 24：32）。福音は御霊の力によって宣べ伝えられる（1コリ 2：1−14）。神から受けた力と権能をもって語り（モサ 13：5−9〔アル 17：3；ヒラ 5：17〕）。人々を確信に導く神の力を受けるであろう（教義 11：21）。あなたが慰め主によって教えるすべてのことを，教会員は聞かなければならない（教義 28：1〔教義 52：9〕）。御霊を受けなければ，あなたがたは教えてはならない（教義 42：14〔教義 42：6〕）。御霊の力によって人の子らに教える（教義 43：15）。長老たちは御霊によって福音を宣べ伝えなければならない（教義 50：13−22）。必要な部分が，必要なそのときに授けられるであろう（教義 84：85〔教義 100：5−8〕）。

畏れ；恐れ　「敬虔」「信仰」「勇敢；勇気」参照

次の二つの意味があると考えられる。(1) 神を畏れるとは，神に対して畏敬の念を持ち，その戒めに従うことである。(2)人やこの世の様々な危難，苦しみ，悪を恐れるとは，これらを怖がり，不安を抱くことである。

神への畏れ：この所には神を恐れるということが，まったくない（創世 20：11）。あなたの神，主を恐れ（申命 6：13〔ヨシ 24：14；サ上 12：24〕）。恐れをもって主に仕え（詩篇 2：11）。主を恐れることは知恵のはじめである（詩篇 111：10）。主を恐れて，悪を離れよ（箴言 3:7）。神をかしこみ，み前に恐れをいだく者には幸福がある（伝道 8：12）。恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい（ピリ 2：12）。神をおそれ，神に栄光を帰せよ（黙示 14：7〔教義 88：104〕）。主を畏れる気持ちを抱くように，絶えず民を奮い立たせ（エノ 1：23）。アルマとモーサヤの息子たちは地に伏した。主への畏れを覚えたからである（アル 36：7）。主の前に恐れおののいて，自分の救いを達成しなさい（モル 9：27）。わたしを畏れない者を乱し，おののかせよう（教義 10：56）。わたしを畏れる者は，人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう（教義 45：39）。

人への恐れ：恐れてはならない。わたしはあなたと共におって（創世 26：24〔イザ 41：10〕）。主がわたしたちと共におられますから，彼らを恐れてはなりません（民数 14：9）。恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから（列下 6：16）。肉なる者はわたしに何をなし得ましょうか（詩篇 56：4）。人のそしりを恐れてはならない（イザ 51：7〔2ニフ 8：7〕）。神がわたしたちに下さったのは，臆する霊ではなく（2テモ 1：7）。完全な愛は恐れをとり除く（1ヨハ 4：18〔モロ 8：16〕）。ヒラマンの息子たちは死を恐れなかった（アル 56：46−48）。悪人の胸に満ちているあのひどく死を恐れる気持ち（モル 6：7）。人のすることは恐れない（モロ 8：16）。あなたは人

を神よりも恐れてはならなかった（教義 3：7〔教義 30：1，11；122：9〕）。善を行うのを恐れてはならない（教義 6：33）。だれでもわたしの教会に属する者は，恐れる必要がない（教義 10：55）。備えていれば恐れることはない（教義 38：30）。恐れを除き去り（教義 67：10）。元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり（教義 68：6）。敵を恐れてはならない（教義 136：17）。

夫　「家族」「結婚」参照

おとめ　「マリヤ（イエスの母）」参照

異性との交わりを持ったことのない結婚適齢期の女性。

おとめがみごもって男の子を産む（イザ 7：14〔マタ 1：23；2 ニフ 17：14〕）。天国は，十人のおとめが花婿を迎えに出て行くのに似ている（マタ 25：1−13）。ナザレの町に一人のおとめを見たが，それは神の御子の母であった（1 ニフ 11：13−18）。マリヤはおとめであって，尊い，選ばれた器である（アル 7：10）。

オバデヤ

旧約の預言者。エドムの滅亡を預言した。オバデヤが預言したのは，ヨラム王の治世（紀元前 848−844 年），あるいは紀元前 586 年のバビロニアによる侵略の時期と思われる。

オバデヤ書：『旧約聖書』の 1 書。1 章のみから成る。その中でオバデヤはエドムの滅亡について記し，また救う者たちがシオンの山に立つことを預言した。

オベデ　「ボアズ」「ルツ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ボアズとルツの息子で，エッサイの父。エッサイはダビデ王の父である（ルツ 4：13−17，21−22）。

覚えの書　「命の書」「系図」参照

最初にアダムが作ったもので，彼の子孫の行いが記録された。また，そのとき以来預言者や忠実な教会員によって作られた同様の記録をも指す。アダムとその子孫は，霊感によって書いた「覚えの書」と，系図を記した「歴代の書」を書き残した（モセ 6：5，8）。これらの記録は，わたしたちの最後の裁きを確定する際に用いられることが十分に考えられる。

覚え書（がき）がしるされた（マラ 3：16−18〔3 ニフ 24：16−18〕）。覚えの書に記されていない者は皆，その日に何の受け継ぎも見いださず（教義 85：9）。死者は彼らの行いの記録が載せられている書物に基づいて裁かれる（教義 128：7）。わたしたちの死者の記録を載せた書をささげましょう（教義 128：24）。覚えの書が記された（モセ 6：5−8）。覚えの書を記してきた（モセ 6：46）。アブラハムは子孫のために記録を書こうと努めた（アブ 1：31）。

オムナー　「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。兄弟たちとともにレー

マン人への伝道の旅に出かけた（モサ 27：8−11，34−37；28：1−9）。

オムナイ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の記録者。紀元前 361 年ごろに記録を残した（ジェロ 1：15；オム 1：1−3）。

オムナイ書：『モルモン書』の中の 1 書。ニーファイの小版から翻訳されたもの。1 章のみから成るこの書には，ニーファイ人とレーマン人の間の戦争のことが記されている。オムナイが記録したのは，この書の初めの 3 節だけである。ニーファイの版は，アメーロン，ケミシ，アビナドム，そしてアマレカイへと順に伝えられた。アマレカイはこの版をゼラヘムラのベニヤミン王に渡した。

オメガ　「アルパとオメガ」「イエス・キリスト」参照

思い　「選択の自由」「深く考える」参照

人の心の中に生じる考えや印象。考える力は神からの賜物（たまもの）であり，わたしたちはこの力をどう使うか自由に選択することができる。わたしたちがどういう思いを抱くかは，態度や行動，また来世での状態にも大きな影響を与える。義にかなった思いは人を救いに導き，悪い思いは罰の定めに至る。

主はすべての思いを悟られる（歴上 28：9）。わが思いは，あなたがたの思いとは異なり（イザ 55：7−9）。イエスは彼らの思いを見抜いて（マタ 12：25〔ルカ 5：22；6：8〕）。内部から，人の心の中から，悪い思いが出て来る（マコ 7：20−23）。すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ（2コリ 10：5）。すべて真実なこと，すべて尊ぶべきこと，すべて純真なこと，すべて愛すべきことがあれば，それらのものを心にとめなさい（ピリ 4：8）。肉の思いを抱くことは死であり，霊的な思いを抱くことは永遠の命であることを覚えておきなさい（2ニフ 9：39）。もし自分自身や自分の思いに注意を払わないならば，あなたがたは滅びるに違いない（モサ 4：30）。思いもわたしたちを罪に定める（アル 12：14）。あなたの心の思いと志を知っている者は神のほかにだれもいない（教義 6：16〔教義 33：1〕）。あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい（教義 6：36）。命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい（教義 84：85）。あなたがたの無益な思いを遠くに捨ててしまいなさい（教義 88：69）。人の心の思いは明らかにされる（教義 88：109）。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい（教義 121：45）。すべての人がいつも悪いことばかりを考えている（モセ 8：22）。

思い；心

精神能力。思考力。

全（まった）き心をもって喜び勇んで彼に仕えなさい（歴上 28：9）。心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ（マタ 22：37）。肉の思いを抱くことは死であり，霊的な思いを抱くことは永遠の命であ

る（2ニフ 9：39）。主の声がわたしの思いに告げて（エノ 1：10）。御言葉は剣よりも民の心に力強い影響を及ぼした（アル 31：5）。わたしはあなたの思いに告げよう（教義 8：2）。心の中でそれをよく思い計り（教義 9：8）。永遠の厳粛さを心にとどめなさい（教義 43：34）。あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった（教義 84：54）。早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように，早起きをしなさい（教義 88：124）。サタンは神の思いを知らなかった（モセ 4：6）。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし，思いを一つにしたからである（モセ 7：18）。

重い皮膚病

『旧約聖書』と『新約聖書』の両方で何度も言及されている感染性の病気。モーセ（出エ 4：6−7）とその姉ミリアム（民数 12：10），ナアマン（列下 5 章），ウジヤ王（歴下 26:19−21）など，『聖書』の著名な人物の中にこの病気に苦しんだ人がいる。

イエスは何度か，重い皮膚病にかかった人を癒（いや）された（マタ 8:2−4〔マコ 1：40−45；ルカ 5：12−15；3 ニフ 17：7−9〕）。イエスは重い皮膚病にかかった 10 人の人を癒（いや）された（ルカ 17：11−19）。

親　「父（現世の）」「母」参照

父親と母親。神殿での結婚において正しく結び固められたふさわしい夫婦は，永遠にわたって親としての役割を果たすことができる。

両親に従いなさい（エペ 6:1−3〔コロ 3：20〕）。わたしたちの最初の先祖であるアダムとエバ（1ニフ 5：11）。その責任が両親の頭（こうべ）に帰するように（2ニフ 4：6）。親たちに，悔い改めてバプテスマを受けなければならないことを教えなさい（モロ 8：10）。親は子供たちに福音を教えるように命じられている（教義 68：25）。すべての子供たちはその親に扶養を求める権利がある（教義 83：4）。両親の罪がその子供たちの頭（こうべ）に帰することはあり得ない（モセ 6：54）。

オリーブの木　「油」「イスラエル」参照

イスラエルに広く分布している樹木。『聖書』の舞台となった地域では，オリーブは重要な農産物である。木材にしたり，果実を採取したり，油を採ったりするために栽培される。オリーブの木は聖典の中で，イスラエルの家の象徴として頻繁に用いられている。

イスラエルの家は，枝が折られて地の全面に散らされるオリーブの木にたとえられる（1ニフ 10：12〔1 ニフ 15：12〕）。主はイスラエルの家を栽培されたオリーブの木にたとえられた（ヤコ 5−6 章）。ジョセフ・スミスは教義と聖約 88 章の啓示をオリーブの葉と呼んだ（教義 88 章の前書き）。ある身分の高い人が僕（しもべ）たちに，自分の果樹園へ行って 12 本のオリーブの木を植えるようにと言った（教義 101：43−62）。

オリブ山　「ゲツセマネ」参照

エルサレムの東方のケデロンの谷の東にある丘。西側斜面のふもと近くにゲツセマネの園がある。山頂と東側斜面に，ベテパゲとベタニヤがある。この山は，かつて『聖書』に述べられている数多くの出来事の舞台となり（マタ 24：3），また将来も末日の様々な出来事の舞台となる（ゼカ 14：3−5；教義 45：48−54；133：20）。

終わりの時；末日　「イエス・キリストの再臨」「時のしるし」参照

わたしたちが生きている今の時代。主の再臨の直前の時代（あるいは神権時代）。

後の日に，あなたがたの上に起ることを，告げましょう（創世 49：1）。後の日に彼は必ず地の上に立たれる（ヨブ 19：25）。終りの日に主の家の山は堅く立ち（イザ 2：2）。終りの時には，苦難の時代が来る（2テモ 3：1−7）。終りの時に，あざける者たちが再臨を否定する（2ペテ 3：3−7）。わたしはあなたがたに，終わりの時について預言する（2ニフ 26：14−33）。わたしの教会は，終わりの時に，末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない（教義 115：4）。キリストは終わりの時に来られる（モセ 7：60）。

音楽　「歌う」「賛美歌」参照

喜びや賛美や礼拝の気持ちを表現するために，旋律や拍子に合わせて歌い，演奏することは，『聖書』の時代の初期から行われていた（サ下 6：5）。音楽は祈りの一形式でもある。詩篇は楽器の演奏に合わせて単純な旋律で歌われたものと思われる。

アロンの姉，女預言者ミリアムはタンバリンを手に取り，女たちも皆タンバリンを取って，踊り（出エ 15：20）。レビびとの歌うたう者はシンバルと，立琴（たてごと）と，琴をとって立ち，120人の祭司は彼らと一緒に立ってラッパを吹いた（歴下 5：12）。彼らは，さんびを歌った後，オリブ山へ出かけて行った（マタ 26：30）。互（たがい）に教えまた訓戒し，詩とさんびと霊の歌とによって，神をほめたたえなさい（コロ 3：16）。贖（あがな）いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるか（アル 5：26）。わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに，義人の歌はわたしへの祈りである（教義 25：12）。歌と，音楽と，踊りをもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

女　「人」参照

神の娘。聖典では，婦人という言葉が敬意を込めて用いられている場合がある（ヨハ 19：26）。

神は男と女とを創造された（創世 1：27〔モセ 2：27；6：9；アブ 4：27〕）。賢い妻は宝石よりもすぐれて尊い（箴言 31：10−31）。女は，また男の栄光である（1コリ 11：7）。主にあっては，男なしには女はないし，女なしには男はない（1コリ 11：11）。女はつつましい身なりをし（1テモ 2：9−10）。主なる神であるわたしは，婦人たちの貞節を喜ばしく思う（ヤコ 2：28）。見よ，あなたの罪は赦（ゆる）されている。あなたは，

わたしが召した，選ばれた婦人である（教義 25：3）。女たちは夫に扶養を要求する権利がある（教義 83：2）。

女預言者　「預言」参照

イエスの証を受け，啓示の霊を享受している女性。神権や神権の鍵を持つことはない。聖典の中で女預言者と呼ばれている女性はわずかであるが，リベカやハンナ，エリサベツ，マリヤなど，預言をした女性は多い。

ミリアムは女預言者と呼ばれた（出エ 15：20）。デボラは女預言者と呼ばれた（士師 4：4）。ホルダは女預言者と呼ばれた（列下 22：14〔歴下 34：22〕）。アンナは女預言者と呼ばれた（ルカ 2：36）。

カーセージの監獄　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「スミス，ハイラム」参照

ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは，1844 年 6 月 27 日にアメリカ合衆国イリノイ州カーセージの監獄で暴徒により殺された（教義 135 章）。

カートランド神殿

近代に教会が建設した最初の神殿。聖徒たちは主の戒めに従って，アメリカ合衆国オハイオ州カートランドにこの神殿を建設した（教義 94：3–9）。カートランド神殿建設の目的の一つは，ふさわしい教会員が霊的な力と権能，啓発を受けることのできる場所を提供することであった（教義 109；110 章）。カートランド神殿は 1836 年 3 月 27 日に奉献された。奉献の祈りは啓示によって預言者ジョセフ・スミスに与えられた（教義 109 章）。主はこの神殿において幾つかの重要な啓示を下し，必要な神権の鍵を回復された（教義 110；137 章）。カートランド神殿では，今日数々の神殿で行われている儀式がすべて執行されたわけではない。

カイザル

『新約聖書』に出てくる称号。幾人かのローマ皇帝はこの称号で呼ばれた。聖典では，世俗的な支配や権威の象徴として用いられている。

カイザルのものはカイザルに返しなさい（マタ 22：21〔マコ 12：17；ルカ 20：25；教義 63：26〕）。

改宗　「弟子」「再び生まれる」参照

信念や心や生活を変えて神の御心を受け入れ，御心に従って生活するようになること（使徒 3：19）。

改宗には，以前の習慣をやめ，キリストの弟子になるという意識的な決意が含まれる。改宗は，悔い改め，罪の赦しのためのバプテスマ，按手により聖霊を受けること，さらに主イエス・キリストを信じる信仰を持ち続けることによって完全なものとなる。生まれながらの人も，キリストなるイエスにより再び生まれて，聖められた新しい人となることができる（2 コリ 5：17；モサ 3：19）。

心をいれかえて幼な子のようにならなければ（マタ 18：3〔モサ 3：19〕）。あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい（ルカ 22：

32)。彼の勧めの言葉を受けいれた者たちは，バプテスマを受けた（使徒2：37−41)。罪人を迷いの道から引きもどす（新ヤコ5：20)。エノスは改心した（エノ1：2−5)。ベニヤミン王の言葉は民の心の中に大きな変化を生じさせた（モサ5：2〔アル5：12−14〕)。全人類は再び生まれなければならない。人は神から生まれなければならない（モサ27：25)。アルマとモーサヤの息子たちは改心した（モサ27：33−35)。ラモーナイ王の父が改宗した（アル22：15−18)。神の力と言葉によって主を信じるようになった（アル53：10)。悔い改めは心の変化をもたらす（ヒラ15：7)。心を改めた者は皆，神の御霊（みたま）を与えられたことを，民に実際に示した(3ニフ7:21)。レーマン人は改心したときにわたしを信じたので，火と聖霊によるバプテスマを受けた（3ニフ9：20)。彼らは出て行き，悔い改めを宣（の）べ伝えなければならない。そして，多くの人が改宗する(教義44：3−4)。

会堂　「ユダヤ人」参照

宗教的な目的で使われた集会所。新約の時代は，内部の調度は一般的に質素で，律法を書いた巻き物など神聖な記録を収める箱，机，礼拝者用の座席が備えられていた。

長老によって構成される各地域の評議会がそれぞれの会堂を管理した。彼らは会堂にだれを入れ，また会堂からだれを追放するかの決定も下した（ヨハ9：22；12：42)。最も重要な役職は会堂司（かいどうづかさ）であった（マコ5：22；ルカ13：14)。会堂司（かいどうづかさ）は通常，律法学者であり，建物の管理や様々な行事の監督を行った。そして，会衆が様々な聖職者的務めを果たした（ルカ4：20)。

パレスチナでもその他の地域でも，ユダヤ人が住んでいる町には必ず会堂があった。これはイエス・キリストの福音を伝える大きな助けとなった。教会の初期の宣教師たちは普通，会堂で話をすることができたからである(使徒13：5，14；14：1；17：1，10；18:4)。これと同じことが『モルモン書』の中の宣教師（アル16：13；21：4−5；32：1）や，この神権時代の初期の宣教師たちの間でも行われた（教義66：7；68：1)。

回復　「福音の回復」参照

取り去られたり，失われたりした物や状態が元に戻ること。

霊と体は再び結合して完全な形になり（アル11：43−44)。回復とは悪を悪に，義を義に再び返すことである(アル41：10−15)。わたしたちは，十部族の回復と，地球が更新されて楽園の栄光を受けることを信じる（箇条1：10〔教義133：23−24〕)。

解放者　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは，すべての人を死の束縛から解放し，悔い改める人を罪のもたらす罰から救うことから，人類の解放者である。

主はわが岩，わが城，わたしを救う者（サ下22：2〔詩篇18：2；144：2〕)。あなたはわが助け，わが救主（すくいぬし）です（詩篇40：17〔詩篇70：5〕)。救う者がシオンからきて（ロマ11：26)。聖徒た

ちは，神の御子を贖(あがな)い主および解放者として受け入れた（教義 138：23）。

カイン　「アダム」「アベル」「殺人」「秘密結社」参照

アダムとエバの息子。弟のアベルを殺した（創世 4：1−16）。

主はカインの供え物を顧みられなかった（創世 4：3−7〔モセ 5：5−8，18−26〕）。弟アベルを殺した（創世 4：8−14〔モセ 5：32−37〕）。主はカインに一つのしるしをつけられた（創世 4：15〔モセ 5：37−41〕）。アダムとエバは，彼が生まれる前にも多くの息子，娘をもうけていた（モセ 5：1−3，16−17）。神よりもサタンを愛した（モセ 5：13，18）。サタンと邪悪な誓いを立てた（モセ 5：29−31）。

カウドリ，オリバー

回復された教会の第二の長老。『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証(あかし)した三人の証人の一人。ジョセフ・スミスが金版から『モルモン書』を翻訳していたときに，筆記者として働いた（ジ一歴史 1：66−68）。

『モルモン書』の翻訳が真実であるとの証(あかし)を受けた（教義 6：17，22−24）。バプテスマのヨハネによって聖任された（教義 13 章〔教義 27：8；ジ一歴史 1：68−73。71 節の付記を参照〕）。あなたがたは信仰を得て，自分の目でこれらのものを見た後，これらのものを見たことを証(あかし)しなければならない（教義 17：3，5）。わたしは，あなたが記してきたものが真実であることを，度々わたしの御霊(みたま)によって示してきた（教義 18：2）。数々の啓示についての管理人となるように，選ばれ，聖任された（教義 70：3）。ジョセフ・スミスとともに神権の鍵(かぎ)を授けられた（教義 110 章）。

顔

人の顔には，その人の霊性や精神状態が表れることがよくある。

王の顔色は変り，その心は思い悩んで乱れ（ダニ 5：6）。その顔は，太陽のようであった（黙示 1：16）。あなたがたの顔に神の面影を受けているか（アル 5：14，19）。アンモンは王の顔色が変わったのを見た（アル 18：12）。楽しげな心と表情をもって断食と祈りをする（教義 59：14−15）。その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた（教義 110：3）。

雅歌

『旧約聖書』の中の 1 書。預言者ジョセフ・スミスは，雅歌は霊感によって書かれたものではないと教えた。

確信；信頼　「信仰」「信じる」「信頼」参照

何かに対して，特に神とイエス・キリストに対して，より頼むこと。

主に寄り頼むは人にたよるよりも良い（詩篇 118：8）。主があなたの信頼する者であり（箴言 3：26）。キリストが現れる時に，確信を持つためである（1ヨハ 2：28）。邪悪なニーファイ人は子供たちの信頼を失った（ヤコ 2：35）。神の前においてあなたの自信は

増すであろう（教義 121：45）。

確認　「按手（あんしゅ）」参照

陰口　「悪口（あっこう）」参照

家族　「結婚」「子供」「父（現世の）」「母」参照

聖典で言われている家族とは，夫，妻，子供，また時にはその他の親族を含めて，同じ家に，あるいは一人の家長のもとに暮らす共同体を指す。家族という言葉は，一人の親と子供，また子供がいない夫婦，独り暮らしの独身者に対して用いることもある。

一般的な聖句：地のすべてのやからは，あなたによって祝福される（創世 12：3〔創世 28：14；アブ 2：11〕）。わたしはイスラエルの全部族の神となり（エレ 31：1）。アダムとエバは全地の家族をもたらした（2ニフ 2：20）。その栄光とは，とこしえに子孫が続くことである（教義 132：19）。わたしは彼に，永遠の世では永遠の命の冠を授けよう（教義 132：55）。親子の結び固めは，時満ちる神権時代の大いなる業の一部である（教義 138：48）。わたしは，彼らを祝福して言った。「生めよ，増えよ」（モセ 2：27−28）。人が独りでいるのは良くない（モセ 3：18）。アダムとエバはともに働いた（モセ 5：1）。

親の責任：アブラハムは子らと家族とに命じて主の道を守らせ（創世 18：17−19）。努めてこれをあなたの子らに教え（申命 6：7〔申命 11：19〕）。子を愛する者は，つとめてこれを懲らしめる（箴言 13：24〔箴言 23：13〕）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6）。あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい（伝道 9：9）。あなたの子らはみな主に教（おしえ）をうけ（イザ 54：13〔3ニフ 22：13〕）。主の薫陶と訓戒とによって，彼らを育てなさい（エペ 6：1−4〔エノ 1：1〕）。もしある人が，その親族を，ことに自分の家族をかえりみない場合には，その信仰を捨てたことになる（1テモ 5：8）。父は優しい親の情を込めて勧めた（1ニフ 8：37）。わたしたちはキリストのことを話し，どこに罪の赦（ゆる）しを求めればよいかを，わたしたちの子孫に知らせる（2ニフ 25：26）。レーマン人の夫と妻は子供たちを愛している（ヤコ 3：7）。互いに愛し合い，互いに仕え合うように教える（モサ 4：14−15）。あなたがたは血を流してでも自分たちの家族を守りなさい（アル 43：47）。あなたがたの妻子が祝福を受けるように，あなたがたの家族の中で祈りなさい（3ニフ 18：21）。両親は子供に福音を教えなければならない（教義 68：25）。自分の家族を扶養する義務を負っている（教義 75：28）。すべての子供たちはその親に扶養を求める権利がある（教義 83：4）。あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるように（教義 93：40）。自分自身の家を整えなければならない（教義 93：43−44，50）。神権者は偽りのない愛により，人々に影響を及ぼすべきである（教義 121：41）。アダムとエバは子供たちにすべてのことを知らせた（モセ 5：12）。

子供の責任：あなたの父と母を敬

え（出エ 20：12）。わが子よ，あなたは父の教訓を聞き（箴言 1：8〔箴言 13：1；23：22〕）。イエスは両親にお仕えになった（ルカ 2：51）。イエスは御父の御心を行われた（ヨハ 6：38〔3 ニフ 27：13〕）。主にあって両親に従いなさい（エペ 6：1〔コロ 3：20〕）。その子供たちが悔い改めるならば，あなたは憤りを解かなければならない（教義 98：45−48）。エバの忠実な娘たちもまことの生ける神を礼拝した（教義 138：39）。

永遠の家族：『教義と聖約』には，婚姻関係と家族の永遠性について述べられている。日の栄えの結婚と家族単位の存続によって，夫と妻は神々になることができるのである（教義 132：15−20）。

家族歴史　「系図」「死者の救い」参照

型

人がそれに従って何らかの結果を得られる手本となるもの。通常聖典では，型は生活の仕方の模範，あるいは何かを作るためのひながたとなるものを意味する。

主はイスラエル人に，モーセに示す型に従って幕屋を造るよう命じられた（出エ 25 章）。永遠のいのちを受ける者の模範となる（1テモ 1：16）。あなたがたが欺かれないために，わたしはすべてのことに関して規範を与えよう（教義 52：14）。

割礼　「アブラハムの聖約（契約）」参照

旧約の神権時代に，イスラエルの男子に与えられたアブラハムの聖約（契約）のしるし（創世 17：10−11，23−27；JS 創世 17：11）。割礼では男の幼児また成人の「前の皮」を切る。割礼を受けた者は数々の特権を受けるとともに，その聖約に伴う責任をも受け入れた。聖約のしるしとしての割礼は，キリストの働きをもって廃された（モロ 8：8；教義 74：3−7）。

ガデアントンの強盗団　「秘密結社」参照

『モルモン書』の中の強盗団。ガデアントンという邪悪なニーファイ人によって作られた。彼らの組織は秘密主義と悪魔的な誓いを基にしていた。

ガデアントンはニーファイ人の国の滅亡をもたらした（ヒラ 2：12−13）。悪魔はガデアントンに秘密の誓いの言葉と誓約を与えた（ヒラ 6：16−32）。秘密結社がヤレド人の国を滅亡させた（エテ 8：15−26）。

家庭　「家族」参照

家庭は，福音と家族の活動の中心となるべき場所である。

束縛なく家にいて，そのめとった妻を慰めなければならない（申命 24：5）。イエスは彼を家に帰された（マコ 8：26）。子供たちに自分の家で孝養を尽くすことを学ばせるべきである（1テモ 5：4）。慎み深く，純潔で，家事に努め（テト 2：5）。自分の家に帰り，わたしが述べたことを深く考えなさい（3ニフ 17：2−3）。わたしは，自分たちの妻子と家と家庭を守るために戦うように，彼らに勧めた（モル 2：23）。

自分自身の家を整えなければならない（教義 93：43−44，48−50）。

ガド（聖見者）　「聖文—失われた聖文」参照

旧約の預言者。ダビデの忠実な友であり，助言者であった（サ上 22：5；サ下 24：11−19）。彼が書いたダビデの事績の書は，失われた聖典の一つとなっている（歴上 29：29）。

ガド（ヤコブの息子）　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとジルパの息子（創世 30：10−11）。彼の子孫はイスラエルの 1 部族となった。

ガドの部族：ヤコブが息子ガドに与えた祝福については，創世 49：19 を参照。モーセがガドの部族に与えた祝福については，申命 33：20−21 を参照。これらの祝福によると，ガドの子孫は好戦的な民になるとある。彼らがカナンの地で与えられたのはヨルダン川東方の地で，水利に恵まれた，牧草地として良い土地を含んでいた。

カナン；カナン人

『旧約聖書』の中の人物。ハムの四男（創世 9：22；10：1，6）。ノアの孫。カナン人とは，カナンが最初に住んだ地にいた人，およびカナンの子孫を指す。パレスチナの地中海沿いの低地に住んでいた民もカナン人と呼ばれていた。ギリシャ人がフェニキヤ人と呼んでいた，ヨルダン川の西方の地域に住むイスラエル以外のすべての民を指して用いられたこともある。

ガブリエル　「天使」「ノア（族長）」「マリヤ（イエスの母）」参照

ダニエル（ダニ 8：16；9：21），ザカリヤ（ルカ 1：11−19；教義 27：7），マリヤ（ルカ 1：26−38），その他の人々（教義 128：21）に遣わされた天使。預言者ジョセフ・スミスは，ガブリエルは旧約の預言者ノアであると述べている。

ガマリエル　「パリサイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。著名なパリサイ人でユダヤの律法に通じ，それを人々に教えていた。使徒パウロは彼の下で学んだ（使徒 22：3）。ガマリエルはサンヒドリンで非常に影響力のある人物であった（使徒 5：34−40）。

神；神会　「イエス・キリスト」「主」「聖霊」「天の御父」参照

神会はそれぞれ独立した御三方，すなわち，永遠の父なる神，御子イエス・キリスト，聖霊によって構成される。わたしたちはそれぞれの御方を信じている（箇条 1：1）。末日の啓示は，御父と御子は触れることのできる骨肉の体を持っておられること，また聖霊は骨肉の体を持たない霊の御方であられることを教えている（教義 130：22−23）。この御三方は目的と教えにおいて完全に一致，調和し，一つであられる（ヨハ 17：21−23；2 ニフ 31：21；3 ニフ 11：27，36）。

父なる神：一般に，神という称号で呼ばれている御方は，御父，すなわち

エロヒムを指す。御父と呼ばれるのは，人間の霊の父親だからである（民数 16：22；27：16；マラ 2：10；マタ 6：9；エペ 4：6；ヘブ 12：9）。父なる神は宇宙の至高の統治者であられる。また全能（創世 18：14；アル 26：35；教義 19：1−3），全知（マタ 6：8；2 ニフ 2：24）の御方であり，御霊（みたま）を通して遍在される（詩篇 139：7−12；教義 88：7−13，41）。人類は，他のいかなる被造物とも異なり，神と特別な関係にある。人は男女を問わず，神の霊の子供である（詩篇 82：6；1 ヨハ 3：1−3；教義 20：17−18）。

父なる神が人に御姿を現し，語りかけられたことを示す記録は少ない。聖典には，父なる神がアダムとエバに語りかけられたこと（モセ 4：14−31），また幾度かイエス・キリストを紹介されたこと（マタ 3：17；17：5；ヨハ 12：28−29；3 ニフ 11：3−7）が記録されている。父なる神は，ステパノに（使徒 7：55−56），またジョセフ・スミスに（ジ―歴史 1：17），そして後にはジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人に（教義 76：20，23）御姿を現された。時として神は，神を愛して御前に自らを清める人に，その御姿を目にして神の実在を自ら知る特権をお与えになる（マタ 5：8；3 ニフ 12：8；教義 76：116−118；93：1）。

わが神，わが神（マコ 15：34）。この人たちは，いと高き神の僕（しもべ）たちで（使徒 16：17）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：28−29）。いと高き方に礼拝をささげる（教義 59：10−12）。エノクは神が造られた霊たちを見た（モセ 6：36）。聖なる人とは神の名である（モセ 6：57）。

子なる神：エホバとして知られている神は，御子イエス・キリストである（イザ 12：2；43：11；49：26；1 コリ 10：1−4；1 テモ 1：1；黙示 1：8；2 ニフ 22：2）。イエスは御父の指示の下に働きをなし，御父と完全に一致しておられる。全人類は，イエス・キリストの弟妹である。イエス・キリストはエロヒムの霊の子供の長兄だからである。イエス・キリストに対して，神という言葉を用いている聖句も幾つかある。例えば，「神は天と地とを創造された」（創世 1：1）という聖句があるが，これは実際には，父なる神の指示の下に，創造主として働かれたイエスを指している（ヨハ 1：1−3，10，14；ヘブ 1：1−2）。

主は御自身を「わたしは有る」と言われた（出エ 3：13−16）。ただわたしのみ主〔エホバ〕である。わたしのほかに救う者はいない（イザ 43：11〔イザ 45：23〕）。わたしは世の光である（ヨハ 8：12）。アブラハムの生れる前からわたしは，いるのである（ヨハ 8：58）。主は土の幕屋に宿り，人々の中で御業を行われる（モサ 3：5−10）。アビナダイは，キリストがどのような意味で御父であり御子であるのかを説明した（モサ 15：1−4〔エテ 3：14〕）。主がヤレドの兄弟に御姿を現された（エテ 3 章）。あなたがたの贖（あがな）い主，あなたがたの主，あなたがたの神であるキリストの言葉を聴きなさい（モロ 8：8）。エホバは生者と死者双方の永遠の裁き主である（モロ 10：34）。イエスがジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに御姿を現された（教義 76：

20，23)。主エホバがカートランド神殿に御姿を現された（教義 110 ： 1−4)。エホバがアブラハムに語りかけられた(アブ 1：16−19)。イエスがジョセフ・スミスに御姿を現された(ジ―歴史 1：17)。

聖霊なる神：聖霊も神であり，聖なる御霊(みたま)，御霊(みたま)，神の御霊(みたま)など，ほかにも様々な類似した呼び名や称号で呼ばれている。人は聖霊の助けによって，父なる神の御心を知り，またイエスがキリストであることも知ることができる（1 コリ 12：3)。

言うべきことは，聖霊が教えてくださる（ルカ 12：12)。聖霊は助け主とも呼ばれる（ヨハ 14：26〔ヨハ 16：7−15〕)。イエスは使徒たちに，聖霊によって命じられた（使徒 1：2)。聖霊は神とキリストについて証(あかし)される（使徒 5：29−32〔1 コリ 12：3〕)。聖霊もまた，わたしたちにあかしをして(ヘブ 10：10−17)。聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう（モロ 10：5)。聖霊は啓示の霊である（教義 8：2−3〔教義 68：4〕)。

神から生まれる　「再び生まれる」参照

神の王国；天の王国　「イエス・キリストの教会」「日の栄え」参照

地上における神の王国は，末日聖徒イエス・キリスト教会である（教義 65 章)。教会の目的は，教会員に日の栄えの王国すなわち天の王国で永遠に住むための備えをさせることである。しかし，聖典の中では，教会は地上における天の王国であるという意味で，教会を天の王国と呼ぶことがある。

末日聖徒イエス・キリスト教会は地上における神の王国であるが，この王国という表現は，現在は宗務の範囲にとどまっている。しかし福千年には，政治的にも宗務的にも，神の王国となるのである。

主はとこしえに王でいらせられる(詩篇 10：16〔詩篇 11：4〕)。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく（ダニ 2：44〔教義 138：44〕)。悔い改めよ，天国は近づいた（マタ 3：2〔マタ 4：17〕)。御国がきますように。みこころが地にも行われますように（マタ 6：10)。まず神の国を求めなさい(マタ 6：33〔3 ニフ 13：33〕)。わたしは，あなたに天国のかぎを授けよう（マタ 16：19)。さあ，あなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい（マタ 25：34)。わたしの父の国であなたがたと共に，新しく飲む（マタ 26：26−29)。アブラハム，イサク，ヤコブやすべての預言者たちが，神の国にはいっている（ルカ 13：28)。正しくない者が神の国をつぐことはない（1 コリ 6：9)。肉と血とは神の国を継ぐことができない（1 コリ 15：50)。富を求める前に神の王国を求めなさい(ヤコ 2：18)。清くない者は決して天の王国を受け継ぐことができない（アル 11：37)。父の王国で彼らとともに安息を得られるように（教義 15：6)。あなたがたに王国，言い換えれば，教会の鍵(かぎ)が授けられた（教義 42：69〔教義 65：2〕)。神の王国が進み行きます

ように。それによって，天の王国が来て（教義 65：5−6）。この王国の鍵（かぎ）があなたから取り去られることは決してない（教義 90：3）。幼子（おさなご）のようにあなたを受け入れる者は，わたしの王国を受ける（教義 99：3）。わたしの教会は，終わりの時にこのように，すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない（教義 115：4）。天がわたしたちに開かれ，わたしは神の日の栄えの王国とその栄光を見た（教義 137：1−4）。

神の奥義

神の奥義とは，啓示によってのみ知ることのできる霊的な真理である。神は福音に従順な人に奥義を示される。神の奥義の中には，まだ明らかにされていないものもある。

あなたがたには，天国の奥義を知ることが許されている（マタ 13：11）。あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても，もし愛がなければ，わたしは無に等しい（1コリ 13:2）。ニーファイは神の奥義を深く知った（1ニフ 1：1）。神の奥義を知ることは多くの人に許されている（アル 12：9）。悔い改めて信仰を働かせ，善い行いをし，絶えず祈り続ける人には，神の奥義を知ることが許され（アル 26：22）。これらの奥義は，まだ全部はわたしに知らされていない（アル 37：11）。神御自身のほかだれも知らない隠されている奥義がたくさんある（アル 40：3）。神性の奥義は何と深いことか（教義 19：10）。あなたは求めれば，数々の奥義を知ることができる（教義 42：61，65〔1 コリ 2：7，11−14〕）。わたしの戒めを守る者に，わたしは，わたしの王国の奥義を与えよう（教義 63：23）。わたしは彼らにすべての奥義を明らかにし（教義 76：7）。大神権は王国の奥義の鍵（かぎ）を持つ（教義 84：19）。主が来るその日に，主はすべてのことを明らかにする（教義 101：32−33）。メルキゼデク神権は天の王国の奥義を受ける特権を持つ（教義 107：19）。

神の御子　「イエス・キリスト」「神；神会」参照

神の国　「神の王国；天の王国」参照

神の子　「神の息子，娘」「人」参照

神の小羊　「イエス・キリスト」「贖罪（しょくざい）」「過越（すぎこし）」参照

救い主に対する呼び名の一つ。イエスが人類のための犠牲のささげ物であることを示している。

ほふり場にひかれて行く小羊のように（イザ 53：7〔モサ 14：7〕）。見よ，世の罪を取り除く神の小羊（ヨハ 1：29〔アル 7：14〕）。あがない出されたのは，きずも，しみもない小羊のようなキリストの尊い血によった（1ペテ 1：18−20）。ほふられた小羊こそはふさわしい（黙示 5：12）。わたしたちは，小羊の血によってサタンに打ち勝つ（黙示 12：11）。この人々の衣は，小羊を信じる信仰のために小羊の血によって白くされた（1ニフ 12：11）。神の小羊が永遠の御父の御子であって，世の救い主であられる（1ニフ 13：40〔1 ニフ 11：21〕）。小羊の

血によって清められるように，イエスの名によって熱烈に御父に叫び求めなさい（モル 9：6〔黙示 7：14；アル 34：36〕）。小羊は世の初めからほふられている（モセ 7：47）。

神の息子，娘　「生まれる；産む；もうける」「キリストの子」「贖罪」「人」「再び生まれる」参照

この言葉は，聖典の中では二つの意味で用いられている。一つは，人は皆文字どおり天の御父の霊の子供であるという意味であり，もう一つは，キリストの贖罪を通して再び生まれた人を神の息子，娘という場合である。

御父の霊の子：あなたがたは神だ，あなたがたは皆いと高き者の子だ（詩篇 82：6）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：29）。たましいの父に服従し（ヘブ 12：9）。わたしは神の子だ（モセ 1：13）。

贖罪を通して再び生まれた子供：彼を受けいれた者には，彼は神の子となる力を与えた（ヨハ 1：12〔ロマ 8：14；3 ニフ 9：17；教義 11：30〕）。わたしたちは今や神の子である（1 ヨハ 3：1−2）。あなたがたはキリストの子と呼ばれ，キリストの息子および娘と呼ばれる（モサ 5：7）。人は神から生まれ，神の息子や娘にならなければならない（モサ 27：25）。これらの者はわたしの息子となり，娘となる（エテ 3：14）。あなたがたは必ずキリストの子となる（モロ 7：19）。わたしの福音を受け入れる者は皆，息子であり，娘だからである（教義 25：1）。彼らは神々，すなわち神の子である（教義 76：58）。このようにして，すべての者はわたしの子となることができる（モセ 6：68）。多くの者は信じて神の子となり（モセ 7：1）。

カヤパ　「アンナス」「サドカイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。アンナスの義理の息子で大祭司。カヤパはイエスとその弟子たちに対立する立場を取り，そのために積極的な働きをした（マタ 26：3−4；ヨハ 11：47−51；18：13−14）。

からし種

からしの木の種。種は非常に小さいが，それから生長する木の丈は非常に高くなる。イエスは天の王国をからし種にたとえられた（マタ 13：31）。

からし種一粒ほどの信仰があるなら（マタ 17：20）。

体　「死（肉体の）」「死すべき状態」「人（霊を持つ存在としての）」「復活」参照

神の形に創造された死すべき骨肉の組織物。霊と結びつき，生ける人間を作り上げている。復活の時に，男女を問わず人の肉体は，再び霊と永遠に結合する。時として聖文は，結合した肉体と霊を命あるものと述べている（創世 2：7；教義 88：15；モセ 3：7，9，19；アブ 5：7）。

主なる神は土のちりで人を造り（創世 2：7〔モセ 3：7〕）。さわって見なさい。霊には肉や骨はない（ルカ 24：

39)。自分のからだを打ちたたいて服従させるのである（1コリ 9：27)。肉のからだがあるのだから，霊のからだもあるわけである（1コリ 15：44)。霊魂のないからだは死んだものである(新ヤコ 2：26)。死すべき体は不死不滅の体によみがえる（アル 11：43−45)。体のあらゆる部分が体そのものに回復される（アル 41：2)。イエスは復活した御自分の体をニーファイ人に示された（3ニフ 10：18−19；11：13−15)。御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である（教義 130：22)。神は彼らを，御自分の体の形に，男と女に創造された（モセ 6：9〔創世 9：6〕)。

ガラテヤ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。もともとは使徒パウロがガラテヤ一帯の聖徒に書き送った手紙であった。この手紙の主題は，真の自由はイエス・キリストの福音に従って生活することによってのみ得られるというものである。もし聖徒たちがモーセの律法の遵守を主張するユダヤ主義的キリスト教徒の教えを取り入れるならば，すでにキリストの中に見いだしていた自由を狭めるか，あるいは失ってしまうことになる。パウロはこの手紙の中で，使徒としての自分の立場を明確にし，信仰による義の教えを説き，霊的な教えの価値を断言している。

パウロは第 1−2 章で，ガラテヤ人の間に背教が起こっているという知らせに対して遺憾の意を表し，使徒の中における自分の立場を明らかにしている。第 3−4 章では，信仰と行いについての教義を論じている。第 5−6 章には，信仰についての教義から実際にどのような成果を得られるかが述べられている。

刈り入れ

この言葉は聖典の中で，地上における神の王国である教会に人々を導くこと，あるいはイエス・キリストの再臨などの裁きの時を指して，象徴的に用いられることがある。

刈入れの時は過ぎ，夏もはや終った，しかしわれわれはまだ救われない（エレ 8：20〔教義 56：16〕)。収穫は多いが，働き人が少ない（マタ 9：37)。収穫とは世の終りのことである（マタ 13：39)。人は自分のまいたものを，刈り取ることになる（ガラ 6：7−9〔教義 6：33〕)。畑はすでに白くなり刈り入れを待っている（教義 4：4)。刈り入れが終わり，あなたがたが救われない（教義 45：2)。刈り入れの時は来ており，わたしの言葉は必ず成就する(教義 101：64)。

ガリラヤ

ヨルダン川とガリラヤの海の西に当たるイスラエル最北の地。ガリラヤは，南北約 95㎞，東西約 50㎞の広がりを持つ地域である。古代のガリラヤには，イスラエルで最も肥沃（ひよく）な土地と繁華な町が含まれていた。また，ダマスコ，エジプト，イスラエル東部へ続く要路がガリラヤを通過していた。恵まれた気候と肥沃（ひよく）な土壌で，オリー

ブ，小麦，大麦，ぶどうを多く産した。ガリラヤの海での漁獲は多大な輸出をもたらし，人々はそれから多くの富を得た。救い主はその生涯の多くをガリラヤで過ごされた。

ガリラヤに大いなる光が現れる（イザ 9：1−3〔2 ニフ 19：1−3〕）。イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて，教え，宣(の)べ伝え，わずらいをおいやしになった（マタ 4:23）。イエスは復活後，ガリラヤで人々に御姿を現された（マコ 14：28〔ヨハ 21：1−14〕）。イエスの名声はガリラヤの地方全体に広まった（ルカ 4：14）。イエスは最初のしるしをガリラヤのカナで行われた（ヨハ 2：11）。

ガリラヤの海：ガリラヤの海は北部イスラエルに位置している。『旧約聖書』ではキンネレテの海，『新約聖書』ではゲネサレ湖，テベリヤの海とも呼ばれている。イエスは幾度かここで教えを説かれた（マタ 13：2）。この海は西洋梨の形をしており，南北 20 km，東西の幅は最も広い所で 12kmある。海面は地中海よりも 200 m余り低く，そのために周辺の気温が非常に高くなることがよくある。丘陵部から吹き下りる冷気が湖面上の暖気とぶつかり，突然の嵐(あらし)となることも多い（ルカ 8：22−24）。

カルバリ　「ゴルゴタ」参照

カレブ

エジプトを出てから 2 年目に，カナンの地を探るためにモーセによって遣わされた者の一人。カレブとヨシュアだけがカナンの地について真実の報告をした（民数 13：6，30；14：6−38）。エジプトを出た者のうち，荒れ野での 40 年を生き延びて（民数 26：65；32：12；申命 1：36）カナンに入ったのはこの二人だけであった（ヨシ 14：6−14；15：13−19）。

軽んじる　「憎しみ；憎む」参照

姦淫(かんいん)　「純潔」「性的不道徳」「同性愛」「肉欲」「不貞」参照

男女の不法な性の交わり。姦淫(かんいん)という言葉は，一般には既婚者が配偶者以外の者と性の交わりを持つことを指すが，聖典では，未婚者についてもこの言葉が用いられる。

姦淫(かんいん)という言葉は時として，一つの国家や民全体が主の道から背き去ることの象徴として用いられる（民数 25：1−3；エレ 3：6−10；エゼ 16：15−59；ホセ 4 章）。

ヨセフはこの大きな悪を行わず，神に対して罪を犯さなかった（創世 39：7−12）。あなたは姦淫(かんいん)してはならない（出エ 20：14）。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫(かんいん)をしたのである（マタ 5：28）。不品行な者や姦淫(かんいん)をする者は，神の王国を受け継ぐことはない（1コリ 6：9−10）。神は，不品行な者や姦淫(かんいん)をする者をさばかれる（ヘブ 13：4）。姦淫(かんいん)の罪は，罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて，どのような罪よりも非常に忌まわしい行為である（アル 39：3−5）。姦淫(かんいん)をして悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：23−26）。心の中で姦淫(かんいん)をする

ならば，彼らは御霊（みたま）を持たなくなる（教義 63：14−16）。

勧告；勧め　「預言者」参照

主や聖任を受けた指導者から与えられる助言，警告，忠告，指示。

わたしはあなたに助言する（出エ 18：19）。あなたはさとしをもってわたしを導き（詩篇 73：24）。勧告がなければ民は倒れる（KJ 箴言 11：14）。パリサイ人と律法学者たちとは，神のみこころを無にした（ルカ 7：30）。神の勧告に聞き従うならば，学識のあるのはよいことである（2ニフ 9：29）。あなたがたを聖任した者の勧告を聴きなさい（教義 78：2）。わたしが任命した者から助言を受け（教義 108：1）。彼はわたしが定めた助言の代わりに，自分の助言を確立しようと切望している（教義 124：84）。わたしの僕（しもべ）ジョセフの助言に聞き従い（教義 124：89）。わたしの勧告を求めなければ，彼は何の力も持たず（教義 136：19）。

勧告する；勧める

この言葉は聖典で用いられているように，助言や指示を与えることを意味している。

あなたに勧める。わたしから火で精錬された金を買いなさい（黙示 3：18）。主に助言しようとしないで（ヤコ 4：10）。神は御自分が造られたすべてのものに知恵をもって助言を与えられる（アル 37：12）。あなたがたの罪はわたしのもとに上ってきている。あなたがたが自分の方法で勧めをしようとするからである（教義 56：14）。

感謝　「祝福」「礼拝」参照

神から受けた祝福をありがたいと思うこと。神は人が感謝を表すことを喜ばれる。真の礼拝には神への感謝が含まれる。わたしたちはすべてのことについて主に感謝をしなければならない。

主に感謝するのはよいことです（詩篇 92：1）。感謝をもって，み前に行き（詩篇 95：1−2）。主に感謝し，そのみ名をほめまつれ（詩篇 100：1−5）。絶えず感謝している（エペ 1：15−16）。感謝していなさい（コロ 3：15）。さんび，栄光，感謝，ほまれが，われらの神にあるように（黙示 7：12）。あなたがたはどれほど天の王に感謝すべきであろうか（モサ 2：19−21）。日々感謝しながら生活するように（アル 34：38）。朝起きるときに，神への感謝で心を満たしなさい（アル 37：37）。祈りと感謝をもってすべてのことを行い（教義 46：7）。あなたがたは神に感謝をしなければならない（教義 46：32）。感謝してこれらのことを行うならば（教義 59：15−21）。感謝の心をもって主の手からこの祝福を受ける（教義 62：7）。すべてのことを感謝して受け入れる者は，栄光を与えられるであろう（教義 78：19）。すべてのことについて感謝しなさい（教義 98：1〔1 テサ 5：18〕）。賛美と感謝の祈りをもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

感じる　「聖霊」参照

御霊の促しを自覚すること。

あなたがたは心が鈍っていたので，その言葉を感じることができませんでした（1ニフ 17：45）。種がふくらみつつあるのを感じると，これは良い種であると思う（アル 32：28）。あなたはそれが正しいと感じるであろう（教義 9：8）。主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が，あなたの力を感じ（教義 109：13）。

完全

完成されて欠点がなく，余すところなく成長し，義においても非の打ちどころのないこと。また完全とは，罪や悪のないことも意味する。すべての面で完全であられたのはキリストだけである。キリストに心から従う人々は，キリストの恵みと贖罪によって完全になることができる。

主に対して，心は全く真実でなければならない（列上 8：61）。あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい（マタ 5：48〔3ニフ 12：48〕）。言葉の上であやまちのない人があれば，そういう人は，完全な人である（新ヤコ 3：2）。信仰とは物事を完全に知ることではない（アル 32：21，26）。神は御自分が完全な神であり続けるために，贖いをされる（アル 42：15）。モロナイは完全な理解力を備えた人であり（アル 48：11−13，17−18）。善悪の違いは，完全に理解してわきまえることができる。すべての人にキリストの御霊が与えられているからである（モロ 7：15−17）。キリストのもとに来て，キリストによって完全になりなさい（モロ 10：32）。完全になるまで忍耐し続けなさい（教義 67：13）。これらは，イエスを通じて完全な者とされた正しい人々である（教義 76：69）。教会の職は聖徒たちの完成のためにある（教義 124：143〔エペ 4：11−13〕）。死者なしには，生者も完全な者とされることはない（教義 128：15，18）。ノアは正しい人であり，その時代の人々の中で完全であった（モセ 8：27）。

冠　「永遠の命」参照

統治者が頭にかぶった環状の装身具。冠は日の栄えの力と主権と神の位にあることの象徴ともされる。神の戒めをすべて守って最後まで堪え忍ぶ者は，永遠の命の冠を受ける（教義 20：14；モセ 7：56；ジ―マタ 1：1 参照）。

義の冠がわたしを待っている（2テモ 4：8）。しぼむことのない栄光の冠を受けるであろう（1ペテ 5：4）。主にあって死んだ者は義の冠を受ける（教義 29：13）。彼らは父の住まいで冠を受けるであろう（教義 59：2）。あなたがたが備えられた冠を受け（教義 78：15）。わたしの右手における栄光の冠をあなたがたに約束した（教義 104：7）。

管理人；管理人の職　「召し；神の召し」参照

託された仕事や財産に対して責任を負う人。管理人に託されたものを管理人の職という。地上のものはすべて主のものであり，わたしたちは主の管理

人である。わたしたちは主に報告をする責任があるが，管理人の職についての報告は，神から権能を受けている代表者に対して行うことができる。わたしたちは主や主より権能を与えられた僕(しもべ)から奉仕の召しを受けるが，その管理人の職には，霊的なことと物質的なことの両方が含まれる（教義 29：34）。

わずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう（マタ 25：14−23）。多く与えられた者からは多く求められ（ルカ 12:48〔教義 82:3〕）。イエスは不正な家令のたとえを話された（ルカ 16：1−8）。だれでも忠実で，正しく，賢い管理人であると認められる者は，主の喜びに入り（教義 51：19）。人は皆，管理人の職について報告しなければならない（教義 72：3−5）。忠実で賢い管理人は，すべてのものを受け継ぐ（教義 78：22）。この世のもろもろの祝福に対する管理人としての責任をすべての人に取らせる（教義 104:11−17〔教義 42:32〕）。努めて，賢い管理人となるようにしなければならない（教義 136：27）。

管理ビショップ

中央幹部の中に数えられる役職の一つ。管理ビショップは教会の物質面での福祉に対して全般的な責任を持つ（教義 107：68）。管理ビショップとその顧問はともに中央幹部であり，教会のアロン神権を管理する（教義 68：16−17；107：76，87−88）。

エドワード・パートリッジがビショップに聖任された（教義 41：9）。ビショップは大管長会によって召され，任命されなければならない（教義 68：14−15）。アロンの直系の子孫であり長子である者は，大管長会から召され任命された場合，ビショップの職に就く権利を持つ（教義 68：16，18−20）。大管長会の前でのみ審理を受けることができる（教義 68:22−24〔教義 107：82〕）。

義　「歩む（神とともに）」「高潔」「不義」「ふさわしさ」参照

正しく，聖(きよ)く，徳高く，高潔であること。神の戒めに従って行動すること。罪を避けること。

主は正しい者を祝福し（詩篇 5：12）。主の目は正しい人をかえりみ（詩篇 34：15，17〔1 ペテ 3：12〕）。正しい者が権力を得れば民は喜び（箴言 29：2〔教義 98：9−10〕）。義に飢えかわいている人たちは，さいわいである（マタ 5：6〔3 ニフ 12：6〕）。まず神の国と神の義とを求めなさい（マタ 6：33）。正しい者は永遠の生命に入るであろう（マタ 25：46）。義人の祈(いのり)は，大いに力があり（新ヤコ 5：16）。義にかなった者は神から恵みを受けます（1ニフ 17：35）。神は義人を守られる。したがって，義人は恐れるには及ばない（1ニフ 22：17，22）。聖者の民の義のために，サタンはまったく力を持たず（1ニフ 22：26）。もし義がなければ，幸福はない（2ニフ 2：13）。義人は神の王国を受け継ぐ（2ニフ 9：18）。義人は真理の言葉を恐れない（2ニフ 9：40）。人は義の状態に変わらなければならない（モサ 27：25−26）。義人の名は命の書に書き記

される（アル 5：58）。あなたがたは，罪悪を行いながら幸福を求めてきた。それは義の本質に反することである（ヒラ 13：38）。義人の歌はわたしへの祈りである（教義 25：12）。立って，正義の胸当てを着け（教義 27：16〔エペ 6：14〕）。義人にとって死は甘い（教義 42：46）。義人はすべての国の中から集められ（教義 45：71）。人は自由意志によって，義にかなう多くのことを成し遂げなければならない（教義 58：27）。義の業を行う者はその報いを受ける，すなわち，この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける（教義 59：23）。再臨の時に，義人と悪人の完全な分離がある（教義 63：54）。天の力は義の原則に従ってしか制御できない（教義 121：36）。義人の間には平安があった（教義 138：22）。シオンの民は義のうちに住んだ（モセ 7：18）。アブラハムは義に従う者であった（アブ 1：2）。

聞き従う；聴く　「従順；従う」「耳」参照

主の声や教えを聞き，それに従うこと。

主はひとりの預言者を起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない（申命 18：15）。聞くことは雄羊の脂肪にまさる（サ上 15：20−23）。われわれはしもべなる預言者たちが告げた言葉に聞き従いませんでした（ダニ 9：6）。預言者たちの言葉に聞き従う義人は，滅びを受けない（2ニフ 26：8）。もしあなたがたがその良い羊飼いの声を聴こうとしないならば，あなたがたはその良い羊飼いの羊ではない（アル 5：38〔ヒラ 7：18〕）。聴きなさい，おお，わたしの教会の人々よ（教義 1：1）。御霊（みたま）の声を聴くすべての人は，神のもとに来る（教義 84：46−47）。彼らは主の声に聞き従うのが遅かった。それゆえ，主なる神は，彼らの祈りを聴くのを遅くする（教義 101：7−9）。戒めに聞き従わない者は懲らしめを受ける（教義 103：4〔モセ 4：4〕）。

儀式　「系図」「神殿；主の宮」「救い」「結び固め」参照

神聖な儀礼や祭式。儀式は，霊的な意味を持つ所作を通して執行される。

教会の儀式には，病人への癒（いや）しの祝福（新ヤコ 5：14−15），聖餐（せいさん）の祝福（教義 20：77，79），水に沈めるバプテスマ（マタ 3：16；教義 20：72−74），幼児の祝福（教義 20：70），聖霊の授与（教義 20：68；33：15），神権の授与（教義 84：6−16；107：41−52），神殿の儀式（教義 124：39），新しくかつ永遠の聖約による結婚（教義 132：19−20）が含まれる。

民は神の儀式を厳密に守った（アル 30：3）。キリストの贖罪（しょくざい）により，全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る（箇条 1：3）。

身代わりの儀式：生者が死者の身代わりとして行う儀式。これらの儀式は，死者がその儀式を受け入れ，それに伴う聖約を守り，約束の聖なる御霊（みたま）によって結び固められたときにのみ効力を生ずる。今日，このような身代わりの儀式は神殿内で執行されている。

もし死者が全くよみがえらないとすれば，なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか（1コリ 15：29）。死者のためのバプテスマは神殿で執行される（教義 124：29−36）。霊界の霊たちは，罪の赦しのための身代わりのバプテスマについて教えを受けた（教義 138：29−34）。

キシクメン　「ガデアントンの強盗団」参照

『モルモン書』の中の人物。後にガデアントンの強盗として知られた邪悪なグループの指導者（ヒラ 1：9−12；2 章）。

犠牲　「イエス・キリスト」「打ち砕かれた心」「贖罪」「聖餐」「血」参照

古代において，犠牲は何かの物あるいは人を聖なるものとする手段であった。今は，主と主の王国のために，この世的なものを捨てたり，甘んじてそれらを失うままにしたりすることをいうようになった。主の教会の会員は，主のためにすべてのものを進んで犠牲にしなければならない。ジョセフ・スミスは次のように教えている。「すべてのものを犠牲にすることを求めない宗教は，命と救いに至るに必要な信仰を生み出すほどの，十分な力を決して持つことはない。」永遠という観点に立てば，犠牲によって得られる祝福は，そのためにささげたどのようなものよりも偉大である。

アダムとエバがエデンの園を追われた後，主は二人に犠牲の律法を授けられた。この律法には，群れの初子をささげることが含まれていた。この犠牲は神の独り子によってささげられる犠牲を象徴していた（モセ 5：4−8）。この犠牲はイエス・キリストが亡くなるまで続き，その死によって福音の儀式として動物を犠牲にすることは終わりを告げた（アル 34：13−14）。今日の教会では，教会員は，イエス・キリストの犠牲を記念してパンと水の聖餐を受ける。また今日のキリストの教会の会員は，打ち砕かれた心と悔いる霊をささげるように求められている（3 ニフ 9:19−22）。つまり，へりくだって，悔い改め，進んで神の戒めに従うように求められているのである。

アブラハムはその子イサクを縛って祭壇の上に載せた（創世 22：1−18〔ヤコ 4：5〕）。あなたは燔祭をささげなければならない（出エ 20：24）。主に犠牲としてささげる動物は傷のないものでなければならない（申命 15：19−21）。従うことは犠牲にまさり（サ上 15：22）。愛するということは，すべての燔祭や犠牲よりも，はるかに大事なことです（マコ 12：32−33）。わたしたちはキリストの犠牲を通して聖められる（ヘブ 10：10−14）。メシヤは，罪に対する犠牲として御自身をささげられる（2ニフ 2：6−7）。この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので，これは無限にして永遠の犠牲である（アル 34：8−14）。燔祭は取りやめなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：19−20〔詩篇 51：16−17；教義 59：8〕）。今日は犠牲の日であり（教義 64：23〔教義 97：12〕）。犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は，わたしに受け

入れられる（教義 97：8）。ジョセフ・F・スミスは，救い主の犠牲のひながたとして犠牲をささげた正しい者の霊を見た（教義 138：13）。神の御子の十字架上での犠牲によって贖(あがな)いが行われた（教義 138：35）。

奇跡　「しるし」「信仰」参照

神の力によって起こる驚くべき出来事。奇跡はイエス・キリストの業の中の大切な要素である。奇跡には，癒(いや)しや死者の蘇生(そせい)，復活などが含まれる。奇跡はイエス・キリストの福音の一部である。奇跡が現れるためには，信仰が必要である（マコ 6：5−6；モル 9：10−20；エテ 12：12）。

パロがあなたがたに，『不思議をおこなって証拠を示せ』と言う時（出エ 7：9）。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら，すぐそのあとで，わたしをそしることはできない（マコ 9：39）。カナはイエスが最初のしるしを行われた場所である（ヨハ 2：11）。わたしは神である。奇跡の神である（2ニフ 27：23）。数々の奇跡を行われた神の力（アル 23：6）。イエスは，アメリカ大陸の人々の深い信仰のゆえに，彼らに大きな奇跡を示された（3ニフ 19：35）。神は奇跡の神であることをやめてはおられない（モル 9：15）。わたしがあなたがたに命じないかぎり，奇跡を求めてはならない（教義 24：13−14）。ある人には，奇跡の働きが与えられる（教義 46：21〔モロ 10：12〕）。

偽善売教

利益や世の誉れを得るために，説教をしたり，世の光であると自称したりすること。このような人は，シオンの幸いとなることを求めようとはしない（2 ニフ 26：29）。

神の羊の群れを牧しなさい。恥ずべき利得のためではなく（1ペテ 5：2）。利を得るために設けられるすべての教会は，地に引き倒されなければならない（1ニフ 22：23〔モル 8：32−41〕）。人々は，偽善売教と罪悪のために，キリストを十字架につける（2ニフ 10：5）。民の中で偽善売教が行われれば，民は完全に滅びてしまうであろう（アル 1：12）。異邦人はあらゆる偽善売教にふける（3ニフ 16：10）。

ギデオン（旧約聖書）

イスラエルをミデアン人から救い出した指導者（士師 6：11−40；7−8 章）。

ギデオン（モルモン書）

忠実なニーファイ人の指導者。

屈強な男で，ノア王を敵としていた（モサ 19：4−8）。リムハイ王に助言した（モサ 20：17−22）。レーマン人の束縛から逃れるための計画を提案した（モサ 22：3−9）。ニーホルに殺された（アル 1：8−10）。

義認；義とされる　「聖(きよ)め」「贖罪(しょくざい)」参照

罪に対する罰を容赦され，罪がないと認められること。人は救い主を信じる信仰を通して，救い主の恵みにより

義とされる。この信仰は，悔い改めと，福音の律法と儀式に対する従順とによって示される。人はイエス・キリストの贖罪によって，悔い改めて義と認められ，罰を免れる。ほかに，罰を免れる道はない。

イスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる（イザ 45：25）。律法を聞く者が，神の前に義なるものではなく，律法を行う者が，義とされる（ロマ 2：13）。人はキリストの血によって義とされる（ロマ 5：1−2，9）。あなたがたは，主イエスの名によって，義とされたのである（1コリ 6：11）。わたしたちは，キリストの恵みによって義とされる（テト 3：7）。わたしたちの父祖アブラハムは，行いによって義とされたのではなかったか（新ヤコ 2：21）。人が義とされるのは，行いによるのであって，信仰だけによるのではない（新ヤコ 2：14−26）。律法によって義とされる者はだれもいない（2ニフ 2：5）。わたしの義にかなった僕は多くの者を義とするが，それは，彼が彼らの罪悪を身に負うからである（モサ 14：11〔イザ 53：11〕）。あなたがたは，自分の衣はキリストの血によって清められていると言えるであろうか（アル 5：27）。イエス・キリストの恵みによる義認は，正しく，かつ真実である（教義 20：30−31〔教義 88:39〕）。御霊によって義とされ（モセ 6：60）。

希望　「信仰」参照

約束された義の祝福を固い確信をもって待ち望むこと。聖典では，イエス・キリストを信じる信仰により永遠の命を待ち望むこととして，この言葉がしばしば用いられている。

主を頼みとする人はさいわいである（エレ 17：7）。聖書の与える忍耐と慰めとによって，望みをいだかせる（ロマ 15：4）。わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ（1ペテ 1：3）。この望みをいだいている者は皆，自らをきよくする（1ヨハ 3:2−3）。完全な希望の輝きを持ち，力強く進まなければならない（2ニフ 31：20）。あなたがたは信仰と希望，慈愛を必ず持つようにしてほしい（アル 7：24〔1コリ 13：13；モロ 10：20〕）。永遠の命を得る希望を抱き（アル 13：27−29）。もし信仰があれば，あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである（アル 32:21〔ヘブ 11:1〕）。望みは信仰から生じ，人々にとって錨となる（エテ 12：4〔ヘブ 6：17−19〕）。人は希望を持たなければなりません。さもなければ，受け継ぎを得ることができません（エテ 12：32）。モルモンは信仰と希望と慈愛について述べた（モロ 7：1）。あなたがたは，キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命によみがえることを望まなければならない（モロ 7：40−43）。聖霊は希望を人の心に満たす（モロ 8：26〔ロマ 15：13〕）。栄光ある復活の望みを確固として持って死すべき世を去った（教義 138：14）。

義務　「従順；従う」参照

聖典の中ではしばしば，主や主の僕から与えられる仕事，割り当て，責任などを意味する言葉として用いられている。

神の命令を守れ。これはすべての人の本分である（伝道 12：13）。主のあなたに求められることは，ただ公義をおこない（ミカ 6：8）。人間に従うよりは，神に従うべきである（使徒 5：29）。彼らは，自分たちの義務を思い出すように促すひどい艱難（かんなん）に悩まされた（モサ 1：17）。長老と祭司，教師，執事の義務が述べられる（教義 20：38−67）。神権者は家庭におけるすべての義務を果たすようにしなければならない（教義 20：47，51）。バプテスマを受けた後の会員の義務が述べられる（教義 20：68−69）。彼らの義務とわたしがその手に求めることに関してもっと十分に知るためである（教義 105：10）。人は皆，自分の義務を学び（教義 107：99−100）。

逆境　「懲らしめ」「堪え忍ぶ」「迫害」「誘惑」参照

人は試練，困苦，悲しみなどの逆境を通して多くの経験をし，そのことによって主に心を向け，霊的成長と永遠の進歩を遂げる。

神御自身があなたがたをすべての悩みと苦しみの中から救われる（サ上 10：19）。彼らはその悩みのうちに主に呼ばわった（詩篇 107：6，13，19，28）。主はあなたがたに悩みのパンと苦しみの水を与えられても，あなたの師は再び隠れることはなく（イザ 30：10−21）。すべての事物には反対のものがなければならない（2ニフ 2：11）。苦いことを経験しなければ，甘いことを知ることができない（教義 29：39）。あなたの逆境とあなたの苦難は，つかの間にすぎない（教義 121：7−8）。これらのことはすべて，あなたに経験を与え，あなたの益となるであろう（教義 122：5−8）。彼らは善を尊ぶことを知るために，苦さを味わう（モセ 6：55）。

旧約聖書　「五書」「聖書」「聖文」参照

聖なる御霊（みたま）の力を受けて働き，幾世紀にもわたってキリストとその来るべき務めについて証（あかし）した古代の預言者たちの記録。これには，アブラハムから始まる，彼とその子孫の歴史記録，および主がアブラハムやその子孫と交わされた聖約，すなわち契約も含まれている。

『旧約聖書』の最初の 5 書，すなわち創世記，出エジプト記，レビ記，民数記，申命記は，モーセによって書かれた。創世記は，地球や人類，言語，民族の起源，またイスラエルの家の始まりについて述べている。

歴史書は，イスラエルの中で起きた様々な出来事について述べたものである。歴史書には，ヨシュア記，士師記，ルツ記，サムエル記上・下，列王紀上・下，歴代志上・下，エズラ記，ネヘミヤ記，エステル記が含まれる。

詩歌には，預言者たちの知恵と文学が記録されている。その中にはヨブ記，詩篇，箴言，伝道の書，雅歌，哀歌が含まれる。

預言者たちはイスラエルの罪に対して警告を与え，また従順がもたらす祝福について証（あかし）した。また預言者たちは，罪を悔い改めて儀式を受け，福音に従う人々を贖（あがな）ってくださるキリストの来臨についても預言した。預言書には，イザヤ書，エレミヤ書，エゼキエル書，

ダニエル書，ホセア書，ヨエル書，アモス書，オバデヤ書，ヨナ書，ミカ書，ナホム書，ハバクク書，ゼパニヤ書，ハガイ書，ゼカリヤ書，マラキ書が含まれる。

『旧約聖書』のほとんどの書はヘブライ語で書かれた。ヘブライ語と同族のアラム語で書かれた部分もある。

キュビト

ヘブライ人が一般に用いた長さの単位。もともとは，肘から手の指先までの長さをいった。

聖い　「清さ」「聖め」参照

神聖なこと。神の御心にかなった性質。霊的また道徳的に汚れのないこと。この言葉の反対は，俗悪，卑俗である。

あなたがたはわたしに対して祭司の国となり，また聖なる民となるであろう（出エ 19：5−6〔1 ペテ 2：9〕）。わたしは聖なる者であるから，あなたがたは聖なる者とならなければならない（レビ 11：44−45）。聖所に立つべき者はだれか。手が清く，心のいさぎよい者（詩篇 24：3−4）。わが民に，聖と俗との区別を教え（エゼ 44：23）。神はわたしたちを救い，聖なる招きをもって召して下さった（2テモ 1:8−9）。幼い時から，聖書に親しみ（2テモ 3：15）。人々が聖霊に感じ，神によって語ったもの（2ペテ 1：21）。人は皆，神の内にある真理と聖さによって裁かれる（2ニフ 2：10）。主なるキリストの贖罪により，生まれながらの人を捨てて聖徒となり（モサ 3：19）。神の聖なる位に従って歩めるように（アル 7：22〔アル 13：11−12〕）。肉にあって聖められ，聖なる者となり（3ニフ 28：1−9，36−39）。神聖なものを軽んじないようにしなさい（教義 6：12）。あなたはわたしから与えられなければ，神聖なことを書くことはできない（教義 9：9）。あなたがたは，聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない（教義 43：9）。わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち（教義 45：32）。上から来るものは神聖であり（教義 63：64）。幼い子供たちは聖い者である（教義 74：7）。その場所を聖別して，聖なる所としよう（教義 124：44）。聖なる人とは神の名である（モセ 6：57〔モセ 7：35〕）。主は聖なる都に選民を集められる（モセ 7：62）。

清いものと清くないもの　「清さ」「汚れ」「モーセの律法」参照

『旧約聖書』の中で，主はモーセと古代のイスラエル人に対して，ある種の食べ物のみが清いものと見なされる，言い換えれば，食べるのに適しているという啓示を与えられた。イスラエル人が行った清いもの，清くないものという食物の区別は，彼らの宗教生活や社会生活に大きな影響を与えた。ある種の動物，鳥，魚は清いので食べてもよいとされたが，汚れているということで食べるのを禁じられたものもあった（レビ 11 章；申命 14：3−20）。ある種の病気にかかった人も，汚れていると考えられていた。

霊的な意味での清い状態とは，罪や罪深い欲望と無縁の状態をいう。この意味において清いという言葉は，高潔

で清らかな心の人を指すのに用いられる（詩篇 24：4）。神の聖約（契約）の民は，清くあるようにとの特別な教えをいつも授けられてきた（3 ニフ 20：41；教義 38：42；133：5）。

手が清く，心のいさぎよい者は主の山に登る（詩篇 24：3−5）。どんな人間をも清くないとか，汚れているとか言ってはならない（使徒 10：11−28）。あなたがたはその日，純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか（アル 5：19）。主は清くなるまでシオンを懲らしめられる（教義 90：36）。主の器を担う者たちよ，清くありなさい（教義 133：4−5, 14〔イザ 52：11〕）。

教会（イエス・キリストの）　「イエス・キリストの教会」参照

教会（大きな忌まわしい）　「悪魔—悪魔の教会」参照

教会の名称　「イエス・キリストの教会」「末日聖徒イエス・キリスト教会」「モルモン」参照

『モルモン書』によると，イエス・キリストは復活後間もなく義にかなったニーファイ人を訪れ，キリストの教会には，キリストの名を付けなければならないと言われた（3 ニフ 27：3−8）。近代において主は，この教会の名を「末日聖徒イエス・キリスト教会」とするようにとの啓示を与えられた（教義 115：4）。

教義と聖約　「戒めの書」「スミス, ジョセフ，ジュニア」「正典」「聖文」参照

末日における神の啓示と霊感による宣言を集めた書。主はそれらを，終わりの時に神の王国を地上に設立し治めるために，ジョセフ・スミスとその継承者たちに与えられた。『教義と聖約』は,『聖書』『モルモン書』『高価な真珠』とともに，末日聖徒イエス・キリスト教会の標準聖典の一つに数えられている。しかし，昔の記録の翻訳ではないという点で,『教義と聖約』は特異な聖典である。主は神の王国を回復するために，近代の選ばれた預言者たちに啓示を与えられたのである。これらの啓示を読む人には，主イエス・キリストの優しい，それでいて確固とした声が聞こえてくる（教義 18：35−36）。

預言者ジョセフ・スミスは,『教義と聖約』は終わりの時における教会の基であり，世に益をもたらすものであると語った(教義 70 章の前書き)。『教義と聖約』に含まれる啓示は，世界が始まって以来預言者たちによって語られたすべての言葉を成就するものとして，主の再臨に道を備える業を開始するものとなった。

教師（アロン神権の）　「アロン神権」参照

アロン神権の中の一つの職。

教師の義務は教会員を見守ることである（教義 20：53−60）。教師の職は，小神権に属する，なくてはならない付属の職である（教義 84：30，111）。教師定員会会長は 24 人の教師を管理する（教義 107：86）。

兄弟　「姉妹」「人」参照

天の御父の子供として，すべての人は男女を問わず，霊的な意味で兄弟姉妹である。末日聖徒イエス・キリスト教会では，男性の会員や教会に好意的な男性を兄弟と呼ぶことがよくある。

あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい（ルカ22：32）。兄弟を愛さない者は，死のうちにとどまっている（1ヨハ3：10−17）。同胞（はらから）を自分自身のように思いなさい（ヤコ2：17）。それぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊ぶようにしなさい（教義38：24−25）。あなたのすべての生き方により，あなたの兄弟たちを強めなさい（教義108：7）。

共同制度　「奉献；奉献の律法」参照

回復された教会の初期の聖徒たちが，奉献の律法の実践を目指して運営した組織。各個人が財産や利益を共有し，必要に応じてその中から幾分かを受け取った（教義51：3；78：1−15；104章）。

現世のものについて，あなたがたは平等でなければならない（教義70：14）。聖徒たちは自らを備えかつ組織して，すべてのことについて平等になるようにしなければならない（教義78：3−11〔教義82：17−20〕）。主は共同制度に啓示と戒めを与えられた（教義92：1）。ジョン・ジョンソンは共同制度の一員とならなければならない（教義96：6−9）。主は共同制度の運営について指示を与えられた（教義104章）。わたしの民は，日の栄えの王国の律法により求められている和合一致に従って結束していない（教義105：1−13）。

清くないもの　「清いものと清くないもの」参照

清さ　「清いものと清くないもの」「聖（きよ）め」参照

罪のない状態。非難されることがないこと。思いと行いがあらゆる点で正しいとき，人は清くなる。罪を犯した人は，イエス・キリストを信じ，悔い改め，福音の儀式を受けることによって清くなることができる。

手が清く，心のいさぎよい者は主から祝福を受ける（詩篇24：3−5）。主の器をになう者よ，おのれを清く保て（イザ52：11〔教義133：4−5〕）。心の清い人たちは，さいわいである（マタ5：8〔3ニフ12：8〕）。純真なことがあれば，それらのものを心にとめなさい（ピリ4：8〔箇条1：13〕）。あなたがた，心の清いすべての人よ，頭を上げて，喜びをもたらす神の御言葉を受け入れなさい（ヤコ3：2−3）。あなたがたはその日，純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか（アル5：19）。神の御前に清く，染みのない状態になったので，罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった（アル13：12）。清められて清い御子と同じようになれるよう（モロ7：48〔モル9：6〕）。キリストは一つの清い民を御自身のために残される（教義43：14）。主はシオンに一つの家を建てるように命じられた。心の清い者はそこで神を見るであろう（教義97：10−17）。心の清い者，これこそシオンである（教義97：21）。

聖め　「イエス・キリスト」「義認；義とされる」「贖罪」参照

イエス・キリストの贖罪を通して，罪から解放された，純粋で，清く，聖なる状態となる過程（モセ 6：59−60）。

神があなたがたを初めから選んで，御霊によるきよめによって，救を得させようとし（2テサ 2：13）。イエス・キリストのからだがささげられたことによって，わたしたちはきよめられた（ヘブ 10：10）。イエスもまた，ご自分の血で民をきよめるために，苦難を受けられた（ヘブ 13：12）。大祭司は聖められて，彼らの衣は小羊の血によって白く洗い清められた（アル 13：10−12）。聖めは，彼らが心を神に従わせたために受けたのである（ヒラ 3：33−35）。悔い改めなさい。そうすれば，あなたがたは聖霊を受けて聖められる（3ニフ 27：20）。イエス・キリストの恵みによる聖めは，正しく，かつ真実である（教義 20：31）。イエスは，世を聖めるため世に来た（教義 76：41）。あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように，自らを聖めなさい（教義 88：68）。

キリスト　「イエス・キリスト」参照

キリストの教義　「贖いの計画」「福音」参照

イエス・キリストの福音の原則と教え。

わたしの教は雨のように降りそそぎ（申命 32：2）。つぶやく者も教をうける（イザ 29：24）。群衆はその教にひどく驚いた（マタ 7：28）。わたしの教はわたし自身の教ではなく，わたしをつかわされたかたの教である（ヨハ 7：16）。聖書はすべて人を教えるのに有益である（2テモ 3：16）。これがキリストの教義であって，御父の唯一の真正な教えである（2ニフ 31：21〔2 ニフ 32：6〕）。わたしの教義の要点について，論争が，今後決してあなたがたの中にあってはならない（3ニフ 11：28，32，35，39−40）。サタンは人々の心をあおり立て，わたしの教義の要点について争わせる（教義 10：62−63，67）。子供たちに，悔い改め，キリストを信じる信仰，バプテスマ，聖霊の賜物の教義を教える（教義 68：25）。互いに王国の教義を教え合わなければならない（教義 88：77−78）。神権の教義はあなたの心に滴るであろう（教義 121：45）。

キリストの子　「イエス・キリスト」「生まれる；産む；もうける」「神の息子，娘」「再び生まれる」参照

イエス・キリストの福音を受け入れた人。

幼な子のように自分を低くする者が，いちばん偉いのである（マタ 18：1−4）。光のある間に，光の子となるために，光を信じなさい（ヨハ 12：36）。生まれながらの人を捨てて，子供のようになりなさい（モサ 3：19；27：25−26）。聖約のために，あなたがたはキリストの子と呼ばれ（モサ 5：7）。あなたがたが善いものをことごとく手にすれば，あなたがたは必ずキリストの子となる（モロ 7：19）。わたしを受け入れたすべての者に，わたし

の子となる力を与えた（教義 39：4）。幼い子供たちよ，恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり（教義 50:40−41）。あなたはわたしにあって一つであり，神の子である（モセ 6:68）。

ギレアデの乳香

芳香性の樹脂または香料で，傷を癒すために用いられたもの（創世 43：11；エレ 8：22；46：11；51：8）。旧約の時代に乳香の原料となる樹脂を分泌する木がギレアデで特によく生育したため，「ギレアデの乳香」として知られるようになった（創世 37：25；エゼ 27：17）。

金銭　「什分の一」「富」「物欲」「施し」参照

物品や受けたサービスへの支払いに用いられる貨幣，紙幣，証券類。物質主義の象徴として用いられることがある。

あなたがたは，金を出さずにあがなわれる（イザ 52：3）。十二使徒は，パンも，袋も，金も持たずに旅をするように命じられた（マコ 6：8）。神の賜物が，金で得られるなどと思っているのか（使徒 8：20）。金銭を愛することは，すべての悪の根である（1テモ 6：10）。価値のないものに金を使ってはならない（2ニフ 9：50−51〔イザ 55：1−2；2 ニフ 26：25−27〕）。もしも金銭のために働くならば，滅びるであろう（2ニフ 26：31）。富を求める前に神の王国を求めなさい（ヤコ 2:18−19）。「金銭と引き換えにあなたがたの罪は赦される」と言う教会が設けられている時代に（モル 8：32，37）。福音を宣言する者に食物を与え，衣服を与え，あるいは金銭を与える者は，決してその報いを失うことはない（教義 84：89−90）。

禁断の実　「エデン」「堕落（アダムとエバの）」参照

欽定訳聖書

1611 年に英国王ジェームズ 1 世の命によって翻訳編集された英訳『聖書』。末日聖徒イエス・キリスト教会の英文公認『聖書』となっている。

金版　「版」「モルモン書」参照

金の版に書かれた記録。金版には，アメリカ大陸の二大文明の物語が記録されている。ジョセフ・スミスはこれらの版の一部を翻訳し，出版した。この翻訳された記録が『モルモン書』と呼ばれている。（詳細については『モルモン書』巻頭の「序文」ならびに「預言者ジョセフ・スミスの証」を参照）

キンボール，スペンサー・W　「公式の宣言二」参照

教会が 1830 年に設立されてから 12 代目の大管長。1973 年 12 月から 1985 年 11 月まで大管長の任にあった。1895 年に生まれ，1985 年に 90 歳で死去した。

大管長会は，1978 年 6 月に，神権と神殿の祝福がすべてのふさわしい男性会員に授けられるという啓示がキンボール大管長に下されたことを発表した。

悔い改め　「イエス・キリスト」「打ち砕かれた心」「告白」「贖罪」「罪の赦し」「赦し」参照

神と自分自身また生活全般に対して新たな姿勢をもたらす思いと心の変化。悔い改めとは，神の戒めと望みに従い，罪を捨てて，邪悪なことから遠ざかり，自分の心と思いを神に向けるという意味を含んでいる。真の悔い改めは，神への愛と，神の戒めに従いたいという心からの望みの結果として生じる。自分の行いに責任の取れる人はだれでも罪を犯す。したがって，救いに向かって成長していくには悔い改めなければならない。悔い改めはイエス・キリストの贖罪によってのみ有効なものとなり，神に受け入れられる。

主にざんげして（エズ 10：11）。あなたがたの悪い行いを除き，悪を行うことをやめ（イザ 1：16）。悔い改めて，あなたがたのすべてのとがを離れよ（エゼ 18：30−31）。悔い改めよ，天国は近づいた（マタ 3：2）。罪人がひとりでも悔い改めるなら，よろこびが，天にあるであろう（ルカ 15：7）。神は，みな悔い改めなければならないことを命じておられる（使徒 17：30〔2 ニフ 9：23；3 ニフ 11：31−40；教義 133：16〕）。神のみこころに添うた悲しみは，救を得させる悔改めに導き（2コリ 7：10）。御霊は，わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく，絶えず善を行う望みを持つように，わたしたちの心の中に大きな変化を生じさせ（モサ 5：2）。その者があなたとわたしの前で罪を告白し，悔い改めるならば，その者をあなたは赦しなさい（モサ 26：29）。アルマが人々に語り終えた後，多くの人がアルマの言葉を信じ，悔い改めて（アル 14：1）。悔い改めの日を引き延ばすことのないように（アル 34：33）。アルマは，自分の悔い改めと改心についてヒラマンに教えた（アル 36 章〔モサ 27：8−32〕）。罰がなければ，人は悔い改めをすることができなかった（アル 42：16）。自分の罪にだけ心を悩まし，その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい（アル 42：29）。あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：20）。悔い改めて幼子のようにわたしのもとに来る者を，わたしはだれでも受け入れよう（3ニフ 9：22）。地の果てに至るすべての者よ，悔い改めなさい（3ニフ 27：20）。悔い改めた者は，その度に赦された（モロ 6：8）。この時代の人々には，悔い改めのほかに何も語ってはならない（教義 6：9〔教義 11：9〕）。人が悔い改めるとき，主の喜びはいかに大きいことか（教義 18：13）。人は皆必ず悔い改めなければならない。そうしなければ苦しみを受ける（教義 19：4）。罪を犯して悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：28）。自分の罪を悔い改めた者は赦され（教義 58：42−43）。悔い改める死者は，贖われるであろう（教義 138：58）。わたしたちは悔い改めを信じる（箇条 1：4）。

悔いる霊　「打ち砕かれた心」参照

偶像礼拝

偶像を礼拝の対象とすること。あるいは，何かに過度に愛着を抱いたり，

心を奪われたりすること。

あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない（出エ 20：3〔モサ 12：35；13：12−13〕）。もし他の神々に従うならば，あなたがたはきっと滅びるであろう（申命 8：19）。強情は偶像礼拝の罪に等しい（サ上 15：23）。あなたは金，銀の神々をほめたたえた（ダニ 5：23）。あなたがたは，神と富とに兼ね仕えることはできない（マタ 6：24）。貪欲（どんよく）は偶像礼拝にほかならない（コロ 3：5）。子たちよ。気をつけて，偶像を避けなさい（1ヨハ 5：21）。偶像を礼拝する者は災いである（2ニフ 9：37）。ニーファイの民の偶像礼拝が彼らに戦争と滅亡を招いた（アル 50：21）。すべての人が自分の神の像を求めて歩む（教義 1：16）。偶像礼拝が行われないように，自分の手を使って働きなさい（教義 52：39）。アブラハムの父は偶像礼拝に惑わされた（アブ 1：27）。

くじ

幾つかの選択肢の中からあるものを選び出すための方法。あらかじめ用意した紙片や木片の中から一つを選び出すという方法で行われることが多い。

彼らはくじを引いて，その着物を分け（マタ 27：35〔詩篇 22：18；マコ 15：24；ルカ 23：34；ヨハ 19：24〕）。ふたりのためにくじを引いたところ，マッテヤに当った（使徒 1：23−26）。わたしたちは，だれがラバンの家に入って行くか，くじを引いた（1ニフ 3：11）。

くびき　「弟子」参照

複数の家畜や人間の首に固定して，一緒に決まった仕事をさせるための道具。キリストのくびきは，キリストの弟子であることの象徴である。一方，奴隷のくびきは，圧制の象徴である。

わたしのくびきは負いやすく，わたしの荷は軽いからである（マタ 11：29−30）。不信者と，つり合わないくびきを共にするな（2コリ 6：14）。奴隷のくびきにつながれてはならない（ガラ 5：1）。だれかに奴隷のくびきをかけたいと思っているためでもない（アル 44：2）。聖徒が受けた苦しみは，鉄のくびきであり，強い縄，地獄の鎖である（教義 123：1−3，7−8）。

クモラの丘　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「モルモン書」「モロナイ（モルモンの息子）」参照

アメリカ合衆国ニューヨーク州西部にある小さな丘。モロナイという古代の預言者は，ニーファイ人とヤレド人の民に関する幾つかの記録を載せた金版をこの丘に隠した。ジョセフ・スミスは，復活したモロナイにより 1827 年にこの丘に導かれ，その金版を受け取って一部を翻訳することになった。その翻訳されたものが，『モルモン書』である。

ニーファイ人がクモラに集まった（モル 6：2−4）。クモラは多くの水のある地にあった（モル 6：4）。モルモンは記録をクモラの丘に隠した（モル 6：6）。クモラで，24 人を除くすべてのニーファイ人が切り倒された（モル 6：11）。わたしたちはクモラからの喜

びのおとずれを聞く（教義 128：20）。ジョセフ・スミスはクモラの丘で版を受け取った（ジ―歴史 1：42，50−54，59）。

倉　「福祉」参照

ビショップが末日聖徒からささげられるものを受け取り，保管し，貧しい人に配るための施設。倉はそれぞれの状況によって規模が異なる。忠実な聖徒は，才能や技術，物品，金銭を，助けが必要な貧しい人々のためにビショップにささげる。したがって倉は，労働奉仕や金銭，食糧，その他の日用品などを資源として備えることができる。ビショップは倉の代理人であり，必要に応じて，また主の御霊（みたま）に導かれるままに様々な物品や労働奉仕を割り振る（教義 42：29−36；82：14−19）。

7 年の飢饉（ききん）に備えて食糧を彼らに集めさせた（創世 41：34−36，46−57）。十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい（マラ 3：10〔3 ニフ 24：10〕）。ビショップはこの教会のために倉を設けなさい（教義 51：13）。必要以上のものは主の倉に渡さなければならない（教義 70：7−8）。聖徒たちは倉を整え確立しなければならない（教義 78：1 − 4）。子供たちは，親が受け継ぎを与える分を持っていなければ，主の倉に求める権利がある（教義 83：5）。

暗闇（外の）　「悪魔」「死（霊の）」「地獄」「滅びの子」参照

暗闇（霊的な）　「邪悪」参照

邪悪なこと，または霊的な事柄に関して無知なこと。

わざわいなるかな，彼らは暗きを光とし（イザ 5：20〔2 ニフ 15：20〕）。暗きは地をおおい，やみはもろもろの民をおおう（イザ 60：2）。イエスは暗黒の中に住む者を照される（ルカ 1：79）。光はやみの中に輝いている。そして，やみはこれに勝たなかった（ヨハ 1：5〔教義 45：7〕）。やみのわざを捨てて，光の武具を着けようではないか（ロマ 13：12）。実を結ばないやみのわざに加わらないで（エペ 5：8−11）。あなたがたが求めもせず，それゆえ，光の中に導かれず，闇（やみ）の中で滅びてしまうに違いない（2ニフ 32:4）。サタンは闇（やみ）の業を広める（ヒラ 6：28−31）。闇（やみ）の力は地上に広く及んでいる（教義 38：8，11−12）。全世界は暗闇（くらやみ）の下で，また罪の束縛の下でうめいている（教義 84：49−54）。あなたがたが神の栄光にひたすら目を向けるならば，あなたがたの中に暗さがないであろう（教義 88：67）。闇（やみ）の業はすべての人の子らの中に広がり始めた（モセ 5：55）。

クリスチャン　「聖徒」「弟子」参照

イエス・キリストを信じる人々に付けられた呼び名。この言葉は全世界的に広く用いられているが，主はキリストに心から従う人々を聖徒と呼ばれる（使徒 9：13，32，41；1 コリ 1：2；教義 115：4）。

弟子たちはクリスチャンと呼ばれた（使徒 11：26）。クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば，恥じる

ことはない（1ペテ 4：16）。聖約のために，あなたがたはキリストの子と呼ばれ（モサ 5：7）。まことの信者は皆，教会に属していない者たちからクリスチャンと呼ばれていた（アル 46：13−16）。

来る　「従順；従う」「弟子」参照

聖典では「キリストのもとに来て，キリストによって完全になりなさい」（モロ 10：32）という言い回しにあるように，従うことによってだれかにさらに近づくということを表現する場合がある。

耳を傾け，わたしにきて聞け（イザ 55：3）。すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい（マタ 11：28）。幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない（マタ 19：14）。だれでもわたしについてきたいと思うなら，自分を捨て（ルカ 9：23）。わたしに来る者は決して飢えることがなく（ヨハ 6：35）。主は，御自分のもとに来るように，すべての人を招かれる（2ニフ 26：33）。わたしのもとに来て救いを得なさい（3ニフ 12：20）。キリストのもとに来て（モロ 10：32）。キリストのもとに来るようにすべての人を招かなければならない（教義 20：59）。わたしのもとに来て（教義 45：46）。

クロス

『旧約聖書』の中の人物。ペルシャの王。ユダヤ人に神殿再建のためのエルサレム帰還を許してバビロニア捕囚を部分的に終結させ，イザヤの預言を成就した（歴下 36：22−23；イザ 44：28；45：1）。イザヤの預言は，この王が帰還を許可する約 180 年前になされていた。

計画（贖いの）　「贖いの計画」参照

敬虔　「敬う」「畏れ；恐れ」参照

神聖な事柄に対する深い敬意。

くつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである（出エ 3：4−5）。主は恐るべき神，恐るべき者です（詩篇 89：7）。恐れかしこみ，神に喜ばれるように，仕えていこう（ヘブ 12：28）。モロナイは地にひれ伏し，熱烈に神に祈った（アル 46：13）。群衆は地に伏して，キリストを拝した（3ニフ 11：12−19）。わたしの前に身をかがめて（教義 5：24）。その御座の前に，すべてのものが恭しく身をかがめ（教義 76：93）。自分の受けたものを軽々しく扱ったために，あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった（教義 84：54−57）。すべてのひざがかがみ，すべての舌が告白する（教義 88：104）。至高者の名を敬い尊ぶことから，教会員は，この神権をメルキゼデクにちなんでメルキゼデク神権と呼んだ（教義 107：4）。主の宮で主を敬う人々に数々の祝福が注がれる（教義 109：21）。

警告　「見守る；見守る者」参照

注意を与えること。預言者や指導者，親は，主とその教えに従順であるよう人々に警告し，教える。

ヤコブはニーファイの民に，あらゆる罪について警告した（ヤコ 3：12）。警告の声は，すべての民に及ぶ（教義 1：4）。あなたがたの教えを説くことが警告の声となるように（教義 38：41）。今は警告の時であり（教義 63：58）。警告を受けた人は皆，その隣人に警告しなければならない（教義 88：81）。わたしはあなたがたに警告を与えており，またこの知恵の言葉を与えることによって，あらかじめ警告するものである（教義 89：4）。

啓示　「声」「言葉（神の）」「示現」「聖霊」「光；キリストの光」「夢」「預言」「霊感」参照

神が地上の神の子らに御心を示されること。啓示はキリストの光や聖霊を通して，霊感や示現，夢，天使の訪れなどの方法により授けられる。啓示は，忠実な人を日の栄えの王国における永遠の救いに導く助けを与える。

主はその御業を預言者に明らかにし，また信じる人々に対して，預言者への啓示が真実であるとの確認をお与えになる（アモ 3：7）。導きを求め，信仰を持ち，悔い改めてイエス・キリストの福音に従うすべての人に，主は啓示を通して個人的な導きを与えられる。ジョセフ・スミスは，「聖霊は啓示者であり，だれも啓示を受けずに聖霊を授かることはない」と語っている。

主の教会の大管長会と十二使徒定員会は，教会と世に対する預言者，聖見者，啓示者である。教会の大管長は，教会のために啓示を受けるように主から権能を託された唯一の人である（教義 28：2−7）。人は皆自分自身のために個人的な啓示を受けることができる。

人は主の口から出るすべてのことばによって生きる（申命 8：3〔マタ 4：4；教義 98：11〕）。主は静かな細い声で語られる（列上 19：12）。示現がなければ民は滅びる（KJ 箴言 29：18）。主なる神は，そのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない（アモ 3:7）。バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である（マタ 16：15−19）。御霊（みたま）は人をあらゆる真理に導き，来るべき事を知らせる（ヨハ 16:13）。あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，神に，願い求めるがよい（新ヤコ 1：5）。世の終わりまでに起こることがすべて，人の子らに示される（2ニフ 27：11）。教えに教えを加えて，それを人の子らに与えよう（2ニフ 28：30）。秘密のことで明らかにされないことはなく（2ニフ 30：17）。聖霊はなすべきことをすべて示される（2ニフ 32：5）。主の道は，啓示されないかぎりだれも知ることはできない（ヤコ 4：8）。アルマは啓示を求めて断食して祈った（アル 5：46）。忠実な者には，まだ明らかにされていないことが明らかにされる（アル 26:22）。啓示を否定する者は，イエス・キリストの福音を知らない者，聖文を読んだことのない者である（モル 9：7−8）。信仰が試されてからでなければ，証（あかし）は得られない（エテ 12：6）。わたしの言葉はすべて成就する（教義 1：38）。わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであ

ろうか（教義 6：22−23）。わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう（教義 8：2−3）。もしそれが正しければ，わたしはあなたの胸を内から燃やそう（教義 9：8）。啓示の霊を否定してはならない（教義 11：25）。求めれば，啓示の上に啓示を受け（教義 42：61）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，主の声となり（教義 68：4）。神は知識を，あなたがたに与えてくださる（教義 121：26）。ジョセフ・スミスは御父と御子にまみえた（ジ―歴史 1：17）。わたしたちは，神がこれまでに啓示されたすべてのこと，また神がこの後も啓示されることを信じる（箇条 1：7，9）。

系図　「覚えの書」「家族」「儀式―身代わりの儀式」「死者の救い」「救い」「バプテスマ」参照

家族の系譜をたどった記録。神権の職や祝福が特定の家系に限られていた場合，聖文に記された系図は非常に重要であった（創世 5；10；25；46 章；歴上 1−9 章；エズ 2：61−62；ネヘ 7：63−64；マタ 1：1−17；ルカ 3：23−38；1 ニフ 3：1−4；5：14−19；ジェロ 1：1−2）。今日の回復された教会において，教会員は各自の家系の調査を続けている。その目的の一つは，亡くなった先祖に関する情報を得て，彼らのための救いの儀式が執行されるようにすることである。それらの儀式は，霊界でイエス・キリストの福音を受け入れる死者にとって有効なものとなる（教義 127；128 章）。

軽率　「悪口（あっこう）」参照

神聖なものを軽々しく扱うこと（教義 84：54）。

無益な思いと過度の笑いを遠くに捨ててしまいなさい（教義 88：69）。すべての高慢と軽薄，すべての邪悪な行いをやめなさい（教義 88：121）。

契約　「聖約（契約）」参照

契約の箱　「幕屋」参照

エホバの箱，証（あかし）の箱としても知られているこの契約の箱は，長方形の木箱で，金で覆われていた。この箱は，イスラエル人の宗教上の象徴の中で最も古くかつ神聖なものであった。ふたの部分に当たる贖罪所（しょくざいしょ）は，エホバが地上で住まわれる所と見なされていた（出エ 25：22）。契約の箱は，幕屋が完成するとその中の最も神聖な所である至聖所に置かれた（列上 8：1−8）。

モーセは神の戒めにより箱を造った（出エ 25 章）。レビの子らは契約の箱を守る責任を与えられた（民数 3：15，31）。契約の箱は，彼らに先立って行き（民数 10：33）。この律法の書をとって，契約の箱のかたわらに置きなさい（申命 31：24−26）。ヨルダンの水は契約の箱の前で流れをせきとめられた（ヨシ 3：13−17；4：1−7）。祭司たちはエリコを征服するときに契約の箱をかついだ（ヨシ 6：6−20）。ペリシテびとが神の箱を奪った（サ上 5 章）。主は，神の箱のゆえにオベデエドムの家を祝福された（サ下 6：11−12）。ウザは戒めに従わず手を伸べて箱を押えたため，主に撃たれた（歴上 13：9−12〔教義 85：8〕）。たって

主なる神の聖所を建て，契約の箱を携え入れなさい（歴上 22：19）。契約の箱の中に納められていたものについて述べられる（ヘブ 9：4）。

汚れ　「清いものと清くないもの」「邪悪」「罪」「不義」「不信心」参照

自分の意志で神に従わずに引き起こした霊的に清くない状態。

シオンの娘らの汚れを洗い（イザ 4：4〔2 ニフ 14：4〕）。神の王国は汚れてはいません（1ニフ 15：34〔アル 7：21〕）。汚れている者は，そのまま汚れた状態にある（2ニフ 9：16〔モル 9：14〕）。汚れた衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば，その人はどのように感じるであろうか（アル 5：22）。彼らはなお汚れたままでいなければならない（教義 88：35）。わたしはいつ安息を得て，汚れから清められるのか（モセ 7：48）。

結婚　「家族」「離婚」参照

1 組の男女を夫婦とする合法的な誓約，または契約。結婚は神によって定められた（教義 49：15）。

人がひとりでいるのは良くない（創世 2：18〔モセ 3：18〕）。人はその父と母を離れて，妻と結び合い，一体となるのである（創世 2：24〔マタ 19：5；アブ 5：18〕）。神が合わせられたものを，人は離してはならない（マタ 19：6〔マコ 10：9〕）。偽り者どもは，結婚を禁じたり（1テモ 4：1−3）。結婚を重んずべきである（ヘブ 13：4）。主はリーハイの息子たちに，イシマエルの娘たちを妻に迎えるように命じられた（1ニフ 7:1, 5〔1 ニフ 16:7−8〕）。神はアダムとエバを創造して夫婦とされた（モセ 3：7，18，21−25）。

結婚の新しくかつ永遠の聖約：福音の律法と聖なる神権の下に行われた結婚は，この世と永遠の世において効力を有する。神殿で結び固められて結婚したふさわしい男女は，永遠にわたって夫婦でいることができる。

イエスは結婚の律法について教えられた（ルカ 20:27−36）。主にあっては，女なしには男はない（1コリ 11：11）。いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として（1ペテ 3：7）。あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ（ヒラ 10：7〔マタ 16：19〕）。日の栄えの王国の最高の階級を得るためには，人は結婚の新しくかつ永遠の聖約に入らなければならない（教義 131：1−4）。彼がわたしによらずにめとるならば，彼らの誓いと結婚は，彼らが死ぬと，効力がない（教義 132：15）。もしある男がわたしの言葉によって，また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり，そしてそれが約束の聖なる御霊（みたま）により結び固められるならば，彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力がある（教義 132：19）。

異なった信仰を持つ人との結婚：宗教的信条や慣習を異にする男女間の結婚。

カナンびとのうちから，娘をわたしの子の妻にめとってはならない（創世 24：3）。もしヤコブがヘテびとの娘を妻にめとるなら，わたしは生きていて，何になりましょう（創世 27：46〔創世 28：1−2〕）。イスラエルはカナ

ンびとと婚姻をしてはならない（申命7：3−4）。イスラエルはカナンびとを妻にめとり，偽りの神々に仕えたため，のろわれた（士師3：1−8）。ソロモンの妻たちは彼の心を転じて偽りの神々に従わせた（列上11：1−6）。われわれはこの地の民らにわれわれの娘を与えず，われわれのむすこに彼らの娘をめとらない（ネヘ10：30）。不信者と，つり合わないくびきを共にするな（2コリ6：14）。主は，ニーファイ人がレーマン人と縁を結んで間違った言い伝えを信じることがないように，レーマン人にしるしを付けられた（アル3：6−10）。彼がわたしによらずにめとるならば，彼らの誓いと結婚は，彼らが死ぬと、効力がない（教義132：15）。人の子らは自分たちの選んだ者を妻とした（モセ8：13−15）。

多妻結婚：一人の男性が生存中の二人以上の女性と結婚すること。律法にかなうのは，主から啓示によって特に命じられないかぎり（ヤコ2：27−30），一人の男性が一人の女性のみと結婚することである。啓示によって，旧約の時代と回復された教会の初期の時代に，神権の鍵（かぎ）を持つ預言者の指示により多妻結婚が行われた（教義132：34−40，45）。しかし今日，当教会では多妻結婚は行われておらず（公式1），複数の女性を妻とする者は，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としての資格を持つことができない。

サライはアブラムにハガルを妻として与えた（創世16：1−11）。ヤコブはレアとラケル，またそのつかえめたちを妻として受け入れた（創世29：21−28〔創世30：4，9，26〕）。たとい，ほかに女をめとることがあっても，前の女に食物と衣服を与えることを絶えさせてはならない（出エ21：10）。ダビデは二人の妻とヘブロンへ上った（サ下2：1−2）。アブラハム，イサク，ヤコブは複数の妻を受け入れることにおいて，命じられたことを行った（教義132：37）。ダビデとソロモンは，神から与えられなかったものを除いては，どのようなことについても罪を犯さなかった（教義132：38−39）。

結社　「秘密結社」参照

ゲツセマネ　「オリブ山」「贖罪（しょくざい）」参照

『新約聖書』の中の地名。オリブ山近くの園の名前。アラム語で「ゲツセマネ」は「オリーブしぼり」の意味。イエスは，ユダが裏切った夜にこの園へ行き，そこで祈り，人類の罪のために苦しみを受けられた（マタ26：36，39；マコ14：32；ヨハ18：1；アル21：9；教義19：15−19）。

ゲツセマネの園　「ゲツセマネ」参照

ケルビム

天上の生き物の象徴。正確な姿は知られていない。ケルビムは神聖な場所を守る召しを与えられている。

神はケルビムを置いて，命の木の道を守らせられた（創世3：24〔アル12：21−29；42：2−3；モセ4：31〕）。贖罪所（しょくざいしょ）の上には象徴であるケルビムが置かれた（出エ25：18，22〔列上6：23−28；ヘブ9：5〕）。エゼキエルが

受けた示現の中で，ケルビムについて語られている（エゼ 10 章；11：22）。

権威；権限；権能　「神権」「神権の鍵」「聖任」「力」「召し；神の召し」参照

神の業を行うに当たって，父なる神またはイエス・キリストのためにその代理として行動するように召され，聖任される人々に，この地上で与えられる承認。

わたしがあなたをつかわした（出エ 3：12−15）。わたしが命じることを，ことごとく告げなければならない（出エ 7：2）。イエスは十二弟子に権威をお授けになった（マタ 10：1）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである（ヨハ 15：16）。ニーファイとリーハイは，大きな力と権能をもって教えを説いた（ヒラ 5：18）。民はニーファイを，神から授けられた大いなる力と権能を持つ神の人として尊んだ（ヒラ 11：18〔3 ニフ 7：17〕）。イエスは 12 人のニーファイ人に力と権能を授けられた（3ニフ 12：1−2）。ジョセフ・スミスは神から召され，聖任された（教義 20：2）。聖任され，そして権能を持っていることが教会員に知られないかぎり，だれもわたしの福音を宣べ伝えること，あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない（教義 42：11）。長老は福音を宣べ伝え，権能を行使しなければならない（教義 68：8）。メルキゼデク神権は霊的な事柄をつかさどる権能を持つ（教義 107：8，18−19）。神聖な権能によって行われたことは律法となる（教義 128：9）。福音を宣べ伝え，その儀式を執行するためには，人は権能を持つ者によって，神から召されなければならない（箇条 1：5）。

健康　「知恵の言葉」参照

現世的　「生まれながらの人」「堕落（アダムとエバの）」「肉欲」参照

霊的でない物事を指す言葉。具体的には，一時的でこの世的なこと（教義 67：10），もしくは世俗的，肉感的，官能的なことを意味するのに用いられる（モサ 16：10−12）。

肉の思いを抱くことは死であり（2ニフ 9：39）。悪魔は人々をなだめ，彼らを欺いて現世での安全を確信させる（2ニフ 28：21）。彼らは，自分たちがこの世的な状態にあると思った（モサ 4：2）。自分自身の肉の性質の中にとどまる者は，その堕落した状態にとどまる（モサ 16：5）。人は神から生まれ，肉欲にふける堕落した状態から義の状態に変わらなければならない（モサ 27：25）。人類は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となった（アル 42：10）。自分の思いと肉の欲望に従う人々は必ず落ちる（教義 3：4）。人は肉の思いをもって神を見ることはできない（教義 67：10−12）。人々は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となり始めた（モセ 5：13；6：49）。

原則　「福音」参照

基本となる教義や真理，律法。福音の第一の原則は，主イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めである（箇条

1：4)。

わたしたちはキリストの教義の原則をなおざりにすることなく，完成を目ざして進もうではないか（KJ ヘブ 6：1−3)。長老と祭司と教師は，聖典の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義 42：12)。原則において，教義において，すべてのことにおいて，さらに完全に教えられるためである（教義 88：78〔教義 97：14〕)。すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて，未来に関する教義と原則に従って行動できるようにし（教義 101：78)。

謙遜（けんそん）「打ち砕かれた心」「高慢」「柔和」「貧しい」「弱さ」参照

柔和で，素直なこと。また，神に頼らなければならないことを理解し，神の御心に従いたいと望むことも含まれる。

神はイスラエルを謙遜（けんそん）にするために，40 年の間荒れ野で導かれた（申命 8：2)。貧しくて賢いわらべは，老いて愚かで，もはや，いさめをいれることを知らない王にまさる（伝道 4：13)。わたしはへりくだる者と共に住み（イザ 57：15)。この幼な子のように自分を低くする者が，天国でいちばん偉いのである（マタ 18：4)。自分を低くする者は高くされるであろう（マタ 23：12〔ルカ 14：11；18：14〕)。イエスはおのれを低くして，死に至るまで従順であられた（ピリ 2：8〔ルカ 22：42；23：46〕)。神は高ぶる者をしりぞけ，へりくだる者に恵みを賜う（1ペテ 5：5−6〔2 ニフ 9：42〕)。心底謙遜（けんそん）にへりくだって（モサ 4：11〔2 ニフ 9：42；3 ニフ 12：2〕)。あなたがたは，十分にへりくだっていると言えるであろうか（アル 5：27−28)。謙遜（けんそん）な人々はますます謙遜（けんそん）になった（ヒラ 3：33−35)。わたしは人を謙遜（けんそん）にするために，人に弱さを与える（エテ 12：27)。謙遜（けんそん）であることはバプテスマを受けるための一つの条件である（教義 20：37)。わたしの前にへりくだるならば，あなたがたはわたしを見て，わたしがいることを知るであろう（教義 67:10)。謙遜（けんそん）でありなさい。そうすれば，主なるあなたの神はあなたの祈りに答えを与えるであろう（教義 112：10)。知識のない者は，へりくだって知恵を得なさい（教義 136：32)。御霊（みたま）はへりくだって悔いる者を照らすために，世に送られている（教義 136：33)。

憲法　「政府」「律法」参照

『教義と聖約』の中で述べられている「憲法」とは，福音の回復に道を備えるために神の霊感によって定められたアメリカ合衆国憲法を指している。

合憲的な法律は擁護しなければならない（教義 98：5−6)。主はその憲法の制定に関与された（教義 101：77，80)。

紅海　「モーセ」参照

エジプトとアラビアの間にある海。紅海北部の二つの湾に挟まれた所にシナイ半島がある。モーセに導かれたイスラエル人が乾いた地を通って行けるように，主の奇跡によって紅海の水が分けられた（出エ 14：13−31；ヘブ

11：29)。モーセが紅海の水を分けたことは，末日の啓示の中でも確認されている（1ニフ4：2；ヒラ8：11；教義8：3；モセ1：25)。

高価な真珠　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「正典」「聖文」参照

地上の神の王国は「高価な真珠」にたとえられる（マタ13：45−46)。

末日聖徒イエス・キリスト教会の「標準聖典」と呼ばれる4書の中の一つ。『高価な真珠』の初版は1851年に出版され，その中には現在の『教義と聖約』にある幾つかの文書も含まれていた。1902年以降の版には以下の記録が含まれている。(1)「モーセ書」と呼ばれる創世記のジョセフ・スミス訳の抜粋，ならびに「ジョセフ・スミス—マタイ」と呼ばれるマタイ24章のジョセフ・スミス訳。(2) 1835年に得たエジプトのパピルスをジョセフ・スミスが翻訳した記録。これは「アブラハム書」と呼ばれている。(3) ジョセフ・スミスが1838年に書いた教会の歴史からの抜粋。これは「ジョセフ・スミス—歴史」と呼ばれている。(4) 教会の信条と教義を13箇条に要約した「信仰箇条」。

高潔　「義」「正直」参照

義にかない，正直で，誠実であること。

わたしは死ぬまで，潔白を主張してやめない（ヨブ27：5)。欠けた所なく，正しく歩む人（箴言20：7)。彼らは託されたことは何であろうと，いつでも誠実に果たす者たちであった（アル53：20)。主はハイラム・スミスを，その心の高潔さのゆえに愛された（教義124：15)。

公式の宣言一　「ウッドラフ，ウィルフォード」「結婚—多妻結婚」「宣言」参照

『教義と聖約』の終わりの部分に掲載されている宣言。「公式の宣言一」の最初の部分は「宣言」としても知られている。ウィルフォード・ウッドラフ大管長が発表し，1890年10月6日の総大会の席上，教会員に提示された。1862年以来25年間，アメリカ合衆国では多妻結婚を違法とする様々な法律が作られた。聖徒が多妻結婚をやめなければ何が起こるかを，主は示現と啓示によってウィルフォード・ウッドラフに示された。この宣言は，多妻結婚がもはや行われていないことを正式に表明するものであった。

公式の宣言二　「キンボール，スペンサー・W」参照

神権がだれに授けられるかについての教義的な声明。『教義と聖約』の末尾に掲載されている。1978年6月の初めに，主はスペンサー・W・キンボール大管長に，神権が教会のすべてのふさわしい男性会員に授けられることを啓示された。これによって，人種や肌の色にかかわりなく，すべてのふさわしい男性が神権を受けることができ，またすべてのふさわしい会員が神殿の祝福にあずかれるようになった。1978年9月30日，この宣言は教会の総大会において提示され，全会一致で受け入れられた。

高等評議会

12 人の大祭司から成る評議会。

回復された教会の初期の時代には，高等評議会という言葉は次の二つの異なる管理体を指すものとして用いられた。(1) 教会の十二使徒定員会（教義 107：33，38)。(2) 各ステークで務めを果たす高等評議会（教義 102 章；107：36)。

幸福；幸せ　「喜び」参照

高慢　「うぬぼれ」「金銭」「謙遜」「富」「物欲」参照

謙遜さや素直さを欠いた状態。人は高慢になると互いに反目し，神に対しても敵対的になる。高慢な人は自分を人よりも優れていると考え，神の御心よりも自分の意志に従おうとする。うぬぼれ，ねたみ，冷酷さ，傲慢さは，高慢な人によく見られる特徴である。

金銀が増し，持ち物がみな増し加わるとき，おそらく心にたかぶり（申命 8：11−14)。わたしは高ぶりと，おごりを憎む（箴言 8：13〔箴言 6：16−17〕)。高ぶりは滅びにさきだち（箴言 16：18)。その日には目をあげて高ぶる者は低くせられ（イザ 2：11−12〔2 ニフ 12：11−12〕)。あなたの心の高ぶりは，あなたを欺いた（オバ 1：3)。すべて高ぶる者は，わらのようになる（マラ 4：1〔1 ニフ 22：15；3 ニフ 25：1；教義 29：9〕)。自分を高くする者は低くされ（マタ 23：12〔教義 101：42〕)。神は高ぶる者をしりぞけ（1ペテ 5：5)。あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢である（1ニフ 11：36〔1 ニフ 12：18〕)。人は学識があると自分は賢いと思い（2ニフ 9：28−29)。ほかの者より豊かに富を得たことで心が高慢になり（ヤコ 2：13，16〔アル 4：8−12〕)。あなたがたは高慢な心を取り去っているか（アル 5：28)。民の心の中には大変にひどい高慢が入り込んでいた（ヒラ 3：33−36)。人の子らは何と高慢になるのが早いことか（ヒラ 12：4−5)。この国民は，高慢のために滅びてしまう（モロ 8：27)。あなたがたはニーファイ人のようにならないよう，高慢に気をつけなさい（教義 38：39)。すべての高慢と軽薄，すべての邪悪な行いをやめなさい（教義 88：121)。

声　「啓示」参照

聖典の中では，主御自身あるいは天使の，人の耳に聞こえる言葉を指す場合がある。御霊の声は耳に聞こえなくても，心に語りかけることがある。

主なる神の声を聞いた（KJ 創世 3：8〔モセ 4：14〕)。主は静かな細い声でエリヤに語りかけられた（列上 19：11−13)。義人はよい羊飼の声を聞いて従う（ヨハ 10：1−16)。だれでも真理につく者は，わたしの声に耳を傾ける（ヨハ 18：37)。わたしは御霊の声に従い（1ニフ 4：6−18)。わたしに声が聞こえた。「エノスよ，あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。」(エノ 1：5)。それはまったく優しい静かな声であり，それでいて心の底までも貫いた（ヒラ 5：29−33〔3 ニフ 11：3−7〕)。わたし自身の声によろうと，わたしの僕たちの声によろうと，それは同じである（教義 1：

38)。何であろうと聖霊に感じて語ることは，主の声となり（教義 68：2−4)。わたしの声に従う者は皆，わたしの顔を見て，わたしがいることを知るであろう（教義 93：1)。

ゴグ　「イエス・キリストの再臨」「マゴグ」参照

マゴグの王。エゼキエルは，主の再臨の時にゴグがイスラエルを攻めると預言した（エゼ 38−39 章)。ゴグとマゴグの戦いと呼ばれる別の戦いが福千年の後に起こる（黙示 20：7−9；教義 88：111−116)。

告白　「悔い改め」「赦し」参照

聖典はこの言葉を少なくとも二つの意味で用いている。一つは，イエスがキリストであることを告白するというように，何かに対する自分の信仰を表明する場合である（マタ 10：32；ロマ 10：9；1 ヨハ 4：1−3；教義 88：104)。

もう一つは，罪を告白する場合のように，自分に罪があるのを認めることである。人は皆，自分の罪をすべて主に告白して，その赦しを得なければならない（教義 58:42−43)。場合によっては，自分が罪を犯した相手に対して告白する必要がある。重大な罪については，教会の役員に（ほとんどの場合，ビショップに)告白しなければならない。

その罪を犯したことを告白し（レビ 5：5)。彼らが自分の罪を告白するなら（レビ 26：40−42)。イスラエルの神，主に栄光を帰し，あなたのしたことを告げなさい（ヨシ 7：19)。人々が自分の罪を告白し，ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた（マタ 3：5−6)。罪を告白する者は赦される（モサ 26：29)。あなたの罪を告白しなさい。そうしなければ，罰を受けて苦しむであろう（教義 19：20)。悔い改めた人は罪を告白して捨てる（教義 58：43)。主なるわたしは，へりくだった心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い（教義 61：2)。主なるわたしは，自分の罪を告白して赦しを求める者たちについては罪を赦す（教義 64：7)。

心　「打ち砕かれた心」「再び生まれる」参照

人の理性と意志の象徴。喜怒哀楽の象徴的な源でもある。

あなたは心をつくして，あなたの神，主を愛さなければならない（申命 6：5〔申命 6：3−7；マタ 22：37；ルカ 10：27；教義 59：5〕)。主は自分の心にかなう人を求めて（サ上 13：14)。人は外の顔かたちを見，主は心を見る（サ上 16：7)。手が清く，心のいさぎよい者は主から祝福をうけ（詩篇 24：3−5〔2 ニフ 25：16〕)。人はその心の内で思うそのとおりの人である（KJ 箴言 23：7)。エリヤは父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる（マラ 4：5−6〔ルカ 1：17；教義 2：2；110：14−15；138：47；ジ―歴史 1：39〕)。心の清い人たちは，さいわいである（マタ 5：8〔3 ニフ 12：8〕)。心からあふれ出ることを，口が語る（ルカ 6：45)。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたは心の

中に，この大きな変化を経験したか（アル 5：14）。打ち砕かれた心と悔いる霊を，犠牲としてわたしにささげなさい（3ニフ 9：20〔3 ニフ 12：19；エテ 4：15；モロ 6：2〕）。聖霊によって，わたしはあなたの心に告げよう（教義 8：2）。

五旬節（ごじゅんせつ）　「モーセの律法」参照

モーセの律法の一部として，過越（すぎこし）の祭の 50 日後に五旬節（ごじゅんせつ）すなわち初穂の祭が行われた（レビ 23：16）。五旬節は収穫を祝うためのものであり，『旧約聖書』では刈入れの祭あるいは七週の祭とも呼ばれた。エルサレムで使徒たちが聖霊に満たされ，異言を語ったのは，この祭が祝われていたときであった（使徒 2 章；教義 109：36−37）。

五書　「旧約聖書」「出エジプト記」「申命記」「創世記」「民数記」「モーセ」「レビ記」参照

『旧約聖書』の最初の 5 つの書，すなわち創世記，出エジプト記，レビ記，民数記，申命記を指す。ユダヤ人はこの五書を，トーラーすなわち律法と呼んだ。五書はモーセによって書かれた（1 ニフ 5：10−11）。

言葉　「イエス・キリスト―前世におけるキリスト」参照

言葉（神の）　「戒め（神の）」「啓示」「聖文」参照

神から授けられる教えや戒め，知らせ。神の子供たちは，御霊（みたま）による啓示を通して直接に，あるいは主の選ばれた僕（しもべ）を通して間接的に御言葉を受けることができる（教義 1：38）。

人は主の口から出るすべてのことばによって生きる（申命 8：3〔マタ 4：4；教義 84：43−44〕）。あなたのみ言葉はわが足のともしび，わが道の光です（詩篇 119：105）。一同は聖霊に満たされて，大胆に神の言（ことば）を語り出した（使徒 4：31−33）。鉄の棒は命の木に導く神の言葉である（1ニフ 11:25〔1 ニフ 15：23−25〕）。あなたがたは心が鈍っていたので，その言葉を感じることができませんでした（1ニフ 17：45−46）。神の言葉を拒む者は災いである（2ニフ 27：14〔2 ニフ 28：29；エテ 4：8〕）。キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み（2ニフ 31：20〔2 ニフ 32：3〕）。彼らは自分の不信仰のために，神の言葉を理解できなかった（モサ 26：3〔アル 12：10〕）。神の言葉を知るために聖文を熱心に調べて（アル 17:2）。神の言葉の力を使う（アル 31：5）。アルマは御言葉を一つの種にたとえた（アル 32：28−43）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，主の言葉となり（教義 68：4）。神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならない（教義 84：44−45）。だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は，惑わされることがない（ジ―マタ 1：37）。

言葉；言語

情報や思想，観念を伝達するために特定の形式にまとめた一連の音声文字あるいは記述文字。言葉遣いは，神や人に対する思いを表す。主イエス・キ

リストは再臨の時に，すべての人に純粋な言葉をお授けになる（ゼパ 3：8−9）。

全地は同じ発音，同じ言葉であった（創世 11：1）。主が全地の言葉を乱された（創世 11：4−9）。彼らの生れ故郷の国語で，使徒たちが話しているのを，だれもかれも聞いて（使徒 2:1−6）。主なる神は人の言葉に倣って語られる（2ニフ 31：3〔教義 1：24〕）。ベニヤミンは，先祖のすべての言葉によって息子たちが教育を受けられるようにした（モサ 1：2−5）。言葉が柔和で人を教化する者は，わたしの定めに従うならば，神から出ている（教義 52：16）。もろもろの言語と国語と民族に通じるようにしなければならない（教義 90：15）。アダムとその子供たちの言葉は清らかで汚れのないものであった（モセ 6：5−6，46）。神はエノクに大いなる言葉の力を授けられた（モセ 7：13）。

子供　「家族」「祝福」「贖罪」「救い—幼い子供たちの救い」「責任を負う」「幼児のバプテスマ」参照

年ごろになる以前の年少者。父親と母親は神の御心に従うように自分の子供を訓練しなければならない。責任を負う年齢に達するまで，子供には罪がない（モロ 8：22；教義 68：27）。

子供たちは神から賜わった嗣業であり（詩篇 127：3−5）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6）。幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない（マタ 19：14）。両親に従いなさい（エペ 6：1−3〔コロ 3：20〕）。堕落がなかったならば，アダムとエバは子供を持たなかったであろう（2ニフ 2：22−23）。子供たちに真理の道をまじめに歩むように教えなさい（モサ 4：14−15）。幼い子供たちも永遠の命を得る（モサ 15：25）。イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し（3ニフ 17：21）。あなたの子孫は皆，主によって教えを受け，あなたの子孫の平安は深い（3ニフ 22：13〔イザ 54：13〕）。幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない（モロ 8：8−24）。幼い子供たちは，わたしの独り子によって世の初めから贖われている（教義 29：46−47）。両親は子供に福音の原則と生活習慣を教えなければならない（教義 68：25，27−28）。幼い子供たちは，イエス・キリストの贖罪によって聖められているので，聖い者である（教義 74：7）。両親は子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じられている（教義 93：40）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。

ゴモラ　「ソドム」参照

『旧約聖書』の中の町。主によって滅ぼされた（創世 19：12−29）。

懲らしめ　「逆境」参照

個人やグループの改善と強化のためになされる矯正や懲戒。

全能者の懲らしめを軽んじてはならない（ヨブ 5：17〔箴言 3：11〕）。主よ，あなたによって懲らされる人はさ

いわいです（詩篇 94：12）。聖書はすべて，人を戒め，正しく導くのに有益である（2テモ 3：16）。主は愛する者を訓練し（ヘブ 12：5−11）。主は御自分の民を懲らしめるのを，御心にかなうことと見ておられる（モサ 23：21−22）。主が御自分の民を懲らしめられなければ，彼らは主を思い起こそうとしない（ヒラ 12：3）。主はヤレドの兄弟と話し，彼を懲らしめられた（エテ 2：14）。懲らしめを受けて，悔い改められるようにするため（教義 1：27）。わたしはまた，愛する者たちを懲らしめる。それは，彼らの罪が赦されるためである（教義 95：1）。懲らしめに耐えない者は皆，聖められることはあり得ない（教義 101：2−5）。わたしの民は従順を学ぶまで，必ず懲らしめを受けなければならない（教義 105：6）。懲らしめに耐えない者は，わたしの王国にふさわしくない（教義 136：31）。

ゴリアテ　「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。イスラエル軍に戦いを挑んだペリシテの巨人。ダビデはゴリアテの挑戦を受け入れ，主の助けによって彼を殺した（サ上 17 章）。

コリアンタマー　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の人物。ヤレド人の王。ヤレドの民の最後の残存者。

ゼラヘムラの民によって発見された（オム 1：21）。全地を治める王であった（エテ 12：1−2）。シェレドによって囚われの身となったが，息子たちによって自由の身となった（エテ 13：23−24）。様々な敵と戦った（エテ 13：28−14：31）。悔い改めた（エテ 15：3）。シズと最後の戦いをした（エテ 15：15−32）。

コリアントン　「アルマ（アルマの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの子。

ゾーラム人の中に出かけて行った（アル 31：7）。務めを放棄して，娼婦を追って行った（アル 39：3）。アルマは彼に，人の死後の状態と復活と贖罪について教えた（アル 39−42 章）。再び御言葉を宣べ伝えるように求められた（アル 42：31）。船で北方の地へ行った（アル 63：10）。

コリホル　「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。神の力の証拠としてしるしを求めた反キリスト。主はコリホルを物が言えないようにされた（アル 30：6−60）。

コリント人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 2 書。もともとはパウロがコリントの聖徒に，彼らの中に見られる無秩序を正すために書き送った手紙であった。コリント人は道徳的に邪悪な社会に住んでいた。

コリント人への第一の手紙：第 1 章には，パウロのあいさつと感謝の言葉が記されている。第 2−6 章にはコリント人の過ちをたしなめるパウロの言

葉，第7−12章には，幾つかの質問に対するパウロの答えが記されている。第13−15章は，慈愛や霊的な賜物，復活に関連した内容になっている。第16章には，信仰を強く保つようにとのパウロの勧告が含まれている。

コリント人への第二の手紙：第1章には，パウロのあいさつと感謝の言葉が記されている。第2章には，テトスへの個人的な助言が含まれている。第3−7章には，聖徒と指導者の生活における福音の力が採り上げられている。第8−9章には，貧しい人々に喜んで与える人になるようにとの聖徒への勧告が記されている。第10−12章では，パウロが使徒としての自分の立場を明確にしている。第13章には，完全になるようにとの勧告が記されている。

ゴルゴタ　「イエス・キリスト」「十字架の刑」参照

アラム語で「されこうべ」の意味。キリストが十字架につけられた場所（マタ27：33；マコ15：22；ヨハ19：17）。ラテン語では「カルバリ」と呼ばれる。

コルネリオ　「異邦人」「百卒長」「ペテロ」参照

ペテロからバプテスマを受けたカイザリア（カイザリヤ）の百卒長（使徒10章）。ユダヤ教への改宗を経ずに教会に加わった最初の異邦人であったと思われる。コルネリオとその家族のバプテスマは，異邦人への福音宣教の開始を告げるものであった。この宣教を指導したのは，当時，地上における神の王国の鍵を持っていた使徒の頭ペテロであった。

コロサイ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。これはもともと使徒パウロがコロサイの教会の伝道者エパフラスの訪問を受けた後に，コロサイ人に書き送った手紙であった（コロ1：7−8）。エパフラスはパウロに，コロサイ人が重大な過ちに陥ろうとしていると述べた。彼らは，幾つかの外形的儀式に注意深く従い（コロ2：16），また物質的な欲求を断ち，天使礼拝を行っているということで自分たちが他の人々よりも優れていると考えていたのである（コロ2：18）。コロサイ人たちは，このような行いのゆえに，自分たちは聖められていると考えていた。彼らはまた，自分たちは他の教会員よりも，宇宙の奥義を深く理解していると思っていた。パウロはその手紙の中で，贖いはキリストを通してのみ与えられること，また教会員は賢くあってキリストに仕えなければならないことを教え，彼らの過ちを正した。

第1章には，コロサイ人へのパウロのあいさつが記されている。第2−3章は教義的な内容であり，贖い主としてのキリスト，偽りの礼拝の危険性，復活の重要性などについて述べている。第4章では，聖徒はすべてのことにおいて賢くなければならないと教えている。

殺す　「殺人」「死刑」参照

コロブ

神の御座に最も近い位置にある星（アブ 3：2−3，9）。

アブラハムはコロブと数々の星を見た（アブ 3：2−18）。主の時はコロブの計算による（アブ 3：4，9〔アブ 5：13〕）。

罪悪感　「悔い改め」参照

罪に伴う後悔や悲しみの情。

罪を犯し，とがを得たならば（レビ 6：1−6）。罪のある者は，真理を厳しいものと思う（1ニフ 16：2）。わたしたちは，自分に罪があることについて，すべて完全な知識を得る（2ニフ 9：14）。わたしの罪がすでにぬぐい去られた（エノ 1：6）。罰が定められ，良心のとがめを生じさせた（アル 42：18）。自分の罪にだけ心を悩まし，その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい（アル 42：29）。あなたがたのある者はわたしの前に罪悪があるが，わたしは，あなたがたを憐れ（あわ）もう（教義 38：14）。神の御子は最初のとがを贖（あがな）われ（モセ 6：54）。

最後の裁き　「イエス・キリスト—裁き主」「裁き」「罪の宣告」参照

復活の後に行われる最終的な裁き。神はイエス・キリストを通して，一人一人の人間がどの永遠の栄光を受けるか決めるために，裁きを行われる。この裁きは，イエス・キリストの贖（あがな）いの犠牲を受け入れたかどうかも含めて，神の戒めに対する各人の従順さを基準にして行われる。

父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて，子にゆだねられた（ヨハ 5：22）。わたしたちはみな，キリストのさばきの座の前に立つのである（KJ ロマ 14：10）。死人は，書かれていることにしたがって，さばかれた（黙示 20：12〔教義 128：6−7〕）。あなたがたは自分のすべての行いについて裁きを受ける（1ニフ 10：20）。十二使徒と 12 人のニーファイ人の弟子はイスラエルを裁く（1ニフ 12：9〔教義 29：12〕）。すべての人は，イスラエルの聖者の裁きの座の前に出なければならない（2ニフ 9：15）。あの栄（は）えある日のために，あなたがた自身を備えなさい（2ニフ 9：46）。神の裁きの座に連れ出される自分自身を，心に描くことができるであろうか（アル 5：17−25）。イエス・キリストは立って世を裁かれる（3ニフ 27：16）。主は裁きのためにのろいをもって，神を敬わない者のうえに降（くだ）って来られる（教義 133：2）。

最後の晩餐（ばんさん）　「過越（すぎこし）」「聖餐（せいさん）」参照

『新約聖書』に書かれている，イエスが捕縛されて十字架につけられる前に取られた最後の食事（ルカ 22：14−18）。イエスと 12 人の使徒たちは過越（すぎこし）のときにこの食事をされた（マタ 26：17−30；マコ 14：12−18；ルカ 22：7−13）。

イエスはパンとぶどう酒を祝福し，弟子たちに与えられた（マタ 26：26−29〔マコ 14：22−25；ルカ 22：7−20〕）。イエスは弟子たちの足を洗われた（ヨハ 13 章）。イエスはユダが裏切ろうとしていると言われた（ヨハ 13：21−26〔マタ 26：20−25〕）。

祭司（アロン神権の）　「アロン（モーセの兄）」「アロン神権」「大祭司」参照

アロン神権の職の一つ。古代において祭司の職は，アロンとその子孫だけに授けられた，レビ神権の最高位の職であった。キリストがモーセの律法を成就されたことにより，この制限は取り除かれた。

回復された教会の祭司の義務が述べられる（教義 20：46−52）。

祭司（メルキゼデク神権の）　「大祭司」「メルキゼデク神権」参照

ほかの人々のために，神に対して宗教上の儀式を執行する人。聖典に述べられている祭司は，実際はメルキゼデクの位に従う大祭司を指していることが多い（アル 13：2）。復活の後に神の完全な栄光を受ける人々は，日の栄えの世界で祭司となり王となる。

メルキゼデクはいと高き神の祭司であった（創世 14：18）。あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である（詩篇 110：4〔ヘブ 5：6；7：17，21〕）。わたしたちを，父なる神のために，王とし，祭司として下さった（KJ 黙示 1：6〔黙示 5：10；20：6〕）。主なる神が，聖なる位に従って祭司たちを聖任されたことを覚えておいてほしい（アル 13：1−20）。正しい者の復活の時に出て来る人々は祭司であり，王である（教義 76：50，55−60）。

最初の示現　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「福音の回復」参照

ある森の中で父なる神と御子イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに御姿を現された出来事。

1820 年の春，ジョセフ・スミス・ジュニアは 14 歳であり，家族とともにニューヨーク州パルマイラという町に住んでいた。彼らの家から西へ少し行った所に大きな木の生い茂る森があった。ジョセフはその森へ行き，どの教会が正しいかを知るために，神に祈りをささげた。以前，『聖書』を読んでいて，その答えを神に求めなければならないと強く心に感じていたのである（新ヤコ 1：5−6）。ジョセフの祈りにこたえて御父と御子が御姿を現し，それらのどれにも加わってはならない，すべて間違っているからである，と言われた（ジ―歴史 1：15−20）。この神聖な体験は，福音とイエス・キリストのまことの教会の回復をもたらす出来事の始まりを告げるものであった。

祭壇　「犠牲」参照

犠牲や供え物をささげたり礼拝したりするために用いられる構築物。

ノアは主に祭壇を築いて，燔祭（はんさい）をささげた（創世 8：20）。アブラムは主のために祭壇を築いた（創世 12：7−8）。アブラハムはその子イサクを縛って祭壇の上に載せた（創世 22：9〔創世 22：1−13〕）。ヤコブは祭壇を築き，その所をエル・ベテルと名づけた（創世 35：6−7）。エリヤは祭壇を築き，バアルの預言者たちに挑んだ（列上 18：17−40）。祭壇に供え物をささげようとする場合，まず兄弟と和解しなさい（マタ 5：23−24）。神の言（ことば）のゆえに殺された人々の霊魂が，祭壇の下

にいるのを，わたしは見た（黙示 6：9〔教義 135：7〕）。リーハイは石で一つの祭壇を築き，主に感謝をささげた（1ニフ 2：7）。アブラハムはエルケナの祭壇上で死から救われた（アブ 1：8−20）。

再臨（イエス・キリストの）　「イエス・キリストの再臨」参照

サウル（イスラエルの王）

『旧約聖書』の中の人物。分裂前のイスラエルの最初の王。治世の当初は義人であったが，後に高慢になり，神に対して不従順になった（サ上 9−31 章）。

サウロ（タルソの）　「パウロ」参照

ザカリヤ　「エリサベツ」「ヨハネ（バプテスマの）」参照

『新約聖書』の中の人物。バプテスマのヨハネの父。祭司の職にあって，神殿で務めを果たした。

天使ガブリエルは，ザカリヤとその妻エリサベツに，男の子が授けられると約束した（ルカ 1:5−25〔教義 27:7〕）。口が開けて舌がゆるみ，神をほめたたえた（ルカ 1：59−79）。聖所と祭壇との間で殺された（マタ 23：35〔ルカ 11：50〕）。

ささげ物　「犠牲」「什分（じゅうぶん）の一」「断食」「福祉」「施し」参照

主への贈り物。『旧約聖書』では，犠牲あるいは燔祭（はんさい）を指す言葉としてしばしば用いられている。今日の教会は，断食献金や自由意志によるささげ物を（時間や才能や持ち物を含め），貧しい人々への援助やその他の価値ある事柄のために用いている。

あなたがたは，わたしの物を盗んでいる。十分の一と，ささげ物をもってである（マラ 3：8−10）。まず兄弟と和解し，それから供え物をささげることにしなさい（マタ 5：23−24）。自分自身をキリストへのささげ物としてささげ（オム 1：26）。人はささげ物をしても，真心からしなければ，その人にとって何の役にも立たない（モロ 7：6）。レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで，これは決して再び地上から取り去られることはないであろう（教義 13：1）。主の日に，あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげなければならない（教義 59：12）。わたしたちは教会として，また民として，また末日聖徒として，義をもってささげ物を主にささげましょう（教義 128：24）。

定め　「儀式」参照

神の律法や掟（おきて）を意味する。

神の定めを守ってきたことが，どんな益になっているか（3ニフ 24：13−14）。祈り，また悔いる霊を持っている者は，わたしの定めに従うならば，わたしに受け入れられる（教義 52：14−19）。

サタン　「悪魔」参照

殺人　「カイン」「死刑」参照

法によらず故意に人を殺すこと。殺

人は時の初めから罰すべき罪としてとがめられてきた(創世 4:1−12;モセ 5:18−41)。

人の血を流すものは，人に血を流される（創世 9：6〔JS 創世 9：12−13；出エ 21：12；アル 34：12〕）。あなたは殺してはならない（出エ 20：13〔申命 5：17；マタ 5：21−22；モサ 13：21；教義 59：6〕）。殺すな（マタ 19：18）。人殺しは第二の死を報いとして受ける（黙示 21：8）。あなたがたは心の中で人殺しをした（1ニフ 17：44）。故意に人を殺す者は災いである（2ニフ 9：35）。主なる神は，人を殺してはならないと命じられた（2ニフ 26：32）。殺人は主にとって忌まわしい行いである（アル 39：5−6）。殺す者は赦(ゆる)しを得られない（教義 42：18）。人を殺すならば，その者を引き渡し，その地の法律に従って処置することになる（教義 42：79）。

サドカイ人　「ユダヤ人」参照

ユダヤ人の中では少数派であったが，政治的に有力な党派であった。彼らはモーセの律法に字義どおりに従う厳密な信条と，霊や天使の存在ならびに復活と永遠の命の教義の否定によって最もよく知られていたと思われる（マコ 12：18−27；使徒 4：1−3；23：7−8）。

裁き　「イエス・キリスト—裁き」「最後の裁き」「罪の宣告」参照

福音の原則との関連において行いを評価すること。判断を下すこと。善悪を区別すること。

モーセは座して民をさばいた（出エ 18：13）。正義をもって隣人をさばかなければならない（レビ 19：15）。人をさばくな。自分がさばかれないためである（マタ 7：1〔JS マタ 7：1−2；ルカ 6：37；3 ニフ 14：1〕）。律法のもとで罪を犯した者は，律法によってさばかれる（ロマ 2：12）。聖徒は世をさばく（1コリ 6：2−3）。永遠の神の御子は世に裁かれた（1ニフ 11：32）。小羊の十二使徒はイスラエルの十二部族を裁く（1ニフ 12：9〔教義 29：12〕）。死と地獄と悪魔と，それらに捕らえられたすべての者は，裁かれる（2ニフ 28：23〔1ニフ 15：33〕）。物乞いをする人を，あなたがたが裁くならば，自分の持ち物を与えないことで罪に定められることの方が，もっと理にかなってはいないだろうか（モサ 4：22）。人々が自分の行いに応じて裁かれる（アル 41：3）。義(ぎ)にかなって裁き，絶えず善を行いなさい（アル 41：14）。これから書き記される数々の書によって，民は裁かれるであろう（3ニフ 27：23−26〔黙示 20：12〕）。この民の残りの者は，イエスがエルサレムの地で選ばれた 12 人から裁きを受ける（モル 3：18−20）。モルモンは善悪を判断する方法を説明した（モロ 7：14−18）。義にかなって裁くように導く御霊(みたま)を信頼しなさい（教義 11：12）。あなたがたは心の中で言うべきである。すなわち，「神がわたしとあなたの間を裁いてくださるように」と（教義 64：11）。主の教会はもろもろの国民を裁く（教義 64：37−38）。御子は獄にいる霊を訪れ，彼らが肉において人間として裁きを受けることができるようにされた（教義 76：73〔1ペ

テ 4：6〕)。ビショップはイスラエルの判士となる（教義 107：72−74)。主なるわたしは，すべての人をその行いに応じて，またその心の望みに応じて裁く（教義 137：9)。

サマリヤ　「サマリヤ人」参照

『旧約聖書』の中の地名。イスラエルの北王国の首都（列上 16：23−24)。丘の上に位置するという軍事上の利点から，アッシリア人（アッスリヤ人）も 3 年にわたる包囲の末にようやく占領できたほどである（列下 17：5−6)。ヘロデがこれを再建し，セバステと呼んだ。新約の時代には，サマリア（サマリヤ）はヨルダン川西域のパレスチナ中央部全体を指す地名として用いられていた。

サマリヤ人　「サマリヤ」参照

『聖書』の中の民。イスラエルの北王国がアッシリア人（アッスリヤ人）に占領された後に，サマリア（サマリヤ）に住んだ人々。サマリア人（サマリヤ人）は，イスラエル人と異邦人の混血であった。彼らの宗教は，ユダヤ人と異教徒の信仰と慣習の混じり合ったものである。ルカ 10：25−37 の良いサマリア人のたとえからは，サマリア人がイスラエルの宗教に背を向けていたことで，ユダヤ人が彼らに憎しみを募らせていたことがうかがえる。主は使徒たちに，サマリア人にも福音を教えるように命じられた（使徒 1：6−8)。ピリポはサマリアの人々にキリストの福音を宣べ伝え，彼らの間で数多くの奇跡を行った（使徒 8：5−39)。

サム　「リーハイ（ニーファイの父)」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの三男（1 ニフ 2：5)。正しく聖なる人で，主に従うことを選んだ(1 ニフ 2：17；2 ニフ 5：5−6；アル 3：6)。

サムエル（旧約の預言者）

旧約の預言者。エルカナとハンナの息子。母の祈りへの答えとして生まれた（サ上 1 章)。幼年時代，サムエルはシロに置かれていた幕屋で大祭司の務めにあったエリのもとで育てられた（サ上 2：11；3：1)。主は年若いサムエルを預言者として召された（サ上 3 章)。エリの死後，サムエルはイスラエルの偉大な預言者，士師となり，律法と秩序，規則にのっとった宗教礼拝を回復した（サ上 4：15−18；7：3−17)。

サムエル上 28：5−20 には，サウル王の要請でエンドルの口寄せがサムエルを死から呼び起こしたという記述がある。しかし，これを神からの示現と考えることはできない。口寄せやその他の霊媒には，自分の求めに従って預言者を登場させるような力はないからである（サ上 28：20)。

サムエル記上・下：『聖書』によっては，この上下巻をまとめて 1 書としているものもあり，2 書に分けられているものもある。この 2 書は，サムエルの誕生からダビデ王の死の直前までの約 130 年の期間を扱っている。

サムエル記上：第 1−4 章には，主がエリの家族に災いを宣告して，罰を下されたこと，またサムエルを大祭司

と士師の職に召されたことが書かれている。第 4−6 章には，契約の箱がペリシテ人の手に渡ったいきさつが述べられている。第 7−8 章には，偽りの神々と悪い王を持つことに対するサムエルの警告が書かれている。第 9−15 章には，サウルの戴冠（たいかん）と，王としての彼の治世が述べられている。第 16−31 章には，ダビデの経歴と彼が力をつけていく様子が描かれている。サムエルはゴリアテを倒したダビデに油を注いだ。サウルはダビデを憎んだ。しかしダビデは機会があったにもかかわらず，サウルを殺そうとしなかった。

サムエル記下：この書には，ユダの王，また後には全イスラエルの王としてのダビデの治世が詳細に描かれている。第 1−4 章には，ダビデがユダの王になった後も，ダビデの支持者とサウルの支持者の間で長い争いがあったことが記されている。第 5−10 章には，ダビデが多くの地域で権勢を伸ばしていった様子が描かれている。第 11−21 章には，自分自身の罪と家族の内部から起きた反逆のために，ダビデの霊的な力が衰えていく様子が描かれている。第 22−24 章には，ダビデの神との和解への試みが描かれている。

サムエル（レーマン人）

『モルモン書』の中の人物。レーマン人の預言者。ニーファイ人に教えと警告を与えるために，救い主の降誕直前に主から遣わされた。サムエルはイエス・キリストの降誕と死のしるし，ならびにニーファイ人の滅亡について預言した（ヒラ 13−16 章）。

サムソン

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの 12 番目の士師。サムソンは怪力で知られていたが，道徳的な選択と行いという面で幾つか過ちを犯した（士師 13：24−16：31）。

サラ　「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の人物。アブラハムの最初の妻。老年になって，イサクを産んだ（創世 18：9−15；21：2）。

サライア　「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの妻（1 ニフ 5：1−8；8：14−16；18：19）。子供として，レーマン，レムエル，サム，ニーファイ，ヤコブ，ヨセフ，それに何人かの娘がいた（1 ニフ 2：5；2 ニフ 5：6）。

サレム　「エルサレム」「メルキゼデク」参照

『旧約聖書』の中の地名。メルキゼデクが統治した町。この町は現在のエルサレムと同じ場所にあったと思われる。「サレム」という名は「平和」を意味するヘブライ語によく似ている。

サレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒とを持ってきた（創世 14：18）。メルキゼデクはサレムの王であり，いと高き神の祭司であった（ヘブ 7：1−2）。メルキゼデクは，サレムの地を治める王であった（アル 13：17−18）。

賛意の表明　「同意の律法」参照

産児制限　「家族」「結婚」参照

妊娠を避けたり，抑制したりして，子供の出産数を制限すること。

生めよ，ふえよ，地に満ちよ（創世 1：28〔モセ 2：28〕）。子供たちは神から賜わった嗣業である（詩篇 127：3−5）。リーハイの家族は主のために子供をもうけられるようにした（1ニフ 7：1）。結婚は人のために神によって定められている（教義 49：15−17）。とこしえにいつまでも子孫が満ちて続く（教義 132：19，63）。

山上の垂訓　「イエス・キリスト」「至福の教え」参照

主イエス・キリストが，これから召しを受けて人々の間に遣わされることになっていた弟子たちに向けて語られた説教（マタ 5−7 章；ルカ 6：20−49）。主がこの教えを説かれたのは，十二使徒を召された直後である。

この説教の内容は，『聖書』のジョセフ・スミス訳と 3 ニーファイ 12−14 章に記録されている同様の説教によって意味が明確になっている。また，これら二つの記録により，マタイの記録から説教の重要な部分が失われていることが分かる。

三人の弟子（ニーファイ人の）　「弟子」「ニーファイ人」「身を変えられた人」参照

『モルモン書』の中の人物。キリストが選ばれた 3 人の弟子。

主はこの 3 人の弟子に，愛弟子（まなでし）ヨハネと同じ祝福を授けられた。それは，主が再び来られるまで地上にとどまり，人々をキリストのもとに導くことができるというものである。彼らは苦しみを感じることも死ぬこともないように，身を変えられた（3 ニフ 28 章）。

キリストは，その来臨の時まで生き長らえたいという 3 人の弟子たちの願いを聞き入れられた（3ニフ 28：1−9）。死の苦しみや悲しみを感じることがない（3ニフ 28：7−9）。彼らは満ちみちる喜びを得る（3ニフ 28：10）。一時的に天に引き上げられた（3ニフ 28：13−17）。彼らは民に仕え，迫害に耐えた（3ニフ 28：18−23）。モルモンを教え導いた（3ニフ 28：24−26〔モル 8:10−11〕）。異邦人，ユダヤ人，散らされた部族，およびすべての国民を教え導く（3ニフ 28：27−29）。サタンは彼らを支配する力をまったく持てない（3ニフ 28：39）。

賛美　「栄光」「感謝」参照

賛美歌　「歌う」「音楽」参照

神をたたえる歌。

十二使徒が賛美の歌を歌った後，主はゲツセマネへ行かれた（マタ 26：30）。主は賛美歌を選ぶためにエマ・スミスを召された（教義 25：11）。義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして，彼らの頭（こうべ）に祝福が注がれるであろう（教義 25：12）。歌と音楽をもって主をほめたたえなさい（教義 136：28）。

サンヒドリン　「ユダヤ人」参照

行政と宗教の両面における，ユダヤの最高議会，最高法廷。サンヒドリンは，祭司長，律法学者，長老の中から選ばれた71人の議員で構成されていた。『聖書』の中ではしばしば「議会」と呼ばれている（マタ26：59；マコ14：55；使徒5：34）。

散乱（イスラエルの）「イスラエル―イスラエルの散乱」参照

死（第二の）「死（霊の）」参照

死（肉体の）「死すべき状態」「救い」「堕落（アダムとエバの）」「復活」参照

肉体と霊の分離。アダムの堕落以前，地上にいた命あるものは死ぬことがなかった（2ニフ2：22；モセ6：48）が，堕落によって，地上に腐朽と死がもたらされた。しかし，イエス・キリストの贖罪が死を征服したので，すべての人が復活するようになった（1コリ15：21−23）。復活は，現世において善をなしたか悪をなしたかにかかわらず，すべての人に無料で与えられる賜物である（アル11：42−44）。人は皆肉体の死を一度だけ経験するが，一度復活した後は，二度と死なない体になる（アル11：45）。

すべての肉は共に滅び，人はちりに帰るであろう（ヨブ34：15）。主の聖徒の死はそのみ前において尊い（詩篇116：15）。ちりは土に帰り，霊は神に帰る（伝道12：7）。死がひとりの人によってきた（1コリ15：21）。死と黄泉とのかぎを持っている（黙示1：18）。もはや，死もなく，悲しみもない（黙示21：4）。死がすべての人に及ぶようになった（2ニフ9：6，11〔アル12：24〕）。死を少しも恐ろしいと思わなかった（アル27：28）。アルマは死と復活の間の人の状態について説明した（アル40：11）。わたしにあって死ぬ者は死を味わわないであろう（教義42：46）。死に定められていない者は，癒されるであろう（教義42：48）。死に至るまでも，あらゆる点であなたがたを試す（教義98：14）。あなたはちりに帰る（モセ4：25）。アダムの堕落によって死が生じ（モセ6：48）。

死（霊の）「悪魔」「地獄」「救い」「堕落（アダムとエバの）」「罰の定め」「滅びの子」参照

神とその影響からの分離。義に関する事柄について死んだ状態になること。ルシフェルと天の衆群の3分の1は，天から投げ落とされたときに霊の死を受けた（教義29：36−37）。

霊の死はアダムの堕落によって世にもたらされた（モセ6：48）。思いや言葉や行いが邪悪な人は，たとえこの世に生きていたとしても，霊的には死んでいる（1テモ5：6）。イエス・キリストの贖罪を通して，また福音の原則と儀式に従うことにより，人は男女を問わず罪から清められ，霊の死に打ち勝つことができる。

霊の死は肉体の死の後にも起こる。復活した人に対しても，悪魔やその使いに対しても，裁きは行われるのである。福音の光と真理に故意に背く者は霊の死を受ける。この死はしばしば第二の死と呼ばれる（アル12：16；ヒ

ラ 14：16−19；教義 76：36−38)。

悪を行う者は断ち滅ぼされ（詩篇 37：9)。肉の思いは死である（ロマ 8：6〔2 ニフ 9：39〕)。情欲は人を滅びと破壊とに沈ませる（1テモ 6：9)。罪は死を生み出す（新ヤコ 1：15)。勝利を得る者は，第二の死によって滅ぼされることはない（黙示 2：11)。この人たちに対しては，第二の死はなんの力もない（黙示 20：6，12−14)。火と硫黄の燃えている池が，邪悪な人々の受くべき報いである。これが第二の死である（黙示 21：8〔教義 63：17−18〕)。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27〔2 ニフ 10：23；アル 29：5；ヒラ 14：30−31〕)。神は死と地獄から逃れる道を備えてくださっている（2ニフ 9：10)。第二の死であるあの火と硫黄の池に投げ込まれることのないように，地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい（ヤコ 3：11)。生まれながらの人は神の敵であり（モサ 3：19)。主があなたがたに悔い改めることを許してくださって，あなたがたが第二の死を受けることのないように願っている（アル 13：30)。アルマは永遠の死の鎖に縛られていた（アル 36：18)。悪人は義にかかわることに関して死んだ状態になる（アル 40：26〔アル 12：16〕)。堕落は全人類に霊の死ももたらした（アル 42：9〔ヒラ 14：16−18〕)。アダムは堕落したとき，霊的に死ぬことになった（教義 29：40−41，44)。

慈愛　「愛」「哀れみ」「福祉」「奉仕」参照

キリストの純粋な愛（モロ 7：47)。キリストが人の子らに対して抱いておられる愛，また人の子らが互いに抱くべき愛（2 ニフ 26：30；33：7−9；エテ 12：33−34)。単なる愛慕の情ではなく，最も気高く，尊く，しかも強い愛。

知識は人を誇らせ，愛は人の徳を高める（1コリ 8：1)。慈愛すなわち純粋な愛は，他のいかなるものよりも大いなるものである（1コリ 13 章)。この命令は，清い心から出てくる愛を目標としている（1テモ 1：5)。兄弟愛に愛を加えなさい（2ペテ 1：7)。人は皆，慈愛すなわち愛を持つようにとの戒めを与えられた（2ニフ 26:30〔モロ 7：44−47〕)。あなたがたは信仰，希望，慈愛を必ず持つようにしてほしい（アル 7：24)。あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛である（エテ 12：33−34)。人は慈愛を持たなければ，あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません（エテ 12：34〔モロ 10：20−21〕)。モロナイは，信仰と希望と慈愛について述べたモルモンの言葉を記録した（モロ 7 章)。慈愛を持つ者には，主の業に携わる資格がある（教義 4：5−6〔教義 12：8〕)。慈愛のきずなを，身にまといなさい（教義 88：125)。あなたの心が慈愛で満たされるようにしなさい（教義 121：45)。

シーレム　「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。キリストを否定し，しるしを求めた（ヤコ 7：1−20)。

ジェロム

『モルモン書』の中の人物。エノスの息子で，リーハイの曾孫(そうそん)に当たる。ジェロムは紀元前420−361年までの60年間，ニーファイ人の記録を保管した（エノ1：25；ジェロ1：13）。彼は歴史的な記録をあまり書かなかったが，忠実な人物であった（ジェロ1：2）。

ジェロム書：『モルモン書』の中で，この書はわずか15節しかない。ジェロムは，ニーファイ人がモーセの律法を守り続け，キリストの来臨を待ち望んでいたことを記録している。ニーファイ人は信仰の篤(あつ)い王たちによって導かれた。彼らは，預言者や祭司，教師の言葉を心に留めたときには栄えた。

塩

古代世界においては，食物の保存料として重要であった。また，生命の維持に不可欠のものと考えられていた。

ロトの妻は塩の柱になった（創世19：26）。あなたがたは，地の塩である（マタ5：13〔ルカ14：34；3ニフ12：13〕）。永遠の聖約を交わすとき，彼らは地の塩と見なされる（教義101：39−40）。聖徒が人々の救い手でなければ，彼らは塩気を失った塩のようである（教義103：9−10）。

シオン　「エノク」「新エルサレム」参照

心の清い者（教義97：21）。シオンという言葉には，心の清い人々が住む所という意味もある。エノクとその民が築き，ついに義のゆえに天に取り上げられた町はシオンと名付けられた（教義38：4；モセ7：18−21，69）。末日にシオンという名の町がミズーリ州ジャクソン郡の近くに建設される。そしてイスラエルの諸部族がここに集合する（教義103：11−22；133：18）。聖徒たちは，世界のどこに住んでいるかにかかわらず，その地でシオンを築くように勧告されている。

ダビデの町はシオンと呼ばれた（列上8：1）。律法はシオンから出る（イザ2：2−3〔ミカ4：2；2ニフ12：2−3〕）。贖(あがな)い主はシオンに来られる（イザ59：20）。町からひとり，氏族からふたりを取って，あなたがたをシオンへ連れて行こう（エレ3：14）。シオンの山とエルサレムとに，のがれる者があるからである（ヨエ2:32〔オバ1:17〕）。わたしのシオンを起こそうと努める者は幸いである（1ニフ13：37）。シオンの娘たちは高ぶり（2ニフ13：16〔イザ3：16〕）。シオンでのんきに暮らす者は，災いである（2ニフ28：19−25）。シオンの大義を起こして確立するように努めなさい（教義6:6〔教義11：6〕）。わたしは，善のために大いなる力をもってシオンの大義を推し進めるようにと彼に霊感を与えた（教義21：7）。新エルサレムはシオンと呼ばれる（教義45：66−67）。ミズーリ州インディペンデンスは，シオンの町のための場所である（教義57:1−3）。悔い改めるまで，シオンの子らのうえに懲らしめが残る（教義84：58）。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし，思いを一つにし，義のうちに住んだからである（モセ7：18

−19)。シオンがアメリカ大陸に築かれる（箇条 1：10)。

死海

ヨルダン渓谷南端の塩湖。「塩の海」と呼ばれた。湖面は地中海の海面より約 400 m低い。湖岸近くには，ソドム，ゴモラ，またベラとも呼ばれたゾアルなどの町があった（創世 14：2−3)。

預言の成就として，また救い主の再臨のしるしの一つとして，死海の水は清くなり，多くの生き物が住むようになる（エゼ 47：8−9)。

識別の賜物（たまもの）　「御霊（みたま）の賜物（たまもの）」参照

御霊（みたま）の力によって理解すること，知ること。識別の賜物（たまもの）は御霊（みたま）の賜物（たまもの）の一つである。この賜物（たまもの）には，人の本来の姿や，霊的な現れの源や意味を理解することも含まれる。

人は外の顔かたちを見，主は心を見る（サ上 16：7)。彼らは悪を呼んで善といい（イザ 5：20〔2 ニフ 15：20〕)。神につけることは御霊（みたま）によって判断される（1コリ 2：14)。ほかの人には霊を見わける力が与えられている（1コリ 12：10)。思いを見抜くことができた（アル 18：18，32)。小さな声でありながら，聞いた人々の心の中まで貫いた（3ニフ 11：3)。欺かれないために熱心に最善の賜物（たまもの）を求め(教義 46:8，23)。教会の指導者は御霊（みたま）の賜物（たまもの）を見分ける力を与えられる（教義 46：27)。光に満たされるその体はすべてのことを悟る（教義 88：67)。モーセは地を見た。彼は神の御霊（みたま）によってそれを見極めた（モセ 1：27)。

死刑　「殺人」参照

犯罪者に対してその命を絶つ刑罰。特に殺人罪に対する罰として行われる。

人の血を流すものは，人に血を流される（創世 9：6〔JS 創世 9：12−13〕)。故殺人（こさつにん）は必ず殺されなければならない（民数 35：16)。故意に人を殺す者は災いである。彼は死ぬからである（2ニフ 9：35)。法律により，あなたに死刑を宣告する（アル 1：13−14)。人を殺す者は死刑に処せられた（アル 1：18)。法律は人を殺した当人の命を要求する（アル 34：12)。殺す者は，死ななければならない（教義 42：19)。

示現　「啓示」「最初の示現」「夢」参照

聖霊の力を通して与えられる，出来事や人物，物事についての目に見える啓示。

重要な啓示として，次のような例を挙げることができる。終わりの時についてのエゼキエルの示現（エゼ 37−39 章)，神の右にイエスが立っておられるのを見たステパノの示現（使徒 7：55−56)，終わりの時についてのヨハネの黙示（黙示 4−21 章)，リーハイとニーファイの命の木の示現（1 ニフ 8；10−14 章)，主の天使を見た息子アルマの示現（モサ 27 章)，地に住むすべての民を見たヤレドの兄弟の示現（エテ 3：25)，栄光の示現（教義 76 章)，カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに与えられた示現（教義 110 章)，死者の贖（あがな）いに関するジョセフ・F・スミスの示現

(教義138章), 神と創造についてのモーセの示現（モセ1章），神にまみえたエノクの示現（モセ6−7章），ジョセフ・スミスの最初の示現（ジ一歴史1)。

示現がなければ民は滅びる（KJ箴言29：18)。若者たちは幻を見る（ヨエ2：28〔使徒2：17〕)。神は，示現によってわたしに知識を授けられた(2ニフ4：23)。神の前から遣わされた使者である（ジ一歴史1：33)。わたしたちは，預言，啓示，示現があることを信じる（箇条1：7)。

地獄　「悪魔」「死（霊の)」「罰の定め」「滅びの子」参照

末日の啓示では，地獄という言葉は少なくとも二つの意味で用いられている。一つは，現世において不従順であった人々が霊界で一時的にとどまる場所を指す。この意味では，地獄にも終わりがある。霊たちはそこで福音を教えられ，悔い改めた後に，自分にふさわしい栄えの階級に復活する。悔い改めないながらも，滅びの子とはならない者は，福千年の間地獄にとどまる。この苦しみの千年の後に，彼らは星の栄えの栄光に復活する（教義76：81−86；88：100−101)。

もう一つは，イエス・キリストの贖罪によって贖われない者が永久にとどまる所を指す。この意味では，地獄は永久的である。この地獄は「汚れたまま」の者のためにある（教義88：35, 102)。サタンとその使い，ならびに滅びの子，すなわち御父から御子を示された後に御子を否定した者たちが永遠に住む場所である（教義76：43−46)。

聖典には，地獄を外の暗闇と表現している箇所が幾つかある。

あなたはわたしを陰府に捨ておかれず（詩篇16：10〔詩篇86：13〕)。地獄の消えない火の中に落ち込む（マコ9：43〔モサ2：38〕)。金持が黄泉にいて苦しみながら，目をあげると（ルカ16：22−23〔教義104：18〕)。死も黄泉もその中にいる死人を出し（黙示20：13)。用意された場所が一つあります。まことに，それはあの恐ろしい地獄です(1ニフ15:35)。肉の思いは，悪魔の霊に力を与え，あなたがたを捕らえて地獄に落とし（2ニフ2：29)。キリストは死と地獄から逃れる道を備えてくださった（2ニフ9：10−12)。汚れている者は永遠の苦痛の中に入る(2ニフ9：16)。悪魔は人々をだまし，巧みに地獄に誘い落とすのである（2ニフ28：21)。イエスがわたしを地獄から贖ってくださった（2ニフ33：6)。地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい（ヤコ3：11)。悪魔に捕らえられて，悪魔の意のままに滅びに引き込まれる。地獄の鎖とはこのことを意味する（アル12：11)。悪人の霊は外の暗闇に追い出され，復活の時までその状態にとどまる（アル40：13−14)。汚れた者が神とともに住むときの悲惨は，地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう（モル9：4)。わたしの手から与えられる罰は無窮の罰である（教義19：10−12)。地獄は悪魔とその使いのために用意された場所である（教義29：37−38)。神を認める者は死と地獄の鎖から解放される（教義138：23)。

支持（教会指導者の）「同意の律法」参照

中央また地元の教会指導者として働く人々を支えると誓うこと。

全会衆の前に立たせて，彼らの前で職に任じなさい（民数 27：18−19）。民はみな「王万歳」と叫んだ（サ上 10：24）。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう（歴下 20：20）。あなたがたの指導者たちに従いなさい（ヘブ 13：17）。あなたはつぶやくことがなかったので，主から恵みを受けるであろう（1ニフ 3：6）。預言者たちを受け入れた人々は命を助けられた（3ニフ 10：12−13）。この 12 人の言葉に注意を払うならば，あなたがたは幸いである（3ニフ 12：1）。わたし自身の声によろうと，わたしの僕（しもべ）たちの声によろうと，それは同じである（教義 1：38）。あたかもわたし自身の口から出ているかのように，彼の言葉を受け入れなければならない（教義 21：5）。この神権を受けるすべての者は，わたしを受け入れるのである（教義 84：35−38）。だれでもわたしを受け入れる者は，わたしが遣わした者を受け入れる（教義 112：20）。わたしが任命したこれらの者の声にも聞き従おうとしなければ，祝福されないであろう（教義 124：45−46）。

士師記

『旧約聖書』の中の 1 書。士師記は，ヨシュアの死からサムエルの誕生に至るまでのイスラエル人を扱ったものである。

第 1−3 章は，士師記全体の序に当たり，イスラエル人が敵をことごとく追い出すことをしなかったために（士師 1：16−35），信仰の喪失，不信者との結婚，偶像礼拝という結果を招いてしまったことが説明されている。第 3−5 章には，イスラエルをカナン人から救ったデボラとバラクの話が記されている。第 6−8 章は，主の祝福を受けてイスラエルをミデアン人から救った，信仰を鼓舞するギデオンの話である。第 9−12 章には，主として背教と抑圧の下でイスラエルの士師として働いた幾人かの話が載せられている。第 13−16 章には，最後の士師サムソンの隆盛と衰亡が描かれている。最後の第 17−21 章は付録に相当するもので，イスラエルの罪の深さを明らかにしている。

死者の救い「贖（あがな）いの計画」「覚えの書」「系図」「救い」参照

福音の救いの儀式を受けることなく死んだ人々のために，生きているふさわしい教会員が神殿でこれらの儀式を執行すること。死者は霊界で福音を教えられ，地上で彼らのために執行された儀式を受け入れることができる。

忠実な教会員は，先祖の名前や出生年月日を明らかにすることにより，彼らのための救いの儀式が執行されるように，家族の歴史を調べ，記録を作成する。

捕えられた人に「出よ」と言い（イザ 49：9〔イザ 24：22；1 ニフ 21：9〕）。捕われ人に放免を告げ（イザ 61:1〔ルカ 4：18〕）。父の心をその子供たちに向けさせ（マラ 4：5−6〔3 ニフ 25：5

−6；教義 110：13−16〕)。死んだ人たちが，神の子の声を聞く時が来る（ヨハ 5：25)。なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか（1コリ 15：29)。獄に捕われている霊どものところに下って行き，宣(の)べ伝えることをされた（1ペテ 3：18−20)。死人にさえ福音が宣(の)べ伝えられたのは（1ペテ 4：6)。獄にとどめられた人々の霊に，御子が訪れて，福音を宣(の)べ伝えられた（教義 76：73)。獄において彼らの分を受けた者たちの贖(あがな)いが来る（教義 88：99)。わたしの聖徒たちが死者の代わりにバプテスマを受けるバプテスマフォントが地上にない（教義 124：29)。福音を知らずに死んだ者で，受け入れたであろう者は皆，日の栄えの王国を受け継ぐ者となる（教義 137：7−10)。神の御子が現れて，忠実であった囚(とら)われ人に自由を宣言された（教義 138：18)。獄にいた霊たちの多くが出て来て（モセ 7：57)。

シズ　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の人物。ヤレド人の軍隊の指導者。シズはヤレド人の国家全体を滅ぼした大戦争の最後に死んだ（エテ 14：17−15：31)。

死すべき状態　「体」「死（肉体の）」「堕落（アダムとエバの）」「世」参照

誕生から肉体の死に至るまでの期間。第二の位と呼ばれることもある。

それを取って食べると，きっと死ぬであろう（創世 2：16−17〔モセ 3：16−17〕)。ちりは土に帰り，霊は神に帰る（伝道 12：7〔創世 3：19；モセ 4：25〕)。死ぬべきからだを罪の支配にゆだねることをせず（ロマ 6：12)。死ぬものは必ず死なないものを着ることになる（1コリ 15：53〔エノ 1：27；モサ 16：10；モル 6：21〕)。人の状態は試しの状態となった（2ニフ 2：21〔アル 12：24；アル 42：10〕)。アダムが堕落したのは人が存在するためであり（2ニフ 2：25)。この死すべき体がよみがえって不死のものとなり（アル 5：15)。現世は人が神にお会いする用意をする時期である（アル 34：32)。死に至るまでも恐れてはならない。この世ではあなたがたの喜びは満たされない（教義 101：36)。第二の位を守る者は，とこしえに栄光をその頭(こうべ)に付け加えられる（アブ 3：26)。

至聖所　「神殿；主の宮」「幕屋」参照

モーセの幕屋の中で，また後には神殿の中で最も神聖な部屋（出エ 26：33−34)。

舌　「異言の賜物(たまもの)」参照

口から出る言葉の象徴。聖徒は舌を制しなければならない。つまり，口から出る言葉を制しなければならないということである。舌はまた言語と民の象徴でもあり，その場合は「国語の民」と訳出される。最後には，すべてのひざがかがみ，すべての舌が神を認めて告白する（イザ 45：23；ロマ 14：11)。

あなたの舌をおさえて悪を言わせず（詩篇 34：13〔1ペテ 3：10〕)。口と舌とを守る者はその魂を守って，悩みにあわせない（箴言 21：23)。もし

人が舌を制することをしないならば，その人の信心はむなしい（新ヤコ 1：26）。言葉の上であやまちのない人があれば，そういう人は，完全な人である（新ヤコ 3：1−13）。わたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後，あなたの舌は緩められる（教義 11：21）。

七十人　「使徒」「メルキゼデク神権」参照

男性が任じられるメルキゼデク神権の職の一つ。今日，七十人定員会は使徒的な権能を授けられた中央幹部であるが，使徒に聖任されてはいない。すべての時間をその務めにささげている。

主は別に七十人を選ばれた（KJ ルカ 10：1）。七十人も召されて，福音を宣（の）べ伝え，イエス・キリストの特別な証人となる（教義 107：25−26）。七十人は，十二使徒会，すなわち巡回高等評議会の指示の下に主の名において行動し，教会を築き上げ，すべての国々において教会の諸事をすべて整える（教義 107：34）。必要とされれば，70 の 7 倍まで，別の七十人を選び（教義 107：93−97）。この定員会は，全世界でわたしの名について証（あかし）する巡回長老のために設けられている（教義 124：138−139）。

十戒（じっかい）　「戒め（神の）」「モーセ」参照

道徳的規範として預言者モーセを通して神から与えられた 10 の律法。

十戒を表すヘブライ語は「10 の言葉」という意味である。十戒は「契約」（申命 9：9）あるいは「あかし」（出エ 25：21；32：15）とも呼ばれている。神がモーセに十戒を与え，さらにモーセを通してイスラエルに与えられたことは，出エジプト 19：9−20：23；32：15−19；34：1 に記録されている。十戒は 2 枚の石の板に刻まれ，その板は箱の中に収められた。そのために，この箱は「契約の箱」（民数 10：33）と呼ばれた。主は申命 6：4−5 とレビ 19：18 を引用して，十戒を「ふたつの大切な戒め」に要約された（マタ 22：37−39）。

十戒は末日の啓示の中でも繰り返し述べられている（JS 出エ 34：1−2；モサ 12：32−37；13：12−24；教義 42：18−28；59：5−13）。

執事　「アロン神権」参照

使徒パウロの時代における教会の奉仕の召し（ピリ 1：1；1 テモ 3：8−13）。アロン神権の職の一つ（教義 20：38，57 − 59；84：30，111；107：85）。

使徒　「啓示」「弟子」参照

使徒に相当するギリシャ語には，「遣わされた者」の意味がある。これは，イエスが地上で務めを果たしておられたときに，最も身近な弟子となり助け手となるように選び聖任された 12 人の人々に，御自身でお与えになった呼び名である（ルカ 6：13；ヨハ 15：16）。イエスは昇天の後，御自身の代理人として，御自身に代わって務めを果たさせるために彼らを遣わされた。昔も，また今日の回復された教会の十二使徒定員会においても，使徒はイ

エス・キリストの神性と死者の中からの復活とを証する，全世界への特別な証人である（使徒 1：22；教義 107：23）。

キリストの教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：20；4：11）。リーハイとニーファイは，イエスに従う 12 人の使徒を見た（1ニフ 1：10；11：34）。使徒たちがイスラエルの家を裁く（モル 3：18）。預言者たちや使徒たちの言葉を心に留めようとしない者たちが，民の中から絶たれる（教義 1：14〔3 ニフ 12：1〕）。十二使徒の召しと使命が明らかにされた（教義 18:26−36）。ジョセフ・スミスが使徒に聖任された（教義 20：2；21：1）。使徒はキリストの名の特別な証人であり，その務めの鍵を持つ（教義 27：12〔教義 112：30−32〕）。十二使徒は，大管長会と同等の権能と力を持つ定員会を構成する（教義 107：23−24）。十二使徒会は巡回管理高等評議会である（教義 107：33）。十二使徒は伝道活動の鍵を持つ（教義 107：35）。使徒の務めの幾つかが述べられる（教義 107：58）。わたしは十二使徒のすべてに言う。わたしに従い，わたしの羊を養いなさい（教義 112：14−15）。わたしたちは，使徒があることを信じる（箇条 1：6）。

使徒の選任：使徒は主によって選ばれた（ヨハネ 6：70；15：16）。

イエスは弟子たちの中から 12 人の使徒を選ばれた（ルカ 6：13−16）。マッテヤが使徒として選ばれた（使徒 1：21−26）。オリバー・カウドリとデビッド・ホイットマーは十二使徒を探し出すように命じられた（教義 18：37−39）。

使徒行伝　「ルカ」参照

ルカが書いてテオピロに献呈した 2 部作の 2 番目の書である。1 番目の書は「ルカによる福音書」として知られている。第 1−12 章には，救い主の死と復活から間もなく，ペテロの指導の下に行われた十二使徒のおもな伝道活動が記されている。第 13−28 章は，使徒パウロの旅と伝道のあらましを伝えている。

シナイ山　「モーセ」「モーセの律法」参照

シナイ半島にある山。モーセとイスラエル人は，エジプトから脱出した後 3 か月間この近くに宿営した。この山はホレブ山とも呼ばれる（出エ 3：1）。ここで神はイスラエルの家のために，モーセに律法を授けられた。またここで幕屋が建設された（出エ 19:2；20：18；24：12；32：15）。

至福の教え　「山上の垂訓」参照

イエスが山上の説教の中で述べられた一連の教えで，優れた霊的特質について説明したものである（マタ 5：3−12；ルカ 6：20−23）。一つ一つの教えがそれぞれに，前に述べられている教えを基にして組み立てられている。3 ニーファイ 12 章には，この至福の教えがさらに包括的かつ正確な形で記録されている。

シブロン　「アルマ（アルマの息子）」

参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの息子。シブロンはゾーラム人に福音を教え，その義のために迫害された。主はその忠実さと忍耐とを御覧になって，彼を迫害から救い出された（アル 38 章）。シブロンは一時期，ニーファイ人の記録を保管した（アル 63:1−2, 11−13）。

詩篇　「音楽」「ダビデ」参照

霊感によって作られた詩，または賛美歌。

詩篇：『旧約聖書』の中の 1 書。詩を集めたもので，その多くはキリストのことを述べている。詩篇は『新約聖書』にしばしば引用されている。

詩篇の多くはダビデによって書かれた。詩篇は神への賛美として書かれ，その多くに旋律が付けられた。

姉妹　「兄弟」「人」参照

天の御父の子供として，すべての人は男女を問わず，霊的な意味で兄弟姉妹である。末日聖徒イエス・キリスト教会では，女性の会員や教会に好意的な女性を姉妹と呼ぶことがよくある。

わたしの父のみこころを行う者はだれでも，わたしの兄弟，また姉妹なのである（マタ 12：50〔マコ 3：35〕）。教会の兄弟姉妹間の罪に関する告白について律法が定められる（教義 42：88−93）。

自慢；誇り　「高慢」参照

シメオン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとその妻レアの間に生まれた 2 番目の息子（創世 29：33；35：23；出エ 1：2）。シメオンはレビとともにシケム人を虐殺した（創世 34：25−31）。シメオンについてのヤコブの預言は，創世 49：5−7 に記されている。

シメオンの部族：シメオンの子孫はしばしばユダの部族とともに生活し，ユダ王国の領土内に住んだ（ヨシ 19：1−9；歴上 4：24−33）。シメオンの部族はユダと連合して，カナン人と戦った（士師 1：3，17）。彼らは後にダビデの軍隊に加わった（歴上 12：25）。

シモン（カナン人）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストが最初に召された十二使徒の一人（マタ 10：2−4）。

シモン・ペテロ　「ペテロ」参照

邪悪　「暗闇（くらやみ）（霊的な）」「汚れ」「不義」「不信心」参照

よこしまで悪いこと。神の戒めに従わないこと。

どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって，神に罪を犯すことができましょう（創世 39：7−9）。主は悪（あ）しき者に遠ざかり，正しい者の祈（いのり）を聞かれる（箴言 15：29）。悪（あ）しき者が治めるとき，民はうめき苦しむ（箴言 29:2〔教義 98：9〕）。その悪人を，あなたがたの中から除いてしまいなさい（1コリ

5：13)。わたしたちの戦いは，天上にいる悪の霊に対する戦いである（エペ6：12)。悪人から去り，離れ，彼らの清くないものに触れてはならない（アル5：56−57〔教義38：42〕)。これが悪人の最後の状態である（アル34：35〔アル40：13−14〕)。悪事は決して幸福を生じたことがない（アル41：10)。悪人によって悪人が罰せられる(モル4：5〔教義63：33〕)。そのときに，義人と悪人の完全な分離がある(教義63：54)。悪人の終わりが来る（ジ―マタ1：55)。

ジャクソン郡（ミズーリ州）　「新エルサレム」参照

終わりの時における聖徒の集合地。ここは聖徒たちが新エルサレムを建設する中心の場所である（教義57−58；82章；101：69−71；105：28)。

シャデラク　「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク，メシャク，アベデネゴの3人のイスラエルの若者は，ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。シャデラクのヘブライ語名は，ハナニヤである。この4人の若者は，王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ(ダニ1章)。シャデラク，メシャク，アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが，神の御子によって守られた（ダニ3章)。

主　「イエス・キリスト」「神；神会」参照

父なる神と救い主イエス・キリストに対する深い尊敬の念を示す呼び名。この呼び名は，被造物に対する愛に満ちた至高の主としての御二方の位を示している。

主にとって不可能なことがありましょうか（創世18：14)。主はモーセと顔を合わせて語られた（出エ33：11)。あなたの神，主を愛さなければならない（申命6：5〔マタ22：37；マコ12：30〕)。わたしとわたしの家とは共に主に仕えます（ヨシ24：15)。主はわたしの牧者であって（詩篇23：1)。強く勇ましい主，戦いに勇ましい主である（詩篇24：8)。主なる神はわが力（イザ12：2〔2ニフ22：2〕)。主なるわたしが，あなたの救主(すくいぬし)，また，あなたのあがない主（イザ60：16)。主なるあなたの神を拝し(マタ4：10〔ルカ4：8〕)。主がどんなに大きなことをしてくださったか(マコ5：19)。唯一の主イエス・キリストのみがいますのである（1コリ8：6)。主は一つ，信仰は一つ，バプテスマは一つ（エペ4：5)。主ご自身が天から下ってこられる（1テサ4：16)。わたしは行って，主が命じられたことを行います（1ニフ3：7)。主なる神は，義をもって貧しい者を裁き（2ニフ30：9)。アブラハムの神である主なる神は，イスラエル人を奴隷の状態から救い出された（アル29：11)。主イエス・キリストを信じる以外に，何事もこの民を救うことはできない（ヒラ13：6〔モサ3：12〕)。あなたの主であるイエス・キリストの言葉に耳を傾けなさい（教義15：1)。常に主の顔を求めなさい（教義101：38)。主は赤い装いで再臨される（教義133：

48〔イザ 63：1−4〕)。アブラハムは顔と顔を合わせて主と語った（アブ 3：11)。わたしたちは，福音の第一の原則は主イエス・キリストを信じる信仰であることを信じる（箇条 1：4)。

自由　「選択の自由」「とりこ」参照

何の束縛もなく行動し，考えることのできる状態。福音の原則に従順な人は，罪という霊的な束縛から解放される（ヨハ 8：31−36)。

わたしはあなたのさとしを求めたので，自由に歩むことができます（詩篇 119：45)。真理は，あなたがたに自由を得させるであろう（ヨハ 8：32)。罪から解放される者は永遠の命を受ける（ロマ 6：19−23)。主の霊のあるところには，自由がある（2コリ 3：17)。自由を得させるために，キリストはわたしたちを解放して下さった（ガラ 5：1〔教義 88：86〕)。人は，自由と永遠の命を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27)。イスラエルの家の一本の義にかなった枝が，束縛から自由へ連れ出される（2ニフ 3：5)。この地は自由の地となり（2ニフ 10：11)。彼らは主なる神に，自由を保つことができるように叫び求めた（アル 43：48−50)。モロナイはニーファイ人の中に自由の旗を掲げさせた（アル 46：36)。モロナイは自分の国が自由であることを喜びとした（アル 48：11)。神の御霊（みたま）は自由の精神である（アル 61：15)。わたしに従いなさい。そうすれば，あなたがたは自由な民となり（教義 38：22)。主とその僕（しもべ）たちは囚（とら）われ人に自由を宣言された（教義 138：18，31，42)。

収穫　「刈り入れ」参照

十字架　「イエス・キリスト」「ゴルゴタ」「十字架の刑」「贖罪（しょくざい）」「聖餐（せいさん）」参照

イエス・キリストの十字架の刑に使われた木製の刑具（マコ 15：20−26)。世の多くの人々は今日，十字架をキリストの十字架の刑と贖（あがな）いの犠牲の象徴と考えている。しかし主は，十字架の刑と犠牲の御自身の象徴として，聖餐（せいさん）のパンと水を定められた（マタ 26：26−28；教義 20：40，75−79)。聖典には，自分の十字架を負う者は，イエス・キリストを深く愛して，不信心とあらゆる世の欲を捨て，主の戒めを守ると説かれている（JS マタ 16：25−26)。

十字架を負うて，わたしに従ってきなさい（マコ 8：34〔3 ニフ 12：30；教義 23：6〕)。イエスは，十字架を忍び，神の御座の右に座するに至った（ヘブ 12：2)。神の小羊は世の罪のために十字架につけられて殺された（1ニフ 11：33)。世の十字架を堪え忍んできた人々は，神の王国を受け継ぐ（2ニフ 9：18)。父は，わたしが十字架に上げられるようにと，わたしを遣わされた（3ニフ 27：14−15)。自分の十字架を負ってわたしに従おうとせず，またわたしの戒めを守ろうとしない者は，救われないであろう（教義 56：2)。人の子が十字架に上げられるのが見えた（モセ 7：55)。

十字架の刑　「イエス・キリスト」「ゴルゴタ」「十字架」「贖罪（しょくざい）」参照

新約の時代に広く行われたローマの死刑執行法。この刑を受ける者は，手

足を十字架に縛り付けられるか，釘を打ち付けられるかして殺された。普通この刑は，奴隷や重罪人に対してのみ行われた。多くの場合，十字架につけられる前に鞭打ちの刑が執行された（マコ 15：15）。この刑を受ける者は通常，自分で十字架を刑場まで運ばされた（ヨハ 19：16−17）。またその衣服は，刑を執行する兵士のものとなった（マタ 27：35）。十字架は，受刑者の足が地上からわずか 30 ないし 60cm の高さになるように，地中に打ち立てられた。また，受刑者が息を引き取るまで，兵士は十字架を見張った。絶命まで 3 日かかることもあった（ヨハ 19：31−37）。

イエス・キリストが十字架につけられたのは，カイザルへの反逆の罪と，自らを神の子と唱える冒瀆の罪を犯したという，不信者たちの偽証のためであった。イエスは紫の上着を着せられ（ヨハ 19：2），またいばらの冠をかぶせられて，ほかにも様々な辱めを受けられた（マタ 26：67；マコ 14：65）。

邪悪な者たちはメシヤの手と足を刺し貫く（詩篇 22：11−18）。キリストはほふり場にひかれる小羊のように行く（イザ 53：7）。イエスは御自身が十字架につけられることを予告された（マタ 20：18−19）。キリストの十字架の刑について述べられる（マタ 27：22−50〔マコ 15：22−37；ルカ 23：26−46；ヨハ 19：17−30〕）。ニーファイは，神の小羊が十字架につけられるのを示現で見た（1ニフ 11：33）。ニーファイはキリストの苦しみと十字架の刑について述べた（1ニフ 19：9−14）。ヤコブはイスラエルの聖者の働きと十字架の刑について述べた（2ニフ 6：9）。アメリカ大陸に起こった暴風雨，地震，火事，旋風で，エルサレムでのキリストの十字架の刑が証明された（3ニフ 8 章）。わたしは十字架につけられたイエスである（教義 45：51−52）。死者の中での救い主の働きは，十字架上の死と復活の間の短い時間に限られていた（教義 138：27）。

従順；従う　「歩む（神とともに）」「戒め（神の）」「聞き従う；聴く」「祝福」「喜び」「律法」参照

霊的な意味で，従順とは神の御心を行うことである。

ノアはすべて神の命じられたようにした（創世 6：22）。アブラハムは主に従った（創世 22：15−18）。わたしたちは主が仰せられたことを皆，従順に行います（出エ 24：7）。イスラエルよ，聞いて，それを守り行え（申命 6：1−3）。主を愛して，その声を聞き，主につき従わなければならない（申命 30：20）。従うことは犠牲にまさり（サ上 15：22）。神を恐れ，その命令を守れ（伝道 12：13−14）。みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである（マタ 7：21〔3ニフ 14：21〕）。神のみこころを行おうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教が神からのものか，わかるであろう（ヨハ 7：17）。人間に従うよりは，神に従うべきである（使徒 5：29）。主にあって両親に従いなさい（エペ 6：1〔コロ 3：20〕）。わたしは行って，主が命じられたことを行います（1ニフ 3:7）。わたしは御霊の声に従い（1

ニフ 4：6−18)。もし人の子らが神の戒めを守るならば,神は彼らを養い（1ニフ 17：3)。悪霊に従おうとすることのないように気をつけなさい（モサ 2：32−33，37〔教義 29：45〕)。人は自分が従った霊に応じて報いを刈り取る（アル 3：26−27)。人は多くのことをその自由意志によって行わなければならない（教義 58：26−29)。神の手を認めない者と，神の戒めに従わない者のほかに，人はどのようなことについても神を怒らせることはない（教義 59：21)。あなたがたがわたしの言うことを行うとき，主なるわたしはそれに対して義務を負う（教義 82：10)。わたしの声に従う者は皆，わたしの顔を見て，わたしがいることを知るであろう（教義 93：1)。民は従順を学ぶまで，必ず懲らしめを受けなければならない（教義 105：6)。神から祝福を受けるときは，それが基づく律法に従うことによる（教義 130：21)。アダムは従順であった（モセ 5：5)。わたしたちは彼らを試し，何であろうと，主が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう（アブ 3：25)。

十二使徒定員会　「使徒」参照

十二使徒評議会　「使徒」参照

自由の旗　「モロナイ（司令官)」参照

『モルモン書』の中でニーファイ人の軍隊の総司令官モロナイが掲げた旗。モロナイは，自分たちの宗教と自由と平和と家族を守るようニーファイ人を奮い立たせるためにこの旗を作った。

モロナイは自分の衣を裂いて，自由の旗を作った（アル 46：12−13)。この旗を立てて守ろうとする者たちは聖約を交わした（アル 46：20−22)。モロナイはすべての塔の上に自由の旗を掲げさせた（アル 46：36〔アル 51：20〕)。

十部族　「イスラエル」参照

什分の一（じゅうぶん）　「金銭」「ささげ物」参照

教会を通して主にささげる自分の年収の 10 分の 1。什分（じゅうぶん）の一基金は教会や神殿の建築，伝道活動の支援など，地上に神の王国を築くために用いられる。

アブラムはメルキゼデクにすべての物の十分の一を贈った（創世 14：18−20〔ヘブ 7：1−2，9；アル 13：15〕)。十分の一はすべて主のものであって，主に聖なる物である（レビ 27：30−34)。あなたはすべての産物の十分の一を必ず取り分けなければならない（申命 14：22，28)。イスラエルの人々はすべての物の十分の一をおびただしく携えて来た（歴下 31：5)。人は神の物を盗むことをするだろうか。十分の一と，ささげ物をもってである（マラ 3：8−11〔3 ニフ 24：8−11〕)。什分（じゅうぶん）の一を納める者は，主の来臨の時に焼かれない（教義 64:23〔教義 85：3〕)。主の家は主の民の什分（じゅうぶん）の一によって建てられる（教義 97：11−12)。主は什分（じゅうぶん）の一の律法を啓示された（教義 119 章)。什分（じゅうぶん）の一は評議会によって配分される（教義 120 章)。

祝福　「感謝」「祝福師の祝福」「病人への癒（いや）しの祝福」「恵み」「律法」参照

神の恵みを人に授けること。真の幸福，喜び，成功に寄与するものはすべて祝福である。

祝福はすべて永遠の律法に基づいて与えられる（教義 130：20−21）。神は御自身の子供たちに人生の中で喜びを見いだすように望んでおられる（2ニフ 2：25）。そのために神は，戒めに従うことへの結果として（教義 82：10），また祈りや神権の儀式への答えとして（教義 19：38；107：65−67），あるいは恵みによって（2ニフ 25：23）人に祝福をお授けになる。

祝福された幸いな状態について述べたものとしてよく知られているのが，至福の教えである（マタ 5：1−12；3ニフ 12：1−12）。

一般：わたしはあなたを大いなる国民とし，あなたを祝福し（創世 12：2−3〔1ニフ 15：18；アブ 2：9−11〕）。正しい者のこうべには祝福があり（箴言 10：6）。忠実な人は多くの祝福を得る（箴言 28：20）。主は天の窓を開いて，あふれる恵みを注がれる（マラ 3：10〔3ニフ 24：10〕）。至福の教えによって祝福が約束される（マタ 5：1−12〔3ニフ 12：1−12〕）。小羊の婚宴に招かれた者は，さいわいである（黙示 19：9）。義にかなった者は神から恵みを受けます（1ニフ 17：35〔モサ 10：13〕）。聞き従うならば，わたしはあなたがたに祝福を残そう（2ニフ 1：28）。わたしは同じ祝福をあなたがたに残す（2ニフ 4：9）。神はすぐに祝福を授けてくださる（モサ 2：24）。主を信頼する者たちを，主は祝福し，栄えさせられる（ヒラ 12：1）。わたしの業を起こす助けをしなさい。そうすれば，あなたは祝福されるであろう（教義 6：9）。常に祈りなさい。そうすれば，あなたの祝福は大いなるものとなる（教義 19：38）。バプテスマを受けなさい。そうすれば，あなたはわたしの御霊（みたま）と，かつて知らなかったほどの大いなる祝福を受けるであろう（教義 39：10）。多くの艱難（かんなん）の後に祝福は来る（教義 58：4）。人々が従わないと，わたしは命じたことを取り消し，彼らは祝福を受けない（教義 58：32）。あなたがたは，父がどれほどの大いなる祝福をあなたがたのために備えておられるかを理解していない（教義 78：17）。大神権者から，儀式の執行と教会員への祝福が来る（教義 107：65−67）。不変の律法があり，すべての祝福はこれに基づいている（教義 130：20）。祝福を受けたいと思う者は皆，律法に従わなければならない（教義 132：5）。主を愛する者たちのために取っておかれたすべての祝福にあずかる者となる（教義 138：52）。アブラハムは先祖の祝福と，それらの祝福をつかさどる権利とを得ようと努めた（アブ 1：2）。

子供の祝福：彼らを抱き，手をその上において祝福された（マコ 10：16）。イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し（3ニフ 17：21）。長老たちは，イエス・キリストの名によって子供を祝福しなければならない（教義 20：70）。

祝福師　「祝福師の祝福」「父（現世の）」「伝道者」「メルキゼデク神権」参照

メルキゼデク神権の職の一つ。伝道者と言われることもある。祝福師は，ふ

さわしい教会員に特別な祝福を授ける。

彼は，ある人を預言者とし，ある人を伝道者とし（エペ 4：11〔箇条 1：6〕）。十二使徒は，福音の教導者を聖任しなければならない（教義 107：39）。ハイラムが神権の祝福師の職に就くためである（教義 124：91−92, 124；135：1）。

祝福師の祝福　「祝福師」「父(現世の)」「伝道者」参照

祝福師がふさわしい教会員に授ける祝福。祝福師の祝福には，それを受ける人に対する主の勧告と，イスラエルの家における血統の宣言が含まれる。

イスラエルは右の手を伸べてエフライムの頭に置いた（創世 48：14）。ヤコブは息子たちとその子孫に祝福を授けた（創世 49 章）。リーハイは子孫に祝福を授けた（2ニフ 4：3−11）。

取税人　「ローマ帝国」参照

古代ローマにおいて政府のために税の徴収を行った人。一般に，ユダヤ人は取税人を嫌っていた。取税人の中には，すぐに福音を受け入れた人々がいた（マタ 9：9−10；ルカ 19：2−8）。

出エジプト記　「五書」参照

モーセによって書かれた『旧約聖書』の中の 1 書。この書にはエジプトからのイスラエル人の脱出の様子が描かれている。出エジプト記に書かれている古代イスラエルの歴史は，次の 3 つの部分に分けることができる。(1) エジプトにおけるイスラエルの民の奴隷の境遇。(2) モーセの指導の下に行われたエジプトからの脱出。(3) 宗教上ならびに政治上の生活における神の業への献身。

最初の部分である第 1−15 章には，イスラエルがエジプトで受けた圧迫，モーセの生涯の初期の物語と彼に与えられた召し，エジプトからの脱出と過越，紅海への行進，パロの軍勢の滅亡，モーセの勝利の歌が記されている。

第 2 の部分の第 15−18 章には，イスラエルの贖い，紅海からシナイへの旅の途中での出来事，メラの苦い水の奇跡，うずらとマナが与えられたこと，安息日の遵守，レピデムでの水の奇跡とアマレク人との戦い，イスラエルの陣営へのエテロの到着と民の統治に関するエテロの助言が記されている。

第 3 の部分の第 19−40 章には，シナイでの神聖な出来事の間に，イスラエルの民が神の務めに献身したことが記されている。主はイスラエルの民を祭司の国とし，聖なる民とされた。また彼らに十戒を与え，幕屋とその調度品について，また幕屋内での礼拝について指示を与えられた。続いて金の子牛を礼拝した民の罪についての記録があり，最後に幕屋の建設とそこでの務めに関する規定が書かれている。

主の祈り　「祈り」参照

すべての祈りのひながたとして，救い主が弟子たちのためにささげられた祈り（マタ 6：9−13；3 ニフ 13：9−13）。

主の晩餐　「聖餐」参照

主の日　「安息日」「イエス・キリストの再臨」「最後の裁き」参照

主の宮　「神殿；主の宮」参照

殉教者；殉教

キリストや福音，義にかなった信条や原則を捨てるよりは，自分の命を捨てる方を選ぶ人。

アベルの血からザカリヤの血に至るまで，義人の血の報いが，ことごとくあなたがたに及ぶであろう（マタ 23：35〔ルカ 11：50〕）。キリストのため，また福音のために自分の命を失う者は，それを救うであろう（マコ 8:35〔教義 98：13〕）。ステパノに石を投げつけ（使徒 7：59〔使徒 22：20〕）。遺言には，遺言者の死の証明が必要である（ヘブ 9：16−17）。アビナダイは倒れて焼け死んだ（モサ 17：20）。改心したアモナイハの民は火の中に投げ込まれた（アル 14:8−11）。多くの預言者が，これらのことについて証したために殺された（3ニフ 10：15）。わたしの大義において自分の命を捨てる者は，永遠の命を見いだすであろう（教義 98：13−14）。ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは福音の回復のための殉教者であった（教義 135 章）。ジョセフ・スミスは血をもって自分の証を確実なものとした（教義 136：39）。

純潔　「姦淫」「徳」「肉欲」「不貞」参照

男性と女性の性的な清さ。

ヨセフはポテパルの妻の誘惑を退けた（創世 39：7−21〔教義 42：24；59：6〕）。あなたは姦淫してはならない（出エ 20：14）。賢い妻はその夫の冠である（箴言 12：4〔箴言 31：10〕）。あなたがたは知らないのか。自分のからだは，聖霊の宮であって（1コリ 6：18−19）。あなたは純潔にも，信者の模範になりなさい（1テモ 4：12）。清くない者は神とともに住むことができない（1ニフ 10：21）。主なる神であるわたしは，婦人たちの貞節を喜ばしく思う（ヤコ 2：28）。性的な罪は忌まわしい行いである（アル 39：1−13）。純潔と徳はあらゆるものに勝って最も大切で貴いものである（モロ 9：9）。わたしたちは，純潔であるべきことを信じる（箇条 1：13）。

昇栄　「永遠の命」「冠」「贖罪」「人―天の御父のようになる可能性を持った人間」「日の栄え」参照

日の栄えの王国の中で最も幸福で栄光に満ちた状態。

あなたの前には満ちあふれる喜びがあり（詩篇 16：11）。彼らは神々，すなわち神の子である。それゆえ，すべてのものは彼らのものである（教義 76:58−59）。聖徒たちは受け継ぎを得，小羊と等しい者とされる（教義 88：107）。これらの天使たちはわたしの律法に従わなかった。それゆえ，彼らは昇栄することなく，それぞれ独りのままでいることになる（教義 132：17）。昇栄を得るには神の律法に従って結婚しなければならない（教義 132：19−20）。昇栄に至る門は狭く，その道は細い（教義 132:22−23）。アブラハム，イサク，ヤコブは，昇栄に入った（教義 132：29，37）。わたしはあなたに

昇栄を結び固め（教義 132：49）。

正直　「高潔」参照

偽りがなく，誠実なこと。

真実を行う者は主に喜ばれる（箴言 12：22）。あなたの誓ったことを必ず果せ（伝道 5：4−5）。異邦人の中にあって，りっぱな行いをしなさい（1ペテ 2：12）。偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである（2ニフ 9：34）。御霊（みたま）は真実を語り，偽りを言われることがない（ヤコ 4：13）。隣人から物を借りたなら，その物を約束どおりに返すようにしなければならない（モサ 4：28〔教義 136：25〕）。公正に振る舞い，義にかなって裁き，絶えず善を行いなさい（アル 41：14）。すべての人が正直に振る舞うようにしなさい（教義 51:9）。その心が正直なすべての者は，わたしに受け入れられる（教義 97：8）。公務に就く人として，正直，賢明，善良な人々を熱心に捜し求めなければならない（教義 98：4−10）。あなたは隣人の失ったものを熱心に捜して（教義 136：26）。わたしたちは，正直であるべきことを信じる（箇条 1：13）。

象徴

何かを用いて，他の事柄を想起，連想させること。聖典の中では，福音の原則や教えを表現するために，日常よく見受けられる物や出来事，あるいは状況が象徴として用いられる。例えば，『モルモン書』の預言者アルマは，神の言葉を表すのに種を用いている（アル 32 章）。

聖典の様々な箇所で，預言者たちは象徴を用いながら，イエス・キリストについて教えている。その例としては，典礼や儀式（モセ 6：63），犠牲（せいさん）（ヘブ 9：11−15；モセ 5：7−8），聖餐（ルカ 22：13−20；JS マコ 14：20−24），バプテスマ（ロマ 6：1−6；教義 128：12−13）などがある。『聖書』に出てくる名称にも象徴的なものが数多くある。幕屋で行われた典礼やモーセの律法は，永遠の真理を象徴している（ヘブ 8−10 章；モサ 13：29−32；アル 25:15；ヒラ 8:14−15）。他の例として，マタイ 5：13−16；ヨハネ 3：14−15；ヤコブ 4:5；アルマ 37:38−45 を参照。

昇天　「イエス・キリスト」「イエス・キリストの再臨」参照

救い主が復活から40日後に，改まった形で地上を去って行かれた出来事。この昇天は弟子たちが見守る中，オリブ山の一地点で起こった（マコ 16：19；ルカ 24：51）。そのとき，二人の天使が，主は将来「同じ有様」で戻って来られると証（あかし）した（使徒 1：9−12）。

証人（モルモン書の）　「証人；証（あかし）」「モルモン書」参照

主は預言者ジョセフ・スミス以外の幾人かの人々に『モルモン書』が神から与えられたものであることを証（あかし）するように命じられた（教義 17 章；128：20）。『モルモン書』の中の「三人の証人の証（あかし）」，「八人の証人の証（あかし）」を参照。

わたしは 3 人の言葉をもって，わたしの言葉を確かなものとする（2ニフ 11：3）。人の子らに神の言葉について証（あかし）を

述べる（2ニフ 27：12−13）。3 人の証人の口を通してこれらのことは確認される（エテ 5：4）。信仰によって，三人の証人は版を見るであろう（教義 17 章）。

証人；証（あかし）（あかし）「証」参照

証人とは，自分が知っている事柄を基に，それらの証言をしたり，証拠を提出したりする人。証（あかし）とは，ある事柄について，それが真実であると述べること，あるいはそれを裏付ける証拠。

あなたは偽証してはならない（出エ 20：16）。福音は，すべての民に対してあかしをするために，全世界に宣（の）べ伝えられる（マタ 24:14〔ジ―マタ 1:31〕）。あなたがたはわたしの証人となるであろう（使徒 1:8）。御霊（みたま）みずから，わたしたちの霊と共に，あかしして下さる（ロマ 8：16〔1 ヨハ 5：6〕）。いつでも神の証人になる（モサ 18：8−9）。わたしたちは，戒めを守り，いつも御子を覚えていることを御父に証明するために聖餐（せいさん）を受ける（3ニフ 18：10−11〔モロ 4；5 章；教義 20：77−79〕）。信仰が試されてからでなければ，証（あかし）は得られないからである（エテ 12：6）。証人の律法：二人または三人の証人の口によって，すべての言葉が確定される（教義 6：28〔申命 17：6；マタ 18：16；2 コリ 13：1；エテ 5：4；教義 128：3〕）。あなたがたを使徒およびわたしの名の特別な証人として確認し（教義 27：12〔教義 107：23〕）。七十人は異邦人と全世界に対する特別な証人となる（教義 107：25）。記録者がいるようにしなさい。そして，彼があなたがたのバプテスマの見証者となり（教義 127：6〔教義 128：2−4〕）。

職　「神権」「聖任」参照

組織の中の権能や責任を伴う地位。聖典の中では神権の権能を伴う地位を意味する言葉としてしばしば用いられている。

すべての会員が同じ職を受けるのではない（ロマ 12：4）。主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした（ヤコ 1：19）。メルキゼデクは大神権の職を受けた（アル 13：18）。天使の務めは，人を招いて悔い改めさせることである（モロ 7：31）。その教会の賛意の表明がなければ，だれもこの教会におけるいかなる職にも聖任されることはない（教義 20：65）。各人をそれぞれの職に就かせ（教義 84：109）。これら二つの神権におけるそれぞれの職に聖任された者たちの中から，会長，すなわち管理役員が出るように（教義 107：21）。神権定員会を管理する者の義務が述べられる（教義 107：85−98）。人は皆，自分の義務を学び，任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい（教義 107：99−100）。わたしは，わたしの神権に属する役員をあなたがたに与え（教義 124：123）。

贖罪（しょくざい）　「贖い；贖う」（あがな）（あがな）「贖いの計画」「憐（あわ）れみ」「イエス・キリスト」「神の息子，娘」「犠牲」「義認：義とされる」「聖（きよ）め」「キリストの子」「悔い改め」「ゲツセマネ」「十字架」「十字架の刑」「救い」「聖餐（せいさん）」「堕落（アダムとエバの）」「血」「罪の赦（ゆる）し」「不死不滅」「復活」「恵み」「赦（ゆる）し」参照

神に対して人を執り成すこと。

聖典に書かれているように，贖罪とは，罪の行いに対する罰を引き受け，それによって悔い改める人から罪がもたらす影響を除き，神との和解を可能にすることである。イエス・キリストは全人類のために完全な贖罪をなし得る唯一の御方である。イエス・キリストが完全な贖罪をなし得たのは，この世が造られる前に天上の大会議において選ばれ，予任されていたからであり（エテ 3：14；モセ 4：1−2；アブ 3：27），また御自身が神の御子であり，罪のない御方であったからである。イエス・キリストの贖罪には，ゲツセマネの園において全人類の罪のために苦しまれたこと，そして御自身の血を流されたこと，また死とそれに続く墓からの復活が含まれる（イザ 53：3−12；モサ 3：5−11；アル 7：10−13）。贖罪によって，すべての人が不死不滅の体をもって死者の中からよみがえるようになった（1 コリ 15：22）。また贖罪は，罪の赦しを受けて，永遠に神とともに住む道をわたしたちのために備えるものである。しかし，責任を負う年齢に達して律法を受け入れた人は，イエス・キリストを信じる信仰を持ち，罪を悔い改め，救いの儀式を受け，神の戒めに従うことによってのみ，これらの祝福にあずかることができる。責任を負う年齢に達していない人と律法を持たない人は，贖罪によって贖われる（モサ 15：24−25；モロ 8：22）。聖典は，キリストによる贖罪がなかったならば，いかなる律法も儀式も犠牲も正義の要求を満たすことができず，人は神のもとに戻ることはできないと明確に教えている（2 ニフ 2；9 章）。

これは，罪のゆるしを得させるようにと，多くの人のために流すわたしの血である（マタ 26：28）。その汗が血のしたたりのように地に落ちた（ルカ 22：39−44）。わたしが与えるパンは，世の命のために与えるわたしの肉である（ヨハ 6：51）。わたしはよみがえりであり，命である（ヨハ 11：25）。キリストは，御自分に従順であるすべての人に対して，永遠の救いの源となられる（ヘブ 5：9）。わたしたちはキリストの血が流されたことによって聖められる（ヘブ 9 章；10：1−10）。キリストも，ひとたび罪のゆえに死なれた（1 ペテ 3:18）。イエス・キリストの血が，すべての罪からわたしたちをきよめる（1 ヨハ 1：7）。神の小羊が世の罪のために十字架につけられて殺された（1 ニフ 11：32−33）。贖いは打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人々に及ぶ（2 ニフ 2：3−10，25−27）。メシヤは，罪に対する犠牲として御自身をささげられる（2 ニフ 2：7）。贖罪は人々を堕落から解放し，死と地獄から救う（2 ニフ 9：5−24）。贖罪は無限の贖罪でなければならない（2 ニフ 9：7）。キリストの贖罪を通じて神と和解しなさい（ヤコ 4：11）。この御方の血は，気づかないで罪を犯した者たちの罪も贖う（モサ 3：11−18）。人は贖罪によって救いを受けた（モサ 4：6−8）。贖罪がなければ，彼らは滅びるほかはない（モサ 13：27−32）。キリストは世の罪を贖われる（アル 34：8−16）。神は憐れみの計画を成し遂げるため，御自分で世の罪の贖いをされる（アル 42：11−30）。キリストは全地の神であり，世の罪のために殺された（3 ニフ 11：

14)。神であるわたしは，すべての人に代わってこれらの苦しみを負い（教義 19：16)。幼い子供たちは，わたしの独り子によって贖われている（教義 29：46−47)。罪を犯したことがない者の，苦しみと死を御覧ください（教義 45：3−5)。これは独り子の犠牲のひながたである（モセ 5：7)。キリストの贖罪により，全人類は救われ得る（箇条 1：3)。

ジョセフ・スミス・ジュニア　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

ジョセフ・スミス訳（JS）　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスが 1830 年 6 月に始めた『欽定訳聖書』の改訂あるいは翻訳をいう。ジョセフ・スミスは神からその翻訳をするよう命じられ，それを預言者としての自分の召しの一部と考えた。

ジョセフは 1833 年 7 月までにこの翻訳をほとんど終えていたが，出版のための原稿を準備しながら，1844 年の死に至るまで加筆訂正を続けた。彼は生前その一部を出版したが，もし生き長らえて全部を出版していたとすれば，さらに変更を加えていたであろうと思われる。復元イエス・キリスト教会は，ジョセフ・スミスが霊感によって翻訳した『聖書』の初版を 1867 年に発行し，以来何度か版を重ねてきた。

預言者はこの翻訳の過程で多くのことを学んだ。『教義と聖約』の幾つかの章（教義 76；77；91；132 章など）は，この翻訳をきっかけに与えられたものである。また主はこの翻訳に関して，ジョセフに具体的な指示を与えられた。その指示は『教義と聖約』に記録されている（教義 37：1；45：60−61；76：15−18；90：13；91 章；94：10；104：58；124：89)。『高価な真珠』に収められているモーセ書とジョセフ・スミス―マタイはジョセフ・スミス訳から直接取ったものである。

ジョセフ・スミス訳は，『聖書』から抜き取られた分かりやすく貴い部分を回復した（1 ニフ 13 章)。ジョセフ・スミス訳は，末日聖徒イエス・キリスト教会公認の『聖書』ではないが，多くの興味深い洞察を与え，『聖書』を理解するうえで非常に有益である。また，預言者ジョセフ・スミスの神聖な召しと務めを証するものである。

しるし　「奇跡」「時のしるし」「まことの教会のしるし」参照

人々が何かの証拠あるいは証明として理解する出来事や経験。しるしという言葉は通常，神から与えられる奇跡的な現れを指す。サタンもまた，ある条件の下でしるしを示す力を持っている。聖徒は御霊の賜物を求めるべきであるが，好奇心を満足させたり，信仰の支えとしたりするためにしるしを求めてはならない。主は，信じる者にとってふさわしいと判断されたときに，しるしを与えられる（教義 58：64)。

主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる（イザ 7：14〔2 ニフ 17：14〕)。天においても，地においても，しるしと奇跡とをおこない（ダニ 6：27)。邪悪で不義な時代は，しるしを求める（マタ 12：39〔マタ 16：4；ルカ 11：29〕)。信じる者に

は，このようなしるしが伴う（マコ16：17〔モル9：24；エテ4：18；教義84：65〕）。シーレムはしるしを求めた（ヤコ7：13−20）。コリホルはしるしを求めた（アル30：48−60）。しるしを見せてくれれば，信じよう（アル32：17）。民の大半がしるしと不思議を信じた（3ニフ1：22）。民は数々のしるしと不思議を忘れ始め（3ニフ2:1）。信仰が試されてからでなければ，証（あかし）は得られない（エテ12：6）。わたしがあなたがたに命じないかぎり，奇跡を求めてはならない（教義24：13）。信仰はしるしによっては生じないが，信じる者にはしるしが伴う（教義63：7−11）。それらの日には，偽キリストたちや偽預言者たちも起こって，大きなしるしと不思議を示すであろう（ジ—マタ1：22）。

しるし（イエス・キリストの降誕と死の）「イエス・キリストの降誕と死のしるし」参照

しるし（時の）「時のしるし」参照

しるし（まことの教会の）「まことの教会のしるし」参照

新エルサレム

聖徒が集合し，キリストが福千年の間聖徒とともに自ら統治される場所。シオン（新エルサレム）はアメリカ大陸に築かれる。そして地球は更新されて，楽園の栄光を受ける（箇条1：10）。新エルサレムは，福千年の初めに天から降（くだ）って来る聖なる都を指すこともある。

律法はシオンから出（ミカ4：2）。神の都の名は新エルサレムである（黙示3：12）。ヨハネは聖なる都，新しいエルサレムを見た（黙示21：1−5）。わたしはこの民をこの地に立てて，この地は新エルサレムとなる（3ニフ20：22）。新エルサレムはアメリカに築かれる（エテ13：3−6，10）。新エルサレムの都が備えられる（教義42：9，35，62−69）。聖徒たちは集合し，新エルサレムを築かなければならない（教義45：63−75）。新エルサレムがミズーリに建てられる（教義84：1−5〔教義57：1−3〕）。小羊がシオンの山と，聖なる都である新エルサレムに立つ（教義133：56）。わたしの幕屋はシオン，すなわち新エルサレムと呼ばれるであろう（モセ7：62）。

神権「アロン神権」「権威；権限；権能」「神権の鍵（かぎ）」「神権の誓詞と聖約」「聖任」「力」「メルキゼデク神権」参照

神が人の救いのためにあらゆることを行うよう授けられた権能と力（教義50：26−27）。神権を持つ教会の男性会員は，定員会に組織され，儀式を執行し，教会内での特定の管理機能を果たす権限を受ける。

彼らが油そそがれることは，代々（よよ）ながく祭司職のためになすべきことである（出エ40：15〔民数25：13〕）。わたしがあなたがたを立てた（ヨハ15：16）。あなたがたも，霊の家に築き上げられ，聖なる祭司となって（1ペテ2：5）。あなたがたは，選ばれた種族，祭司の国（1ペテ2：9〔出エ19：6〕）。大祭司は非常に深い信仰と善い行いのために召される（アル13：1−

12)。わたしはあなたに力を授ける（3ニフ 11：21)。聖霊を授ける力を持つであろう（モロ 2：2)。わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう（教義 2：1〔ジ―歴史 1：38〕)。主はアロンとその子孫にも，代々一つの神権を確認した（教義 84：18)。この大神権は福音をつかさどり（教義 84：19)。主は彼らの中からモーセを取り去り，また聖なる神権も取り去った（教義 84：25)。神権に伴う誓詞と聖約が述べられる（教義 84：33−42)。先祖の血統を通して神権が続いてきた（教義 86：8)。教会には二つの神権がある（教義 107：1)。メルキゼデク神権は，神の御子の位に従う聖なる神権である（教義 107：2−4)。神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており（教義 121：36)。いかなる力も影響力も，神権によって維持することはできない，あるいは維持すべきではない（教義 121：41)。教会のすべてのふさわしい男性会員は，神権への聖任を受けることができる（公式 2)。わたしたちは，神から召されなければならないと信じる（箇条 1：5)。

箴言

簡潔な格言または勧告の言葉。

箴言：『旧約聖書』の中の 1 書。多くのたとえや格言，詩を含む。その一部はソロモンが書いた。箴言は『新約聖書』にしばしば引用されている。

第 1−9 章には，真の知恵についての説明が述べられている。第 10−24 章は，正しい生き方と誤った生き方についての教訓を集めたものである。第 25−29 章には，ユダの王ヒゼキヤに属する人々が記録したソロモンの箴言が収められている。第 30−31 章は，徳高い女性について述べたものである。

神権時代　「神権」「神権の鍵」「福音」「福音の回復」参照

福音の神権時代とは，権能を与えられた，聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人，主が地上に置かれる時代をいう。

アダム，エノク，ノア，アブラハム，モーセ，イエス・キリスト，ジョセフ・スミスなどは，それぞれに新しい福音の神権時代を開いてきた。主は一つの神権時代を起こされるとき，その時代の人々が救いの計画を知るに当たって過去の神権時代に頼る必要がないように，新たに福音を啓示される。ジョセフ・スミスによって始められた神権時代は「時満ちる神権時代」と呼ばれている。

天の神は一つの国を立てられます（ダニ 2：44〔教義 65 章〕)。終りの時には，わたしの霊をすべての人に注ごう（使徒 2：17〔ヨエ 2：28〕)。イエスは，万物更新の時まで，天にとどめておかれねばならなかった（使徒 3：21)。時の満ちる神権時代に，神はすべてのものをキリストにあって一つに帰せしめようとされた（エペ 1：10)。わたしは彼らの中にわたしの教会を設けよう（3ニフ 21：22)。主は，終わりの時代のために，御自分の王国の鍵と福音の神権時代とをゆだねた（教義 27：13)。この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている（教義 110：12−16)。過去の神権時代のすべ

ての鍵が時満ちる神権時代に回復されてきた（教義 128：18−21）。

神権の鍵　「神権」「神権時代」「大管長会」参照

鍵とは，長の職に伴う権利，すなわち，地上において神権を管理し，統制し，治めるために神から人に授けられる権威である。長の職に召された神権者は，自分を管理する権能を持つ人から鍵を受ける。神権者は，鍵を持つ人が指示する範囲内でのみ，神権を行使する。教会の大管長は神権のすべての鍵を持つ（教義 107：65−67，91−92；132：7）。

ペテロは天国の鍵を授けられた（マタ 16：19）。ミカエルはイエス・キリストの指示の下に救いの鍵を受けた（教義 78：16）。王国の鍵は常に大神権の大管長会に属する（教義 81：2）。メルキゼデク神権は神の知識の鍵を持つ（教義 84：19）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，イスラエルの集合とアブラハムの福音と結び固めの権能に関する鍵を授けられた（教義 110：11−16）。十二使徒は特別な鍵を授けられる（教義 112：16）。大管長会と十二使徒会は，時満ちる神権時代の鍵を持つ（教義 112：30−34）。神権に属する役員は鍵を持つ（教義 124：123）。鍵を持つ人は知識を得ることができる（教義 128：11）。アロンの神権は天使の働きの鍵と，悔い改めの福音の鍵と，バプテスマの鍵を持つ（ジ―歴史 1：69〔教義 13 章〕）。

神権の誓詞と聖約　「神権」「聖約（契約）」「誓い」参照

誓詞とは，交わした約束に誠実かつ忠実であるという誓いの言葉である。また，聖約とは，当事者の間で交わされる厳粛な約束をいう。アロン神権は聖約のみで授けられる。メルキゼデク神権者は聖約と無言のうちの誓詞によって神権を受ける。忠実であり，神が命じられるままに召しを尊ぶ神権者は，神から祝福を受ける。また最後まで忠実で，神から求められるすべてのことを行う人は，御父が持っておられるすべてを受ける（教義 84：33−39）。

主はアブラハムと契約を結ばれ，アブラハムは従った（創世 15：18；17：1；22：16−18）。エゼキエルの時代の祭司たちは群れを養わなかった（エゼ 34：2−3）。マラキの時代の祭司たちは契約を破った（マラ 1−2 章）。

神権の聖任　「聖任」参照

信仰　「イエス・キリスト」「希望」「信じる」「信頼」参照

あるものに信頼を寄せること。聖典に何度も言われているように，信仰とはイエス・キリストに対する確信と信頼であり，その確信と信頼があれば，人はイエス・キリストに従うようになる。人を救いに導く信仰は，イエス・キリストを中心としたものでなければならない。また末日聖徒は，父なる神，聖霊，神権の力，また回復された福音のその他の重要な事柄に対しても信仰を持っている。

信仰には，まだ見ていない真実のことを待ち望むことも含まれる（ヘブ 11：1；アル 32：21；エテ 12：6）。信

仰は，神から遣わされた正当な権能を持つ者が教える福音を聞くことから始まる（ロマ 10：14−17）。奇跡が信仰を生み出すのではなく，イエス・キリストの福音に従うことによって強い信仰がはぐくまれるのである。言い換えれば，信仰は義から生じるのである（アル 32：40−43；エテ 12：4，6，12；教義 63：9−12）。

真の信仰は奇跡や示現，夢，癒(いや)し，および神が聖徒にお授けになるあらゆる賜物(たまもの)をもたらす。人は信仰によって罪の赦(ゆる)しを得，最後には神の前で生活できるようになる。信仰の欠如は，人を罪悪の結果である絶望に至らせる（モロ 10：22）。

義人はその信仰によって生きる（ハバ 2：4）。あなたの信仰があなたを救ったのです（マタ 9：22〔マコ 5：34；ルカ 7：50〕）。あなたがたの信仰どおり，あなたがたの身になるように（マタ 9：29）。からし種一粒ほどの信仰があるなら，あなたがたにできない事は，何もないであろう（マタ 17：20〔ルカ 17：6〕）。わたしはあなたの信仰がなくならないように，あなたのために祈った（ルカ 22：32）。イエスの名が，それを信じる信仰のゆえに，この人を強くした（使徒 3：16）。信仰は神の言葉を聞くことによる（ロマ 10：17）。もしキリストがよみがえらなかったとしたら，あなたがたの信仰もまたむなしい（1コリ 15：14）。信仰は愛によって働く（ガラ 5：6）。あなたがたの救われたのは，恵みにより，信仰によるのである（エペ 2：8〔2ニフ 25：23〕）。信仰のたてを手に取りなさい（エペ 6：16〔教義 27：17〕）。わたしは走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおした（2テモ 4：7）。信仰とは，望んでいる事がらを確信し（ヘブ 11：1）。信仰がなくては，神に喜ばれることはできない（ヘブ 11:6）。信仰も，行いを伴わなければ，死んだものである（新ヤコ 2：17−18，22）。わたしは行って，主が命じられたことを行います（1ニフ 3：7）。人の子らが主を信じる信仰を働かせれば，主は彼らのために何でもおできになります（1ニフ 7:12）。リアホナの指針は人々の信仰に応じて働いた（1ニフ 16：28）。聖者に対して完全な信仰を抱きながら，悔い改めて，神の御名によってバプテスマを受けなければならない（2ニフ 9：23）。イエスは，人の子らの中で，彼らの信仰に応じて大きな奇跡を行われる（2ニフ 26：13〔エテ 12：12；モロ 7：27−29，34−38〕）。エノスはキリストを信じる信仰のゆえに罪を赦(ゆる)された（エノ 1：3−8）。主イエス・キリストを信じるのでなければ，このような者には決して救いは与えられない（モサ 3：12）。キリストの御名を信じて心が改まった（モサ 5：7）。神の僕(しもべ)たちの祈りが，彼らの信仰に応じてかなえられる（モサ 27：14）。わたしたちの信仰に応じて，自由になる力をわたしたちにお与えください（アル 14：26）。信仰をもって神の御名を呼ぶ（アル 22：16）。信仰とは物事を完全に知ることではない（アル 32：21〔エテ 12：6〕）。それがふくらみ始めたら，あなたがたの信仰によってそれを養い育ててほしい（アル 33：23〔アル 32：28〕）。彼らが守られたのは，神の奇跡を起こす力によったものと考えざるを得ません（アル 57：25−

27)。信仰をもって神の御子を仰ぎ見る者は皆，生きることができる（ヒラ 8：15)。あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも，わたしは知っている（3ニフ 17：8)。信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものである（エテ 12：6)。奇跡を行った者は皆，信仰によって奇跡を行った（エテ 12：12−18)。もし彼らがわたしを信じるならば，そのとき，わたしは彼らの弱さを強さに変えよう（エテ 12：27−28，37)。モルモンは，信仰と希望と慈愛について教えた（モロ 7 章)。あなたがたが与えられると信じて，信仰をもってわたしの名によって父に求めるものは，正当であれば，何でもあなたがたに与えられる（モロ 7：26)。キリストを信じる者は一切の善いものを固く守る（モロ 7：28)。キリストを信じながら問うならば，神はこれが真実であることを明らかにしてくださる（モロ 10：4)。信仰がなければ何も行えない。それゆえ，信仰をもって求めなさい（教義 8：10)。彼らが祈りで示した信仰に応じてそれがかなえられる（教義 10：47，52)。すべての人はキリストの名を信じて最後まで堪え忍ばなければならない（教義 20：25，29)。イエス・キリストの恵みによる義認は，正しく，かつ真実である（教義 20：30)。御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう（教義 42：14)。信仰はしるしによっては生じないが，信じる者にはしるしが伴う（教義 63：9−12)。両親は子供にキリストを信じる信仰を教えなければならない（教義 68:25)。研究によって，また信仰によって学問を求めなさい（教義 88：118)。主イエス・キリストを信じる信仰は，福音の第一の原則である（箇条 1：4)。

信仰箇条　「高価な真珠」「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がよりどころとする 13 の基本的信条。

ジョセフ・スミスは，末日聖徒の信条を質問してきた『シカゴ・デモクラット』紙の編集者ジョン・ウェントワースに答える書簡の中で最初にこれを記した。この書簡は後に，ウェントワース書簡として知られるようになり，1842 年 3 月に『タイムズ・アンド・シーズンズ』紙上で初めて公にされた。1880 年 10 月 10 日に，「信仰箇条」は教会員の支持の挙手により正式に聖文として受け入れられ，『高価な真珠』の一部としてその中に収められた。

信じる　「イエス・キリスト」「信仰」「信頼」「不信仰」参照

何かを真実であるとして受け入れること。神の王国に救われるには，悔い改めて，イエス・キリストを信じなければならない（教義 20：29)。

あなたがたの神，主を信じなさい。主の預言者を信じなさい（歴下 20：20)。ダニエルは神を信じていたので，ししの穴の中で何の害も受けなかった（ダニ 6：23)。あなたの信じたとおりになるように（マタ 8：13)。祈のとき，信じて求めるものは，みな与えられるであろう（マタ 21：22)。恐れることはない。ただ信じなさい（マコ 5：36)。信ずる者には，どんな事でも

できる（マコ 9：23−24）。信じてバプテスマを受ける者は救われる（マコ 16：16〔2 ニフ 2：9；3 ニフ 11：33−35〕）。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである（ヨハ 3：16，18，36〔ヨハ 5：24；教義 10：50〕）。わたしたちは，あなたが神の聖者であることを信じ，また知っています（ヨハ 6：69）。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる（ヨハ 11：25−26）。わたしたち信じている者は，安息にはいることができる（ヘブ 4：3）。イエス・キリストの御名を信じ，互に愛し合うべきことである（1ヨハ 3：23）。メシヤは，御自分を信じる者を一人も滅ぼされない（2ニフ 6：14）。ユダヤ人はキリストを信じるようになるまで迫害される（2ニフ 25：16）。これらのことをすべて信じるならば，必ずそれを実行しなさい（モサ 4：10）。神の御子は御自分の御名を信じる人々の背きを負われる（アル 11：40）。進んで神の御言葉を信じる人は幸いである（アル 32：16）。信じようとする望みを持つだけでもよい。その望みを育ててゆけ（アル 32：27）。あなたがたは，イエス・キリストの御名を信じるならば，罪をすべて悔い改めるであろう（ヒラ 14：13）。わたしを信じる者は父をも信じるのである（3ニフ 11：35）。ヤレドの兄弟ほど深く主を信じた者はいなかった（エテ 3：15）。キリストを信じるように勧めるものはすべて，キリストの力によって送り出されている（モロ 7：16−17）。主の言葉を信じる者は御霊の現れを与えられる（教義 5：16）。主の名を信じる者は神の子となる（教義 11：30〔ヨハ 1：12〕）。ある人には，ほかの人の言葉を信じることが許される（教義 46：14）。信じる者には数々のしるしが伴う（教義 58：64〔教義 63：7−12〕）。信じ，悔い改め，バプテスマを受けるならば，聖霊の賜物を受ける（モセ 6：52）。

神性　「永遠の命」「昇栄」「人―天の御父のようになる可能性を持った人間」参照

神聖な　「聖い」参照

真鍮版　「版」参照

世の初めから紀元前 600 年までのユダヤ人の記録で，預言者の数多くの書が含まれている（1 ニフ 5：10−16）。この記録はエルサレムにいたユダヤ人の長老の一人，ラバンによって保管されていた。リーハイは家族とともに荒れ野にいたとき，この記録を手に入れるために息子たちをエルサレムに送り返した（1 ニフ 3−4 章）。（詳細については『モルモン書』の「『モルモン書』についての概説」を参照。）

神殿；主の宮　「エンダウメント」「儀式」「至聖所」「幕屋」参照

神殿は文字どおり主の宮である。主はいつも御自分の民に，神殿を建てることを命じてこられた。神殿は聖なる建物であり，ふさわしい聖徒たちがその中で，自分自身と死者のために神聖な福音の儀式を執行する。主は神殿を訪れられる。したがって神殿は，礼拝する場所としては最も神聖な所である。

モーセとイスラエルの子らが建てた幕屋は可動式の神殿であった。イスラ

エル人はエジプトから出て旅をしている間，幕屋を使っていた。

『聖書』の中で最もよく知られている神殿は，ソロモンがエルサレムに建てたものである（歴下 2−5 章）。この神殿は紀元前 600 年にバビロニア人によって破壊され，およそ 100 年後にゼルバベルによって再建された（エズ 1−6 章）。この神殿は紀元前 37 年に一部が焼失したが，後にヘロデ大王によって再建された。しかし，紀元 70 年にローマ人によって破壊された。

『モルモン書』でも，神に従う義にかなった人々は導きを受けて神殿を建て，そこで神を礼拝した（2 ニフ 5：16；モサ 1：18；3 ニフ 11：1）。神殿を建設し正しく使用することは，現在の回復された教会も含めて，どの神権時代においても，まことの教会のしるしとなっている。この神権時代に建設されて主に奉献された最初の神殿は，カートランド神殿である。それ以来，全世界の多くの国々で神殿が奉献されている。

その聖所に立つべき者はだれか（詩篇 24：3−5）。ヤコブの神の家へ行こう（イザ 2：2−3〔ミカ 4：1−2；2 ニフ 12：2−3〕）。主は，たちまちその宮に来る（マラ 3：1〔3 ニフ 24：1；教義 36：8；42：36〕）。イエスは宮清めをされた（マタ 21：12−16〔マコ 11：15−18；ルカ 19：45−48〕）。聖徒たちはミズーリ州に神殿を建てるように命じられた（教義 57：3〔教義 84：3−5〕）。神の家を建てなさい（教義 88：119〔教義 109：8〕）。主は神殿を建てるのを怠ったために聖徒たちを懲らしめられた（教義 95：1−12）。わたしは清くない神殿には来ない（教義 97：15−17）。わたしはこの家を受け入れた。わたしの名はここにあるであろう（教義 110：7−8）。主の民は，主の聖なる名のために神殿を建てるようにと常に命じられる（教義 124：39）。神殿で行われる大いなる業の中には，親子の結び固めも含まれる（教義 138：47−48）。神殿の建設は大いなる末日の業に含まれる（教義 138：53−54）。

神殿結婚　「結婚」参照

申命記　「五書」参照

「律法の写し」の意味がある。『旧約聖書』の 5 番目の書。

申命記には，モーセが身を変えられる直前にモアブの地で話した最後の 3 つの説教が載っている。最初の説教（第 1−4 章）は導入である。第 2 の説教（第 5−26 章）は次の二つの部分から成っている。(1) 第 5−11 章：十戒とその実践的説明。(2) 第 12−26 章：申命記全体の核となる律法の規定。第 3 の説教（第 27−30 章）には，イスラエルと神の間の聖約（契約）の厳粛な更新，また従順に伴う祝福と不従順の招くのろいに関する記述がある。第 31−34 章には，律法がレビ人に渡されたこと，またモーセの歌と最後の祝福，モーセの最期が記されている。

新約聖書　「聖書」「聖文」参照

イエス・キリストや使徒，イエス・キリストに従ったその他の人々の生涯と働きについて，霊感によって書かれた記録を集めたもの（ギリシャ語で書かれた）。『新約聖書』は通常，福音書，

使徒行伝，パウロの手紙，その他の手紙，黙示録に分類される。

マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネの四福音書は，キリストの生涯についての記録である。使徒行伝は教会の歴史と使徒たちの働きについて，特にキリストが亡くなられた後のパウロの伝道の旅について記録している。パウロの手紙は，教会の指導者や会員に教えを授けるためのものである。その他の手紙は他の使徒たちによって書かれ，初期の聖徒たちに新たな勧告を与えている。使徒ヨハネによって書かれた黙示録は，おもに終わりの時に関する預言を記録している。

信頼　「確信；信頼」「信仰」参照

人あるいは何かの物事を信じて頼りとすること。霊的な意味では，神とその御霊(みたま)に頼ることが含まれる。

たとえ神がわたしを殺しても，わたしは神を信頼する（KJ ヨブ 13：15）。心をつくして主に信頼せよ（箴言 3：5）。神は自分に寄り頼むしもべらを救った（ダニ 3：19−28）。あなたを頼ってまいります(2ニフ 4:34)。喜び，神に頼りなさい（モサ 7：19）。主に頼る者はだれであろうと，終わりの日に高く上げられる（モサ 23：22）。神に頼る者はだれであろうと，試練や災難や苦難の中にあって支えられ（アル 36：3，27）。肉の腕に頼ることのないように（教義 1：19）。善を行うように導く御霊(みたま)を信頼しなさい（教義 11：12）。ビショップはわたしを頼りなさい。そうすれば，打ち破られることはない（教義 84：116）。

真理　「英知」「知識」「光；キリストの光」参照

現在あるとおりの，過去にあったとおりの，また未来にあるとおりの，物事についての知識（教義 93：24）。真理はまた，天からの光と啓示を指す言葉としても用いられる。

まことは地からはえ（詩篇 85：11〔モセ 7：62〕）。また真理を知るであろう。そして真理は，あなたがたに自由を得させるであろう（ヨハ 8：32）。わたしは道であり，真理であり，命である（ヨハ 14：6）。もし，罪がないと言うなら，真理はわたしたちのうちにない（1ヨハ 1：8）。罪のある者は，真理を厳しいものと思う（1ニフ 16：2）。義人は真理を愛しており（2ニフ 9：40）。御霊(みたま)は真実を語り，偽りを言われることがない（ヤコ 4：13）。あなたは真理の神であり，偽りを言われることはありません（エテ 3：12）。聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう（モロ 10：5）。真理はとこしえにいつまでも変わらない（教義 1：39）。あなたが真理の御霊(みたま)に照らされた（教義 6：15）。真理と神の言葉が載っている『モルモン書』（教義 19：26）。真理を教えるために遣わされた慰め主（教義 50：14）。真理の御霊(みたま)によって御言葉を受ける者は，真理の御霊(みたま)によって宣(の)べられるままにそれを受ける（教義 50：17−22）。わたしがあなたがたに与えた啓示に従って真理を宣言しなさい（教義 75：3−4）。真理であるものはすべて光であり（教義 84：45）。キリストの光は真理の光である（教義 88：6−7，40）。わたしの御霊(みたま)は真理

である（教義 88：66）。英知すなわち真理の光は，創造されることもなく（教義 93：29）。神の栄光は英知である。言い換えれば，光と真理である（教義 93：36）。わたしはあなたがたに，あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた（教義 93：40）。わたしの独り子は，恵みと真理に満ちている（モセ 1：6）。

過越（すぎこし）「神の小羊」「最後の晩餐（ばんさん）」参照

過越（すぎこし）の祭は，滅ぼす天使が自分たちの家を過ぎ越して，エジプト人から救われたときのことをイスラエルの子らが覚えていられるようにするために定められたものである（出エ 12：21−28；13：14−15）。古代においては，傷のない子羊の血がイスラエルを救うためのしるしとして用いられたが，この傷のない子羊は，全人類を贖（あがな）うために犠牲となられた神の小羊イエス・キリストの象徴である。

過越（すぎこし）の祭の定めは次のとおりである（出エ 12：43）。イエスと弟子たちは最後の晩餐のときに過越（すぎこし）を守った（マタ 26：17−29〔マコ 14：12−25〕）。見よ，世の罪を取り除く神の小羊（ヨハ 1：29，36）。わたしたちの過越（すぎこし）の小羊であるキリストは，すでにほふられたのだ（1コリ 5：7）。あなたがたがあがない出されたのは，きずも，しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである（1ペテ 1：18−19）。神の小羊は世の罪を取り除く御方である（アル 7：14）。知恵の言葉に従う聖徒たちは，イスラエルの子らのように守られる（教義 89：21）。小羊は世の初めからほふられている（モセ 7：47）。

救い（あがな）「贖（あがな）い；贖（あがな）う」「贖（あがな）いの計画」「イエス・キリスト」「死（肉体の）」「死（霊の）」「昇栄」「贖罪（しょくざい）」「恵み」参照

肉体の死と霊の死から救われること。人は皆，イエス・キリストの死と復活を通して，神の恵みにより肉体の死から救われる。またイエス・キリストを信じる信仰を通して，神の恵みにより霊の死からも救われる。この信仰は，福音の律法と儀式に従順な生活とキリストへの奉仕の中に示される。

主はわたしの光，わたしの救（すくい）だ（詩篇 27：1）。神こそわが岩，わが救（すくい）（詩篇 62：2）。福音は救（すくい）を得させる神の力である（ロマ 1：16〔教義 68：4〕）。恐れおののいて自分の救（すくい）の達成に努めなさい（ピリ 2：12）。神があなたがたを初めから選んで，きよめによって，救（すくい）を得させようとし（2テサ 2：13）。救いは無料である（2ニフ 2:4）。救いの賜物（たまもの）に勝る大いなる賜物（たまもの）はない（教義 6：13）。イエス・キリストは，その名によって人の子らに救いが及ぶ，天下に与えられる唯一の名である（モセ 6：52〔使徒 4：10−12〕）。わたしたちは，キリストの贖罪（しょくざい）により，全人類は救われ得ると信じる（箇条 1：3）。

幼い子供たちの救い：心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう（マタ 18：3）。幼い子供たちも永遠の命を得る（モサ 15：25）。幼児のバプテスマは忌まわしい行いである。幼い子供たちは贖罪（しょくざい）のおかげでキリストによって生きている（モロ 8：8−24）。幼い子供たちは，独り子によって贖（あがな）わ

れている。サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられない（教義29：46−47）。子供たちに福音を教え，8歳のときにバプテスマを施さなければならない（教義68：25−28）。幼い子供たちは，イエス・キリストの贖罪によって聖められている（教義74：7）。人々は，幼児の状態で，再び罪のない者となった（教義93：38）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義137：10）。子供たちは世の初めから罪がない（モセ6：54）。

救い（死者の）　「死者の救い」参照

救い主　「イエス・キリスト」参照

救いをもたらす御方。イエス・キリストは贖罪によって，全人類に贖いと救いを与えようとされた。「救い主」は，イエス・キリストの名であり，称号である。

主はわたしの光，わたしの救だ（詩篇27:1〔出エ15:1−2;サ下22:2−3〕）。ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない（イザ43:11〔教義76：1〕）。その名をイエスと名づけなさい。彼は，おのれの民をもろもろの罪から救う者となるからである（マタ1:21）。きょう救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである（ルカ2：11）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。この世が救われるためである（ヨハ3：16−17）。キリストの名のほかに，人を救い得る名はない（使徒4:10−12〔2ニフ25：20；モサ3：17；5：8；教義18：23；モセ6：52〕）。救主，主イエス・キリストのこられるのを，わたしたちは待ち望んでいる（ピリ3:20）。父が御子を世の救主としておつかわしになった（1ヨハ4：14）。主なる神はメシヤ，言い換えれば，世の救い主を立てられる（1ニフ10：4）。神の小羊は世の救い主であられる（1ニフ13：40）。救い主についての知識が，あらゆる国民，部族，国語の民，民族の間に広まる（モサ3：20）。イエス・キリストは必ず死ななくてはならない。救いがもたらされるためである（ヒラ14：15−16）。イエス・キリストの恵みによる義認と聖めは，正しく，かつ真実である（教義20：30−31）。わたしは世の救い主イエス・キリストである（教義43:34）。わたしの独り子は，救い主である（モセ1：6）。御子を信じて自分の罪を悔い改めるすべての者は救われる（モセ5：15）。

救いの計画　「贖いの計画」参照

ステーク

末日聖徒イエス・キリスト教会の組織上また管理上のユニット。ステークは，幾つかのワードや支部で構成される。通常，ステークには地理的な境界があり，イザヤ54：2に描かれた天幕を連想させる。「あなたの綱を長くし，あなたの杭を強固にせよ。」（イザ54：2）杭（stake）が天幕を支えているように，シオンの各ステークは教会を強くするための支えとなり，助けとなっている。ステークは，散乱したイスラエルの残りの者たちの集合場所である（教義82：13 − 14；101：17 − 21）。

あなたの杭を強くし，あなたの境をとこしえに広げて（モロ 10：31〔教義 82：14〕）。このステークのほかに，シオンのために他のステークも定めてくださり（教義 109：59）。シオンの地とそのステークに集合することが，防御のためとなり（教義 115：6〔教義 101：21〕）。他の場所がステークとして定められる（教義 115：18）。大祭司定員会会長は，ステーク会長に任命される者たちに資格を与える目的で置かれた（教義 124：133−134）。あなたがたはシオンの地へ行って，シオンのステークが強くされるようにしなさい（教義 133：9）。

ステパノ

『新約聖書』の中の人物。救い主と教会のために殉教した。ステパノの宣教はパウロの偉大な働きを予告するものであり，パウロに影響を与えたと思われる。ステパノがサンヒドリンで弁明をしていたとき，パウロはその場にいた（使徒 8：1；22：20）。

十二使徒を助ける責任に任じられた（使徒 6：1−8）。めざましい奇跡としるしとを行っていた（使徒 6：8）。ユダヤ人たちと議論した（使徒 6：9−10）。訴えられ，議会で裁判を受けた（使徒 6：11−15）。弁論を行った（使徒 7：2−53）。聖霊に満たされて，示現の中で御父と御子を見た（使徒 7：55−56）。その証のゆえに殉教した（使徒 7：54−60）。

スミス，エマ・ヘイル　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの妻。主はエマに，教会のために賛美歌の選定をするよう命じられた。エマはまた扶助協会の初代会長を務めた。

主の御心について啓示が与えられた（教義 25 章）。主は結婚について勧告を与えられた（教義 132：51−56）。

スミス，サミュエル・H　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの弟（ジ―歴史 1：4）。1808 年に生まれ，1844 年に死去した。『モルモン書』の八人の証人の一人であり，回復された教会のために最初の宣教師の一人として務めを果たした（教義 23：4；52：30；61：33−35；66：7−8；75：13）。

スミス，ジョセフ，シニア　「スミス，ジョセフ，ジュニア」「スミス，ルーシー・マック」参照

預言者ジョセフ・スミスの父。1771 年 7 月 12 日に生まれた。ルーシー・マックと結婚し，9 人の子供をもうけた（ジ―歴史 1：4）。末日の回復の業を忠実に信じ，初代の大祝福師となった。1840 年 9 月 14 日に死去した。

神は息子ジョセフを通して指示を与えられた（教義 4 章；23：5）。わたしの年老いた僕を，彼の家族とともに引き続き住まわせなさい（教義 90：20）。アブラハムの右に座している（教義 124：19）。ジョセフ・スミス・ジュニアは，日の栄えの王国の示現の中で自分の父を見た（教義 137：5）。使者がジョセフ・スミス・ジュニアに，受けた示現のことを父親に告げるように

と命じた（ジ―歴史 1：49−50）。

スミス，ジョセフ，ジュニア　「モルモン書」参照

地上にイエス・キリストの教会を回復するために選ばれた預言者。ジョセフ・スミスは 1805 年にアメリカ合衆国バーモント州で生まれ，1844 年に世を去った。

1820 年に父なる神とイエス・キリストの現れを受けたジョセフ・スミスは，地上にある教会はどれも正しくないことを知らされた（ジ―歴史 1：1−20）。後に天使モロナイの訪れを受けた。このモロナイは，アメリカ大陸の古代の住民の記録が刻まれている金版の隠し場所を彼に明らかにした（ジ―歴史 1：29−54）。

ジョセフはその金版を翻訳し，1830 年に『モルモン書』として出版した（ジ―歴史 1:60−67, 75）。1829 年に彼は，バプテスマのヨハネ，またペテロとヤコブとヨハネから神権の権能を受けた（教義 13 章；27：12；128：20；ジ―歴史 1：68−70）。

1830 年 4 月 6 日に，ジョセフは神の命に従い，他の数人とともに回復されたイエス・キリストの教会を組織した（教義 20：1−4）。ジョセフの指導の下に，教会はカナダや英国，合衆国東部，特にオハイオやミズーリ，イリノイで発展した。しかし，ジョセフと聖徒たちの住む所では必ず迫害が起こった。1844 年 6 月 27 日，ジョセフと兄ハイラム・スミスはアメリカ合衆国イリノイ州カーセージで殉教した。

ヤコブの息子であるヨセフは，ジョセフ・スミスについて預言した（2ニフ 3：6−15）。来るべき災いを知っておられた主は，ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れられた（教義 1：17〔教義 19：13〕）。イエス・キリストの使徒，また，この教会の第一の長老に聖任された（教義 20：2）。ペテロとヤコブとヨハネによって使徒に聖任された（教義 27：12）。ジョセフとシドニー・リグドンは，御父の独り子を見たことを証（あかし）した（教義 76：23）。オリバー・カウドリとともに示現の中で主にまみえた（教義 110：1−4）。主はジョセフを，管理長老とし，翻訳者，啓示者，聖見者，預言者として召された（教義 124：125）。ただイエスは別として，他のいかなる人よりも，この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた（教義 135：3）。

預言者ジョセフ・スミスが著した聖文：ジョセフは天使モロナイから託された金版の一部を翻訳し，1830 年に『モルモン書』として出版した。彼はまた，教会の基本的な教義や組織について述べた多くの啓示を主から受けた。その啓示の多くは，現在『教義と聖約』として知られている書物に編さんされている。またジョセフ・スミスの働きによって『高価な真珠』も出版されるに至った。『高価な真珠』には，モーセやアブラハム，マタイの記録，またジョセフの自伝と証（あかし）の抜粋，教会の教義と信条を 13 にまとめた信仰箇条が含まれている。

スミス，ジョセフ・F

教会の第 6 代大管長。ハイラム・スミスとメアリー・フィールディングの間に生まれたただ一人の男子。1838

年 11 月 13 日に生まれ，1918 年 11 月 19 日に死去した。

ジョセフ・F・スミスは死者の贖(あがな)いに関する示現を受けた（教義 138 章）。

スミス, ハイラム　「スミス, ジョセフ, ジュニア」参照

ジョセフ・スミスの兄で，忠実な友でもあった。ハイラムは 1800 年 2 月 9 日に生まれた。彼は教会の長であったジョセフの補佐として，また教会の 2 代目の大祝福師として働いた。1844 年 6 月 27 日，ジョセフ・スミスとともにカーセージの監獄で殉教した。

神はジョセフ・スミスを通して指示を与えられた（教義 11 章；23：3）。心が高潔であったので，主から愛された（教義 124：15）。教会の祝福師の職に就くよう命じられた（教義 124：91−96，124）。ジョセフとハイラムはカーセージの監獄で殉教した（教義 135 章）。ハイラム・スミスやその他の選ばれた霊たちは，時満ちる時代に来るようにとどめられていた（教義 138：53）。

スミス，ルーシー・マック　「スミス, ジョセフ, シニア」「スミス, ジョセフ, ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの母。ジョセフ・スミス・シニアの妻（ジ―歴史 1：4，7，20）。1776 年 7 月 8 日に生まれ，1856 年 5 月 5 日に死去した。

ジョセフ・スミスは，日の栄えの王国の示現の中で自分の母を見た（教義 137：5）。

隅の石　「イエス・キリスト」参照

建物の基礎の隅に据えられる重要な石。イエス・キリストは隅のかしら石と呼ばれる（エペ 2：20）。

家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった（詩篇 118：22〔マタ 21：42−44；マコ 12：10；ルカ 20：17；使徒 4：10−12〕）。ユダヤ人は隅の石を拒んだ（ヤコ 4：15−17）。

正義　「憐(あわ)れみ」「贖罪(しょくざい)」参照

義にかなった思いと行いに対しては，結果として祝福が必ず与えられ，悔い改めなかった罪に対しては罰が課せられること。正義とは，神の律法が破られるたびに罰を要求する永遠の律法である（アル 42：13−24）。罪を犯した人は悔い改めなければその代価を支払わなければならない（モサ 2：38−39；教義 19：17）。しかし悔い改めれば，救い主が憐(あわ)れみをかけて，贖(しょく)罪(ざい)によりその代価を支払ってくださる（アル 34：16）。

罪を犯した魂は必ず死ぬ（エゼ 18：4）。主のあなたに求められることは，ただ公義をおこない（ミカ 6：8）。神は真実で正しいかたであるから，その罪をゆるし（1ヨハ 1：9）。神の正義は悪人を義人から隔てている（1ニフ 15：30）。贖罪(しょくざい)は，神の正義の要求を満たす（2ニフ 9：26）。全人類は堕落した状態になり，正義の支配下に入った（アル 42：14）。贖罪(しょくざい)は正義の要求を満たす（アル 42：15）。あなたは憐(あわ)れみが正義から何を奪うことができると思うか（アル 42：25）。悔い改めなければ，神の裁きが迫る（アル 54:6）。

正義と裁きは，わたしの律法に付随する罰である（教義 82：4）。正義はその道を進み続けてその権利を主張し（教義 88：40）。神の正義と律法から免れる者はだれもおらず（教義 107：84）。

聖見者　「ウリムとトンミム」「預言者」参照

神が世の人々から隠されたことを，霊の目をもって見るのを許された人（モセ 6：35−38）。聖見者は啓示者であり，また預言者でもある（モサ 8：13−16）。『モルモン書』の中でアンモンは，聖見者だけが特別な解訳器すなわちウリムとトンミムを使うことができると教えている（モサ 8：13；28：16）。聖見者は，過去，現在，未来の出来事を理解している。古代において，預言者はしばしば聖見者（先見者）と呼ばれた（サ上 9：9；サ下 24：11）。

ジョセフ・スミスは末日の偉大な聖見者である（教義 21:1；135:3）。また，大管長会と十二使徒評議会は，預言者，聖見者，啓示者として支持を受ける。

先見者の記録のうちにしるされている（歴下 33：19）。わたしはあなたの腰から出た者の中から，一人のえり抜きの聖見者を立てよう（2ニフ 3：6−15）。ここに知恵がある。それは，聖見者，啓示者，翻訳者，および預言者となることである（教義 107：92）。主はハイラム・スミスを，預言者，聖見者，啓示者に任命された（教義 124：91−94）。

聖餐（せいさん）　「イエス・キリスト」「生ける水」「命のパン」「犠牲」「最後の晩餐（ばんさん）」「十字架」「贖罪（しょくざい）」「バプテスマ」参照

末日聖徒にとって聖餐（せいさん）とは，キリストの贖（あがな）いの犠牲を記念するパンと水にあずかる儀式を指す。裂かれたパンは主の引き裂かれた肉を象徴し，水は人の罪を贖（あがな）うために流された主の血を象徴している（1コリ 11：23−25；教義 27：2）。ふさわしい教会員はこの聖餐（せいさん）にあずかるときに，キリストの名を受け，いつもキリストを覚え，その戒めを守ることを約束する。教会員はこの儀式を通して，バプテスマの聖約を新たにするのである。

イエスは最後の晩餐（ばんさん）のときに，十二使徒と食事を共にして，聖餐（せいさん）の儀式について説明された（マタ 26：17−28；ルカ 22：1−20）。

イエスはパンを取り，祝福し，また杯を取り，感謝し（マタ 26：26−28〔マコ 14：22−24；ルカ 22：19−20〕）。わたしの肉を食べ，わたしの血を飲む者には，永遠の命があり（ヨハ 6：54）。主のからだをわきまえないで飲み食いする者は，その飲み食いによって自分にさばきを招く（1コリ 11:29〔3ニフ 18:29〕）。イエスはニーファイ人の十二弟子に，聖餐（せいさん）について教えられた（3ニフ 18：1−11）。イエスは弟子たちに，ふさわしくない人々が聖餐（せいさん）にあずかるのを禁じるように教えられた（3ニフ 18：28−29〔モル 9：29〕）。聖餐（せいさん）の祈りが述べられる（モロ 4−5 章〔教義 20：75−79〕）。聖餐（せいさん）は祭司または長老によって執行される（教義 20：46，76）。教師や執事には聖餐（せいさん）の祝福をする権能はない（教義 20：58）。聖餐（せいさん）にはぶどう酒以外の飲み物を使うことができる（教義 27：1−4）。

聖書　「エフライム―エフライムまたはヨセフの木」「旧約聖書」「新約聖書」「聖書外典」「正典」「聖文」「ユダ―ユダの木」参照

神聖な啓示を載せたヘブライ語文献とキリスト教文献の集成。聖書を表すバイブルという言葉には，「書物」という意味がある。『聖書』は，聖なる御霊（みたま）の感化の下に働いた，多くの預言者と霊感を受けた記録者が書き残したものである（2ペテ1：21）。

キリスト教徒が用いる聖書は，『旧約聖書』ならびに『新約聖書』として広く知られる二つの部分から成る。『旧約聖書』は，主がこの世で務めを果たしておられたときに，パレスチナのユダヤ人の間で用いられていた聖典である。『新約聖書』は使徒の時代に属する記録を含み，ユダヤ人の聖典と同じ神聖さと権威を備えていると見なされている。『旧約聖書』の各書は幾世紀にも及ぶ民族的文学の中から選ばれたものであり，そのほとんどがヘブライ語で書かれた。一方，『新約聖書』の各書は1世代の間に，おもにギリシャ語で記録された。

『旧約聖書』の「旧約」は，古い聖約（契約）の意味である。古い聖約とは，この世が始まって以来神の民が受けてきた完全な福音をイスラエルが拒んだときに，モーセに与えられた律法である。新しい聖約とは，イエス・キリストによって教えられたままの福音である。

ヘブライ語聖書（旧約聖書）の各書は，律法，預言者，諸書の3つに分類された。キリスト教界の中で用いられた『聖書』は，その内容により歴史書，詩歌，預言書などに分類されている。

『新約聖書』の各書は，一般に四福音書と使徒行伝，またパウロの手紙，ヤコブ，ペテロ，ヨハネ，ユダの公同書簡，ヨハネの黙示録の順序で配列されている。

末日聖徒イエス・キリスト教会は，『聖書』を尊ぶとともに，人類に対する神の計らいを記した『聖書』の記述を支持し確認する新たな啓示を，主が終わりの時に預言者を通して引き続き与えてくださると宣言している。

ユダの木（聖書）とヨセフの木（モルモン書）は主の手で一つになる（エゼ37：15−20）。『聖書』の真実性が末日の聖典によって確立される（1ニフ13：38−40）。『聖書』と『モルモン書』が一つに合わされて，偽りの教義を打ち破る（2ニフ3:12）。聖書か，聖書か。我々はすでに聖書を持っている（2ニフ29:3−10）。『聖書』を信じる人は『モルモン書』も信じるであろう（モル7：8−10）。長老は，『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義42：12）。わたしたちは，正確に翻訳されているかぎり，『聖書』は神の言葉であると信じる（箇条1：8）。

聖書（ジョセフ・スミス訳）　「ジョセフ・スミス訳（JS）」参照

聖書外典　「聖書」「聖文」参照

ユダヤ人が神聖なものと見なした諸書で，ヘブライ語『聖書』には含まれていなかったが，幾つかのキリスト教会の『聖書』には収録されているもの。これらの書物は『旧約聖書』と『新約

聖書』の歴史的つながりを知るうえで役立つことが多く，末日聖徒イエス・キリスト教会では有益なものと見なされている。

聖書外典は大部分正確に翻訳されているが，真実でない書き入れ文も含まれている（教義 91：1−3）。聖書外典は御霊に照らされる者を益する（教義 91：4−6）。

性的不道徳　「姦淫」「肉欲」「不貞」参照

姦淫，不貞，同性愛，近親相姦など，不浄で，不自然で，不純な，意図的に行われる性的行為。

父に酒を飲ませ，共に寝た（創世 19：30−36）。ルベンは父のそばめビルハのところへ行って，これと寝た（創世 35：22〔創世 49：4；歴上 5：1〕）。同性愛やその他の性倒錯は憎むべきことである（レビ 18：22−23）。男が女を犯したならば，その男だけが罪ありとされる（申命 22：25−27）。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫をしたのである（マタ 5：28〔3 ニフ 12：28〕）。性的な罪悪は忌まわしい行いである（アル 39：3−5）。

正典　「教義と聖約」「高価な真珠」「聖書」「聖文」「モルモン書」参照

正式に認められ，権威あるものと見なされた神聖な書物。末日聖徒イエス・キリスト教会では，正典は標準聖典と呼ばれ，この中には『旧新約聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』が含まれる。

聖徒　「イエス・キリストの教会」「クリスチャン」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

イエス・キリストの教会の忠実な会員。

わが聖徒をわたしのもとに集めよ（詩篇 50：5）。サウロはエルサレムで聖徒たちを大いに苦しめた（使徒 9：1−21）。ペテロはルダに住む聖徒たちのところへも下って行った（使徒 9：32）。ローマにいる，召された聖徒一同へ。恵みと平安とが，あなたがたにあるように（ロマ 1：7）。あなたがたは，聖徒たちと同じ国籍の者であり（エペ 2：19−21）。神の聖徒である小羊の教会の人々が見えた（1ニフ 14：12）。キリストの贖罪を通じて聖徒とならないかぎり，生まれながらの人は神の敵である（モサ 3：19）。主なるわたしは，地をわたしの聖徒たちが使うために祝福して（教義 61：17）。彼は神の聖徒たちに戦いを挑み（教義 76：28−29）。熱心に働きなさい。来るべき裁きの時に対して聖徒たちを備えさせるためである（教義 88：84−85）。聖徒は貧しい者や苦しんでいる者に持ち物を分け与えなければならない（教義 105：3）。以上の職とその鍵をわたしがあなたがたに授けたのは，奉仕の業とわたしの聖徒たちの完成のためである（教義 124：143〔エペ 4：12〕）。

聖なる人　「神；神会」「天の御父」「人の子」参照

父なる神の別称（モセ 6：57）。

聖なる御霊　「聖霊」参照

聖なる森　「最初の示現」参照

聖任　「按手（あんしゅ）」「権威；権限；権能」「職」「神権」参照

権能を授けたり職に任じたりすること。主の教会で権能を行使するには，預言によって，また権能を持つ者による按手（あんしゅ）によって，神から召されなければならない（箇条 1：5）。人は聖任によって権能を受けることができるが，その権能に対する鍵（かぎ）を持つ者の指示の下にそれを行使する。

あなたを立てて万国の預言者とした（エレ 1：5）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして，あなたがたを立てた（ヨハ 15：16）。アルマは神から権能を授かっていたので，祭司たちを聖任した（モサ 18：18）。大祭司は聖なる位に従って聖任された（アル 13：1−9）。イエスは十二弟子を選び，聖任された（3ニフ 12：1）。長老は按手（あんしゅ）によって祭司と教師を聖任した（モロ 3 章）。もうしばらくの間待たなければならない。あなたはまだ聖任されていないからである（教義 5：17）。ジョセフ・スミスはイエス・キリストの使徒に聖任された（教義 20：2〔教義 27：12〕）。その教会の賛意の表明がなければ，だれも聖任されることはない（教義 20：65）。だれか権能を持つ者によって聖任されないかぎり，だれもわたしの福音を宣（の）べ伝えるために出て行くことは許されない（教義 42：11）。長老たちは福音を宣（の）べ伝えるために聖任される（教義 50：13−18）。十二使徒には，教会の他のすべての役員を聖任する務めがある（教義 107：58）。わたしは先祖の祝福と，わたしが聖任されるべき権利を得ようと努めた（アブ 1：2）。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは互いにアロン神権に聖任し合った（ジ一歴史 1：68−72）。

政府　「憲法」参照

イエス・キリストは地上に戻って来られると，義にかなった政府を打ち立てられる。

まつりごとはその肩にあり（イザ 9：6〔2 ニフ 19：6〕）。カイザルのものはカイザルに返しなさい（マタ 22：21〔教義 63：26〕）。上に立つ権威に従うべきである（ロマ 13：1）。王たちと上に立っているすべての人々のために，祈（いのり）をささげなさい（1テモ 2:1−2）。支配者，権威ある者に服し，これに従い（テト 3：1）。あなたがたは，すべて人の立てた制度に，主のゆえに従いなさい（1ペテ 2：13−14）。イエス・キリストは地を最後に治める者となられる（黙示 11：15）。正しい人をいつも王に頂く（モサ 23：8）。あなたがたは民の声によって職務を果たすように（モサ 29：26）。わたしが来るとき，わたしはあなたがたを治める者となる（教義 41：4）。神の律法を守る者は，その地の法律を破る必要がない（教義 58：21）。邪悪な者が治めるとき，民は嘆き悲しむ（教義 98：9−10）。政府は人間のために神によって設けられた（教義 134:1−5）。人は政府を支持し，支える義務を負う（教義 134：5）。わたしたちは，王，大統領，統治者，長官に従うべきことを信じる（箇条 1：12）。

聖文　「教義と聖約」「高価な真珠」「言葉（神の）」「聖書」「正典」「年表」「モルモン書」参照

神の聖なる人々が聖霊に感じて書いたり，話したりした言葉。当教会が今日，公式の正典として認めている聖文は，『聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』である。イエスと『新約聖書』の著者たちは,『旧約聖書』の各書を聖文と見なしていた（マタ 22：29；ヨハ 5：39；2 テモ 3：15；2 ペテ 1：20−21）。

聖書を説き明してくださったとき，お互（たがい）の心が内に燃えたではないか（ルカ 24：32）。聖文を調べなさい。わたしについてあかしをするものである（KJ ヨハ 5：39）。キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる（2ニフ 32：3）。聖文を信じるように導かれた者は皆，信仰において確固として堅固である（ヒラ 15:7−8）。人々は聖文を曲げて解釈し，それを理解しない（教義 10：63）。これらの言葉は人々から，人間から出ているのではなく，わたしから出ているのである（教義 18:34−36）。『モルモン書』の出現は，聖文が真実であることを世に証明している（教義 20：2，8−12）。聖文を研究することに時間を費やしなさい（教義 26：1）。聖文は聖徒を教えるために与えられている（教義 33：16）。聖文は選民の救いのために与えられる（教義 35:20）。『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない（教義 42：12）。これらのことに関するわたしの律法がわたしの聖文の中に与えられている（教義 42：28）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，聖文となり（教義 68：4）。

失われた聖文：聖典の中に言及されているが，今わたしたちが手にしていない神聖な記録が数多くある。以下はそれらの記録や著者の一部である。「契約の書」（出エ 24：7），「主の戦いの書」（民数 21：14），「ヤシャルの書」（ヨシ 10：13；サ下 1：18），「ソロモンの事績の書」（列上 11：41），「先見者サムエルの書」（歴上 29：29），「預言者ナタンの書」（歴下 9：29），「預言者シマヤの書」（歴下 12：15），「預言者イドの書」（歴下 13：22），「エヒウの書」（歴下 20：34），先見者の記録（歴下 33:19），エノクの言葉（ユダ 1:14），ゼノク，ニアム，ゼノスの言葉（1 ニフ 19:10），ゼノス（ヤコ 5:1），ゼノクとイザイアス（ヒラ 8：20），覚えの書（モセ 6：5），コリント人への手紙（1 コリ 5：9），エペソ人への手紙（エペ 3：3），ラオデキヤからの手紙（コロ 4：16）。

保存されるべき聖文：これらの記録を手に入れるのは，神の知恵です。そうすれば預言者の口を通して語られてきた御言葉を残すことができる（1ニフ 3：19−20）。この小さい版はわたしが保存しなければならない（ヤコ 1：3）。これらのものが神の御手によって書き継がれ，そして残された（モサ 1:5）。これらの神聖なものを大切にしなさい（アル 37：47）。聖文は安全に保存されなければならない（教義 42：56）。保存するためあらゆる努力を尽くす（ジ―歴史 1：59）。

聖文の価値：あなたはイスラエルの

すべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない（申命 31：10−13）。律法の書をあなたの口から離すことなく（ヨシ 1：8）。主のおきては完全であって，魂を生きかえらせ（詩篇 19：7）。あなたのみ言葉はわが足のともしび（詩篇 119：105）。わたしについてあかしをするものである（ヨハ 5：39）。聖書は，すべて神の霊感を受けて書かれたものであって，人を教え，導くのに有益である（2テモ 3：15−16）。すべての聖文を自分たちに当てはめて，それが自分たちの利益となり（1ニフ 19：23）。わたしは聖文に喜びを感じる（2ニフ 4：15−16）。わたしたちは，キリストを信じるように説き勧めるために，熱心に記録し続けようと努めている（2ニフ 25：23）。民は聖文を詳しく調べ，二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかった（ヤコ 7：23〔アル 14：1〕）。この版がなかったならば，わたしたちは無知のままでいたに違いない（モサ 1：2−7）。神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきた（アル 17：2−3）。聖文は人々を救いに導くために保存される（アル 37：1−19〔2 ニフ 3：15〕）。神の言葉はキリストの人を導く（ヒラ 3：29）。何であろうと聖霊に感じて語ることは，聖文となり，救いを得させる神の力となる（教義 68：4）。わたしの教会を築き上げ，彼らを備えるためである（教義 104：58−59）。だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は，惑わされることがない（ジ―マタ 1：37）。

出現を預言された聖文：イザヤは『モルモン書』の出現を預言した（イザ 29：11−14）。あなたは 1 本の木を取り，その上に『ユダのために』と書き（エゼ 37：15−20）。ほかにも幾つかの書物が現れる（1ニフ 13：39）。わたしの言葉がすべてそこに含まれていると思ってはならない（2ニフ 29：10−14）。キリストの福音を手にしなさい。キリストの福音はこの記録だけでなく，あなたがたに伝わる記録によってもあなたがたに知らされるであろう（モル 7：8−9）。この記録を明るみに出す者は幸いである（モル 8：16）。これらのことを書き記して封じなさい。わたしは自分がふさわしいと思うときに，これらのことを人の子らに知らせよう（エテ 3:27〔エテ 4:7〕）。わたしたちは，神がこの後も多くのことを啓示されると信じる（箇条 1：9）。

聖約（契約）　「新しくかつ永遠の聖約」「アブラハムの聖約（契約）」「神権の誓詞と聖約」「誓い」参照

神と人との間で交わされる合意。ただし，この合意は対等の関係によるものではない。神は聖約に関して条件を定め，人は神から求められることを行うという同意をする。そして神は，人が従順であることに対して定められた祝福を与えると約束される。

原則や儀式は聖約によって与えられる。このような聖約を交わす教会員は，それを尊ぶことを約束する。例えば，教会員はバプテスマのときに主と聖約を交わし，聖餐（せいさん）を受けることによってその聖約を更新する。教会員はまた神殿でもさらに聖約を交わす。主の民は聖約の民であり，主との聖約を

守るときに，豊かに祝福される。

わたしはあなたと契約を結ぼう（創世 6：18）。わたしの契約を守るならば，あなたがたはわたしの宝となるであろう（出エ 19：5）。彼ら，および彼らの神々と契約を結んではならない（出エ 23：32）。安息日を覚え，永遠の契約としなければならない（出エ 31：16）。わたしはあなたと結んだ契約を決して破ることはない（士師 2：1）。いけにえをもってわたしと契約を結んだわが聖徒（詩篇 50：5〔教義 97：8〕）。その聖なる契約をおぼえ（ルカ 1：72〔教義 90：24〕）。神の力が主の聖約の民のうえに下る（1ニフ 14：14）。アブラハムに立てられた聖約は末日に成就する（1ニフ 15:18〔3ニフ 16：5，11−12；21：7；モル 9：37〕）。ベニヤミンの民は神の御心を行うという聖約を交わした（モサ 5:5）。バプテスマは神の御心を行うという聖約を交わした証拠である（モサ 18：13）。あなたがたは聖約の子孫だからである（3ニフ 20：25−26）。天使は，御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行する（モロ 7：31）。キリストの血が流されたのは，聖約されたことによる（モロ 10：33）。キリストのこの教会に属している人は皆，すべての聖約を守るように努めなければならない（教義 42:78）。聖約を守ってきた者は幸いである（教義 54：6）。聖約を破る者は教会における自分の職と立場を失い（教義 78：11−12）。神権を受ける者は皆，この誓詞と聖約を受け入れる（教義 84：39−40）。犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は，わたしに受け入れられる（教義 97：8）。結婚の聖約は永遠のものとすることができる（教義 132 章）。主のすべての定めに従って歩むことが，わたしたちの聖約となる（教義 136：4）。

聖霊　「神；神会」「啓示」「聖霊の賜物」「慰め主；助け主」「鳩のしるし」「バプテスマ」「約束の聖なる御霊」「赦されない罪」「霊感」参照

神会の第三の御方（1ヨハ 5：7；教義 20：28）。霊の御方であり，骨肉の体は持っておられない（教義 130：22）。聖霊はしばしば，御霊，神の御霊と呼ばれる。

聖霊は救いの計画の中で幾つかの重要な役割を果たされる。(1) 御父と御子を証される（1コリ 12：3；3ニフ 28：11；エテ 12：41）。(2) すべてのことについて真理を明らかにされる（ヨハ 14：26；16：13；モロ 10：5；教義 39：6）。(3) 悔い改めてバプテスマを受けた人を聖められる（ヨハ 3:5；3ニフ 27：20；モセ 6：64−68）。(4) 約束の聖なる御霊として働かれる（教義 76：50−53；132：7，18−19，26）。

聖霊の力は，まだバプテスマを受けていない人にも及び，福音が真実であることを証する。しかし，ふさわしい人に与えられる，聖霊を常に伴侶とする権利は，権能を持つ人からイエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた後に，メルキゼデク神権者の按手によってのみ授けられる賜物である。

イエスは，聖霊に対する冒瀆を除いて，すべての罪が赦されると教えられた（マタ 12：31−32；マコ 3：28−29；ルカ 12：10；ヘブ 6：4−8；教義

76：34−35)。

わが霊をあなたがたのうちに置いて(エゼ 36：27)。使徒たちは，父と子と聖霊との名によって人々にバプテスマを施す権能を与えられた（マタ 28：19)。聖霊は，あなたがたにすべてのことを教え（ヨハ 14：26)。人々が聖霊に感じ，神によって語ったもの（2ペテ 1：21)。ニーファイは御霊に導かれて行った（1ニフ 4：6)。神の奥義は聖霊の力によって人々に明らかにされる（1ニフ 10：17−19)。聖霊は，あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう（2ニフ 32：5)。聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう（モロ 10：5)。聖霊によって，わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう（教義 8：2)。御霊は公正に行動するように導く（教義 11：12)。聖霊はすべてのことを知っておられる（教義 35：19)。聖霊は王国にかかわる平和をもたらす事柄を教えられる(教義 36：2〔教義 39：6〕)。御霊を受けなければ，あなたがたは教えてはならない（教義 42：14)。聖霊は御父と御子のことを証される（教義 42:17〔1コリ 12：3；3ニフ 11：32，35−36〕)。ある人には，イエス・キリストが神の子であることを知ることが，聖霊によって許される（教義 46：13)。何であろうと聖霊に感じて語ることは，聖文となり（教義 68：4)。聖霊が注がれて，あなたがたの述べるすべてのことを証するであろう（教義 100：8)。聖霊は常にあなたの伴侶となり（教義 121：45−46)。

聖霊の賜物　「神；神会」「聖霊」「賜物」「御霊の賜物」参照

絶えず聖霊の影響力を受けることは，バプテスマを受けて教会員となったすべてのふさわしい人に授けられる権利である。イエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた人は，正当な権能を持つ人の按手によって聖霊の賜物を受ける（使徒 8：12−25；モロ 2：1−3；教義 39：23)。聖霊の賜物を受けることは，しばしば火によるバプテスマと呼ばれる（マタ 3：11；教義 19：31)。

人々は，悔い改めてバプテスマを受け，聖霊の賜物を受けるように命じられている（使徒 2：38)。ペテロとヨハネは按手によって聖霊の賜物を授けた(使徒 8:14−22)。聖霊は按手によって授けられる（使徒 19：2−6)。火と聖霊によって罪の赦しが与えられる(2ニフ 31：17)。わたしたちは，聖霊の賜物を授けるための按手を信じる(箇条 1：4)。

ゼーズロム

『モルモン書』の中の人物。アモナイハの町の法律家。アルマとアミュレクは，ゼーズロムが偽りを言っていることを御霊によって見抜いた。後に彼は改心してキリストの福音に従った(アル 11：21−46；15：1−12)。

ゼカリヤ

旧約の預言者。紀元前 520 年ごろに預言した。預言者ハガイと同時代の人である（エズ 5：1；6：14)。

ゼカリヤ書：この書は，キリストのこの世での務めと再臨についての預言でよく知られている（ゼカ 9：9；11：12−13；12：10；13：6）。第 1−8 章には，神の民の将来についての一連の示現が記されている。第 9−14 章には，メシヤ，終わりの時，イスラエルの集合，最後の大戦争，再臨についての示現が述べられている。

責任を負う　「選択の自由」参照

主は，人は皆自分自身の思い，態度，望み，行動に対して責任があると言われた。

責任を負う年齢とは，子供が自分の行いに対して責任を有し，また罪を犯した後に悔い改めをすることができると見なされる年齢。

わたしはあなたがたを，おのおのその行いに従ってさばく（エゼ 18：30）。人はその語る無益な言葉に対して，言い開きをしなければならない（マタ 12：36）。あなたの会計報告を出しなさい（ルカ 16：2）。わたしたちひとりびとりは，神に対して自分の言いひらきをすべきである（ロマ 14：12）。死人はそのしわざに応じて，さばかれた（黙示 20：12）。わたしたちの言葉と行いと思いはわたしたちを罪に定める（アル 12：14）。人々は善を行うか悪を行うか自分で判断する（アル 41：7）。あなたがたは随意に行動することを許されている（ヒラ 14：29 − 31）。悔い改めとバプテスマについて教えなさい（モロ 8：10）。責任を負う年齢に達した人はすべて悔い改めて，バプテスマを受けなければならない（教義 18：42）。彼らがわたしの前に責任を負うようになるまで，サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられない（教義 29：46 − 47）。子供たちは，8 歳のときにバプテスマを受けなければならない（教義 68：27）。各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負う（教義 101：78）。善悪を知ることが彼らに許される。それゆえ，彼らは自ら選択し行動する者である（モセ 6：56）。人は自分の罪のゆえに罰せられる（箇条 1：2）。

責任を負う年齢　「責任を負う」参照

セツ　「アダム」参照

『旧約聖書』の中の人物。義人。アダムとエバの息子。

完全な人であり，その姿は彼の父に生き写しであった（教義 107：42−43〔創世 5：3〕）。霊界で力ある者たちの中にいた（教義 138：40）。神はセツに御自身を現された（モセ 6：1−3，8−14）。

ゼデキヤ　「ミュレク」参照

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国の最後の王（列下 24：17−20；25：2−7）。預言者エレミヤを投獄した（エレ 32：1−5）。エレミヤはゼデキヤが囚（とら）われの身となることを預言した（エレ 34：2−8，21）。リーハイとその家族は，ゼデキヤの治世第 1 年にエルサレムに住んでいた（1 ニフ 1：4）。ゼデキヤの息子たちは一人を除き全員が殺された。ゼデキヤの息子ミュレクは西半球へ逃れた（エレ 52：10；オム 1：15；ヒラ 8：21）。

ゼニフ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイの地に帰る人々を率いた。そして彼らの王となり，義にかなって導いた（モサ 9−10 章）。

ゼノク

旧約の時代のイスラエルの預言者。その名は『モルモン書』にのみ出てくる。

キリストの死について預言した（1ニフ 19：10）。神の御子について話した（アル 33：15〔アル 34：7〕）。真理のために殉教した（アル 33：17）。メシヤの来臨について預言した（ヒラ 8：20）。

ゼノス

旧約の時代のイスラエルの預言者。キリストの働きについて述べた彼の預言は，『モルモン書』にのみ記録されている。

キリストの埋葬と 3 日間の暗闇（くらやみ）について預言した（1ニフ 19：10，12）。イスラエルの集合を預言した（1ニフ 19：16）。ヤコブは，栽培されたオリーブの木と野性のオリーブの木の，ゼノスの比喩（ひゆ）を引用した（ヤコ 5 章）。ヤコブがゼノスの比喩（ひゆ）を解き明かした（ヤコ 6：1−10）。祈りと礼拝について教えた（アル 33：3−11）。贖（あがな）いが神の御子を通して与えられることを教えた（アル 34：7）。大胆に証（あかし）し，そのために殺された（ヒラ 8：19）。レーマン人の回復について預言した（ヒラ 15：11）。キリストの死のときに起こる破壊について証（あかし）した（3ニフ 10：15−16）。

ゼパニヤ

『旧約聖書』の中の人物。ヨシヤ王の治世の預言者（紀元前 639−608 年）。

ゼパニヤ書：第 1 章には，怒りと悩みに満ちた来るべき日のことが述べられている。第 2 章には，正義と謙遜（けんそん）さを求めよとのイスラエルの民への勧告が記されている。第 3 章には，すべての国民が集まって戦いをするときに再臨があることが述べられている。主は彼らのただ中で統治される。

ゼブルン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの息子（創世 30：19−20）。

ゼブルンの部族：ヤコブはゼブルンの部族に祝福を授けた（創世 49：13）。ゼブルンの部族は，デボラやバラクとともにイスラエルの敵と戦った（士師 4：4−6，10）。彼らはまた，ギデオンとともにミデアン人と戦った（士師 6：33−35）。

セム　「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。義人。ノアの息子。伝承によると，アラブ人，ヘブライ人，バビロニア人，シリア人，フェニキア人，アッシリア人を含む，セム族の始祖とされている（創世 5：29 − 32；6：10；7：13；9：26；10：21−32；モセ 8：12）。末日の啓示の中で，セムは「偉大な大祭司」と言われている（教義 138：41）。

ゼラヘムラ　「アンモン（ゼラヘムラの子孫）」「ミュレク」参照

『モルモン書』の中の人物や地名，民。(1) ミュレクの移民団を導いた人物。(2) 彼にちなんで名付けられた町。(3) ゼラヘムラの地。(4) 彼に従った民。

主がモーサヤの民を遣わされたので，ことのほか喜んだ（オム 1：14）。先祖の系図を述べた（オム 1：18）。アンモンはゼラヘムラの子孫であった（モサ 7：3，13）。教会がゼラヘムラの町に設けられた（アル 5：2）。この町が今救われているのは，義を守っている者たちのおかげである（ヒラ 13：12）。キリストの死のときに，ゼラヘムラの町は火で焼き尽くされた（3ニフ 8：8，24）。

ゼルバベル

『旧約聖書』の中の人物。クロスがユダヤ人にパレスチナへの帰還の許可を与えたとき，ゼルバベルは知事，すなわちユダヤの王家の代表に任じられた。彼のペルシャ語名は，セシバザルである（エズ 1：8）。彼はエルサレムの神殿の再建に従事した（エズ 3：2，8；5：2）。

宣言　「ウッドラフ，ウィルフォード」「結婚—多妻結婚」参照

1890 年にウィルフォード・ウッドラフ大管長が出した公式の宣言。当教会とその会員は国法に従い，多妻結婚を実施していないことを明確に宣言している（公式 1）。ウッドラフ大管長は神からの示現と啓示に従ってこの宣言を出した。

前世　「天上の会議」「天での戦い」「初め」「人」参照

地上に生まれる前の生活。男女を問わず人は皆，死すべき存在として地上に来る前は，神の霊の子供として神のもとにいた。前世は第一の位と呼ばれることもある（アブ 3：26）。

わたしが地の基をすえた時，どこにいたか。かの時には明けの星は相共（あいとも）に歌い，神の子たちはみな喜び呼ばわった（ヨブ 38：4–7）。霊はこれを授けた神に帰る（伝道 12：7）。わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに，あなたを知り（エレ 1：4–5）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：29）。神は天地の造られる前から，わたしたちを選び（エペ 1：3–4）。わたしたちは，たましいの父に服従して（ヘブ 12：9）。第一の位を保たなかった御使（みつかい）たちは，永遠の鎖で縛られた（KJ ユダ 1：6〔アブ 3：26〕）。サタンとその使いは投げ落とされた（黙示 12：9）。世の初めから召され，備えられていた（アル 13：3）。世界が造られる前に永遠の大いなる広がりと天の衆群を見た者（教義 38：1）。人もまた初めに神とともにいた（教義 93：29〔ヒラ 14：17；教義 49：17〕）。神の教会で治める者となるように初めに選ばれた，高潔で偉大な者たち（教義 138：53–55）。多くの者が霊の世界において最初の教えを受けた（教義 138：56）。すべてのものは，それらが地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造された（モセ 3：5）。わたしは世界を造り，また人々を，彼らが肉体にある前に造った（モセ 6：51）。アブラハムは，世界が存在する前に組織された英知たちを見

た（アブ 3：21−24）。

戦争　「平安；平和」参照

戦闘。武器を用いて戦うこと。主は聖徒たちに，家族や財産，権利，特権，自由を守る最後の手段として戦うことを認めておられる（アル 43：9，45−47）。

血を流してでも自分の民と，自分の権利と，自分の国と，自分の宗教を守ると固く誓って（アル 48:10−17）。ジョセフ・スミスは，戦争に関する啓示と預言を受けた（教義 87 章）。戦争を放棄して，平和を宣言しなさい（教義 98:16, 34−46）。わたしたちは信じる。人が自分自身と友人と財産と政府を守ることは正当である（教義 134：11）。わたしたちは，法律を守り，尊び，支えるべきことを信じる（箇条 1：12）。

選択　「選ぶ」「選択の自由」参照

選択の自由　「自由」「責任を負う」参照

神が人に授けられた，自分自身で選び，行動する能力と特権。

どの木からでも心のままに取って食べてよろしい（創世 2：16）。人は，誘われなければ，思いのままに行動することはできなかった（2ニフ 2：15−16）。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27）。あなたがたは自由であり，あなたがたは随意に行動することを許されている（ヒラ 14：30）。天の衆群の 3 分の 1 が，彼らの選択の自由によって背き去った（教義 29：36）。悪魔が人の子らを誘惑するのは必要である。そうでなければ，人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない（教義 29：39）。各人に自ら選ばせなさい（教義 37：4）。すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて，行動できるようにし（教義 101：78）。サタンは人の選択の自由を損なおうとした（モセ 4：3）。主は人に選択の自由を与えた（モセ 7：32）。

全知　「神；神会」参照

神の属性で，すべての知識を有すること（マタ 6：8；2 ニフ 2：24）。

全能　「神；神会」参照

神の属性で，すべての力を有すること（創世 18：14；アル 26：35；教義 19：1−3）。

選民

選民とは，心を尽くして神を愛し，神に喜ばれる生活をしている人々をいう。そのような弟子と呼ばれるにふさわしい生活をする人は，いつの日か主にえり分けられ，選ばれた子らの中に数えられる。

できれば，選民をも惑わそうとするであろう（マタ 24：24）。ヨハネは選ばれた婦人の子たちが忠実で信仰深いことを喜んだ（2ヨハ 1 章）。あなたの罪は赦（ゆる）されている。あなたは，選ばれた婦人である（教義 25：3）。わたしの選民はわたしの声を聴き，その心をかたくなにしない（教義 29：7）。同じように，わたしは地の四方からわたしの選民を集めよう（教義 33：6）。聖文が授けられ，わたしの選民は救わ

れるであろう（教義 35：20−21）。神権の召しを尊んで大いなるものとする者は神の選民となる（教義 84：33−34）。選民のためには，聖約に従ってその期間が縮められるであろう（ジ―マタ 1：20）。

創世記　「五書」参照

「創世記」に該当するギリシャ語には，「はじまり」あるいは「はじめに」という意味がある。創世記は『旧約聖書』の最初の書であり，預言者モーセによって書かれた。創世記には，地球の創造，地上に動物や人間が置かれたこと，アダムとエバの堕落，アダムへの福音の啓示，部族や人種の始まり，バベルでの様々な言語の発生，イスラエルの家の創成につながるアブラハムの家族の始まりなど，多くの事柄の起源が記録されている。創世記には，イスラエルを救う者としてのヨセフの役割が強調して描かれている。

末日の啓示は創世記の記録の真実性を立証し，明らかにしている（1 ニフ 5 章；エテ 1 章；モセ 1−8 章；アブ 1−5 章）。

創世記の第 1−4 章には，世界が創造され，アダムの家族が増え始めたことが書かれている。第 5−10 章には，ノアにまつわる歴史が記録されている。第 11−20 章には，イサクの時代に至るまでのアブラハムとその家族のことが記されている。第 21−35 章にはイサクの家族のこと，また第 36 章にはエサウとその家族のことが書かれている。そして第 37−50 章には，ヤコブの家族のことと，ヨセフがエジプトへ売られ，やがてイスラエルの家を救う者になったことが載っている。

創造；創造する　「安息日（あんそくにち）」「イエス・キリスト」「地球（地）」「初め」「霊の創造」参照

組織すること。神は御子イエス・キリストの働きを通して，自然界の元素を組織し，地球を形造られた。天の御父とイエスは御自分たちの形に人を創造された（モセ 2：26−27）。

はじめに神は天と地とを創造された（創世 1：1）。われわれにかたどって人を造り（創世 1：26〔モセ 2：26−27；アブ 4：26〕）。すべてのものは，キリストによってできた（ヨハ 1：3, 10）。万物は，天にあるものも，みな御子（みこ）にあって造られた（コロ 1:16〔モサ 3：8；ヒラ 14：12〕）。神は御子（みこ）によって，もろもろの世界を造られた（ヘブ 1：2）。人は初めに造られた（モサ 7：27）。わたしは天地とその中にある万物を創造した（3ニフ 9：15〔モル 9：11, 17〕）。すべての人は初めにわたし自身の形に造られたのである（エテ 3：15）。イエス・キリストは天と地を創造された（教義 14：9）。神は人を創造された。すなわち，御自分の形に，男と女に創造された（教義 20：18）。無数の世界を，わたしは創造した（モセ 1:33）。わたしの独り子によって，わたしはこれらのものを創造した（モセ 2:1）。主なる神であるわたしは，すべてのものを，それらが地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造した（モセ 3：5）。この地球のような幾百万の地球も，あなたが創造されたものの数の始めにも至りません（モセ 7:30）。神々は，天と地を組織し，形造

られた（アブ 4：1）。

創造主　「イエス・キリスト」「創造；創造する」参照

相続人　「受け継ぐ者」参照

ゾーラム；ゾーラム人

『モルモン書』の中の人物。ラバンの召し使いであったが，ニーファイやリーハイとともに約束の地へ向かった（1 ニフ 4：31−38）。ゾーラムの忠実さを見たリーハイは，自分の息子たちだけでなく，ゾーラムにも祝福を授けた（2 ニフ 1：30−32）。彼の子孫はゾーラム人として知られるようになった（ヤコ 1：13）。

族長　「父（現世の）」参照

家族や部族の長。父親は自分の家族の族長として特別な祝福を授けることができる。しかし，教会はその祝福を記録することも，保管することもない。

ヤコブは息子たちとその子孫に祝福を授けた（創世 49：11−28）。族長ダビデについては，わたしはあなたがたにむかって大胆に言うことができる（使徒 2：29）。リーハイは子孫に勧告と祝福を与えた（2ニフ 4：3−11）。わたしは先祖に属する権利を持つ正当な相続人，大祭司となった（アブ 1：2−4）。

外の暗闇（くらやみ）　「地獄」参照

ソドム　「ゴモラ」参照

『旧約聖書』に出てくる邪悪な町。主によって滅ぼされた（創世 19：12−29）。

背く　「悪魔」「つぶやき」「罪」「背教；背信」参照

主に反抗したり，敵対したりすること。主の選ばれた指導者に従うのを拒んだり，故意に主の戒めに従わなかったりすることも含まれる。

主にそむいてはなりません（民数 14：9）。悪（あ）しき者はただ，そむく事のみを求める（箴言 17：11）。そむける子らはわざわいだ（イザ 30：1）。主は，御自分に背いて罪の中で死ぬ者については，決して贖（あがな）いをなさらない（モサ 15：26）。アムリサイ人は公然と神に背いた（アル 3：18−19）。背く者は深い悲しみに刺し貫かれる（教義 1：3）。主の怒りは背く者に向かって燃えている（教義 56：1〔教義 63：1−6〕）。サタンは神に背いた（モセ 4：3）。

ソロモン　「ダビデ」「バテシバ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデとバテシバの息子（サ下 12：24）。イスラエル王であった。

ダビデはソロモンを王とした（列上 1：11−53）。ダビデはソロモンに，主の道に歩むよう命じた（列上 2：1−9）。主は彼に聞き分ける心を与えると約束された（列上 3：5−15）。二人の女の間を裁き，どちらが子供のほんとうの母親かを言い当てた（列上 3：16−28）。箴言と歌を残した（列上 4：32）。神殿を建てた（列上 6 章；7：13−51）。神殿を奉献した（列上 8 章）。

シバの女王の訪れを受けた（列上 10：1−13）。外国の女と結婚し，その妻たちは彼の心を転じて偽りの神々に従わせた（列上 11：1−8）。主はソロモンを怒られた（列上 11：9−13）。ソロモンの死（列上 11：43）。ダビデはソロモンの輝かしい統治を預言した（詩篇 72 篇）。ソロモンは多くの妻とそばめを得たが，その中のある者たちは主から与えられた者ではなかった（教義 132：38〔ヤコ 2：24〕）。

大管長会　「啓示」「神権の鍵」「長」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長と顧問たち。3 人の大祭司から成る定員会を構成し，教会全体を管理する。大管長会は神権のすべての鍵を持つ。

王国の鍵は常に大神権の大管長会に属する（教義 81：2）。大神権の大管長会は，すべての職務を行う権利を持つ（教義 107：9，22）。だれでもわたしを受け入れる者は，大管長会を受け入れる（教義 112：20，30）。大管長会は全教会のために神託を受ける（教義 124：126）。

大祭司　「アロン神権」「メルキゼデク神権」参照

神権の職の一つ。この言葉は聖典の中で，次の二つの意味で用いられている。(1)メルキゼデク神権の職の一つ。(2) モーセの律法の下での，アロン神権の管理役員。

イエス・キリストを偉大なる大祭司と呼ぶのは，最初の意味による。アダムとすべての族長も大祭司であった。今日，3 人の管理大祭司が大管長会を構成し，他の神権者と教会のすべてを管理している。また，今日の教会では，必要に応じてふさわしい人が大祭司に聖任される。大祭司がビショップとして召され，任命と聖任を受けることもある（教義 68：19；107：69−71）。

アロン神権の管理役員がモーセの律法の下で大祭司と呼ばれたのは，2 番目の意味による。この職は世襲であり，アロンの家系の長子を通して受け継がれた。アロン神権の初代大祭司はアロン自身であった（出エ 28−29 章；レビ 8 章；教義 84：18）。

メルキゼデクはいと高き神の祭司であった（創世 14：18〔アル 13：14〕）。大祭司は世の初めから召され，備えられていた（アル 13：1−10）。大祭司は霊的な事柄をつかさどる（教義 107：10，12，17）。

大神権　「メルキゼデク神権」参照

怠惰

義にかなった働きをおろそかにすること，またそれを果たさないこと。

働こうとしない者は，食べることもしてはならない（2テサ 3：10）。彼らは，悪意と狡猾さに満ちた怠惰な民となり（2ニフ 5：24）。怠惰にならないようにしなさい（アル 38：12）。怠惰な者は働く者のパンを食べてはならない（教義 42：42）。自分自身の手で働こうとしない者は，災いである（教義 56:17）。熱心に善いことに携わり（教義 58：27）。怠惰であるのをやめなさ

い（教義 88：124）。

第二の位　「死すべき状態」参照

第二の慰め主　「慰め主；助け主」参照

堪え忍ぶ　「逆境」「忍耐」「誘惑」参照

誘惑や反対や逆境に負けることなく，神の戒めに忠実であろうという決意を固く守り続けること。

最後まで耐え忍ぶ者は救われる（マタ 10：22〔マコ 13：13〕）。愛はすべてを耐える（1コリ 13：7）。アブラハムは忍耐強く待ったので，約束のものを得たのである（ヘブ 6：15）。彼らは最後まで堪え忍ぶならば，終わりの日に高く上げられて（1ニフ 13：37）。戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば，救われるでしょう（1ニフ 22:31〔アル 5：13〕）。キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み，最後まで堪え忍ぶならば，あなたがたは永遠の命を受ける（2ニフ 31：20〔3ニフ 15：9；教義 14：7〕）。わたしの名を受け，最後まで堪え忍ぶ者は，救われるであろう（3ニフ 27：6）。教会にあって最後まで堪え忍ぶ者を，わたしはわたしの岩の上に建てよう（教義 10：69）。信仰をもって堪え忍ぶ者は，世に打ち勝つ（教義 63：20，47）。すべての王位と主権が示されて，イエス・キリストの福音のために勇敢に堪え忍んだすべての者に授けられるであろう（教義 121：29）。

多妻結婚　「結婚―多妻結婚」参照

たとえ　「福音書―福音書対観表」参照

霊的な真理や原則を説明したり，教えたりするのに使われる簡単な物語。たとえは，ありふれた事物を真理になぞらえたもので，受け入れる霊的な備えができていない人々は，それを聞いても言外の意味やメッセージを理解できないことが多い（マタ 13：10−17）。

イエスはしばしばたとえを用いて教えられた。イエスが話された重要なたとえについては，「福音書」の項を参照。

ダニエル

『旧約聖書』のダニエル書の中の人物。神の預言者であり，偉大な信仰の人であった。

貴族の出身と思われるが（ダニ 1：3），その両親については何も知られていない。ダニエルはとりことしてバビロンへ連れて行かれ，そこでベルテシャザルと名付けられた（ダニ 1：6−7）。ダニエルと他の 3 人のとりこは，宗教上の理由から王の食物を拒んだ（ダニ 1：8−16）。

ダニエルは夢を解き明かす能力によって（ダニ 2：4）ネブカデネザルとダリヨスの寵愛（ちょうあい）を得た。彼はまた壁に指で描かれた文字を読み，解き明かした（ダニ 5 章）。ダニエルは敵意を持つ者たちの策略によって，ししの穴に投げ入れられたが，主にその命を守られた（ダニ 6 章）。

ダニエル書：この書は二つに区分される。第 1 − 6 章はダニエルとその 3 人の同輩に関する物語，第 7−12 章は

ダニエルが見た預言的な示現である。ダニエル書は神に忠実であることの大切さを教え，主が忠実な者を祝福されることを説いている。

ダニエル書が大きく貢献しているのは，ネブカデネザル王の夢の解き明かしが記されていることである。その夢の中では，終わりの時における神の王国が，山から切り出される石として描かれている。その石は転がり進んで，やがて全地に満ちるであろう（ダニ2章；教義65：2）。

たばこ　「知恵の言葉」参照

ダビデ　「詩篇」「バテシバ」参照

『旧約聖書』の中の人物。古代イスラエルの王。

ダビデはユダ族のエッサイの息子であった。彼は勇敢な若者で，ししやくま，ペリシテ人の巨人ゴリアテを倒している（サ上17章）。彼はイスラエルの王に選ばれ，油を注がれた。サウルと同じように，成人してから大きな罪を犯したが，サウルと違うのは，心から罪を悔いたことである。それによって，ウリヤの殺害を除いては赦（ゆる）しを得ることができた（教義132：39）。ダビデの一生は次の4期に分けることができる。(1) 羊飼いとして暮らしたベツレヘム時代（サ上16－17章），(2) サウル王の宮廷で過ごした時代（サ上18章－19：18），(3) 逃亡生活の時代（サ上19：18－サ下1：27），(4) ヘブロンでユダの王として治めた時代（サ下2－4章）と，後に全イスラエルの王となった時代（サ下5章－列上2：11）。

ダビデはバテシバとの間に犯した姦（かん）淫（いん）の罪によって，人生最後の20年間を数々の不幸に苦しめられた。ダビデの治世に，国そのものは繁栄したが，彼自身は罪を犯したことで苦しみを味わった。家族の間に絶えず反目があり，アブサロムとアドニヤの場合は，公然とした反乱にまで至った。それらの出来事は，罪を犯したダビデに預言者ナタンが下した宣告の成就である（サ下12：7－13）。

これらの不幸にもかかわらず，ダビデの治世にイスラエルが最盛期に達したのは，彼が (1) 諸部族を一つの国家に統一し，(2) 領土を確保し，(3) 真実の宗教を基とした政体を築いて，神の御心をイスラエルの法としたからである。これらの理由により，ダビデの治世は後に，イスラエルの黄金時代と言われ，メシヤ来臨時のより輝かしい時代をあらかじめ示すものと見なされた（イザ16：5；エレ23：5；エゼ37：24－28）。

ダビデの生涯は，人は皆義にかなった生活をして最後まで堪え忍ばなければならないことを教えている。若いときには，主の「心にかなう人」（サ上13：14）と言われ，長じてからも御霊（みたま）によって語り，多くの啓示を受けた。しかしそのダビデも，神の戒めに不従順であったために大きな代価を払うことになってしまった（教義132：39）。

ダマスコ

シリアの古代都市。

ダマスコは砂漠の端の沃野（よくや）に位置し，バラダ川を豊かな水源としている。ダマスコの名は聖典の中に何度も登場する（初出は創世15：2）。パウ

ロはダマスコに向かう途中，復活された主の訪れを受けた（使徒 9：1−27；22：5−16；26：12−20）。

賜物　「聖霊の賜物」「御霊の賜物」参照

神は人に多くの祝福と賜物をお与えになる。

霊の賜物は種々ある（1コリ 12：4−10）。更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい（1コリ 12：31）。あらゆる完全な賜物は，光の父から来る（新ヤコ 1：17）。聖霊の力は神の賜物である（1ニフ 10：17）。賜物がないと言う者は，キリストの福音を知らない者である（モル 9：7−8）。あらゆる善い賜物はキリストから来る（モロ 10：8−18）。永遠の命は，神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである（教義 14：7〔1 ニフ 15：36〕）。賜物は主を愛する者に与えられる（教義 46：8−11）。すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない（教義 46：11−29）。

賜物（聖霊の）　「聖霊の賜物」参照

賜物（御霊の）　「御霊の賜物」参照

堕落（アダムとエバの）　「贖い；贖う」「贖いの計画」「アダム」「イエス・キリスト」「生まれながらの人」「エバ」「死（霊の）」「死すべき状態」「贖罪」参照

人類がこの地上で死すべき状態となった過程。アダムとエバは禁断の実を食べて，死すべき状態，すなわち，罪と死に支配される者となった。アダムは地上で「最初の肉なるもの」（モセ 3：7）となった。末日の啓示は，「堕落」が一つの祝福であり，アダムとエバは全人類の始祖として尊ばれるべきであるということを明らかにしている。

堕落は人類の進歩に必要な一つの段階であった。神は堕落が起こることを承知しておられたので，前世で救い主を遣わす計画を立てられたのである。イエス・キリストはアダムの堕落に対して贖いをし，また悔い改めを条件に一人一人の罪を贖うために，時の中間に来られた。

それを取って食べると，きっと死ぬであろう（創世 2：17〔モセ 3：17〕）。エバはその実を取って食べた（創世 3：6〔モセ 4：12〕）。アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである（1コリ 15：22）。すべての人類は，迷い堕落した状態にあり（1ニフ 10：6）。人の堕落以来，方法が用意されており（2ニフ 2：4）。アダムとエバは禁断の実を食べた後，エデンの園から追い出され（2ニフ 2：19）。アダムが堕落したのは人が存在するためであり（2ニフ 2：15−26）。生まれながらの人は神の敵であり，アダムの堕落以来そうであって（モサ 3：19）。アロンはラモーナイ王の父に堕落について教えた（アル 22：12−14）。贖罪が行われることは必要である。すべての人は，堕落し，迷った状態にある（アル 34：9）。わたしたちの始祖は，肉体的にも霊的にも主の御前から絶たれてしまった（アル 42：2−15〔ヒラ 14：16〕）。堕落のために，

わたしたちの性質は絶えず悪くなっています（エテ 3：2）。これらの聖なる律法を破ったことによって，人は堕落した者となった（教義 20：20〔教義 29：34−44〕）。あなたは堕落したので，贖(あがな)いを受けることができる（モセ 5：9−12）。背きによって堕落が生じ（モセ 6：59）。人は自分の罪のゆえに罰せられる（箇条 1：2）。

タラント

古代に用いられた秤量(ひょうりょう)の単位。あるいは高額の通貨単位。またタラントは，イエス・キリストの福音など，非常に価値あるものの象徴としても使われた（マタ 25：14−29；エテ 12：35；教義 60：2，13）。

ダリヨス　「バビロン；バベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。ベルシャザルの死後バビロンを治めたメディア人（メデア人）の王（ダニ 5：31；6：9，25−28；9：1；11：1）。

ダン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブと，ラケルのつかえめビルハの間に生まれた男の子（創世 30：5−6）。

ダンの部族：ヤコブがダンに与えた祝福については，創世 49：16−18 を参照。モーセがダンの部族に与えた祝福については，申命 33：22 を参照。カナンに定住した後に，ダンの部族が受けた土地は，狭いものであったが非常に肥えていた（ヨシ 19：40−48）。その地をアモリ人（士師 1：34）やペリシテ人（士師 13：2，25；18：1）から守るのは非常に困難であった。結果的に，ダンの部族はパレスチナ北部のライシに移り（士師 18 章），この町の名をダンと改めた。この町は「ダンからベエルシバまで」広がるパレスチナの北辺の地としてよく知られている。

短気　「怒り」参照

断食　「ささげ物」「福祉」「施し」「貧しい」参照

主にさらに近づき，その祝福を求めるという目的の下に自分の意志で飲食を断つこと。個人的にであれ，グループとしてであれ，断食をする人は神の御心を理解し，霊的な力をさらに強めることができるように祈るべきである。いつの時代にも，まことの信者は断食を行ってきた。

今日の教会では，月に 1 度，安息日(あんそくにち)に断食を行うことになっている。断食の間，教会員は 24 時間飲食をしない。そして，もし食事をしていればかかったと思われる金額を，教会にささげる。これを断食献金という。教会は貧しい人や乏しい人のために断食献金を用いる。

われわれは断食して，われわれの神に求めた（エズ 8：21−23，31）。わたしは断食して天の神の前に祈って（ネヘ 1：4）。わたしのために断食してください。3 日のあいだ食い飲みしてはなりません（エス 4：16）。わたしは断食してわが身を苦しめた（詩篇 35：13）。このようなものは，わたしの選ぶ断食であろうか（イザ 58：3−12）。わが顔を主なる神に向け，断食をな

し，願い求めた（ダニ 9：3）。心をつくし，断食をもってわたしに帰れ（ヨエ 2：12）。ニネベの人々は神を信じ，断食をふれ（ヨナ 3：5）。イエスは 40 日 40 夜，断食をされた（マタ 4:2〔出エ 34：28；列上 19：8；ルカ 4：1−2〕）。断食をしていることが人に知れないで（マタ 6：18〔3 ニフ 13：16〕）。このたぐいは，祈と断食とによらなければ，追い出すことはできない（マタ 17：21）。断食と祈りを続け（オム 1：26〔4 ニフ 1：12〕）。彼らは断食して，主なる自分たちの神に祈り始め（モサ 27：22）。わたしは自分でこれらのことを知ることができるように，幾日もの間，断食をして祈ってきた（アル 5:46）。神の子たちは，しばしば集まって，ともに断食し（アル 6：6）。モーサヤの息子たちはしばしば祈り，また断食もした（アル 17：3，9）。断食と祈りを重ねた時であった（アル 28：5−6）。彼らは大いに断食し，大いに祈り（アル 45：1〔ヒラ 3：35〕）。あなたの食物を真心を込めて準備して，あなたの断食が完全になるように（教義 59：13−14）。あなたがたは祈りと断食を続けなければならない（教義 88：76）。

血　「イエス・キリスト」「犠牲」「贖罪」参照

古代イスラエルにおいても今日の数多くの社会においても，血は生命の源，肉なる者の活力と考えられている。旧約の時代に，主は血を食することをイスラエルに禁じられた（レビ 3：17；7：26−27；17：10−14）。

犠牲の贖いの力は血の中に存在した。なぜなら血は生命に欠かせないものと考えられていたからである。『旧約聖書』に述べられている動物の犠牲は，後にイエス・キリストによって果たされる偉大な犠牲の象徴であった（レビ 17：11；モセ 5：5−7）。イエス・キリストの贖いの血は，悔い改める人を罪から清める（1 ヨハ 1：7）。

その汗が血のしたたりのように地に落ちた（ルカ 22：44）。わたしたちはキリストの血が流されたことによって聖められる（ヘブ 10：1−22）。あらゆる毛穴から血が流れ出る（モサ 3：7〔教義 19：18〕）。主の血が罪の赦しのために流された（教義 27：2）。イエスは，自らの血を流すことによって完全な贖罪を成し遂げられた（教義 76：69）。血によって聖められる（モセ 6：60）。

知恵　「真理」「知識」「理解」参照

正しい判断を下せるように神から与えられた能力すなわち賜物。人は経験と学習によって，また神の勧告に従うことにより知恵を得ることができる。神の助けなくして，真の知恵を得ることはできない（2 ニフ 9：28；27：26）。

神はソロモンに非常に多くの知恵と悟りを授け（列上 4：29−30）。知恵は重要なものである，知恵を得よ（KJ 箴言 4：7）。知恵を得る者は自分の魂を愛し（箴言 19：8）。幼な子は，ますます知恵に満ち（ルカ 2：40，52）。知恵に不足している者があれば，神に，願い求めるがよい（新ヤコ 1：5〔教義 42：68；ジ―歴史 1：11〕）。わたしがこれらのことを語るのは，あなたがたに知恵を得させるためである（モサ

2：17)。若いうちに知恵を得なさい(アル 37：35)。知恵と，知識の大いなる宝，すなわち隠された宝さえ見いだすであろう（教義 89：19)。知識のない者は，へりくだって主なる神に呼び求めることによって知恵を得なさい(教義 136：32)。

知恵の言葉

聖徒の肉体と霊のために主から啓示された健康の律法（教義 89 章)。主は従う人々に，健康のための原則をいつも教えてこられた。主はジョセフ・スミスに，どのような種類の食物を取るべきか，また避けるべきかを明らかにされた。これには，知恵の言葉に従う人に与えられる肉体的また霊的な祝福が約束として添えられている。

ぶどう酒と濃い酒を飲んではならない（レビ 10：9)。酒は人をあざける者とし，濃い酒は人をあばれ者とする(箴言 20：1)。濃き酒はこれを飲む者に苦くなる（イザ 24：9)。ダニエルは王の食物と，王の飲む酒とをもって，自分を汚すまいと，心に思い定め（ダニ 1：8)。もし人が，神の宮を破壊するなら，神はその人を滅ぼすであろう（1コリ 3：16−17)。酒に酔う者は，神の国をつぐことはない（1コリ 6：10〔ガラ 5：21〕)。人は肉を食べてはならないとして禁じる者は，神から聖任されていない（教義 49：18−21)。地から生じるすべてのものは，思慮分別をもって，度を越さず使うようにしなければならない（教義 59：20)。主は聖徒たちに，ぶどう酒や強い飲み物，たばこ，および熱い飲み物を利用しないよう勧告された（教義 89：1−9)。草や果実，肉，穀物が人や動物のために備えられた（教義 89：10−17)。知恵の言葉に従うなら，肉体的な祝福と霊的な祝福を受けることができる（教義 89：18−21)。

誓い　「神権の誓詞と聖約」「聖約（契約)」参照

聖典では通常，神聖な誓いや約束を表す言葉として用いられる。しかし，サタンとその使いを含む邪悪な者たちも，そのよこしまな目的を遂げるために誓いを立てる。旧約の時代には誓いが認められていたが，イエス・キリストは神の名や被造物にかけて誓ってはならないと教えられた（マタ 5：33−37)。

わたしがあなたの父アブラハムに誓った誓いを果そう（創世 26：3)。もし人が主に誓願をかけるならば，その言葉を破ってはならない（民数 30：2)。誓ったことは，すべて主に対して果せ（マタ 5：33〔伝道 5：1−2；3ニフ 12：33〕)。神は忠実な人々は救われることを，誓いによって保証された(ヘブ 6：13−18)。ゾーラムがわたしたちに誓ったので，彼についての心配はなくなった（1ニフ 4：37)。アンモンの民は決して血を流さないと誓いを立てた（アル 53:11)。邪悪なニーファイ人たちはサタンと秘密の誓いを交わした（ヒラ 6：21−30)。人は神権に伴う誓詞と聖約を通して永遠の命を得る（教義 84：33−42)。約束の聖なる御霊(みたま)により結ばれない聖約や契約，きずな，義務，誓詞はすべて死をもって終わる（教義 132：7)。

誓う；ののしる　「誓い」「不敬」「冒(ぼう)

瀆；汚す罪」参照

力　「権威；権限；権能」「神権」参照

何かを行う能力。人あるいは事物に対して力を持つとは，それらを治めたり，命じたりする能力を持つということである。聖典では，力は神の力あるいは天の力を指すことが多い。多くの場合，神に代わって行動する許可すなわち権利である神権の権能と密接な関連がある。

わたしがあなたをながらえさせたのは，あなたにわたしの力を見せるため（出エ 9：16）。あなたの手に善をなす力があるならば，これをさし控えてはならない（箴言 3：27）。わたしは主のみたまによって力に満ち（ミカ 3：8）。わたしは，天においても地においても，いっさいの権威を授けられた（マタ 28：18）。その言葉に権威があったので，彼らはその教に驚いた（ルカ 4：32）。上から力を授けられるまでは，あなたがたは都にとどまっていなさい（ルカ 24:49）。彼を受けいれた者には，彼は神の子となる力を与えた（ヨハ 1：12〔教義 11：30〕）。聖霊があなたがたにくだる時，あなたがたは力を受けて（使徒 1：8）。存在している権威は，すべて神によって立てられたものだからである（ロマ 13:1）。あなたがたは，救にあずかるために，信仰により神の御力に守られている（1ペテ 1：3−5）。わたしは神の力に満たされている（1ニフ 17：48）。キリストのことは，聖霊の力によってもわたしに明らかにされました（ヤコ 7：12）。大きな力が神から授けられることもあります（モサ 8：16）。神の力と権能をもって教えた（アル 17：2−3）。ニーファイは，力と大きな権能をもって教えた（3ニフ 7：15−20〔3 ニフ 11：19−22〕）。たとえある人が多くの力ある業を行う力を持つとしても，もし自分の力を自慢するならば，彼は必ず落ちるであろう（教義 3:4）。善を行う力が人の内にある（教義 58：27−28）。メルキゼデク神権の儀式によって神性の力が現れる（教義 84：19−22）。神権の権利は天の力と不可分に結びついており（教義 121：34−46）。わたしの力はあなたのうえにあるであろう（アブ 1：18）。

地球（地）　「創造；創造する」「世」参照

わたしたちが今住んでいる惑星。人の試しの生涯の場として，イエス・キリストを通して神により創造された。地球は最終的には栄光を受け，昇栄した状態になる（教義 77：1−2；130：8−9）。また，日の栄えにふさわしい生活をした人々の永遠の住まいとなる（教義 88：14−26）。その人々は御父と御子の前に住む（教義 76：62）。

人のために創造された：神は人に地を従わせる権威を与えた（創世 1：28〔モセ 2：28〕）。地は主のものである（出エ 9：29〔詩篇 24：1〕）。主は地を人の子らに与えられた（詩篇 115：16）。わたしは地を造って，その上に人を創造した（イザ 45：12）。神の言葉の力によって人は大地の面に現れ（ヤコ 4：9）。地は自分の導き手として聖なる御霊を受け入れる人々に与えられる（教義 45:56−58〔教義 103:7〕）。福音に従う人は地の良いものを報いとして受ける（教義 59：3）。地の貧しい者と柔和な者はそれを受け継ぐ（教

義 88：17〔マタ 5：5；3 ニフ 12：5〕)。これらの者が住む地を造ろう。そして彼らを試し（アブ 3：24−25)。

生命を持つ存在：地は永遠に変わらない（伝道 1：4)。ガラスの海とは，聖(きよ)められた，不滅かつ永遠の状態にある地球である（教義 77：1)。地球は日の栄えの栄光に備えられるように，聖(きよ)められなければならない（教義 88：18−19)。地が嘆き悲しむ声を上げた（モセ 7：48)。

分かれた地：水は一つ所に集まり，かわいた地が現れよ（創世 1：9)。ペレグの時代に地が分かれた（KJ 創世 10:25)。水がこの地の面から引いた後，この地がえり抜きの土地になった（エテ 13：2)。陸地はそれが分けられる前の時代のようになる（教義 133：24)。

地球の清め：40 日 40 夜，地に雨が降った（創世 7：4)。地は，さばきの日に火で焼かれる時までそのまま保たれる（2ペテ 3：7)。今日が過ぎると，焼き払いがある（教義 64：24)。地は汚れから清められることを望んでいる（モセ 7：48)。

最終的な状態：大地が巻き物のように巻かれ，天地が過ぎ去る（3ニフ 26：3〔教義 29：23〕)。新しい天と新しい地がある（エテ 13：9〔教義 29：23〕)。ガラスの海とは，聖(きよ)められた，不滅かつ永遠の状態にある地球である（教義 77：1)。地球は日の栄えの栄光に備えられるように，聖(きよ)められなければならない（教義 88：18−19)。この地球は水晶のようになり，一つの「ウリムとトンミム」になる（教義 130：8−9)。千年の間，地は安息を得るであろう（モセ 7：64)。地球は更新される（箇条 1：10)。

知識　「真理」「知恵」「理解」参照

何かに対する理解。特に御霊(みたま)によって教えられ，確認された真理に対する理解。

主はすべてを知る神であって（サ上 2：3)。主は完全な知識を持っておられる（ヨブ 37：16)。主を恐れることは知識のはじめである（箴言 1：7)。言葉を少なくする者は知識のある者（箴言 17：27)。主を知る知識が地に満ちる（イザ 11：9〔2 ニフ 21：9；30：15〕)。あなたがたは，知識のかぎを取りあげて（ルカ 11：52)。人知をはるかに越えたキリストの愛（エペ 3：19)。あなたがたの信仰に徳を加え，徳に知識を（2ペテ 1:5)。ニーファイは神の慈しみを深く知った（1ニフ 1：1)。彼らは自分たちの贖(あがな)い主を知るようになる（2ニフ 6：11)。義人は，自分の義について完全な知識を得（2ニフ 9：14)。御霊(みたま)は理解を与えてくださる（アル 18：35)。あなたがたの知識はそのことに関しては完全である（アル 32：34)。レーマン人は彼らの贖(あがな)い主について真実の知識に導かれる（ヒラ 15：13)。神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる（モロ 7：15−17)。聖徒たちは知識の大いなる宝を見いだすであろう（教義 89：19)。純粋な知識は心を大いに広げる（教義 121：42)。神権の鍵(かぎ)を授けられる者にとって，数々の事実を知ることは少しも難しいことではない（教義 128：11)。この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得

るならば，来るべき世でそれだけ有利になる（教義 130：19）。人が無知で救われることは不可能である（教義 131：6）。

父（現世の）「親」「家族」「族長」参照

子供をもうけた男性，あるいは正式に子供を養子にした男性を指す神聖な呼び名。

あなたの父と母を敬え（出エ 20：12〔申命 5：16；マタ 19：19；モサ 13：20〕）。父はその愛する子を戒める（箴言 3：12）。父たる者よ。子供をおこらせないで（エペ 6：1−4）。わたしは父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた（1ニフ 1：1）。わたしは，父が正しい人であったことを知っている（エノ 1：1）。アルマは息子のために祈った（モサ 27：14）。アルマは息子たちに戒めを与えた（アル 36−42 章）。ヒラマンは息子たちに先祖の名を付けた（ヒラ 5：5−12）。モルモンは祈りの中で，いつも息子のことを心にかけていた（モロ 8：2−3）。大いなることが彼らの父親に求められる（教義 29：48）。自分の家族を扶養する義務を負っている（教義 75：28）。モロナイはジョセフに，父のところへ行くようにと命じた（ジ―歴史 1：49）。

父（天の）「天の御父」参照

チッポラ「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。エテロの娘。モーセの妻（出エ 2：21；18：2）。

中央幹部「管理ビショップ」「七十人」「使徒」「大管長会」参照

仲保者（ちゅうほしゃ）「イエス・キリスト」「贖罪（しょくざい）」参照

執り成しをする者。イエス・キリストは神と人との間の仲保者（ちゅうほしゃ）である。キリストの贖罪（しょくざい）は，人々が罪を悔い改め，神と和解する道を開いた。

だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない（ヨハ 14：6）。神と人との間の仲保者（ちゅうほしゃ）もただひとりであって（1テモ 2：5）。キリストはさらにまさった契約の仲保者（ちゅうほしゃ）である（ヘブ 8：6〔ヘブ 9：15；12：24；教義 107：19〕）。メシヤはすべての人の子らのために執り成しをしてくださる（2ニフ 2：9〔イザ 53：12；モサ 14:12〕）。偉大な仲保者（ちゅうほしゃ）に頼り（2ニフ 2：27−28）。新しい聖約の仲保者（ちゅうほしゃ）イエスを通じて完全な者とされ（教義 76：69）。

長「大管長会」「預言者」参照

組織を管理する役員の呼称。教会の大管長は，預言者，聖見者，啓示者であり（教義 21：1；107：91−92），教会員は教会の預言者を「大管長」と呼ぶように求められている（教義 107：65）。教会の大管長は，神権のすべての鍵（かぎ）を行使する権限を持つ地上でただ一人の人である。

神権定員会や教会の他の組織の長は，会長と呼ばれる。

主はジョセフ・スミスに王国の数々の鍵（かぎ）を授けられた（教義 81：1−2）。3 人の管理大祭司が，教会の大管長会

の定員会を構成する（教義 107：21−24）。長はメルキゼデクの位に従って聖任された（教義 107:29）。執事，教師，祭司，長老のそれぞれの会長の義務が述べられる（教義 107：85−89〔教義 124：136−138，142〕）。七十人は七十人の人々の中から選ばれた 7 人の会長によって管理される（教義 107：93−95）。ステークの会長が任命された（教義 124：133−135）。

長子；初子（ういご）　「イエス・キリスト」「長子の特権；生得権」参照

古代の族長の時代においては，長男が長子の特権を受け（創世 43：33），父親の死とともに家族を統率する任務を引き継いだ。長子はこの責任を引き受けるにふさわしくなければならず（歴上 5：1−2），不義な行いをすれば長子の特権を失うこともあった。

モーセの律法の下では，長男は神に属する者と見なされた。長子は，父親の財産から他の者の 2 倍を受け継いだ（申命 21：17）。父親の死後，長子は母親と姉妹の世話をする責任があった。

動物の初子（ういご）も神に属するものとされていた。清い動物は犠牲としてささげられたが，清くない動物は贖（あがな）うか，売るか，または殺さなければならなかった（出エ 13：2，11−13；34：19−20；レビ 27：11−13，26−27）。

初子（ういご）はイエス・キリストと地上における主の務めを象徴し，偉大なメシヤの来臨を人々に思い起こさせた（モセ 5：4−8；6：63）。

イエスは天の御父の霊の子供の長子であり，また御父の肉における独り子であり，復活によって死者の中からよみがえられた最初の御方である（コロ 1：13−18）。忠実な聖徒は永遠に長子の教会の会員となる（教義 93：21−22）。

あなたのういごを，わたしにささげなければならない（出エ 22：29）。イスラエルのういごをわたしに帰せしめた（民数 3：13）。それは，御子（みこ）を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった（ロマ 8：29）。神は，その長子を世界に導き入れ（ヘブ 1：6）。彼らは長子の教会である（教義 76：54，94）。それは先祖からわたしに授けられた。それは長子の権利であり（アブ 1：3）。

長子の特権；生得権　「聖約（契約）」「長子；初子（ういご）」参照

長子に与えられる相続権。広い意味では，ある家族や文化の中に生まれた人に与えられる権利の一部，あるいはすべてを含んだもの。

まずあなたの長子の特権をわたしに売りなさい（創世 25：29−34〔創世 27：36〕）。長子は長子としてすわらせられた（創世 43：33）。彼はエフライムをマナセの先に立てた（創世 48：14−20〔エレ 31：9〕）。長子の権はヨセフのものとなった（歴上 5：2）。エサウは長子の権利を売り渡した（ヘブ 12：16）。あなたがたは正当な相続人であり（教義 86：9）。シオンは血統によって神権を受ける権利を持っている（教義 113：8〔アブ 2：9−11〕）。

長老　「神権」「メルキゼデク神権」参照

長老という言葉は，『聖書』では様々

な意味で用いられている。『旧約聖書』では，通常政治的な務めを託された部族内の高齢者を指すことが多い（創世 50：7；ヨシ 20：4；ルツ 4：2）。彼らの勧告は，その年齢と経験のゆえに重んじられた。彼らの地位は，必ずしも神権の召しではなかった。

旧約の時代には，メルキゼデク神権の長老に聖任されていた者もいた（出エ 24：9−11）。『新約聖書』では，長老は教会の神権の職の一つとして述べられている（新ヤコ 5：14−15）。ニーファイ人の中にも神権の長老に聖任された者がいた（アル 4:7, 16;モロ 3:1）。現在の神権時代においては，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリが初めて長老に聖任された（教義 20：2−3）。

現在，長老という言葉は，全メルキゼデク神権者を指す言葉として用いられている。例えば，男性の宣教師は長老と呼ばれている。また，使徒も長老であり，十二使徒定員会や七十人定員会の会員について話すときには長老と呼ぶのがふさわしい（教義 20：38；1 ペテ 5：1）。今日の教会の聖任された長老の義務については，末日の啓示の中に書かれている（教義 20：38−45；42：44；46：2；107：12）。

モーセは律法を書いて，イスラエルのすべての長老たちに授けた（申命 31：9）。バルナバは教会の長老たちに援助を送った（使徒 11：30）。教会ごとに長老が任命された（使徒 14：23〔テト 1：5〕）。病んでいる者は，教会の長老たちを招き，祈ってもらうがよい（新ヤコ 5：14）。按手（あんしゅ）によって長老たちが聖任された（アル 6：1）。長老たちは子供に祝福を授けなければならない（教義 20：70）。長老たちは，聖なる御霊（みたま）に導かれるままに集会を執り行う（教義 46：2）。長老たちは，自分の管理人の職について報告しなければならない（教義 72：5）。長老たちは，もろもろの国民に福音を宣（の）べ伝えなければならない（教義 133：8）。

仕える　「神権」「奉仕」参照

地上における主の業に携わること。神の選ばれた僕（しもべ）は，神の業に仕えるために，神から召されなければならない。心から仕える者たちが主の御心を行うとき，彼らはその公式の務めにあって主を代表し，主の代理人として行動することになる（教義 64：29）。そのようにして，人類の救いに必要な働きをするのである。主は聖徒たちを完全な者とし，奉仕の業を行わせるために，使徒，預言者，伝道者，大祭司，七十人，長老，ビショップ，祭司，教師，執事を立てられた（1 コリ 12：12−28；エペ 4：11−16；教義 20；107 章）。

主が彼を選び出して，主の名によって立って仕えさせられる（申命 18:5）。人の子がきたのも，仕えられるためではなく，仕えるためであり（マタ 20：26−28）。わたしがあなたに現れたのは，これを伝える務（つとめ）に，あなたを任じるためである（使徒 26：16−18）。あなたがたがかつて聖徒に仕え，今もなお仕えて，御名のために示してくれた愛（ヘブ 6：10）。奉仕する者は，神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである（1ペテ 4：10−11）。彼らは互いに教え，互いに仕え合った（3ニフ 26：19）。十二使徒は，福

音の教導者を聖任しなければならない（教義 107：39−40）。これらの七十人は巡回教導者となる（教義 107：93−97）。長老たちは教会の常任教導者となるために聖任されている（教義 124：137）。

仕える天使　「天使」参照

月の栄え　「栄光の階級」参照

最後の裁きの後に人々が住む 3 つの栄えの階級で 2 番目のもの。

パウロは月の輝きにたとえられる月の栄光を見た（1コリ 15：40−41）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは月の栄えの世界の栄光を見た（教義 76：71−80）。月の栄えの世界の栄光は，星の栄えの世界の栄光に勝っている（教義 76：91）。月の栄えの王国の律法に従えない者は，月の栄えの栄光に堪えられない（教義 88：23，30，38）。

慎み　「謙遜（けんそん）」参照

謙虚で節度ある上品な行いや外見。慎み深い人は，度を越した行為や見せかけの行動をしない。

神は皮の着物を作って，アダムとエバに着せられた（創世 3：21〔モセ 4：27〕）。女はつつましい身なりをし，適度に慎み深く身を飾るべきであって（1テモ 2：9）。慎み深く，純潔で，家事に努め（テト 2：5）。自分の衣服が高価なことで強情になって高ぶり（ヤコ 2：13）。あなたの衣服はすべて簡素であるようにしなさい（教義 42：40）。わたしたちは，純潔，徳高くあるべきことを信じる（箇条 1：13）。

つぶやき　「背く」参照

神の目的や計画，また神の僕（しもべ）に対して不平や不満を言うこと。

民はモーセにつぶやいて言った（出エ 15：23−16：3）。ユダヤ人らは，イエスについてつぶやき始めた（ヨハ 6：41）。レーマンとレムエルは多くのことでつぶやいた（1ニフ 2：11−12〔1ニフ 3：31；17：17〕）。あなたは見ていないもののことでつぶやいてはならない（教義 25：4）。

妻　「家族」「結婚」参照

つまずく；つまずかせる

神の律法を破ること。罪を犯すこと。人を苦しめたり，傷つけたりすること。人を不愉快にしたり，いらだたせたりすること。

もしあなたの右の目が罪を犯させるなら，それを抜き出して捨てなさい（マタ 5：29）。わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は，海の深みに沈められる方が，その人の益になる（マタ 18：6〔教義 121：19−22〕）。多くの人がつまずき，また互いに裏切り，憎み合う（ジ―マタ 1：8）。

罪　「忌まわしい行い」「汚れ」「邪悪」「背く」「不義」「不信心」参照

神の戒めに故意に従わないこと。

その罪を隠す者は栄えることがない（箴言 28：13）。あなたがたの罪は緋

のようであっても，雪のように白くなる（イザ 1：18）。罪人は死に，義人は救われる（エゼ 18 章）。神の小羊は世の罪を取り除く（ヨハ 1：29）。バプテスマを受け，あなたの罪を洗い落としなさい（使徒 22：16）。罪の支払う報酬は死である（ロマ 6：23）。人が，なすべき善を知りながら行わなければ，それは彼にとって罪である（新ヤコ 4：17）。わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください（2ニフ 4:31）。罪を抱いたまま死ぬ者は皆，災いである（2ニフ 9：38）。罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった（アル 13：12）。罪から幸福へ回復されると思ってはならない（アル 41：9−10）。主はほんのわずかでも，罪を見過ごしにされることはない（アル 45:16〔教義 1:31〕）。幼い子供たちは，罪を犯すことができない（モロ 8:8）。悔い改めるには，罪を告白して捨てなければならない（教義 58：42−43）。赦さない者の中にはもっと大きな罪が残る（教義 64：9）。いっそう大いなる光に対して罪を犯す者は，いっそう大きな罪の宣告を受ける（教義 82:3）。罪を犯す者には以前の罪が戻る（教義 82：7）。わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとするとき，天は退き去る（教義 121：37）。

罪がない

責められるべき点がないこと。

堕落前のアダムとエバは，罪のない状態にあった（2ニフ 2：23）。罪のない者の血は彼らを責める証拠となり（アル 14：11）。人の霊は皆，初めに罪がなかった（教義 93：38）。罪のない者が正しくない者とともに罪に定められることのないため（教義 104:7）。ジョセフ・スミスとハイラム・スミスには何の罪もなかった（教義 135：6−7）。子供は世の初めから罪がない（モセ 6：54）。

罪の宣告　「最後の裁き」「裁き」参照

罪に対して裁決を下すこと，あるいは神によって罪ありとされること。

悪い計りごとを設ける人は主に罰せられる（箴言 12：2）。それは，この世と共に罪に定められないために，主の懲らしめを受けることなのである（1コリ 11：32）。わたしたちの言葉，行い，思いはわたしたちを罪に定める（アル 12：14）。これらの事柄を知っていて行わないので，罪の宣告を受けることになり（ヒラ 14：19）。働くことをやめれば，わたしたちは罪の宣告を受けるに違いない（モロ 9：6）。自分の兄弟の過ちを赦さない者は，主の前に罪があるとされる（教義 64：9）。いっそう大いなる光に対して罪を犯す者は，いっそう大きな罪の宣告を受ける（教義 82：3）。彼らが悔い改めて，『モルモン書』を思い起こすまで，全教会は依然としてこの罪の宣告の下にある（教義 84：54−57）。

罪の赦し　「イエス・キリスト」「悔い改め」「贖罪」「赦し」参照

悔い改めを条件に過ちが赦されること。罪の赦しは，イエス・キリストの贖罪によって可能になる。キリストを信じる信仰を持ち，罪を悔い改め，またバプテスマの儀式と，聖霊の賜物

を受けるための按手の儀式を受け，神の戒めに従う人は，罪の赦しを得る（箇条 1：3，4）。

あなたがたの罪は緋のようであっても，雪のように白くなる（イザ 1：16−18）。これは，罪のゆるしを得させるようにと，多くの人のために流すわたしの血である（マタ 26：28〔ヘブ 9：22−28；教義 27：2〕）。悔い改めなさい。そして，罪のゆるしを得るために，バプテスマを受けなさい（使徒 2:38〔ルカ 3：3；教義 107：20〕）。イエスを信じる者は，罪のゆるしが受けられる（使徒 10：43〔モサ 3：13〕）。キリストは，わたしたちが罪の赦しを求めることのできる源である（2ニフ 25：26）。罪の赦しを保つには，貧しい人や乏しい人に助けを与えなければならない（モサ 4：11−12，26）。悔い改める者はだれであろうと，憐れみを受け，罪の赦しを得る権利を持つ（アル 12：34）。戒めを守ることは罪の赦しを生じ（モロ 8：25）。アロンの神権は罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ（教義 13：1〔教義 84：64，74；箇条 1：4〕）。自分の罪を悔い改めた者は赦され（教義 58：42−43〔エゼ 18：21−22〕）。これらの者は，罪の赦しのための身代わりのバプテスマについて教えを受けた（教義 138：33）。

テアンクム

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の軍隊の偉大な指導者（アル 50：35；51−52 章；61−62 章）。

定員会　「神権」参照

定員会という言葉は，次の二つの意味で用いられる。(1) 同一の神権の職を持つ男性が構成する特定のグループ。(2) 教会の業務を遂行するために集会に出席すべき過半数すなわち定足数の神権者のグループ（教義 107：28）。

大管長会，十二使徒，七十人の定員会と，その相互の関係が述べられる（教義 107：22−26，33−34〔教義 124：126−128〕）。これらの定員会が下す決議も皆，全会一致の声によってなされなければならない（教義 107：27）。定員会の決議は，完全な義により下されなければならない（教義 107：30−32）。神権定員会の会長の義務が述べられる（教義 107：85−96）。長老の定員会は常任教導者となるために設けられている（教義 124：137）。

テーラー，ジョン

末日聖徒イエス・キリスト教会の第 3 代大管長。

十二使徒評議会に召された（教義 118：6〔教義 124：128−129〕）。ジョセフとハイラムの殉教について書いた（教義 135 章）。殉教の場で負傷した（教義 135：2）。ジョセフ・F・スミスが見た，霊界の偉大な者たちの中にいた（教義 138：53−56）。

敵意　「愛」「ねたみ」「報復」参照

聖典では，反抗，敵対，憎しみの意味を表す言葉として用いられる。

わたしは恨みをおく，おまえと女とのあいだに（創世 3：15〔モセ 4：21〕）。肉の思いは神に敵する（ロマ 8：

7)。世を友とするのは，神への敵対である（新ヤコ 4：4)。その日，敵意がわたしの前からなくなるであろう（教義 101：26)。

敵対する者　「悪魔」参照

テサロニケ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 2 書。紀元 50 年ごろ，初めてヨーロッパを訪れたパウロが，コリント滞在中にテサロニケ人に書き送った手紙。テサロニケでのパウロの働きについては，使徒 17 章に述べられている。パウロはテサロニケへ帰ることを望んだが，そうできなかった（1 テサ 2：18)。そこでパウロは改宗者を励まし，彼らの近況を知るためにテモテを派遣した。第一の手紙は，テモテが帰って直ちに書かれたパウロの感謝の気持ちである。

テサロニケ人への第一の手紙：第 1－2 章には，聖徒たちへのパウロのあいさつと祈りが記されている。第 3－5 章には，霊的な成長や愛，純潔，勤勉，イエス・キリストの再臨についての教えが書かれている。

テサロニケ人への第二の手紙：第 1 章には，聖徒のための祈りが記されている。第 2 章には，やがて背教が起こることが述べられている。第 3 章には，福音の目的が達せられるようにとのパウロの祈りが書かれている。

弟子　「改宗」「くびき」「クリスチャン」「使徒」参照

イエス・キリストに従い，その教えのとおりに生活をする人（教義 41:5)。弟子という言葉は，キリストが地上で務めを果たしておられたときに召された十二使徒を指す場合に用いられる（マタ 10：1－4)。また，イエスがニーファイ人とレーマン人の中で教会の指導者として選ばれた 12 人を指す場合にも使われる（3 ニフ 19：4)。

教（おしえ）をわが弟子たちのうちに封じておこう（イザ 8：16)。もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら，あなたがたはわたしの弟子なのである（ヨハ 8：31)。モルモンはイエス・キリストの弟子であった（3 ニフ 5：12－13)。あなたがたはわたしの弟子である（3 ニフ 15：12)。三人の弟子たちは死を味わうことがない（3 ニフ 28：4－10)。警告の声は，わたしが選んだ弟子たちの口を通して及ぶ（教義 1:4)。わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち（教義 45：32)。貧しい者と乏しい者，病気の者と苦しんでいる者を思い起こさない者は，わたしの弟子ではない（教義 52：40)。わたしのために進んで自分の命を捨てない者は，わたしの弟子ではない（教義 103：27－28)。

デゼレト　「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中のヤレド人の言葉で「蜜蜂（みつばち）」を意味する（エテ 2：3)。

テトス　「テトスへの手紙」「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の人物。パウロとともにエルサレムへ旅をし，後に宣教師となった信頼できるギリシャ人改宗者（ガラ 2：1－4；2 テモ 4：10)。テ

トスはコリントの聖徒たちに，パウロの最初の手紙を届けた（2コリ7：5−8，13−15）。

テトスへの手紙　「テトス」「パウロ」「パウロの手紙」参照

パウロは一時的にローマでの獄中生活から解放されたとき，クレテにいたテトスにこの手紙を書いた。この手紙はおもに，教会の内部規律や組織についての問題を扱っている。

第1章には，パウロのあいさつと指示，ならびに監督（ビショップ）に求められる一般的な資格が述べられている。第2−3章には，一般的な教えとクレテの教会の様々な層の人々への対処の仕方が書かれている。パウロは聖徒たちに不品行をやめ，慎み深く，忠実であり，善い業を続けるよう励ましている。

デボラ

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルを裁き，バラクにカナン人と戦うよう励ましを与えた女預言者（士師4章）。デボラとバラクは，イスラエルが束縛から解放されたことを祝って歌った（士師5章）。

テモテ　「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。パウロが伝道したときの若い同僚宣教師（使徒16：1−3；2テモ1：1−5）。父はギリシャ人，母はユダヤ人であった。テモテは両親とともにルステラで暮らしていた。

パウロはテモテを「信仰によるわたしの真実な子」と呼んでいる（1テモ1：2，18；2テモ1：2）。テモテはパウロにとって最も信頼できる有能な助け手であったと思われる（ピリ2：19−23）。

テモテへの手紙　「テモテ」「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の2書。パウロがテモテに書き送った手紙。

テモテへの第一の手紙：パウロはこの第一の手紙を最初の獄中生活の後に書いた。彼はまた戻って来るつもりで，テモテをエペソに残していた（1テモ3：14）。しかし，遅れることになると感じて，テモテにこの手紙を書き送った。恐らくマケドニアからと思われる。その目的は，テモテに義務を果たすよう勧め励ますことであった。

第1章には，パウロのあいさつと，教会に入り込んできた様々な空論に関するパウロの教えが載っている。第2−3章には，公の礼拝行事と，神に仕える者としてのあるべき姿と行いについての指示が書かれている。第4−5章では，末日の背教の様子と，テモテが導いていた人々の教え導き方についての彼への勧告が述べられている。第6章は，忠実さを認められるように，またこの世の富を避けるようにとの勧めである。

テモテへの第二の手紙：この第二の手紙は，2度目の獄中生活の間，殉教の直前に書いたものである。この手紙にはパウロの最後の言葉が書かれ，死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と信頼が示されている。

第1章には，パウロのあいさつとテモテへの指示が書かれている。第2−3章では，将来に待ち受ける危険に立ち向かうようにとの励ましとともに，様々な警告や訓戒が与えられている。第4章には，背教者にどう対処すべきかの助言を含めて，パウロの友人たちに送る言葉が書かれている。

デリラ　「ペリシテ人」参照

『旧約聖書』の中の人物。サムソンをだまして裏切ったペリシテ人の女（士師16章）。

天　「神の王国；天の王国」「パラダイス」「日の栄え」参照

聖典に出てくる「天」という言葉には，二つの基本的な意味がある。(1) 神が住んでおられる所，また聖徒が将来住む所（創世28：12；詩篇11：4；マタ6：9）。(2) 地球を取り巻く広がり（創世1：1，17；出エ24：10）。天とパラダイスは明らかに異なる。パラダイスは，世を去った忠実な霊が一時的にとどまる場所を指す。イエスは，十字架上で息を引き取った後にパラダイスを訪れられた。しかし3日目に，イエスはマリヤに，御自分がまだ御父のもとに行っていないことを告げられた（ルカ23：39−44；ヨハ20：17；教義138：11−37）。

わたしは，あなたの指のわざなる天を見（詩篇8：3）。もろもろの天は主のみことばによって造られ（詩篇33：6）。あなたは天から落ちてしまった（イザ14：12〔2ニフ24：12〕）。もろもろの天は巻物のように巻かれ（イザ34：4）。わたしは新しい天と，新しい地とを創造する（イザ65：17）。わたしが天の窓を開いて（マラ3：10）。天にいますわれらの父よ，御名があがめられますように（マタ6：9〔3ニフ13：9〕）。パウロは第三の天にまで引き上げられた（2コリ12：2）。天に静けさがあった（黙示8：1〔教義88：95−98〕）。最後まで忠実であり続けるならば，彼らは天に迎えられ（モサ2：41）。天におられるあなたがたの父の子となるためである（3ニフ12：45）。天の雲の中を来る（教義45：16）。エリヤは死を味わうことなく天に取り去られた（教義110：13）。神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており（教義121：36）。天に2種の存在者がいる（教義129：1）。シオンが天に取り上げられた（モセ7：23）。

天国　「神の王国；天の王国」参照

天使

天には天使と呼ばれる2種の存在者がいる。霊の状態の者と骨肉の体を持つ者である。霊の状態の天使は，まだ骨肉の体を得ていない。すなわち，かつては死すべき体を持っていたが，今は復活を待っている者である。骨肉の体を持つ天使は，死者の中からよみがえった者か，または身を変えられた者である。

聖典には天使の働きに関する多くの記述がある。時には，雷のような声で神の御告げを伝えることがある（モサ27：11−16）。義人が天使と呼ばれることもある（JS創世19：15）。天上の

神の御座を取り囲む天使もいる（アル36：22）。

聖典には悪魔の使いのことも記されている。前世でルシフェルに従い，神の前から追い払われ，地上に投げ落とされた霊たちである（黙示12：1−9；2ニフ9：9，16；教義29：36−37）。

ヤコブは神の使たちが上り下りしているのを見た（創世28：12）。神の使たちがヤコブに会った（創世32：1−2）。ギデオンは顔を合わせて主の使を見た（士師6：22）。天の使が手をエルサレムに伸べてこれを滅ぼそうとした（サ下24：16）。天の使が彼にさわり，「起きて食べなさい」と言った（列上19：5−7）。ダニエルは示現の中で天使ガブリエルを見た（ダニ8：15−16）。天使の長ミカエルが来て，ダニエルを助けた（ダニ10：13）。天使ガブリエルが神から遣わされた（ルカ1：19，26−27）。悪魔の使たちはさばきのために，しばりつけたまま，閉じ込めておかれた（ユダ1：6〔2ペテ2：4〕）。人々は天使が天から降って来るのを見た（3ニフ17：24）。モロナイは天使の働きについて記録した（モロ7：25−32）。アロンの神権は天使の働きの鍵を持つ（教義13章）。モロナイ，バプテスマのヨハネ，ペテロとヤコブとヨハネ，エリヤ，エライアスが，天使としてジョセフ・スミスを訪れた（教義27：5−12）。あなたがたは天使たちの訪れにも堪えることができない（教義67：13）。天使長ミカエルはアダムである（教義107：54）。天使とは，骨肉の体を持つ復活した人々である（教義129章）。この地球において教え導く天使たちで，この地球に属していない者はだれもいない（教義130：5）。神の永遠の結婚の律法に従わない人は，めとることも，嫁ぐこともなく，天において天使に任じられる（教義132：16−17）。

天使長；天使のかしら　「アダム」「ミカエル」参照

ミカエルすなわちアダムは，天使長すなわち天使のかしらである。

主ご自身が天使のかしらの声の鳴り響くうちに，天から下ってこられる（1テサ4：16）。ミカエルは御使のかしらである（ユダ1：9〔教義29：26；88：112；128：20−21〕）。

天上の会議　「贖いの計画」「前世」「天での戦い」参照

前世において開かれた会議。この会議で御父はこの地球に来ることになっていたすべての霊の子供たちに，御自身の計画を明らかにされた。

神の子たちはみな喜び呼ばわった（ヨブ38：7）。わたしの王座を高く神の星の上におき（イザ14：12−13）。天では戦いが起った（黙示12：7−11）。彼らは生まれる前に，霊の世界において最初の教えを受け（教義138：56）。サタンは前世で背いた（モセ4：1−4）。英知は，世界が存在する前に組織された（アブ3：22）。神々は協議された（アブ4：26）。神々は協議したすべての業を離れて休まれた（アブ5：2）。

天での戦い　「前世」「天上の会議」参照

前世において神の霊の子供たちの間に起きた戦い。

サタンは天を追われ，地に投げ落された（黙示 12：4，7−9）。悪魔と天の衆群の 3 分の 1 が落とされた（教義 29：36−37）。ルシフェルは独り子に背いた（教義 76：25−26）。サタンは御父の誉れを求め，人の選択の自由を損なおうとした（モセ 4：1−4〔イザ 14:12−15;アブ 3:27−28〕）。神に従った者たちは第一の位を守り，地球に来て肉体を受けた（アブ 3：26）。

伝道活動　「宣(の)べ伝える」「福音書」参照

言葉と模範によりイエス・キリストの福音を伝えること。

救(すくい)を告げる者の足は山の上にあって，なんと麗しいことだろう（イザ 52：7）。わたしは，わたしみずからわが羊を尋ねて，これを捜し出す（エゼ 34：11）。すべての造られたものに福音を宣(の)べ伝えよ（マコ 16:15〔モル 9:22〕）。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている（ヨハ 4:35）。つかわされなくては，どうして宣(の)べ伝えることがあろうか（ロマ 10：15）。力の限り神の言葉を民に教え（ヤコ 1：19）。主はすべての国民に，主の御言葉を教えることを許される（アル 29：8）。福音は弱い者や純朴な者によって宣(の)べられる（教義 1：23）。驚くべき業が現れようとしている（教義 4：1）。生涯力を尽くし，一人でもわたしのもとに導くならば，あなたがたの喜びはいかに大きいことか（教義 18：15）。わたしの選民はわたしの声を聴き，その心をかたくなにしない（教義 29：7）二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣(の)べ伝え（教義 42：6）。この知らせはこの地から全世界に出て行く（教義 58：64）。口を開いて，わたしの福音を宣言し（教義 71：1）。啓示と戒めに従って真理を宣言しなさい（教義 75：4）。警告を受けた人は皆，その隣人に警告しなければならない（教義 88：81〔教義 38：40−41〕）。主は福音を宣(の)べ伝える人々の家族を扶養される（教義 118：3）。神の僕(しもべ)たちは出て行って（教義 133：38）。忠実な長老たちが，死すべき世を去っても彼らの働きを続け（教義 138：57）。

伝道者　「祝福師」「祝福師の祝福」参照

イエス・キリストの福音のよきおとずれを証(あかし)し，宣言する人。ジョセフ・スミスは，伝道者とは祝福師のことであると教えた。祝福師は，祝福師の祝福と呼ばれる特別な祝福を与えるために，十二使徒の指示の下に召され，聖任される。

ある人を使徒とし，ある人を預言者とし，ある人を伝道者とし（エペ 4：11）。伝道者のわざをなし（2テモ 4：5）。わたしたちは，使徒，預言者，牧者，教師，祝福師などがあることを信じる（箇条 1：6）。

伝道の書

『旧約聖書』の中の 1 書。人生の幾つかの難問に関する深い思索が書かれている。

著者である伝道者は，福音の知識を持たない人の観点からこの書の多くの部分を書いている。世の人々，つまり「日の下」（伝道 1：9）の人々の考えに立って書いているのである。この書には，否定的で悲観的に思える箇所が多くある（伝道 9：5，10）。しかし，それは主がわたしたちに望んでおられる人生観ではなく，光を受けていない世の人々の目に様々な事象がどう映るかを，伝道者が観察した結果である。この書の中で最も霊的な部分は，第 11 章と第 12 章の中にある。そこで著者は，不変の価値を持つのはただ一つ，神の戒めに従うことであると結論づけている。

天の御父　「神；神会」参照

全人類の霊の父（詩篇 82：6；マタ 5：48；ヨハ 10：34；ロマ 8:16−17；ガラ 4：7；1 ヨハ 3：2）。イエスは肉における御父の独り子であられる。人は御父に従い，畏敬（いけい）の念を持ち，イエスの名によって御父に祈るように命じられている。

もしも，あなたがたが，人々のあやまちをゆるすならば，あなたがたの天の父も，あなたがたをゆるして下さるであろう（マタ 6：14〔マタ 18：35；3 ニフ 13：14〕）。あなたがたの天の父は，これらのものが，ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである（マタ 6：26−33〔3 ニフ 13：26−33〕）。天の父はなおさら，求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか（ルカ 11：11−13）。ほむべきかな，わたしたちの主イエス・キリストの父なる神（エペ 1：3）。あなたがたは天の御父にとこしえに恩を受けている（モサ 2：34）。キリストは御父の名の栄光を表し（エテ 12：8）。御父がその隠れ場から出て来られるに先立って，聖徒たちは受けた迫害について証言すべきである（教義 123：1−3，6）。わたしたちは天の御父からの大いなる栄光ある祝福を受けた（ジ―歴史 1：73）。

同意の律法　「イエス・キリストの教会」「支持（教会指導者の）」参照

教会員はこの原則によって，教会の奉仕の職に召された人への支持，また会員の支持が必要な教会の決定事項への支持を行う。通常，右手を挙げてその意を示す。

イエス・キリストは御自身の教会の頭（かしら）である。イエス・キリストは聖霊による霊感を通して，重要な決定や決裁について教会の指導者を導かれる。しかし教会員はすべて，指導者の決定や決裁に対して支持・不支持の意を示す権利と特権を持っている。

民はみな同音に答えて言った（出エ 24：3〔民数 27：18−19〕）。使徒と長老たちは衆議一決した（使徒 15：25）。その教会の賛意の表明がなければ，だれも聖任されることはない（教義 20：65−66）。すべてのことは，教会員の同意を得て行わなければならない（教義 26：2〔教義 28：13〕）。すべてのことを会員の一致に従って行いなさい（教義 104：21）。

同性愛　「姦淫（かんいん）」「肉欲」参照

同性間の性的関係。主はこの種の性

的関係を禁じておられる。

それをここに出しなさい。われわれは彼らを知るであろう（創世 19：1−11〔モセ 5：51−53〕）。あなたは女と寝るように男と寝てはならない。これは憎むべきことである（レビ 18:22〔レビ 20：13〕）。イスラエルの男子は神殿男娼となってはならない（申命 23：17）。ソドムのようにその罪をあらわして隠さない（イザ 3:9〔2ニフ 13:9〕）。男も互（たがい）にその情欲の炎を燃やし（ロマ 1：27）。男色をする者は，神の国をつぐことはない（1コリ 6：9−10）。律法は正しい人のために定められたのではなく，男色をする者のために定められている（1テモ 1：9−10）。不自然な肉欲に走った人々は，永遠の火の刑罰を受け，人々の見せしめにされている（ユダ 1：7）。

道徳　「姦淫（かんいん）」「純潔」「性的不道徳」「不貞」参照

尊ぶ　「敬う」「敬虔（けいけん）」参照

特に福音的な観点から，人や物事を価値ある有益な存在として大切に思うこと。

彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった（イザ 53：3−4）。人々の間で尊ばれるものは，神のみまえでは忌みきらわれる（ルカ 16：15）。人を自分よりすぐれた者としなさい（ピリ 2:3）。主はすべての人を公平に重んじられ（1ニフ 17：35）。すべての者は隣人を自分自身のように尊ばなければならない（モサ 27：4〔教義 38：24−25〕）。平穏な日には，彼らはわたしの勧告を軽んじた（教義 101：8）。

時のしるし　「イエス・キリストの再臨」「終わりの時；末日」「しるし」参照

神の業の中で何か重要なことがすでに起きていること，あるいは間もなく起こることを示すために，神が人々に与えられる出来事や経験。末日には，救い主の再臨を告げる多くのしるしが預言されている。それらのしるしは忠実な人々に神の計画を意識させ，警告を与え，備えをさせる。

主の家の山は，もろもろの山のかしらとして堅く立ち（イザ 2：2−3）。主は旗をあげて，イスラエルを集められる（イザ 5：26〔2ニフ 15：26−30〕）。太陽は出ても暗く，月はその光を輝かさない（イザ 13：10〔ヨエ 3：15；教義 29：14〕）。民が律法にそむき，とこしえの契約を破る（イザ 24：5）。ニーファイ人はちりの中からの声のように語る（イザ 29：4〔2ニフ 27章〕）。イスラエルは力をもって集められる（イザ 49：22−23〔1ニフ 21：22−23；3ニフ 20−21章〕）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく（ダニ 2:44〔教義 65：2〕）。戦争や夢，示現が再臨に先立つ（ヨエ 2章）。万国の民を集めて，エルサレムを攻め撃たせる（ゼカ 14：2〔エゼ 38−39章〕）。炉のように燃える日が来る（マラ 4：1〔3ニフ 25：1；教義 133：64；ジ―歴史 1：37〕）。その時には，大きな患難（かんなん）が起る（マタ 24章〔ジ―マタ 1章〕）。パウロは終りの時の背教と苦難の時代について説明した（2テモ 3−4章）。エルサレム

でふたりの預言者が殺され，復活する（黙示 11 章〔教義 77：15〕）。終わりの日に，天使の働きにより福音が回復される（黙示 14：6−7〔教義 13；27 章；110：11−16；128：8−24〕）。バビロンが打ち立てられるが，やがて倒れる（黙示 17−18 章）。イスラエルは力をもって集められる（1ニフ 21：13−26〔イザ 49：13−26；3 ニフ 20−21 章〕）。あなたがたが知ることのできるように，一つのしるしをあなたがたに示そう（3ニフ 21：1）。『モルモン書』は将来神の力によって出る（モル 8 章）。レーマン人はばらのように花咲く（教義 49：24−25）。悪人は悪人を殺し，恐怖がすべての人に及ぶ（教義 63：32−35〔黙示 9 章〕）。戦争がすべての国々のうえに押し寄せる（教義 87：2）。数々のしるしや自然界の大変動，天使の現れが主の来臨の道を備える（教義 88：86−94）。暗闇（くらやみ）が地を覆い（教義 112：23−24）。主は聖徒たちに再臨に備えるように命じられた（教義 133 章）。

徳　「高潔」「純潔」「力」参照

高潔さ，道徳的な美点。道徳的な清さ（モロ 9：9）。

あなたがりっぱな女であることを知っている（ルツ 3：11）。主の聖所に立つべき者はだれか。手が清く，心のいさぎよい者こそ，その人である（詩篇 24：3−4）。賢い妻はその夫の冠である（箴言 12：4）。賢い妻は宝石よりもすぐれて尊い（箴言 31：10−31）。あなたがたの信仰に徳を加え（2ペテ 1：5〔教義 4：6〕）。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい（教義 121：45）。わたしたちは徳高くあるべきことを信じる（箇条 1：13〔ピリ 4：8〕）。

独身主義　「結婚」参照

毒麦

小麦によく似た草で毒を持つもの。生長して大きくなるまでは，小麦と見分けがつかない（マタ 13：24−30；教義 86：1−7）。

トマス

『新約聖書』の中の人物。救い主が地上で務めを果たしておられたときに最初に選ばれた十二使徒の一人。ギリシャ語では，デドモと呼ばれていた（マタ 10：2−3；ヨハ 14：5；20：24−29；21：2）。トマスは自分の目で救い主を見るまで，イエスの復活を疑っていた。しかし，彼は強い意志の持ち主で，進んで迫害に立ち向かい，主とともに死のうとした（ヨハ 11：16；20：19−25）。

富　「金銭」「高慢」参照

金品などの財産。主は聖徒たちに，善を行うためでなければ，この世の富を求めてはならないと勧告された。聖徒は神の王国を求める前にこの世の富を追い求めてはならない。神の王国には永遠の富が用意されているのである（ヤコ 2：18−19）。

富の増し加わるとき，これに心をかけてはならない（詩篇 62：10）。宝は怒りの日に益なく（箴言 11：4）。自分の富を頼む者は衰える（箴言 11：

28)。令名は大いなる富にまさり（箴言 22：1)。財産のある者が神の国にはいるのは，なんとむずかしいことであろう（マコ 10：23〔ルカ 18：24−25〕)。金銭を愛することは，すべての悪の根である（1テモ 6：10)。彼らの心は彼らの富にあるので，富が彼らの神となっている（2ニフ 9：30)。義人は，富に執着することなく，すべての人に分かち与えた（アル 1：30)。人々は富のゆえに高慢になり始めた（アル 4：6−8)。民は，彼らの富の多少に応じて階級に区別され始めた（3ニフ 6：12)。富を求めずに，知恵を求めなさい（教義 6：7〔アル 39：14；教義 11:7〕)。地の富はわたしのものであり，わたしがそれを与えるのである。高慢に気をつけなさい（教義 38：39)。

永遠の富：天に，宝をたくわえなさい（マタ 6：19−21)。永遠の命の富の声により，わたしはあなたがたを幾度呼んできたことであろう（教義 43：25)。永遠の富はわたしのものであり，わたしが与えるものである（教義 67：2〔教義 78：18〕)。

とりこ　「自由」参照

肉体的あるいは霊的に束縛された状態にあること。

イスラエルの家が，その悪によって捕え移された（エゼ 39：23)。とりこになるべき者は，とりこになっていく（黙示 13：10)。邪悪な人々は悪魔に束縛されるようになる（1ニフ 14：4, 7)。人は，自由と永遠の命を選ぶことも，束縛と死を選ぶことも自由である（2ニフ 2：27)。肉の思いは，悪魔の霊に力を与え，あなたがたを捕らえて（2ニフ 2：29)。あなたがたは，先祖が囚われの状態にあったことをよく覚えているか（アル 5：5−6)。心をかたくなにする者は悪魔に捕らえられる（アル 12：11)。あなたがたは悪魔に誘惑されないように，また悪魔に捕らえられないように，常に目を覚ましていて祈らなくてはならない（3ニフ 18：15)。

貪欲；むさぼり　「ねたみ」参照

聖典でいう貪欲とは，人をうらやんだり，何かを過度に欲しがったりすることである。

あなたはむさぼってはならない（出エ 20：17〔申命 5：21；モサ 13：24；教義 19：25〕)。不正の利を憎む者は長命を得る（箴言 28：16)。彼らは田畑をむさぼってこれを奪い（ミカ 2：2)。貪欲に対してよくよく警戒しなさい（ルカ 12:15)。律法は「むさぼるな」と言っている（ロマ 7：7)。終りの時には，人々は金を愛する者となる（2テモ 3：1−2)。ラバンはわたしたちの持っているものを目にし，欲しくてたまらなくなった（1ニフ 3：25)。あなたは自分の財産をむさぼることなく（教義 19：26)。むさぼるのをやめなさい（教義 88：123)。兄弟のものをむさぼってはならない（教義 136：20)。

ナアマン　「エリシャ」参照

『旧約聖書』の中の人物。シリアの王の軍勢の長。ナアマンは重い皮膚病になったが，イスラエル人の娘の信仰により，預言者エリシャに会うために

イスラエルへ行った。ナアマンはへりくだって，預言者エリシャに言われたとおりヨルダン川で7度身を洗い，重い皮膚病を癒された（列下5：1−19；ルカ4：27）。

ナオミ　「ルツ」参照

『旧約聖書』の中の人物。義にかなった女性でエリメレクの妻であった（ルツ1−4章）。エリメレクとナオミは，飢饉を避けて家族をモアブへ連れて行った。エリメレクと二人の息子の死後，ナオミは嫁のルツとともにベツレヘムに帰った。

慰め主；助け主　「イエス・キリスト」「聖霊」参照

聖典には慰め主として御二方が挙げられている。聖霊（ヨハ14：26−27；モロ8：26；教義21：9；42：17；90：11）と，主イエス・キリスト（ヨハ14：18，21，23）である。ある人が第二の慰め主を得ると，イエス・キリストは時々その人に現れ，御父を現し，顔と顔を合わせて教えを授けられる（教義130：3）。

ナザレ　「イエス・キリスト」参照

ガリラヤ湖西方の丘陵地帯にある村落。ナザレはイエスの故郷であった（マタ2：23）。イエスはナザレの会堂で教え，御自身がイザヤ61：1−2の預言を成就したことを宣言された（マタ13：54−58；マコ6：1−6；ルカ4：16−30）。

ナタナエル　「バルトロマイ」参照

『新約聖書』の中の人物。キリストの使徒の一人で，ピリポの友人（ヨハ1：45−51）。ガリラヤのカナの出身（ヨハ21：2）。キリストはナタナエルのことを，心に偽りのないイスラエル人と言われた（ヨハ1：47）。一般に，ナタナエルとバルトロマイは同一人物であったと考えられている（マタ10：3；マコ3：18；ルカ6：14；ヨハ1：43−45）。

ナタン　「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデ王の時代の預言者。ダビデが主のために神殿を建てたいと申し出たとき，主はナタンに，それを建ててはならないとダビデに告げるように命じられた。ナタンはまた，ダビデが家来のウリヤを死に追いやり，その妻バテシバを奪ったことで，ダビデを責めた（サ下12：1−15；教義132：38−39）。ザドクはナタンとともに，ダビデの息子ソロモンに油を注いで王とした（列上1：38−39，45）。

ナフタリ　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

ヤコブの12人の息子の中の5番目で，ラケルのつかえめビルハの2番目の子供（創世30：7−8）。ナフタリには4人の息子がいた（歴上7：13）。

ナフタリの部族：ナフタリに授けられたヤコブの祝福は，創世49：21に記録されている。また申命33：23には，この部族に対するモーセの祝福が記録されている。

ナホム

『旧約聖書』の中のガリラヤの預言者。紀元前642−606年ごろに預言を記した。

ナホム書：第1章には，再臨の時に地が焼かれることと，主の憐れみと力のことが書かれている。第2章は，ニネベの滅亡について述べている。ニネベの滅亡は末日に起こる事柄をあらかじめ示している。第3章は，続けてニネベの悲惨な滅亡を預言している。

ニーファイ（ニーファイの息子，ヒラマンの孫）「弟子」「ニーファイ（ヒラマンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。復活されたイエス・キリストによって選ばれた12人のニーファイ人の弟子の一人(3ニフ1：2−3；19：4)。この預言者は民のために熱烈に主に祈り，主の声を聞いた(3ニフ1:11−14)。またニーファイは天使の訪れを受け，悪霊を追い出し，自分の兄弟をよみがえらせ，打ち消すことのできない証を述べた(3ニフ7：15−19；19：4)。ニーファイは聖文が記された記録を保管した（3ニフ1：2−3)。

第三ニーファイ：『モルモン書』の中の1書。ニーファイの息子ニーファイによって書かれたもの。第1−10章には，主の来臨についての預言が成就したことが示されている。キリストの降誕のしるしが与えられると民は悔い改めたが，後に民はまた悪事を行うようになった。最後にキリストの死のしるしとして，嵐や地震，大暴風，ひどい滅亡が起こった。第11−28章には，アメリカ大陸へのキリストの訪れが記録されている。これが第三ニーファイの中心である。ここで語られているキリストの言葉の多くは，『聖書』に記されているものとよく似ている（例えば，マタ5−7章と3ニフ12−14章)。第29−30章には，末日の人々に向けられたモルモンの言葉が記されている。

第四ニーファイ：この書には全部で49節から成る一つの章しかないが，約300年にわたるニーファイ人の歴史が網羅されている（紀元34−321年)。この書は，数世代にわたりニーファイを含む幾人かによって記録された。第1−19節には，復活されたキリストの訪問の後，ニーファイ人とレーマン人がすべて心を改めて福音に従ったことが述べられている。平和と愛と一致が人々の間に広がった。再臨の時まで地上にとどまることをキリストから許された3人のニーファイ人の弟子（3ニフ28：4−9）が民に仕えた。ニーファイは息子のアモスに記録を託した。第19−47節には，アモスの働き（84年間）とその息子アモスの働き（112年間）が記されている。紀元201年に，高慢が原因となって民の間に様々な問題が起こり始め，民は階級に分かれ，偽りの教会が利益を得るようになった（4ニフ1：24−34)。

第四ニーファイの終わりの方には，民が再び悪事を犯すようになったことが記されている（4ニフ1：35−49)。紀元305年，アモスの息子アモスが亡くなり，その兄弟アマロンが神聖な記録をすべて安全に守るために隠した。アマロンは後にそれらの記録をモルモンに託した。そしてモルモンは自分の生涯にあった数多くの出来事を記録

し，後にそれらの記録を要約した（モル 1：2−4）。

ニーファイ（ヒラマンの息子）「ヒラマン（ヒラマンの息子）」「リーハイ（ニーファイ人の宣教師）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の偉大な預言者，宣教師。

ヒラマンの長男（ヒラ 3：21）。大さばきつかさに任じられた（ヒラ 3：37）。彼は兄弟のリーハイとともに多くのレーマン人を福音に帰依させた（ヒラ 5：18−19）。火に包まれ，牢から解放された（ヒラ 5：20−52）。自分の庭にある塔の上で祈った（ヒラ 7：6−10）。大さばきつかさの暗殺を暴いた（ヒラ 8：25−28；9：1−38）。主から大いなる力を与えられた（ヒラ 10：3−11）。飢饉を起こすこと，そして飢饉を止めることを主に求めた（ヒラ 11：3−18）。

ニーファイ（リーハイの息子）「ニーファイ人」「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。義人。リーハイとサライアの息子（1 ニフ 1：1−4；2：5）。ニーファイは神の言葉に深い信仰を持ち（1 ニフ 3：7），偉大な預言者，記録者，民の指導者となった。

従順であり，信じて祈り求めた（1 ニフ 2：16）。真鍮版を手に入れるためにエルサレムに戻った（1ニフ 3−4 章）。イシマエルの家族を荒れ野へ連れて来るためにエルサレムに戻った（1ニフ 7 章）。リーハイと同じ示現を受けた（1ニフ 10：17−22；11 章）。示現の中で自分の民の将来と福音の回復とを見た（1ニフ 12−13 章）。命の木の示現を解き明かした（1ニフ 15：21−36）。弓を折ってしまったが，信仰によって食糧を得ることができた（1ニフ 16：18−32）。船を造り，約束の地へ向けて旅をした（1ニフ 17−18 章）。ニーファイ人とレーマン人が分かれた（2ニフ 5 章）。最後の証を述べた（2ニフ 33 章）。

ニーファイ第一書：1 ニーファイ 1 章−18：8 には，預言者リーハイとその家族がエルサレムを去ってからの旅の様子がおもに描かれている。彼らは不毛の荒れ野を旅し，やがて海に着いた。1 ニーファイ 18:9−23 には，レーマンやレムエルの反逆があったにもかかわらず，主に導かれるままに約束の地に向かった彼らの航海の様子が述べられている。第 19−22 章には，主なる贖い主を忘れないようにすべての人に説き勧めるという，ニーファイが記録を残した目的が述べられている（1 ニフ 6 章；19：18）。彼はイザヤの言葉を引用し（1 ニフ 20−21 章），すべての人にイエス・キリストが彼らの救い主であり贖い主であることを知ってほしいという望みをもって，その言葉を解き明かした（1 ニフ 22：12）。

ニーファイ第二書：第 1−4 章には，リーハイが死を前にして残した最後の教えと預言が幾つか述べられている。その中には息子や子孫たちへの祝福も含まれている。第 5 章には，ニーファイ人がレーマン人から分かれた理由が説明されている。ニーファイ人は神殿を建て，モーセの律法を教え，記録を残した。第 6−10 章には，ニーファイ

の弟ヤコブの言葉が記されている。ヤコブはユダの歴史を振り返り，預言者イザヤの記録の一部を引きながら，メシヤについて預言している。第11−33章には，キリストについてのニーファイ自身とヤコブの証(あかし)，終わりの時に関する預言，また『旧約聖書』の一つの書であるイザヤ書から引いた幾つかの章が記録されている。

ニーファイの版：「版」の項を参照。

ニーファイ人　「ニーファイ（リーハイの息子）」「モルモン書」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の民。その多くはリーハイの息子である預言者ニーファイの子孫であった。彼らはレーマン人から分かれ，一般にレーマン人よりも義にかなっていた。しかし，悪事のためにレーマン人に滅ぼされることとなった。

ニーファイ人はレーマン人のもとを去った（2ニフ5：5−17）。レーマン人でない民はニーファイ人であった（ヤコ1：13）。ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた（アル43：6−9，45）。ニーファイの民にとって，モロナイの時代以上に幸せな時はかつて一度もなかった（アル50:23）。ニーファイ人は義人の祈りのおかげで救われた（アル62：40）。ニーファイ人は不信仰に陥るようになった（ヒラ6：34−35）。キリストはニーファイ人の中で教えと導きを施された（3ニフ11章−28：12）。民は皆，主に帰依し，すべてのものを共有した（4ニフ1：2−3）。民の心の中に宿っていた神の愛のために，まったく争いがなかった。彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった（4ニフ1：15−16）。心の中で誇り，虚栄心が強くなり始めた（4ニフ1：43）。地の全面でニーファイ人とレーマン人の双方に流血と虐殺が広がった（モル2：8）。ニーファイ人の罪悪が募ったために，モルモンは指揮官になることを断った（モル3：9−11）。24人を除く，すべてのニーファイ人が殺された（モル6：7−15）。キリストを否定しないニーファイ人はすべて殺された（モロ1：2）。ニーファイ人はその罪悪と忌まわしい行いのゆえに滅ぼされた（教義3：18）。あなたがたはニーファイ人のようにならないよう，高慢に気をつけなさい（教義38：39）。

ニーファイ人の弟子　「三人の弟子（ニーファイ人の）」参照

ニーホル　「偽善売教」「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。悪人。ニーホルはニーファイ人の間で偽善売教を行った最初の人である。偽りの教えを説き，ギデオンを殺した後で，死刑に処せられた（アル1章）。ニーホルに従った者たちは，ニーホルの死後も長くその邪悪な行いと教えとを続けた。

アルマとアミュレクは，ニーホルの教団に属するさばきつかさによって投獄された（アル14：14−18）。殺された者たちがニーホルの教団に属し（アル16：11）。多くがニーホルの教団に属していた（アル21：4）。多くの同胞(はらから)を殺した者の大多数は，ニーホルの教

団に属する者であった（アル 24：28）。

肉　「生まれながらの人」「体」「現世的」「死すべき状態」参照

肉という言葉には幾つかの意味がある。(1) 人間，動物，鳥，魚などの体を形造る柔らかな組織。(2) 死すべき状態。(3) 人間の物質欲あるいは肉欲。

肉体を形造る組織：生きて動くものはあなたがたの食物となるであろう（創世 9：3）。不必要に動物を殺してはならない（JS 創世 9：10−11〔教義 49：21〕）。野の獣と空の鳥は，食物として，また着る物として人が使うように定められている（教義 49:18−19〔教義 59：16−20〕）。肉は控えめに用いなければならない（教義 89：12−15）。

死すべき状態：イエスは御父の独り子であった（ヨハ 1：14〔モサ 15：1−3〕）。アダムは最初の肉なるものとなった（モセ 3：7）。

人間の肉欲：肉なる者を自分の腕とする人は，のろわれる（エレ 17：5）。心は熱しているが，肉体が弱いのである（マコ 14：38）。肉の欲は，父から出たものではなく（1ヨハ 2:16）。ニーファイは自分の肉と罪悪のために苦悩した（2ニフ 4：17−18，34）。悪魔の意志と肉の思いに自らを従わせてはならない（2ニフ 10：24）。

憎しみ；憎む　「愛」「敵意」「報復」参照

人や物事に対する強い嫌悪感のこと。

主であるわたしは，わたしを憎むものには，父の罪を子に報いて（出エ 20：5）。主の憎まれるものが 6 つある（箴言 6：16）。愚かな人はその母を軽んじる（箴言 15：20）。彼は侮られて人に捨てられ（イザ 53：3）。一方を憎んで他方を愛し，あるいは，一方に親しんで他方をうとんじるからである（マタ 6：24）。あなたがたは，わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう（マタ 10：22）。悪を行っている者はみな光を憎む（ヨハ 3：20）。あなたは，年が若いために軽んじられてはならない（1テモ 4：12）。彼らは自分が富んでいるので，貧しい者をさげすみ（2ニフ 9:30）。神の啓示を侮ってはならない（ヤコ 4：8）。彼らはわたしたちに対して，永遠の憎しみを抱いていた（ヤコ 7：24）。人々が神の勧告を無視し，神の言葉を軽んじても（教義 3：7）。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ，迫害されたとしても（ジ―歴史 1：25）。

肉欲　「姦淫（かんいん）」「純潔」「性的不道徳」「不貞」「欲望」参照

性的不品行に代表される不義な肉体的快楽への願望，愛着。

主人の妻はヨセフに目をつけ（創世 39：7）。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫（かんいん）をしたのである（マタ 5：28〔3 ニフ 12：28〕）。たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい（1ペテ 2：11）。肉の欲，目の欲は，父から出たものではなく（1ヨハ 2：16）。これからはもう自分の目の欲を追うことなく（アル 39：9）。聖なる律法を破ったことによって，人は官能におぼれるようになった（教義 20：20）。だれか心の中で姦淫（かんいん）をするなら

ば，彼らは御霊を持たなくなり（教義 63：16）。すべての邪悪な行いをやめなさい（教義 88：121）。人々は肉欲や官能におぼれ，悪魔に従う者となり始めた（モセ 5：13〔モサ 16：3；モセ 6：49〕）。

ニコデモ　「パリサイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。義人。ユダヤ人の指導者（サンヒドリンの一員であったと思われる）。パリサイ人(ヨハ 3：1)。

夜イエスのもとにきて言った（ヨハ 3：1−21）。パリサイ人に対してキリストを弁護した（ヨハ 7：50−53）。イエスの埋葬のために香料を持って来た（ヨハ 19：39−40）。

虹　「ノア(族長)」「ノアの時代の洪水」「箱舟」参照

神がノアと交わされた聖約（契約）のしるし(創世 9：13−17)。ジョセフ・スミス訳創世 9：21−25 では，この聖約には約束として，大地は二度と洪水で覆われないこと，エノクのシオンが戻って来ること，そして主が地上に住むために再び来臨されることが含まれていたと説明されている。

日曜日　「安息日」参照

ニネベ　「アッスリヤ」「ヨナ」参照

『旧約聖書』の中の地名。アッシリア（アッスリヤ）の首都で，200 年以上にわたり，チグリス川東岸の商業の一大中心地であった。紀元前 606 年，アッシリア帝国の滅亡と同時に陥落した。

アッスリヤの王セナケリブはニネベにいた（列下 19：36）。この町に悔い改めを叫ぶためにヨナが遣わされた（ヨナ 1：1−2〔ヨナ 3：1−4〕）。ニネベの人々は悔い改めた（ヨナ 3：5−10）。イエスはユダヤ人に対し，悔い改めの模範としてニネベの例を挙げられた（マタ 12：41）。

柔和　「打ち砕かれた心」「謙遜」「忍耐」参照

神を畏れる，義にかなった，謙遜な，素直な，苦難に耐える，などの意味を持つ言葉。柔和な人は福音の教えに喜んで従う。

モーセは非常に柔和であった（民数 12：3）。柔和な者は国を継ぎ（詩篇 37：11〔マタ 5：5；3 ニフ 12：5；教義 88：17〕）。わたしは柔和で心のへりくだった者である（マタ 11：29）。柔和は御霊の実である（ガラ 5：22−23）。反対する者を柔和な心で教え導くべきである（2テモ 2：24−25）。柔和でしとやかな霊は，神の前にきわめて尊いものである（1ペテ 3：4）。生まれながらの人を捨てて柔和になる（モサ 3：19〔アル 13：27−28〕）。柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい（アル 37：33）。わたしの恵みは柔和な者に十分であり（エテ 12：26）。あなたがたが柔和であるのを見て，あなたがたにはキリストを信じる信仰があると思う（モロ 7：39）。柔和で心のへりくだった人でなければ，神の御前に受け入れられない（モロ 7：44）。罪の赦しは柔和な状態を生じ，柔和な状態であれば聖霊の訪れがある（モロ 8：26）。わたしの御

霊の柔和な道を歩みなさい（教義 19：23）。柔和に家を治め（教義 31：9）。いかなる力も影響力も，温厚と柔和により（教義 121：41）。

忍耐　「堪え忍ぶ」「柔和」参照

心静かに耐えること。不平を言ったり報復をしたりせずに，苦しみや辱め，侮蔑などに耐える力。

主の前にもだし，耐え忍びて主を待ち望め（詩篇 37：7−8）。怒りをおそくする者は大いなる悟りがあり（箴言 14：29）。あなたがたは耐え忍ぶことによって，自分の魂をかち取るであろう（ルカ 21：19）。聖書の与える忍耐と慰めとによって，望みをいだかせる（ロマ 15：4）。信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように（ヘブ 6：12−15）。完全な，でき上がった人となるように，その忍耐力を十分に働かせるがよい（新ヤコ 1：2−4）。あなたがたは，ヨブの忍耐のことを聞いている（新ヤコ 5：11）。彼らは心楽しく忍耐して，主の御心にすべて従った（モサ 24：15）。主があなたとともにおられたので，あなたは忍耐してこれらすべてのことに耐えた（アル 38：4−5）。完全になるまで忍耐し続けなさい（教義 67：13）。

任命　「按手」「召し；神の召し」参照

聖なる目的のために選ばれ，任じられること。この任命は，正当な権能を持つ人の按手により教会の組織で特定の奉仕の務めを受ける人に対して行われる。神権定員会を管理する人だけが，任命を受けるときに鍵を授けられる。神権定員会の長以外の職に任命される人は，神権の祝福を受けることはできるが，それに伴って鍵を授けられることはない。

バルナバとサウロとを，わたしのために聖別して，仕事に当らせなさい（使徒 13：2−3）。ほかのビショップたちが任命される（教義 68:14）。ビショップは一般判士であり，この務めに任命されなければならない（教義 107：17，74）。人は預言によって，また権能を持つ者による按手によって，神から召されなければならない（箇条 1:5）。

盗み

不正直あるいは不法な手段で人のものを取ること。主はその子らに，盗んではならないと命じてこられた（出エ 20：15；マタ 19：18；2 ニフ 26：32；モサ 13：22；教義 59：6）。

自分のため，盗人らが押し入って盗み出すこともない天に，宝をたくわえなさい（マタ 6：19−21）。ニーファイ人が攻撃されたのは，彼らの高慢や富，略奪，盗みなどが原因であった（ヒラ 4：12）。盗んで悔い改めようとしない者は，追い出されなければならない（教義 42：20）。盗みを働く者をその地の法律に引き渡さなければならない（教義 42：84−85）。

ねたみ　「貪欲；むさぼり」「ねたむ」参照

聖典によると，他人の幸せをうらやましく思うのは悪いことである。

族長たちは，ヨセフをねたんで，エジプトに売りとばした（使徒 7：9）。愛はねたむことをしない（1コリ 13：4〔モロ 7：45〕）。高慢から，ねたみが生じる（1テモ 6：4）。ねたみのあるところには，混乱とあらゆる忌むべき行為とがある（新ヤコ 3：16）。主なる神は，ねたんではならないと命じられた（2ニフ 26：32）。ニーファイの民の中には，ねたみがなかった（4ニフ 1：15−18）。人のねたみと憤りが生涯を通じてわたしの日常のことであった（教義 127：2）。

ねたむ　「ねたみ」参照

聖典では，この言葉は二つの意味で用いられている。(1) 何かに対して一途（いちず）な思いや，鋭敏で奥深い感情を持つこと。(2) ほかの人をうらやむこと，またほかの人の優れた点を快く思わないこと。

一途（いちず）な思いを持つこと：わたしは，ねたむ神である（出エ 20:5〔申命 5:9；6：15；モサ 11：22〕）。わが聖なる名のために，ねたみを起す（エゼ 39：25）。わたしはエルサレムのため，シオンのために，大いなるねたみを起し（ゼカ 1：14）。

人をうらやむこと：ねたみは，その夫を激しく怒らせる（箴言 6：32−35）。エーキシは息子をねたむようになり（エテ 9：7）。ねたみと恐れを除き去り（教義 67：10）。

熱心

たゆまず雄々しく努力すること。特に，主に仕え，主の言葉に従うことについて用いられる。

わたしによく聞き従え（イザ 55：2）。力の限りをつくして，あなたがたの信仰に徳を加え（2ペテ 1：5）。力の限り神の言葉を民に教え（ヤコ 1：19）。聖文を熱心に調べて（アル 17：2）。この少数のレーマン人は喜んで力の限り主の戒めを守っていた（3ニフ 6:14）。わたしたちは力を尽くそう（モロ 9：6）。熱心に善いことに携わらなければならない（教義 58：27）。怠けることもなく，あなたがたの勢力を尽くして働く（教義 75：3）。永遠の命の言葉を熱心に心に留めるようにしなさい（教義 84：43）。人は皆，自分の義務を学び，任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい（教義 107：99）。

ネブカデネザル　「ダニエル」「バビロン；バベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。バビロンの王（紀元前 604−561 年）。ユダを征服し（列下 24：1−4），エルサレムを包囲した（列下 24：10−11）。紀元前 600 年ごろ，預言者リーハイはエルサレムから逃れるように命じられ，囚（とら）われの身となってバビロンへ連れ去られることがないようにされた（1 ニフ 1：4−13）。そのバビロニア捕囚で，ネブカデネザルはゼデキヤ王と民を連れ去った（列下 25：1，8−16，20−22）。ダニエルはネブカデネザルの夢を解き明かした（ダニ 2；4 章）。

ネヘミヤ

『旧約聖書』の中の人物。バビロン

にいた高貴な身分のイスラエル人（レビ人またはユダの部族に属していた）で，アルタシャスタ王の宮廷で給仕役の地位にあった。ネヘミヤはアルタシャスタからエルサレムの城壁の再建を認めるとの許可を得た。

ネヘミヤ記：この書はエズラ記の続編である。ユダヤ人がバビロニア捕囚から帰還した後の，エルサレムでの工事の進展と数々の障害についての記録が含まれている。第 1−7 章には，ネヘミヤの第 1 回エルサレム訪問と，大きな障害にもかかわらず城壁が再建されたことが書かれている。第 8−10 章には，ネヘミヤが実施しようとした宗教上の改革と社会改革について述べられている。第 11−13 章には，エルサレムに住む資格のある人々の名前が列挙され，また城壁の奉献の様子が記録されている。第 13 章の第 4−31 節には，12 年間在職した後のネヘミヤの 2 度目のエルサレム訪問のことが記されている。

眠る

活動することも意識することもない休息の状態。主は聖徒に，必要以上に眠らないように勧告しておられる（教義 88：124）。眠りは霊の死（1 コリ 11：30 ；2 ニフ 1：13）や，肉体の死（モル 9:13）の象徴となることもある。

年表

以下の年表は包括的なものではなく，『聖書』と『モルモン書』の時代の様々な出来事の時間的推移を示すものである。

古代族長時代の出来事：（この区分に入る出来事の正確な年代特定は困難であるため，年数表記はしていない。）

紀元前

4000　アダムの堕落
　　エノクの働き
　　ノアの働き；洪水が地を覆う
　　バベルの搭が建てられる；ヤレド人，約束の地に向かって旅をする
　　メルキゼデクの働き
　　ノアの死
　　アブラム（アブラハム）の誕生
　　イサクの誕生
　　ヤコブの誕生
　　ヨセフの誕生
　　ヨセフがエジプトに売られる
　　ヨセフ，パロの前に出る
　　ヤコブ（イスラエル）と家族がエジプトに下って行く
　　ヤコブ（イスラエル）の死
　　ヨセフの死

モーセの誕生
モーセがエジプトからイスラエルの子らを導き出す（出エジプト）
モーセ，身を変えられる
ヨシュアの死
ヨシュアの死後，士師の時代が始まる。最初の士師はオテニエル，最後の士師はサムエル。その他の士師の順序と時期は明確ではない
サウルが油を注がれて王となる

イスラエル統一王国の出来事：
1095　サウルの治世が始まる
1063　ダビデがサムエルにより王として油を注がれる
1055　ダビデがヘブロンで王となる
1047　ダビデがエルサレムで王となる；ナタンとガドが預言をする
1015　ソロモンが全イスラエルの王となる
991　神殿が完成する
975　ソロモンの死；北の 10 の部族がソロモンの息子レハベアムに対して反乱を起こし，イスラエルが分裂する

イスラエル王国の出来事：	ユダ王国の出来事：	『モルモン書』の歴史中の出来事：
975　ヤラベアムがイスラエルの王となる	949　エジプトの王シシャクがエルサレムを略奪する	
875　アハブがサマリヤでイスラエル北部を統治する；エリヤが預言をする		
851　エリシャが偉大な奇跡を行う		
792　アモスが預言をする		
790　ヨナとホセアが預言をする	740　イザヤが預言を始める；（ローマ建国；ナボナサル，バビロンの王として在位〔747 年〕；ティグラテピレセル 3 世，アッシリアの王として在位〔747—734 年〕）	

721　北王国の滅亡；10の部族は囚(とら)われの身となる；ミカが預言をする

728　ヒゼキヤ，ユダの王となる；（シャルマネセル4世，アッシリアの王として在位）

642　ナホムが預言をする

628　エレミヤとゼパニヤが預言をする

609　オバデヤが預言をする；ダニエルがバビロンへ捕囚として連行される；（ニネベが606年に陥落する；ネブカデネザルがバビロンの王として在位〔604—561年〕）

598　エゼキエルがバビロンで預言をする；ハバククが預言をする；ゼデキヤ，ユダの王となる

587　ネブカデネザルがエルサレムを占領する

600　リーハイがエルサレムをたつ

588　ミュレクが約束の地を目指してエルサレムをたつ

588　ニーファイ人がレーマン人から分かれる（588—570）

ユダヤの歴史中の出来事：

537　クロスがユダヤ人にバビロンからの帰国を許す布告を出す

520　ハガイとゼカリヤが預言をする

486　エステルの働き

458　エズラが任じられて改革を行う

444　ネヘミヤがユダヤの総督に任命される

432　マラキが預言をする

『モルモン書』の歴史中の出来事：

400　ジェロムが版を受け継ぐ

360　オムナイが版を受け継ぐ

332　アレクサンドロス大王がシリアとエジプトを征服する
323　アレクサンドロスの死
277　『七十人訳聖書』（ユダヤ人の『聖書』のギリシャ語訳）の翻訳が始まる
167　マカベア家のマッタティアがシリアに反乱を起こす
166　ユダ・マカベアがユダヤ人の指導者になる
165　神殿が清められ, 再奉献される；ハヌカー祭の始まり
161　ユダ・マカベアの死

148　アビナダイの殉教；アルマがニーファイ人の間に教会を再建する
124　ベニヤミンがニーファイ人に最後の説教をする
100　息子アルマとモーサヤの息子たちが働きを始める
91　ニーファイ人の間でさばきつかさの統治が始まる

63　ポンペイゥスがエルサレムを征服し，マカベア家によるイスラエル統治が終わる
51　クレオパトラの支配
41　ヘロデとファサエルがユダヤの共同領主に任じられる
37　ヘロデがエルサレムの指導者となる
31　アクティウムの海戦；アウグストゥス（アウグスト），ローマ皇帝として在位（前 31―後 14）
30　クレオパトラの死
17　ヘロデが神殿を修復する

6　レーマン人サムエルがキリストの降誕を預言する

キリスト教徒の歴史における出来事：紀元		『モルモン書』の歴史中の出来事：	
	イエス・キリストの降誕		
30	キリストの働きが始まる		
33	キリストの十字架刑	33 または 34	復活されたキリストのアメリカ大陸への訪れ
35	パウロの改宗		
45	パウロが最初の伝道の旅に出る		
58	パウロがローマに送られる		
61	使徒行伝の歴史が終わる		
62	ローマの大火；ネロがキリスト教徒を迫害する		
70	キリスト教徒がペラに退く；エルサレムが包囲の末に占領される		
95	ドミティアヌスがキリスト教徒を迫害する		
		385	ニーファイの民の滅亡
		421	モロナイが版を隠す

ノア（ゼニフの息子）

『モルモン書』の中の人物。邪悪な王。ニーファイの地に住むニーファイ人を支配していた。

多くの罪を犯した（モサ 11：1−15）。預言者アビナダイを殺すように命じた（モサ 13：1〔モサ 17：1，5−20〕）。焼き殺された（モサ 19：20）。

ノア（族長）「ガブリエル」「虹（にじ）」「ノアの時代の洪水」「箱舟」参照

『旧約聖書』の中の人物。レメクの息子。アダムから数えて 10 人目の族長（創世 5：29−32）。ノアはキリストについて証（あかし）し，邪悪な世の人々に悔い改めを宣（の）べ伝えた。神は人々がノアの言葉を拒んだとき，箱舟を造るようにノアに命じられた。邪悪な人々を滅ぼすため地を洪水が覆うときに，ノアの家族とすべての生き物をそれに乗せて守るためであった（創世 6：13−22；モセ 8：16−30）。預言者ジョセフ・スミスは，ノアは天使ガブリエルであり，救いの鍵（かぎ）を持つという点でアダムに次ぐ位にあると教えた。

ノアとその息子たちヤペテ，セム，ハムと，彼らの妻たちは，神に命じられて箱舟を造り，救われた（創世 6−8 章〔ヘブ 11：7；1 ペテ 3：20〕）。主はエノクと交わした契約を，ノアと更新された（創世 9：1−17〔JS 創世 9：15，21−25；モセ 7：49−52〕）。メトセラの手の下で聖任されたとき，10 歳であった（教義 107：52）。人々は彼の命を取ろうとしたが，主の力が彼を守った（モセ 8：18）。義を説く者となり，イエス・キリストの福音を教

えた（モセ 8：19，23−24〔2 ペテ 2：5〕）。

ノアの時代の洪水　「虹」「ノア（族長）」「箱舟」参照

ノアの時代に，地球は完全に水で覆われた。これは地球のバプテスマであり，清めを象徴していた（1 ペテ 3：20−21）。

わたしは地の上に洪水を送って，肉なるものを滅ぼし去る（創世 6:17〔モセ 7：34，43，50－52；8：17，30〕）。洪水が地に起った（創世 7：10）。神は契約のしるしとして雲の中ににじを置かれた（創世 9：9−17）。水が地の面から引いた後，アメリカの地はえり抜きの土地になった（エテ 13：2）。洪水の中で滅びるであろう（モセ 7：38；8：24）。

ノーブー（イリノイ州）

1839 年に末日聖徒がイリノイ州に建設した町。ミシシッピ川をセントルイスから約 320㎞さかのぼった所にある。

ミズーリ州での迫害により，聖徒たちはミシシッピ川を越えて北東へ約 320㎞移動し，前よりも恵まれた状態のイリノイ州へ入った。やがて聖徒たちはコマースという未開発の町の近くに土地を購入した。そこは数戸の粗末な建物しかないまったく未開の湿地であった。聖徒たちは土地の排水をし，家を建てた。ジョセフ・スミスも自分の家族を小さな丸太造りの家に移した。その町のコマースという名は，「美しい」を意味するヘブライ語にちなんで「ノーブー」と変えられた。

『教義と聖約』の幾つかの章はノーブーで記録された（教義 124−129；132；135 章）。聖徒たちはノーブーに神殿を建てるように告げられた（教義 124：26−27）。彼らは 1846 年に自分たちの家を追われる前に，神殿を建設し，シオンのステークを組織した。この迫害の結果，聖徒たちはノーブーを去り，西へ向かった。

宣べ伝える　「伝道活動」「福音書」参照

福音の原則や教義についてさらに深い理解を与えるメッセージを伝えること。

主がわたしに油を注いで，貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね（イザ 61：1〔ルカ 4：16−21〕）。立って，ニネベに行き，これに伝えよ（ヨナ 3：2−10）。この時からイエスは教を宣べはじめて（マタ 4：17）。全世界に出て行って，すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ（マコ 16：15）。わたしたちは，十字架につけられたキリストを宣べ伝える（1コリ 1：22−24）。彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き，宣べ伝えることをされた（1ペテ 3：19）。主を畏れる気持ちを抱くように，絶えず彼らを奮い立たせるほかに，方法はなかった（エノ 1：23）。悔い改めと，主を信じる信仰のほかは，何も説かないように指示した（モサ 18：20）。御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり（アル 31：5）。あなたは召しを受けるまで，教えを説くために召されたと思うには及ばない

（教義 11：15）。聖任されないかぎり，だれも宣べ伝えるために出て行くことは許されない（教義 42：11）。この福音はあらゆる国民に宣べ伝えられるであろう（教義 133：37）。福音は最初から宣べ伝えられた（モセ 5：58）。

飲み物　「知恵の言葉」参照

のろい　「罰の定め」「不敬」参照

聖典におけるのろいとは，物や個人，民に対して裁きとその結果が及ぶことを許す神の律法が適用されることである。その第1の原因は不義である。のろいは，神の愛と正義の表れである。のろいは，神が直接に下されることもあれば，権能を授けられた僕が宣言することもある。時には，のろいが下された理由が人に知らされないこともある。故意に神に背くことによって主の御霊から遠ざかる者は，こののろいの状態を経験する。

主は，イエス・キリストを信じる信仰と福音の律法と儀式への従順さを示した個人や民からのろいを取り除かれる（アル 23：16−18；3 ニフ 2：14−16；箇条 1：3）。

神は蛇を，アダムとエバをだましたことでのろわれた（創世 3：13−15〔モセ 4：19−21〕）。地はアダムとエバのためにのろわれた（創世 3：17−19〔モセ 4：23−25〕）。主はカインを，アベルを殺したことでのろわれた（創世 4：11−16〔モセ 5：22−41〕）。主はカナンとその子孫をのろわれた（創世 9：25−27〔モセ 7：6−8；アブ 1：21−27〕）。イスラエルは神に従順であれば祝福され，不従順であればのろわれる（申命 28：1−68〔申命 29：18−28〕）。ゲハジとその子孫はのろわれ，ナアマンの重い皮膚病を受けた（列下 5：20−27）。主は昔のイスラエルの民を，什分の一とささげ物を納めなかったことでのろわれた（マラ 3：6−10）。いちじくの木がイエスののろいによって枯れた（マコ 11：11−14，20−21）。イエスはコラジンやベツサイダ，カペナウムの町をのろわれた（ルカ 10：10−15）。主に聞き従わなかったレーマン人は，主の前から絶たれ，のろわれた（2ニフ 5：20−24）。主は，御自分のもとに来るように，すべての人を招かれる（2ニフ 26：33）。主はみだらなことを行う者をのろわれる（ヤコ 2：31−33）。ニーファイ人は，悔い改めなければレーマン人よりもひどいのろいを受ける（ヤコ 3：3−5）。反抗的な人々は自分自身にのろいを招く（アル 3：18−19〔申命 11：26−28〕）。コリホルは人々を神から離れさせたことでのろわれた（アル 30：43−60）。主なる神は，のろいが地に下るように，またあなたがたの富にも下るようにされた。それはあなたがたの罪悪のためである（ヒラ 13：22−23〔2 ニフ 1：7；アル 37：31〕）。主は邪悪なヤレド人をのろわれた（エテ 9：28−35）。キリストの贖罪は，幼い子供たちからアダムののろいを取り去る（モロ 8：8−12）。主に背く者はのろわれる（教義 41：1）。先祖と子孫の間に堅いつながりがなければ，地はのろいをもって打たれる（教義 128：18〔マラ 4：5−6〕）。

不敬：「のろい」という言葉は，冒瀆や不敬，侮辱の言葉を用いるという

意味でも使われる。

人は自分の父や母をのろってはならない（出エ 21：17〔マタ 15：4〕）。民の司をのろってはならない（出エ 22：28〔伝道 10:20〕）。男も女も神をのろってはならない（レビ 24：13−16）。ペテロはイエスとのかかわりを否定したとき，のろいの言葉さえ口にした（KJ マタ 26：69−74）。邪悪なニーファイ人は神をのろい，死ぬことを願った（モル 2：14）。

パートリッジ，エドワード

近代に回復された当教会の初期の会員で，指導者としての務めを果たした人物。当教会の最初のビショップ（教義 36 章；41：9－11；42：10；51：1－18；115 章；124：19）。

バアル　「偶像礼拝」参照

おもにフェニキアで礼拝された男性格の太陽神（列上 16：31）。フェニキア以外の地でも，モアブ人のバアル・ペオル（民数 25：1−3），シケムのバアル・ベリテ（士師 8：33；9：4），エクロンのバアル・ゼブブ（列下 1:2）など様々な形で礼拝された。バアルは，バビロンのベルやギリシャのゼウスと同じとも考えられる。バアルという言葉は主人と奴隷の関係を示している。バアルは通常，雄牛をその象徴とした。一般に，バアルとともに，アシタロテという女神が礼拝された。

バアルは時として，ほかの名前や言葉と結合し，バアル礼拝が行われた場所やバアルのような属性を備えた人など，バアルとの関連性を示す場合にも用いられた。後にバアルという言葉が非常に邪悪な意味合いを帯びてきたため，これらの結合語の名称では，バアルがボセテという言葉に置き換えられた。ボセテとは「恥」の意味である。

背教；背信　「背く」「福音の回復」参照

個人，教会，あるいは国民全体が真理に背くこと。

一般的な背教：イスラエルは主を離れてはならない（申命 29：18）。示現がなければ民は滅びる（KJ 箴言 29：18）。とこしえの契約を破った（イザ 24：5）。風が吹いてその家に打ちつけると，倒れてしまう（マタ 7：27）。あなたがたがこんなにも早く，違った福音に落ちていくことが，わたしには不思議でならない（ガラ 1：6）。人々は道を歩き始めたころはよかったが，霧の中で道を見失ってしまった（1ニフ 8：23〔1 ニフ 12：17〕）。人々は，その実を味わった後に，禁じられた道に踏み込んでしまった（1ニフ 8：28）。ニーファイ人の背教は教会に属していない者たちにとってつまずきの石となった（アル 4：6−12）。多くの教会員が高慢になり，ほかの教会員を迫害するようになった（ヒラ 3:33−34〔ヒラ 4：11−13；5：2−3〕）。主が御自分の民を栄えさせられるとき，彼らは心をかたくなにし，主なる神を忘れることがある（ヒラ 12:2；13:38）。ニーファイ人は心をかたくなにし，サタンに支配された（3ニフ 2：1−3）。モロナイは終わりの時の背教について預言した（モル 8：28，31−41）。再臨の前に背教が起こる（教義 1：13−16）。

過去のキリスト教会における背教：この民は口をもってわたしに近づき（イザ 29：10，13）。暗きは地をおおい（イザ 60：2）。主は，主の言葉を聞くことのききんを送られる（アモ 8：11）。にせキリストたちや，にせ預言者たちが起って（マタ 24：24）。狂暴なおおかみが，あなたがたの中に入り込んできて（使徒 20：29）。あなたがたがこんなにも早く，あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて（ガラ 1：6）。再臨の前に背教が起こる（2テサ 2：3）。ある人々は真理からはずれている（2テモ 2：18）。ある人々は信心深い様子をしながらその実を捨てる者となる（2テモ 3：5）。人々が健全な教に耐えられなくなる時が来る（2テモ 4：3−4）。民の間に，にせ預言者とにせ教師が現れる（2ペテ 2：1）。不信仰な人々がしのび込んできて，唯一の君であり，わたしたちの主であるイエス・キリストを否定している（ユダ 1：4）。使徒と自称してはいるが，その実，使徒でない者たちがいる（黙示 2：2）。ニーファイは大きな忌まわしい教会が設立されるのを見た（1ニフ 13：26）。異邦人はつまずいた。そして多くの教会を設けた（2ニフ 26：20）。彼らはわたしの定めから離れ去り，わたしの永遠の聖約を破った（教義 1：15）。暗闇が地を覆い，深い闇が人々の心を覆い（教義 112：23）。ジョセフは，世の教会はすべて間違っていて，その心は神から遠く離れていると告げられた（ジ―歴史 1：19）。

ハイド，オーソン

この神権時代に召された最初の十二使徒定員会の一員（教義 68：1−3；75：13；102：3；124：128−129）。1841 年に行ったユダヤ人帰還のための聖地奉献を含め，教会のために数多くの使命を果たした。

パウロ　「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の人物。使徒。パウロのヘブライ語名は，サウロであった。彼は異邦人に伝道を始めるまで，このサウロという名で知られていた。彼はかつて教会を迫害していたが，イエス・キリストの示現を受けた後に改宗して，教会が説く真理に従った。パウロは長期にわたる伝道の旅を 3 度行い，聖徒たちにあてて多くの手紙を書いた。今日の『新約聖書』にはそのうちの 14 の手紙が載っている。最後に彼は囚人としてローマに連行され，紀元 65 年の春に殺されたと思われる。

ステパノを石で打つことに同意した（使徒 7：57−8：1）。聖徒たちを迫害した（使徒 8：3）。ダマスコへの旅の途中，イエスの現れを受けた（使徒 9：1−9）。アナニヤからバプテスマを受けた（使徒 9：10−18）。アラビヤに退いた後，宣べ伝えるためにダマスコへ戻った（使徒 9：19−25〔ガラ 1：17〕）。改宗して 3 年後にエルサレムに戻った（使徒 9：26−30〔ガラ 1：18−19〕）。3 度伝道の旅に出て，福音を宣べ伝え，ローマ帝国の各地に教会の支部を組織した（使徒 13：1−14：26；15：36−18：22；18：23−21：15）。3 度目の伝道の旅の後，エルサレムに戻ったところで捕らえられ，カイザリヤに送られた（使徒 21：

7−23：35)。カイザリヤで2年間獄中にあった（使徒24：1−26：32)。裁判のためにローマへ送られる途中，船が難破した（使徒27：1−28：11)。

パウロの手紙　「パウロ」それぞれの手紙を参照

『新約聖書』の中の14書。使徒パウロが教会員にあてて書いた手紙で，次のように分類できる。

テサロニケ人への第一・第二の手紙（紀元50−51年）

パウロは2回目の伝道の旅で，コリントからテサロニケ人にあててこの手紙を書いた。テサロニケでのパウロの働きについては，使徒17章に述べられている。パウロはテサロニケへ帰ることを望んだが，そうできなかった（1テサ2：18)。そこでパウロは改宗者を励まし，彼らの近況を知るためにテモテを派遣した。第一の手紙は，テモテが帰って直ちに書かれたパウロの感謝の気持ちである。第二の手紙はその少し後に書かれた。

コリント人への第一・第二の手紙，ガラテヤ人への手紙，ローマ人への手紙（紀元55−57年）

コリント人への第一・第二の手紙は，パウロが3回目の伝道の旅のときに書いたもので，コリントの聖徒の疑問に答え，また彼らの中にあった無秩序を正そうとしたものである。

ガラテヤ人への手紙は，ガラテヤ一帯の諸教会にあてて書き送ったものと思われる。教会員の中には，ユダヤ教の律法に固執して福音を捨てる者がいた。この手紙の中でパウロは，モーセの律法の目的と，霊的な教えの大切さを説明した。

ローマ人への手紙は，パウロがコリントから書き送ったものである。パウロはローマの聖徒たちのもとを訪れたいと望んでいたが，聖徒たちをそれに備えさせるのがこの手紙の目的の一つであった。またこの手紙は，キリスト教に改宗した一部のユダヤ人たちが疑いをもって論じていた幾つかの教義について再確認している。

ピリピ人への手紙，コロサイ人への手紙，エペソ人への手紙，ピレモンへの手紙，ヘブル人への手紙（紀元60−62年）

パウロは，ローマでの最初の獄中生活のときにこれらの手紙を書いた。

ピリピ人への手紙はおもに，パウロがピリピの聖徒たちに感謝と愛の気持ちを伝え，長期にわたる自分の投獄のことで悲しむ彼らに慰めを与えるために書き送ったものである。

コロサイ人への手紙は，コロサイの聖徒たちが重大な過ちに陥っているという報告を受けてパウロが書いたものである。彼らは，キリストのような人格を伸ばすことよりも，むしろ外形的な儀式に厳格に従うことによって完全になれると信じていた。

エペソ人への手紙は，キリストの教会に関するパウロの教えが書かれているという点で非常に重要である。

ピレモンへの手紙は，主人ピレモンのものを盗んでローマへ逃亡した奴隷オネシモについての個人的な手紙である。パウロは，オネシモを赦(ゆる)すようにとの手紙を添えて，彼を主人のもとに

送り返した。

ヘブル人への手紙は，モーセの律法がキリストにあって成就し，それに換えてキリストの福音の律法が与えられたことを，ユダヤ人教会員に理解させるために，パウロが書いたものである。

テモテへの第一・第二の手紙，テトスへの手紙（紀元 64−65 年）

パウロは，ローマでの最初の獄中生活から釈放された後に，これらの手紙を書いた。

パウロはエペソまで旅をして，様々な空論がはびこるのを食い止めるためにテモテをエペソに残し，自分はまた戻って来るつもりでいた。パウロがテモテへの第一の手紙を書いたのは，マケドニアからと思われる。その目的は，テモテに義務を果たすよう勧め励ますことであった。

テトスへの手紙は，パウロが釈放期間中に書いたものである。パウロはテトスが働いていたクレテを訪ねた可能性がある。この手紙はおもに，義にかなった生活と教会内の規律について述べている。

テモテへの第二の手紙は，2 度目の獄中生活の間，殉教の直前に書いたものである。この手紙にはパウロの最後の言葉が書かれ，死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と信頼が示されている。

墓　「復活」参照

遺体を葬る場所。贖罪（しょくざい）によって，すべての人が墓から復活する。

キリストの復活の後，墓が開け，多くの死体が生き返った（マタ 27：52−53〔3 ニフ 23：9−13〕）。死よ，おまえの勝利は，どこにあるのか（1コリ 15：55）。墓はそこに囚（とら）われている肉体を解き放して（2ニフ 9：11−13）。墓の中で眠っていた者たちは出て来る（教義 88：97−98）。バプテスマフォントは墓を象徴している（教義 128：12−13）。

ハガイ

旧約の預言者。ユダヤ人がバビロニア捕囚から戻った直後の紀元前 520 年ごろ，エルサレムで預言した（エズ 5：1；6：14）。ハガイはエルサレムでの主の神殿再建について語り，神殿が完成していなかったことで民を叱責（しっせき）した。ハガイはまた，福千年の神殿と救い主の統治についても書き記している。

ハガイ書：第 1 章で，主は，神殿がまだ建てられていないにもかかわらず，民が自分の家を建てて住んでいることを非難された。第 2 章には，主は神殿の中で平安を与えてくださるというハガイの預言が記録されている。

ハガル　「アブラハム」「イシマエル（アブラハムの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。サラに仕えたエジプト人のつかえめ。アブラハムの妻となり，イシマエルを産んだ（創世 16：1−16；25：12；教義 132：34，65）。主はハガルに，イシマエルから大いなる国民が出ると約束された（創世 21：9−21）。

迫害　「逆境」参照

信仰や社会的立場の違いを理由にほかの人を苦しめ悩ますこと。

義のために迫害されてきた人たちは，さいわいである（マタ 5：10〔3ニフ 12：10〕）。迫害する者のために祈れ（マタ 5：44〔3 ニフ 12：44〕）。彼らは自分が富んでいるので，柔和な者を迫害する（2ニフ 9：30〔2 ニフ 28：12−13〕）。どのような迫害を受けても，確固としてキリストを待ち望む義人は，滅びを受けない（2ニフ 26:8）。これらのことはすべて，あなたに経験を与えるであろう（教義 122：7）。

ハゴス

『モルモン書』の中のニーファイ人。船の建造者（アル 63：5−7）。

箱舟　「虹（にじ）」「ノア（族長）」「ノアの時代の洪水」参照

『旧約聖書』に出てくる，ノアが大洪水のときに命あるものを救うために造った船。

あなたは，いとすぎの木で箱舟を造りなさい（創世 6：14）。箱舟はアララテの山にとどまった（創世 8：4）。ヤレド人の船はノアの箱船のようにしっかりしていた（エテ 6：7）。

初め　「イエス・キリスト」「前世」「創造；創造する」参照

一般には，現世より前の時，すなわち前世を指して用いられる。イエス・キリストを「初め」と呼ぶ場合もある。

はじめに神は天と地とを創造された（創世 1：1〔モセ 2：1〕）。初めに言（ことば）があった（ヨハ 1：1）。わたしはアルパでありオメガであり，初めであり終わりである（3ニフ 9：18）。キリストは初めであり終わりである（教義 19：1）。新しくかつ永遠の聖約は初めからあった（教義 22：1）。人は初めに神とともにいた（教義 93：23，29）。神の教会で治める者となるように初めに選ばれた，高潔で偉大な者たち（教義 138：55）。独り子は初めから神とともにおられた（モセ 2：26）。

旗

人々が一つの目的の下に，あるいは帰属するグループごとに集まるための目印となるもの。古代においては，戦場での兵士の集合地点を示すために用いられた。『モルモン書』とイエス・キリストの教会は，地のすべての国民に対する旗としての象徴的な存在である。

主は旗をあげて遠くから一つの国民を招き（イザ 5：26〔2 ニフ 15：26〕）。エッサイの根が立って，もろもろの民の旗となり（イザ 11：10〔2 ニフ 21：10；教義 113：6〕）。平和の旗を掲げ（教義 105：39）。

畑　「ぶどう園（果樹園）（主の）」「世」参照

聖典では，耕作などに用いる土地を指す。この世やこの世の民の象徴として用いることもよくある。

畑は世界である（マタ 13：38）。天国は，畑に隠してある宝のようなものである（マタ 13：44）。大きく広々とした野原が見えた（1ニフ 8：9，20）。

畑は熟していた（アル 26：5）。畑はすでに白くなり刈り入れを待っている（教義 4：4〔教義 6：3；11：3；12：3；14：3；31：4；33：3，7〕）。畑は世界であり（教義 86：1−2）。わたしはこれらの王国を，畑を持っている一人の男にたとえよう（教義 88：51）。

パッテン，デビッド・W

末日の神権時代に選ばれた最初の十二使徒定員会の一員。回復された教会の最初の殉教者。1838 年にクルックト川の戦いで死んだ。

自分の事業を清算し，伝道の使命を果たすように求められた（教義 114：1）。主のもとに迎えられた（教義 124：19，130）。

罰の定め　「悪魔」「死（霊の）」「地獄」「滅びの子」参照

進歩が止まり，神の臨在と栄えを拒まれた状態。罰の定めにも様々な段階がある。完全な日の栄えの昇栄を得ない人は，進歩と特権がある程度制約され，その程度に応じた罰の定めを受けることになる。

偽善な律法学者たちよ。あなたがたは，わざわいである。あなたがたは，もっときびしいさばきを受けるに違いない（マタ 23：14）。聖霊をけがす者は，永遠の罪に定められる（マコ 3：29）。悪をおこなった人々は，さばきを受けるためによみがえって，それぞれ出てくる（ヨハ 5：29〔3 ニフ 26：5〕）。主のからだをわきまえないで飲み食いする者は，その飲み食いによって自分にさばきを招く（1コリ 11：29〔3 ニフ 18：28−29〕）。悔い改めて神の御名を信じることをせず，バプテスマを受けることなく，最後まで堪え忍ぶことをしなければ，罰の定めを受ける（2ニフ 9：24〔マコ 16：16；エテ 4：18；教義 68：9；84：74〕）。悪人が神とともに住むときの悲惨は，地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどい（モル 9：4）。命じられるまで何事も行わない者は，罰の定めを受ける（教義 58：29）。新しくかつ永遠の聖約を受ける者は，その律法に従わなければならない。そうしなければ罰の定めを受ける（教義 132：6）。

初穂

季節の最初の収穫物。旧約の時代に，初穂は主にささげられた（レビ 23：9−20）。福音を受け入れ，忠実に最後まで堪え忍ぶ人は，神に属する人であり，象徴的な意味で初穂ということができる。

小羊の行く所へは，どこへでもついて行く。彼らは，神と小羊とにささげられる初穂として（黙示 14：4）。キリストとともに最初に降（くだ）る者は初穂である（教義 88：98）。

バテシバ　「ダビデ」参照

ウリヤの妻。後にダビデの妻となる。ソロモンの母。ダビデ王は彼女と姦淫（かんいん）の罪を犯した。ダビデはまた彼女の夫を戦死させる画策をし（サ下 11 章），その罪により永遠の報いを受けた（教義 132：39）。

鳩のしるし　「聖霊」参照

あらかじめ定められていたしるしであり，バプテスマのヨハネはこのしるしによってメシヤを認めた（ヨハ 1：32−34）。ジョセフ・スミスは，鳩のしるしは聖霊を証するものとして，この世が創造される前に定められていたものであり，悪魔は鳩のしるしによって来ることはできないと教えている。

神の御霊がはとのように下った（マタ 3：16）。イエスがバプテスマを受けられると，聖霊が鳩の形を取って降って来られた（1ニフ 11：27）。わたしヨハネは証する。見よ，天が開かれ，聖霊が鳩の形を取って彼の上に降って，彼の上にとどまられた（教義 93：15）。

花婿　「イエス・キリスト」参照

聖典では，イエス・キリストを象徴的に花婿と呼ぶ。また，末日聖徒イエス・キリスト教会は，キリストの花嫁として象徴されている。

10 人のおとめが花婿を迎えに出て行った（マタ 25：1−13）。花嫁をもつ者は花婿である（ヨハ 3：27−30）。小羊の婚宴に招かれた者は，さいわいである（黙示 19：5−10）。花婿が来るときに用意ができているようにしなさい（教義 33：17）。花婿のために用意をせよ（教義 65：3）。

母　「エバ」「親」「家族」参照

子供を産んだ女性，あるいは子供を養子とした女性を指す神聖な呼び名。神の霊の子供たちに死すべき体を与えることにより，神の計画の助け手となる。

アダムはその妻の名をエバと名づけた。彼女がすべて生きた者の母だからである（創世 3：20〔モセ 4：26〕）。あなたの父と母を敬え（出エ 20：12〔エペ 6：1−3；モサ 13：20〕）。母の教を捨ててはならない（箴言 1：8）。愚かな人はその母を軽んじる（箴言 15：20〔箴言 10：1〕）。年老いた母を軽んじてはならない（箴言 23：22）。その子らは立ち上がって彼女を祝し，その夫もまた彼女をほめたたえて言う（箴言 31：28）。十字架のそばには，イエスの母がたたずんでいた（ヨハ 19：25−27）。レーマン人の 2 千人の兵士たちは母親から教えを受けていた（アル 56：47〔アル 57：21〕）。わたしたちの栄光ある母エバも，多くの忠実な娘たちとともにいた（教義 138：38−39）。

ハバクク

『旧約聖書』の中のユダ王国の預言者。ハバククはエホヤキンの治世のころに，民の罪悪について語った（紀元前 600 年ごろ）。

ハバクク書：第 1 章には，エレミヤ書 12 章や教義と聖約 121 章に類似した，主と預言者の間で交わされた言葉が記されている。ハバククは，悪人が栄えている様子に心を悩ませていた。第 2 章で，主はハバククに，忍耐するように勧告し，義人は信仰によって生きるようにならなければならないと教えられた。第 3 章には，神の公正さを知ったハバククの祈りが記録されている。

バビロン；バベル　「ネブカデネザル」「世」参照

バビロニアの首都。

バベルはニムロデによって興された町で，メソポタミアの地，すなわちシナルにおける最古の都市の一つであった（創世 10：8−10）。主は人々がバベルの塔を築いていたときに，彼らの言葉を乱された（創世 11：1−9；エテ 1：3−5，33−35）。バビロンは後にネブカデネザルの治める都となった。ネブカデネザルは壮大な都市を築き，その廃虚は今なお残っている。バビロンは非常に邪悪な都市となり，以来この世の悪を象徴するようになった。

バビロンのうちからのがれ出て（エレ 51：6）。バビロンは打ち立てられるが，やがて倒れる（黙示 17−18 章）。バビロンも滅ぼされる（2ニフ 25：15）。バビロンは倒れる（教義 1：16）。わたしはバビロンにとどまる者をだれも容赦しない（教義 64：24）。バビロンから出なさい（教義 133：5，7，14）。

バプテスマ　「儀式」「聖霊」「再び生まれる」「幼児のバプテスマ」参照

「浸す」または「沈める」という意味のギリシャ語を語源とする言葉。権能を持つ者により水に沈められるバプテスマは，福音の最初の儀式であり，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるために必要なものである。バプテスマに先立って，イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めが求められる。この儀式の後に聖霊の賜物（たまもの）を受けることによって，バプテスマは完全なものとなる（2 ニフ 31：13−14）。日の栄えの王国に入るには，水と聖霊によるバプテスマが必要である。バプテスマを受けた最初の人はアダムである（モセ 6：64 −65）。イエスもすべての正しいことを成就し，全人類に道を示すために，バプテスマをお受けになった（マタ 3：13−17；2 ニフ 31：5−12）。

地上のすべての人が，死すべき状態にある間に福音を受け入れる機会に浴するわけではない。そのために，主は死者のために代理人によってバプテスマを行うことを承認された。これによって，霊界で福音を受け入れる者は，神の王国に入る資格を得ることができるのである。

必要不可欠な条件：今は受けさせてもらいたい。すべての正しいことを成就するのはふさわしいことである（マタ 3：15）。イエスは出てきて，ヨハネからバプテスマをお受けになった（マコ 1：9）。パリサイ人と律法学者たちとはバプテスマを受けないで，神のみこころを無にした（ルカ 7：30）。だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない（ヨハ 3：5）。悔い改めなさい。そして，あなたがたひとりびとりがバプテスマを受けなさい（使徒 2：38）。神はすべての人に，神の御名によってバプテスマを受けなければならないと命じておられる（2ニフ 9：23−24）。救いを得るためには，人はバプテスマを受け，聖霊を授かり，最後まで堪え忍ばなければならない（2ニフ 31 章）。キリストの教義とは，人は信じてバプテスマを受け，聖霊を受けなければならないというものである（3ニフ 11：20−40）。あなたがたの言葉を信じることなく，わたしの名によってバプテスマを受けない者は，罰の定めを受ける（教義 84：74）。神はアダムに，悔い改め

とバプテスマが必要な理由を説明された（モセ 6：52−60）。

全身を水に沈める：イエスはバプテスマを受けるとすぐ，水から上がられた（マタ 3：16〔マコ 1：10〕）。ヨハネもアイノンで，バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである（ヨハ 3：23）。ピリポと宦官は水の中に降りて行った（使徒 8：38）。わたしたちは，バプテスマによって，彼と共に葬られたのである（ロマ 6：4〔コロ 2：12〕）。あなたがたの主であり救い主である御方に従い，水に入り（2ニフ 31:13）。アルマ，ヘラム，そのほかの人々が水に沈められた（モサ 18：12−16）。それから，あなたがたはその人を水中に沈めなさい（3ニフ 11：25−26）。バプテスマの正しい執行方法が説明される（教義 20：72−74）。彼らはイエスの名によって水の中に沈められ，イエスの埋葬に倣ってバプテスマを受けた（教義 76：50−51）。アダムは水に沈められ，そして水から連れ出された（モセ 6：64）。水に沈めるバプテスマは罪の赦しのために行われる（箇条 1：4）。

罪の赦しのための儀式：バプテスマを受け，あなたの罪を洗い落としなさい（使徒 22：16）。バプテスマの後，火と聖霊によって罪の赦しが与えられる（2ニフ 31：17）。自分の罪から洗い清められるように，やって来て，悔い改めのためのバプテスマを受けなさい（アル 7：14）。信じて，バプテスマを受ける人々は，幸いである。彼らは罪の赦しを受けるからである（3ニフ 12：1−2）。悔い改めと救い主を信じる信仰，バプテスマによる罪の赦しを告げなさい（教義 19：31）。わたしたちは，罪の赦しのために水に沈めるバプテスマを信じる（箇条 1：4）。

正当な権能：行って，すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施し（マタ 28：19〔教義 68：8〕）。リムハイと彼の民の多くの者は，バプテスマを受けたいと願った。しかしその地には，神から権能を授かっている者は一人もいなかった（モサ 21：33）。わたしはあなたに力を授ける。この力をもってバプテスマを施しなさい（3ニフ 11：19−21）。アロン神権は，罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ（教義 13：1）。また彼らは，わたしの名によってバプテスマを施すために，わたしから聖任を受ける人々である（教義 18：29）。バプテスマのヨハネは，バプテスマを施す権能をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けた（ジ―歴史 1：68−69）。

資格：悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ（2ニフ 31：11）。あなたがたは悔い改め，再び生まれなければならない（アル 7：14）。ふさわしくないままでバプテスマを受けることのないようにしなさい（モル 9：29）。親たちに，悔い改めてバプテスマを受け，幼い子供たちのようにへりくだらなければならないことを教えなさい（モロ 8：10）。バプテスマを受けたいと望む人々に求められる資格が説明される（教義 20：37）。子供たちは，8 歳のときに罪の赦しのためのバプテスマを受けなければならない（教義 68：25，27）。

交わす聖約：主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした（モサ 18：8−10，13）。悔い改めて，キリストの名を受け，キリストに仕える決心をする人は，バプテスマによって受け入れられる（教義 20：37）。

死者のためのバプテスマ：死者のためにバプテスマを受ける人々は，なぜそれをするのだろうか（1コリ 15：29）。死者のためのバプテスマは，罪の赦（ゆる）しを得させるために執行される（教義 124：29；127：5−9；128：1；138：33）。

幼児には不要：幼い子供たちにバプテスマを施すことは，神をひどくあざける行為である（モロ 8：4−23）。子供たちは，8 歳のときにバプテスマを受けなければならない（教義 68：27）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。

パホーラン

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の 3 代目の大さばきつかさ（アル 50：39−40；51：1−7；59−62 章）。

ハム　「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ノアの 3 番目の息子（創世 5：32；6：10；モセ 8：12，27）。

ノアと息子たちと，彼らの妻とは箱舟に入った（創世 7：13）。ハムの子カナンはのろわれた（創世 9：18−25）。ハムの政府は族長制であり，地の祝福と知恵の祝福を授けられたが，神権に関してはのろわれた（アブ 1：21−27）。ハムの妻エジプタスはカインの子孫であった。そして，彼らの娘エジプタスはエジプトに移り住んだ（アブ 1：23，25〔詩篇 105：23；106：21−22〕）。

破門　「背く」「背教；背信」参照

教会から除名し，教会員としてのすべての権利と特権を取り去ること。教会役員は，該当する教会員が主の戒めに反する生活をすることを選び，それによって，自らをそれ以上教会員として認められない状態に置いたときにのみ，その教会員を破門する。

多くの者が心をかたくなにし，名が消された（アル 1：24〔アル 6：3〕）。悔い改めなければ，わたしの民の中に数えてはならない（3ニフ 18：31〔モサ 26 章〕）。姦淫（かんいん）をして悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：24）。罪を犯して悔い改めない者は，追い出されなければならない（教義 42：28）。教会内に起こる重大な問題を解決するための手順が定められる（教義 102 章〔教義 42：80−93〕）。ビショップがイスラエルの判士に任命される（教義 107：72）。宗教団体は秩序を乱す行為に対してその会員を処分する権利を持つ（教義 134：10）。

パラダイス　「天」参照

霊界の一部。この世を去った義人の霊はここで肉体の復活を待つ。パラダイスとは，幸福で平安な状態である。

パラダイスという言葉は聖典の中

で，霊の世界（ルカ 23：43），日の栄えの王国（2 コリ 12：4）を意味する言葉としても使われ，また栄光を受けた福千年の地球の状態を表す「楽園」という言葉（箇条 1:10）もこれに当たる。

勝利を得る者には，神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう（黙示 2：7）。神のパラダイスは義人の霊を解き放し（2 ニフ 9：13）。義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態に迎え入れられ（アル 40：11−12）。イエスが選ばれた弟子たちは，3 人を除いて，全員がすでに神のパラダイスへ行き（4 ニフ 1：14）。わたしは間もなく行って，神のパラダイスで安息を得る（モロ 10：34）。キリストはパラダイスの義人の霊たちに教えを授けられた（教義 138 章）。

バラバ

十字架の刑のときにイエスの代わりに釈放された男。暴動を扇動した者，人殺し，強盗であった（マタ 27：16−26；マコ 15：6−15；ルカ 23：18−25；ヨハ 18：40）。

バラム

『旧約聖書』の中の預言者。金銭のためにイスラエルをのろおうとしたが，のろってはならないと主から命じられた（民数 22−24 章）。

バラムのろばは，主の使（つかい）が道に立ちふさがっていたので先に進もうとしなかった（民数 22：22−35）。

パリサイ人　「ユダヤ人」参照

『新約聖書』の中のユダヤ教の一党派。パリサイという名には「分離された者」の意味がある。パリサイ人は，モーセの律法に厳格に従っていることと，異邦人とかかわりのあることをすべて避けていることを誇りとしていた。彼らは死後の生活や復活，天使と霊の存在を信じていた。また，口伝律法と伝承も，成文化された律法と同等の重要性を持つと信じていた。彼らの教えは宗教を規則の遵守という枠に押し込め，霊的慢心を助長した。そしてパリサイ人によって，多くのユダヤ人がキリストと福音に対して疑いを抱くようになった。マタイ 23 章；マルコ 7：1−23；ルカ 11：37−44 に記されているように，主はパリサイ人とその行いとを非難された。

ハリス，マーティン　「証人（モルモン書の）」参照

『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証（あかし）した三人の証人の一人。彼はジョセフ・スミスと教会に財政的な援助を与えた。主はマーティン・ハリスに，土地を売却してその金銭をささげることにより，『モルモン書』の出版の代金を支払い（教義 19：26−27，34−35），教会員の模範となり（教義 58：35），また伝道に必要な支払いの援助をする（教義 104：26）ように求められた。

マーティン・ハリスは教会から破門されたが，後に教会員としての資格を完全に回復した。彼は生涯の終わりまで，天使モロナイに会ったことと，ジョセフ・スミスが『モルモン書』の翻訳に用いた金版を見たこととを証（あかし）した。

バルトロマイ　「ナタナエル」参照

『新約聖書』の中の人物。キリストに選ばれた最初の十二使徒の一人（マタ 10：2−4）。

バルナバ

クプロ出身のレビ人ヨセフ（ヨセとも呼ばれる）の別名。自分の土地を売り，その代金を使徒たちのところに持って行った（使徒 4：36−37）。最初に選ばれた十二使徒の一人ではないが，後に使徒となり（使徒 14：4, 14），幾度か伝道の旅に出た（使徒 11：22−30；12：25；13−15 章；1 コリ 9：6；ガラ 2：1, 9；コロ 4：10）。

ハルマゲドン　「イエス・キリストの再臨」「ゴグ」「マゴグ」参照

ハルマゲドンは，「メギドの丘」を意味するヘブライ語から派生した言葉である。メギドの平野は，エルサレムの北方約 80㎞に位置するエスドラエロン平原の西部にあり，旧約の時代，幾度か激しい戦闘があった場所である。主の再臨近くに行われる大規模な最後の戦いがハルマゲドンの戦いと呼ばれるのは，それがこの地で始まるからである（エゼ 39：11；ゼカ 12−14 章，特に 12：11；黙示 16：14−21）。

パロ　「エジプタス」「エジプト」参照

ハムの娘であるエジプタスの長男（アブ 1：25）。また，エジプトの王たちに付けられた称号（アブ 1：27）。

版　「金版」「モルモン書」参照

『モルモン書』の場合がそうであるように，幾つかの古代文明においては，金属の版に歴史や様々な記録を記した。詳細については，『モルモン書』の巻頭にある「『モルモン書』についての概説」を参照。

反キリスト　「悪魔」参照

人や事物を問わず真実の福音の救いの計画を装うもの，また公然か否かを問わずキリストに敵対するすべてのものを指す。黙示者ヨハネは反キリストを「惑わす者」と述べている（1 ヨハ 2：18−22；4：3−6；2 ヨハ 1：7）。反キリストの最たる者はルシフェルであるが，彼には，霊の者と死すべき者の双方に数多くの助け手がいる。

滅びの子は，すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり（2テサ 2：1−12）。しるしで，地に住む人々を惑わす（黙示 13：13−17）。シーレムはキリストを否定し，多くの人を欺いた（ヤコ 7：1−23）。ニーホルは偽りの教義を説き，教会を建て，偽善売教を始めた（アル 1：2−16）。コリホルは，キリストと贖罪（しょくざい）と預言の霊をあざけった（アル 30：6−60）。

万軍の主　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストに対する呼び名の一つ。イエス・キリストは天と地の衆群を治め，悪に対抗して義人を導いてくださる（教義 29：9；121：23）。

万軍の主，これこそ栄光の王である（詩篇 24：10）。万軍の主であるイスラエルの神（1ニフ 20：2）。わたしの御霊（みたま）はいつでも人を励ますわけではないからである，と万軍の主は言う（教

義 1：33)。

反対　「逆境」参照

ハンナ　「サムエル（旧約の預言者）」参照

旧約の預言者サムエルの母。主はハンナの祈りにこたえて，サムエルを与えられた（サ上 1：11，20−28)。ハンナはサムエルを主にささげた。ハンナの感謝の言葉は，イエスの母マリヤの言葉に対比できる（サ上 2：1−10；ルカ 1：46−55)。

火　「地獄」「聖霊」「地球（地）—地球の清め」「バプテスマ」参照

清め，純化，聖化の象徴。火は神の臨在の象徴としても用いられる。

あなたの神，主は焼きつくす火（申命 4：24)。主は火と炎をおのれのしもべとされる（詩篇 104：4)。万軍の主は焼きつくす火の炎をもって臨まれる（イザ 29：6〔2 ニフ 27：2〕)。主は火の中にあらわれて来られる（イザ 66：15)。彼は金をふきわける者の火のようであり（マラ 3：2〔3 ニフ 24：2；教義 128：24〕)。このかたは，聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう（マタ 3：11〔ルカ 3：16〕)。義人は火によって守られる（1ニフ 22：17)。悪人は火によって滅ぼされる（2ニフ 30：10)。ニーファイは火と聖霊によるバプテスマを受ける方法を説明した（2ニフ 31：13−14〔3 ニフ 9：20；12：1；19：13；エテ 12：14；教義 33：11〕)。火すなわち聖霊による罪の赦(ゆる)しを告げなさい（教義 19：31)。大きな忌まわしい教会は，焼き尽くす火によって倒されるであろう（教義 29：21)。地球は火によるかのごとくに過ぎ去るであろう（教義 43：32)。主の臨在は物を溶かす燃える火のようであり（教義 133：41)。アダムは火と聖霊によってバプテスマを受けた（モセ 6：66)。

光；キリストの光　「イエス・キリスト」「英知」「真理」「聖霊」「良心」参照

キリストを通して神から発せられ，万物に命と光を与える神聖なエネルギーや力，影響力。天においても地上においても万物が治められる律法である（教義 88：6−13)。またそれは，人々が福音の真理を理解し，救いに至る福音の道を歩めるように助けを与える（ヨハ 3：19−21；12：46；アル 26：15；32：35；教義 93：28−29，31−32，40，42)。

キリストの光を聖霊と混同してはならない。キリストの光は人格的な存在ではない。キリストの光は神から発する影響力であり，人に聖霊を受ける備えをさせるものである。また，人生においてすべての人を善に向かわせる力である（ヨハ 1：9；教義 84：46−47)。

キリストの光の一つの表れは，良心である。良心は善悪の選択ができるように人を助ける（モロ 7：16)。福音について学べば学ぶほど，良心は鋭敏になる（モロ 7：12−19)。キリストの光に聞き従う人々は，イエス・キリストの福音に導かれる（教義 84：46−48)。

主はわたしの光（詩篇 27：1)。われわれは主の光に歩もう（イザ 2：5〔2

ニフ 12：5〕)。主はとこしえにあなたの光となり（イザ 60：19)。すべての人を照すまことの光があって，世にきた（ヨハ 1：4−9〔ヨハ 3：19；教義 6：21；34：1−3〕)。わたしは世の光である（ヨハ 8：12〔ヨハ 9：5；教義 11：28〕)。光は何であろうと善である（アル 32：35)。キリストは世の命であり光である（アル 38：9〔3 ニフ 9：18；11：11；エテ 4：12〕)。善悪をわきまえることができるように，すべての人にキリストの御霊（みたま）が与えられている（モロ 7：15−19)。神から出ているものは光である。その光はますます輝きを増してついには真昼となる（教義 50：24)。御霊（みたま）はすべての人に光を与え（教義 84：45−48〔教義 93：1−2〕)。神の戒めを守る者は真理と光を受け（教義 93：27−28)。光と真理はあの悪しき者を捨てる（教義 93：37)。

ビショップ　「アロン神権」参照

「見守る者」の意味を持つ言葉で，責任ある職または地位を指す。ビショップは聖任によって授けられるアロン神権の職の一つであり（教義 20：67；107：87−88)，イスラエルの一般判士である（教義 107：72，74)。

聖霊は，あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである（使徒 20：28)。監督（ビショップ）の資格が述べられる（1テモ 3:1−7〔テト 1:7〕)。ビショップは聖任されなければならない（教義 20：67)。エドワード・パートリッジが教会のためにビショップとして召された（教義 41:9)。ビショップは霊的な賜物（たまもの）を見分ける（教義 46：27，29)。大祭司はビショップの職務を行うことができる（教義 68：14，19〔教義 107：17〕)。ビショップは主から任命される（教義 72：1−26)。ビショップは貧しい人の世話をする（教義 84：112)。ビショップはすべて現世の事柄をつかさどる（教義 107：68)。ビショップはアロン神権の会長である（教義 107：87−88)。

ヒゼキヤ

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国を治めた義にかなった王。彼の治世は 29 年続き，その間イザヤがユダで預言者として働いた（列下 18−20 章；歴下 29−32 章；イザ 36−39 章)。イザヤはヒゼキヤが教会と国家を改革するのを助けた。ヒゼキヤは偶像礼拝をやめさせ，神殿の祭儀を復活させた。ヒゼキヤは，祈りと信仰によって命を 15 年延ばされた（列下 20：1−7)。彼の治世の初期は繁栄を享受したが，アッシリア（アッスリヤ）の王に背いた結果（列下 18：7)，2 度にわたってアッシリアの侵攻を受けた。最初の侵攻については，イザヤ 10：24−32，2 度目の侵攻については，列王下 18：13−19：7 に記されている。2 度目の侵攻のとき，エルサレムは主の天使によって救われた（列下 19：35)。

羊飼い　「イエス・キリスト」「良い羊飼い」参照

主の子らを養う者を象徴的に表現した言葉。

主はわたしの牧者であって（詩篇 23：1)。牧者は群れを養うべき者ではないか（エゼ 34：2−3)。

人　「神；神会」「神の息子，娘」「霊」「霊の創造」参照

男女の別なく全人類を指す言葉。男であれ女であれ，人は皆文字どおり天の御父の霊の子供である。この世に生まれるとき，人は死すべき肉の体を与えられる。この肉体は神の形に造られたものである（創世 1：26−27）。忠実であって必要な儀式を受け，聖約を守り，神の戒めに従う人は，男女の別なく昇栄にあずかり，神のようになる。

神は自分のかたちに人を創造された（創世 1：27〔モサ 7：27；教義 20：17−18〕）。人は何者なので，これをみ心にとめられるのですか（詩篇 8：4−5）。人を頼みとし肉なる者を自分の腕としている人は，のろわれる（エレ 17：5〔2 ニ フ 4：34；28：26，31〕）。おとなとなった今は，幼な子らしいことを捨ててしまった（1コリ 13：11）。人が存在するのは喜びを得るためである（2ニフ 2：25）。生まれながらの人は神の敵であり（モサ 3：19）。あなたがたはどのような人物であるべきか（3ニフ 27：27）。くじかれるのは神の業ではなく，人間の業である（教義 3：3）。あなたは人を神よりも恐れてはならなかった（教義 3：7〔教義 30：11；122：9〕）。すべてのものは，人の益と利用のために造られている（教義 59：18）。わたしは，人は取るに足りないものであることが分かった（モセ 1：10）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり（モセ 1：39）。

天の御父の霊の子供としての人間：神よ，すべての肉なる者の命の神よ（民数 16：22〔民数 27：16〕）。あなたがたはあなたがたの神，主の子供である（申命 14：1）。あなたがたは神だ，あなたがたは皆いと高き者の子だ（詩篇 82：6）。あなたがたは生ける神の子である（ホセ 1：10）。われわれの父は皆一つではないか。われわれを造った神は一つではないか（マラ 2：10）。われわれは神の子孫なのである（使徒 17：29）。御霊（みたま）みずから，わたしたちが神の子であることをあかしして下さる（ロマ 8：16）。たましいの父に服従し（ヘブ 12：9）。すべての人の霊は，彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される（アル 40：11）。世界に住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる（教義 76：24）。あなたがたも初めに神とともにおり（教義 93：23，29）。神は人を，地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造された（モセ 3：5−7）。わたしは神である。わたしは世界を造り，また人々を，彼らが肉体にある前に造った（モセ 6：51）。

天の御父のようになる可能性を持った人間：あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい（マタ 5：48〔3 ニフ 12：48〕）。あなたがたの律法に，「あなたがたは神々である」と書いてあるではないか（ヨハ 10：34〔教義 76：58〕）。わたしたちは，神の相続人またキリストと共同の相続人なのである（ロマ 8：17）。あなたがたは子である。また神による相続人である（ガラ 4：7）。彼が現れる時，わたしたちは彼に似るものとなる（1ヨハ 3：2）。勝利を得る者には，わたしと共にわ

たしの座につかせよう（黙示 3：21）。わたしを受け入れた者に，わたしは神の子となることを許した（3ニフ 9：17）。日の栄えの王国を受け継ぐ人々は，神々，すなわち神の子である（教義 76：50，58）。それで，彼らは神々となる。彼らは一切の権威を持つからである（教義 132：20）。

人（霊を持つ存在としての）「体」「霊」参照

聖典は霊を持つ存在としての人を次の 3 つに分類している。(1) 前世と来世における霊的存在（アル 40：11−14；アブ 3：23），(2) この世で一つに結合している霊と肉体（アブ 5：7），(3) 復活して霊と肉体が分離しないように結合した不死不滅の人（アル 40：23；教義 88：15−16）。

それは人にとって最も喜ばしいものである（1ニフ 11：23）。悪魔は人々をだまし（2ニフ 28：21）。今の人はキリストが来られる時代の人と同じように，神にとって貴い存在ではないだろうか（アル 39：17）。聖餐（せいさん）のパンと水は，それを受ける人々のために聖（きよ）められる（モロ 4−5 章〔教義 20：77−79〕）。人の価値は大いなるものである（教義 18：10）。あなたがたは水と血と，霊とによってこの世に生まれ，生けるものとなった（モセ 6：59）。

人の価値：人は皆神の霊の子供である。神は子供たち一人一人を心にかけ，各人を大切な存在と考えておられる。人は神の子であり，神のようになる可能性を持っている。したがって，人には大いなる価値がある。

罪人がひとりでも悔い改めるなら，よろこびが，天にあるであろう（ルカ 15：10）。神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった（ヨハ 3：16）。彼らは，だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかった（モサ 28：3）。今の人はキリストが来られる時代の人と同じように，神にとって貴い存在ではないだろうか（アル 39：17）。あなたにとって最も価値のあることは，人々をわたしのもとに導くことである（教義 15：6）。人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい（教義 18：10−15）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。

一つ　「一致」「神；神会」参照

人の子　「イエス・キリスト」「神；神会」参照

イエス・キリストが御自身のことを語るときに用いられた呼び名（ルカ 9：22；21：36）。聖なる人の子の意味。聖なる人とは，父なる神の名である。イエスは御自身を指して人の子と言い，御父との神聖な関係を公に宣言された。この呼び名は福音書の中に頻繁に出てくる。末日の啓示は，救い主のこの呼び名が特別な意味を持っており，神聖なものであることを確認している（教義 45：39；49：6，22；58：65；モセ 6：57）。

独り子　「イエス・キリスト」「生まれる；産む；もうける」参照

イエス・キリストの呼び名の一つ。

イエス・キリストは御父の独り子であられる（ルカ 1：26−35；ヨハ 1：14；3：16；1 ニフ 11：18−20；2 ニフ 25：12；アル 7：10；12：33；モセ 7：62）。

日の老いたる者　「アダム」参照

日の栄え　「永遠の命」「栄光の階級」「昇栄」参照

人が死後に到達できる 3 つの段階の栄えの中で最高のもの。この栄えにおいて，義人は父なる神と御子イエス・キリストのもとで生活する。

天に属するものの栄光（1コリ 15：40〔教義 76：96〕）。パウロは第三の天にまで引き上げられた（2コリ 12：2）。日の栄えの栄光が示現で示された（教義 76：50−70）。日の栄えの世界の場所を望む聖徒は，備えなければならない（教義 78：7）。日の栄えの王国の律法に従えない者は，日の栄えの栄光に堪えられない（教義 88：15−22）。日の栄えの栄光には，3 つの天，すなわち 3 つの階級がある。その最高の階級を得るための条件が示される（教義 131：1−2）。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆，天の日の栄えの王国に救われる（教義 137：10）。

秘密結社　「カイン」「ガデアントンの強盗団」参照

邪悪な目的を果たすために誓いによって結束した人々の組織。

偽りの父は，人の子らをそそのかして人殺しをする秘密結社を作らせ（2 ニフ 9：9）。隠れた闇（やみ）の業を絶やさなければならない（2ニフ 10：15）。神の裁きが，秘密結社を作った者たちに下った（アル 37：30）。ニーファイ人国家の完全な滅亡は，ほとんどガデアントンにその原因があった（ヒラ 2：4−13）。サタンは人々の心に秘密の誓いの言葉と誓約を思い起こさせた（ヒラ 6：21−31）。主は秘密結社によって事を行われることはなく（エテ 8：19）。秘密結社を支援する国民は滅ぼされる（エテ 8：22−23）。民は彼らの秘密結社のために，預言者たちの言葉をことごとく拒んだ（エテ 11：22）。カインの時代から秘密結社があり（モセ 5：51）。

ヒムナイ　「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。ヒムナイは兄弟たちとともにレーマン人のところへ行き，教えを宣（の）べ伝えた（モサ 27：8−11，34−37；28：1−9）。

百卒長

ローマ軍の階級の一つ。50 人から 100 人までの兵士から成る隊を指揮した。このような隊が 60 集まってローマの一軍団が編成された（マタ 8：5；ルカ 23：47；使徒 10：1−8）。

病気

体に異常が起きること。聖典では，霊的健康を失った状態の象徴として病気を採り上げている箇所がある（イザ 1：4−7；33：24）。

わたしはあなたの祈（いのり）を聞き，あなた

の涙を見た。見よ，わたしはあなたをいやす（列下 20：1−5〔歴下 32：24；イザ 38：1−5〕）。イエスはあらゆる病気，あらゆるわずらいをおいやしになった（マタ 4：23−24〔1 ニフ 11：31；モサ 3：5−6〕）。丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である（マタ 9：10−13〔マコ 2：14−17；ルカ 5：27−32〕）。あなたがたの中に，病んでいる者があるか。その人は，教会の長老たちを招き（新ヤコ 5：14−15）。神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられる（アル 7：10−12）。イエスはニーファイ人の中の病気の者をすべて癒された（3ニフ 26：15）。優しさの限りを尽くし，薬草と柔らかい食物によって養われるように（教義 42：43〔アル 46：40〕）。病気の者と苦しんでいる者を，すべてのことにおいて思い起こしなさい（教義 52：40）。病人にあなたの手を置きなさい。そうすれば，快復するであろう（教義 66：9）。

標準聖典　「正典」参照

病人への癒しの祝福　「油」「油注ぎ」「按手」「癒し」「神権」参照

メルキゼデク神権を持つ男性が，聖別された油を用いて病人に授ける祝福。

手をその上においてやって下さい（マタ 9：18）。イエスは少数の病人に手をおいていやされた（マコ 6：5）。キリストの使徒たちは，大勢の病人に油をぬって癒しを施した（マコ 6：13）。長老たちは病人に油を注ぎ，癒しを施す（新ヤコ 5：14−15）。求められないかぎり，病人を癒してはならない（教義 24：13−14）。長老たちは病人に按手をしなければならない（教義 42：44）。病人にあなたの手を置きなさい。そうすれば，快復するであろう（教義 66：9）。

ピラト，ポンテオ

紀元 26−36 年にユダヤを治めたローマ総督（ルカ 3：1）。ピラトはユダヤ人とその宗教を嫌い，何人かのガリラヤ人を殺した（ルカ 13：1）。イエスはピラトの前に訴えられ，十字架の刑の宣告を受けた（マタ 27：2，11−26，58−66；マコ 15 章；ルカ 23 章；ヨハネ 18：28−19：38）。

ヒラマン（アルマの息子）　「アルマ（アルマの息子）」「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「ヒラマンの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。父アルマの子であるアルマの長男（アル 31：7）。ヒラマンは預言者であるとともに軍隊の指導者でもあった。

アルマは息子ヒラマンに，自分の民の記録とヤレド人の記録を託した（アル 37：1−2，21）。アルマは民の歴史を書き続けるようヒラマンに命じた（アル 45−62 章）。ヒラマンは再び教会を設立した（アル 45：22−23）。アンモン人の 2 千人の若い兵士たちはヒラマンが自分たちの指揮官になることを願った（アル 53：19，22）。ヒラマンと勇敢なアンモン人たちは，レーマン人と戦い，信仰によって守られた（アル 57：19−27）。

ヒラマン（ヒラマンの息子）

『モルモン書』の中の預言者，記録者。ニーファイの民を教えた。ヒラマンはアルマの息子アルマの孫であり，また自然界を治める権威を授けられたニーファイの父（ヒラ 5−10 章）である。息子のニーファイとともに，ヒラマン書を記した。

ヒラマン書：第 1−2 章には，政治的に大きな混乱を来した様子が述べられている。第 3−4 章には，ヒラマンとニーファイ人の軍隊の司令官モロナイハの働きによって，しばらくの間平和な世になったことが示されている。しかし，これらの優れた人々の指導にもかかわらず，民は次第に邪悪になっていった。第 5−6 章には，ニーファイがヒラマンの祖父アルマと同じように，人々を教えるために，さばきつかさの職を辞したことが記されている。民はしばらくの間は悔い改めた。しかし，第 6−12 章に述べられているように，ニーファイ人の国家は邪悪になっていった。最後の第 13−16 章には，レーマン人サムエルと呼ばれた預言者に関するすばらしい記録が載っている。サムエルは救い主の降誕と十字架の刑，また，それらの出来事に伴うしるしについて預言した。

ヒラマン（ベニヤミン王の息子）　「ベニヤミン（モーサヤの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。ベニヤミン王の 3 人の息子の中の一人（モサ 1：2−8）。

ヒラマンの息子たち　「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「ヒラマン（アルマの息子）」参照

『モルモン書』の中の，アンモン人として知られる改宗したレーマン人の息子たち。ヒラマン指揮下の兵士となった（アル 53：16−22）。

ヒラマンは彼らを，自分の息子と呼ぶにふさわしいと考えた（アル 56：10）。彼らの母親は，疑わなければ神が救ってくださると彼らに教えていた（アル 56：47）。彼らはレーマン人を打ち破り，信仰によって守られ，だれ一人死ななかった（アル 56：52−54，56；57：26）。

ピリピ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。パウロがローマで最初に投獄されていたときに，ピリピの聖徒たちに書き送った手紙。

第 1 章には，パウロのあいさつと，一致や謙遜（けんそん）さ，忍耐についての教えが書かれている。第 2 章では，すべての者がキリストの前にひざをかがめるようになること，また各人が自分の救いの達成に努めるべきことが強調されている。第 3 章には，パウロがキリストのためにすべてを犠牲にしてきたことが述べられている。第 4 章には，ピリピの聖徒たちの助けに対するパウロの感謝の言葉が書かれている。

ピリポ

『新約聖書』の中の人物。救い主に召された十二使徒の一人で，ベツサイダの出身（マタ 10：2−4；ヨハ 1：43−45）。

十二使徒を補佐するために選ばれた7人の中に，ピリポという同名の人物がいた(使徒6:2−6)。彼はサマリア(サマリヤ）で宣(の)べ伝え，エチオピア人（エチオピヤ人)の宦官(かんがん)を教えた(使徒8章)。

ピレモン　「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。キリスト教徒。ピレモンにはオネシモという奴隷がいたが，彼は逃亡して，パウロのもとで教えを受け入れた。パウロは，オネシモを赦(ゆる)すようにとの手紙を添えて，彼をピレモンのもとに送り返した。

ピレモンへの手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。パウロが書いた手紙。この手紙は，主人ピレモンのものを盗んでローマへ逃亡した奴隷オネシモについてのパウロの個人的な手紙である。パウロは，コロサイ人への手紙を託したテキコを同伴させて，オネシモをコロサイに住む主人のもとに送り返した。パウロは，オネシモを赦(ゆる)して同じキリスト教徒の仲間として再び受け入れてほしいとの願いを書いている。この手紙は，パウロがローマで最初に投獄されていたときに書いたものである。

フェイエット（ニューヨーク州）

ピーター・ホイットマー・シニア所有の農場があった場所。ジョセフ・スミスはここで数多くの啓示を受けた。1830年4月6日に，教会がこの地で組織された。また，この地で主の声が聞かれた（教義128：20)。

フェルプス，ウィリアム・W

1830年に回復された当教会の初期の会員で，指導者としての務めを果たした人物。主はウィリアム・W・フェルプスを教会のために印刷の仕事をするように召された（教義57：11；58：40；70：1)。

フェローシップ　「愛」「一致」参照

末日聖徒にとってフェローシップとは，他の人々と親しく交わり，奉仕し，高め，強めることである。

あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない(レビ19:18〔マタ19：19；教義59：6〕)。あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい（ルカ22：32)。互(たがい)に愛し合うならば，あなたがたがわたしの弟子であることを（ヨハ13：35)。わたしの羊を養いなさい（ヨハ21：15−17)。彼らは聖徒たちへの奉仕に加わりたいと，熱心に願い出て(2コリ8:1−5)。わたしたちの交わりとは，父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである（1ヨハ1:3)。ニーファイ人とレーマン人は互いに親しく交わった（ヒラ6：3)。各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊び(教義38：24−25)。もしもあなたがたが一つでなければ，あなたがたはわたしのものではない（教義38：27)。あなたの友になり兄弟になるという，決意をもってあなたを仲間に迎え入れます（教義88：133)。

深く考える　「祈り」「啓示」参照

聖句や神にかかわる事柄について，

しばしば瞑想し，十分に思い巡らすこと。これが祈りと結びついたときに，啓示が与えられたり，理解の目が開かれたりすることがある。

マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて，思いめぐらしていた（ルカ 2：19）。わたしは思いにふけりながら腰を下ろしていたとき，主の御霊に捕らえられて（1ニフ 11：1）。聖文について心に深く考え（2ニフ 4:15）。ニーファイも，主が自分に示してくださったいろいろなことを深く考えながら，家路に就いた（ヒラ 10：2−3）。自分の家に帰り，わたしが述べたことを深く考えなさい（3ニフ 17：3）。主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし，それを心の中で深く考えてほしい（モロ 10：3）。自分が受けた事柄について深く考え（教義 30：3）。思いにふけっていたときに，主はわたしたちの理解の目に御手を触れてくださり（教義 76：19）。わたしは自分の部屋にいて聖文に思いをはせ（教義 138：1−11）。わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした（ジ―歴史 1：12）。

不義　「義」「汚れ」「邪悪」「罪」「不信心」参照

邪悪なこと。正しくないこと。神を愛さず，神にかかわることを大切にしないこと。また神の大義を行おうとしないこと。

正しくない者が神の国をつぐことはない（1コリ 6：9−10）。真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を，さばく（2テサ 2：12）。神はすべての不義からわたしたちをきよめて下さる（1ヨハ 1：9）。不義な王はあらゆる義の道を曲げる（モサ 29：23）。法律家たちとさばきつかさたちの不義によって，滅亡の基が据えられている（アル 10：27）。わたしは世の人々を不義な行いのゆえに責めるために，あなたがたを遣わす（教義 84：87）。人はすべての不義から必ず聖められなければならない（教義 88：17−18）。ほとんどすべての人は，不義な支配を始めようとする傾向がある（教義 121：39）。

武具

武器による攻撃から身を守るためにまとうもの。この言葉は，誘惑や罪悪から人を守る霊的な特質を意味するものとしても用いられる。

神の武具を身につけなさい（エペ 6：10−18〔教義 27：15−18〕）。

福音　「贖いの計画」「キリストの教義」「神権時代」参照

イエス・キリストの贖罪によって可能になった神の救いの計画。福音には，人が神のもとへ戻るのに必要な永遠の真理や律法，聖約，儀式が含まれる。神は預言者ジョセフ・スミスを通して，19 世紀に，完全な福音を地上に回復された。

全世界に出て行って，福音を宣べ伝えよ（マコ 16：15）。小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分が差し止められた（1ニフ 13：32）。福音とは，次のとおりである（3ニフ 27:13−21〔教義 39：6〕）。『モルモン書』には完全な福音が載っている（教義 20:8−9〔教

義 42：12〕)。福音はこれである（教義 76：40−43)。メルキゼデク神権は福音をつかさどる（教義 84：19)。すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう（教義 90：11)。御子は死者の霊に福音を宣(の)べ伝えられた（教義 138：18−21，28−37)。福音は最初から宣(の)べ伝えられ(モセ 5：58)。福音の第一の原則と儀式が述べられる（箇条 1：4)。

福音書　「マタイ」「マルコ」「ヨハネ(ゼベダイの子)」「ルカ」参照

『新約聖書』の最初の 4 書。イエスのこの世における生涯と，その務めにまつわる様々な出来事を記した 4 つの記録すなわち証(あかし)。マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネによるこの 4 書は，キリストの生涯を記録した証(あかし)である。『モルモン書』の第三ニーファイは，多くの点で『新約聖書』の 4 つの福音書と共通している。

『新約聖書』の各書はもともとはギリシャ語で書かれた。「福音」に当たるギリシャ語は「良い知らせ」の意味。良い知らせとは，イエス・キリストが全人類を死から贖(あがな)い，各自の行いに応じて報いを与える贖罪(しょくざい)の業を成し遂げられたということを知らせるものである（ヨハ 3：16；ロマ 5：10−11；2 ニフ 9：26；アル 34：9；教義 76：69)。

福音書対観表：マタイ，マルコ，ルカ，ヨハネの福音書に書かれている救い主の教えを相互に，また末日の啓示と比較対照すると次のようになる。

福音書対観表

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
イエスの系図	1:2－17		3:23－38		
バプテスマのヨハネの誕生			1:5－25, 57－58		
イエスの誕生	2:1－15		2:6－7		1 ニフ 11:18－20; 2 ニフ 17:14; モサ3:5－8;アル7:10;ヒラ14:5－12; 3ニフ1:4－22

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
シメオンとアンナの預言			2:25－39		
宮もうで（過越（すぎこし）の祭）			2:41－50		
ヨハネの働きの開始	3:1, 5－6	1:4	3:1－3	1:6－14	
イエスのバプテスマ	3:13－17	1:9－11	3:21－22	1:32－34	1 ニフ 10:7－10; 2 ニフ 31:4－21
イエス，誘惑を受ける	4:1－11		4:1－13		
バプテスマのヨハネの証（あかし）				1:15－36	教義 93: 6－18, 26
カナの婚礼（イエスの最初の奇跡）				2:1－11	
最初の宮清め				2:14－17	
ニコデモとの出会い				3:1－10	
井戸端のサマリヤの女				4:1－42	
イエス，ナザレで拒まれる	4:13－16		4:16－30		
人間をとるように召された漁師	4:18－22	1:16－20			

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
網が魚でいっぱいになった奇跡			5:1－11		
ヤイロの娘の蘇生(そせい)	9:18－19, 23－26	5:21－24, 35－43	8:41－42, 49－56		
長血の女の癒(いや)し	9:20－22	5:25－34	8:43－48		
十二使徒の召し	10:1－42	3:13－19; 6:7－13	6:12－16; 9:1－2; 12:2－12, 49－53		1 ニフ 13:24－26, 39－41; 教義 95:4
やもめの息子の蘇生(そせい)			7:11－15		
キリストの足に香油を塗る女			7:36－50	12:2－8	
嵐(あらし)を静める		4:36－41	8:22－25		
七十人の召し			10:1		教義107:25, 34, 93－97
悪霊の群れを豚に送り込む		5:1－20			
山上の垂訓	5－7 章		6:17－49		3 ニフ 12－14 章
イエスのたとえは，日常の事物や出来事を真理になぞらえた短い物語である。イエスはたとえを用いてしばしば霊的真理を教えられた。					
種まき：	13:3－9, 18－23	4:3－9, 14－20	8:4－8, 11－15		

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
毒麦：	13:24－30, 36－43				教義 86:1－7
からし種：	13:31－32	4:30－32	13:18－19		
パン種：	13:33		13:20－21		
畑に隠してある宝：	13:44				
高価な真珠：	13:45－46				
魚を囲み入れる網：	13:47－50				
一家の主人：	13:51－52				
迷い出た羊：	18:12－14		15:1－7		
なくした銀貨：			15:8－10		
放蕩息子（ほうとう）：			15:11－32		
無慈悲な僕（しもべ）：	18:23－35				
良いサマリヤ人：			10:25－37		
不正な家令：			16:1－8		
ラザロと金持ち：			16:14－15, 19－31		
不義な裁判官：			18:1－8		
良い羊飼い：				10:1－21	3 ニフ 15:17－24

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
ぶどう園の労働者：	20:1－16	10:31			
ミナ：			19:11－27		
ふたりの子：	21:28－32				
悪い農夫：	21:33－46	12:1－12	20:9－20		
王子の婚宴：	22:1－14		14:7－24		
10人のおとめ：	25:1－13		12:35－36		教義 45:56－59
タラント：	25:14－30				
羊と山羊（やぎ）：	25:31－46				
5千人に食物を与える	14:16－21	6:33－44	9:11－17	6:5－14	
イエス，水の上を歩く	14:22－33	6:45－52		6:16－21	
ペテロ，キリストについて証（あかし）する	16:13－16	8:27－29	9:18－20		
王国の鍵（かぎ）がペテロに約束される	16:19				
命のパンの説教				6:22－71	
安息日に盲目の人を癒（いや）す				9:1－41	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
変貌；神権の鍵が託される	17:1－13	9:2－13	9:28－36		教義 63:20－21; 110:11－13
子供たちへの祝福	19:13－15	10:13－16	18:15－17		
主の祈り	6:5－15		11:1－4		
ラザロの蘇生				11:1－45	
勝利の入城	21:6－11	11:7－11	19:35－38	12:12－18	
神殿の両替人を追い出す	21:12－16	11:15－19	19:45－48		
やもめのささげ物		12:41－44	21:1－4		
再臨についての説教	24:1－51	13:1－37	12:37－48; 17:20－37; 21:5－38		教義 45:16－60; ジ―マタ 1:1－55
重い皮膚病にかかった 10 人の人の癒し			17:12－14		
イエスの最後の過越；聖餐を定める；十二使徒への教え；弟子たちの足を洗う	26:14－32	14:10－27	22:1－20	13－17 章	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
ゲツセマネでの苦しみ	26:36－46	14:32－42	22:40－46		2 ニフ 9:21－22; モサ 3:5－12 ; 教義 19:1－24
イエスはぶどうの木				15:1－8	
ユダの裏切り	26:47－50	14:43－46	22:47－48	18:2－3	
カヤパの審問	26:57	14:53	22:54, 66－71	18:24, 28	
ピラトの審問	27:2, 11－14	15:1－5	23:1－6	18:28－38	
ヘロデの審問			23:7－10		
イエスへの侮辱と嘲(あざけ)り	27:27－31	15:15－20		19:1－12	
十字架の刑	27:35－44	15:24－33	23:32－43	19:18－22	ヒラ 14:20－27; 3 ニフ 8:5－22; 10:9
復活	28:2－8	16:5－8	24:4－8		
イエス, 弟子たちに現れる		16:14	24:13－32, 36－51	20:19－23	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
イエス，トマスに現れる				20:24－29	
昇天		16:19－20	24:50－53		

福音の回復　「神権時代」「スミス，ジョセフ，ジュニア」「背教；背信」「福音」参照

神がこの世の人々の間に福音の真理と儀式を再び確立されること。イエス・キリストの福音は，キリストの使徒たちが地上での働きを終えた後に起きた背教により，地上から失われた。この背教があったために，福音の回復が必要となった。地上の人々に与えられた示現や天使の働き，啓示を通して，神は福音を回復された。この回復は預言者ジョセフ・スミスに始まり（ジ―歴史 1：1－75；教義 128：20－21），主の生ける預言者たちの働きによって今日まで続いている。

主の家の山は，もろもろの山のかしらとして堅く立つ（イザ 2：2〔ミカ 4：2；2 ニフ 12：2〕）。神は不思議な驚くべき業を行われる（イザ 29：14〔2 ニフ 25：17－18；教義 4：1〕）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく（ダニ 2：44）。エリヤがきて，万事を元どおりに改めるであろう（マタ 17：11〔マコ 9：12；教義 77：14〕）。万物更新の時が来る（使徒 3：21〔教義 27：6〕）。時の満ちる神権時代に，神はすべてのものを一つに帰せしめようとされた（エペ 1：10）。ヨハネは永遠の福音を携えたもう一人の御使（みつかい）を見た（黙示 14：6）。完全な福音が異邦人に与えられる（1ニフ 15：13－18）。ユダヤ人がまことの教会に回復される（2ニフ 9：2）。末日には真理が明らかにされる（3ニフ 16：7）。わたしはアロンの神権を授ける（教義 13：1〔ジ―歴史 1：69〕）。終わりの時代のために，王国の鍵（かぎ）をわたしがゆだねた（教義 27：6, 13－14〔教義 128：19－21〕）。イスラエルの部族を集め，万事を元どおりにする（教義 77：9）。この神権時代の鍵（かぎ）がゆだねられる（教義 110:16〔教義 65：2〕）。この神権が時満ちる神権時代に与えられている（教義 112：30）。わたしは二人の御方を見た（ジ―歴史 1：17）。わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう（ジ―歴史 1:38〔マラ 4:5－6〕）。

福音の第一の原則　「悔い改め」「信仰」「聖霊」「バプテスマ」参照

福祉　「ささげ物」「断食」「奉仕」「施し」「貧しい」参照

霊的また物質的な助けが必要な人に手を差し伸べること，またその手段。

あなたはあなたの兄弟の乏しい者と，貧しい者とに，手を開かなければならない（申命 15：11）。貧しい者に

施す者は物に不足しない（箴言 28：27）。わたしが選ぶところの断食は，飢えた者に，あなたのパンを分け与え，貧しい者を，あなたの家に入れるなどの事ではないか（イザ 58：6−7）。あなたがたは，わたしが空腹のときに食べさせ，旅人であったときに宿を貸し（マタ 25：35−40）。乏しい人に自分の持ち物を与える（モサ 4：16−26）。彼らは，各々の必要と入り用に応じて物質的にも霊的にも互いに助け合い（モサ 18：29）。神の子たちは，神を知らない者たちの幸いのためにともに断食し，祈るように命じられた（アル 6：6）。あなたがたの幸いと，あなたがたの周りの人々の幸いを気遣う気持ちを心に満たし（アル 34：27−28）。彼らは，すべてのものを共有した（4ニフ 1:3）。貧しい者を思い起こし（教義 42：30−31）。貧しい者と乏しい者を訪れ（教義 44：6）。貧しい者と乏しい者を，すべてのことにおいて思い起こしなさい（教義 52：40）。あなたがた，金持ちで自分の持ち物を貧しい者に与えようとしない者は，災いである（教義 56：16−17）。彼らの中に貧しい者はいなかった（モセ 7：18）。

福千年　「イエス・キリストの再臨」「地獄」参照

キリストが戻って来て自ら地上を統治されるときに始まる平和な千年間（箇条 1：10）。

つるぎをあげず，彼らはもはや戦いのことを学ばない（イザ 2：4〔2ニフ 12：4；ミカ 4：3〕）。この荒れた地は，エデンの園のようになった（エゼ 36：35）。彼らは生きかえって，キリストと共に千年の間，支配した（黙示 20：4）。民の義のために，サタンはまったく力を持たず（1ニフ 22：26）。わたしは千年の間地上で義のうちに住む（教義 29：11）。千年が終わるとき，わたしはしばしの間だけ地をそのままにしておこう（教義 29：22）。大いなる福千年が来る（教義 43：30）。義人の子孫は罪のないまま成長する（教義 45：58）。子供たちは高齢になるまで成長し，人々は一瞬のうちに変えられる（教義 63：51）。第 7 の千年の初めに主なる神は地球を聖なるものとし（教義 77：12）。千年が終わるまで再び，彼らは生きることはない（教義 88：101）。サタンは縛られ，千年の間解放されない（教義 88：110）。福千年について述べられる（教義 101：23−34）。千年の間，地は安息を得る（モセ 7：64）。

不敬　「冒瀆（ぼうとく）；汚す罪」参照

神聖なものを尊ばないこと，あるいは軽視すること。特に，神の名を敬わないこと。

あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない（出エ 20：7〔2ニフ 26：32；モサ 13：15；教義 136：21〕）。なにゆえ，われわれは先祖たちの契約を破って（マラ 2：10）。悪い者であるのに，どうして良いことを語ることができようか（マタ 12：34−37）。同じ口から，さんびとのろいとが出て来る。このような事は，あるべきでない（新ヤコ 3：10）。わたしたちの言葉はわたしたちを罪に定める（アル 12：14〔モサ 4：30〕）。すべての人は，わたしの名をどのように

口にするか気をつけなさい（教義 63：61−62）。

負債　「赦し」参照

聖典にあるように，人から借りた金銭や財産は，借りた人をある種の束縛状態に置く。イエスはそれとは別に，わたしたちが天の御父に負債を赦してくださるよう求めなければならないこと，すなわち，自分に罪を犯した人を赦した後，イエス・キリストの贖罪を通して，罪の代価の支払いから解放してくださるように求めなければならないことを教えられた（マタ 6：12；3 ニフ 13：11）。

悪しき者は物を借りて返すことをしない（詩篇 37：21）。借りる者は貸す人の奴隷となる（箴言 22：7）。あの負債を全部ゆるしてやったのだ……あわれんでやるべきではなかったか（マタ 18：23−35）。互に愛し合うことの外は，何人にも借りがあってはならない（ロマ 13：8）。あなたがたは，とこしえに神に恩を受けている（モサ 2：21−24，34）。隣人から物を借りたなら，その物を返すようにしなければならない（モサ 4：28）。負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい（教義 19：35）。あなたがたの敵に対して負債を抱えることは，禁じられている（教義 64：27）。すべての負債を返済することである（教義 104：78）。主の家を建てるに当たってこれ以上負債を抱えさせないようにしなさい（教義 115：13）。

ふさわしさ　「義」参照

個人として義にかなった状態。また神と神に任じられた指導者の目から見て正しいと認められる状態。

また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない（マタ 10：38）。働き人がその報いを得るのは当然である（ルカ 10：7〔教義 31：5〕）。ふさわしい状態ですべてのことを行い（モル 9：29）。ふさわしい実を結ばなければ，バプテスマを施されなかった（モロ 6：1）。怠惰な者は，その職にいるにふさわしい者と見なされない（教義 107：100）。懲らしめに耐えない者は，わたしの王国にふさわしくない（教義 136：31）。すべてのふさわしい男性会員は，神権を受けることができる（公式 2）。

不死不滅　「イエス・キリスト」「死すべき状態」「贖罪」「救い」「復活」参照

復活して，肉体の死に服することなく，永久に生きる状態。

イエスはよみがえって（マコ 16：6）。キリストにあってすべての人が生かされるのである（1コリ 15：22）。この死ぬものが死なないものを着るとき，死は勝利にのまれてしまう（1コリ 15：53−55）。キリストは死を滅ぼし，不死を明らかに示された（2テモ 1：10）。霊と体は再び本来のものに回復され，すべての人は不朽となり，不死となる（2ニフ 9：13）。霊は体と結合して，不死不滅のものとなり（アル 11：45）。忠実であれば，不死不滅と，永遠の命を冠として与えられるであろう（教義 75：5）。地球は聖められ，

不滅の状態となる（教義 77：1〔教義 130：9〕）。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である（モセ 1：39）。

不信仰　「信じる」参照

神とその福音に対する信仰がないこと。

彼らの不信仰のゆえに，そこでは力あるわざを，あまりなさらなかった（マタ 13：58）。弟子たちは信仰が足りなかったために，悪霊を追い出すことができなかった（マタ 17：14−21）。不信仰なわたしを，お助けください（マコ 9：23−24）。イエスは彼らの不信仰と，心のかたくななことをお責めになった（マコ 16：14）。彼らのうちに不真実の者があったとしたら，その不真実によって，神の真実は無になるであろうか（ロマ 3：3）。一人の人が滅びるのは，一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい（1ニフ 4：13）。不信仰に陥る時が来ると，散らされ，打たれる（2ニフ 1：10−11〔教義 3：18〕）。彼らは自分の不信仰のために，神の言葉を理解できなかった（モサ 26：1−5）。彼らの不信仰のゆえに，このように大きな奇跡を彼らに現すことができなかった（3ニフ 19：35）。不信仰のために，あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった（教義 84：54−58）。

不信心　「汚れ」「邪悪」「罪」「不義」参照

神の御心や戒めに添わないこと。邪悪で汚れたこと。

悪しき者の道は滅びる（詩篇 1：6）。また義人でさえ，かろうじて救われるのだとすれば，不信なる者は，どうなるであろうか（1ペテ 4：18）。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい（モロ 10：32）。報復は神を敬わない者のうえに速やかに及ぶ（教義 97：22）。神を敬わない者の中では，御子の声は発せられず（教義 138：20）。

再び生まれる　「生まれながらの人」「生まれる；産む；もうける」「改宗」「神の息子，娘」「キリストの子」「バプテスマ」参照

主の御霊によって心の中に大きな変化が起こり，二度と悪を行おうとは思わず，それよりも神にかかわる事柄を求めたいと望むようになること。

彼らのうちに新しい霊を授け（エゼ 11：19〔エゼ 18：31；36：26〕）。キリストの名を信じた人々は，血すじによらず，神によって生れた（ヨハ 1：12−13）。だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない（ヨハ 3：3−7）。わたしたちは神の言葉によって再び生まれる（1ペテ 1：3−23）。すべて神から生まれた者は，罪にとどまることはない（JS1ヨハ 3：9）。すべて神から生れた者は，世に勝つからである（1ヨハ 5：4）。キリストから生まれる人は，神と聖約する（モサ 3：19；5：2−7）。全人類は再び生まれなければならない。人は神から生まれなければならない（モサ 27：25−26〔アル 5：49〕）。あなたがたは霊的に神から生まれているか（ア

ル 5：12−19)。再び生まれなければ天の王国を受け継ぐことができない（アル 7：14)。だれでもわたしの言葉を信じる者は，水と御霊(みたま)によって生まれるであろう（教義 5：16)。あなたがたは再び天の王国に生まれなければならない（モセ 6：59)。

復活　「イエス・キリスト」「体」「死（肉体の）」「贖罪(しょくざい)」「不死不滅」「霊」参照

死後，霊体と骨肉の体が再び結合すること。復活後は，霊と肉体は決して再び分離することがなく，人は不死不滅となる。イエス・キリストが死に打ち勝たれたため，地上に生を受けた人はすべて復活する（1 コリ 15：20−22)。

イエス・キリストはこの地上で復活した最初の御方である（使徒 26：23；コロ 1：18；黙示 1：5)。『新約聖書』には，イエスの墓が空になっていたこと，またイエスが魚と蜜(みつ)を食べられたこと（KJ ルカ 24：42)，人々がイエスの体に触れたこと，天使が主の復活を証(あかし)したことなど，イエスが肉体をもってよみがえられたことを示す証拠が数多く記されている（マコ 16：1−6；ルカ 24：1−12，36−43；ヨハ 20：1−18)。末日の啓示もキリストと万人の復活が確かなことを確認している（アル 11：40−45；40 章；3 ニフ 11：1−17；教義 76 章；モセ 7：62)。

すべての人が同じ栄光の状態に復活するわけではない（1 コリ 15：39−42；教義 76：89−98)。またすべての人が同じ時に復活するのでもない（1 コリ 15：22−23；アル 40：8；教義 76：64−65，85)。キリストの復活後，多くの聖徒が復活した（マタ 27：52)。義人は悪人よりも先に復活し，第一の復活の時に出て来る（1 テサ 4：16)。罪を悔い改めない者は最後の復活の時に出て来る（黙示 20：5−13；教義 76：85)。

たとえこの体が滅ぼされようとも，肉にあって，わたしは神を見るであろう（KJ ヨブ 19：26〔モセ 5：10〕)。わたしはあなたがたの墓を開き，あなたがたを墓からとりあげ（エゼ 37：12)。墓が開け，眠っている多くの死体が生き返った（マタ 27：52−53〔3 ニフ 23:9〕)。主はよみがえられた（ルカ 24：34)。霊には肉や骨はないが，あなたがたが見るとおり，わたしにはあるのだ（ルカ 24：39)。わたしはよみがえりであり，命である（ヨハ 11：25)。十二使徒はイエスがよみがえられたことを教えた（使徒 1:21−22〔使徒 2：32；3：15；4：33〕)。キリストにあってすべての人が生かされる（1 コリ 15：1−22)。キリストにあって死んだ人々が，まず最初によみがえる（1テサ 4：16)。この第一の復活にあずかる者は，さいわいな者であり，また聖なる者である（黙示 20：6)。聖なるメシヤは，御自分の命を一度捨て，そして，死者の復活をもたらすために御霊(みたま)の力によって再びそれを得られた（2ニフ 2：8〔モサ 13：35；15：20；アル 33：22；40：3；ヒラ 14：15〕)。復活がなければ，わたしたちはサタンに従うようになる（2ニフ 9：6−9)。復活はすべての人に及ぶ（2ニフ 9：22)。アビナダイは第一の復活について教えた（モサ 15：21−26)。悪人

はあたかも贖(あがな)いがなかったかのような有様であり，ただ死の縄目からの解放だけがある（アル 11：41−45）。アルマは死ぬ時と復活の時の間の人の状態について説明した（アル 40：6，11−24）。主の来臨の時に，キリストにあって死んだ者が出て来る（教義 29：13〔教義 45：45−46；88：97−98；133：56〕）。特に，栄光ある復活の望みがない者のために涙を流す（教義 42：45）。律法を知らなかった者は第一の復活にあずかる（教義 45：54）。彼らは死者の中からよみがえり，その後死ぬことはなく（教義 63：49）。死者の中からの復活は，人の贖(あがな)いである（教義 88：14−16）。分離しないように結合した霊と元素は，満ちみちる喜びを受ける（教義 93：33）。天使とは，骨肉の体を持つ復活した人々である（教義 129：1）。わたしたちがこの世において得る英知の一切は，復活の時にわたしたちとともによみがえる（教義 130：18−19）。

復活祭　「イエス・キリスト」「復活」参照

物欲　「金銭」「高慢」「富」「むなしさ」参照

霊的な事柄をなおざりにして，金品に対して欲を持つこと。

たとい人が全世界をもうけても，自分の命を損したら，なんの得になろうか（マタ 16：26）。人々は俗世のむなしいものに執着するようになり（アル 4：8〔アル 31：27〕）。あなたはこの世のものを捨てて（教義 25：10）。彼らがあまりにもこの世のものに執着し（教義 121：35）。

不貞　「姦淫(かんいん)」「純潔」「肉欲」参照

婚姻関係にない男女が行う不法な性の交わり。聖典では，背教を象徴する言葉としても時々用いられる。

わたしをはずかしめてはなりません。このようなことはイスラエルでは行われません（サ下 13：12）。不品行を避け（使徒 15：20）。からだは不品行のためではなく，主のためであり（1コリ 6：13−18）。不品行に陥ることのないために，男子はそれぞれ自分の妻を持つがよい（1コリ 7：2−3）。神のみこころは，あなたがたが不品行を慎み（1テサ 4:3）。ヤコブはニーファイの民に，不貞について警告した（ヤコ 3：12）。あなたがたは，殺人と不貞と悪事のために滅びの機を熟させつつある（ヒラ 8：26）。不貞を働いた者が教会に入るには悔い改めなければならない（教義 42：74−78）。

ぶどう園（果樹園）（主の）　「イスラエル」「畑」参照

霊的な働きをする場の象徴。聖典の中では，この言葉は普通，イスラエルの家あるいは地上の神の王国を指すものとして用いられる。世の人々全体を指すこともある。

万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり（イザ 5：7〔2ニフ 15：7〕）。イエスはぶどう園の労働者のたとえを話された（マタ 20：1−16）。わたしはあなたを，人が自分の果樹園に植えて養いを与えた，一本の栽培されたオリーブの木にたとえよう（ヤコ 5 章）。

主の僕たちが主の果樹園に養いを与え，刈り込みを行うために主の力をもって出て行く（ヤコ 6 章）。わたしのぶどう園で働くすべての人を祝福しよう（教義 21：9〔アル 28：14〕）。あなたがたはわたしのぶどう園で最後の働きをしなさい（教義 43：28）。

不道徳　「邪悪」「純潔」「性的不道徳」「肉欲」参照

プラット，オーソン

近代の教会の回復後に召された最初の十二使徒の一人（教義 124：128−129）。教会員になってわずか 6 週間で，ジョセフ・スミスを通して主から啓示を受けた（教義 34 章）。教会の宣教師として働き（教義 52：26；75：14），また数年間教会歴史記録者としても務めを果たした。

プラット，パーリー・パーカー

オーソン・プラットの兄。近代の教会の回復後に召された最初の十二使徒の一人（教義 124：128−129）。何度か宣教師として働いたが，最初の伝道は，1830 年 10 月にジョセフ・スミスを通して主から授けられた啓示によるものであった（教義 32 章；50：37）。

平安；平和　「安息」「福千年」「平和をつくり出す人」参照

聖典では，神が忠実な聖徒に授けられる，御霊がもたらす内面的な安らぎや慰め（平安），また争いや混乱から解き放された状態（平和）を意味する言葉として用いられている。

争いや混乱から解き放された状態：主は戦いをやめさせ（詩篇 46：9）。彼らはもはや戦いのことを学ばない（イザ 2：4）。あなたがたは，できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。自分で復讐をしないで（ロマ 12：18−21）。地は依然として引き続き平和であった（4ニフ 1：4，15−20）。戦争を放棄して，平和を宣言しなさい（教義 98：16）。平和の旗を掲げなさい（教義 105：39）。

従順な者に神から与えられる状態：救い主は平和の君と呼ばれる（イザ 9：6）。悪い者には平安がない（イザ 48：22）。地の上では，平和があるように（ルカ 2：13−14）。わたしは平安をあなたがたに残して行く（ヨハ 14：27）。人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安（ピリ 4：7）。ベニヤミン王の民は良心の安らぎを得た（モサ 4：3）。平和を告げて広める者たちの足は，山の上にあって何と麗しいことであろう（モサ 15：14−18〔イザ 52：7〕）。アルマは主に叫び求め，安息を得た（アル 38：8）。義人の霊は平安な状態に迎え入れられ（アル 40：12）。わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか（教義 6：23）。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば，あなたはわたしによって平安を得るであろう（教義 19：23）。この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける（教義 59：23）。完全と平和のきずなである慈愛のきずなを，外套のように身にまといなさい（教義 88：125）。息子よ，あなたの心に平安があるように（教義 121：7）。わたしのためにさ

らに大いなる幸福と平安と安息があるのを知り，わたしは先祖の祝福を得ようと努めた（アブ 1：2）。

平和をつくり出す人　「平安；平和」参照

平和をもたらす人，または広めようとする人（マタ 5：9；3 ニフ 12：9）。福音を宣言する人も平和をつくり出す人であるといえる（モサ 15：11−18）。

ベタニヤ

イエス・キリストがこの世の生涯の最後の週に滞在した村（マタ 21：17；マコ 11：11）。オリブ山の南東斜面に位置し，ラザロ，マリヤ，マルタの家がここにあった（ヨハ 11:1−46;12:1）。

ベツレヘム

エルサレムの南約 8㎞にある小さな町。ヘブライ語で「パンの家」の意味。「実り豊かな」の意のエフラタとも呼ばれる。イエス・キリストはこのベツレヘムでお生まれになった（ミカ 5：2；マタ 2：1−8）。ラケルの埋葬地でもある（創世 35：19；48：7）。

ルツとボアズはここに住んだ（ルツ 1：22）。サムエルはここでダビデに油を注いだ（サ上 16：1−13；17：12，15；20：6，28）。ヘロデがここで子供たちを殺した（マタ 2：16）。

ベテル

ヘブライ語で「神の家」を意味する。イスラエルで最も神聖な場所の一つ。エルサレムの北約 15㎞に位置する。アブラハムはカナンの地に最初に着いたとき，ここに祭壇を築いた（創世 12：8；13：3）。この地でヤコブは，天に達するはしごを示現のうちに見た（創世 28：10−19）。ベテルはサムエルの時代にも神聖な場所とされていた（サ上 7：16；10：3）。

ペテロ

『新約聖書』の中の人物。ペテロは，シメオンあるいはシモンとして知られていた（2 ペテ 1：1）。ベツサイダの漁師で，妻とカペナウムで暮らしていた。イエスはペテロの妻の母の病を癒（いや）された（マコ 1：29−31）。ペテロは兄弟のアンデレとともに，イエス・キリストの弟子として召された（マタ 4：18−22；マコ 1：16−18；ルカ 5：1−11）。「聖見者」あるいは「岩」を意味するアラム語名「ケパ」は，主御自身から与えられたものである（ヨハ 1：40−42；JS ヨハ 1：42）。『新約聖書』にはペテロの肉体的な弱さが幾つか述べられているが，それと同時に，ペテロが肉体的な弱さを克服し，イエス・キリストを信じる信仰によって強くされたことも描かれている。

ペテロは，イエスがキリストであり，神の御子であることを告白した（ヨハ 6：68−69）。そして主はペテロを選び，地上における王国の鍵（かぎ）を持つ者とされた（マタ 16：13−18）。ペテロは変貌（へんぼう）の山で，変貌（へんぼう）された救い主，ならびにモーセとエリヤを目にした（マタ 17：1−9）。

ペテロは当時の使徒の頭（かしら）であった。救い主の死と復活と昇天の後，ペテロは教会員を集め，イスカリオテのユダ

に代わる使徒を召す指示を与えた（使徒1：15−26）。ペテロとヨハネは生まれながら足の不自由な人を癒した（使徒3：1−16）。また二人は，奇跡的な方法で獄から解放された（使徒5：11−29；12：1−19）。福音が初めて異邦人に伝えられるようになったのは，ペテロの働きによる（使徒10−11章）。ペテロは末日にヤコブやヨハネとともに天から降って来て，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権とその鍵を授けた（教義27：12−13；128：20）。

ペテロの第一の手紙：この手紙は，ネロがキリスト教徒への迫害を始めた直後に，「バビロン」（恐らくローマ）から，現在小アジアと呼ばれている地域の聖徒たちに書き送られたものである。

第1章には，キリストが予任されていた贖い主としての務めのことが書かれている。第2−3章には，キリストが教会の隅のかしら石であること，また聖徒が王国の神権を授けられた者であること（KJ 1ペテ2：9），キリストが獄にいる霊たちに宣べ伝えられたことが述べられている。第4−5章には，福音が死者に宣べ伝えられた理由，また長老たちが羊の群れを牧するように求められている理由が説明されている。

ペテロの第二の手紙：第1章には，召しと選びとを確かなものにするようにとの，聖徒たちへの勧めの言葉が記されている。第2章には，偽教師に対する警告が述べられている。第3章には，末日とキリストの再臨のことが書かれている。

ベニヤミン（モーサヤの父）「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」参照

『モルモン書』の中の預言者，王（モサ1−6章）。

平和を確立するために数々の重要な問題を処理した（オム1：23−25〔モ言1:12−18〕）。息子たちを教えた（モサ1：1−8）。王位を息子モーサヤに譲った（モサ1：9−18）。民は彼の最後の言葉を聞くために集まった（モサ2：1−8）。民に語った（モサ2：9−4：30）。彼の民は主と聖約を交わした（モサ5−6章）。

ベニヤミン（ヤコブの息子）「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルの2番目の息子（創世35：16−20）。

ベニヤミンの部族：ヤコブはベニヤミンに祝福を授けた（創世49：27）。ベニヤミンの子孫は好戦的であった。ベニヤミンの部族から出た二人の重要な人物としては，イスラエル王国初代の王サウル（サ上9：1−2）と『新約聖書』の使徒パウロ（ロマ11：1）がいる。

蛇（青銅の）「イエス・キリスト」「モーセ」参照

荒れ野で火の蛇（毒蛇）にかまれたイスラエル人を癒すために，神の命令によってモーセが造った青銅の蛇（民数21：8−9）。この青銅の蛇はさおにかけられ，「それを仰ぎ見ようとした者はだれでも，生き延びられるようにさ

れた」（アル 33：19−22）。主は御自身が十字架につけられることの象徴として，荒れ野でこの蛇が掲げられたことを述べておられる（ヨハ 3：14−15）。末日の啓示は，火の蛇と人々の癒しについての話が実際のものであったことを確認している（1 ニフ 17：41；2 ニフ 25：20；ヒラ 8：14−15）。

ヘブライ語　「イスラエル」参照

イスラエルの民が話したセム系言語の一つ。

ヘブライ語は，イスラエルの民がバビロニア捕囚から帰還するまで使っていた言葉である。帰還後は，アラム語が日常語として用いられるようになった。イエスの時代，ヘブライ語は学者の言葉であり，律法や宗教書を著すために用いられた言語であった。

ヘブル人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。パウロは，モーセの律法の重要な部分がキリストにあって成就し，さらに高度なキリストの福音の律法がそれに取って代わったことを説き教えるために，この手紙をユダヤ人の教会員に書き送った。パウロは 3 度目の伝道を終えてエルサレムに戻ったとき（紀元 60 年ごろ），多くのユダヤ人教会員がまだモーセの律法に固執しているのを見た（使徒 21：20）。これは，エルサレムにおける教会の大会で，モーセの律法の幾つかの儀式は異邦人のクリスチャンの救いに不必要であるとの決議がされてから少なくとも 10 年後のことであった。パウロはそれから間もなく，ヘブライ人（ヘブル人）にあてて手紙を書き，彼らの聖書と確かな根拠に基づいて，もはやモーセの律法に従う必要がない理由を明らかにした。

第 1−2 章には，イエスが天使よりも偉大な御方であることが説かれている。第 3−7 章は，イエスをモーセならびにモーセの律法と比較し，イエスがそのいずれよりも偉大であることを証している。また，メルキゼデク神権がアロン神権よりも偉大であることを教えている。第 8−9 章は，モーセの律法の下で定められていた事柄が民をキリストの御業に備えさせたこと，またキリストが新しい聖約の仲保者であることを説いている（アル 37：38−45；教義 84：21−24）。第 10 章は，熱心な働きと信仰の奨励である。第 11 章は信仰に関する説教である。第 12 章には，勧告とあいさつの言葉が記されている。第 13 章には，結婚が尊ばれるべきものであること，また従順の大切さが記されている。

ヘブロン

エルサレムの南約 30㎞の所にあったユダヤの昔の町。アブラハムとその家族が葬られた地でもある（創世 49：29−32）。ダビデ治世初期の都（サ下 5：3−5）。

ペリシテ人

『旧約聖書』の中の民族。カフトルから来た民族（アモ 9：7）で，アブラハムの時代以前に，ヨッパからエジプトの砂漠に至る地中海沿岸の肥沃な平地を領有していた（創世 21：32）。ペリシテ人とイスラエル人の間には，

長い年月にわたって軍事的な対立があった。後に，ペリシテ人の領地を表す「パレスチナ」という言葉が，聖地全土を指すものとして親しまれるようになった。

イスラエルは40年の間ペリシテ人の手に渡された（士師13：1）。サムソンはペリシテ人と戦った（士師13−16章）。ゴリアテはガテのペリシテ人であった（サ上17章）。ダビデはペリシテ人を打ち破った（サ上19：8）。

ベルシャザル　「バビロン；バベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。バビロニアの最後の王。クロスに征服される前に統治していた。ネブカデネザルの息子で，父の後を継いで王となった（ダニ5：1−2）。

ペレグ

『旧約聖書』の中の人物。エベルの息子。セムの孫の孫。ペレグの時代に地が分かれた（KJ創世10：22−25）。

ヘロデ家

イエス・キリストの時代の前後にユダヤを統治した家系。『新約聖書』に記された多くの出来事の中で重要な役割を演じている。次の表を参照する。

ヘロデヤ

『新約聖書』の中の人物。ヘロデ・アグリッパの姉妹。叔父ヘロデ・ピリポの妻となり，娘サロメをもうける。ヘロデヤはサロメとともに，バプテスマのヨハネの斬首を画策した（マタ 14：3−11）。

弁護者　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者であり（モロ 7：28），わたしたちのために御父に対して弁護をしてくださる。

イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者である（1ヨハ 2：1〔教義 110：4〕）。メシヤはすべての人の子らのために執り成しをしてくださる（2ニフ 2：9〔ヘブ 7：25〕）。イエスは死に対して勝利を得，人の子らのために執り成しをする力を授けられる（モサ 15：8）。わたしは父に対するあなたがたの弁護者だからである（教義 29：5）。イエス・キリストはあなたがたのために弁じる（教義 45：3−5）。

偏在　「神；神会」参照

御霊によってどこにでも存在し得る神の能力（詩篇 139：7−12；教義 88：7−13，41）。

変貌　「イエス・キリスト」「神権の鍵」参照

天におられる御方の臨在や栄光に堪えられるように外見や肉体の性質が一時的に変えられた人の状態。つまり，霊的に高い水準に変えられた状態。

キリストの変貌：ペテロとヤコブとヨハネは，主が栄光を受けて身を変えられた様子を目撃した。救い主はそれ以前に，天の王国の鍵を授けるとペテロに約束しておられた（マタ 16：13−19；17：1−9；マコ 9：2−10；ルカ 9：28−36；2 ペテ 1：16−18）。この重大な出来事があったときに，救い主とモーセとエリヤがその約束の神権の鍵をペテロとヤコブとヨハネに授けた。これらの神権の鍵によって，使徒たちは，イエスが昇天された後も王国の業を続ける力を得たのである。

ジョセフ・スミスは，変貌の山でペテロとヤコブとヨハネも身を変えられたと教えている。3 人は，将来地球が栄光を受ける様子を示現で見た（教義 63：20−21）。そしてモーセとエリヤという身を変えられた二人の人物を目にし，御父の声を聞いた。御父は次のように言われた。「これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である。これに聞け。」（マタ 17：5）

変貌した人：彼らはイスラエルの神を見た（出エ 24：9−11）。主と語ったゆえに，顔の皮は光を放っている（出エ 34：29〔マコ 9：2−3〕）。イエスの姿が変り，その顔は日のように輝き（マタ 17：2〔マコ 9：2−3〕）。イスラエルの子らは，モーセの顔の消え去るべき栄光のゆえに，その顔を見つめることができなかった（2コリ 3：7）。彼の顔は非常な輝きを放っていた（モサ 13：5−9）。二人は火の中に立っているようであり（ヒラ 5：23，36，43−45〔3 ニフ 17：24；19：14〕）。彼らも，イエスの顔のように白くなった（3ニフ 19：25）。彼らには変貌したよう

に思われた（3ニフ 28：15）。神の御霊によって変えられないかぎり，いまだかつて肉体において神を見た者はいない（教義 67：10−12）。御霊の力によってわたしたちの目は開かれ（教義 76：12）。神の栄光がモーセのうえにあった（モセ 1：2）。神の栄光がわたしのうえにあり，わたしは神の御前で変貌したので，神の御顔を見た（モセ 1：11）。わたしは天が開くのを見て，栄光に包まれました（モセ 7：3−4）。

ボアズ　「ルツ」参照

ルツの夫（ルツ 4：9−10）。イスラエルの王ダビデの曾祖父（ルツ 4：13−17）。王の王であるキリストの直系先祖（ルカ 3：32）。

ホイットニー，ニューエル・K

回復された教会の初期の指導者。オハイオ州カートランドのビショップ。後に教会の管理ビショップを務めた（教義 72：1−8；104；117 章）。

ホイットマー，ジョン

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の八人の証人の一人。『モルモン書』の中の「八人の証人の証」を参照。彼はまた福音を宣べ伝えるように召された（教義 30：9−11）。

ホイットマー，デビッド

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証した三人の証人の一人（教義 14；17−18 章）。教義と聖約 14 章；30：1−4 の中で，主は彼に個人的な指示を授けられた。

ホイットマー，ピーター，ジュニア

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の八人の証人の一人。『モルモン書』の中の「八人の証人の証」を参照。教義と聖約 16 章；30：5−8 の中で，主は彼に個人的な指示を授けられた。

奉献；奉献の律法　「神の王国；天の王国」「共同制度」参照

ささげること，あるいは聖くすること，または義の状態になること。奉献の律法とは，神の王国の建設と確立のために時間や才能や財産を進んでささげるという，神から与えられた原則である。

きょう，主に身をささげ（出エ 32：29）。信者たちは，いっさいの物を共有にし（使徒 2：44−45）。彼らはすべてのものを共有したので，物持ちも貧しい者もなく（4ニフ 1：3）。主は奉献の原則について説明された（教義 42：30−39〔教義 51：2−19；58：35−36〕）。人がほかの人以上のものを持つようには定められていない（教義 49：20）。各人はその家族に応じて平等に受取分を与えられた（教義 51：3）。天のものとのきずなにおいて平等になり，地上のものにおいても平等になるためである（教義 78：4−5）。あなたがたは，それぞれ自分の入り用と必要に応じて財産を要求する平等な権利がある（教義 82：17−19）。日の栄えの王国の律法の諸原則によらなければ，シオンを築くことはできない（教

義 105：5)。シオンの民は心を一つにし，思いを一つにし，義のうちに住んだ。そして，彼らの中に貧しい者はいなかった（モセ 7：18)。

奉仕　「愛」「福祉」参照

神と人のためになされる働き。人に奉仕するのは，神に仕えることでもある。

あなたがたの仕える者を，きょう，選びなさい（ヨシ 24：15)。これらの最も小さい者のひとりにしたのは，わたしにしたのである（マタ 25：35−45)。あなたがたのからだを，生きた，聖なる供え物としてささげなさい。それが，あなたがたのなすべき礼拝である（ロマ 12：1)。愛をもって互に仕えなさい（ガラ 5：13)。神に仕えて生涯を送るであろう（2ニフ 2：3)。あなたがたが同胞のために務めるのは，あなたがたの神のために務めるのである（モサ 2：17)。約束の地を所有する者は神に仕えなければならない。さもなければ一掃される（エテ 2：8−12)。神の務めに出で立とうとする人々よ，心を尽くして神に仕えなさい（教義 4：2)。神は，御自分を愛し，御自分に仕えるようにとの戒めを与えられた（教義 20：18−19)。イエス・キリストの名によって，神に仕えなければならない（教義 59：5)。主なるわたしは，わたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする（教義 76：5)。神を礼拝しなさい。あなたは神にのみ仕えるべきである（モセ 1：15)。

冒瀆；汚す罪　「不敬」「赦されない罪」参照

神や神聖な物事に対して不敬な言葉を口にすること。

イエスは冒瀆の言葉を口にしたとユダヤ人から非難されたことが何度かある。その理由とされたのは，罪を赦す権利があると主張したこと（マタ 9：2−3；ルカ 5：20−21)，また自らを神の子と呼んだこと（ヨハ 10：22−36；19：7)，自分が力ある者の右に座し，天の雲に乗って来るのをユダヤ人たちが見るであろうと述べたことなどである（マタ 26：64−65)。もしイエスがそれらの言葉どおりの御方でなかったら，ユダヤ人たちの批判は当たっていたと言える。サンヒドリン（ユダヤの議会）での裁判において偽証によりイエスに課せられた罪状（マタ 26：59−61）は，神殿を汚したというものであった。聖霊に対する冒瀆とは，キリストについて完全な知識を受けながら，自らの意志でキリストを否定することであり，それは赦されることのない罪である（マタ 12：31−32；マコ 3：28−29；教義 132：27)。

主の名を汚す者は必ず殺されるであろう（レビ 24：11−16)。主は，敵が御名を汚すのをそのままにしてはおかれない（教義 105：15)。報復が主を冒瀆した者のうえに及ぶ（教義 112：24−26)。

報復　「敵意」参照

害を加えた者に仕返しをすること。

あなたがたの神は報復をもって臨み（イザ 35：4)。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する（ロマ 12：19〔モル 3：15；8：20〕)。報

復の剣があなたがたに迫っている（モル 8：40−41）。わたしは悪人に報復しよう。彼らが悔い改めようとしないからである（教義 29：17）。主は悪事と報復の時代に来られた（モセ 7：45−46）。

ホサナ

ヘブライ語からの言葉で，「お救いください」の意味。賛美や嘆願の中で用いられる。

主がイスラエルを救い出して約束の地に導いてくださったことを祝う仮庵（かりいお）の祭で，人々は詩篇第 118 篇を唱え，なつめやしの枝を打ち振った。主がエルサレムへの勝利の入城をされたときに，群衆は「ホサナ」と叫び，イエスが通られる所になつめやしの枝を敷いた。それは，イエスが昔イスラエルを救い出された主と同じ御方であることを，彼らが理解していたことの表れである（詩篇 118：25−26；マタ 21：9，15；マコ 11：9−10；ヨハ 12：13）。彼らは，長く待ち望んできたメシヤとしてキリストを認めたのであった。「ホサナ」という言葉は，いつの時代にあっても，メシヤをたたえるものとなってきた（1 ニフ 11：6；3 ニフ 11：14−17）。ホサナ斉唱はカートランド神殿の奉献式の際に行われ，現在も神殿の奉献式の際に行われている（教義 109：79）。

星の栄え　「栄光の階級」参照

最後の裁きの後に人々が住む 3 つの栄えの階級でいちばん低いもの。

パウロは星の栄光を見た（1コリ 15：40−41）。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは，星の栄えの世界の栄光を見た（教義 76：81−90）。星の栄えの世界に住む者は星のように数限りなかった（教義 76：109−112）。星の栄えの王国の律法に従えない者は，星の栄えの栄光に堪えられない（教義 88：24，31，38）。

ホセア

旧約の預言者。ヤラベアム 2 世の治世後期に，イスラエルの北王国で預言した。イスラエルの罪悪が原因で国が衰え滅びていく時代に生きた人物。

ホセア書：この書の基本的な主題は，民に対する神の愛である。神の懲らしめはすべて愛をもって課せられ，イスラエルの回復も，神の愛の結果である（ホセ 2：19；14：4）。対照的に，ホセアはイスラエルの背信と不実を指摘した。それでも神は，イスラエルが最後には贖（あがな）われることを待ち望まれるのである（ホセ 11：12−14：19）。

施し　「ささげ物」「断食」「福祉」「貧しい」参照

貧しい人を助けるために物を差し出すこと。

自分の義を，見られるために人の前で行わないように（マタ 6：1−4〔3 ニフ 13：1−4〕）。あの貧しいやもめは，だれよりもたくさん入れたのだ（マコ 12：41−44）。受けるよりは与える方が，さいわいである（使徒 20：33−35）。貧しい人に分け与えるようにしてほしい（モサ 4：26）。教会の人々が各々自分の持っている分に応じて持ち物を

分け与えるように（モサ 18：27）。

ポルノ；ポルノグラフィー　「姦淫」「純潔」「不貞」参照

滅び　「滅びの子」参照

滅びの子　「悪魔」「死（霊の）」「地獄」「罰の定め」「赦されない罪」参照

サタンに従う者たち。サタンとともに永遠の苦しみを味わう。滅びの子と呼ばれるのは，次の者たちである。(1) 前世でサタンに従って反逆したために，天から追放された者。(2) 肉体を受けてこの世に生まれることを許されながら，サタンに仕え，神にことごとく背いた者。後者は死者の中から復活するが，第二の死（霊の死）からは贖われず，栄光の王国に住むことはできない（教義 88：32，35）。

滅びの子だけが滅び（ヨハ 17：12）。ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である（ヘブ 6：4−6〔ヘブ 10：26−29〕）。そのような者には憐れみは及ばない。また，その者の最後の状態は，決して終わることのない苦痛に耐えることである（モサ 2：36−39）。その者はあたかも贖いがなかったかのようである（モサ 16：5）。利益を得るために，イエス・キリストによって行われる奇跡などないと言う者は，滅びの子のようになる（3ニフ 29：7）。この世でも来るべき世でも赦されることがない（教義 76：30−34〔教義 84：41；132：27〕）。第二の死から贖われないのは彼らだけである（教義 76：34−48）。聖なる御霊を受けた後にそれを否定した（教義 76：35）。御父から御子を示された後に御子を否定する者である（教義 76：43）。カインは滅びと呼ばれる（モセ 5：22−26）。

滅ぼす者　「悪魔」参照

サタンを指す言葉。

主は滅ぼす者が，あなたがたの家にはいるのを許されないであろう（出エ 12：23）。滅ぼす者が水の面を進んで行く（教義 61：19）。滅ぼす者の手からわたしの果樹園を救うことができたであろうに（教義 101：51−54）。

翻訳

ある言語で表現された概念の意味を別の言語のそれに対応する言葉で表現すること（モサ 8：8−13；箇条 1：8）。聖典にはこの能力について，神からの賜物と述べている箇所が幾つかある（アル 9：21；教義 8 章；9：7−9）。翻訳という言葉は，ある言語にすでに翻訳されているものを改訂したり，失われた部分を復元したりすることを意味する場合もある（教義 45：60−61）。ジョセフ・スミスは『欽定訳聖書』を霊感によって翻訳するように命じられた（教義 42：56；76：15）。

ジョセフ・スミス・ジュニアは，神の憐れみによって，神の力により翻訳する力を受けた（教義 1：29）。あなたは翻訳する賜物を持っている（教義 5：4）。もしあなたがわたしに望むならば，わたしはあなたに翻訳する賜物を授ける（教義 6：25）。『モルモン書』を翻訳するために，神は高い所からジョセフ・スミスに力を授けられた（教義 20:8）。ウリムとトンミムによっ

てそれらの多くを翻訳した（ジ―歴史 1：62〔モサ 8：13；28：13〕）。

マーシュ，トーマス・B

1830 年に教会が回復されてからの十二使徒定員会の初代会長。十二使徒会に関して王国の鍵を持ち（教義 112：16），また 1838 年には，主の言葉を出版するように啓示によって命じられた（教義 118：2）。『教義と聖約』の第 31 章は，彼に対して与えられたものである。マーシュは 1839 年に破門されたが，1857 年 7 月に再バプテスマを受けた。

幕

聖典の中では次の意味で用いられている。(1) 幕屋や神殿で用いられる仕切り。(2) 神と人が隔てられた状態にあることの象徴。(3) 神が人々の前世の記憶を消されたこと。

その垂幕は聖所と至聖所とを隔て分ける（出エ 26：33）。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた（マタ 27：51〔マコ 15：38；ルカ 23：45〕）。わたしたちは，今は，鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には，顔と顔とを合わせて，見るであろう（1コリ 13：12）。王の心から不信仰という暗黒の覆いが取り除かれつつある（アル 19：6）。ヤレドの兄弟は幕の内側を見るのを禁じられなかった（エテ 3：19〔エテ 12：19〕）。幕は裂け，あなたがたはわたしを見て（教義 67:10〔教義 38:8〕）。神殿を覆っている幕は取り去られて（教義 101：23）。わたしたちの心から幕が取り去られ（教義 110：1）。暗黒の幕が地を覆うであろう（モセ 7：61）。

幕屋　「契約の箱」「至聖所」「神殿；主の宮」参照

主の宮。エジプトから出て旅をしている間，イスラエルの子らの礼拝の場として中心を成すものであった。幕屋は実際は可動式の神殿であり，分解したり組み立てたりすることができた。イスラエルの子らは，ソロモンの神殿を建てるまで幕屋を使っていた（教義 124：38）。

神はモーセに幕屋の型を示し（出エ 26−27 章），イスラエルの子らはその型に従って幕屋を建てた（出エ 35−40 章）。幕屋が完成したとき，雲が天幕を覆い，主の栄光が幕屋に満ちた（出エ 40：33−34）。その雲は神の臨在のしるしであり，夜は雲の中に火が現れた。雲が天幕の上にとどまっている間は，イスラエルの子らは宿営を続けた。そして雲が動くと，彼らもそれに伴って移動した（出エ 40：36−38；民数 9：17−18）。イスラエルの子らは，砂漠での放浪の間，またカナンの地を征服するまでの間，この幕屋を持ち運んだ。カナンの地を征服した後，幕屋は主が選ばれた地シロに置かれた（ヨシ 18：1）。イスラエルの子らがソロモン神殿を建てた後は，幕屋は完全に歴史からその姿を消した。

主とイザヤは幕屋を，主の再臨の時のシオンとエルサレムの象徴として用いている（イザ 33：20；モセ 7：62）。

マゴグ　「イエス・キリストの再臨」「ゴグ」参照

『聖書』に出てくる，黒海近くの地とそこに住む民の名。彼らの王ゴグは，キリスト再臨前の最後の大戦争でマゴグの軍勢を指揮する（エゼ 38：2；39：6）。聖典には，福千年の後に神の軍勢と悪の軍勢の間で行われる，ゴグとマゴグの戦いと呼ばれるもう一つの大戦争についても述べられている（黙示 20：7−9；教義 88：111−116）。

まことの教会のしるし　「イエス・キリストの教会」「しるし」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

まことの教会は，神によって認められた教義と機能を備えた教会である。主はそれを通して主の子らがすべての祝福を得られるように定められた。まことの教会のしるしは次のとおりである。

神会についての正しい理解：神は自分のかたちに人を創造された（創世 1：26−27）。主はモーセと顔を合わせて語られた（出エ 33：11）。永遠の命とは，父なる神とイエス・キリストとを知ることである（ヨハ 17：3）。御父と御子は骨肉の体を持っておられる（教義 130：22−23）。御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現された（ジ―歴史 1：15−20）。わたしたちは，永遠の父なる神を信じる（箇条 1：1）。

第一の原則と儀式：だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない（ヨハ 3：3−5）。悔い改めなさい。そして，あなたがたひとりびとりがイエス・キリストの名によって，バプテスマを受けなさい（使徒 2：38）。そこで，ふたりが手を彼らの上においたところ，彼らは聖霊を受けた（使徒 8：14−17）。キリスト・イエスにある信仰によって，神の子なのである（ガラ 3：26−27）。悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ（2ニフ 31：11−21）。信じた人々はバプテスマを受け，按手（あんしゅ）によって聖霊を受けた（教義 76：50−53）。バプテスマを施し，聖霊の賜物（たまもの）を授けるには正しい神権が必要である（ジ―歴史 1：70−72）。福音の第一の原則と儀式について述べられる（箇条 1：4）。

啓示：示現がなければ民は滅びる（KJ 箴言 29：18）。主は預言者に隠れたことを示される（アモ 3：7）。教会は啓示の岩の上に建てられる（マタ 16：17−18〔教義 33：13〕）。主はもはや啓示によって業を行われることはないと言う者は，災いである（3ニフ 29：6）。戒めと啓示は任命された者を通してのみ授けられる（教義 43：2−7）。わたしたちは，神がこれまでに啓示されたすべてのことを信じる（箇条 1：9）。

預言者：教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：19−20）。使徒や預言者は教会に欠かせない（エペ 4：11−16）。ジョセフ・スミスは聖見者，預言者，使徒と呼ばれた（教義 21：1−3）。わたしたちは，預言者があることを信じる（箇条 1：6）。

権能：イエスは弟子たちに力と権威とをお授けになった（ルカ 9：1−2〔ヨハ 15：16〕）。ヒラマンの息子ニーファイは，神から大いなる権能を授けられた（ヒラ 11：18〔3ニフ 7：17〕）。預

言者は教会員のために戒めを受ける（教義 21：4−5）。権能を持つ者によって聖任されないかぎり，だれも福音を宣（の）べ伝えるために出て行くこと，あるいは教会を築き上げることは許されない（教義 42：11）。長老は福音を宣（の）べ伝え，権能を行使しなければならない（教義 68：8）。福音を宣（の）べ伝え，その儀式を執行するためには，人は権能を持つ者によって，神から召されなければならない（箇条 1：5）。

追加して出される聖典：ユダの木はヨセフの木と一つになる（エゼ 37：15−20）。末日の聖典の出現が予告された（1ニフ 13:38−41）。わたしたちは，神がこの後も，神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる（箇条 1：9）。

教会の組織：教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる（エペ 2：19−20）。使徒や預言者は教会に欠かせない（エペ 4：11−16）。キリストが教会のかしらであって（エペ 5：23）。キリストの教会は，キリストの名で呼ばれなければならない（3ニフ 27：8）。わたしたちは，初期の教会にあったと同一の組織があることを信じる（箇条 1：6）。

伝道活動：それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民に教えよ（マタ 28：19−20）。福音を宣（の）べ伝えるために七十人が召された（KJ ルカ 10：1）。救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った（モサ 28：3）。長老は出て行き，二人ずつ組んで福音を宣（の）べ伝えなければならない（教義 42：6）。福音はすべての造られたものに宣（の）べ伝えられ（教義 58：64）。

霊的な賜物（たまもの）：一同はいろいろの他国の言葉で語り出した（使徒 2：4）。長老たちは病人に癒（いや）しを施す（新ヤコ 5：14）。賜物（たまもの）を否定しないように勧める（モロ 10：8）。霊的な賜物（たまもの）が列挙される（教義 46：13−26〔1 コリ 12：1−11；モロ 10：9−18〕）。

神殿：わが聖所を永遠に彼らの中に置く（エゼ 37：26−27）。主は，たちまちその宮に来る（マラ 3：1）。ニーファイは神殿を建てた（2ニフ 5：16）。聖徒たちは，主の宮を建てるのを怠ったために懲らしめを受けた（教義 95 章〔教義 88：119〕）。主の民は，聖なる儀式の執行のためにいつも神殿を建てる（教義 124：37−44）。神殿の建設と儀式の執行は，大いなる末日の業に含まれる（教義 138：53−54）。

貧しい　「謙遜（けんそん）」「ささげ物」「断食」「福祉」「施し」参照

聖典の中で貧しいという言葉は，(1) 衣食住など，生活に必要なものが足りない人に対して，また (2) 高慢な思いがなく謙遜（けんそん）な人に対して用いられる。

物質的な貧しさ：貧しい兄弟にむかって手を閉じてはならない（申命 15：7）。悪しき者は高ぶって貧しい者を激しく責めます（詩篇 10：2）。貧しい者に施す者は物に不足しない（箴言 28：27）。貧しい者を，あなたの家に入れ（イザ 58：6−7）。完全になりたいと思うなら，貧しい人々に施しなさい（マタ 19：21〔マコ 10：21；ルカ 18：22〕）。神は，この世の貧しい人たちを選んで（新ヤコ 2：5）。彼ら

は自分が富んでいるので，貧しい者をさげすみ（2ニフ 9：30）。罪の赦しを続けて受けるために，持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい（モサ 4：26）。彼らは貧しい者に自分の持ち物を分け与えた（アル 1：27）。もし乏しい人を追い払ったりするならば，あなたがたの祈りはむなしく，何の役にも立たない（アル 34：28）。すべてのものを共有したので，物持ちも貧しい者もなく（4ニフ 1：3）。あなたは貧しい者を思い起こし（教義 42：30〔教義 52：40〕）。貧しい者で心が打ち砕かれていない者は，災いである（教義 56：17−18）。貧しい者が小羊の婚宴に来る（教義 58:6−11）。ビショップは貧しい者を捜さなければならない（教義 84：112）。福音の律法には，貧しい者への援助についての定めがある（教義 104：17−18）。彼らの中に貧しい者はいなかった（モセ 7：18）。

心が謙遜な状態：貧しいためにやむを得ずへりくだるのではなく，自ら進んで心からへりくだる人は，なおさら祝福を受ける（アル 32：4−6，12−16）。わたしのもとに来る心の貧しい人々は，幸いである（3ニフ 12:3〔マタ 5：3〕）。貧しい者と柔和な者に福音が宣べ伝えられる（教義 35：15）。

マタイ　「福音書」参照

イエス・キリストの使徒。『新約聖書』の最初の書の著者。マタイはカペナウムでローマ人のための税の取り立てをしていたユダヤ人であり，ヘロデ・アンティパスに雇われていたと推測される。改宗する前は，アルパヨの子レビとして知られていた（マコ 2：14）。イエスの弟子となるように召されて間もなく，彼は食事の席を設け，主もそこに来られた（マタ 9：9−13；マコ 2：14−17；ルカ 5:27−32）。マタイは『旧約聖書』の聖句について広範な知識を持ち，そのために主の生涯における預言の成就を詳細に理解できたと思われる。この使徒の晩年についてはほとんど知られていない。殉教したという言い伝えもある。

マタイによる福音書：『新約聖書』の最初の書。マタイのこの福音書は，当初，パレスチナに住むユダヤ人が用いるために書かれたと思われる。『旧約聖書』からの多くの引用文が使われている。マタイがおもに目的としたのは，イエスは旧約の預言者たちが語ったメシヤであるということを示すことであった。彼はまた，イエスが人々の王であり，裁き主であることも強調している。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

末日聖徒イエス・キリスト教会　「イエス・キリストの教会」「教会の名称」「福音の回復」「まことの教会のしるし」参照

他の神権時代の教会と区別するために，末日におけるキリストの教会に付けられた名称（教義 115：3−4）。

主は末日聖徒の頭に天から知識を注がれる（教義 121：33）。ジョセフ・スミスは，末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者および聖見者である（教義 127：12）。末日聖徒のために主の大いなる日は近づいている（教義 128：

21，24)。ジョセフ・スミスは末日聖徒の集合を助けた（教義 135：3)。アメリカ合衆国の西部に旅をするために，末日聖徒の部隊を組織しなければならない（教義 136：2)。結婚についての律法が末日聖徒に向けて明らかにされた（公式 1)。末日聖徒イエス・キリスト教会のすべてのふさわしい男性会員は，神権への聖任を受けることができる（公式 2)。すべての末日聖徒に向けて述べられた最初の示現の記録（ジ―歴史 1：1)。

マッテヤ　「使徒―使徒の選任」参照

イスカリオテのユダに代わり，十二使徒定員会の一員として選ばれた人物（使徒 1：15−26)。イエス・キリストが地上の務めを果たしておられた間，彼はずっと弟子として仕えていた（使徒 1：21−22)。

マナ　「命のパン」「出エジプト記」参照

蜜を入れた菓子（出エ 16：14−31）あるいは油菓子（民数 11：8）のような味がする，良質のフレーク状の食物。主は荒れ野での 40 年間，イスラエルの民を養うためにこのマナを与えられた（出エ 16：4−5，14−30，35；ヨシ 5：12；1 ニフ 17：28)。

イスラエルの子らはこれを，「これはなんであろう」という意味のマナ（あるいはヘブライ語で「マンフー」）と呼んだ。彼らは，それが何か知らなかったからである（出エ 16：15)。マナは「天使のパン」また「天よりのパン」とも呼ばれた（詩篇 78:24−25;ヨハ 6:31)。マナは命のパンとなるキリストの象徴であった（ヨハ 6：31−35)。

マナセ　「イスラエル」「エフライム」「ヨセフ（ヤコブの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。エジプトに売られたヨセフとアセナテの長男（創世 41：50−51)。マナセと弟エフライムはヤコブ（イスラエル）の孫であったが，ヤコブに養子縁組され，ヤコブ自身の子供のように祝福を授けられた（創世 48：1−20)。

マナセの部族：マナセの子孫はイスラエルの部族の中に数えられた（民数 1：34−35；ヨシ 13：29−31)。モーセがヨセフの部族に授けた祝福は申命 33：13−17 に記録されており，その祝福はエフライムとマナセにも及んだ。マナセに割り当てられた土地の一部は，ヨルダン川の西の地域で，エフライムの地と隣接していた。マナセはまたバシャンやギレアデの肥沃な牧地など，ヨルダン川の東にも所領を得ていた。マナセの部族は終わりの時に，エフライムの部族を助けて，散らされたイスラエルを集合させる（申命 33：13−17)。『モルモン書』の預言者リーハイはマナセの子孫であった（アル 10：3)。

マラキ

旧約の預言者。紀元前 430 年ごろに預言者として働き，記録を残した。

マラキ書：マラキ書すなわちマラキの預言の書は，『旧約聖書』の巻末に収められている。マラキ書は次の 4 つの主題に添って書かれていると思われる。(1) イスラエルの罪－マラキ 1：

6−2：17；3：8−9。(2) 不従順のゆえにイスラエルに下される裁き－マラキ1：14；2：2−3, 12；3：5。(3) 従順に対する約束－マラキ3：10−12, 16−18；4：2−3。(4) イスラエルについての預言－マラキ3：1−5；4：1, 5−6（教義2章；128：17；ジ―歴史1：37−39）。

マラキはその預言の中で，バプテスマのヨハネ（マラ3：1；マタ11：10），什分の一の律法（マラ3：7−12），主の再臨（マラ4：5），エリヤの帰還（マラ4：5−6；教義2章；128：17；ジ―歴史1：37−39）について記している。救い主はニーファイ人のために，マラキ書の第3章と第4章のすべてを引用された（3ニフ24−25章）。

マリヤ（イエスの母）　「イエス・キリスト」「ヨセフ（マリヤの夫）」参照

『新約聖書』の中の人物。父なる神から，肉における御子の母となるように選ばれたおとめ。イエスの誕生後，マリヤは幾人かの子供をもうけた（マコ6：3）

ヨセフと婚約していた（マタ1：18〔ルカ1：27〕）。ヨセフはマリヤを離縁したり，婚約を解消したりしないように告げられた（マタ1：18−25）。博士たちがマリヤを訪れた（マタ2：11）。マリヤとヨセフは幼な子を連れてエジプトに逃げた（マタ2：13−14）。ヘロデが死んだ後，ヨセフの家族はナザレへ戻った（マタ2：19−23）。天使ガブリエルの訪れを受けた（ルカ1：26−38）。親族のエリサベツを訪ねた（ルカ1：36，40−45）。主を賛美した（ルカ1：46−55）。ヨセフとともにベツレヘムへ行った（ルカ2：4−5）。生まれたイエスを飼葉おけの中に寝かせた（ルカ2：7）。羊飼いたちはベツレヘムへ行って幼子キリストを捜し当てた（ルカ2：16−20）。マリヤとヨセフはイエスをエルサレムの神殿へ連れて行った（ルカ2：21−38）。マリヤとヨセフはイエスを過越の祭に連れて行った（ルカ2：41−52）。カナの婚礼の場にいた（ヨハ2：2−5）。イエスは十字架につけられていたとき，御自分の母の世話をするようヨハネに告げられた（ヨハ19：25−27）。キリストが天に上げられた後，マリヤは使徒たちとともにいた（使徒1：14）。マリヤはほかのどんなおとめにも勝って美しく，また麗しいおとめであった（1ニフ11：13−20）。キリストの母はマリヤと呼ばれる（モサ3：8）。マリヤはおとめであって，尊い，選ばれた器である（アル7：10）。

マリヤ（ベタニヤの）　「マルタ」「ラザロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ラザロとマルタの姉妹。

イエスの足もとにすわって，御言に聞き入っていた（ルカ10：39，42）。マリヤとその姉妹マルタは人をイエスのもとに遣わした（ヨハ11：1−45）。香油をイエスの足に塗った（ヨハ12：3−8）。

マリヤ（マグダラの）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストの献身的な弟子となった女性。マグダラはマリヤの出身地であり，

ガリラヤ湖西岸に位置する。

十字架の近くにいた（マタ 27:56〔マコ 15：40；ヨハ 19：25〕）。キリストの埋葬の場にいた（マタ 27：61〔マコ 15：47〕）。復活の日の朝に，墓を見に来た（マタ 28：1〔マコ 16：1；ルカ 24：10；ヨハ 20：1，11〕）。イエスはよみがえって，まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた（マコ 16：9〔ヨハ 20：14−18〕）。7 つの悪霊を追い出してもらった（ルカ 8：2）。

マリヤ（マルコの母）　「マルコ」参照

『新約聖書』の中の人物。マルコによる福音書を書いたヨハネ・マルコの母（使徒 12：12）。

マルコ　「福音書」参照

『新約聖書』の中の人物。ヨハネ・マルコはマリヤの息子で，エルサレムに住んでいた（使徒 12：12）。彼はバルナバのいとこ（または，おい）であったと考えられている（コロ 4：10）。マルコはパウロとバルナバの最初の伝道旅行に同行してエルサレムをたち，ペルガで彼らと別れた（使徒 12：25；13：5，13）。後にマルコはバルナバに同行してクプロへ行った（使徒 15：37−39）。彼はパウロとともにローマにおり（コロ 4：10；ピレ 1：24），ペテロとともにバビロン（恐らくローマを指す）にいた（1 ペテ 5：13）。最後に，彼はエペソでテモテとともにいた（2 テモ 4：11）。

マルコによる福音書：『新約聖書』の 2 番目の書。マルコのこの福音書は，ペテロの指示の下に書かれたと思われる。マルコのねらいは，人々の中で生活し行動した神の御子としての主を描くことであった。マルコは精力的かつ謙虚な態度で，人々がイエスから受けた印象を書いている。言い伝えによると，マルコはペテロの死後，エジプトに行ってアレクサンドリア（アレキサンデリヤ）で教会を組織し，殉教したとのことである。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

マルタ　「マリヤ（ベタニヤの）」「ラザロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ラザロとマリヤの姉妹（ルカ 10：38−42；ヨハ 11：1−46；12：2）。

ミカ

旧約の預言者。ミカはユダの平野のモレセテ・ガテ出身の人物で，ヒゼキヤが王位にあった時に預言者としての務めを果たした（ミカ 1：1−2）。

ミカ書：ミカ書は，メシヤがお生まれになる場所としてベツレヘムの名を挙げた『旧約聖書』中のただ一つの書である（ミカ 5：2）。主はこの書の中で御自分の民に勧告を与えるとともに，過去に与えた数々の慈しみを列挙し，彼らに正義と憐（あわ）れみと謙遜（けんそん）さを求められた（ミカ 6：8）。

ミカエル　「アダム」「天使長；天使のかしら」参照

アダムの前世における名。天使長と呼ばれる。ヘブライ語で「神のような

者」の意。

天使の長のひとりであるミカエルがきて（ダニ 10：13，21〔教義 78：16〕）。大いなる君ミカエルが立ちあがります（ダニ 12：1）。御使のかしらミカエルは，悪魔と論じ争った（ユダ 1：9）。ミカエルとその御使たちとが，龍と戦った（黙示 12：7〔ダニ 7 章〕）。ミカエルはアダムである（教義 27：11〔教義 107：53−57；128：21〕）。天使長ミカエルはラッパを吹き鳴らす（教義 29：26）。ミカエルは彼の軍勢を集め，サタンと戦う（教義 88：112−115）。悪魔を暴いたミカエルの声（教義 128：20）。

身代わり　「儀式―身代わりの儀式」「死者の救い」参照

ミズーリ　「新エルサレム」参照

御霊の賜物　「賜物」参照

ふさわしい人に主がお授けになる特別な霊的祝福。この賜物はその人自身を益するため，またそれを用いて他の人々に祝福をもたらすために授けられる。御霊の賜物の説明については，教義と聖約 46：11−33；1 コリント 12：1−12；モロナイ 10：8−18 を参照のこと。

更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい（1コリ 12：31〔1 コリ 14：1〕）。ニーファイ人は多くの御霊の賜物を受けた（アル 9：21）。主はもはや賜物，聖霊の力によって業を行われることはないと言う者は，災いである（3ニフ 29：6）。神は忠実な者たちに賜物を与えられる（モル 9：7）。賜物はすべて，キリストの御霊によって授けられる（モロ 10：17）。賜物は多くあり，各人に神の御霊によって一つの賜物が与えられるのである（教義 46：11）。教会の指導者は御霊の賜物を識別する力を与えられる（教義 46：27）。教会の大管長は神のすべての賜物を持つ（教義 107：92）。

道　「歩む（神とともに）」「イエス・キリスト」参照

人が従って行く進路。イエスは御自身を道と呼ばれた（ヨハ 14：4−6）。

あなたの神，主の命令を守り，その道に歩んで（申命 8：6）。子をその行くべき道に従って教えよ（箴言 22：6〔2 ニフ 4：5〕）。わが道は，あなたがたの道とは異なっていると主は言われる（イザ 55：8−9）。命にいたる門は狭く，その道は細い（マタ 7:13−14〔3 ニフ 14：13−14；27：33；教義 132：22，25〕）。のがれる道も備えて下さる（1コリ 10：13）。主が命じられることには，道が備えられており，それでなくては，主は何の命令も下されない（1ニフ 3：7〔1 ニフ 9：6；17：3，13〕）。その門を通る以外に，ほかの道はない（2ニフ 9：41）。あなたがたは，永遠の死の道を選ぶことも，永遠の命の道を選ぶことも自由である（2ニフ 10：23）。これが道である。そして，このほかには道も名もない（2ニフ 31：21〔モサ 3：17；アル 38：9；ヒラ 5：9〕）。すべての人が自分の道を歩む（教義 1：16）。

御使い　「天使」参照

見守る；見守る者　「警告」参照

絶えず警戒すること，用心すること。絶えず心を配り，従う人は備えができた状態にある。見守る者とは，人々のために特定の責任を受けるよう主の代表者から召された指導者を指す。また指導者として召された人々には，世の残りの人々に対しても見守る者となる特別な責任がある。

わたしはあなたを見守る者とした（エゼ 3：17−21）。わたしはあなたを立てて，イスラエルの家を見守る者とする（エゼ 33：7−9）。だから，目をさましていなさい。いつの日に主がこられるのか，わからないからである（マタ 24：42−43〔マタ 25：13；マコ 13：35−37；教義 133：10−11〕）。誘惑に陥らないように，目をさまして祈っていなさい（マタ 26：41〔3 ニフ 18：15, 18〕）。もし自分自身や自分の思い，言葉，行いに注意を払わないならば，あなたがたは滅びるに違いない（モサ 4：30）。アルマは教会を管理し見守る祭司たちと長老たちを聖任した（アル 6：1）。救い主を待ち受けない者は絶たれる（教義 45：44）。教会を見守るように神が選んで聖任する人々には，すべての賜物（たまもの）を見分けることが許される（教義 46：27）。主は果樹園に見張り人たちを置かれた（教義 101：44−58）。

耳　「聞き従う；聴く」参照

聖典では，神に関する事柄を聞いて理解する能力の象徴としてよく用いられる。

耳があっても聞くことができない（詩篇 115：6）。わたしの耳をさまして（イザ 50：4−5〔2 ニフ 7：4−5〕）。耳のある者は聞くがよい（マタ 11：15）。その耳は聞えにくく（マタ 13：15〔モセ 6：27〕）。目がまだ見ず，耳がまだ聞かず，人の心に思い浮びもしなかったことを，神は，ご自分を愛する者たちのために備えられた（1コリ 2：9〔教義 76：10〕）。悪魔は彼らの耳にささやいて（2ニフ 28：22）。耳を開いて聞き（モサ 2：9〔3 ニフ 11：5〕）。幾度となく呼ばれたが，わたしは聞こうとしなかった（アル 10：6）。わたしの言葉に耳を傾けなさい（アル 36：1〔アル 38：1；教義 58：1〕）。耳として聞かないものはなく（教義 1：2）。耳が開かれるように，へりくだって主なる神に呼び求める（教義 136：32）。

ミュレク　「ゼデキヤ」参照

『旧約聖書』の王ゼデキヤの息子（紀元前 589 年ごろ）。『聖書』には，ゼデキヤの息子たちは皆殺されたように書かれている（列下 25：7）が，『モルモン書』は，ミュレクが生き延びたことを明確に述べている（ヒラ 8：21）。

ゼラヘムラはミュレクの子孫であった（モサ 25：2）。ミュレクの民とニーファイ人が一つになった（モサ 25：13）。主はミュレクを北の地へ導かれた（ヒラ 6：10）。ゼデキヤの息子たちはミュレクを除いて皆殺された（ヒラ 8：21）。

ミリアム　「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。モーセの

姉（民数 26：59）。

パピルスで編んだかごを見守った（出エ 2：1−8）。タンバリンを手にした女たちがその後に従った（出エ 15：20−21）。モーセを非難し，重い皮膚病となったが，癒(いや)された（民数 12：1−15〔申命 24：9〕）。

身を変えられた人

復活して不死不滅となるまで，痛みや死を味わうことがないように体の状態を変えられた人。

エノクは神とともに歩み，神が彼を取られたので，いなくなった（創世 5：24〔ヘブ 11：5；教義 107：48−49〕）。今日(こんにち)までモーセの墓を知る人はない（申命 34：5−6〔アル 45：19〕）。エリヤはつむじ風に乗って天にのぼった（列下 2：11）。わたしの来る時まで彼が生き残っていることを，わたしが望んだとしても，あなたにはなんの係(かか)わりがあるか（ヨハ 21：22−23〔教義 7：1−3〕）。あなたがたは決して死を味わうことがない（3ニフ 28：7）。彼らが死を味わわないように，ある変化が彼らの体に生じ（3ニフ 28：38〔4 ニフ 1：14；モル 8：10−11〕）。主から愛されたヨハネは，主が来られるときまで生き長らえる（教義 7 章）。わたしは自分の懐にエノクのシオンを受け入れた（教義 38：4〔モセ 7：21，31，69〕）。エノクとその同胞(はらから)は，義の日が来るまで残しておかれる町である（教義 45：12）。エリヤは死を味わうことなく天に取り去られた（教義 110：13）。聖霊が多くの者に降(くだ)り，彼らはシオンに連れ去られた（モセ 7：27）。

民数記　「五書」参照

『旧約聖書』の 4 番目の書。この書はモーセによって書かれた。民数記は，シナイ山からカナンの国境にあるモアブの平地に至るまでのイスラエル人の旅の物語を描いている。民数記の重要な教訓の一つは，神の民が成功の道を歩み続けるには，神の約束を信頼し，信仰によって歩まなければならないということである。民数記には，イスラエル人の不従順に対して下された神の罰と，イスラエルの律法に関する事柄が記録されている。民数記という書名は，氏族の数の調査に由来する（民数 1−2；26 章）。

第 1−10 章には，イスラエル人のシナイを出発する準備の様子が記録されている。第 11−14 章には，旅そのもの，またカナンの地への斥候(せっこう)の派遣，イスラエル人が約束の地に入るのを拒まれたことが記録されている。第 15−19 章には，様々な律法と歴史上の出来事が記されている。第 20−36 章には，荒れ野で過ごした最後の年の出来事が述べられている。

無窮　「神；神会」参照

神に対する呼び名の一つ。神の永遠性を示している（教義 19：10−12；モセ 1：3；7：35）。

むさぼる　「貪欲(どんよく)；むさぼり」参照

結び固め　「エリヤ」「儀式」「神権」参照

神権の権能によって地上で執行された儀式を，天においても有効なものと

すること。儀式は約束の聖なる御霊(みたま)すなわち聖霊による承認を受けた時に結び固められる。

あなたが地上でつなぐことは，天でもつながれ（マタ 16：19〔マタ 18：18；教義 124：93；132：46〕）。あなたがたも，約束された聖霊の証印をおされたのである（エペ 1：13）。あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれるように，わたしはあなたに力を授ける（ヒラ 10：7）。地上でも天でも結ぶ力が与えられる（教義 1：8）。日の栄えの世界にいる者は約束の聖なる御霊(みたま)によって結び固められた人々である（教義 76：50−70）。エリヤが結び固めの権能の鍵(かぎ)をジョセフ・スミスの手にゆだねた（教義 110：13−16）。これは結び固め，かつ，つなぐ力であり（教義 128：14）。いっそう確実な預言の言葉とは，人が永遠の命に結び固められたことを知ることである（教義 131：5）。約束の聖なる御霊(みたま)により結ばれない聖約はすべて死をもって終わる（教義 132：7）。神殿で行われる大いなる業の中には，親子の結び固めも含まれる（教義 138：47−48）。

むなしさ　「物欲」参照

空虚なこと，価値のないこと。

その聖所に立つべき者はだれか。その魂がむなしい事に望みをかけない者（詩篇 24：3−4）。祈る場合，くどくどと祈るな（マタ 6：7）。あなたがたは俗世のむなしいものに執着し続けるつもりか（アル 5：53）。この世のむなしいものを求めてはならない。見よ，あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである（アル 39：14）。

胸当て　「ウリムとトンミム」参照

聖典には 2 種類の胸当てが出てくる。(1) 兵士の防御用の衣服やよろいの前の部分。象徴的な意味で，聖徒は悪に対して自らを守るために胸当てを身に着けなければならない（イザ 59：17；エペ 6：14）。(2) モーセの律法において大祭司が着用した衣装の一つ（出エ 28：13−30；39：8−21）。亜麻布でできており，12 個の宝石が取り付けてあった。時として，ウリムとトンミムと関連して述べられることがある（教義 17：1；ジ―歴史 1：35，42，52）。

目

聖典ではしばしば，神の光を受ける能力の象徴として用いられる。目は象徴的な意味で，霊的な状態と神に関する事柄への理解を示すこともある。

主の戒めはまじりなくて，眼(まなこ)を明らかにする（詩篇 19：8）。愚かな者は，目があっても見えない（エレ 5：21〔マコ 8：18〕）。目はからだのあかりである（マタ 6：22〔ルカ 11：34；3 ニフ 13：22；教義 88：67〕）。あなたがたの目は見ており，さいわいである（マタ 13：16）。心の目を明らかにして下さるように（エペ 1：17−18）。自分を見て賢いと思う者は災いである（2ニフ 15:21〔イザ 5:21〕）。断食して，神に祈り始め，民の目が開かれることを請い願った（モサ 27：22）。サタンは彼らの目をくらまし（3ニフ 2：2）。

『モルモン書』を出す力は，神の栄光にひたすら目を向けるのでなければ，だれも持つことができない（モル 8：15）。御霊の力によってわたしたちの目は開かれ，わたしたちの理解に光が注がれた（教義 76：12）。光は，あなたがたの目を明らかにする者によって来る（教義 88：11）。あなたがたが神の栄光にひたすら目を向けるならば，あなたがたの全身は光に満たされ（教義 88：67）。

瞑想する　「深く考える」参照

恵み　「憐れみ」「イエス・キリスト」「贖罪」「救い」参照

信仰を実践し，悔い改め，全力を尽くして戒めを守る人に神から授けられる力。この力によって，人はこの世で数々の祝福を受け，永遠の命と昇栄を授かることができる。このような神聖な助けや力は，神の憐れみと愛を通して授けられる。アダムの堕落と，人間としての弱さのゆえに，人は皆，神の恵みを必要としている。

めぐみとまこととは，イエス・キリストをとおしてきた（ヨハ 1：17）。主イエスのめぐみによって，われわれは救われる（使徒 15：11〔ロマ 3：23−24；教義 138：14〕）。わたしたちは，この恵みに信仰によって導き入れられ（ロマ 5：2）。あなたがたの救われたのは，恵みにより，信仰によるのである（エペ 2：8）。すべての人を救う神の恵みが現れた（テト 2：11）。はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか（ヘブ 4：16）。神はへりくだる者に恵みを賜う（1ペテ 5：5）。聖なるメシヤの功徳と憐れみと恵みによらなければ，だれも神の御前に住める者がいない（2ニフ 2：8）。あなたがたが救われるのは，ただ神の恵みによること，また神の恵みを通じてであること（2ニフ 10：24）。わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に，神の恵みによって救われる（2ニフ 25：23）。このようなことを行う力がわたしたちにあるのは，神の恵みによる（ヤコ 4：7）。それぞれの行いに応じた恵みに回復してくださるように（ヒラ 12：24）。わたしの恵みは柔和な者に十分であり，わたしの前にへりくだるすべての者に対して，わたしの恵みは十分である（エテ 12：26−27）。異邦人が慈愛を持てるように，主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈った（エテ 12：36，41）。あなたがたは神の恵みにより，キリストによって完全になることができる（モロ 10：32−33）。イエスは恵みに恵みを加えられた（教義 93：12−13，20）。

召し；神の召し　「選ばれた者」「選ぶ」「管理人；管理人の職」「権威；権限；権能」参照

神から召されるとは，定められた方法で神に仕えるために，神または神より正当な権威を授けられた教会の指導者から任命または要請を受けることである。

彼の上に手をおき，彼を任命した（民数 27：23）。わたしはあなたを預言者とした（エレ 1：5）。わたしがあなたがたを選んだ（ヨハ 15：16）。パウロは召されて使徒となった（ロマ 1：1）。だれもこの栄誉ある務を自分で得

るのではなく，神の召しによって受けるのである（ヘブ 5：4）。イエスは神によってメルキゼデクに等しい大祭司ととなえられた（ヘブ 5：10）。わたしは啓示と預言の霊によって，神の御言葉を宣べ伝えるように召され（アル 8：24）。祭司たちは世の初めから召され，備えられていた（アル 13：3）。あなたがたは神に仕えたいと望むならば，その業に召されている（教義 4:3）。わたしがあなたを召した業にしっかりと立ちなさい（教義 9：14）。あなたは召しを受けるまで，教えを説くために召されたと思うには及ばない（教義 11：15）。あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている（教義 29：7）。聖任されないかぎり，だれも主の教会を築き上げることは許されない（教義 42：11）。召される者は多いが，選ばれる者は少ない（教義 121：34）。人は神から召されなければならない（箇条 1：5）。

召しと選び　「選び」参照

キリストに従う義にかなった人々は，昇栄を保証される選民の中に数えられる。この召しと選びは悔い改めとバプテスマから始まり，「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み，最後まで堪え忍ぶ」ときに完全なものとなる（2 ニフ 31：19−20）。聖典はこの過程を，「召しと選びとを確かなものにする」と表現している（2 ペテ 1：4−11；教義 131：5−6）。

あなたがたはわたしに対して祭司の国となり（出エ 19:5−6〔黙示 1:6〕）。神は救いを得させようとして，初めから選民を選ばれた（2テサ 2：13）。ますます励んで，あなたがたの受けた召しと選びとを，確かなものにしなさい（2ペテ 1：10）。キリストから御自分のものとして印を押されるように（モサ 5：15）。あなたが永遠の命を受けると聖約する（モサ 26：20）。忠実な神権者は，神の教会となり，神の王国となり，神の選民となる（教義 84：33−34）。いっそう確実な預言の言葉とは，人が永遠の命に結び固められたことを知ることである（教義 131：5−6）。わたしはあなたに昇栄を結び固め（教義 132：49）。

メシヤ　「油注がれた者」「イエス・キリスト」参照

「油注がれた者」の意のアラム語とヘブライ語の一形態。『新約聖書』でイエスはキリストと呼ばれているが，これはメシヤに相当するギリシャ語である。その意味は油注がれた預言者，祭司，王，救い主であり，ユダヤ人はその訪れを熱望していた。

多くのユダヤ人は，ローマの支配からの解放と国家としてのいっそうの繁栄を望んでいたにすぎなかった。メシヤが来られたとき，指導者や多くの民が拒んだのは，そのためであった。ナザレ人イエスの中に真のキリストを見いだすことができたのは，謙遜で忠実な人々だけであった（イザ 53 章；マタ 16：16；ヨハ 4：25−26）。

メシヤは御霊を受け，福音を宣べ伝え，解放を告げられる（イザ 61：1−3〔ルカ 4：18−21〕）。わたしたちはメシヤ（訳せば，キリスト）にいま出会った（ヨハ 1：41〔ヨハ 4：25−26〕）。主なる神はユダヤ人の中にメ

シヤ，言い換えれば，世の救い主を立てられる（1ニフ 10：4）。来るべきメシヤである神の御子（1ニフ 10：17）。贖(あがな)いは聖なるメシヤによって，またメシヤを通じてもたらされる（2ニフ 2：6）。時が満ちると，メシヤが来られる（2ニフ 2：26）。メシヤが死者の中からよみがえり（2ニフ 25：14）。メシヤの御名によって，わたしはアロンの神権を授ける（教義 13：1）。わたしはメシヤであり，シオンの王であり（モセ 7：53）。

メシャク　「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク，メシャク，アベデネゴの 3 人のイスラエルの若者は，ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。メシャクのヘブライ語名は，ミシャエルである。この 4 人の若者は，王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ（ダニ 1 章）。シャデラク，メシャク，アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが，神の御子によって守られた（ダニ 3 章）。

メトセラ　「エノク」参照

『旧約聖書』の中の人物。エノクの息子。メトセラは 969 歳まで生きた（創世 5：21−27；ルカ 3：37；モセ 8：7）。メトセラはエノクの町が天に取り上げられたときに地上に残された義にかなった預言者である。彼は地上にとどまって子孫を残し，後にノアが生まれることになった（モセ 8：3−4）。

メルキゼデク　「サレム」「メルキゼデク神権」参照

『旧約聖書』の中の人物。洪水後のアブラハムの時代に生きていた偉大な大祭司，預言者，指導者。彼はサレム（エルサレム）の王，また平和の王，義の王（メルキゼデクとはヘブライ語で「義の王」の意味），いと高き神の祭司とも呼ばれた。

アブラムはメルキゼデクに十分の一を納めた（創世 14：18−20）。メルキゼデクの民は義を行い，天を得た（JS 創世 14：25−40）。あなたこそは，永遠に，メルキゼデクに等しい祭司である（ヘブ 5：6）。メルキゼデクはサレムの王であり，いと高き神の祭司であった（ヘブ 7：1−3）。メルキゼデクよりも偉大な人は一人もいなかった（アル 13：14−19）。アブラハムはメルキゼデクから神権を受けた（教義 84：14）。至高者の名を敬い尊ぶことから，昔の教会員は，この神権をメルキゼデク神権と呼んだ（教義 107：1−4）。

メルキゼデク神権　「神権」「長老」「メルキゼデク」参照

メルキゼデク神権は大神権であり，アロン神権は小神権である。メルキゼデク神権には，教会の霊的な祝福の鍵(かぎ)が含まれる。この大神権の儀式を通して神性の力が人々に現れる（教義 84：18−25；107：18−21）。

神は最初にこの大神権をアダムに示された。あらゆる神権時代の族長と預言者がこの権能を持っていた（教義 84：6−17）。初めは「神の御子の位に従う聖なる神権」と呼ばれ，後にメルキゼデク神権として知られるようになった（教義 107：2−4）。

イスラエルの子らがメルキゼデク神

権の特権と聖約にふさわしい生き方ができなかったとき，主はその高い律法を取り去り，小神権と低い律法とを授けられた（教義 84：23−26）。それはアロン神権ならびにモーセの律法と呼ばれた。イエスは地上に来られたとき，ユダヤ人にメルキゼデク神権を回復し，彼らの中に教会を築き始められた。しかし，この神権と教会は背教によって再び失われてしまった。そして後に，ジョセフ・スミス・ジュニアを通して回復されたのである（教義 27：12−13；128：20；ジ―歴史 1：73）。

メルキゼデク神権には，長老，大祭司，祝福師，七十人，使徒の職がある（教義 107 章）。メルキゼデク神権は常に，地上における神の王国の一部を成す。

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は，大神権すなわちメルキゼデク神権の大管長であり，地上における神の王国に関するすべての鍵を持つ。教会の大管長の召しは一時期に一人の人にしか与えられない。また，教会の大管長はすべての神権の鍵を行使する権能を持つ地上でただ一人の人である（教義 107：64−67；132：7）。

あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である（詩篇 110：4〔ヘブ 5：6，10；7：11〕）。メルキゼデク神権は福音をつかさどる（ヘブ 7 章〔教義 84：18−25〕）。メルキゼデクは力強い信仰を働かせ，大神権の職を受けた（アル 13：18）。メルキゼデク神権がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けられた（教義 27：12−13〔ジ―歴史 1：72〕）。この神権は誓詞と聖約によって授けられる（教義 84：33−42）。二つの区分，すなわち大きな部類がある。一つはメルキゼデク神権であり，他はアロン神権である（教義 107：6）。メルキゼデク神権は霊的な祝福をつかさどる権能を持つ（教義 107：8−18）。モーセとエライアスとエリヤがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに神権の鍵を授けた（教義 110:11−16）。わたしは今，わたしの神権に属する役員をあなたがたに与えて，あなたがたがその鍵を持てるようにする（教義 124：123）。

モアブ　「ロト」参照

旧約の時代の死海東方の地域。モアブ人はロトの子孫であり，イスラエルとは縁続きであった。モアブ人はヘブライ語に似た言葉を話した。モアブ人とイスラエル人は絶えず戦争を繰り返した（士師 3：12−30；11：17；サ下 8：2；列下 3：6−27；歴下 20：1−25；イザ 15 章）。

モーサヤ（ベニヤミンの父）　「ゼラヘムラ」「ベニヤミン（モーサヤの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の預言者。ゼラヘムラの民を治めた王。

ニーファイの地から逃げ出すように警告を受けた（オム 1：12）。ゼラヘムラの民を発見した（オム 1：14−15）。ゼラヘムラの民に自分の言葉を教えさせた（オム 1：18）。連合した民の王に選任された（オム 1：19）。息子ベニヤミンが彼に代わって治めた（オム 1：23）。

モーサヤ（ベニヤミンの息子）　「ベニヤミン（モーサヤの父）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。義人。ニーファイ人の王，預言者。父の義にかなった模範に従った（モサ 6:4−7）。ヤレド人の記録を含む 24 枚の金版を翻訳した（モサ 28：17）。

モーサヤ書：『モルモン書』の中の 1 書。第 1−6 章には，民に向けて語ったベニヤミン王の力強い説教が記録されている。主の御霊（みたま）に感動した民は，心を改め，悪を行おうとする思いを二度と抱かなかった。第 7−8 章には，レーマン人の間で暮らすようになったニーファイ人の一団のことが書かれている。彼らを捜し出すために捜索隊が派遣された。捜索隊の指導者アンモンは彼らを見つけ，彼らがレーマン人の圧制によって苦しみを受けてきたことを聞いた。第 9−24 章には，その圧制の様子，またゼニフ，ノア，リムハイという彼らの指導者がレーマン人の下でどのような生き方をしたかが記されている。アビナダイという預言者の殉教についても記録されている。アルマはアビナダイの裁判を機に改心した。第 25−28 章には，アルマの息子とモーサヤ王の 4 人の息子が改心するに至った話が書かれている。第 29 章には，モーサヤ王が王制に代えてさばきつかさの制度を設けるように勧めたことが書かれている。アルマの息子アルマが最初の大さばきつかさに選ばれた。

モーサヤの息子たち　「アロン（モーサヤの息子）」「アンモン（モーサヤの息子）」「オムナー」「ヒムナイ」「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。天使の訪れを受け，悔い改めを求められて改心したモーサヤ王の 4 人の息子。彼らの名前は，アンモン，アロン，オムナー，ヒムナイといった（モサ 27：34）。彼らは 14 年にわたってレーマン人に福音を宣（の）べ伝え，成功を収めた。アルマ 17−26 章には，レーマン人の間での彼らの働きが記録されている。

以前は不信仰で，教会を滅ぼそうとしていた（モサ 27：8−10〔アル 36：6〕）。天使に叱責（しっせき）され，悔い改めた（モサ 27：11−12，18−20）。レーマン人に宣（の）べ伝える許しを得た（モサ 28：1−7）。

モーセ　「アロン（モーセの兄）」「五書」「十戒（じっかい）」「変貌（へんぼう）—キリストの変貌（へんぼう）」「モーセの律法」参照

旧約の預言者。イスラエル人をエジプトの奴隷の状態から導き出し，神によって示されるままに，宗教，社会，食生活に関する一連の律法を彼らに授けた。

モーセの務めは，彼のこの世での生涯という枠を越えるものであった。ジョセフ・スミスは，モーセがエリヤとともに変貌（へんぼう）の山に来て，神権の鍵（かぎ）をペテロとヤコブとヨハネに授けたと教えている（マタ 17:3−4；マコ 9:4−9；ルカ 9：30；教義 63：21）。

1836 年 4 月 3 日，モーセはオハイオ州カートランドの神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ，イスラエルの集合の鍵（かぎ）を二人に授けた（教義 110：11）。

末日の啓示はモーセについて多くのことを語っている。モーセの名は『モルモン書』にも何度か出てくる。また『教義と聖約』からは，モーセの務め（教義 84：20−26）と，義父エテロから神権を受けたこと（教義 84：6）が分かる。

また末日の啓示は，イスラエルの子らの間でモーセがなした働きに関する『聖書』の記録を確認し，彼が『旧約聖書』の最初の 5 書の著者であることを再確認している（1 ニフ 5：11；モセ 1：40−41）。

パロの娘に救われた（出エ 2：1−10）。ミデヤンの地へ逃れた（出エ 2：11−22）。主の使いは，しばの中の炎のうちに彼に現れた（出エ 3：1−15）。エジプト人に下る災いを宣言した（出エ 7−11 章）。主は彼を通して過越（すぎこし）の祭を定められた（出エ 12：1−30）。イスラエルの民を率いて紅海を渡った（出エ 14：5−31）。主は荒れ野でマナを与えられた（出エ 16 章）。ホレブで岩を打つと，そこから水が出た（出エ 17：1−7）。アロンとホルは，ヨシュアがアマレクに打ち勝つよう，モーセの手を支えた（出エ 17：8−16）。エテロから助言を受けた（出エ 18：13−26）。民を備えてシナイ山で主にまみえさせようとした（出エ 19 章）。主から十戒を与えられた（出エ 20：1−17）。モーセと七十人の長老たちは神を見た（出エ 24：9−11）。証（あかし）の板を砕き，金の子牛を壊した（出エ 32:19−20）。主と顔を合わせて語った（出エ 33：9−11）。イエスの変貌（へんぼう）のときに現れた（マタ 17：1 −13〔マコ 9：2−13；ルカ 9：28−36〕）。モーセのように強くなろうではありませんか（1 ニフ 4:2）。主がお立てになるモーセのような預言者とは，キリストである（1 ニフ 22：20−21〔3 ニフ 20：23；申命 18：15〕）。啓示によってイスラエルを導いた（教義 8：3）。偉大な霊たちの中にいた（教義 138：41）。顔と顔を合わせて神にまみえた（モセ 1：2，31）。独り子にかたどられていた（モセ 1：6，13）。創造について啓示されたことを記録するように命じられた（モセ 2：1）。

モーセ書：『高価な真珠』の中の 1 書。ジョセフ・スミスが霊感によって行った創世記の最初の 7 章の翻訳が含まれている。

第 1 章には，モーセが神にまみえたときの示現が記されている。神はモーセに救いの計画のすべてを啓示された。第 2−5 章は，創造と人の堕落についての記録である。第 6−7 章には，エノクと彼の地上での務めに関する示現が述べられている。第 8 章には，ノアと大洪水についての示現が含まれている。

モーセの五書：「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」の項を参照。

『旧約聖書』の最初の 5 書は，モーセの書として知られている。ニーファイがラバンから得た真鍮版（しんちゅうばん）はモーセの五書を含んでいた（1 ニフ 5：11）。

ニーファイはモーセの書に書かれた多くの事柄を読んだ（1 ニフ 19：23）。

モーセの律法　「アロン神権」「清いものと清くないもの」「モーセ」「律法」

参照

神はモーセを通してイスラエルの家に律法をお授けになったが，それは彼らが従うことのできなかった，より高度な律法に代えて与えられたものであった（出エ 34 章；JS 出エ 34：1−2；JS 申命 10:2)。モーセの律法は，人々に義務と責任を思い起こさせるための多くの原則や規則, 祭儀, 象徴から成っていた。それは，道徳的，かつ倫理的，宗教的，肉体的な戒めと勤めを伴う律法を含むものであり，神と神への義務を民に思い起こさせること（モサ 13：30）を目的とした様々な犠牲（レビ 1−7 章）を伴っていた。また，十戒や倫理的かつ道徳的に大きな価値のある他の多くの戒めと同じように，信仰と悔い改め，水によるバプテスマ，罪の赦(ゆる)しもその律法の一部であった。祭儀的律法の多くは，血を流す犠牲を終わらせたイエス・キリストの死と復活によって成就した(アル 34:13−14)。モーセの律法はアロン神権の下に執行された。またそれは，従う人々をキリストに導く備えの福音であった。

わたしは初めの時のように，彼らに律法を授けよう。しかしそれは，肉の戒めの律法にかかわるものである（JS 出エ 34：1−2)。律法はわたしたちをキリストに連れて行く養育掛(よういくがかり)となった（ガラ 3：19−24)。モーセの律法を守り，確固としてキリストを待ち望む（2ニフ 25：24−30)。モーセの律法だけでは救いは得られない（モサ 12：27−13：32)。わたしによってモーセの律法は成就している（3ニフ 9：17)。モーセに与えられた律法は，わたしによって成就している（3ニフ 15：1−10)。主はモーセと聖なる神権をイスラエルの民から取り上げ，肉の戒めの律法を与えられた（教義 84：23−27)。

黙示文書　「黙示録（ヨハネの)」参照

『新約聖書』の最後に収められている啓示の書。他の特筆すべき啓示を指してこのように呼ぶこともある。「明らかにされた」または「覆いを取った」を意味するギリシャ語が語源である。

黙示録（ヨハネの）　「黙示文書」「ヨハネ（ゼベダイの子)」参照

『新約聖書』の中の最後の書。使徒ヨハネに与えられた啓示が載せられている。ヨハネは世界の歴史，特に終わりの時の状態を見ることを許された(黙示 1：1−2；1 ニフ 14：18−27；教義 77 章)。

ヨハネは主の日にパトモス島でこの啓示を受けた（黙示 1：9−10)。パトモス島はエペソからさほど遠くない，アジヤの地の沖合にある。この啓示が与えられた正確な日時は不明である。

1 ニーファイ 14：18−27 と教義と聖約 77 章（エテ 4：15−16）には，黙示録を理解するための鍵(かぎ)が記されている。

第 1−3 章には，この書の序文と，アジヤの 7 つの教会への手紙が記されている。ヨハネは聖徒たちが幾つかの問題を解決できるよう助けを与えるためにこの手紙を書いた。第 4−5 章には，神とキリストの尊厳と義なる力を示す，ヨハネが受けた数々の示現が記録されている。第 6−9，11 章でヨハネは，7 つの封印で封じられた巻き物

を見たことを記録している。それぞれの封印は，地球の現世の歴史の各千年間を示している。これらの章には，第7の封印に含まれる出来事がおもに記されている（黙示8−9章；11：1−15）。第10章には，ヨハネが食べた巻き物のことが述べられている。この巻き物は，ヨハネが将来果たすべき使命を象徴している。第12章には，サタンが天で背いて投げ落とされたときに始まる悪についての示現が記録されている。天で始まったその戦いは，この地上でも続いている。第13，17−19章でヨハネは，サタンに支配された地上の諸々（もろもろ）の邪悪な王国について述べ，悪の最終的な滅亡を含め，それらの国々の行く末を記録している。第14−16章には，キリストの再臨の直前に悪のただ中にあって義を守る聖徒たちのことが書かれている。第20−22章には，福千年，美しい新エルサレムの都，地球の歴史の最後に起こる出来事が書かれている。

求める　「祈り」参照

問い，尋ねること。または，特別な恵みを神に請い願うこと。

求めよ，そうすれば，与えられるであろう（マタ7：7）。知恵に不足している者があれば，神に，願い求めるがよい（新ヤコ1：5〔ジ一歴史1：7−20〕）。信仰をもってわたしに求めれば（1ニフ15：11）。理解できないとすれば，それはあなたがたが求めないためである（2ニフ32：4）。真心から求めなさい（モサ4：10）。神は信仰をもって求める正当なものをすべて与えてくださる（モサ4：21）。これが真実かどうか神に問うように（モロ10：4）。彼らは光よりも闇（やみ）を愛している。そのために，彼らはわたしに求めようとしない（教義10：21）。あなたがたはすべてのことについて，神に願い求めるように命じられている（教義46：7）。

モルモン　「イエス・キリストの教会」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員を指す「モルモン」というニックネームは，この教会の会員でない人々が付けたものである。昔の預言者モルモンが編さんした『モルモン書』と題する神聖な書物がその由来である。しかし，この教会の会員を指すものとして主から与えられた名称は「聖徒」である。この教会の正しい名称は，末日聖徒イエス・キリスト教会である。

モルモン（ニーファイ人の預言者）
「モルモン書」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の預言者，総司令官，記録者。モルモンは紀元311−385年ごろに生きていた（モル1：2，6；6：5−6；8：2−3）。モルモンは15歳のときから，その生涯のほとんどを軍隊の指導者として過ごした（モル2：1−2；3：8−12；5：1；8：2−3）。アマロンはモルモンに，記録の管理と作成の責任を引き受けるために自らを備えるように指示した（モル1：2−5；2：17−18）。モルモンは自分の生涯の出来事を記録してから，モルモンの版に，ニーファイの大版を要約した。後にモルモンはこの神聖な記録を息子モロナイに託し

た。ジョセフ・スミスが『モルモン書』として翻訳した記録の一部がこの版である。

モルモンの言葉：『モルモン書』の中の小書。記録全体の編者であったモルモンは，オムナイ書にあるアマレカイの最後の言葉とモーサヤ書の最初の言葉の間に，この小さな書を挿入した(『モルモン書』巻頭の「『モルモン書』についての概説」を参照)。

モルモン書：『モルモン書』として知られる聖典の中に含まれる独立した1書。第1−2章には，ニーファイ人の預言者アマロンがモルモンに，いつ，どこで版を手に入れるように指示したかが書かれている。また，大規模な戦争が始まったこと，そして民の罪悪のために三人のニーファイ人が取り去られたことも記録されている。第3−4章には，モルモンが民に悔い改めを叫んだものの，彼らの心が鈍く，過去のイスラエルよりもひどい悪事が広がっていたことが記録されている。第5−6章には，ニーファイ人とレーマン人の最後の戦争のことが記録されている。モルモンも多くのニーファイ人とともに殺された。第7章でモルモンは，死ぬ前に，当時の人々と将来の人々に向かって悔い改めを叫んでいる。第8−9章には，モルモンの息子モロナイが最後にただ一人残されたことが書かれている。モロナイは，ニーファイ人の滅亡を含めて，死と殺戮(さつりく)の最後の様子を記録し，また，将来の世の人々とこの記録の読者にあててメッセージを残した。

モルモン書　「エフライム—エフライムまたはヨセフの木」「金版」「証人(モルモン書の)」「スミス，ジョセフ，ジュニア」「正典」「聖文」「版」「モルモン(ニーファイ人の預言者)」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会によって聖典として受け入れられている4巻の聖典の一つ。アメリカ大陸に住んでいた昔の民の記録をモルモンという名の古代の預言者が要約した書。イエスがキリストであることを証(あかし)するために書かれた。神の賜物(たまもの)と力によってこの記録を翻訳した預言者ジョセフ・スミスは，次のように語っている。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり，わたしたちの宗教のかなめ石である。そして，人はその教えを守ることにより，ほかのどの書物にもまして神に近づくことができる。」(『モルモン書』序文を参照)

『モルモン書』は，旧世界からアメリカ大陸へ移住した3つの民の宗教上の記録である。これらの民を導いたのは預言者であり，彼らは金属版に宗教と世俗の歴史を記した。『モルモン書』には，イエス・キリストが復活の後にアメリカ大陸の住民を訪れられたことが記録されている。そのキリストの訪れの後，200年間平和な時代が続いた。

ニーファイ人の最後の預言者兼歴史記録者モロナイは，紀元421年ごろ，これらの民についての要約した記録を封じて隠した。復活したモロナイは，1823年にジョセフ・スミスを訪れ，後にこれらの昔の神聖な記録を彼に託し，それを翻訳させ，イエス・キリストのもう一つの証(あかし)として世に出さ

せた。

ヨセフは実を結ぶ若木。その枝は，かきねを越えるであろう（創世 49：22−26）。まことは地からはえ（詩篇 85：11〔モル 8：16；モセ 7：62〕）。主は旗をあげて遠くから一つの国民を招き，彼らを呼ばれる（イザ 5：26）。あなたの声は地から出（イザ 29：4〔2ニフ 26：14−17〕）。このすべての幻は，あなたがたには封じた書物の言葉のようになり（イザ 29：11〔イザ 29：9−18；2ニフ 27：6−26〕）。ヨセフの木とユダの木は主の手で一つになる（エゼ 37：15−20）。わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある（ヨハ 10：16〔3ニフ 15：16−24〕）。『モルモン書』と『聖書』が一つに合わされる（2ニフ 3：12−21）。主の言葉は地の果てまで響き渡る（2ニフ 29：2）。主は『モルモン書』をレーマン人に伝えるとエノスに聖約された（エノ 1：15−16）。『モルモン書』は，わたしたちに『聖書』を信じさせるために記録された（モル 7：9）。この書物は世の人々に対する証となる（エテ 5：4）。これが真実かどうか神に問うように（モロ 10：4）。キリストは『モルモン書』が真実であると証された（教義 17：6）。『モルモン書』にはイエス・キリストの完全な福音が載っている（教義 20：9〔教義 20：8−12；42：12〕）。わたしたちは『モルモン書』が神の言葉であると信じる（箇条 1：8）。

モロナイ（司令官）「自由の旗」参照

『モルモン書』の中の人物。紀元前 100 年ごろに生きていた，ニーファイ人の軍隊の司令官，義人。

モロナイはニーファイ人の全軍の司令官に任命された（アル 43：16−17）。自由のために戦うように，ニーファイ人の兵を奮い立たせた（アル 43：48−50）。自分の衣で自由の旗を作った（アル 46：12−13）。神の人であった（アル 48：11−18）。政府が国の自由を守るのに冷淡であるということで腹を立てた（アル 59：13）。

モロナイ（モルモンの息子）「モルモン（ニーファイ人の預言者）」「モルモン書」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の最後の預言者（紀元 421 年ごろ）。モルモンは死ぬ少し前に，モルモンの版という歴史記録を息子モロナイに渡し（モ言 1：1），モロナイがそのモルモンの版の編さんを終えた。彼は，モルモン書に第 8 章と第 9 章を付け加え（モル 8：1），エテル書を要約して版に加え（エテ 1：1−2），さらにモロナイ書という自分自身の記録も付け加えた（モロ 1：1−4）。それから，版を封じて，クモラの丘に隠した（モル 8：14；モロ 10：2）。1823 年，モロナイはジョセフ・スミスに『モルモン書』を現すために，復活体をもって遣わされた（ジ―歴史 1：30−42，45；教義 27：5）。モロナイは 1823 年から 1827 年にかけて，この若い預言者に毎年教えを授け（ジ―歴史 1：54），そしてついに 1827 年，彼に版を渡したのである（ジ―歴史 1：59）。ジョセフ・スミスは翻訳を終えた後，その版をモロナイに返した。

モロナイ書：『モルモン書』の中の最後の書。ニーファイ人の最後の預

言者モロナイによって書かれた。第1−3章には，ニーファイ人の最終的な滅亡と，聖霊と神権の授与についての教えが書かれている。第4−5章には，聖餐の具体的な執行方法が書かれている。第6章には，教会で行われていたことが要約されている。第7−8章は，福音の第一の原則についての説教であり，信仰，希望，慈愛，また善悪の判断の方法に関するモルモンの教えも含まれている（モロ7章）。また幼い子供たちはキリストによって生きており，バプテスマは不要であるとのモルモンの説明も書かれている（モロ8章）。第9章には，ニーファイ人の民の堕落が描かれている。第10章は，モロナイの最後のメッセージであり，『モルモン書』が真実であることを知るための方法も書かれている（モロ10：3−5）。

モロナイハ（司令官モロナイの息子）

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の司令官，義人（紀元前60年ごろ）。

モロナイは，軍の指揮権をモロナイハという名の息子の手にゆだねた（アル62：43）。ゼラヘムラの町を取り返した（ヒラ1：33）。ニーファイ人を悔い改めさせ，レーマン人から所有地の半分を取り返した（ヒラ4：14−20）。

約束の聖なる御霊　「聖霊」参照

聖霊は約束の聖なる御霊である（使徒2：33）。聖霊は人の義にかなった行いや儀式，聖約を，神に受け入れられるものとして確認される。約束の聖なる御霊は，救いの儀式が適切に執行されたこと，またそれに伴う聖約が守られていることを御父に証される。

約束の聖なる御霊によって結び固められる人々は御父が持っておられるすべてを受ける（教義76：51−60〔エペ1：13−14〕）。すべての聖約は，約束の聖なる御霊により結び固められなければ，次の世では効力がない（教義132：7，18−19，26）。

約束の地

主が忠実に従う者やその子孫に受け継ぎとして与えると約束された地。多くの約束の地がある。『モルモン書』でしばしば述べられている約束の地は，アメリカ大陸である。

わたしはあなたの子孫にこの地を与えます（創世12：7〔アブ2：19〕）。わたしはあなたと後の子孫とにカナンの全地を与える（創世17：8〔創世28：13〕）。モーセはカナンでイスラエルの地の境を定めた（民数34：1−12〔民数27：12〕）。約束の地に導かれるであろう（1ニフ2:20〔1ニフ5:5〕）。主は義人を貴い地へ導き（1ニフ17：38）。神の戒めを守るかぎり，リーハイの子孫は約束の地で繁栄する（2ニフ1：5−9）。イスラエルはやがて自分たちの約束の地に帰る（2ニフ24：1−2〔イザ14：1−2〕）。この地を所有する国民はどの国民も神に仕えなければならない。さもなければ，彼らは一掃される（エテ2：9−12）。ここは約束の地であり，シオンの町のための場所である（教義57：2）。ユダの子ら

が，アブラハムに与えられた土地に帰り始めますように（教義 109：64）。新エルサレムがアメリカ大陸に築かれる（箇条 1：10）。

ヤコブ（アルパヨの子）

イエスが地上で務めを果たしておられたときに選ばれた十二使徒の一人（マタ 10：3；マコ 3：18；ルカ 6：15；使徒 1：13）。

ヤコブ（イサクの息子）　「イサク」「イスラエル」「エサウ」参照

『旧約聖書』の中の族長，預言者。イサクとリベカの間に生まれた双子のうちの弟（創世 25：19−26）。ヤコブは兄エサウに代わって長子の特権を得た。これはヤコブがふさわしい生活をし，聖約による結婚をした結果であった。一方，エサウは長子の特権を軽んじ，聖約外の結婚をした（創世 25：30−34；26：34−35；27 章；28：6−9；ヘブ 12：16）。

リベカはエサウがヤコブに仕えるようになることを主から知らされた（創世 25：23）。エサウから長子の特権を買った（創世 25：29−34）。天に通じるはしごの夢を見た（創世 28 章）。レアならびにラケルと結婚した（創世 29：1−30）。12 人の息子と 1 人の娘をもうけた（創世 29：31−30：24；35：16−20）。ビルハならびにジルパと結婚した（創世 30：3−4，9）。名をイスラエルと変えられた（創世 32：28）。顔と顔をあわせて神を見た（創世 32：30）。どの子よりもヨセフを愛した（創世 37：3）。家族とともにエジプトへ行った（創世 46：1−7）。息子たちとその子孫に祝福を授けた（創世 49 章）。ヤコブの死（創世 49：33）。戒めを守り，今はアブラハム，イサクとともに昇栄し，天の王座に着いている（教義 132：37）。

ヤコブ（主の兄弟）

『新約聖書』の中の人物。主の兄弟（ガラ 1：19）。ほかにヨセフ，シモン，ユダという名の兄弟と幾人かの姉妹がいた（マタ 13：55−56；マコ 6：3；ユダ 1：1）。彼はまた，義人ヤコブとしても知られ，エルサレムの教会で重要な地位にあった（使徒 12：17；15：13；1 コリ 15：7；ガラ 2：9−12）。ヤコブの手紙は，彼が書いたと思われる。

ヤコブの手紙：『新約聖書』の中の 1 書。もともとは国外に離散しているイスラエルの十二部族にあてた手紙で，エルサレムから書き送ったと思われる。この手紙には，教えの実践についての幾つかの事柄が明確に宣言されている。その一つに，知恵に不足している者は神に助けを求めるようにという，第 1 章の重要な助言もある（新ヤコ 1：5−6；ジ―歴史 1：9−20）。第 2 章には，信仰と行いについての記述がある。第 3−4 章には，舌を制する必要性と，互いに悪口を言い合ってはならないという聖徒への勧告が記されている。第 5 章には，忍耐強くあり，また病気のときは長老を呼んで祝福を求めるようにとの聖徒への勧めが記されている。さらに，人の改心を助けることによって得られる祝福についても教えられている。

ヤコブ（ゼベダイの子）

イエスが地上で務めを果たしておられたときに選ばれた十二使徒の一人。ヨハネの兄弟。ヤイロの娘の蘇生（マコ 5：37），変貌（マタ 17：1；マコ 9：2；ルカ 9：28），ゲツセマネ（マタ 26：37；マコ 14：33）など，幾つかの重要な場に，イエスとともにいるように選ばれた 3 人の使徒の一人。ペテロおよびヨハネとともに，ジョセフ・スミスを聖任することによって，地上にメルキゼデク神権を回復した（教義 27：12；128：20；ジ―歴史 1：72）。

ヤコブ（リーハイの息子）「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の預言者。ニーファイ第二書とヤコブ書に記されている幾つかの説教の著者（2 ニフ 6−11 章；ヤコ 1−7 章）。

ヤコブ書：『モルモン書』の 3 番目の書。第 1 章には，ニーファイがヤコブに記録を渡し，その後ヤコブとその弟ヨセフを民を導く祭司と教師に任じたことが記されている。第 2−4 章は，道徳的に清くあるように民を諭す説教である。ヤコブはまた，人類を贖うメシヤの来臨について教え，イスラエルの民の中に地上に来るメシヤを受け入れようとしない人々がいる理由を挙げている。第 5−6 章には，イスラエルの民の歴史と使命に関する預言的な比喩とヤコブの証が記されている。第 7 章には，シーレムという博学な反抗者についての話が載っている。シーレムはヤコブの神聖な証に打ち負かされた。

ヤペテ「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。預言者ノアの長男（モセ 8：12）。

ノアはヤペテをもうけた（創世 5：32〔創世 6：10；モセ 8：12〕）。ヤペテとその妻は箱舟に入った（創世 7：13）。箱舟から出た（創世 9：18）。神はヤペテを大いならしめ（創世 9：27）。

やもめ「福祉」参照

夫に先立たれ，再婚していない女性。

孤児と寡婦を呼んで，それを食べさせ，満足させなければならない（申命 14：29）。あの貧しいやもめは，だれよりもたくさん入れたのだ。生活費全部を入れたからである（マコ 12：41−44）。困っている孤児や，やもめを見舞い（新ヤコ 1：27）。主はやもめを虐げる者に対して速やかに証を立てられる（3ニフ 24：5〔ゼカ 7：10〕）。やもめと孤児を扶養しなければならない（教義 83：6〔教義 136：8〕）。

ヤラベアム

『旧約聖書』の中の人物。分裂してできたイスラエルの北王国の初代の王。エフライムの部族。邪悪なヤラベアムはユダの家とダビデの家に対する反乱を指揮した。

ヤラベアムは，民が礼拝するようにダンとベテルに偶像を置いた（列上 12：28−29）。ヤラベアムをアヒヤが叱責した（列上 14：6−16）。ヤラベアムはイスラエルに恐ろしい罪を犯させ

たことで名を知られた(列上15:34〔列上12：30〕)。

ヤレド　「ヤレド人」「ヤレドの兄弟」参照

『モルモン書』の中の指導者。兄弟とともに，バベルの塔から西半球の約束の地へ民を率いた（エテ1：33−2：1)。

ヤレドは彼の兄弟に，自分たちの家族と友人たちの言語を乱さないよう主に祈ってほしいと頼んだ（エテ1：34−37)。海辺まで旅をし，4年間そこに住んだ（エテ2：13)。約束の地へ船出した（エテ6：4−12)。

ヤレド人　「モルモン書」「ヤレド」「ヤレドの兄弟」参照

『モルモン書』の中の民。ヤレドとヤレドの兄弟，また彼らの友人たちの子孫（エテ1：33−41)。バベルの塔から約束の地であるアメリカ大陸へ神によって導かれた（エテ1：42−43；2−3章；6：1−18)。一時は何百万もの民がいたが，悪事に端を発した内乱によって全滅した（エテ14−15章)。

ヤレドの兄弟　「ヤレド」「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の預言者。兄弟とともにバベルの塔から西半球の約束の地へ民を導き，ヤレド人の国の基を築いた（エテ1−6章)。彼は，主と顔と顔を合わせて語るほど偉大な信仰を持っていた（教義17：1)。彼についての話は，エテル書に記録されている。

ヤレドの兄弟は体の大きな強い人であり，主から大いに恵みを受けていた(エテ1：34)。信仰のゆえに，ヤレドの兄弟は主の指を見た（エテ3：6−9〔エテ12：20〕)。キリストがヤレドの兄弟に御自分の霊体を示された（エテ3：13−20)。ヤレドの兄弟に明らかにされたこと以上に大いなることは，いまだかつて明らかにされたことがない（エテ4：4)。ヤレドの兄弟は王政について民に警告を発した（エテ6：22−23)。主はヤレドの兄弟にすべてのものをお見せになった（エテ12：21)。物を書き記す力のある者とされた（エテ12：24)。信仰によってゼリン山を動かした（エテ12：30)。

ヤング，ブリガム

この神権時代の初期の使徒。末日聖徒イエス・キリスト教会の第2代大管長。聖徒たちをイリノイ州ノーブーからソルトレーク盆地へ導いた。また合衆国西部の偉大な植民者であった。

十二使徒巡回評議会を管理する会長として召された（教義124：127)。その働きを褒められ，将来外国に旅をするのを免除される（教義126章)。主は西部への旅のために聖徒たちを編制する方法についてブリガム・ヤングに指示を与えられた（教義136章)。霊界で選ばれた者たちの中にいた（教義138：53)。

勇敢；勇気　「畏(おそ)れ；恐れ」「信仰」参照

恐れないこと。特に正しい行動をするのを恐れないこと。

強く，かつ勇ましくなければならない(申命 31:6〔ヨシ 1:6−7〕)。堅く立って，しるされていることを，ことごとく守って行わなければならない（ヨシ 23：6)。神がわたしたちに下さったのは，臆する霊ではなく（2テモ 1：7)。聞くや，心が奮い立ち（アル 15:4〔アル 62：1〕)。ヒラマンの息子たちは非常に勇敢であった（アル 53：20−21)。わたしはこれまでこのような大いなる勇気を一度も見たことがありません(アル 56：45)。兄弟たちよ，勇気を出してください。勝利に向かって進み，進んでください（教義 128：22)。

誘惑　「悪魔」「選択の自由」「堪え忍ぶ」参照

悪を遠ざけ善を選ぶ力を試されること。罪を犯し，神ではなくサタンに従うように誘われること。

この大祭司は，わたしたちと同じように誘惑に遭われた（ヘブ 4：14−15)。敵対する者の誘惑や火の矢も，彼らを打ち破って盲目とし，滅びに至らせることはない（1ニフ 15：24〔ヒラ 5：12〕)。人は，一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ，思いのままに行動することはできなかった(2ニフ 2：11−16)。自分が耐えられないような誘惑を受けないように，目を覚ましていて絶えず祈りなさい（アル 13：28)。主イエス・キリストを信じる信仰をもって，悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい（アル 37：33)。悪魔に誘惑されないように，常に祈らなくてはならない（3ニフ 18：15，18〔教義 20：33；31：12；61：39〕)。誘惑に陥ることのないように，高慢に気をつけなさい（教義 23：1)。アダムは誘惑に負けたので，悪魔の意に従うことになった（教義 29：39−40)。わたしはあらゆる誘惑を受けるに任された（ジ一歴史 1：28)。

行方の知れない部族　「イスラエル—行方の知れない十部族」参照

ユダ　「イスラエル」「聖書」「ユダヤ人」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの間に生まれた 4 番目の息子（創世 29：35；37：26 − 27；43：3，8；44：16；49：8)。ヤコブはユダに，彼が自分の子らの中にあって生まれながらの指導者となり，シロ（イエス・キリスト）がその子孫から出るであろうとの祝福を授けた（創世 49：10)。

ユダの部族：ユダの部族はカナンに定住した後，指導的役割を果たした。ユダと肩を並べる部族の筆頭はエフライムであった。モーセはユダの部族を祝福した（申命 33：7)。ソロモンの治世後，ユダの部族はユダ王国となった。

ユダ王国：ソロモンの領土は，エフライムとユダの部族間の嫉妬(しっと)がおもな原因で，レハベアムの治世に二つの王国に分裂した。南王国すなわちユダ王国は，ユダの部族と，ベニヤミンの部族の半数以上を含み，エルサレムを都と定めた。ユダ王国は，エホバの礼拝においては総じて北王国よりも忠実であった。また，北方や東方からの攻撃にさらされることも少なかった。そし

て，その統治権は，バビロニア捕囚までダビデの一族の手にあった。人口や勢力において勝るイスラエル王国の滅亡後も，ユダ王国は135年間存続した。

ユダの木：これはユダの家の記録である『聖書』を指している（エゼ37：15−19）。終わりの時に，イスラエルの家から様々に分かれた民が集合するとき，彼らの神聖な記録もまた一つに集められる。これらの神聖な記録は互いに補い合い，一つの証（あかし）となって，イエスがキリストであり，またイスラエルの神，全地の神であられることを宣言する（JS創世50：24−36；2ニフ3；29章）。

ユダ（イエスの兄弟）

『新約聖書』の中の人物。イエスの兄弟の一人。ユダの手紙の著者と思われる（マタ13：55；ユダ1：1）。

ユダの手紙：『新約聖書』の中の1書で，信仰が弱くなっているある聖徒たちにユダが書き送った手紙。その聖徒たちの信仰を弱めていたのは，彼らの中にあってクリスチャンと自称しながら，不道徳な異教礼拝を行い，自分たちは道徳律の適用を受けないと主張する人々であった。ユダはこの聖徒たちの霊的危機感を目覚めさせ，信仰を守り通すように励ましを与えようとした。

ユダの手紙の中で特によく知られているのは，第6節と第14−15節である。第6節には，天上の戦いと，またルシフェルとその使いが前世の状態から追い出されたことが記されており（アブ3：26−28），第14−15節には，エノクの述べた預言が引用されている。

ユダ（イスカリオテの）

『新約聖書』の中の人物。イエスが召された十二使徒の一人（マタ10：4；マコ14：10；ヨハ6：71；12：4）。彼の姓イスカリオテは「ケリオテの人」の意味。ユダの部族の出身であり，当時の使徒の中でガリラヤ人でなかったのはユダだけであった。ユダは主を裏切った。

祭司長たちにキリストを引き渡し，銀貨30枚を受け取った（マタ26：14−16〔ゼカ11：12−13〕）。接吻（せっぷん）して主を裏切った（マタ26：47−50〔マコ14：43−45；ルカ22：47−48；ヨハ18：2−5〕）。首をつって死んだ（マタ27：5）。サタンがユダに入った（ルカ22：3〔ヨハ13：2，26−30〕）。ダビデはユダがイエスを裏切ることを預言していた（使徒1：16〔詩篇41：9〕）。

ユダ（ヤコブの兄弟）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストが最初に召された十二使徒の一人（ルカ6：13−16）。このユダはタダイとも呼ばれていたと思われる（マタ10：2−4）。

ユダの木　「ユダ—ユダの木」参照

ユダヤ人　「イスラエル」「ユダ」参照

ユダヤ人という言葉は次のような意味で用いられる。(1) ヤコブの12人の息子の一人であるユダの子孫。(2) 古代ユダ王国（南王国）の民。(3) 血

統的にユダヤ人かどうかを問わず，ユダヤ教の教えや生活様式，伝統に従う人々。ユダヤ人という言葉でヤコブのすべての子孫を指すことが慣例となりつつあるが，これは誤りである。ユダヤ人という言葉は，ユダ王国の民，また現代においてはもっと限定的に，ユダの部族とそれに連合した部族の民を指すと考えるべきである。

つえはユダを離れず，シロの来る時までに及ぶであろう（創世 49：10）。キリストの福音は，ユダヤ人をはじめ，すべて信じる者に救（すくい）を得させる神の力である（ロマ 1：16）。主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者すなわちメシヤを立てられる（1ニフ 10：4）。その書物がユダヤ人の口から出て来た当時は，書き記されたことは分かりやすくて純粋であり（1ニフ 14：23）。ユダヤ人はすべての国民の中に散らされる（2ニフ 25：15）。ユダヤ人は昔主が聖約を交わされた民である（2ニフ 29：4）。散らされているユダヤ人もキリストを信じ始め（2ニフ 30：7）。ユダヤ人は，その上に建物を建てることのできる石を拒む（ヤコ 4：14−16）。ユダヤ人は，イエスがまことのキリストであることについて別の証人を与えられる（モル 3:20−21）。終わりの時に，ユダヤ民族に対して二人の預言者が立てられる（教義 77:15）。まず異邦人へ，次いでユダヤ人へと，すべての国民に呼びかけなさい（教義 133：8）。そのときには，ユダヤ人に大きな艱難（かんなん）が起こる（ジ―マタ 1：18）。

夢　「啓示」参照

神が地上の人々に御心を示すのに用いられる一つの方法。しかし，夢がすべて啓示というわけではない。霊感による夢は，信仰の結果として与えられるものである。

ヤコブは夢の中で天に達するはしごを見た（創世 28：12）。ヨセフは夢を見て（創世 37：5）。夢をもって，これと語るであろう（民数 12：6）。ネブカデネザルは夢を見（ダニ 2：1−3）。老人たちは夢を見（ヨエ 2：28〔使徒 2:17〕）。主の使（つかい）が夢に現れて（マタ 1:20〔マタ 2：19〕）。リーハイは夢で見たことをたくさん書き記した（1ニフ 1：16）。リーハイは夢を見た（1ニフ 8 章）。

赦（ゆる）されない罪　「殺人」「聖霊」「冒瀆（ぼうとく）；汚す罪」「滅びの子」参照

聖霊を否定する罪。この罪を犯す者は赦（ゆる）しを受けることができない。

聖霊を汚す言葉は，ゆるされることはない（マタ 12：31−32〔マコ 3：29；ルカ 12：10〕）。いったん聖霊にあずかる者となりながら，ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である（ヘブ 6：4−6）。もしわたしたちが，真理の知識を受けたのちにもなお，ことさらに罪を犯しつづけるなら，罪のためのいけにえは，もはやあり得ない（ヘブ 10：26）。あなたがその聖霊を否定するならば，しかも自分で聖霊を否定していることを知っているならば，これは赦（ゆる）されない罪である（アル 39：5−6〔ヤコ 7：19〕）。独り子を否定し，また独り子を自ら十字架につけた者たちは，赦（ゆる）されることはない（教義 76：30−35）。この世でもこの世の

外でも赦されることのない，聖霊に対する冒瀆とは，新しくかつ永遠の聖約を受け入れた後に，罪のない者の血を流すことである（教義 132：26−27）。

赦し　「悔い改め」「告白」「贖罪」「罪の赦し」参照

聖典に出てくる赦しという言葉は，一般に次の二つのうちのどちらかの意味で用いられる。(1) 神が人を赦すとは，罪に対して定められた罰を取り消し，破棄することである。罪の赦しは，キリストの贖罪を通して，悔い改めを行うすべての人に与えられる。しかし，殺人または聖霊に対する赦されない罪を犯した者は除外される。(2) 人が互いに赦し合うとは，互いにキリストのような愛をもって接し，自分を傷つけた人に悪い感情を持たないことである（マタ 5：43−45；6：12−15；ルカ 17：3−4；1 ニフ 7：19−21）。

主は怒ることおそく，いつくしみに富み，罪ととがをゆるす者（民数 14：18）。たといあなたがたの罪は緋のようであっても，雪のように白くなるのだ（イザ 1：18）。わたしたちに負債のある者をゆるしましたように，わたしたちの負債をもおゆるしください（マタ 6：12〔ルカ 11：4；3 ニフ 13：11〕）。人の子は罪をゆるす権威をもっている（マタ 9：6〔マタ 18：35；マコ 2：10；ルカ 5：20−24〕）。兄弟がわたしに対して罪を犯した場合，幾たびゆるさねばなりませんか（マタ 18：21−22〔教義 98：40〕）。聖霊をけがす者は，いつまでもゆるされず（マコ 3：29〔アル 39：6〕）。もしあなたの兄弟が悔い改めたら，ゆるしてやりなさい（ルカ 17：3）。父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです（ルカ 23：34）。赦しを求めて祈るように勧めた（1 ニフ 7：21）。わたしたちが罪の赦しを受けて心が清められるように，キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください（モサ 4：2）。もしその者があなたとわたしの前で罪を告白し，悔い改めるならば，その者をあなたは赦しなさい（モサ 26：29−31）。悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう（教義 1：32）。心を尽くして鎌を入れなさい。そうすれば，あなたの罪は赦されて（教義 31：5〔教義 84：61〕）。自分の罪を悔い改めた者は赦され，主なるわたしはもうそれを思い起こさない（教義 58：42）。わたしは，わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし，あなたがたには，すべての人を赦すことが求められる（教義 64：10）。あなたがたが互いに過ちを赦し合ったので，主なるわたしは同じようにあなたがたを赦す（教義 82：1）。わたしはまた愛する者たちを懲らしめる。それは，彼らの罪が赦されるためである（教義 95：1）。わたしはあなたの背きを赦した（モセ 6：53）。

世　「死すべき状態」「地球（地）」「バビロン；バベル」参照

地球。死すべき人間が試しを受ける場所。象徴的な意味で，神の戒めに従わない人々。

死すべき状態：この世ではなやみがある（ヨハ 16：33）。死に至るまでも恐れてはならない。この世ではあなたがたの喜びは満たされない（教義

101：36)。

戒めに従わない人々：わたしはその悪のために世を罰し（イザ 13：11〔2ニフ 23：11〕)。もしこの世があなたがたを憎むならば，あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを，知っておくがよい（ヨハ 15：18−19)。あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢である（1ニフ 11：36)。見よ，世の罪悪は熟しつつある（教義 18：6)。世の汚れに染まらずに（教義 59：9)。忠実であって堪え忍ぶ者は，世に打ち勝つであろう（教義 63：47)。世の方法によらずに（教義 95：13)。

世の終わり：わたしは新しい地を創造する。さきの事はおぼえられることなく（イザ 65:17〔黙示 21:1;箇条 1:10〕)。毒麦が集められて火で焼かれるように，世の終りにもそのとおりになるであろう(マタ 13:40, 49〔マラ 4:1;ヤコ 6：3〕)。わたしは自分の果樹園を火で焼かせよう（ヤコ 5：77〔教義 64:23−24〕)。わたしは,世の終わりに,サタンと彼の業を滅ぼす (教義 19:3)。地球は死ぬにもかかわらず，再び生かされる（教義 88：25−26)。世の終わりに至るまですべてのことを示された(モセ 7：67)。

良い羊飼い　「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは良い羊飼いである。イエス・キリストに従う人は，象徴的な意味で，イエス・キリストの見守りを受けている羊ということができる。

主はわたしの牧者であって（詩篇 23：1)。主は牧者のようにその群れを養い（イザ 40：11)。わたしはわが羊を捜し出し（エゼ 34：12)。わたしはよい羊飼であって（ヨハ 10：14−15)。イエスは羊の大牧者である（ヘブ 13:20)。聖者はその羊を数えられ，羊は聖者を知るようになります（1ニフ 22：25)。良い羊飼いはあなたがたを呼んでおられる（アル 5：38，60)。ついに一つの群れ，一人の羊飼いとなるであろう（3ニフ 15：21〔ヨハ 10：16〕)。

養子縁組　「アブラハム—アブラハムの子孫」「イスラエル」「神の息子, 娘」「キリストの子」参照

聖典には，2 種類の養子縁組について述べられている。

(1) イスラエルの血統に属さない人は，イエス・キリストを信じ，悔い改め，水に沈めるバプテスマを受け，聖霊を受けることによって，アブラハムの家族となり，イスラエルの家の一員となる（2 ニフ 31：17−18；教義 84：73−74；アブ 2：6，11)。

(2) 福音の救いの儀式を受けた人は，引き続き主の戒めに従うことによって，イエス・キリストの息子，娘となる（ロマ 8：15−17；ガラ 3：24−29；4：5−7；モサ 5：7−8)。

幼児のバプテスマ　「子供」「救い—幼い子供たちの救い」「責任を負う」「バプテスマ—幼児には不要」参照

8 歳未満で責任能力がない乳児や子供にバプテスマを施す不必要な慣行。主は幼児のバプテスマを非難しておられる（モロ 8：10−21)。子供は罪のな

い無垢な状態で生まれてくる。サタンは，子供が責任を負えるようになるまでは，彼らを誘惑する力を持たない(教義 29：46−47)。したがって，幼児は悔い改めやバプテスマの必要がない。子供は 8 歳でバプテスマを受けるべきである（教義 68：25−27)。

ヨエル

『旧約聖書』の中の，ユダの地の預言者。生没年は不明であるが，紀元前 850 年より以前のヨアシの治世と，ユダ部族のバビロニア捕囚からの帰還の間に生きていた人物と思われる。

ヨエル書：この書の主題は，ユダの地がひどい干ばつといなごによる被害を受けた後にヨエルが発した預言の中に述べられている（ヨエ 1：4−20)。ヨエルは人々に，悔い改めを通して再び神の祝福にあずかれるようになると励ました（ヨエ 2：12−14)。

第 1 章は，主の家における聖会の招集である。第 2 章には，福千年に先立って起こる戦争と荒廃が述べられている。第 3 章は末日について述べ，すべての国民が戦いをするが，最終的に主はシオンに住まわれると断言している。

ペテロは五旬節の日に，人々に御霊が注がれるというヨエルの預言を引用している（ヨエ 2：28−32；使徒 2：16−21)。天使モロナイもこの聖句を引用してジョセフ・スミスに語った(ジ―歴史 1：41)。

欲望　「肉欲」参照

何かに対する不適切かつ強い願望。

彼女の麗しさを心に慕ってはならない（箴言 6：25)。情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫をしたのである（マタ 5：28〔3 ニフ 12：28〕)。男も互にその情欲の炎を燃やし（ロマ 1：27)。ラバンはわたしたちの持っているものを目にし，欲しくてたまらなくなった（1 ニフ 3：25)。これからはもう自分の目の欲を追うことなく（アル 39：3 − 4，9)。情欲を抱いて女を見る者は，信仰を否定するのであり（教義 42：23)。すべてのみだらな欲望を捨てなさい（教義 88：121)。

預言　「女預言者」「啓示」「聖見者」「預言者」参照

人が啓示によって聖霊から受ける神の霊感に満ちた言葉や記録。イエスの証は預言の霊である（黙示 19：10)。預言の内容は，過去，現在，未来を問わない。預言をする者は，神がその人に知ってほしいと望んでおられることを，自らのため，また人々のために語ったり記したりする。人は自分自身の生活のために，預言や啓示を受けることができる。

主の民がみな預言者となることは願わしいことだ（民数 11：29)。あなたがたのむすこ，娘は預言をし（ヨエ 2：28〔使徒 2：17−18〕)。主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない(アモ 3:7)。聖書の預言はすべて，自分勝手に解釈すべきでない（2ペテ 1：20)。ニーファイ人は多くの啓示と預言の霊を授けられていた（ヤコ 4:6，13)。アルマとアミュレクはゼーズロ

ムの心の思いを預言の霊によって知った(アル 12:7)。主はもはや預言によって業を行われることはないと言う者は，災いである（3ニフ 29：6)。イザヤの預言を調べなさい（モル 8：23)。預言はすべて成就する（教義 1：37−38)。人は預言によって，神から召されなければならない（箇条 1：5)。

預言者　「啓示」「聖見者」「長」「預言」参照

神によって召され，神に代わって語る人。神の使いとして神から戒めや預言，啓示を受ける。その責任は，人類に神の御心と真の属性を知らせることと，人類に対する神の計らいの意図するところを示すことである。預言者は罪を非難し，罪のもたらす結果を予告する。預言者は義の説教者である。時には，人類のために将来について予告をするように霊感を受けることがある。しかしながら，預言者の本来の務めは，キリストについて証(あかし)することである。末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は，今日の地上における神の預言者である。大管長会と十二使徒会の会員は，預言者，聖見者，啓示者として支持される。

主の民がみな預言者となることは願わしいことだ（民数 11：29)。もし，預言者があるならば，主なるわたしは幻をもって，これにわたしを知らせ（民数 12：6)。主はすべての預言者によってイスラエルを戒め（列下 17：13〔歴下 36：15−16；エレ 7：25〕)。あなたを立てて万国の預言者とした（エレ 1：5，7)。主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない（アモ 3：7)。聖なる預言者たちの口によってお語りになった（ルカ 1：70〔使徒 3：21〕)。預言者たちは皆，キリストを証(あかし)した(使徒 10：43)。神は教会の中で，人々を立てて，預言者とし（1 コリ 12：28〔エペ 4：11〕)。教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる(エペ 2：19−20)。民は預言者たちの言葉を拒んだ（1 ニフ 3：17−18〔2 ニフ 26：3〕)。すべてのことは御霊(みたま)によって預言者たちに知らされる（1 ニフ 22：1−2)。キリストは，聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就するために，ニーファイ人のもとに来られた（3 ニフ 1：13〔教義 42：39〕)。預言者たちの言葉を心に留めようとしない者たちが，民の中から絶たれる（教義 1：14)。預言者たちの言葉を信じる人は永遠の命を得る（教義 20：26−27)。あたかも主御自身の口から出ているかのように，預言者の言葉を受け入れなければならない（教義 21：4−6)。啓示と戒めは，任命された人を通してのみ授けられる（教義 43：1−7)。大管長の義務は，全教会を管理し，モーセのようであることであり，預言者となることである（教義 107：91−92)。わたしたちは，預言者があることを信じる(箇条 1：6)。

預言者の塾　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

主はジョセフ・スミスに，福音と神の王国にかかわるすべてのことについて兄弟たちを訓練するために，1832 年から 1833 年にかけての冬に，オハ

イオ州カートランドで一つの塾を組織するように命じられた。この塾から教会初期の数多くの指導者が出た。ミズーリ州ジャクソン郡では，パーリー・P・プラットが別に預言者あるいは長老の塾を開いた（教義 97：1−6）。聖徒たちが西部に移住して間もなく，同じような塾が幾つか開かれたが，短期間で姿を消した。福音は今日，家庭や神権定員会，様々な補助組織，また教会が経営する学校やセミナリー，インスティテュートのクラスで教えられている。

自らを聖（きよ）め，互いに王国の教義を教え合わなければならない（教義 88：74−80）。熱心に求め，互いに教え合いなさい（教義 88：118−122）。預言者の塾の規律が定められる（教義 88：127−141）。大管長会は預言者の塾の鍵（かぎ）を持つ（教義 90：6−7）。

ヨシヤ

紀元前 641−610 年にかけて在位したユダの義にかなった王（列下 22−24 章；歴下 34−35 章）。彼の治世に，主の宮で律法の書が発見された（列下 22：8−13）。

ヨシャパテ

『旧約聖書』の中の人物。ユダの忠実な王（列上 15：24；22 章）。

ヨシュア　「エリコ」参照

『旧約聖書』の中の人物。預言者，指導者，モーセの後継者。イスラエルの子らが脱出する以前にエジプトで生まれた（民数 14：26−31）。ヨシュアとカレブは，ほかの 10 人とともにカナンの地に斥候（せっこう）として送られた。カナンの地について良い報告をしたのは，ヨシュアとカレブだけであった（民数 13：8，17−14：10）。ヨシュアは 110 歳で世を去った（ヨシ 24：29）。ヨシュアは預言者と戦士の両方の務めを忠実に果たした偉大な模範であった。

ヨシュア記：この書はヨシュアの名を冠しているが，それは彼が主要な登場人物だからであり，ヨシュア自身がこれを記録したということではない。ユダヤ人の伝承では，エレミヤが過去の記録に基づいてヨシュア記を書いたとされる。第 1−12 章はカナンの地の征服について述べたものであり，また，第 13−24 章には，イスラエルの部族が土地を分けたこととヨシュアの最後の勧告が記されている。

ヨシュア記で特によく知られている二つの箇所は，聖文について深く考えるようにとのヨシュアに与えられた主の戒め（ヨシ 1：8）と，主に忠実であるようにとのヨシュアの呼びかけ（ヨシ 24：15）である。

ヨセフ（アリマタヤの）

アリマタヤのヨセフはサンヒドリンの議員であるとともに，キリストの弟子でもあった。裕福で忠実なイスラエル人であり，主への罪の宣告には関与しなかった。十字架の刑の後，ヨセフは救い主の遺体をきれいな亜麻布で包み，岩を掘って造った自分の墓に納めた（マタ 27：57−60；マコ 15：43−46；ルカ 23：50−53；ヨハ 19：38−42）。

ヨセフ（マリヤの夫）　「イエス・キリスト」「マリヤ（イエスの母）」参照

イエスの母マリヤの夫。ヨセフはダビデの子孫で（マタ 1：1−16；ルカ 3：23−38），ナザレに住んでいた。ヨセフはマリヤと婚約していた。結婚を間近に控えたあるとき，マリヤは天使ガブリエルの訪れを受け，救い主の母になる者として選ばれたことを告げられた（ルカ 1：26−35）。ヨセフもまた，救い主の降誕について啓示を受けた（マタ 1：20−25）。

マリヤは，この世におけるイエスの親としては唯一の人である。父なる神がイエスの父だからである。しかし，ユダヤ人たちはヨセフをイエスの父親であると考え，イエス自身もヨセフにそのように接した（ルカ 2：48，51）。夢の中で天使から警告を受けたヨセフは，エジプトへ逃れて幼な子イエスの命を守った（マタ 2：13−14）。ヘロデの死後，天使はヨセフに，幼いキリストを連れてイスラエルに帰るように告げた（マタ 2：19−23）。

ヨセフ（ヤコブの息子）　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルの間に生まれた最初の息子（創世 30：22−24；37：3）。

ヤコブの最初の妻の長子ルベンが過ちを犯してイスラエルの長子の特権を失ったので，ヨセフはその特権を得た（歴上 5：1−2）。ヨセフはふさわしかったので，ヤコブの 2 番目の妻の長子として，次にその祝福にあずかる順位にいたのである。ヨセフはまた，父ヤコブが死ぬ直前に，彼から祝福を受けた（創世 49：22−26）。

ヨセフは高潔で「さとく賢い」人物であった（創世 41：39）。ポテパルの妻の誘惑を拒んだことは，信仰，純潔，高潔の模範である（創世 39：7−12）。ヨセフはエジプトで兄たちに自分がだれかを明かしたときに，彼らが行ったことを責めず，逆に感謝の気持ちを示した。兄たちの行いが，神の御心を成就する助けになったと信じていたのである（創世 45：4−15）。

末日の啓示は，終わりの時にヨセフの子孫が果たすさらに大きな使命を明らかにしている（JS 創世 50 章；2 ニフ 3：3−24；3 ニフ 20：25−27）。

ヤコブはヨセフを深く愛して，彼のために長そでの着物を作った（創世 37：3）。ヨセフの兄たちは，ねたみからヨセフを憎んで殺そうとしたが，結局エジプトへ行く途中の商人たちに彼を売り渡した（創世 37：5−36）。主はエジプトでヨセフを栄えさせ，彼はポテパルの家をつかさどる者となった（創世 39：1−4）。ポテパルの妻はヨセフが自分を誘惑しようとしたと，うそをつき，ヨセフは無実の罪で投獄された（創世 39：7−20）。ヨセフはパロの給仕役と料理役の夢を解き明かした（創世 40 章）。パロは自分の夢を解き明かしたヨセフを重んじるようになり，エジプト全国のつかさとした（創世 41：14−45）。マナセとエフライムをもうけた（創世 41：50−52）。父や兄弟を迎え入れた（創世 45−46 章）。エジプトにおいて，110 歳で死んだ（創世 50：22−26）。

ヨセフの木　「エフライム—エフライ

ムまたはヨセフの木」「モルモン書」参照

ヨナ　「ニネベ」参照

旧約の預言者。ニネベの町に対して悔い改めを説くよう，主に召された（ヨナ 1：1−2）。

ヨナ書：ヨナの生涯の出来事を記した『旧約聖書』の中の 1 書。この書はヨナ自身が記したものではないと思われる。ヨナ書の主題は，エホバは全地を治める御方であり，一つの国または民だけを偏愛する御方ではないということである。

第 1 章には，主がニネベに教えを宣（の）べる召しをヨナに与えられたことが書かれている。ヨナは主から命じられたことに従わず，船で逃げたが，大きな魚にのみ込まれた。第 2 章には，ヨナが主に祈り，魚がヨナを陸に吐き出したことが書かれている。第 3 章には，ヨナがニネベに行き，滅亡を預言したことが書かれている。この結果，人々は悔い改めた。そして第 4 章には，ニネベの民が救われたことで怒っているヨナに対する主の叱責（しっせき）の言葉が記されている。

イエスは，ヨナが魚にのみ込まれたことは御自身の死と復活のしるしであると教えられた（マタ 12：39−40；16：4；ルカ 11：29−30）。

ヨナタン　「サウル（イスラエルの王）」「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの王サウルの息子。ダビデの親友であった（サ上 13−23；31 章）。

予任　「前世」参照

雄々しい霊の子供たちに現世で，ある使命を果たさせるために，神が前世で行われた聖任。

神は民の境を定められた（申命 32：8）。わたしはあなたをまだ胎につくらないさきに，あなたを預言者とした（エレ 1：5）。神はそれぞれに時代を区分された（使徒 17：26）。神はあらかじめ知っておられる者たちを，あらかじめ定めて下さった（ロマ 8：28−30）。天地の造られる前から，キリストにあってわたしたちを選び（エペ 1：3−4）。イエス・キリストは贖（あがな）い主として予任された（1ペテ 1：19−20〔黙示 13：8〕）。祭司たちは世の初めから召され，備えられていた（アル 13：1−9）。わたしは，初めに選ばれた，高潔で偉大な者たちを見た（教義 138：55−56）。初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子（モセ 4：2）。アブラハムは生まれる前に選ばれた（アブ 3：23）。

世の終わり　「世―世の終わり」参照

ヨハネ（ゼベダイの子）　「使徒」「福音書」「身を変えられた人」「メルキゼデク神権」「黙示録（ヨハネの）」参照

『新約聖書』の中の十二使徒の一人。ゼベダイの子で，ヤコブの兄弟。初めは漁師であった（マコ 1：17−20）。ヨハネ 1：40 に出てくる名前の分からないバプテスマのヨハネの弟子は，このヨハネと思われる。後にイエス・キリストの弟子となる召しを受けた（マタ 4：21−22；ルカ 5：1−11）。ヨハネに

よる福音書と3つの手紙，それに黙示録は，彼の手によるものである。彼は，ヤイロの娘の蘇生（マコ5：35−42），変貌の山（マタ17：1−9），ゲツセマネ（マタ26：36−46）にイエスとともにいた3人の弟子の一人である。ヨハネは自らの記録の中で自分自身を，イエスの愛された者（ヨハ13：23；21：20），また「もうひとりの弟子」（ヨハ20：2−8）と述べている。またイエスは，ヨハネとその兄弟をボアネルゲ，すなわち「雷の子」（マコ3：17）と呼ばれた。十字架の刑と復活に関する記述の中には，ヨハネについての言及が数多く見受けられる（ルカ22:8；ヨハ18：15；19：26−27；20：2−8；21：1−2）。ヨハネは後にパトモス島に流刑になり，そこで黙示録を書いた(黙示1：9)。

ヨハネの名は，末日の啓示の中で何度も述べられている（1ニフ14：18−27；3ニフ28：6；エテ4：16；教義7章；27：12；61：14；77章；88：141)。これらの聖句は，『聖書』のヨハネの記録を確認するとともに，彼が新約の時代と終わりの時に地上でなすように主から託された業の重要性と，彼自身の偉大さについても理解を与えてくれる。末日の聖典は，ヨハネが死んでおらず，主の再臨の時まで仕える天使として地上にとどまるのを許されたことを明らかにしている（ヨハ21：20−23；3ニフ28：6−7；教義7章)。

ヨハネの手紙：この3つの手紙の著者は自分自身の名前を挙げていないが，言葉遣いが使徒ヨハネと非常によく似ているために，ヨハネによって書かれたと推測されている。

第一の手紙の第1章は，神との交わりにあずかるようにとの聖徒への勧告である。第2章は，聖徒が神を知るのは従順によることを強調し，世を愛さないようにと教えている。第3章は，すべての人に対して，神の子となり，互いに愛し合うように呼びかけている。第4章では，神は愛であり，御自身を愛する者の中に住まわれることが説かれている。また第5章では，聖徒とはキリストを信じることによって神から生まれた者であることが説かれている。

第二の手紙は第一の手紙とよく似ている。ヨハネはこの手紙の中で，「選ばれた婦人」の子供たちが従順であることに喜びを表している。

第三の手紙では，忠実さと，真理を愛する人々を助けたことについて，ガイオという人物をたたえている。

ヨハネによる福音書：『新約聖書』のこの書の中で，使徒ヨハネは以下の事柄を証している。(1) イエスはキリスト，すなわちメシヤである。(2) イエスは神の御子である（ヨハ20：31)。ヨハネはこの目的を念頭に置いて，イエスの生涯の中の様々な出来事を慎重に選び，配列した。この書は，キリストは神とともにあり，神であり，万物の創造主であった，という前世におけるキリストの状態についての言葉で始まる。キリストは御父の独り子として肉体をもってお生まれになった。ヨハネはイエスの神性と死者の中からの復活を特に強調しながら，イエスの働きの跡をたどった。ヨハネは，奇跡や証，預言者の言葉，キリスト御自身の声を証拠として，イエスが神の御子

であると断言している。またヨハネは，光と闇，真理と誤り，善と悪，神と悪魔を対比しながら教えている。イエスの聖さと支配階級のユダヤ人の不信仰をこれほど分かりやすく述べた記録は，ほかにないであろう。

マタイやマルコ，ルカがガリラヤにおけるキリストの働きに重きを置いて書いているのに対し，ヨハネはユダヤにおける働き，特にこの世で過ごされた最後の週に重きを置いている。この福音書に記録されている幾つかのことが，末日の啓示の中で明確にされた（教義 7 章；88：138−141）。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

黙示録：「黙示録（ヨハネの）」の項を参照。

ヨハネ（バプテスマの）「アロン神権」参照

『新約聖書』の中の人物。ザカリヤとエリサベツの息子。ヨハネは，人々にメシヤを受け入れる備えをさせるために遣わされた（ヨハ 1：19−27）。アロン神権の鍵を持ち，イエス・キリストにバプテスマを施した。

イザヤをはじめ，預言者たちはヨハネの使命について預言した（イザ 40：3〔マラ 3：1；1 ニフ 10：7−10；2 ニフ 31：4〕）。獄に入れられ，首をはねられた（マタ 14：3−12〔マコ 6：17−29〕）。ガブリエルはザカリヤに，ヨハネの誕生とその働きについて伝えた（ルカ 1：5−25）。イエスは，バプテスマのヨハネは偉大な預言者であると教えられた（ルカ 7：24−28）。イエスを神の子であると証した（ヨハ 1：29−34）。ヨハネの弟子たちはイエスの弟子となった（ヨハ 1：25−29，35−42〔使徒 1：21−22〕）。ヨハネはなんのしるしも行わなかった（ヨハ 10：41）。復活した者として，ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリをアロン神権に聖任するために遣わされた（教義 13 章〔教義 27：7−8；ジ―歴史 1：68−72〕）。生後 8 日で神の天使によって聖任された（教義 84：28）。

ヨブ

『旧約聖書』の中の人物。非常な苦しみを受けながらも，忠実に神への信仰の中に踏みとどまった義人。その話はヨブ記に記されている。

ヨブ記：この書はヨブの苦難についての記録であるが，ヨブ（あるいはだれか他の人）の苦しみ，ならびに家族や財産の喪失の理由が何かという問いに対して，すべての答えを与えているわけではない。ヨブ記が明らかにしているのは，苦難は必ずしもその人が罪を犯した結果として受けるのではないということである。主は苦難を罰としてだけではなく，経験や訓練や教育を与えるためにも用いられる（教義 122 章）。

ヨブ記は 4 部に分けることができる。第 1−2 章は全体の序である。第 3−31 章には，ヨブと 3 人の友人の間で交わされた一連の対話が記録されている。第 32−37 章には，4 人目の友エリフの語ったことが載っている。エリフは初めの 3 人とは異なる理由を挙げてヨブを非難した。第 38−42 章はこの書の結びであり，ヨブは自分の生

き方が初めから正しいものであったという確認を得ている。

ヨブ記は，神について正しい知識を持ち，神に受け入れられる生活をするなら，訪れる試練にさらによく耐えられるであろうということを教えている。ヨブの不屈の信仰は，「神がわたしを殺されても，わたしは神を信頼する」（KJ ヨブ 13：15）という言葉によく表れている。ヨブについては，エゼキエル 14：14；新約ヤコブ 5：11；教義と聖約 121：10 でも言及されている。

ヨルダン川

ガリラヤの海から死海に向かって流れる川。ヘルモン山からの幾つかのわき水を集め，約 160㎞の長さがある。イスラエルで最も重要な川である。

この川にまつわる二つの重要な出来事として，イスラエルの民のために主が川の水をせき止められたこと（ヨシ 3：14−17）と，イエス・キリストのバプテスマ（マタ 3：13−17；1 ニフ 10：9）がある。

喜び　「従順；従う」参照

義にかなった生活から得られる非常に幸せな状態。現世の目的はすべての人が喜びを得ることである（2 ニフ 2：22−25）。満ちみちる喜びは，イエス・キリストを通してのみ得られる（ヨハ 15：11；教義 93：33−34；101：36）。

柔和な者は主によって新たなる喜びを得（イザ 29：19〔2 ニフ 27：30〕）。大きな喜びを，あなたがたに伝える（ルカ 2：10）。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない（ヨハ 16：22）。御霊（みたま）の実は，愛，喜び，平和（ガラ 5：22）。その木の実を食べると，わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた（1ニフ 8：12）。人が存在するのは喜びを得るためである（2ニフ 2：25）。義人の喜びはとこしえに満たされる（2ニフ 9：18）。彼らは，決して終わりのない幸福な状態で神とともに住める（モサ 2：41）。この大きな喜びを得るために，わたしは持ち物をすべて捨てよう（アル 22：15）。神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること，これがわたしの誇りであり，喜びである（アル 29:9）。何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか（アル 36：20）。わたしの御霊（みたま）はあなたの霊に喜びを満たすであろう（教義 11：13）。父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか（教義 18：15−16）。この世ではあなたがたの喜びは満たされないが，わたしにあってあなたがたの喜びは満たされるからである（教義 101：36）。わたしはこの世で喜びを受け（モセ 5：10−11）。

弱さ　「謙遜（けんそん）」参照

死すべき状態にあって，能力や体力，技能が不足していること。弱さは死すべき状態に必ず伴うものである。人は皆弱い存在であり，義にかなったことを行う力を受けるのは，ただ神の恵みによる（ヤコ 4:6−7）。この弱さは，個人の短所やもろさとなって表れることがある。

あなたがたは弱った手を強くし（イ

ザ 35：3−4)。心は熱しているが，肉体が弱いのである（マタ 26：41〔マコ 14：38〕)。肉においてのわたしの弱さのためであると申し開きをしよう（1ニフ 19：6)。わたしが，弱点があるにもかかわらず，これらのことを書き記すように命じられた（2ニフ 33：11)。あなたの僕（しもべ）があなたの御前にあって弱いからということで，あなたの僕（しもべ）をお怒りにならないでください（エテ 3：2)。わたしたちの物を書き記す力が弱いので，異邦人はこれらのことをあざけるでしょう（エテ 12：23−25, 40)。わたしは彼らに各々の弱さを示そう（エテ 12：27−28)。あなたは自分の弱さを認めたので，強くされて（エテ 12：37)。あなたがたの中の弱い者は，この後，強くされるであろう（教義 50：16)。イエス・キリストは人の弱さを知っておられる（教義 62：1)。

ラケル　「ヤコブ（イサクの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブの妻（創世 29−31；35 章)。ヨセフとベニヤミンの母。

ラザロ　「マリヤ（ベタニヤの)」「マルタ」参照

『新約聖書』の中の人物。マルタとマリヤの兄弟。イエスはラザロを蘇生（そせい）させられた（ヨハ 11：1−44；12：1−2, 9−11)。イエスが教えられたたとえに登場する物乞いのラザロとは別の人物（ルカ 16：19−31)。

ラバン（真鍮版（しんちゅうばん）の保管者）　「真鍮版（しんちゅうばん）」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイと同時代にエルサレムで真鍮版（しんちゅうばん）を保管していた。ニーファイとその兄弟たちから財宝を奪い取り，彼らを殺そうとした（1 ニフ 3：1−27)。ニーファイはその版を手に入れるため，ラバンを殺すように御霊（みたま）に促された（1 ニフ 4：1−26)。

ラバン（リベカの兄）　「リベカ」参照

『旧約聖書』の中の人物。リベカの兄。ヤコブの妻となったレアとラケルの父（創世 24：29−60；27：43−44；28：1−5；29：4−29；30：25−42；31：1−55)。

ラファエル　「天使」参照

万物の回復に関与した主の天使（教義 128：21)。

ラミアンプトム

『モルモン書』に出てくる高い台。ゾーラム人と呼ばれた背教したニーファイ人たちがこの台に上って祈った（アル 31：8−14)。

ラモーナイ　「アンモン（モーサヤの息子)」参照

『モルモン書』の中の人物。レーマン人の王。主の御霊（みたま）と，アンモンの霊感に満ちた働きと教えによって改宗した（アル 17−19 章)。

リアホナ

『モルモン書』に出てくる真鍮（しんちゅう）製の

球。羅針盤のように方角を示す2本の指針が付いていた。また，リーハイとその一行が義にかなっていたときには，彼らに霊的な指示も与えた。主はリアホナを授けるとともに，それを通して様々な指示を与えられたのである。

純良な真鍮（しんちゅう）でできていて，その球の内部には2本の指針がある（1ニフ16：10）。人々の信仰と熱意と注意力に応じて働いた（1ニフ16:28−29〔アル37：40〕）。ベニヤミンはその球を息子にゆだねた（モサ1：16）。その球すなわち指示器はリアホナと呼ばれた（アル37：38）。リアホナはキリストの言葉にたとえられた（アル37：43−45）。『モルモン書』の三人の証人は，リーハイが授かった指示器を目にする（教義17：1）。

リーハイ（ニーファイ人の軍隊の司令官）

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の軍隊の司令官（アル43：35−53；49：16−17；52：27−36；53：2；61：15−21）。

リーハイ（ニーファイ人の宣教師）

「ヒラマン（ヒラマンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。ヒラマンの息子であるヒラマンの息子。偉大な宣教師であった（ヒラ3：21；4：14）。

先祖を思い起こせるように，リーハイと名付けられた(ヒラ5:4−6)。ニーファイとともに,多くの人を改心させ，投獄され，火に囲まれ，天使と語った（ヒラ5：14−48）。日々多くの啓示を受けていた（ヒラ11：23）。

リーハイ（ニーファイの父）

『モルモン書』の中のヘブライ人の預言者。紀元前600年ごろに家族と自分に同行する人々を，エルサレムから西半球の約束の地へと導いた。リーハイは，『モルモン書』に登場する民の最初の預言者であった。

主の命令により，家族とともにエルサレムを脱出した（1ニフ2：1−4）。エジプトに売られたヨセフの子孫であった（1ニフ5：14）。主は彼に命の木の示現をお与えになった（1ニフ8：2−35）。リーハイとその息子たちは1隻の船を造り，西半球へ向けて船出した（1ニフ17−18章）。リーハイとその子孫は新たな地に定住した（1ニフ18：23−25）。死を前にして，息子たちに祝福を授け，キリストについて，また末日に『モルモン書』が出されることについて教えた（2ニフ1−3章；4：1−12）。

リーハイ書:ジョセフ・スミスは『モルモン書』の翻訳に際して，まずリーハイ書から始めた。これは，モルモンがリーハイの版から要約した記録であった。この書を原稿の116ページ分まで翻訳したジョセフは，短期間自分の筆記者として働いたマーティン・ハリスにその原稿を貸し与えた。そして，その原稿は失われてしまった。ジョセフはその分をリーハイ書から再翻訳せず，金版から関連のあるほかの部分を別に翻訳した（教義3章と10章の前書きを参照）。この別の翻訳が『モル

モン書』の最初の 6 つの書である。

リウエル　「エテロ」参照

理解　「真理」「知恵」「知識」参照

生活への応用という点も含めて，真理について知り，その意味を把握すること。

あなたが何を得るにしても，悟りを得よ（箴言 4：7）。イエスは多くのたとえを語られたが，ある人々はそれを理解できなかった（マタ 13：12−17）。イエスは彼らの心を開いて（ルカ 24：45）。あなたがたが理解できないとすれば，それはあなたがたが求めないためである（2ニフ 32：4〔3 ニフ 17：3〕）。これらのものが残されたのは，これを読んで神の奥義を理解するためであって（モサ 1：2−5）。彼らは自分の不信仰のために，神の言葉を理解できなかった（モサ 26：3）。彼らは正しい理解力を備えた人々であり（アル 17：2−3）。これはわたしの心を広げ，わたしの理解力に光を注ぎ（アル 32：28）。あなたがたが理解できるように，わたしたちは論じ合おう（教義 50：10−12, 19−23）。親は子供に，理解するように教えなければならない（教義 68：25）。主の業と奥義は，聖なる御霊（みたま）の力によってのみ理解することができる（教義 76：114−116）。サタンが彼らの心を真理からそらそうとしている（教義 78：10）。キリストの光はわたしたちの理解を活気づける（教義 88：11）。

リグドン，シドニー

回復された当教会の初期の改宗者。1830 年代から 1840 年代初頭にかけての指導者。大管長会の第一顧問として一時期ジョセフ・スミスに仕えた（教義 35 章；58：50，57；63：55 − 56；76：11−12，19−23；90：6；93：44；100：9−11；124：126）。後に背教し，1844 年 9 月に破門された。

離婚　「結婚」参照

国法あるいは宗教上の律法により婚姻関係を解消すること。『新約聖書』によると，神は人々の心がかたくなであったため，幾つかの条件の下に離婚を許された。しかし，イエスが説かれたように，「初めからそうではなかった」のである（マタ 19：3−12）。聖典では一般に，離婚をしないようにとの勧告がなされ，夫と妻に対して，義をもって互いに愛し合うようにとの助言が与えられている（1 コリ 7：10−12；教義 42：22）。

離散　「イスラエル—イスラエルの散乱」参照

律法　「戒め（神の）」「従順；従う」「祝福」「モーセの律法」参照

神が定められた戒め，あるいは定め。天においても地上においても，祝福や罰はすべて律法に基づいて与えられる。神の律法に従う人々は約束された祝福を受ける。預言者ジョセフ・スミスは，人は国法にも従い，それを尊び，支持しなければならないと教えた（箇条 1：12）。

モーセの律法は，人々をキリストに導くための備えの律法であった。モー

セの律法は，制限的規定や規則，儀式を定めたものであった。モーセの律法を成就した現在のキリストの律法は，完全な福音すなわち「完全な自由の律法」（新ヤコ 1：25）である。

神はアダムに数々の戒めを与えられた（創世 1：28；2：16−17）。神はノアに律法を与えられた（創世 9：1）。主のおきては完全であって，魂を生きかえらせ（詩篇 19：7）。立法者であるかたは，ただひとりであって（新ヤコ 4：12）。律法がないところには罰がない（2ニフ 9：25）。律法が与えられている（アル 42：17−22）。人は律法により裁かれる（アル 42：23）。キリストは律法である（3ニフ 15：9）。律法はすべて霊にかかわるものである（教義 29：34）。ジョセフ・スミスは啓示により教会の律法を授けられた（教義 42 章）。神の律法を守る者は，その地の法律を破る必要がない（教義 58：21）。キリストの光は万物を治める律法である（教義 88：7−13）。神は万物に律法を与えられた（教義 88：42−43）。人々は国の法律を守らなければならない（教義 98：4−5）。神から祝福を受けるときは，それが基づく律法に従うことによる（教義 130：20−21）。教会がこの世の法律に関する所信を宣言した（教義 134 章）。全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る（箇条 1：3）。

律法学者

旧約の時代に聖文を筆写する務めを持っていた「書記」（エレ 8：8）が，後に律法を解釈する者になり，新約の時代には「律法学者」と呼ばれるようになった（マタ 13：52；マコ 2：16−17；11：17−18；ルカ 11：44−53；20：46−47）。

リバティーの監獄（ミズーリ州）　「スミス，ジョセフ，ジュニア」参照

1838 年 11 月から 1839 年 4 月にかけて，預言者ジョセフ・スミスと幾人かの人々が不当に収監された小さな監獄。この困難な状況の中で，ジョセフ・スミスは幾つかの啓示を受け，預言をし，聖徒たちに重要な手紙を書き送るように霊感を受けた。それらの一部が教義と聖約第 121−123 章に収められている。

リベカ　「イサク」参照

『旧約聖書』の中の人物。族長イサクの妻（創世 24−27 章）。エサウとヤコブの母（創世 25：23−26）。

リムハイ　「ノア（ゼニフの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイの地に住んでいたニーファイ人の義にかなった王。ノア王の息子（モサ 7：7−9）。リムハイ王は神に仕えるという聖約を交わした（モサ 21：32）。リムハイは民をレーマン人の束縛から導き出し，ゼラヘムラに帰った（モサ 22 章）。

良心　「光；キリストの光」参照

すべての人にキリストの光から来る心の中の善悪の感覚（モロ 7：16）。キリストの光がすべての人に与えられているので，人は生まれながらに善悪

をわきまえる能力を持っている（教義 84：46）。人はこの能力があるために，責任を負う存在となっている。他の能力と同じように，良心も罪や誤用によってその働きが鈍くなることがある。

律法学者たちやパリサイ人たちは良心のとがめを感じた（ヨハ 8：9）。彼らの良心も共にあかしをして（ロマ 2：14−15）。背教者は良心に焼き印を押されている（1テモ 4：2）。人は善悪をわきまえることを十分に教えられている（2ニフ 2：5）。ベニヤミン王は神の前で澄んだ良心を持っていた（モサ 2：15）。ニーファイ人は良心の安らぎを得たので，喜びに満たされた（モサ 4：3）。ゼーズロムは，自分の罪を自覚して心をひどく苦しめた（アル 14：6）。喜びを望もうと良心のとがめを望もうと，自分の望むままに与えられる（アル 29：5）。罰が定められ，公正な律法が与えられて，それらが人に良心のとがめを生じさせた（アル 42：18）。善悪をわきまえることができるように，すべての人にキリストの御霊（みたま）が与えられている（モロ 7：16）。各個人は良心の自由な行使が保証されなければならない（教義 134：2）。わたしの良心は責められることがない（教義 135：4）。わたしたちは，自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し（箇条 1：11）。

ルカ　「使徒行伝」「福音書」参照

『新約聖書』のルカによる福音書と使徒行伝の著者。パウロの伝道の同僚。ギリシャ人を両親として生まれ，医者であった（コロ 4：14）。ルカはかなりの教育を受けた人物であった。彼自身の言葉によると，トロアスで使徒パウロと合流し，その同僚になったという（使徒 16：10−11）。パウロのエルサレムへの最後の旅においても，ルカはピリピでパウロと行動を共にした（使徒 20：6）。また二人は，ローマに着くまで一緒であった。ルカはまた，パウロのローマにおける 2 度目の投獄のときも一緒にいた（2 テモ 4：11）。言い伝えによると，彼は殉教したとのことである。

ルカによる福音書：ルカがイエス・キリストとその現世の働きについて書いた記録。使徒行伝は，ルカによる福音書の続編である。ルカは，イエスがユダヤ人にとっても異邦人にとっても救い主であることを述べ，イエスの働きについて詳細な記録を残した。ルカはイエスの教えと行いについて多くのことを書き記した。ルカによる福音書のみに記述が見られるものとして，以下のものが挙げられる。ザカリヤとマリヤへのガブリエルの訪れ（ルカ 1 章），幼な子イエスへの羊飼いの来訪（ルカ 2：8−18），イエスが 12 歳のときの神殿での出来事（ルカ 2：41−52），七十人の選任と派遣（KJ ルカ 10：1−24），イエスが血の汗を流されたこと（ルカ 22：44），十字架上でのイエスと犯罪人の会話（ルカ 23：39−43），イエスが復活後に魚を食べられたこと（ルカ 24：42−43）。

各章の概要については，「福音書」の項を参照。

ルシフェル　「悪魔」「地獄」「反キリ

スト」「滅びの子」「滅ぼす者」参照

ルシフェルという言葉には，「光り輝く者」あるいは「光を持つ者」の意味がある。「暁の子」としても知られている。ルシフェルは天の御父の霊の息子の一人であり，前世で反逆を指揮した。ルシフェルという名が『聖書』に出てくるのはイザヤ 14：12 に 1 度だけであるが，日本語訳『聖書』では「黎明(れいめい)の子」と訳されている。末日の啓示は，ルシフェルの堕落についてさらに詳細に伝えている（教義 76：25−29）。

前世で落ちてしまった（イザ 14：12〔ルカ 10：18；2 ニフ 24：12〕）。落とされてから，サタンすなわち悪魔となった（教義 76：25−29〔モセ 4：1−4〕）。

ルツ　「ボアズ」参照

『旧約聖書』の中の人物。モアブ人。イスラエル人であるナオミとエリメレクの息子の妻。夫の死後，ルツはナオミの親戚(しんせき)ボアズと再婚した。ルツとボアズの子オベデは，ダビデとキリストの先祖に当たる。ルツの物語は，イスラエル人でない者が改心してイスラエルの群れに加わった次第を美しく描いている。ルツは自分の神や生活を捨てて，イスラエルの神に仕え，その信仰の家族に加わったのである（ルツ 1：16）。

ルツ記：第 1 章には，モアブでのエリメレクとその家族の生活が描かれている。夫たちの死後，ナオミとルツはベツレヘムに移った。第 2 章には，ルツがボアズの畑で落ち穂拾いをしたことが述べられている。第 3 章には，ナオミがルツに打ち場へ行ってボアズの足もとで寝るように告げたことが書かれている。第 4 章は，ルツとボアズの結婚について記している。二人はオベデという息子を得た。ダビデとキリストはこのオベデの子孫である。

ルベン　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの長男（創世 29：32；37：21−22，29；42：22，37）。ルベンは長子であったが，罪のために長子の特権を失った（創世 35：22；49：3−4）。

ルベンの部族：ヤコブがルベンに授けた祝福は，創世 49：3 と申命 33：6 に記されている。この部族は民の数が次第に減り，部族としては存続したものの，政治的な影響力は低下していった。ルベンの長子の特権は，ヨセフがヤコブの 2 番目の妻ラケルの長男であったため，ヨセフとその子孫に移った（歴上 5：1−2）。

レア　「ヤコブ（イサクの息子）」「ラバン（リベカの兄）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ラバンの長女。ヤコブの妻の一人（創世 29 章）。レアは 6 人の息子と 1 人の娘の母となった（創世 29：31−35；30：17−21）。

霊　「死（肉体の）」「人」「人（霊を持つ存在としての）」「復活」参照

現世に生まれる前に存在し，現世で肉体に宿り，死後復活の時まで分離し

た状態で生きて存在する要素。すべての生き物，すなわち，人間や動物，植物は，地上に生物が存在する前に霊として存在していた（創世 2：4−5；モセ 3：4−7）。霊体の形は肉体に似ている（1 ニフ 11：11；エテ 3：15−16；教義 77：2；129 章）。霊は物質であるが，この世の元素や物質より微細で純粋である（教義 131：7）。

人は皆文字どおり神の息子，娘であり，地上の肉による両親のもとに生まれる前に，天の両親の間に霊として誕生している（ヘブ 12：9）。地上に生を受けている人は皆，骨肉の体のほかに不滅の霊の体を持っている。聖典の中で何度か定義されているように，霊と肉体が一つになって霊を持つ存在としての人が形成されているのである（創世 2：7；教義 88：15；モセ 3：7，9，19；アブ 5：7）。霊は肉体がなくても生きることができるが，肉体は霊なしに生きられない（新ヤコ 2：26）。肉体の死とは，霊が肉体から分離することである。復活の時に，霊はかつて現世で結びついていた同じ骨肉の体と再結合するが，復活体は次の二つの点で現世の体と著しく異なる。第 1 に，霊と肉体が再び分離することは決してなく，第 2 に，その体は不死不滅で完全な状態である（アル 11：45；教義 138：16−17）。

霊には肉や骨はないが，あなたがたが見るとおり，わたしにはあるのだ（ルカ 24：39）。御霊（みたま）みずから，わたしたちの霊と共に，わたしたちが神の子であることをあかしして下さる（ロマ 8：16）。自分の体をもって，また自分の霊をもって，神の栄光を表しなさい（KJ1コリ 6：20）。この体は，わたしの霊の体である（エテ 3：16）。人は霊である（教義 93：33）。キリストはパラダイスの義人の霊の中で教えを授けられた（教義 138：28−30〔1 ペテ 3：18−19〕）。あなたがたは水と血と，霊とによってこの世に生まれ（モセ 6：59）。神は霊であったこれらの者の中に立って（アブ 3：23）。

悪霊：イエスは多くの悪霊を追い出された（マコ 1：27，34，39）。けがれた霊よ，この人から出て行け（マコ 5：2−13）。悪霊は祈ってはならないと人に教える（2ニフ 32：8）。彼は，イエスの名によって悪霊と汚れた霊を追い出し（3ニフ 7：19）。偽りの霊である多くの霊がおり，世の人々を欺いている（教義 50：2，31−32）。ジョセフ・スミスは，霊が神からのものか悪魔からのものかを見分ける 3 つの鍵（かぎ）について説明した（教義 129 章）。

霊界　「地獄」「前世」「パラダイス」参照

霊感　「啓示」「聖霊」参照

神から与えられる神聖な導き。霊感は御霊（みたま）により，しばしば様々な方法で人の思いと心にもたらされる。

火の後に静かな細い声が聞えた（列上 19：12）。聖霊は，あなたがたにすべてのことを教え（ヨハ 14：26）。真理の御霊（みたま）は，あなたがたをあらゆる真理に導いてくれる（ヨハ 16：13）。わたしは，前もって自分のなすべきことを知らないまま，御霊（みたま）に導かれて行った（1ニフ 4：6）。主の声がわたしの

思いに告げて（エノ 1：10）。善を行うように誘い，促すものはすべて，神の霊感を受けているのである（モロ 7：13−16）。わたしはあなたの心に平安を告げなかったであろうか（教義 6：23）。わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう（教義 8：2）。わたしの御霊（みたま）はあなたの思いを照らし，あなたの霊に喜びを満たすであろう（教義 11：13）。あなたが語り，また書き記すべきことは，まさにその瞬間にあなたに与えられるであろう（教義 24：6〔教義 84：85〕）。静かな細い声は万物を貫き通してささやく（教義 85：6）。

霊の獄　「地獄」参照

霊の死　「死（霊の）」参照

霊の創造　「創造；創造する」「人」参照

主は万物を物質的に創造する前に，霊的に創造された（モセ 3：5）。

植物が地にある前に，主はそれらを造られた（創世 2：4−6〔アブ 5：5〕）。わたしの御霊（みたま）の力によって，わたしは霊的なものと物質的なものの両方についてすべてのものを創造した（教義 29：31−32）。現世のものは霊のものの形である（教義 77：2）。わたしは世界を造り，また人々を，彼らが肉体にある前に造った（モセ 6：51）。

礼拝　「神；神会」参照

神への愛や敬虔（けいけん）な思い，奉仕，献身（教義 20：19）。礼拝には，祈りや断食，教会での奉仕，福音の儀式に加わること，また神への献身と愛を示す行いも含まれる。

あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない（出エ 20：3〔出エ 32：1−8，19−35；詩篇 81：9〕）。霊とまこととをもって父を礼拝する（ヨハ 4：23）。天と地とを造られたかたを，伏し拝め（黙示 14:7〔教義 133：38−39〕）。あなたがたの勢力と思いと力を尽くし，キリストを拝さなければならない（2ニフ 25：29）。キリストを信じ，キリストの名によって御父を拝した（ヤコ 4：5）。ゼノスは，人はどのような所にいても，祈り，礼拝しなければならないと教えた（アル 33：3−11）。どこにいても霊とまことをもって神を礼拝するように（アル 34：38）。彼らはイエスの足もとに伏して，イエスを拝した（3ニフ 11：17）。すべての人は悔い改めてイエス・キリストの名を信じ，イエス・キリストの名によって御父を礼拝し（教義 20：29）。あなたがたが礼拝する方法を理解して知り，また自分が礼拝するものを知ることによって（教義 93：19）。わたしはこの唯一の神のみを礼拝する（モセ 1:12−20）。わたしたちは，全能の神を礼拝する特権があると主張し（箇条 1：11）。

レーマン　「リーハイ（ニーファイの父）」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイとサライアの長男。ニーファイの長兄（1ニフ 2：5）。レーマンは善よりも悪を選ぶ傾向が強かった。

レーマンは多くのことで父に対して

つぶやいた（1ニフ 2：11−12）。義人である弟のニーファイに背いた（1ニフ 7：6〔1ニフ 3：28−29〕）。リーハイの示現の中で，命の木の実を食べなかった（1ニフ 8：35−36）。のろいがレーマンと彼に従う者たちに下された（2ニフ 5：21〔アル 3：7〕）。

レーマン人　「ニーファイ人」「モルモン書」「レーマン」参照

『モルモン書』の中の民。その多くはリーハイの長男レーマンの子孫である。レーマン人は，ニーファイとその子孫から不当な扱いを受けたと考えていた（モサ 10：11−17）。その結果，彼らはニーファイ人に敵対し，しばしば福音の教えを拒んだ。しかし，キリスト降誕の直前に，レーマン人は福音を受け入れ，ニーファイ人よりも義にかなった民になった（ヒラ 6：34−36）。キリストのアメリカ大陸への訪れから 200 年後，レーマン人とニーファイ人はともに邪悪な民となり，互いに戦うようになった。紀元 400 年ごろに，レーマン人はニーファイ人の国家を完全に滅ぼした。

ニーファイの子孫を打ち負かした（1ニフ 12：19−20）。ニーファイ人を憎んだ（2ニフ 5：14）。ニーファイ人にとって鞭（むち）となる（2ニフ 5:25）。『モルモン書』はレーマン人に，彼らの先祖とキリストの福音についての知識を再び得させる（2ニフ 30：3−6〔『モルモン書』のタイトルページ〕）。レーマン人はユダヤ人の残りの者である（教義 19：27）。主の大いなる日が来る前に，レーマン人はばらのように花咲くであろう（教義 49：24）。

歴代志

『旧約聖書』の中の 2 書。天地創造から始まり，クロスが布告によってユダヤ人のエルサレム帰還を許したときに至るまで，数々の出来事を簡潔に記した歴史記録。

歴代志上：第 1−9 章には，アダムからサウルに至るまでの系図が記されている。第 10 章にはサウルの死，第 11−22 章にはダビデの統治に関連する出来事が記録されている。第 23−27 章にはソロモンの王位継承とレビ人の職務編成，第 28 章にはダビデがソロモンに与えた神殿建設の命令，第 29 章にはダビデの死が記録されている。

歴代志下：第 1−9 章には，ソロモンの統治に関連する出来事が記録されている。第 10−12 章には，イスラエル統一王国が南王国と北王国に分裂した，ソロモンの息子レハベアムの治世について記録されている。第 13−36 章には，ネブカデネザルによりユダ王国が征服されるまでの様々な王の統治が記録されている。そして，囚（とら）われの状態のユダの子らにエルサレム帰還を許したクロス王の布告で締めくくられている。

列王紀　「年表」参照

『旧約聖書』の中の 2 書。列王紀には，ダビデ王の 4 番目の息子アドニヤの反乱（紀元前 1015 年ごろ）から，ユダが最終的に捕囚となるまで（紀元前 586 年ごろ）のイスラエルの歴史が描かれている。また，王国の分裂からアッシリア（アッスリヤ）によって北の地に連れ去られて捕囚となるまでの

北王国（イスラエルの十部族）の全歴史が含まれている。

列王紀上：第1章には，ダビデの晩年が描かれている。第2−11章には，ソロモン王の生涯が記録されている。第12−16章には，ソロモンの後を継いで王となったレハベアムとヤラベアムのことが述べられている。ヤラベアムはイスラエル王国の分裂を引き起こした。また，その他の王たちのことも記されている。第17−21章には，イスラエルの王アハブへの勧告など，エリヤの働きの一部が書かれている。第22章には，アハブとユダの王ヨシャパテが同盟して行ったスリヤとの戦争が記録されている。預言者ミカヤは王たちに下る災いを預言した。

列王紀下：第1章には，エリヤのことが引き続き述べられている。第2−9章には，信仰と偉大な力によるエリシャの働きが記されている。第10章には，エヒウ王について，また彼がアハブの家とバアルの祭司たちをどのようにして滅ぼしたかが述べられている。第11−13章には，ヨアシの義にかなった治世と，エリシャの死が記録されている。第14−17章には，イスラエルやユダを治めた王たちのことが述べられている。彼らは邪悪な統治をすることが多かった。第15章には，イスラエルの十部族がアッシリア（アッスリヤ）の捕囚となったことが記録されている。第18−20章には，ユダの王ヒゼキヤの義にかなった生き方と，預言者イザヤのことが記されている。第21−23章には，マナセ王とヨシヤ王のことが述べられている。言い伝えによると，イザヤの殉教を引き起こしたのはマナセである。ヨシヤは義にかなった王で，ユダヤ人の間に律法を再び確立した。第24−25章には，バビロニア捕囚のことが記されている。

レハベアム　「ソロモン」参照

『旧約聖書』の中の人物。ソロモン王の息子。父の後を継ぎ，エルサレムで17年間統治した（列上11：43；14：21，31）。レハベアムの治世に，王国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した（列上11：31−36；12：19−20）。レハベアムはユダ王国を治めた。

レビ　「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの間に生まれた3番目の息子（創世29：34；35：23）。レビはイスラエルの一つの部族の始祖となった。

レビの部族：ヤコブはレビとその子孫に祝福を授けた（創世49：5−7）。レビの子孫はイスラエルの聖所における務めを果たした（民数1：47−54）。アロンはレビ人で，彼の子孫は祭司であった（出エ6：16−20；28：1−4；29章）。レビ人は祭司であるアロンの息子たちを助けた（民数3：5−10；列上8：4）。レビ人は時には音楽を奏したり（歴上15：16；ネヘ11：22），犠牲の動物をほふったりしたが（歴下29：34；エズ6：20），普通は神殿の務めを果たしていた（ネヘ11：16）。レビ人は主の務めをなす者としてささげられ，イスラエルの子らのための儀

式を執行した。レビ人自身が，イスラエルの子らに代わってささげられたのである（民数 8：11−12）。それによってレビ人は長子の身代わりとして主にささげられ，特別に神に属する者となったのである（民数 8：16）。彼らは聖別はされなかったが，その務めのために清められた（民数 8：7−16）。レビ人はカナンで受け継ぎの土地を持たなかったが（民数 18：23−24），十分の一（民数 18：21）と，48 の町（民数 35：6）と，祭日に民の施しにあずかる権利（申命 12：18−19；14：27−29）を受けた。

レビ記　「五書」参照

『旧約聖書』の中の 1 書。イスラエルの祭司の義務について述べたもの。神の聖（きよ）さと，民が聖（きよ）い者となるために守るべき掟（おきて）を強調している。この書の目的は，儀式を通して，モーセの律法の中の道徳的概念と宗教的真理を教えることにある。レビ記はモーセによって書かれた。

第 1−7 章には，犠牲の儀式が説明されている。第 8−10 章には，祭司を聖別するために行う儀式が説明されている。第 11 章には，食べてよいものとよくないもの，また，清いものと汚れているものについての説明がある。第 12 章には，産後の女性に関する規定が記されている。第 13−15 章には，汚れの清めに関する規定が記されている。第 16 章には，贖罪（しょくざい）の日に行う儀式が記されている。第 17−26 章には，信仰生活，社会生活上の規定が記されている。第 27 章には，主がイスラエルに，収穫物や家畜をささげるよう命じられたことが書かれている。

レビ神権　「アロン神権」参照

レムエル　「リーハイ（ニーファイの父）」「レーマン」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの次男。ニーファイの兄の一人。レーマンと一緒になってニーファイに反対した。

リーハイはレムエルに，谷のように確固としているように諭した（1ニフ 2：10）。ニーファイに腹を立て，レーマンの言葉に聞き従った（1ニフ 3：28）。レムエル人はレーマン人の中に数えられた（ヤコ 1：13−14〔アル 47：35〕）。

ローマ　「ローマ帝国」参照

『新約聖書』に出てくるローマ帝国の首都（使徒 18：2；19：21；23：11）。イタリアのティベル川沿いに築かれた 。パウロはローマ政府の下で囚（とら）われの身となっていたときに，ローマで福音を教えた（使徒 28：14−31；ロマ 1：7，15−16）。

ローマ帝国　「ローマ」参照

古代ローマの帝国。使徒の時代に，ローマ帝国は世界の一大勢力であった。ユーフラテス川，ドナウ川，ライン川，大西洋，サハラ砂漠に囲まれた全域を領有していた。パレスチナは紀元前 63 年ポンペイウスのエルサレム攻略により，ローマの属州となった。ローマ人はユダヤ人に数多くの特権を与えたが，ユダヤ人はローマの統治を

嫌い，絶えず反乱を起こした。

ローマ市民であったパウロは，帝国内で最も広く話されていたギリシャ語を用いて，福音を帝国中に宣(の)べ伝えた。

カイザルのものはカイザルに返しなさい(マタ 22：17−22)。パウロはローマ市民としての権利を主張した（使徒 16：37−39〔使徒 22：25−29〕)。

ローマ人への手紙　「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の 1 書。パウロがローマの聖徒たちに書き送った手紙。パウロはエルサレムへ行くことを考えていたが，その旅が危険なものとなるのは確実であった。パウロは危機を脱したら，その後でローマに行くことを望んでいた。この手紙には，ローマに着いたときに自分を受け入れる備えを教会員にさせる意図が含まれていた。またこの手紙には論争の的になっていた幾つかの教義に関する明確な主張が載っていると考えられている。パウロはそれらの問題については最終的な決着がついていると考えていた。

第 1 章には，ローマ人へのパウロのあいさつが書かれている。第 2−11 章では，信仰や行い，憐(あわ)れみの教義について幾つかの主張がなされている。第 12−16 章には，愛，義務，聖(きよ)さについての実際的な教えが述べられている。

ロト　「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の人物。ハランの息子で，アブラハムのおい（創世 11：27，31；アブ 2：4)。ハランはウルの地で飢饉(ききん)のために死んだ（アブ 2：1)。ロトはアブラハム，サラとともにウルを去り，カナンへの旅に出た（創世 12：4−5)。ロトは自ら選んでソドムに住んだ。主はロトに使いを送り，民の悪事のゆえにソドムを滅ぼすに先立ち，ソドムから逃れるように警告された（創世 13：8−13；19：1，13，15)。しかし，振り返ってソドムの滅亡を見たロトの妻は塩の柱となった（創世 19：26)。『新約聖書』にはロトについての幾つかの記述がある（ルカ 17：29；2 ペテ 2：6−7)。アブラハムと別れてから後のロトの生涯については，創世 13；14；19 章に描かれている。

わたしは有る　「イエス・キリスト」「エホバ」参照

主イエス・キリストの呼び名の一つ。

神はモーセに言われた，「わたしは，有って有る者」（出エ 3：14−15)。わたしは主である（出エ 6：2−3)。アブラハムの生れる前からわたしは，いる（ヨハ 8：56−59)。わたしは有るという大いなる者，イエス・キリストの声を聴きなさい（教義 29:1〔教義 38:1；39：1〕)。